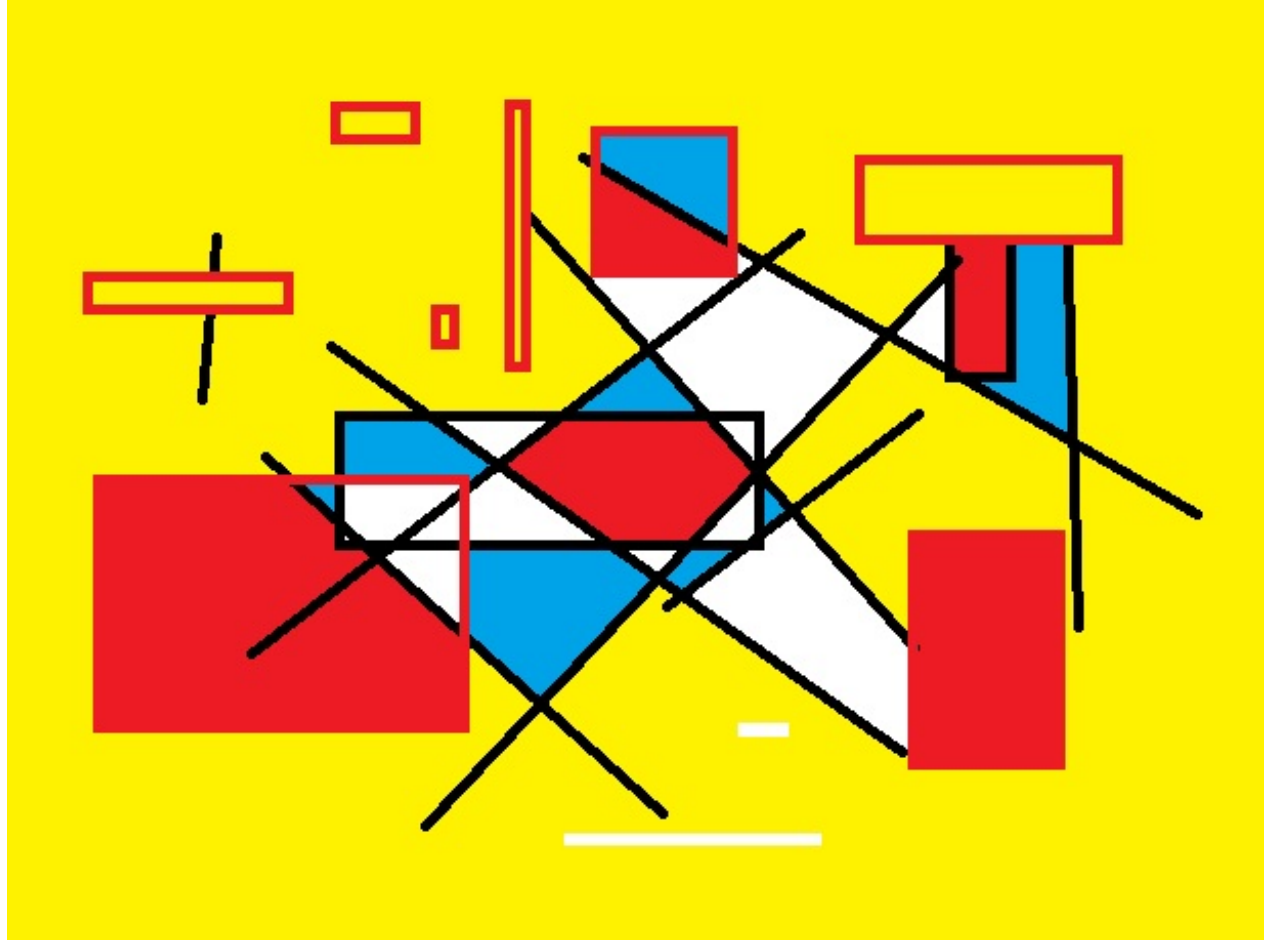




職務質問って、されたことはありますか？

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

唐突ではございますが皆さん、職務質問って、されたことはございますでしょうか？

私は、[まだない](#)です。

実際[私ほど怪しい人間は、この日本にいないと思います](#)。それはクライアントさんにも良く言われまして、時々太鼓判押されますから、[それは間違いないはずなんです](#)。

しかしながらその時素朴な疑問として思うのは、だったら一回くらいは職務質問されても良さそうなのに、ってことなのですが、全くないんですね。検問というものにも会ったことがないです。実際、道路交通法違反で捕まったこともないです。運転してかれこれ26年以上になりますが、僕の免許は真っ白です(もちろん法規を破っているにも関わらず、という意味ではありません)。

この前銀座のインド料理店でたまたまそのような話になりまして([ナタラジ](#)最高！(笑))、その時いた女の子のお友達か誰かが、「職務質問15回目アニバーサリー♪」かなんかでツイートしてたみたいな話をしていたので、ますます疑問を持った次第。

最近実際に怪しまれたみたいなことと言えば、3月30日の永田町での記者会見ライブの前に県庁のOさんより電話がございまして、「中原さん、今プレス向きの紹介資料作ってるんですが、大変言いにくいのですが、その・・・、[『気功師』っていう肩書きがあまりにもアレなので、変えてもらってもよいですかね？](#)」と言われたことくらいですかね。まあそりゃそうでしょうね、と思ったので、それ以来名刺には『プロデューサー/コンサルタント』と入れるようにしたわけですが。てか井谷君、[県庁さんに僕を『気功師』だと紹介してくれてたわけね、グッジョブ！](#)
[ε=ヾ\(*^▽^\)/。](#)

そんなことを考えていた数日前、国会図書館へ行きますと、その日はたまたま休館日。仕方がないので国会議事堂正門の方へとトボトボと歩いておりますと、向こうから警棒を持った警察官の

方が。歩道には我々の他、誰もいません。その時の私は、バティックのシャツにいつもの雪駄というイデタチ。これは十分に怪し過ぎる、状況としては完璧だ、ついに職務質問デビューか？と内心ワクワクドキドキしていたのですが、見事にスルーされました。何で？何で？

(o´Д`=3

興味を持って調べてみると(ヒマな奴ですね(笑))、かの声優[神谷明さんが職務質問を受けて激怒している記事](#)を見つけました。早足で歩いていたら職質されるってことなんでしょうかね？まあこの暑いのにあまり試してみようとは思わないのですが、何せ話題性がビジネスのキモってことで、もうちょっと企業努力してみることと致します(笑)。



・・・さすがにここまでの度胸ござんせんが(笑)。

ギャラリー夢工房さんへの行き方です。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

来週8月20日に行われますDJ Yuta & Yuichi立川ライブの会場であります**ギャラリー夢工房さん**への行き方を、ここでご紹介したいと思います。

撮影当日は雨が降っていましたので若干写真が暗めで申し訳ございませんが、看板等大体の雰囲気はお判りになると思います。晴れた日に再度撮影しようかなーとも思ったのですが、昨今ですとスマホ持って同じ場所を何回も撮影していると職務質問の格好のエジキになりそうだったので、断念させて頂きました。お察し下さいませ(笑)。

てなわけで、道順です。

(1)立川駅南口を出て頂きまして、多摩モノレール立川南駅方向に向かって頂きます。右手方向です。



(2)そのままマクド(マックか？(笑))の方へと進んで頂きます。



(3)パチスロ屋さんの前に、下へ降りるエスカレーターがございますので、そのまま降りて頂きます。



(4)すぐの角を、右へ曲がって頂きます(中高受験enaさんのところですね)。



(5)そのまま真っ直ぐ、真っ直ぐです。



(6)そのまま行った、2ブロック目の右手です。1階がPasta Frolaさんとなっていますが、その2階です。階段も、エレベーターも、両方お使いになれます。



というわけで、道中お気をつけて！

日本バリアフリー協会さんが、クラウドファンディングをスタートされたようです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今回の第13回ゴールドコンサートでもお世話になりますNPO法人日本バリアフリー協会さんが、クラウドファンディングをスタートされたようです。

我々DJ Yuta & Yuichiも、該当ページにてご紹介頂いております(海外放浪感全開のポシエット何とかしろというご意見もありますが、この時はさすがに不可抗力でして(笑))。本当に有難いお話で、恐縮すること仕切りであります。

そんなわけで我々も、全力でサポートさせて頂けたらと存じます。皆様にもご協力を賜れば、嬉しく思います。チケットも絶賛発売中！曲もじっくりと仕込み中であります(笑)。

※画像をクリックして頂きますと、該当ページに飛びます。

お詫び：8月20日のライブのチケットに関しまして。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

謹啓 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

8月20日の立川にございますギャラリー夢工房さんでのDJ Yuta & Yuichiライブに関してですが、
当方の確認ミスで、**チラシの中の連絡先が夢工房さんしか書いてございません**。昨日DMを送らせて頂いた後気付きました。申し訳ございませんでした。m(_ _)m

ですので、前売りチケットをご希望の方は、こちらまでメールあるいはお電話でご連絡下さい。

Studio Bardo 中原勇一

tenketsu_therapy@yahoo.co.jp

090-2001-5453

予めご予約頂きますと、こちらで承った枚数だけお名前を銘記した封筒に入れて、当日ご準備致します。入り口で私がチケットもぎのバイトをやっておりますので(笑)、その旨おっしゃって頂ければ代金と引き換えに、チケットをお渡し致します。

またスケジュールが前日までわからないとおっしゃる場合は、当日券もご準備させて頂いておりますので、どうぞご利用下さいませ。

そのようなわけで関係者の皆様には大変に失礼を致しました。何卒宜しくお願い申し上げます。
m(_ _)m

DJ Yuta & Yuichi/Studio Bardo 中原勇一 拝

DJ Yuta & Yuichi、8月20日に立川のギャラリー夢工房さんでソロ・ライブを行います。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

毎日暑い日々が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、来る**8月20日土曜日**、東京都立川市におきまして、DJ Yuta & Yuichiのライブを行います。

場所は、駅前にございます[ギャラリー夢工房さん](#)です。転居直後からこのプロジェクトのために東京都内で色々とギャラリーをリサーチしていたのですが、その過程でこちらを訪ねることになりました。

ところが入り口をふと見ると、そこには『アール・ブリュット立川2015』というパンフレットが。おや、分野被るじゃないですか、ということで早速オーナーの押切さんとお話をさせて頂くと大変に興味を持って頂けまして、とんとん拍子に話が進みました。何でも押切さんのおば様がこのアール・ブリュット立川実行委員会の副実行委員長をされているということで、偶然とは恐ろしい。

そのお話をいつもお世話になっている鳥取県庁障がい福祉課の皆様にさせて頂いたところ、平成28年度鳥取県障がい者アート活動支援事業ということで、助成をして頂けることにもなりました。

今回はギャラリーライブということで少々スペースに限りがございます関係で、前回の倉吉未来中心リハーサル室のようながつりオブジェをセットしてどアンビエントのチルアウトというわけにも参りませんので(笑)、いわゆるトークを交えつつのアットホームなライブをやってみたいと思います。例えば、結成の経緯など。何故我々がユニットを組んだか、あるいは[組まざるを得なかったか](#)、みたいな、そこら辺の地元ではおよそ話せそうもないタブーネタとかご披露してみても面白いかなと。ええ、DJ Yuta & Yuichi、今回は漫才やります。関係者だけが知っている[聞く人涙目のハードコアブラック毒舌漫才](#) (笑)。

もちろんそれだけではなく、デジタル技法にも凝ります。井谷君製作のCGをバックに投影しながら、二人のiPadを僕のスマホを経由させてワイヤレスでシンクロさせたインプロヴィゼーショ

ンみたいなこともやってみたいと思います。この辺り前回二人で**KORGに押しかけた時に、エンジニアさんに直接伝授頂きました**。多分これやってる人少ないと思います。WISTとは違います(笑)。実際に機材に触れて頂いてその場で参加者の皆様とセッション、みたいなことも出来るかも知れないですね。

というわけで、午後6時開場で、6時半開演予定、前売り券は2,000円、当日券は2,500円です。その後例によって打ち上げも立川近辺で予定しておりますので、そちらも是非(笑)。まあがつつりライブという感じではなく、カジュアルなパーティとして捉えて頂けたらと思います。色々ユニークなアーティストさん、オーガナイザーさん、起業家さん達にお声をお掛けする所存であります。

最後になりましたが、快く場所をお貸し頂きましたギャラリー夢工房の押切千枝様、助成を賜りました鳥取県庁福祉保健部障がい福祉課の皆様、厚く厚く御礼を申し上げます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

~flyer designed by 935 Channel

平成 28 年度年度鳥取県障がい者アート活動支援事業 [個展等開催事業]

DJ Yuta & Yuichi Live in Tokyo on August 20th 2016

L'ecole de l'Art Brut a Tachikawa



2016.08.20 SAT
START/6:30 pm (OPEN/6:00 pm)

前売券 : 2,000 円
当日券 : 2,500 円

会場

ギャラリー夢工房
Tel.042-843-7818



DJ Yuta & Yuichi

脳性マヒという障害をもちながらPCとKaossilatorという特殊なシンセサイザーを駆使するテクノ・アーティストDJ YutaとYuichi Nakaharaによるユニット。

2014年結成以来精力的にライブを行う。

2015年開催の「第12回ゴールドコンサート」でグランプリ受賞!



『社畜』って、実際スゴイ言葉ですよ。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

いつものように朝ネットを見ていると、このような記事がありました。

[生活保護申請で「すみません」と頭を下げ続ける 24 歳～貧困は固定化している（3）](#)

労働環境を巡る問題は昨今多く目にするようになりそれに関して様々な議論がありますけれども、シンプルに考えるにこれは、一昔前のように労働組合による運動が下火になったことにも原因があるのではないか、と思います。

トリクルダウンが起こるだの起こらないだのという話もありますが、言ってみればそれをある程度可能にしていたのが労働組合による団体交渉だったわけで、それが下火になると、雇う側と雇われる側が文字通り「没交渉」になって、お互いが何をやっているのかわからなくなる。そうになると、雇う側がたくさんお金を持っているのはわかっているのだけれども、実際何に使っているのかさっぱりわからない、取り敢えず数字を上げろ、業績を上げろ、アイディアを出せとハッパをかけられて一生懸命努力もするのだけれども、全然賃金に反映されない、その内に自分が何をやっているのかわからなくなって、メンタル的にバランスを崩す。

職業柄そのようなケースを、山のように見てきました。この点も、都市部も地方もあまり関係ないですね。

それに対して国を挙げて対策を、といいつつも、やらないでしょうね～。やるやるといいながら口だけ。だってお金を持っている方が立場的に強いわけですから。自らの立場が弱くなるようなことを誰だってしないですからね。イヤなら辞めろ、お前の代わりなんていくらでもいるんだから。ぶっちゃけそういうことです。

かといって泣き寝入りして病院のお世話になるのもあまりよろしくない。やはりこうなると、自分なりに対策を練っていくしかないんでしょうね。

DJ Yuta & Yuichi、『第**41**回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会米子大会』にて演奏致します。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

来る8月5日金曜日、鳥取県人権教育推進協議会様の委嘱によりまして、**鳥取県米子市コンベンションセンターメインホール**にて行われます『**第41回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会米子大会**』にて客演演奏をさせていただきます。

このような形で毎月演奏の依頼を頂けるというのは、本当に有難い限りです。事務局長の上島様には、私が現在東京在住にも関わらず常に便宜を図って頂きまして、真に感謝の念に耐えません。この場をお借り致しまして、謹んでお礼を申し上げます。

最初お話を頂戴した時には、専門部会によります非公式の研究集会と思っておりましたが、一般の方でもご参加頂けるようですね。リンクを貼らせて頂きました以下のページには、PDFによります開催要項並びに参加申込書がございますので、参加ご希望の方は是非そちらより事務局の方までお問い合わせ下さい。

これに伴いまして、東京事務所は2日より9日まで臨時でお休みを頂戴致しますので、何卒宜しく願い申し上げます。

鳥取県人権教育推進協議会

1850-1859 1860-1869 1870-1879 1880-1889 1890-1899 1900-1909 1910-1919 1920-1929 1930-1939 1940-1949 1950-1959 1960-1969 1970-1979 1980-1989 1990-1999 2000-2009 2010-2019 2020-2029 2030-2039 2040-2049 2050-2059 2060-2069 2070-2079 2080-2089 2090-2099 2100-2109 2110-2119 2120-2129 2130-2139 2140-2149 2150-2159 2160-2169 2170-2179 2180-2189 2190-2199 2200-2209 2210-2219 2220-2229 2230-2239 2240-2249 2250-2259 2260-2269 2270-2279 2280-2289 2290-2299 2300-2309 2310-2319 2320-2329 2330-2339 2340-2349 2350-2359 2360-2369 2370-2379 2380-2389 2390-2399 2400-2409 2410-2419 2420-2429 2430-2439 2440-2449 2450-2459 2460-2469 2470-2479 2480-2489 2490-2499 2500-2509 2510-2519 2520-2529 2530-2539 2540-2549 2550-2559 2560-2569 2570-2579 2580-2589 2590-2599 2600-2609 2610-2619 2620-2629 2630-2639 2640-2649 2650-2659 2660-2669 2670-2679 2680-2689 2690-2699 2700-2709 2710-2719 2720-2729 2730-2739 2740-2749 2750-2759 2760-2769 2770-2779 2780-2789 2790-2799 2800-2809 2810-2819 2820-2829 2830-2839 2840-2849 2850-2859 2860-2869 2870-2879 2880-2889 2890-2899 2900-2909 2910-2919 2920-2929 2930-2939 2940-2949 2950-2959 2960-2969 2970-2979 2980-2989 2990-2999 3000-3009 3010-3019 3020-3029 3030-3039 3040-3049 3050-3059 3060-3069 3070-3079 3080-3089 3090-3099 3100-3109 3110-3119 3120-3129 3130-3139 3140-3149 3150-3159 3160-3169 3170-3179 3180-3189 3190-3199 3200-3209 3210-3219 3220-3229 3230-3239 3240-3249 3250-3259 3260-3269 3270-3279 3280-3289 3290-3299 3300-3309 3310-3319 3320-3329 3330-3339 3340-3349 3350-3359 3360-3369 3370-3379 3380-3389 3390-3399 3400-3409 3410-3419 3420-3429 3430-3439 3440-3449 3450-3459 3460-3469 3470-3479 3480-3489 3490-3499 3500-3509 3510-3519 3520-3529 3530-3539 3540-3549 3550-3559 3560-3569 3570-3579 3580-3589 3590-3599 3600-3609 3610-3619 3620-3629 3630-3639 3640-3649 3650-3659 3660-3669 3670-3679 3680-3689 3690-3699 3700-3709 3710-3719 3720-3729 3730-3739 3740-3749 3750-3759 3760-3769 3770-3779 3780-3789 3790-3799 3800-3809 3810-3819 3820-3829 3830-3839 3840-3849 3850-3859 3860-3869 3870-3879 3880-3889 3890-3899 3900-3909 3910-3919 3920-3929 3930-3939 3940-3949 3950-3959 3960-3969 3970-3979 3980-3989 3990-3999 4000-4009 4010-4019 4020-4029 4030-4039 4040-4049 4050-4059 4060-4069 4070-4079 4080-4089 4090-4099 4100-4109 4110-4119 4120-4129 4130-4139 4140-4149 4150-4159 4160-4169 4170-4179 4180-4189 4190-4199 4200-4209 4210-4219 4220-4229 4230-4239 4240-4249 4250-4259 4260-4269 4270-4279 4280-4289 4290-4299 4300-4309 4310-4319 4320-4329 4330-4339 4340-4349 4350-4359 4360-4369 4370-4379 4380-4389 4390-4399 4400-4409 4410-4419 4420-4429 4430-4439 4440-4449 4450-4459 4460-4469 4470-4479 4480-4489 4490-4499 4500-4509 4510-4519 4520-4529 4530-4539 4540-4549 4550-4559 4560-4569 4570-4579 4580-4589 4590-4599 4600-4609 4610-4619 4620-4629 4630-4639 4640-4649 4650-4659 4660-4669 4670-4679 4680-4689 4690-4699 4700-4709 4710-4719 4720-4729 4730-4739 4740-4749 4750-4759 4760-4769 4770-4779 4780-4789 4790-4799 4800-4809 4810-4819 4820-4829 4830-4839 4840-4849 4850-4859 4860-4869 4870-4879 4880-4889 4890-4899 4900-4909 4910-4919 4920-4929 4930-4939 4940-4949 4950-4959 4960-4969 4970-4979 4980-4989 4990-4999 5000-5009 5010-5019 5020-5029 5030-5039 5040-5049 5050-5059 5060-5069 5070-5079 5080-5089 5090-5099 5100-5109 5110-5119 5120-5129 5130-5139 5140-5149 5150-5159 5160-5169 5170-5179 5180-5189 5190-5199 5200-5209 5210-5219 5220-5229 5230-5239 5240-5249 5250-5259 5260-5269 5270-5279 5280-5289 5290-5299 5300-5309 5310-5319 5320-5329 5330-5339 5340-5349 5350-5359 5360-5369 5370-5379 5380-5389 5390-5399 5400-5409 5410-5419 5420-5429 5430-5439 5440-5449 5450-5459 5460-5469 5470-5479 5480-5489 5490-5499 5500-5509 5510-5519 5520-5529 5530-5539 5540-5549 5550-5559 5560-5569 5570-5579 5580-5589 5590-5599 5600-5609 5610-5619 5620-5629 5630-5639 5640-5649 5650-5659 5660-5669 5670-5679 5680-5689 5690-5699 5700-5709 5710-5719 5720-5729 5730-5739 5740-5749 5750-5759 5760-5769 5770-5779 5780-5789 5790-5799 5800-5809 5810-5819 5820-5829 5830-5839 5840-5849 5850-5859 5860-5869 5870-5879 5880-5889 5890-5899 5900-5909 5910-5919 5920-5929 5930-5939 5940

- [illegible]

— 28 —

2014年度	2014年度、2015年度、2016年度	2016年度、2017年度	2017年度、2018年度
--------	----------------------	---------------	---------------

1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2026, 2027, 2028, 2029, 2030, 2031, 2032, 2033, 2034, 2035, 2036, 2037, 2038, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2044, 2045, 2046, 2047, 2048, 2049, 2050, 2051, 2052, 2053, 2054, 2055, 2056, 2057, 2058, 2059, 2060, 2061, 2062, 2063, 2064, 2065, 2066, 2067, 2068, 2069, 2070, 2071, 2072, 2073, 2074, 2075, 2076, 2077, 2078, 2079, 2080, 2081, 2082, 2083, 2084, 2085, 2086, 2087, 2088, 2089, 2090, 2091, 2092, 2093, 2094, 2095, 2096, 2097, 2098, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2104, 2105, 2106, 2107, 2108, 2109, 2110, 2111, 2112, 2113, 2114, 2115, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2124, 2125, 2126, 2127, 2128, 2129, 2130, 2131, 2132, 2133, 2134, 2135, 2136, 2137, 2138, 2139, 2140, 2141, 2142, 2143, 2144, 2145, 2146, 2147, 2148, 2149, 2150, 2151, 2152, 2153, 2154, 2155, 2156, 2157, 2158, 2159, 2160, 2161, 2162, 2163, 2164, 2165, 2166, 2167, 2168, 2169, 2170, 2171, 2172, 2173, 2174, 2175, 2176, 2177, 2178, 2179, 2180, 2181, 2182, 2183, 2184, 2185, 2186, 2187, 2188, 2189, 2190, 2191, 2192, 2193, 2194, 2195, 2196, 2197, 2198, 2199, 2200, 2201, 2202, 2203, 2204, 2205, 2206, 2207, 2208, 2209, 2210, 2211, 2212, 2213, 2214, 2215, 2216, 2217, 2218, 2219, 2220, 2221, 2222, 2223, 2224, 2225, 2226, 2227, 2228, 2229, 2230, 2231, 2232, 2233, 2234, 2235, 2236, 2237, 2238, 2239, 2240, 2241, 2242, 2243, 2244, 2245, 2246, 2247, 2248, 2249, 2250, 2251, 2252, 2253, 2254, 2255, 2256, 2257, 2258, 2259, 2260, 2261, 2262, 2263, 2264, 2265, 2266, 2267, 2268, 2269, 2270, 2271, 2272, 2273, 2274, 2275, 2276, 2277, 2278, 2279, 2280, 2281, 2282, 2283, 2284, 2285, 2286, 2287, 2288, 2289, 2290, 2291, 2292, 2293, 2294, 2295, 2296, 2297, 2298, 2299, 2300, 2301, 2302, 2303, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2312, 2313, 2314, 2315, 2316, 2317, 2318, 2319, 2320, 2321, 2322, 2323, 2324, 2325, 2326, 2327, 2328, 2329, 2330, 2331, 2332, 2333, 2334, 2335, 2336, 2337, 2338, 2339, 2340, 2341, 2342, 2343, 2344, 2345, 2346, 2347, 2348, 2349, 2350, 2351, 2352, 2353, 2354, 2355, 2356, 2357, 2358, 2359, 2360, 2361, 2362, 2363, 2364, 2365, 2366, 2367, 2368, 2369, 2370, 2371, 2372, 2373, 2374, 2375, 2376, 2377, 2378, 2379, 2380, 2381, 2382, 2383, 2384, 2385, 2386, 2387, 2388, 2389, 2390, 2391, 2392, 2393, 2394, 2395, 2396, 2397, 2398, 2399, 2400, 2401, 2402, 2403, 2404, 2405, 2406, 2407, 2408, 2409, 2410, 2411, 2412, 2413, 2414, 2415, 2416, 2417, 2418, 2419, 2420, 2421, 2422, 2423, 2424, 2425, 2426, 2427, 2428, 2429, 2430, 2431, 2432, 2433, 2434, 2435, 2436, 2437, 2438, 2439, 2440, 2441, 2442, 2443, 2444, 2445, 2446, 2447, 2448, 2449, 2450, 2451, 2452, 2453, 2454, 2455, 2456, 2457, 2458, 2459, 2460, 2461, 2462, 2463, 2464, 2465, 2466, 2467, 2468, 2469, 2470, 2471, 2472, 2473, 2474, 2475, 2476, 2477, 2478, 2479, 2480, 2481, 2482, 2483, 2484, 2485, 2486, 2487, 2488, 2489, 2490, 2491, 2492, 2493, 2494, 2495, 2496, 2497, 2498, 2499, 2500, 2501, 2502, 2503, 2504, 2505, 2506, 2507, 2508, 2509, 2510, 2511, 2512, 2513, 2514, 2515, 2516, 2517, 2518, 2519, 2520, 2521, 2522, 2523, 2524, 2525, 2526, 2527, 2528, 2529, 2530, 2531, 2532, 2533, 2534, 2535, 2536, 2537, 2538, 2539, 2540, 2541, 2542, 2543, 2544, 2545, 2546, 2547, 2548, 2549, 2550, 2551, 2552, 2553, 2554, 2555, 2556, 2557, 2558, 2559, 2560, 2561, 2562, 2563, 2564, 2565, 2566, 2567, 2568, 2569, 2570, 2571, 2572, 2573, 2574, 2575, 2576, 2577, 2578, 2579, 2580, 2581, 2582, 2583, 2584, 2585, 2586, 2587, 2588, 2589, 2590, 2591, 2592, 2593, 2594, 2595, 2596, 2597, 2598, 2599, 2600, 2601, 2602, 2603, 2604, 2605, 2606, 2607, 2608, 2609, 2610, 2611, 2612, 2613, 2614, 2615, 2616, 2617, 2618, 2619, 2620, 2621, 2622, 2623, 2624, 2625, 2626, 2627, 2628, 2629, 2630, 2631, 2632, 2633, 2634, 2635, 2636, 2637, 2638, 2639, 2640, 2641, 2642, 2643, 2644, 2645, 2646, 2647, 2648, 2649, 2650, 2651, 2652, 2653, 2654, 2655, 2656, 2657, 2658, 2659, 2660, 2661, 2662, 2663, 2664, 2665, 2666, 2667, 2668, 2669, 2670, 2671, 2672, 2673, 2674, 2675, 2676, 2677, 2678, 2679, 2680, 26

© 1996-2002

〒680-0846 鳥取市西町21 鳥取県人権ひろば21 ふらっと内
TEL : 0857-22-0578
FAX : 0857-22-0580
E-mail : huc@birda.or.jp birda@birda.or.jp

○ ○ ○ ○ ○

- [illegible]

◎ 118

本会は、差別の現実から深く学び、制度差別をはじめあらゆる差別の解消に向けて、本県における学校
教育、社会教育、市民教育、人権教育を進めることを目的としています。

◎ 經濟

- ・上記の目的に賛同する市内市町村の人権教室・同和教室推進組織及び県ならびに関係団体をもって構成されています。
- ・理事 12人、常務監事2人、評議員24人、事務局3人

◎ 重点知识链接

全国人権教育研究協議会に加盟している県内唯一の団体であり、全国レベルでも人権教育・平和教育の推進に努力しています。

經濟集合：經濟集合的定義

- 人間環境学会を支援する、鳥取県研究集会、実行委員会を中心となり、企画・運営に当たります。
- 鳥取県立大学環境学部に環境学専攻を新設し、環境学部の学部長に就任します。

2000-2001

- ・ 市町村の人口数・世帯数の数値を、国勢調査等の公表した数値を
- ・ 全国人口数・世帯数・人口の推移の推移に準ずる数値を

同業銀行の組織

- [illegible]

各 部 門 一 致 決 定 之 的 理 由

- ・ 高野町と大分県との教育推進協議会等 - 高野町教育委員会との連携調整
- ・ 全国人権教育研究協議会との連携調整

○ 総人口の活動率を高めるために

県入会者の活動は、 $\times$ 日も早く国際問題の解決と人類建立を期する国際団体の会費や補助金によって支えられています。

— 1998 —

■ 学人数が正対 「ふれあいの」

- [illegible]

1997, 1998, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2026, 2027, 2028, 2029, 2030, 2031, 2032, 2033, 2034, 2035, 2036, 2037, 2038, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2044, 2045, 2046, 2047, 2048, 2049, 2050, 2051, 2052, 2053, 2054, 2055, 2056, 2057, 2058, 2059, 2060, 2061, 2062, 2063, 2064, 2065, 2066, 2067, 2068, 2069, 2070, 2071, 2072, 2073, 2074, 2075, 2076, 2077, 2078, 2079, 2080, 2081, 2082, 2083, 2084, 2085, 2086, 2087, 2088, 2089, 2090, 2091, 2092, 2093, 2094, 2095, 2096, 2097, 2098, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2104, 2105, 2106, 2107, 2108, 2109, 2110, 2111, 2112, 2113, 2114, 2115, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2124, 2125, 2126, 2127, 2128, 2129, 2130, 2131, 2132, 2133, 2134, 2135, 2136, 2137, 2138, 2139, 2140, 2141, 2142, 2143, 2144, 2145, 2146, 2147, 2148, 2149, 2150, 2151, 2152, 2153, 2154, 2155, 2156, 2157, 2158, 2159, 2160, 2161, 2162, 2163, 2164, 2165, 2166, 2167, 2168, 2169, 2170, 2171, 2172, 2173, 2174, 2175, 2176, 2177, 2178, 2179, 2180, 2181, 2182, 2183, 2184, 2185, 2186, 2187, 2188, 2189, 2190, 2191, 2192, 2193, 2194, 2195, 2196, 2197, 2198, 2199, 2200, 2201, 2202, 2203, 2204, 2205, 2206, 2207, 2208, 2209, 2210, 2211, 2212, 2213, 2214, 2215, 2216, 2217, 2218, 2219, 2220, 2221, 2222, 2223, 2224, 2225, 2226, 2227, 2228, 2229, 2230, 2231, 2232, 2233, 2234, 2235, 2236, 2237, 2238, 2239, 2240, 2241, 2242, 2243, 2244, 2245, 2246, 2247, 2248, 2249, 2250, 2251, 2252, 2253, 2254, 2255, 2256, 2257, 2258, 2259, 2260, 2261, 2262, 2263, 2264, 2265, 2266, 2267, 2268, 2269, 2270, 2271, 2272, 2273, 2274, 2275, 2276, 2277, 2278, 2279, 2280, 2281, 2282, 2283, 2284, 2285, 2286, 2287, 2288, 2289, 2290, 2291, 2292, 2293, 2294, 2295, 2296, 2297, 2298, 2299, 2300, 2301, 2302, 2303, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2312, 2313, 2314, 2315, 2316, 2317, 2318, 2319, 2320, 2321, 2322, 2323, 2324, 2325, 2326, 2327, 2328, 2329, 2330, 2331, 2332, 2333, 2334, 2335, 2336, 2337, 2338, 2339, 2340, 2341, 2342, 2343, 2344, 2345, 2346, 2347, 2348, 2349, 2350, 2351, 2352, 2353, 2354, 2355, 2356, 2357, 2358, 2359, 2360, 2361, 2362, 2363, 2364, 2365, 2366, 2367, 2368, 2369, 2370, 2371, 2372, 2373, 2374, 2375, 2376, 2377, 2378, 2379, 2380, 2381, 2382, 2383, 2384, 2385, 2386, 2387, 2388, 2389, 2390, 2391, 2392, 2393, 2394, 2395, 2396, 2397, 2398, 2399, 2400, 2401, 2402, 2403, 2404, 2405, 2406, 2407, 2408, 2409, 2410, 2411, 2412, 2413, 2414, 2415, 2416, 2417, 2418, 2419, 2420, 2421, 2422, 2423, 2424, 2425, 2426, 2427, 2428, 2429, 2430, 2431, 2432, 2433, 2434, 2435, 2436, 2437, 2438, 2439, 2440, 2441, 2442, 2443, 2444, 2445, 2446, 2447, 2448, 2449, 2450, 2451, 2452, 2453, 2454, 2455, 2456, 2457, 2458, 2459, 2460, 2461, 2462, 2463, 2464, 2465, 2466, 2467, 2468, 2469, 2470, 2471, 2472, 2473, 2474, 2475, 2476, 2477, 2478, 2479, 2480, 2481, 2482, 2483, 2484, 2485, 2486, 2487, 2488, 2489, 2490, 2491, 2492, 2493, 2494, 2495, 2496, 2497, 2498, 2499, 2500, 2501, 2502, 2503, 2504, 2505, 2506, 2507, 2508, 2509, 2510, 2511, 2512, 2513, 2514, 2515, 2516, 2517, 2518, 2519, 2520, 2521, 2522, 2523, 2524, 2525, 2526, 2527, 2528, 2529, 2530, 2531, 2532, 2533, 2534, 2535, 2536, 2537, 2538, 2539, 2540, 2541, 2542, 2543, 2544, 2545, 2546, 2547, 2548, 2549, 2550, 2551, 2552, 2553, 2554, 2555, 2556, 2557, 2558, 2559, 2560, 2561, 2562, 2563, 2564, 2565, 2566, 2567, 2568, 2569, 2570, 2571, 2572, 2573, 2574, 2575, 2576, 2577, 2578, 2579, 2580, 2581, 2582, 2583, 2584, 2585, 2586, 2587, 2588, 2589, 2590, 2591, 2592, 2593, 2594, 2595, 2596, 2597, 2598, 2599, 2600, 2601, 2602, 2603, 2604, 2605, 2606, 2607, 2608, 2609, 2610, 2611, 2612, 2613, 2614, 2615, 2616, 2617, 2618, 2619, 2620, 2621, 2622, 2623, 2624, 2625, 2626, 2627, 2628, 2629, 2630, 2631, 2632, 2633, 2634, 2635, 2636, 2637, 2638, 2639, 2640, 2641, 2642, 2643, 2644, 2645, 2646, 2647, 2648, 2649, 2650, 2651, 2652, 2653, 2654, 2655, 2656, 2657, 2658, 2659, 2660, 2661, 2662, 2663, 2664, 2665, 2666, 2667, 2668, 2669, 2670, 2671, 2672, 2673, 2674, 2675, 2676, 2677, 2678, 26

● 2019 年 12 月 1 日

第4 土曜人権啓蒙社会を実現する熱誠懇研究会のお知らせ

本研究集会用は、今日まで積み上げてきた差別の現実から深く学ぶ実践・交流の成果を踏まえ、相互差別をはじめあらゆる差別をなくし、人権尊重社会の実現に向けて、全市民を対象とした集会として開催します。

問題解決、社会生活の場および学習活動において、「自分自身」と「自分自身以外の人々」の両方と関わりあうことが必要である。 (P2F3B3D)

9. 主催
鳥取大学 経済生活学部経済学
部4-1 三入梅園室にて実施する鳥取県研究集会実行委員会
2. テーマ
『八幡園室社会の実現に向けて、研究と実践を交流しよう』
3. 期日
2016年9月5日（金）
4. 会場
全体会（午の）：メイン会場 米子コンベンションセンター 多目的ホール
サブ会場 米子コンベンションセンター 小ホール
分科会（午後）：米子コンベンションセンター 多目的ホール 他米子市内7会場
5. 日程
9月5日（金）
9:00～9:45 受付
9:45～12:00 全体会（開会行事・基調講演・講演・ミニライブ）
12:00～13:00 昼食・休憩・移動
13:00～16:00 分科会
6. 記念講演
演題：部族問題と向き合う私たち
講師：石川 眞直さん・石川 平晶さん
7. ミニライブ
DJ：マユミさん・マユミさん
DJ：佐藤さん・中野さん（の森内佐藤グループ
前2回ゴールドコンサート（2014・2015年）でグランプリを受賞）

— *Journal of the American Medical Association*

● 政治的・経済的・社会的・文化的・環境的・倫理的・法的・宗教的・哲学的・科学的・芸術的・教育的・健康的・スポーツ的・娯楽的・その他

- [2005-2006](#)
- [2006-2007](#)
- [2007-2008](#)

100%

- * 2010年12月31日以前に発行されたもの

[Downloaded from ascelibrary.org by University of California, San Diego on 06/07/14](#)

第13回ゴールドコンサート、チケットが発売開始となりました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今年10月10日に東京国際フォーラムで行われます第13回ゴールドコンサートのチケットが、7月1日に発売開始となりました。

6月21日付の当ブログの記事でご紹介致しましたように、DJ Yuta & Yuichiは、ゲストとして出演させていただきます。

SS席は、4,000円、S席は、3,500円、A席は、2,000円(高校生以下は無料)、車いす席は、2,000円となっています。最大1,502席ですか。暗かったから見えなかったけれども、やはり凄いですね。以下の画像をクリックして頂ければ、日本バリアフリー協会のチケット予約ページに飛ぶようになっておりますので、是非ご利用下さい。去年もかなり早い時期で完売となったようですので、ご予約はお早めをお願い出来たらと存じます。

というわけで、我々も楽しみです。何やりましょうかねー。最近EDM流行ってるみたいですから、あんな感じでやりましょうか。終演後はメンバー二人は当然丸の内界隈に飲みに出る所存でございますので、そちらもフォローアップ宜しくお願い致します(笑)。今年も頑張ります！

<追記>

ボランティアスタッフの方の募集も同時に始まりました。そちらも宜しくお願い申し上げます。

m(_ _)m

(<https://gc.npojba.org/13/collaboration/volunteer/boshu>)



開催日時 2016年10月10日（月・祝）

開場 15時30分 / 開演 16時30分

会場 東京国際フォーラム ホールC （最大3,502席）

◎ 座席

全席指定

SS席 4,000円

S席 3,500円

A席 2,000円（高校生以下無料）

*申しす席 2,000円

*無料席・申しす席・聴覚覚醒ループをご希望の方、前売券をお連れの方は事務局に事前申込。〈このフォームでの申し込みはできません〉。

*介添者が必要な方（介添者1名無料）

*手話通訳・パソコン文字通訳あり

◎ チケットに関する問い合わせ

NPO法人日本バリアフリー協会 ゴールドコンサート事務局

TEL 03-5215-1485 FAX03-5215-1735

E-mail ticket@npjba.org

◎ 申し込みフォーム

*こちらよりお申し込み後、5日以上経っても事務局より連絡がない場合にはお手数ですがお電話にてご連絡願います。
ドメイン指定受信をされている方は、「@npjba.org」を登録できるように設定をお願いします。

SS席 枚S席 枚A席 枚合計枚数 ※必須項目 枚合計金額 ※必須項目 円氏名 ※必須項目 メールアドレス ※必須項目 郵便番号 ※必須項目 住所 ※必須項目 電話番号 ※必須項目 FAX 連絡先 ※必須項目 電話番号 ※必須項目 FAX 連絡先 ※必須項目 電話番号 ※必須項目 FAX 連絡先 ※必須項目 電話番号 ※必須項目 FAX 連絡先 ※必須項目 電話番号 ※必須項目 FAX 連絡先 ※必須項目 電話番号 ※必須項目 FAX 連絡先 ※必須項目 電話番号 ※必須項目 FAX 連絡先 ※必須項目

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

第13回ゴールドコンサート

活動リンク



DJ Yuta & Yuichi、全国手をつなぐ育成会連合会倉吉大会で演奏致します。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

来る7月10日午前10時30分より、倉吉未来中心に於きまして、[全国手をつなぐ育成会連合会](#)倉吉大会様の依頼を受けまして、DJ Yuta & Yuichiで演奏致します。

25分くらいのショート・ステージです。転居してから初の鳥取帰還ですが、こうやって音楽のお仕事で東京と鳥取を行き来させて頂けるというのは、本当に有難いお話だと思います。関係諸氏には、心より御礼申し上げます。

最近の我々は、アンビエントからハウスに興味が移行しつつあるのでそういうのもやってみようかな、と思いつつ、当日になって全然違う音楽をやっている可能性もあり、その辺のやってる本人も予測出来ない一筋縄ではいかなさが我々の売りだったりしますが(笑)。

というわけで私は、8日より13日まで滞在する予定ですので、鳥取で施術・ご指導ご希望の方は、携帯電話へ直接ご連絡下さい。また東京方面の方はその間ご不便をお掛け致しますが、何卒ご了承下さいませ。それでは宜しくお願い申し上げます。



国からの情報・スレスリリース

>> 一覧へ

- 2016/07/01 **急がらぬ** 都立特別支援学校校長による虐待事件につきまして
続きを見る
- 2016/04/26 **会員へのお知らせ** 都立特別支援学校校長による虐待事件につきまして
続きを見る
- 2016/04/20 **会員へのお知らせ** 都立特別支援学校校長による虐待事件につきまして
続きを見る
- 2016/04/18 **スレスリリース** 都立特別支援学校校長による虐待事件につきまして
続きを見る
- 2016/04/22 **スレスリリース** 「知的障害のある人の合理的配慮」検討会報告書、およびわが国で利用可能なガイドライン
続きを見る

出版物・セミナー・イベント情報

>> 一覧へ

- 2016/05/25 **出版** わがやまの「障害者社会生活法・障害者虐待防止法パンフレット」について
続きを見る
- 2016/04/18 **出版** 雑誌「手をつなぐ」最新号（2016年4月号）を掲載しました。続きを見る
- 2016/04/01 **出版** 世界会議 見聞のお知らせ
続きを見る
- 2016/02/15 **セミナー** 2015年度育成会フォーラム
続きを見る
- 2015/10/01 **出版** 本人事業主による権利保護についての話（動画）
続きを見る

昨日、音楽療法と、お年寄り向けの簡易気功法の講習をして参りました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昨日、埼玉県春日部市にございます家族の家ひまわり北春日部にて、音楽療法と、お年寄り向けの簡易気功法の講習をして参りました。

地域格差の問題はこのブログでも何回か触れているところですが、たった一つだけ地方も都市部も関係ないと思われる問題がございます。それが、超高齢化が引き起こす諸々の問題です。

特に、認知症に関する問題。これは身近にそのような方がいらっしゃらなければご想像頂けないかも知れませんが、その方だけではなくその方がいらっしゃるご家庭そのものも崩壊させてしまうほどの切実な問題だと思います。問題というより、正に脅威ですね。

それに対して国に対策を働きかけるみたいな運動は各地でございますが、私はそれに関しては非常に懐疑的です。もちろん無駄だとは申しません。問題なのは、そうやって働きかけて、各種議員が重い腰を上げて、法整備が行われて、ようやくその恩恵を受けることになる。そこに至るまでに一体どれだけ時間がかかるのか、ということです。その間にも事態はどんどんと進行していくのです。しかも残念ながら、あまり良い方向ではない。

では私達はどうすれば良いのか？やはり現実的には、我々なりに対策を立てるしかないのでしょうね。

東洋医学にも造詣が深い山崎施設長ともお話したのですが、東洋医学には認知症に関する記述はないと。確かに言われてみればそうですね、気付かなかった。だとすればますます、我々なりに模索をするしかない。ガイドがないわけですからね。認知症に効く薬というのも現実的には聞いたことがない。そもそも、既に発症した認知症に対して効果がある薬というものはあり得るのでしょうか？それは老化を止めるくらいに無茶なことのようには思われますが・・・。

そこで今回私がお話したのは、二つのアプローチです。一つは体からのアプローチ。それは、転倒予防に関してです。

恐らくこれは、悪い着眼点ではないのではないかな、と思います。転倒して足腰が弱くなった、立ち上がるのが億劫になったので在宅が多くなった、テレビもつまらないので昼寝をするようになった、だんだん起きているのか寝ているのかわからなくなった、その内記憶が飛ぶようになった、私が多く聞くのは、大体このパターンです。ですからそもそも、転倒しない体を作る必要がある。

その鍵を握るのは、筋力を鍛えるとかではなく、重心の位置ですね。重心が胸の辺りにあると、転倒する確率が当然高くなります。ハンマーを柄の方を下にして立てるのと同じですからね。これを逆転しなければならない。ここで使えるのは東洋医学ではなく、むしろ東洋武術の発想です。これだけでも、不測の事態をかなりの程度防ぐことが出来ると思います。

そして、もう一つのアプローチ。これは心ですね。残念ながら足腰が弱くなったとしても、在宅で何か出来ることを模索されることが重要だと思います。その意味では、趣味がある方、このような方はメンタル的にタフです。実際私の見たところもそうですね。逆に、定年まで家と職場を往復していただけたという方で、定年になった直後に認知症を発症したというケースも良く聞きます。これは知人から聞いた実話ですが、3月31日付けで定年になった校長先生が4月1日になっても校長室に入って来る。自分は校長だ、仕事をして何が悪いんだと言い張るので、最終的にセキュリティを呼ばざるを得なかったそうです。悲しいことではありますが、このようなケースは多いのではないかと想像致します。ですから、定年になったから好きだった趣味に自由に没頭してやるぞ！くらいの意気込みのある方の方が、色々な意味で強いと思います。

あとは、周りの方のサポート。これはケース・バイ・ケースなので何とも言えないのですが、私であればその方の興味を引き出すように会話を誘導していきますね。上記の趣味とも関係することですけれども。

実際昨日もそうでした。昔の童謡等をピアノで演奏していたのですが、参加していらっしゃるお年寄りの中で、私と一緒にハーモニカを吹かれる方がいらっしゃる。その演奏がリズム・ハーモニー・メロディーとも完璧なので、この方は恐らく只者ではない、と思いました。終演後施設長さんと一緒にそのHさんのお部屋をお尋ねしたのですが、聞くところによると子供の頃から音楽が好きで、何と、最も好きな民謡で東京大会はおろか全国大会に何度も出て、数々の賞を総なめにしていたそうです。あまりにも才能がずば抜けていたために、逆に疎まれて教室から破門されたことも何度もあるとか。どっかで聞いたような話ですが(笑)。書道もやるし、詩も書く、絵も書く、落語までやる、部屋中にはご自分で作られた作品が所狭しと貼られている、要するに完璧なアーティストなのです。今は左手が不自由なのでギターや尺八や三味線は演奏出来なくなったけれども(てか、それも凄いですね)、ハーモニカなら片手で出来るし、今でも歌の練習には余念がないとおっしゃいます。そのような詳しいことは施設長さんも初めて聞かれたようで、びっくりされていました。アートに関心がなければ、壁に貼られているそれらの作品も単なる落書きですからね。そうやって話されるHさんの顔は、本当に生き生きとしていました。また是非来て下さい、と有難いお言葉を頂いて、その部屋を後にしました。

私の考える音楽療法や気功というのは、こういうことなのです。そんなに大それたことをしているわけではなく、その方のやる気を引き出すこと。それに成功すれば、後は独りでに自体は好転

していきます。そういうことです。

6月29日に総務省が、日本の総人口の中で65歳以上の方の人口が4分の1を超えたと発表しました。多くの方が指摘している通り、歴史上初めての事態が次から次へと起こるのは避けられません。それとどう向き合うか？答えは容易には得られそうにありませんが、まずは身近な予防策を模索するしかないのかも知れませんね。

クライアントさんから、面白いグッズを送って頂きました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先だって、いつも連絡を下さる東京のクライアントさんより、面白いグッズをお送り頂きました。ご自分では効果があまり良く判らないので、是非鑑定をお願いします、とのことでした。

3つほどお送り頂いたのですが、一つはかの[ニコラ・テスラ](#)関係のグッズみたいです。彼も交流電流やラジオの発明以外に、かなりファンキーな研究を残していらっしゃいますからね。マッド・サイエンティストとも目されているようですが。彼の伝記には非常に惹かれるものがあります。

同封の解説書には、1ページ目より色々と書いてあります。「生命エネルギー」、「自己浄化」、「ポジティブな感情」、・・・云々。ここら辺が既に、拒絶反応を示す人は示してしまうマイルストーンとなっちゃうんでしょうねー。そもそも、生命エネルギーとは何か、自己を浄化するとはどういうことか、ポジティブな感情とは何か。それらの十分な定義も無しにいきなりそういうことを語られた瞬間に、**そりゃ宗教かスピ系でしょう**、と言われても仕方が無いのかも知れないですね。現代人はとにかく疑い深いですから。無理ありませんが。

ただやはり私のような仕事をしていると、一概にこれらを荒唐無稽と一蹴するのも憚られる現象もあることはあるのは事実です。私だって最初気なんてウソだと思ってましたから。皆さんも、**自分は気功家だと言うようなおかしい人間は信用されない方が身のためです**(笑)。

試しに、マウスの使い過ぎで肩が痛かったのをそれをかざしてみると、何だか軽くなったような気がしますね。この図柄に意味があるのか、何か特殊な物質が埋め込まれているのか、それは判りませんが。まあちょっとした病気程度でしたら私の場合点穴で処理出来るのですが、その手法をご存じない方であればこういうグッズは、お持ちであっても良いかも知れませんね。

というわけで、もう少しリサーチしてみます。因みに効果が確認できた暁には、このブログの横にそれ系のアフィが出たらそれですので、是非クリックして私にファンディングして下さい(笑)。

止まらないイギリス**EU**離脱の衝撃・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

遂に、『ロンドン独立論』が出て来ましたね。

[ロンドン独立求め数万人が署名、英国の**EU**離脱で](#)

ITが主導するグローバル化が極限まで進むと、国家まで解体の危機にさらされるみたいな。世界のフラクタル化？何だか80年代のポストモダニズムが、意外な形で現実化しつつあるように見えるのは、私だけでしょうか・・・。

イギリスが、**EU**を離脱します。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ご存知のように昨日の国民投票によって、イギリスのEU離脱が決定致しました。

この顛末は、凄まじかったですね。遠く離れた日本でも良く判りました。それが一番良く見て取れたのは、株価と為替レートですが。一気に1,300円近く下落したのは、史上8番目らしいです。グラフ上でも、正に歴史的な瞬間だった、と言えそうですね。

今後これがどのように波及していくのか様々な議論が沸き起こっていますが、大雑把には言うまでも無く、更に多くの国のEUからの離脱ですね。そしてEUだけではなく、イギリスそのもの、United Kingdomが崩壊する可能性が出て来ましたね(既にスコットランド・北アイルランドでは、そのような兆候が見えます)。

このことは心理学的に見ても、非常に興味深いと思います。過度に流入する情報に対する人間の反応と言えはたった二つで、それを受け入れるか、受け入れないか。IT化が進むことで人間の認識もアップデートされるかと言えはそんなことは無く、最新のスマホを駆使してやっていることと言えはツレが昼何食べたかをチェックしていいね！するだけみたいな図も良くある話で(笑)。それと同じことが国家レベルでも起こっているのではないか、という気がしますね。

かつてのソ連が崩壊した後に現れたのは、民族主義です。それは今でも連綿と続いていて、それで不利益を蒙っている人達(いわゆる難民)が大挙してEUに雪崩れ込み、それが今回のイギリスの決定を促したわけですね。トランプ氏の登場もそうですが。超情報化に伴ってますます巨大化する無意識的な矛盾にEUという意識が耐えられなくなった、そうすると人間一番判りやすい方向に向かうわけで、それが更なる民族主義の台頭を促している、そんな風に私には見えますね。グローバリズムの崩壊、ないしは資本主義の崩壊を预言する論調も見られます。じゃあその後にマルクスの言うように共産主義が現れるかと言えは、そうでもない。それっってもう80年代に既に崩壊しちゃってますからね。

結局出口がない、みたいな。ちょっと想像付かないですね～。そっちの方がまだマシだったかなあ、そんなことを嘆息せざるを得ない状況が今後現出するのもかも知れないですね。

遂に不老不死が、実現しそうです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

6月21日付の読売新聞に、このような記事がありました。

老化抑制物質、初の臨床へ...慶応大など来月にも

見てみると、既に3年前にこの物質についてのレポートがありますね。出自が出自ですので、当時は話題にならなかったのかな？(笑)。

最強の“若返り薬”への可能性が開かれる 実験で明らかになった「NMN」の重要性とは？

いよいよ人類の夢である不老不死が、医学的に実現するのも知れないですね。

でもそれって・・・、一体何を意味するのでしょうか？気功家の絶滅？まあそうかも知れないですけれども(笑)。

夢が叶った瞬間、それは現実となります。当たり前ですが。ではその先には一体、何が待っているのでしょうか？

それは皆さんの周りを見て頂ければ、良くお判りかと存じます。

お判りにならない人がいるとすれば、政治家さん達ですかね(笑)。昨日参院選がスタート致しましたが、各候補者そのインパクトに触れているようで触れていない感がありますね。やはりそれは、社会全体の根幹に関わるが故に触れたくない、そういう意図の現われなのかな、という気がしますけれども。

やっぱり、自分のことは自分でやる、それくらいの意識がないといけないのかな、と思いますね。最近『自己責任』と良く言われますが、そんな感じでしょうか。目に見える脅威はまだ対処しやすいです。一番怖いのは、目に見えない脅威という。実際幽霊より怖いと思います(笑)。政治家さん達は何もしてくれないでしょうし。彼らが役に立たないから、と言っているのではありません。現実的に何も出来ないのでからね。期待する方が無駄。ていうか、そんなことをしている場合ではないわけで。

陰極まって陽となる、陽極まって陰となる。今となっては不老不死よりも、こちらの方がよほど
タオイズムの的に聞こえますが。現実的タオイズム。ここら辺はさすがにこのブログでは直に書け
ませんので、セッションの際にでもオフレコで。

DJ Yuta & Yuichi、今年のゴールドコンサートでゲスト演奏致します。

JUGEMテーマ：心、体、そして魂。

いつもお世話になっているNPO法人日本バリアフリー協会様から連絡がございまして、今年第13回目になります東京国際フォーラムでのゴールドコンサートにて、ゲスト出演が決まりました。

そう言えば昨年の今頃郷里鳥取の井谷君の家で、どの曲を送ろうかとディスカッションしてたなあと、懐かしく思い出しますね。その当時は言うまでもなくグランプリを頂くなんて、夢にも思わなかったわけですけども。実際最終発表が行われている時も私は、湯川れい子さんを横目に、**夕食どこで食べようか、予約無しで大丈夫かな**、とステージ上ではそればかり考えていましたが(笑)。何だかいまだに現実感無いですけどもね。

というわけで、今回は有難いことに、ゲストとしてお招き頂くことになりました。本当に光栄な限りです。私の場合、**東京国際フォーラムと言えば、Klaus Schulze**なんですけどもね。前回の来日公演行けなかったのがガチで悔やまれるんですけども(笑)。ですから彼にトリビュートして、70年代に彼が多用していたMini MoogやArp Solinaなど、それっぽいシンセをガンガンに仕込んで向かいたいと思います。で井谷君はそのような私の思いとは全然無縁のテクノな素材を繰り出してくると思います。この**世代を超えた噛み合って無さがこのユニットの醍醐味**だと私は個人的には思っているのですけども(笑)。

期日は、10月10日(月祝)です。その日が近づいて来ましたらまた改めてご案内させて頂きたいと思えます。最後になりましたが、日本バリアフリー協会の皆様には、心より御礼申し上げます。今年も宜しく願い申し上げます。



障がいをもつミュージシャンの音楽コンテスト

第13回ゴールドコンサート

PickUp!

“ 第13回ゴールドコンサート 本場出場者決定!! ”

“ 第13回ゴールドコンサート 特別ゲスト、ゲスト決定!! ”

[ホーム](#) [概要](#) [出場者](#) [プレス](#) [協賛・協力](#)現在位置: [ホーム](#) > [第13回ゴールドコンサート](#) > [最新情報](#) > 特別ゲスト、ゲスト決定!

特別ゲスト、ゲスト決定!

[印刷する](#)

第13回ゴールドコンサート 特別ゲスト、ゲストが決定しました!

■ 特別ゲスト

二人目のジャイナ



オフィシャルウェブサイト

<http://kokoronotomoyo.net/>

■ ゲスト

DJ Yuta & Yuichi (第12回ゴールドコンサートグランプリ受賞者)



ゴールドコンサートとは

あゆみ

[第13回ゴールドコンサート](#)[第12回ゴールドコンサート](#)[第11回ゴールドコンサート](#)[10周年記念ゴールドコンサート](#)[第9回ゴールドコンサート](#)[第8回ゴールドコンサート](#)[第7回ゴールドコンサート](#)[第6回ゴールドコンサート](#)[5周年記念ゴールドコンサート](#)[第4回ゴールドコンサート](#)[第3回ゴールドコンサート](#)[第2回ゴールドコンサート](#)[第1回ゴールドコンサート](#)

協力

活動リンク



copyright © 2016 Japan Barrier-free Association. All right reserved.

<追記>

6月5日仙台で行われた『とっておきの音楽祭』でのゲスト演奏の様子がアップしておきます。凄

い人出でしたのでびっくりしましたが。でも改めて写真見ると、さすが引越しの直後だけあって
やつれてますね(笑)。



~by courtesy of Rui Satou from Yamagata





JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

謹啓 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、諸般の事情に寄りまして、再度東京に事務所を構える運びとなりました。
それに伴いまして、業務の内容を以下のように変更させていただきますので、ご案内申し上げます。

<主な変更点>

(1)セッションの内容に関しまして

セッションの中心は、一指禅功/無為気功を中心とした気功法の指導と施術です。気功法の主眼は、ご自身で自然治癒能力を向上させることによって、ご自身で丈夫な心身を獲得されることにあります。それを念頭において皆様のペースに合わせて、カリキュラムを組みます。
東洋医学の基本的発想は、「未病」、つまり病気そのものの予防です。病気にかかってからでは遅いのです。その病気にそもそもかかりにくい心身を作ること(その鍵を握るのは、免疫機能であり、更にその鍵を握るのは、基礎体温の上昇です)、そして残念ながら発症した後も、器具・薬品の助けをなるべく借りずに、それ以上の進行を食い止めること、ないしはそれを改善させるような生活環境に持って行くこと、それらを念頭に置いた総合的なコンサルティングを行っていきます。

(2)料金に関しまして

料金は、次の表のように改定させていただきます(単位：1時間、お一人当たり)。

人数	料金
1人	5,000円
2～5人	3,500円
6～9人	3,000円
10人～	2,500円

ご覧のように、セミ・プライベート形式の受講スタイルを新たに導入致しました。従来通り個人でのセッションもお受け致しますが、複数でお出での場合の方がお安くなるようにさせて頂きましたので、ご希望であればそちらをご利用になるとリーズナブルかと思います。ただその場合、どうしてもプライベートのような個別の体質・症状に合わせたきめ細かいご指導は時間その他の制約上出来かねますので、予めご了承下さいませ。

(3)セッションの場所に関しまして

ご存知のように、今までは当方の自宅兼事務所で行っていましたが、現在の住まいのセキュリティの関係上、今後は出張を中心にさせて頂きたいと思います。ですから実際にお支払い頂くご料金は、上記(2)の金額プラス往復の交通費(実費)とさせていただきます(お2人以上でのセミ・プラ

イベント・セッションをご希望の場合、それをシェアされるのも一法かと存じます)。

出張以外と致しましては、近隣にございますレンタルルームを使用してのセッションがお勧めですが、その場合は、レンタルルームの手配は皆様をお願い申し上げます。私にお部屋の予約も委託される場合は、近隣の立川～国分寺エリアのレンタルルームを利用する予定です。その際、空室状況によって若干日時の調整が必要になる場合がございますが、何卒ご容赦下さい。

なお、昨年プロフェッショナルの方向けに創設致しました [エナジー・チャネル・balancing・メソッド講座](#)は引き続き受け付けておりますので、ご希望の方はお問い合わせ下さい。

以上ご不明な点がございましたら、お気軽にご相談下さい。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックと合わせて開催される鳥取県の平井知事を中心とした知事連盟が推進中の[国際障がい者芸術文化作品展覧会『アール・ブリュット\(Art Brut\)』](#)に向けて、私が主宰しておりますアート事業"Studio Bardo"もよりステップアップさせようと考えております。

訳あって2011年より、郷里鳥取県に5年間滞在しておりましたが、その間にスタートさせた作曲家井谷優太君とのプロジェクト"DJ Yuta & Yuichi"も軌道に乗ってきましたので、今後も東京⇄地方という二項対立を超えた、幅広い才能のある人材の発掘と創作活動を推進していければ、と考えております。

アートと気功、一見別の分野に見えますけれども、両者は密接な関連性があります。両者に共通する要素＝奥義とは、バイオ・フィードバックです。それ以外にはあり得ません。それを最大限活用しながら、自己の限界を超えていくこと。それを今後東京でより深く探っていく所存です。私自身も、これまで以上により多くの勉強が出来そうです。

それでは、今後とも宜しくお願い申し上げます。

やわらぎ気功クリニック/Studio Bardo 中原勇一 拝

数日前から**Windows Update**が止まらなくなりました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

数日前からWindows Updateが止まらなくなりました。

PCがワンワン唸ってうるさ過ぎるので、今流行のSSDにHDDを交換したら静かになるかなと思ったのですが、全く効果ありません。もっとも、CPU使用率が跳ね上がっているのが原因なわけだからSSDにしても意味なかったかなと思って、後の祭り。まあストレージにしますわ。

でネットを色々と調べてみると、どうやらWindows Updateそのものの問題らしく、しかもそこにはWindows 10の存在が。強制的にアップデートされて悲鳴上げてらっしゃる方がどうも多いみたいで。

勝手に (windows10 win10)

でもうちに関しては、今のところその予定無し。ネット端末だったらiPadや格安スマホのAndroidで十分間に合ってますし、Linuxもありますしね。Windowsでなきゃいけない理由？・・・まあ今まで使っていたアプリが使えなくなることくらいでしょうかね～。だとすればそのアプリ使いたければネット切断してスタンドアロンで使えばいいし。実際そうやってますんで。ライブしながらネット見たりとかはするわけないですしね。演奏中に突然PCが再起動始めて「更新しています。電源を切らないで下さい」とか出た状態で固まられたら大笑いですから。それはそれでネタになりそうですが(笑)。

あちらこちらからPCの終わりみたいな言葉が聞かれますけれども、こういう現象が頻発するようだったらますますその傾向に拍車が掛かるんじゃないでしょうかね～。というわけでMicrosoftさん、まあ頑張ってください。

DJ Yuta & Yuichi、仙台にて『とっておきの音楽祭2016』に参加致します。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

この度、ゴールドコンサート主催者でもありますNPO法人日本バリアフリー協会様の委嘱を受けまして、6月5日宮城県仙台市にて開催されます『[とっておきの音楽祭2016](#)』に、DJ Yuta & Yuichiで参加を致します。

東京を飛び越えて、東北エリアですね。申し上げるまでもなく初出場ではありますが、この音楽祭は毎年全国で開催されているようです。いわゆる野外フェスのようで、腕が鳴ります。

タイムテーブルを拝見致しますと、14時30分から14時55分までは、クリスロード・山野楽器前で一回、グランドフィナーレで18時15分より一回と、計2回公演となっていますね。有難いお話です。

最近の井谷君はアゲアゲのEDMに凝ってらっしゃるみたいですので、それ系のバックトラックをご用意頂きましょうかね。んでもって上に載るのは、先日お亡くなりになった畠田勲氏にトリビュートして壮大なストリングスと、ナニゲに気になるU2のThe Edge風のディレイ・ギターみたいな。ほとんどジャンルを無視して行ったり来たりするサウンドを今回もお楽しみ頂ければと思います。

最後になりましたが、とっておきの音楽祭2016の実行委員会の皆様、日本バリアフリー協会の皆様、今回も大変にお世話になりますが、何卒宜しくお願い申し上げます。それでは現地でお会い致しましょう！



とっておきの音楽祭
2016

お問い合わせはコチラ
info@otokinokinokisai.jp

TEL.022-265-0980
FAX.022-716-5717

とっておきの音楽祭は、障害のある人もない人も一緒に音楽を楽しむフェスティバルです。

トップページ
TOP PAGE

開催概要
EVENT INFO

ヒストリー
HISTORY

ニュース
NEWS

エントリー
ENTRY

運営支援・被災地での活動
SUPPORT

ブログ
BLOG





主催：国土交通省の官庁指定委員会SENDAI
共催：NPO法人オパイエ・プロダクト

[illegible]

バラスと、隣接する「サルサ・リム」まで

■ NEWS

- ▶ [ボランティア募集のお知らせ](#)
- ▶ [出店者募集のお知らせ](#)
- ▶ [とっておきの音楽祭開催予定の皆様へ](#)

Facebook



作曲家の富田勲氏が亡くなりました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

5月5日、作曲家の富田勲氏が亡くなりました。

私はその時、都内にいました。雲行きも悪くて何だか嫌な風が吹いていたのですが、それはこの巨星が堕ちたことを僕に知らせていたのかなあと、今になって思います。

『月の光(Clair de Lune)』、時代を超えた名作ですね。僕もアナログ盤持ってます。でも僕自身の富田先生の一歩の名作と言え、この「新日本紀行」のテーマ曲ですね。メロディ・弦楽アレンジ・リズム、どれを取っても完璧にしか僕の耳には聴こえません。この曲を聴くと涙が出てくるのは、単純な昭和へのノスタルジアではないと思います。

富田先生、有難うございました。安らかに眠り下さい。

DJ Yuta & Yuichi永田町ライブ、無事終了致しました。

JUGEMテーマ：心、体、そして魂。

それは二週間前、鳥取県庁のOさんからの一本のお電話からスタートしました。

「中原さん、急ですけども、30日ライブお願い出来ないですか？」

「いいですよ、大丈夫です。場所はどこですか？」

「**永田町の都道府県会館です。**」

「・・・」

その時点でのお話ですと、鳥取県の平井知事が、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに合わせたアート・プロジェクトをスタートさせるべく記者会見を行うので、そこで県代表として演奏して頂きたい、という内容でした。有難いことです。昨年のゴールドコンサート以降、初の東京凱旋だなあ、腕が鳴るなあと、二人して二つ返事で引き受けました。PA機材が無いんですけど・・・ということでしたが、ご心配なく。こっちには全部あります。**電源タップ一個あればどこでもライブやります**、というのが我々のスタイルですので(笑)。というわけでミカン箱にPA機材を入れて事前に送って、準備万端。

そして我々ツアー隊は、29日の午前中倉吉を立ちました。その日は桜木町にまずは一泊。事前に連絡を取っていた都内のアーティストさん達と合流して(皆さんお忙しいのに、わざわざ有難うございました)、新橋のベトナム料理店で前夜祭を行いました。**もう飲んじゃう**(笑)。

そして当日。私はセッティングがあったので、先に現地入りしました。ふと見ると入り口には、**『2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障がい者の芸術文化活動推進知事連盟設立記者会見』**と書いてあります。・・・これってさすがに話デカくないですか？みたいな。そして早速Oさんにご挨拶。

「今日は遠藤利明五輪担当相も来られますし、内閣府からも多数ご参加頂きます。メディアも**30社以上お出でになりますので、宜しくお願い致します。**」

・・・腕が鳴りますね(笑)。

演奏時間は15分ということで、それでも十分に有難いほどの時間なのですが、大臣入室と同時に演奏をスタートして、会見場にセッティングしてあるアール・ブリュット展をご覧になっている間ずっと演奏を続けてほしいとのこと。了解しました。そこら辺の対応能力もバッチリです。何せインプロユニットでもありますので(笑)。

そして15時15分、会見に先立って各知事の入室、そして大臣が入室されました。

ところがここでハプニングが起きました(とは言えハプニングと思ったのはスタッフの皆さんで、我々はそもそもこういう演出だったのだろーと思っていたのですが)。当初のプランですと大臣を平井知事がまずはアール・ブリュット展の方へ誘導される段取りだったようですが、入室と同時に大臣は何故か**まっすぐに我々の方へやって来られました**。それに伴ってメディア各社も我々の方へ大挙して移動して来られます。**報道陣に囲まれる中、大臣が我々に色々と質問されます。それに我々は演奏の手を止めずに答えるというある意味曲芸サーカスのようなファンキーな図が**

展開しました。

でも大臣もご満悦のご様子で、とても光栄でしたね。

その後は大臣のご挨拶と各知事によります連盟の趣旨説明、それに対する報道陣の質疑応答と、何だかあっという間の一時間でした。

その後当然我々も、報道陣だけではなく各知事・副知事からも色々と質問を頂きました。その内容はここでは触れませんが、何だかますます面白くなっていきそうな感じです。

当日はゴールドコンサートでお世話になった日本バリアフリー協会の貝谷理事長もお出でになりました。その後協会の事務所で、夕食をご馳走になりました。お寿司美味しかったです(笑)。

だが、夜はまだ終わらない。終わるわけではない(笑)。県庁の皆さんとご挨拶がてら軽く一杯をと考え赤坂に移動した我々、適当な店を探して回る内に彼の目がキラリと光る。そして見つけたのが**Hooters赤坂店**。でもかなり派手目のお店だけれども、県庁の皆さん大丈夫かなーと思ってYさんに連絡を取ると、

「あ、例の話題の店ですね」

・・・と、なんだ、すでにご存知なんですね(笑)。そこで再度ドンチャン騒ぎした挙句**終電逃しそうになって赤坂をひた走る**みたいな、正に弥次喜多珍道中状態。こちら辺も我々のユニークさだったりする(笑)。

というわけで、遠藤大臣・平井知事を始め鳥取県庁の皆様、このミニツアーでお目に掛かりました皆様、本当に有難うございました。このようなドタバタユニットではございますが、今後とも末永くお付き合い頂ければ幸いです。それとまだ都内にいる井谷君、まずは無事に帰ってきて下さい。ハメ外し過ぎないように(笑)。

<追記>

うーん、格安スマホ、ツアー中凄く便利だったんですけども、カメラはイマイチですね。せっかくだったのにもったいなかった。次回は専用機使おう。

ホーム > 地域ニュース > 記事

ツイート |シェア|17

2016年3月31日

障害者の芸術文化推進 13都県参加で知事連盟

鳥取県など13都県の知事は30日、2020年東京五輪・パラリンピックに合わせ障害者の芸術文化活動を推進する知事連盟を設立した。同日、都内であった会見には、発起人の平井伸治鳥取県知事らが出席。東京五輪に向けた文化プログラムの中で、参加都県で連携した巡回展などを開催する方針を明らかにした。



知事連盟設立を機に記者会見する平井知事（右から2人目）ら＝30日、東京都千代田区の都庁第1会議室

五輪開催地の東京都のほか、鳥取、宮城、福島、長野、三重、滋賀、岡山、広島、山口、徳島、高知、宮崎の12県が参画。今後は、他の道府県にも参加を呼び掛ける。

会見で、平井知事は「障害者の芸術文化の花開く日本を世界にアピールしたい」と意気込みを語った。巡回利便五輪相も会場に駆け付け、「『障害者の』作品一つ一つにかかる思いを受け止め、日本の文化として発信していく」と述べた。

知事連盟は、今年10月末に鳥取県内で開くイベントを皮切りに各都県でシンポジウムなどを開催し、全国を巡回する展覧会も検討。障害者の芸術文化の位置付けを明確にする取り組みに力を入れる。

会見会場では、脳性まひの障害がある倉吉市のミュージシャン、井谷優太さん（31）とユニットを組む中原勇一さん（46）がオリジナル曲を演奏。平井知事らは障害者の芸術作品を展示した「アール・ブリュット作品展」を鑑賞した。

地域ニュース 最新記事

- ▶ スカイ復送、まず神戸候を 「応援団」徹底掛け決める (31日) 記事
- ▶ 緊急時対策所を新設 島根原発、新基準の耐震構造 (31日) 記事
- ▶ 四季の表情豊かに “ジオ列車”ラッピング張り替え (31日) 記事
- ▶ 障害者差別解消法施行前に「共生社会を目指して」(下) (31日) 記事
- ▶ 障害者の芸術文化推進 13都県参加で知事連盟 (31日)
- ▶ 春こそ 倉吉・姫薬寺、シダレザクラ (31日) 記事
- ▶ 湖止め松「おかえり」 記録的豪雪枯死の幹、オブジェに (31日)
- ▶ 女性管理職増に目標 「活躍推進計画」承認 (31日)
- ▶ アークード竣工祝う 鳥取本通商店街 (31日) 記事
- ▶ 終末期医療を提供 豊岡病院が緩和ケア病棟運用 (31日)
- ▶ もっと見る

文字サイズ 小 中 大



新規会員登録

新聞購読申し込み

Googleカスタム検索

サイト内検索

ピックアップ

- ▶ さくら特集
- ▶ カイザーレ鳥取
- ▶ 鳥取県関係力士
- ▶ 春の読書紹介キャンペーン
- ▶ JQB NAVI 2017
- ▶ 読者懇話会コンサート
- ▶ 生田智大ピアノ・リサイタル
- ▶ 2015参院選
- ▶ 読者NOW

アクセスランキング

- 1 JR支社、米子に存続 近接地に新ビル建設
- 2 米子駅の復活要望へ スカイマークに鳥取県
- 3 県道にラーメンズブ工場 県の補助金活用...開業式
- 4 山陰近畿道 岩美-浦富1区開通 開通祝い式初め
- 5 すなばからのおくりもの 4月に大阪で初展覧

もっと見る

ページトップへ▲

関連サイト

大阪朝日新聞 OSAKA NICHINICHI
日本海折込センター
日本海新聞ふるさと創り事業団

新日本海新聞社

- ▶ 会費徴収
- ▶ 個人情報保護方針
- ▶ ご利用規約
- ▶ ニュースマート
- ▶ ご利用ガイド
- ▶ お問い合わせ
- ▶ 日本海新聞ID
- ▶ グループ企業

各種申し込み

- ▶ 購読申し込み
- ▶ 新込広告
- ▶ 試読の申し込み
- ▶ 我が家の宝
- ▶ 新聞広告
- ▶ フォトサービス
- ▶ Web広告
- ▶ ホールご利用
- ▶ 日本海政経懇話会
- ▶ 著作権使用について
- ▶ 後援について

本サイトに掲載の記事・写真など一切の著作権を帰します。すべての記事・写真の著作権は新日本海新聞社に帰属します。

▶ 著作権関係について ▶ ネットワークの著作権について(日本新聞協会) ご意見・ご要望は住所、氏名を明記の上 info@nihonkai.co.jpまで
Copyright © 2013 Nihonkai Shinbun Company All rights reserved.

©2009 Honda. All rights reserved. Honda and the Honda logo are registered trademarks of Honda Motor Co., Ltd. in the U.S. and other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.







George Martin氏が亡くなりました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先日8日、イギリスのプロデューサーであるGeorge Martin氏が逝去されました。

彼は私に、ミュージシャンよりもプロデューサーの方が重要なのだということを気づかせてくれた人物の一人ですね。そのような人物は彼の他にもいて、YMOの細野晴臣氏、そして同じ英国のBrian Eno氏ですね。あとはロシアのセルゲイ・ディアギレフとか。

彼らは彼ら自身の作品を作るだけではなく、彼らの周りにいるミュージシャンの隠れた才能を見出すことに長けている人たちです。プロデュースとはそういうことです。

そのことに関する彼らの著作として、細野氏は『レコード・プロデューサーはスーパーマンをめざす』という本を出版されていますが、George Martin氏もThe Beatlesのプロデュースを振り返って、『耳こそはすべて』という本を出版されています。

その中で、The Beatlesのプロデュースを引き受けるに当たって給料分だけで良いという契約書にサインしたことが人生最大の誤算だった、というようなことを述べられています。あれだけThe Beatlesが世界中で大儲けしたにも関わらず、彼にはそれに対して通常の給料しかもらっていなかったという。ここが音楽ビジネスの恐ろしいところであり、そういうシビアなところにも触れてある非常に名著だと私は思います。

The Beatlesの4人が凄かったというのはわかります。だがそれを実際に輝かせたのは、間違いなくマネージャーのBrian Epstein氏と、このGeorge Martin氏の卓越した働きだったと、私は思います。ダイヤの原石というものは、そこにあるだけでは単なる石っころです。それを発見して磨きかける第三者がいなくてはなりません。マネージャーとかプロデューサーというものは、正にそういった存在です。その重要性に気づかせてくれたのは、そのような彼らのエピソードでした。

彼らとは比べるべくもありませんが、私も今関わってるプロジェクトでそのような働きが出来たら良いな、と考えています。

Thank you very much, George ! R.I.P...

3月5日の鳥大医学部市民講座ライブ、無事に終了致しました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

3月5日に米子全日空ホテルにて行われました鳥取大学医学部主催の市民公開講座『誰もが住みやすい地域社会を目指して』でのDJ Yuta & Yuichiの客演演奏、無事に終了致しました。

今回のシンポジウムの主たるテーマは、障がいをお持ちのお子様の在宅支援あるいはいわゆるノーマライゼーションに関するものだったのですが、その問題に対する現在の鳥取県と鳥取大学医学部の取り組みをわかりやすい形で市民の皆様にご紹介するという、非常に充実したプログラムだったのではないかな、と思います。そこで私も演奏に先立ちまして、10年近く武蔵野市で音楽療法を通じて自閉症をお持ちの方のケアに従事したという経験を元に、少しお話をさせて頂きました。

昨年第12回ゴールドコンサートでグランプリを受賞した直後にご紹介した記事の中でも触れました通り、フィジカルなものを含めた何らかの限界を克服するという目的においては、ある種のテクノロジーの利用と情報の利用とは不可欠だと私は思います。障がいをお持ちの方のケアを、ご家族だけでやっている、それではご家族の負担があまりにも大き過ぎます。それを地域社会全体でどのようにサポートしていくことが可能なのか。ある種の行政サービスがあるにも関わらず、それが全く利用されていない、一体何故なんだろうか、このサービスの仕組みのどこに問題があるのだろうかと行政関係の方は頭を抱えたりするわけですが、それは実は、**そもそもその**

ことを誰も知らない、という極めて単純な問題に落ち着いたりする場合があります。このギャップを埋めるために、例えばインターネットというテクノロジーを通じて、情報を的確に発信する。今日日発信される情報源は実はスマホだったりするわけで(特に今の若い方は、検索はGoogleではなくTwitterを利用されるそうですね。確かに旬かつ過度なマーケティングに毒されていない情報という意味では、それはそうだ)、ここら辺のシンプルなギャップにサービスの発信者・受信者共に目を向けてそれを双方向からクリアしていくだけでも、かなりの効果を上げられるのではないかな、と私は思います。

フィジカルな制約のためにギターを弾きたいけれども出来ない、だけれども音楽をやりたい、だったらPCを使えば良いわけです。その意味で我々のやっていることは、分野こそ違え、実は同じことなのではないか、という気がしますね。

稲川淳二さんのご講演ももちろん素晴らしかったですし、控え室で記念撮影もさせて頂いたりもしましたけれども(笑)、私としては医学部長であります河合先生や、脳神経医科学講座教授であります前垣先生と個人的にお話をさせて頂いたことが、より印象的でしたね。その中でも先に申し

上げたことを、また違った形でお話させて頂くことが出来ました。なかなかそういう方々と意見交換する機会はありませんからねー。私在学习中に神大経済学部長なんてお会いしたことないです(笑)。また医学部総務課の皆様。名刺交換の時に、「ブログ拝見しています」と言われた時にはドキリとしましたが。分野が真逆の怪しげな東洋医学者でどうもすみませんみたいな(笑)。そういう意味では、充実した一日でした。演奏も上手くいったと思います。井谷君前日は演劇公演ということで、ホントお疲れ様です。ていうか、そのような方々の前で完全インプロヴィゼーションって、ある意味我々チャレンジャーだなと思ったりもしますが(笑)。

というわけで、稲川さん、河合先生、前垣先生、県福祉保険部子育て王国推進局長井上先生、医学部総務課学事係長小林先生、西谷先生、NHK米子支局藤田様、皆様どうも有難うございました。今後とも宜しくお願い申し上げます。

2月27日のDJ Yuta & Yuichiライブ、無事に終わりました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

2月27日に倉吉未来中心リハーサル室で行いましたDJ Yuta & Yuichiのソロ・ライブ、無事に終了致しました。

何というか・・・、八割方上手くいったのではないのでしょうか。目論見通りだったというか。お出で頂いた皆様には概ね好評だったようで、とても嬉しいです。未来中心のスタッフさんのお話ですと、こういった形でのリハーサル室の利用自体も初めてだったようで、その意味でもパイオニアになれたかな、という感じですね。イメージとしてあったのは、かの大阪万博のKarlheinz Stockhausenプロデュースの西ドイツ・パビリオンだったのですが。

実は私自身の目標はライブの中での演奏自体ではなく別のところにあったのですが、それも八割方達成出来たかな、という感じですね。言うまでもなく気功法に関することですが。こちら辺ご興味ある方は、実際にお会いした時にお話致します。

そうこうしている間に、週末は鳥大医学部ライブです。結構忙しいです。でも光栄なことですけどもね。音楽家として。

というわけで、当日お出で頂いた皆様、そしてスタッフの皆様、どうも有難うございました。今後とも宜しく願い申し上げます。

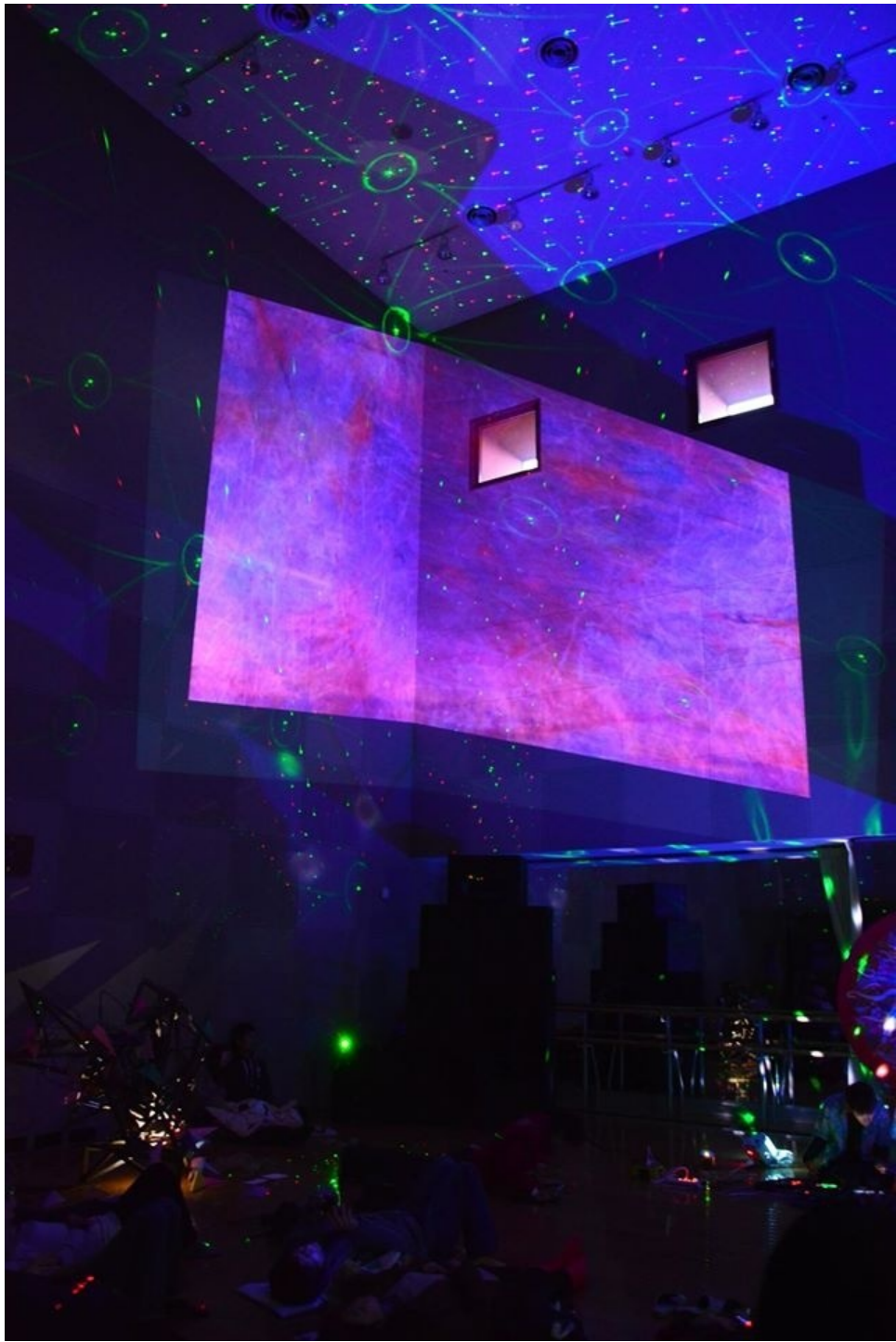
<追記>

関係者の方によると会場には、**生身じゃない方も二人ほどおられたようです**。入場料頂戴すべきでしたね(笑)。

～ photos by courtesy of Akiko Hamagami (photographer) ～











JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

私が都内でコンテンポラリーダンスのための音楽を作っていたある日、ダンサーの女の子が打ち合わせのためにうちへやってくるようになりました。

その彼女はうちへ入るなり、こう言いました。「私も東京に長いこと住んでますけれども、**都内でこんな生活してる人がいるとは想像もしてませんでした～**」。

その時は、そうかなあ、そんなにおかしいかなあと軽く思った程度だったのですが、確かに部屋の中にあるのは**シンセサイザーとCDと野菜だけ**というのは、いわゆる普通の方にとっては衝撃的だったかも知れませんね。

今日たまたまネットを見ていて下のような記事を目にしたものですから、僕も実は(そしてこの「ミニマリスト」という言葉が生まれるずっと以前から！)そうだったかも知れないな、と思って先のエピソードをご紹介した次第。

脱帽！ミニマリストの生活はこんなに合理的

本文にもありますけれども、この楽しさと充実感は、やっていない方には想像出来ないことかも知れませんね。例えば食事。僕はここ20年近く、朝ご飯は食べません。昼も米と味噌汁と漬物だけです。さすがに結婚してからはそうではありませんが、以前は夕食もこの三種類だけでした。

。永平寺の坊さんの方が間違いなくいいモン喰ってるみたいな(笑)。別にそれは東洋医学やってるからとかマクロビの影響を受けたからとかではなく、その方が断然**体が軽い**からです。内臓の動きもパーフェクト。そのためかこの20年は、全く病気にかかったことはありません(風邪だけですな)。

そういう意味ではこのミニマリストという概念は、往年のタオイストとかなりリンクするところがあるのではないかと、思いますね。

面白いなと思ったのは、「マルチルーム」という発想です。その意味では僕も似たようなことをやっていて、それは言わば「マルチUSB」とか「マルチHDD」、あるいは「マルチPC」ですね。

。とにかく記憶媒体は空っぽにしておく。データがたまってきたらBDREに移す。とにかく重要なのは、スカスカであること。その方が使い勝手があります。

要するに情報というのは、あれば良いってもんじゃないということだと思います。情報があればあるほどその処理が出来なくなりますからね。逆に情報を極限まで減らせば、その情報をどう処理すれば良いかが、文字通り「見えて」くる。情報に振り回されるのではなく、その情報を「自分は」どう使えば良いかが判ってくる。自分を見失っている状態というのは、情報に翻弄されている状態のことです。それに気付かなければいくら薬飲んだって無駄ですね。やはり人間は人間ですから、その原理って古今東西あまり変わっていないんじゃないか、と思います。

というわけで今日もまた、僕はミニマリスト的生活を楽しんでいます。BGMはSteve Reich。当然でしょみたいな(笑)。

3月5日土曜日、鳥大医学部主催の市民公開講座「誰もが住みやすい地域社会を目指して」にて演奏致します。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

来る3月5日土曜日、鳥取大学医学部より委嘱を受けまして、文部科学省課題解決型高度医療人材育成プログラムの中の市民公開講座「誰もが住みやすい地域社会を目指して」にて、DJ Yuta & Yuichiで演奏致します。

詳細は以下のリンク先をご覧くださいとして、我々としては一番興味があるのは、かの[稲川淳二さん](#)とご一緒出来ることですね。何でもお子様が重度の障がいをお持ちだそうで、障がい者福祉に関する多彩なご活動をされていらっしゃるということです。そのような著名な方とご一緒出来るというのは、非常に光栄なことだと思います。

もっとも言うまでも無く、稲川さんと言えば怪談も有名ですね。チャンスがあったら控え室で、その手のお話が出来たらいいね、と井谷君と話しているところです。何せ[我々行く先々で、その手の事件にはしょっちゅう巻き込まれています](#)からね。しかも[うちの嫁さんその分野では世界最強のインドネシア生まれみたいな](#)。そこら辺言い出すと立ち話だけでは済まなさそうなのでそこまでは期待は致しませんけれども(笑)、でも何だか不思議なご縁ではありますね。

このような機会を与えて頂きました鳥取大学医学部様には、心より感謝致します。

参加料は無料ですが、会場の関係で事前申し込みが必要だそうです。締め切りは2月29日までですので、ご希望の方はお早めにお問い合わせ致します。



文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム
重症児の在宅支援を担う医師等養成事業

市民公開講座

誰もが住みやすい 地域社会を目指して

特別講演
1

「重症児の在宅支援について～鳥取県の取り組み～」

講師／鳥取県福祉保健部子育て王国推進局長 井上 靖朗

特別
演奏

第12回ゴールドコンサート受賞曲 「Night sky sugar」ほか

演奏／DJ Yuta & Yuichi

特別講演
2

「大切に思うもの」 講師／稲川 淳二



稲川 淳二
Junji Inoue

2016

3/5 (sat.)

開催時間 13:00～16:00

会場／米子全日空ホテル

受付／12:30～ 申込締切／2月29日(月)

参加無料

高校生・大学生や
一般の方など、
どなたでも参加
できます。

access map



※申込方法／裏面の申込書にご記入のうえFAXにてお申し込みください。

※当日参加も可能ですが、会場準備の都合上、事前の申し込みにご協力お願い致します。



鳥取大学医学部総務課学事係

〒683-8503 米子市西町 86 番地

TEL: 0859-38-7035 / FAX: 0859-38-7029

E-mail: me-gakuji@ml.adm.tottori-u.ac.jp

HP: <http://www.med.tottori-u.ac.jp/jushoji/>



市民公開講座「誰もが住みやすい地域社会を目指して」

schedule

13:00

● 開会のあいさつ 河合 康明 (鳥取大学 医学部長)

● 事業概要説明 前垣 義弘 (鳥取大学医学部医学科 脳神経医科学講座 脳神経小児科学分野 教授)

13:15

特別講演
1



「重症児の在宅支援について～鳥取県の取り組み～」

講 師／鳥取県福祉保健部子育て王国推進局長 井上 靖朗

障がいがある子どもの在宅生活の支援のためには、子どもの成長に応じた支援、福祉、医療、教育等の様々な職種との連携、家族・きょうだいへの支援など、幅広い観点が必要です。現在の県内の取組状況をご紹介します。

13:55

特別
演奏



第12回ゴールドコンサート受賞曲 「Night sky sugar」ほか

演 奏／DJ Yuta & Yuichi

脂性マヒという身体障がいを持ちながら、鳥取県で活動するエレクトロニカ系のテクノユニット。2014年の結成以降、県主催のまじサポート・アートとっとりフェスタ2014・2015に出演、2015年横浜で開催された在アルメニア日本大使館設立記念交流展覧会に参加するなど精力的に活動中。同年10月に東京で開催された、障がいをもちミュージシャンの音楽コンテスト「第12回ゴールドコンサート」でグランプリを獲得。

休 憩

14:25

特別講演
2



「大切に思うもの」

講 師／稲川 淳二

タレント・工業デザイナーとして幅広く活躍。次男が重度の障がいを持っていることから、障がい者福祉やバリアフリーに関する講演も精力的に行い、人権・福祉の問題や共生社会実現など、体験を交えて熱く語る。また、独特の口調で語る漫談家としても知られ、全国各地で漫談ライブも行っている。

15:55

● おわりに

キリトリ

市民公開講座「誰もが住みやすい地域社会を目指して」 参加申込書

氏 名	ふりがな	連絡先	TEL
			メール アドレス
	☐ 申椅子席希望	勤務先 所 属	

※ご提供いただいた個人情報は本事業以外には利用いたしません。 ※参加申込書に必要事項をご記入のうえ、**FAX**でお申し込みください。

【送信先】鳥取大学医学部総務課学事係 FAX:0859-38-7029

2月14日DJ Yuta & Yuichiで、"**Mecha**しばナイト倶楽部**2016**"に出演致します。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

来る2月14日にDJ Yuta & Yuichiで、県立倉吉未来中心より委嘱を受けまして、"**Mecha**しば
ナイト倶楽部2016"に出演致します。

この日はいわゆるバレンタインデーですね。私のようなイヤミっらしい人間
がそのようなイベントに似つかわしいのかどうなのかという根源的な
問題はさておき、受けた話は取り敢えず受けるみたいな。

ラインアップを見てみると、過去に私と何かしら関係があった方々の名前をちらほら拝見致しま
すね。良い悪いは別として。何せ狭い街ですからね～。一悶着は起こらないでしょうけ
れども、微妙な緊張感が漂ったりして(笑)。

皆さんライトなポップロックですとかJ-POPとかをなさるみたいですので、あまりジャンルが違い
過ぎてもアレですので、**Berlin系のコアなTech Houseでもやって**会場を我々
の時だけ違う意味でのクラブ化しようかな、と画策しているところであります。

因みに最後のセッションセクションでは、私もソロでJ-POPのバックিংをします。**コード進
行なんて数十年振りだなあ**って感じです。これまたあまり浮いてしまってもアレで
すので、参考に**King CrimsonのAdrian Belew**を聴き返しているところ
です。一応歌ものも出来るんです。はい。学生時代はThe Beatlesの弾き語りとかしてました
からね。そこからMahavishnuとかに行って道を踏み外したって感じで。すげえ、Am一発だみた
いな。**当日そこにテンションノート入れまくってフリージャズ化し
てたら笑ってやって下さい**(笑)。

チケットは窓口でもお求めになれますし、私も持っていますので、宜しければお問い合わせ下
さい。それでは宜しくお願い致します。

Mecha しぶナイト 倶楽部

2016

Valentine Night

M. T. P
スーパー・ランチ・BOX
ライトミュージックプレイ
DJ Yuta & Yuichi
Jukebox

バレンタインチョコレート
プレゼント♪

2016.2.14 SUN

Open16:00 Start16:30 close20:00

会場 倉吉未来中心小ホール (ライブハウススタイル)

チケット 【全席自由 / 1ドリンク付】

前売り 一般 **¥1000** (当日¥1300)
中学生以下 ¥500 (当日アップなし)

2016.1.9(土) チケット発売スタート!

飲酒運転絶対禁止!
未成年者・お車でお越しの方の
飲酒は固くお断りします。



プレイガイド 倉吉未来中心 三朝町総合文化ホール
ハワイアロハホール カウベルホール
パープルタウン トミヤ楽器店 はとや楽器



【主催】倉吉未来中心 【協力】倉吉アマチュアバンドネットワーク
【お問合せ】倉吉未来中心 TEL(0858-23-5391) E-mail:mirai@miraichushin.jp

此処は小さな町のとあるライブハウス…
今宵は甘く切ないバレンタイン・ナイト。
音楽に魅せられた大人達が集まり、
大人による、大人のための極上のステージが幕を開ける…

Mechaしぶナイト倶楽部

Valentine Night 2016

今年で11回目を迎える「Mechaしぶナイト倶楽部」。それまで数件あった市内のライブハウスも減ってしまい、「アマチュアバンドの演奏する場所を倉吉未来中心につくってしまおう」という思いをきっかけに、アルコールやフードも提供し、「大人の夜の楽しみ場所」としてこのイベントはスタートしました。倉吉未来中心の恒例イベントとして、大変ご好評をいただいています。

地元アマチュアミュージシャンたちが奏でるエキサイティングでムーディなステージを、こゆっくりお楽しみください。

2016出演バンド自己紹介

①M. T. P



7人編成のバンドでメンバーそれぞれ色々なグループで活動していましたが、4年前、縁あって7ユニットを組みました。主にサンタナ(ラテンロック)クラブトン(ブルース)の曲を演奏していますが、今回はサンタナをやります。「Mechaしぶナイト」は初出場ですが頑張ります!!

④DJ Yuta & Yuichi



県中部で活動するテクノユニット。2014年の結成以降、各種音楽祭に精力的に出演。昨年東京での「第12回ゴールドコンサート」に県代表で参加し最優秀賞を獲得!

②スーパー・ランチ・BOX



ヴォーカル、トロンボーン、カホン、ギター4人編成。洋楽邦楽の名曲をS・ランチ流にアレンジして、心地よいアコースティックサウンドで聴かせます。

⑤Jukebox



50~60年代の「アメリカン・ポップス」をこよなく愛する「ハーボン河合」率いるオールディーズ・バンド「Jukebox」と、一緒に歌って踊って楽しい夜を過ごしましょう。

③ライトミュージックプレイ



鳥取県中部で活動中のアニソンバンド「ライトミュージックプレイ」です。老若男女誰でも楽しめる、聞いたことのある曲をお届けいたします。

倉吉未来中心地域活性化事業

倉吉未来中心では、「人と人との交流」「地域の活性化」をコンセプトに、地元アーティストの出演や親子で楽しめるコンサートなど、乳幼児から大人まで誰でも気軽に参加し、観て触れることのできるイベントを開催しています。
「Mechaしぶナイト倶楽部」「みらい音楽堂」「ハッピーズマイルコンサート」など、ぜひお楽しみください。

倉吉アマチュアバンドネットワーク

県中部で活動しているアマチュアバンドのメンバー、またその活動に携わる者で構成しています。2011年4月に設立、「音楽を通じて、地域文化の振興・活性化を図る」ことを目標に活動している団体です。
Mechaしぶナイト倶楽部には企画・運営の協力、さらに出演者として参加させていただきます。



2月27日倉吉未来中心で、DJ Yuta & Yuichiのソロ・コンサートを行います。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

2月27日土曜日、倉吉未来中心において、DJ Yuta & Yuichiのソロ・コンサートを行います。

場所は、**リハーサル室**です。舞台配置に関しては、県内でご活躍のアーティストさん達のご助力を頂きました。まずは画家**へも**さんによります絵画とオブジェ。そして音響は、この辺りで自作のレゲエ・サウンドシステムを構築する**Jungle HiFi Soundsystem**さん。彼らの製作した巨大スピーカーを会場の四隅に配置してその間の空間をへもさんの絵画とオブジェで埋め尽くし、そこに我々が準備したライティングシステムとコンピュータ・グラフィックスをプロジェクション・マッピングのように照射します。イメージとしては、会場全体を一種のインスタレーションにするような感じですね。そこに照らされる光と影をご覧頂きながら、我々の製作した音楽を楽しんで頂くといった演出を考えております。

同日は会場内で、これまた県内でショップを運営されていらっしゃるクラフターの皆様に、それぞれのグッズも販売して頂きます。ご参加頂けるのは、**ペットのおみやげ かなだや**、さん、手作りアクセサリーの**SWEET DROPS☆**さん、そして**Sari**さんです。**開場が午後3時で開演が午後5時**と少々長めに設定してあるのは、そのためです。そこでご来場の皆様に彼らの作品でお買い物をお楽しみ頂けたらと思います。チラシ及びチケットのデザインは、**935ch**さんをお願いしました。

というわけで今回のライブは、私が個人的に、「この人は」と思う方々に直接声を掛けさせて頂き、ご参加を頂きました。東京では何回かピエンナーレ等の総合アートプロジェクトに参加させて頂いておりましたが、その倉吉版と考えて頂ければ嬉しいかな、と思います。また今回のライブは、**鳥取県の助成事業**でもあります。鳥取県庁の皆様、いつもご支援賜りまして、真に有難うございます。

会場全体をインスタレーション化するという事で、**ご来場の際はクッションか座布団か何かをお持ち下さい**。それを敷いて頂いてその上に寝転がって頂き、音と光のコラボレーションをお楽しみ頂ければと思います。頭にあるのは、90年代UKのチルアウト・ルームです。

前売り券は、1,000円、当日券は、1,500円です。なお当日は会場のキャパシティの関係で、**30人様限定**にさせて頂きたいと思います。昨日から告知をスタートさせて頂いておりますが、昨日までに既に10席は予約が入っておりますので、残りは20席です。当日券までは確保出来ない可能性がございますので、お早めにお求め頂けると嬉しく思います。

それでは、当日お目に掛かれますことを楽しみにさせて頂いております。

2016
2.27 **土**

未来中心リハーサル室

OPEN 15:00 / **START** 17:00

DJ Yuta & Yuichi Live
at Kurayoshi Mirai Chushin
on February 27th 2016

TICKET 前売り **1,000 円** (当日 1,500 円)

チケットは、スペースの関係で 30 枚限定です！
座席は特に設けてはいません。各自クッション
などをご持参していただき、座ったり、寝転がっ
たりして、音と光をお楽しみください。

出 展 者

ペットのおみやげ かんだや、
SWEET*DROPS☆
hemo is shit !!
JUNGLE Hi-Fi (soundsystem)
Sari

お問合せ DJ Yuta & Yuichi ☎ **090-2001-5453** (Studio Bardo 中原)

2016
2.27 土

未来中心リハーサル室
OPEN 15:00 / START 17:00

DJ Yuta & Yuichi Live
at Kurayoshi Mirai Chushin
on February 27th 2016

出
展
者

ペットのおみやげ かんだや、
SWEET * DROPS ☆
hemo is shit !!
JUNGLE Hi-Fi (soundsystem)
Sari



前売り **1,000 円**
(当日 **1,500 円**)

座席は特に設けてはいません。
各自クッションなどをご持参してい
ただき、座ったり、寝転がったりし
て、音と光をお楽しみください。

お問合せ▶ DJ Yuta & Yuichi ☎ 090-2001-5453 (Studio Bardo 中原)

友人の**PC**を、復旧させました(その備忘録)。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昨年末、ユニットのパートナーの井谷君より、緊急の連絡を受けました。いわく、**PCがおかしい**と。電源は入るのだけでも、Windowsが立ち上がらないので、診てもらえないか、とのことでした。

早速彼の自宅へ行ってみると、案の定あわてていました。何せこのPC、いまや商売道具ですからね。**重要な楽曲のデータもまんま取り残された状態**です。アワ喰うのは必定。

彼のOSはWindows10にアップデートされているのですが、その起動画面から先に全然進まない。数時間もこんな感じだと。何か思い当たる理由はないか訊いてみると、その前日新しいプリンタを買ったので、そのドライバをインストールして再起動したらこうなったということです。なるほど、**昨今悪名高いWindows10**。素人さんに無理やりアップデートを強要した挙句、ドライバが一切使えなくなって困っているとか口クな噂を聞きませんな(

【緊急】Windowsアップデートがヤバイ！強制的にWindows10が降ってくる！？ - NAVER まとめ)。そこら辺も考えて用心深い僕はまだ7のままです。もしかしたら10とそのプリンタのドライバとかが不具合を起こしているかも知れないな、と思いました。

OSが起動する以前のBIOS画面で見ると、リカバリ領域にはアクセス可能ですから、まだHDDは完全に逝ったわけではない。ただしこのままリカバリすると、当然全部のデータは消えます。ご丁寧に彼の場合、全部のデータはデスクトップ上にあるらしい(笑)。僕はデータストレージはデスクトップを含めて別のドライブにしています。その方がシステムが不安定になった時にシステムだけ入れ替えれば済みますからね。こういうのもちょっとしたTipsなのですが(それまでに多くの辛酸舐めましたが(笑))、彼はそういうのは知らなかったらしい。

そこで、まずは物理的にPCの蓋を開いてHDDを取り出して、別のPCにつないで様子を見ることにしました。この時点で**HDDが逝く寸前ですよ**、という表示が出ていたのでヤバイのは既にヤバイのですが、まあそれは後で処理することにします。何とか読み書きはまだ可能っぽいので、じゃあここからこの別のPC経由で別のHDDに吸い出せないかな、と思ったのですが、残念ながらWindowsのセキュリティの問題からか中身を見ることが出来ない。さてどうしようか。

ここで登場するのが、**Linux**。Linuxですと、CDドライブからブート出来ますし、Windowsからは見られないデータも見ることが出来ます。今回使ったのは、**PuppyLinux**という奴です。名前もデスクトップも可愛いですが、実はかなり強力です。これで見ると、中身のデータはバッチリ残っていました。それを彼の確認の元、手作業で外付けの別ドライブへ引越しさせていきました。

一通り作業が終わると、後はHDDリカバリですね。これはBIOSからスイッチポンです。取り敢えず後はやってみますと言うので、僕は家へ帰ることにしました。僕がやると、あ、もう一つ大事なデータ残ってたの忘れてました！え、でもリカバリしちゃったぞ！みたいなイタイ状況になると困りますので(笑)。

後で電話が来て、**無事にOSが立ち上がり、見事復旧**と相成ったようです。

というわけで、このブログをお読みの方に、PCが突然おかしくなった時のための対処法をば。

(1)データは全て別ドライブへ入れて、まめにバックアップを取るようにしましょう。僕はデスクトップも全部別ドライブにしています。プロパティから場所を移動させることで、簡単に設定出来ます。

(2)Windowsが立ち上がらなかつたら、慌てず騒がずLinux。これホント便利です。これで重要なデータは救済して、一気にリカバリしましょう(あ、でも井谷君、リカバリディスクは手元に置いておきましょうね(笑))。

これでも直らなかつたら、やわらぎ気功クリニックへお持ち下さい。破格のお値段で復旧させます(笑)。

明けましておめでとうございます。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

明けましておめでとうございます。

去年は皆様におかれましては、どのような一年だったでしょうか。私にとっては、動きのありまくりの一年でした。

取り敢えず今年は去年をベースに、もっと動く所存であります。ミッションとしては、そうですね、気功の応用範囲をもっと拡げることでしょうか。具体的には申し上げるまでもなく、アート関係ですけれども。

要するに、昨年以上にどんどんと面白いことにチャレンジしていこうかな、かように考えている次第であります。

今年が皆様にとって、良い一年でありますよう。今年も宜しくお願い申し上げます。

中原勇一 拝

Chrome Web Storeを開くと突然画面がブラックアウトする件に関しまして。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

僕はPCをUbuntu系Linux(具体的にはZorinOSですが)とWindowsとのデュアルブートにして、ブラウザはChrome系(Chromium、Comodo Dragon、SRWare Iron)を愛用しているのですが、最近いずれかのアップデートの影響からか、**Chrome Web Storeを開くと突然画面がブラックアウトする**という現象に悩まされておりました。

色々とネットを調べますと、似たような現象にお悩みの方がやはりいらっしゃるらしいということが判ったのですが、その原因に対する推測も対策もかなりバラバラなようでした。試行錯誤の末、ようやくこれだろうという原因プラス解決策が判明致しましたので、備忘録を兼ねてご紹介したいと思います。

どうやら、**Chrome系ブラウザ・Chrome Web Store・Ubuntu系Linux、そして特定のPCが組み合わさると起こる現象**のようです(私のPCは、東芝のDynabook Satellite J72です)。どうもそのPCのチップセットとの不具合のようですね。以下のようにすると収まりました。

(1)Chrome系ブラウザを立ち上げてChrome Web Storeを開きます。その時ブラックアウトしなければ、そのPCは問題ありません。

(2)ブラックアウトした場合は、無理に電源ボタンを押して強制終了するのはあまりHDDによろしくありません。**AltキーとPrintScreenキーを押しながら「R」「S」「E」「I」「U」「B」とタイプすると、安全にシャットダウンしてくれます**(これも使えるやり方ですね)。

(3)再度ブラウザを立ち上げ(復元オプションを使うとまたChrome Web Storeにつながってブラックアウトしますのでご注意下さい)、設定から詳細設定へ入り、ほぼ一番下、**「ハードウェアアクセラレーションが使用可能の場合は使用する」**のチェック

を外します。これでブラックアウトしなくなります。

というわけで、参考にして頂けると嬉しく思います。読者の皆様の中でLinuxユーザーがどれだけいらっしゃるか微妙ですけども。僕的にはお勧めですよ。Windowsより全然静かですし。中古のPC買ってきてLinux仕込みまくって悦に入るのが隠れた趣味だったりする(笑)。

DJ Yuta & Yuichi Live at Tokyo International Forum on October 12th 2015 (HD)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ゴールドコンサート事務局さんより、10月12日の第12回ゴールドコンサートでのDJ Yuta & Yuichiのライブの映像を送って頂きました。皆様、その節は色々と有難うございました。m(_ _)m

何というか・・・、やはり凄く綺麗に撮れていますね。 **ギターの壊れてる部分とかまともに映ってますね。**よくこいつこんなギターで人前に立ったな、と我ながら思いますけれども。まあ結果オーライということで。井谷君もカッコいいですね(笑)。

DJ Yuta & Yuichiアートとっとり展ライブ、無事終了致しました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

鳥取県から委嘱を受けましたDJ Yuta & Yuichiあいサポート・アートとっとり展での演奏、無事終了致しました。

東京ではよくありましたけれども、鳥取県では美術館で演奏したのは、今回が初めてですね。やはりライブハウスとかよりは、僕はこっちの方が断然好きですね。落ち着いて音楽が出来ます。雰囲気もとても良かったですしね。

表彰式での客演演奏でしたので2曲しか演奏は出来ませんでした、良い感じで演奏が出来たかな、と思います。

その後は、近くにあるCoco Teaに移動して、県庁の皆様を交えて打ち上げを行いました。オーナーさんはいきなり15人以上のオーダーを一人で処理しなければならなかったのが大変だったと思います。お騒がせ致しました。話の内容もとても面白かったです。何というか、**県庁の職員さんと大友良英の話で盛り上げられるって、ある意味凄くないですか？**この辺りのアマチュアの音楽家の集まりでも、そんなこと絶対無いですよ。いやはや、鳥取県のアートに対する熱意って、実はタダモノじゃないです。我々もそれに便乗しようと画策中であります。かなり面白いことが出来るんじゃないかなと、期待しています。

このあいサポート・アートとっとり展本展は、米子市美術館で17日まで開催されますが、その後1月15日～21日はくらしアートミュージアム「無心」にて、29日～2月4日まではとりぎん文化会館展示室にて、順次開催されます。皆様是非足をお運び下さい。



サポート・アートとっとり展



DJ Yuta & Yuichi Live at Yonago Museum on December 13th 2015

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

明後日13日午後1時より、鳥取県さんの委嘱を受けまして、米子市美術館でミニライブを行います。

12月6日より2月4日まで、鳥取県障がい者芸術・文化作品展である[あいサポート・アートとっとり展](#)が開催されるのですが、その表彰式の中での演奏です。

時間は15分程度ですので、正味2曲くらいだと思うのですが、何せゲストということですので、張り切っていきたいと思います。

金澤翔子さんも出展されるんですね。面識はないのですが、宇城塾の『道』によくインタビュー載ってますね。

またその直後2時より、前回イベントをやりました[Coco Teaさん](#)にて、県の関係者さんをお交えて、打ち上げをやりたいと思います。参加者は数人でいいやと思っていたらその想定の三倍以上になりそうな勢いなので、アワ喰って調整中ですが(笑)。現地での飛び入りもあります。

というわけで、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

あいサポートアートととり展

この作品展は、障がいのある人たちが対象に募集した美術作品を一堂に展示するアートの展覧会です。アートは人間として生まれ持った可能性を開花させてくれると同時に、人間が本来持っている自由な感性を呼び覚ましてくれる力を持っています。出展者それぞれの感性が“きらきら”と輝く作品の数々をぜひご覧ください。



観覧無料

本展 平成27年 12月6日(日)～12月17日(木)

会場/米子市美術館(米子市中町12)

時間/10:00～18:00(注日はオープニングセレモニー(11:00～11:30)後に開場) ※全作品を展示します。

■オープニングセレモニー

日時/平成27年12月6日(日) 11:00～11:30

会場/米子市美術館 ロビー

※米子西高校と米子西高等学校の音楽部による

音楽パフォーマンス

※金澤翔子さんのメッセージ紹介

■表彰式

日時/平成27年12月13日(日) 13:00～13:30

会場/米子市美術館 ロビー

※美術部門、文芸部門、マンガ部門の受賞者を表彰

※障がいのあるミュージシャンの演奏会をコンテスト

「第12回ゴールドコンサート」でグランプリを受賞した

OJ Yuta & Yulchikによるミニライブ



中部巡回展 平成28年 1月15日(金)～1月21日(木)

会場/くらしアートミュージアム「無心」(倉吉市倉町2540-2)

時間/10:00～16:00 ※受賞作品及び中部地区出品者の作品を展示します。

東部巡回展 平成28年 1月29日(金)～2月4日(木)

会場/とりぎん文化会館 展示室(鳥取市尚徳町101-5)

時間/9:00～17:00 ※受賞作品及び東部地区出品者の作品を展示します。

[主催] 鳥取県(障がい福祉課)

[お問い合わせ先] 平成27年度鳥取県障がい者芸術・文化作品展「あいサポート・アートととり展」運営事務局

●株式会社ウェブプラン・プロモーション内 〒680-0004 鳥取市北園2丁目200

TEL 0857-25-3091 FAX 0857-25-3092 E-mail: kazu@webplan.co.jp

●日本通運株式会社鳥取支店内 〒680-0942 鳥取市湖山町東5丁目216番地

TEL 0857-28-4164 FAX 0857-28-0246 E-mail: yue-sasaki@nittsu.co.jp

同時開催

金澤翔子
特別巡回展

金澤翔子さんの作品を
3会場で展示!



Claraさんとの
コラボ作品展示

障がい者とアーティストが
共同でアート作品を制作!
完成した作品を展示します。



詳細はWebをチェック!!

あいサポート・アートととり展

<http://aisupportten.jp/>

検索

12月6日(日)、くらし国際交流フェスティバルが開催されます。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

次の日曜日の12月6日、恒例のくらし国際交流フェスティバルが、倉吉市内にあります「伯耆しあわせの郷」で行われます。

毎年楽しみにされているコアなファンの方がいらっしゃるようで、とても有難いことです。メインは言うまでもなく、フードコートです。フランス・台湾・韓国・フィリピン・インドなど、この時だけ無国籍屋台村が出現します。まともに歩けないほど人がごった返すというのは、毎年のこととは言えこの辺では珍しい現象ではないでしょうか(笑)。フェスティバル自体は10時からスタートですが、フードコートは11時からです。でも大抵一時間以内にソールドアウトになりますので、ご注意ください。

私は副実行委員長兼PA兼DJとして、パフォーマンス部門を担当致します。無国籍なパフォーマンスの合間には、無国籍な音楽をプレイしようと思っています。最近Bollywoodが世界中で流行っているみたいですから、それをメインにしようかなと思います。嫁もインドネシアブースで参加します。バンドンっ子御用達マカロニゴレンというお菓子や、この時だけしか国内では絶対に手に入らない多種多様なスパイスを販売する予定です。

というわけで、くらし国際交流フェスティバル2015、皆様のお越しを心よりお待ちしております！



くらし国際交流 フェスティバル2015

2015.12月6日(日) 10:00~15:00

会場★ 伯耆しあわせの郷

(倉吉市小田485 Tel.0858-26-5581)

入場無料

地球はひとつ みんなでつなぐ笑顔のWα

主催★くらし国際交流フェスティバル2015実行委員会、公益財団法人鳥取県国際交流財団

共催★鳥取短期大学

後援★鳥取県、倉吉市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町、倉吉市教育委員会、三朝町教育委員会、
湯梨浜町教育委員会、琴浦町教育委員会、北栄町教育委員会

KURAYOSHI Intercultural Exchange Festival

倉吉駅から伯耆しあわせの郷まで
シャトルバスを運行いたします

無料

倉吉駅北口発

伯耆しあわせの郷発

9:50、10:50、11:50、12:50

12:30、13:30、14:30、15:00



お問い合わせ

0858-23-5931 (公益財団法人 鳥取県国際交流財団)

くらし国際交流フェスティバル2015

ステージイベント

順不同

※詳細は当日プログラムをご覧ください

ステキ★

- みつばし踊り、傘踊り 鳥取短期大学
- 太道 日本太道連盟奥旨塾 鳥取支部
- 太極拳 中華武術 華華倶楽部
- 謡曲 倉吉喜多会
- 韓国伝統芸能 韓国伝統芸能ブームノリ

- 世界の民族音楽遊び 山陰日本アイルランド協会
- ベリーダンス ラクス・リサー・ベリーダンススクール
- ギター演奏 倉吉ギターアンサンブル
・日本民謡メドレー (ソーラン節・おてもやん)
・コーヒールンバ

世界を見よう!

活動紹介



ナルホド!

- 訪中旅行等の写真の展示 鳥取県中部日中友好協会
- 韓国羅州市との交流展示 倉吉韓食倶楽部
- 高校生の交換留学の紹介等 公益財団法人 AFS日本協会 鳥取県支部
- 放送大学鳥取学習センターの紹介 (国際交流活動の案内パネルや資料の展示) 放送大学鳥取学習センター

- パネル展示による活動紹介 Toriフレンドnetwork日本語学習会
- アフガニスタンにランドセルを送るプロジェクトの紹介等 ガールスカウト鳥取県連盟第4団
- アイルランド風景のパネル展示 山陰日本アイルランド協会
- 支援ギフト展示、水がめ体験等 鳥取県ユニセフ協会
- 国際交流に関わる授業紹介等 鳥取短期大学

世界を知ろう!

食べ物ブース



11時から販売します

※10～11時の間は販売しませんのでご了承ください

- フランス菓子4種、窯焼きピザ 鳥取県日仏友好協会
- ゆりはまアイス、ゆりはま加工品 ゆりはまを愛すプロジェクト (湯梨浜町観光協会)
- 台湾風焼きそば、台湾焼きまんじゅう、台湾ちまき、タピオカミルクティー等 Sun-in台湾人会
- 韓国料理 (キンパブ、チキン、ホットック等) 倉吉韓食倶楽部
- とりたんCafé 鳥取短期大学

- フィリピンのおかゆ、ロシアのお菓子・コンポート、パラグアイのチーズパン・ミートパイ Toriフレンドnetwork
- ホットドッグ 鳥取大学 国際開発研究会そうこ
- チーズフォンデュ 公益財団法人 AFS日本協会 鳥取県支部
- 肉まん、ビーフン等 祥和園
- キャラメルポップコーン ラクス・リサー・ベリーダンススクール
- インドカレー デリー ダラバー

オイシイヨ!

世界を味わおう!

文化体験等



- 世界の民族衣装の試着体験 鳥取県国際交流財団
- 韓紙マグネット作り 鳥取県中部地区日韓親善協会
- パディック等海外の素材を使ったオリジナルグッズの展示・販売 ジャガタ・アート&クラフト

オノノイヨ!

- スタンプラリー (けん玉、カルタ、早口言葉、折り紙)
- Kids English
- 山陰を語ろう 鳥取短期大学
- アフリカグッズ等の展示・販売 ギニアのお店 アラマ
- ハワイの絵本の読み聞かせ 湯梨浜町国際交流協会 (英語・日本語)

※参加団体、内容は変更になる場合があります

世界を体感しよう!

12月1日のBSS『テレポート山陰』で、DJ Yuta & Yuichiが特集されます。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

明後日12月1日午後6時15分からの、BSS山陰放送の『テレポート山陰』にて、DJ Yuta & Yuichiが特集されます。

ここ二週間はその撮影のため、結構忙しかったです。収録されたのは、井谷君邸でのミーティング&セッションの様子、私が自宅で彼のトラックをAbleton Liveで編集しているところ、市内の某レストランでのインタビュー、そして何故か**川沿いを我々が歩いている様子**などです。

因みに下に貼り付けたのは、倉吉未来中心和室(笑)でのレコーディングの様様です。ライブが理想的な音環境で収録出来たタメシが無いのでこりゃ自分でやるしかないかと思ひまして。この様子も収録されました。使われているかどうかは判りませんが。でも今回で良く判ったことがあります。**カチンコってすごく大事なんですよ**ね。それが無かったので、音と映像を合わせるのに非常に手間取りました。結局映像に入っている音の波形とハードディスクレコーディングした波形を突き合わせて、何とかシンクロ成功。

というわけで、BSSのディレクターの阿部さん、遠路遥々何度も何度もお世話になりました。でもとても面白かったです。気功のお話も出来て良かったです(笑)。本当に有難うございました。今後とも宜しくお願い致します。

m(_ _)m

どんな内容になっているか、とても楽しみです。というわけで、ご高覧賜れば幸いです。

D.I Yuta & Yuichi Improvisation Take 1 on November 17th 2015 at Mirai Chushin Kurayoshi, Tottori, Japan

D.I Yuta & Yuichi Improvisation Take 2 on November 17th 2015 at Mirai Chushin Kurayoshi, Tottori, Japan

D.I Yuta & Yuichi Improvisation Take 3 on November 17th 2015 at Mirai Chushin Kurayoshi, Tottori, Japan

11月4日の、ClubDNAでのライブ映像です。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

パートナーの井谷君が、先週のClubDNAでのライブ映像をYouTubeにアップしてくれているので、リンクを貼っておきます。

演奏自体は、上手くいったかなと考えています。良い感じだったと思います。何と云うか、**ド**
イツな感じで。**Neu!**とか**Harmonia**とか**Cluster**とか、あの辺りがお好きな方には
喜んで頂けるのではないかと思います。途中**Heldon**になったりもして。まあヨーロッパをう
ろちょろしましたみたいな感じでしょうか。

ただこういうライブの宿命として音がイマイチなので(カメラの内蔵マイクですからねー)、来週末
来中心をお借りして、音質にこだわったスタジオ・レコーディングを試してみようと思っています
。上手くいったらこれを定期イベント化しようかなとも考えています。この時山陰放送の取材の
予定もあります。それも楽しみです。

本日午後8時半より、**ClubDNA**にてライブです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今週日曜日から始まった11月上旬ツアー、最終日の本日は鳥取にありますClubDNAでのライブです。

非常に有難いお話ですね。こちらは私の知る限り鳥取県唯一のクラブで(注：他にもあったら教えて下さい)、時々石野卓球さんとかも来られてプレイされます。そういうところで演奏させて頂けるというのは、本当に光栄ですね。オーナーの鳥居さん、有難うございます。

今回から導入されたKORG iKaossilator、非常に良い感じですね。何と言っても、リアルタイムでパターンが組み替えられるのは便利。これまでのツアーでの県中部のファミリー層の前でのインプロヴィゼーションはさすがに微妙な反応でしたが(苦笑)、今回はクラブですので、安心してとんがった感じでいけそうですね。私もiPad買おうかなみたいな(笑)。

県庁の皆さんもお出で頂けるようです。一昨日職員さんオンリーの掲示板で宣伝頂けたとか。いつも有難うございます。てか、**県の掲示板にクラブ情報が載るって、ある意味凄くないですか？** 実は鳥取県って、ナニゲに他の自治体よりぶっ飛んでいるのかも(笑)。

イベントそのものはChill Outですので、完全にそれ仕様でいきます。既に私のAbleton Liveには、Mellotron、Arp Solina、Roland VP-330、Arp Odyssey、YAMAHA CS-80、Fender Rhodes辺りのプラグインを入れました。SEはもちろん、Karlheinz StockhausenとPierre Schaeffer。そこにManuel Gottsching趣味バリバリのギターが載る、といった感じです。我々自身の既成曲もやりますけれども、基本はインプロヴィゼーションです。昨日Deep Houseやったら良い感じでしたので、そういうのも入れましょうかね。取り敢えずThe ORB、The KLF、Massive Attack、Underworld、Ritchie Hawtin、The Cosmic Jokers辺りがお好きな方にはかなりご満足頂けるのではないかと、思います。

というわけで周辺のクラバーの皆様、是非遊びに来て下さい！

来週は、怒涛の連続ライブです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

来週は、DJ Yuta & Yuichiで怒涛の連続ライブです。

先ずは11月1日。鳥取県総合芸術文化祭・とりアートでの演奏で、こちらは3時からです。場所は倉吉未来中心アトリウムです。

その次は、11月3日文化の日。以前壮行会ライブを企画して下さいましたパープルタウンさんの「さんさんマルシェ」でのライブです。こちらは2時からです。MMSでもやりましたけれども、場所は同じく正面大駐車場です。万が一雨が降った場合は、屋内の「パータン広場」になるそうです。

そして翌日、11月4日。鳥取市にあります有名クラブDNAさんのチルアウトイベント"Space Cure"に参加します。こちらは我々の出番は、8時からです。この時はさすがにクラブで、しかもチルアウトというお話ですので、それっぽくクラブテイストむき出しでいきます。多分サウンド的にはThe ORBにManuel Gottschingが参加したかのようなコアな感じにしようかな、と考えています。ええ、Spaceですよ、あの感じですよ(笑)。

今回賞金も頂いたので、早速機材を新調しました！先ずは前から欲しかったテレキャスター。PlayTechですけれども、案外良いですよ。あまりギターのこと良く判らない私には、必要十分ですね。あとはノートPC。ともかく3.5kgもあるような恐竜のようなSatelliteを運ぶのはツアーにはキツイので、軽い奴を導入しました。これまた中古のThinkPadですけれどもね。ガンガンにカスタマイズして、完全に楽器として使用したいと思います(笑)。井谷君はiPadとiKaossilatorを導入しました。今回のライブでも大活躍するはずです。

その他にもたくさんオファーを頂いております。有難うございます。俄然忙しくなってきましたね。体調管理だけではなく、スケジュール管理もきちんとなければと思う今日この頃。取り敢えず年末に向けて突っ走ります！

グルメや 雑貨 大集合!

第3回

purpletown
**さんさん
マルシェ**
Sun Sun Marche

11/3

火・祝

10:00-16:00 (荒天中止)
パープルタウン正面駐車場
倉吉市山根 557-1



東北支店 7 ロシエクト
鶏焼きたて
ひょうたん



さつまもスティック
からあげ
チュロス等
ネッセン&ワエ
アランタン



JAPAN CREPE
米粉クレパン
タピオカドリンク



ドーナツセット
ミスタードーナツ
直営ショップ



鳥料理 鶏料理
やきとり
ひょうたん



ハンドメイド雑貨
(小物・バッグ等)
布小物出
はやくま



ハンドメイド雑貨
(小物・バッグ等)
布小物出
はやくま



アクセサリー
筆文字アート等
ソレイユ



クリスマス
Xmas ツリー・アレンジメント等
小泉花房



ハンドメイド小物
(ベビースタイ等)
southpaw cats



ハンドメイド雑貨
(小物・バッグ等)
布小物出
はやくま



ペットおやつ
ペット甲冑レンタル
ペットの服や
かんたや



ハンドマッサージ
オープン化粧品



カイロプラクティック
カイロプラクティック

ステージイベント

13:00 ~ ストリートダンスショー
14:00 ~ DJ Yuta & Yuichi ライブ
※雨天時は屋内バーテン広場にて開催します。

キッズスペース

ふわふわミニドーム
らくがきゾーン
わたがし
ポップコーン
スーパーボールすくい
駐車場にキョーグで
らくがきちゃんやう!

駐車場に
芝生の広場も
出現!

facebook



ポップコーン
ネグスト 30

※イベント、出店店舗、出品内容は変更になる場合がございます。主催：パープルタウン

毎月第1水曜日

EVERY FIRST WEDNESDAY OF THE MONTH.
YOU CAN ENJOY WITH THE CHILLOUT MUSIC AND COZY SPACE.

R&B / REGGAE / SOUL / JAZZ / ACOUSTIC / AMBIENT / CHILL TRAP / DEEP HOUSE
AND ALL CHILLOUT & MELLOW MUSIC

SPACE CURE

DOOR ¥1000 [2 Drink] OPEN 20:00

11/4 @DNA

Guest Live

Yuta & Yuichi

DJs

8040 / Rr-YOH / SHOGEN
MONKEY / RYO

and more..

毎月第1水曜日のDNAはChilloutでMellowな音楽と共に
心地よい空間を楽しめるイベントとなっています。

スポニチアネックスさんにも、ご紹介頂きました。

JUGEMテーマ：心、体、そして魂。

10月14日付けのスポニチアネックスさんにも、ご紹介頂きました。個人的にはニュースランキングにある、反町・松嶋夫妻のドーベルマンってのも気になります(笑)。本当に有難うございました。

Sponichi Annex

・イベント > 大阪 > 採用案内 > アルバイト募集
 ・超絶スポニチ > オヤジのびわがら園 > ミス日本 > 新創製

野球	サッカー	格闘技	スポーツ	五輪	社会	芸能	ギャンブル	ショッピング	マネー	グラビア	パチ&スロ	クルマ
----	------	-----	------	----	----	----	-------	--------	-----	------	-------	-----

記事コラム | 実情情報 | 恋愛 | 映画 | 結婚 | 読書 | ジャニーズ | AKB48 | タレント | オリコン | ドラマ | 紅白歌合戦

ホーム > 芸能 > ニュース & デイリーフォト一覧(芸能) > 2015年10月14日

<< 前のニュース 次のニュース >>

第12回ゴールドコンサート開催、グランプリにDJ Yuta&Yuichiさん



輝かしい音楽界の新星DJ Yuta&Yuichiさんは個性と才能あふれる二人組ユニット。DJ Yuta&Yuichiさんの「Night Sky Sugar」が選ばれた。

今年、自国文化正統化50周年を迎え、外務省が公益事業として認定された今大会には韓国から1組を含む、開演予選会、音楽審査で選出された10組を含む、国内外合計11組が出場した。

グランプリに選ばれたDJ Yuta&Yuichiさんは個性と才能あふれる二人組ユニット。DJ Yuta&Yuichiさんの「Night Sky Sugar」が選ばれた。

イベント主催者のNPO法人日本バリアフリー協会の役員幹事代表は「今年は韓国を含め11組が出場し、素晴らしいコンテストとなりました。私たちはこのゴールドコンサートを通して、積極的にスターになれるアーティストを発掘するために、もっと視野を広げていきたい。来年は福岡、沖縄、宮城、関西(予定)の4都市での地方大会『平楽』を開催することになった」と、来年10月10日に開催が決定した第13回大会に向けた新たな展開を発表した。

(このほかの記事結果) 楽曲賞=YOUTA「ひかり」、歌唱・演奏賞、観客賞=高橋直樹「チャールズエンジェル(モンティパイソン)、黒川いづみ「夕日」、インターネット投票1位=M.A.S.A-T-SUGU「Just for」、歌唱賞、同3位=末広町地「エチュードOp. 25 No. 12」「大洋のエチュード」「ショパン作曲」、太田将登「NPO法人日本バリアフリー協会」



[2015年10月14日 15:20]
[ツイート](#) [Like](#) [G+](#)

< 前のニュース 次のニュース >

注目アイテム

ニュース

マツコ熱海の「年賀状先送け実現「夢がかないました」 @ [10月15日 00:00]
 目黒幸子さん所属事務所、格別取り出す演出を取り消し [10月14日 23:26]
 井上真央「花嫁」妻で済まず…再婚の準備を急いで「思い込ました」 @ [10月14日 22:30]
 新婚、反町和史 ネット好評の声援「結婚披露、修業ワード1枚 @ [10月14日 21:45]
 井上真央「花嫁」妻で済まず…再婚の準備を急いで「思い込ました」 @ [10月14日 20:52]
 橋本環奈、三輪車乗ってまさかのキレ出し「彼は適当にやります」 @ [10月14日 20:38]
 TEE、大ヒット曲「帰郷」5年後のライブデビュー 披露 @ [10月14日 20:06]
 大河の音楽…「花嫁」でP、視聴率先行も「速に注目されている」 @ [10月14日 19:14]
 フリーアナの赤木麻耶子が再婚発表「私生活のもとに来てくれてありがとうございます」 [10月14日 18:44]
 「大逆無道アイドル」熊本県産 セラー版でノーパン出演式 @ [10月14日 18:23]
 新生「伝説的」船中 仲良し関係者「池田氏復活してまいります」 @ [10月14日 18:00]
 南陽市児童虐待「伝説的」結核 でんぐりお返しは特別に 見事成功 @ [10月14日 17:15]
 第63回朝日新聞杯に吉永小百合、宮崎喜博、半蔵一利ら [10月14日 17:13]
 「かまいたち」初音ミク大活躍3子文芸部生「おねちゃんも可愛い」 @ [10月14日 16:53]
 本田雅子 30年ぶりラジオレギュラーに「とても嬉しいよ」 @ [10月14日 16:31]
 第12回ゴールドコンサート開催、グランプリにDJ Yuta&Yuichiさん @ [10月14日 15:20]
 辻仁成 福岡・田中への引退コメント事情も…長すぎた？お疲れ @ [10月14日 14:00]
 関根清史が離婚届を「誰か欲しい」ガンの治療費のために取寄せた @ [10月14日 13:44]
 片瀬さくら 今年初めて披露していた「3年後の結婚」最新の日誌 @ [10月14日 13:31]
 大塚祐三が3週連続主演で新境地「カッコー」好評「結婚の夫婦」好評 @ [10月14日 13:30]
 サンドウィッチ「トーマス」出演映画 山崎公義に「間に合わせたい」 @ [10月14日 12:41]
 紀伊達也の「前編主演でブルーベア」で「仲間たち」の音楽公開 @ [10月14日 11:40]
 有村架純 週末ドラマ主演で「心のなかでモヤモヤ」した理由 @ [10月14日 10:30]
 森島秀孝4年ぶりに主役「結婚式の朝日に」初回視聴率7.7% @ [10月14日 10:00]
 サッカー日本代表 熊鷹試合対イラン戦勝利率は12.3% @ [10月14日 10:00]
 【相棒】14 反町和史が現職官任の好演 新婚相手が現職官任の好演 新婚相手が現職官任の好演 @ [10月14日 10:00]
 千葉県民、石手町市長の助言後進など大ケガリチェックボードで報酬 @ [10月14日 09:52]
 堀江貴文 吹石圭を「家内」伊藤健太郎が「神対応」を総括 @ [10月14日 09:38]
 村上春樹 五郎「格好いい」も「結婚しているようなので…」 @ [10月14日 08:40]
 和田シロー 歴代最悪俳優「若原」水戸黄門に因縁のつづき @ [10月14日 08:40]

ニュースランキング(芸能)

1. 佐野元彦さん！17歳白眉逆巻きの五輪エンブレムに絡める声
2. 堀江貴文 吹石圭を ピートにけしの過去語る 軍団は新作を懸念しよう
3. 坂口美津子の形で卒業「相棒13」最終回20・3%1年ぶり大台
4. 反町、新婚夫妻の関係を大幅増額 ドーベルマンがみつむ住人返す
5. 「相棒14」反町和史が現職官任の好演 新婚相手が現職官任の好演

※掲載時期：2015年10月14日～15日

> 続きを読む

オススメアイテム

ピックアップアクセス

芸能情報

AKB48 結婚 秋葉 映画 誕生 結婚 炎 紅白歌合戦 結婚コレクション

タレント

AKB48名産 ジャニーズ 宝塚歌劇団 経典ニュース

ランキング

オリコンCD 365日 あの懐かしヒット曲 ランキング

コラム＆情報

芸能タレント名産 ミス日本 結婚相手が現職官任の好演 クラシック・コンシェルジュ よしこ100年祝い 結婚を控える 勇平ちゃんのアームスマラソン 「走りたいへん」 Ustream Live

アイドル

アイドルレポート ビックアップアイドル 解決! アイドルレポート

スペシャルコンテンツ

秋葉賞 JRAの大物OBが入社している【秋葉賞】点検情報 無料公開!

「もう、今すぐ帰りたい」「旦那様ネット番組」お悩み、初めての方でも大丈夫

見えないダメ〜ダメージM Anポータルサイト

添職「スビリッツ」初登場！透明感あふれるナチュラルグラビア 画像 [10月14日 08:00]
喜政領名&綾瀬はるか ハンバーガー食べさせ合って平沢又記録 画像 [10月14日 07:30]
ディカプリオ VWポルシェ規制違反問題の映画化検討 [10月14日 06:36]
五部作になりたいアナタ…まずは髪型から！行きつけ美容院に聞いて合わせ髪型 画像 [10月14日 06:30]
格闘。過去のモデル武蔵伝語る アンタ山崎と新番組でタッグ 画像 [10月14日 06:00]
格闘 闘魂昇で？異色自然ドキュメンタリー映画ナレーション挑戦 画像 [10月14日 05:30]
水谷豊と伊藤葉の長女・遊里 さすがのDNA？映画で美声披露 画像 [10月14日 05:30]
DNA 100 北川景子との結婚否定せず「SF」も英検 画像 [10月14日]
羽田美子 実業家との結婚報告！亡き父の夢 蒼ノ平登山2人で！ 画像 [10月14日]
華原朋美 公開告白プロレスラーの二股疑惑浮上で「男運がない」 画像 [10月14日]
ローラ 有田哲平との結婚報道「全然そんなことはないの」 画像 [10月14日]
国民的美少女SPの巻戻しかる 里友香で「マルチな女房に」 画像 [10月14日]
ななみ サイレントストリートライブ「心がつながった気がする」 画像 [10月14日]
なだぎ武 声田愛実と鈴木渥コンビに脱走？「食けてられない」 画像 [10月14日]

注目アイテム

スポニチwikiランキング

[このページの末尾に戻る ▲](#)

[このサイトについて](#) | [個人情報について](#) | [ご意見](#) | [購読申し込み](#) | [企業情報](#) | [スポニチ携帯サイト](#)

Copyright © SPORTS NIPPON NEWSPAPERS, All Right Reserved.
Sports11 Annetに掲載の記事・写真・カット等の転載を禁じます。すべての著作権はスポーツニッポン新聞社と関係媒体者に帰属します。

本日の日本海新聞さんでも、ご紹介頂きました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

東京より遠路遙々6時間近くかけて、ようやくただ今鳥取へ舞い戻りました。

東京におりました関係でまだ現物は手にしていないのですが、本日の日本海新聞さんでもご紹介頂いたようです。有難うございました。

取材を頂いたのは、昨日です。その時私は新橋にある、「とっとり・おかやま新橋館」におりました。両県のいわゆるアンテナショップですね。2階にレストランがあり、そこで打ち上げをしようと考えていたのですが、**アポ無しで行ったらすでに貸切で使用不能**、マズイな、皆さん呼んじゃってるしどうしたものかとアワ喰って駅前を奔走している最中に取材を頂いたものが、本日の記事になっておりました。

かなり写真が大きかったらしく、**私の満面の笑みが不気味過ぎる**とヒドイことをおっしゃる方もいましたが、不可抗力なので許して下さい。

平井知事にも早速コメントを頂きまして、とても嬉しいです。これを励みに、今後も頑張りたいと思います。

というわけで、明日から平常業務に戻ります。今日は取り敢えず、我が家でゆっくり眠ります・・・。

[日本海クラブ](#) | [新聞と読者](#) | [本社イベント](#) | [旅行部](#) | [記事検索](#) | ようこそ、ゲストさん [ログイン](#) | [会員登録](#)



[トップページ](#) | [ニュース](#) | [生活情報](#) | [株&為替](#) | [Web企画](#)

[ホーム](#) > [地域ニュース](#) > [記事](#)

[ツイート](#) 4 | [シェア](#) 3

2015年10月14日

倉吉の井谷さん最高賞 障害者国際音楽コン

細性まひの障害がある鳥取県倉吉市のミュージシャン、井谷優太さん（30）が12日、ユニットを組む中原勇一さん（45）と出場した障害者の国際音楽コンテスト「第12回ゴールドコンサート」でグランプリを獲得した。二人は「自信なかったから信じられない。うれしい」と喜びいっぱい話した。



井谷さんはパソコンとカオシレーターという特別なシンセサイザーを使って演奏。中原さんと多数のイベントに参加してきた。東京国際フォーラムであったコンテストには、約100組の応募から本選に進んだ11組が出演し、頂点を飾った。

新規会員登録 [新規購読申し込み](#)

Googleカスタム検索 [サイト内検索](#)

[ピックアップ](#)

- 秋の読者紹介キャンペーン
- くらよし女子駅伝競走大会
- 日本海駅伝競走大会
- 参院合区問題
- 親子で挑戦、奥の体操
- 関西NOW

[アクセスランキング](#)



グランプリを獲得し、大喜びの井谷さん（中央左）と中原さん（中央右）＝12日、東京・千代田区の東京国際フォーラム（A12 Photo提供）

本番で二人は、井谷さんが作ったオリジナル曲「ナイツカイシュガー」を発表。井谷さんが大好きな琉球音楽の音階を使って冬の夜空に輝く星をイメージした曲で、審査員からは「カオシレーターを上手に使い、アジアの世界観をよく表現していた」と評価を受けた。

「（コンテストのような）音響が大きく出る会場の方がタイミング合わせやすい。だからうまくはできた」と井谷さん。ただ、グランプリなど頭になかったという。中原さんも

「音響トラブルもなく無事に済んで良かったと思ったのが一番で、予想外の結果。二人で大喜びです」と興奮冷めやらぬ様子だ。

グランプリの該当者なしの年もあるなど、厳しい審査として知られるコンテストで堂々の受賞。井谷さんは「思ったより緊張せずにできたし、海外でも演奏してみたい」と次なる夢を描いた。

平井伸治知事も「雄大なスケールで体いっぱいに表現する音楽が日本一に認められ、県民の誇り」と喜びのコメントを寄せた。

- 1 石破氏が留任後初の地元入り 鳥取市内で講演
- 2 妖怪「怪」の総発見 江戸中期と推定、互よけか
- 3 丸焼き、ステーキに行列 「但馬牛食まつり」
- 4 用地化無理なら鳥取移転も 徳山球場周辺
- 5 全災害拠点病院「温水想定区内」判明 県緊急会議

[もっと見る](#)

地域ニュース 最新記事

- ▶ 県内初の脳死解除 米子医療センターで実施 (14日) [▶](#)
- ▶ 人口減に歯止めを 県の地方創生総合戦略策定 (14日) [▶](#)
- ▶ 意気の井谷さん最高賞 障害者国際音楽コン (14日)
- ▶ 拉致問題の早期解決へ 米子で全国集会 (14日)
- ▶ バストデン県内から6団体 とっとりバーガーフェス (14日) [▶](#)
- ▶ 間近に迫ったA T C（上） 魅力発信の好機 (14日) [▶](#)
- ▶ 神奈川フィルと合唱 江山中、美和小、神戸小270人 (14日)
- ▶ 宇佐神社因縁お礼も 日銀鳥取事務所70年展示会 (14日)
- ▶ 花回廊の秋感心て 「紅葉の庭」オープン (14日)
- ▶ 秋風にそよぐ 新温泉・上山高原でスキ見頃 (14日)

* [もっと見る](#)

[ページトップへ▲](#)

関連サイト

大阪府新聞 OSAKA NICHINichi
日本海折込センター
日本海新聞ふるさと創り事業団

新日本海新聞社

- ▶ 会社概要
- ▶ 個人情報保護方針
- ▶ ご利用規約
- ▶ ニュースメール
- ▶ ご利用ガイド
- ▶ お問い合わせ
- ▶ 日本海新聞ID
- ▶ グループ企業

各種申し込み

- ▶ 購読申し込み
- ▶ 折込広告
- ▶ 試読の申し込み
- ▶ 我が家の宝
- ▶ 新聞広告
- ▶ フォトサービス
- ▶ Web広告
- ▶ ホールご利用
- ▶ 日本海新聞懇話会
- ▶ 著作権使用について

本サイトに掲載の記事・写真など一切の無断転載を禁じます。すべての記事・写真の著作権は新日本海新聞社に帰属します。

▶ [著作権使用について](#) ▶ [ネットワーク上の著作権について](#) (日本新聞協会) ご意見・ご感想は世界、氏名を明記の上 [info@shimbun.co.jp](#)まで

Copyright © 2013 Nihonkai Shimbun Company All rights reserved.

"DJ Yuta & Yuichi"、グランプリを獲得致しました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昨日の東京国際フォーラムで行われましたゴールドコンサートにて、我々DJ Yuta & Yuichiが、グランプリを獲得致しました。

これで私も、プロデューサー気功家として新たなステップを踏み出せたかな、と思っています。以前より申し上げておりますように、私の目標とするのは「癒し」ですとか「ヒーリング」とかではなく(それもその一つには違いないのしょうけれども)、能力開発ですからね。その人の持っている潜在能力をどうやって発見し、伸ばしていくか。私の関心はそこにある、というかそこにしかないのですが、その一つのケース・スタディになったかな、というのが率直な感想です。

はっきり申し上げて、アーティストは「売れて」なんぼですよ。売れなければしょうがない。ただ残念ながら、売れる「気」と売れない「気」があるわけです。彼は、前者を持っていた。後はそれをどうやって広げていくか、なのですが、ここにもう一つ困難があります。それは正に「柔軟性＝放鬆」、つまり、変化を受け入れる素地があるかどうかです。彼はその両者を持っていました。「これはかなりいけるかも」と私は思いました。ですからプロジェクトそのものは、非常に楽しく進めることが出来ました。

講評には、「障害とテクノロジーとの関わり方の可能性を感じた」というものがありました。実はこれは正に、John Cageがその著書『小鳥たちのために』の中で言っていたことなんですね。あるいは、かのYellow Magic Orchestraもファースト・アルバムのライナーで、同じことを言っています。「コンピュータにしか出せない音を、コンピュータに出さただけなんです」と。もちろん彼らは、障害について語っていたわけではありません。彼らが語っていたのは、「テクノロジーを効果的に使用することで、フィジカルな限界を克服することが出来る」、ということなのです。今回のプロジェクトで私の念頭に常にあったのは、そのような彼らの言葉でした。

フィジカルな限界という意味では、実際、我々の住む鳥取県自体がそうですしね。人口減少と超高齢化に歯止めが掛からない。今年中に人口が57万人を切ることは、確実視されています。嫁の故郷のバンドン「市」の4分の1以下。そのために、都市部の方では想像も出来ない数々の問題を抱えているわけです。しかし、だからこそ誰も想像もしない可能性があるのではないか、と私は考えたのです。基本天邪鬼ですから(笑)。それを実現するのは、先のようなテクノロジーです。別に極端にハイスペックである必要はないんです。ステージで私が使ったPCも中古ですしね。更に、関係者しか知らないことですが、ストラト壊れてましたし(笑)。重要なのは、その使い方なのです。

その流れさえ上手く捕まえることが出来れば、地方創生など簡単に達成出来ると思うんですけれどもね。

ただ、そうやって理屈を並べてみたってしょうがない。何らかの結果を残さなければどうしようもない。その結果の一つをこうやってプレゼンテーション出来たというのは、本当に嬉しいことです。

最後になりましたが、ゴールドコンサートの関係者の皆様、鳥取県庁の皆様、鳥取・東京のアーティストの皆様を始め、我々のステージを支えて下さいました皆様に、熱く御礼申し上げます。本当に有難うございました。

今日の読売さんにも、ご紹介頂きました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今日の読売新聞さんにも、ご紹介頂きました。

記者の末善さん、有難うございました。お世話になりました。ただ一つ、**気功師は止めて頂きたかった**。ますます怪しさ爆発ですね。いやはやこんな奴で申し訳ないです。

というわけで、只今東京満喫中。

読売新聞に類似 時事英語学習SAR

キーワードを入力 記事 小窓 買い物

政治 社会 経済 スポーツ 国際 地域 科学・IT 環境 発達小窓 中高生新聞 教育 ライフ 読込み Dストーリー

新着 写真 動画 五輪 特集 まとめ読み 社説 カルチャー 大手小窓 KODOMO ヨミドクター 週CARs 本よみうり堂 交通

YOMIURI ONLINE

地域

トップ 北海道 中部 北陸 関西 九州

会 地域 鳥取 ニュース 文字サイズ 小 中 大

今日のPICK UP PR

障害ある音楽家ら演奏会 井谷、中原さん初出場

2015年10月10日



シンセサイザーで演奏する井谷さん（左）とギターで演奏する中原さん（右、奥）

◇12日動画配信「グランプリ目指す」

障害のある全国の音楽家が秘蔵する『第12回ゴールドコンサート』（12日・東京都、日本バリアフリー協会主催）に、デザイン制作や音楽活動をしている脳性まひの井谷優太さん（30）と気功師中原勇一さん（45）（ともに倉吉市）のユニット「D.Yuta&Yuichi」が登場する。障害者への出演は初めて。井谷さんは「グランプリを目指す」と意気込んでいる。（本紙記者）

井谷さんは北栄町出身。先天性の脳性まひで、言語障害がある。中原さんは障害者との共演に力を入れており、昨年10月に米子市で開催された「あんぱろコンサート」で出会って意気投合。ユニットを結成し、県内で演奏してきた。

コンサートで披露するのは沖縄音楽を取り入れたテクノ調の曲「Night Sky Sugar」（約5分）。井谷さんが昨夏、家族旅行で訪れた沖縄の星空をイメージして当日かけて作り、今年5月、中原さんのアイデアを盛り込んで完成させた。徐々に音を重ねる手法で、荘厳な雰囲気となっている。

出場するのは応募約100組の中から選ばれた10組だけ。井谷さんの父・憲人さん（57）は「前向きに音楽に取り組んできて、素晴らしい舞台に呼んでもらった。思い切って演奏してほしい」とエールを送り、中原さんら「井谷さんの想像力は素晴らしい。聴衆の心に届く演奏をしたい」と話している。

コンサートは12日午後4時半から、東京都千代田区の東京国際フォーラムで開かれ、インターネットの動画配信サイト「Ustream」で生中継される。

2015年10月10日 Copyright © The Yomiuri Shimbun

YOMIURI ONLINEホームへ

Ads by Google

ニュース 最新記事

- 読者懇話会を幹事...米子市、ふれあいの里で（2015年10月10日）
- 障害ある音楽家ら演奏会 井谷、中原さん初出場（2015年10月10日）
- スター・ウォーズ 砂漠劇場（2015年10月10日）
- 読者懇話会からコロンベ（2015年10月09日）
- コバクチョウがえり（2015年10月09日）
- HERO 障者トライ（2015年10月09日）
- 地域防災 共助が大切（2015年10月07日）
- TTPP「農業に地域的影響」（2015年10月07日）
- 日本一へ 食らいつく（2015年10月06日）
- ゆずり園 台風に注意（2015年10月06日）

ピックアップ

- 宮城もスゴ腕 ノーベル賞の大村さん
- 鶴岡から20年 旧姓に戻る？

- [トヨタ・ホンダ 近未来どう描く？](#)
[マイナンバー詐欺 制度開始で早くも](#)
[3500万円が値をつく 老後給付](#)
[立ちながら産婦人科 いきなりステーキ](#)
[認知症の薬 規定量だと副作用？](#)
[タイヤ 位置交換すると長持ち？](#)
[発達障害 「クレーン」 G.P.開催中！](#)
[韓国と生活保護 丸裸になってから？](#)
[エレベーター 男性と間違える？](#)
[愛国ならず 村上春樹賞読者の魅力](#)

[会](#)
[地域](#)
[掲載](#)
[ニュース](#)

[このページのトップへ](#)

ニュース		コンテンツ	ツール	サービス	読者新聞への投稿
新着	カルチャー	大学小町	サイト内検索	読売プレミアム	気象・USO放送
政治	科学・IT	発達小町	天気	ヨミドクター	時事川柳
選挙	地域	教育	交通情報	読者サービス	人生案内・おらざ
スポーツ	ニュース	エンタメ	ワールド	読者サービス	読者新聞YOMIURI
新着	カルチャー	大学小町	サイト内検索	読売プレミアム	気象・USO放送
政治	科学・IT	発達小町	天気	ヨミドクター	時事川柳
選挙	地域	教育	交通情報	読者サービス	人生案内・おらざ
経済	環境	中高生新聞	買い物	本よみうり堂デジタル	読者センター
社会	相談	KIDOMO	ソーシャル	ヨミダス歴史館	写真・動画
国際	おくやみ	ライフ	Twitter	ヨミダス文庫	
スポーツ	写真	デジタルストーリー	Facebook	よみうり読者写真館	
五輪	まとも読み	探検チャンネル		スクールヨミダス	
		写真			
		動画			

YOMIURI ONLINE | 読売新聞

見出し、記事、写真の無断転載を禁じます Copyright (C) The Yomiuri Shimbun.

[会社案内](#)
[サイトマップ](#)
[サイトのしくみ](#)
[個人情報](#)
[著作権](#)
[記事利用申込](#)
[採用情報](#)
[お問い合わせ](#)

YOMIURI ONLINE 広告ガイド | 新聞広告ガイド

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昨日の表敬訪問が、本日日本海新聞さんで記事になっています。日本海新聞さん、いつも有難うございます。

関係者間では、**スーツが全然私らしくない**、ともっばらの話です。申し訳ないですね。僕のアイディアじゃないです。井谷君ですわ。僕はいつもの通り、バティックに雪駄で行くつもりだったのですが。コンサート当日は、それで行くつもりです。

日本海クラブ | 新聞と読者 | 本社イベント | 旅行部 | 記事検索 |

ようこそ、ゲストさん [ログイン](#) | [会員登録](#)



[トップページ](#) | [ニュース](#) | [生活情報](#) | [株&為替](#) | [Web企画](#)

ホーム > 地域ニュース > 記事

[ツイート](#) 0

[シェア](#) 0

2015年10月8日

子育て応援特集

文字サイズ 小 **中** 大

[新規会員登録](#) [新聞購読申し込み](#)

ピックアップ

[校の読者紹介キャンペーン](#)
[くらし女子駅伝競走大会](#)
[日本海駅伝競走大会](#)
[参院会区問題](#)
[親子で挑戦 頭の体操](#)
[関西NOW](#)

アクセスランキング

1

[組み体操骨折 鳥取3件 事故懸念、押目外す中宇市](#)

2

[「京橋へウェルカニ〜」 イベントポスター完成](#)

3

[9.5%が換金申し込み 県のプレミアム商品券](#)

4

[押切さん 絵本のヒント探し 若桜の山本さんを訪問](#)

5

[日本海駅伝 倉敷が初優勝 くらし女子は国崎学園](#)

[もっと見る](#)

国際コン本番に意欲 倉吉の井谷さんら知事表敬

脳性まひの障害がある倉吉市のミュージシャン、井谷優太さん（30）が12日、ユニットを組む中原勇一さん（45）と、東京・丸の内での東京国際フォーラムで開かれる障害者の国際音楽コンテスト「第12回ゴールドコンサート」に出場する。7日、鳥取県庁に平井伸治知事を訪ね、「本番では自分の力を出し切る演奏をしたい」と抱負を語った。



井谷さんはパソコンとカオシレーターという特別なシンセサイザーを使って演奏。即興演奏などを得意とし、中原さんと多数のイベントに参加している。

コンテストは国内外の障害者のミュージシャンが参加でき、毎年約100組の応募がある。そのうち本選に進める10組に井谷さんらは入った。かつてコンテスト出場者がメジャーデビューしたこともあるという。

二人は平井知事に、井谷さんが作曲した当日の発表曲「ナイツスカイシュガー」を披露。平井知事は「本選に進むのがうなずける素晴らしい曲。優勝目指して頑張って」と激励した。

地域ニュース 最新記事

▶

[中電、鳥取県に6億円 知事「原発再稼働関係ない」](#) (8日)

▶

[県と活用を協議 中電原発防災対策6億円](#) (8日)

▶

[内閣改選で石破氏残留 地元では歓迎ムード](#) (8日)

▶

[安倍改選内閣発足 県内各団体から注文相次ぐ](#) (8日)

▶

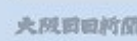
[北に厳しい制裁を 拉致問題で松本孟さん](#) (8日)

- ▶ リヤカーの吉田さん 南米縦断、旅始まる(8日)
- ▶ 国際コン本巻に意欲 倉吉の井谷さんら知事表敬(8日)
- ▶ ローソンが県産食材を駆使 9品、順次発売(8日) 
- ▶ “冬の使者”コハクチョウが初飛来 米子水鳥公園(8日)
- ▶ 口元覆い迅速避難 児童ら対象に火災訓練(8日)

» [もっと見る](#)

[ページトップへ▲](#)

関連サイト

 **大阪毎日新聞** OSAKA NICHINICHI
 **日本海折込センター**
 日本海新聞ふるさと創り事業団

新日本海新聞社

- ▶ [会社概要](#)
- ▶ [個人情報保護方針](#)
- ▶ [ご利用規約](#)
- ▶ [ニュースマート](#)
- ▶ [ご利用ガイド](#)
- ▶ [お問い合わせ](#)
- ▶ [日本海新聞ID](#)
- ▶ [グループ企業](#)

各種申し込み

- ▶ [購読申し込み](#)
- ▶ [折込広告](#)
- ▶ [日本海政経懇話会](#)
- ▶ [試読の申し込み](#)
- ▶ [我が家の宝](#)
- ▶ [著作権使用について](#)
- ▶ [新聞広告](#)
- ▶ [フォトサービス](#)
- ▶ [Web広告](#)
- ▶ [ホールご利用](#)

本サイトに掲載の記事・写真など一切の無断転載を禁じます。すべての記事・写真の著作権は新日本海新聞社に帰属します。

▶ [著作権使用について](#) ▶ [ネットワーク上の著作権について](#)(日本著作権協会) ご意見・ご感想は住所、氏名を明記の上 info@nhn.co.jpまで
 Copyright © 2013 Nihonkai Shimbun Company All rights reserved.

再度、コンサートのご案内です。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

現在前売り券は、完売のようです。ただ、当日券はあるみたいです。もし宜しければ。m(__)m

当日の様子は、下のページで生放送されますので、是非ご覧下さい(クリックして頂ければ、リンク先へ飛びます)。我々の出演は、午後5時頃らしいです。私が主催者ではないので、スケジュールの関係上前後する可能性がありますけれども、その際にご容赦下さい。

演奏時間は、5分です。因みに井谷君によると、**5分超えると問答無用で失格**だそうです。さすがに厳しいですね。最後はギターのロングディレイで締めようかと思っていたのですが、止めた方が良さそうですね。さくっと終わります。スマホや、Ustreamでもご覧頂けるようです。昨日のお話ですと、県庁の福祉課の方お二人もコンサートにお出で頂けるとか。遠路真に恐縮です。有難うございます。m(__)m

投票もあるみたいです。皆様の清き一票をお願い申し上げます(笑)。というわけで、明日上京致します。ただし携帯は常時持っていますので、何かございましたらそちらまでご連絡下さい。当日はさすがに切りますけれども(笑)。それでは、テクノ気功家Live at Tokyo International Forum (因みに彼も、倉吉教室の生徒さんです(笑))。ご声援宜しくお願い申し上げます！

The screenshot shows the website for the 12th Gold Concert. The header includes navigation links like '本文へ移動' and '検索', and a '文字サイズ' (font size) selector. Below the header, there are icons for '最新情報', 'ミュージシャン', 'イベント情報', and 'DVD・書籍購入'. The main content area features the 'GOLD CONCERT' logo and a 'PickUp!' section with two announcements: '前売り券は全席完売！当日券あり！' and 'インターネット生放送 10月12日 (月・祝) 16:30 スタート！'. The navigation bar includes 'ホーム', '概要', '出演者', 'チケット', 'プレス', and '協賛・協力'. The main content area is titled 'ゴールドコンサート生放送' and includes a '印刷する' button. The text describes the internet live broadcast of the 12th Gold Concert, mentioning the date and time (October 12, 2015, 4:30 PM to 6:10 PM). It also lists the participating artists and the technical support provided by J.B.A. and other companies.

今回の投票結果については、特別に賞は設けませんが、会場にて結果を発表させていただきます。その模様も生放送でご覧いただけます。

■ 動作推奨環境

- Adobe Flash Player 9 以上がインストールされたパソコン
- 光回線、ADSLなどのブロードバンド回線もしくはWi-Fi環境

■ 同時放映

Ustreamでも生放送を行います。

スマートフォンからご覧になりたい方、ソーシャルストリーム（TwitterやFacebook等からのコメント）をご利用になりたい方はどうぞご利用ください。 <http://ustre.am/19uaM>

■ 生放送についてのお知らせ

- スマートフォンにも対応しております。
- 放送時間になっても映像が表示されない場合は、ブラウザの更新ボタン（またはCtrl + 「F5」キー）を押してページを再度読み込んでください。
- 混雑によりご覧いただけないこともあります。暫く時間が経ってから、再度このページへのアクセスを試みてください。
- 生放送をご覧いただくには、Adobe Flash Player（無料）バージョン9以上が必要です。インストールされていない方は、[Adobe](#)よりダウンロードしてからご覧ください。
- Ustreamでも同時に生放送を行っております。

■ 技術協力



株式会社Ustream



株式会社CMSコミュニケーションズ



Creative



アドビ システムズ 株式会社

活動リンク



copyright © 2015 Japan Barrier-free Association. All right reserved.

平井知事にお会いしてきました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

本日午前、鳥取県庁にて、平井知事にお会いしてきました。

おまけに、**ライブもやってきました**。県知事の応接室でライブをやったテクノバンドは、古今東西我々が初めてではないでしょうか。KORG Kaossilator Proに非常に興味を示していらっしゃいましたね。私の紹介の原稿に、私の職業が「**気功師**」となっていたのには笑いましたが。ええまあその通りであります。**怪しさバリバリで申し訳ございません**。因みに幸か不幸か、当ブログの記事に関しては、何も言われませんでした。

それと、先日のあいサポート・アートとっとり祭の記事が、一昨日の日本海新聞さんに載っていましたので、そちらもご報告させていただきます(新聞記事ですので、リンク切れはご容赦願います)。

というわけでこの度は、平井知事、県の福祉課の皆様を始め、職員の皆様、メディア関係の皆様には本当にお世話になりました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。コンサートにもお出で頂けるということで、恐縮であります。緊張しないようにというか、舞い上がり過ぎて**暴走しないように頑張りたいと思います**ので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

[日本海クラブ](#) | [新聞と読者](#) | [本社イベント](#) | [旅行部](#) | [記事検索](#) | ようこそ、ゲストさん [ログイン](#) | [会員登録](#)



[トップページ](#) | [ニュース](#) | [生活情報](#) | [株&為替](#) | [Web企画](#)

ホーム > 地域ニュース > 記事

[Twitter](#) 4 | [Facebook](#) 22

2015年10月5日

市民も一体 あいサポ・アートとっとり祭閉幕

「鳥取県障がい者舞台芸術祭 あいサポート・アートとっとり祭」が4日、前日に引き続き鳥取市のとりぎん文化会館で開かれた。障害者らが出演したステージイベントに加え、全盲のピアニスト辻井伸行さんの母、辻井いつ子さんの講演などもあり、2日間の祭典が幕を閉じた。



この日のステージイベントには

文字サイズ 小 **中** 大

[新規会員登録](#) [新規会員登録込み](#)

Googleカスタム検索

ピックアップ

- 秋の読者紹介キャンペーン
- くらしよ女子駅伝競走大会
- 日本海駅伝競走大会
- 養老谷区問題
- 親子で読書 読の体験
- 関西NOW

アクセスランキング

- 1 日本海駅伝 倉敷が初優勝 くらしよ女子は国府学園
- 2 9.5%が借金目1.3% 国のプレミアム

解」をつくる音楽家と音楽家＝10、鳥取市の
とりぎん文化会館



会員登録すると続きをお読みいただけます。



無料会員登録



ログインする
(会員の方)

地域ニュース 最新記事

- ▶ 中電が鳥取県に防災費 原発対策で年間数億 (7日)
- ▶ メタンハイドレート科学コース開設 海老沼教授に聞く (7日)
- ▶ 開山1300年、大山知って 入門百科を共同執筆中 (7日)
- ▶ 鳥取県西部地震から15年 「教訓を行動に」〈下〉 (7日)
- ▶ 垣根低く連携を 「県西部地震15年」フォーラム (7日)
- ▶ 公園化方針を再検討 市菅湊山球場敷地 (7日)
- ▶ 古民家シェア計画 まるたんぼう入園希望の移住者用に (7日)
- ▶ 月給引き上げ勧告 平均1・26%、県職員17年ぶり (7日)
- ▶ 甘くて大きい 「新興梨」賞定会、8日初出荷 (7日)
- ▶ 種牛1頭「こすぎ」最高賞 新温泉町子牛共進会 (7日)

※ [もっと見る](#)

[ページトップへ▲](#)

関連サイト

大阪毎日新聞 OSAKA NICHINichi
日本海折込センター
日本海新聞ふるさと創り事業団

新日本海新聞社

- ▶ 会社概要
- ▶ ご利用規約
- ▶ ご利用ガイド
- ▶ 日本海新聞ID
- ▶ 個人情報保護方針
- ▶ ニューススマート
- ▶ お問い合わせ
- ▶ グループ企業

各種申し込み

- ▶ 購読申し込み
- ▶ 試験の申し込み
- ▶ 新聞広告
- ▶ Web広告
- ▶ 折込広告
- ▶ 我が家の重
- ▶ フォトサービス
- ▶ ホールご利用
- ▶ 日本海政経懇話会
- ▶ 著作権使用について

本サイトに掲載の記事・写真など一切の著作権を擁護します。すべての記事・写真の著作権は新日本海新聞社に帰属します。

▶ [著作権について](#) ▶ [ウェブサイト上の著作権について](#) (日本新聞協会) ご意見・ご感想は住所、氏名を明記の上 info@nss.co.jp まで
Copyright © 2013 Nihonkai Shimbun Company All rights reserved.

※雪駄でBlackyを弾く気功家の図。

週末のイベントのご案内です。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

週末のイベントのご案内です。

3日土曜日午後6時30分より、倉吉市内にあります上灘公民館というところで、我々DJ Yuta & Yuichiの壮行会パーティをして頂けるそうです。主催者は、市内赤瓦エリアのペット関連グッズのお店「かんだや、」の店長勝谷さんです。いつもお世話になります、恐縮であります。

ポットラック形式で、参加料は会場レンタル代をカンパして頂いて、300円です。一応ドリンクは飲み放題ですが、こちらはアルコールではございませんので、飲みたい方は持ち込みということで。無ければ近くにスーパーとか色々ありますのでご心配なく。ライブ付きです。井谷君の別ユニットであります「えんにち」さん、DJ Yuta & Yuichi、そして私の別ユニットでありますサンプリングテロ・テクノバンド「Jungle Q2」も久々にやります。相方のエンジン錆び付いてなければ良いのですけれども。

次の日4日日曜日は、とりぎん文化会館で行われます「あいサポート・アートとっとり祭」で演奏致します。こちらの催し物自体はスタートは10:00からですが、我々の演奏は13:45からみたいです。20分だけのショートステージですけれども、まあお仕事ですので、もし良かったら。

何せ忙しくなってきましたので、スケジュール調整大変です。ダブルブッキングしないように気をつけたいと思います(笑)。



GOLD CONCERT 12

祝！ DJ Yuta & Yuichi 出場

GOLD CONCERT 12

障がいをもつミュージシャンの音楽コンテスト

2015 年 10 月 12 日 (月・祝)

@東京国際フォーラム

出場記念ライブパーティ開催！



CONGRATULATIONS

日時：10 月 3 日 (土) PM18:30 - 20:30

会場：上灘公民館 (和室)

参加費：300 円

(フリーソフトドリンク)

ポットラックパーティ形式で行います、
各自が料理等を一皿お持ち寄りください。

※アルコール類は各自で持参おねがいします。

10/3 出演アーティスト

DJ Yuta & Yuichi

えんにち

Jungle Q2

(9/10 現在)



RINGIRUNGI
JOURNAL
03-5555-0000

問い合わせ先

勝谷和成

(がっやがずのり)

090-1334-2285

JOba 日本バリアフリー協会

平成27年度 鳥取県障がい者舞台芸術祭

あいサポート アートとっとり祭

まつり

入場 無料

平成27年 10/3(土)・4(日)

会場 とりぎん文化会館
時間 10:00～17:00(開場 9:30～)

HOME イベント概要 あいサポート・アートとっとり祭とは? 駐車場のご案内 インターネット配信 バリアフリーについて



あいサポート・アートとっとり祭

- 大会テーマ “障がいを知り 共に生きる”
- 主旨 障がいのあるなしにかかわらず、誰もが参加し、楽しみ、感動を共有することのできる鳥取県らしい心温まる舞台芸術祭（音楽、演劇、ダンスのステージ発表など）を開催します。
- 日時 平成27年10月3日（土）～10月4日（日） 10:00～17:00
- 場所 とりぎん文化会館（フリースペース、第1会議室、第2会議室等）
- 入場料 無料（どなたでも観覧可）
- 内容

10月3日（土）

フリースペース特設ステージ	第4会議室	第5会議室	第1会議室前 及びエレベーター横	会場内
10:00～10:30 オープニングセミナー	【休養コーナー】 11:00～ GABEZとリズム体操	10:00～17:00 障がい者アート展	10:00～17:00 スイーツ販売	10:00～17:00 スタンプラリー
10:30～16:30 ステージ発表 ・ 12:30～ GABEZ ダンスステージ ・ 16:00～ ロケットくれよんの音楽ステージ	12:00～ ロケットくれよん 音楽で遊ぼう 13:00～17:00 鳥取盲学校 マッサージ体験			

10月4日（日）

フリースペース特設ステージ	第1会議室	第2会議室	第4会議室	第5会議室	第1会議室前 及びエレベーター横	会場内
10:00～15:30 ステージ発表 ・ 12:30～ さと里人パルーンステージ ・ 14:30～ ロケットくれよんの音楽ステージ ・ 15:00～ GABEZ ダンスステージ 15:30～ フィナーレステージ	【バリアフリー映画】 10:00～ 「僕の初恋」 11:30～ 「ウィニング・パス」 14:00～ 「あいサポート講演会」 講師：辻井 いづ子	【休養コーナー】 10:30～ さと里人パルーンパフォーマンス 12:30～ GABEZとリズム体操 14:30～ 青谷四州和紙体験 10:00～17:00 落書きアート体験	10:00～17:00 スポーツレクリエーション	10:00～17:00 障がい者アート展	10:00～17:00 スイーツ販売	10:00～17:00 スタンプラリー



第14回全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会クライマックスイベントでの発表状況

お問い合わせ先

鳥取県福祉保健部障がい福祉課
〒680-8570 鳥取市東町一丁目220番地
Tel:0857-26-7676
Fax:0857-26-8136
E-mail:shougai-fukushi@pref.tottori.jp

お知らせ

2015.07.23 ホームページを公開いたしました。
あいサポート・アートとっとり祭のホームページを公開いたしました。

ゴールドコンサートのチケット、完売したようです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先だっでご紹介致しました来月行われる第12回ゴールドコンサート、チケットの方が完売したそうです。

ご購入頂きました皆様には、熱く御礼申し上げます。それでは当日は宜しくお願い致します。

9月19日パープルタウン、9月20日Coco Teaでの演奏の模様です。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

DJ Yuta君が先だっの倉吉のパープルタウンと米子のCoco Teaでの演奏の模様をYouTubeにアップしてくれていますので、リンクを貼らせて頂きます。

何というか・・・、**ギタリストもっと動けよ**という感じなのですが、基本的に影響を受けたのがRobert Frippだったりするので、致し方ないのかなと。派手なパフォーマンスはどうしても出来ないですね。Pat Methenyでもキツイかなと。まあ努力は致します(笑)。

そんなわけで年末まではこのセットで向かいたいと思います。申し遅れましたが、パープルタウンの植田さん、CocoTeaのChulingさん、大変にお世話になりました。今後とも宜しくお願い致します。

この連休中のライブ告知です。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

この連休中の、ライブの告知です。

週末19日土曜日午後3時より、市内にありますショッピングモールのパープルタウンさんが、我々DJ Yuta & Yuichiの東京公演を記念してライブを企画して下さいました。担当の植田さん、有難うございます。取り敢えずオーディションにパスした"Night Sky Sugar"を皮切りに、以下のようなセットを考えています。

Night Sky Sugar (by Yuta Itani)

Desert Rose (by Yuichi Nakahara)

Improvisation (by Yuta Itani & Yuichi Nakahara)

Grain Boundary (by Yuichi Nakahara)

Secret Sea Island (by Yuta Itani)

最後ウケ狙いで超有名曲のカバーやるかも知れませんが、それは未定です。

もう一つは井谷君の企画で、米子市内にありますアジアンカフェCoco Teaにおきまして『秋ライブパーティ』と銘打ってイベントを行います。出演は、山陰発のインプロヴィゼーション・ジャズ・ロック・グループであります"MMS"、"DJ Yuta & Yuichi"、そして米子市内在住のエレクトロニカユニットであります"Yooda w/レトロぱんだ"さんです。本当は当日にあります米子国際交流フェスティバルの関係者だけの打ち上げのつもりだったのですが、気がついたら話がデカくなってしまいました。

というわけで、「取り敢えず」連休中のライブだけひとまず告知とさせていただきます。10月に入ったら東京公演を含めてほぼ毎週ライブの予定が入っておりますが、それはその都度告知させていただきますと思います。それでは宜しくお願い致します。

2015年9月19日(土) DJ Yuta & Yutchi
 ◎当日は、2015年9月2日(イベント開催)



● Facebook 4.1.5



アジア カフェ

COCO TEA

秋 LIVEパーティー

アーティスト 豪華 3組出演!!

MMS DJ Yuta & Yuichi Yooda w/レトロぱんだ

9月21日(月) 17時~START

入場無料♪
※1オーダーお願いします

MMS 18:00~

山陰発の完全即興スタイルのジャズ/ロック/フュージョン/エレクトロニック・ファンク・バンド'MMS'。Chick Corea/Herbie Hancock/Soft Machine辺りのサイケな音楽が大好きな方には、特にお勧めです!



Y&Y 19:00~

鳥取中部で活動するエス/テイストを取り入れた、エレクトロニカ系のテクノユニット。心地よい幻想的な二人が奏でる空間サウンドは必聴♪ 2015年10月12日に国際フォーラムで開催される第12回ゴールドコンサートにも出場予定!!



Yooda w/レトロぱんだ 20:00~

Yooda.
エレクトロニカ、アンビエント、ポストロックを通過したサウンドに、エディットした自らの声を織り交ぜ、独創的な音の世界を創り上げる。
2010年より、オーガナイズイベント iQUAN を開始。
2013年、1stアルバム「catch a yawn」をリリース!!

レトロぱんだ。
声とガットギターのボサノバSSW。



Cafe COCO TEA 米子高島屋 すぐ隣!

〒683-0815
鳥取県米子市東倉吉町
132-1

Tel. 090 - 6181 - 8085

JR 米子駅から車で5分
バスは東倉吉町で降車

↓↓ イベントについての問い合わせはコチラ ↓↓

Tel. 090 - 4651 - 3240 Mail r7i7o7n@gmail.com



久々に、気功のお話です。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

このところ記事が音楽関係ばかりで、気功の業務ちゃんとやってんですか？という声もチラホラ聞こえたりしますので、ここらで一つ久々に、気功のお話をば(音楽関係と言っても、そうとは限りません。それも実は、きちんと気功のメソッドに則ってやっています。気功というよりはこうなると仙道ですけどもね。なかなか効果があります。[齊天大聖は特にお勧め](#)。機会があったらお話致します)。

うちに来られるクライアントさんから、時々ちょっとしたご不満を頂きます。曰く、「確かに中原さんと一緒に一指禅功をやっていると全身が熱くなりますけれども、それだけなので、ちょっとがっかりですね」と。

ところが私が逆にお尋ねしたいのは、[それが重要なんです。それ以上何をお求めなんですか？](#)とこういうことです。

全身が熱くなるというのは、次のような効果があります。それは体温が上昇したということを意味するわけですが、このように体温を意識を使って人工的に上昇させる(そんなことは不可能だというのが西洋医学の見解なのですけども)ことで自己免疫系＝自然治癒力の向上を図る、これが健康の維持管理に用いる気功法の基本的なプロセスです。体温が上昇することで免疫機能の向上を図ることにしましては、ググって頂ければ山のように情報を得ることが出来ます([こんな感じ](#)ですかね)。それで十分に、日常的な用は足せます。

ところが、そのようにご不満をお持ちの方によくよくお話を伺ってみると、こういうことらしいです。つまり、結構色々な本を読まれていて(但し、言うまでもなく[スピ系](#))、その本の記述をまんま鵜呑みにしていらっしゃるんですね。[気功をすると小周天という状態になるはずだ、そしてそれが起こると頭の中に火花が炸裂して超人になるのだ](#)、みたいな。ですから私が経絡をチェックする限り小周天(奇経八脈である任脈・督脈に気が通る状態)を通過して大周天(全身の十二本の経絡に気が通る状態)にすでに移行していらっしゃるような方でも、そのようなヴィヴィッドな経験を欠いているものですから、どうしても欲求不満になる。

これは要するに、先入観の問題ですね。大阪から東京へ行くのには、必ず名古屋を通過するはずだ、そうあの本には書いてあった、そうでなければ嘘だ、みたいな。でも別に東京へ行くのに必ず新幹線でなければならないということはないわけですし、飛行機で伊丹・羽田経由で直接東京へ入るやり方もあれば、高速バスで中央道経由で、というやり方もありますしね(あとは、流派の問題ですね。一指禅功では小周天がどうのこうのと、あまり言いません。前者は仏教系で、後者は道教系ですから)。

換言すれば、手段と目的を間違えていらっしゃる、とこういうことですね。目的とすべきは、体調管理ですとか潜在能力の開発なのであって、頭の中で火花を炸裂させることではないはずなのですけれども、そっちの方が凄そうに聞こえるので、どうしても興味がそっちに向いてしまう。もし後者をお望みであれば、私のところではなく、インドのゴアかなんかでLSDをキメながらプロGRESSIV・トランスを聴いて頂ければ結構かと思うのですが(笑)。

というわけで私のところへお出でになる皆様には、あらかじめそのような先入観をひとまず横において来られることをお勧め致します。気功というものはサイケデリックなビジョンをもてあそんで現実逃避するツールではなく、もっと実用的なものです。練習することで病気にかからなくなったり、通常の数倍の力を出したり、他人の未来を読み取ったりといったようなことは、そんなに難しくないわけなのですけれども、それには神秘体験などは必要ではありません(もっともお二人ほど、私と一緒に練功していたら頭蓋骨に物凄い衝撃がかかったので怖くなって止めた、とおっしゃる方がいらっしゃいますけれどもね。因みにお二人とは相変わらずお付き合いは続けておりますけれども。やはり個人差ってことでしょうね)。

個人的には、違った形での不可解な現象なら興味ありますけれどもね。そのキーになるのは、先ほどの熱です。昔からの気功＝仙道の理論では、熱というのは意識と関係があると言われていて(出神とかそういう感じですね)、それと関係があるかのような現象も結構我々の周りでは多発しておりますのでね。そういうのが古来『幽霊』とか言われるものとどう係わり合いがあるのか、そこら辺が興味深いかなと。いやインドネシア、凄過ぎる。それについてもまた、機会があればお話致します。

<追記>

神秘体験なら、こちらがよろしいんじゃないですかね？私も欲しいです(笑)。

LSD服用時と同様の「サイケデリック幻覚」が見られるメガネ

『うちの家族はワサビ好き』

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

この度、関金町周辺で地域起こしをされているグループより依頼を受けまして、キャンペーンソングを作りました。

テーマは、「**ワサビ**」。何でも関金町はワサビが名産らしく、それをフューチャーした曲にして下さい、とのことでした。早速キントウン宜しくパートナーのDJ KAOSさんと呼び出し、製作会議を持ちました。ストーリー性のある曲にしよう、というコンセプトの元に出来上がりましたが、この『**うちの家族はワサビ好き**』です。先日、YouTubeでオフィシャルになったみたいです。個人的にキモだなと思ったのが、冒頭の**石破茂氏の登場**ですね。現役の閣僚が地元選挙区のインディのプロモーションフィルムに出るというのは、ある意味本邦初ではないでしょうかね。しかも地方創生担当大臣って、これまたタイムリーだったりする。

因みに楽曲の方ですが、3パターン製作した後に色々と推敲を重ねた結果、地元の方をボーカルで起用したテイクの方が、プロジェクトの趣旨に合っているかも、ということになり、映像に採用されたのは、『うちの家族はワサビ好き (女将 Edition)』です。女将さんとは、地元の温泉宿の若女将Yokoさんです。彼女の声に**Antares AutoTune**を深めにかけました。**Perfume**
様御用達のプラグインですね。あーこうやって使うのかと、良い勉強になりました。因みに彼女も、これがボーカリストデビュー。ええ、やったことのない分野に挑戦して頂いて可能性を引き出すのは立派な気功家の仕事ですので(笑)。

余談ですが、この曲はある有名な曲をベースに製作しました。元曲のTR-808が良い感じだったので、一度使ってみたかったですね～。その元曲がお判りになった方は、プレゼント差し上げます(笑)。

というわけでもったいないですから、残りの2エディションも、当ブログで公開させていただきます。Originalというのはその名の通り、オリジナルです。レゲエのビートにどうしても**Kraftwerk**
っぽいヴォコーダーを乗せたかったので(笑)。もう一つは、**世界に冠たる**
ボーカロイドシリーズのGackpoidに歌わせました。これはこれで良い味出しているような気がします。

<うちの家族はワサビ好き (女将 Edition)>

<うちの家族はワサビ好き (Original)>

<うちの家族はワサビ好き (Gackpoid Edition)>

Promotional song for Sekigane District in Kurayoshi City, Tottori, Japan

"My Family Loves Wasabi" ("Uchi no kazoku ha wasabi zuki")

Lyrics and music by Mineto Kadokami, Yuichi Nakahara from Jungle Q2

Played, arranged & produced by Yuichi Nakahara with Ableton Live

うちの父ちゃんお寿司が好きで ワサビの多目をリクエスト
うちの母ちゃんお蕎麦が好きで ザルにワサビは欠かせない
うちの家族はワサビ好き 冷蔵庫にはいつもある
僕も試しに食べてみた 口に広がるその風味
ワサビ ワサビ 人生に刺激

うちのじいちゃん晩酌好きで 刺身にワサビ醤油だよ
うちのばあちゃんお茶漬好きで ワサビ茶漬けがお気に入り
うちの家族はワサビ好き 買い物行ったらいつも買う
中でもこだわり本わさび 見た目鮮やかその緑
ワサビ ワサビ クセになる香り

僕の気になるあのコにある日 「大好きです」と告白し
「ごめんなさい」と言われてヘコみ そのまま家へトボトボと
ご飯の時も悲しくて いきなりワサビを食べたんだ
涙がこぼれて来るのは ワサビのせいだとウソついた

ワサビ ワサビ 泣いてもいいのさ

ワサビ ワサビ 人生に刺激

Copyright (C) Jungle Q2 Production All Rights Reserved.

第12回ゴールドコンサートのチラシが出来上がりました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

第12回ゴールドコンサートのチラシが出来上がったようで、先日お送り頂きました。

東京国際フォーラムですか。腕が鳴りますね～。井谷君も私も、やる気満々です。彼は最近東京「憑いて」まして、先月もイベントに参加するために上京したみたいですね。非常にアクティブで、いいことだ。

取り敢えず私は9日に東京に入って、そのまま14日まで滞在する予定です。

それと、まだ確定ではないのですが、ゴールドコンサートの翌日13日には、新橋にありますとっとり・おかやま新橋館というところでも、ライブをする予定です。いわゆる両県のアンテナショップですね。ライブ終了後は同館にあります両県の食材を使ったレストランで打ち上げも予定しています。こちらも詳細が決まり次第、ご案内させていただきます。

因みに、最近中原さんのブログって音楽絡みばかりですけども、気功ってやってんですか？というお声もチラホラ耳にしますけれども、もちろんやっていますよ。ていうかこのゴールドコンサートにしたって、気功のメソッド使ってますし。気功というかこうなると、仙道の符呪派ですけどもね。高藤の『十二神将』の応用ですね。ええ、かなり効果ありましたわ。国際フォーラムですからね(笑)。施術もだいぶやり方変えています。最近は患部に触れないようにしていますね。最近場の量子論を調べていて、非常に示唆的だった研究があったものですから。「古典的に粒子とみなされてきた物理系(電子など)の量子論も、場を基本変数にしたほうが良いことが判っている」(Wikipedia『場の量子論』)、なるほど、そういうことだったんですね、みたいな(笑)。

というわけでみなさん、共に夏を楽しみましょう！

音・才・発・見

GOLD CONCERT 12

第12回 ゴールドコンサート

2015年10月12日(月・祝) 15:30開場/16:30開演

東京国際フォーラム ホールC(バリアフリー対応会場)

障がい者の音楽コンテスト

■審査員長:湯川れい子(音楽評論家・作曲家) / 制作・総指揮:貝谷嘉洋 / チケット申込み:チケットぴあ(0570-02-9999 / Pコード268-206)
 S席指定 4,000円 / S席指定 3,500円 / A席自由 2,000円(高校生以下無料) / 車いす席指定 2,000円

※無料席・車いす席・聴覚障害者席をご希望の方、補助犬をお連れの方は事務局に事前申込。※必要な方介添者1名無料。※手話通訳・パソコン文字通訳あり。

■主催:NPO法人日本バリアフリー協会 ※日韓国交正常化50周年事業(外務省認定)

■協賛(50音順):アドビシステムズ株式会社 / 株式会社イングリッシュ / 公益財団法人オリックス宮内附団 / 関西学院大学 / キッコーマン株式会社 特別ゲスト出演

株式会社KDDIチャレンジ / 国際ソロプチミスト川崎 / 株式会社コヤマドライビングスクール / 大同生命社会貢献の会 / 日本コムシス株式会社

日本信託株式会社 / 株式会社日本テレソフト / ノーベルファーマ株式会社 / バイオニア株式会社 / ビー・ミュージック / 株式会社フォーシーズ

有明会社アジ オート FUJICON / 株式会社アジテレビジョン / Meiji Seika ファルマ株式会社 / 明治安田生命保険相互会社 / 株式会社モリシ

株式会社モンベル / リオうすい治療院 / 医療法人和楽会 ■協賛事業:公益財団法人JKA ■協賛:Adobe Foundation / 公益財団法人日韓文化交流基金



GOMA



■お問い合わせ: NPO法人日本バリアフリー協会
 TEL: 03-5215-1485 / FAX: 03-5215-1735
 Mail: info@npjba.org / URL: http://www.npojba.org

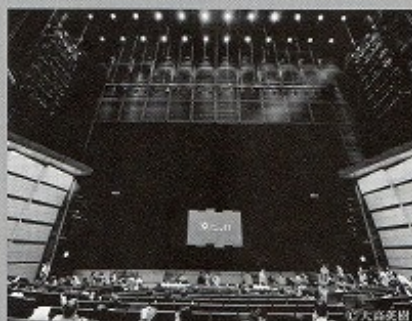
npjba NPO法人
 日本バリアフリー協会

今回で12回目となりますゴールドコンサートのご案内です。
このように継続できますのも、障がいをもつミュージシャンの演奏に力があるからだと思えます。

今年は、日韓国交正常化50周年です。この事業も記念事業として外務省より認定されています。これまで10年にわたり韓国から障がいをもつミュージシャンが来日し、ゴールドコンサートに出場してまいりました。今回以降も交流を深めていきたいです。

是非ご来場し、私たちの音楽を楽しんでください。

主催者代表 貝谷 嘉洋



コンテスト出場者

※出場順ではありません

出場者名	曲名	編成	障がいの種類	地域
舞とくる	未来	三線・ボーカル・パーカッション・手話歌 ほか	肢体・精神・内部・聴覚	沖縄
M A S A - T S U G U	Just for	ボーカル	肢体	岐阜
太田 将登	夕日	ピアノ	知的	東京
シンタロー	全ての「今」を君に...	ピアノ・ボーカル	内部	福岡
末辺 功也	エチュードOp.25 No.12「大団のエチュード」(ショパン作曲)	ピアノ	知的・発達	兵庫
高橋 直樹	チャルダッシュ (モンティ作曲)	マリンバ ほか	肢体・聴覚	宮城
神田 多恵子	しあわせの唄	ギター・ボーカル	内部	東京
DJ Yuta & Yulchi	Night Sky Sugar	シンセサイザー ほか	肢体	鳥取
YOUTA	ひかり	ピアノ	視覚	富山
柳田 誠	神様夢を叶えて	ボーカル・電子ドラム ほか	肢体	神奈川

※その他韓国とインドから各1組ずつが出演します。

※第9回ゴールドコンサートグランプリを受賞し、SHINKO MUSIC RECORDSより全国デビューした佐藤ひらりさんがゲストとして出演します。

東京国際フォーラムへのアクセス

住所: 東京都千代田区丸の内3-5-1 / 電話: 03-5221-9000

JR線

- ・有楽町駅から徒歩1分
- ・東京駅から徒歩5分
- ・京葉線 東京駅と地下1階コンコースにて連絡(4番出口)

地下鉄

- ・有楽町駅と地下1階コンコースにて連絡(D5出口)

インターネット生放送

当日の様子は16:30からインターネット生放送で配信します。
(PCおよびスマートフォンに対応)

※環境により視聴できない場合があります。
<http://gc.npojba.org/live>

■後援: 厚生労働省 / 文部科学省 / 東京都 / 千代田区 / 社会福祉法人NHK厚生文化事業団 / 社会福祉法人視覚障害者支援総合センター
全国自立生活センター協議会 / 全国特別支援教育推進連盟 / 社会福祉法人鉄道身障者福祉協会 / 一般社団法人日本筋ジストロフィー協会
公益社団法人日本フィランソロピー協会 ■協力 (50音順): 株式会社エイチ・アイ・エス / バリアフリートラベル専門デスク / FMC フォーモ編集部 / Give2Asia
株式会社クラウドドットコム / キュービーグループマッチングギフト「QPeace」 / 株式会社京道 / NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク
株式会社「ストーリー」 / シャープ株式会社 / スポーツニッポン新聞社 / デンマーク筋ジストロフィー協会 / とっておきの音楽祭実行委員会SENDAI
NPO法人日本バリアフリー政策研究所 / バンローリング株式会社 / 株式会社メディカルフォーラム / 六本木 Blues Dog Cafe ■ポスター制作: tomo

『うさぎ追いし』、本日封切りです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

最近ずっとチームを組んでいる井谷君経由で出演のお話を頂いた映画『うさぎ追いし』が、本日封切りになります。

こちらがポスターなのですが、何気に県内の色んなところで見ますね。

僕の名前は出ていないのですが、チラシの裏面には写真が出ています。小鴨神社での撮影の時のスナップです。ご興味ある方は探してみてください。

今日はプレミアとして、鳥取市内にありますわらべ館で上映されるようです。僕は**嫁の送迎**があるので行けないのですけれども。どんな編集になってんでしょうね。

因みに8月4日に、大山町でも上映されるようです。こちらは演奏の依頼もされたので、一応演奏つきということで。

というわけで、宜しくお願い致します。



平成26年度鳥取県鳥取力創造運動支援事業

「夏」映画制作作品

音楽は？
愛だあああああ！

唱歌「ふるさと」を巡る旅



脚本・監督 添谷 泰一

うさぎ追ひし

CAST

亀尾佳宏 柿原直旗 加藤裕美 林 一博 佐々木道乃 深堀久美子

吉田章一 ビルババ Chelip 谷本耕治 井谷優太 深堀賢太朗 河下哲志

ゴスペル・オーブ 高橋智美 合唱団こさじ 森田さやか THE COMIN'

STAFF

制作 渡辺純子 撮影 田村博文 田中晋 白石素志 小山大輔 助監督 岡田充哲

音声 山口東悠 録音結史 門脇隆繁 編集 田中晋 衣装 ふう 美術 ningyod スクリプター 石井恭子 スチール 谷脇秀雄



百年前の唱歌を巡る議論。それを検証する現代の旅。

それは「ふるさと」を探す旅でもあった——

あらすじ

大正3年。東京牛込、田村宅。鳥取県出身の田村虎蔵は唱歌を
言文一致させ、「金太郎」などのお伽唱歌を作り人気を博していた。
岡野貞一は、郷土の先輩田村を尊敬し遊びに来ていた。
そこへ、岡野の同僚、福井が来る。
田村と福井は、音楽教育について対立し大喧嘩の仲だった。
熱く議論をかわす二人。岡野は仲蔵にはいるが……。
そして現代。岡野の曾孫とその恋人は、隔けなかった田村から福井
への和解状を世紀を超えて届けようとする。
それは、自分たちにとっての「ふるさと」を探す旅でもあった。



解説

2014年2月「夏を越える少年たち」完成。2014年8月、長編第2
作目として、唱歌「ふるさと」をテーマにした「うさぎ追いし」クラン
クイン! ラジオドラマの原作はあるものの、この時シナリオは1枚も
書いていなかった。撮影日から逆算し、キャストと出会い、撮影場所
を決め、それからシナリオを書き出す。人物と場所の魅力を最大限引き
出すためにそのような方式をとった。そんないい加減なことで映画
って作れるの? と、よく聞かれる。作れます!(監督のつぶやき)

ざっくり日本音楽史

JAPANESE MUSIC HISTORY

時代	内容	曲
明治以前	民謡、わらべ歌、雑歌、事歌	「貝殻歌」「かごめかごめ」
明治の初め	西洋音楽は音楽家と共に、	「こんぺい太の赤ちゃん」は風邪ひいた〜 「たんたん狸の金時計〜」
明治14年	「小学唱歌集」日本初の音楽教科書 田村「アタと」長き音階が現れた。	「雲の光」「夏の千草」「蝶々」 「あわたせば」
明治33年	「幼年唱歌」歌の言文一致	「花咲橋」「大男娘」 「金太郎」「赤と亀」
明治43年 昭和19年	「文部省唱歌」 全て日本人が作った。 しかし、 「国」が作った歌であることを 強調するため作者名を匿名にした。 日本人が苦手とする七音音階。 当時としては珍しい三拍子の曲もあった。 「ふるさと」は七音音階、三拍子である。	教科書に準拠した歌 「三宮金次郎」「鎌倉」 「那須野」 戦争に賛同した歌 「広瀬中佐」「我は海の子」 「永野宮の会見」 多くの風刺歌 「海」「牧歌」「冬景色」「朝の霞」
大正7年	児童雑誌「赤い鳥」が発行され、童謡誕生	「七つの子」「青い目の人形」 「赤い靴」「しゃばん玉」
昭和の初期	戦意高揚して軍歌が作られた。	「海ゆかば」 「船め一徳次郎の王だ」
戦後	戦後、人々を励ましたのも歌だった。 アメリカからジャズ	「リンゴの唄」「東京ブギウギ」 「青い山脈」 「ムーンライトセレナーデ」 「茶色の小娘」
現代	不滅のロケタビ音階 今は何れもあり 演歌、フォーク、ロック、テクノ、 ヒップホップ、Jポップ、カラオケ	曲の一部あるいは全てがロケ タビ音階の歌。 「上を向いて歩こう」 「木曜日のランカデー」「島」 「にんじやんぱんぱん」 「恋するフォーチュンクッキー」



2015. 7月24日(金) 公開

開場 / 17:45 上映開始 18:15~(上映時間約2時間15分)
場所 / わらべ館いべんとほーる 鳥取市西町三丁目202
TEL / 0857-22-7070 参加費 / 無料
主催 / 鳥取県、わらべ館(公益財団法人鳥取県民・おもちゃ館)

DJ Yuta & Yuichiで、東京国際フォーラムでライブをすることになりました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

DJ Yuta & Yuichiで、10月12日に東京国際フォーラムで行われます第12回ゴールドコンサートに出演することになりました。

実はこのコンサートは、名前自体は以前から音楽療法関係で知っていたのですね。ただその当時は諸般の事情で(笑)東京にいつつもエントリーすることはなく、完全に忘れていました。それを井谷君のお父さんがラジオで聞かれたそうで、エントリーしてから、あれ？これってもしかして？ということで、つながりました。

デモを送ったのは先月末だったのですが、昨日、最終予選を通過したので東京国際フォーラムでの演奏をお願い致します、との連絡が入ったそうです。東京国際フォーラムですか。美術展関連で行ったことは何回もありますけれども、演奏することになるとは思ってもみなかったですね。しかも、たった10組の中に残ったというのは、ある意味凄いですね。

送ったのは、以下の曲です。トランスっぽい早めの曲が多かった彼が、最近ゆったり目のサンプル作ったんですけれども、と言って聴かせてくれたもので、いいんじゃない？ちゃんと形にしたら？とけしかけて(笑)出来上がりました。ライブでも何回かやっているのですが、デモ用にはリアルタイムでKaossilatorのSEを入れ、それを僕が持って帰ってElektrostudio eSLineとギターを重ねてマスタリングし、Chillout仕様にしてみました。ええ、Arp Solinaっぽいハイを利かせたストリングスがキモなんですよ、みたいな(笑)。

さて、本番ではどうでしょうかね。デモ通りにギターでいくか、あるいは更に壮大にVangelisみたいな感じで攻めてみましょうかね。[この音巨大スピーカーで鳴らしたらどんなかな](#)みたいな音ネタとかもあるので。そこら辺当日まで、二人でじっくりと考えることにします。

因みに、コンサート自体はコンペ形式になっているのですが、彼は、[グランプリ狙います](#)、とFacebookで断言しちゃってます。じゃあ僕もそれでいきます。というわけで、日が近くなりましたら改めてご案内致しますけれども、皆様のご来場を心よりお待ちしております。終わった後は当然ナタラジでディナーを(笑)。

<[Yuta Itani - Night Sky Sugar \(Yuichi Nakahara Remix\)](#)>

Summer Sonic 2015に応募してみました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先だって、最近ユニットを組んでいる井谷君より突然連絡がありました。「**サマーソニックに出たいんですけれども**」。何？サマーソニックだと？いいんじゃない？野望を持つことは良いことだ。僕は大きいに奨励するぞ。じゃあオーディション用に新曲作るとか、用意をしないといけないな。「**いえ、もう送っちゃいました**」。なんだ、事後承認かい。

というわけで、毎年恒例の夏の野外音楽フェスティバルとして有名であります、"Summer Sonic 2015"。取り敢えず応募してみることにしました。僕は全然知らなかったのですが、数年前から公募枠が設けられていたみたいです。本日から投票が始まって、終了は14日だそうです。

それならそれで、もうちょっとハデ目の曲準備したら良かったな～とは思ったのですが、文字通り後の祭りです。これにパスしたら7月中旬に二次審査があって、それにもパスしたら8月15日に幕張メッセらしいんですが、本番ではジミなアンビエントではなく、アゲアゲのEDMにでもしましょうかね。そこら辺のノンジャンルな節操の無さがこのユニットの売りだったりもして(笑)。

因みに当の井谷君は、投票の案内を持って一昨日**NHK**と**鳥取県庁**と**鳥取市役所**に乗り込んだらしいです。さすがに僕もそんな度胸はなかったりします。「いや～、皆さんとは懇意にさせて頂いてますので」。なるほど、**ナニゲに政治力がある**みたいな。非常に見習うべきものがあります(笑)。

投票ページは、以下になります(Twitterのアカウントが必要になります)。というわけで、皆様の清き一票を宜しくお願い申し上げます。通りました暁には、首都圏の皆さん、ナタラジでインド料理でも(笑)。

[**出れんの！？サマソニ！？DJ Yuta & Yuichi 投票ページ**](#)

5月31日13時より『とっとり花回廊』にてライブを行います。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今月末の5月31日日曜日午後1時より、日本最大級のフラワーパークであります『**とっとり花回廊**』にて、**DJ Yuta & Yuichi**でライブを行います。

ばらまつり&クレマチス展だそうです。**私にばらやクレマチスが似合うかどうかはかなり微妙**だったりしますが、何はともあれ県内有数の観光地でのライブなので、張り切っていきたいと思います。一応広告にはエレクトロニック・フュージョンとなっていますので、それ系の楽曲を現在準備中です。

演奏する場所は園内のヨーロッパアンガーデンなのですが、雨天はフラワードームということです。でも実は個人的には、このフラワードームが気になるんですよね。昔大阪で万博が開かれた時に、私の大好きなKarlheinz Stockhausen先生がドイツ・パビリオンの設計並びにそこで"Spiral"、"Pole"、"Expo"といった代表曲を演奏されました。ラジオから流れる日本の株価の実況放送に合わせた"Spiral"なんて是非聴いてみたかった気がしますけれども(笑)、このフラワードームがドイツ・パビリオンそっくりなので、一度ここで演奏してみたいな、と思っていたのですが、正に願ったり叶ったりというか。ですから雨なら雨で面白そうだな、と個人的には思ったりもしています。

というわけで、皆様のお越しをお待ち申し上げております。

[とっとり花回廊・ばらまつり&クレマチス展](#)(ページの最下部に、紹介文があります)



小鴨神社で、突撃レコーディングを敢行致しました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

以前奉納演奏をさせて頂いたこともある市内の小鴨神社で、DJ Yuta & Yuichi名義で、レコーディング機材と照明機材を持ち込んで突撃レコーディングを敢行致しました。

今回のコンセプトは完全即興演奏ということで、事前に用意した楽曲はあえて用いませんでした。因みにアイディアの元は、Brian EnoのOblique Strategyです。John Cageの『易の音楽』を参考にして作られた奴ですね。その直前にトラブルに見舞われた関係で十分なレコーディング時間は取れなかったのですが、いい感じで録音が出来たと思います。

一曲目は和太鼓のパターンを用いた、パーカッシヴなものです。途中でTangerine Dreamっぽくなっていますけれども、仕方がない、好きですから(笑)。二曲目はテンポを落として、沖縄音階を用いました。でも帰って編集していると、嫁に、「何でジャワの音楽を作っているんだ？」と訊かれました。なるほど、そういう切り口もあったか。個人的には、こっちの方がゆったりとしていて好みですね。いずれにしる、南の島って感じで。

宮司さん、いつもお騒がせして、申し訳ございませんでした。m(_ _)m

**<DJ Yuta & Yuichi Improvisation @ Ogamo Shrine Take02
Full>**

**<DJ Yuta & Yuichi Improvisation @ Ogamo Shrine Take01
Full>**

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

この週末の教室で、この件に関して参加者の方々と議論してみたところ、非常に面白い証言が得られたので、ここに追記しておきたい。

まず、「地中に埋められた何か」。この話はHさんも聞いたことがあるらしい。Hさんの出身のかなり歴史の古い小学校がこの地域の中心にあるのだが、彼女の子供の頃からも、校庭の真ん中に何かが埋められている、という噂が絶えなかったらしい。しかもこの小学校は、今も昔もやたらと奇怪な現象が多発するとのことだ。不思議なことにRさんは、いつもこの小学校を目にすると、そこにいつも救急車が止まっている、と言っていた。因みに私はそういう経験はないのだが(嫁の友人によれば、ポイントになるのは土だそうだ。幽霊を鎮めるには、彼らが生きていた時代のものをそのツールとして用いなければならない。しかし何百年もの昔からあるもので、我々が日常的に手に入れられるものといえば、一体何か？それが土なのだそうだ。最も強力なのは、神社の土ということである)。

基本的にこの地域にある小山には大昔に城があったくらいだから、その一帯自体がそもそも古戦場だった、と言っても良いかも知れない。この小山には公園もあるのだが、そこには実際、「ウジャウジャいる」そうである。その公園の辺りにも、そのものずばりと言っても良いくらいの名前をした神社がある。古戦場跡地などは全国にもたくさんあるが、何故こんな不気味な名前の神社をわざわざ作ったのであろうか。何か凄惨な戦いでもあったのだろうか。残念ながら古史を見ても、詳しいことは何も書かれていない。

このRさんもかなり靈感の強い方で、彼女も甲冑を着た武士の姿を見たことがある、という(ただし彼女がそのような武士を見たのは、嫁の友人が見た場所からはかなり離れている)。しかも彼女は武士だけではなく、やはり軍服を着た軍人の姿を見たことがあるそうである。

話は以前教室をしていたあるカフェの話になった。そのカフェもいわくつきで、実は私達夫婦はそこでバティックの展示会をしたことがあったのだが、それ以降嫁はそこへ行くことを拒否するようになった。嫁いわく、初日はそうでもなかったのだが、二日目に異様な視線を感じるようになった。三日目になると間違いなく誰かが自分のそばにいる。四日目はとてもじゃないが耐えられないというような状態になったという。その話をRさんにすると、「初日から奥さんのそばにずっといらっしやいましたよ」ということなので、やはり何かしら関連性があるのかも知れない。余談だが、その話をそのカフェに一時期おられた方にすると、自分は靈感なんかは全くないし、数回そこに泊まった時も特に何も感じなかったのだが、ある朝行くと前夜鍵を掛けていなかったはずのトイレが中からロックされていて、あの時だけは怖かった、とおっしゃっていた(

因みに、今でもそこはカフェである)。

私はここで非常に興味を持ったので、彼女に尋ねてみた。一体そのような存在は、どのような見え方をするのか。よく昔から描かれるように、足がないとか、透明だとか、そのような特徴があるのだろうか？彼女に言わせれば、一見そのような区別はなく、我々が普段人を目にするのと全く同じような見え方をするそうで、良く見たら行動ないしは着ているものが他の人と微妙に違っている、ということで幽霊と判断するそうである。例えば、彼女は姫路城に行った時に、観光客と全く同じ位置にいたのだが一人だけ和服を着ている女性を見た。しかもその女性はその位置から全く動こうとしないので、これは幽霊だな、と判断したそうである。

彼女いわく、それは映像などでも同じだそうである。ある時テレビを見ていたら、高野山の春先の祭りの実況中継をしている。アナウンサーは明るい調子で普通にしゃべっているのだが、その背後に明らかに様子のおかしい人物が映っている。しかもその周辺の人、その存在に誰も気付いている様子はない。更に彼女は、ある日本の有名なホラー映画の話もしていた。映画なので周到に編集されているであろうにもかかわらず、しっかりと幽霊らしきものが映っていたそうである。彼女は、外国のものはそうではないが、日本のものにはたまにそういうものがあるそうである(私の大好きな、武満徹が音楽監修をしている『怪談』などはどうなのだろうか？(笑))。

ヨガや気功に限らず古今東西の神秘学では、宇宙は多層構造をしていて、別の層の様相を見るにはそこにアクセス出来る意識レベルに移行するしかない、という言い方をしているものが多々ある。それはこのような話と照らし合わせてみても、納得出来るかも知れない。例えばそれは、Photoshopのようなものかも知れない。そこではキャンバス上に様々なレイヤーを重ねることで一つの画像が出来上がっているのだが、あるレイヤーとあるレイヤーとは互いに独立で、お互いを直接見ることは出来ない。それぞれを見ようとすれば、更に別のレイヤーに移動する必要があるのだ。多重録音も同じである。ドラムスのトラックとベースのトラックにはそれぞれドラムスとベースしか録音されていないのだが、それをマスタートラックに流し込むことで、アンサンブルとして聴こえる。我々の見ている世界もそのように、普通の意識では普通に見る観光地なのだけれども、別の意識で見ればそこには血まみれの武者が(自分達がとっくの昔に死んでいるにもかかわらずそのことを知らずに)闊歩しているというような、そのような多重構造をしているのかも知れない。

私の友人が入院してしまったこと自体は不幸なことではあるが、それをきっかけにして私は古来よりの意識論、そしてそこにアクセスするための身体技法を、もう一度探してみる必要があるかも知れない、そう考えるようになった(今非常に気になるのは、インドネシアの技術である)。ドン・ファンは、「ものの見方を変える」と言っていた。私はそれを、一種の皮相なポジティブ・シンキングと似たようなものと考えていた節があるが、実際は違うのかも知れない。

その時はこののっぺらとした田舎町も、突然違った様相を呈することになるのかも知れない。

5月10日のパープルタウンでの演奏の模様です。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

パープルタウン企画室の植田さんが、5月10日の我々のライブの模様を撮影して下さいました。

天候は非常に良かったのですが、逆にあまりにも良過ぎてPCのモニターが見えませんでした。何のシンセ弾いてんだっけとアワ喰ってる様子もバッチリ映ってます。僕ってこんな感じで弾いてんだなと、ある意味不思議な感触ですが。**キーボーディストもっとアクションつけたら？みたいな**(笑)。完全インプロヴィゼーションなので、最後10分くらいのところで**いつ終わるだいや**みたいな表情でメンバーが顔を見合わせるのをご愛嬌だったりしますが、途中でWeather ReportみたいになったりEL&Pみたいになったり突然シーケンスが始まったかと思うとレゲエになったりみたいな分裂気味のごった煮感は、個人的には好みだったりします。後ろの遊具とのミスマッチ感もナイス、みたいな。そんな感じでまったりと聴けると思いますので、BGM代わりにお聴き頂ければ幸いです。

因みに植田さんは、録音された音源を一旦Logicに取り込んでマスタリングしてもう一度映像に戻すと、凝った作業をして下さいました。深謝であります。

というわけで、今後とも宜しくお願い致します！

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先月、私の友人が入院した。

彼女はその数日前に、市内のある界隈に店を構えたばかりだった。開店したかと思ったらそのようなことになってしまったので、彼女を知る人は不可解に思っている様子である。

しかし私だけは、その真実を知っている、と言っても良いかも知れない。

彼女は開店準備をしている時から、店の中が何かおかしい、としきりに訴えていた。誰かがいると。時々ただならぬ気配を感じてぞっとする時があると。しかしこれは、彼女だけではなかった。うちの嫁と開店祝いを持って彼女の店に行った時に、嫁もそう言っていた。

入院先から彼女が私に会いたいというので、私は彼女の見舞いに行った。彼女が言うには入院して以来、身内以外で最初に会った人間は、私が最初だという。彼女は非常に怯えていた。事の顛末を訊ねると、店を開けようと思って扉を開けた瞬間に何かが彼女に迫ってきて、そこからの記憶がないという。無理に訊ねてフラッシュバックを起こされても困るので、私はただ黙って聞いていた。

実は私は、その界隈と全く無関係というわけではなかった。その界隈は市が近年観光地として売り出そうとしている一角で、私もハンドクラフトを制作している嫁の仕事の内容上、そこに出店しないかという話を何回か受けたことがあった。しかし私は最初からその界隈にただならぬ気配を感じていて、ずっと断り続けていた。理由はわからないが、「あり得ない」といった感覚だった。そこに彼女が店を出すというので応援してあげたい反面、本当に大丈夫なのかな、という一抹の不安もあった。その予感残念ながら、的中してしまったわけである。

そんなこともあって何だかすっきりしない日々を過ごしていたのだが、そんな時に嫁の友達が、ゴールデンウィークに合わせて私達を訪ねてくることになった。折角の連休なんだし、こんな何もないところに来るなんてもったいない、とは思ったが、どうしても私達に会いたいということだったので、私達も歓迎することにした。

私達は市内のいつも利用する中華料理店で昼食を取ることにしたのだが、私は話の内容を慎重に選んでいた。というのは彼女は強力な靈感があり、それに対して私も仕事柄興味がないわけではないのだが、いわゆるプロフェッショナルに興味本位でそのような話を吹っかけるのは、非常に気が引けたのだ(『恐るべきインドネシア呪術の世界エピソード4～消えた文明の謎』参照)。私

は努めて他愛のない近況の話をしたのだが、その時何気なく、その彼女の話に触れてしまった。

彼女は非常に印象的な目でもって、こう言った。彼女はその存在を見てしまった。恐らくそれは一生彼女を離れることはないだろうと。私も霊のような存在を感じる時がたまにあるが、彼女が言うには、それをただ感じるだけと見るのでは、雲泥の差があるという。一度でもそれを見てしまうと、それは一生付きまとうのだそうだ。憑依(possession)とはそういう意味なのだという。

しかし私は不思議に思った。その界限は彼女は前回来た時にも、一緒に訪ねたはずだ。彼女には何の影響もないのだろうか？彼女が言うには、彼女の守護霊(guardian spirits)の力は強大なので、彼らは近づくことが出来ないのだそうだ。これと似たようなことを私も言われたことがある。あるところで気功の練習をしていた時のこと、ある生徒さんの背後に霊のようなものが現れて、彼女の首を絞め始めたそうだ。その時何気なく(そう、本当に何気なく！)私が彼女の方に手をかざすと、その手は消えたという。昔、「あんたには陰の世界のものは近づけなくなっている」と師匠は言ったが、程度の差はあれ似たようなものかも知れない。

突然彼女は、私は今そこにいる、と言った。言うまでもなく相変わらず私達は中華料理店にいるにも関わらず、である。私はこれは、仙道でいう一種の出神の状態かも知れない、と考えた。彼女はその界限に、異様な出で立ちをした集団が歩き回っている、という。そのうちの一人は甲冑を着て、血まみれの刀を下げている、そしてその先頭を歩いているのは、まげを落とし、草鞋を履いて、白装束を着ている人物であると。恐らく彼は、何かが原因で処刑された人物なのかも知れない、という。

ここで私は、あることを思い出した。実は、私の周囲で靈感が強いと思われる友人達も、以前から同じようなことを言っていたのだった。しかし彼女達が「兵士」という言葉を使うものだから、私は戦前の軍人をイメージしていたのだがそうではなく、どうやらそれよりずっと以前の、武者の一群だったようだ。

彼女が言うには、あの界限は基本的に「除霊」が必要なのだが、その辺りにある寺が法要をしても全く効果がないという。それはどういうことなのかと訊ねると、彼らはその寺が出来る以前からその辺りに憑依している状態になっているので、それ以前からある神社などでなければ意味がないという(彼女は、地中に埋められた何かと関係があるようだ、とも言っていた)。興味を持ったので後で調べてみると、あの界限が街らしき形になったのは500年以上前で、当時その中心部には、城もあった。だとすればかなり以前からその界限に棲みついている、一種の地縛霊ということになる。

彼女は私に、彼女が見ているその集団の着ている着物をかなり細かく描写してくれたのだが、

それは正に戦国絵巻か時代劇にでも出てきそうな出で立ちそのものだった。インドネシア人なのに、何故ここまで細かく日本の甲冑、あるいは正に処刑されようとしている武者の描写が出来るのか？意地悪く言えば、それは彼女がテレビか何かで見たものが投影されているだけさ、ということにでもなりそうだが、一連の流れを知っている私には、そうやって一笑に付すことは出来なかった。

彼女がそう言ったからといって、私は地元の役場か商工会議所かに行って神社に祈祷をしてもらうように進言するつもりは、今のところない。そんなことをしたってまともに取り合ってくれないのは、百も承知だからだ。また私も気功家とは言え、そのような技術は学んだわけではない。私が学んだのは禅系統の気功法なのだが、むしろそれは道教系統になるのかも知れない。更に彼女の話額面通り受け取るとすれば、そのような道教呪術も効果があるという保障はない。だとすれば彼女以降も、第二・第三の犠牲者が出るのは避けられないだろうが、私にはどうすることも出来ない。何とも後味の悪い話ではあるが、致し方あるまい。それがこの街の宿命なのかも知れない。

もっと色々話を聞きたかったのだが、私はその後アポイントメントがあったので、残念ながら先においとますることにした。私は非常に名残惜しかった。

しかし、彼女はどうかその後嫁に、私の運命に対する重要な指摘もしたらしい。その真意がどこにあるのかは、また次回お会いする時までのお預け、となりそうである。

<追記>

今日の教室では、同じようなヴィジョンを見た方々も参加する予定になっているので、彼らの見たヴィジョンと彼女の見たヴィジョンを比較検討する時間を設けるつもりである。もしそれらに少なからぬ一致点があるとすれば、そこには何らかの関連性がある、と考えて良いのかも知れない。

専門家向けの『エネルギー・チャネル・バランスング・メソッド』講座をスタートさせました。

JUGEMテーマ：[代替医療全般](#)

この度新規に、専門家の方向けの『エネルギー・チャネル・バランスング・メソッド』という講座をスタートさせました。

私のところには、普通に気功を試したいという初心者の方だけではなく、プロフェッショナルなヨガのインストラクターの方ですとか、現役の医師の方、看護師の方もお出でになられるのですが、以前よりその方々から、体系立てて東洋医学の基礎を学びたい、という要望がかなりございました。馬氏点穴療法や一指禅功を本格的に学びたいということであれば、私が学んだ無為気功養生会の廖先生のところに行っていただくより他はないのですが、西日本の方ですとなかなか時間的にもコスト的にも難しい。何とか効率良く学べないものか、そのお声に答えるべく僭越ながら、この講座を始めることに致しました。

お教えするのは基本的に、東洋医学の基本コンセプトであります、経絡・経穴(いわゆるツボ)の基礎理論です。通常経穴にご興味のある方は書店でツボ療法に関する書物をお求めになられたりするわけですが、いかんせんそれらの書物では個別のツボですとか症状別にバラバラに焦点が当てられていることが多く、非常にわかりにくい場合があります。それら経穴を整理する理論として経絡理論があり、更にその経絡を整理する理論(というより正確には、その関連性をより覚えやすくする理論)として陰陽五行論があるのですが、そのように実践的な視点から説明がしてある書物は、少なくとも私は目にしたことがございません(むしろ海外の書物の方が、それに成功しているケースがありますね)。実際経穴は一説によると360個以上もあり、それを逐一敷衍していったのでは、膨大な時間と労力がかかってしまいます。そこでこの講座では逆に、それらをまとめる12本の経絡をベースにして、初めての方でも容易にご理解いただけるようにわかりやすくまとめてみました。

更には、実はここがこの講座のポイントなのですが、**実際に経絡に気が流れていくとどうなるか、これをご自身の体で実際に体験しながら**学んでいただきます。これは気が扱える我々のような気功家でなければ不可能なことです、これを中心に据えてみました。例えば、大腸経の経穴をヒットさせた時にその気がどうやって体内に入り、どうやって大腸経を流れていくのか、それが最終的に大腸に達するとどのような変化が起こるのか、これを実体験していただくことで、経絡理論を知識として学ぶのではなく、文字通り会得していただくことが出来ます。それによりそれ以降の学習が、非常に容易になると思います。不思議なことなのですが、ヨガとか気功、中国武術を長年勉強されているにも関わらず、気(プラナ)の感覚ですとか、丹田あるいはチャクラの感覚が全然わからない、とおっしゃる方がいらっしゃるんですね。そういう方には最適

なプランだと思います。

具体的な各講座の内容は、次の通りです。

第一講 経絡・経穴基礎論、陰陽五行論、風水理論、督脈・任脈(奇経八脈)

第二講 肺経・大腸経

第三講 胃経・脾経

第四講 心経・小腸経

第五講 膀胱経・腎経

第六講 心包経・三焦経

第七講 胆経・肝経

そしてこのような理論に加え、実際にこのメソッドを運用する際に必要不可欠な、気の力を強化する気功法の実技も行っていきます。もちろん本格的な気功家になるという場合にはそれ相応のトレーニングが欠かせませんが、この講座だけでもそのスタートは、十分に切れるものと考えています。特に、すでに実際に施術等をされていらっしゃる方で、施術後にどうしても体調を崩してしまう、とおっしゃる方がいらっしゃいますが、そのような方は施術に「後天の気」(食物・呼吸等により後天的に獲得される生体エネルギー)ではなく「先天の気」(先天的に持っている生体エネルギー)を使っている場合がありますので、そのまま施術を続けるのは危険です。そのような場合にどのように自己防御を図れば良いのか(この問題も経絡理論と、密接な関連があります)、そういった専門家向けの突っ込んだ内容にも触れていきます。

料金は、各講座2時間ずつで10,000円×7回の、計70,000円です。

冒頭にも触れました通り今回の講座は、実際にヨガのインストラクターをされている方や、医療関係・ヒーリング関係のお仕事をされている方向けの、実践的かつプロフェッショナルな内容です。もちろん経験の浅い方でも受講は可能ですが、かなり専門的な内容のため、全くの初心者の方の場合は受講をお断りする場合がございますので、ご了承下さい。私もそのつもりで講座を進めていきます(全くの初心者の方の場合は、今までと同じく一時間単位の個人指導をご利用下さい)。先月末に最初は非公開の形で講座をスタートさせたのですが、すでに受講いただいた方々にはご好評を頂いております。やはり気が体内を流れていく感覚を体験するというのは、我々では普通のことなのですから、初めて体感される方にはかなり驚かれますね。

ますます混迷を深める現代社会。それを生き抜くには自分で自分を守るしかありません。そのツールとしてこの講座をご利用頂ければ、嬉しく思います。

5月10日に、今度はパープルタウンでライブです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先だっては、タターガタ市でのライブにお越し頂きまして、真に有難うございました。

市自体も、大成功でしたね。年々出店者さんもお客さんも増えているような印象を持ちました。ライブは昼過ぎでしたので、ちょっと前でも間に合うかな、と思ったら、すでに駐車場満杯でかなり焦りました(苦笑)。中も真っ直ぐに歩けないほどの人であふれ返っていましたしね。暑いくらいの天気でしたので、何だかバリに來ているような雰囲気でした。いや〜、このような盛大なイベントを企画されたスタッフの皆様には、本当にリスペクトです。

演奏も気持ち良くさせて頂きました。フリーインプロヴィゼーション・スタイルのジャズ・ロックなんて、かなりアナクロじゃないかな、と不安な部分もあったのですが、有難いことに好評だったみたいで、とても嬉しく思います。ただ演奏中いきなり**鍵盤がペカッと外れまし**

てアワ喰っちゃいましたけれども。去年はPCが暴走始めましたし。「中原さんここで演奏すると何かありますよね」とドラムの上原君は言っていましたけれども、まあ結果オーライということで。後で録音されたものを聴いてみますと、本当に僕の趣味そのまんまというか、Tangerine DreamとMiles Davisを足して二で割ったようなサウンドになっていて笑えました。メンバー二人も実力者ですしね。非常にやりやすいグループです。

で、次は5月10日です。倉吉市内にあるパープルタウンというショッピングモールで開店30周年を記念した『[さんさんマルシェ](#)』というイベントがあるのですが、そこで演奏致します。何でもバンドは我々だけとか。バンドってこの鳥取県中部辺りでは、ほとんど絶滅危惧種だったりする。しかも我々自身も、倉吉で演奏するのはほぼ3年振りみたいな。**ファミリー層が主体っぽいイベントでいきなりクラウト・ロック**ってのもアレなんですけど、何せお祭り好きの我々のことなので、頑張って演奏することにします。午後1時からです。

というわけで、皆様のご来場をお待ち申し上げております。













第2回

purpletown
**さんさん
マルシェ**
Sun Sun marché

2015.

5/9 土・10 日

10:00 - 16:00 (荒天中止)

パープルタウン正面駐車場

倉吉市山根 557-1



**かわいい雑貨や
グルメ大集合!**

布小物店はやくま

手作り雑貨、雑貨、ペットおやつ等

JAPAN CREPE

米粉クレープ、タピオカドリンク、スムージー

オープン化粧品

ハンドマッサージ

NPO法人
東伯けんこう

広島風お好み焼き、野菜、果物等

free&rough

手作りレザーブレスレット、アクセサリ等

キッチン&カフェ
プランタン

ポテトフライ、さつまいもスティック、かき氷等

たこ忠

たこ焼、焼きそば、からあげ等

はら屋

たい焼き、サーターアンダギー

東北支援薪プロジェクト

窯焼きピザ ※9日のみ出店

コミュニティーハウス 楽

焼き菓子、生菓子、雑貨等 ※9日のみ出店

お米と自然食品のお店

ねこ。

自然食品(菓子、調味料等) ※10日のみ出店

カイロプラクティック

整体(骨盤矯正)、ワンポイント施術

※10日のみ出店

浜根農園

Pâtisserie miho

焼き菓子、野菜、加工品 ※10日のみ出店

駐車場に
芝生の広場
が出現!

芝生広場

- ・飲食休憩スペース
- ・ふわふわミニドーム

5/10 (日) イベント Day

13:00 START

バンド、ダンスショーなど

出演: MMS (バンド) 他

↑雨天時は館内パータン広場にて開催します。



主催:  **パープルタウン** ●お問合せ パープルタウン本部事務所 ☎(0858) 26-5111

※イベント、出店店舗、出品内容は変更になる場合がございます。

映画に出てきました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昨日、映画に出てきました。

普段「シンセ」と略称している「**シンセサイザー**」が言えなくて、何度もカミまくりました。

でも面白かったです。映画ってこうやって作るんだなみたいなの。

上映された暁には、スクリーンを見て笑ってやって下さい。

僕のシーンがカットされていたら、もっと笑ってやって下さい。

7月に、鳥取市のわらべ館を皮切りに、順次公開予定です。詳細はその時に。

4月26日、タターガタ市にMMSで参加致します。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

4月26日日曜日、鳥取県米子市淀江町で開催されます『[タターガタ市](#)』に、MMSで参加を致します。

MMSでの参加は、昨年に続き今回で二回目になります。前身のMad Mouse Sessionsを含めると三回目ですけれども。その時は僕はインドネシアで食あたりで七転八倒していましたが(笑)。旧酒蔵を転用したイベント会場で行われるのですが、昨年も物凄い人で、びっくりしましたね。鳥取県界限で活躍されるクラフト作家さんを含めた各界の方が一同に集まる、稀有なイベントになっております。季節的にもこれから夏へ向かうという時期でもあるので、何だか雨季から乾季に入ろうとしているバリの市場みたいな雰囲気で、とても楽しかったですね。

昨年は演奏中にPCが暴走をし始めてアワ喰っちゃいましたけれども、今回はその対策はバッチリ取りましたので、問題ないです。恐らく(笑)。三人だけですけれども、僕自身も非常にやりやすいグループです。何せ完全インプロヴィゼーションですから。二人ともバカテクですしね。しかも[普段やっている音楽が三人とも全然違う](#)みたいな。そこら辺の清濁併せ呑む的な守備範囲の広さってとても重要だと思います(笑)。Electric Milesですとか、CanとかCosmic Jokers、Amon Duul辺りのクラウト・ロックがお好きな方には、[間違いなく自信を持ってお勧め出来ます](#)。はい。今回もそれ系を意識して、メロトロンとかソリーナとかローズとかアープ・オデュッセイ辺りをガンガンに仕込んで臨みたいと思います。

というわけで、タターガタ市でお会い致しましょう！

タタ-ガタ市

in 大正蔵

4月26日(日) 10~18時

GALERIA TAISHOUGURA

入場無料

18日午後7時30分より湯梨浜町にて、第四回気功講座を開催致します。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

来週18日土曜日午後7時30分より、湯梨浜町健康増進事業の一環として、第四回気功教室を開催致します。

今回は、アルツハイマーと五月病に対する東洋医学的な対処方法について話をしてほしい、と依頼を受けたのですが、一応この二つの問題に焦点を当てつつもう少しキャパを広げて、「心のアンバランス」についてお話させて頂きたいと思います。

「スタバはなくてもスナバはある！」、「カネはなくてもカニはある！」。いいですね～。でも他にもあります！それは何か？何と鳥取県は、**うつ病患者数で全国第二位**なんです！

[都道府県別統計とランキングで見る県民性](#)

堂々の一位には、こんなのもあったりする。

[都道府県別統計とランキングで見る県民性](#)

このような現象は、何故起こるのか？非常に社会学的・人類学的にも興味深いところですが、**その理由は間違いなくあります**。そこら辺の言わばブログには書けない**タブー**と**でも言うべきブラックな領域**にも踏み込みつつ、お話をさせて頂けたらと思います。

というわけで、お問い合わせは湯梨浜町役場まで。しかしこんな生粋の毒舌家の私を放し飼いにして頂けるとは、いや～湯梨浜町さん太っ腹！鳥取県の若い世代の皆さん、引っ越すなら湯梨浜町へ(笑)。

横浜アルメニア展、コナン博物館ライブにお出で頂きまして、真に有難うございました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

3月11日から15日までの横浜アルメニア展、21日の鳥取コナン博物館でのライブにご来場頂きまして、真に有難うございました。

僅か一週間の間に横浜と鳥取で連続で作品発表という怒涛のようなスケジュールをこなしたわけですが、とても面白かったですね。メンバーのDJ Yuta君やミキちゃんも、「強烈に中身の濃かった数日だった」と言っていましたけれども、全く同感です。ナタラジのカレー、美味しかったですね(笑)。

一番大きな印象は何かといえば、何というか、よく言われる**地域格差**というものを、まざまざと見せ付けられた感がありますね。以前東京に住んでいた時も確かに鳥取と東京を行ったり来たりはしていましたけれども、ここまでの印象はなかったな、という感じです。だとすれば僕のものの方が変わったのか、地域格差そのものがここ数年で目に見える形でより拡大したかの、どちらかでしょうね。こんなことを書きながらネットを見たらこんな記事もありましたから、やっぱり間違いじゃなかったみたいですね。

地域格差が悪化、6年ぶり高水準 景気回復実感広がらず

(朝日新聞デジタル 3月22日(日)5時9分配信)

アートアートと良く言いますが、やはりアートは社会に立脚した「文化」なわけですから、その担い手たる人そのものにどうしても寄ってしまいますね。地方のように発表する場所が限定される上に、それを楽しむ人が更に少ないとなると、どうしても廃れてしまう。そういう意味では需要と供給のバランスが取れているといえれば取れているわけで。ネガティブな方向にですけれども(笑)。

アートで地方活性化という名目で様々な場所で様々な試みが行われていてここ鳥取県でもそういうのは良く耳にしますが、それは大抵東京のアーティストを地方に招聘する形が多いように見受けられます。それはそれで僕は有意義なことだと思いますけれども、それってどうしてもコストと手間が大幅に掛かってしまう。更にそれが根付くかどうかとも未知数。これ良く考えてみれば、正に西洋医学でいうところの臓器移植と全く同じかも知れないですね。一步間違えると拒絶反応を起こされて終わり、みたいな。

ですから東洋医学者たる僕は、違う形を取りたいですね。それはつまり、地方におけるアーティストそのものというソフトの開発です。その方がもともと彼ら自身がすでに地域に根ざしているわけですから、拒絶反応を起こされることもない。

その意味では、今回二人のアーティストを東京でご紹介出来たということは、僕的にも成功だったかな、と思っています。鳥取へ帰還後も、DJ Yuta君は精力的にライブ活動を行っていますし、ミキちゃんは4月7日の自分のショップのオープンに向けた準備で大忙しです。僕も負けられないですね。

今後もこんな感じで、地方で有能なアーティストの卵を見つけ出してけしかけて(笑)、立派なアーティストとして都市部でご紹介する。そのような活動をしていきたいな、と考えています。

まあやはり生きてるんなら、楽しいことがやりたいじゃないですか。そう思いませんか？僕はそう思いますけれども。少なくとも今の僕にとって、気功なんてやりたいことじゃないですから。そ

んなもん単なるトレーニングなので。一指禅功やれば元気になるの、当たり前じゃないですか。問題はその元気になった体で、何をやるのかですね。そこにフォーカスした活動を、今後も続けていきたいと考えています。

というわけで今回お目にかかった皆様、本当に有難うございました。今後とも宜しくお願い申し上げます。最後に、DJ Yuta君、ミキちゃん、お疲れ様でした。また遊びましょう！









・・・でその週末には、鳥取でライブです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

・・・で、我々は18日まで東京に滞在して、その週末は鳥取県北栄町でライブです。

北栄町に『名探偵コナン』の作者として著名な青山剛昌氏を記念した「青山剛昌ふるさと館」というところがあるのですが、そこで21日土曜日、DJ Yuta & Yuichi名義でライブをやります。てか井谷君、どっからこの話持ってきたんですか？(笑)。

時間は、11時10分からと14時10分からの2回、一時間ずつで、トータル二時間です。二時間だと？そんなにネタあるんか？と尋ねると、「問題ないっす」との返事。やる気マンマンですな。

そんなわけで長丁場になりそうですので、僕も曲を提供することに致しました。以前からAshraの曲で使ってみたいサンプルがあったんですよー。それを全面的にフューチャーしたトランスっぽい曲をご用意してみました。それをバックにガンガンにギターを引き倒そうかなと考えています。イメージとしてはUnderworldのレコーディングに何故かJohn McLaughlinが参加みたいな感じで行きたいと思います。その間にPat Metheny GroupのようなChillな曲も混ぜたりとか。コナンと全然関係ないですね(笑)。

「ふるさと館」には入場料がいりますが、ライブ自体は無料です。というわけで、お近くの方は是非！

開館

8周年記念イベント

青山剛昌ふるさと館

2015 3/21(土)・22(日)・28(土)・29(日)



3/21(土)・22(日)・28(土)・29(日)限定!
ふるさと館入館者に
**8周年記念
ポストカードを
プレゼント!**
【各日先着100名】

**開館8周年記念
セレモニー**

ふるさと館開館8周年を記
念して、記念セレモニーを
行います。
日時 3/21(土)
[9:20~]
場所 ふるさと館内

**少年探偵団
集まれ!**

少年探偵団(コナン・おゆみ・あい・げんた
みつひこ)の名前がつく人を大募集/ふ
るさと館入館時に、名前を証明できるも
のを持参していただき、少年探偵団の5人
のうちのいずれかの名前であれば、オリ
ジナルカードをプレゼント!

日時 3/21(土)・22(日)・28(土)・29(日)
場所 ふるさと館有料施設内

**コナン君と
じゃんけん大会
&記念撮影会**

コナン君と一緒にじゃん
けん大会&記念撮影会
を楽しんじゃおう!

日時 3/21(土) [10:40~、15:10~]
22(日) [10:40~、14:40~]
28(土) [11:10~、13:40~]
29(日) [10:40~、15:10~]
場所 ふるさと館内 **料金** 参加無料

豪華景品
あり!

似顔絵コーナー

地元出身のアーティ
ストに似顔絵を描い
てもらおう!

日時 3/21(土)・22(日)・28(土)・29(日)
[10:00~16:00]
場所 ふるさと館有料施設内
料金 500円/人~

フリーマーケット

日時 3/21(土)・22(日)・28(土)・29(日)
[9:30~15:00] **出店者
募集!**

場所 ふるさと館
探偵団広場
料金 出店無料

DJ Yuta&Yuichi LIVE

日時 3/21(土)
[11:10~、14:10~]
場所 ふるさと館
ミュージアムショップ
料金 観覧無料

**Mr.モリック
マジックショー**

日時 3/22(日)
[11:10~、13:40~]
場所 ふるさと館
ミュージアム
ショップ
料金 観覧無料

ミニ畳づくり

日時 3/28(土)
[10:00~15:00] **先着
30名**
場所 ふるさと館
ミュージアムショップ
料金 200円/個

鳥取県芸術振興
協同組合中部
支部の方に指導
を受けて頂き、
ミニ畳を作り
ます!

**TOYPOP先生の
科学実験教室**

空気の
分子模型の
標本
を作ろう!

日時 3/29(日)
★「もしも原子が見えたなら」 [11:00~]
空気中でもし原子が見えたら、水の中で原子が
見えたらどうなる? TOYPOP先生が模型を使って
分かりやすく説明します!
★「しゅぼしゅぼ真空の実験」 [14:00~]
原子が無い状態=真空とは何なのかを楽しく
実験しながら体験!
場所 ふるさと館ミュージアムショップ
料金 500円/回

先着
20名
[各回]

1969年10月24日
生まれ、中津市立
高等学校卒業。2004年
から「科学実験教室」を
開始。先生の子供
や大人を対象に、
定額制の科学実験
教室、さらには、全
国で科学実験教室
を行っている。

TOYPOP先生

コナン通りに
新たな
オブジェが
登場!



完成を記念して
除幕式を行います!

日時 3/21(土) [13:30~]
場所 北栄町役場
大栄庁舎前

このチラシをご持参いただくと、青山剛昌ふるさと館入館料を100円OFFさせていただきます。
※本券1枚で1グループ全員有効。※2015年3月21日(土)・22日(日)・28日(土)・29日(日)に限り有効。※他割引券との併用不可。●雨天決行
※雨天時は館内イベントのみ実施します。



Gasho Aoyama Manga Factory
青山剛昌ふるさと館

鳥取県東伯郡北栄町由良1414
TEL.0858-37-5389 FAX.0858-37-6475
営業時間/AM9:30~PM5:30 ※入館は、開館時間の30分前まで
mail gamf@e-hokuei.net URL http://www.gamf.jp/
主催/青山剛昌ふるさと館



DJ Yuta&Yuichi LIVE

日時

3/21[±]

[11 10~、14.10~]

場所

ふるさと館

ミュージアムショップ

料金

観覧無料



横浜にて開催されます在アルメニア日本大使館設立記念交流展覧会に参加致します。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

銀座にありますギャラリー銀座一丁目さん主催で、外務省・在日本アルメニア共和国大使館後援で行われます在アルメニア日本大使館設立記念交流展覧会に、作品を出展させていただきます。

今回は音楽ではなく、オブジェを制作しました。しかも共作です。最近一緒にライブ等をさせて頂いている井谷優太君という青年がいるのですが、彼にこのプロジェクトをもちかけたところ、速攻でやるやるとの返事。彼にもう一人地元でデザインをする女の子を加えて三人で、Sandglassという名義でオブジェを制作し、それを展覧させて頂くことになりました。

場所は、馬車道駅と接続しておりますヨコハマ創造都市センターで、会期は3月11日より15日までです。んでもって15日午後3時からクロージングレセプションがあるのですが、それに合わせて三人で乗り込みます。やはり旅行は観光でフラッと行くよりも、こうやって目的があって行く方が、断然楽しいですからね。そんなの僕だけかも知れませんが(笑)。

そのレセプションが終わった後も、そのまま中華街へ繰り出してドンチャン騒ぎしようと画策しております。撤収が終わった後になりますから、遅くても7時頃になりますかね。もしご都合が宜しければ、そちらへも是非ご参加下さい。何なら携帯に直接お電話頂ければ、捕まります。

というわけで、皆様のご来場を、心よりお待ちしております。





郵便はがき

在アルメニア日本国大使館
設立記念交流展覧会

2015年3月11日(水) ~ 15日(日)

11:00~18:30 初日開場14:00 最終日17:00

3月15日 15:00~ Closing reception

能 シテ方宝生流 當山孝道師

重要無形文化財(総合指定)保持者

演武 大東流合気柔術-玄修会-

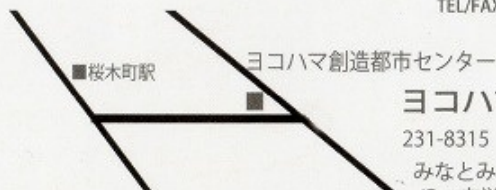
末武健一/作家支援コーチ・藤由達蔵

後援 外務省・在日本アルメニア共和国大使館・神奈川新聞社・日本アルメニア友好協会

協力 宝生流・當山能の会・(株)知道出版・ZNEM・玄修会・日本伝統食文化協会・RYUREI

主催 Gallery銀座一丁目 東京都中央区銀座1-9-8 奥野ビル4F

TEL/FAX : 03-3535-0522 or 090-6116-5656(真木)



ヨコハマ創造都市センター (YCC)

231-8315 横浜市中区本町6-50-1 tel 045-221-0325

みなとみらい線「馬車道駅」1b出口すぐ

JR・市営地下鉄「桜木町駅」徒歩5分

1月31日、湯梨浜町にて3回目の簡易気功法講習を行います。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今週末1月31日土曜日午後7時より午後8時半まで、湯梨浜町アロハホール集会室にて、簡易気功法の講習を行います。

湯梨浜町での講習は、今回で3回目です。何でも前2回が好評だったそうでした、今回は旧羽合町エリアだけではなく、旧東郷町エリアを含めた町全体の健康促進事業の一環として行われるそうです。

前2回は初めて気功や東洋医学に触れられる方向けに、東洋医学の基本的な考え方ですとか、簡単な型のご紹介に重点を置きましたが、今回はより突っ込んだ、実用的な内容にしたいと考えています。

具体的には、超高齢化に伴って急激に変化しつつある社会保障制度に、東洋医学を通じてどうやって関わっていくか。ぶっちゃけて申し上げれば、**気功なり何なりしてきちんと準備しておかないと、今後間違いなく大変なことになりますよ**と、それを具体的な事例を交えながら、お話し出来たらと思います(後は、この時期に多発するヒートショックに対する東洋医学による予防策をお話ししたいと思います)。

詳しくは、湯梨浜町役場へお問い合わせ下さい。入場は無料です。それでは宜しくお願い申し上げます。

どうやら世界は・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

完全に未知の領域に入ってしまったようですね。正月の記事でも少し触れましたけれども。

それは要するに、西洋的な近代合理主義の終焉ですね。90年代初頭に旧ソ連が崩壊した時にすでにその萌芽は見えていましたけれども、それが完全に本格化することになった。

あるいはその、近代合理主義自体が実際信仰じゃないのか？そのような薄々語られていたタブーに堂々と触れる人達が、その中からも外からも出てきた。学級崩壊と、プロセスとしては全く同じです。

そして今後吹き荒れるであろう、非合理性の嵐。それをまとめ上げる言説？ちょっと想像つかないですね～。ガミラス星人の来襲以外(笑)。

まあ完全に未知というわけではないでしょうけれどもね。単純に近代以前、20世紀以前の社会に逆戻りするだけなんですけれども。その非合理性のツールが合理性の具現化であるところのITというのは、ある意味悲しいくらいの皮肉という。

戦後70年。やはり平和は、高々70年でしたか。良い時代でしたね。今後は世界中が戦場になります。「世界戦争」ではありません。微妙なようですが、この差は決定的に重要です。判り易く言えばそれは、核戦争とベトナムのジャングルとの違いですね。

その中で我々は、どう生きるべきか？取り敢えず私は、気功をしますわ(笑)。サバイバルのツールとして。ヒーリングだとかパワースポットだとかスピリチュアルだとか、そういうピースフルな時代は終わりました。そんなもの、はっきり言ってどうでもいいです。あるいは、どうでもよいフェーズに突入しちゃったんです。重要なのは、気を読む力ですね。プラス外功。硬気功でもええですわ(笑)。

つまり、自分の身は自分で守るしかない。そういうことです。それを念頭において、僕も行動することにします。もっとも、そんな悠長なこと言えているのは、今だけかも知れませんが・・・。

エアアジア機墜落事故について思うこと。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昨年末、スラバヤ発シンガポール行きのエアアジア8501便が、カリマンタン沖合いで墜落しました。

関係者の方々には、心から哀悼の意を表します。

僕達夫婦も今回の事故の推移を、沈痛な気持ちで見守ってきました。と申しますのは僕達も数年前、同じようなスラバヤ発ジャカルタ行きのエアアジア機に乗ったことがあるからです。日が立つにつれて機体の発見という残念極まりない結果とともに、インドネシア周辺の航空状況の天候だけではなく様々な問題があからさまになってきているようです。

嫁は言います。今の雨季の頃にインドネシア周辺を飛ぶのは、極めて危険だと。何となれば、想像を絶するような巨大な積乱雲が、大量に発生するからですね。しかも温暖化の影響で、その規模はどんどんと増していると。この時期のこの海域というのは、本当にパイロット泣かせらしいです。あるアジア系新聞が、あの辺りにバミューダ・トライアングルのようなものが発生したと報道して物議を醸しましたが、「あった」のではなく「発生した」というのがポイントかも知れないですね。

でもちょっと待てよ。あんたのご家族に初めて会いに行ったのは2月で、ちょうど雨季の真っ只中だったぞと言うと、嫁は、あの時とは全く状況が違う、あの時はまだマシだった、と言います。

では当時と今との違いとは何か。一つは先に申し上げたような気象状況の変化ですが、もう一つはあの辺りの、航空状況の激変だそうです。

現在東南アジアではいわゆるLCCの過当競争が激烈さを増していて、インドネシアでも現在運行している航空会社の数は、20を超えているそうです。20・・・。そのため各社も大幅な値下げによる顧客獲得に躍起になっていて、例えばASEAN圏内の外国であれば、1000円ちょっとで行けるそうです。つまり、倉吉駅から鳥取駅へ行くのと同じ感覚で外国に行けるそうですね。それだけ安かったら、週末や連休は外国でのんびり、という当然の流れになります(今回も、正に年末年始のホリデイとぶつかっていますね)。結果としてインドネシアの周

囲の空域は超過密状態になっていて、言わばジャカルタ市内と同じく、大渋滞になっているそうです。

しかもそれを管理すべき当局の対応が、ずさん極まりない。今回でも、本来エアアジアに許可していなかったはずの日曜日でのフライトで事故が発生している。これに対してエアアジアにもものすごい批判が集まっていますが、CEOも、確かに許可はもらったと反論していますね。残念ながらこれはインドネシアでは日常茶飯事。何せ**運転免許証が欲しければ警察署で買って**みたいな世界ですから。案の定誰がエアアジアに運行許可を出したのか、いまだに判っていない。でも、恐らく袖の下を駆使して・・・みたいなことが判ると、CEOの反論も倍返しでしょうけれども。

今日ブラックボックスの回収に成功したという報道が出ていて、詳しい事故状況はそのブラックボックスの解析によらなければなりませんが、考えられる状況としては次のようなものらしいです。フライト中に猛烈な積乱雲に巻き込まれた。航路変更の許可をもらおうとしたら、その変更先には別の飛行機が運航中で、変更不能。再度変更の許可をもらおうとしたら、そこにも別の飛行機がいる(当時現場空域には、少なくとも4つの飛行機がいたようです)。陸路であれば渋滞だったら待つしかないわけですが、空中ではそんなことは出来ない。しかも積乱雲の中。仕方がないので急激に高度を上げたら機体が着氷現象を起こして失速し、そのまま墜落・・・。

昨年に大統領がジョコウィさんに代わりましたが、政府は事態を重く見てこのような航空状況を改善することに全力を挙げることを発表したようです。何せ、以前のユドヨノさんの時にかなり腐敗どころか無政府状態が進んで、**末端の官僚はやりたい放題**だったようですからね。そこへもってきて東南アジアの経済成長。**成金が趣味で航空機を買っていたんだけどもある程度数がまとまったから会社立ち上げようか**みたいなノリで新規参入してきた航空会社もあるようです。50人乗りの飛行機で運行している猛者もいるみたいですね。ベンチャービジネスといえは聞こえは良いですけども、そんな露天商みたいな感覚で人様の命を預かるビジネスをするというのは、どうも頂けないですね。しかもコスト削減のために重要な整備プロセス省いちゃうみたいな。**注文したけど財布にお金なかったんでキャンセルしちゃったてへぺろみたいな日本の会社の方がまだまし**かも知れないという。

今後原因究明は、どのように進んでいくんでしょうか。変なところで皆さん敬虔だったりします

からね。ジャカルタから列車に乗った時に、「先月この車内でトレインジャックが発生致しました。今後このような悲しい事件が起こらないよう**神に祈りましょう**」言われた時、身が引き締まりましたからね。僕はそのような事態に巻き込まれた時に神の思し召しで片付けられたら、悲しいですけども。まあ諸行無常は世の常とは申せ、とにかく自分できちんとリスク管理をする他ない。嫁に言わせれば今のところ、**何はともあれ雨季の時期はフライトは避ける、現地のLCCはもっての外**、ということになりそうです。

あるいは現政府がそこら辺を改善してくれるように、一縷の期待をかけたいところですけどもね(インドネシアが新幹線敷設を本気で考えているというのは、このような背景もあるらしいです)。それまでは多少割高でもメイド(?)・イン・ジャパンで、ANAの共同運航便使うとしまじょうかね・・・。

<追記>

以下の動画は、悪天候のさなかにスカルノ・ハッタ空港に着陸する時の模様です。こういうのを見るとやっぱ怖いですよ。ホントパイロットの皆さん、リスペクトです。

明けましておめでとうございます。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今年も宜しくお願い申し上げます。

今日は日中かなりの大雪でした。外出などもっての他と判断した私は、自室でLinuxと格闘していました。

今年は何やら社会的に、色々と動きがありそうですね。何というか、日本の歴史にかなりのインパクトを与える年になるんじゃないか、そんな予感がします。

まあ単なる気功家の戯言であってほしいと切に願うところですが、それに自分なりにどうやって対処するか考えつつ、穏やかに三が日を過ごすことと致します。

というわけで、皆様のご多幸を心より祈念申し上げます。

12月7日、『くらし国際交流フェスティバル2014』が開催されます。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今週末12月7日日曜日午前10時より、倉吉市内の伯耆しあわせの郷におきまして、**『くらし国際交流フェスティバル2014』**が開催されます。

今年も私は、パフォーマンス部門の責任者&DJとして参加しています。3回目なので慣れたものですが。

国際交流に関連する色々な団体が参加されるのですが、詳細はサイトをご覧くださいとして、今年個人的に興味があるのは、D-Day Projectさんの世界の即興音楽ですね。ご専門はアイルランドなのですが、そこに見られる即興演奏を中心に、様々な世界の即興演奏を俯瞰しよう、という内容です。即興演奏は私も専門だったりするので、私もFender RhodesかMiniMoogのVSTか何かで参加しようと思っています(笑)。あとは、DJ KAOSさんの忍者舞踏ですね。いずれにせよかなり異色なラインアップですので、他の国際交流フェスティバルでは見られなさそうな、ユニークなパフォーマンスが見られるかも知れません。

また嫁さんと出店するJagatara Artセクションでは、インドネシア関連のグッズを販売致します。また共同出店する小泉さんのPsycheでは、中近東をイメージにしたハンドクラフトを、更に犬の雑貨を手がける市内の「かんだや」さんは、甲冑をモチーフにしたグッズを販売されるそうです。ジャパネスクですね(笑)。

ところで、ご来場の方をお願いというかお勧めです。フードコートに関してですが、販売開始は11時なのですが、もうその時間辺りにスタンバっておかれた方が無難だと思います。**12時超えると厳しいです**。毎年それで涙を飲む方がいらっしゃるようですが、何せ個数に限りがありますので、そこら辺はご理解・ご協力をお願い致します(笑)。

というわけで、当日会場でお会い致しましょう！

くらよし 国際交流 フェスティバル 2014

KURAYOSHI
Intercultural
Exchange
Festival

2014
12/7 日
10:00~15:00

入場無料



会場／伯耆しあわせの郷 倉古市小田 458 Tel.0858-26-5581



倉古駅から伯耆しあわせの郷までシャトルバスを運行いたします(無料)

【倉古駅北口発】9:45/10:45/11:45/12:45

【伯耆しあわせの郷発】12:30/13:30/14:30/15:00

主催／くらよし国際交流フェスティバル2014実行委員会・公益財団法人 鳥取県国際交流財団

共催／鳥取短期大学

後援／鳥取県・倉古市・三朝町・湯梨浜町・琴浦町・北栄町

倉古市教育委員会・三朝町教育委員会・湯梨浜町教育委員会・琴浦町教育委員会・北栄町教育委員会

問い合わせ：0858-23-5931 (公益財団法人 鳥取県国際交流財団)

くろよし国際交流フェスティバル 2014

ステージパフォーマンス 順不同 (詳細は当日プログラムをご覧ください)



世界を見よう!

- ★ハワイアン (フラとウクレレ)
・湯梨浜町国際交流協会
- ★「アナと雪の女王」多国籍 Ver
★みつぼし踊り★傘踊り
・鳥取短期大学
- ★太道 (たいどう)
・日土士達達明雷巨鼓 鳥取支部
- ★忍者パフォーマンス
・DJ KAOS・ENT

- ★謡曲 (高砂)・倉吉多会
- ★古典芸能南京玉すだれ・南京玉すだれ
- ★太極拳・中華武術 華華倶楽部
- ★韓国伝統芸能・倉吉ブンムルノリ
- ★世界の民族音楽即興演奏
ワークショップ・パフォーマンス
・D-Day Project (山陰日本アイルランド協会)

国際交流団体等活動紹介



世界を知ろう!

- ★訪中旅行等の写真を展示
・鳥取県中部日中友好協会
- ★授業の取り組み紹介
(異文化交渉、異文化研修)
・鳥取短期大学
- ★写真展示、パンフレット配布等
・公益財団法人 AFS 日本協会鳥取県支部
- ★外国語図書の貸出・パネル展示
・鳥取県立図書館 国際交流ライブラリー

- ★放送大学の紹介
(国際交流活動の案内パネルや資料の展示)
・放送大学
- ★通塾紹介
・Tori フレンド network 及び日本語学習会
- ★作品 (倉吉耕) 展示、
「倉吉耕展覧会 in ロシア」の活動紹介
・伯耆しあわせの郷織物教室

食べ物ブース

11時から販売します
(10時～11時の間は販売しませんのでご了承ください)



世界を味わおう!

- ★オニオンスープとカナッペ、フランス・ケーキ
・鳥取県日仏友好協会
- ★湯梨浜アイス、バジルパスタ・加工品
・湯梨浜町観光協会
- ★タピオカミルクティ、台湾おこね、茶葉たまご等
・Studio 台湾人会
- ★キムパプ、チャプチェ、ヤンニョムチキン
韓国風おでん、スルメの佃煮、ホットック
・倉吉韓食倶楽部
- ★肉まん、ビーフン等 祥栄園

- ★とりたん Cafe
(紅茶、コーヒー、冷たい飲み物等)
・鳥取短期大学
- ★春巻き、フルーツサラダ、ミートパイ、クッキー
・Tori フレンド network 及び日本語学習会
- ★ヨミミタヨリトミターセーミ、にぎやま
簡単ザワークラウト
・公益財団法人 AFS 日本協会鳥取県支部
- ★インドカレー、タンドリーチキン
・デリー ダラバー

文化体験ブース等



世界を体感しよう!

- ★韓紙しおり作り
・鳥取県中部地区日韓親善協会
- ★けん玉、カルタ、折り紙、早口言葉
- ★スタンプラリー ★Kids English
・鳥取短期大学
- ★地域交流・国際交流を語ろう

- ★世界の民族衣装の試着体験
・鳥取県国際交流財団
- ★パティッシェの紹介、
手作りアクセサリーの販売
・ジャガタラ・アート & プシケ



明日、忘年会を行います。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ちょっと早いですが、明日恒例の教室の忘年会を行います。何せ山陰地方は、年の瀬になると雪が降って物理的に行動不能になったりしますので、早め早めの措置ということで(笑)。

時間は、教室終了後の午後7時より。場所は去年と同じ、祥和園さんです。会費は、オープンプライス。いつものように、皆さんでオーダーしたものを単純に人数で割るみたいな。

今年の教室も面白かったですね。幽霊出まくったり部屋がバキバキいい出したりとか。**陽気なオカルト**を標榜するにふさわしい一年ではなかったかと。来年もこんな感じで、**体育会系スピ**で行きましょう(笑)。

明日はスペシャルゲストとして、例の『**指から糸を出す男**』も参加します。「出せっちゃんって出せるもんでないで」と彼は言いますが、そこは皆さんでパワー送ってにゆるにゆる出して頂きましょう。

というわけで、明日はお待ちしています。一般の方も怖いもの見たさの突然参加もありですので、ご興味のある方は現地にて。

平井知事、あなたに言いたいことがあります。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

鳥取県の平井知事、あなたに一言言いたいことがあります。この記事についてです。

[お金はないけど蟹はある！鳥取県知事がノリノリでウェルカニキャンペーン中](#)

「スタバはないけど、スナバはある」はまあ良いでしょう。これにしたって、東京の画家さんとこの話になった時、「鳥取県の知事のあの発言って、あれ本気ですか？」と訊かれて、かなり恥ずかしい思いをしましたが。「蟹取県」もまあ許しましょう。

しかし、「[お金はないけど](#)」って何ですか？実際それはそうかも知れない。人口だって最少だし、産業だって思わしくないのは、まともな視点さえ持っていれば、誰だってわかります。

しかし、それは[県知事たるあなたがメディアの前で発言することですか？](#)

それにこのニュアンスだと、それを肯定しているようにしか見えないじゃないですか。「プア充」という言葉と一緒に、要するに、「全県挙げて貧乏だけれども、それで良いよね♪」と言っているのと同じですよ。 [それを改善するように努力するというのが、県知事の仕事じゃなかったんですか？](#)

はっきり言ってこれって、[鳥取県民に対する侮辱以外の何者でもない](#)ですよ。プラス、職務怠慢ですね。「一生懸命仕事しているけれど、元が貧乏だからしょうがないよね」的な。私はかつての某国会議員による「日本のチベット」発言よりも、遥かに大きな問題だと思います。

県知事としてもっと働いて下さい、とは言いません。私が言いたいのは、[まともな大人であればご自分のおっしゃっていることの意味を、もう少し良く考えて頂きたい](#)、そういうことです。

もし私がこのようなことを言って、公安に訴えてマークさせるというのであれば、どうぞそうして下さい。私は逃げも隠れもしませんし、私の連絡先を含めた個人情報は、全てこのブログに書いてありますから。

鳥取県にも、あなたのようにおちゃらけているばかりではない人達もいます。あなたの軽はずみな一言が、彼らの努力をぶち壊しにしているのです。そのことを少しは考えて頂きたい。

少なくとも県知事として、それくらいのことだけはして下さい。

『デリケートLOVE』、お疲れ様でした。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

週末の『**デリケートLOVE**』、皆さんお疲れ様でした。

何と言うか・・・、**すごく良いイベント**だったと思います。こう言ってはナンですが、**意外にも**(笑)。会場が会場でしたので色々と制約があり、一時はどうなることかと思ったのですが、特にトラブルもなく無事に終わって、僕もホッとしています。

ラインアップもものすごく充実していましたね。**一筋縄ではいかない方ばかり****で**(笑)。この辺りのライブハウスはコピーバンドばかりで、オリジナルをやるグループは極めて少ない。ましてやトンがったサウンドですと、ほとんど絶滅危惧種。ライブハウスでは浮きまわってしまうがために、演奏する場所の確保自体が大変、みたいな(笑)。

でもそのような不利な環境だからこそ、自身のオリジナル性を追求したいという心意気が皆さんから伝わってきて、僕自身もすごく楽しめましたし、とても勉強になりました。ハコのレイアウトのせいもあるかも知れませんが、何だかニューヨークかベルリンのアンダーグラウンド・シーンを見ているような感覚に陥りましたね。

もう一つ特筆すべきは、PAでした。最近良く一緒になる音響マニアOta君の、本人曰くの「素人初PA」だったのですが、結果は真逆でしたね。物凄く音がクリアに聴こえて、演奏される皆さんもびっくりされていました。こんなPA初めてだと。やはりオペは楽器屋とかが仕事でやるのではなく、本当に音楽を聴き込んでいる人がやるべきだ、という好例になったと思います。

事の発端は、オーガナイザーのたえりこさんのちょっとした不満でした。**鳥取には何も無い**と。中部なんて特にそうで、**本当につまんない**と。それなら楽しめる場所を**自分で作っちゃえ**、ということで、今回の企画を思い付いたそうです。僕はそれって、すごく大事なことだと思うんですね。ただしそれは、**地方創生の旗印の元に補助金に群がるハイエナ**みたいなものとも、また違う。サポートなんか受けられやしないから、本当に自分達でやるしかない。お金も大事ですけども、その元になるインセンティブ自体がなければどうしようもないわけで。

逆境をチャンスに変える。災い転じて福と成す。それに呼応して、西日本の各地から非常にユニークな音楽家が集まった。そういう意味では、非常に稀有なイベントだったと思います。打ち上げも楽しかったですね。僕もだいぶ飲みました。あんな美味しいお酒は、ホント久々でしたね(笑)。

このイベントをきっかけに、ちょっと面白い流れになっていくのではないかな、と僕自身期待しています。この山陰にも、ベルリンとかに負けないようなユニークなシーンがあるぞ、みたいなことになったら、本当に素晴らしいですね。出演された **ソプラノイズ** さん、 **森元涼太** さん、 **hopes** さん、 **若槻素直** さん、 **ジゲンオルガン** さん、遠いところ本当にお疲れ様でした。こちらに来られたら、是非ご連絡下さい。たえりこさん、Ota君、Hirao君、是非また企画して下さい。我々も最大限の協力は惜しみませんよ(笑)。

それでは皆さん、またお会いしましょう！

The DANCE TUBE in とりアートもあります。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

The DANCE TUBE in とりアート もあります。

時間は、**明日11月1日土曜日、13時30分開場、14時開演**です。場所は、**倉吉未来中心大ホール**です。

因みに私は、パフォーマーではありません。オペレーションです。ブログを書いているブラウザの後ろで、目下Ableton Liveを使って仕込み中。

何だかんだ言いつつ、今回は3回目のヘルプです。取り敢えず**PCが暴走しないように**(
ともかくトラウマになってまして(笑))、入念にチェックすることと致します。

というわけで、**The DANCE TUBE in とりアート**。ストリートダンスにご興味のある方は、是非どうぞ。

<PS>

このチラシ、結構色んなところで見かけますね。当事者であることをすっかり忘れてたりする(笑)。
。

2014 DANCE TUBE 6th



in とりアート

Team Performance
Guest Performance
Dance Box

2014.11.1

13:30 open

14:00 start



MMSで、二週続けてライブを行います。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

MMS名義で、二週続けてライブを行います。

一つ目は、**11月2日**です。倉吉駅前に**パープルタウン**というショッピングモールがあるのですが、そちらが今年開店33周年ということで、それを記念して『**さんさんマルシエ**』というマーケット形式のイベントが行われることになり、そこで演奏させて頂くことになりました。

正面駐車場を開放して行われるかなり大規模なイベントのようです。企画室の植田さんはこのイベントを、県中部のショップやアーティストが集まってお互いに交流することが出来る定期的なものにしたい、と頑張っておられます。私達も何かお手伝いが出来ないかということで、今回参加の運びとなりました。こちらは、オープンは12時から、我々の演奏は、2時からです。

ただ、どうも雨になりそうですね～。そうなったら演奏は中止です。またの機会ということで(苦笑)。催し物は行われる模様です。

もう一つは、**11月8日**です。前回ご紹介した**三朝ニューラッキー**で行われる、『**デリケートLOVE**』というイベントです。

こちらはラインナップとしては、かなり**濃い**です。**山陰地区のアンダーグラウンドを一気に俯瞰することの出来る、稀有なイベント**になりそうです。私も名前だけは伺ったことがあるのですが実際の演奏は拝見したことがないという方々が色々と参加されるみたいで、演奏は抜きにしても個人的に非常に興味があったりしますね。こちらは、開演は4時から、我々は7時からです。

MMS名義での前回のライブである『タターガタ市』では、**突如PCが暴走**を始めてパフォーマンス的にはあまり納得のいくものではなかったのですが、その原因が判明して今回は十分な対策を取っていますので、恐らく問題はないのではないかと思います。因みに、**心配された霊現象ではありませんでした**(笑)。ギターレスのトリオ編成では二回目のステー

ジで、かなりエレクトロニカ寄りのサウンドになっていますが、途中でマイルス時代のキース・ジャレットみたいになったらご愛嬌ということで、お気に召して頂けるように頑張りたいと思います。

というわけで、山陰発の完全インプロヴィゼーション・スタイルのジャズ・ロック・ファンク・バンドでありますMMS、宜しくお願い致します。

<追記>

創設者より旧来の名称は使わないようにクレームが入りましたので、今後は上のように表記させて頂きます。変えるかも知れませんが(笑)。

パープルタウン 大創業祭 第一弾

パープルタウン創業 33 周年。
地域の皆さんと共に、
さんさんと笑顔あふれる場所をつくります。

かわいい雑貨や
おいしいFoodが
多数集合!

Goods

雑貨・服・アート作品

サンタモニカ

アクセサリー・ストラップ・etc

milk

子ども服・手作り雑貨・etc

タッパウェア

びん・シホームパーティズ

台所用プラスチック製品

ペットのおみやげ かんだや

ペットおやつ、ペット雑貨、

キーホルダー作り・etc

小染花房

スクリーン・インテリア、

アロマキャンドル・etc

でとら

ガラス小物・etc

ソレイユ

手作りアクセサリー・手作り雑貨・etc

Retro Mix

服・雑貨

ママイクコ

バッグ・アクセサリー・食器・etc



芝生広場

駐車場に芝生の広場が出現!

- ・飲食休憩スペース
- ・ふわふわミニドーム

11/2 イベントDay

13:00~ 鳥取HAKKA
ストリートダンスショー
14:00~ Mad Mouse Sessions
(ライブ)
15:00~ オオルリ(アコースティック)

Foods

料理・スイーツ・野菜

たこ忠

たこ焼、焼きそば、からあげ・etc

ジャパニクレープ

米粉クレープ

体験農場ナオ 11/1のみ出店

いちじく・いちじく紅茶、

いちじく化粧水・せうけん・etc

浜根農園

焼き芋・野菜・etc

東北支援 薪プロジェクト

薪ビザ

※雨天時出店なし

あかまる牛肉店

惣菜

※11/2のみ出店

グラフィミューラー

ハム・ソーセージ

Service

マッサージ・ワークショップ

リラクゼーションサロン

Hana

ハンドマッサージ・雑貨・etc

パープルタウン

営業時間のお知らせ

アサ10:00~ヨル8:00 P1,200台

新着しそはアサ9:00~ヨル9:00まで 無料駐車場

鳥取県鳥取市山崎557-1 TEL(0858)26-5111(代)

パープルタウンのお得な情報満載! パープルタウン

チケットLOVE

11月8日土曜日
場所↓鳥取県三朝ニューラッキー
開場↓15時30分
開演↓16時
チケット:8千円

出演

ソプラノイズ

森元涼太

hopes

若槻素直

MAD MOUSE SESSIONS

ジゲンオルガン

流し屋:まじかるまんてい



問い合わせ:eritakoko@gmail.com

神戸大学クラシックギター部の盟友、**S君**が亡くなりました。

神戸大学クラシックギター部の盟友だったS君が、亡くなりました。

当時のギター部は一応「クラシック」と名前は付いていましたけれども、そのクラシックに影響を受けたYngwie Malmsteenというヘヴィ・メタル・ギタリストのファンがやたらと多く、一種メタルの巣窟みたいになっていました。かくいう僕は、The Beatlesの影響でギターを始めたばかり。軽音に入ろうかどうしようか迷っていた僕に先輩がかけた「うちはビートルズのカバーもやってるで」という嘘八百にほだされて、この部に入ることにしました。

そこで出会ったのが、同期のS君でした。ご他聞に漏れず彼もメタル・フリークだったのですが、それ以外にも結構色んなジャンルに手を出していました。それが面白かったものですから、結構二人してCDを買っては聴かせ合ったりしていました。

ライブにも良く一緒に行きました。覚えているのは、Chick Corea Elektric Bandと、Tuck & Patti。僕らは当時のギター小僧らしく、奏法をコピーしようと必死になってプレイを凝視していました。そう言えばステージ上のFrank Gambaleと握手したのは、最前列に座っていた僕らだったよなあ。

彼の実家は、電気屋さんでした。東京から新大阪へ転居するに当たって冷蔵庫を調達しなければならなかったのが彼に数年振りに連絡を取ると、わざわざ和歌山から配達に来てくれました。オレンジ色の冷蔵庫でした。友人は、「けったいな色やな」と言っていました。僕はそうは思わなかったのですけれども。

その後一旦鳥取へ帰って、再度上京。そして3年前再び鳥取へ帰ってきました。その時も彼から買った冷蔵庫は、ずっと一緒でした。

ある日その冷蔵庫の調子が悪くなったので、彼に電話をしました。その時彼は、癌にかかっていることを教えてくれました。それ以来ずっと気になっていたのですが、つい先ほど友人より、彼が亡くなったという知らせが届きました。

Chick Corea、Led Zeppelin、Cream、Larry Carlton、Allan Holdsworth、Al Di Meola、Miles Davis、John McLaughlin、Tuck & Patti、・・・。今でも日常的に聴くアーティストですが、皆彼から教えてもらいました。もっとも彼は、逆に僕が勧めたKing Crimsonは好みではなかったようですが。因みに彼に教えてもらったスウィープ奏法は、いまだに出来ません。

この冷蔵庫、形見になっちゃったなあ。壊れても粗大ごみに出されへんやないか。まあ冗談好き

なお前さんらしいというか。こうなったら僕も最後まで付き合わせてもらうよ。あと自分で言うのも何だが、ギターの腕もだいぶ上達したぞ。またセッションしようぜ。

まずは安らかに。じゃあな。

週末に、つまみ細工展示会を行います。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今週末**11日(土)・12日(日)**に、**倉吉未来中心**にて**午前11時より午後5時まで**、嫁さんのNidya Sariさんによりますつまみ細工の展示会を行います。

ちょうど紅葉の季節ですので、それに合わせたようなデザイン・色柄の作品を、多数展示する予定だそうです。

場所は、**セミナールーム9C**です。手狭ですが、我々のような小規模な展示会には最適ではないかと。当日は、このところ大統領選挙のため若干政情不安定だったインドネシアよりようやく届きました例の『**幻のコーヒー**』や、手作りインドネシアスナックもお楽しみ頂けます。

というわけでイベントがバッティングしまくるこの時期ですが、皆様のご来場を心よりお待ち申し上げます。

<追記>

土曜日の教室は同じ部屋で、午後5時にシフトして行います。その後はいつもの中華屋さんで、パーティといきましょう。そちらもお楽しみに(笑)。



Jagatara Art presents ...

Tsumami Zaiku Exhibition 2014

ジャガタラ・アート・つまみ細工展示会

<とき>

2014年10月11日(土)・12日(日) 11:00～17:00

<ところ>

倉吉未来中心セミナールーム9C
(倉吉市駄経寺町212-5 (0858-23-5390 (代表)))

企画・制作：ジャガタラ・アート (Nidya Sari Nakahara)

倉吉市山根425-1-2

Tel : 0858-26-5188 (HP : 090-2001-5453)

<https://www.facebook.com/jagatarabatik>

<http://yawaragikikoujugem.jp/>

10月4日、"DJ Yuta & Yuichi"で、アートとっとりフェスタに参加致します。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

10月4日、米子市公会堂にて開催される『[あいサポートコンサート](#)』に、DJ Yuta君とのコラボレーション・ユニットである"DJ Yuta & Yuichi"名義で参加致します。

DJ Yuta君は、倉吉市内在住のアーティストです。彼とは2011年の倉吉国際交流フェスティバルで初めてお会いしたのですが、その時はそんなに深くお話しすることはありませんでした。2回目にお会いしたのは、共通の友人の誕生日パーティ。その時に、私達の共通の興味が音楽にある、ということに気が付いて、二人で大いに盛り上がりました。しかも[テクノ](#)(笑)。

聞けば彼もPCを使って、作曲もするらしい。幸か不幸か、この界隈で私以外にPCを使って作曲をするという方に出会ったのは、彼が初めてでした(そしていまだに、彼だけです(笑))。彼は私が作曲した国際交流フェスティバルのテーマ曲"Shiny Smile"に「[初音ミク](#)」を起用したことに、多大なる興味を抱いたらしいです(笑)。DAWは何を使っているのか尋ねると、Image-Line FL Studioを使っているということなのですが、このソフトは日本語非対応。しかも彼の周りにも当然DTMをする人は全くいなかったもので、完全に独学で使い方をマスターしたそうです。へー、そりゃすごいガッツだな、とその時私は感心しました。

数日後、彼から連絡をもらいました。年末にライブをやるので手伝ってもらえないか、というお話でした。しかし今回は今まで彼がやっていたのとは違った形でやりたい、と彼は言います。私は、それならDJをやったらいんじゃないか、と提案し、彼にAtomix Virtual DJというソフトを勧めました。すると彼は、それを数日で全部マスターしてしまったのです。これには私も驚きました。我々の記念すべき第一回目のライブは、[途中でプラグが抜けて音が止まる](#)というライブでよくありがちなハプニングはあったものの(笑)、何とか無事に終わることが出来ました。

すると偶然にも今年鳥取県が、『[あいサポート・アートとっとりフェスタ](#)』というイベントを全県挙げて開催することになりました。その一環で10月4日に「あいサポートコンサート」というイベントが米子市公会堂であって、彼はどうしても出たい、と言います。そこで私は彼をテクニカル面で、全面的にバックアップすることにしました。その打ち合わせのために彼の自宅にお邪魔した際に彼の曲を聴いてみたのですが、何と膨大な量あるではないですか！こりゃあ四の五の言わず、全曲オリジナルでやった方がいいよ、アレンジとか足りない部分は僕

がヘルプするからさ、という、彼もその気になったようです。

彼は手足が不自由なのですが、それでもPCの前に座って、ここはこうした方がいいんじゃないか、ああした方がいいんじゃないか、という私の意見を即座に形(音)にしていく彼を見ると、驚嘆せざるを得ません。あとは彼の貪欲な知識欲ですね。先だって鳥取にあるClub DNAでの**石野卓球**氏のイベントに参加して、踊りまくってきたようです。むむむ、スケジュールさえ問題なければ、行けたのに(涙)。

彼には、「人前でライブがやりたい、ライブを通じて人と関わっていきたい」という強烈な欲望があります。それって音楽をやる時に一番基本になるものだと思うのですが、それを私達は案外忘れがちになってしまうのではないのでしょうかね？しかし彼は、それを持っている。そしてその欲望を更に引き出して、形にして、強化していく。私も東京で音楽療法の現場に14年近くいましたけれども、やはりこういう作業は非常にやりがいがあることだと思います。しかもPCを使えば、ハンディキャップがあってもイメージーションがあれば、それを克服することが出来る。私はその利点は、十二分に活用すべきだと思いますね。気功だってそうですね。気功は癒しの技術ではなく、潜在的な能力の開発のための技術です。それを再認識出来たという意味でも、彼と出会ったことは私自身にとって、非常に大きな意味を持ちますね。

というわけで当日は全編彼のオリジナル曲を、それこそDJらしくノン・ストップ・ミックスでプレイします。**この手のイベントでテクノをやるのは、我々が初めてかも知れない**ですね(笑)。私はギターで参加します。最近久々にPat Methenyに凝っているので、Methenyばりにガンガンに弾きまろうかな、と思っています。でも途中でManuel Gottschingになったり、Robert Frippになったりしていたら、そこはご愛嬌ということでご容赦を(笑)。当日は無料ですので、お近くの方は是非！

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ついに念願の、『未知との遭遇』しちゃいました。

昨日いつものように教室で、動功から小周天を経過して静功に入ったところ、中庭の辺りで人が歩く足音が聞こえます。変だな、中庭には人はいないから、恐らく階下の通路を誰かが歩いているんだろう、それにしても建物の構造の関係かどうか知らないけれども、ずいぶん間近に聞こえるもんだな、とぼんやり考えていました。

次は建物の中の方で、ぱたんぱたと音がし始めました。私は今度は、掃除のおばちゃんが来たんだな、と考えました。しかしいつもの掃除のおばちゃんですと、扉を開けたり閉めたりする時に、もっと大きな音を立てます。でも今回は、そうではありません。私は、ふむ、おばちゃん何か思うところがあって、大人しくなったんだな、と呑気にも考えました。

そして練習が終わると、いつものようにダベリングです。今回は、**この僻地鳥取での婚活パーティを巡るシビアな現実**と、**溪流マスのつかみ獲りで群がるキッズを押しつけて見事80匹をゲットしたクマのような奥様**がテーマでした(笑)。ひとしきり爆笑しながらそんな話をしていると、誰とはなしに、「・・・今日はすごかったよね」、と言い出しました。

どうやら部屋の周辺で、何やら奇妙なことが起こっている、というのは、ほぼ全員が意識されていたみたいです(判らなかったとおっしゃる奥様は、かなりくやしがつてらっしゃいましたけれども。因みにこの方が、件の奥様です(笑))。参加者の一人にかなりいわゆる靈感の強い方がいらっしゃるのですが、彼女によると、来ていたのは一人や二人ではなかったと。その他の方は、声まで聞こえていたらしいです(これは残念ながら、私にはわかりませんでした)。しかも彼女は静功中に、ずっといわゆる金縛りにあっていたと。彼氏は、私が終了の合図を出しても彼女が動かないので、不思議に思っていたそうです。

ここ最近を検証のために、彼のアプリを使って、私ともう一人の方を選んで静功中の脳波を記録しているのですが、今回は偶然にも、彼女が脳波計をつけていました。靈感の強い彼女の脳が、静功中にどういう脳波を描くのか、しかもその時霊を知覚していて、なおかつ金縛りにあっていたとすれば、その時の脳波はどうなっていたのか。これは非常に興味深いですね。少なくとも私はそのような時の脳波の検出に成功したという例は、古今東西聞いたことがないですから、これ

は貴重なケースかも知れないですね。

ゆくゆくはこのプロセスをバイオ・フィードバック状に利用して、人工的にそのような霊を知覚する意識状態を作ったり、あるいは彼らとコミュニケーションする方法を作れないか、考えていきたいと思っています。彼らには、色々とインタビューしたいことがあるのでね。それに成功したら、またご報告します(笑)。

<追記>

ただ今関係者よりクレームが付きました。**80匹**ではなく**50匹**だそうです。お詫びして訂正致します。なお奥様の前に「**繊細な**」を付けろ、という案件に関しましては、前向きに検討させていただきます。

13日は、**DJ**もやることになりました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先だってお知らせした"Yard Jam Camp"ですが、勢い余ってDJまでさせて頂くことになりました。

久々のウェブではなく、リアル世界でのDJですね。何をやろうかな～、と思ったのですが、何せレゲエ中心のイベントですので、70年代からのレゲエ/ダブに影響を受けたと思われる楽曲を、新旧取り混ぜてジャンルを問わず、プレイしようかな、と思っています。

そんなわけで、気功のブースに私がいなかったら、白日昇天したのではなく、DJやってると思って下さい(笑)。では当日会場でお会い致しましょう！

9月13日のYard Jam Campに出店致します。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

9月13日土曜日、関金にありますやまもり温泉キャンプ場というところで開催される野外レゲエ・イベント"**Yard Jam Camp**"に出店致します。

「**出演**」じゃないです。「**出店**」です(笑)。オーガナイザーの白土君より、気功で参加してもらえませんか、という打診を受けまして、う〜ん、野外イベントで気功か〜、**梅干とウナギ以上にミスマッチ**じゃないかな〜、とは思ったのですが、レゲエとかも好きだし(Massive Attack最高！)、ここは一つ引き受けてみることにしました。

このような形での野外イベントは、今回で2回目だそうです。彼は元々東京の音楽業界に関わっていらっしゃった方なのですけれども、縁あってこの僻地鳥取へ来られました。ただいかんせん東京と鳥取とでは雲泥どころか**地球とプレアデス星団くらいの違い**があったりするわけですが、そんなシビアな状況下で奮闘しておられます。そんな彼に対するリスペクトも兼ねて、参加させて頂くことにしました。

個人的にはこのフライヤーにある、「30000Wの爆音カーサウンドシステム」ってのが気になりますね〜。何でもこの辺りには、この手のサウンドシステムを自作している若い人達のチームがあるのだとか。そういうのは好感が持てますね。この文字通り**文化的に荒涼たる鳥取砂漠のど真ん中**で、なかなか素晴らしい試みだと思います。

何をやろうかな〜、と思ったのですが、何せ野外ですから室内のような施術や指導が出来るわけもないので、最近開発した技法を使って、肩とか首周りの調整をさせて頂こうかな、と考えています。**クイック施術で、5分で500円**。クイックですけれども、これで四十肩など肩や首が動かないみたいな症状は、十分に解消出来ると思います。**効果がなければ、お代は頂きません**。だっ広いキャンプ場で、「気功」と書いた看板が目印。易者みたいですな。

というわけで、多数の皆様のご来場をお待ちしています。

音楽 + キャンプ + 温泉!

Tottori Chubu Music Fes

YARD JAM

Camp

2014
9/13 (SAT)
14:00から
9/14 (SUN)
13:00まで

雨天の際は
翌週20日、21日に延期予定
飲食の販売あります!
持込は極力ご遠慮下さい

必聴! 30000Wの
爆音カーサウンドシステム



パレットくんとアトリビィも来るよ!



GATLIN SOUND
GANA GANA & ANTHONY From Jamaica



ADITRUTH
From Jamaica



ALAMA DIOUBATE
From Guinea



RICKY YAAM
From TWIN-B Sound



TURBO
From BOTH WINGS



山本 義和



DUB LAZER



TA2

SOUND SYSTEM BY JUNGLE HI-FI

fr. RAAADA MASASHI, TAKE DOWN, NATURAL POWER

[Live]

TO-RU (真 THE MAKOTO ROCK), DUAL WAVE, YAM

[Live Paint]

h.i.s

[Shop]

MAD520/ボン・シャンス/やわらぎ気功クリニック/K.K.K

& MORE SPECIAL GUEST!!!!

最新情報は こちら

AT:やまもり温泉キャンプ場

鳥取県倉吉市関釜町堀3186-2 / 0858-45-1100

■入場料(通車料金)

前売: 大人 ¥2500 / 小人 ¥600 当日: 大人 ¥3000 / 小人 ¥1000

駐車場1台 ¥500、キャンプ1区画 ¥1500を必要の方は別途、入口受付にて支払い願います

前売チケット取扱店 MAD520 倉吉市幸町520 Tel 0858-23-1433

BIG TIME 倉吉市昭和町2-111 Tel 0858-23-2003

ビーカークー 倉吉市山根2-2 Tel 0858-26-4574

(道)ナカヤマ 西伯郡大山町中575-2 Tel 090-7134-9046

八兵衛 倉吉市福庭町1丁目101 Tel 0858-26-3555

ペンティ 倉吉市上井2-1-1 Tel 0858-24-6236

http://eplus.jp Bar OWL 倉吉市上井町2丁目5-1ビュアビル2F Tel 0858-26-8809
(パソコン・携帯) 大宇宙酒場 鳥取市東広温泉町310-2 2F Tel 0857-22-4688

☆協賛☆



ゆめのかたまり

和おん

ホーン・シャンス

PRESENTED BY



http://mad520.com/camp
出演、出店などの希望や
各種お問合せはMAD520へ!



9月19日(金)湯梨浜町にて、気功法の講習会を行います。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

この度湯梨浜町さんの依頼を受けまして、気功法の講習会を行うことになりました。

時間は、9月19日金曜日19時より20時30分までの一時間。場所は、ハワイアロハホール集会室です。

今回は健康作りがテーマということですので、気功法(特に、養生気功法)を使うと免疫機能をどう向上させることができ、健康作りに貢献できるか、といった内容を中心にした簡単なレクチャーと、実技を行いたいと思います。時間の制限もありますので、基本功のそのまた基本くらいにしか触れることはできませんけれども、それで実用上は十分だと思います。

会場の関係上申し込み制となっていて、締め切りは9月12日だそうです。お問い合わせは、中央公民館羽合分館(0858-35-5344)まで。無料ですので、ご興味のある方は是非どうぞ(Special thanks to Kasane)。

自分の体は自分で守る！！

肩こり・腰痛・疲労回復・免疫力向上

からだに 気功！！



日時：2014. 9. 19 (金) 19:00～20:30

場所：ハワイアロハホール 集会室

内容 ・体を動かして気功体験

・症状改善のメカニズムと対処法についての講義。

・質疑応答。

参加費 無料

申し込み期限 9月12日(金)

募集定員 なし *プリント配布の関係上申し込み制

講師：中原 勇一 (気功法師範)

毎日の生活に、
2～3分の気功を取り入れることで、
ずいぶん快適に過ご
せますよ！！

1969年、鳥取県生まれ。神戸大学経済学部卒。
1999年より、廖赤虹老師(工学博士)・廖赤陽老師(武蔵野美術大学教授)に師事する。
2001年に嵩山少林寺で、正統後継者劉永言老師より直接、指導を受ける。
2011年 学研『ムー』1月号にて、気功にかかわる様々な現象を現代科学の用語を用いて説明しようと試みる異色の気功家として紹介される。
また音楽家として、東京都内の音楽療法グループに所属して、自閉症児を対象にした音楽療法活動と、彼らのための舞台音楽制作を行う。
平行して、都内の複数のコンテンポラリー・ダンス・カンパニーへの楽曲提供の他、(株)東レエクセーヌプラザ主催のファッション・ショーにて、DJ・音響部門を担当。



申し込み先 中央公民館 羽合分館 35-5344
(月～金の平日8:30～17:00)

もっと、怒っていいんです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ここ郷里鳥取県に帰ってきて気功の施術・指導をするようになってから早4年が経ちましたが、多くのクライアントさんと出会ってきて、ずっと抱えている一つの疑問があります。県民性なのか田舎固有の特性なのかはわかりませんが。

それは、**皆さんそんな状況で、なんで怒んないのかな～**、ということです。

怒り自体は、潜在的に皆さんお持ちなんですね。ないことはない。人間ですから。上司が嫌いだ、同僚が嫌いだ、親が嫌いだ、うちの地区が嫌いだ(笑)。ただそれを皆さんおくびにも出さず、より正確には「**出さないようにして**」、我慢我慢の連続で、毎日を送っていらっしゃる。文字通り、『**臭いものには蓋**』というやつですね。

しかし残念ながら、臭いものは蓋をしたって臭い。腐敗しているわけですから。その臭さに不快な思いをするのであれば、そんなものは除去した方が良いでしょう、それが出来ない。いやいや、上司だから、同僚だから、親だから、うちの地区だから、そんなことは出来ない。**出来るわけがない**。ともかく我慢するしかない。挙句の果てそんな時スピ系の本を読んだら、「**怒り**」は**自分のオーラを汚すので持ってはいけない**、とか書いてある。それを真に受けて二重三重に、自分の感情を抑圧しようとする。

私はこれで精神的・肉体的に変調を来たさない方がおかしい、と思いますね。

そういう方がいわゆる「癒し」を求めてアロマとかヨガとか気功(笑)に挑戦されても、基本的に効果はないだろう、というのが私の意見です。なぜならそれって、対症療法ですからね。部屋に大量の生ごみを放置したままでせっせと芳香剤を撒きまくるようなもの

です。効かなくなったら、元に戻ります。酒やドラッグと全く同じ。ではどうすれば良いのか？

本当につらいのを解消しようと思えば、まず**ご自分のその潜在的な怒りを自覚した方が**良い、と思いますね。それと真摯に向き合った方が良い。

ぶっちゃけ、もっと怒っていいんです。それはコミュニケーションですからね。意思疎通の一環。それを表現するからこそ、相手にあなたが何を考えているか、どのようなスタンスに立っているかが、初めて伝わります。それを恐れるべきではない、と私は思います。**自分に正直になるとは、そういうことです**(そこに目を向けないで、「今『自分に帰る』メディテーションを練習してます」とか言われると、非常に不思議に思ってしまうのですけれども・・・)。

実際気功では、怒りは持つてはいけない、という発想はしません。「怒り」は「肝気」というのですが、「肝気」は陽の属性を持つので、それは放出されるべきだ、と考えます。それを溜め込むとバランスが崩れ、肝経がやられる(こういう方の場合胸の「章門」という経穴に触れると、皆さん例外なく鋭い痛みを感じられます。典型的なストレス反応ですね。経絡は正直なのです)。

要は**コントロール、使い方の問題**ですね。

不満は、エネルギーです。それを自分に向けない方が良く、と思いますよ。つらいですし、第一もったいないですからね。それを建設的な方向に向けた方が良く、と思いますし、そのための方法を模索した方が、より快適に毎日を過ごせると思います。それが本当の気功での対処の仕方ですし、そうやってオープンになる方が、行政にありがちな口先だけのあいさつ運動(笑)とかするよりは、よっぽど社会を明るくすることになる、と思いますけれどもね。

週末の教室は、予定通りです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今週はお盆ですが、週末の教室は、予定通り開催致します。

前回の教室で、どうやら現場が自縛霊だらけだということが判明致しましたので、今回はそれをアプリを使って検出する試みを行いたいと思います。お盆ですから、うってつけだったりして(笑)。

というわけで参加される方は、覚悟してご参加下さい。

<ビフォア>



<アフター>



週末の『智頭麻まつり』、延期となりました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

週末の『智頭麻まつり』は、接近しつつある台風の影響で、延期となりました。

まあ致し方ない処置ですね。何かあってからでは大変ですし。私達も今後、十分に備えることと致しましょう。m(_ _)m

週末に、智頭町でライブをすることになりました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今週末土曜日、智頭町で、『智頭麻まつり』という野外イベントがあるらしいのですが、そこでライブをすることになりました。

先だって三朝でコラボレーションした鳥取市のHandsome Boy君からお話を頂いたので、私はてっきり前回と同じスタイルでやるのかと思っていたのですが、どうやらソロでやって下さいみたいな話になっているようです。ええ、ソロだろうがグループだろうが、私ゃ何でもやりまっせ(笑)。

実際この年になるとってわけでもないんでしょうけれども、単独でコンサートを企画するというのがどうも億劫になってきてまして。まあやろうと思えばいつでも出来るというのが、これが逆によろしくない。来月辺り企画してみっかな、と思ってそのままズルズルと数ヶ月経っちゃったみたいな。東京でも近所に気になるクラブがあって、明日行こう明日行こうと思いつつ結局行かなかった、というのとほぼ同じですね。

またやる方としても、全然想像もつかなかった方面から依頼が来た方が、思いがけないハプニングですとか出会いがあったりして、面白かったりしますからね～。ですから最近は、下請けばかりやっております(笑)。

何せ山の中での自然をテーマにしたイベントらしいので、それっぽい楽曲用意しましょうかね。何だかんだ言いつつソロはほぼ2年振りですので、ニューエイジからラウンジからハウスから色々ブチ込んでみるつもりです。また音源は全部録音して、Mixcloud辺りにアップする予定です。実際そっちの方が主眼だったりしますし。地元では友達のいない私ですが(笑)、結構海外の方に喜んで頂けるというのは、嬉しいですね。

というわけでご興味のある方、是非お出で下さい。

LIVE

観音バンド
宮城愛
halcony

智頭町 麻まつり

麻桶蒸し体験
コキソ精油取り
麻の美油搾り
麻炭作り
機織り体験
浴衣レンタル付

出店情報裏面記載

2014/8/9(土)
am10:00~pm5:00
after pm18:00~

入場料 2,000円
〈智頭町民無料〉

※ゲートにて智頭町民とわかるモノをご提示下さい
中学生以下無料・高校生半額

持物物 タオル・ビーチサンダル又は長靴
虫除け・着替え等に入って濡れた時等

主催 日本麻振興会鳥取支部 後援 智頭町山村再生推進協議会

FOOD

つぎとぎとのおひさま 池田直樹の創作料理が好評
しろつめ 鹿角の鹿角粉スープ、野菜の飯
手製 手作りパン、ケーキ、スイーツ、果物ジュース、お米の料理
野生堂 野山のナチュラリス（バーガー）
ポンドクワン 自家製パン、カレー、うどん、焼きそば
Sammy's Farm 手作りパン、お米、お肉、お魚、お野菜、お果物、お花
パレマニ食堂 自家製パン、お肉、お魚、お野菜、お果物、お花
ももはな屋 自家製パン、お肉、お魚、お野菜、お果物、お花
美菜来屋 自家製パン、お肉、お魚、お野菜、お果物、お花
アルモンデ 自家製パン、お肉、お魚、お野菜、お果物、お花
Morichika 自家製パン、お肉、お魚、お野菜、お果物、お花
HOME 自家製パン、お肉、お魚、お野菜、お果物、お花
ベンガラたこ焼き
歩どろ 自家製パン、お肉、お魚、お野菜、お果物、お花
良菜会 自家製パン、お肉、お魚、お野菜、お果物、お花
パイボン 自家製パン、お肉、お魚、お野菜、お果物、お花
ナチュラリス 自家製パン、お肉、お魚、お野菜、お果物、お花
はっつうガエ 自家製パン、お肉、お魚、お野菜、お果物、お花
manimari トルティーヤ屋

and more...

会場裏手
川向こうに
麻畑があります

浴衣や着物でご来場された方には
特典として指定のお店で
ランドリンクサービス!!

※夕方や翌りの日に出るブヨ(ブト)に刺されると、人によってはかなり痒いことがありますので虫除け対策を各自でお願致します。

最新情報は
http://www.0108ya.co.jp
にてチェック!

教室の開催場所の変更に関しまして。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

謹啓 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、第一・第三土曜日に開催していた教室『気功入門コース』ですが、今まで使わせて頂いていたあかり舎さんが6月一杯でクローズになりましたので、今回は場所を変更致しまして、倉吉未来中心セミナールーム9で開催することと致します。

時間は同じく、午後4時から6時までです。

しばらくここを使わせて頂いて、今後を考えたいと思います。それでは宜しくお願い申し上げます。

<追記>

飲食可能らしいので、教室後のダベリングの際の差し入れは、大歓迎です(笑)。

7月1日に、急遽ライブをすることになりました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

7月1日に、急遽ライブをすることになりました。

場所は三朝町の温泉街にあります、[三朝ニューラッキー](#)というところです。ニューラッキー？どこかで聞いたことあるぞ、とおっしゃる方は、かなりコアな昭和フリークですね。ええ、いわゆる昔の[ストリップ劇場](#)です。近年オーナーさんが亡くなられたとかで、しばらく空家みたいになっていたそうですが、町の観光協会がリフォームして、新しく多目的スペースとして生まれ変わったみたいです。

で、そこを今管理されている方がかなり面白い方で、何でも生まれは東北の方らしく、東京で色々サブカル系の活動をされていたそうなのですが、思うところあって東京を去るに当たって、さて次の拠点はどこにしようか、取り敢えず[一番家賃が安いところ](#)にしよう、ということで検索してみたら、[鳥取がヒットした](#)ということで、こちらに転居されていらっしゃったそうなの。

そのような経歴の方ですので、地元にはほとんど知った人がいないというある意味不利な条件を逆手に取って、色々とかかなり個性的なイベントを企画されているみたいです。

でその一環として、今回出演するCoumoly君とHandsome Boy君にお話が行ったらしく、そのお二人経由で私にもお話が来ました。

さて、共演致しますCoumoly君とHandsome Boy君。このお二人も、かなりの実力派です。鳥取で[Sun Life](#)という大規模な夏フェスがあって、その企画・運営もされていらっしゃいます。私も昨年Mad Mouse Sessionsで参加させて頂いたのですが、物凄い人で、こんなところでこんなフェスがあるのか、とびっくりでしたね。その他にもライブやイベントに引っ張りだこのご様子。さすが若くて行動力ありますね。私のような世捨て人とは真逆(笑)。Coumoly君はラップ、Handsome君はボーカルなのですが、ここに中原さんのアンビエント・サウンドが加わったらどうだろうかということで、オファーを頂きました。元々Massive AttackやPortisheadとかのトリップ・ホップにも多大なる影響を受けた私としては、願ったり叶ったりというか。

昨日リハーサルを行ったのですが、非常に良い感じでしたね。やはり私のアンビエントだけではダイナミズムに欠ける部分がありますからね。それにラップやボーカルが入ると全然違って聴こえます。さすが場数をこなしていらっしゃるお二人だけある(笑)。私も負けてはいられません。何

せハコが昭和テイスト溢れる元**ストリップ劇場**なので、それにトリビュートした昭和期の電子音楽などをサンプルとして使うつもりです。やはり温泉といえば夢千代日記の武満でしょう、みたいな(笑)。それにVP-330のコーラスをかぶせるとか。ええ、引き出しはたくさんありますよ(笑)。

対バンのセンチメンタル岡田さんは、今回初めてお目にかかります。東京の方で、かなりポップなサウンドです。こちらも楽しみです。そういう意味では、イベントの前半と後半とでは全然違ったテイストになりそうです。その方がメリハリついて良いかな、とも思ってみたり。

まあ思いっ切り平日ですのでなかなかお出になりにくいとは存じますが、是非是非お楽しみに。今後もこの手のプロジェクトを進めるつもりですので、そちらもご期待下さい。

<追記>

本家のHPでは色んなこと書かれてますね。まあ確かにHipHop系気功家って、私くらいのモンでしょうね～。ええ、スピ系どころか、ギャングスター系(笑)。

レベゼン鳥取頂上決戦！

三朝温泉街を舞台に未曾有のスペクタクル大決闘！

ニューラッキー

2014.07.01 (火)

当日	予約	開演	場所
千五百円	千円	十九時三十分	三朝ニューラッキー (三朝町三朝903の2)



鳥取が産んだCheech & Chong

コチモリー・ハンサムボーイ

対

中原 勇一

(From 鳥取)

名曲『I ♥ 鳥取』を引っさげて三年連続三度目のご来鳥

どっちの方が鳥取を愛してるのか、
ピットに乗っけて決めようや！

セキメイタに岡田と
がんばれ根本くんバンド

(From 鳥取)



※内容は変更になる可能性があります。

問合せ

333newlucky@gmail.com

http://333newlucky.tumblr.com/

豊かさとは何か？

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

最近、「豊かさとは何か」について、よく考えます。

辞書を見ますと、「豊かさ」には大きく分けて三つの意味があるようです。「?満ち足りて不足のない状態、?経済的に恵まれている状態、?心や態度に余裕がある状態」。

単純に、この言葉から連想されるイマドキのイメージとしては、「勝ち組／負け組」ですとか、「年収〇〇〇〇万」とかいったものかも知れないですが、それは端的には?の意味ですね。

ではそれが、?や?も意味するのかというと、そこら辺は微妙になってくる。

この問題は、「幸福とは何か」という問題と平行だと思います。同じという意味ではありません。因みに経済学には豊かさに関しては、収支ですとか資本ですとか、様々な理論がありますが、幸福に関してはありません。少なくとも私は、聞いたことがありません。理由は簡単、後者は数値で測ることが出来ないからです。後者は普通「効用」と、一括りにされてしまいます。あるいはそれは哲学ないしは文学の問題であって、経済学のそれではない、と退けられます。

ここら辺の、物質的なものと心理的なものとの間の玉虫色の領域が、様々な問題を引き起こしているのではないかと私は思います。

例えばワタクシ。ワタクシはしがない気功家なんぞやっているわけですが、当然のことながら、お金がありません(笑)。ただ、自由はあります。あり余るほど。予約がなければすることが

ないので、PC使って音楽作ったり、練功したり、お店を持っている友人に会いに出掛けたりします。彼らは私がいつも現れるものですから、この人いつ仕事してんだ、と訝っておられるかも知れませんが(笑)。あるいは、人間関係もそうですね。イヤな上司とか当然いないし、そういう人に頭を下げることもない。仕事の特性上(って言うのかな?)、病気にもならないですしね。せいぜい年に一回、風邪を引くか引かないかくらいで。

もしこの「豊かさ」という概念を、?の「満ち足りて不足のない状態」のことであると考えたと、今の私は十分に満ち足りた状態かも知れないな、と思うわけです。本当に有難いことに。ここで物質的なものまで要求するのは、バチが当たるというか(?の「心や態度に余裕がある状態」はオコガマシイですけれども(笑))。ロールスロイスがいいか、自由がいいか、と問われれば、私は後者を選ぶでしょうね～。これってカルマかも知れないですね。それこそ来世だって同じことやってるかも知れない。ここら辺が私が普通じゃないと言われる理由なのでしょうけれども(笑)。

ある意味気功というのは、この「満ち足りた状態」を"思い出す"メソッドなのかも知れないですね。リラックスなんて言葉は、正にそうで。

こんなことを言うと、充足といってもそれは自閉ではないのか、といった批判があります。それこそ大昔から。それに対する回答というのは、その状態に安穩としてしまえばそうかも知れないので、常にそこから拡張しようとする意志というか、それを打破するような気構えも同時にあってよいかも、ということになると思います。逆境の中でも平常心でいられるというか(さらって言うてますけれども、このことは小乗仏教と大乘仏教の違いにもなります)。

ただそのベースたる自分自身の充足の状態が判らないままでは、拡張しようにも砂上の楼閣となってしまう。そのような自分と社会との板ばさみの中でストレスでボロボロになっている人は、仕事柄しよっちゅうお見かけます。そういう方はちょっとしたショックでも、簡単にポキンと折れてしまう。

『自分に帰る』、この言葉は古今東西、様々な形で言われてきた言葉ですね。ただ現代のように膨大な量の情報に囲まれて生きざるを得ない状況になると、昔以上にそれをするのが困難になる(こういう写真とか見ると、イマドキのコミュニケーションって何だろうな、と思ってしまいますね。そりゃあストレス抱える人って多くなるよね、とか考えてしまうのですけれども。誰かに自分の悩みを相談しようとしたら、ググレと言われたみたいな(笑))。それが様々なメンタル的なトラブルを引き起こしてしまう。多くのクライアントさんに接していると、そのような思いを余計に強くしますね。

周りの人と同じ価値観を共有しないと社会の一員として認めてもらえない、そのために自分を殺して嫌々話を合わせていて、それがストレスになる。ではどうすればよいのか？その社会を変えようとするのは、並大抵ではありません。確実なのは、それとどう上手に付き合うか、を模索することですね。その時、「帰るべき自分」があると、これは強い。そこから豊かさを考えてみるというのは悪くないかも、と思いますね。

必要なのは、ちょっとした工夫です。それが出来ると、もっと楽になれると思いますけれどもね。

明日のライブは、**11時10分**かららしいです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

明日の『**タターガタ市**』でのMad Mouse Sessionsの出演時間は、11時10分かららしいです。

案の定、東京に転居したギターの河田君は、残念ながら今回は不参加ということですので、トリオ編成ですね。EL&Pみたいなことが出来れば良いのでしょうけれども、KORGのミニのキーボードではちと難しい。

まあ出来るだけネタは仕込んでおくかな。というわけで、明日は宜しくお願い致します。m(_ _)m

突然ですが**29日**、米子市内でライブをやります。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

来週29日、米子市内で『**タターガタ市**』というイベントがあるのですが、そこで急遽ライブをすることになりました。

酒蔵を利用した、マーケット形式のかなり大掛かりなイベントらしいです。私は最近よく一緒にレコーディングをする鳥取市内在住の音楽家Kou Ota君からその話を聞いていて、彼と連れ立って客として行くつもりだったのですが、一昨日ベーシストのFunky中原君から連絡があって、Mad Mouse Sessionsで出ませんか、という打診があったそうです。

基本ライブ好きの私は、即座に承諾しました(笑)。

偶然にも、私がFacebook中に立ち上げているミュージシャンのコミュのメンバーも何人か演奏されるみたいです。いいですねー、オフ会みたいで(笑)。彼らによると今回は、エレクトロニカ系のグループが多いらしい。へー、そりゃ楽しみですね。県中部ではそんなことしてる人は**私くらい**で、非常に寂しい思いをしていますので、是非**お友達になりたい**です(笑)。

イベント自体も、フライヤーを見る限りでは物凄く多彩なラインアップで、面白そうですね。エキゾチックな感じで。サイトのフォトギャラリーには、何人かお見かけしたことのあるような方々がいらっしゃったりもしますが(笑)。

というわけで目下、久々にAbleton Liveを立ち上げて、プラグインを仕込み中です。最近Ulitimae系のPsybientがお気に入りですので(Solar Fields最高！)、あんな感じにしましょうかね。といいつつ、ベースとドラムとギターが入ったら全然違ってしまうというのが、このグループの真骨頂だったりする。やる方もどう展開するか予測がつかない、みたいな(笑)。

というわけで山陰発の、Improvised progressive space jazz rock、お楽しみに！

<追記>

時間は調整中らしいです。解り次第またお知らせ致します。

タタ-ガタ市
in
大正蔵

4月29日(祝火)
10~18時

入場無料

大蔵
GALERIA TAISHOUGURA

◎今田△等
◎田田等 八木山山山△△

拝啓 **XP**からのお引越しは順調でしょうか・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

来週やってくる**4月8日、XPのサポート切れ**に関して、メディア各社はユーザーの乗換えを促そうと懸命ですね。

不肖XPのユーザーだった私めも、ようやく移行を完了致しました。ただ移行先は残念ながら、メディアさん達イチオシの8.1とかではなく、**Linux**ですけれども。

Linuxなんて今まで使ったことがなかった上に私の周りにはLinuxユーザーも皆無ですので最初は苦労しましたが、慣れたら快適ですね。Linuxと言っても膨大な量ありますから、どれが一番自分に合っているのか検証する過程は、なかなか楽しかったりもしましたし。お陰で10年近く使っていたVaioが、一台イカレちゃいましたが(そう言えば、Vaioも消滅しますね。いやはや時代の流れというか)。

そんなこんなで私が最終的に選んだのは、**Zorin OS Lite**というディストリビューションです。そこそこ軽くていいかなと。アプリがほとんど入っていないという潔さも気に入った(笑)。軽さという点では**LinuxBean**という国産のディストリも良かったのですが、何せ嫁と共有するPCですから、デスクトップが英語表記の方が良いかなと思って、前者にしました。まあ飽きたらすぐに乗り換えますけれども。ここら辺の柔軟性も、Linuxの醍醐味かも知れない。

ネットを見るだけであれば、これで十分かな、という気がしますね。

だからと言って、XPマシンは放棄しません。もったいないですから。スタンドアロンのオールインワンシンセにしちゃう。それでネット接続するとか、そんな必要ないですからね。MIDI経由で動作するウィルスがあれば話は別ですけども(笑)。第一私の場合DTMって言ったって、そんなに高スペックのPCが必要になるようなことは、全くしていませんからね。Ableton Liveもいまだにver.5を使っていますし。基本**音さえ出れば何とかなる**、というスタンスだったりする。PCを使った音楽やる割には、発想自体は極めてローテクという(笑)。

ただ今の世相ですと、XPどころかPC自体が、タブレットに取って変わられそうな雰囲気ですけどもね。雰囲気どころか、間違いなくそうなるでしょうね。ですから僕も本気でXP放棄する時は、乗り換え先は一足飛びにタブレットになると思います(多分スマホはなさそうな気がする。流行がどうのこうのではなく、単純に画面が小さ過ぎる・・・)。PC自体がビンテージになりそうな気配。ここら辺も時代の流れですね。

まあそれまでは中古のXPマシンかき集めてLinux付きのオールインワンシンセにして、一人悦に入ってることにします。嫁は、家がガラクタばかりになるから止めてくれと訴えていますけれども、気にしない(笑)。

最悪の結末となってしまいました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

嫁の里帰りの際に、同社とクアラルンプール空港はよく利用するので、事件発生からずっと事態を注視していたのですが、最悪の結末となってしまいました。

何とも言葉がありません。関係者の皆様には、心より哀悼の意を表します。

先だって、非常に興味深い記事を見つけました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先だって、非常に興味深い記事を見つけました。

[やっぱり人類は滅亡することがNASA出資の調査で判明。資源浪費と貧富二極化で](#)←英文は[こちら](#)。

私が大学の時に研究していたのは、経済社会学でした。貨幣の役割とは何か、みたいな内容ですね。経済人類学とか。その当時からおよそ実社会とは縁のない研究をしていたという。失敗でした(笑)。

その時に所属していた足立正樹ゼミのテキストは、エドゥアルト・ハイマン著『近代の運命』という本でした。

かなり分厚い本で私自身も読破したわけではないのですが、まあかいつまんで言えば、近代資本主義は遅かれ早かれ崩壊せざるを得ないと。それは何故かと言えば、近代資本主義は、拡大再生産(わかりやすく言えば、経済発展ですな)が無限に可能であるかのような前提の下に理論が組み立てられているけれども、そのようなことは地球という有限の固体の上に生き続ける限り、現実的にはあり得ない、というわけですね。

基本的には、かのマルクスも同じ視点を持っていたと。一般的にはマルクスは、資本主義を打倒して、今となってはノスタルジックな社会主義革命を起こそうとしていた張本人であるかのように思われていますけれども、実際はそうではなく、彼はただ単に、上記と同じ視点から、資本主義はいずれ崩壊して、その後に社会主義とでも言うべき富を均等に配分した経済体制に移行せざるを得ない、と言いたかったのではないかと(実際それを動的な革命理論にしたのは、盟友エンゲルスと、その後のレーニン＝スターリンでした。あと毛沢東とかですね)。

どうやらそれには、「**人類が今後も生存したければ**」という一文を付け加えなければならなかったようですね。しかも、"coming decades"(今後数十年)ってのがファンキーじゃないですか。

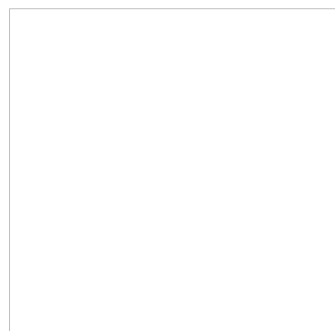
20年くらい前私が中沢先生の教室に忍び込んだ時に(笑)、先生が「1980年代中頃までは、人類はまだ市場経済に突き進むか精神文化を保持するかの分岐点に立っていましたけれども、それ以降人類は前者を選んだ。皆さんはもう市場経済に組み込まれて生きるしか方法がありません」とおっしゃっていたのも、今となっては懐かしいですね。それが正しかったことは、今の社会を見れば

ば一目瞭然。「反体制」なんて死語どころか化石語(笑)。その中では「拡大再生産＝経済発展」こそが是で、それ以外の選択肢はない。アベノミクス万歳！この記事にもありますけれども、いくら地球環境を守りましょうなんて言ってみたとこで、口先では同意しつつも内心ではそうならない人達の政治的なパワーの方が格段に大きいわけですから、その人達が本気で方向転換をしない限りそれは不可能な話で、実際それは無理。だとすれば人類の命運は、完全に決ってしまったようですね。大気汚染とか、原発とか、CO2排出とか、わかっちゃいるけど止められない(因みに私がCO2排出の危険性を周囲に訴え始めたのは1970年代、小学生の時でした。当時お前間違いじゃないかと言われましたけれども、今じゃ立派な間違い(笑))。

まーた中原がヒマに飽かしてホラ話してる、ちゃんと経済活動しろよ、と笑われるかも知れませんが、実際笑い話で済んだら良かったんでしょうけれどもねー。しかもガミラスが遊星爆弾で攻めてくるとかではなく、自滅ってのが皮肉ですね。南無釈迦牟尼佛。まあ人の世なんてこんなもんさ、っていうシニカルな研究結果であります。

最後の補足も面白いですね。冬が終わってだいぶ暖かくなってきましたけれども、今年の夏はどうなるんでしょうねー。まあ茹で上がらないように今から、拙火功で慣らしておくことにします。あとは人類滅亡に向けて、出神の行ですか(笑)。

Kraftwerk/Autobahn



[Autobahn](#)

[Autobahnの他のレビューをみる»](#)

評価：★★★★★

Kraftwerk

Emd Int'l

¥ 5,992

(1993-02-02)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

テクノ/エレクトロニカの世界では知らない人はまずいない、ドイツのKraftwerkの最初のメジャーヒットとなった作品です。

とは言っても、ファーストではありません。これ以前にもKraftwerk名義で数枚アルバムは出しているのですが、いまだに正規版とは考えられていない(しかもご本人達によって)ので、実質このアルバムがファーストみたいな扱いになっていますね。

私自身が最初にKraftwerkに触れたのは、例の"The Man Machine"『人間解体』が最初で、それから"Trans Europe Express"『ヨーロッパ特急』、"Radio Activity"『放射能』などに触れていったわけですが、何故かこの作品は長らく、CDになっていませんでした。当時はYouTubeとかありませんでしたし。ですからこの作品が吉祥寺のタワーに並んでいるのを見た時、迷わず買いましたね。帰りの電車賃のことなど考えもしないで(笑)。

それ以来この作品は、私のオールタイム・フェイバリットになっています。

ここら辺は、我ながら不思議ですね。Kraftwerkと言えば、むしろ上記の三作品の方が有名ですからね。しかもタイトル曲"Autobahn"は、20分以上あるという。テクノポップと言われる彼らの作品の中でも、異色だと思います。Tangerine Dreamの"Rubycon"より長い(笑)。しかも後者のようにドラマティックな展開があるわけでもない。延々と"Wir fahr'n fahr'n fahr'n auf der Autobahn "(アウトバーンをドライブちう)みたいな歌詞が繰り返される。しかも音もスカスカ。

でも、ここら辺のユルい感じが良いんでしょうね。

YouTubeでは背広着てライブで演奏している映像も見られますね。BassはMini Moog。全部手弾き。PCでのプロダクションが完全に一般化した今の感覚から言うと、逆にこのような人力感は

新鮮だったりする。アルミホイルで作ったようなパーカッションがナイス(笑)。

ようやく暖かくなってきたこの時期。私の場合はAutobahnではないですけども、大山辺りをドライブする時にバックで聴いていたいアルバムですね。

今週も、"Quiet Village"やります。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今週末の土曜日も、あかり舎さんにて午後6時より、"Quiet Village"を開催します。

初回の前は準備その他でドタバタしていてDJが全く出来なかったのですが、今回はじっくりとさせて頂こうかな、と考えています。まだまだ寒い時期ですので、そんな鬱々とした鉛色の山陰の雰囲気**にぴったり**の、ECM系のJazzをプレイする予定です。あるいはブリストル系のトリップ・ホップかなみたいな。ただしそこは私のすることですので、お出でになった際にアッパーなシカゴ・ハウスとかかけていたらお許し下さい。

今回も同じ方々にDJをお願いしようと思っているのですが、自分もやってみたいと思われる方は、お気に入りの楽曲をUSBメモリに入れて、ご持参下さい。当日使うのは、**[Atomix Virtual DJ](#)**です。ターンテーブル風のGUIに曲をドラッグ&ドロップするだけです。誰でも出来ます。スクラッチとかの機能もありますので、お好みでどうぞ。因みに本物のターンテーブルなどの玄人志向なものはございませんので(てか、持っていないし)、あらかじめご承知置きのほどを。

チャージは前回と同じく500円で、軽食やお飲み物は別途ご購入頂くみたいな感じです。

何せ移り気な私ですのでいつまで続くかわかりませんが、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

来週**25日土曜日午後6時**より、"**Quiet Village**"というイベントを行います。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

来週**25日土曜日午後6時から午後9時**まで、いつもお世話になっております赤瓦エリアにあります『あかり舎カフェ』さんに於きまして、"**Quiet Village**"という音楽イベントを行います。

きっかけは単純で、この辺りではあまり私好みの音楽イベントがないからですね。それなら待っていたってしょうがないから、自分でやってみよう、みたいな。DIY精神です(笑)。

その昔、1990年半ばくらいの話ですけれども、かのBrian Enoが六本木に、"Quiet Club"というクラブを立ち上げるらしい、という噂が流れたことがありました。上京したばかりの私はそれを聞いて、それは是非行かねば、と思っていたのですが、いつの間にか立ち切れになっていたみたいですね。

まあそんな地味なコンセプトのクラブなんて、やはりアッパーなものに比べて需要が厳しそうですからね～。因みに90年代のクラブカルチャーで私が興味を持っていたのは、フロアではなくその隣とかにあったにあったチルアウト・ルームの方だったのですけれども。The OrbのAlex PatersonがDJやってたような。さすがにそれを独立させるのは採算的に難しそうなイメージですが、でもそういうのも世界のどこかにあってもよいと思うんですけれどもね(ありそうですけれども(笑))。そういう意味では学生時代よく行っていた神戸のXebec Hallなんて、結構面白いことやっていましたね。オールナイトの民族音楽のライブとか。そこでインスタレーションの面白さを知ったわけなんですけれども。まああの当時からの手の話が出来る人なんて、悲しいことに私の周りには全くいませんでしたが(笑)。

その延長で東京でやっていたような舞台音楽とかは自分なりに面白かったかな、とは思いますがけれども、数年前そのような風土が皆無のこの**僻地**に引っ越してきて、逆にそういうものがないからこそやってみるのも面白いかもな、と思って、今回の企画を立ててみました。

コンセプトとしては、軽く飲食をしながら、アートですとかサブカルチャーといったような話題について話が出来る場所をご提供出来たらな、と考えています。地元の悪口でも全然いいんですけれども(笑)。東京から帰ってきて自分なりに動き回ったのですけれども、この保守的どころか排他的な田舎の雰囲気がいやだみたいな方って、結構いらっしゃるということが判ったので(笑)。そういう方々はアートとか音楽にもびっくりするくらい造詣が深かったりするのですが、いかんせんこの辺りは何もないので、展覧会やライブ見にわざわざ東京へ行ったりする、みたいな。そういう方々と地元の悪口でやたらと盛り上がりたりするわけですが、そういう皆さんが一同に会されるとかなりファンキーなことになるのではないかと(笑)。

で当然、DJもいるわけですが、今回のもう一つのコンセプトとして、今までDJをやったことがない人にDJに挑戦して頂こうと思っています。その方が妙に型にはまったプレイをされないのによろしいのではないか、と思ひまして。というわけでDJは、以下の方々です。

6:00-6:40 DJ Yuta	沖縄の音楽 ...etc.
6:40-7:20 DJ Kasane	中近東の音楽&シャンソン ...etc.
7:20-8:00 DJ KAOS	昭和のポップス ...etc.
8:00-8:40 DJ TAO	Jazz/Fusion/Chillout/Electronica/Lounge ...etc.

チャージは、**お一人様500円**です。料理・飲み物等はあかり舎さんでお求め頂けます。足りなかったら**みんなで近所に買出し**に行きましょう(笑)。持ち込みも歓迎致します。

まあこの時期雪の関係もありますので、多くの方々のご参加は意図していません。てか、**雪が降ったら来ないで下さい。危険です**(笑)。まあ10人前後でもいいかな、と考えています。因みに"Quiet Village"とは、エキゾチック・サウンドで有名なMartin Dennyのアルバムのタイトルです。正に**鳥取県全体がその名の通り**で、ぴったりではないかと(笑)。出来ればですけども、月一回程度で継続してやりたいですね。またここを叩き台にして次のアクションにつなげるのもありかな、と思っています。

というわけで、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

※名盤です。モンド・ミュージックの先駆者(笑)。Yellow Magic Orchestraがカバーした"Firecracker"も入っています。もっともアレンジ自体は"Sake Rock"に近いですけども。

51jZJVfqqEL.jpg

Quiet Village

 [Quiet Villageの他のレビューをみる»](#)

評価 :     

Martin Denny

Rev-Ola

¥ 6,795

(2006-11-21)

この日が来ると、本当に気が重くなります。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

自分の人生の中であの瞬間ほど、生と死というものを強烈に意識したことはありません。

しかもそれが極めて薄っぺらい紙のようなもので分け隔てられているだけという、シンプルな事実。

それをはっきりと見せつけられました。

幸か不幸か、私は生の方に踏み止まることが出来ましたけれども、その理由はいまだにわかりません。

あの日の廃墟に広がる空の青さは、とても記憶から消し去ることは出来ません。

今日一日はあの風景に、思いを馳せたいと思います。

さようなら**XP**、こんにちは**Linux**。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

新年早々のうちの最もホットなトピックは、日本の正月の風習はどうのこうのというよりも、**間もなくXPのサポートが切れる**、ということでした。

うちにはデスクトップ、ラップトップ含め、**5台のPCがあります**。二人暮らしなのに(笑)。ほとんど各部屋に一台ずつPCがある、というような状況ですね。え？電磁波？そんなの全然気にならないっす。てか、PCに囲まれてると幸せなんっす。**人間より好き**(笑)。

そのうち**3台が、XP**。もしサポートが切れるとなると、この3台も粗大ごみになった上に、3台もおニューのPCを購入しなければならないのだろうか？そのような我が家のフトコロ事情を考えるわけもなく、御大Microsoftとそのフォロワーのメディアさん達は昨年末より、**〇〇まがいの情報**を流していらっしやいますね。**XP使い続けると大変なことになりますよ。早くWindows 8 買いなさい**、みたいな。

でもそれってお金云々じゃなくって、エコじゃないよね。**もったいない**じゃないですか。Microsoftさんは全社を挙げて、全世界から廃棄物を量産するように仕向けていらっしやるのでしょうか？(笑)。

まあ私の場合は、万が一サポートが切れてもそれぞれのXPマシンはスタンドアロンにして、VST仕込んで楽器にしちまうってことも実際ありなのですけども、何か他の手立てはないだろうか？

そうやって瞑想中に(笑)色々と考えているうちに、**Linux**って実際どうよ？という考えに至りました。

その路線でネットで調べてみると、同じこと考えていらっしやる方が多いですね。このXP期限切れをきっかけに、何だかLinux周辺が、俄然活気を帯びているような感じですね。

というわけで最近のマイブームは、**星の数ほどあるLinuxを旧型PCに仕込んでそのパフォーマンスを比べて悦に入る**ことだったりします(笑)。特に14年前に初めて買ったVaio。HDDは40GBでメモリは512MB。CPUはCeleron。実験台としては最適ではないか！

ここで、当ブログをいつもご覧頂いている皆様で、このXP問題はうちも無視出来ないぞ、と戦

々恐々とされている方々のために、その手順をご紹介したいと思います。備忘録も兼ねていたりして(笑)。

(1)LinuxLive USB Creatorを使って、OSのUSB版を作成。

このアプリを使うことで、USBメモリをOSへと転じることが出来ます。詳しい説明は以下をご参照頂くとして、お勧めのやり方は、ディスクイメージを予めダウンロードしておいた上でアプリ上でそれを読み込んでUSBに展開する、というやり方ですね。いちいちディストリビューション選択する度にダウンロードしてたら、時間がもったいないですから。私はダウンロードしたLinux専用のフォルダを作って、そこから読み込んでいます。ここに膨大な量のLinuxが。VSTと同じですね。ええ、集め出したら止まらないんです(笑)。

[Linux OS のライブUSB を作成！「LinuxLive USB Creator」。](#)

※最初はUNetbootinというアプリを使っていたのですが、その直後にエラーでUSB3本逝っちゃいました。LinuxLive USB Creatorに替えてからエラーは出ていないので、多分原因はこのアプリではないかと・・・。

(2)Plop Boot Managerをインストール

このアプリは、HDD以外の場所からのOSの起動を可能にしてくれます。特にUSBメモリとかですね。私の実験台Vaioの場合、これはマスト・アイテムでした。何故って[光学ドライブが壊れている](#)ので、CD/DVDからの起動が不可能になっているから。リカバリも出来ない、みたいな(笑)。これをインストールすることで、起動時にどこからOSを読み込むかを指定することが出来ます。

<http://www.plop.at/en/bootmanager/download.html>

・・・で複数のUSBに複数のLinuxをぶっ込んで、色々試しているのですが、なかなか面白いですね～。軽量Ubuntuということで[Lubuntu](#)を入れたら、初代Vaioにはちと重い。軽さでは[PuppyLinux](#)ですね。でもデザインの的には[LinuxBean](#)がクール。うーん、迷うぞ(笑)。

いっそのこと4月以降は、それぞれのXPマシンに、別々のLinux入れましょうかね。[部屋毎に別々のOSがある](#)という図も、オツなものかも知れないですね。XPのサポートが切れたら怖いのはネットに接続出来ないという点なのですが(それさえも私のPCの師匠は微妙だって言ってますけれどもね(笑))、Linuxですと全然問題ないですし。逆にLinuxの方がセキュリティ的にWindowsよ

りも安全という話もありますしね(実際東証では、システム全体のLinux化が進んでいるらしいですね)。

XPサポート切れ。災い転じて福と成す。この問題がユーザーのWindows製品の更なる購買を促すどころか、今のトレンドを見ると、逆にMicrosoftに引導を渡す契機となりはしないでしょうかね？(因みに、こんな記事もありますね。これってヤバくないですか？→[Microsoft、2014年に Ubuntu 版 MS Office をリリースか？](#))。4月以降はどうなってるんでしょうね～。非常に気になりますね～。

というわけで、さようならXP。こんにちはLinux。

明けましておめでとうございます。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

昨年は皆様にとって、どのような年でしたでしょうか。私的にはなかなか充実した一年だったように思います。意図的に自分からライブをやったりとかいったアクションは起こさなかったのですが、様々なところから演奏やPAの依頼があったりして、結構忙しかったですね。案外こんな[辺境](#)でも音楽の仕事があるんだなというのは、ちょっとした驚きでしたけれども。

あ、もちろん気功の仕事も充実していましたね。昨年は初めてコンスタントに教室をさせて頂いたわけですが、遠いところからご参加頂けたりもして、本当に有難いことでした。皆様[エグイくらいに](#)個性的な方々ですし(笑)。実際教室よりも、その後のダベリングの方が面白いのではないかと、とも思いますけれどもね。教室にお出で頂いた皆様には、本当にお世話になりました。

で、その今年の教室なのですが、いつもは第一・第三土曜日午後4時なのですが、その第一土曜日がいきなり4日ですので、今月だけは第二・第四週の11日・25日に変更とさせていただきます。2月・3月は通常通り、第一・第三土曜日です。

あと現実的な問題として、この時期の山陰地方は天候の予想が極めて困難ですので、基本天候が怪しいなと思ったら、[絶対に来ないで下さい](#)。命を賭けてやるようなことでもありませんから。[私だって嫌です](#)し(笑)。何なら当日にでもお問い合わせ頂いたらお返事致しますので、それを参考にされても結構かと存じます。誰もお出でにならなくても、僕一人あかり舎さんで温かいお茶でも飲みながら、マスターといつもの調子で[鳥取県がいかに素晴らしい県か](#)を熱く語っているかも知れません。それはそれで聴き応えあったりして(笑)。

というわけで、今年も宜しく願い申し上げます。

12月1日日曜日、くらし国際交流フェスティバル**2013**が開催されます。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

12月1日日曜日、倉吉市内にあります伯耆しあわせの郷にて、くらし国際交流フェスティバル**2013**が開催されます。

米子市、鳥取市と続いた鳥取県内の本年度の国際交流フェスティバルの、言わばシメですね。これ以降は春まで山陰は雪に閉ざされるため、物理的にフェスが開けない・・・のが理由かどうかは知りませんが(笑)、取り敢えず今年は、これが最後になります。

かく言う私もそれぞれのフェスに、ジャガタラ・アートとして参加してきたわけですが、この倉吉はよりリキ入れて取り組んでいます。何しろ出店だけではなく、実行委員で、なおかつ音響ですから(笑)。何だかんだで私も三回目なので、要領は解っているつもりです。ええ、シス卿みたいなノリで関わっています(笑)。

まあやる方としては、楽しくなければフェスティバルじゃない！と思っているわけですが、でも悲しいかな鳥取県って、基本的に内気な人が多かったりするので(笑)、そういう人はそっとしておいて、[楽しみたい人だけで楽しんじやいましょう](#)、みたいな仕掛けを、私なりに色々と仕掛けています。[忍者](#)と[プレスリー](#)にご登場頂くとか。僕も嵩山少林寺から買ってきた袈裟を着てオペをしようかな、と思っています。[もう四の五の言わず、コスプレ大会でいいじゃないですか](#)。家にアオザイある方は、それ着てご参加下さい(笑)。

テーマソングは昨年、一昨年と同じく、琴浦町三本杉在住のDJ KAOSさんと私が作曲した、**"Shiny Smile"**を使って頂けることとなりました。でも三回目となるとさすがに作った方が飽きるので(笑)、それをハウス・リミックスしたテイクをご用意しました。コンプバリバリ、みたいな(笑)。それをエンディングに持ってきてリアルタイムでシンセを重ねつつ(やっぱりここは**Prophet-5**でしょう！エミュレートだけど)、一大ダンス・パーティで締めくくろうかな、と考えています。これって、風営法に引っかからないですよ、お巡りさん？(笑)。

というわけで、皆様のご来場を心よりお待ちしております！



地球はひとつ★みんなであつなく 笑顔のWa

くらよし 国際交流 フェスティバル 2013

KURAYOSHI
Intercultural
Exchange
Festival

2013 12/1 日

10:00~15:00

会場／伯耆しあわせの郷
倉吉市小田 458
Tel.0858-26-5581

入場無料



主催／くらよし国際交流フェスティバル2013実行委員会・公益財団法人 鳥取県国際交流財団

共催／鳥取短期大学

後援／鳥取県・倉吉市・三朝町・湯梨浜町・琴浦町・北栄町

倉吉市教育委員会・三朝町教育委員会・湯梨浜町教育委員会・琴浦町教育委員会・北栄町教育委員会



問い合わせ：0858-23-5931 Official Brog <http://pink.ap.teacup.com/kicf>

世界を
見る!!

ステージ パフォーマンス

- ★鳥取短期大学【オープニング&ダンス】
- ★山陰日本アイルランド協会鳥取支部
【アイルランド音楽の即興演奏】
- ★日本太道連盟奥旨塾鳥取支部【太道】
- 昼 休 憩 ——
- ★ハワイ・ストロベリーズ【ハワイアンミュージック】
- ★中華武術華華倶楽部【太極拳】
- ★江北ゆる体操教室【ゆる体操】
- ★韓国伝統芸能ブンムルノリ【韓国伝統芸能】
- ★鳥取短期大学【地域の伝統芸能】
- ★くらよし国際交流フェスティバル2013実行委員会
【エンディング】



世界を
体感
する!!

文化体験 & 学習

- ★鳥取県国際交流財団
【民族衣装の試着体験】
- ★ジャガタラ・アート・
アンド・クラフト
【インドネシア体験と
ハンドメイドグッズの展示販売】
- ★放送大学鳥取学習センター
【ミニ講演(午後):
こんなに楽しいメキシコ文化!
(グラシエラ・クラビオト)】
- ★鳥取短期大学
【Kids English、絵手紙】



スタンプラリーも
あるよ★

世界を
知る!!

地域&国際交流 活動紹介コーナー

- ★鳥取県中部日中友好協会【中国の旅写真展】
- ★放送大学鳥取学習センター【放送大学で学べる科目紹介】
- ★JICA【青年海外協力隊の活動写真パネル展】
- ★ぶちびこ【ロシアのトレンド紹介】
- ★山陰日本アイルランド協会鳥取支部【アイルランドの風景パネル展】
- ★鳥取県中部日韓親善協会【韓国紹介】【倉吉市羅州市20周年記念めぐりえ体験】
- ★AFS【高校生の交換留学とホストファミリーの紹介】
- ★鳥取短期大学【海外研修 in ニュージーランド&台湾】【国際文化交流学科の授業紹介】



世界を
味わう!!

飲食販売コーナー

11時から
販売します

- ★倉吉韓食倶楽部
【キムバブ、ヤンニョムチキン、スルメの佃煮、韓国風牛肉スープ、
トッポッキ、韓国おでん、ホットク、韓国伝統茶】
- ★鳥取台湾人会【タピオカミルクティー、台湾おこわ、茶たまご】
- ★樋口農園【バジルソースパスタ、バジルソースホットサンド、加工品、農産物】
- ★鳥取県日仏友好協会【オニオンスープとカナッペ、フランス・ケーキ4種】
- ★ローフードマイスター鳥取校
【ローベジ海苔巻、ロースイーツ、スムージー、酵素ジュース】
- ★中華料理 祥和園【肉まん、焼きビーフン】
- ★AFS【カレー】 ★鳥取短期大学【とりたんCafe】



11月17日、鳥取市のタイム・フェスティバルに出店致します。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

次の日曜日の11月17日、鳥取市のとりぎん文化会館で行われる恒例の国際交流フェスティバル「タイムフェスティバル」に、ジャガタラ・アートとして出店致します。

鳥取、倉吉、米子の各市で、この時期連続して国際交流フェスティバルが行われるわけですが、こちらのタイムフェスティバルが、一番歴史が長いそうです。25回って、結構すごいですね。今回もインドネシア関連のアイテムを引っさげて、参加させて頂こうと思います。

というわけで、お近くの方は是非足をお運び下さい。お待ちしております！

☆楽しい国際交流イベント☆

タイムフェスティバル



第25回
Rainbow
続ける力 25

とりぎん文化会館（入場無料）

2013年11月17日(日)11:00~15:30

カラフル・カルチャー・カーニバル



ブース出展者募集中!
10月18日まで

＜問い合わせ先＞

TEL: 0857-31-5951 (公益財団法人鳥取県国際交流財団)

MAIL: kohakura-y@torisakyu.or.jp

ホームページ: <http://timefes.jimdo.com>

ホームページへのアクセスはこちらから →



- | | |
|------------------------|----------------|
| ■国際村(各国、団体の紹介・料理販売ブース) | ■サインラリー |
| ■パフォーマンス | ■民族衣装を着てみましょう! |
| | ■ワールドカフェ ほか |

主催: タイムフェスティバル実行委員会 公益財団法人鳥取県国際交流財団

第25回 タイムフェスティバル

平成25年11月17日(日) 11:00~15:30

会場：とりぎん文化会館 (鳥取市尚徳町101-5)

入場無料

参加団体紹介(予定)

国際村(販売・展示)

世界の国々の紹介、民芸品などの展示、料理・物品の販売

鳥取大学中国人留学生学友会 水餃子実演販売 / タイ・ラオス トムヤンクン、春巻
台湾 烏肝甘辛和え等 / スコットランド 手工芸品・お菓子 / マレーシア 伝統的なお菓子等
ロシア ロシア風お弁当(ボルシチ・ピラフ・サラダ) / 鳥取台湾人会 台湾おこわ・ウーロン茶卵等
ベトナム フォー / 鳥取県日仏友好協会 ケーキ・ハーブティ・ロクシタン製品等
鳥取中国帰国者 開拓団関係写真の展示、ねぎパイ / 鳥取ハーナウ友好親善協会 ケーキ、ハーブティ
鳥取県国際交流財団日本語クラス フィリピン・インドネシア家庭料理 / ラテンアメリカ タコス
ジャガタラ・アート・アンド・クラフト インドネシアのパティック、オーガニックソーブ等
鳥取大学韓国人留学生会 / 智頭町 100人委員会・コントリビューションの会 おこわ等
鳥取大学国際交流会 IFA / ワールドカフェ シフォンケーキ・コーヒー ほか

国際村(展示)

国際交流・協力団体が活動を紹介

タイム(とっとり国際交流連絡会) / アムネスティ / アイスランド / ポルトガル
ベルギー / 放送大学鳥取学習センター / AFS 日本協会鳥取県支部 / 鳥取ワイズメンズクラブ
鳥取県 JICA デスク / アジアンユースフォーラム AYF / 鳥取環境大学インターナショナル同好会
鳥取大学地域調査国際交流チーム / 国連 / 多言語国際交流サポート TIA ほか

ステージパフォーマンス

ラス・アラス フォルクローレ演奏 / 胡桃の会 中国の楽器・二胡の演奏 / ロシア 民謡ダンス
フィリピン バンブーダンス / 山陰日本アイルランド協会 / 中国ウイグル族 歌と演奏
鳥取大学学生・留学生グループ ダンス / 鳥取民謡指導者連盟 新曲員がら節 ほか

お楽しみコーナー

手作り教室(無料)

11:00~13:00

バルーンアートづくり

13:00~15:00

ボンボン人形づくり

11:00~15:00

めんこづくり



民族衣装試着体験コーナー(無料)

世界の国のいろいろな民族衣装を試着できます。
大人用も子ども用も、たくさん揃えています。
カメラをご持参ください!

サインラリー

色んなブースを回って、サインやスタンプを集めて、景品をゲット!

週末11月3日の『ハローほうき国際交流フェスティバル』に出店致します。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

週末11月3日、米子コンベンションセンターで開催されます『ハローほうき国際交流フェスティバル』に、ジャガタラ・アート・アンド・クラフトとして出店致します。

今回はこれで、3回目です。米子まで車で一時間かけて、行商へ行って参ります。目下嫁さんは、そこで販売するアイテムを二階で制作中です。階下までかなり派手に、ミシンの音が響いておりますが(笑)。今年はヘアアクセサリーだけではなく、ブラウス等も手がけているようで、商品にはかなり幅が出てきたのではないのでしょうか。それだけではなく、バリから直輸入したハンドメイドのオーガニックソープですとか(これすごいいいです。芳香剤として使ってらっしゃる方もいらっしゃいます)、コーヒーとかも販売しようかな、と思っています。

また今回は、日本語インストラクターの小泉さん制作のクラフトも販売致します。彼女はJICAに所属して、今大変なことになっているシリアとかウズベキスタンで長いこと日本語教師をされていたのですが、昨年帰国されました。最近はよく一緒にツルんで、夜な夜なUFO探索に精を出していたりするのですが(笑)、今回はエスニック素材を使ったアクセサリー等を販売して頂けるようで、とても楽しみです。

因みに我々のブースは、一番奥の、パフォーマンスステージの隣です。スピーカーの真隣なのでイヤな予感はあるのですが、まあそれも一興ということで。

なお駐車場は、隣のモータープールをご使用頂けます。会場でカードを配ってまして、それを清算機に投入したら、無料で駐車が出来るようになっています。

というわけでお近くにお住まいの皆さん、是非お出で下さい！



第10回

ハローほうき 2013

国際交流フェスティバル



テーマ
和
wa
～ちがいを認めあって～



（球太）

入場無料

みんなであそぼう！

- 開催日時：2013.11.3（日・祝）11:00～16:00
- 場所：米子コンベンションセンター 多目的ホール
- 内容：ステージパフォーマンス、インターナショナルな食品や雑貨販売
フリーマーケット、国際交流団体の活動記録展示など
- 主催：ハローほうき国際交流連絡会・公益財団法人鳥取県国際交流財団
- 後援：米子市、米子市教育委員会、BSS 山陰放送、日本海テレビ、山陰中央テレビ、

NHK 鳥取放送局、中海テレビ放送、新日本海新聞社、山陰中央新報社、朝日新聞米子支局、
産経新聞鳥取支局、毎日新聞鳥取支局、読売新聞米子支局、エフエム山陰、DARAZ FM

【予定 参加団体および個人（順不同）】

アビア・ボワチ&シェーン・モルガン/el medio/ グラナダ/Jack's Cooking/ ドイツを語る会 /
ジャガタラ・アート・アンド・クラフト/ 鳥取県 JICA デスク/ 鳥取台湾人会/ 鳥取地球人クラブ /
南部町国際交流協会 /Universe/ 日南町国際交流協会 / 日本中国友好協会米子支部 /Hearty Party/
バングラデシュ / 日吉津村国際交流協会 / ヒップファミリークラブ / プチ・アジア /La France/
Hiyas Filipino Community/Philja/ ぶちびこ /Future Echoes/ 放送大学鳥取学習センター /
ユニセフ発起人会西部グループ / 米子東高校 ESS/Lesaa&Almas/YMCA 米子医療福祉専門学校 /
鳥取県海外子女教育・国際理解教育研究協議会 / 境港中国文化研究会 / 鳥取県日仏友好協会 / 長井英夫



駐車場の
ご案内

ピックアップ前駐車場をご利用ください。駐車券をご持参いただき、会場内設置
の割引認証機に通してください。（ご参加時間）の駐車料金が無料となります。

問合せ

TEL 090-5375-0716（河中） メール m-take@chukai.ne.jp（竹内）
ホームページ http://www.geocities.jp/hoki_kokuren/







取り敢えず、楽座楽市でのライブ終了致しました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

取り敢えず、楽座楽市でのライブ、終了致しました。

無事に・・・と言えないのが悲しいところですが。一日目の『**明日はきっと！ときめきチャンネル**』、こちらの売りはハードウェアシンセだったのですが、それが仇になっちゃいましたね。単純なトラブルだったのですが。ずばり、「**音が出ない**」(笑)。

ある意味懐かしいトラブルですけれどもね。高校の時学園祭でYMOのカバーをやったのですが、当時はシンセと言え、シンセしかなかった。ステージのPAは完全田舎ヘビメタ仕様になっていましたので当てに出来ず、本番はミキサーまで自前で持込みで臨んだのですが、何せ機材全部がやたらデカかった。必死の思いでステージに並べて結線したら、**音が出ない**、みたいな。ええ、いまだに夢で見てうなされますわ(笑)。現在ステージでPC使うのはそれがトラウマになっているからなんですけれども、今回はそれがモロに出ましたね。

それでも演奏はゴリ押しで通しましたが、そういう意味で少し残念だったかな、みたいな。まあこういう入れ替え制のステージの場合、セッティングも含めてステージなので、その辺のリスク管理が今後必要ですね。

一応友人に撮影してもらったのですが、こちらにもトラブルがあったらしく、前半部分が全く収録されていませんでした。でもまあ使えそうな部分をつなげて、YouTubeにアップしてみました。

・・・で、次の日の**Mad Mouse Sessions**。こちらは慣れたものでした。当日はギターの河田君が連休の渋滞に巻き込まれたらしく、現れたのが本番5分前。まあ最悪来なかったらトリオでやりますか、みたいな話もしてたりとか、**柔軟性はバッチリ**です(笑)。んでもって四人で合わせたのがこの時だけだったわけですが、リラックスして取り組めたと思います。こちらはきれいに収録されましたね。後で聴くと何だか**カンタベリー派にところどころVangelisが乱入**みたいな、完全アマルガム状態になっていますね。

まあでもこんな感じで、鳥取の若い音楽家とステージがご一緒出来るというのは、非常に有難いことですね。皆さん多才な方々ばかりですし。鳥取にもこんなトンガった人達がいるぞ、みたいな、ある意味人材発掘というか(笑)。こんな調子でどんどん手を広げていけたらと考えています。ええ、何せ**演奏好きの気功家、どこへでも出没します**(笑)。

そんなわけで、当日お出で頂きました皆様、どうも有難うございました。今後とも宜しくお願い致します。

明日はきっと！ときめきチャンネル Live at 楽座楽市 on October 12th 2013

Mad Mouse Sessions Live at 楽座楽市 on October 13th 2013

週末12、13日の『楽座楽市』、再度ご案内

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先日もご紹介致しましたが、週末12、13日に、鳥取東照宮で行われるフリーマーケット『**楽座楽市**』に、両日出演させていただきます。

両日出演と相成ったのは、全くの偶然なんですけれどもね。しかもこのイベントは、10回以上催されている恒例のイベントだとか。非常に楽しみです。

・・・とは手放しに喜べないのが痛いところで、何せ連チャンですからね。一日目が終わったら速攻帰宅して次の日に備える、みたいな。しかも住んでいる倉吉市ではなく、鳥取市ですからね。まあ倉吉から鳥取まで車で通勤されている方も少なからずいらっしゃるでしょうから、あまり不足を言うほどではないのかも知れませんが。

一日目12日は、午後8時から。「**明日はきっと！ときめきチャンネル**」というグループです。

でも音を聴く限りは、ときめくような感じでは全然ないのですけれどもね。Deep Dub Electronicaといった感じですので。

キモは、**アナログシンセ**ですね。メンバーにコアなシンセマニアであるOta君という方がいらっしゃるって、彼のコレクトしたアナログシンセを前面に押し出したラインナップになっています。僕はシンセといつつももっぱらソフトなんですけれども、彼はバリバリのハード派で、ご自宅には膨大な量のアナログシンセがあります。**KORG SQ-10**なんて、実物初めて見たぞ、みたいな(笑)。その中から今回は厳選したアイテムを持っていこう、と思っています。例えば、**Roland SH-2**。いや、分厚い(笑)。

更に参加メンバーとして、地元では著名なミュージシャンであるハンサム君とCoumoly君。彼らは本当はヴォーカリスト/ラッパーなのですが、今回はキーボードです。ええ、普段やったことのない楽器を使って、やったことのない音楽をやっていただくというのも、バンドのコンセプトだったりしますので。で、私はギター。この界限では私がギターを弾くというのは、あまり知られていなかったりします。神戸辺りと逆ですが。久々にストラトキャスター引っ張り出したら、可哀想に**ボリウムノブが動きません**でした。まあ調整と謝罪を兼ねて、今回は(笑)。

で二日目13日は、**Mad Mouse Sessions**。こちらは11時20分かららしいです。

最初、ギターの河田君が現在東京在住のため、トリオ編成でやるしかないな、という話になっていたのですが、どうやら当日はご参加いただけるということで、まずは一安心。やはり色々な楽器が入る方が、サウンドに厚みが出ますからね。こちらは定番メンバーなので慣れたもので、先日のリハーサルも音合わせは数回で、後はこの辺りの地価の話をしていました。**600万で戸建て買えます**よ、みたいな。さすが鳥取、疲弊する地方という意味で、最先端行ってます(笑)。

何はともあれ、こうやって自分よりも一回りも若い方々とご一緒させていただいて、音楽が出来るというのは、有難いことですね。また皆さんクリエイティビティに溢れていらっしゃるので、やっていて楽しいです。もっとこの流れに勢いをつけていけたらな、と話し合っているところです。そうでなきゃ、やってる意味ないですからね。私としては、今後はもっとアート寄りの活動に結び付けたいですね。映像とか舞踏とか絵画とか。アイディアは色々あるんですけども、**何せ人口が**(笑)。そこら辺は、徐々に広げていこうかな、と考えています。

てなわけで、宜しくお願い致します。

ななな灘ッピープロジェクト&怒涛の年末のスタート

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先だっていつもお世話になっているちえけらっちょさんより、こんな相談を受けました。「地元
に『**灘ッピー**』っていうゆるキャラがあって、そのテーマ曲を作ってって頼まれてんだけど、
手伝ってくんない？」。

何にでも首を突っ込みたがる私は、二つ返事でそれを引き受けたのでありました。

その数日後、マルチトラックレコーダーという今の私にとっては懐かしい響きのするハードウェアで録音されたバラバラの音源が送られてきました。こういうものを目にすると(耳にすると、か)、
、やたらと興奮してしまう私は、ほとんど壺の破片を解析する考古学者のノリでそれを全部Ableton Liveに貼り付けて、曲にしていきました。そのついでにその素材を流用して、トランスミックスまでやっちゃう、みたいな(笑)。

で出来上がったのが、この二つです。

ところが、後者のトランスミックスに関しては、自分のアイディアに沿って作れば良いだけの話だったのですが(てか、勝手に作っちゃったのですが。因みに参考にしたのは、『ウマウマできるトランスを作ってみた』です。ちょっとレトロか(笑))、オリジナルに関してはどうもちえけさんのイメージに沿わなかったらしく、延々と手直しを要求された次第。しまいには我が家へ乗り込んでこられて、逐一音量バランスまでチェックなさいました。**偉いっ！そうでなければ薬局は出来ないっ！**(笑)。

てなわけで、今後はこの『灘ッピー』をどんどんと盛り立てようというプランがあるらしく、面白くなってきましたね。私も影ながらご協力させて頂ければと思う、今日この頃。

このプロジェクトを始め、私の周辺も年末に向けて、慌しくなってきました。

まず、**10月12日と13日**、鳥取の樗谿公園（神社）で、『**楽座楽市**』というフリーマーケット的なイベントがあるのですが、**12日に8時から**、先だってからお世話になっている鳥取市内の若手ミュージシャンと共に、出演します。ユニット名は、「**明日はきっと！ときめきチャンネル**」。誰が考えたんですか？(笑)。因みにこのユニット、名前とは裏腹の、ディープなエレクトロ

ニカです。私は今回は、ギターです。基本Manuel Göttschingで、それにRobert FrippとMichael BrookとBill FrisellとDavid Tornを組み合わせたような、アンビエント・サウンドを演出してみようかな、と思っています。ええ、ディストーションが嫌いなギタリストなんて、間違いなく県内では私だけでしょうね(笑)。YouTubeにこちらのユニットの演奏を含めて、地元のエレクトロニカ・ミュージシャンの楽曲をコンパイルしたものをアップしていますので、こちらリンク貼っておきます(Team Sunlife名義です)。

・・・と思っていたら、**13日**は今度は、いつものハードコア・インプロヴィゼーション・ユニット**Mad Mouse Sessions**での出演依頼も来ました。この老体に鞭打って連チャンか？と言いつつ受けちゃうのが私だったりするので(笑)。そちらはキーボードですね。こっちも前のめりでいく所存です。

また**10月26日**には、倉吉未来中心で行われる『**Dance Tube**』というダンス・イベントにも参加します。あ、さすがにダンスはしないです。音響オペ(笑)。ダンスっていうくらいですから、IK Multimediaのコンプ/リミッターをバリバリに利かせてクラブ仕様のサウンドにしようかな、と思っています。また**12月1日**には、昨年も運営に関わった**倉吉国際交流フェスティバル**の音響もありますしね。その間に米子の**ハローほうき国際交流フェスティバル(11月3日)**、鳥取の**タイムフェスティバル(11月17日)**にも、**ジャガタラ・アート**として参加、みたいな。マジで謎の人物ですね。本業一体何ですか？みたいな。でもこれが気功だと思ってますので、万事オーライ(笑)。

灘ッピー☆**Rock**

灘ッピー☆**Trance Mix**

先週の教室は、今週に振り替えになっています。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

前回の教室でもご案内致しましたが、21日の教室はあかり舎さんのイベントのため、今週28日に振り替えになっています。

今回のテーマはずばり、**忘年会をいつにするか**、です(笑)。参加者の皆様の積極的なご意見、お待ちしております。

んでもって来月はいつも通り、5日、19日の予定ですので、そちらも合わせて、宜しく願い申し上げます。

22日、仮装パーティをやります。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

殺人的な猛暑も過ぎ去って、ここ鳥取は穏やかな秋晴れですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、来週**22日日曜日午後3時**から、**あかり舎さん**に於きまして、**仮装パーティ**を行います。

パーティと言っても、茶話会みたいなものなんですけれどもね。ただ仮装して集まってお茶を飲もうみたいな、派手なんだか地味なんだかよくわからない催しです。気功とは直接関係はないのですが、教室にご参加頂いている方から誰とはなしにこの企画が持ち上がりまして、私は一応世話人という形で、広報宣伝をさせて頂いております。ええ、当教室の皆さん、ファンキーな発想される方ばかりで私も嬉しいです。陽気を練るを地で行ってらっしゃるというか(笑)。

仮装ということなんですが、皆さん何着て来られるんでしょうね～。てか、私は何を着ましようかね～。取り敢えず実家を漁ってみると、嵩山少林寺から買ってきた袈裟ですとか武僧服とかが、5着程度出てきました。**5着**。こんなに買ったかな？アホですね～。因みに昨日試着してみたら、嫁は、**坊主というよりもガンダルフみたいだ**、と言っていましたけれども。しかしこれを着て、ほぼ無人の赤瓦エリアを歩くのは、勇気が要りますな。通報されたりして(笑)。

まあ何はともあれ**ビバラ鳥取！**ですので、たくさんの方のご参加など物理的にあり得ないのは最初から分かり切ったことなのですが(笑)、何か変わった人達が集まってるぞ、と怖いもの見たさの好奇心に駆られる方は、是非ご参加を。面白かったら、またやります。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

数日前、次のような記事を見つけました。

[スマートフォン:デジタル機器を侵食](#)

[デジタルカメラ、携帯音楽プレーヤー、家庭用ゲーム機器などデジタル製品市場でメーカーの退出が続いている。震源はスマートフォン（多機能携帯電話）の急速な普及だ。・・・](#)

また今日は、こんな記事も見つけました。

[ネットいじめ、消してもまた.....無間地獄で人間不信に](#)

[ネットに書き込まれる悪口。削除依頼で消してもまた書かれる繰り返しの、人間不信に陥った人もいる。・・・](#)

昨日嫁さんと車の中で、いじめに関する話をしました。嫁さんによるとインドネシアでは、いじめによる自殺という現象は、聞いたことがないそうです。もちろんインドネシアでも、自殺そのものはあるそうですが、そのほとんどの理由は、経済的な問題だそうです。借金取りに追われてにっちもさっちもいなくなったとか。その他の理由は、**失恋**。うむ、なかなかクラシカルですね。そう言えばジャカルタでテレビを見ていたら、物凄い人だかりをレポートしている。何か重大事件でもあったのか？と訊くと、自殺らしい。え？自殺でこんなに人が騒いでんの？みたいな。それを考えると日本は確かに異常ですな。

自殺はそんな状況らしいですが、ではいじめはというと、それもほとんど大きな問題にならない、と言います。しかし当然、いじめが全くないわけではありません。では学校や職場でいじめにあった時どうするのか？答えは極めて簡単で、「**辞める**」のだそうです。例えば転校。自分の子供が学校でいじめにあっているとわかると、親は即座に、転校させるそうです。その学校に固着する必然性は全くない、と考えるそうですね。公立が駄目なら私立。では万が一、また転校した先でいじめにあったらどうするか？学校自体行かせないそうです。そんなことをしたら子供の将来が・・・、というのは日本人の考え方でありまして、その場合は、優秀な家庭教師をつけるそうです。

ぶっちゃけ、**オフィシャルな学校なんてものは信用出来ない、特に公立校なんて最悪**、と彼らは考えている節がありますね。インドネシアには、学歴を決定する統一試験なるものがあって、それにパスしたら、例えば高校のカリキュラムは修了、と判断されるそうですが、要

はそれにパスさえしたら良い、というだけの話で、その手段が学校であろうが家庭教師であろうが、何ら問題はないそうですね。その意味ではむしろ親の方は、子供を学校へ行かせるよりは、家庭教師の方を選ぶ傾向があるそうです。もちろんそれは、リッチな親なんですけれども。

職場でもそうみたいですね。上司が**アホ**だと。でも上司は上司だから、自分を殺してまでも上司に尽くさなければ、と考えるのは、日本人特有みたいですね。向こうは、**アホな上司と付き合うのは貴重な人生の無駄**、と考えて、速攻転職するみたいです。しかも面白いことに、日本の場合ですと年功序列という社会通念からか、転職する人間は根気のないダメ人間、と考えられたりする風潮が強いですが、向こうでは全く逆で、むしろ転職すればするほどキャリアが上がるそうですね。前の職場の給料がその程度だったら、うちはこれだけ払おうじゃないか、みたいな。アメリカのシットコム『フレンズ』には、よくそんな場面が出てきますけれども。職場の上司がランチしている同じレストランで、転職先の面接を受ける羽目になったりとか(笑)。

ここら辺がやはり、日本と他の国との違いでしょうね。外国の場合、特にインドネシアは他民族国家なので、列車に乗っても隣の人が全然理解の出来ない言語で談笑している、みたいな光景は、日常茶飯事だったりします。極端な話文化の違いから、良かれと思ってやったことが飛んでもないトラブルを引き起こしたりとか、その逆のケースもあったりとか。でも日本の場合はほぼ単一民族国家で、方言こそあれ北海道から沖縄まで日本語を媒介にして、意思疎通をスムーズに図ることが出来る。

畢竟日本は諸外国に比べて、モノトナスになりがち。問題はここら辺から生じているような気がします。

学生の頃の話ですが、僕の周囲で友人達が、「普通・・・」という言い方をしているのを聞いて、非常に違和感を覚えた記憶があります。まてまて、それをやらない人は、普通ではなくって**異常**なのか？その時はまだぼんやりとした感覚だったのですが、それはいまだに解消出来ません。その時に無意識的に前提にされている「普通」という基準に疑問を持つことが、ますます困難になっていく、そうして社会からますます多様性が失われていく。これが今の日本の空気なのではないか、という気持ちが払拭出来ない(文字通り、「KY」という言葉もありますね)。まあ昨今の「普通」の感覚で考えれば僕の人生など、誰がどう考えても**異常**そのものなんですけれども(笑)。

その無意識的に醸成された「普通」という空気の中で、ちょっとでも逸脱した考え方や行動をすれば、格好の攻撃のターゲットにされてしまう。正に真綿で首を絞められているような状況。でもそれに異を唱えることが出来ない。例えば嫁さんが教えている高校生。英語が抜群に出来るのですけれども、試験ではわざと悪い点を取るそうです。なぜか？そうしないといじめられるから、というのがその答えだそうですが、まあ僕なんかはちょっと考えられないですね。そう言

えば今年の初夏に、広島と山口でそれにまつわるような事件が起こりましたね。犯人が潜伏していたのは、うちの近くだったらしいですけども(笑)。

それが、冒頭の記事に結びつきます。僕の分裂気味の脳の中で(笑)。スマートフォンが我々の生活の、ありとあらゆるところに浸透するようになっていきます。ネット＝PCという図式も過去のもので、いまやスマホで全世界と直接接続。ここら辺は、次の記事が興味深い。ここで語られているのはマイクロソフトのVista戦略の失敗というより、OSからそれに依存しないクラウド型のネットワークへの移行に関する悲喜こもごもですよ。

MSバルマーCEO「Windows Vistaは最も後悔した…」の意味深さ

電撃の退任発表を行った米マイクロソフトのスティーブ・バルマーCEOですが、ZDNetのMary Jo Foley氏が同氏にインタビューを行いました。その中で、バルマー氏は13年間のCEOとしての仕事を振り返り「Vistaが最大の後悔である」と明らかにしています。・・・

これって、パソコンか端末かという違いがあるというだけで、『攻殻機動隊』の世界そのまんまではないかという気がしますね。あるいは、『マトリックス』ですね。いや、『マトリックス』の方がまだわかりやすいかも知れない。そこにあったのは、人間vs機械という、古典的な二元論でしたから。ところが、電池としてシステムに接続された人間が夢見るのは実は広告で、コントロールしている主体は実は企業だった、となると、ある意味滑稽ではありますね(Wikipediaで「クラウドコンピューティング」を検索すると、その特性に関して、「利用する事で収益を上げ、中毒症状にさせることで、ますます顧客を増やせる」という開発者の発言もあるようですね。エグイですね)。いや、企業の広告はまだましかも。それが国家的な戦略にのっとった情報なのだとすれば・・・。

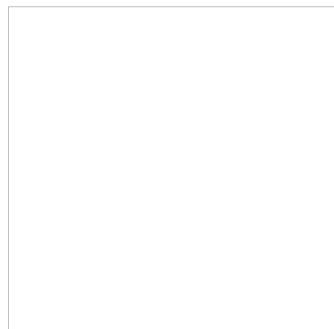
今後日本社会は、どうなっていくんでしょうね～。スマホとかを批判するわけにはいかないと思います。それは単なる、ツールですからね。殺人が起こるからといって、包丁を規制することは出来ない。人間の歴史というものは、猿が骨を拾った瞬間から(映画『2001年宇宙の旅』参照)、道具によってドライブされてきたわけですからね。ただその現在進行形の姿として、ネットに接続されたパソコン端末でお互いがお互いを監視するようなネオ村社会もどうかと思いますけれどもね～。その中で村八分にされないように細心の注意を払いつつ生活するのはちとツライ、ということでしたら、やはり端末の電源切るのが一番良さそうですね(冗談めかして言っていますが、実はここがポイントかも知れませんね。パソコンがどれだけ発達しても、身体だけはどうにもならないですからね。突然その矛盾に気付かざるを得ない時が来るのだけは、今の科学ではどうしようもない。草薙素子のように、ネットの世界へ意識を溶け込ますことが出来れば、話は別なんでしょうけれども)。

とは言え今更クラウドから切り離された仙人のような生活をするわけにもいかないのですが、

そういう意味で僕にとっては、まだまだPCは使い勝手ありそうですね。このPCのモバイルどころか物理的に「重い」というのが、僕をクラウド村から遠ざけてくれる格好の動機になっていたりして。掛け値なしの身体。音楽とかでもそうですね。僕の場合、どんな曲をクラウドから引っ張ってくるかみたいなことよりは、PCを使ってどんな曲作るかの方に断然興味があったりするわけですから。曲作りのプロセスなんて、シェアしたくないじゃないですか(笑)。

まあ僕は、自分なりのペースでネットに接続することにしましょうかね。もっともXPは、風前の灯ですけれども(笑)。

George Duke/Snapshot



[Snapshot](#)

[Snapshotの他のレビューをみる»](#)

評価：★★★★☆

George Duke

Warner Bros / Wea

¥ 1,840

(1992-09-17)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

全然アンビエントではないのですが・・・。

8月5日、ジャズ・ピアニストのGeorge Dukeさんが、お亡くなりになりました。正にマルチ・プレイヤーという言葉にふさわしく、ピアノからキーボード、ヴォーカリスト、コンポーザー、アレンジャー、プロデューサーとして、多方面で大活躍されていました。

Frank ZappaやBilly Cobhamなど、様々なアーティストとのコラボレーションで有名な方だったのですが(Billy Cobhamの"Crosswinds" (1974)中の"[Spanish Moss](#)"でのFender Rhodesなんかは、すごく印象的です。因みにこの作品を知ったのは、Ian O'Brienの"[Natural Knowledge](#)"でのサンプリングからでした)、ソロの中で私が最初に手にしたのは、この作品です。

まず衝撃を受けたのは、ドラムマシンのグルーブですね。結構この時代のドラムマシンを使った楽曲には独特の癖みたいなものがあって、逆にそれがこの時代を象徴していたりもするのですが、それとは一味違うグルーブを叩き出す(と私には思われた)彼の打ち込み手法は、当時の私にはある意味ショックでした。それにウニウニと絡むシンセベースとそれを彩るファンキーなエレピとデジタルシンセ。いやー、オシャレ。というわけでこの作品は、東レエクセーヌプラザ青山のファッションショーでDJをやっていた時は、ヘヴィーローテーションでした。

ジャケットは大抵爽やかな笑顔のスナップが使われているので全然気付かなかったのですが、白血病だったみたいですね。YouTubeで見つけた以下の動画には2011年のインドネシアでの(!)ライブの様子が載っていますけれども、確かに元気がなさそうな雰囲気ですね。味があると言えばそうなのでしょうけれども・・・。

今夜はこの作品で彼の奏でるFender Rhodesを聴きながら、彼のご冥福を祈りたいと思います。
Rest in peace, and thank you very much ...。

あかり舎さんの手作りクラフトプロジェクトがスタートしました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

いつも気功の教室でお世話になっているあかり舎さんで、今月より、ハンドクラフトを製作されているアーティストの方々の作品が展示即売されるプロジェクトがスタートしました。

不肖私の嫁さんも、ヘアアクセサリーで参加させて頂いております。6月に展示会をさせて頂いた時も、有難いことにかなり売り上げがありまして、これをコンスタントに出来ないかな、と思っていたところにお誘いを受けましたので、正に渡りに船、という感じでした。

今後はこれを、もっと大きなプロジェクトにしたいと、店長の高橋さんはおっしゃっています。スタートしてすぐに数店舗の参加がありましたが、問い合わせはもっとたくさんあるみたいです。とても楽しみです。我々も微力ながら、応援させて頂きたいと思っています。またその他、クラフトなどのアートと合わせた音楽イベントみたいなのも、企画してみたいですね。

というわけで、倉吉に観光にお出での際は、是非足をお運び下さい。

[あかり舎Cafe on Facebook](#)





最近とあるバンドに参加しまして・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今回はドラムです。ええ、**ドラム**。去年のライブで僕がステージにギターを持って現れた時は、一部で「中原さん、誰のギター持ってんだ？」みたいなことが囁かれたようですが、今回はもしかしたらそれ以上の意外性だったりして。節操ないですね。でも高校の時の最初のバンドは、ドラムだったんですよ。ほら、ここに一部始終が。→[丁田政二郎著『どがでもバンドやらいでか！』](#)。

しかも今回のバンドは、僕以外全員女性です。はい、**紅一点**ならぬ、**黒一点**でございます(笑)。何でこういう流れになったのかよく判らないのですが、何にでも首を突っ込みたがるタチでして。面白ければ、どんなオファーも受けます(笑)。

そんなわけで先週末、それこそ二十数年振りにドラムを叩いたわけですが、痛烈に感じたのは、**バスドラって難しい**(笑)。力入れて叩くと足が吊りそうになるし、弱いとグルーブが出ないし。どっちにしろ久々過ぎるくらい久々だったので、今回は四の五の言わず音数も少なくして、人間ドラムマシンに徹することにしました。

ひょんなことから参加したレディースバンドですが、結構面白かったです。新鮮な感じがして(爆笑)。まあバンド活動自体が下火なこのご時勢だったりしますけれども(特にこの辺りは)、この路線でより積極的に展開したいですね。若くてパワフルな皆さんに負けないように(一人若干の例外がありますが(笑))、かつ**場違いの怪僧ラスプーチン**と言われないように、頑張っ**て**ドラムの練習したいと思います。

てなわけで、目下バンドアレンジメントあるいはドラミングの参考にしている映像の数々。こういうのがサクッと見られるというのは、凄い時代ですよ。前回ドラム叩いてた時代は考えられなかったですわ。

Led Zeppelin - Live at the Royal Albert Hall 1970 (Full Concert)

たった四人でこの音の厚みって、さすがに凄いですよね。でもボーナムさんはコピーする気にはなれませんけれども。無理無理(笑)。

Can - Free concert (Sporthalle Cologne 1972)

パンク界からもリスペクトされていたクラウトロックの重鎮。集団即興で曲を組み立てていくやり方は非常に参考になります。途中で現れる曲芸のおじさんがドイツな香りを感じさせたりして(笑)。

Soft Machine & Allan Holdsworth Live at Montreux Jazz Festival 1974

うーん、やっぱりドラムをチェックするつもりが、どうしてもギターに目が行っちゃうよなあ。これを見るとギブソンを引っ張り出したくなる。こうしてエンドレスの脱線が・・・。

Yellow Magic Orchestra - Live at Greek Theater 1979

ドラマーの中では一番影響を受けたのは、やはりこの方ですね。ずいぶんとコピーしたものです。ただこうやって映像を見ると、どうしても目がシンセの山に・・・。

週末、**SUN LIFE 2013**という野外音楽イベントに出演致します。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今週末、鳥取市内の小沢見ビーチというところで行われる、SUN LIFE 2013という野外音楽イベントに、Mad Mouse Sessionsとして参加させて頂くことになりました。

このイベントは、ずいぶん以前から、それこそ東京に住んでいた時から気になっていました。へー鳥取でも、Ibizaみたいなイベントがあるんだな、てな感じで。

一度行ってみたいな、とは思っていたのですが、なかなか都合が折り合わず、ここ数年は断念。ところがMad Mouse Sessionsのベシスト中原君のルートで今年は演奏者としてお声が掛かったので、文字通りの願ったり叶ったり、といったところです。

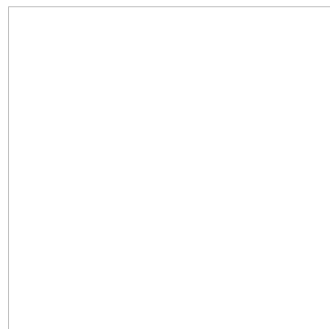
Mad Mouse Sessionsとしても、久々のギグですね。倉吉市内に唯一あったライブハウスEat Red Meatもなくなってしまいましたし。それにギターの河田君の東京転居とかあったりして(羨まし過ぎるぞ)。ですからライブ好き(ええ、基本宅録派では全然ないと思います(笑))の僕自身も、わくわくしています。

僕の知人の方々も、スタッフとして大勢参加されているようです。聞くところによると毎週末設営のために、ビーチへ赴いていらっしゃるとか。この殺人的猛暑の中、本当にお疲れ様です。頭が下がります。m(_ _)m

さて今回は、どんな感じでやりましょうかね。山陰初のインプロヴァイズド・ジャズ・ロック。取り敢えず今日辺りから、PCにネタを仕込むことと致します。因みに出演は、日曜日の午前10時の予定です。

それでは関係者の皆様、大変にお世話になりますが、宜しく願い申し上げます。

Brian Eno and others/Music For Films III



[Music for Films Vol 3](#)

[Music for Films Vol 3の他のレビューをみる»](#)

評価：★★★★☆

Various Artists

Warner Bros / Wea

¥ 4,255

(1990-10-25)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

CDが、全然売れないそうです。全世界的に。

その原因に対しては、様々な議論があります。デジタルコピーの弊害とか。僕の学生時代とかは、まだレコードとかテープだったわけですが、アナログの特性として聴けば聴くほど劣化するので、同じレコードを、これは保存用、これは聴きまくり用とかやっていましたね。それがデジタルになって、一枚CDを買って(あるいはレンタルの方が、より安い！)それを友人知人間で無限シェア、みたいな状況になれば、そりゃあ買う方のコストは無限小になって、ビジネス自体が成り立たなくなりますわな。握手権でもつけない限りは。大変な時代ですね。

でも僕としては、そのような技術的な問題だけではなく、マーケット的な問題も指摘したいですね。要するに、音楽産業自体が成熟し過ぎてしまったのではないかと。CD屋に行けば膨大な量のCDがあるので、混乱して何も買わずに出てきてしまったみたいなことって、実際あるのではないかと、と思いますね。それを漁るのに無上の喜びを感じてしまうDJとかでない限りは。一時期の僕は完全に後者でしたが(笑)。

そういう普通に音楽が好きなんですけれども何を選んで良いのかわかりませんみたいな方に(そういう方は音楽雑誌なんかも全くご覧にならなかったりするので、そこら辺も経済学的に面白い現象だと思いますね)何かしらある程度のガイドラインみたいなものを提供して差しあげるというのも、実際重要なことなのではないか、と思いますね。

というわけで、その一助となれば幸いですとばかりに、このシリーズを一年振りに再開したいと思います。前置きが長くなりましたが、まあそういうことです(笑)。

で、記念すべき(かどうかは知りませんが)その再開第一回目を飾りますのは、やはりアンビエント・マスターでありますBrian Eno先生プロデュースのこの作品、"Music For Films III"。

このアルバムが面白いのは、まずコンピレーションである、というところです。参加しているのは、Harold Budd、Michael Brook、Laraaji、Roger Eno、Daniel Lanois他・・・と、当時のEno系アンビエント一派のカatalogのような様相を呈しています。さらに面白いのは、John Paul Jonesの参加ですね。言わずと知れた伝説のハードロックバンド、Led Zeppelinのベーシストです。どのような経緯で彼がこのプロジェクトに参加したのか、非常に興味のあるところですね。

"Music For Films III"というタイトル通り、収録されている楽曲は、"For All Mankind"という、これまたカルト的なアメリカのアポロ計画のドキュメンタリー映画に、全面的に使われています。僕はLD持ってます。LDです。今再生装置あるのか、みたいな(笑)。この音楽と月面の映像とが、ばっちり合っていましたね。

ここ鳥取も、日中はうだるような暑さが続いていますが、夜になると気温が下がって快適です。窓を開けると、蛙や虫が鳴いているのが聴こえます。それとこの"Music For Films III"を空気ミキサーで(笑)ミキシングすると、とてもいい感じですね。"Asian River"なんかは、シンプルですけども本当に美しい曲だと思いますね。ええ、気功でもマスト・アイテムですわ。パワースポットなんかに行くより快適(笑)。というわけで、お勧めです。

<PS>

samurai.fmやMixcloudでも、相変わらずMixやってます。こちらも是非チェックしてみてください。

<http://samurai.fm/yuichi-nakahara>

<http://www.mixcloud.com/yuichinakahara/>

非常に興味深い記事ですね。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

実際、いわゆるリーディングと呼ばれるもののメカニズムは、この現象に近いと思います。

つまり、皆さんが無意識的に発している情報があって、リーダーといわれる人は、その情報を読み取っているだけなのですね。「何でそんなことまで判るんですか!？」と結構驚かれたりもしますけれども、そういうのは文字通り「顔に書いて」あったりするわけで。

ミルトン・エリクソンの症例集なんかは、もっとファンキーですね。「超能力」で相手の心を読むという人物のところにわざわざ出かけて行って、そのリーディングを失敗させるようにわざと仕向けたりとか。こういういたずら心のある人物は、とても好きです(笑)。さらに言えば、空海なんかもそうかも知れない。錫杖でもって地面を突いたら水が溢れ出たとか。一見奇跡っぽいですが、彼は唐の国で地質学とかも学んでいますからね。そんな彼にとっては、どこでどう水が流れているのかを見抜くことは、そんなに難しいことではない。

似たようなものでは、こんな記事もありましたね。

[SNSの投稿やメールから自殺リスクを予測する研究](#)

それを「人工知能システムで分析する」というのが、なかなかサイバーパンクっぽくて好きですけどもね。実際そこには、「普通に」暮らしている方はなかなか気付きにくい、ある一定のパターンがあるわけで。というか、「普通に」暮らせば暮らすほど、そのようなパターンがむき出しになるので、逆に言えばそういう方は、簡単に操作されやすくなる。そういう意味で、「普通に」暮らすほど(より正確に言えば、「普通に」暮らしてるなと簡単に読み取られる生活をするほど)危険なものはないのですけれどもね。人間とは面白いものです。

そういう微妙な(つまり、一見情報とは思えないようなものも含めて)情報を読み取ること。ここら辺が妙諦だったりする。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今年の三月から実験的に教室を始めたのですが、有難いことに結構好評で、毎回僕も面白く参加させて頂いております。

こんな僻地で気功教室なんて、どうなのかな～、と最初は不安だったのですが、驚いたことに僕以上にそういう分野にご興味をお持ちだったり、物凄いご経験をされてらっしゃる方が結構おられて、教室というよりも僕自身も、非常に良い勉強をさせて頂いております。

そんなある日、参加者の方から、こういうオファーがありました。「先生、『〇〇滝』へ行きませんか？あそこ凄いんですよ。滝見てたら頭のとっぺんが吊り上げられる感じがするんです。先生やったら何か感じられるんじゃないですか？」なるほど、僕よりファンキーなことおっしゃいますね(笑)。

では早速、というわけで、先週の日曜日に参加者の方数人と、リサーチに行ってきました。

町の中心部から山間部に入ること約20分。入口のところに鳥居があるのですが、なるほど、そこを潜るといきなり空気が変わる感じがします。こちらはちょっとした観光スポットにもなっているらしいのですが、ちょうどその時はシーズンオフで我々の他は誰もおられず、そういう意味ではラッキーでした。

しかしあの滝の落ちる音というのは、面白いですね。聴いているとだんだんぼーっとなってくるというか。大昔のいわゆる「ムー・ブックス」で超能力開発法みたいな本があって、その中にヘッドホンから流れてくるホワイト・ノイズを聴きながら変性意識状態に入る、みたいなことが書いてあったのを思い出したのですけれども、あの滝の音も同じ効果を持っているのかも知れないな、と思いましたね。

面白かったのは、岸壁にへばりついている祠です。滝に向かい合わせになっているクレバスみたいなところにあったのですが、その祠の前にぼんやりと熱の塊のようなものが浮かんでいて、これは参加者皆さんがお判りになりました。皆さんさすがですね(笑)。そこに立っているだけで、汗だくになります。

こういうほとんど知られていないパワー・スポットを探し出して、実際にその力を実感してみるというのも、面白い練功のあり方かも知れないですね。文字通りの実地研修、みたいな感じで(笑)。実際昔の道士とか修験者は、そうやってトレーニングしていたわけですし。そういう意味では

鳥取県は自然は豊富ですので(てか、**自然しかない**し(笑))、リサーチのネタには事欠かないかも知れない。

ところで今回より、僕が尋ねたこういう場所の名前は、ちょっと意図的に伏せておこうかな、と思います。というのは昨今のパワー・スポット・ブームはいいのですけれども、パワーはパワーでもネガティブなパワーを持ったニューエイジな人達がそういうところに押し寄せて、折角のクリーンな場所が高濃度に汚染されちゃった、みたいな状況が、結構あるらしいからです。そりゃあそういうところに行って、「**癒してくれー！**」と要求すること自体、その人が**病んでる**ことの証だったりしますからね〜(笑)。実際この滝と別の谷にももう一つ滝があって、実はそちらの方が**いわゆるスピ系**(笑)の人には人気らしいのですけれども、話を聞いてそこに行った直後やたらと体調が悪くなった、とおっしゃる方もいらっしゃいましたね。まあ練功されてらっしゃらない方には、陰気も陽気も区別ないですから。皆さんパワー・スポットに行かれる時は、十分にご注意なさって下さい。ゴミはお持ち帰り頂くとしても、変なものお持ち帰り頂いたりしたら、シャレにならないですから(笑)。

とは言っても完全に秘密にするわけではないので、ご興味のある方はご連絡頂ければお話しします、ということにて、ご勘弁を(笑)。

週末7月6日土曜日の教室は、予定通りです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先ほど、「先生、週末の教室はあるんですか？ブログが全然更新されてないので判りませんよ」と言われました。すみません、リアルが結構色々あり過ぎてヴァーチャルが疎かに(笑)。

てなわけで、今週末7月6日の教室は、予定通り行います。

因みに、取り敢えず8月・9月とも、場所は押さえてありますので、今後の予定は以下の通りです。

7月：6日、20日

8月：3日、17日

9月：7日、21日

変更があれば、その都度お知らせ致します。それでは宜しくお願い致します。

6月15日より、倉吉市内で、バティックの展示会を行います。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

来る6月15日土曜日より18日火曜日までの四日間、倉吉市内赤瓦エリアにあります『[あかり舎カフェ](#)』さんの二階展示場にて、バティックの展示即売会『**インドネシア・バティック(ジャワ更紗) その華麗なる魅惑の世界～Part 2**』を開催致します。

今回はバティックの単なる展示というだけではなく、バティックを使ったハンドメイド作品も、展示致します。制作してくれたのは、地元在住のハンドクラフト・アーティスト「のりたま」さん。バティックをベースに、それをクールジャパン風のカジュアルなデザインと組み合わせた、バッグ、ワンピース、チュニックなど、多彩な作品を制作してくれました。ご協力に感謝です。m(_ _)m。もう一人は、うちの嫁さん。昨年から始めたヘア・アクセサリー制作も、軌道に乗ってきたようです。普段は海外のサイトで販売している諸作品を、一同に集めてみました。

今回の展示会のコンセプトは、「コラボレーション」です。もう一つのマテリアルとして、日ごろお世話になっている?東レエクセーヌプラザさんからご提供いただいた高級合成皮革であるエクセーヌをバティックと組み合わせた、オリジナルの作品も制作してみました。強度もしっかりしているエクセーヌをベースに、それをカラフルなバティックでコーティングしたような、ユニークな作品をご用意しています。

こんな感じで、素材だけではなく人材など、ジャンルを超えた様々なマテリアルを融合させる実験がこの鳥取で出来ないかな、と以前から思っていたのですが、その一つの研究成果として、この展示会を企画してみました。まあDJですからね。曲聴いてるとムラムラとサンプリングして、他の曲と組み合わせたくなる、みたいな(笑)。今後も様々な分野の意欲的なアーティストや素材を「ミックス」した、オリジナルなプランを進めていけたら、と考えています。

この企画に当たって場所を快くご提供いただきました『あかり舎カフェ』の高橋オーナーに、この場をお借りして、心から御礼申し上げます。

それでは、皆様のご来場を心よりお待ちしております！

インドネシア・バティック(ジャワ更紗) その華麗なる魅惑の世界 2013

6月1日(土)の教室は、予定通りです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今週末、6月1日土曜日の教室は、予定通り開催致します。皆様、毎回ディープなネタを、有難うございます(笑)。

それでは、宜しくお願い致します！

帰国致しました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

何とかかんとか、帰国致しました。

今回も嫁の帰省半分、仕事半分でいったので、あまり海外旅行というようなのん気なものではなかったですね。

何をおいても、どこもかしこも渋滞がひどいです。**ひど過ぎます**。一方通行の狭い路地に三台並列で、その間を順走どころか逆走のバイクが埋め尽くすって、何なんですか。ジャカルタでは、ちょっと郊外のショッピングモールに買い物にとは言っても、数時間単位で考えなくてはなりません。完全に都市機能マヒしていますね。

それと今回気づいたのですが、それが更なる問題を引き起こしつつあるようです。それは、**大気汚染**です。早朝のジャカルタは朝もやがかかってエキゾチックだな～、と思っていたら、昼になってももやが消えない。要するに**排気ガス**だった、みたいな。大きな都市では、通りに面してお洒落なカフェがあったりしますね。ジャカルタにもそれっぽいものはありましたけれども、排気ガスのシャワーを浴びながらコーヒーは飲めないですね～。中国の主要都市でも大気汚染が深刻化していますが、ジャカルタがその仲間入りをするのは、間違いなく時間の問題だと思います。

まあ海外に出ると、良い意味悪い意味含めて、国家間の文化とか考え方の違いですとかを、あからさまに自覚させられますね。実際命の危険とかあったし。終わってみれば何てことはなかったですけども(自分の周り以外にも、いろいろあったみたいです。**これ**とか**これ**とか。近所やんけ。ネットがなかったお陰で知らぬが仏(笑))。

ここら辺落ち着いたらまた論じてみようかな、と思っていますが、取り敢えず数日はこの世界第二位の快適なネット環境を、存分に楽しませて頂くことと致します(笑)。

そんなわけで、本日より通常業務を再開致します。週末18日の教室も、予定通り行います。今後とも宜しくお願い致します。

ジャカルタからバンドンへ移動しました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先週末、ジャカルタからバンドンへ移動しました。

バンドンは、ジャカルタから車で大体二時間くらいのところにあります。**通常では**。というのはインドネシア名物、**大渋滞**があるからです。今回も案の定ジャカルタ市内から郊外へ抜ける経路でいきなり大渋滞に巻き込まれ、結局二時間半くらいかかってしまいました。でもこれはマシな方だったようですね。義妹一家は渋滞に巻き込まれないようにと一足先に出発したのですが、皮肉なことにはその時がどうやらピークだったらしく、五時間くらいかかったそうです。

年々渋滞がひどくなるね～、なんて義弟に話したら、即座に、**年々じゃないよ、毎日だよ**、と返されました。さもありなん。これを如何に解消するかが、目下インドネシア政府に科せられた課題だそうです。解消する気があるのかどうかは、また別の話でしょうけれども。因みに列車という手もありますけれども、**列車はもっとエグイ**らしいです。一本の線路を十本くらいの路線が仲良くシェア、みたいな。タコ足配線もいいところですね。ジャワに観光に行かれる方は、民間の高速バスのご利用を、お勧め致します。

ここバンドンでは、蝉が鳴いております。日本ではまだ蝉の季節ではないので、一足先に初夏の気分ですね。空気もジャカルタよりも**マシ**です。やはり昔『東洋のパリ』と言われた、高原のリゾート地というだけあります。しかし昨今ではそれが幸か不幸か別の問題を生みつつあり、週末になるとジャカルタからだけではなく、マレーシアやシンガポール辺りの近隣諸国からも週末を楽しむレジャー客が押し寄せてきていて、更なる渋滞はおろか、騒音、治安、ごみの問題など、多くの矛盾を生みつつあるようです。**鳥取では絶対にあり得ない**ですね。ちょっと分けてもらえませんか？(笑)。

一歩路地を越えると大変な**カオスの喧騒**ですが、幸いなことにここ嫁の実家辺りは非常に静かで、有難いことです。朝4時に近所のモスクから聞こえる**爆音のコーラン**については、判断が微妙ですけれども。

私的なことを言わせて頂くと、シンセをいじらないと気が狂いそうになる私としては昨年大変な思いをしたのですが、今回はPCを持ち込んだので、昨年のような蛇の生殺し的な状況にはならなさそうです。更に幸いなことに、東京でCGアーティストとして活躍している義弟の部屋に忍び込むと、埃を被ったアンプを発見！早速拝借して、勝手にセットを組み上げました。うーむ、私よりいいアンプ持ってたな。取り敢えずこれで滞在中も、DTMは可能っぽいんです。ただ一台しかPC

がないので、**嫁との領有権争い**は避けられそうもありますが。何はともあれ、帰国したらタブレットを買わねば。

もう一つの問題は、**ネットの遅さ**です。嫁の実家の電波状況が悪いのかも知れませんが、友人のメール返信に数時間って何ですか、みたいな。因みにインドネシアのネットの速度は、**世界第150番目**だそうです。も一つ因みに日本は、**世界第二位**。意外なところで日本ってすごかったんですね。この利点をもう少し、生かせないものではないかな。

今夜のBGMは、Solar Fieldsの"Movement"。この辺のPsyChillな感覚は、肌に合いますね。というわけで、エレクトロニクスと外の得体の知れない虫の鳴き声のナチュラル・ミックスを楽しみつつ、夜は更けていく・・・。

5月1日、ようやくWebに繋がったバンドンにて。

取り敢えず、ジャカルタです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

取り敢えず、ジャカルタへ到着致しました。

今回は、大韓航空を利用致しました。この時期にしては随分安かったものですから。でも連休中に動くとはやはり高いなあ、じゃあ連休は外して動こうか、みたいな話を嫁としている内に、ざっと20日間の滞在になってしまいました。これって、**まんまと乗せられた**んじゃないだろうか・・・。

出発したのは、24日。25日のフライトの一日前に関西に入って、出発前のお土産を算段することにしました。ところがその日に大阪の友人から、ぎっくり腰になったから見てもらえないか、との突然のオファー。この忙しいのにか、と思ったのですが、取り敢えず引き受けることにしました。喫茶店に入って嫁の隣ではなく彼の隣に座って、腰の調整。傍から見たら、**この二人ゲイじゃないか**と思われかねない微妙な図ではありましたが、まあ何とか調整は出来たようです。

関空からソウルまで、大体一時間半。そこからジャカルタへ、約5時間半といった行程でした。ところがいきなり**危険人物の私**ではなく**嫁の方が**セキュリティチェックに引っかかり、なおかつ書類の不備も重なったりして、嫁の極端なまでのポジティブ思考のお陰で、**ゲートまで全力で走る**みたいなスリルを味わわせて頂きました。

今回は、PCを持ち込むことにしました。お陰で前回のように、浮世から隔絶された思いをせずに済みそうです。ただ**こんな重そうな化石みたいなPCを持ち歩いているのは、私だけ**っぽく、周りの方々は、インドネシアでも皆さんタブレットですけれどもね。ショッピングモールかどこかで、タブレット買った方が良いのかな。日本語は期待しませんが、全部インドネシア語だったら悲しいけれど。

遠くからコーランの詠唱が聞こえて参ります。写真をアップしようかなと思ったのですが、アップの最中に突然ダウンすること必定なので、しばらく様子を見ます。というわけで、遅いスピードに負けず、たまに更新はさせて頂こうと思っています。オンラインでのカウンセリングも継続して行えそうですので、そちらも宜しかったらどうぞ。

4月26日、夕方の大渋滞のジャカルタより。

臨時休業のお知らせと**20日**の教室のご案内リプライズ。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

来週4月24日から5月13日までインドネシアへ参りますので、その間の施術及びご指導は、一時休止とさせていただきます。

モロにゴールデンウィークですけれども、バカンスでは全然ありません。**仕事**です。あるいはフィールドワークだったりして(笑)。昨今では経済紙面によく『**勃興するインドネシア**』みたいな文字が並んでいたりしますけれども、嫁の里帰りを兼ねてその現地調査に行って参ります。

あるいは、嫁が嫌がる**マイナスのパワースポット巡り**とか。実家の周りに結構あるらしいのでね。**左側の路地**とか。てか**実家自体がそうだったりする**。メイドさんの部屋に昔から何かいるらしく、何人か実際に憑依されたらしい。今回のリサーチで正体を見極められたら、とか思っています。

気になるのは、**北朝鮮**なんですけれどもね。今回は大韓航空を予約してしまったもので。何故かその時期、安かったのだ。まさか事態が緊迫するとは、当時全然思ってみませんでした。ソウルでトランジットなんですけれども、その間に將軍様の**無慈悲かつ予想出来ない物理的行動**が起こらないように祈るばかりです。ま、その時はその時ですけれどもね。

20日の教室は、予定通り午後4時より、**あかりや**さんで行います。今回は中国で鳥インフルエンザが問題になっていますので、このようなウイルス性の疾患に対する東洋医学による対処方法について、お話ししたいと思います。

それでは、宜しくお願い申し上げます。

4月の教室についてのご案内です。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

4月の教室ですが、**第一土曜日の6日**はあかり舎さんが塞がっているそうなので、その日は一応**休講**ということにさせて頂いて、**第三土曜日の20日だけ**にしたいと思います。時間は同じく、**4時から**です。

それでは、宜しくお願い致します。

ねずみ一匹で。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

カタストロフ一歩手前って、すごいですね。

でも人間の歴史なんて、そんなものかも知れないですね。ほんの小さな出来事が、最終的に想像だにできなかった巨大な事態を引き起こしてしまうという。これって正に、原子炉の中のチェイン・リアクションそのものじゃないのか？要するに、全てがメタファーだった、みたいな。

そんなことを、強烈に考えさせられた数日でした。

16日の教室に関する補足です。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

何件か問い合わせがありましたので、もう一度教室に関して、補足事項を申し上げたいと思います。

場所は、赤瓦エリアにあります、「あかり舎カフェ」さん(倉吉市魚町2551)の二階です([こちら](#)に場所など、詳しい情報が載っています。廊下が暗いとかありますけれども、それは開店当初の大昔の話です)。

時間は、午後4時からです。私は3時半頃から現地におりますので、適当なお時間にお出で頂けたらと思います。予約はいりません。

服装は、自由です。別に激しい動きとかをするわけではないので、トレーナーとかは必要ありません。普段着のままで結構です。マルワでお買い物をされてから、買い物袋を提げたまま来られるみたいなのもあります(笑)。ただ季節柄気温が不安定ですので、寒くならないような服装がよろしいかと思います。

駐車場は、市役所がベストだと思います。そこから歩いて5分程度です。

それと、肝心なことを言い忘れていたのですが、お出でになる際はなるべく、[何か食べてからお出で下さい](#)。ここら辺が普通のヨガとか気功教室とかと違うところですね。それらでは空腹の状態で行うようにと言われますから。でも無為気功法、特に一指禅功を行う場合は逆で、[空腹であってはいけません](#)。かと言ってドカ喰いして来る必要もないのですけれども(笑)。ビスケット一枚でも良いので、何か口に入れてから(アメはダメです)来るようにして下さい。理由はその時お話しします。ここが一指禅功のポイントだったりしますので。

というわけで補足事項でしたが、その他何かご質問がございましたら、ご遠慮なくお申し出下さい。

倉吉市内にて、無為気功法の初級クラスを開講致します。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

倉吉市内にて、無為気功法の初級クラスを開講致します。

練習するのは、全ての気功法のベースとなる、基本功です。極めて簡単な動作を繰り返すことで、気功法の重要なポイントである「**リラックス**」の感覚をレッスンします。

当クリニックにお出でになられた方はすでにご存知のように、**無為気功法の場合は、イメージは一切使いません**。脱力した状態で、単純な身体運動を繰り返すだけです。元々功夫(いわゆるカンフー)の一種ですからね。その目的は、どうやって効率的に体を鍛えて、**どうやって効率的に相手を倒すか(笑)**、にあたりするわけで。スピリチュアルの正反対(笑)。そういう意味では、気功法には興味はあるけれどもスピ系はちょっと、みたいな体育会系の方にも、気軽にお試し頂けるのではないのでしょうか。**気が通ると体がどう変化するのか、それを確認しながら練習を進めていきます**。

もっともクラスという性格上、今まで私が行ってきた個人指導のように、その方の性格・体質に合わせたきめ細かいご指導は、人数の関係で物理的に出来ません。しかし、そもそも「気」とは何か、その入り口である気の感覚＝気感、このクラスでも十分に体験して頂けるのではないかと、思います。

また毎回特定の症状に焦点を当てて、それを気功法を使ってどのように改善するのか、簡単な解説もしてみたいと思います。今回は、**偏頭痛**辺りをやりましょうかね。

時間は、**16日土曜日午後4時より**。場所は、倉吉市内の赤瓦エリアにある、『**あかり舎カフェ**』の二階です。ここのオーナーの高橋さんは、とても面白い方です。最近は私も週に一回のペースでお邪魔して、おしゃべりしています。これ文字起こししてブログとかに書いたら大炎上するだろうな、みたいな内容だったりしますが(笑)。ですからクラスの後、そのまま一階へ降りて、美味しいお茶とスイーツがお楽しみ頂けます。もちろんこれはオプションですが(笑)。**会費は、1000円です**。予約はいりません。会場へ直接お出で頂ければ結構です。駐車場ですが、市役所辺りに止めて頂くのが確実だと思います。私もそうしていますけれども。

取り敢えず今回が第一回目で、今後は定期的に、**第一・第三土曜日の午後4時から**、みたいな感じで、何回かやろうかな、と考えています(次回は、**4月6日**の予定です)。また実際にお出で頂

いた方のご意見を伺って、それを元に日時を変更する、ということもあり得ると思います。

いずれにせよ最新の情報は、随時このブログにアップしていきます。それでは宜しくお願い致します。

Live at Raw Food Cafe, Tottori on February 24th, 2013

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先週末、近所にあるRaw Food Cafeというところで、ライブを行いました。

今回は依頼を受けたギグだったのですが、会場のキャパの関係で当ブログでのご紹介を含めた自由なプロモーションが出来ず、そういう意味では僕的には、音楽に集中出来るイベントではありませんでした。それどころか、料理に時間がかかったりして。あ、僕も作ったんです。嫁さんの手伝い(笑)。

そのような状況にもかかわらずお出で頂いた皆様には、厚く厚く御礼を申し上げる次第であります。

そんなわけでいつもと同じように、編集の後、mixcloudにアップしてみました。

ただまあ、一昨年に鳥取に帰って来てからアンビエント系ばかりでしたので、ここら辺りで少し、方向転換を図りたいところですね。幸いにも今回のギグに、鳥取よりDJ関係の方々が来られていたので、彼らと共に何か新しいことをやってみようかな、と色々と画策しております。もうちょっとフロア寄りのこととか。もっともこの辺りはフロアもヘチマもないような砂漠化著しい地域ですので、その辺が悲しいところですが。まずはハコ作りから、みたいな(笑)。

というわけで、今後とも宜しくお願い致します。

[Live at Raw Food Cafe, Tottori on February 24th, 2013](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

The League of Electronic Musicians in San-In Area (仮称)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

実験的にFacebook内に、The League of Electronic Musicians in San-In Area (仮称)というグループを立ち上げてみました。

その目的は、文化の砂漠化著しい山陰地域において、更に需要は少ないであろう電子音楽あるいは実験音楽を、周囲の冷たい目線にもめげず(笑)クリエイトするミュージシャン同士の、情報交換の場を提供することにあります。

電子音楽をやるメリットと言えば、一つはそのモバイル性だと思います。PCとインターフェースとスピーカーさえあれば、どこでもライブ出来ます、みたいな。そこら辺はバンドとかに比べて、身軽なのではないかと。

何せこの地域でこの手の音楽をやる場合は、先ずハコ探しからやらねばなりませんからね。ライブハウスとかだと浮いちゃうとか(笑)。でもドラムとかを使わない分セットは簡単なので、そういう強みを生かしたフレキシブルな活動が可能なのではないか、と思います。それをまんまPCのHDDにレコーディングして、次の日に世界配信とか。そういうことは簡単ですからね。もうやっていますけれども(笑)。しかも地元では聴く人少ないかも知れませんが、世界中ではそういうファンは、ゴマンといますからね。実際無理して地元の人に理解してもらおうと無意味な努力をするよりは、そういう人達に喜んでもらう方が、よっぽど楽しいですし。

てなわけで、このエリアで電子音楽を奉ずるミュージシャンであれば出入り自由、みたいな感じの、砕けたグループにしたいと思います。イベントに関するアイデアだけではなく、YouTubeで見つけたKlaus Schulze辺りのドマイナーなライブ映像のシェアなど(笑)ユルい感じで始めて、最終的にはこの辺りをコーンウォールやブリストルみたいにするのも面白いかな、とか考えていますので、宜しくお願い致します。

[The League of Electronic Musicians in San-In Area \(仮称\) on Facebook](#)

なぜ鳥取県はこうも残念な県なのか？ Part 2

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昨年末、『なぜ鳥取県はこうも残念な県なのか？』という記事を書かせて頂いたのですが、意外にもこの記事が[一部](#)でかなりウケが良いようで、私自身も少々びっくりしております。

この記事がきっかけというわけではないのですが、最近私が色々と動いていると、似たような考え方をお持ちの方々、より正確には[似たような経験をさせられた](#)方々とお目にかかる機会があったりして、ちょっと嬉しくもなったりする今日この頃であります。あ～こんなことを考えたのは、僕だけじゃないんだな、みたいな(笑)。

そのような方々と誰も知らないアンダーグラウンドな場所で(って言いつつ、カフェとかですけど(笑))、[地元に対する悪口雑言](#)を戦わせる中で見えてきたものは、鳥取県が残念なのはやはり、何かしら共通の理由がある、ということですね。ではその共通の理由とは何でしょうか？

つまりそれは、[残念な県であることから脱却するのを嫌う一群の人々がいる](#)らしい、ということです。要するに鳥取県が寂れているのは、なるべくしてなった結果、はっきり言って、[自業自得](#)、ということなんです。

これは非常に、逆説的なことです。例えば、地方活性化を謳う組織があるとする。地元の産業をサポートして、地域を元気にしましょう、みたいな、よくあるパターンですね。そういう活動は高度成長期を経てバブル崩壊を経験した20年くらい前から言われているようなことですが、その20年近く謳われているスローガンを検証しようと思えば、簡単なことです。[県内の各市町村に繰り出せば良い](#)だけの話で。[琴浦町のピースフルな風景](#)とか(笑)。だとすれば冷静かつ論理的に考えれば、この20年の試みは実は誤っていたのではないか、という意見が出そうなものです。それが恐ろしいことに、[全く出ない](#)。PlanしてDoはするかも知れないけれども、Seeをしない。打ち上げで酒飲んで終わり。あるいはSeeをしたとしても、数字をでっち上げてたりしますから(笑)。

要するにそこに、利権が絡んでくるからですね。あるいは地位とか権力と言っても良いと思うのですけれども。このIT全盛でグローバル化と言われる世の中で、[江戸時代の村の掟と同じ発想しか出来ない、生きた化石みたいな人達](#)がいる。化石なら何も言わないですから害はないでしょうけれども、彼らには口があるから、タチが悪い(笑)。「地方活性化には若い人達のフレッシュな意見が必要なだけ」。そうですか。そこで何かしら意見を言うと、「いやそういうのは、前例がないだけ」。[なら最初から訊くな](#)。

私の周りの若い人達の中にも、会社を辞めます、みたいな人達があります。理由を聞くと単純明快、「もう耐えられません」。つまり会社の中に、明らかに仕事をしない、あるいは出来ない連中がいるのに、そういう人間の方が地位が高かったりする。要するに能力値ではなく、単に年季で地位が相対的に上昇しているだけの話なのですけれども、そういう連中の下についたら、最悪ですね。彼らは言います。「ああいう人間にはなりたくないです」。若い奴らは根性がない、と連中は言います。そういう若者を彼らの言うところの根性なしにしているのは、実際彼らなのですけれども、その自覚はさらさらない。

つまり、怖いんでしょうね。こいつは自分よりコンピュータが使える。こいつを早目につぶしておかないと、自分の身が危うくなる。それが彼らが身に付けてきた、唯一の対処法なのです。この狭いド田舎で、情けない話ですが(笑)。

人口の流出を食い止める、とか言いますが、人口が流出するのは、むしろ当たり前でしょう。人が人としてありたければ。若者が定住できる社会を、という活動の名目で組織がでっち上げられて、そこに落ちる補助金の取り分を巡っておっさんやおばさんの共食いが始まって、結局その対象となっているところの若者が蹴落とされる、みたいな。そういう意味では十分過ぎるほど、シニアに優しい社会ではありますな。こうなると喜劇というより、完全に悲劇ですが。ある人が言っていました。それこそ地元のさる商業団体の集まりだったそうですが、その方はゲストと呼ばれたのもかわらず、当の会長が30分近く遅れてきた。しかし冒頭に会長の挨拶があるから、という理由で、30分そのままスケジュールが平行移動した。なるほど、部族社会では、酋長の権力は絶対ですからね。そういう前近代的な非常識が常識として、平気で行われている。

まあ実際、文字通り未来のない世界です。

しかし、グチっているだけでは建設的ではない。どうすればこの現状を改善出来るのでしょうか。繰り返しになるかも知れませんが、現実的な対処の仕方としたら、取り敢えず無視することだと思います。彼らと正面切って対峙するのは、無理ですからね。彼らの方がその場合の対処法「だけ」は良く心得ていますから。パワハラに会って早々に自滅させられるのがオチです。

「あいつら救いようのない馬鹿だよね～」とひとしきり物笑いのタネにした後は、「じゃ、仕事の話しようか」みたいな、それくらいのサクツとした頭の切り替えが肝要。

無視と言いますが、これは当然、逃避ではありません。気功でも同じ。邪気を放つような場所には、最初から近づかないのが一番。でないと、自分がやられます。実際、対峙する必

要ありません。下らないですからね。時間と労力の無駄。つまり、そのような組織に所属して嫌な思いをさせられるくらいなら、自分で独立してやっちゃった方が、費用対効果という純経済学的視点から見ても、効率的です。

もちろん最初は、誰も理解してくれないかも知れない。でも、全くゼロではないはずですよ。それでいいじゃないですか。無理して大して興味も無さそうな人を100人集めてアクション起こすより(余談ですが、昨日もある有名アーティストのライブが地元であったのですが、そのチケットが無料で出回っていましたね。多分チケットが全く売れず、空席を彼に見せるのはマズイ、ということで、ばら撒かれたんでしょうね。彼が来るなんて、知らなかったですよ。主催者は、どこでプロモーションしてたんでしょうね。てか、プロモーションしたんですか?)、本当に興味があります！みたいな人だけ集めて会員限定みたいな感じでモバイルに動く方が、よほど楽しいし、やりがいがあるんじゃないか、と思いますけれどもね。

問われるのは、実行力ですね。後は、同じようなことを考えている人達の、ネットワーク作り。ただこの腐敗した地域の場合、普通の人を普通にネットワーキングするだけでは、弱いと思います。中途半端なエネルギーでは、被曝します。やはり全身に爆発物を巻きつけて市役所で自爆しかねないくらいの激烈なパーソナリティのある人でなければ。これは飛躍ではなく、そういう愉快的発想をされる方が何人か、この地域にもいらっしゃるということがわかっています。私としてもそういう人と話をするのは、すこぶる楽しいです(笑)。

一度そういう人を集めて、シンポジウムみたいなのを企画してみようかな、とも思っています。それこそ人数限定で。この人とこの人会わせたら、多分飛んでもないことになるんじゃないかな、みたいな。そういう人だけに個人的にインビテーション出して。会話を文字起こしして公表したら家宅捜査されるんじゃないか、くらいの充実した内容で。どうせ閉鎖的なら、とことん閉鎖的にやった方が面白いんじゃないか、と思いますからね。それまでは取り敢えず、水面下で諜報活動が続けることといたします(笑)。

1月27日鳥取市内のフォーラム『多文化共生社会一步前』に参加致します。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

我々夫婦が大都会東京を離れこの僻地鳥取県に流れ着いて、今年で早三年になろうとしております。

元々夫婦揃って[アマノジャク体質](#)で人様に好かれる性格の我々でもないのですが、それでも石の上にもという奴で、この辺りでも懇意にして頂ける方々の数も、少しずつ増えてきております。

その中心ともいえるべきものが、国際交流関係の仕事です。先週末にも地元湯梨浜町の国際交流協会に呼ばれてナシ・クニン(「赤飯」ではなく「黄飯」とでもいいましょうか。インドネシアの伝統的な食べ物です)の講習を行ったりと、ここに来て以前よりもやたらとその種の機関より招聘を受けるようになって、何かと忙しくしております。

その一環で、来週日曜日27日に、鳥取大学地域学部の仲野研究室主催、鳥取県国際交流財団共催によります『[多文化共生社会一步前](#)』というフォーラムに、夫婦揃ってパネリストとして、お招き頂くことになりました。

主催の仲野誠准教授とはオフィシャルでは今回が初めてのお仕事なのですが、アンダーグラウンドではすでに存じ上げていました。地元には有志の若者主催のGreen Drinksというイベントがあり、昨年の初夏に私が初めて参加した際に、名刺を交換させて頂いていました。その仲野准教授より国際交流財団の方に、今回のフォーラムにふさわしい人物がいらっしゃるだろうか、と打診があり、その財団さんが、[県中部に面白い夫婦がいる](#)ということで、我々をご紹介頂いたようです。偶然とは恐ろしい。ええ、財団さんにはその他にインドネシアとのビジネスを拡大しようとされているビジネスマンをご紹介頂いたりして、不肖我々鳥取県内の[インドネシア専門家として、一定の地位を獲得しつつあります](#)。げらげら。その仲野准教授も、最近ではインドネシアに頻繁に赴かれて、現地の大学との連携を模索して積極的に活動をされているようです。何だか偶然とは思えないですね。

そんなわけで、このフォーラム。[私が参加するからには普通で終わるわけないでしょ？](#)みたいな。[暗殺されるのが嫌なのでブログとかではあえて触れていない情報](#)とかに触れて、皆様の議論の足しにして頂こうかな、とか考えています。ええ、何せ[私がテロリスト](#)ですからね。実際私が国際交流関係の活動をしているというのは、別に外国かぶれしているからというわけではなく、外国というファクターを通すことは日本の姿をよりクリアに見る契機になるのではな

いか、という考えからですね。外国について語るためには、どうしても自分の足元を直視せざるを得ない。そうでなければ、「フランスのチーズって美味しいよね～」みたいな単なる好事家になってしまう。そういう団体腐るほどありますけれども。特にこの辺は。何せ**どうしようもない土地柄**ですから(笑)。そういう意味で、**一発自爆テロやったろかな**と思っています。学術的に。

というわけで、27日日曜日、13時半から16時半まで。場所は鳥取市国際交流プラザで、入場無料です。ご興味お有りの方、どうぞご参加下さい。その後嫁のお気に入りの、鳥取ジャスコ内にある**スパイス王国**へ移動して打ち上げとか。それは私の勝手なオプションですが、そちらも良かったら(笑)。

完全復旧しました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

判りもしないHTML言語をいじくり回すこと小一時間、ようやく完全復旧しました。Soundcloudへのリンクも復活させました。お帰りなさい、Soundcloud。

どうやらHTMLに埋め込まれていたSoundcloud用のTAGとJUGEM用のTAGが、ミスマッチを起こしていたようです。JUGEMのビギナー用のデフォルトパーツを全部取り外してHTMLに則って処理したら、復旧しました。

そのついでと言ってはナンですが、Soundcloudに置いていた他の楽曲のリンクも張ってみました。**私やこんな楽曲も作ったりもするのです**。女性ボーカリストもフューチャしたりなんかして。でも作ったらそれで満足してオクラ入り、みたいな。あんたちゃんとプロモーションすればって話ですけども。ええ、**広告宣伝の仕方に根本的に欠陥があります。それが私です**。因みにFantasyは、世界のMALTAに絶賛されました(笑)。

そんなわけで、ここにも一応リンク張っておきます。冬の夜長に、是非どうぞ。あ、歌いたって方いらっしゃったら、ご連絡下さい。ライブやりましょう(笑)。

Fantasy by Jungle Q2 featuring Eri なぎ唄 by Jungle Q2 featuring Kashi

表示に異常が出ています。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

当方のブログをお開きになると、「を開く」というポップアップが現れて、ファイルを保存するような表示が出ます。どうやらFirefoxのみらしいです。OEではなりません。

どうもリンクを張ったSoundcloudに問題が発生しているみたいです。

ただ今原因究明中ですが、そのままポップアップは閉じて下さい。ウイルスではありません。私ゃそんなもの作る技術はありません(苦笑)。しばらくご迷惑をお掛け致しますが、宜しくお願い申し上げます。

m(_ _)m

⇒

午後4時36分現在、復旧しました。というか、復旧させました。Soundcloudへのリンクを、全て除去しました。

さらば、Soundcloud。

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

昨年は皆様方にとって、どんな一年でしたでしょうか。

私的には、かなり充実していましたね。主なアクションは、やはり音楽関係と、国際交流関係ですが。ほぼ毎月最低二つ以上は、何かのイベントに参加ないしはオーガナイズしていましたからね。もっとも最近は、「[あんたどこにでも現れるな](#)」といったリアクションを取られることが多いですが。特に鳥取県内。ええ、何せ人口最少県ですからね。歩けば棒に当たらざるを得ない、というわけで(笑)。

でも私としてはまだまだキャパは十分な感じですので、[どうぞ思う存分使ってください](#)、といった感じなのですけども。今年に向けたプロジェクトの話も、すでに複数舞い込んできていますしね。てか、もっともっと広げていきたいくらいですね。[エレクトロニカ系気功家](#)として、確固たるスタンスを築き上げていきたいな、と考えていますので、今後とも宜しく願い申し上げます(笑)。

それでは今年も皆様にとって、良き一年でありますように・・・。

『注文の多い料理店』 **reprise &** 毎日がつまんない。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

来る30日、思いっ切り年末ですが、先日湯梨浜町図書館で行いました『注文の多い料理店』を、再演することになりました。

場所は、赤瓦にありますCOCOROSTORE。前回も『怪談』でさせて頂いた場所ですね。その時と同じフォーマットで、今回は図書館のイベントとは違って、単独での公演です。時間は午後7時より、チャージは500円です。

朗読とLive Electronicsの融合というこのプロジェクトですが、だんだんこなれてきた感がありますので、来年もっと広げていきたいですね。

さらにその前日29日、Eat Red MeatでのLive Aにも参加します。最初はいつも通りMad Mouse Sessionsでの参加の予定だったのですが、この日はEatでの(ほぼ)最後のLive Aということで出演者が殺到しているらしく、店長と話をして、取り敢えず今回は身を引きますか、ということになりました。

ところがその数日後、現在リハーサルが進行中の新バンドよりゲスト参加の依頼がございまして、何にでも首を突っ込みたがる私は、二つ返事で請け負ったのでした。バンド名は、『毎日がつまんない。』。うむ、まんま倉吉だな(笑)。

メンバーは、Gt.兼Vo.の、倉吉の吟遊詩人アイミスグル君。まだ数回しかステージに立ったことがないにもかかわらずその唯一無二のポエトリーの世界は、かなり定評があります。それを固めるのは、倉吉アンダーグラウンド界のゴッドママ、マダム・ちえけらっちょさん(B.)とそのご令嬢(Dr.)(え？妹と言い張る？では妹様ということで(笑))。演奏致しますのは基本的にアイミスグル君のオリジナルですが、一曲だけカバーを演奏します。ずばり、Pink Floydの『Interstellar Overdrive』。アイミスグル君のチョイスらしいです。よくそんな曲知ってましたね、若いのに。訊いてみると、何でもSyd Barrettのファンだそうです。うーんこの若者、叩けば色々出て来そうだ(笑)。それでは私もFloydっぽく、伝家の宝刀Farfisaの音で対抗しましょうかね。そんな倉吉発二世代どサイケバンド、かなり前評判高いみたいで、結構ですね。

というわけで私にとっては二日連続のステージですが、年末に向けてぶっ飛ばしてきます(笑)。

明日、朗読会を行います。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

明日、湯梨浜町図書館より依頼を受けまして、**朗読会**を行うことになりました。

朗読を行ってくれるのは、県内某放送局の、Tアナウンサー。元々はTアナの方に来たお話だったのですが、8月の怪談会で音響をやったご縁で、今回もオペレーションをやることになりました。

題材は、**宮沢賢治作『注文の多い料理店』**。私も賢治の作品は大好きなのですが、彼の作品には、単にメルヘン的なものばかりではなく、この作品のように若干**ブラック**なテイストを持った作品も、たくさんあります。前は小泉八雲と、モロ怪談でしたので、今回はお子様も参加されるということもあり、**ライトな怪談**というコンセプトの元、この作品を選びました。

さて、音楽。前は20世紀電子音楽のアマルガムで行きましたが、今回は絞り込むことにしました。そんな時には、何はともあれ、**ジョン・ケージ**。『**龍安寺**』という名作を通奏低音にして、それにリアルタイムで彼の諸作品をミックスしていく、みたいなスタイルにしようと思っています。

時間は、午後7時より。場所は、湯梨浜町図書館です。入場無料ですのでJOSROCさん、突然うちに**請求書**とか送りつけて来られないように願います(笑)。終演後は、市内の中華料理店に移動して打ち上げ、みたいなことを考えています。その時のノリで決めます。

それでは、皆様のお越しを心より・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

さて明後日は、いよいよ衆議院選挙の投票日ですね。

今回はかなり選挙に対する関心が高そうですね。かく言う私もその経緯を、多大なる興味を持って見守っている者の一人です。今回の選挙によって、日本のあり方が大きく変化する可能性がありますからね。〇〇党にはもう期待できないから、△△党に入れよう、みたいな。しかしその△△党は、再軍備の可能性を示唆している、みたいな。これはある意味、究極の選択ですね。各方面でこの問題について、様々な議論が起こっています。

しかし私は、それとはまた違った視点から、この出来事を眺めています。それは、地震と福島原発です。日本列島が数万年単位での変動期に入ったらしい、というのは、多くの科学者が指摘しているところです。現に数日前も、かなり大きな地震がありました。この地震を止めることは、誰にも出来ない。更にやっかいなのは、そのように地震が頻発している地域のど真ん中に、いまだ収束しない大事故を起こした(ている)福島原発がある。地震によって四号機が倒壊したら大変なことになる、そうなったら人類がいまだ経験したこともないカタストロフィが発生する可能性がある、このこともよく言われることですね。

憲法改正、再軍備、なるほどそうですか。でも大手を振ってその方向に進みだした途端にまた地震が起こってついに四号機が倒壊、チェーンリアクションで第一原発全体がおじゃん、気が付いたら首都どころか北半球が終わりました、みたいなことになったら、一体どうなるんでしょうね。HDDの中のファイルを効率的に管理するソフトを手に入れたぞ！と喜んでいたら物理障害が突然起こって、アクセス不能になりました、みたいな。昨日やりましたが(笑)。それはいつでも十分に起こりえるので、きちんとバックアップ取っておきなさいよ、って話で。乱暴なメタファーかも知れませんが、同じことのように見えるんですよ。

どれだけわーわー騒いでも、一発地震がやってきて、はい、それまで。そして誰もいなくなった。人間とか文明とかがって、そういうものかも知れないですね。おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。非常にこれは、仏教的な風景に見えてしまいます。

取り敢えずその日まで、日々の勤めを粛々に行いましょうかね。というわけで皆さん、選挙へ行きましょう(笑)。

なぜ鳥取県はこうも残念な県なのか？

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昨日ネットを見ていたら、面白そうな記事を見つけました。

[税金10億投入した鳥取「国際まんが博」の悲惨すぎる内容 - NAVER まとめ](#)

[【とっとりアニカルまつり】【まんが王国とっとり】問題点まとめwiki - 【とっとりアニカルまつり】【まんが王国とっとり】【国際まんが博】についての問題点まとめ](#)

実はこの国際まんが博なるイベント、会場はうちの近所でした。歩いて5分程度。でも、**行ったことはありません**。前を素通りしたことはあります。買い物に行くために(笑)。その時も、何やら不穏な雰囲気はしていましたね。ぱっと見、**会場のお客さんよりも車両先導用の警備員さんの方が多いぞ**、人いないのに、誰を先導するんだろうな～、みたいな。私が通過した時がたまにまたあったのかも知れませんが。そのような様子だったので余計に中に入るのがコワくなり、気付いたら終わっていました。

こう言いつつも実は私も、若干関わったことは関わったんですよ。うちにかの実行委員会のメンバーを名乗る人物から電話がありまして、曰く、「テーマ曲のコンペがあるのですが、中原さん応募して頂けませんか？」。要綱を見ると、**次の週が締切**。え？この期に及んでこんな電話かけてくるか？まさか**応募者がいない**とか、そういうパターンじゃないだろうな、と一瞬思いました。でもものは考えようで、だとすれば採用される可能性は低くないわけだから、応募してみようかな、とも思ったのですが、さらに要綱を読み進めると、「採用された場合には著作権を全て放棄して実行委員会に譲渡すること」とあります。冗談ではありません。私は、「申し訳ないですけども、この条件で応募してくる人って、まずいないと思いますよ。今回は辞退させて下さい」と返事をして、電話を切りました。その顛末は、上のリンクにも書いてありますけれども、**応募者三人の激しいバトル**だったようです。しかもどうも、関係者らしいですね。ナイスです(笑)。

まあ「箱物行政」という言葉もあるくらいですから、どうせまた税金の無駄遣いに終わるんだろうな～、くらいに思ってたのですが、こうやって**10億**などと具体的な数字を出されると、さすがにいい気持ちはしないですよ。しかも**震災復興費がすぎ込まれてるって、マジですか？**だとしたら一県民として申し訳なくて、被災者の皆様に顔向け出来ません。

何で鳥取県って、こうなんでしょうね～。

これは国際まんが博に関してですが、最近そのような感想を抱くことが、時期的に多々あります。というのはこの時期、学校などの教育機関で国際交流イベントがよくありまして、私は通訳として呼ばれることがあるのですが、その時にも**絶望的な気分**にさせられることが多いからです。

例えば、一番最近にあったもの。外国人の方と一緒にゲームをして、国際交流を楽しもう！まあ、よくあるパターンですね。参加したお子様、**約8名**。人口最少県だからとか、そういう問題ではないと思います(笑)。明らかにプロモーションの問題。聞けば、友人知人のツテで何とかかんとかかき集めたとか。はあ、それでこの人数ですか。これ一点目。

で、冒頭の主催者のご挨拶。「私は外国へ行ったことはありませんが、皆さんには是非国際感覚を見に付けて頂きたい」。え、そんなこと言いますか？それって、**俺は勉強しないけど、おまいらしっかり勉強しろよ**、って言ってるようなものでしょ？その言葉の説得力って、この人考えてんのか？これ二点目。

その次はすごかったです。彼らに国際感覚を見につけていただかんがために彼らがお招きしたのは、地元で唯一多国籍展開している企業のトップの方。その方が、「いかにグローバル化していく世界マーケットの中で商品の差別化を図り、付加価値をつけて競争力を向上させるか」についてお話をされました。ええ、これらの言葉をお子様でも解るように噛み砕いて説明するというのなら、わかります。しかし残念なことにこれらの言葉は、そのまんまでした。う〜ん、**小学生相手にマーケティング戦略**を議論しますか。スコア！これ三点目。

まだあります。四点目。その後カードを使って、世界の食べ物を当てるゲームが始まりました。ようやく子供向けらしいプログラムが始まったと言えば始まったのですが、実はこの時も私は、絶望的になりました。悪いけどこの手のゲーム、**インドネシアでは保育園か幼稚園でやるぞ**、それを日本では、小学校高学年の子を交えてやるのね、みたいな。

こうして我々夫婦は、上がったたり下がったりする不思議なイベントを後にして、日本の行く末を案じつつ、岐路に付いたのでありました。

これらの**残念**なパターンの原因は、多々考えられると思います。単に、関係する公務員ないしは教職員の方自体が**残念**だったとか(笑)。しかし、ただそうやって**残念**と言い切ってしまうのは、建設的ではない。その**残念**さはどこからくるのか、それを論理的に、冷静になって考える必要があります。

私がリサーチしたその原因の一つは、「**外の世界を知らない**、さらに恐ろしいことには、**それを知りたいとも思ったことがない**」という点にあると思います。最近、「ガラパゴス化」という言葉がよく聞かれますが、正にその言葉通りだと思います。**ガラパゴス極まって伏魔殿**、みたいな(笑)。外国どころか、東京の事情さえわからない人もいる。そのような人が教育機関にいたりなんかしたら、目も当てられません。自分が教えている内容が、それこそグローバルな視点で見たら、どの程度なのか。それをまともに考えもせずに、オノレのスタンダードを子供に押し付ける。その子供が大人になって、さらに教職員になる。その子供が・・・、と、正に**知性のデフレ・スパイラル**。そのような状況が常態化しているというのが、我が鳥取県の姿ではないかと(余談ですが、嫁とか彼女の友達とかがよく言うのは、鳥取県の子供達はなぜあんなに勉強に対してやる気がないのか、ということですね。その原因は、このスパイラルに関係するのではないか、と思います)。

たまに同窓会なんぞに行くと、そういうのはリアルタイムで見られます。私はそういう意味では、ガラパゴスを研究する生態学者のノリで参加したりするわけですけども(笑)。異様なのは彼らが、**職員室と役場の話しかしない**、ということですね。そうでなければ、**パチンコ**(涙)。うちの嫁の姉が何とか小学校に勤務して、その旦那がどこそこの役場に勤めてて、みたいな。**おまいらみんな家族やんけ**、みたいな(笑)。うちは三世代みな公務員、とかザラです。人類みな兄弟どころか、**ある意味インセスト**な、不気味な世界だと思いますね。

私はそういう意味で、鳥取がこれだけ寂れているのは、当然の結末だと思うのですけれどもね。だって、**文字通り出口がない**じゃないですか(笑)。

ではどうすればよいのか。そのような世界に改善を求めたところで、まず不可能です。彼らのネットワークは、最強ですからね。脱官僚なんていいますけれども、無理だと思います。政治家も、同じ穴のムジナですから。第一彼らは、それを**おかしいとも思っていない**わけですからね。おかしいと気付けば、まだ救いようがあります。一番コワイのは、**これを当然だと思っている**こと。気持ちいいわけですから。茹で上がる蛙の例えと、全く同じことではないかと。

改善は無理。だとすれば打開策の一つとしては、そのような存在は、**無視する**しかないと思います。最初から話が噛み合わないですからね。それこそ通訳がいります(笑)。でも現実的に社会的地位は彼らの方があるわけですから、ここら辺が厄介なところ。納税は国民の義務。妙なところに使われないでくれよと、**泣く泣く送り出す**しかない(笑)。

私がビジネスに興味を持つのは、そのためですね。ビジネスの方が、自由に動けるし、第一ビジネスパーソンの方が、よっぽど現状を憂えています。何か行動を起こさなければ、という危機感

がある。あるいは実際に行動している。もし状況の改善を図る契機があるとすれば、そのようなビジネスベース＝民間レベルでの活動からでしょうね。ゲリラ的なネットワーク状の活動というか。

そのような流れの中で、私も、自分は一体何が出来るのか、それを考えて行動していきたいですね。行政を反面教師にして(笑)。というわけで今日も、イベントの実行委員会に行ってきます。リサーチに(笑)。

11月25日第24回タイムフェスティバル(鳥取市)、12月2日くらよし国際交流フェスティバル(倉吉市)に出展致します。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

来週11月25日、鳥取市内のとりぎん文化会館にて行われる[第24回タイムフェスティバル](#)に出展致します。

タイトルからお判りのように、今年は24回目だそうです。鳥取県内では最も大規模な国際交流フェスティバルですね。我々は昨年が初参加でしたが、結構お出でになれる方が多くて、びっくりしました。当日は、県内の国際交流関係の団体によりますフードコートやパフォーマンスなど、多彩なプログラムが計画されています。

我々はいつもの通り、インドネシアの文化遺産バティックの生地と、それを使った嫁さんのハンドクラフトを出品致します。寒くなってきましたので、100%インドネシアシルクの、ストールなどいかがでしょうか？(笑)。その他嫁さんの地元の老舗コーヒーショップから取り寄せた幻のコーヒーも、販売致します。

・・・で、その一週間後には、倉吉市内で、[くらよし国際交流フェスティバル2012](#)が開催されます。こちらには前者より深く関わっております。一応テーマ曲は私が作っていますので(笑)。場所は、伯耆しあわせの郷という建物です。こちらは地元の短大さんが中心となって運営されています。

何故か今年は、PAも任されました。当日は多国籍料理でも食べながらお客さんとダベリングでもしようかな、と思っていたのですが、どうも無理っぽいです(笑)。

その前日12月1日には、鳥取県日仏交流協会という団体に呼ばれて、ディナーショーでライブをやることになっています。神出鬼没にもほどがありますな。前回の山小屋ライブでは日本にトリビュートしてYMOのRydeenをやりましたので、今回はフランスにトリビュートしてHeldonでもやりましようかね。刺激が強過ぎるか(笑)。

というわけでお近くの皆様、是非ご来場下さい。当日会場でお目にかかりましょう！

ジャケ怪しくて最高。

バッハの全オルガン作品を、無料でダウンロードできるサイトがあります。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

バッハの全オルガン作品を、無料でダウンロードできるサイトを見つけたので、ここにご紹介します。

James Kibbie - Bach Organ Works

私は昔から、バッハのオルガン作品が大好きです。嫁さんはホラー映画みたいだと言って嫌がりますけれども(笑)。特に今日のような秋晴れの良い天気、窓から青空を眺めながらパッサカリアなんかを聴くのは、最高ですね。何でもミシガンの芸術大学がスポンサーになっているプロジェクトらしいですけれども、昔だったらレコード(CD)何枚組か何かでしか聴けなかったバッハの全オルガン作品が、無料でダウンロードできて楽しめるというのは、良い時代になったものですね。いや、関係者の方々に、心からリスペクト。

というわけで皆様も、この機会に是非バッハのオルガン曲の世界に浸ってみて下さい。

東京より帰還致しました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

何だかんだ言いつつ、やはり東京は東京ですね。ITの発達によってオンライン上は完全にボーダレスとは言え、やはり現在に至るまでに東京に蓄積された膨大な量の情報には、目を見張るものがあります。

問題はそれを、どうやって使うかですね。逆に情報が多過ぎてしまって、その中に埋没してしまうということも、十分にあり得るわけで。後者は単に現象の問題ですけども、前者は意識＝意志の問題ですからね。

そのようなことを考えながら懐かしい人達に出会って色々と議論させて頂くと、とても得るものがあります。本当に勉強になりますね。今後の世界はどうなっていくか、その中で我々はどう行動すべきか。私も、非常に多くのアイデアを得ることが出来ました。やっている人はすでにやっているし、やってない人は一生やることはないだろうな、みたいな。そういう意味でも、世界は二極化していく、あるいはすでに二極化してしまっているような気がしますね。

私としてはとにかくにも、実践あるのみ。今後もそのようなスタンスでいきたいと思います。

というわけで東京でお目にかかった皆様、お忙しいところ、本当に有難うございました。これからも一緒に、精進していきましょう！

日本アルメニア外交関係樹立記念展覧会

日本アルメニア外交関係樹立記念展覧会

日本アルメニア外交関係樹立記念展覧会

日本アルメニア外交関係樹立記念展覧会

日本アルメニア外交関係樹立記念展覧会

10月21日のハローほうき国際交流フェスティバルに出店いたします。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

10月21日、米子市コンベンションセンターにて開催されますハローほうき国際交流フェスティバルに出店いたします。

嫁さんと私とで立ち上げた、インドネシアのバティックを扱ったショップ「Jagatara Art」としては、今回で二回目の参加です。県内外の主だった国際交流関係の団体が一同に会するイベントで、各国の料理やら衣装やらステージが楽しめる、なかなか大きな催し物です。

去年は、バティックの生地及びストールを中心に販売いたしましたが、今回はそれに加えて、嫁さんがバティックを用いて製作したかんざし、ヘアピン、ネックレスなども、販売いたします。ええ、嫁さんは日本に強制連行されて、かんざし職人になりました(笑)。今フェイスブックをベースにテスト販売しておりますが、海外の方には、なかなか好評なようです。やはり日本の文化は、むしろ海外で人気が高いみたいですね。

その他にも、インドネシアから輸入した香辛料や、うちでしか扱っていない『幻のコーヒー』も、現地では販売いたします。

というわけで、今回で第9回目となります、ハローほうき国際交流フェスティバル、是非ご来場下さい。因みに今後、11月3日には琴浦町での「ワールドフードコート&世界旅行気分 in まなびタウンとうはく」、11月25日には鳥取市での「タイムフェスティバル」に参加いたします。詳細は改めてご紹介いたしますが、そちらもどうぞよろしくです(笑)。



Batik Kanzashi

Batik Kanzashi

Batik Kanzashi

日本・アルメニア外交樹立20周年記念展覧会のご案内

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今年は、日本とアルメニアの国交20周年だそうで、それを記念する展覧会が、アルメニア大使館・ギャラリー銀座一丁目共同主催、外務省後援の元、14日より横浜にて開催されます。

不肖私、その館内BGMを依頼されましたので、ただいま製作中であります。

アルメニアというのは、かなり複雑な歴史を持った国です。ヨーロッパとアラブのちょうど中継地点のような位置関係にありますので、幾度も他国の侵略を受け、大規模な虐殺など多くの悲惨な事件も起こったようです。それと同時に、まさにそのような位置関係のために、他国の文化の影響を色濃く受けることで、アマルガムのような一種独特の文化を形作っています。

そのバックボーンとでもいうべき重要な要素は、アルメニア教会の存在ですね。現地に行かれた私の知人の画家さんは、そこで典礼のための合唱を聴いて、そのヨーロッパ的ではないエキゾチックな響きに、強いショックを受けたそうです。

そのエピソードを元に、今回の私の作品も、合唱曲のような体裁にしてみました。まず単旋律を作り、それをフーガの技法を使っていくつか増殖させ、それらをピアノ、オーケストラ、コーラルのパートに振り分けます。ここからは、現代音楽の技法を用いました。具体的に言えば、ジョン・ケージのチャンス・オペレーションですね。Ableton Liveを用いて、それらの旋律がランダムに再生されるように、プログラムを組みました。従って、何度再生しても同じ響きが二度と生じないようにになっています。ここら辺、先だっのケージのワークショップへの、私なりのオマージュというか(笑)。再生時間は、60分30秒。タイトルはシンプルに、"Fugue For Armenia"としました。

本当はシュトックハウゼンばりに、再生機器の方も細工がしたかったのですが、頭にあるアイデアを現地で準備するには手間がかかりそうなので(本当はそうでもないのですが)、何せ遠方なもので(笑)、取り敢えずCDに収録した今のテイクで一応のオフィシャル、ということにしたいと思います。

聴いてみると、Arvo PartのECM盤がお好きな方には、喜んで頂けそうな感じになっています。

何はともあれ、私の楽曲が両国の友好に水を差すようなことにならないように、精進したいと思います(笑)。私も14日の、アルメニア大使も参加されるオープニングに参加する予定です。両国のアーティストが一堂に会するこの企画展。首都圏在住の皆様、是非足をお運び下さい。因みに

、現地ではCDも販売しますので、そちらもよろしくです(笑)。

<追記>

この展覧会に合わせて、上京致します。それに伴って、11日木曜日の京橋の気功教室に参加させて頂いて、また前回のような簡単なレクチャーをさせて頂こうかなと考えています。ご興味おありの方は、そちらへもお越し下さい。

皆様に再会出来ますことを、楽しみにさせて頂いております。

『白兎跳神イナバスター』 東京公演@JR大崎駅前(10月6日)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

『白兎跳神イナバスター』の面々が、今週末10月6日土曜日、都内で公演を行うそうです。

場所は、JR大崎駅前。「ゆるキャラ@サッカー大会」という催し物が行われるそうで、そこでのゲスト出演だそうです。イナバスターがゆるキャラなのかどうかは議論があるところですが(笑)、何はともあれ東京進出ということで、おめでとうございます。

私は公演自体には参加しないのですが、一応かかわりました。物販用のCDの製作を依頼されて、そのためにテーマソングその他を聴き直していたところ、ムラムラと手直ししたくなり、最終的に全曲録り直しました。結局ネット上を含め、今まで出回っている楽曲で同じテイクは一つとしてない、みたいな。まあ業ですな(笑)。

というわけで、首都圏のゆるキャラ&ご当地ヒーローファンの皆様、是非一度足をお運び下さい。あ、是非CDも。この公演のため「だけ」の特別編集版ですので、お見逃しなく(笑)。

ゆるキャラ®サッカー大会

『小谷陽一：モダン仏画展』のご案内

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

去る6月16日の私の小鴨神社でのライブにて作品を展示して下さいました小谷陽一画伯のモダン仏画展が、鳥取市内の「ギャラリーそら」にて開催されています。

私がお付き合いがあるのはもっぱらご子息の方なのですが、画伯の作品にも非常に興味をそそられてきました。私は子供の頃に長岡秀星のイラストレーションにハマっていたのですが(言うまでもなくそれは、彼が喜多郎の初期作品のジャケットを手がけていたからなのですが)、画伯の作品にもそのような、言わば「宇宙性」とでも言うべきテイストを感じて、初めて拝見した時、その色彩の深遠さに魅了されると共に、妙にノスタルジックな印象を持ったものです。

ご子息のお話によると、画伯がCGで仏画を手がけられるようになったのは60を超えてからだそうで、そのチャレンジ精神というか、テクノロジーに対する積極性も、非常に学ぶべきものがありますね。

現地では一体、どのような作品が展示されているのでしょうか。会期は、10月1日までだそうです。ちょっと短めですのでスケジュール的にどうかなとは思いますが、何とかしてお邪魔させて頂きたいですね。

というわけで、小谷陽一画伯によりますモダン仏画展、是非ご堪能下さい。

『小谷陽一：モダン仏画展』

アラマさんのライブに行ってきます@Eat Red Meat

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

本日Eat Red Meatに於きまして、アフリカ出身のパーカッショニスト、アラマ・ジュバテさんのライブがあります。

彼のことは、噂では聞いていました。倉吉市関金に、アフリカ出身の人が住んでいると。しかもパーカッショニストらしく、本国では有名らしい。え？そんな人が、何でまたこんな僻地に？面白いな、とは思いましたが、その時はそれ以上詮索するようなことはしませんでした。

そんなある日、私が大山でのドライブを楽しんでから家路を急いでいると、関金の県道に差し掛かった時に、やたら着込んだ、明らかにアフリカ系の人物が立っているのを見かけました。もしかして、この人物が件のパーカッショニストではないのか？私は大変に興味をそそられましたが、帰宅途中でもあり、いきなり路上で話しかけるのもいかなものかと思って、そのまま通り過ぎてしまいました。

そして、先週の宇野海水浴場で行われた『よいよ祭』。私はMad Mouse Sessions名義でキーボードで参加したのですが、そこにも明らかに、アフリカ系の人物が。しかし今回は、通り過ぎるだけではありませんでした。リハーサルが終わると、向こうから彼が手招きしている。そばへ行くといきなり、名刺をくれ、と言います。近日中に必ず連絡するからな、と。なかなか積極的な人物だな、と思いました。

そしてその言葉は、嘘ではありませんでした。数日後突然電話が鳴って、出てみると彼でした。今度ライブをやるから来てくれ、と言います。数回かかってきましたね。確かに積極的だ。

元々私も、アフリカの音楽には大変に興味がありますからね。だいたい私が影響を受けてきたアーティストには、アフリカ音楽にインスパイアされた人が多いですし。Steve Reichとか、Brian Enoとか、Talking Headsとか、Salif Keitaとか。あ、彼は地元か(笑)。楽器の多彩さもそうですけれども、ポリフォニーなどのテクスチャも多彩ですからね。そんなアフリカ音楽の生の演奏が、こんな僻地で聴けるとは。しかもプレイヤー直々にご案内を頂いたとあれば、行かないわけにはいかない。

でもまあ、こういう出会いがある可能性があるという点で、野外イベントも意義深いものがありますな。準備が大変ですが(笑)。

というわけで本日のライブ、そういう意味でも楽しみでもあります。6時から。チャージは1500円

です。急ですけれども、皆様もご都合がつけば是非。

<追記>

彼をフューチャして、それこそ"My Life In The Bush Of Ghosts"か"Remain In Light"みたいなこと出来ないかな。あるいは、"Zero Set"(笑)。

アラマさん@Eat Red Meat-1

アラマさん@Eat Red Meat-2

かの国で起こった一連の出来事について。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ここ数日で最もホットな話題と言え、間違いなく中国で起こった一連の出来事です。

私も仕事柄事態の推移を、興味深く見守っていました。様々な言説が様々なメディアを飛び交っていましたが、その中で最も興味を引いたのが、この記事でした。

[えっ、「日本は中国と戦争したがっている」って？ - 中国人は日本の“異常さ”がまだ分かっていない\(日経ビジネスオンライン\)](#)

実は私にも、こんな経験があります。私と同じく気功を習っていた方がおっしゃっていたことです。彼女はある日、高名な気功の先生とお話ししていたそうなのですが、その先生がこんなことを、ポツリと述べられたそうです。「実は私は、日本人に気功を教えるのが怖い。何故かって？日本人が気功を使って元気になって、また中国に攻め込んできたら困るじゃないか」。彼女はそれを真顔で話す先生に、衝撃を受けたそうです。その先生には私も大変にお世話になっていたもので、私自身もかなりショックでした。

ほぼそれと同じような時期に(こんな話をほぼ同時期に聞いた記憶があるとすれば、多分それこそ中国にいた時だったかも知れませんね)、こんな話も聞きました。ご存知のように中国ではかなり以前より、反日教育が徹底的に行われてきました。その一環として、旧日本軍の行った行為を糾弾する映像などが大量に作られ、彼らはそれを日常的に見てきたわけです。その意図するところのロジックは、「日本人とはこんなに悪いやつらなのだ」ということのプロモーションですね。

ところがここで、興味深い現象が起こります。それは、その映像を見た人の中には、もちろんそのロジック通りに「日本人＝悪」という図式を受け取る人がいるわけですが、その反面、「こんなことが平気でできるなんて、なんて日本人は恐ろしい人種なのだろう」と受け取る人達がいて、その数は決して少なくはない、ということです。つまり、日本人を残酷に描けば描くほど、日本人に対する憎悪どころか、恐怖が植えつけられるわけですね。そう言われれば、確かにそれはあり得ることですね。

ですから今回の一連の事件の根底には、私達日本人が海を隔てた地点から眺めるのとは全く異質な想念が、渦巻いているのかも知れませんね。

先にご紹介した記事でも、今回の事件の背後には、解消出来ない恐るべき貧困問題がある、と指摘されています。このことは、中国に限った話ではありません。例えば、中東地域で頻発する自

爆テロがそうです。私達日本人がそのニュースを聞くと、何と中東の人はアメリカを憎んでいるんだろう、あるいは、なぜ彼らはそこまでイスラム教に心酔できるのだろうか、と誤ってしまいます。しかし嫁によればそのいずれもが、完全に的外れなのです。

実際はこうです。ある反米闘争をしているグループがいる(アルカイダとかですね)。彼らにはアメリカを攻撃したいという意図がある。そこで彼らはどうするか。貧しい農村部に行くのです。そこには食うや食わずの生活をしている人達が大勢いる。その彼らに声をかける。君が自爆攻撃を行ってくれるのであれば、残された家族に莫大な援助をしよう。こう話しかけるわけです。実際彼らはアメリカなんてどうでもいいし、そんなにイスラム教に心酔しているわけでもない。しかし生活があまりにも厳し過ぎる。そしてついに、彼らはその申し出を受け入れます。よしわかった、私は死のう、しかし約束通りに、家族だけは助けてくれ、約束だぞ。こう言い残して彼らは爆弾を背負って、二度と帰ることのない旅に出かける(この辺りの事情は、実は報道を見てもわかりますね。例えば銃の乱射などの事件では、犯人のバックグラウンドが、それこそ心理学か何かを援用しつつ、さもスキャンダラスに語られたりする。でも自爆テロでは、それはない。なぜなら後者は、単なるお百姓だったりするからです。裏もヘチマもありゃしない)。

要するに、貧困問題なのです。彼らにはそれを、どうすることもできない。そのような彼らには、教育もない。その現実が彼らをして、過激な行動に走らせるわけです。より正確には、そのような彼らを利用して、何らかの政治的意図を実現しようとする不届きな連中がいるわけです。君の生活が苦しいのは、あいつらのせいだ。あいつらを打ち倒さなければならない。そう言われると、それをまともに信じてしまう。

恐らく中国で起こっていることも、同じことかも知れないですね。

ですからこのような問題は、ある地理的な場所を取った取られたでは、解決のしようがないのかも知れないですね。この矛盾がある限り、同じ問題が場所を変えて、発生するはずですから。ともかく一介の私にでも出来ることは何か、それを自分なりに考えて実行していきたいですね。

<追記?>

このような記事もありますね。でも実際これは、単純に笑えないわけです。

[【中国反日デモ】思わず失笑する画像集](#)

<追記?>

実はこの一連の流れは、日本の原発問題と密接に係わり合いがあるのではないかと考えるのは、私だけでしょうか？

なかなか、忙しい連休でした。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

なかなか、忙しい連休でした。

この僻地鳥取へ帰ってきて、連続でライブをするというのは、初めてだったのではないのでしょうかね。それに今回はいずれも、ゲスト扱いでしたし。本当に有難いことです。やっぱりそうなると、気合いもだいぶ違ってきますね。

演奏自体も悪くなかったのではないかと、思いますね(特に、17日の方は良かったみたいです)。完全インプロヴィゼーションのジャズ・ロックをやるようなグループは、この界限には皆無です(いたらご連絡下さい(笑))、そういう意味でも珍しいですからね。個人的には、今回は新しいPCを導入したので、本番でトラブルのではないかと一抹の不安もありましたが、何とか無事に走ってくれました。さらに17日は野外だったのですが、台風の影響もあって雨が降ったり止んだり、しかも海岸だったのでその雨がかなりの塩分を含んでいて、まあ全体的に電子機器には良くないシチュエーションだったわけですが、何とか乗り切れました。

最近思うのですが、こういう活動をしていて私自身が面白いと思うのは、演奏そのものではなく、それをきっかけに集まってくれた方々との交流ですね。今回もそうでしたね。特に、私よりもずっと若い方々に良くして頂けるというのは、本当に有難いです。ええ、経験上**同年齢とか年上にはイジメられることが多かったの。今もそうですけれども**(笑)。実際この鳥取県にも、お若いのにものすごく音楽性の幅が広い方々が結構いらっしゃったりするんですよね。しかもそういう人達は**風土上浮かざるを得ず**、悶々とした中で**人知れず先鋭化しちゃう**、みたいな、私に起こったのと全く同じプロセスが進行するという(笑)。そういう方々とライブを通じてお知り合いになったりすると、ほとんど「同志！」みたいなノリだったりして(笑)、そういうのは、本当に面白いと思います。

将来的にもそういう方々とチームを組んで、何かやりたいな、と思いますね。もっとも、どうせ周囲に理解者はいないので、秘密結社化しそうな勢いですが(笑)、逆にそういうのもありなんじゃないか、と思いますね。周囲から無視されるんだったら、逆に無視してやれ、くらいの**攻撃的ポジティブ思考**で(笑)。その際の最も強力なツールは、やはりネットですね。別に無理やりイベントを立ち上げて地元の人に黙殺されつつ絶望の果てにヒッキー化するよりは、こじんまりした状況でやりつつその成果をネットで海外配信するとか。ネット上では、鳥取も東京もジャカルタもベルリンも関係ないですからね。私だって地元でDJなんかしないですけれども(**アンビエント**なんて、**倉吉で誰が聴くんですか**(笑))、いつもアップしているとある海外DJサイトでは

、数千のアクセスあったりしますからね。ネットがなかったら、私も完全に発狂してますわ(笑)。そういう田舎暮らしのスタイルもありなんじゃないか、という気がしますね。

問題はそれを、どうやってキャッシュ化するか、ですね。でも、いわゆる『地産地消』ではない。だって、**地元には需要がない**から(笑)。だとすればそれを、**需要のあるところに持っていく**。そういう方法論もあるんじゃないか、という気がします。そういう意味での実験も、続けていきたいですね。

というわけで皆様、有難うございました。また近いうちに！

『白兎跳神イナバスター』のPVが・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

新しくなったみたいですね。

てか、先週末スタッフの渡部君夫妻と呑んだ時に、PVを作り直したいというお話が出ていました。いつ出来るのか楽しみだなーと思っていたら、もう仕上げたみたいですね。さすが渡部君、仕事が速い。QuadCoreも速い(笑)。キャラクターの間に鳥取県の風景まで挿入されていて、いい感じに仕上がっていると思います。

この夏、彼らはかなり忙しかったみたいですね。何でも宮城にまで遠征されたとか。日本縦断ですか。あの暑いのに。いやはや、頭が下がります。

テーマ曲だけではなく、挿入歌の"Foundation"のPVも作っていただけて、有難いですね。何でも彼らによると、ご当地ヒーローのテーマ曲で初音ミクを使っているというのは珍しいらしく、それだけでも話題になっていたみたいですね。作った当人としては、**ヴォーカルがいなかったの**
で苦肉の策だったのですけれども。世の中何が受けるかわかりませんな。

そんな彼らの次なるステージは、東京らしいです。JR大崎駅前で、いわゆるゆるキャラ&ご当地ヒーローの集まる一大イベントがあるらしく、イナバスターは鳥取県代表で参加してくるのだとか。いいですねー。どんどんやっていただきたいですねー。お入用なら曲もどしどし提供しますので、お気軽に(笑)。

それでは、鳥取県のご当地ヒーロー『白兎跳神イナバスター』、今後とも応援宜しく願いいたします！楽曲もよろしくです♪(笑)。

白兎跳神☆イナバスターのテーマ **Ver.2.0**

白兎跳神☆イナバスター・エンディングテーマ「**Found-Ation**」

9月15日鳥取Strawberry Fields、17日『よいよ祭』にて、ライブを行います。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

9月15日鳥取Strawberry Fields、17日『よいよ祭』にて、ライブをさせていただくことになりました。

いずれも、Mad Mouse Sessions名義での参加です。15日の方は有難くもゲスト扱いなので、ぶっ飛ばしていく所存です。終盤近くの、9時以降らしいですが、その他のバンドもお見逃しなく！

17日の『よいよ祭』の方は海岸での野外イベントで、場所は宇野臨海公園展望台というところ
です。フライヤーを見ると、時間は「ひるま」としか書いていないので、謎です(笑)。この時は海岸
ですので、Chillな感じでいこうかなと。もっともインプロヴィゼーションなので、どう転じる
かわかりませんが(笑)。

というわけで、今回もよろしくお願いいたします！

[Strawberry Fields Info.](#)

[よいよ祭](#)

9月1日三朝町で、『恋谷音泉』というイベントがありまして・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

そこに、Mad Mouse Sessions名義で出演することになりました。

我々の演奏は、午後7時半から30分程度らしいです。「らしいです」というのは私は主催者ではなく今回は単なる雇われキーボーディストなもので。しかも、歌物をやるらしいです。ははは、久しぶりにコード進行があるわけだな。

しかしこんな僻地でも、こんな野外フェスがあるんですね。意外だったりもしますが。もう少し早くからわかっていたら、準備のしようもあったんでしょうけれどもね。まあ今回は様子見ということにて、参加してきます。

詳細は、こちらです。よろしければ、是非・・・。

[恋谷音泉](#)

『音を出そう、ケージ体験』に参加してきました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昨日、「[この鳥取で](#)」行われたJohn Cageの作品によるワークショップ『[音を出そう、ケージ体験](#)』に参加してきました。

なぜこの時期、なぜケージのワークショップが、「[この鳥取で](#)」？実は7月14日より9月2日まで、鳥取県立博物館に於きまして『[大きなこ展](#)』という企画展が行われておりまして、その一環らしいです。なるほど、ケージときのこは、切っても切れない関係ですからね。しかし、その関係を指摘できる人間が「この鳥取」におられたこと自体が、衝撃だったりもしますけれども。

てなわけでこの暑いのに、鳥取市内まで車を飛ばして、参加してきました。

最初は、参加者は私を含めてまあ5人程度かな(笑)と思っていたのですが、結構多かったですね。言うまでもなく、ホールを埋め尽くすほどではありませんでしたが(笑)。そして会場に入ると目に入るのは、[短波ラジオ](#)、[テープレコーダー](#)、[プリペアドピアノ](#)、[おもちゃ](#)などなど、いかにも「ケージな」品々。こういうのを見るだけで、私はわくわくしてしまうのです(笑)。

まず最初は、講師藤島啓子氏によります、プリペアドピアノのセットの仕方。希望者を募られたので、不肖[この私が](#)、やらせていただきました。弦に触れないようにフェルトを仕込むのは、なかなかコツの要る作業でしたが。セットが終わると、氏による「マルセル・デュシャンのための音楽(Music for Marcel Duchamp)」(1947)の演奏。これが間違いなくケージの作品の、鳥取初演でしょうね(笑)。

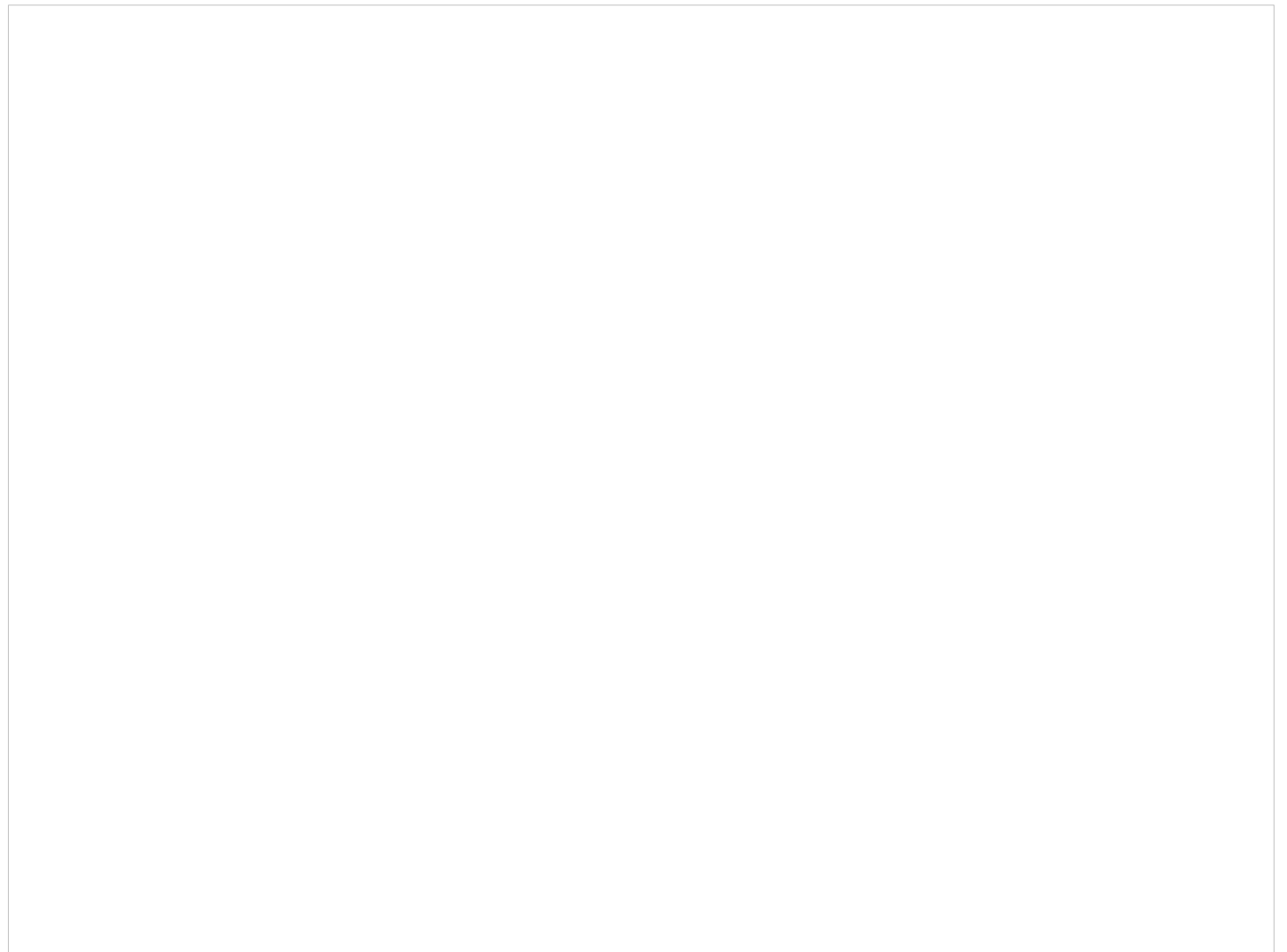
その次は、同じく講師吹田哲二郎氏指揮によります、「ウォーター・ウォーク (Water Walk)」(1959)。不覚にもこの作品と、次の「Inlets」は知りませんでした。前者はテレビ番組のために作曲されたもので、言わばシアター・ピース的な作品ですね。3分程度の短い作品ですが、この間演奏者は様々な物体を操作して音を出す、というものです。元々パフォーマーは一人ですが、これを希望者全員で、ストップウォッチを持ちながら演奏するという。私は、ピアノを閉める(5秒)、テープレコーダーをスタートする(10秒)、ティンパニーのマレットでピアノの弦をグリッサンドする(35秒)をやりました。その他の方は楽譜に合わせて、シャンペングラスに注ぐ、シンバルを鳴らして水に入れる、スチーマーの蓋を開けて音を出す、などの作業をするわけです。お子さんも参加されました。思ったのですが、確かに一人のパフォーマーですとそれはそれで見ていても面白いのかも知れませんが、こうやって参加者全員で演奏するというのも、音に対する感覚を広げる体験をするという点で、有意義かも知れませんね。マティスのワークショップみたいな感じで。

最後は、「インレッツ(Inlets)」(1977)。これは、4人の演奏家がほら貝のような大き目の貝に水を入れてそれを回転することでぽこぽこという音を出し、それをマイクで拾って増幅させる、そのバックに松ぼっくりが燃える音をミックスする、という作品です。文章でこう書くと、何それ？という感じですが、ぶっちゃけ、この作品はめちゃくちゃ美しいです。ほら貝ってあんな不思議

議な音出すんですね。多分その場でなければこの美しさは体験出来ないという点で、正にケージ・ミュージックの真骨頂。アンビエントここに極まる、みたいな。CD化されてたら絶対に買うんでしょうけれども、多分ないでしょうね(笑)。

というわけで、二時間あっという間のワークショップ。とても楽しめました。その後一緒に参加した友人と、件の『大きなこ展』も鑑賞しました。見渡す限りカラフルな、きのこ、きのこ、きのこ、……。文字通りサイケデリックな展覧会でした(笑)。

講師のお二方には是非再度ご来鳥願って、今度はシュトックハウゼンとかやっていただきたいですね。あればEMS持って、また駆けつけなければ(笑)。



プリペアド・ピアノ



プリペアド・テープ・レコーダー



プリペアド・ダック(笑)



帰り道の海岸にて

明日、**John Cage**の作品のワークショップがあるそうです。「この鳥取で」(爆笑)。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

明日明後日、「**この鳥取で**」、John Cageの作品のワークショップ及び演奏会があるそうです。

何でも、今鳥取市で「**大きなこ展**」というファンキーな展示会が行われているらしく、そのイベントの一環としてのプログラムらしいです。むむむ。きのことCageの関連を指摘できる人物が、この鳥取にもおられたか。侮れませぬな。というわけで何はともあれ、早速エントリーさせて頂きました。

曲目は、「心象風景No. 1」、「ある風景の中で」、「龍安寺」、そして泣く子も黙る、「4分33秒」。**間違いなく**鳥取初演の作品群。私としては、「Variation IV」、「Cartridge Music」などもやって頂きたかったのですが、まあここは良しとしましょう。

というわけで、いずれ講を改めてこのレポートもさせて頂きたいと思います。特段何も用意は要らないそうですけれども、やはりここは礼節として、**短波ラジオ**だけは持っていった方が良いのかな？(笑)。

[開館40周年 大きなこ展\(鳥取県立博物館\)](#)

ようやく涼しくなりましたね～。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

最近更新が滞りがちでしたが、これには深いわけがあります。私のPCの置いてある場所が南向きで、直射日光バリバリでして。七月末からの皆さんご存知の殺人的な猛暑の期間、三分もPCの前に座ろうものなら、全身汗だくになってしまうという。たてすもすだれも、効果なしでした。エアコンですか？この部屋にはありません。エアコンのある部屋は六月末より、嫁が実効支配しております。

そんなわけでこの猛暑の期間中は、とてもPCの前に座る気になれなかったのですが、さすがに一昨日の立秋を過ぎると、気候が激変しましたね。夜なんか結構寒くて、昨夜は窓を閉め切って眠りました。都会にお住まいの方には、贅沢な話かも知れませんが。ええ、何はともあれ鳥取県。文化はなくとも、バリバリ自然と一体化、みたいな(笑)。

でも、仕事はしなければいけない。この時期出張の仕事を受けたりすると、移動中の車内だけでも、結構エグいものがあります。西へ向かうの最高！、みたいな(笑)。でも、この時期にしか見ることが出来ない、美しい風景もあるわけで、そういうのを途中で探すのも、出張の醍醐味ですね。てかあんだ、真面目に仕事しろよって話なんですけれども。

そんなわけで、途中で見かけた風景の数々。いや～、ほんとド田舎。仙人ライフを楽しんでいます(笑)。

え？**Eat Red Meat**って、なくなるんですか？

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

一昨日、ちえけさんの薬局へいつもの情報収集を兼ねたダベリング(笑)へ赴くと、衝撃的な話が。「Eat Red Meatってなくなるの、知ってた？」え、マジですか？初めて聞きましたよ。そして昨日、親父と一緒に近所のDIYショップ(「いない」ですな)に買い物に行く途中、親父が突然言い出しました。「おい、Eatなくなるらしいぞ」「・・・何であんたの口からそんな話が？」「店長が言ってた」。なるほど、いまや店長の家直してるあんたの方が、付き合い多いか。

何でもビル自体がかなり老朽化しているため、ついにオーナーさんの取り壊しの決断が下りたのだとか。うーん、確かにかなり古い感じでしたしね。そう言われればあのビル、確かに私の高校時代にもあったような。だとすれば、30年以上の代物ですね。今年中に取り壊しというのが、確定しているそうです。

でも、非常に残念ですね。倉吉市内にあるライブハウスって、ここだけですし。ひょんなことから店長とお知り合いになって、それこそMad Mouse Sessions名義で、何回もライブをさせていただきました。ギター一本のネオアコ系からフリーキーなノイズまで(後者は、私も絡んでいますけれども(笑))、かなり広範囲の音楽が聴ける場所でした。県外でも有名になりつつあったみたいだけに、よけい残念ですね。個人的には、照明がとても気に入っていたのですけれども。

Eat Red Meatなき後の倉吉アンダーグラウンド・シーンがどういう展開をしていくのか、私としても非常に気になる場所ですね。もっとも店長によると、また違った形でイベント自体は続けていくとのことなので、それはそれで楽しみですね。取り敢えず私は今後も、神社仏閣の営業に精を出しますかね。ええ、場所さえ確保できれば、どこででもやりますよ。ラウンジ系でよければ。是非ご用命を(笑)。

『中国地方のコワイ話』にお出で頂きまして、真に有難うございました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先週土曜日の『中国地方のコワイ話』にお出で頂きまして、真に有難うございました。

朗読プロジェクトというのは私としても初めての試みでしたが、概ねうまくいったのではないかと思います。私としても、とても満足しています。

基本的にイメージとしてあったのは、1965年の小林正樹監督の『怪談』という映画ですね。このプロジェクトに音響監督として参加した作曲家の武満徹さんが作られたサウンドトラックに衝撃を受けまして(このサウンドトラックは、当時の世界中の作曲家にも、絶賛されたようです)、ミーハーな私はすぐに、**真似をすることを考え始める**わけです(笑)。かといって、**映画にするほどの能力もなければ、財力もない**(因みにこの作品を作った当時のプロダクション「にんじんくらぶ」も、制作費がかさんで**倒産**したような)。そんな折に鳥飼さんと出会いまして、これはいけるかも、と思って彼に打診したのが、発端でしたね。

そんなわけで朗読にしたというのは、半分はこのような泥臭い予算のお話とその理由だったわけですが、その実、**朗読の方が面白いのではないか**、というある程度計算もありました。

というのは、例えば私はあまり映像というものが、好きではないのですね。実際**うちにはテレビがなく**、そのような生活が**大学時代テレビが突然火を噴いてから20年以上続いてきた**のですが、特に問題を感じたことはありません。逆に嫁さんは映画好きで、よくDVDとか借りてきて一緒に見ることを**強制**されますけれども(笑)、一人でいる時に映像を見るということは、まずありません。逆に、アンビエントでも聴きながら部屋を真っ暗にしてビールを飲む、みたいな方が、遙かに好きなわけです。その方がイメージが膨らむ。何というか映像だと、イメージが先取りされてしまうような感覚があって、それが好きではないのですね。実際先の『怪談』という映画にしても、見たのは一回きり。その代わりサウンドトラックは、毎日のように聴いています。ええ、**嫁が涙目になってもかまやしません**(笑)。NLP(神経言語プログラミング)でも、視覚優位型の方とか聴覚優位型の方とか色々タイプ分けして議論するということがよく行われますが、言わば今回は後者、聴覚優位型の方を念頭において、照明を全く使わずステージ構成をしてみました。その結果やはり、朗読と音だけの方が良かったですね、という有難いご感想とかを頂いたりして、ある意味ほっとしました。

何といっても、鳥飼さんの熱演が素晴らしかったです。本職はアナウンサーですが、非常に幅広い興味をお持ちの方で、このお話を持っていった時、二つ返事でご承諾頂きました。私と

してもとても有意義な時間を過ごさせて頂きましたね。リハーサルの時にグールドの話で盛り上がりたりとか。鳥取に帰ってきてグールドの話をしたというのは、この時が始めてだったのではないかと。ええ、何せ田舎ですからね～(笑)。終演後も参加者の方々と、オカルトに限らず様々な分野のお話が出来て、とても楽しめた一夜でした。

というわけで、今回のセッションも当然全部録音して編集し、先ほどMixcloudの方へアップさせて頂きました。Facebookでも結構話題になっていて、またやってほしいという有難いお声が多く聞かれ、私としても嬉しい限りですね。今回は先の『怪談』へのオマージュを含めて中国地方の怪談ということで「耳無芳一」まで範囲を拡大しましたが、今後は鳥取県に限定させようという話を、彼ともしているところです。鳥取県にも面白い民話とか、たくさんありますからね。そういうものを発掘するというのも、地方活性化の一環ではないかと。

というわけで、中国地方の怪談、どうぞお楽しみ下さい！

<追記>

題材よりも私の顔の方がよっぽどコワイという専らの噂が・・・。

中国地方のコワイ話 **Part 1 : 弥六淵の魔物(鳥取県三朝町)**

[Kwaidan ~ Ghost Stories in Japan ~ Part 1 : A Monster in Yarokugafuchi](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

中国地方のコワイ話 **Part 2 : 耳無芳一の話 (小泉八雲)**

[Kwaidan ~ Ghost Stories in Japan ~ Part 2 : Hoichi the Earless](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

明日7月21日土曜日午後8時30分より、朗読パフォーマンス『**中国地方のコワイ話**』を、倉吉市内にありますCOCOROSTOREさんにて行います。

先週、今週と、朗読をして下さる鳥飼さんとりハーサルを行いました、なかなかいい感じです。メインは皆様よくご存知の、小泉八雲原作『**耳なし芳一**』ですが、もう一つの作品は、三朝町に伝わる『**弥六淵の魔物**』という伝説です。

先だって鳥飼さんに文章をお送り頂いたのですが、これ、なかなか面白いです。三朝の奥地に突如現れた人喰い大蜘蛛と、それと戦うある若者の物語。村のためにと法術を駆使して、命がけて山へ赴きます。それを陰から助けようとする恋人、そんな愛する二人を温かく見守る氏神……。てか、**よくこんな題材が、この辺にありましたね**。これって、**往年の角川映画辺りの題材にもなれそうな話**じゃないですか？なかなか感動的な伝説です。

そして、鳥飼さんの朗読も、熱が入ります。私もそれに負けじと、よりコワイ音を作ったりして。ええ、そこら辺は得意ですから。ただでさえコワイ楽曲を、更にコワく処理しています。

当日は8時半からスタートして、この『弥六淵の魔物』、『耳なし芳一』の二部構成で、大体9時半辺りを終演、と考えています。でもこのままでは終わらない、みたいな。ご来場の皆様への特別サービスと致しまして、『**一秒で出来る除霊のやり方**』の**ミニ・レクチュア**をさせて頂きたいと思います。**職場でわけのわからない霊が見える、時には頼みもしないのにそれをお持ち帰りしてしまって、ひどい目に合わされる、そんなお悩みをお持ちの方、いらっしやいませんか？**そのような方、必見の講座です。気功法(てか厳密には、このやり方はむしろ道教魔術でしょうね)を使えばその手のものは、一秒で簡単に解除できます。更には除霊だけではなく、ストレスの解除にも応用できます。もっとも、それを公開しないでうちに來てもらう方が、儲かるんでしょうけれどもね〜。おバカですね〜。商売下手ですね〜(笑)。ですから、**今回一回しかやりません**。あと、**他言もご無用願います**。

というわけで、皆様の起こしを心より……(参加料は、500円です)。

※写真と本文は関係ありません。

「反原発デモが日本を変える」のか？

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

柄谷さんが、面白いことをおっしゃっています。

[反原発デモが日本を変える](#)

私んとこのゼミの先生がよく言っていたのは、市場経済システムというのは無限の拡大再生産が可能であるかのような論理構造をしているが、それは物理的に不可能であり(言うまでもなく、地球は有限ですからね)、いつかは必ず破綻せざるを得ない、ということでしたね。

それがいつ起こるのか、学生時代には想像も出来ませんでした。それに近い状況が、バブル経済を通過してある意味市場経済の極限を体験してしまった日本で、原発問題とリンクした形で立ち現れたというのは、非常に意味深だと思います。

元々市場経済システムというのは、日本の風土になじまない側面があるんじゃないでしょうかね。このようなシステムに対しては、「もったいない」だとか「思いやり」だとかいった発想は、害悪以外の何者でもないわけですから。自由主義を信奉する人達に言わせれば、そのような要素が経済の発展を阻害するのだということになるのですが、だからといって経済合理性の元にそれを全部捨て去りましょうというのは、それこそ非現実的ではないかと。日本人にアメリカ人になれと言うようなものですからね。仕事がほしけりゃ、東京へ来るのが当たり前でしょ？みたいな(笑)。

おまけに、世界有数の地震大国。そんなところに経済発展を標榜して原発作ったら津波が来てコントロール不能になっちゃいました、というのが、今の状況ではないかと。

要するにここで問われているのは、価値観の問題ではないでしょうか。原発を稼働させまくって経済発展をもくろみ続けるべきだ、というのか、いや、そんな危険なものを使うよりは、そこそこの電力でいいじゃないですか、というのか。前者は物質に、後者は物質ではないものに、重きを置いている。

よりわかりやすい言い方で言えば、幸福とは何だ？という、極めて根本的な問題ですね。正にこのことこそ、経済学が長年、無視し続けてきたことなのではないかと。なぜならば幸福なんて、数値化不可能ですからね。そのような経済学上の矛盾(隠蔽?)が可視的な状況で立ち現れてきているというのが、今の日本ではないかと。そういう意味では、人類の歴史上も前例がないと思います。柄谷さんのおっしゃっている国家論も、この範疇に含まれるのではないのでしょうか。国家

を重視すべきか、個人を重視すべきか。国家が幸せになることで国民も幸せになれる、というのは、本当なのか？「国民のためを考えて」野田首相はデモ隊に囲まれつつ再稼働を決める、それってありなの？みたいな。

さて、今後この問題は、どう展開していくのでしょうか。難しいですね～。正に価値観の問題ですからね。因みに私自身は、後者かも知れないですね。お金はないけれども、ストレスもないですからね。一生懸命働いたお金で、京プラかどこかのバカ高いバーでバカ高いお酒飲むよりは、窓開けっ放しにしながら電気を消して、自分でミックスしたアンビエント聴きながらエビスビール飲む方が性に合っているような気がしますし。今やってますけど。これ以上の贅沢を望んだら、それこそバチが当たるんじゃないですかね。

何せ、仙人ですから。ま、あまり万人受けしそうにありませんが(笑)。

Mad Mouse Sessions Live at Eat Red Meat on July 1st 2012、編集しました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先だって7月1日、いつもお世話になっている倉吉のライブハウスEat Red Meatにおきまして行われたライブイベント、LiVE A。今回も私は、Mad Mouse Sessions名義で、参加させていただきました。

そのDVDが先週、マダム・ちえけらっちょさんの編集により完成いたしましたので、早速ゲット。更にそれを再編集して、先ほどYouTubeに、アップさせていただきました。

今回の演奏も、評判良かったみたいです。何せ今回は、プロのドラマーである田桑氏の参加がありましたからね。ベースの中原君の炸裂ブリブリベースも健在。いつもドラムを叩いてくれる上原君にもドラムをお願いして、ツインドラムという編成でした。リズム隊が強力になったために、サウンドもチルアウトどころか一気に**ジャズ・ロック**と化し、延々40分のインプロヴィゼーションの世界。キング・クリムゾンどころかソフト・マシーンよろしく、完全に**どサイケ**でしたね。

その前が高校生による爽やか系の4ピースバンドで、会場はその同級生達による熱気ムンムン。そこに40年くらい時代を逆行したサウンドを持ち込んだものですから、**みんないなくなりました**(笑)。でも後で、河田君の事務所に何人かその時いた高校生がやってきて、「昨日のライブ、すごかったっすね」とか言っていたそうですから、嬉しいですね。ある意味**古典の授業**だったりして(笑)。

ただ個人的には、残念なライブだったのですけれどもね。キーボードが途中でコントロール不能になりましたから(笑)。仕方がないので再編集に当たって、若干シンセを重ねました。派手なことはしてないですけども。映像で明らかに右手動いていないのにオルガンの早弾きとか出てきたら、アホですからね(笑)。それは後で、じっくりやろうかなと。一応映像編集はこれでおしまい、ということにして、音だけ編集したものは、改めてmixcloudかSamurai.fm辺りにアップしようと思っていますので、そちらもお楽しみに。

それでは、倉吉発のプロGRESSIV・ジャズ・ロック、どうぞお楽しみ下さい！

[<Mad Mouse Sessions live at Eat Red Meat Kurayoshi, Tottori, Japan on July 1st 2012 \(Part 1\)>](#)

<Mad Mouse Sessions live at Eat Red Meat Kurayoshi, Tottori, Japan on July 1st 2012
(Part 2)>

<Mad Mouse Sessions live at Eat Red Meat Kurayoshi, Tottori, Japan on July 1st 2012
(Part 3)>

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

週末は、Eat Red Meatに於きますイベント、LiVE Aにお越し頂きまして、真に有難うございました。

私としては、あまり納得していません。ええ、するもんですか。演奏中いいグルーブになってきたところで、**突然マウスが動かなくなりました**。え？PCが動かなくなるのってありそうだけど、**何でマウスだけ動かなくなるの？**しかもよりによって、本番中に……。慌てて復旧を試みましたが、効果なし。苦肉の策で、PCのキーボードだけでAbleton Liveを操作しましたが、ソフトシンセは全部死亡状態でしたので、痛恨の極みです……。もちろん、ステージ上ではポーカーフェースを押し通しましたが、それでも。

実際前回の小鴨神社でもPCが誤作動起こす時がありましたので(お気づきになられた方には、本当に申し訳ないです……)、要するに、「**新しいPC買えば？**」って話なんですけれども、今世の中は、Windowsも7とか8とかになってきていて、これって今まで使ってきたソフトシンセが、使えなくなってしまうんですよね～。そういう事情もあって買い替えを渋ってきましたが、そろそろ年貢の納め時かも知れないですね。

というわけで、私的には全く納得していませんけれども(個人的には、イベント終了後のディスカッションが面白かったですね。政治問題、経済問題、教育問題などなど……)、それでもご来場頂きました皆様には、心より深謝です。m(_ _)m

……で、その舌先も乾かない内に、次のイベントです。

来る**7月21日午後8時30分**より、市内にあります郷土製品を紹介するショップであります**COCOROSTOREさん**に於きまして、朗読プロジェクトを企画致しました。題して、『**中国地方のコワイ話**』。

朗読を行ってくれますのは、某放送局にお勤めの、Tさん。彼は本業のアナウンスだけではなく、県中部の若手クリエイターを集めたイベントを企画なさるなど、精力的な活動をされています。5月に県中部で、"Always"というマーケット形式のイベントがありまして、そこで芥川龍之介の『蜘蛛の糸』を朗読されていたのですが、それをエレクトロニクスと組み合わせたら面白いんじゃないかと思って、このプランを企画してみました。

実を申し上げますと、私は音楽をやるのですが、映像にはあまり興味がないのですね。なぜか？映像ですと、イメージが先取りされてしまうような感覚があるというか。私は音だけ聴いている方が、イメージが広がるタイプの人間でして。

その手の表現形態としては、落語がそうですね。あるいは、ラジオドラマとか。さらには、かの**[スネークマン・ショー](#)**がそうではないかと。詳しく物事を描写するのではなく、わずかにほのめかすことでリスナーのイメージを引っ張り出し、それと現実とのギャップが、笑いを誘発する、みたいな(映像のスネークマン・ショーもありましたけれども、全然面白くなかったという)。

朗読という声だけの表現形態というものの可能性を、どこまで広げられるか、それによってリスナーのイマジネーションを、どこまで広げられるか。そして題材は、**郷土から取る**。郷土に昔

から伝わる話を発掘するというのも、十分一つの地域おこしになるのではないかと。それをエレクトロニクスと組み合わせたら、どうなるだろうか。そういうコンセプトでもって、朗読に取り組んでみたいと思います。ええ、単なる読み聞かせではありません(笑)。

季節は、夏。夏といえば、怪談。当然でしょ？みたいな(笑)。1965年にそのものずばりの、『怪談』(小泉八雲原作、小林正樹監督)という映画がありますが、それに音響監督として参加したのが、かの武満徹。それへのオマージュとして、「耳なし芳一」(山口県)をメインにすえて、もう一つ地元鳥取県から採った小品形式の怪談を添えて、二本立てでいきたいと思います。朗読は、Tさん、私は今回、DJという形で参加します。朗読とDJ、ナイスな組み合わせでしょ？ウナギに梅干し、みたいな(笑)。曲は、20世紀の現代音楽から取ります。いい曲一杯ありますからね。ええ、普通に聴いてるだけで十分コワイ楽曲の数々ですわ。夜にこれを暗闇の中で聴いていると、嫁さん涙目になります(笑)。そのような楽曲を縦横無尽にミックスして、かの『怪談』に負けないようなパフォーマンスにしたいですね。遠方から来られたお客さんが、帰り道の国道9号線で怪奇現象起きまくり、みたいな(笑)、そんな違う意味で刺激的なイベントにしたいと思います。

それでは、皆様のお越しを心より・・・(参加料は、500円です)。

歌川国芳 相馬の古内裏

※写真と本文は関係ありません。

Fripp & Eno/Evening Star

[Evening Star](#)

 [Evening Starの他のレビューをみる»](#)

評価：★★★★★

Fripp & Eno

Dgm / Inner Knot

¥ 765

(2008-10-21)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

銀行の時の同期の弁。「ビートルズのファンがマハリシの名前を"聞いたことがある"ってのはザラだろうけど、マハリシからビートルズに入りましたってのは、世界中探しても中原だけだよな」。はい、それは否定致しません。ちょっと人様と感覚がずれているものでして。

私が大学の時にハマっていたKing Crimsonも、そのパターンかも知れませんね。実は私がKing Crimsonを知ることになったのは、このアルバムからでした。昔、[『波の記譜法 - 環境音楽とは何か』](#)という環境音楽を解説した本がありまして、浪人時代にそれを手にした私は、受験勉強そっちのけで(笑)、この本にのめり込みました。

その本の中で解説されていたのが、Brian Eno。一体どんな音楽だろう、と興味を持った私がCD屋に行くと、その時店頭にあった唯一のEno関連の作品が、この"Evening Star"。私は迷わず買いました。てか、それしかなかったし(笑)。

このアルバムがきっかけとなって、私はEnoあるいはAmbientを知ることになったわけですが、ここでギターを弾いていたのが、King CrimsonのRobert Fripp先生。え？これがロックなの？みたいな演奏をされていて、そっちはそっちで私のブリティッシュ・プログレへの道を開いてくれたという、まあ私にとっては二つの意味で、エポック・メイキングな作品でした。

いまだに健在なFripp先生ですが、彼はこの時期初めてテープ・ループを使ったいわゆるサウンド・オン・サウンドみたいなことをやり出したわけですね(この機材を作ったのがEnoらしいのですが)。今では彼は同じことをデジタルでやっていらっしゃいますが、まあ好みにもよるでしょうけれども、私はこちらの方が好きですね。やはりアナログな感じで、テープがループすればするほど、音が悪くなっていく。それがまるで、遠くで鳴っている風あるいは波のように、新たに重なる音を包んでいく。それが絶妙なSound Scapeを演出しています。これはね～、聴くよりやる方が楽しいんですよ。いくつかのコンテンポラリー・ダンスのBGMは、実際こうして作りまし

た(笑)。

圧巻はアナログ・レコードで言うところのB面の、"An Index of Metals"。最初は美しく始まりますが、それに半音階が加わって、しまいにはXenakisかLigetiみたいなクラスター(音塊)が現れて、フェイドアウト、みたいな。ギミック的には今から考えれば単純でしょうけれども、それでもリリースから数十年経っても、ロックあるいは現代音楽という観点からもリスペクトされているという、ユニークな作品ですね。

何はともあれ暑くなってきたこの時期、コロンコロンと繰り返されるFripp先生のアルペジオに身を委ねるのも、オツなものではないかと・・・(しかし、えらく安いですね。そこら辺のバンドのデモより安いんじゃないでしょうか。円高のせいかな？(笑))。

[Fripp & Eno](#)

・・・そして、次のイベントです。～7月1日、IJUカフェトークショー & Mad Mouse Sessions Live at LiVE A

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ここんといイベント続きであります。来週7月1日日曜日、倉吉市内の赤瓦エリアにあります「くら用心」というスポットにおいて、田舎暮らしのサポートをコンセプトに活動をされているIJUcafeさん主催のトークショーが行われます。

その中で海外の方お二人に参加いただいて「鳥取に住む」をテーマにパネルディスカッションを行うコーナーがあるのですが、そこにうちの嫁さんがパネリストで、参加することになりました。だけど嫁さんは、日本語がまだ堪能ではないということで、私も通訳で、参加をします。

私が主催した先週のイベントでも、同じようなコーナーを設けたのですが、今回はまた違った角度から色々な話をさせていただけるのではないかと、思います。オーガナイザーの福井さんはNPO法人「田舎暮らしの応援団」という組織を市内に立ち上げて、独自に田舎暮らしをサポートする活動を続けていらっしゃいます。田舎に暮らすとはどういうことか？というテーマに、様々なディスカッションが行われる予定です。ご興味のある方、是非ご参加下さい。

7月IJUカフェトークショー

そしてその後、市内のライブハウスEat Red Meatにおいて、恒例のライブ・イベント"Live A"が行われ

るのですが、そこにいつものMad Mouse Sessions名義で、参加をいたします。

今回はメインアクターとして、かつて「夜のヒットスタジオ」とかに出演されていた、この界隈のミュージシャンの間では知らない人はいない、「噂の」ドラマー・田桑一郎氏が参加されます。最近是人前でドラムを叩かないんだ、とおっしゃって、ある意味私以上に[仙人](#)のような生活をされていたりするのですが、河田君と私とでまんまと引きずり出すことに成功いたしました。先日リハーサルをしたのですが、プロはやはりすごいですね。サウンドとしては、ヘヴィーなジャズ・ロック系のリズム隊にアンビエントなキーボードが乗って、その間をファンク・ギターが疾走、てな感じでしょうか。いや～、70年代ですね～、コスミックですね～。実は鳥取県中部は、サイケなプログレがはやってます、みたいな。そういう田舎暮らしのスタイルも、[あり](#)なんじゃないでしょうか(笑)。

河田君によると我々の演奏は8時過ぎらしいですが、ご興味のある方は直接、私までご連絡下さい。多分いつものパターンですと、その前の6時頃から、隣のエスニック料理屋で、一杯やってます。あ、小鴨神社では打ち上げやりませんでしたので、それも兼ねてやりましょか(笑)。ほろ酔い気分になったところで演奏スタート、てな感じで。うーん、まさにドラッギーですね(笑)。というわけで、皆様のご来場を心よりお待ちしております！(てか、当日間に合うんだろうな・・・)。

[LiVE A vol14出演バンド決定！！スタジオ MAD MOUSE & ライブハウス EAT RED MEAT](#)

「国際交流の集い～南の島のインドネシア」へご来場頂きまして、真に有難うございました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

「国際交流の集い～南の島のインドネシア」へご来場頂きまして、真に有難うございました。

今回のイベントは、鳥取県国際交流財団さんの委嘱で行わせていただいたのですが、聞くところによると、インドネシア単独を紹介するようなこのようなイベントは、財団がかかわるイベントでは初めてなのだそうです。意外な感じもしますけれどもね。しかも県中部では、言わずもがな。私の知る限り、県中部にお住まいのインドネシアの方は、うちの嫁さんを含めて、4、5人らしいので。その大半が今回オーガナイザーとしてご登壇いただきました。

そういう意味では、準備も楽でしたね。取り敢えずインタンさんちに11時に集合。私が遅れて2時頃行くと、全然話し合いなんか行われていなくて、延々とゴシップに明け暮れていた、みたいな。それはまずいでしょ、さっさと始めるぞ、と私が音頭を取ると、話し合い自体は30分で終了、またゴシップに逆戻り、そうこうしているうちに3時になって、幼稚園に迎えに行ってきた～す、みたいな。この辺だけでもインドネシア人と日本人の違いが、まざまざと表れてますな。

取り敢えずの当初のコンセプトとしては、こういうのにありがちなお堅～いプレゼンをご来場の方々もうんざりでしょうから、パーティ形式でラフな感じでやらせていただきましたが、いかがでしたでしょうか？

「また参加したい」との嬉しいお言葉もいただきましたので(食べ物としてはマルタバが一番好評だったみたいですな)、また機会を改めまして、計画させていただきたいと思います。

・・・そして昨日は、Studio Mad Mouseさん主催のフリー・マーケット。本当は嫁さんとバティックとコーヒーの販売をしようと思っていたのですが、嫁さんが前日のイベントで疲れ果てたということなので、私が単独出店することにしました。気功で。椅子一個だけ持ち込んで、みたいな(笑)。

でもフリマというよりはパーティみたいな感じでしたので、私としてはとても楽しめましたね。色んなDJの方がいらしたりとか。変な話、自分がクラブ系の曲を作ったり、自分でイベント企画してDJしたりする割には、他のDJの方にお目にかかるという機会って、ほとんどなかったのですね。そういう方々と、最近のトレンドとか機材とかのお話をするのは、とても面白かったです。

もちろん、気功もやりました。15人近くぶっ通しで(笑)。申し訳なかったのは、腰痛を訴えられる方が多くて、腰痛を椅子に座ったまま処置するのは、物理的に難しいのですね。足とかひざだったら、まだやりやすいのですけれども。そういう事情ですので、あまり効果がなかったなあ、とおっしゃられる方には、申し訳ないです。ケアの仕方の指導だけで、今回はご勘弁を。

てなわけで、怒涛のような二日間ではありましたが、個人的にはとても楽しい二日間でした。皆様どうも有難うございました！

<追記>

地元の日本海新聞に、紹介されていたみたいです。

[インドネシアの文化・伝統紹介 倉吉で国際交流の集い](#)

国際交流の集い～南の島のインドネシア

国際交流の集い～南の島のインドネシア

平成24年6月24日付日本海新聞

小鴨神社でのライブのミキシングが終わりました & 明日の「国際交流の集い～南の島のインドネシア♪」のお知らせ

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先週は小鴨神社でのライブ、"Voice of Soil"にお出で頂きまして、真に有難うございました。

一応ライブはあのような感じで終わりましたけれども、それで終わり、というわけではないのですね。ええ、**私のやることですから**。むしろそれは、50%くらいですね。それからが本領発揮という。実は全部の演奏をコンピュータに取り込んでおりまして、それを家に持ち帰って延々と編集するわけです。友人に言わせると、「釣りみたいっすね」ということですが、まあそんな感じですよ。

その編集が昨日終わりましたので、いつものMixcloudの方に、アップロードさせて頂きました。お楽しみ頂ければ、嬉しく思います。

でもまだ、これでも終わらない(笑)。音源の方は一応一段落したのですが、現在CGをやってくれたDr. Yukiにも、映像の編集を依頼しております。完成次第こちらはYouTubeにアップしようと思っています。実際私も、映像見ていないですからね～。彼の**手術**のスケジュールにもよりますけれども、なるべく早めにアップ出来るようにしたいと思いますので、こちらも是非お楽しみに。

・・・で、明日のインドネシア・イベント、「国際交流の集い～南の島のインドネシア♪」の準備も、着々と進んでおります。取り敢えず国際交流財団さんの方からは許可は頂いておりますので、**やりたい放題**させて頂きます。

追加コンテンツとしては、アंकルンの実演をやろうかな、と思っていたのですが、見てるだけ～のイベントよりは体験型のイベントの方が面白いかなと思って、**ケチャを参加者皆さんで体験して頂こうかな**と。今Ableton Liveにネタを仕込んでいるのですが、**コンピュータのクリックに合わせてグループ毎に分かれたケチャのパターンを全員で演奏する**、みたいなことをやってみようかな、と思っています。ああいうポリリズム(複合リズム)は、外から聴くよりはその中で聴いた方が面白いですからね。そういう音響実験もやってみるつもりです。まさしく体験型。

あともう一つは、日本とインドネシアの様々な違いについて、ざっくばらんに議論する、みたいなコーナーも設けようと思っています。と申しますのは、私が知る限りこの手の国際交流関係の

イベントって、みんな良いことしか言わないんですよ～。日本は好きですか？はい、好きです、フランスの何が好きですか？はい、チーズです、みたいな。そういうのを聞くとすぐ、「アホちゃうか、今日日子供でもそんな単純な問答はせんぞ」と思ってしまうヒネクレモノの私なので(笑)。そこであえてこれらの国のダークサイドにいきなり光を当てて、それについて議論してみる、というのは悪くないのではないかと。少なくともその方がしょうもないリップサービスを続けて精神的にバランスを崩すよりは健康的なのではないか、と私は思うので、そういうことをやってみようかなと思います。ブログに書いたら炎上確実なトピックスとかにも触れようと思っていますので、宜しくお願い致します。ええ、もちろんインドネシア呪術の話もしますよ(笑)。

それでは明日午後2時より、倉吉体育文化会館にてお目にかかりましょう！

[Live at Ogamo Shrine, Kurayoshi, Tottori, Japan on June 16th, 2012](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

昨日はご来場頂きまして、真に有難うございました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昨日はご来場頂きまして、真に有難うございました。思いもかけず多くの方々にご来場頂けて、私としてもとても嬉しく思います。

心配していたのは、とにかく天候ですね。西日本全域に大雨注意報が発令されていたりとか。何分「半」野外でしたので、雲行きだけは神のみぞ知るところ。降ったら降ったでそれをサウンド・エフェクトとして取り込むか、などと思ってみる反面、ご来場いただけるお客様の便を考えると、そんなのんきなことは言ってはおられない。

しかし幸いにも、何とかかんとか持ちました。それどころか、セッティング中は降られなくて準備もスムーズに進んだのですが、演奏を始めた途端に突然大雨、演奏が終わってお帰り頂ける時間になると、雨も止みました。何というタイミングの良さ。神様にも粋な取り計らいを頂いたようです。てか、一緒に演奏されたのでしょうか？(笑)。

本当はご来場頂いた皆様お一人お一人に、個別にお礼を申し上げたかったのですが、いつものこととは申せ撤収その他でドタバタしてしまいそれも叶わず、真にもって申し訳ございません。でも、お楽しみ頂けたとしたら、これに勝る喜びはございません。

個人的に面白いなと思ったのは、何人かの参加者の方々と、**Tangerine Dream**と**Klaus Schulze**の話で盛り上がったことですね。ネットでタンジェリン・ドリームを調べてたらたまたま私のブログに行き着いて、今日のライブに参加しました、とおっしゃる方々とか。そうか～、この辺でもファンの方が、てか、**その名前をご存知の方が**(笑)いらっしゃるんですね～。今まではリスナーの皆様の便を考えて(笑)、ダウンビートのアンビエント(あるいはニューエイジ(笑))系に特化させてきましたが、では次回はコアな方向けに、タンジェリン系のプログレッシヴなサウンドにしましょうかね～。地鳴りのようなシーケンスにメロトロンとオルガンが被さって**SE左右に飛びまくり**、みたいな。そういうのもやってみたいんですよね～。ええ、アイデアだけは膨大な量あります。**器用貧乏と人は呼ぶ**。こんなのして下さい、みたいなリクエストあれば、受け付けますよ(笑)。

というわけで、今回はどうも有難うございました。今後とも宜しくお願い致します！

<追記>

後から思ったのですが・・・、打ち上げやれば良かったですね。演奏のことしか頭になかった。こんな体たらくで、申し訳ないです・・・。(^_^)

ライブ@小鴨神社(2012年6月16日)

ライブ@小鴨神社(2012年6月16日)

ライブ@小鴨神社(2012年6月16日)

ライブ@小鴨神社(2012年6月16日)

ライブ@小鴨神社(2012年6月16日)

ライブ@小鴨神社(2012年6月16日)

ライブ@小鴨神社(2012年6月16日)

ライブ@小鴨神社(2012年6月16日)

ライブ@小鴨神社(2012年6月16日)

ライブ@小鴨神社(2012年6月16日)

ライブ@小鴨神社(2012年6月16日)

ライブ@小鴨神社(2012年6月16日)

ライブ@小鴨神社(2012年6月16日)

ライブ@小鴨神社(2012年6月16日)

大体内容が決まってきたので、もう一度お知らせをば・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

6月16日土曜日の小鴨神社での奉納演奏"Voice of Soil"のフォーマットが固まってきたので、もう一度改めてお知らせさせていただきます。

演奏時間は、午後7時から8時くらいまでの一時間程度。サンプルをYouTubeにアップしようと思っていたのですが、CG担当のDr. Yukiが手術で制作時間が取れなかったらしく、この場でのご紹介はどうも出来なさそうです。申し訳ございません。本番にてのお披露目ということで、ご容赦を・・・(てか、本人本当に参加できるのだろうか、といまだに一抹の不安もありますけれども。今日日お医者さんも大変ですな)。

曲については、5、6曲やるつもりです。最近Psychedelic Dubに凝っているので、それっぽい楽曲も作ってみました。その名をお聞きになったことの無い方にとっては「何それ？」って感じでしょうけれども(笑)。この手の分野は雨後の竹の子の如く様々なジャンルがありますのでご説明がしにくいのですが、まあ言ってみれば、Vagelis-喜多郎系の壮大なシンセ・サウンドに、ダブ系のダウンビート、みたいな感じですな。要するに、いつもの感じです(笑)。

今回は、本堂をギャラリー化する試みということで、県内にお住まいの仏画師小谷陽一画伯の仏画も、展示させていただきます。最近お知り合いになったご子息のデザイナー小谷真之介さんの取り計らいです。彼は、[Che'Nelleのアルバム"Luv Songs"](#)もデザインなさっているだけでなく、県内での様々なイベントの企画・プロデュースもなさっている、とてもアクティブかつ才能あふれる方です。そのお父上の仏画は、なんとコンピュータ・グラフィックスで制作されています。親子二代の芸術家ということで、とてもユニークなご家族ですね。画伯の作品も、是非お楽しみに。画伯のHPは、こちらです。

[みほとけの絵 小谷陽一の世界](#)

[小谷陽一画伯のプロフィール \(from Wikipedia\)](#)

それと、去年告知しておきながら当日思いっきり忘れていた、パワー・スポットの体験講座もやります。気功で言えば、『龍穴』ですね。拝殿のど真ん中に地面から垂直に熱の帯が出ているのですが、昨年残っていた方は全員がおわかりになりましたので、それを今回もやってみようかなと。「パワー・スポット」などと言うとムードばかりが先行していて、一步間違えると単なるスピ系の思い込み、みたいに捉えられている感がありますので、あえてそこに一石を投じたいなと。実際パワー・スポットなるものがどのようなものかお判り頂ければ、それに対するイメー

ジもだいぶ変わってくるのではないかと、と思いますが。取り敢えず、「つべこべ言う前に、ここに立ってみろ」的な、体育会系のノリでいきたいと思います(笑)。

因みに私は、午後3時頃より現地入りして、だらだらとセッティングを始めるつもりです。Brian Enoでも聴きながら。ええ、神社でイーノ流したらどんな感じだろうなー、とほとんど個人的な趣味の世界で。こんなこと普通、都市部ではありえないですよ。田舎だからこそ出来るこの暴挙、みたいな(笑)。Dr. Yukiが神戸より到着したら、簡単にリハもやるつもりです。5時くらいでしょうかね。その時の聴こえ具合と本番の聴こえ具合も、全く違うはずですよ。蛙さん達のグルーブによって(笑)。ご興味のある方は、早めにお越し頂いても面白いかな、と思ったりもします。まあ、ゆるいセッションですので、お気軽に。

それでは、皆様のお越しを心より・・・。

※小鴨神社への行き方です。

[大きな地図で見る](#)

心理学的に考えて・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

これは非常に興味深い現象だと思います。このことは以前から何となく考えていたのですが、今回AFPに似たような記事があったので、ここで引用させて頂きました。

例えば、催眠という現象があります。一般的に、聴覚的に知覚がしやすい「暗示」の力によって催眠現象が引き起こされるかのように思われていますが、実は実際にそのような現象を引き起こすのは、そのような暗示によって誘発される、クライアントのイマジネーションなのですね。ですから、かなり大雑把に言えば、イマジネーションの強い人ほど催眠にかかりやすい、ということが、言えると思います。

このことは、日常生活でもよく見られます。例えばメール。メールの微妙な一言が、人間関係に微妙な影響を与えてしまった、といった経験はありませんか？恐らくこれも、同じメカニズムではないでしょうか。面と向かった会話では、そのような微妙な一言を聞くと、「それどういう意味ですか？」とその場で尋ねて、誤解を生むのを避けることが出来る。でもメールの場合は、そこに若干のタイムラグが生じる。「この人こんなこと言っているけど、これって他意があるんじゃないか」とか。そうやってイマジネーションが勝手に膨らんで、時としてとんでもない誤解を生じることがある。

あるいは、私の仕事に関係することですが、こういう仕事をしているとどうしても、いわゆる「憑依」ですとかいった現象も、処理せざるを得ない状況にお目にかかることがある。そして施術後にクライアントさんといろいろと話をしてみると、結構イマジネーションが強い方が多いのですね。いわゆる心霊現象というものは全部イマジネーションによって引き起こされる、などと夢の無いことを申し上げるつもりはありませんが(笑)、こういった現象とイマジネーションとは大いに関係があるのではないかと私は考えています。

この放射能を取り巻く状況も、もしかしたら同じようなものなのかも知れませんね。放射能が危険だということは科学的にも正しいのですが、だからといってX線検査を廃止しようという運動にはならない。どこまでが安全で、どこまでが危険か、というその境界自体が、見解によってファジー(因みに私の知人の陶芸の先生によると、昔はウランを、陶芸に使っていたそうですね(今でもなのかな？)。鳥取県にはウラン鉱がありますからね。「ウラン残土問題」ってのもあるくらいですから。若い頃は、ウランを含んで黒光りする土を、**素手で**捏ねていたそうです。その方いまだに元気ハツラツです。逆に放射線の影響だったりして(笑))。政府が発表する情報も、てんでバラバラに見える。それどころか、何か政府は重大なことを隠しているんじゃないのか？と想像はどんどん膨らむ。これが今の、日本を取り巻く状況なのではないかと思います。本文では、「何

であれ体内に浸透するものは私たちを不安にさせ、原始的な恐れを呼び覚ます」とありますが、私はこれを、「何であれ体内に浸透する『と想像させる』ものは私たちを不安にさせ、原始的な恐れを呼び覚ます」と変更の方がより正確なのではないか、と思いますね。

取り敢えず、自分の身は自分で守るより他は無い、そういうことなのかも知れませんね。

※AFPのこの記事の続きは、こちら。

[放射能一日本に巣食う目に見えない「敵」\(下\)](#)

良いことだと思いますけれどもね。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

権威あるお偉方は「非科学的」として馬鹿にするでしょうけれども、有意義なことだと思いますけれどもね。

実際僕も阪神大震災の時は、淡路島方向からフラッシュのような発光とか見ましたし、その後学生時代によく行っていたピザ屋のおばちゃんと話していた時に、前日に野良犬が集団を作って山の方へ逃げていくのを見たとか、飼っていた熱帯魚が見たこともない行動を取っていたのを見た、とかおっしゃっていましたからね。東日本大震災の時だって、3月4日の時点で茨城県鹿嶋市の下津海岸に52頭のイルカが打ち上げられていた、との報道を見た時に、これから何か大変なことが起こるんじゃないか、と思いましたからね。誰にも言いませんでしたけれども。ええ、またオカルティストとか言われて、馬鹿にされるだけですから(笑)。

でも、人の世って面白いですね。逆にそのようなものを根底から馬鹿にしていらっしゃる権威あるお偉方がいらっしゃったとして、そのような方々が、(このレベルの放射線は)「危険だ」「無害だ」と、真っ向から対立する意見を、それこそ「科学的な見地」から述べていらっしゃるわけですから。一体どちらが正しいんでしょうね？畢竟我々が、自分で測定器を買ってきて自分で測定を始める、というのは、極めて自然の成り行きではないかと。そういう意味では、旧来の「権威」なるものまでも根底から揺らぎつつあるというのが、今の世の中ではないかと。このような風潮は、日本の歴史でも極めてまれなケースではないでしょうか。終戦直後とよく比べられますが、それどころか戦国時代に近いのではないのでしょうか。

あるいは、もっと事態は根源的かも知れない。その「科学的な見地」は権力によって導かれた結論じゃないかと疑ってみることも出来る。[フーコー](#)の世界ですね。今の日本でリアルタイムで起っていることが、正にこのことではないかと。彼がこれを目の当たりにしたら、何と云うでしょうね。

そういう意味でも、地方自治体の一つがこのような試みを打ち出したというのは、極めてユニークなような気がしますけれどもね。

久々の東京は、面白かったです(笑)。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

半年振りに、東京を満喫して参りました。

東京には実質10年近く住みましたけれども、こうやってヘキ地に隠棲(笑)してしまった後に改めて上京しますと、再発見することって多いですね。Suicaって便利だな、とか。あるいは単純に、地下鉄自体がすごすぎるぞ、とか(笑)。私はアート好きなので、今回は仕事も兼ねて銀座界隈をメインにうろつきましたけれども、やはり犬も歩けばギャラリーに当たりまくりみたいな状態は、すこぶる楽しいですね。相変わらずこのギャラリー、ケッタイなもん置いてるよな、みたいな(笑)。因みに今回の宿泊は、天王洲アイルでした。アーツフィアがあるところですね。私の初のコンテンポラリー・ダンスのための楽曲を発表したのがこちらだったので、とても懐かしかったです。

今回は嫁が商品提供しているショップの展示会がメインだったのですがけれども、もう一つのメインは、京橋での気功教室でした。そちらでいつも私のブログをご覧頂いている皆様とお会いして質疑応答させて頂けて、本当に光栄でした。どうも有難うございました。その後の懇親会も面白かったですね。やはり公衆の面前では訊けない、あるいはお答えできないネタとかありますからね(笑)。

今回は京橋教室とのタイアップ企画でしたが、次回は独自でやりましょうかね。その際はまた改めて告知させて頂きたいと思いますので、宜しくお願い致します。

因みに、東京を発ったのは一昨日の朝、自宅へ到着したのは、昨日の昼過ぎでした。別に東京から鳥取へ行くのが国際線並みに困難なわけではありません。帰りはコスト削減のためにバスにしたのが運の尽き、御殿場と京都南付近で大渋滞に巻き込まれまして、大阪に着いたのが夜の9時過ぎ、どうせ空いてるだろうと思って接続先のバスを予約していなかったのが、問い合わせしてみると「満席です」の聞いたこともない返事。仕方なく大阪市内のホテルを探すと、どこも満室(この日市内で、何か大きなイベントがあったんでしょうかね?)。危うく夫婦もろともお土産を抱えたままホームレスになるところでしたが、ようやく一軒見つけて何とかそれは免れました。ええ、土曜日に高速に乗るもんじゃないなと。いい勉強になりました(笑)。

それではまた、東京でお目にかかりましょう！

5月24日京橋教室に関しまして(追記)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先だって京橋での特別講座の記事を投稿致しましたが、その後首都圏にお住まいの皆様より問い合わせがいくつかございました。有難うございます。m(_ _)m

取り敢えず私は明日早朝便で東京へ向かいますが、インターネット接続の関係等でお返事が迅速に出来ない可能性がございますので、もう一度改めてご紹介させていただきます。

場所は、東京都中央区の京橋区民館で、午後7時からです。服装に関しては特に指定はございませんが、動きやすい服装が宜しいかと思えます。ただし、会社帰りに参加される方もいらっしゃいますので、必ずというわけではございません。

基本的に行うのは、一指禅功坐功、遊龍功です。その後質疑応答がございます。気功に関するどのようなご質問でも承りますので、お気軽にご質問下さい。

参加料は、千円です。事前の申し込み等は、必要ありません。そのまま区民館へお越し下さい。受付で部屋をご確認頂いてから、そのままお入り頂けば結構です。

終了後、簡単な懇親会を予定しています。もしお時間が許せば、そちらにも是非ご参加下さい。その際にもご質問は承りますので、お気軽に。

それでは、当日お目にかかりましょう。(^0^)/

『国際交流の集い～南の島のインドネシア』開催のお知らせ

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

この度、公益財団法人鳥取県国際交流財団の委嘱を受けまして、『国際交流の集い～南の島のインドネシア』というイベントを開催することになりました。

時は、6月23日土曜日午後2時。場所は、鳥取県立倉吉体育文化会館です。ええ、うちの近所(笑)。プレゼンターは、現倉吉北高校の英語の先生デディさんと、ご近所にお住まいのインタンさん、そしてうちの嫁さんです。総合プロデュースは、不肖私が勤めさせていただきます。

当日は、お約束のスライドショーを使ったインドネシアのプレゼンテーションだけではなく、私が所有していますアンクルン(Anklung)という竹製の楽器の実演や、インドネシア料理をお試し頂けるコーナーを設けたいと思います。今の計画では、マルタバというインドネシアのパンケーキと、カチャン・イジョというインドネシア風おしるこがお試し頂ける予定です。あと、巷で噂の、あの**幻のコーヒー**もお試し頂けます。ええ、あの**幻のコーヒー**ですよ。うちでしか国内は、取り扱いがありません。それは断言出来ます。結構人気です。

何しろ、県中部のインドネシア関係者といえ、本当に我々くらい。ですから自分達の好きなように、気兼ねなく、ハンドメイドでイベントをプロデュースしてみたいと思います。

そして、**この私がプロデュースするのですから、普通のイベントで終わるわけないでしょ？**みたいな(笑)。当日は少々お時間を頂いて、**インドネシアのスピリチュアリズムについてのご紹介**を行う予定です。ええ、ネタはたくさんありますよ。**おねえさん、バリ島でマジシャンに恋の魔術を仕掛けてもらうのは、絶対に止めましょう、危険です、とか。**あるいは**つい先だって、インドネシアで大事件が起こりましたが、それにまつわる日本のマスコミが絶対に触れないにもかかわらず現地ではもっぱらの噂になっていて、ブログに書こうと思ったけれどもあまりにもぶっ飛んでいるので目下公開をためらっている話**とか。多分インドネシアを研究している人類学者でもこんなこと知らないんじゃないですかね～。そこら辺のコアなお話を少ししてみたいと思います。因みに、嫁は反対していますけれども(笑)。

というわけで、6月は奉納演奏とこのイベントとで忙しくなりそうな気配です。もっとも、やりがいありますけれども(笑)。では、皆様のご来場を心よりお待ち申し上げます。

6月16日小鴨神社での奉納演奏のチラシが出来ました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

6月16日小鴨神社での奉納演奏のチラシが出来ました。

デザインして下さったのは、この界限では知らない人はまずいない、倉吉アンダーグラウンド界の女帝、ちえけらっちょさんです。ええ、普段は薬局で健康の相談に乗りながら、夜な夜な一升瓶片手にライブハウスに出没、みたいな(笑)。いつもお世話になっております。

ちえけらっちょさんには、去年のStudio Mad Mouseさん主催のチルアウト・ライブのチラシもデザインして頂いたので、今回もお願いすることに致しました。仕上がりは上々、とても気に入っています。ホント多才な方ですね。お忙しいところどうも有難うございました。このお礼はまた業務用ではないアルコールか何かで(笑)。

今回もCGは、Dr. Yukiにお願い致しました。20年来のお付き合いの、神大ギター部のはみ出しデュオ。ご家族での温泉旅行を兼ねての参加です。そして一昨日、小鴨神社さんにも打ち合わせに行かせて頂いて、プロジェクトも本格始動致しました。

チラシにも書いていますが、演奏は正味午後7時から8時までの約一時間ですが、今回は単独でのイベントなので、ライブだけではなく、神社全体をギャラリー化する試みを行ってみようかな、と思っています。ビエンナーレのコンパクト版、みたいな感じで。神社の本堂のあちこちに造形物を配置して、そこにCGを投影しつつ、アンビエントを演奏したら、結構モダンな空間になるのではないかと。プロムナード芸術ですね。なので、もし読者の皆さんの中で個人的に造形などをやっていて、それを発表したい、とおっしゃる方がいらっしゃれば、お気軽に私までご連絡下さい。

後は曲ですね。ヘタすれば1000曲近くあったりするので、その中から合いそうなものを選ぶのはなかなか骨が折れますが。しかもチェックしているうちにムラムラと再アレンジしたくなり、それをやっている最中に副産物として2、3曲またできる、みたいな。病気といえは病気ですが、まあ楽しいですから(笑)。

そんなわけで、ご来場頂いた方にも楽しんで頂ければ、とても嬉しいですね。それでは、宜しくお願い申し上げます。

6月16日小鴨神社奉納演奏

6月16日小鴨神社奉納演奏

東京・京橋で、特別気功講座を行います。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

前回の記事で『夏だからジャワ更紗』展をご紹介いたしましたが、それに伴いまして、23日より26日まで、上京いたします。

その間の24日に、都内の区立京橋区民館におきまして、午後7時より、特別気功講座を行います。

とは言っても、この日にこちらで定期的に行われている真木先生の気功教室に参加するだけなのですが、先生が中心となってレッスンをされて、私は皆さんの型をチェックしつつ、サイドからそれをサポートするという形になると思います。その後の質疑応答で、いろいろご質問を受けたいと思います。そちらが私の出番かも知れないですね。ご質問の内容にもよりますけれども、**他の教室では絶対に聞けないようなレアなお話**をさせていただこうかな、と思っています。因みに、その後懇親会もあります。お酒を飲みながらいろいろとハードコア・スピリチュアルの話題が飛び交う、みたいな。一説ではこちらの方がメインという話が(笑)。

というわけで、ご興味のある方は、私に直接ご連絡いただくか、ギャラリー銀座一丁目(03-3535-0522)までお問い合わせ下さい。久々の東京です。皆様に再びお目にかかるのを楽しみにさせていただいております。

『夏だからジャワ更紗』展示会開催のお知らせ。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

嫁さんと私が運営しているジャガタラ・アート・アンド・クラフト(aka. ジャワネコ・アート・アンド・クラフト)がサプライヤーとなって、今月22日より30日まで、東京都大田区のバティックDoさん本店において、『夏だからジャワ更紗』展が開催されます。

この展示会に合わせて、いろいろ商品をご用意しました。目玉の一つは、**完全ハンドメイドのシルク・ショール**です。うちと現地アーティストによるコラボレーション作品で、他では絶対に手に入らないオリジナル作品です。シルクの滑らかな肌触りと、バティックによるカラフルなデザインを、ぜひお楽しみ下さい。

同時に、今うちが取り扱っているあの**幻のコーヒー**も販売いたします。ええ、あの**幻のコーヒー**です。私の周囲でも結構人気です。カフェインゼロ、酸味ゼロ、文字通りマイルドなコク。口コミで着々と売れております。ええ、これも国内で取り扱っているのはうちだけ(のはず)です。そちらもぜひご堪能下さい。

というわけで、お近くの方、ぜひご来店下さいませ。お待ちしております。m(__)m

『夏だからジャワ更紗』特別販売会

詳しくはこちら。

[インドネシアのバティック：ジャワから世界へ](#)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

面白そうな記事があったので、ここでご紹介させていただきます。

IT技術の中核はクラウドとクラウドデバイスに - 早大 丸山先生講演

パーソナル・メディアという概念は、なかなか面白いですね。ところが実は、これに近いことを、すでに20年近く前に指摘していた方がいらっしゃいました。彼の名は、細野晴臣。言うまでもなく、かのYellow Magic Orchestra (YMO)のメンバー兼プロデューサーです。

彼はその音楽家としてのキャリアをスタートさせた当初から、文化とテクノロジーについての鋭い視点を持っていたように思います。その一つの表れがYMOであったことは、言を待たないと思います。このグループは当時、音楽だけではなく、ファッション、思想などの多分野において、当時の若者の注目の的になりました(言うまでもなく、私も含めて(笑))。その彼が20年近く前に、あるインタビューで、こう言っています。「今後は、一人一レーベルの時代になる。それを後押しするのが、コンピュータだ」。彼はこの時すでに、テクノロジーがマス・メディアを崩壊させる可能性を、指摘していたわけです。

果たしてそれは、現実のものとなってしまった。実際今、CDが売れない。若者はテレビを見ない。出版不況、などなど・・・。価値観がこれでもかというまでに多様化してしまった。タブレットの出現がそれを、さらに後押ししようとしている。

さらに時代をさかのぼれば、かのジョン・ケージ。彼はマス・メディアだけではなく、権力構造をもテクノロジーが崩壊させるであろうということを、1950年代に指摘しています(『小鳥達のために』)。中東を見るまでもなく、それは今や我々が、日常的に目にしていることです。

一人一レーベルどころか、一人一放送局になりつつある。それをパーソナル・メディアの時代と呼ぶのは、言い得て妙だと私も思います(余談ですが、テクノロジーによってマス・メディアと権力が同時に崩壊しかかっているということは、それって両者は元々、同じ穴のムジナだったということなのではないでしょうか?)。

こうなるとやはり重要なのは、コンテンツですね。いかにして魅力的なコンテンツを提供するか。いやそもそも、「魅力的」って何だ？みたいな、根源的なところから考えていかなければならない。今までの価値観は、通用しないかも知れない。正に、「脳に汗をかいて」考えなければならぬ。ある意味、デジタル戦国時代。私はそんな気がしますね。

そして、語られている対象こそ違え、我々地方に住む人間には、次のような氏の指摘は、示唆的かも知れない。

「クラウドにローカルはない」――丸山先生が杜の都で復興にエール

問われるのは、アイデアです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先日、倉吉市内で行われた「食」に関するシンポジウムに参加してきました。

初参加だったのですが、一応東洋医学の専門家です、と自己紹介させていただくと、何だか事情がよくわからないうちにいきなりパネリストみたいな形になってしまって、それに便乗したわけではないのですが、僕が一方的に話しまくってしまったような形になり、反省することしきりだったりしますが(笑)。

しかしやはり、時代の流れを感じますね。私が師匠について自然食や東洋医学の勉強を始めた15年位前ですと、そんなことを他人にうかつに話せば、即座にカルト扱いされましたからね。実際私はそれで、友人を多く失いましたが(笑)。でもやはり震災以降、自然とテクノロジーとの関わり方を、誰もが嫌でも見直さざるを得なくなった。その端的な例が、この食の問題ともいえるのではないか、と思います。

本当にこの食べ物、食べて大丈夫なんだろうな、そんな疑問は、誰も持たなかった。そのような幸福な時は、今正に過去のものになろうとしている。ギョーザ事件とかも確かにありましたけれども、今はそれとは、完全に異質ですからね(安全なレベルになるまで数万年とか、気の遠くなるような話です・・・)。そのような時代に突入してしまった我々には、正しい知識を持って、自分自身で身を守るべく努力する他はない。

でもある意味、これは正しいことなのかも知れないですね。「安全です」とっているのは、政府だけ。その政府も、かつては親方日の丸とかいわれていたけれども、どこまで信用していいのやら・・・。そうなると否が応でも、自助努力するしかない。

問われているのは、私達自身の独立心そのものなのかも知れないですね。

もう一つ興味深かったのは、例えばこういうイベントが開催されたとして、じゃあ早速実行してみようみたいな話になった時、簡単に実行できる、というのが、田舎の醍醐味ですね。翌朝近所のおじさんの畑に集合、みたいな。都市部ではそれは、かなり難しいのではないかと。千駄ヶ谷ではあり得なかったですね(笑)。

そういう、そこにしかないような特性を掘り出してクローズアップしていくことが出来れば、田舎といわれていた地域が、突然魅力あふれる場所に変化するのではないか。そういうメタモルフォーゼは、とても素晴らしいと思いますね。いやいや、なかなか面白いイベントでした。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今回はいよいよ核心、『調心』について、論を進めたいと思います。一般的な東洋思想の書物によればこのカテゴリには**精神集中**と**瞑想**の二つがあり、普通前者から解説を進めるのですが、ここではあえて逆に、抽象度の高い後者から始めたいと思います。

さて『調心』について、「核心」と申し上げたのは、他でもありません。これが一番難しく感じられるからですね。何となれば、効果が見えにくいからです。『調体』は型ですから、わかりやすい。『調息』も呼吸ですので、まだヴィジブルです。しかし言うまでもなく、心はそうではない。

従って、良かれと思ってやっていることが、実は逆効果だったりということが、どうしても生じてきます。いわゆる「魔境」あるいは「偏差」というものですね。現代的に言えば、妄想が生じやすい。しかもそれが妄想なのかどうなのかがこれまた見えないものですから、やっかいです。

ですから、『調体』、『調息』に関してはご自分で独習ということもある程度可能なのですが、こと『調心』に関しては、熟達した方に、リアルタイムで指導を受けた方が良いかも知れません。

しかし、この「熟達」というのも、これまた見えにくい要素でもあり、それを見誤ると、これまた問題を生じる。

具体的に考えられる問題としては、以下のようなケースが考えられると思います。例えば、ひどいストレス状態に長期間置かれて、心身のバランスを崩しがちになった。明らかに自分でもヤバイ、と思ったので、対策を講じることにした。しかし心療内科だとか精神科に行くのは、勇気がある。そこで昔からストレスにはヨガや気功が良いということなので、それらを試すことにした。

ただし、問題なのはその次です。こうして教室を訪ねて、気持ちを落ち着かせるのに最適といわれるメディテーションのやり方を、教えてもらった。なるほど、やっているうちに何やら光のようなものが見える。これは効果がありそうだ、ということでそれを続けているうちに、電車の中にいる人の考えていることが手に取るようにわかるようになってきた。しまいにはそれが声となって聞こえてくるようになった！これはマズイ、練習が足りないのではないかと、思って、そのトレーニングをさらに一生懸命にやるようになった。そうしたら落ち着くどころか、しまいには、他人には見えない人の姿まで見えるようになった……。これは特殊なケースではなく、割と

起こり得ることで、私自身そういう方のご相談を、よく受けます。それではこのケースの、どこに問題があるのでしょうか？

考えられるのは、この**教えてもらったメディテーション(meditation)**というのが、実は、**コンセントレーション(concentration)**だった、ということです。

このコンセントレーション／メディテーションの違いは、実用上、とても重要だと思います。前者は、「精神集中」、後者は「瞑想」と訳されます。昔の天台宗などのオーソドックスな流派ですと、「止観」という言い方をして、私はこの言葉の方がイメージがつかみやすいので好きなのですが、実は、両者を混同して理解していらっしゃる方が、極めて多いのです。残念ながら教室を開いているような方の中にも、そういう方が多い。そういう方はご自分が師匠より教えてもらった指導内容を、そのままそのお弟子さんに伝えようとしている場合が多いのですが、人間は千差万別で、教えられた通りのことがそのままその他の人に適応可能かどうかは、十分な検証が必要です。そのプロセスを案外失念されている方が多いのですが、その最たるケースが、この両者の混同だと思います。

つまりここでの問題は、こういうことです。この方の場合、あまりにも鋭敏な感覚をされているがために、他人の行動あるいは言動が自分に与える影響に過剰に敏感になってしまい、それがストレスとなって現れていたわけです。そのような方にコンセントレーションをお教えすると、どうなるでしょうか？当然その方はますます感覚が研ぎ澄まされてしまい、それに伴ってそのような過剰反応が、ますますひどくなる可能性があります。それが先に挙げた例のような状況を引き起こすわけです。それは、ラジオをあるチャンネルに合わせたら気に入らない音楽が流れてきたので、何とかしようとしてボリュームを上げるようなものです。ますますそれがあなたを煩わせることは、自明の理です。

このような場合の一番簡単な対処法は言うまでもなく、チューニングを変えることです。これが、メディテーションのわかりやすい例だと思います。

先ほど私は、「精神集中／瞑想」という言葉よりも、「止観」の方がイメージがつかみやすい、と申し上げましたが、それはそういう意味です。「止(=精神集中)」では、心を一点に集中させて動かさないトレーニングをします。しかし問題は、そうやって培われた集中力が、良くない方向に向かった時ですね。見たくもないのに見えてしまう、聞きたくもないのに聞こえてしまう、それを遠ざけようとすればするほど、余計に見えたり聞こえたりしてしまう、みたいな。その状態が長いこと続けば、精神に異常をきたしてしまいます。この方に必要なのは、「観(=瞑想)」の方です。

そのポイントは、ただ「観る」ことにあります。「止」の反対ですね。かといってそれは、単純

に「集中しない」ということではありません。そうではなく、他のチューニングを試すこと、そのために、チューナーのノブを自在に回すことですね。そうやって、他にもたくさんのチャンネルがあるということが理解できていて、このチャンネルでなくても他のチャンネル聴きゃいいや、という選択肢が取れば、驚いてパニックになったりすることはありません(余談ですが、このことはいわゆる心霊現象でも同じです。怖がったり逃げようとすれば、状況は悪化します。なぜか？そんなことをしても、チューニングが相変わらずそちらに向いているのに、変わりはないからですね)。

ですから、コンセントレーション／メディテーションも、TPO、あるいはその方の特性に合わせた柔軟な指導が必要になります。カスタマイズが必要なわけですね。常時ぽーっとしてしまって、文字通り集中力がない、とおっしゃる方には、精神集中のトレーニングは有効だと思います。しかしその逆で、やたらと他人の行動が気にかかる、みたいな方には、精神集中のトレーニングはお勧めできないですね。状況が悪化する可能性がありますから。ただし、そういう特殊知覚能力を身につけたいのだ、という方には有効でしょうが(余談ですが、NLP(神経言語プログラミング)の提唱者の一人リチャード・バンドラーは、その著書『神経言語プログラミング』の中で、過去に受けたトラウマの状況を細部にいたるまで克明に記憶している人が、自分は記憶力がないといって記憶力増強のトレーニングを受けたりするのだから、人間とは奇妙なものだ、と述べているくだりがありますが、正にその通りだと思いますね。実際私がコンセントレーションとメディテーションの区別について考える契機となったのは、この箇所を読んだからでした)。

しかしながらあまり実地の指導の重要性を言い過ぎると、このシリーズの意味がなくなるわけですね(笑)、この場ではある程度独習せざるを得ない皆様の、便宜を図る必要がある。精神集中に関しては、様々な本に様々な有効なやり方が書かれていますのでそちらをご参照いただくとして、それでは「観＝瞑想」のやり方としてどのような方法が有効なのか、と問われれば、私のこれまでの経験から言わせていただくと、最も有効なのは、「**雑念を利用すること**」だと思います。これが最もパワフルです。

ここでもう一つ述べさせていただきますと、「無念無想」という言葉があって、その言葉通り、瞑想中は何も考えてはいけない、雑念は追い払うべきものだ、と考えていらっしゃる方が多いのですが、それは**誤解**です。実際それは湧き水に蓋をして、その流れを止めようとするもので、それは脳が働いている限り、不可能でもあります。むしろ今までの論点から申し上げれば、重要なのは、それをただ何となく眺め続けることです。映画のように。これが「観法」のテクニックの一つです。

そんなことをして何の効果があるのか？それには、二つ答えがあると思います。一つは、**脳のデフラグ**。「デフラグ」とは、皆さんがお使いのコンピュータでやるところのメンテナンスの一つで、いわばハードディスク内のファイルの整理整頓ですね。結果として、ハードディスクの読

み込み速度を向上させることが出来るわけですが、私は観法の効果がまさにこれと同じだと思います。雑念を眺めるということは、メモリ上にハードディスク内の情報を一旦取り出した上で、再配置しているのと同じです。畢竟、もしその情報が欲しいと思った時には、それをしていない状態に比べて、格段のスピードでそれを取り出すことが出来るわけです。「頭が柔らかい」とは、こういう状態だと思います。

そしてもう一つの効果。それは、**感情と行動の分離**です。先ほど申しあげました通り、雑念を眺めるのは、映画を眺めるのと同じです。映画を見てあなたは、笑ったり怒ったり泣いたりします。しかし映画は映画。終わればそれが、単なる映像がもたらす幻想だったと知ります。そのようなトレーニングを続けると、一体どうなるか。しまいには、現実生活自体が映画のように見えてきます。それに対して、極端な感情の起伏を抱いたりすることは、なくなります。極端な話、いかなる状況においても(もちろんその程度がいかほどかによって、その人の「修行」がどの程度進んでいるかを判定することが出来るのかも知れませんが)、心が全く動かなくなります。これを「不動心」と呼んだり、あるいは「悟り」と呼んでも、私は全く問題ないと思います。だからといって、全く感情のないロボットのようにになるわけではない。逆に、幻想なんだからむしろ楽しんじゃえ、といったように、それをポジティブに利用できるようになります(軽いノリで書いていますけれども、これが正に、大乘仏教と小乗仏教との考え方の違いにもなります)。

別の例を挙げましょう。「今日言いたいことは明日言え」という言い方があります。この言葉から連想できることといえば、普通の人今日言いたいことを今日言ってしまいがちだ、ということですね。つまりこの人は、感情と行動が直結してしまっているわけです。そのようなパターンが問題を起こしがちであるということは、想像に難くない。では「明日言う」ということはどういうことか？一晩その感情を「寝かす」ことで、その人は激情的に行動するのとは違った、冷静な行動が取れます。それを日常生活全体に、広げるようなものです。

古来から多くの人が目指してきた心の状態とは、こういうことではないのでしょうか？

さて、今回はいきなり抽象度(難易度)の高い「観法」についてお話ししました。その具体的なやり方の一つとしては、リラックスした状態で、ご自分の雑念を眺め続けること。これだけです。TPOは問いません。これだけ故に、実感が沸きにくいかも知れないですね。これに関しては、個々人でお試しいただく他ありません。まあ騙されたと思って、一ヶ月程度お試しになって下さい。間違いなく、環境が激変します。しかし、後戻りは出来ませんので、覚悟してやってみて下さい。映画『マトリックス』のように。

次回は精神集中の方法について、実用的な観点から論じてみたいと思います。

日本語教室ボランティア募集！

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

鳥取県国際交流財団倉吉事務所では、日本語教室のボランティアさんを募集しています。

技能は問いません。外国からの皆さんと共に、楽しく教室を盛り立てていきましょう。

今日から毎週水曜日、午後1時半からスタートです。皆様のご参加お待ちしております！

・・・と広報までお手伝いしてみる。(・∀・)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今回は、『調息』に関して、議論を進めたいと思います。

『調息』というよりは、呼吸法という方が通りが良いかも知れませんね。わかりやすいですし。実際書店に行けば、スピ系(レトロな言葉で言えば、精神世界系(笑))に限らず、健康法コーナーでも、呼吸法に関する本が、わんさかあります。しかしここでも、多くの方が混乱されるかも知れませんね。どれを選んだらいいんだろう、みたいな。

では実際、私のところでは、呼吸法に関してはどのような指導をさせていただいているのでしょうか。はっきり申し上げて、**何もしていません**。つまり、特定の呼吸法に関しては、何も申し上げておりません。

これは、私だけのやり方ではありません。実際横浜の師匠のところでも、ほぼ同じだと思います(昔と同じであれば、の話ですが)。その理由は師匠に言わせれば、初めての方に呼吸法を指導すると、そちらの方に意識が取られてしまって、リラックスの妨げになる、ということで、私もそうだと思います。繰り返しになりますが、**重要なのはリラックスの方です**。それが土台ですから。数秒で吸って数秒で吐いて、みたいなのは、雑念以外の何者でもない(笑)。ですので基本的に、自然な呼吸で十分、ということで、私のところでもそうご指導させていただいております。それにぶっちゃけ、大して効果に差はないですからね。もちろん、リラックスが出来ていれば、の話ですが。

ただそれだけでは話が續かないので(笑)、ここで以前より気になっていたことについて、一言触れておきたいと思います。

それはいわゆる、「**逆腹式呼吸**」です。

この言葉も、ご存知の方はご存知かも知れませんね。簡単に解説をしておきますと、普通の腹式呼吸というのは、吸気に従って、お腹が膨らむ呼吸法です。逆腹式呼吸というのは文字通りその逆で、吸気に従って、お腹を意図的に引っ込めるやり方です。

なぜこんな不自然な呼吸をする必要があるのか？ここが問題です。しかし私の見たところ、この単純な問いに正確に答えている文献は、残念ながら目にしたことがございません。もちろん私が読んだ多くの本に、「逆腹式呼吸は効果がある」、とは書いてあります。しかし、「何の」効果なのでしょうか。それが全く書かれていなかったのです。そうすると仕方がないので、自分で確

かめるしかない。そんなわけで初学者の頃、自分なりに実験してみると、やっているうちに汗が出てきます。そういう意味では、何らかの反応がありました。しかし、この汗はなぜ出てくるのか？それがわかりませんでした。

その自分なりの回答を得るのに、数年かかりました。それから考えるとこの呼吸法は、極めてよく出来た呼吸法であることがわかりました。

実はこの呼吸法は、**内臓を圧縮して締め上げることの出来る、ほぼ唯一の呼吸法**なのですね。例えばこれを、先の自然呼吸と比べてみましょう。吸気と共にお腹が出るのは、横隔膜が下がり、それがその下にある内臓を圧迫して、それが前に押し出されるからです。

実はこれだけでも十分効果があります。**内臓が動かないのに比べれば**、です。現代人は呼吸が浅い、とよく言われます。しかしそれは実は、単に肺活量の問題ではありません。むしろそれは、些細な問題かもしれない。問題なのは、**横隔膜が運動しないことで、それに伴った内臓の運動なんぞ望むべくもない**、という状態にあります。(蠕動運動などの自発的なものを除いて)内臓は全く動かないのです。それがどういう結果をもたらすかは、想像に難くありません。まあ単純なところでは便秘、恐ろしいところでは内臓の血液循環不全による様々な疾患ですね。このカテゴリにはガンとかも十分含まれるんじゃないでしょうかね。例えば、心臓はガンにならない臓器ですね。その理由は、常に運動しているからです。しなければ死にますから(笑)。ですから、運動することがガンを予防する有効な方策だ、という視点から、この例は良く出されますね。その逆を考えればいい。**全く運動しない内臓。そこへ持ってきて暴飲暴食の上に慢性的な血行不良。それでガンよ出来るなと望む方が、無理があるような気がしますね**。だとすればやはり、内臓は動かさなければならぬ。

その観点から、逆腹式呼吸法を考えてみましょう。吸気に従って、横隔膜が下がっていきます。自然呼吸に従って何も手を加えないままだと、内臓はお腹から外へ出て行こうとします。これだけでも、何もしないよりはましです。ではそこで逆に、お腹を引っ込めてみましょう。すると、上からは横隔膜による圧迫、身体前部からは腹筋による圧迫により、**内臓は圧縮されます**。その後リリースすることで、内臓も圧縮から解放されます。内臓には新しい新鮮な血液と組織液を送り込むことが出来ます。ふきんを絞るのと、全く同じです。逆腹式呼吸を生理学的に解説しようと思えば、このような解説が可能だと思います。

さらにこの論法で考えると、この技法をより発展させることが出来ます。要は、**内臓を圧縮させること**なのです。だとすればそれを十分に達成するためにも、息を吸いきったところで一旦止めるのは、よいアイデアですね。要するに、ヨガでいうクンバクです。数秒で十分です。さらには吸気の際には、会陰部を締め上げるのも、良いと思います。そうすることで、下からも内臓を圧縮することが可能ですからね。これと同じやり方が、かの本山博先生の本にも書かれていまし

たね(ただ残念なのはこの部分で、クンダリニとチャクラを結合させる、みたいな解説がしてあったので、そこら辺が若干読者を選んでしまうかな、という感じなのですが)。

というわけで、この逆腹式呼吸をトレーニングの前に試すのは、悪くないと思います。10回程度でも十分ではないでしょうか。それ以上やりすぎると、のぼせますから。お風呂に入った時と同じです(笑)。うちの師匠は意識の持ち方としては、吸う時だけ意識的にやって(へそから空気が入っていくイメージで、と言っていましたね)、吐く時はただリラックス、と言っていましたけれども、これも良いアイデアですね。常時意識的にやる必要は、私もないと思います。

実はこのやり方で、大いに助けられたことがあります。数ヶ月前私は、嫁の里帰りに合わせてインドネシアに行ったのですが、そこで食中毒を起こしました。古い油に当てられまして(笑)。深夜突然始まった、恐ろしいほどの悪寒と吐き気。これはヤバイ、と思ったので、胃の中にあるものは指を突っ込んで、強制的に吐き出しました。しかし時すでに遅し。それに続く激しい下痢と高熱。さすがに嫁もビビっていました。しかし私は、冷静になって考えました。どうやら胃の中は何とか空っぽになったが、小腸に入り込んだやつがあるな、恐らくこいつを引きずり出さないことには、下痢も高熱も収まらないだろう、と考えて、対策を講じることにしました。点穴ではソフトすぎるな、と思ったので(何せしんどいですからね。早くこの状態を脱したいと思うのは人情(笑))、逆腹式呼吸を試すことにしました。しかも強力に。あまり美しい話ではありませんが、やればやるほどお腹がポンプのような唸り声を上げて、腸にたまったものが見る見る排出されていきます。すると一気に楽になり、熱も下がりました。頭はまだクラクラしていましたが、何とか次の日の飛行機に間に合って、無事に(では全然なかったですけども)帰国することが出来ました。まあ普通のパターンでは、強制入院ですね(余談ですが、ああいう場合には下痢止めは厳禁らしいです。排泄されるべきものが下痢が止まることで体内に残留してしまいますからね。ご注意ください)。まあこれは極端な例かも知れませんが、そのコンセプトはご理解いただけるのではないかと、思います。

まとめますと、『調息』に関しては、**自然呼吸で十分**です。もしそれに変化をつけたいのであれば、**逆腹式呼吸**を。この二つで、十分に用は足せると思います。

次回は、『調心』についてお話しします。

6月16日土曜日、倉吉市内の小鴨神社において、奉納演奏を行います。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

来る6月16日土曜日午後7時より、倉吉市内にあります小鴨神社におきまして、奉納演奏を行います。

こちらの神社では昨年二回演奏させていただきましたので、正味三回目ですね。前二回は市内のStudio Mad Mouseさんの主催でしたが、今回は完全に、私単独のイベントです。

スタイルとしては、去年も少しやりましたが、神社のど真ん中にコンピュータを設置してCGを投影しつつ、サウンドを環境音とリアルタイムにミックスして、神社全体を音響彫刻=インスタレーション化する、といった感じでしょうか。まあ空間芸術ですね。空間芸術と言えばシュトックハウゼン先生で、先生がかの大阪万博のドイツ・パビリオンで演奏していらっしゃる写真を見たことがありますけれども、あんな感じで。この界限では誰もそんなことをする人間はいないので、仕方なく(笑)私がすることにしました。

神主さんにもご快諾いただきまして、演奏前は祝詞を上げて下さるそうです。いやー、はまり過ぎです。神主さん、いつも本当に、有難うございます。ええ、神様に喜んでいただけるよう、**チル・アウト**を乗り越えて、**どスピリチュアル**なライブ・イベントにしようと思っています。

願わくは、神様に捧げる奉納演奏という趣旨もそうですけれども、この界限の有能な若手アーティストの交流の場になれば良いな、と思っています。最近そういう出会いが多いものですから。いや実際その方が、神様に喜んでいただけるような気がしたりして。鳥取って、面白いですよ。**案外**。

そんなわけで、詳細は今後詰めていきます。宜しく願いいたします。

気功法の裏技集その2～『調体(調身)』について

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先だってからこの新しいシリーズ『気功法の裏技集』をスタートさせたのですが、意外にも反響が大きく、本人も驚いているところです。こんな奇人変人のブログでも、読んで下さる方いらっしゃったのね、みたいな。基本的に自信のない小心者ですから(笑)。でも皆様のお声に勇気付けられつつ、進めていこうと思います。今後とも宜しくお願い申し上げます。m(_ _)m

さて、前回少し前置きしておきました通り、今回から更に突っ込んだ議論をしていきたいと思います。具体的には、『調体・調息・調心』の中身ですね。というわけで今回は、『調体』に触れてみたいと思います。

ここで前回の復習ですが、気功法の基本は、あくまで「リラックス(放鬆)」です。これ以上でも、以下でもありません。これが全ての出発点になります。そしてそれが達成できているかどうかは、どうやったらわかるか。リラックスが出来ていれば、全身の筋肉や血管が開放されるので、体のすみずみにまで血液が行き渡ります。そうすると各細胞が活性化しますので、その際熱を発生します。それは意識によって容易に知覚出来ます。前回にご紹介した図式を繰り返しますと、

リラックスする→血液が効率的に流れる→細胞が活性化する→体が温かくなる

このプロセスは、普遍です。逆に言えば、熱が知覚出来なければ、その行法は効果を生じていない可能性がありますので、ちょっと疑ってみるのも、悪くないかも知れません(このように、疑ってかかるというのは、極めて科学的な態度だと思いますね)。

その点から、『調体』を考えてみましょう。一番わかりやすい例は、太極樁の姿勢だと思います。一見してこの姿勢、変です。まず普通の人間の立ち方ではありません。何でこんな立ち方なんだ？私もそう思った人間の一人でした。不思議に思って文献を調べてみると、いろんなことが書いてあります。しかし、どの説明も納得できないものばかりでした。例えば、この立ち方が経絡の流れを云々、と書いてある。しかし初学者の私には、経絡自体理解出来なかった(より正確に言えば、「知覚出来なかった」)ので、この説明もあまり当てにはなりませんでした。

しかし練功を続けるにつれ、だんだんと、気功において重要なのは、「リラクゼーション」なのではないか、と思い始めてきた。さすがの疑り深い私でも(笑)。そしてそれと共に、全身に血液を効率的に送ることが、気功法の鍵ではないか、と思い始めてきた。その点から太極樁の姿勢を考えると、この姿勢が極めて計算されて作られていることがわかった。てか、この姿勢しかありえないじゃん、みたいな(笑)。

実はこの姿勢のポイントは、各関節を「半曲げ」状態にすることにあります。例えばひじ。ひじは曲げるでもなく、伸ばすのでもありません。「半曲げ」にするのです。なぜか？ご自分でやってみて下さい。その方が、上腕筋・前腕筋とも、緊張しないはずで。逆に、しっかり曲げたり、その反対でしっかり伸ばしたりすると、いずれの場合も腕のいずれかの筋肉が、緊張するはずで。

しかしここでは、そのような解剖学的な分析だけで満足してはいけません。それを体感しなければ意味がない。試しにその「半曲げ」の状態で、しばらくじっとして見て下さい。腕が温かくなってきませんか？その原理は、説明するまでもありませんね。筋肉が緩んだので、血管に血液が通りやすくなったのです。そのため関係する部位が、温かくなったのですね。

それを更に広げていきましょう。手首の関節も、「半曲げ」にしましょう。指の関節も、「半曲げ」にしましょう。全部です。さらには、わきの下(烏口腕筋付近)も「半曲げ」にしましょう。結果的にそこに現れるのは、太極樁の腕の形です。それではそのコンセプトで、全身の各関節を、「半曲げ」にしてみましょう。そこに現れるのが、太極樁の形です。

昔の人は、このことを、経験的に知っていたのでしょうか。では「経験的」とはどういう意味か？「気が通っているのが経験的にわかっている」、ということですね。では「気が通っているのが経験的にわかっている」とはどういうことか？それは「手足の先まで、全身が温かくなっている」ということですね。

以上の発想を、ご自分の練功に応用してみてください。坐功を例に取りますと、極端な結跏趺坐ですとか半跏趺坐は、血液の流れを滞らせるだけですので、避けた方が無難だと思います(もともとこの形は、手足の長いインド人が作り上げたもので、手足の短い日本人には適していません)。あぐら坐で十分です。そのあぐら坐を取る際にも、各関節の「半曲げ」を維持するように、ご自分で工夫してみてください。しばらくすると全身が温かくなってくるはずです。これが「気功状態」です。その際、複雑な型ですとか小難しい呼吸法ですとか精神集中ですとかは、全く必要ありません。自動的にこの状態が現出します(そういう意味では、このように静功から練習される方が、私はベターだと思います。私は指導の際は、そのようにしています)。

ここで補足させていただきますと、この「ご自分で」というのも、重要だと思います。というのは、人間の体というものは、もちろん基本形はありますがけれども(手が二本とか足が二本とか)、細部に関しては、十人十色です。例えば、筋肉ムキムキの体育会系の人物と、私のような吹けば飛ぶような骨と皮の貧弱な人物とでは、筋肉や血管の構造ひいては血液の流れに差異があることは、十分に考えられると思います。ですから気功の型も、ご自分の体質に合わせてご自分で工夫されるのは、悪くないと思います。具体的にいいますと、私の場合ですが、太極樁の姿勢を取

る時に、教室で教えられるような腹部の前にボールを持つ姿勢だと、どうも「イマイチ」なのですね。その代わりにちょっとその手を高めにすると(パッと見、意拳という拳法で行われる站樁功の形に近くなるのですが)、「いい感じ」になります。このように、「ご自分で」「いい感じ」を探するという態度は、とても良いことだと思いますね。

繰り返しになりますが、この論法で練功される際は、複雑なことをされる必要はないと思います。複雑なものだと、重要なファクターとは何か、がわからなくなりますからね。站樁功や坐功で、十分です。必要なのは、感覚です。「いい感じ」を探すこと。そのバロメータは、熱感です。それが立ち現れるように、各関節を「半曲げ」状態にしつつ「ご自分で」カスタマイズすること。『調体』に必要な基礎は、これで十分マスターできると思います。

次回は、呼吸法などの『調息』に関して、議論いたします。

気功(あるいはヨガ)のトレーニングで一番重要なこととは、何でしょうか？

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

気功(あるいはヨガ)のトレーニングにおいて、一番重要なこととは何でしょうか？

例えば、皆さんが書店で気功関係の本をお求めになると、その冒頭に必ず書かれている言葉があります。それは、『調体(あるいは調身)・調息・調心』です。言うまでもないことかも知れませんが、一つ目は「体の調整(型など)」、二つ目は「呼吸の調整(呼吸法など)」、三つ目は「心の調整(精神集中など)」ですね。

しかしだからといって、はあそうですか、とばかりにこの三つが、問題なく即座に実現できる人がおられたら、その方は呂洞賓です。このブログなんぞ、はなから必要ありませんので、お気兼ねなく白日昇天して下さい。しかし私達のような素人は、そうではない。何かしらの取っ掛かりが必要です。

ここで各書物によって、見解が分かります。ある本は姿勢にターゲットを当てるし、ある本は呼吸法にターゲットを当てる。ある本はイメージ・トレーニングにターゲットを当てる。そのため読者は、混乱することになる。一体どの本が言っていることが正しいのだ？そして自分なりにいくつか試してみて、「大して目立った効果」が現れないので、結局諦めてしまう(実は、この「大して目立った効果」というのも曲者なのですが、それは後に触れます)。かく言う私もそうでした。ただし、私は諦めませんでした。強情なので(笑)。諦めるかわりに一つ一つのファクターを個別に解析し、検討を加えました。

余談かも知れませんが、ここら辺で、東洋と西洋の考え方の違いが、如実に現れますね。つまり前者では「全体主義」(言うまでもなく"ファシズム"のことではなく、物事を大局的な視点から全体的に捉える思考形態のことですね)の結果、時としてあらゆる要素がごちゃに議論されがちです。しかしその論法は、西洋的な要素還元論的な思考(物事を分解して検討するやり方ですね)に慣れてしまった我々現代人には、ちょっと受け入れがたい部分もある。「座っていれば、悟りは開ける」、「走り込めば、県大会に出られる」みたいな。体育会系の思考と言うか。そういうのは私は苦手なので(笑)。疑り深い私は、取り敢えずここで、要素還元論的な思考に従って、考えてみました。その結果、次のようなことに気づきました。

ここに欠けているのは、基準点です。つまり、ある点を基準にして、『調体・調息・調心』というファクターを導入した時に、身体がどう変わるか。ここに変化が生じるので、その変化が現れる前と後とを(いわゆる「ビフォア・アフター」)比較検討できるわけですが、その変化が知覚出来なければ、それは見かけ上、何も効果が生まれていないことになります。「知覚とは、微妙な差

異に気づくことである」とポール・シーリィも言っていますが、それは正しいことなのです。

もう少しわかりやすい言い方をしますと、この三つのファクターは、三脚の脚のようなものです。しかしここには、それを立てるべき「地面」がないのです。文字通り、「土台」ですね。それがなければ三脚も、宙に浮くしかない。ではその「土台」とは、一体何か？

それは、リラックスです。

インチキだとか疑似科学だとかトンデモ系とか言われて日本医師会やら物理学会の諸先生方に毛虫の如く忌み嫌われる気功ですが、そんな権威ある彼らにご理解いただけるように一介のゲス気功家が気功の解説を試みるとすると、それはぶっちゃけ、「全身を余分な緊張状態から開放することで各組織への血液・組織液の循環を改善し、その各組織の活性化を図ることで健康状態を回復しようとする技法」とまあこんな感じになるのではないかと思います。ここにあまり論理的な飛躍はないような気がします(ともかく『気功』という二文字を見ただけでヘドが出るとおっしゃるオエラ方には、この提案さえ聞いていただけないでしょうけれども。同じ部屋にいと伝染性の痴性に移る、みたいな。あ、実際そういう扱いされることよくありますよ。とにかくこの手の自然療法家は、アンタッチャブルな存在ですからね。本当にこの道に進んで、心底後悔しています(笑))。

これを検証しようと思えば、次のような実験が最も効果的です。ロープを持ってきて、ご自分の頸動脈に血液が流れないように、首をぐるぐる巻きにすれば良いのです。結果はすぐに、おわかりになると思います(因みに当ブログは、自殺奨励サイトではございませんので、警察へのご通報は、ご遠慮申し上げます)。言うまでもなくこの現象は、脳に血液が行かないことから生じます。つまり人体の各組織の活性には、血液は欠くべからざる存在なのです。当たり前の話です。だとすれば、各組織にますます血液を送ってあげれば、各組織はますます活性化するはずで、これが気功法の自然な解説であり、それ以上でも以下でもないと思います(ここで、その程度はいかほどか、という次なる問題も生じるでしょうけれども、それは細胞生理学などの学術的なお話になり、日々の健康を維持・管理する(あるいは、潜在的な能力を活性化する)という実用的な問題においては大したことはないのです、ここでは深く掘り下げません)。

また、それが達成された時は、細胞は十分な血液を受け取って活性化を果たしているので、その際熱を発します。要するに細胞の活性化の度合いは、熱によって知覚し得ます。気功やヨガをすれば、全身が温くなるというのは、こういうメカニズムです。逆に言えば、体が温かくなならない練習は、ほぼ効果を生じていないと思って、間違いないと思います。神が見えたとか言い出すのは、論外(笑)(これまた余談かも知れませんが、ヨガをやっているとおっしゃる方で、冷え性だ、とおっしゃる方を見かけます。先に申し上げた点からすれば、これはあり得ないことですね。ヨガはストレッチ体操ではないのです)。まとめますと、リラックスする→血液が効率的に

流れる→細胞が活性化する→体が温かくなる、そういうことです。

そのリラックスという点から『調体・調息・調心』を考えると、展望が開けてきます。要は、余分な緊張を解除しなくてはならないのです。そのための『調体・調息・調心』です。もしご自分でお持ちの気功関係の本で独習してみようと思われる方は、まずはこの「リラックス」(放鬆)を念頭において、されてみて下さい。

この点を踏まえつつ、次回からは、この三つのファクターを、掘り下げていきたいと思います。

What's the most important factor in Qigong or Yoga training ?

For example, if you go to book stores to buy books about them, you can easily find out these words: posture, breath, and concentration/meditation. But if you can understand them without difficulties, you're totally experts just like the saints on the legends. You don't have to read this blog (smile). But we're just beginners, so we need more information.

But even though all of these books agree that these 3 factors are important, after that they apply different ways. One book says postures are most important, another says breath training is, and another says concentration is ... So we're easily confused. Which one is correct ? So after you try several trainings according to their suggestions, strangely there's no remarkable effect, finally you might give up (this "remarkable effect" is another important factor but I'll discuss this later). So did I. But I didn't give up because I'm stubborn (smile). So in spite of doing that, I split every factors and checked them one by one.

This kind of attitude might be a marked difference between eastern and western cultures. In the former one, because of the "Holism" point of view, sometimes we discuss every factors interlacedly. But such a kind of way of thinking sometimes makes us more confused. "If you can sit in the cold temple without thinking, you can get "Satori" or enlightenment". That's impossible because it's just like driving a car without knowing how to drive (smile). So I chose "Reductionism" way and finally I noticed one thing.

The lacking factor of these kinds of statement is "measure". We should check the effects of postures, breathing, concentration/meditation with certain measure. Without that, we cannot compare each conclusion correctly (it may be just like "before/after" comparing). So it means the process produces nothing in appearance. Paul Sheele said, "perception is to notice some differences" and it's totally true.

In short, these three factors are just like the legs of tripod. But here there's no "ground" where the tripod stands. It can be called "base" too. If it doesn't exist, the tripod will fall on the ground. So what's the ground or base ?

It's relaxation.

Many "authorized" persons just like doctors or scientists always blame Qigong or other eastern

medicines are just nonsense. But If I try to explain it as one of the Qigong healer and trainer, it may be like this : It's the way in which we can release our unnecessary tension in our bodies and minds to achieve the improvement of blood circulation that makes the parts of our bodies get more blood to recover their healthy condition. Maybe it's not so much "cultic" explanation, isn't it ? (smile)

If you hope to prove this, it's so easy. You can take a rope and tight your neck strongly for the blood not to flow into your brain. You can easily realize the conclusion (smile). Needless to say, it's just because brain cannot get blood. Just like this, every parts of our bodies need blood for their normal working. So it means, the more they can get blood, the more they work effectively. This is the easiest and most natural explanation of Qigong. That's it (Here I wouldn't discuss how much blood can make them work "fully" or 100 % because it's not big deal in the practical meaning. The important thing is that whether they can get blood effectively or not).

And when it has been achieved, the parts of your bodies produce heat because they become activated because of a lot of blood. In this meaning, you can guess how much the parts of your bodies being activated with the help of the heat. That's why everybody say you can feel hot when you succeed the Qigong or Yoga training correctly. On the contrary, if you can feel anything in these kinds of trainings, you can doubt whether it's effective or not (or suitable for you or not). For example, I sometimes meet persons who trains Qigong or Yoga but, at the same time, complains their bodies always cold. From this point of view, it's impossible so they should ask themselves whether what they're doing is effective or not. Qigong and Yoga aren't just stretching exercise. To sum up, the important thing is like this,

Achieve relaxation → blood flows effectively through your entire body → the parts of your bodies (or cells) being activated → You can feel heat

If you can check these three factors just like postures, breathing, concentration/meditation from the point of relaxation, maybe you can get "key". The important thing is to release your tension and achieve relaxation. These 3 elements are just the tools to achieve it. If you hope to train Qigong or Yoga by yourself through books, I hope you to achieve "relaxation".

So next time I'll investigate these 3 factors one by one.

DM出来ました ～ 『集気鏡展』 at ギャラリー銀座一丁目

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先だっでご案内した、4月5日(木)から10日(火)まで、東京のギャラリー銀座一丁目で開催されます『集気鏡展』のDMが出来ましたので、再度ご案内させていただきます。

懐かしい方々のお名前も、拝見いたします。今回はお目にかかれないので、残念ではありますが。デザインもユニークですね。参加される陶芸家の伊藤さんによると、参加者それぞれの生年月日から五行を割り出し、それを五行図に組み込んだそうです。ナイスなアイデアですね。因みに私は、水と木の間です。ええ、水と木は、私の中では重要なファクターですからね。この五行図を見て、なるほどと思わされることは、たくさんあります。

願わくば私の楽曲が、彼らの作品にマッチいたしますことを……。経過がわかりましたら、またこちらでもご報告させていただきたいと思います。

というわけでお近くの方、是非一度ご来場下さい。

[『集気鏡展』 at ギャラリー銀座一丁目](#)

集気鏡展 at ギャラリー銀座一丁目(1)

集気鏡展 at ギャラリー銀座一丁目(2)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

気がついたら、ブログのタイトルには「気功家」とあるのに、気功については昨年の8月以来、全く触れていない。うーん、ある意味非常識。

でも気功に関する活動を、全く停止していたわけではありません。てか、事実はその真逆ですね。私はいろんな行法を自分で作ったり、ミックスしたりするのが好きなのですが(ええ、DJです(笑))、その成果を逐一ご報告するのは、物理的に無理なものでして。

実際いくつかの出版関係の方より、「本を出版されないんですか？あれだけの情報量なら、絶対売れるでしょう？」というオファーも受けたりもします。因みに最近流行の、素人を狙った出版ビジネスの方ではないですよ(『自分史』を出版しないですか、と持ちかけて、数百万ふんだくるという奴ですね(笑))。でも、あまりそういう気にはなれないのですね。それは、近年の出版不況ですとか、人々の活字離れが著しいから、という理由ではありません。もっと根本的な理由です。

というのは先ほど申し上げましたように、私が調べた、あるいは経験した気功に関する情報は、刻々と変化していますので、それを一旦活字にしてしまうと、どうしてもタイムラグが生じるからです。例えば、これは使えるぞ、と思われる練功のやり方に関して、一筆書いたとする。それが出版社に回されて、晴れて店頭に出るとする。でも多分その時には、全く違うやり方を取っているでしょうね。そうでなければ苦米地さんのように、毎月のように本を出版するしかない。そんなことは現状ではありえないですから(てかあの方、本当に執筆されているんでしょうかね？素朴な疑問ですけども)。

そういう点を考えると、私自身にとって現状で最適なツールは、やはりブログだと思います。ええ、ブログですね。ホームページでは「ぎょうさん」過ぎるし、ツイッターではリアルタイム過ぎる。ツイッターでリアルタイムで自分の練功を実況中継するなんぞ、完全に危ないやつですからね。お客さんどころか、警察が来たりして(笑)。それにブログだと、更新も自由自在ですから。今日新たな情報を追加したとして、明日になったらそれがあまりよろしくないとわかった。だとすれば、修正すればいいだけの話ですから。因みにフェイスブックも、自分的にはイマイチですね。気功に関して何か書いたら、その次に誰かが、春巻の写真アップしてたりとか。自分の投稿にはレス皆無なのに、そっちの方に「いいね！」が100以上ついていたら、死にたくなります(笑)。まあ基本的にフェイスブックは、ソーシャルネットワークキングのためのものですからね。私みたいなアンソーシャル(こんな言葉ありましたっけ？socialの反意語はprivateですが、その意味ではないので)な人間には、あまり向いてないのかな、みたいな。ええ、すぐに自分の世界作っちゃう人間なので。そういうやつはブログに隔離しておく方が、ソーシャル的には害がなかったり

して(笑)。

まあ下らない前置きが長くなりましたけれども、そんなわけで今回からシリーズで、気功あるいはヨガ(嘘ではありません。私はヨガもやってきましたしね。クンダリニ・ヨガとかの、いきなり濃いやつですけども。それに『一指禅功』自体、歴史的に見ても明らかに、マハー・ヨガ・タントラ系の行法ですからね)に関するティップスを、いろいろご紹介したいと思います。気功に興味があったので、人目につかないように勇気を出して(笑)本屋から本を買ってきて、独学でトライしてみた。でも、イマイチよくわからない。これって本当に効果があるの？これが出来たら、一体どうなるの？私もその疑問を抱きつつ、十年以上やってきました。しかも、根っから疑い深いヒネクレモノなので(二回浪人すりゃ、たいてい人間不信になりますわ)、師匠の言うこととかは鵜呑みにはしないぞ、みたいな(笑)。しかし、ぱっと見これは嘘だろう、というような現象も、確かに起きます。昔の書物に書かれたことは、あながち嘘ではないです(例えば、丹田から気を運用すれば、通常の数倍の力が出る、とか。物理学的に見て少なくとも、三倍は出ます。要するに、筋肉の使い方の問題なのです)。

そんな私をご紹介する、気功法の裏情報。教室とかでは満足できない、孤独かつ変わり者の(私のような(笑))皆様の練功の一助になれば、幸いです。

Even I'm using the word "Qui-Gon" for the title of this blog, I haven't updated the information about that after last August. It's just unreasonable !

But it doesn't mean I've stopped my activity as a Qi-Gon instructor or healer in this recent months. It's totally opposite. I love to do different activities alternately (yes, I'm also a DJ !). So I'm kind of mixing these two activities :)

As for Qi-Gon, recently I've actually got some offers from some publishing companies asking "why don't you publish books of your research about Qi-Gon or Yoga ? Maybe you'll make huge sales", but I don't like that. It's not because recently book markets are suffering from deep recession or something. There's more serious reason.

It's just because the conclusion of my research about Qi-Gon or Yoga is changing constantly so, if I published them, they'll become already "out-of-date" immediately. For example, I found out excellent training way and I wrote it on my book, but when it was published, maybe I'm trying totally different ways. Or I must publish my books every months but it's totally impossible for me.

So in this point of view, the best tools for my present situation is blog. Homepage is too "exaggerated" and twitter is too "real-time". It sounds crazy if I report all of the process of my training

on twitter for me. And I can easily change some information on the blog. I found out excellent way of training today and I wrote it on the blog, but after that I realized it's not effective any more, so I can fix it, that's all.

So from now on I hoe to introduce some tips about Qi-Gon or Yoga as series (it's not joking. I've trained Yoga too for many years. But it's "maniac" stuff just like so-called "Kundalini" one. And actually my training way called "Isshizen" is apparently came from Maha Yoga Tantra). You're interested in Qi-Gon or Yoga, so go to book stores to buy the books about that. And after reading and trying them, you cannot understand them. Do they seriously work or not ? If I master them, what will happen to me ? I've trained Qui-Gon and Yoga with these questions as yours for over 10 years. And basically I'm "suspicious" person so it's very difficult for me to "swallow" what my teacher is talking about. I'm not good apprentice (smile). But actually the phenomena what we easily doubt when we just read the books happens seriously. So what ancient persons said about this kind of fields on the books aren't just joking. For example, they said when you use the power from your "holy center" in your stomach, you can release it in 3 times bigger than usual and it's not kidding. It totally depends on the effective ways of using your muscle.

So from now on, I'll show you some secret tips about Qi-Gon and Yoga. It's just for those of you who cannot be satisfied by the ordinal classes, just like me. If it helps you, I'm really glad (smile).

暖かくなりましたね～。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

この時期になると、ジャズ・フュージョン系の音楽が聴きたくなります。

学生時代からの名残でしょうか。この時期は、神大ギター部は春の合宿の時期で、演奏会のためと称して、全然関係の無い曲を夜通し引き倒す、というのが恒例だったのですが、ご他聞に漏れず私も指揮者でありながら、ジャズの耳コピーに明け暮れていました。

そんなわけで今回のコレクションは、パット・メセニーとかラルフ・タウナーをフューチャーしてみました。

[The Ultimate Ambient Collection Mix 13](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

追加で、Deep HouseのMixをば。ホントジャンル飛びまくりですね。申し訳ないです。

[The Ultimate Deep Collection Mix 4](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

もう一つ、展示会のご案内。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

東京・銀座のギャラリー銀座一丁目で、4月5日から10日まで、『集気鏡～占い展』という展示会が開催されます。こちらに私が、BGMを提供しております。占いではなく(笑)。

作曲はもちろん、Ableton Live v5(このバージョンが、一番安定している気がしますね)。テーマが「鏡」ということでしたので、プラグインのエコーを多用して、左右のスピーカーから原音とエコー音とが、相互に反射し合っているように聴こえるような作り方をしてみました。というわけで、タイトルも『Reflection』。とてもリラックスできると、ご好評頂いているようです。

まだ開催前なのですがすけれども、もうCDが品薄状態になってしまっているようで、有難や有難や。とりあえず今日、追加で発送しておきました。レターパック500で(笑)。というわけでお近くの方、是非一度足をお運び下さい。

m(__)m

PS:週末のライブとこの展示会を両方ご覧になれる方がいらっしゃったら、私はとんでもない二重人格者だと思われるでしょうね・・・。

週末土曜日に、ライブをやります。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

場所はいつもの、Eat Red Meat。ギターを弾きます。デュオです。二人して**おフランス**っぽいことやろうかな、みたいな。

おフランスと言っても、70年代フレンチ・ロックですけども。[HELDON](#)辺りの。因みにお相手は、[ELMA](#)さんです。通称上田先生。あ、逆か。鳥取が生んだ、ジャパノイズ界の重鎮。本家の[Mad Mouseさんのブログ](#)にはヒーリングとかありますけれども、それを期待されると痛い目に会うと思います。ええ、わたしゃ知能犯ですからね。あんたキャパ広過ぎにつき理解不能、とよく言われますけれども、それが私なんで。久々に[Robert Fripp](#)してきます。

というわけで、週末のライブ。心臓の弱い方厳禁。

[Stand By](#)

 [Stand Byの他のレビューをみる»](#)

評価：★★★★★

Heldon

Cuneiform

¥ 1,044

(2004-04-06)

コメント：ジャケカッコよすぎ。

嫁のパソコンがウイルスにやられて死にかけた件。因みに私のは完全に死んだ件。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

突然二階から、嫁が悲鳴を上げました。鳥取はこの時期悪天候ばかりなので、気が滅入る、と常々言っていたのですが、ついに精神に異常をきたしたのか！？わくわくしながら二階へ行くと、そうではありませんでした。どうもパソコンが奇妙な動作を始めたらしく、意味不明の画面が断続的に立ち現れる。

実はこの状況は、数ヶ月前に私も経験したことがありました。ネットを見ていたら突然ドライブのスクランを勧める画面が現れた。もともと別のセキュリティソフトを使っているし、この手のスクランを勧めるポップアップみたいなのはたいてい怪しいので、放っておこう、と思って閉じようとしたら、それも出来ない。次から次に同じ画面が現れて、どんな操作も受け付けない。そのうちPC自体がカラカラ言い出す始末。こりゃさすがにヤバイと思ってPCに強い友人に電話すると、取り敢えずリカバリするしかないですよ、と言う。まあリカバリぐらいだったら簡単だからと思って愛用のリカバリソフト[アクロニス](#)を起動させようとする、起動どころか何も反応しなくなった。焦って再度友人に電話すると、「そりゃ完全にご臨終ですな」。結局彼のところにPC自体を送って(文字通りの病院送り)HDDそのものを交換してもらうハメになり、えらい目に会いました。

そのような経過もあったので、嫁のPCを見た時私は、同じテイストを感じました。でもやられてからまだ時間が経っていないみたいなので、同じく[アクロニス](#)を起動。幸い上手く動作してくれて、リカバリは無事成功しました。[アクロニス](#)に感謝。m(_ _)m

しかしその後嫁が言うには、いくつかフォルダがおかしいと。今まで集めてきた映画ファイルが消えていると。げ、『X-Files』も消えちゃったの？そりゃ痛すぎるぞ。しかしよく調べてみると、何のことはない。隠しフォルダに変えられてただけでした。それらのファイルのプロパティを開いて、属性のところから「隠しファイル」に入っていたチェックを外すと、「取り敢えず」元通り。これも前回と一緒にしたね。作曲した楽曲のファイルが全部「見かけ上」消されているのを見た時は、さすがに顔面蒼白になりましたが。

というわけで今のところ一件落着いたようですが、ネットで調べてみると、この「スクランを勧める画面が突然現れる」→「動作が不安定になり、ファイルが(見かけ上)消される」というパターンのウイルスが、割と猛威を振るっているようです。しかもこの手のファイルは、サイトの管理者も気づかないうちにそのサイトに組み込まれたりするので、安全サイトだと思ってブラウジングただけで感染するとか。厄介ですな。取り敢えず私が調べたところ、以下のサイトが参考になります(このウイルスは、[Windows 7 Recovery](#)というらしいです)。

[正規のホームページにウイルス配布サイトへの見えないリンクを設定する改ざんが行われ、そのホームページを閲覧しただけでコンピュータウイルスに感染してしまう「Web感染型」による感染が非常に多くなっています](#)

[ウイルス対策ソフトがやってくれないウイルス対策](#)

[セキュリティ通信 | トピックス 初心者必見！究極の感染対策「6つの約束」を実行しよう](#)

[Windows 7 Recovery ウイルスにパソコンが感染した場合の対策方法 | アフィリエイト野郎](#)

[司令官 報告です！！ - 偽システムユーティリティ：Windows 7 Recoveryの駆除方法](#)

取り敢えずはAdobe flash PlayerとかJava経由で感染するみたいですから、これらのプログラムをまめにアップデートするしかなさそうですね。皆様も是非お気を付けを。てか、私のサイトも私の知らないうちに、変な地雷組み込まれてないでしょうね・・・。「てめえのサイトでひどい目に会ったぞ！」とおっしゃる方、ご報告下さい。

The Ultimate Progressive Collection Mix 7 - 9

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

とんと更新がご無沙汰でしたが、死んだわけではございません。

何しろ寒いのは苦手なものでして、冬場はどうしても活動が滞りがちになりまして。何しろ日本のチベット。千駄ヶ谷にいた時のように、ちょっと新宿辺りにお茶飲みに行くかな、というわけにはいかないわけです。玄関を開けると膨大な量の雪で、物理的に外に出られない、みたいな。

でも最近ようやく春めいた天候になってきて、ぼちぼち活動を始めているところです。いくつかライブやら展示会やらのプランが進行中なのですが、詳細は追ってご紹介いたします。

取り敢えずは、Mixcloudにアップしていたプログレッシヴ・ハウスをいくつか。

[The Ultimate Progressive Collection Mix 7](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

[The Ultimate Progressive Collection Mix 8](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

[The Ultimate Progressive Collection Mix 9](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

今日のこの日。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

私は今、私に出来ることを考えたいと思います。考えるだけでなく、実行したいと思います。

それが少しでも皆様のお役に立てれば、この上なく幸せに思います。

無事ではないですが、何とか帰国致しました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

無事ではないですが、何とか帰国致しました。

今回は2月6日から18日までの二週間、という長丁場でした。その理由は私の父が、中部ジャワにあります世界遺産ボロブドゥールを見たいと言い出したからなのですけれども。入国後ジャカルタに一泊して後、そのボロブドゥールのあるジョグジャカルタに移動して三泊、その後ジャカルタに戻って二泊した後、嫁の実家であるバンドンへ移動して帰国時まで滞在、という日程でした。

観光だけではなく仕事も兼ねて、個人的にいろいろと動いていました。ジョグジャカルタではボロブドゥールだけではなく、地元のバティック・アーティスト達と、アートに関して意見交換したりとか。特にバンドンに着いてからは、次から次に施術の依頼を受けて、何だか観光に来ているんだか仕事に来ているんだか、良くわからなかったですね。

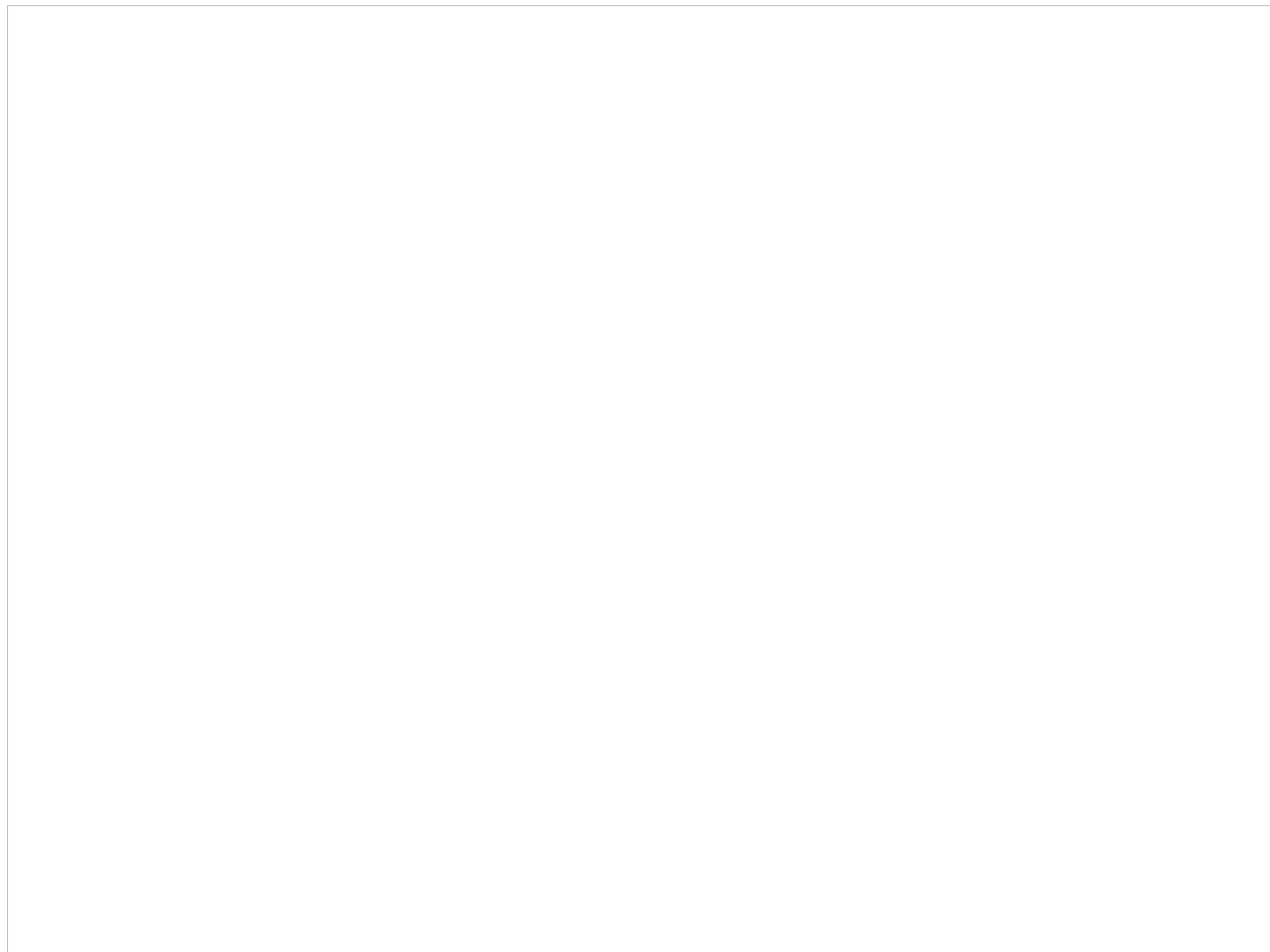
気功というのは現地でも珍しいらしく、いろいろと東洋医学の視点からの健康に関する相談を受けたのですが、今回その中で、気付いたことがいくつかあります。まず第一に、インドネシアの方々は押しなべて、**基礎体温が低い**。これだと免疫機能が十分に働かないので、病気になりやすいのはむべなるかな、みたいな。もっとも当然南の国ですので、シャワーを浴びる習慣こそあれ(これがまた、冷水を浴びられるわけですね)、風呂に入るという習慣が無いので、ここら辺が文化の違いというか、微妙なところですね。そういえばうちの師匠が以前言っていましたけれども、何かの機会に中国のかなり高名な気功家の講習会に参加した時に、その参加者の一人が、なぜ日本人はあんなに長生きなのか、と問われて、その気功家は即座に、「それは、彼らには入浴の習慣があるからです」と答えたいですけれども、頷ける話ですね。というわけで私も、とりあえずは足湯を習慣にするように勧めておきましたけれども。因みに嫁の語るところでは、後で皆さんから、何でユウイチの手はあんなに熱いのか、とびっくりされていたそうです。ええ、基礎体温の違いもあるでしょうけれども、これが練功の賜物というわけでした(『朱砂掌』という功法ですね)。あとは、**基本的に食べ過ぎ**ですよ皆さん。しかも朝から晩まで天婦羅と唐揚げは、さすがにヤバイですって。それで血圧を下げようというのは、無理な話です。また日本の話になっちゃいますが、世界中で日本食が健康食として高い評価を受けているのは、その点でも理解出来ますね。インドネシアは残念ながら、完全にその逆。ここでもまた習慣の違いの話になっちゃいますので大きな声では言えないんですけれども。私がお茶漬けを食べていると、あんなものは食べ物なのか？と真顔で不思議がっていらしたみたいですから。少なくとも、生野菜は食べて下さいね(だけど、生はすぐ腐るのかなあ。うーん、難しい)。

それだけ気をつけていた私でも、最後の最後でついに今回も地雷を踏みまして、えらいことになりました。丸一日吐くわ下すわで大変でしたけれども、それが終わるとすぐに、症状が治まりましたね。興味を持ったので帰国してからネットで調べてみると、どうも[酸化した油に当たっ](#)
[たん](#)ですな。酸化した油はかなり強い毒性を持つそうで。因みにそのソースによると、そういう場合に下痢止めとかを飲むのは、本来排出すべき物質が下痢が止められることによって体内に残

ることになり、逆に症状を悪化させることになるケースがあるので、良くないそうです。もちろん私は薬を使わずに点穴で処理するわけですが、点穴をすればするほど嘔吐や下痢がひどくなるので、こりゃ点穴が効かなくなったのかな、と焦りましたが、逆だったみたいです。

しかしつらつら考えるに、インドネシアという国もなかなか複雑な国ですね。アナーキーそのものという感じで。もちろんソマリアみたいにリアル北斗の拳状態にはなっていないのがせめてもの救いですが、汚職、賄賂(運転免許は金で買うというのが常識らしいですからね)、絶望的な交通渋滞などなど……。日本も「格差社会」という言葉が使われるようになって久しいですが、こちらみたいに金ピカの高級官僚の大邸宅の門前にひしめく物乞いの人達の群れをみると、日本って本当に平和だよな〜、と考えさせられますね。私が交際交流関係の活動に興味があるのは、もちろん異文化に興味があるというのも理由の一つですが、逆にそのことによって、日本を省みる良い機会になるからなんですね。そういう意味でも、まあ今回も考えさせられる旅でした。

というわけで月曜日から、通常業務を再開致します。今後とも宜しくお願い申し上げます。



休業のお知らせ

JUGEMテーマ：[代替医療全般](#)

謹啓 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、来週2月5日より18日まで、インドネシアを訪問いたします関係で、その間業務を一時中止とさせていただきます。

お客様には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご理解ご協力をお願いいたします。

今回は、嫁さんの実家バンドンだけではなく、中部ジャワのジョグジャカルタ、ソロも訪問する予定です。ええ、今回は親父もついてくるということで、世界遺産フリークの親父の、たっつの希望でして。実は私も学生時代の卒業旅行で、こちらは一度尋ねたことがありましてね。かれこれ18年近く前の話ですが。その頃とは当然、だいぶ変わっているでしょうね。

今回は全面的な観光というわけではなく、嫁さんのサイドビジネスを兼ねてでもあります。彼女は今、インドネシアの世界文化遺産である『バティック(ジャワ更紗)』の販売も手がけております。ジョグジャカルタやソロは、その最大の産地でもありますので、それらの工房を訪ねてくる予定です。因みに目下彼女は、バンドンでバティックの製作を行うワークショップに参加しています。修了したら、バティックの製作を行える少なくとも西日本では唯一の人物となるでしょうね。それを、シュールレアリスムや構築主義、コンピュータ・グラフィックスなどのモダンアートの技法とミックスできないか、と思案中であります。夢は膨らみますね。

それどころか、何故か嫁さんの下に、現在私の施術を受けたいという方々が、次々と現れているらしいです。うーん、結局仕事ですか。まあいいですけど。嫁さんによると、インドネシアでは代替医療は、日本以上にものすごく盛んらしいですからね。僕仕事する場所、間違えてるんでしょうかね？そこら辺も確かめてきます。まずは義理の親父さんの、ダイエット気功からですな。

というわけで、今回のレポートもまたおいおいと・・・。

The Ultimate Progressive Collection Mix 6

JUGEMテーマ：[テクノ全般](#)

Progressive House Collectionの第六弾。最近は完全に気功家DJと化している感がありますが・・・。

先だって友人に、「中原さんのミックスって、表面的には明るいけど、本質的には暗いっすよね」と言われました。うーん、そうなんかな？面白い意見だねー。もっとも影響を受けてきたのがTangerine DreamとかKlaus Schulzeとかだから、選曲も無意識的にそうになってしまうかね？因みに某DJサイトでの僕のページへのアクセス元は、もっぱらヨーロッパだしね。あまりアジアン・テイストではないかな。辛いもの苦手だし、ってあまり関係ないか。

というわけで、Enjoy！

<PS>

最近このミックスのトップに利用しているのは、某ソフトウェアで作成したフラクタル絵画です。ええ、最近CGにも手を出してまして。相変わらず手広くやってますわ。手狭にできないタチで。

[The Ultimate Progressive Collection Mix 6](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

嫁が先日からインドネシアに里帰りしているので、それをいいことに昨夜、マッドマウス・セッションズのメンバーと、ミーティングを兼ねて、飲み会をしました。**明け方**まで。

最初は軽く、今後のリハーサルをどうしようか、という事務的なところから話は始まったのですが、いつの間にやら、**オカルト談義**になっていました。

何と驚いたことにこのメンバーは、**全員靈感系**。「この店もいるよね、あそこの入口んところ」、「●●高校の寮、マジヤバかったっすよ」。そんな話が、延々と続きました。職業柄、そっちの方に多大なる関心がある(笑)。因みにギターの河田君は、目下、市内の古民家をゲットしようと画策中です。ここはかなりキてるみたいです。下見に行った時、ギンギンだったそうで。いい感じでしたからね～。古井戸とか**崩れかけた二つの蔵**とか**開かずの間**とか**戦没者供養のお札**とか。おまけに**神棚二つって雰囲気ありすぎでしょ**、みたいな。因みに私は何も感じなかったのですけれども。師匠に言わせれば、「あんたには陰のものは近づけない」そうでして。ええ、常時陽の気廻しまくりですから。

そんなわけで彼らと共に、新たなるイベントを企画中。だいたい私のソロ・コンサートでは、少なからぬ方々が**超常現象**を体験されるもので、常々、困ったものだ、と思っていたのですが、逆に、それって売りに出来るかもね。私はMadonnnaとかLady Gagaみたいに派手なパフォーマンスが出来ないのですが、**僕に代わって異界の者達にやってもらいましょうかね**。ヘミシンクっぽい曲をリアルタイムでプレイして、**あの世とこの世のリミックス**、みたいな。因みに件の河田君は、先だって竹でスピーカーを自作されたそうです。音響効果抜群だそうで。それ使ったら、なーにが起きるかな(笑)。

というわけで新規イベント、請うご期待。因みに、オカルティスト・オンリー(笑)。

The Ultimate Progressive Collection Mix 5

JUGEMテーマ：[テクノ全般](#)

Progressive Houseのコレクションの第五弾です。

友人が、「デカイ音で聴きたいですね～」と有難いことをおっしゃっていましたが、ええ、機会があればやりますよ。

ただこの山陰地方で、どれだけ需要があるんでしょうね～。少なくとも県中部では聞いたことがないので、イベントそのものを創出するしかなさそうですね。もっとも、それはそれで面白そうですね。ここ近年使われた形跡のない赤碕の野外音楽場とか。というわけで、ただいま有志募集中(笑)。

[The Ultimate Progressive Collection Mix 5](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

The Ultimate Progressive Collection Mix 4

JUGEMテーマ：[テクノ全般](#)

昨日まとめたProgressive HouseのCollection第四弾です。

最近気功の話題がご無沙汰気味ですが、どうかお許しを。施術のお話をしても大して面白くないでしょうし、ヤバイ話をしてもヤバイと思われるだけですからね(笑)。気功家とはしがない商売ですわ。古今東西この手の人って、奇人変人ですから。まあお蔭様で病氣知らず17年目に突入なので、この元気な体で大好きな音楽活動に精を出そうかなみたいな。

因みに今日友人の結婚式に呼ばれて、十数年振りにYMOのRydeenを演奏してきました。ええ、今となっては懐メロですわ。しかし受けたのかな？良くわかりませんが。

というわけで、Enjoy！

[The Ultimate Progressive Collection Mix 4](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

The Ultimate Progressive Collection Mix 3

JUGEMテーマ：[名曲と名盤](#)

久々のProgressive Houseのコレクションです。Ambientだけだとイキっぱなしになりそうなので、ここで一つ地に足を付けてダンス物を、みたいな。意味わかんないですね。

それでは、Enjoy！

[The Ultimate Progressive Collection Mix 3](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

The Ultimate Ambient Collection Mix 9-12

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ずっとMixcloudにアップしておきながらこちらにリンクを貼っていなかったMixを一気に貼らせていただきます。練功のお供に、是非どうぞ。

Enjoy and Chill Out !

[The Ultimate Ambient Collection Mix 9](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

[The Ultimate Ambient Collection Mix 10](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

[The Ultimate Ambient Collection Mix 11](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

[The Ultimate Ambient Collection Mix 12](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

謹賀新年。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

謹んで、初春のお慶びを申し上げます。

今年も変わらぬご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

というわけで、またまた気温が下がりそうな気配・・・。皆々様、ご自愛下さいませ。

やわらぎ気功クリニック 中原勇一

今年も残すところ・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今日明日だけとなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年は皆様にとって、どのような年でしたでしょうか。

今年最も大きな(そして恐るべき)事件といえば、やはり皆様同じだと思うのですが、東日本大震災ですね。幸い私の家は、引越し用に積み上げていたダンボールが崩れたくらいで大して被害はなかったのですが、東北地域の被害の甚大さを考えると、本当に心が痛みます(これで私は、阪神淡路と合わせて、二度も巨大地震を経験したことになってしまいました・・・)。しかもその影響でおかしくなった原発のトラブルがいまだ収束せず(あの発表で収束したと考える人って、いらっしやるんでしょうかね)、更にはそれが日本の文字通りの「恥部」をさらけ出してしまったというのは、本当にやり切れないですね。

そういう悲しむべき出来事はありませんでしたが、とにもかくにも私達は、自分達に出来ることをするしかない。幸か不幸か、僻地に移動したわけです。そう思って今年は、色々と動きました。今まで以上に。でないと干からびますから(笑)。お陰様でその過程で、多くの才能のある方々とお知り合いになれたり、あるいは再会したりと、自分なりに充実していました。

友人に言わせると、私は今年は厄年だったそうです。マジ？終わる直前になって、言われて気づくその体たらく。そういやろくでもないことも多々あったな、みたいな。だとすればこれで厄落とし出来たわけだから、来年はよりマシかもな。ええ、塞翁が馬が心情の、根っからのポジティブ野郎ですから。タオイストの真骨頂です。体調も完璧だし(明らかに若い時より、今の方が全然元気ですね。前回風邪引いたの、何年前だ？気功便利過ぎ)。来年も色々なことに挑戦したいですね。

これはまだラフなプランなのですが、来年は古事記が編纂されて1300年のアニバーサリーということで、出雲にお住まいの音楽家達と共に、イベントを企画する話が出ています。神話の国出雲界隈で、神話とアート、エレクトロニクスを高密度で融合させたイベントが出来たらいいなと。もう一つはバティックに絡めた、再上京計画です(定住ではないのですけれどもね(笑))。あとは上半期のソロ・コンサートですね。あ、海外もあるな。西から東から、そういうノマド的なスタンスが自分には合っているかなと。

というわけで、今年はお世話になりました。皆様良いお年をお迎え下さい。

Mad Mouse Sessions with Yuichi Nakahara Live at Eat Red Meat on November 27th 2011

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

かなり遅くなりましたが、前回のEat Red Meatでのライブです。

今回は初参加のBassの中原君ですが(私ではありません。分身までは会得していないので)、かなりファンキーなプレイですね。中央のダブル中原の対比が面白いとか何とかいう話も一部では出ていますが・・・。彼のお陰で、明るいアシュ・ラ・テンペルといった感じになっています。

で、いきなり今日です。雪大丈夫かな・・・。

X'Mouse Party in EAT RED MEAT Vol.2

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

何だか、ここに来て立て続けのライブで、本人自身何が何やら十分把握出来ていなかったりするのですが、とにかく次のライブです。**明日**ですけれども。ええ、告知も間に合いませんわ。

今回も、いつものMad Mouse Sessions。前はブリブリのプログレ・ファンクでしたが、今回はちょっと趣向が変わります。何と遠路遙々、出雲のプログレバンド『物部町子』のボーカルゆりさんが、参加してくれます。彼女とは7月のLive Aで初めてお会いしたのですが、向こうではあまりプログレ系の音を出すグループがないそうで、私が時々アップしているMad Mouseでの演奏をご覧になって、是非参加させて下さい、とのオファーを受けました。

取り敢えず今回は女性が参加されるのだから、アダルトにいこうぜ、というわけのわからない理由の元、数回リハーサルを行ったのですが、今回もまた良い感じです。皆さんさすがポテンシャル高い。最近の私は古楽にはまっているので(レオニヌス最高！)、クリスマスでもあることだし、オルガンでコラールっぽいサウンドでも出しましょうかね。

問題は天候ですね。今も窓の外では、ミゾレらしき物体がカラカラと音を立てています。いかにも山陰。これが一夜明けると白銀になったりするので、それがコワイ。そうなりと出雲からお出でになるのは物理的に不可能になるのですが、それは致し方ない。春を待ちましょう。

というわけで、皆様のお越しを心より・・・。

[X'Mouse Party in EAT RED MEAT vol2 出演者紹介☆](#)

『くらし国際交流フェスティバル2011』無事終了。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昨日挙行された『くらし国際交流フェスティバル2011』、無事に終了致しました。

鳥取県国際交流財団さんのご紹介で、私は最初の実行委員会から参加させて頂いていたのですが、反省会の時にもどなたかおっしゃってましたけれども、はっきり申し上げて、一体どうなるんだろう、といった感じでしたね(笑)。今回は初参加でしたので取り敢えず大人しくしておこう、と思っていたのですが、奇遇にも実行委員会の中に私の高校時代の同級生がおりまして(ええ、倉吉は小さい街です)、彼女の提案で、テーマ曲を作曲することに。まあ悪い話ではなかったのですが、いつも間にやらライブやらファッションショーのDJまでやることに。

そんな感じで直前はドタバタしましたがけれども、結構楽しんでやらせて頂きました。曲もお蔭様で好評でしたし。因みにライブでは、YMOの散開コンサートで坂本龍一が使っていたProphet-5の音をモデリングして、演奏してみました。まあ誰もわかんなかったでしょうけれども(笑)。

聞くところによると、今年は去年以上に盛り上がっていたそうです。良かった良かった。これもひとえに関係者の皆様のお力添えがあったからこそ。特に鳥取短期大学の学生の皆様、本当に大変だったと思います。お疲れ様でした。色々ありましたけれども、やって良かったですね(笑)。

というわけで、来年もまた宜しくお願い致します！

<PS>

お話のあった"Shiny Smile"のCD化ですが、急いでやります。取り敢えず原曲と、エンディングに使用したHouse Remix、それにカラオケを加えた3曲で、マキシ・シングルといきますかね(笑)。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

以前の記事でも触れましたが、来る12月11日、倉吉市ふれあいの郷にて、『**くらよし国際交流フェスティバル2011**』が開催されます。

今回はテーマソング"Shiny Smile"の作曲と、バティックの展示で参加させて頂くつもりだったのですが、急遽依頼を受けて、**ミニライブ**も行うことになりました。オープニングとフィナーレで、リアルタイムで、テーマソングを演奏致します。

・・・で、単純に同じバック・トラックを用意するのもナンなので、フィナーレはフィナーレらしく、**ハウス・リミックス**をやっちゃおうかなと。ええ、担当者は僕だけですので、やりたい放題ですわ。地方のイベントのテーマソングで、初音ミクはおろか、ハウスってのも、珍しいんじゃないでしょうかね。

悪乗りついでに、国際交流財団さんと我々のブースである小会議室では、**気功施術の実演**も行います。**無料**です。もちろんクリニックのような本格的な施術は出来ませんが、**四十肩、五十肩、首が痛くて回らない、慢性的な(原因不明の)頭痛程度でしたら3分で処置致します**ので、お困りの方は是非、この機会をお見逃し無く(笑)。

というわけで、アレンジに戻ります。当日お目にかかるのを、楽しみにしております。

27日のライブのご案内。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

来る27日、いつものstudio Mad Mouseさんの恒例企画『Live A』にて、再びMad Mouse Sessionsとして参加することになりました。

先月から一ヶ月しか経っていませんし、メンバーのスケジュールの関係で十分なリハーサル時間が取れていなかったものですから、「今回はスルーしたら？」と言うと、「あ、もうブログに告知しちゃいました」。なるほど。店長やる気ですね～。

もっとも、リハーサルが十分でなくても形にしまうというのが、コレクティブ・インプロヴィゼーションの醍醐味。今回はベーシストが変わって、ぐっとファンク調になっています。いい感じです。因みに彼も、中原さんです。一時期名義を『ダブル中原』にするだのしないだの案が出ていましたけれども、当然立ち切れ。そういや太古の昔、Giles, Giles & Frippというグループもいたな。

今回も炸裂するコスミック・ファンク。というわけで、皆様のお越しを心よりお待ち申し上げております。

[出演バンド決定！！LIVE A vol10](#)

今回も無事終了。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今回も、無事ライブ終了致しました。

今回の、studio Mad Mouseさん主催のLive A。目玉は僕の高校の時の現国の先生(笑)、上田英生氏の演奏でした。演奏開始までにしばらく時間があつたのでうちでお茶でも飲みながら演奏について話し合っていたのですが、今回は「昭和」への彼なりのオマージュだったそうです。軍歌とか若尾文子とかメルツバウとか。もちろんそれをそれと直に感じさせない、耳をつんざく巨大音塊(笑)。50分。いやー、僕と組んでらした時のMy Discipline Lifeよりも、もっとトンガってましたね。でも意外なことに、かなり受けていました。倉吉って結構、許容量広いですね。

さて、私共の演奏。今回は打ち込みなしのインプロロー発だったのですが、私としてはとても良い感じでした。この場をお借りして、一曲目をアップさせていただきますけれども、こういうサウンドは山陰では珍しいんじゃないでしょうか。ギターの河田君なんて完全にギルモア化していますし。それにストリングスとオルガンをかませて、みたい。ええ、あんな感じですよ。あとこちらは、照明がいいですね。映像見ても、いい味出ています。

今後もこんな感じで、色々実験していきたいですね。

世間ではヤバ過ぎると評判のこのツーショット。

くらし国際交流フェスティバル2011公式テーマソング～"Shiny Smile"

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

いつも夫婦共にお世話になっている財団法人鳥取県国際交流財団さんのご紹介で、今年、この倉吉地域で毎年行われている「くらし国際交流フェスティバル」に、実行委員として参加させて頂くことになりました。

今年は初めてなので大人しくしていようと思っていたのですが、ひょんなことからテーマソングを作曲することに。悪いお話ではなかったので、お受けすることにしたのですが、昨日の実行委員会で、公式にご採用頂きました。有難うございます。

因みにここでご参考までに、その作曲経緯をご紹介します。まずはお話を頂いた直後に、私のユニットであるJungle Q2のパートナー門上峰登氏に打診して、セッション日を決めます。この日までにネタ繰っというね、みたいな。で当日になると、大抵やっていない。まずは彼を罵倒するところから、セッションは始まります。

そして彼に紙と鉛筆を渡し、いまここでやんないあんた、と指示。すると彼はさくさくと実際にやってしまうのがすごいところ。それに変更を加えつつ、リアルタイムで初音ミクに打ち込んでいきます。というわけでボーカルトラックは、大体30分くらいで完成。後はダベリングで、セッション終了。ええ、本当にお気楽なユニットです。

そして彼が帰ってからバックトラックの製作に入りますが、あーだこーだと色々アイディアを試しながら全部完成するまでに、長くて3日。最近依頼されたボーカル物は、ざっとこんなプロセスですね。

今回は国際交流がテーマでしたので、当然かのYMOの1983年世界コミュニケーション年イメージソング『以心電心』のパロディでいこう、という話をしていました。イントロのノイズなんかまさにそれですが(笑)。後はドラムにはLinn Drum、当然でしょ？みたいな。それらを駆使しつつ、YMOとVangelisのミクスチュアみたいなレトロ感出してみました。何せ、80年代フリークですから。

ミクに関しても、最初はデモだからミクでいいだろう、程度の認識だったのですが、よくよく考えてみれば、いまやミクさんは日本を代表するボーカリスト(バーチャルですが)におなりなわけですから、逆にその方が国際交流っぽいかな、と思い、このままでいくことにしました。

後は、これに映像付けようと思っています。映像作家は手術で忙しいらしく、連絡付きませんが

。そちらも完成したらアップしますので、請うご期待。

というわけで、Enjoy !

<追記>

これ聴いた方が明日のライブ来られたら、とても同一人物とは思えないだろうな・・・。

[Shiny Smile \(for くらよし国際交流フェスティバル2011\)](#) by [Yuichi Nakahara](#)

<Shiny Smile>

初めて出会った時は お互い違い過ぎて
一言かけるのさえ ためらいがちになった
だけときみの笑顔は いつだって輝いていて
だんだん近づいてく 魔法のような時間
一つ一つの言葉繋いで 埋めていくのは心のパズル
届けたいのはスナオな気持ち
惹かれあってく soul to soul
言葉を越えた想いが だんだん伝わってゆけば
笑顔がいつか地球を 包んでいくよ shiny smile
一緒に時を過ごして お互い知っていくたび
たまにはケンカもしたり ふざけあうことしたり
スタートライン違った二人 焦らないのが心のルール
見つけたいのは未来の形
深まっていく heart to heart
心を込めて手と手を つなぎあうこと出来たら
笑顔がいつか地球を 包んでいくよ shiny smile
勇気を出して声をかければ 君は優しく微笑み返す
そんな時間が大切だって 今ならきっとわかるさ
心を込めて手と手を つなぎあうこと出来たら
笑顔がいつか地球を 包んでいくよ shiny smile
言葉を越えた想いが だんだん伝わってゆけば
笑顔がいつか地球を 包んでいくよ shiny smile
Words & Music : Mineto Kadokami, Yuichi Nakahara

作詞・作曲：門上峰登、中原勇一

Produced by Jungle Q2

もう一つ告知！ 第三回Dance Tube on November 6th

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先のstudio Mad Mouseに良く出入りなさっている倉吉アンダーグラウンド界の重鎮T女史よりご紹介を頂いて、こちらのプロジェクトにも参加させて頂くことになりました。

何しろ、東京でずっとコンテンポラリー・ダンスにかかわっていましたからね。可能性は低いかも知れないけれども、県中部界限だってそういうの、ないことはあるまい、と思って探していたら、やはりありました。

最初はボランティアで参加させて頂こうかなと思っていたのですが、いきなりスタッフ扱いで、更にいきなりオペレーションもやらせて頂くことになりました。

主催は、『ダンスTubeプロジェクト鳥取HAKKA』。ネーミングもいかしてますね。その実行委員長は、県中部では有名なT蒲鉾の社長さんです。実におっとりとした方で、何でこのような方がダンス・イベントをプロデュースされるんだ？と不思議に思ってお尋ねしたところ、何でも小学生の頃、テレビでバレエの番組を見て衝撃を受け、それからバレエにはまったそうです。ご自分はされないのですが、一度バレエかダンスのイベントをやりたい、ということで立ち上げられたのが、このダンスTubeだそうです。

あまりズバリとは言えないのですが、まあ何と言うか、かなりのミスマッチです。え、この方が・・・みたいな(笑)。でもそのバイタリティはすごいです。はっきり言ってこの県中部で、モーリス・ベジャールの名前を出す人物がいるなど、全く想像もしていませんでした。「え！ベジャール好きなんですか！？僕ベジャールと仕事していたピエール・アンリのファンなんですよ！」と言ったら、さすがにそれはお判りにならなかったようですが(笑)。

先週全体ミーティングがあったのですが、結構たくさんの方々がエントリーなされてて、びっくりしました。熱意は東京とかと変わんないですね。それをどうやって盛り立てていくかというのが、オーガナイザーの腕の見せ所。

何はともあれこの鳥取県でも、無事にダンス関係のプロジェクトに関わらせて頂きました。有難や有難や。数々の優秀なダンサー達と共に、この鳥取県中部をダンス界で一目置かれるような存在にしていけたらいいですね！

もっとも僕は僕で、これをきっかけに、更なる展開を図ろうと思っています。現に何人か県内のプロジェクトにスパイを送り込んだり。まあ自分で乗り込む方が多いけど。その内の一人は、年

末のバレエ『くるみ割り人形』に出られます。唯一の男(笑)。やってることは完全にダース・シディアスですね。というわけでダンスTube、請うご期待。

The Dance Tube 3rd

週末のライブのご案内

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今週末、いつもお世話になっているstudio Mad Mouseさん主催のライブイベント"Live A"に、前回と同じ"Mad Mouse Sessions with Yuichi Nakahara"名義で出場することになりました。

今月頭より何回かりハーサルを繰り返しているのですが(嫁さんの許可をもらった日に限って(笑))、なかなかいい感じです。

今回の特徴は、打ち込み無しで、完全生演奏に徹していることですね。打ち込みも好きなんですけれども、元々プレイヤーですから。影響を受けたのは、Miles Davis, Can, Tangerine Dreamなど、即興性に富んだ演奏を行っていたグループですし。言うまでもなく今回の演奏も全部記録して、後で編集します。完全にMilesですね(笑)。

それに今は、ラップトップがある。一台のラップトップに、それこそハモンドからアープ・オデュッセイからミニモグからメロトロンからソリーナまで、全部積み込める。果てはアナログ(モデリングですが)・テープもブチ込んで、リアルタイム・ミュージック・コンクレートとか。いやー、すごい時代です。

それらを踏まえてリハーサルを繰り返しているのですが、ふらりと見に来られた方々には、かなり受けてます。倉吉でこんなことしていいんですか？みたいな。とても嬉しいですね(笑)。

更に今回のイベント。個人的に注目しているのは、ELMAさんです。上田先生ですよ、上田先生。ええ、倉吉東高関係者なら判ります。こちらでもご登場頂きましたけれども([お勧めヒーリング・ミュージックあれこれ\(16\)~Tangerine Dream/Rubycon](#))。いまや世界的に注目を集めている、ジャパノイズ界の重鎮ですよ。実は本当は、15年ほど前に一緒にやっていたユニット"My Discipline Life"名義でやろうかという話もあったのですが、今回は心置きなくソロをお試し頂くことになりました。こんな感じです。

我々は、彼の次です。いやー、どうなっちゃうんでしょうね。というわけで、皆様のお越しを心より・・・。

<Mad Mouseさんのページ>

出演バンド決定！！LIVE Avo!9

The Ultimate Ambient Collection Mix 8

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昨日まとめたアンビエント物です。

Enjoy !

[The Ultimate Ambient Collection Mix 8](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

The Ultimate Deep Collection Mix 3

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

久し振りに、Mixcloudにアップしてみました。

今回は御大Ableton Liveではなく、新たに手に入れたMixMeister Fusionというリミックス・ソフトを使ってみました。これ便利ですね。流れ全体が全部DAWのように波形で一覧出来るのがいい。色々実験的なことが出来るし。キャッチーなダンス物以外に、ミュージック・コンクレートみたいなのも作ったりして、最近ハマってます。

というわけで、秋の夜長に是非どうぞ。

[The Ultimate Deep Collection Mix 3](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

彼女がここ鳥取へやって来たのは、今年のお盆だった。

彼女は、私の嫁の友達だった。インターネットで知り合った、いわゆるメル友である。嫁は日本に来てから2年近くになるが、同郷であるインドネシア人と、ほとんど付き合いがない。本人曰く、どうも「うま」が合わないらしい。不思議と言えば不思議だが、理解出来なくもない。僕だって、日本人と「うま」が合わなかったりするし(笑)。そんな中で彼女は、付き合いは浅いながらも、唯一気心の知れた友達であったようだ。その彼女も、自分には友達がいらない、と常々言っていたらしい。そこら辺で相通じるものがあったのかも知れない。

しかし嫁によれば、彼女はどことなく謎めいた人物であったようだ。彼女自身の生い立ちを尋ねても、あまり多くを語ろうとしない。実際に会った時に、その話をしよう、などとはぐらかして、別の話題に移ったりする。何とも奇妙な人だ、と嫁は言う。それに対して私は、何でも以前その人は、自分のことをうっかり他人に話して、トラブルになった、と言ってたらしいじゃない、警戒してるんでしょ、ネット上の付き合いなんだし、当たり前だと思うよ、と答えていた。

そんな彼女がうちを訪ねてくるという話を聞いたのは、8月の頭。私は少々不思議に思った。そこまで警戒している人が、わざわざこんな辺境まで、自分達を訪ねてくるのか？お盆休みを利用して京都に旅行に行った帰りにそちらへ寄ります、ということだったが、彼女の自宅から京都、鳥取では、まるで方向が逆じゃないか、でもまあ、同行する旦那さんは釣りが趣味ということだから、日本海側で道すがら釣りでも楽しみながら、こちらへ来るということなのかな、と私は軽く考えた。そして私達は、地元にある『燕趙園』という中国風庭園で、待ち合わせた。

彼女は、とても気さくな人物であった。同行していた旦那さんは逆に寡黙な人で、その対比がユニークだった。時は正に、お盆の帰省シーズン。そこにあるレストランで昼食を取るのは絶望的に不可能に思えたので、私達は市内にある馴染みの中華料理店に移動することにした。

中華料理店で改めて自己紹介をすると、私達は初めて、二人の今を知ることが出来た。二人は同じ工場に勤めている。その工場とは、製麺所。朝早くから夜遅くまで、素麺やらうどんやらを作っている。なかなか大変な作業らしい。休みもあまりなく、このような貴重な休暇を利用して、二人で旅行に行くのが唯一の楽しみだ、ということだった。その唯一の楽しみに、"リアル・タトゥイーン"のような倉吉にお出で頂いた、というのは、有難いやら申し訳ないやら、複雑な心境だった。そして次は、私達の番。嫁はインドネシア語で、うちの旦那は気功のインストラ

クターと施術を生業としている、と話した。そのような話を初めての人にとすると、私の経験上ほぼ100%怪まれるので(笑)、私はせっかくの楽しい出会いに水を差したかな、と申し訳なく思った。

しかし彼女は、そうではなかったようだ。あなたには"Six Sense"があるのか、と彼女は日本語で尋ねた。ええまあ、それが仕事ですから、と私は答えた。次いで私は、どのようないきさつでそのような能力を獲得することになったのかを、気功との出会い、そして師匠との出会いを含めて、彼女に話した。

彼女は、ふんふんと聞いていた。私のその話が終わると、彼女は私にではなく、嫁の方を向いて、インドネシア語で語り始めた。残念ながら私は、インドネシア語は皆目わからない。旦那さんの方を向くと、そういう話には最初から興味がない、といった様子で、黙々と食事をしている。仕方がないので私も、そうすることにした。

すると、彼女の話が終わったらしく、嫁がそれについて私に話し始めた。しかしその内容は、私をして驚愕させるのに十分過ぎる内容だった。

彼女は実は、先天的にそのような能力を持って生まれた人物だった。それは家族も十分に承知していたらしく、彼らは彼女を、「選ばれし者」と呼んでいたようであった。彼女はその能力を、幼い頃から如何なく発揮して、周囲の人達の相談によく乗っていたらしい。

その噂は、噂を呼んだ。そして次第に、彼女の元に相談に来る人物は、一般人ではなく、政治的に相当な地位にある人物までに及んだ。ついには、何と彼女はある時期、インドネシアのA大統領の、影の相談役にもなっていたらしく、世界的に知られている事件であるBにも、彼女は一枚噛んだということである。

しかしそれは、平和裏なものでは到底なかった。言うまでもなく政治の世界とは、権謀術数の世界である。先のA大統領も、彼女の他に、数人の呪術師らしき人物に同時に相談を持ちかけていたらしい。次第にそのような呪術師にとって、彼女は厄介者になり始めていた。ついに彼らは彼女をなき者にしようと、何らかの策略を練ったらしい。それを察知した彼女は、表の世界での仕事に絡めて、日本へやって来た。そして結婚。それ以来彼女は、インドネシアには帰っていない。日本では毎日、朝から晩まで麺を作っている。住まいは、エアコンもないような、古くて狭い木造アパート。夏は暑く、冬は寒い。しかし彼女は、異常な緊張感の中で政治家に囲まれて生きるよりは、今の方がずっと幸せだ、と言う。

そのような彼女が持っている能力とは、一体どのようなものなのか？私は興味津々だった。嫁が尋ねると、彼女はこう答えた。実は自分にはある存在がついていて、その存在が様々な情報をくれるのだ。その情報を、他の呪術師が狙っているのだという。しかし嫁が、その存在のことを尋ねると、申し訳なさそうに、それは言えない、ごめんなさい、と答えた。そして彼女は、別のことに話を変えた。

しかし、その数分後である。元の話題に戻ったのは、彼女の方だった。今その存在が私に、自分のことをあなた達に語っても良いというから、話すことにするわ。彼女は話し始めた。実は彼女に付いているのは、昔西部ジャワに存在したパジャジャランという王国の皇太子だ、という。しかも、今この場にいるのは一人だけだが、それらは複数いて、彼女から数十メートルの距離を置きながら、いわば彼女の周囲に結界のようなものを形成して、その中に邪悪な霊が入らないように警備をしているのだ、という。嫁によると彼女も、パジャジャランという王国については聞いたことがあった。この王国は7世紀から16世紀まで存在したのだが、奇妙なことにはこの王国は、何の前触れもなく、突然消滅したらしい。一応歴史的には、次に台頭してきたムスリム王国によって滅ぼされた、という説明にはなっているが、一般にはそうではない、と考えられている。ではどう考えられているというのか？実は彼らには特殊なテクノロジーがあって、ある時期を境に、「現世に留まることを止めた」、そして彼らはそのテクノロジーを使って、王国もろとも肉体を消滅させた、そしてその末裔は、今も西部ジャワにあるとある山に住んでいるのだ、という伝説があるそうだ。そして彼らは今も、特定の人物を選んではその魂を送り込み、インドネシアの政治に介入している。そして彼女は、その一人だというのだ。その意味で言うと、先ほど彼女はその能力を先天的に持っている、と書いたのは、実は正確ではない。彼女が幼少の時、彼らは忽然と現れた。そして彼女に、彼女の宿命を語った。そんな彼らに対して、彼女にはどうすることも出来ず、その宿命を受け入れるしかなかった、という。私の背後、数歩下がったところに、今もその人物はいて、私達の会話を聞いている、彼女はそう話した。

その瞬間である。私は彼女の背後に、突如熱の塊が生じたのを感じた。しかもそれは、どんどんと大きくなってきているのだ。私の天目の辺りがジンジンと疼いた。私は一気功家の見方からして、そこに何かいるを認めざるを得なかった。このようなフィジカルな反応は、施術以外ではここ最近とんとご無沙汰だったので、私は面食らった。このことを後で嫁に話すと、実は嫁も話している最中に、何かが背後にいるのがわかっていたという。だんだんと肩が重くなるので、それを振り払おうと必死になっていたのだそうだ。彼女がしきりと腕を回していた理由が、この時初めてわかった。私はあっけにとられた。倉吉が"リアル・タトゥイーン"だなんて、彼女の方がよっぽどオビ=ワン・ケノービじゃないか、と私は思った。

さらに私は、いろいろと質問した。彼女も彼女で、どういったきっかけで私がインドネシアに興味を持ち、ついにはインドネシアの妻をもらうことになったのか、興味があったようだ。私は学生時代に、中沢新一氏の著作を読んで以来インドネシア呪術に興味を持つようになり、それで

嫁と知り合うようになってからも、その手の話を彼女を通じて収集するようになったのだ、と話した(無論、嫁は嫌がっているが(笑))。なるほどなるほど、と彼女は答えた。話はバリの呪術にも及んだ。それに関して彼女は、いろいろと興味深い話もしてくれた。例えばバリには、神秘の島らしく、「沈黙の日」という日がある。その日の夜は何人たりとも、明かりをつけたり、大声を出したりしてはいけないのだそうだ。一般にはそれは、自分の精神的な安定さを求めるために必要な儀式のようなもの、と教えられるらしいが、彼女のような人物から見ると、状況は一変するらしい。実はこの日は、バリに住む白魔術師と黒魔術師が、島を挙げての全身全霊の死闘を行う日なのだという。彼女は昔仕事の関係で、この日偶然に、バリを訪れたことがあった。彼女が真っ暗な部屋の中からこっそりと外を覗くと、凄まじい光が闇夜を飛び交い、その光景は、まさしく「スター・ウォーズ」の情景にそっくりであった、という。つまり、明かりを点けていたり物音を立てたりすると、魔術師に察知されて、戦いに巻き込まれる可能性がある。その夜だけは大人しくして、息を潜めなければならないというのは、それが本当の理由らしい。

彼らは、倉吉市内にある梨の博物館を見学した後、帰って行った。その後私は、彼女の語ってくれた一連の話を反芻しながら、物思いに耽った。そういえば、と私はある体験を思い出した。その数日前、私は倉吉市内にある小鴨神社という神社で、縁あってライブをすることになった。その演奏前に宮司さんが、メンバーを拝殿に招いて、お払いをしてくれた。その時私は、拝殿の中央に同じく、巨大な熱の塊が生じたのを感じた。しかもそれは、尋常な規模ではなかった。その数日前にも同じ場所でライブをする機会があり、その後で参加者にパワー・スポットの感知の仕方についての簡単なレクチャーを行って、その際にも拝殿の中央に熱の帯のようなものを感じたのだが(これは参加者全員が感じる事が出来た)、この時のそれとは、到底比較にもならなかった。

そこで私が思い出したのは、いわゆる仙道でいうところの、「出神」という行のことである。この行では、小周天その他で全身を「気」の塊にするのに成功した後、それを次は体外に生じさせる、というプロセスを行う。それだけではない。それに成功した後、行者はその「気」の塊に、「意識を刷り込ませる」トレーニングを行う。それが成功するとどうなるか。いうまでもなく我々人間は、いつかは必ず死ぬ。なぜか？物理的・生物学的な存在である、肉体を持っているからである。では、それを持たなければどうなるだろうか。肉体を消滅させて意識だけになれば、当然、死ぬことはない。というより、死ぬことは不可能である。そのような状態を獲得せんがため、行者はこの「出神」の行を行うという。これだけ聞けば、完全に気違いじみた、正にオカルティックな発想以外の何者でもない。しかしこれに酷似した行体系は、不思議なことに、チベット、ヤキ・インディアンなど、古今東西に共通して見られるのである。

私はこの話を聞いた時、それを純粋に、心理学的に解釈していた。つまりそれは、いわゆる「

他人の立場に立って物事を考える」ことの神秘学的な表現のことだろうと考えていたのである。実際、例えばウェン・ウィングアの『頭脳の果て』という書物では、そのような論法で解説がなされている。しかし、この一連の体験の後、私はこの解釈に修正を加えなければならないのではないか、と思うようになった。もし、それが本当に事実なのだとすれば？(私はこの点に関して、以前、友人の物理学者とも議論したことがある。彼も、いわゆる魂というものは、熱と関係があるのではないかと考えている、と話していた)。彼らはこの世に、「実際に住み続けている」。しかしその姿は、見る事が出来ない。特殊な感覚がある人を除いて。だが実際に、「そこにいる」のだ。それがパジャジャラン王国の、今の姿ではないのか？いや、パジャジャランに限らない。シャンバラ、桃源郷、あるいは天上界・・・、それらは本当に、想像上の存在なのか？特殊な状況下でしかアクセスが出来ないというだけの、実在ではないのか？さらに、パジャジャランに限らず、地球上には忽然と消滅したとされる文明が、いくつもある。彼らは一体どこへ消えたのか？歴史学者はそれに対して、疫病の存在、戦乱などの説明を行うが、どれも決め手を欠く、というような事例が山ほどあり、いつの時代でもそれらの話は、古代史マニアのロマンを掻き立てている。しかし彼らは、本当に滅亡したのだろうか？

宇宙論で考えてみよう。宇宙にはダーク・マター(暗黒物質)と呼ばれる、"人間が見知ることが出来る物質とはほとんど反応しない"といわれる存在がある、という説がある。実際シミュレーションしてみると、この存在を仮定しないと説明が出来ない事象がいくつも存在する。その説明を成り立たせる暗黒物質(暗黒エネルギー)の量は、全宇宙の約94%、その残りわずか約6%が我々の世界なのだという。つまり、その約6%の知識でもってその約24倍にもあたる世界を説明するなどというのは、土台無理な話ではないのだろうか。つまり、我々が目にしているものがこの世界の全てであるとは、誰も断言出来ないのではないだろうか。

実をいうと最近の私は、少々気功というものに飽き飽きしていた。それもそのはず、気が電磁波であると仮定すれば(あるいはエリクソニアン催眠というパラダイムを用いれば)、施術からいわゆるパワー・スポットまで、大概の現象は説明が出来るので、まるで新鮮味を感じなくなっていたのだ。しかし、彼女との出会いが全てを変えてしまったようだ。もう一度気功や仙道、あるいは古今東西の呪術に関する文献に、もう一度虚心坦懐に当たってみる必要があるのではないか。私は今、そう考えている。

その時私は、もう一度あの存在に出会って、"未知の次元"に関する話を、じっくりと聞くことが出来るのかも知れない。

『とっとりアニカルまつり』無事終了。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先週末、米子市内において、『**とっとりアニカルまつり2011**』というイベントが挙行されました。

心配だったのは、言うまでもなく台風。ほぼ鳥取県は直撃状態で、うちの近くの東郷湖周辺も大変な事になったこともあり、それだけが気掛かりだったのですが、会場前から並んでいたお客さんもいらしたらしく、台風などモノともしない勢いで、盛況の内に終わったようです。良かった良かった。

・・・何で中原さんが、アニカルのレポートなぞするんだ？ええ、関係者ですから。極めて間接的ですが。今回も鳥取県のご当地ヒーロー『白兎跳神イナバスター』の皆さんが、鳥取のアニカルの雄ということで出演されたそうですが、その挿入歌の作曲を依頼されたものですから。イナバスターの生みの親である鳥取県のマイケル・ジャクソンDJ KAOS門上峰登さん絡みの話だったのですけれども(因みに彼は、年末のバレエ『くるみ割り人形』に出演が決定致しました)。

「今回はアニソン・シンガーのMIQさんがステージで歌うから、**ノリノリのアレンジでやってくれ**」。

はあ、そうですか。最近**20世紀のスウェーデン系の電子音楽にご執心の僕に、そういう依頼しますか**。頼む方も頼む方なら、受ける方も受ける方。ええ、器用貧乏ですわ。

しゃあないな。でも偶然最近、**「トランスの作り方」**なる映像をゲットしたので、それを参考にしますか。なるほど、コンプってこうやって使うのね、みたいな(笑)。というわけで、取り敢えず出来上がった曲『Brave』。カラオケが出来たのが開催3日前にもかかわらず、本番ではバッチリ歌っていただけたとか。当日は残念ながら、私用のため伺えなかったのですが、有難いことです。

しかしこんな辺境で、そのようなサブカル系の大きなイベントが開催されて大成功、というのは、非常に面白いですね。山陰も捨てたもんじゃない。またご要望があれば、いつでもご依頼を。皆さんお疲れ様でした。

峰さん、曲のタイトル、打ち合わせと違ってないか？

「インドネシア・バティック(ジャワ更紗) その華麗なる魅惑の世界」 イベントのご案内

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

来る10月1日、午後3時より午後6時まで、三朝町にあります「茶房らむです」さんにおいて、『インドネシア・バティック(ジャワ更紗)～その華麗なる魅惑の世界』と銘打って、ジャワネコ・アートがコレクションしておりますバティックの、展示即売会を行います。

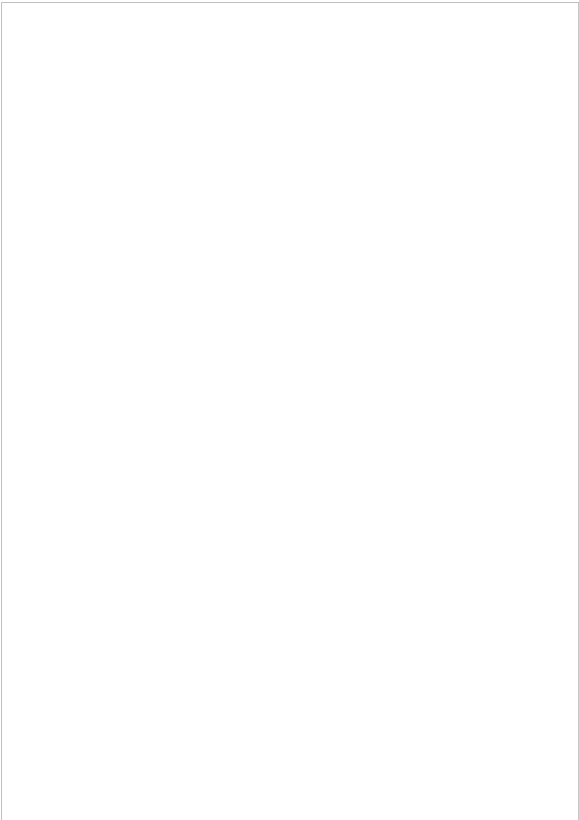
因みにジャワネコ・アートとは、嫁さんがやっておりますインドネシア雑貨の、ネット・ショップです。さすがジモティだけあって、かなりレアなルートで、かなりレアなアイテムを探してきてくれます。最近の僕のステージ・コスチュームは、全て、ビンテージ・バティックです。ええ、カラフルで、しかも着心地抜群です(笑)。

というわけで私も、運営に一枚噛んでいるわけですが、当日はそのノリで、オープニング・アクトとして、シンセサイザーの演奏を行います。インドネシアだけに、目下ガムランをサンプリングしたラウンジ系の楽曲を制作中。それと同時に、バティックのサロンの着付け講座を行う予定です。モデルさんは白兔跳神イナバスターのザリガーニッシュさん。普段ステージ上では剣を振り回していらっしゃいますが、この時だけはゴージャスなバティックに身を包んでいただきます(笑)。

場所をご提供いただくのは、三朝町にあります、「茶房らむです」さん。ここのオーナーさんは美術にも造詣が深く、遠路遥々東京や大阪などから、美術の話をしにやって来られるリピーターさんが多いとか。私は最初お邪魔した時、入口のところにでかでかとオープン・リールのテーブル・デッキがあって、度肝を抜かれましたが。むむむ、只者ではない、この辺ではあり得ないパターンだぞ、みたいな(笑)。HPはこちらです([茶房らむです](#))。

当日はそんな感じで、美術愛好家の方々もたくさんお出でいただけるのではないかと考えております。単なる展示即売会ではなく、そういった方々の交流の場となれば、主催者としては嬉しいですね。何せ辺境ですから。ネットワークは重要です(笑)。

普段なかなか目にすることが出来ないビンテージ・バティック、この機会に是非、お手に取ってみて下さい。



[Jawaneko Art on Etsy](#)

[大きな地図で見る](#)

Mad Mouse Sessions with Yuichi Nakahara Live at Eat Red Meat on August 13th 2011

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

Mad Mouse Sessions with Yuichi Nakahara名義でのライブ、無事に終了致しました。

この編成でのライブは、これで二回目です。でも、良くまとまっているのではないのでしょうか。僕も当然今までいろんなバンドを経験してきましたが、ここまでまとまっているというのは、あまり経験がないですね。

何しろキモは、あまりリハーサルしないこと。飽きちゃいますからね。それがジャム・バンドの良さでもあるわけですが(笑)。それに、皆さん実力派の、とても良いプレイヤーですしね。とてもリラックスした雰囲気の中で、ソロではあまり出来ない凶暴なことにも(笑)、挑戦させて頂けます。

プレイだけではなく、今回は様々なユニークなミュージシャンとも交流させて頂きました。僕の高校時代の恩師かつ現在ジャパノイズの重鎮ELMAさん、島根のホールズワース系ギタリスト若槻素直さん、くらくらまみれの山根さん、吟遊詩人盛山さん、蒜山のCan発酵レバースさんとか。皆さん見事なまでに、ジャンルがバラバラ(笑)。そういう混沌とした雰囲気は、とても好きです。東京みたいにきちんとジャンル分け＝住み分けされているところよりは、全然僕好み。このようなアンダーグラウンド感は、とても面白いです。

今後とも皆さん、宜しくお願い致します！

というわけで今回も、ライブを撮影して頂いたので(白兔跳神イナバスター・チームの(ほんとノン・ジャンルだなこれは)渡部さん、どうも撮影有難うございました。)、早速IK Multimedia T-Racksで編集して、YouTubeにアップしてみました。こちらです。

・・・と思ったら、若槻さんも同じ曲を撮影されて、アップされてました。こちらもリンク貼っておきます。

同じ曲なのに、撮影場所によってか印象まるで違いますね。後者の場合ドラム・ループがリズム

・ボックスっぽく聴こえて、カリプソみたい(笑)。というわけで、お聴き比べ頂くのも一興かと。

・・・忘れてた。次は必ず、メロトロンを使ってやる。

<追記>

先だってMad Mouseさんより、イベントの内容を記録したDVDを譲って頂きました。早速編集、みたいな(笑)。

というわけで、先にご紹介した"WR"以外の楽曲、"Wind On Green"、"Mad Mouse"の二曲もアップしてみました。スモークマシンが暴走して店内大変なことになっていますが、まあご愛嬌ということで(笑)。

Wind On Green

Mad Mouse

Mad Mouse Sessions with Yuichi Nakahara Live at Eat Red Meat (2011.08.13)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

前回の小鴨神社ギグのために結成されたMad Mouse Sessions with Yuichi Nakaharaで、次なるライブのご案内です。

場所は、倉吉駅前のライブハウス"Eat Red Meat"です。この辺りではなかなか一筋縄ではいかないイベントを次々と企画している、言わば台風の目です。前回もそうでしたが、今回もかなり濃い面子みたいです。うーむ、腕が鳴ります。

今回はもう少しハードなサウンドに挑戦してみましようかね。最近プログレッシブ・トランスがお気に入りなので、そういったテイストを盛り込んで、ダンサブルな感じに仕上げてみたいと思っています。メンバーはみんな良い腕していますからね。人力テクノ・ファンク(笑)。

しかし、倉吉って面白いです。意外と。僕自身、もっと苦戦するかと思っていたんですけどもね。人脈確保の意味で(笑)。前回もわざわざ凄腕が、山口や島根から参戦されていましたし。彼らに言わせると、「倉吉は熱い」らしいです(笑)。ある意味、デトロイトやシカゴっぽいのかも知れませんが。退廃的なところだけじゃなく(笑)。ジャンルの幅かなり広いですしね。Acid FolkからAmbient/Chilloutまで。後者は僕ですけども(笑)。そういうアンダーグラウンドな雰囲気は、とても好きですね。妙にジャンル分けされた感のある、東京より面白いかも知れない。個人的には。

というわけで、皆さんのお越しを心よりお待ちしております。

<Mad Mouseの記事は、こちら>

[LIVE A vol7出演バンド決定！！](#)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

私が劉先生に初めてお会いしたのは、2001年の養生の旅のことであった。

その頃までに私は、すでに、1500年以上に渡って嵩山少林寺で秘伝として伝わりとされる『一指禅功』という気功法のことは、書物その他から聞いたことがあった。そして赤陽先生が就いている劉先生とは、その唯一の正統後継者である、ということだった。私はその前の年の秋に無為気功養生会に入会したばかりだったのだが、教えていただいた一指禅功を練習するに従ってどんどん変化する私の体を見るにつけ、これは一度その劉先生にお目にかかって、実際に指導を受けてみなければ、と思うようになった。

そんな矢先、養生の旅の募集がかかった。私は迷うことなく、参加を決めた。

その年は何故か参加人数がとても少なく、たったの十数名であった。しかし私は、それはむしろ好都合かも知れない、と考えた。何故なら、先生と触れ合う機会が多いかも知れなかったからだ！私はわくわくしながら、飛行機に乗り込んだ。

この時の旅は、杭州から西湖を巡りつつ黄山へ向かう、という行程だった。そして、初めてお会いする劉先生。私の胸は期待に高鳴ったが、それをあえて顔に出すようなことはしなかった。それは私の癖でもあった。私はいつも誰かに会う時は、常に距離を取りつつ、その人物をじっくりと観察するのが常だった。例え相手が、大人物だとしても。いやむしろ、大人物であればあるほど、私はそれをするだろう。劉先生とてそれは、例外ではなかった。私は最初に劉先生と簡単な挨拶を交わすと、それきり特に、先生に近づいたりしなかった。

しかし、穿った言い方かも知れないが、むしろ先生はそんな私を、奇妙な奴だと思いつつも、興味を持たれたのかも知れない。私は団体旅行の時は、その団体から離れて行動するのが好きなのだが(その行動から私は、『仙人』と呼ばれたりするわけだが(笑))、そのように私が単独行動を取っていると、何故か行く先々で、先生と出くわすのだ。私は一瞬ぎょっ、とするのだが、先生は特に気にする風でもなく、いつも私に笑顔を向けられた。その笑顔から、少なくとも先生は、私を嫌っているわけではないな、と思えたので、少し安心した。

例えば、繊維工場を見学した時のこと。買い物に勤しまれる皆さんから離れて、当時特に服に興味のなかった私は、椅子を見つけてそこへ座り、一人くつろいでいた。そこへ現れたのが、劉先生であった。私はおやっと思ったが、やり過ごすことにした。すると彼は、突然私の前に座ったのだ！彼はにこにこしているのだが、私は逆に、どぎまぎしてしまった。何を話せばいいんだ

？もし私が中国語が出来るのならば、ここぞとばかりに色々と気功に関する質問するのだろうが、いかんせん私には、中国語が話せない。しかし、それは先生も判っているはずなのだ。それなのに何故、あえて彼は私の目の前に座ったのだ？私は取り敢えず、愛想笑いを続けていた。すると赤陽先生が通りかかって、先生の横に座った。私はほっとした。先生は、何か赤陽先生に話しかけている。ちらちらと先生が私の方を見ることから察すると、どうやら私のことらしい。そしてそれは、私の音楽活動のことについてであったようだ。どんな音楽をやるのだ？どんな音楽が好みなのだ？彼はそんなことを尋ねているらしい。私はあっけにとられつつも、赤陽先生に通訳してもらって、自分の音楽活動の話をした。

その夜のことである。夕食が終わった後、カラオケボックスへ行くぞ、という話になった。私はそれにも面食らった。養生の旅でカラオケボックス？妙な取り合わせだが、それも『気功＝喜功』を標榜する養生会っぽいのかな、などと思いつつ、私も参加することにした。しかしながら、それ以上に面食らったのは、劉先生のパワーであった。彼はマイクを握ると、いきなり中国語で、『北国の春』を歌い始めた。ものすごい声量。このままじゃアンプやばいんじゃないか、と思った矢先に、当のアンプがオーバーロードで吹っ飛んだ。早速スタッフが呼ばれて復旧作業が始まる。それを見ていた赤陽先生が、店員の態度が悪い、と言って怒り出す。皆がなだめようとする、と、「肝気は放出した方が良いのだ！」なんて言っている。なるほど、それも道理、と思いつつ、およそ「養生」とは程遠いような、カタストロフィックな光景であった。

すると、落ち着きを取り戻した赤陽先生が、突然私に、「劉先生が、『今ここでわしは、音楽家の音楽が聞きたいぞ！』と言っているけど」と言い出した。え？僕に歌えと？カラオケなんて僕はもっぱら見ている方で、歌ったことはついぞないんですけど。しかし、そのような言い訳は通用しそうな雰囲気ではなかった。周りはやれやれと言っている。仕方ない。でも何を歌えばいい？J-POPか？でもそんなのはあまり聞いたことない。迷った挙句私が選んだのは、必死でめくった歌集の中から偶然見つけた

曲、"The Beatles"の"Can't Buy Me Love"であった。私は、まさか中国まで来て、ビートルズのカバーをやるとは思わなかったな、と考えつつ歌ったのだが、どうにかこうにか受けたようだ。

その時劉先生が私に、その大きな手を差し出しつつ割れんばかりの拍手を送ってくれたことを、私は今でも鮮明に覚えている。

そして、やってきた黄山。この黄山が今回の旅のいわば目的地で、登山と、その合間の講義がそのメインイベントであった。黄山の気候はとても変わりやすく、ほとんど雨であった。しかし、その雨雲の合間から射す日光は、文字通り天上の美しさであった。

いよいよ、正統後継者その人から受ける、一指禅功の講義。しかし、私が深い印象を受けたのは、一指禅功そのものや、ましてやそのテクニックなどではなかった。彼とその師匠であるケ

ンゼン法師との出会い、交流、そして法の伝授。それはしかし、平和裏なものではなかった。それに続いた文化大革命などの混乱、一指禪功に関する貴重な文献の焼き打ち、フィリピンへの出国。そして彼はついに、秘密主義はもう時代に合わない、という理由で、一指禪功の一般公開へと踏み切った。彼は言う。時々私は、夢を見る。私の目の前に、墓がある。それは私の師匠の墓だ。するとそこに、師匠の霊が現れる。彼は目を真っ赤にして怒っている。一指禪功は門外不出だと言ったはずだ。何故お前はそれを破ったのか。その通り、私は師匠を裏切ったのだ。この罪は、償っても償い切れるものではない。彼はその時、涙を流していた。そこにあったのは、歴史という重い十字架を背負った、一人の人間の姿だった。

二日間の研修を終えて、我々は黄山を後にした。明日はいよいよ帰国。中国とも、劉先生ともお別れである。一行はふもとのレストランで、お別れパーティをした。この後劉先生とも、しばらくお会いすることは出来ない。だからといって、感傷的になる私ではない。特にこれ以上、尋ねたいこともない。私はあえて先生とは離れたテーブルに着いた。そして同席の人達と、旅の思い出などを話し合っていた。

すると突然、赤陽先生が私を呼んだ。私は、一体何事だろう、といぶかりながら、先生のテーブルへ向かった。すると先生はこう言った。「劉先生が、中原さんと是非乾杯がしたい、と言っている」。私は面食らった。その横で劉先生が、グラスをこちらに向けてにこにこしている。私たちはグラスを鳴らした。ここで気の利いた一言でも言えれば良かったのだろうが、私は中国語が話せない。仕方がないから私は、「謝謝、老師(シェーシェー、ラオスー)」とだけ答えた。すると先生は、「Wow, are you chinese?」と爆笑しながら英語で答えた。本当に大きな笑い声だった。

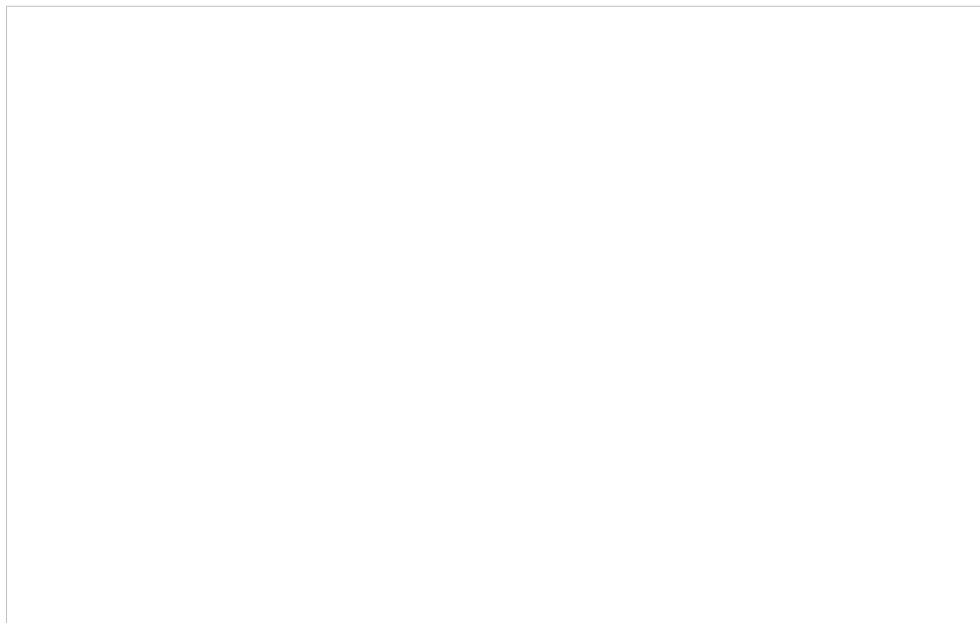
次の日私達は、上海空港から成田へ向けて発った。別れの直前、バスから見ると先生がしきりと、指で髪を梳かす仕草をしている。赤陽先生は、あれは先生の、本当に悲しい時だけにやるジェスチャーだ。ああいう先生を見るのは珍しい、と言っていた。

その後も私は、数回養生の旅に参加した。しかしそのいずれも、残念ながら、この黄山の旅以上のインパクトを得ることは出来なかった。最後にお目にかかった武漢への旅では、先生は非常にやつれた感じに見えた。もしかしたら先生は、今後この旅に参加はされないのではないか。私はそんな予感がした。その予感は、果たして現実となった。そして昨年参加した無為気功会の忘年会で、私は劉先生の逝去の報を聞いた。

私は、黄山の旅で思った。すごいのは一指禪功ではない。劉先生がすごかったのだ。一指禪功というテクニックがたとえ継承は出来ても、何人たりとも彼のこの人間性だけは、継承は不可能であろう。私はこのことは、今でも間違いないのではないか、と思っている。一指禪功という技術を偶然にも習得した人間が同時に背負わされた、巨大な伝統という重圧。そしてそれに伴う

責任、苦悩。それは当人しか知りえることはあるまい。劉先生。それは私にとっては、単なるテクニックを指導してくれた先達以上の人物であった。彼の中に私は、恐るべき深遠を見た気がする。重要なのはテクニックではない。人間そのものである。それが彼が、私に教えてくれたことである。私はそのことを胸に刻みつつ、今後も練功を続けていきたいと考えている。

有難うございました。先生。



Mad Mouse Sessions with Yuichi Nakahara Live at Ogamo Shrine (Complete)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今日Studio Mad Mouseさんのブログを見たら、先週のライブのコンプリート版がアップされていたので、こちらにも転載させていただきます。

うーん、カメラワークも、音も良い。やはりジャンキーにさせては駄目ですね・・・。

Mad Mouse Sessions with Yuichi Nakahara Live at Ogamo Shrine

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先週末の小鴨神社ライブの二回目。無事終わりました。

今回はジャム・バンド形式ということでしたので、普段打ち込みでは難しい音作りをしてみました。やはり、バンドはバンドですからね。DTMにはない面白さがある。再現出来ない即興性とか、グルーブ感とか。

あと単純に、広い所でデカイ音出したいとか(笑)。でも、なかなか上手くいったのではないのでしょうか。神社でプログレってのも、珍しいでしょうしね(笑)。

取り敢えず録画をしていたので、それを編集してYouTubeにアップしてみました。しかし、撮影した人物が当時、どうやら過度の薬物を摂取していたらしく、映像がブレていて見にくいかも知れませんが、どうかお許し下さい。次回は撮影クルーには、医師による診断書の提出が必要かも知れないですね。ある意味、サイケを地で行くような話ですけれども。メンバーはシラフなのにカメラマンがラリってるってどうよ、みたいな。あ、薬物って合法モノです。単なる抗うつ剤。この辺りではすごくポピュラーな薬です(笑)。

そんなわけで今回は、倉吉のユニークなミュージシャン達とともに、有意義なセッションが出来ました。皆さんには本当に深謝！また是非やりましょう！

・・・てか、次は8月13日らしいです。詳細は追って・・・。

<追記>

信頼出来る情報筋に拠りますと、カメラマンは撮影しながら踊っていたそうです。どっちかにして頂きたかったですね・・・。

Live at 小鴨神社 Part 2 on 7月23日

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先だってライブをさせていただいた倉吉市内の小鴨神社で、またライブをさせていただくことになりました。

今回は、神社そのもののイベントです。『七夕祭り』ということで、ご近所の氏子さんが勢揃いなさるとか。『七夕祭り』と言えば仙台市のものが有名ですが、当日は、復興支援を兼ねて、仙台市のそれを模しつつ、たくさんの吹き流しを境内にセットされるそうです。それをバックに演奏、ということになりそうです。

今回もStudio Mad Mouseさん経由でお話を頂いたのですが、店長さんと話した結果、バンド形式でやろう、ということになりました。バックの素材は僕が用意して、ジャムバンド形式で、それに店長さんのギターとベース、パーカッションが絡む、という形になりそうです。

昨日それを元にリハーサルを行ったのですが、とても良い感じです。何というか、The Grateful Deadを暗くして、Pink Floydを明るくして、それに何故かVangelisとKlaus Schulzeが乱入、みたいなサウンドになっています。あるいはコスミック・ファンク(笑)。こういうのは大好きですね。多分、スペース系プログレマニアにはかなり受けるはずです。これが上手く行ったら、もうちょっと手を広げたいですね。

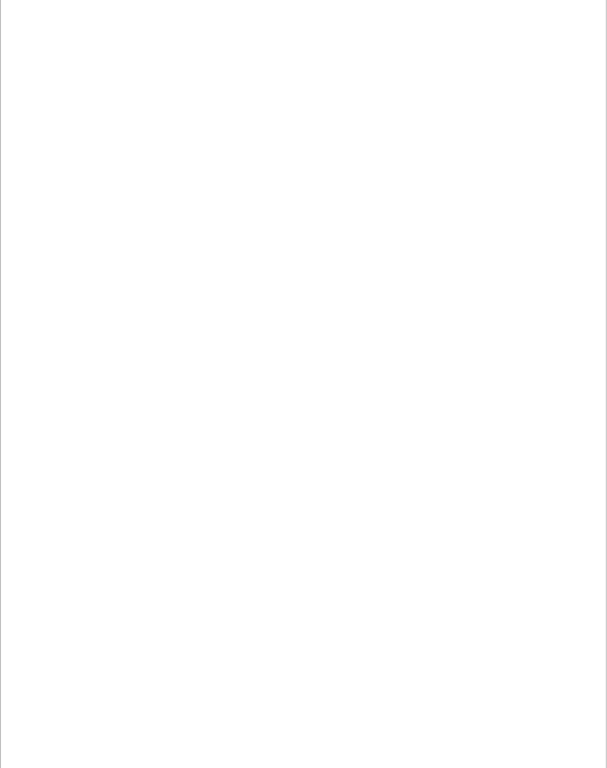
というわけで今回も、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

<PS>

今回も全部レコーディングする予定です。エディターとしての腕が鳴るぜい。Miles DavisのTeo Maceroばりの編集にしちゃおう(笑)。

[大きな地図で見る](#)

小鴨神社七夕まつり



Live at Ogamo Shrine, Kurayoshi, Tottori on July 2nd, 2011

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

取り敢えず今回のライブ音源、マスタリングが終了致しました。

今回も、Ableton Liveには大変にお世話になりました。こんな感じで、ライブやってそれをリアルタイム・レコーディングして数日後にはCDにしてリリース、みたいなインディは、この界限ではあまりいないでしょうね～。いたら教えて下さい。友達になりましょう(笑)。

というわけで、お楽しみ下さい。因みにCDは、TSUTAYA倉吉店にてお求めになれます。お値段は、2000円です。あるいは当方に、直接ご連絡下さい。

[Live at Ogamo Shrine, Kurayoshi, Tottori, Japan on July 2nd, 2011](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

「で、検証実験って、いつやるんすか？」

・・・ごめん、完全に忘れてた。やはり企画自体にかなり無理があったな。それって、割烹料理でナシゴレン出てくるようなもんだったかも知れんな。意味わかんないけど。僕はそういう発想は好きなんだけど、ライブでパニックってる時にやるもんじゃないわな、と言い訳する。

というわけで、店長のこの一言で思い出した時には、すでに遅し。お客さんは皆さんお帰りになった後で、残っているのは明るい酔っ払いたち。まあそれでもいいか、と思って、取り敢えず実験してみました。

でも、さらに言い訳すると、完全に忘れていたわけではないんですね。セットが一応終わった後休憩がてら神社の境内を散策すると、拝殿の横に立った時に何やら熱のようなものが、そちらから吹いて来るのを感じました。いつものパターンですね。あ～このことMCで話したらいい導入になるかも、と思ったのはその時だけで、あとは完璧に失念。

でも、何故拝殿なんでしょうね？これは大宮氷川神社でも、須佐神社でも同じだったのですが、ご神体があるはずの本殿から熱が流れてくるのであれば理解できなくもありませんが、そのような経験はあまりなくって、大抵このように、ジェネレータは拝殿付近だったりします。そんなことを話しながら拝殿を歩くと、その中心辺りがやたらと熱い。何か地面から熱の柱みたいなものが立っているような感触。多分この辺じゃないかな、と言いつつその場にいるみんなで手をかざすと、皆さん同じ感触を受けたみたいですね。今回は、この手の話をバカにしてはばからない鳥取県庁職員M君もわかったみたいです。貴様、またからかってんじゃないだろうかと問い詰めると、否定していましたから。

ところで先週末のライブの後日談ですけれども、あるクライアントさんが、面白そうなイベントだったのですけれども、あそこへ行くとどうしても尋常ではない感覚を受けるので、今回は断念させていただきました、と真顔でおっしゃっていましたね。何故なんだろうといろいろ考えたのですけれども、多分かなり気場が強いので(この界限では、ズバ抜けています)、あそこへ行くと酔っ払ったような感覚になれるのではないのでしょうか。そう言えば、ライブが終わった直後に眠くて眠くてたまらなくなり、帰りの車の中で爆睡しました、とおっしゃった方もいらっしゃいましたね。もしかしたらそれは、催眠性の強い私の曲のせいではなかったかも(笑)。

そんなわけで、小鴨神社。拝殿の横からでも熱は感じる事が出来ますが、スポットはここ、拝

殿の中央です。お尋ねの際は宮司さんをお願いして、拝殿に上がらせていただき、実際に感得なさるのも悪くないかも。ただし、お忙しい方ですので、事前に一度ご連絡されることを、お勧めいたします。宮司さん、今回は大変にお世話になりました。有難うございました。

小鴨神社

取り敢えず無事終わりました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昨日の、小鴨神社でのChillout Event『神戯れ言』、スタッフの方々のお力添えにより、無事に終わりました。雨が降ったり止んだりとかなりヒヤヒヤさせられましたが、逆に、土砂降りでもなく、カンカン照りでもなく、程よいバランスの中、いい感じで挙行出来たと思います。

さて、肝心の音は・・・？私はプレイヤーですので、あーだこーだ申しません。取り敢えず今回も、Ableton Liveにより、リアルタイム・レコーディングしました。目下編集中。間もなく公開できると思います。また今回は、ハイビジョンカメラによる撮影も行いました。そんなものどこで手に入れた？というご質問はさておき、こちらもDr. Yukiの手により、編集中です。

鳥取でのライブは久々でしたが、良いスタートが切れたのではないかと思います。関係者の皆様には、心より深謝。m(_ _)m

というわけで、ご来場頂きました皆様、どうも有難うございました。今後とも宜しくお願い致します！

<Mad Mouseさんによるルポ>

[幻想夜「神戯れ言」 その1](#)

[幻想夜「神戯れ言」 その2](#)

[幻想夜「神戯れ言」 その3](#)

Live at Ogamo Shrine, Kurayoshi, Tottori - A

Live at Ogamo Shrine, Kurayoshi, Tottori - B

進捗状況。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

さてさて、一時間程度のステージか。どれをやろうかな。と言いつつファイルをチェックすると、持ちネタは500曲以上ある。

いちいち聴き直すのは面倒くさい。ってかそれやったら、何日かかるんだ？

仕方がない。新曲を作るか。その方が手っ取り早いな。そんなこんなでAbleton Liveを立ち上げると、気が付いたら30曲以上出来た。これが私の、作曲プロセス。別名、『元の木阿弥』。ま、**病気**ですな。

今回はずいぶんと遠くからも、お客様がお見えになられるようで、本当に嬉しい限りです。因みにこの方は、海外サイトから私のことをお知りになったそうです。いや、世界は狭い。

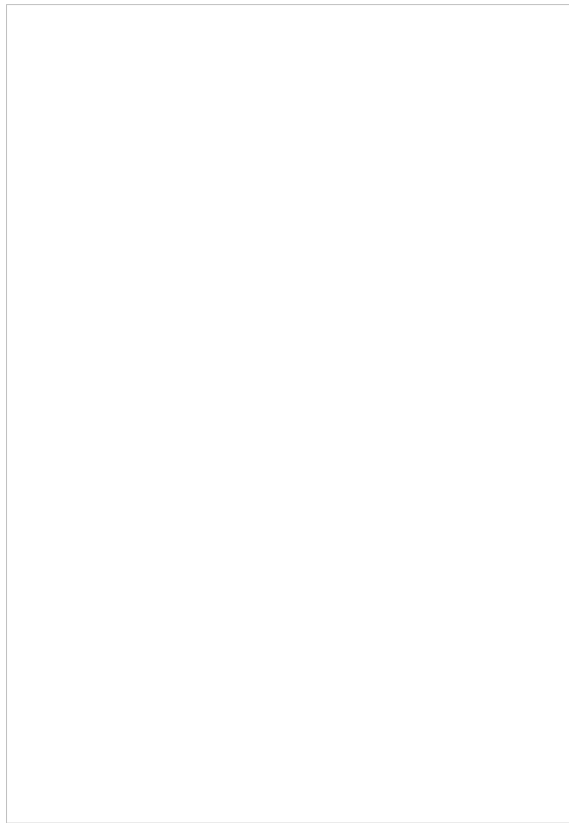
と言いつつ、皆様のお越しを心よりお待ち申し上げて・・・。

Live at 小鴨神社 in 倉吉 + パワー・スポット検証実験(笑) (2011.7.2)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

最近懇意にさせていただいております近所のStudio Mad Mouseさんより、イベントの出演以来をいただきました。こちらです。

[超chill out LIVE!!『神戯れ言』](#)



お知り合いになったのは、東京から帰ってきて以来のほんの最近なのですが、オーナーの河田さんは、お若いのにとても才能溢れる、ナイスガイです。こんな辺境で楽器屋を開こうという心意気だけでも本当にリスペクトですよ、ええ(笑)。彼のお店にはやはりそんな彼のお人柄を慕って、かなりユニークな方々が出入りされているようです。お店に行けば必ず誰かユニークな方がいらっしゃるの、何だかんだで私も、足しげく通わせていただいております(笑)。

そんな彼よりイベントのご案内をいただいたのが、先月の頭。今回は趣向を変えてChilloutで行きたいと。やるやる。是非混ぜて、みたい。最初はお持ちのライブハウスでというお話だった

のが、いつの間にやらご実家の近くの神社で、という話に。行ってみると、ロケーションも抜群。しかもダメモトで宮司さんにお話を持っていくと、「是非やって下さい」と即決だったそうです。後でいろいろとお話させていただいたのですが、こちらの宮司さんは非常にオープン・マインドでアクティブな方ですね。東京からコンテンポラリー・ダンサーを招かれたりとか。ちょっとびっくりです。「神社も時代に合わせて変わらなければいけない」とおっしゃられていました。そのお言葉には、とても共感いたします。

取り敢えずメインアクトという名誉をいただきましたので、任して下さい。バッチリ準備します。サポートは例の如く、Dr. Yuki。ご家族引き連れて温泉旅行も兼ねて、ご参加いただけるようです。

さあて、今回は何をやろうかな。ちょうど最近アンビエント・ダブに凝ってるから、その路線で行こうかな、と言いつつ、直前で気が変わってトリップ・ホップに変わる可能性あり、ってあまり変わんないか。

当日はせっかくですので、**神社あるいはパワー・スポットでどうやってエネルギーを知覚するかの検証実験**もやっちゃいましょう。ええ、スピリチュアル系とは一味違った、**地球からエネルギーを引きずり出す方法**ですよ。いやー、**ライブハウスやコンサートホール、あるいは普通のミュージシャンではありえないこの企画**。見逃せませんよ(笑)。

というわけで、**超chill out LIVE!!『神戯れ言』**、皆様のお越しを心よりお待ち申し上げます。

恐るべきインドネシア呪術の世界エピソード3～死なない魂、死ねない魂

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

嫌がる妻をなだめすかして(笑)インドネシア呪術の話が無理やり聞きだしていると、非常に面白い認識の違いに出くわすことがあります。

今回お話しするのはその一つ、霊能力に関する捕らえ方の違いです。

日本では昨今のスピリチュアル・ブームで神秘的なイメージのあるこの言葉ですが(あるいは、最初から馬鹿にされているか(笑))、インドネシアでは違うようです。どう違うのか？

それはずばり、インドネシアでは**霊能力を持っていると、ロクな死に方をしない**と考えられるそうです。

確かに私の経験上も、自分は霊能力を持っている、と主張なさる方で、可哀想にこの人ロクな死に方せんだろうなと思わされる方には何人かお目にかかったことはありますが(笑)、今回は少々趣が違います。彼女によると、その説明はこうです。インドネシアでいう霊能力というものはもともと、人間と別個の存在です。その両者が何らかの原因で一体となっている状態にある人を、霊能者と呼びます。その状態には、次の三つがあります。

?何らかの呪術的なトレーニングを積んだ人。

?先天的に偶然、そのような能力を持って生まれた人。

?特殊な状況下で生み出された特殊なアイテム(いわゆる、パワー・ストーンなど)を所持している人。

こうしてみると、?以外はよくありそうなケースですが(そうでもないか。僕だけか?(笑))、こういう人達はインドネシア呪術の観点からすると、ともかく**ロクな死に方をしない**そうです。

具体的には、どういうことなのでしょう。このような人の場合、先ほども申しあげました通り、霊能力とその人は、一体化しています。しかし人は人、いつかは必ず死を迎えます。問題が起こるのは、この時です。死という現象を目の前にして人間の肉体は崩壊していきませんが、霊能力と一体となった精神は、崩壊しないのだそうです。するとどうなるか。普通の人の場合、肉体の崩壊と共に精神も崩壊していきませんが(意識の混濁など)、このような人の場合は、精神は死なない。霊能力にばっちり裏付けされているわけですから。畢竟、死に逝く苦しみをその霊能力と一体となったクリアな精神でもって、思う存分に味わうことになるのだそうです。それだけではありません。肉体は物理的な存在ですから、いずれ完全に機能を停止します。しかし先ほども申し

ました通り、精神は死にません。その肉体から離れた精神は、あてどもなくさ迷うことになります。

それについて、妻は次のようなエピソードを語ってくれました。

高校生だった頃のある日、友達が血相を変えて教室に飛び込んできたそうです。「タベ恐ろしいことがあったの！」わけを聞くと、彼女は怯えながら、こう話しました。一昨日、近所のお婆さんが亡くなったのだが、こともあろうにそのお婆さんが、自宅に現れたのだそうです。深夜誰かが戸を叩くので、不審に思った彼女の母が戸を開けると、そこに立っていたのは、そのお婆さんだった！凍り付いて身動きが取れない彼女の母に向かって、そのお婆さんは、実は自宅にあった〇〇〇が見当たらないのだが、あんた知らないか、と尋ねたそうです。母は勇気を振り絞って、知りません、と答えると、お婆さんは何処ともなく、消え去ったそうです。

その後数日間、近所に住む人達は、幾度ともなくこのお婆さんの訪問を受けたそうです。ついに彼らは、集まって対策を協議しました。実はこのお婆さんは、昔から不思議な霊能力を持っているということで、近所では有名だったそうです。彼らは話し合いました。恐らくこの霊能力が邪魔をしているお陰で、あの婆さんは死ぬに死ねない状況になっているに違いない、ここは一つシャーマンに相談して、婆さんからこの霊能力を除去する儀礼を行ってもらう必要がありそうだ。

早速次の日に、シャーマンが呼ばれました。彼らは墓を暴いてお婆さんの亡骸を取り出し、霊能力を除去する儀礼を執り行いました。それ以降そのお婆さんが、近所を徘徊することはなくなったそうです。

ところで、気功や仙道の研究者たる私としては、これは非常に奇妙に思えます。何となればこの分野には、「陽神」ですとか「ポア」ですとか(例の宗教団体のそれではありません(笑))、精神を肉体から離れて独立させることで、いわゆる不老不死を実現させようとする行についての記録も、存在するからです。しかしインドネシア呪術では、それは好ましい状態ではない、ということになるみたいです(同じことは、カスタネダ・シリーズの中でドン・ファンも指摘しています)。

これらの例から総合的に考えると、いわゆる古来から言われてきた魂というものは、何らかの場のようなものとの関係があるのではないか、と思えてきますね。この点に関して友人の物理学博士と議論した際には(Nさん、地震気をつけて下さいね・・・)、ご自分の経験からして、彼はそれは、熱力学的な場なのかも、と言っていましたね。

具体的には、こんなイメージでしょうか。空間に何らかの熱の場を人工的に作り出し、それをコントロールすることで、いわゆるオカルティックな現象を引き起こす。そのうちにその熱の場は

、その人物と独立しつつも、不可分の存在になる。挙句の果ては、その熱の場に彼の精神を刷り込ませることで、肉体からも独立した存在となろうとする。これを仙道の場合だと「[出神](#)」と呼んで評価するけれども、インドネシアではそれは、真逆の評価となる・・・。

何はともあれ、こうやって違う文化圏の人とディスカッションすることで、自分の持っていた知識を違う角度から見られるようになる、というのは、比較人類学的な点から見ても、非常に面白いですね。妻は嫌がっていますけれども(笑)。というわけで私も、空間に熱を発生させて遊ぶのは、当面控えるようにします・・・。

The Ultimate Ambient Collection Mix 7

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

The Ultimate Ambient Collectionシリーズの第七弾です。ようやく落ち着いて音楽に取り組める環境になって来ました・・・。

というわけで、Enjoy！

[The Ultimate Ambient Collection Mix 7](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ここ倉吉は、基本的にgloomyである。

最近はずすかに暖かくなってきたのでそうでもないが、引っ越した当初の4月前後は気温も低く、gloomyテイスト炸裂であった。さすが「山陰」というだけのことはあるわい。外へ出ても寒いし、賑やかさは東京と比べるべくもない。友達もいない。ええ、嫌われ者だし(笑)。畢竟我々夫婦は、家に引き籠もりがちになる。

そんなヒッキーの私の心を唯一慰めてくれるもの……。それは言うまでもない、オカルト話である。しかもせっかくだから、インドネシアの濃いのが聞きたいぞ。

そのことを妻に言うと、あんたは狂ってる、こんなgloomyな空模様の下で、gloomyな音楽を聴いて(Brian Eno最高！)、よくそんな話を聞きたいという気になるな。何を言う、gloomyだからこそ、雰囲気に合わせてgloomyな話をしたいんじゃないか。第一気功には、「陰中に陽あり、陽中に陰あり」というコンセプトもある。陰気なオカルト話の中にこそ、陽気を生み出すキーが隠されているんだぜ。ポジティブに行こうよ。私のこのような論理武装に妻は勝てるべくもなく、抵抗空しく最終的に、私の軍門に下ることになる。

その彼女が一昨日話してくれたのが、この話である。この女、叩けばまだまだ埃が出てくると見た……。

私の妻が、大学三回生だった頃の話である。

彼女の大学では、毎年バリへ、修学旅行に行くことになっていた。その行程の中には、有名なタナロット寺院も含まれていた。観光地として有名なタナロットだが、不思議なことに、教官は彼女達に、現地に着いたら絶対に自分の指示に従って行動すること、不用意に周辺のものに触れたりしないように、と繰り返し話した。彼があまりにも何度も言うものなので、訝った彼女達は、タナロットに何かあるのか、何かあったのか、と尋ねた。

すると彼は、数年前に彼女達の先輩に起こった、奇妙な事件の話始めた。

妻がこの大学へ入学する、数年前の話である。この年も彼らは、同じように、バリへ修学旅行へと赴くことになっていた。その目玉は言うまでもなく、タナロット寺院である。海の上に浮かぶこの寺院の神秘的な姿は、いつでも、見る者を幻想の世界へといざなう。

一通り団体行動が終わると、自由行動の時間になった。ドイツ語専攻であったA君は、友人と共に、付近を散策することにした。

広い敷地内を歩いている内に、小さな洞窟が彼らの目に映った。その洞窟は、「グア・ウラル(蛇の洞窟)」と呼ばれるものである。中に入ると壁一面に、たくさんのひび割れがある。看守によるとその中には、白い蛇がたくさん住んでいる。蛇達はたまにそこから、体を半分だけ出して、外をうかがったりするらしい。二人が覗き込むと、確かに白い蛇がたくさんその中にいるのが目に入った。

興味を覚えたA君は、この蛇を首に巻いて写真を撮りたい、と看守に申し出た。看守は、構わないですよ、ただし蛇に触るのは、私がやります、蛇は神聖な生き物ですからね、と答えた。しかしA君は、神聖だって？馬鹿馬鹿しい、こんな白い蛇くらい、恐くも何ともない、自分でやりますよ、と言うが早いか、割れ目に手を突っ込むと白い蛇を引きずり出し、まるでアクセサリーを扱うかのようにくるくるっと首に巻いて、さあ撮って下さい、と看守に告げた。看守はそれに対して何も言わず、黙って写真を撮った。

奇怪な出来事が起こったのは、その深夜であった。

一行が泊まっていたホテルで、突然、けたたましい叫び声が聞こえた。飛び起きた一行が外へ出ると、A君がものすごい形相で辺りを走り回っている。その様子はまるで、何かに追いかけているような感じであった。しかし周りの人には、A君以外何も見えない。彼は完全に錯乱した様子で、館内を逃げ回っていた。

何か大変なことが起こったに違いない、しかもその様子から、典型的な憑依現象と言えそうだ。そう考えた教官は、彼をバリのパダンダと呼ばれる司祭のところに連れて行くことにした(余談だが、インドネシアでは憑依現象は、日常的に見受けられるらしい。それはそれで、極めて興味深いことのように思われる)。

彼らから症状についてひとしきり説明を受けると、パダンダは逆に、もしかして最近何か、神聖な場所を侮辱するようなことはしなかったか、どこか特別な場所に行ったか、と尋ねた。

その時A君は初めて、例の白蛇の話をした。

パダンダは納得が行った様子で、こう彼に告げた。「お前は神聖なる白蛇を侮辱した。それが原因だ。本来ならば絶対に看守の言うことに従わなければならないのに、お前は慢心からそれを無視して、白蛇を辱めたので、精霊が怒ってお前に、呪いをかけたのだ」。

驚いた二人が、それではどうすれば良いのか、と尋ねると、パダンダは、直ちにタナロットに戻って、呪いを解く儀礼を執り行う必要がある、と答えた。

しかし、それを拒否したのは、当のA君であった。冗談じゃない、この世に呪いなんてあるものか、そんなものは信じないぞ、第一自分は、敬虔なムスリムだ、異教であるバリの儀礼なんて(ご存知のように、バリはインドネシア唯一の、ヒンドゥー教の地である)、絶対に受けるものか。彼があまりにもかたくなに拒否するものなので、教官は諦めて彼を連れて、ひとまずバンドンへ戻ることにした。

しかし、事態はそれで収まるべくもなかった。毎夜、特定の時間になると、彼は悲鳴を上げて辺りを走り回った。まるで逃げ惑っているようにして……。仕方がないので家族は、同じムスリムであるイスラム教の司祭のところへ、彼を連れて行った。しかしその司祭にも、どうすることも出来なかった。私ではとても太刀打ち出来ません。彼はどうしても、タナロットへ戻らなければならない、司祭は諦めた様子で、こう告げた。

そのような状態が約一年続き、とうとうA君は根負けした。折りしもその時、次の年の修学旅行が始まろうとしていた。教官は彼を、タナロットへ連れて行くことにした。

実は彼が、儀礼をかたくなに拒否していたのは、理由があった。彼は、ヒンドゥー教の儀礼を受けるためには、ヒンドゥー教に改宗しなければならないのだ、と思い込んでいたのだ。タナロットの司祭は笑って、そんな必要はない、ただ黙って私について、儀礼を執り行えばいいだけの話だ、余計な心配はする必要はないよ、と諭した。彼は安心して、彼について儀礼に参加した。

その直後、全ての奇怪な現象は収まった。

妻の聞いたところによると、この話のように、バリで何らか魔術に関連した事件に巻き込まれると、それを解除出来るのは、唯一バリの司祭だけで、同じ魔術師であっても、他の場所に住む魔術師では、どうにもならないらしい。バリで受けた魔術を解除するためには、必ずバリへ戻らなければならない、というわけである。

最近の日本はスピリチュアル・ブームで、バリはその聖地のように憧れられているようだが、意図的か否かにかかわらずうっかりこのようなケースに巻き込まれると(例えば、あなたの恋を成就するために、精霊を使ったおまじないをしてあげますよ、みたいな。日本の女性は好きそうですね(笑))、後が大変なので、十分注意が必要かも知れない。

[タナロット寺院](#)

パワースポット探訪(6)～須佐神社

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

このゴールデンウィーク、東京から嫁さんのお友達が観光へ来られたので、彼女達を連れて、山陰地方パワースポット探訪小旅行へと出発することにいたしました。

自宅のある倉吉を10時過ぎに出発、途中お袋の経営する琴浦町内のブティックへ立ち寄って挨拶をした後、一路西へ向かいました。最近高速道路が整備されたので、出雲へ行くのにはだいぶ時間の短縮になります。でも高速は山ばかりで、あまり面白くなかった……。帰りは宍道湖を眺めながら、9号線を通るとするか。

そんなこんなで出雲市から立久恵峡という名勝を経由して到着したのが、ここ須佐神社。

何でも最近、某スピリチュアル・カウンセラーがこの神社を「日本一のパワースポット」と紹介して以来、観光客がぐっと増えたそうです。うーん、マスメディアの力は恐ろしい。言うまでもなく僕はその話を、現地で初めて知ったのですが。ええ、テレビ見ないですから(笑)。僕のソースはもっとアカデミックで、祭られているスサノオノミコトはオホクニヌシノミコトの義父ですから、出雲神話フリークとしては、この神社を外すわけにはいかない。

というわけで、念願叶ってようやく辿り着きました。

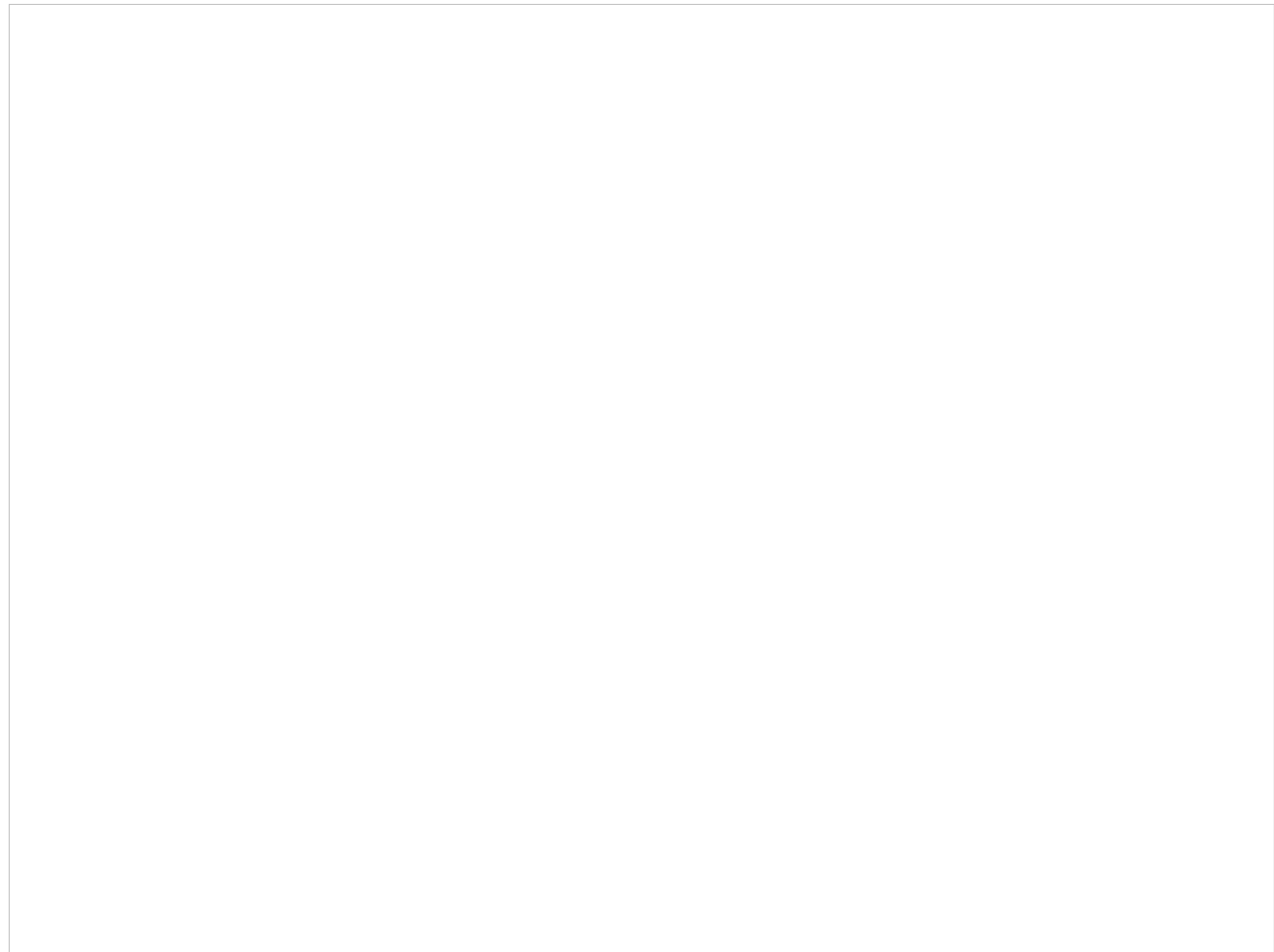
・・・で、気功家としては気になったのは、この亀を模した石群です。垣根があったので踏んづけるわけにはいかなかったのですが、とてもいい感じがします。良く見ると、石には「〇〇〇〇奉納」みたいなことが書いてあるので、取替え可能みたいですね。ということは、問題となるのは石ではなく、この場所そのものなんでしょうね。

更に、本堂。



この辺りも、妙に温かいです。特に、本堂に奉られている鏡が見える位置に立つと、何だか目に棒を突っ込まれて脳内をかき回されているような感触がしました。頭頂を内側からどつかれているみたいな(笑)。当然体はポカポカ。この日は気温が低く、同行の二人はかなり寒がっていましたけれども(何せ、かなり山奥ですからね)、僕は幸いそんなことはありませんでした。お陰を受けて、ありがたやありがたや。

もう一つ気になったのは、本堂に対して立っている伊勢堂のそばにあるこの囲い。



大宮氷川神社もそうですけれども、本堂から少し離れたところにこのようなモヤモヤジェネレーターがあるというのは、非常に面白い。

というわけで、十分に付近を散策した我々は、神社を後にして、宿である出雲市に向かいました。

・・・で、これまた後で知ったのですが、先のスピリチュアル・カウンセラーが紹介したのは、実は写真にもある大杉だったそうですね。ふーん、そうですか。それはそれは。僕のような邪悪極まりない気功家では役不足だったみたいですね(笑)。

<追記>

余談ですが、宿をお取りになられる際は、出雲駅前はお止めになられた方が賢明だと思います。居酒屋などしかなく、レストランとか皆無です。玉造温泉で宿を取れば良かった・・・。次はそうしよう。

これは画期的！その場であつという間に鼻づまりを治す方法・・・だそうです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

うちの嫁さんは、**アレルギー体質**です。

アレルギーは、気温。さもありなん。里であるバンドンは、年がら年中気温27度。ほとんど変化することはありません。ところがご存知のように、日本には四季がある。特に最近は天候が不安定で、気温はしょっちゅう乱高下。結果として早朝になると、寝ている横で、セレモニーが始まります。ええ、母国の礼拝並みに賑やかですわ。

何とかならないか、と言うものですからネットで調べてみると、こんな記事を見つけました。

[これは画期的！その場であつという間に鼻づまりを治す方法](#)

・・・てなわけで、早速嫁に生体実験させると、あら不思議。一撃で効いたようです。これで明日からは、穏やかに眠れそうな気配・・・。

そんなわけで、同じ症状に苦しむ皆様、是非お試しを。

え？私がそうなったらどうやって治すのか、ですって？もっと簡単です。鼻に意識を持っていったら、鼻腔がメキメキ鳴って(ホントに鳴るんですよ)、自然と解消します。でもこれは、あまり万人向けではなさそうですね(笑)。

ついに鳥取も桜満開。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

気温が上がったり下がったりとかなり不安定な天候が続きましたけれども、昨日辺りからようやく春らしくなりました。運転中は、暑いくらいでした。

仕事先の帰りに寄った打吹山で、桜の写真を撮ってみました。市内も、満開の様子ですね。



一番ホットな話題。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

・・・であるところの原発について、非常に考えさせられる記事を見つけましたので、ご紹介したいと思います。

[福島第2原発3号機運転差し止め訴訟原告証人 平井憲夫さんの生前の訴え on まいごのブログ](#)

因みに、今回の私の新居倉吉市と鳥取市の間辺りに、それこそ原発を作るプランがあったそうですが、地域住民の猛反対によって、頓挫したとか。もし目下の状況と同じようなことが起こっていたとしたら、間違いなくうちも立ち入り禁止区域になって、避難を余儀なくされていたでしょうね。

因みにうちの親父の話によると、鳥取県の場合はそのほとんどが、水力発電によって十分賄われているとか。叔父は、その発電所の勤務でしたしね。ええ、人口少ないですから。永遠のエコ・鳥取県。

・・・と思ったら、こんな記事も。

[ネット上に反原発“バイブル”拡散 正確性欠く内容](#)

さてさて、どちらを選べば良いのでしょうか。最近こんなのばかりですね。

放射能に関する情報サイトです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

以下のサイトはグラフになっていて、非常にわかりやすいですね。

[ガイガーカウンタによる放射線量測定](#)

[全国の放射能濃度一覧](#)(←鳥取県は、東伯郡にあるんですね。どこでしょう。)

因みに、ネタ元はこちらです。こちらも大変参考になります。

[【東日本大震災】放射能汚染が気になる人へ 少しでも不安を和らげる記事](#)

因みに都内は、微妙な緊張感が漂っています・・・。

皆さん、協力しましょう！

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

気功の専門家から、備えに対するTips。

寒い時には、胡坐をかいた姿勢になって、太ももの内側に毛布を被せて下さい。かなり温まります(太ももの内側の『脾経』という、全身の血液循環をコントロールする経絡の働きと思われます)。私はこの方法で、冬場でもあまり暖房器具を使いません。逆にエアコンなどより、この方が温まります。経験上。

出来ることから、協力しましょう！

このような記事を読むと・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

本当に涙が出てきますね。

昨今の日本は内でも外でも叩かれてばかりで、自信をなくしていた。でも本当は、恐るべき底力を秘めていたのです。この記事以降も、日本人の行動に対しては、各国から高い評価を与えられているみたいです。

皆さん、出来ることから始めましょう。一緒に助け合いましょう。

[日本人のモラルに世界が驚く\(ここへJAPAN\)](#)

東北関東大震災義捐金を受け付けます(日本赤十字社のページより)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

日本赤十字社の義捐金募集ページへのリンクです。

僕としてもこんなことぐらいしか出来ませんが・・・。皆様のご協力を、心よりお願い申し上げます。

[東北関東大震災義捐金を受け付けます\(日本赤十字社\)](#)

事務所移転のお知らせ

謹啓 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、諸般の事情に寄しまして、東京事務所を閉鎖して、鳥取の業務へと一本化させていただきます。

従いまして、東京での施術及び指導の業務は、今月27日までとさせていただきます。鳥取での業務は、30日より、以下の場所にて、継続致します。

〒682-0023 鳥取県倉吉市山根425-1 牧山住宅2号

Tel & Fax:0858-26-5188

〒689-2334 鳥取県東伯郡琴浦町逢束1211 ナカハラ洋装店2F

Tel & Fax:0858-53-0383

なお関東方面に関しましては、今年より定期的に、無為気功養生会京橋教室にインストラクターとして参加させて頂いておりますので、御用の方はそちらまでご連絡頂ければ、幸いです。

それでは、宜しくお願い申し上げます。 敬具

やわらぎ点穴クリニック(無為気功養生会千駄ヶ谷教室) 中原勇一

The Ultimate Ambient Collection Mix 6

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

The Ultimate Ambient Collectionの第六弾です。

Enjoy !

[The Ultimate Ambient Collection Mix 6](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

『臼木英之展'11 -絵と絵衣-』

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

本日、京橋[金井画廊](#)さんにて開催されております『[臼木英之展'11 -絵と絵衣-](#)』にお邪魔致しました。

臼木さんとは数年来のお付き合いなのですが、私は彼の空間性に飛んだ諸作品は、とても好きです。今回は『絵衣』という、生地には絵画をしたためてそれを服にした諸作品や、BIWAKOビエンナーレ2010でもご一緒させて頂いた"HUST"というインスタレーション・ユニットでのご経験から培われた造形作品などとの同時企画展ということで、まさに盛りだくさん、といった内容のイベントでした。

私が特に深い印象を抱いたのは、DMにもありました『心映』という作品ですね。彼の作品は『光』に焦点が当てられているような傾向がありますけれども、私があえて注目したいのは、その『光』ではなく、それを取り巻く『闇』の方ですね。何故なら、『光』が映えるのは、まさにそこに、『闇』があるからです。しかも彼の『闇』には、暗さがない。その『闇』そのものまでが、『光』を放っている。そこには軽やかさがあるわけです。ダークネスを描く作家にありがちな重苦しさが、全くない。この点が、彼の作品のユニークさなのではないか、と思います。

今回の展覧会も、全展示室で、私の音楽を使って頂きました。ご好評を賜っていたようで、とても光栄です。有難うございます。因みに、『Blues』という曲が流れている最中に、いらっしゃった何人かのお客様とお話をさせて頂いたのですが、皆さん流れているこの私の作品が、エレクトリック・ギター一本で制作されたと聞いて、衝撃だったようです。"エレキ"と言えば、「ギューーン！」ですからね。それがあのような空間的な音になるというのは、馴染みのない方にはちょっと想像が難しいのかも知れませんね。ええ、全然"Blues"じゃない、みたいな。そのようなパブリック・イメージを破壊することが、作曲家の腕の見せ所だったりもするわけですが(笑)。また、画廊のオーナーさんや美術イベントの主催者の方達と、今後の日本のアートのあり方について議論させて頂いたりして、とても有意義な一時を過ごさせて頂きました。有難うございました。

というわけで、[『臼木英之展'11 -絵と絵衣-』](#)、是非ご堪能あれ。

Mixcloudにて怒涛のリリース。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先だっご紹介したネットラジオ"Mixcloud"に、更にセットを追加してみました。

まずは、アンビエントを三つほど、Mix 5まで。

[The Ultimate Ambient Collection Mix 3](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

[The Ultimate Ambient Collection Mix 4](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

[The Ultimate Ambient Collection Mix 5](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

続きまして、プログレッシヴ・ハウスを二つほど。

[The Ultimate Progressive Collection Mix 1](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

[The Ultimate Progressive Collection Mix 2](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

更に、ディープ・ハウスを二つほど。

[The Ultimate Deep Collection Mix 1](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

[The Ultimate Deep Collection Mix 2](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

Mixは全部、Ableton Live v5.2.2で行いました。時代が変わっても、5.2.2。何しろ、軽いですからね。この軽さは僕には重要です。

次は、ラウンジでもミックスしてみますかね・・・。BGMに、是非どうぞ。

超能力は、本当に超能力なのか。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

「超能力」、この言葉ほど、様々な議論を引き起こすものはないと思います。もちろん、肯定するにしろ、否定するにしろ(というか、今ではこの言葉、レトロ過ぎますかね。昭和キッチュの代名詞とか(笑))。

私もかつてはこの言葉に、例えようもないほどのロマンを感じた者の一人でした。とは申せ、私の興味は、幼少時に流行ったようなスプーン曲げなどの超能力ブームとは全く関係なく(高島忠夫さん、お元気ですか?)、むしろ、空海や役行者、あるいは老子や荘子などの、いわゆる修験道や道教で英雄視される人物に対する興味から起こったものなのですが。

もっともそれが高じて、小学一年生で仏典に親しみ、般若心経や密教の真言を誦んじるなど、まあ「若干」早熟系ではありましたが。

その当時出会った以前総力特集でご紹介頂いた学研の『ムー』などにも影響を受けながら、諸先生方の温かいご指導の下にその世界に本格的に足を踏み入れるようになったというのは、我ながら奇妙な巡り合わせだとは思いますが、しかしその今の私が、果たしてそのような能力を本当に「超能力」と考えているのかどうか。

その答えは、「ノー」です。

これは、単なるものさしの問題だと思います。例えば、小学生の子供にしてみたら、理解出来ない算数の問題をさらりと解く大学生のお兄さんなどは、さすが大人だなと思うどころか、それこそ宇宙人のように思えるかも知れません。しかしそれは言うまでもなく、大学生のお兄さんの方が知恵と経験が豊富なだけです。

私の経験から申せば超能力に関する問題も、これと全く同じですね。つまり、結論から言えば、超能力とは、「超」能力ではありません。ある一定の経験あるいは修練を積み重ねれば得られる、当然の結果に過ぎません。

というわけで今回は、超能力にまつわる分野で、実際の気功やヨガと関連が深いと考えられるものについて、いくつか考えてみたいと思います。

<未来予知、あるいは読心術、テレパシーに関して>

坐功をしていると、様々なイメージが頭の中を駆け巡ります。私達はただそれを眺め続ける。このようなトレーニングがあります。いわゆる、「内観」とか「止観」と呼ばれるものですね。

そのようなトレーニングを続けると、一体どうなるか。それによって培われるものの一つは、冷徹なまでの観察能力、といえると思います。

これを解かりやすく説明すれば、実感としては、「今日言いたいことは明日言え」という昔からある言い回しが、その例として適当かも知れません。今日言いたいことを今日言うのだとすれば、良く考えずに感情的になってしまいがちですが、それを明日まで我慢するとすれば、それを冷静に、じっくりと考える時間を得ることになります。その結果、感情的に反応するよりは、ベターな結果を得ることが出来ます。

別の言い回しに換えれば、「一步引いて見る」ということですね。そうすれば当然、感情的に反応するよりは深い洞察力を用いて、物事に沈着に対処することになりますので、失敗の可能性は当然、少なくなります。「欲」があれば超能力が発揮できないというのは、この点から見ても解かりますね。つまり、「欲」という感情によって、判断が曇らされるわけです。

それが深化すると、更に興味深い現象が現れてきます。例えて言えば、全てがパターンとして立ち現れてくる、といった感じでしょうか。例えば、Aさんの行動パターンは、Bさんと似ているな、そう言えばBさんとはこんなトラブルがあったから、気をつけなければ。こんな感じですね。

だとすれば、全く五里霧中で対処するよりは、記憶の中にすでにある何らかの情報を基にして対処することになりますから、理想的な結果を得るのは、さほど困難なことではありません。

逆に、アイロニカルに言えば、こうなるかもしれません。一般の人の行動は、およそ一次関数的です。ある一定のパターンの中で食事をし、服を着、おしゃべりしています。誰しもが、自分は自由に物を考えている、と思っていますが、それがパターンだとは、誰も気がついていないのです。例えそれが、操作されたものであったとしても(フランスの精神分析家ジャック・ラカンは、「人間は言語によって無意識まで構造化されている」と指摘することによって、構造主義への道を開きました)。

そして、ご存知のように一次関数を決定する要素は、「切片」と「傾き」です。それは人に当てはめた場合、「現在」と「傾向」と言えます。つまり、その人の現在の姿と、その人の行動パターンさえ読めれば、その人の未来や過去を読むことは、極めて簡単なことなのです。

未来予知や読心術、テレパシーのからくりは、ここに 있습니다。「あんな大人しい人がどうして・・・」といったコメントがよくテレビその他で見られますけれども、そのテレビには全く映らない場所で、「あいつならいつか絶対にやるだろうと考えていた」という人は、少なからずいると思います。前者は表面しか見ていないけれども、後者は違うのであり、そちらの方が今の文脈では、より重要なのだ、ということです。

あるいは、このようにパターン認識といった命題を持ち出さなくても、もっと簡単に説明可能かも知れません。先だってある集まりで、「〇〇先生は、ちょっと話をしただけで相手の病状を的確に読み取ってしまったので、とても驚いた。中原さんもそのようなことが出来るのですか？」と問われたので、「ええまあ」とお答えするわけですが、それは当たり前でしょう。仕事なんですから(笑)。例えば、エンジン音を聞いただけで、車のどこに問題があるかを瞬時に指摘するベテランの修理工のおじさんがいるとします。そのようなおじさんは「腕がいい」と評価されるわけですが、普通「あのおじさんは車の心が読める」といった言い方はしません(する人はいるかも知れませんが)。これが人間相手だとなぜ騒ぎになるのか、私はとても不思議ですね。

多分オーラとかいうものは、この辺りに絡んでくるのではないのでしょうか。心理学で『共感覚』という、ある特定の音を聞いたらそれに対応する光が見えたりするといった現象がありますけれども(物理学者のファラデーや特斯拉などは、この感覚が異常亢進していたのではないかと、という説がありますね)、それと同じで、ある情報を視覚的に捕らえるタイプの人がいるというのは、あり得ることではないか、と思います。

というわけで、未来予知、読心術、テレパシーなどのリーディングに関しては、「研ぎ澄まされた観察能力」ということで、十分に説明可能だと思います(同じことは、ミルトン・エリクソンも言っていますね)。

それを考えれば、ある本で、例の2001年の同時多発テロの発生を細部に至るまで完璧に予知してビジネスを行ったある投資家の話を読んだことがあります、私にとってはそのような人物の方が、よほど超能力者的なように思えますけれどもね。

<不老長寿、無病息災に関して>

気功などのトレーニングをすれば、不老長寿は可能なのか？ズバリ、可能だと思います。

例えばこの私。私はこの15年以上、お医者にかかったこともなければ、薬さえ飲んだことがあ

りません。そんなことを言うと、元々体が丈夫なんだろう、と思われるかも知れませんが、少なくとも大学の頃までの私は、月に一回は風邪を引いて寝込んでいました。高校受験のプレッシャーに負けて肺炎にかかって一ヶ月近く学校を休んだりとか。ええ、チキン野郎ですから(笑)。そう言えば、大和銀行の新入行員研修中に風邪をこじらせて、人事部の偉いさんの車で病院に担ぎ込まれて点滴されたこともありましたね。でも今は違います。これはどう考えても、気功のせいですね。それしか変わったことはないのですから。もちろん、全然風邪も引かないのかと言えば、それは嘘です。でも、せいぜい年に一回ですね。それも坐功と点穴で治すので、結果として、病院へは行かなくて済みます。

ここで、気功治療に関して専門家の立場から一言言わせていただくと、この分野で派手にクローズアップされるのはいわゆる「外気功」ですが、もし根本的に病気の治療だとか身体の健康の維持管理を考えるとすれば、重要なのは、自分で行う「内気功」の方です。つまり、病気を治してもらうのではなく、そもそも病気にかかりにくい心身を作り上げる方が、より重要なのです。

「内気功」などと言っても、その中身は神秘的なものでは全くなく、ぶっちゃけ、全身の関節および筋肉を緩めて、じっとしているだけです(これがコツがいるわけですけども)。そうすれば血液が、全身の各細胞に的確に配分されることになりますから、当然それらは活性化されて、結果として、丈夫な身体を得ることが出来ます。それだけの話です。しかしそのようなことも、普通の方はお出来にならないわけですから、そういう意味では私はラッキーだな、とは思いますが。うちの家族もそうですね。病院に行ったなどというのは、近年ついぞ聞いたことがないです。健康診断なんて、みんな行かないですね。「面倒臭い」とか「人に会うのが嫌だ」とか言って。ええ、血筋なんです(笑)。反面、気功の練習は欠かしたことなさそうですが。

もっとも人間ですから、若い時に比べて顔形なども全く変わらないのかと言われれば、そうではありませんが、それでも「昔と全然変わらないですね～」とはよく言われますね。良い意味なのか悪い意味なのかは知りませんが(笑)。でも自分自身で比べて見ても、学生時代の青白くて骨と皮だけのボロボロの自分と比べれば(丁田政二郎氏著『どがでもバンドやらいでか！』参照)、今の自分の方が全然元気ですね。皮膚とかいつも真っ赤でツルツルですし。今41歳ですけども、体力が落ちたな、さすがに寄る年波には勝てないなんて、幸い今のところ、感じたこともありません。もし学生時代の自分と今の自分とが戦ったとしたら、一撃で殺せます。最初から勝負にならないだろう、というのはあります(笑)。

ただ、不老「不死」は解かりませんね。仏教系や道教系、あるいはヤキ・インディアン系のメソッドで一応そういうのはあることはありますし、そのやり方も理解出来ます(鍵は、「熱」にあると思います。この点で、某物理学博士と意見の一致を見ました。あるいは死と「調和」するということですね)。ただ実際に試したことがないので、解からないですね。今のところその必要性を感じていないので。まあ、死にそうになったら試してみます(笑)。しかし今見てきたように、

不老「長寿」に関しては、私の見たところ、確実に達成できると思います。

もっともある統計によりますと、最近の若い方は長生きしたくないそうですので、不老長寿なんてあまり魅力がないかも知れませんが(笑)。

<「気を使えば通常の数倍の力が出せる」というのは本当なのか>

結論から言えば、本当です。以前の繰り返しになるかも知れませんが、次のようなプロセスで、簡単に実験できます。

(1)体重計を用意する。

(2)それを力一杯押して、その結果を計る。

(3)もう一度押す。ただし今回は、「丹田から発した気が背中を経由して手の平を抜けて地球の中心めがけて走り抜ける」といったイメージを持ちながら、やります。その結果を計って、(2)と比べる。

いかがですか？私の場合、イメージなしでは約15キログラム、イメージありですと約45キログラムで、実際に3倍近い力が出たことになります。

これは、このようなイメージを使うと、動員される筋肉の量がより多くなるからです。特に背筋ですね。ですから、力は物質の量に比例して大きくなる、という物理学の原則から考えますと、当然の結果、ということになります。寸勁だとかもそうですね。あれは腕の力ではなく、腰あるいは大腿部の筋肉の力です。当然後者の方が質量は大きいですから、まともに喰らうと、内臓はグチャグチャになったりします(吉福康郎氏著『格闘技「奥義」の科学』)。

つまり武術では、通常に比べて筋肉の使い方が合理的、ということですね。畢竟武術をきちんと修行すると、最小限の力で最大限の力を発揮する、という理想的な心身が形作られることになります。このような原理の集大成が、武術あるいは気功(この場合は、いわゆる硬気功ですね)のエッセンスなのだ、ということです。

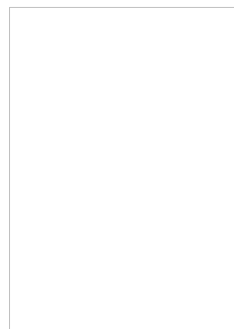
ただ、『スター・ウォーズ』に出てくるような「フォース・グリップ」のようなもの、あるいは空勁のようなものに関しては、まだよく解からないですね。とは申せ、私の場合も施術中に、私が指を向けるとクライアントさんが動けなくなってしまうというようなことはたまにあって(こ

の前の施術では、隣で同席していた方に、私の指から強い光が出ていた、と言われましたね。因みに、私には全然見えませんが)、こういうのは人間版チェレンコフ効果というか、人体の電磁場に関連する現象なのかな、とは思いますが、まだよく解からないので、これに関しては判断留保、とさせていただきます。

・・・というわけで、超能力と呼ばれる分野で馴染みの深い事例に関して、経験を踏まえながらいくつか触れてみました。もちろんこれ以外にも超能力と呼ばれるものにはたくさんありますが、私自身が経験したことのない分野に関しては解かりませんので、論評を差し控えたいと思います。

あるいは、あえて触れたくない分野とか。「ネタバレ注意」とかって、やっぱりあるじゃないですか(笑)。

↑よろしければ、是非



[ムー 2011年 01月号 \[雑誌\]](#)

[ムー 2011年 01月号 \[雑誌\]の他のレビューをみる»](#)

評価：☆☆☆☆☆

学研マーケティング

¥ 690

(2010-12-09)



[どがでもバンドやらいでか! \(ポプラ文庫ピュアフル\)](#)

[どがでもバンドやらいでか! \(...の他のレビューをみる»](#)

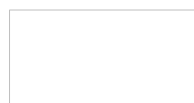
評価：☆☆☆☆☆

丁田 政二郎

ポプラ社

¥ 588

(2010-03)



[格闘技「奥義」の科学 \(ブルーバックス\)](#)

[格闘技「奥義」の科学 \(ブルーバックス\)の他のレビューをみる»](#)

評価：☆☆☆☆☆

吉福 康郎

講談社

¥ 903

(1995-08-10)

The Ultimate Ambient Collection Mix 2

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

The Ultimate Ambient Collectionの第二弾です。

というわけで、Enjoy!

[The Ultimate Ambient Collection Mix 2](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

The Ultimate Ambient Collection Mix 1

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

本日から折に触れて、インターネットでのラジオプレイをスタートしてみることにしました。

ええ、元々中学高校と、放送部でしたからね。それに、ファッションショーなどでDJをやってみても、イベントが終われば雲散霧消。でもネットだと、それを記録することが出来る。それどころか、世界中に発信出来ますからね。ネット上では、鳥取だろうが東京だろうがバンドンだろうが、関係ないですから。

実践マーケッターとしては、これを使わない手はない。

というわけで、記念すべき第一弾として、Mixcloudというサイトを用いて、私のオールタイム・フェイヴァリットのアンビエント・ミュージックを、コレクションしてみました。mixに用いるのは、もちろんAbleton Live。今回はアンビエントですが、今後はジャズやハウスなど、他のジャンルにもどんどん手を出していきますので、請うご期待。

皆様の内功のお供ともなれば、とても光栄に思います。それでは、Enjoy！

[The Ultimate Ambient Collection Mix 1](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

一年の計は元旦に・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

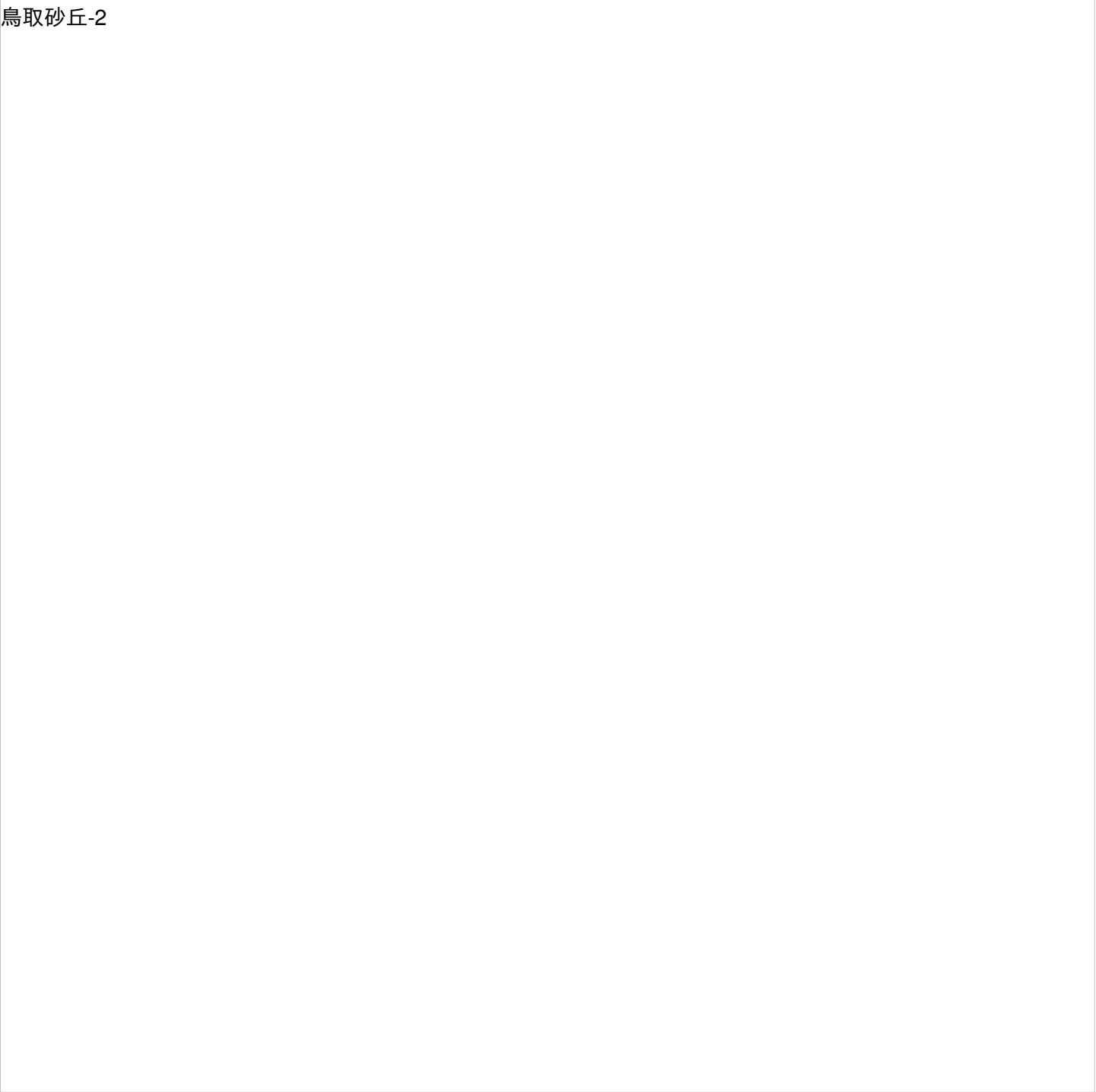
皆様ご存知のように、ここ山陰地方は正月、記録的な豪雪に見舞われました。

幸か不幸か私達家族は、車内に閉じ込められて身動きが取れないという悲劇的な状況に陥るということにはなかったのですが、そうは言ってもこの僻地、家の周りはすっぽりと雪に包まれて、外出は完全に不可能でした。

そんな中でもわれ関せずといった調子でおのれのやりたいことに精を出すというのが、我が家族。私はちょっとコンピュータ・グラフィックスに挑戦してみようかな、ということで、いくつか作品を作ってみました。

しかし、AdobeのPhotoshopって、便利ですね。私は昔からコラージュなどのコンセプチュアル・アートに多大なる興味があったのですが、それがコタツに当たりながら簡単に出来てしまうなんて。本当に便利な世の中になったものです。因みに素材は全部、鳥取県の名所です。それをウェーベルンのセリエルの技法にも近いこのやり方で、処理してみました。言わば、デジタル万華鏡ですね。

そんなわけで、ご堪能あれ。





Composition 1

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

さて皆様は、どのようなお正月をお過ごしでしょうか。

私は目下、郷里鳥取で、今年は何に挑戦しようかと、色々とプランを練っているところです。今年が皆様にとって幸多き年でありますことを、心より祈念申し上げます。

・・・てか、朝からうちの琴浦町が、全国で中継されているみたいですね。自衛隊が出動するとかしないとか。野次馬野郎の私もその光景を見てみたいところですが、そこへ辿り着くまでに私の方が遭難しそうですので、涙を飲んで断念します。

因みにうちの嫁は、初めて目の当たりにする大雪に、朝から写真撮りまくりで驚喜乱舞されておりますけれども。「寒くないじゃん」とか。どこのご出身ですかあなたは。

というわけで、今年も宜しく願い申し上げます。

中原勇一



本日発売の学研刊『ムー』にてご紹介いただきました。

51WY9up8IHL.jpg

[ムー 2011年 01月号 \[雑誌\]](#)

 [ムー 2011年 01月号 \[雑誌\]の他のレビューをみる»](#)

評価：     

学研マーケティング

¥ 690

(2010-12-09)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

本日発売になりました、学習研究社刊『ムー』2011年1月号「総力特集・徹底解明！開運パワースポットの謎」の中で、気功の専門家として、不肖私をご紹介頂けることになりました。

具体的には、「第三章：大地のパワーと感応する 気功家が体験する「場の力」の正体」という章と、「第四章：パワースポットの真実 「特別な場所」へたどり着く方法」の二章、延べ10ページに渡って、写真入りでご紹介頂いております。因みに私の友人数人も、エピソード形式でご登場願っております。

このプロジェクトがスタートしたのは、10月上旬のことでした。是非気功の専門家と一緒にパワースポットを巡って、そのエネルギーを実際に検証したい、との編集部のH氏のお申し出があり、小学生の頃よりこの雑誌に多大なる影響を受けつつ成長して参りました私としては、二つ返事でこのお申し出を受けさせて頂きました。ええ、この雑誌がなければ、気功やヨガなんて知るものですか。光栄至極に存じます(笑)。

というわけで、彼と二人して埼玉県にあります大宮氷川神社にお参りして、具体的に気功のテクニックを使ってその正体不明のエネルギーの検証を致しまして、そのプロセスの一部始終もご紹介頂いております(いわゆる『採気功』というやつですね)。彼が「全然解りません」ということでしたら私は単なるペテン師だったのですが、彼もお解りになったようで、一安心したものです(笑)。

その他、気と電磁場の関係、電波の干渉が人体に及ぼす影響に関する考察、ムード先行型のパワースポットブームが引き起こすマイナス面の可能性など、科学と伝統技法の大胆な融合を試みる異色の気功家としてご紹介頂いておりますので、もしよろしかったら是非お手にとって、ご高覧下さい。

その他の記事も、そそられますね。「実録！自衛隊が見たUFO」とか。最近我が夫婦は二人して、アメリカのTVシリーズ「X-Files」にハマっているもので、あまりにもタイムリー感が(笑)。

この場をお借り致しまして、編集のH氏には、心より御礼申し上げます。本当に有難うございました。今後とも宜しくお願い申し上げます。

↑よろしければ、是非

休講のお知らせ

謹啓 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、数ヶ月前から行っておりました水曜日教室ですが、諸般の都合に拠りまして、しばらくお休みとさせていただきます。

指導をお考えの方は、今まで通り、個別でのセッションをお選び頂きます様、お願い致します。

それでは、宜しくお願い申し上げます。

やわらぎ気功クリニック 中原勇一

[武満徹:四季](#)

 [武満徹:四季の他のレビューを見る»](#)

評価：★★★★★

ランタ(ミカエル),武満徹,山口浩一,ヤマシタ・ツトム,山口保宜,高橋諭,佐藤英彦

ポリドール

(1997-02-26)

JUGEMテーマ：[名曲と名盤](#)

先日友人に、『アマデウス』のDVDを借りて見ました。

何とも、後味の悪い映画でした。

私は作曲をするといっても大したことないので、人様の作品に関してはあーだこーだと言える立場ではないのですが、もし私がサリエリだったら、そしてこの人物が目の前に現れたら、愛憎入り混じる複雑な感情を抱いてしまうであろう（殺意までは抱かないでしょうけど）という人物が、この世でたった一人だけいます(というか、いました。故人ですから)。

それが、この方です。

有名な話ですがこの方は、音楽に関しては、全くの独学です。

それが何故、あのような甘美な旋律とオーケストレーションを生み出せるのか、私には未だに理解できません。

一度、東京文化会館の音楽資料室で、彼の『ノヴェンバー・ステップス』のスコアを見たことがあるのですが、そのときの私は、正にサリエリ状態でした。

完璧なまでのスコア……。ぱっと聴いたところインプロヴィゼーションかな、と思わせるような箇所も、完全に記譜されていたのは衝撃でした。

神が彼の体を通して語りかけている、というのが『アマデウス』でしたが、私には、森の中の木々のざわめきが彼の手によって音楽化されている、という風に思われました(余談ですが、

彼は、作曲をする時はイメージの中の庭を散歩して、そこで聴こえる音を楽譜にしていくのだ、と話していました)。

彼は膨大な作品を残しており、私も彼の作品の全貌を把握したわけではありません（そんな人いるのでしょうか？）。

本当は、ここでは『映画音楽選集?』をご紹介したかったのですが、これまた廃盤になっているらしいので(何だか中古で物凄い値段が付いていましたが、収録されている『怪談』は、ヤニス・クセナキスが指摘した通り、日本のミュージック・コンクレートの最高傑作と言っても過言ではない、と思います)、この作品を取り上げます。

完全なパーカッション作品ですが、この手の作品にしては異様なことに、それらの楽器は、ビートを刻むことはありません。

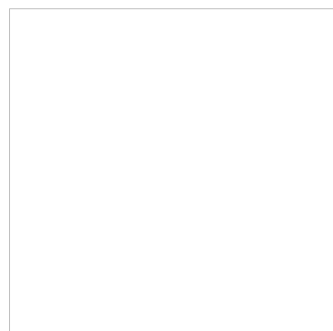
この前、実家の近所にある三徳山三仏寺にお参りに行った時に、これと非常に良く似た音を耳にして、私はどきりしました。

それは、水琴窟の音でした。

そういう意味でもひんやりとした、静謐な質感の音楽です。

シンセサイザー演奏家としても有名なツトム・ヤマシタさんが参加されているというのも、ユニークですね。

↑よろしければ、是非



[Trancefer](#)

[Tranceferの他のレビューをみる»](#)

評価：★★★★★

Klaus Schulze

Revisited Records

¥ 1,949

(2007-01-16)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

プログレ系の方々にはカルト的人気を誇る、ドイツ・エレクトロニクス界の重鎮です。

以前のこのシリーズで、喜多郎を取り上げましたが、まだ無名だった氏に、「シンセサイザーを使え」とお勧めになったのは、実はこの方なのです。言わば師匠ですね。

サウンドとしては、いかにもドイツ系という感じで凄く重いですが、その重さにハマる人はハマる(そういう方には、喜多郎のサウンドは、逆に軽すぎて、我慢できないのかも知れませんか)。

更に申せばこの方は、先に取り上げた"Ash Ra Tempel"の創成期のメンバーでもあり、ドイツ・エレクトロニクス界以外でも有名なグループである"Tangerine Dream"の、これまた創成期のメンバーでもあります。

彼は、膨大な量のソロ作品をリリースしていて、僕としては、"Live"という文字通り1970年代のヨーロッパ各地でのライブ音源が一番のお気に入りなのですが、全然ヒーリングではないので、取り敢えずその次に好きな、ライトなテイストのこの作品を、取り上げます。

彼のシーケンサーとリズムのパターンは非常に個性的で、それらが織り成すテクスチャのユニークさは、この作品の中でも、遺憾なく発揮されています。

ちょっとボサ・ノヴァっぽいリズムと、畳み掛けるようなシーケンスの上に、チェロがリードを取り、それを分厚いストリングスが包み込むという、この時期に良く見られたパターンですが、とてもいい感じですね。

何でも、今年の春頃に、突如来日されたそうですね。このことに関してはあまり考えたくはないのですが。何故って、悔し過ぎるから・・・。

[Klaus Schulze](#)

↑ よろしければ、是非

帰国致しました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

インドネシアより、無事に帰国致しました。

いやはや、いつ行ってもなかなかエグイ国ですね。特に交通事情ですね。インドネシアはジャカルタにしろバンドンにしろ、渋滞で有名ですけども、それは都市の構造によるものというよりも、単にマナーの問題ですね。一車線に二列並走して、その隙間をバイクと物売りが埋め尽くせば、ジャムるのは当然だろ？みたいな。およそ日本では見られない光景ですね。車はちっとも動かないけれども、躍動感があります。ええ、剥き出しの人間模様(笑)。

今回はバティックフリークのカミサンについてショップ巡りをしようかな、などと気楽に考えていたのですが、実際やっていたのは、3歳になる甥っ子のベビーシッターでした(笑)。考えてみると奇妙なのですけれどもね。私は全然インドネシア語は話せないし、甥っ子は当然、日本語は話せない。それでも甥っ子は、朝から晩まで私にずっとヘバリついていましたね。毎日毎日粘土遊びさせられていました(笑)。インドネシア語で嬉々として何か言ってるんですけども、私は全く理解出来ないものですから、適当に相槌を打っていただけなのですが、それでも殿は、ご満悦だったご様子です。非常に奇妙なコンビだと、カミサンの家族も不思議がっていましたね(笑)。

食べ物にも当たらなかったですね～。何しろ、昨夜は鳥の唐揚げ食べ過ぎたから、今朝はあっさりとバナナの唐揚げで済みますか、みないな世界ですから(笑)。もっともカミサンの家族が気を使って、味噌汁なんかを用意してくれたのも幸いだったのでしょうけれども。日本食のレストランに連れて行ってくれたりとか。やはり『鳥元』は最高です。特にしそ巻き。バンドンに行かれたら、是非『鳥元』へ。

もう一つの収穫といえば、このブログでのシリーズ『呪術師の死闘』にご登場頂いた義姉に会って、直接話を聞いたことですね。実は、実際はもっと凄まじかったようです。それを踏まえて、このシリーズを少々書き直そうかな、とも思ったのですが、あまりに話の内容がエグかったので、やっぱり止めることにしました。取り敢えず日本人向けの薄味のままにしておきます(笑)。もしオリジナル・テイストをご所望の方は、直接私にご連絡下さい。お話出来る範囲内で、お答え致します。因みに、登場された白魔術師は、お亡くなりになりました。殺害されたそうです。言うまでもなく、呪術で。ほんと、冗談ではないです。

まあインドネシアというところは、一筋縄ではいかないところですね～。無事に帰って来て良かった、みたいな(笑)。

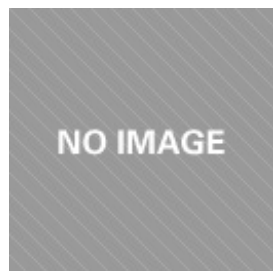
<追記>

ジャカルタへ行かれる方へ。日本でルピアに換えるのは、止めた方が良いです。ジャカルタ空港のゲートを通過すると、両替店がたくさんあるので、そちらで換えるのをお勧め致します。まとまった金額ですと、結構損します。カミサンはそれで泣きました(笑)。



↑よろしければ、是非

細野晴臣/マーキュリック・ダンス 躍動の踊り



[マーキュリック・ダンス ～躍動の踊り](#)

[マーキュリック・ダンス ～躍...の他のレビューを見る»](#)

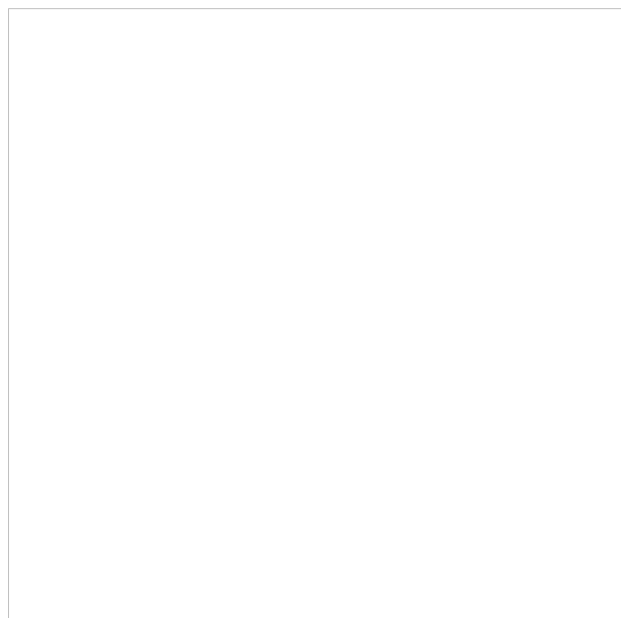
評価： ★★★★★

細野晴臣

テイチク

(1996-02-21)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)



70年代末期から80年代初頭にかけて一世を風靡した、Yellow Magic Orchestra。通称YMO。

私は幼少時より、彼らの音楽だけではなく、思想やファッション、行動に、かなりの影響を受けました(だからこうなってしまったのだという説もありますが。因みに坂本龍一氏は、私の知人の画家さんの同級生です。だから何だ)。

そのコンセプト・リーダー兼プロデューサーであったのが、細野晴臣氏。

しかし、彼らが次々と与える社会へのインパクトとは裏腹に、彼の中には、かなり早くから「散開」への意図が、見え隠れしていたようです。

その大きな要因となったのが、Brian Enoらが提唱し始めた「環境音楽」からの影響です。

YMO時代に、そのアルバムに"BGM"というタイトルをつけたりと、環境の一部として存在する音楽というコンセプトに、かなり彼は心を動かされていたようです。

そして、YMOを「散開」させた後、彼はテイチクに、"Non Standard"と"Monad"という二つのレーベルを立ち上げ、「環境音楽」をさらに一步推し進めた「観光音楽」というコンセプトを提唱し、特に後者のレーベルにおいて、それに関するアルバムを、精力的に発表していきます。

その代表作(と私が思っているの)が、この作品です。

この時期、平行して「暗示的即興音楽(Coincidental Music)」だとか「音の一筆書き」と称して、テクノロジーを用いた即興性を追及していた彼ですが、そのアイディアは、このアルバムにも、遺憾なく発揮されています。

タキ・オノの手掛けた美しいジャケットのように、非常にストイックかつ、静謐な音楽です。

この音楽は、奈良県天河村を舞台にした映像作品のサウンドトラックとして製作されています。

さらに興味深いことに、録音されているのは、ヒーリング・ミュージックで有名な作曲家、故宮下富美夫氏のスタジオです。この辺の経緯は、よく判らないのですが。

私は、この不思議なサウンドの秘密を解くために、天河へと赴きました。そして、中沢新一先生と出会い、ゾクチェンと出会いました。

その意味でも、私の人生を大きく変えることになった、忘れることの出来ないアルバムです。

[細野晴臣](#)

↑よろしければ、是非

休業のお知らせ

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

謹啓 いつもお世話になりまして、真に有難うございます。

さて、明日より23日まで、インドネシアに行って参ります。

約一年振りのインドネシア。今回は、義弟の結婚式がメインなのですが、前は日程のほぼ半分グロッキー状態でしたので、その時に行けなかった所とか、いろいろ探訪してこようと思っています。カミサンの元の職場のインターナショナル・スクールとか。

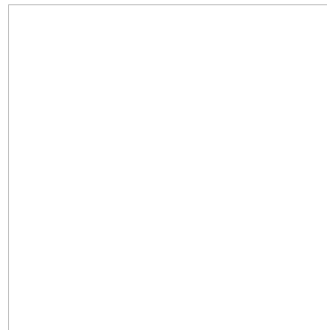
その関係で、23日まで業務は休業とさせていただきます。

皆様にはご不便をお掛け致しますが、何卒ご理解ご協力の程、お願い申し上げます。

今度は、食事に十分に気を付けなければ・・・。

やわらぎ気功クリニック 中原勇一

Andy Summers/Mysterious Barricades



[ミステリアス・バリケーズ\(紙ジャケット仕様\)](#)

[💬ミステリアス・バリケーズ\(紙...の他のレビューをみる»](#)

評価：★★★★★

アンディ・サマーズ

BMG JAPAN

¥ 2,399

(2009-03-25)

JUGEMテーマ：[名曲と名盤](#)

The Policeは、皆さんご存知だと思います。

ただ、その重要人物は？と尋ねると、Stingの名は出しても、Andy Summersの名を出す人は、極めて少ないと思います。

うちのカミサンもそうです。The Policeフリークです。おお、そうかそうか、ということでその話をし出すと、カミサンはStingについて熱く語るし、僕はAndy Summersについて熱く語る。

まあ要するに、趣味が合っているようでいて微妙に合っていない、というのが、我等が夫婦だったりする。

というわけで、Andy Summers。いわゆる三大ロック・ギタリスト達(この言葉、完全に死語です(汗))に比べると、地味と言えど地味ですが、ちゃんと活動されています。

最近では、フュージョン寄りの作品が主なので、この作品は、彼の中でも異色の作品だと思います。因みにリリースは、ニュー・エイジ系の、Private Musicというレーベルからです。例のTangerine Dream黄金期のメンバー、Peter Baumannが設立したレーベルですね。

技巧を駆使したギタープレイでもないし、音処理に凝っているというわけではないのですが、そのあっさり感が逆に、彼の存在感をアピールしているような気がします。何というか、嫌味やケレン味が全くない、いわば自然派の音。

まさしく、エリック・サティに捧げられています。不思議な方です。

[Andy Summers](#)

↑よろしければ、是非

Live at Biwako Biennale 2010 無事終了致しました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

Live at Biwako Biennale 2010、無事終了致しました。

心配していたのは、天候でした。何しろ野外でしたからね。しかも今年は異常気象のため、気温が読めない。気温が下がりまくりの上大雨、みたいな状況では、お客様に申し訳が立ちませんからね。

でもふたを開けてみれば、思いっ切り晴れ。てか、かなり暑かったですね。お陰様で、準備も、本番も、滞りなく進めることが出来ました。

当日は、東京方面を始め、遠方よりたくさんの方々にお集まり頂きました。大学時代の友人に十数年振りに再会出来たりとか。感激でしたね。この場をお借りして、ご来場頂きました皆様には、篤く御礼申し上げます。

HUSTの臼木さんが、「これって、録音するんですよね？」とおっしゃって、はたと気がつきました。そうだ、その手があったか。実際ずっと使っているAbleton Liveだったらリアルタイム・レコーディングなんて簡単なのに、なぜそれ今までやってこなかったんだろう？まあ作家なんて、こんなもんです(苦笑)。

というわけで今回のライブは、全部リアルタイムでレコーディングしました。それを少々エディットを加え、アップしてみました。こちらです。

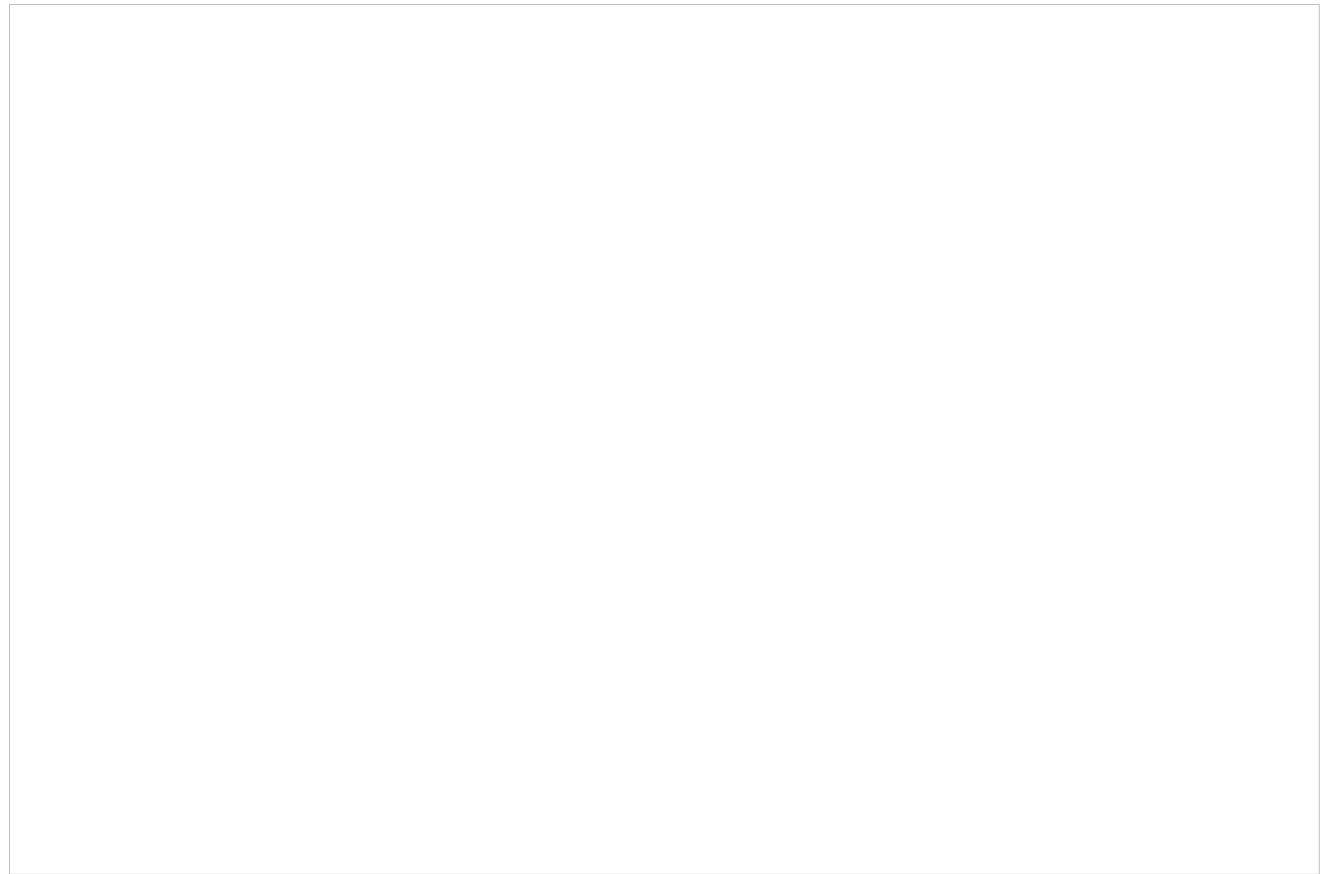
[Live at Biwako Biennale on October 2nd, 2010](#) by [Yuichi Nakahara](#) on [Mixcloud](#)

こちらもお楽しみ頂ければ、幸いです。秋の夜長に、是非どうぞ(笑)。

というわけで、このような貴重な機会をご提供下さいました、NPO法人Energy Fieldの中田洋子オーナー・ガナーザーとスタッフの井上ご夫妻、こちらをご紹介頂きましたギャラリー銀座一丁目の真木みきこオーナーとアーティストの皆様、運送をお手伝い頂きました某製薬会社のA様(笑)、そしてご来場頂きました皆様には、心よりお礼申し上げます。

今後とも宜しくお願い致します！





<追記>

冒頭の“Loop/The Heart Sutra”で般若心経の英訳文を朗読してくれましたUSのBerkley在住の友人Carmen Mitchellが、前月中旬亡くなりました。このライブを、彼女に捧げたいと思います。

<追記 Part 2>

こちらのサイトで、このようにご紹介頂いております。

<http://www.bi-daisei.com/?p=547#more-547>

http://blog.shinobuterada.com/201010/article_4.html

深謝です！



↑よろしければ、是非

"BIWAKOビエンナーレ2010 玉手箱-Magical World-"スタート致しました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

9月18日、いよいよ"BIWAKOビエンナーレ2010 玉手箱-Magical World-"がスタート致しました。

私の周りのギャラリー銀座一丁目アーティストの方々も、今月の頭より続々と現地入りされて、セティングなされたと伺っております。今年は猛暑ですので、さぞ大変だったかとお察し申し上げます。

ましてや、現地スタッフの方々をや。皆様のご尽力には、心よりリスペクトであります。

というわけで、我々のユニットも、かくの如くご紹介頂いております。

http://www.energyfield.org/artist/nakahara_yuki.php

いやー、いい感じです。光栄であります。

当日はすでに、日本各地から遠路遥々お客様がお出でになられるようで、嬉しい限りであります。ライブに来られない海外の友人達からも、応援のメールを頂いております(今日はオーストリア)。これをきっかけに、更に活動範囲を広げていきたいところですね。

というわけで、世界各国のコンテンポラリー・アートが一同に会するこのイベント。是非ご探訪を。ライブも宜しくお願い致します。会場が日本庭園と狭いので、チケット売り切れの際は平にご容赦頂きたく・・・。m(_ _)m

↑よろしければ、是非

恐るべきインドネシア呪術の世界エピソード1～呪術師の死闘(下)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

彼は、特殊な形をした刀を取り出した。この刀は「Keris」と呼ばれ、インドネシアの呪術では良く用いられるらしい(日本で言う「独鈷」のようなものであろうか)。彼は、これを使って原因を探ります、と言う。

彼がそれを地面に置くと、驚くべきことにこの刀は、ひとりでに動き出した！

刀はひょこひょこ部屋の中を動き回ると、ある場所でぴたり、と止まった。呪術師はその同じ刀を使って、その場所を掘った。

そこから出てきたのは、非常に不気味な代物だった。

それは、シュロ(日本では見られないが、ヤシの木の種類)の葉っぱで出来た人形、錆びたカミソリの刃、同じく錆びた針、そしておびただしい爪であった。黒魔術師はこれを、家人にわからないように、この場所に埋めたのだった。何故か？それは、この人形を媒介にして、家人に危害を加えるためである。

実際、人形を媒介にして呪詛を仕掛ける手法は、古今東西よく見られる。日本で有名なのは、言うまでもなく、藁人形を使った『丑の刻参り』であろう。それは扉のところに埋めてあったのだが、実際扉は多くの人が行き来する場所であり、家人がここを通る度にこの人形を媒介にして、呪詛が仕掛けられる、というわけである。こんなおぞましいものが、いつ埋められていたのか、家人には全く、見当も付かなかった。

呪術師はそれを取り出すと、元通りに穴を埋め、本格的に儀礼に取りかかった。

すると叔父が、ひどく苦しみ出した。そこで展開したのは、またしても通常では考えられないような現象であった。よく見ると、叔父の体から何かが出てくる。それは、おびただしい数の針と爪であった！これにはその場にいた全員が戦慄した。叔父が苦しむ度に、ぞろぞろと彼の全身から針と爪が出てくる。恐るべき光景であった。

この儀礼は、一晩中続いた。

すると突然、呪術師がバタリ、と倒れ込んだ。家人があわてて抱き起こすと、彼は疲労困憊した様子で、こう告げた。

「申し訳ありませんが、この針と爪を全て取り出すのには、膨大なエネルギーが必要です。今で半分だけ取り出しましたが、今日はもうこれ以上続けることが出来ません。一旦家に帰って十分に療養してから、また儀礼を再開したいと思います。残念なことです、今日はここまでにさせて下さい」。

息も絶え絶えの様子で体を張って儀礼を続ける彼のこの言葉に、家人の誰もが反対することは出来なかった。

かくしてこの日の儀礼は、これで終了した。

しかし、残念ながらこのことは、黒魔術師には予測されていた出来事だったようだ。ここで呪術師の儀礼が成功すれば、死ぬのは自分である。そんなことはさせてなるものか。黒魔術師は、持てる力を振り絞って、今まで以上の激しさで、攻撃を再開した。

叔父が息を引き取ったのは、その日のことであった。

叔母は叔父が亡くなった後、しばらくは精神錯乱に近い茫然自失の日々を送っていたようであったが、今では回復している様子である。その時お腹の中にいた赤ちゃんも、とても美しい娘に成長している。

私は昨年スラバヤを訪れた際に、この自宅も訪問した。家人は異国からやってきた私を、温かく迎えてくれた(「じゃがたら見聞録(8)～ついにスラバヤ到着、そして始まる二度目のフィーバー・・・(10月22日)」)。不気味な人形が埋められていた穴も、実際に見せてもらった。そこには、穴をコンクリートで塞いだ痕跡が残っていた。それ以外は、静かな路地裏にある、何のことはない普通の家である。この正に同じ場所で、白魔術師と黒魔術師の命を懸けた壮絶な死闘が繰り広げられたなどと、誰が想像出来ようか。しかもそれは、神話の時代の話でもなく、ハリー・ポッターのお話の中でもない。1991年に実際に起こった出来事なのだ。

・・・しかし、そんなことが本当に存在するのか？読者の皆さんは、そう思われるに違いない

。それは、「常識的な」反応であろう。

ここでこれらの現象が、科学的にあり得るのかといった不毛かつありきたりの問題提起ではなく(どうせ権威ある有識者の方々にまた馬鹿にされるだけですからね(笑))、より現実的かつプラグマティックに考えてみたい。

つまり、私が言いたいのは、そのような「常識的な」反応が生じる現代は、逆にこのような黒魔術師にとっては、とても仕事がしやすい時代なのかも知れない、と考えることも出来るのではないだろうか、ということである。

科学全盛の今の世の中、誰が「呪い」などというものの存在を信じるであろうか？呪い殺された、などといっても、警察がそのような話を信じて、実際に捜査に乗り出すであろうか？法学も、医学も、科学的に検証出来ないものの存在は、最初から相手になぞしない。馬鹿馬鹿しい、と一笑に付すだけである。しかしそれは、叔母や、それによって命を落とした叔父自身の反応でもあったのだ！しかし大昔であれば、これは逆である。奈良時代の律令でも、呪詛に対する刑罰の記述が、実際に見られる(『大宝律令』第七篇「賊等律」)。呪詛はこの時代は、当たり前存在しており、十分に立件可能な犯罪だったのである。

だとすればそのようなものの存在を否定している今の時代、そのような技術を身に着けた人間は、文字通り「完全犯罪」が可能なわけで、これはある意味恐ろしいことなのではないだろうか。立証不可能に付き不起訴。それは幸いにも、法的に、完璧なまでに保障されている。

では、何故そのような現象が、科学的に検証出来ないのか？科学的に存在しないから。それは科学者サイドの見方である。大っぴらにそれらを研究したという話も、ついぞ聞かない。あったとしても、大槻教授が叩くのをマスコミが面白おかしく取り上げて終わり、である(笑)。

しかし、もう少し「常識的に」、プラグマティックに考えてみよう。そのような技術を本当にマスターした人間が、その詳しいメカニズムを第三者に教えるような酔狂なことを、果たしてするであろうか？科学？馬鹿馬鹿しい。そんな「わけのわからないもののために」、自分達が伝承してきたテクニックの秘密を暴露する必要が、どこにある？本物の呪術師であれば、そう言うかも知れない。

つまり、呪術の立証を不可能にしている主体は、呪術でも、科学でもなく、実は呪術師そのものなのではないだろうか？それは実際問題、立証されては困るのだ！仮にラッキーな科学者がいて、運良くそのようなパワフルな呪術師に接触出来たとしよう。しかしその呪術師は、その科学者にフレンドリーに対応しつつも、嘘をつくだろう。彼が呪術に関して本当のことを述べるとは、まず考えられない。それは言わば、「企業秘密」なのだから。これと似たような例として

、さる高名な合気道の大家S師は、晩年に至るまで、第三者に自分の技をビデオに撮らせるのを拒否していた、という話を聞いたことがある。何故駄目なのか、という問いかけに、S師はこう答えたそうだ。「技の秘密がバレるから」。

彼は何食わぬ顔をして、スーパーマーケットに現れる。彼は他の客と、何一つ変わったところはない。しかし彼には、闇の世界に向けられたもう一つの顔があるのである。人は、彼が恐ろしい呪術師であることを知っている。彼の手にかかれば、何人たりとも、死から逃れられない。誰もがそれを知っている。しかし、誰もそれを口にしない。彼と真剣に呪術の話をするのは、それこそ呪詛を依頼するときだけである。しかもそれは、単なる殺人ではない。証拠は、法的な意味での証拠にならない。葉っぱで出来た人形が、どうやったら凶器になるというのだ？従って、立件も出来ない。

そのようにして闇に葬られた犯罪が絶対に存在しないなどと、誰が断言できようか？

いつもの私のように、この出来事に対して、心理学や、あるいは電磁気学を用いた説明を試みようという気には、今のところなれない(より正確には、それは説明不可能ではない。仙道には同じような呪術体系が見られ、それは現代の理論でも、説明不可能ではない。しかし、ここではそれについて触れるのは止めておく。理由は、今見てきた通り、プラグマティックに考えれば、ナンセンスだからである)。好奇心旺盛な私ではあるが、目に見えぬ死闘を繰り広げたこの呪術師や黒魔術師に会ってみたいという気にも、到底なれない。何故なら私のような人間は彼らにとって、真っ先に闇に葬り去るべき存在であろうから(笑)。

このエピソードをお信じになるかどうかは、読者の皆さんにお任せすることにしよう。ただ一つ私が思うのは、この世の中には、まだまだよくわからない(より厳密に申し上げれば、「常識」ではうかがい知ることの出来ない←ここがポイントなのですね)現象がたくさん隠されている、ということである。

↑よろしければ、是非

『BIWAKO BIENNALE 2010』のフライヤーをお送りいただきました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

この鬼のような猛暑の中、いかがお過ごしでしょうか。

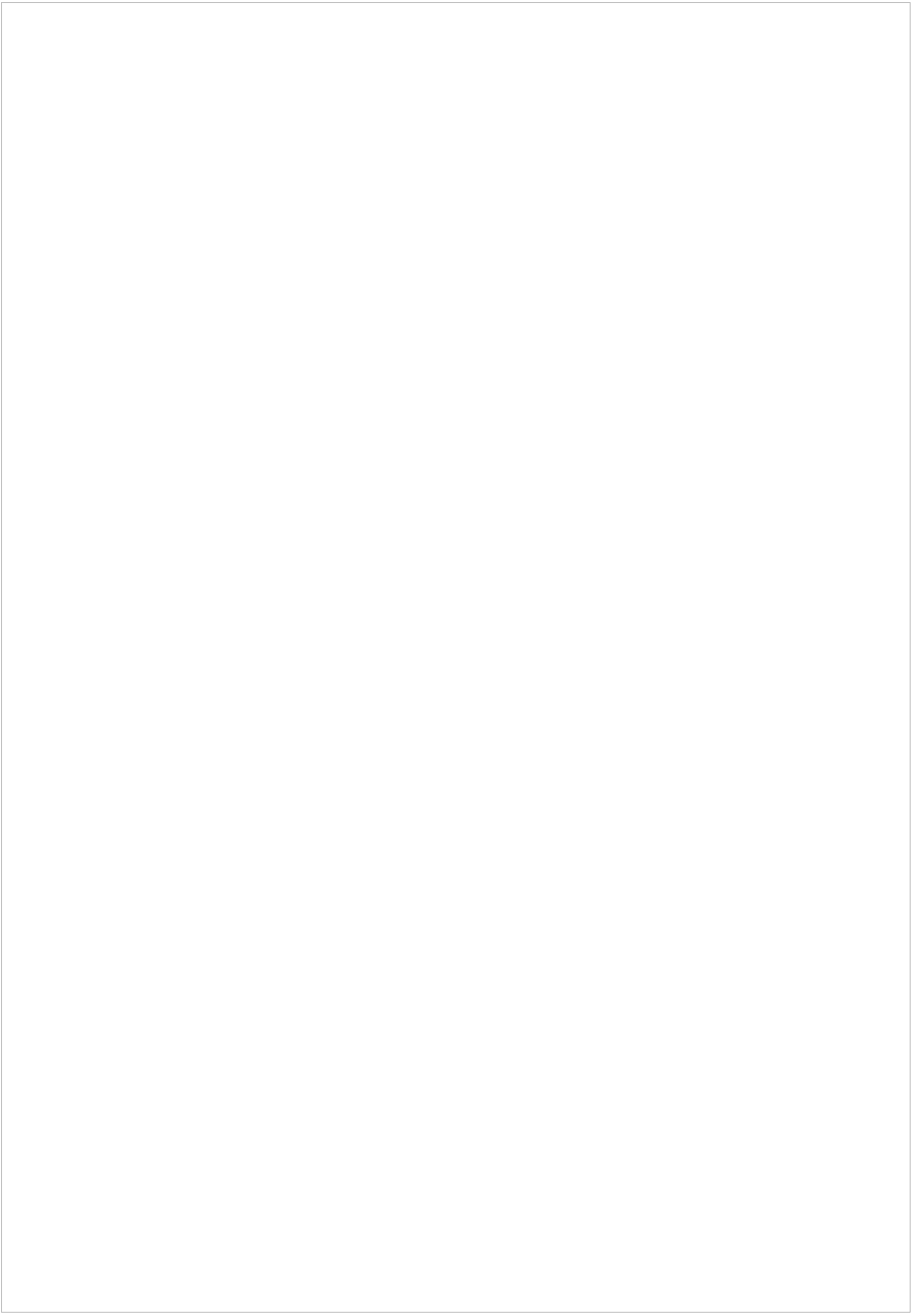
さて、今月18日(土)から11月7日(日)まで、滋賀県近江八幡市で開催されます『BIWAKO BIENNALE 2010』、この度フライヤーをお送りいただきましたので、ご紹介させていただきます。

私は、10月2日(土)午後6時より、事務局裏手のアートカフェ『天籟宮』の庭にて、サウンド・パフォーマンスをさせていただきます。共演致しますのは、Dr.Y(日本医師会からのクレームを避けるため、匿名)です。ええ、あのDr.Yですよ。彼はCGを担当致します。このユニットでは、通算5回目のライブですね。秋が深まっていくちょうど良い季節なので、数多の現代アート作品に囲まれつつ、その音環境を生かしたアンビエント・ミュージックをお楽しみいただこうかな、みたいな。

神戸大学クラシックギター部のOBにもかかわらず、ギターどころかエレクトロ・ユニット結成、みたいな変種がいても、宜しいのではないかと思う今日この頃。ええ、当時から孤立無援のキワモノでしたから。でも今回は売れ線狙いですよ。Deep Forest+Vangelis+喜多郎で行きますよ。

というわけで、ご興味おありの方がいらっしゃったら、是非ご来場下さい。ライブはともかく、全世界のモダン・アートが一堂に会するこのイベント、美術ファンは見逃せませんよ！あ、でもライブも楽しんで下さい(笑)。

最後になりましたが、総合ディレクターの中田洋子さん、アシスタント・ディレクターの井上智治さん、井上亜也子さん、ギャラリー銀座一丁目の真木みきこオーナーに、心よりリスペクト。共に盛り上げていきましょう！



↑よろしければ、是非

恐るべきインドネシア呪術の世界エピソード1～呪術師の死闘(中)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

彼は単刀直入に、旦那様は「呪い」にかけてられています、と告げた。

その「呪い」をかけている黒魔術師は、同じスラバヤ市内に住んでいる(詳しい住所は、彼は告げなかった。インドネシアの呪術師の間では、お互いの住所を明かすのは、絶対のタブーなのだそうである)。そして彼女(彼は、黒魔術師は女性だ、と指摘した)へ呪いを依頼したのは、旦那様の元同僚です、彼はそう指摘した。

それを聞いて、叔母は愕然とした。実は数年前より叔母は、叔父より、会社の同僚にまつわるトラブルの話を、よく聞かされていたのだ。

その元同僚は非常に手癖が悪く、会社のものをしょっちゅう失敬するのであった。元来まじめな叔父は、それをいつもなじっていた。しかし彼は、一向に改める気配がない。「何で悪いんだ？会社のものなんて、こんなにたくさんあるじゃないか。この俺が一つや二つ失敬してみたところで、大したことなんてないさ」。

叔父はこのことを、よく叔母と義姉にこぼしていた。さてどうしたものか。それに対して二人は、放っておきなさい、どうせ悔い改める気なんかないんだから、下手なこととして逆恨みでもされたら、それこそ大変よ、と答えていた。

しかし、非常に敬虔な宗教家でもある叔父には、この不正が我慢できなかったようである。そしてついに彼は、会社の人事部に、このことを相談することにした。

しかし、会社の人事部が下した決定は、彼の想像以上だった。即日解雇。叔父は、コソ泥くらいなのだから、嚴重注意くらいで済まされるだろう、と考えていたようである。しかし結果はそう甘くは無かった。

解雇された元同僚が、彼に対して激しい怨恨の念を抱いたことは、想像に難くない。

彼は考えた。「こうなったのは、あいつのせいだ。あいつの一家を、皆殺しにしてやる。一人残らず、地獄へ叩き落してやる」。

彼はそこで、このスラバヤの黒魔術師のところへ出向き、彼の一家を「呪い」で皆殺しにするように依頼した。そして黒魔術師は、この依頼を引き受けたのだ。こうして、「呪い」は始まっ

たのです、呪術師はこう二人に告げた。

このような人を殺すような呪詛は、一家を破産させる、などといったライトなものとは、わけが違う。黒魔術師はこの時、「悪魔」と契約を結ぶ必要がある。その契約とは、その「悪魔」に対して、人間の命を差し出す、という約束である。つまりこの時、万が一呪詛が失敗すると、「悪魔」は、その見返りとして、この魔術師の命を奪ってしまうという。従って、一旦依頼を受けたならば、相手が実際に死ぬまで、徹底的に呪詛を続ける必要がある。そうでなければ、死ぬのは自分なのだから。後戻りは絶対に不可能。呪術師も命懸けで、呪詛を行っているはずだ。しかも相手の目標は、一家皆殺しである。これは、ちょっとやそつとでは、封じることが出来ない。

しかし呪詛の性質上、それは一度には実行出来ない。相手は叔父、叔母、お腹の赤ちゃんを含めた娘達、の順序で、呪い殺そうとしている。叔父が死ねば、次は叔母がターゲットになる。しかも叔父はすでに、激しく苦しんでいる。一刻も猶予は出来ない。「急いで呪詛を封じなければ、大変なことになります」。義姉と叔母は、呪術師の告げるその言葉に、戦慄した。

すると彼は、叔母と娘達の方だけ、特殊なリングを渡した。そして彼女達に対して、こう告げた。「これは、呪詛を封じるリングです。これをあなた方にお渡しします。これを身に着けていれば、あなた方だけは安全です。しかし残念ながら、これは旦那様には、効果がありません、何故なら旦那様の場合は、もうすでに呪詛が始まっており、リングではどうしようもない危険な状態におられるからです。旦那様の場合には、実際にお会いして、呪詛を封じる儀礼を、執り行う必要があります」。

ここまで指摘されたら、もう信じるだの信じないだの、悠長なことは言うてはおられない。是非スラバヤのうちへ来て、儀礼を行ってくれないか、叔母はそう呪術師に依頼すると、彼は承諾した。

かくして義姉と叔母はスラバヤへ帰ると、今度は叔父の説得に取りかかった。

しかし当の叔父は最初、強硬に反対した。いい大人が二人して、馬鹿なことを言うな、そんなことこの世にあるわけじゃないか。呪術師に指摘された同僚とのトラブルのことを話しても、叔父はなかなか首を縦に振ろうとはしなかった。しかし最終的に、叔父はその申し出を受けることにした。

かくして自宅に招かれた呪術師は、恐るべき呪詛を封じるべく、儀礼をスタートさせた。

こうして、白魔術師と黒魔術師との熾烈な死闘の火蓋が、切って落とされた(続く)。

↑よろしければ、是非

恐るべきインドネシア呪術の世界エピソード1～呪術師の死闘(上)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

私の妻は、インドネシア出身である。

なぜ私は彼女と知り合い、所帯を持つことになったのか？それは、一般的に考えられているように、私が海外の出会い系にはまっていたからではない(笑)。私がはまっていたのは、ガムラン、ケチャ、リンディクといった、インドネシアの民族音楽であった。そのきっかけを作ったのは、スティーヴ・ライヒらのミニマル・ミュージックなど、20世紀の現代音楽だったのだが。

そういった経緯もあって、私が大学の卒業旅行に選んだのも、この国だった。愛すべき友人達と共に初めて行ったこの国で、間近に聴いたインドネシアの音楽。そのたおやかな音色は、私の心に、いまだに響き続けている。ケチャは少々、ハードコアだったが(笑)。

しかし、私をしてインドネシアに興味を抱かせていたファクターが、もう一つだけあった。それは何か？

それは、インドネシアの呪術である。

私が学生の頃興味を抱いていたのは、人類学、特に、日本を代表する宗教学者でもある中沢新一氏の著作であった。その中でも『野ウサギの走り』、『虹の理論』といった作品には、インドネシアの呪術に関する記述が、数多く見られる。しかもそれは、単なる人類学的な記録に限らず、彼が実際に呪術師に弟子入りして修行を積み、それがために黒魔術師の怒りを買って黒魔術をかけられ、危うく命を落としかけたエピソードなど、他の単なる机上の宗教学者の書くありきたりのものとはインパクトが全く異なった、極めてスリリングな内容でもあった。そしてもう一人は、当時の神戸大学文学部吉岡教授の、これまた人類学の講義。とは言っても、彼はインドネシアが専門ではなく、インドネシアが専門だったのは、同僚の別の教授だったようだが。吉岡教授によるとその教授も、時々ナニゲに現地で呪われていたらしい(笑)。

私は学生時代、このような現象がいまだに存在すると考えられているこの国に、是非とも行ってみたいものだ、とずっと考えていた。

そんなわけで、大学の卒業旅行に、指導教官であった足立正樹教授の意見を涙を吞んで却下して(笑)この国を選び、挙句の果てに、この国に実際に住んでいた今の妻と出会って、所帯を持つことになったというのは、ある意味必然だったのかも知れない。まあ日本の女性に全然モテなかった、というのも実際ありますけれども。はい。

しかし彼女は、そのような僕のインドネシアに対する興味に関しては、音楽については話に乗ってくるけれども、こと呪術に関しては、かたくななまでに話すことを拒否していた。「怖いから」というのがその理由だが、気になったのは、その怖がり方が尋常ではなかったことだ。

嫌がる彼女を無理やりに問い詰めると、彼女はこう答えた。「だって私の叔父さんが、それで殺されたんだもん」。

・・・さて、その返事だけは捨て置けぬぞ。一体どういうことだ、わけを聞かせろ、良いではないか、良いではないか。昔の時代劇で悪代官が女中に迫るのと同じノリで、私は彼女に迫った。

彼女はついに根負けして、恐る恐るその顛末を話し始めた。そしてその内容は、昨今流行のイケメン癒し系スピリチュアル陰陽師、などといったコマーシャルな存在を一撃でチープ化してしまうような、恐ろしいものであった。

これは、今もインドネシアの闇の奥で行われ続けている、白魔術師と黒魔術師の、命を懸けた壮絶なる死闘の記録である。

彼女の叔父が突然に苦しみだしたのは、1991年のある時だった。

その時までの彼は全くの病気知らずで、病院や薬に頼るのも極めてまれな、全くの健康体であった。その彼が何の前触れもなく、突然に苦しみだしたのだ。食べ物を全く受け付けなくなり、激しい嘔吐がある。それに伴うかきむしるような全身の激しい痛み。体重が一ヶ月で、40kgも減少した。

家族は大慌てで、彼を病院に担ぎ込んだ。その彼に下った診断は、肝臓ガン。極めてひどい状態なので、緊急に手当てが必要だ、と医者は告げた。

かくして、叔父の闘病生活が始まった。

ここまでは医学的に考えても、十分に説明がつく。よく知られているように肝臓ガンは、自覚症状が少ないので、知らないうちに進行しているケースが多い。突然苦しみだして病院へ連れて

行くと、もう手遅れだった、というのは、よく聞く話である。

しかし奇妙なのは、その苦しみ方であった。彼が苦しむのは、何故か金曜日、しかもある特定の時間、と決まっているのだった。実はインドネシアでは、金曜日というのは、一週間の中で最も恐ろしい日、と考えられている。この日は、邪悪な霊がうごめく日、と考えられているのだ。そんな金曜日の、しかも特定の時間に決まって苦しみ出す、というのは、どうもおかしい。これに気付いたのは、私の義姉であった。

もしかしたら、誰かに「呪い」をかけられているのではないか、義姉はそう考え、叔母に呪術師(インドネシアでは、「オラン・ピンタル」と呼ばれる。直訳すれば、「目に見えぬものが見える人」という意味になる)に一度相談してみてはどうか、と薦めた。

しかし、叔母は拒否した。当然である。この現代に、「呪い」などといった前近代的かつ非科学的な現象など、あるわけではない。馬鹿なことを言うな、というわけである。しかし義姉は、説得を続けた。よく考えてみてよ、肝臓ガンだからといって、一週間のうちのある決まった日に、しかもある決まった時間だけ激しく苦しみ出すなんて、どう考えても変よ。ついに叔母は折れて、住んでいるスラバヤの郊外に住む呪術師に相談することにした。

そして義姉と叔母は呪術師を尋ねると、事の顛末を話した。彼女達がひとしきり話し終えると、それをじっと聞いていた呪術師は、おもむろに口を開いた。

その時呪術師が彼女達に継げた言葉は、まさに驚くべき内容であった(続く)。

↑よろしければ、是非

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

2007年の年の暮れ、私は駅前のKさんから、施術の依頼を受けた。

Kさんと言えば、その数ヶ月前に腰痛で、うちに相談に来られた方だ。私は、また腰痛が再発したのかな、と思ってよく尋ねてみると、そうではないらしい。実は、Kさん本人ではなく、年末に合わせて帰省してこられた娘さんが、私の話を聞いて、是非施術を受けたい、と言っている、とのことであった。

その日は山陰地方に、豪雪注意報が発令されていた。夕方頃から本格的に降り始めるようだが、日中はさほどではない、とのこと。私は車で、Kさんの自宅まで出かけた。

Kさんの自宅は、駅前にある大きな邸宅だった。私は子供の頃から、その前を頻繁に行き来はしていたのだが、当然のことながら、邸宅の中には入ったことはない。頻繁に出入りしていたのは、むしろ、向かいにあるタイヤキ屋の方であった(笑)。

玄関に入ると、Kさんが出迎えてくれた。古風な作りの、立派な玄関である。かなりの旧家であることは、十分に想像出来た。私は挨拶を済ますと、早速上がらせていただくことにした。

玄関を抜けると、そこは応接間になっていたのだが、そこには大きな仏壇があった。私は、何やら胸騒ぎがした。

私は、出されたお茶をいただきながら、娘さんが来られるのを待った。

すると、娘さんが入ってこられた。私は一目見て、彼女の周りの、ただならぬ空気を感じた。

彼女の訴えは、一応、慢性的な内臓の不調と全身の冷え、そして不眠であった。極めてありふれた症状。しかし、それは恐らく表面的なものに過ぎないだろう、と私は考えた。彼女はそれ以上、何も言わない。取り敢えず、まずは全身の経絡を拝見させていただくことにした。

私の予感、ほぼ当たっていた。全身の経絡を見ても、若干の不活性は見られるが、特に問題とするほどのことでもない。若い女性であれば、良く見られる程度の状態である。彼女はの間、ずっと天井の一点を凝視していた。その目は、異常な光を放っている。そばには妹さんと、Kさんもいた。彼女達は、私の施術を、興味深そうに眺めていた。

施術を終わって、私達は向き直った。私は、「ざっと拝見したところ、特にお体の方には、目立った異常は見られないようです」と話した。彼女はその瞬間、ごくりと唾を飲み込んだ。そのまま私は続けた。「問題があるのは、心の方ではないですか？」

すると彼女は、わっ、と泣き出した。妹さんもKさんも、あっけにとられている。私は、彼女からそれ以上、細かい話を聞くことはしなかった。私はただ、そのような場合には、どのような対処をした方が良いのか、ということだけ話した。彼女は泣きながら、黙って私の話を聞いていた。

外で、激しい雷が鳴り出した。山陰地方ではこのような雷を、「雪興し」と呼んでいて、これが鳴り出すと必ず、猛吹雪になるのだ。私は急いで帰り支度をして、予約を受けていた次の日の施術の時間を決めると、失礼することにした。外ではすでに、激しく雪が降り始めていた。

私が帰ってしばらく、彼女は、このような施術が果たして本当に効果があるのか、とだいぶ疑問に思っていたらしい。何故なら私は、皮膚に軽く指を乗せていただけなのだから。自分がかかっていた整体やマッサージとは全く趣が違ったので、かなり戸惑いを感じたようである。

しかし、変化は突然訪れた。

その夜の9時過ぎ、彼女は突然ひどいむかつきを感じ、トイレへ駆け込んだ。その後、激しい嘔吐が続いた。やっとの思いで自室まで辿り着くと、倒れ込むようにしてベッドへ入った。

次の朝目が覚めたのは、午前7時。今までは考えられなかったことだが、その間一度も、目が覚めなかった。不眠は完全に消失したようだ。そして体も、昨日までの状態とは打って変わって、非常に軽い。

その日の二回目の施術の時に、私はその報告を聞いた。確かに顔色は、昨日よりもずっと良い。施術を行っている時、彼女は、私が経穴に指を乗せると、内臓も一緒になって動きますね、という。どうやら経絡の通りも、ずっと改善している。私は施術と同時に、一指禅功の指導も行った。

その時初めて聞いた話だが、彼女もまた、いわゆる靈感が異常に強いタイプだったようだ。一番ひどかったのは、沖縄に旅行に行った際に、第二次世界大戦時多くの犠牲者が出た場所の近くを通った時のことだったという。いわゆる憑依されたような状態になり、悪夢にうなされたり幻覚を見たりする奇怪な現象が、約数ヶ月近く続いたという。

私は、そのような場合の解除の仕方も、教えておいた。

年が明けた1月2日。彼女は滋賀へと帰っていった。Kさんから、「娘が、お陰様で家族みんなで、晴れ晴れとした、良いお正月が過ごせました、と礼を申しておりました」、との報告を受け取った。

そのような報告を聞くのは、とても嬉しいものである。

<追記>

この症例は、第一回目のエピソードと同じく、いわゆる「霊障」と呼ばれているものと似た現象だと考えられるが、私はこの時、ディスカッションの中でその原因を探ったり、あるいは「霊視」などと呼ばれる行為を行ったりなどは、一切行っていない。

これは、このような現象も、そのような「複雑な」ことをしなくても、物理的な経穴の操作で簡単に解消が出来ることを示す好例であり、この場合の点穴療法は、第五回目のエピソードと同じEFTと、通底するものがあるのかも知れない。

↑よろしければ、是非

世にも奇妙な症例集エピソード6～ドラゴンへの道

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

2004年のある日、私は、一本の問い合わせの電話を受け取った。症状は腰痛。

詳しく聞いてみたところ、どうやら骨には異常はないらしい。だとすると、神経などの機能性の障害である可能性がある。

その日の午後は比較的余裕があったので、早速相談を受けることにした。

予約の時間であった午後3時。玄関の呼び鈴が鳴った。

おもむろに私が扉を開けると、そこに立っていたのは、まさに筋骨隆々といった感じの若者だった。私は一瞬、ジャッキー・チェンかと思った(笑)。

しかし、私のその予想は、当たらずとも遠からずであった。

聞くところによると、幼い頃から中国拳法に興味を抱いていた彼は、日本では優秀な師匠に巡り会うことは不可能、と考え、中国語も全く話せない状況にもかかわらず、単身中国に乗り込み、幸運にも出会うことが出来た師匠の下で、約8年間、拳法の修行を行っていたらしい。因みに、彼の学んでいた拳法は『八極拳』と呼ばれ、その凄まじい破壊力から、中国最強の拳法の一つ、と考えられているものである。

彼はそこで、師と寝食を共にしながらメキメキと腕を上げ、しまいには、中国国内で行われた大きな武術大会で、何とチャンピオンにもなったらしい。その大会の主催者は、彼が実は日本人であったと知って、大いに感激し、彼の手を硬く握り締めながら、是非日中の武術交流の要となって、今後も活躍してくれ、と祝福してくれたという。

しかし、彼の師のトレーニングは、かなり厳しいものであったらしい。大雪の降る中、屋外で、馬歩站樁功を数時間させる、というようなことは、ざらであったという。その結果、彼はついにひどい腰痛に苦しむようになり、それ以上の修行を続けるのが困難となって、数年前に帰国したのだという。

このような中途半端な状態で修行を中断せざるを得なくなり、師匠にもその大会の主催者にも、申し訳が立たない、何とかしてこの腰痛を治して、もう一度修行の道へ戻りたい、と語る彼の姿が、とても印象的であった。

取り敢えず、レントゲンの結果から見ても、骨には何らの異常が認められない、ということなので、恐らく下半身の、胆経・膀胱経という二つの経絡に、何らかの不活性が発生しているのかも知れない、と考えた私は、それらに対して重点的に施術を行った(因みに馬歩站樁功は、かなり慎重に行わなければ、これらの経絡に、著しいダメージを与える可能性があるので、注意が必要である)。

また彼の師は、「お前は気というものを全く理解していない」と、常々言っていたそうだ。そして八極拳の基本功として、小周天、大周天といった周天功も、平行して教えてくれたようだが、それでも彼には、気の感覚が全くわからなかったらしい。その感覚が少しでもわかるようになりたい、との申し出であったので、私は一指禅功の坐功と、無為気功法の站樁功を、お教えすることにした。

彼に站樁功の姿勢を取らせた後、私はいつものように背後に立って、うちの師匠の真似をして(笑)、命門に指をかざした。すると彼は、妙なことを言い出した。「・・・これは、どうしたら良いのでしょうか？」私は尋ね返した。「・・・と言いますと？」

彼が言うには、背後からものすごい圧力を感じて、前に押し出されそうになっているらしい。このまま姿勢を保持するように努めた方が良いのか、それとも圧力に逆らわずに前へ進んだ方が良いのか、どちらが良いのだろうか、と彼は私に尋ねた。私は、命門に指をかざすのを止めた。

レッスン後、一息ついた彼は、こう嘆息した。「私の師匠がああ言っていた理由が、今日初めてわかりました。これが気というものなのですね」。彼はとても嬉しそうであった。

あれから数年。私は住居を大阪から鳥取へ、そして東京へと移したので、彼にはそれ以来会っていない。

しかし、彼のような聡明かつ実直な人物であれば、東洋の身体技法の可能性を、どんどんと拡大してくれるに違いない。私は心から、そう確信している(余談であるが、東京に転居してから、彼の弟子と称する人物の訪問を受けたことがある。東京に行った際には、是非うちを訪ねるよという話が、彼の方よりあったらしい。その彼は今大阪で、かなり高名な整体師として活躍しているそうである。私としてもそのような話を聞くのは、とても嬉しい。ただ一指禅功は彼にとっては強烈過ぎたようで、それ以来練功はしていないそうである。それにまつわる話も非常に興味深かったのだが、ここではそれには触れないでおく)。

・・・それと似たような例。

私は友人に連れられて、尼崎にある彼女の友人の映画編集者の家を訪問した。

私は彼とは初対面であったのだが、お互いに、ブルース・リーやジャッキー・チェンの映画に影響を受けた、という話から、話題は武術の話へと転じた。

彼は、養神館系の合気道を習い始めて、数年になる、と話していた。養神館といえば、私も、創始者塩田剛三氏の数々の驚くべき武勇伝を耳にしたことがあり、非常に興味をそそられた。彼にしても、私が語る『一指禅功』にまつわる数々のエピソードは、とても興味深かったと見える。

しばらく話をした後、「お茶でも入れましょう」と言って、彼は席を立った。彼はペットボトルのウーロン茶と紙コップを持って、帰ってきた。そして紙コップを私に手渡すと、それにウーロン茶を注ごうとした。

そして彼は、そのまま動かなくなった。

彼がお茶を注ぐ姿勢をしたまま動かなくなったので、不思議に思った私は彼に、どうしたのか、と尋ねた。すると彼が言うには、私の方から強い風が吹き付けているように感じて、身動きが取れない、まるで台風の中を、風上に向かって進んでいるような感じだ、と彼は答えた。私は一瞬、彼女と顔を見合わせた(彼女は特に、何も感じなかったらしい)。

仕方がないので私は、紙コップを下において、彼から離れることにした(笑)。

昔の武術家は、自分の周囲にあるものに対して、ただならぬ知覚を働かせていた。いわゆる、「殺気を感じる」といった類のものである。

また、武術研究家としても高名な甲野善紀氏は、その著作の中で、昔の剣士は、死ぬか生きるかの立合いの時、相手の切っ先がわずかに動くのを、その音で判断した、というようなことを述べている。

やはり、武道などの特殊な身体トレーニングは、そのような知覚能力をも発達させるものなのだろうか、と思わせられるような、二つのケースであった。

↑よろしければ、是非

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

<2007年6月29、30日>

K氏は、福岡県久留米市在住の、新進気鋭の精神科医である。

彼は、実際の臨床において、EFT(Emotional Freedom Technique。感情開放テクニックとも呼ばれる)という、皮膚のタッピングによってクライアントの過去のトラウマの解消を図るという、最近開発された代替療法の技術に応用して効果を挙げているのだが、ある日彼は、偶然に、それとよく似た技法が、中医学の中にも存在していることを知った。それは、『点穴療法』と呼ばれるものらしい。

早速彼はその技法について、インターネットで調べてみることにした。

しかし同時に、その過程で怪しげな宗教じみたサイトにアクセスしてしまったらやっかいだな、と考えた彼は、そのEFTとも関係が深いと考えられる「電子伝達系」という言葉と「点穴療法」とを、同時に検索ボックスの中に放り込んでみた。どうせ何もヒットしまい、と考えながら・・・。

そして出てきたのが、私のサイトだったという。

こうして、我々のディスカッションが開始された(因みに、私がK氏に当てて出したメールの数々は、全て[『気功法の応用～ある精神科の先生との対話』](#)というシリーズで、HPにて公開している)。

そんなある日、私は彼から、ぜひ久留米まで来て実地に指導していただけないだろうか、とのオファーを受け取った。元来旅行好きな私は、二つ返事で、このオファーを了承した。逆に彼の方は、大の旅行嫌いであった(笑)。

その当時在住していた鳥取県琴浦町より、在来特急と新幹線を乗り継いで、約6時間。おまけに折りしも、ゲリラ豪雨が通過点である広島を直撃してだいぶ足止めを喰ったが、何とか無事に私は久留米へと到着した。

彼はまず私を、久留米名物の焼き鳥屋で、もてなしてくれた。

ほろ酔い気分で彼の自宅へたどり着くと、早速私達は、一指禅功のトレーニングを開始した。彼はなかなか気感も鋭いようで、小周天などの簡単な行は、ほんの10分程度でマスターされた。「やはり、本やDVDで独習していたものと、実地でのものとは、全く違いますね」と、彼はたいそう、ご満悦な様子であった。

異変はその夜、いきなり起きた(らしい)。

次の日の朝目を覚ますと、彼は私を見て、けげんな顔をしている。何か起こったのだろうか、と私も奇妙に思った。しかし、彼の口から出た言葉は、もっと奇妙なものであった。

「中原さん、昨夜、私の寝床へ来ました？」「・・・は？」

彼が言うには、真夜中寝ている最中に、私が突然枕元に立ったので、驚いて飛び起きた、というのだ。「あれは絶対に、中原さんだった」と彼は言う。しかし私には、夢遊病のような状態で、彼と彼女とのナニを覗こうなどという高尚な性癖が、あるわけではない(と信じたい)。私はリビングを挟んだ向かい側の部屋で、一人で眠っていたのだ(と信じたい)。まさか私が眠っている間に、私の魂が、忽然と抜け出したわけでもあるまい。彼は精神科医らしく、彼の皮膚が、眠る前に彼に対して私が行った点穴療法の感覚を記憶していて、それが無意識下で、突然皮膚記憶という形でよみがえったのではないだろうか、と、冷静な解釈をしていた。

その日の日中、私は彼に、久留米近辺の名所を案内してもらった。その一つに高良大社があって、実はその奥の院でも奇妙な現象が起こったのだが、そのことはいずれまた講を改めて、記すことにしよう([『パワー・スポット探訪\(5\)～高良大社』](#))。

そしてその夜の、第二セッション。この時に新たに加わったのは、彼の同僚の精神科医、F女史であった。彼女はその日、私がやって来るといっているので、わざわざ伊万里への出張を早目に切り上げて、久留米まで帰ってきたらしい。有難いことである。

彼女は、大阪市立大学で博士号を取得した、同じく新進気鋭の精神科医なのだが、同時に、昔からいわゆる心霊現象と思しき体験を、頻繁に経験している人物でもあった。

私にとって最も興味深かったのは、何でも14歳の時、島根県の出雲大社に参拝に行った祖父にもらった、お守りのエピソードだった。そのお守りを手にした時、彼女は何やら掻き立てられるような、異様な感覚を覚えたらしい。彼女は、このような異様な感覚をもたらすお守りを生み出す出雲大社とは、一体どのような所なのだろう、と強い好奇心を抱き、何とその直後、たった一人で、家出同然にして、出雲へ向かったらしい。そして、本殿周辺に漂うただならぬ靈気に導かれるようにして、彼女は海岸へと向かった。その海岸とは、日御碕。言うまでもなく、太古の昔

、本当の出雲大社の社殿が、立っていた場所である。相当感動的な経験だったらしく、それを語る彼女の眼は、うっすらと涙さえ浮かべていた。

そのようなF女史が練功に加わったら、その場は一体どうなるだろうか、私は非常に、興味をそそられた。恐らくK氏も、同じ思いであったに違いない。

K氏とF女史を目の前にして、私は一指禅功の手順を説明した。「軽く目を閉じて、鼻先とへそのラインを真っ直ぐにして、手のひらは力を抜いた状態で、ひざの上に置いて・・・」。すると彼らは、ほぼ同時に反論した。「中原さん、手がありません。ひざもわかりません」・・・。

もちろん言うまでもなく、彼らの身体が本当に消滅しているわけではない。そんなことができたら、完全に西遊記の世界である。彼らの身体は、ちゃんと私の目の前にある。つまり彼らが言うには、全身が完全に痺れ上がってしまって、目を閉じた状態では、自分の体がどこにあるのか、全くわからない、というのである(因みに同じような現象は、今でも施術中あるいは教室の中で、頻繁に起こる)。

しかし、それは単に、始まりに過ぎなかった。

突然F女史が、上半身をフラフラとさせたかと思うと、その場にバタッと倒れこんだ。私は驚いて近づき、「だ、大丈夫ですか？」と声をかけると、「大丈夫です。でも、全身が言うことを聞きません」と彼女が答えた(興味深いことにこのやり取りは、完全にシラフで行われている。つまり彼女は、トランスのような酩酊状態にあるわけではないのである。この点から考えても、気功と催眠とは、ほとんど関係がない、と考えられる)。彼女が言うには、何か私の方から熱の塊のようなものが彼女の中に入り込んで、完全にコントロールを奪ってしまっているらしい。彼女が練功を始める前から、「何やってんですか？何やってんですか？」と私にしきりに尋ねていた意味が、私にもやっとわかった。言うまでもなく私は、何もやっていない(より正確には、何もやっているつもりはない)。

そのうち彼女は、ボタンボタンと部屋中を転がり始めた。もう練功どころではない。K氏は隣で、完全にあっけにとられている。私も同様である。典型的な自発動ではあるが、ここまでド派手なものは、私の今までの症例でも、はたまた師匠の教室でも、お目にかかったことがない。当然私は師匠から、このような激しい自発動が起こった時の、対処の仕方を聞いてはいなかった。そんな私ができる唯一の現実的行動とは・・・、彼女から身を離すことであった(笑)。

私は彼女から3メートル以上離れ、ソファの陰に隠れた。「大丈夫ですか？大丈夫ですか？」と声をかけ続けながら・・・。

そうこうしているうちに、自発動は収まった。

しばらくその場にいた4人(我々3人と、K氏の彼女)は、文字通り茫然自失の状態で、誰も口が利けなかった。

最初に口を開いたのは、K氏だった。「・・・今のこと他人に話したら、俺達完全に、隔離病棟行きだな」。誰もその言葉に、反論する者はいなかった。

少しお茶を飲みながら休憩をした後、今度は点穴療法の実演に移った。

しかし案の定、この時も、強烈な反応を示したのは、やはりF女史であった。私は、もしかしたらまともに施術した場合、彼女には私の気は強過ぎるかも知れない、と考え、軽く経穴をタッピングするだけにとどめておいた。しかし、結果は同じだった。彼女が言うには、私がタッピングした経穴上の刺激は、私が指を離しても、ジンジンと残っている、という。そして湧泉という足の裏にある経穴をタッピングした時、ものすごい衝撃が、彼女の体を捕らえたらしい。彼女は完全に、エビ反り体勢になった。いわゆる督脈に、気が一気に流れ込んだようで、それが脊柱に与える刺激によって、背骨がコキンコキンと鳴る音は、そばにいたK氏にも聞こえたらしい。起き上がってみると、それまで猫背気味だった彼女のスタイルは、とても美しく矯正されていた(このことから、点穴療法と、いわゆる整体やカイロプラクティックとは、やり方も効果も全く異なるパラダイムに属するものである、ということがわかる)。

華々しいセッションを終えた後、彼女は、終電で帰っていった。そして私も次の日の昼過ぎ、久留米に別れを告げた。

・・・あれから数年。K氏は相変わらず勤務先の病院で、気功の練習を続けているようである。

そして私はそんな彼から、再度の気功指導のオファーを受けている。恐らく彼らと再会するのは、秋以降になることだろう。

その際、今度は一体どのような現象が起こるのだろうか。私としても、今からとても楽しみである。

↑よろしければ、是非

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今回もまた症例ではないのですが、性懲りもなく再訪した湯殿山での体験より・・・。

<2003年10月26日>

秋になると、湯殿山に行きたくなるのだ。

この年は、ちょうど私がそれまで7年間住み続けてきた東京を離れ、関西へと一時帰還した年。

遠く離れてしまったゆえ、もう当分行くことはあるまい、と考えていた湯殿山に、秋が深まるにつれ猛烈に行きたくなったというのは、あの得体の知れない連中に、誘われたせいであろうか。

大阪から東北、山形へ。東海道新幹線を使って一旦東京まで出て、そこから山形新幹線に乗り換える、というパターンもあったが、何だかコストが馬鹿にならなくなりそうなので、今回は、難波から山形行き的高速バスを利用することにした。よせばいいのに。

何のついでだったかは忘れたのだが、難波まで見送りに来てくれた友人とともにとんかつを食べた私は(全然精進料理ではないのがミソ)、高速バスへと乗り込んだ。

ところが、乗り込んでわかったのだが、難波から山形までという長大な距離にもかかわらず、休憩はたったの一回だけ。つまり、十四時間近くほぼノンストップというわけだ。おまけに夜行バスなので、午後十時には完全消灯。ブラインドを開けて外をのぞこうとした私は、後ろのおっさんに怒られた。振動のため寝付けない、物理的にも身動きが取れない状態で、高速バスは山形へ向かってひた走る。

無事山形駅へ到着した時には、私は完全に、意識朦朧としていた。

そこから今度は、鶴岡行き的高速バスへと乗り換える。

前回訪問したときは、羽黒山で二泊して、湯殿山で一泊、というパターンだったので、今回もそれを踏襲することにした。

羽黒山で宿として選んだのは、『奥井坊』という宿坊。ここのおばちゃんは、沖縄出身である。トロピカルな沖縄から、冬には完全に雪に閉ざされる羽黒へ、という人生も、なかなかオツなものなのかも知れない。

二日間掛けて羽黒山を十分に堪能した後、私は湯殿山へと向かう。

出立の朝、奥井坊のおばちゃんとお茶をいただきながら、前年に湯殿山で出会った、不思議な経験の話をした。

興味深そうに聞いていたおばちゃんは、こう感想を述べてくれた。「そうですねえ。あの山は昔から、修行の途中でノタレ死んだ亡者どもの霊がウジャウジャしてるでしょうから、お客さんだったらそういうことはあるかも知れないですねえ。」

湯殿山へ向けて今まさに旅立たんとする私に、これ以上のはなむけの言葉はあるまい。

ところで、湯殿山と言え、昔から有名なものがある。それは、『即身仏』である。

前回は時間の関係で見逃したのだが、今回はそれを一目見ておこうと、私は途中、湯殿山総本寺瀧水寺大日坊へと立ち寄った。そして拝見した真如海上人の即身仏。まあディープとしか言いようがない。

そうこうしているうちに、ポツリポツリと、雨が降り出した。

そう言えば今日は夕方頃、台風が山形を直撃するらしい。まあ直撃ってたって、大したことはあるまい。そう思いながら私は、その寺に住んでいる猫と、次のバスの時間まで、しばらく戯れていた。

外へ出ると、完全な土砂降り。おまけに私は、傘を持っていなかった。

リスク管理に根本的な欠陥がある私は、次のバス停に行くまでに、見るも無残な姿になった。

しかし、そこから湯殿山へと向かうバスの中で見た月山の紅葉は、何とも例えようがないほど、見事であった。あのような紅葉は、後にも先にも、見たことがない。今でも目を閉じると、まぶたの裏に広がってくる。

今回の参籠所の宿泊客は、私を入れて、たったの5人であった。しかも男性は、私一人。さもあ

りなん、台風が直撃するというのに、わざわざ自分自身が即身仏にでもなりかねないような危険を犯してこんなところに参拝に来るような者は、よっぽどの酔狂者であろう。

だがそういう切迫したシチュエーションになると異常なほどに盛り上がってしまうのが私の私たる所以で、さらに風雨が激しくなる中、男性風呂を独占して「私のものだ！」とばかりに内から嚴重に鍵を掛けて、温泉を一人満喫するのであった。

そうやって遊んでいる間に、どうやらマジで台風が直撃したらしい。外は猛烈な突風と豪雨。社務所のおじさんは、「龍が降りた。皆さんは幸運ですぞ」などと言っている。ものは考えようだな、とは思ったが、その龍にこれだけ大暴れされては、うるさくて眠れたものじゃない、と私は考えた。

いずれにせよ、明日は山形とはお別れだ。そういう意味では、今夜は山形での最後の夜なので、私はビールを一杯、引っ掛けることにした。

ところが私は、そんなに酒に強い方ではないので、酔っ払った私は、そのまま寢床に入ってしまった。もちろん、去年のことがあったので、部屋の電気はつけたままだったが・・・。

目が覚めると、午前四時。外は雨の音しか聞こえない。

「嫌な時間に目が覚めたなあ・・・」とは思ったが、覚めたもんはどないしょうもない。

すると部屋の中を、コウモリのようなものがパタパタパタパタと飛び交う音がしたかと思うと、枕元にピタッ、と止まった。

来やがったな、と思った瞬間に、またもやズシリ。

言うまでもなく最初は金縛りなのだが、去年十分に予行演習しているので、解除するのにそんなに苦はなかった。

そこで、押されてばかりでは芸がないので、こちらもぐーっと押し返した。すると、向こうもぐーっと押し返す、こちらもまた・・・。こんなことが、明け方まで続いた。

要するに、遊ばれていたのであろうか・・・。

外へ出ると、風はまだ少々あったが、台風一過、とても良い天気であった。

ご神体での参拝を済ませ、参道から少し山へ入る道を行こうとした私の足が、何かを察知して、突然止まった。そこに何か、異様なものが横たわっている。

よく見ると、白い大蛇である。

私が、死んでるんじゃないか、と思って顔を近づけると、ペロリと赤い舌を出す。どうやら生きていようだ。

さらに顔を近づけると、そのそばに、もう一匹いるのがわかった。もしかしたら、夫婦で日向ぼっこでもしているのであろうか。

特に向こうも逃げるようでもなく、私も逃げる必要もなかったので、そのまましばらくそこへしゃがみこんで、二匹の白い大蛇と、声なき対話を続けた。

いやはや湯殿山とは、いろいろなものに出会う場所である。

本当はその時期、そこから先は立ち入り禁止なのだが、私は人目につかないようにして、さらに奥へと進んだ。

誰もいない山道をずんずん登っていくと、突然視界が開けた。

そこは広大な草原になっていて、台風の影響からか、頭のすぐ上をたくさんの雲が、ものすごい速さで行き交っている。辺りは、風の音しか聞こえない。生き物の姿さえない。私はその風景に、思わず息を呑んだ。

もしかしたらここは、私の魂が帰っていく所なのかも知れない、そのように思わせられるほど、幻想的な、見事な風景であった。

・・・後日談。

私は師匠の気功会の飲み会で、たまたま隣にいたおばさんに、この話をしてみた。すると彼女は、「えーっ！あんたあの山で、白い蛇見たの？」とたいそう驚いた。その反応に、こっちの方が驚いた。

何でも湯殿山では、白い大蛇は、ご神体の化身と考えられていて、それを見た人は、本堂に上

げてもらって、特別のお神酒をいただけるそうなのである。

「一匹だけならいざ知らず、二匹も見ると、いかにもあんならしいわね」と、彼女は言っていた。

うーん。基礎知識くらいは、持っておくべきだった・・・。

↑よろしければ、是非

世にも奇妙な症例集エピソード3～水子か？それとも兵士か？

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

これは厳密には症例ではないのですが、私が体験した奇妙な例から・・・。

<2001年11月1日>

秋になると、湯殿山に行きたくなる。

かねてから山岳修験道に興味を持っていた私が、是非一度訪れてみたい、と思っていたのが、蜂子皇子開祖の羽黒修験道の中心地である出羽三山であった。

その中でも、奥の院的な圧倒的な存在感を放つ、湯殿山。

バスが一日四本、みたいな世界なので、行くのには非常に苦勞をした。

『語るなかれ、聞くなかれ』といわれるご神体は、まさに見る者の度肝を抜く。あれはすごい。両側が山、その間を流れる川という、風水的に最高の地形であり、そのまさに龍穴の位置に、ご神体はある。しかも、これまた奇っ怪なお姿。

あのご神体を目の当たりにすることができれば、旅の苦勞も癒されるというものである。

しかし以下のお話は、ご神体自身とは、全く関係がない・・・。

あまりの付近の風景の美しさに見とれた私は、ここに一晚、逗留してみることにした。

霊場の中に「参籠所」があり、そこで宿をとることにした。「参籠所」といっても山小屋ではなく、鉄筋コンクリート製の、ちょっとしたホテルである。

ところが、フロントに尋ねると、その日はちょうど団体の参拝客が来られたので、本館は空き部屋がない、との返事だった。宿帳をパラパラとめくっていたおばちゃんが、ふと手を止めて、こう告げた。「離れの3号室なら空いてますけど。」

・・・私はこの時点で、イヤな予感がした。でもすでに、最終バスは行ってしまっている。

無理やり下山しようとして冬眠前のクマのオードブルになるのはもっとイヤだったので、結局そこに泊まることにした。

普段誰も使わない部屋だったらしく、おばちゃん達が、申し訳程度の夜具とお茶を持って来てくれた。

ところで、湯殿山参籠所のお風呂は、最高である。ご神体付近から湧き出るお湯を引き込んだもので、何だか有り難いような、もったいないような気がした。

本館では、団体の参拝客がカラオケを持ち出して、ドンチャン騒ぎをしていた。昨今の霊場とは、得てしてこんなものである。

外へ出てみると、巨大な鳥居に、まん丸い大きな月が懸かっていて、辺りは完全な静寂。そこにいるだけでも、意識が変容していくような感触を覚えた。

・・・忘れもしない、午後十時。

布団に入ってウトウトしていた私の左の耳に、突然、笛のようなカン高い音が響いた。

まさにそれが合図であったかのように、私の体の上にズシリと何者かがのしかかった。無論、いわゆる金縛り状態である。

このままだと押しつぶされそうな勢いなので、私はマントラを唱えつつ無我夢中でもがき続け、何とか振り払うことが出来た。

辺りを見回すと、誰もいない。いるわけがない。

完全にパニックっていた私は、暗闇に向かって、「すみません、私はまだ、日の浅いペーペーの修行者なんです。もし何かおっしゃりたいことがございましたら、私なんぞではなく、どうぞそれなりの方にご相談いただけませんか？」とわけのわからないことを、半ば本気で訴えた。

だが連中には、そのようなコソクな言い訳など、通用しなかったようである。

今度は、私の腕を引っ張りまわしたり、口の中に手を突っ込んだり、枕元をバタバタ走り回るなど、大暴れを始めたのである。

完全に頭にきた私は、布団を払いのけると、こう怒鳴りつけた。「お前らええ加減にせえ！これ以上俺をからかうんやったら、社務所のおっさん呼んできて、ここでお払いしてもらおうぞ！」

辺りは急に静かになった。

「お前ら、お子ちゃまとちゃうか？」というと、どこかでカサカサと音がする。

印を結んで部屋にかざすと、隅の方に冷たい空気の塊がいるのを感じた。印象としては何だかズングリムックリな感じで、私はドラえもんのようなやつが、何人かそこにいるような気がした。

子供だ、と思った瞬間、何だか拍子抜けした私は、「あのなあ、君らと遊んでやりたいけどなあ、僕も眠いんや。ここにおってもかまわんけど、あんまりヤンチャせんとしてくれ」と告げた。

連中は一晩中そこにいたようだが、もう手出しはしなかった。

次の日、外へ出て気がついたのだが、私の泊まった離れのすぐそばには、水子地蔵があった。

そこでカラカラと回る風車の音が、何だか私に話しかけているように思えた。

「また来るわな」と呟いて、私は下山するバスに乗った。

間もなく山は、豪雪のため、入山禁止となる。

深い雪に閉ざされたこの参籠所で、彼らは一体、どんな夢を見るのだろうか・・・。

・・・後日談。

数年後、大阪に帰った私は、この一件を、大学時代によくツルんでいた靈感系のガールフレンドに、笑いながら話して聞かせた。「いや～、大変な目に会ったで。」

その時彼女は、昔と少しも変わらない印象的な眼でじっと私を見つめ、こう尋ねた。「・・・あんた、それほんまに子供や思てんの？」「・・・え？」

「ちゃうちゃう、それ兵隊さんやで。別にあんたに危害を加えようと思ってやらはったわけとちゃうけどな。」

その時、水子地蔵のそのまた隣に、旧日本海軍戦没者の慰霊碑があったのを、ふと思い出した。

『八紘一宇』という文字とともに、そこに彫り付けてあった兵士の顔を見て、私はぞっとした。見てはならないものを見てしまったような、そんな気がしたのだ。

・・・うーん、私の天目も、まだこやつの霊眼には勝てぬか。

↑よろしければ、是非

世にも奇妙な症例集エピソード2～痙攣する男

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

<2000年5月15日、M.K氏(会社員、30歳)>

彼はまた、いつものように、午後8時過ぎに、うちへやってきた。

私はうんざりした。これから約二時間は、彼の愚痴を聞かなくてはならないのだ。会社がどうの、お客がどうの、はたまた家がどうの……。こんな調子が、ここ数ヶ月間ずっと続いていた。

私としては、昼の休憩時間に大山山麓へ行って、一時間昼寝をしてしまう彼のメンタリティにも大いに問題があると思われて仕方がないのだが、灯台下暗しというやつで、そんなことは彼は、全く意に介さないようであった。

今日という今日こそは、カタをつけてやらねばなるまい、私はそう考えながら、彼を自室に入れた。

彼は部屋の真ん中に坐ると、早速嘆き節を奏で始めた。導入から主題へ、レントからプレストへ。全盛期のカラヤンのように、彼は徐々にヒートアップしていった。

約30分後、黙って聞いていた私の、ついに堪忍袋の尾が切れた。「立てい！」飛び上がるようにして、彼は立ち上がった。私は彼に、師匠から教わったばかりの、站椿功の姿勢を取らせた。このように私の、いきなり練功に入るというパターンは、ジャッキー・チェンの『少林寺木人拳

』の影響である。

足を平行にして、膝を緩め、腹部の前でボールを抱えるような姿勢を取らせる。私は、30センチのモノサシを持って、ペチペチと彼の体を叩きながら、余分な力を抜くように仕向けた。こちら辺は今度は、『酔拳』の影響である。

その姿勢を取らせて、約3分後。突然彼は、かっばかっばと、大あくびをし始めた。それと同時に、ボロボロと涙をこぼし始めた。しばらくすると今度は、全身を激しく、痙攣させ始めた。

その様子を見て私は、少々ムツとした。私は、こいつ、私をからかっているな、と思ったのだ。私が最近、気功法のトレーニングを始めたのを知っている彼は、私のやっていることをパロディ化して、再現しているつもりなんだな、相変わらずイヤミなやつだ、と私は考えた。

数分間私たちは、その状態で、にらみ合いを続けた。

沈黙を破ったのは、彼の方だった。「これ、いつまで続くの?」。私は驚いた。彼は彼で、私が何か催眠術のようなものをかけたのだと思い込んでいたのだ。彼が言うには、全身が痺れ上がっていて、コントロールできない、あくびも涙も、全身の痙攣も、自分のあずかり知らぬところで、勝手に起こっているのだ、と彼は言った(これを気功では、『自発動功』という)。

腕組みをしてにらみ続ける男と、その目の前で大口を開けて涙を流しながら、月に憑かれたあやつり人形のようにカタカタと痙攣する男。これ以上に奇っ怪かつ異常な光景はあるまい。第三者が見たら、泡を吹いて卒倒していたかも知れない。まさに『エクソシスト』である。

その状態がさらに15分程度続くと、徐々に痙攣は収まってきた。そして完全に止まった。

見ると、表情もすっきりして、顔色も全然違う。

それ以上愚痴をこぼす気が失せたのか、彼は、「・・・帰るわ」と言い残して、そのまま帰ってしまった。

後で聞くと、数日間異常に体が軽く、爽快だった、と言っていた。

後日、師匠にこの話をすると、師匠はこう答えた、「あんた練功中に、不用意に生徒さんに近づかない方がいいよ。何起こるかわかんないから」。それって、いい意味ですか？悪い意味ですか？

あれから数年。そんな彼は、今でも職場でたまに、カタカタやるらしい。もちろん、人目につかないように・・・。

↑よろしければ、是非

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

さて、私のようなお仕事をしていると、数々の妙な現象に、やたらと出くわすものです。

その際たるものが、いわゆる『霊障』と呼ばれるものです。

十数年前の某宗教団体によります某事件以降、そのようなものの存在を語る風潮は、一気に消滅するかと思われましたが、事実としてはどうやら全く逆で、テレビでは、心霊体験だとか風水だとか占いだとかは、相変わらず絶大なる人気ようです(最近ではスピリチュアル、でしょうか)。

やはりこのように、異世界にあこがれる、というような嗜好は、大方の日本人に共通するものなのかも知れません。

だからといって、気功などというただでさえ怪しいものを扱う私のような人物が、このような現象にモロに触れたりしますと、笑われるどころか叩かれたりもしますので(ホントです)、その手の話題を避けるようにしていたのですが、皆様の中にはもうすでに、私の人となりを十二分に体験していらっしゃる方も多いと思われますので(しかも飲み会などで(笑))、あえて今回、それ系のお話に触れてみたいと思います。

実を申し上げれば、中国の気功や仙道、仙術などの体系には、先ほど申し上げました『霊障』だとかいった現象に対する対処法も、ちゃんと存在するのです。それをここで公開すれば、もしかしたら、家に帰るといつもひどい目に会う、といった悩みをお抱えになっておられる方にも、参考にしていただけるかも知れません。

そうなれば、とても嬉しく思います。

さて、いわゆる『霊』というものは、日本では様々な形で呼ばれています。地縛霊、憑依霊、生霊などなど……。私の見たところこれは、日本人の霊に対する見方を、如実に現しているように思えます。

ところが、気功を生んだ中国では、全く状況が違います。中国には『怪力乱神を語らず』という言葉があって、超越的な力だとか存在とかを認めない、という風潮が、古来よりあります。こ

こら辺は、気などというさらに不可思議なものを振り回す中国にしては、非常に奇妙なのですが。

つまり彼らは、気というものを、すでにテクノロジーの一部として、捕らえているというわけですね。

これは単なる思弁ではありません。だからこそ彼らは、このテクノロジーを使って、日本で言う『霊』のようなものまで、コントロールしようとするわけです(こら辺のドライな唯物論的な発想が、社会主義唯物論を受け入れる土壌となったのだ、という歴史学者の指摘もありますね)。

そのバックボーンになっているのが、いわゆる『陰陽五行説』あるいは『易』です。

具体的にご説明しましょう。

彼らは全て、「陰」に属する存在です。これはイメージしやすいと思います。その「陰」の存在が、ごくたまに我々の目の前に忽然と現れて、悪さをする。この時人は、たいてい怖がります。

しかしこれは、先の『陰陽五行説』で言うと、実はあまり良くない対処方法と言えます。なぜか？

実は、「怖がる」という反応自体が、すでに「陰」の性質を持っている、というわけです。ですからこの場合、「陰」と「陰」とが衝突して、さらに「陰」が強化され(物理学で言う波の性質と、何だか似ていますね)、よけいに事態が悪化する、と彼らは考えるのです(このような説明を聞いて、ご自分の経験から、青ざめながら頷かれる方もいらっしゃるのではないかと・・・)。ではどうすれば良いのか？

相手に、「陽」のものをぶつければ良いのです。それは具体的に言えば、師匠によれば、「笑う」、「怒鳴る」、「歌を歌う」だそうです。

そうなると、「陰」と「陽」とで、プラマイゼロ。めでたく連中は退散する、というのが、『陰陽五行説』が語る『霊』への対処法です(こら辺も、物理学の波みたいです。位相の異なる波をぶつけると、お互いに干渉して消える、みたいな)。

このように、『陰陽五行説』というのは、単なる風水インテリアのオマケなどではなく、極めて実践的な理論なのです。

それを、これからご紹介する症例で、実際に見てみましょう。

<2001年11月11日、K.Nさん(OL、35歳)>

元来いわゆる靈感の強い人で、「心霊現象」と呼ばれるものに、度々悩まされたことがある。一番ひどかったのは、いとこの葬儀に参加した後、どうやら彼が「着いてきてしまった」時だそうで、この時は、「お引取り」願うのに、相当時間がかかったとか。

この日彼女は、早朝5時に、なぜか突然、鳥取県中部に位置する「大山」という山に行きたくなり、一人車を走らせた。因みにこの山は、古来より山岳修験道の聖地とされる霊山であり、私の祖母は、「薄暗い時にはあの山には行ったらあかん」と、よく私に言っていた(当然私はその言いつけを、守ったことがない)。

彼女は、運転免許を持っではいるものの、普段はほとんど運転しないほどの怖がりでもあり、その点からも不自然な行動であった。

鏡ヶ成という場所までたどり着き、そこでちょっと休憩。さあ帰ろう、と思って山を中腹まで降りた時、何かがズシリと背中に乗るのを感じた。

この時初めて、しまった、と思ったという。

そのまま会社に出かけたのだか、案の定昼頃から、だんだんと体調に異変が生じてきた。異常なほどの悪寒と冷え、頭痛、吐き気が彼女を襲った。

さすがに会社の人にもそれは見て取れたようである。しかし彼らは、単なる疲れか風邪だろうと考え、風邪薬や頭痛薬を飲ませたようだが、一向に改善する気配は見えず、ますます衰弱していくようであった。

偶然にもその夜私は、その会社の人と飲みに行く予定だったのだが、会った時私は、彼女の様子が明らかにおかしいのが判った。

一人で列車に乗って自宅まで帰って休みます、と彼女は言うが、その途中で卒倒でもされたら大変である。だが薬はほとんど効いていない様子である。

その時の私は、一指禅功ならびに点穴法を学び始めた直後であった。こんなものが本当に効く

のかどうかは判らないが(結構私は、疑り深いのである)、取り敢えずダメモトで試してみるか、
と思って、行った先の料亭で、施術を試みた(飲み会でいきなり施術をするハメになるというパターンは、この当時からあったのである)。

点穴法によって上半身の経絡を調整して気脈を確保した後、ミーハーな私は師匠の一指禅功の
真似をして(笑)、背中にある命門という経穴に、外気発射を行った。

すると彼女曰く、何かが「スポンといって」背中から抜け出るのを感じた、という。

おびえた表情で彼女は、「そこそこ、そこにいるでしょ」と言って、部屋の隅を指差した。当然
他の人には、何も見えない。しかし私がそこに手を向けると、確かに何か冷たい空気の塊がそこ
にあるのを感じた(因みに私は、今でもその手の存在は見えないのだが、伝わってくる熱で、何
となくわかる)。

次の日には、完全に回復していた。

後日談。私は東京に帰った後、師匠にこの話をしてみた。

私の話を興味深そうに聞いていた師匠は、やがてこう述べた。「あんたの陽の気をまともにぶ
つけられたら、そりゃあ向こうだってたまらんでしょう」。なるほど、そんなもんなんですか。
陰の気と言われなくて良かった♪

というわけで、あまりおおっぴらに出来ない奇妙な施術例を、これから随時、ご紹介してい
きたいと思います。

↑よろしければ、是非

時代の流れとは言え・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

前回ここを訪れたのはいつだったでしょうか。多分3年ほど前だったと思うんですけども。同じ渋谷にしながら(笑)。

その時の店内を見て衝撃でしたね。各フロアにお客さんは数名、「数名」です。その頃からかなり厳しかったんじゃないでしょうか。

私個人を考えてもそうですね。学生時代はバイト代は全部CDに変換されていました。そのバイトもCD店でしたから、私とお店の間で、ある一定の金額が循環していたという(笑)。引越しの時なんて大変でしたね～。段ボール箱30箱とか。友人は病気だとか言っていましたけれど(笑)。それがここ5年の間で買ったCDは、たったの一枚。そういう変化を経験されたのは、私だけではないと思います。

取り敢えず記念に、8月閉店までには行ってみましょうかね～。今持っているレコード券も同じ頃使えなくなるみたいだし。

↑よろしければ、是非

Art Unit HUST(臼木英之・遠山伸吾)Exhibition vol.2- In Vitro - | 5/18~5/25まで開催

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

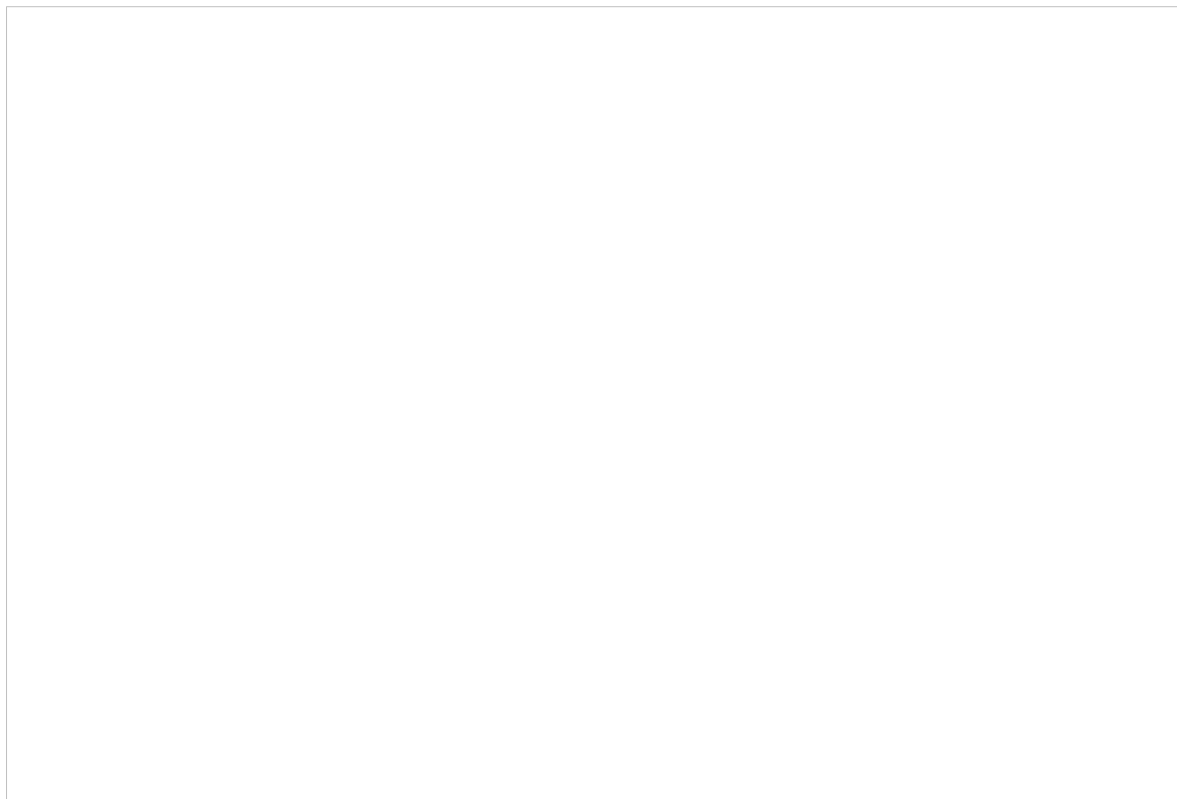
画家臼木英之氏と彫刻家遠山伸吾氏によるインスタレーション・ユニット『HUST』によりますエキシビション第二弾、"In Vitro"が、ギャラリー銀座一丁目で、本日5月18日から25日まで開催されます。

前は膨大な量のセミの抜け殻でしたが、今回は試験管です。普段見慣れている試験管(てか、試験管見慣れている方って、日常生活では少数派なのではないでしょうか?)がどのようなアンビエンスを醸し出しているのか、非常に楽しみです。

因みに今回も、音楽は私が制作させて頂きました。お二人にはいつもお世話になります。有難うございます。m(_ _)m

というわけで、私は週末土曜日に伺う予定にしております。皆様も是非。会場でお目にかかれまことを楽しみにさせて頂いております。

[Art Unit HUST\(臼木英之・遠山伸吾\)Exhibition vol.2- In Vitro -](#)





↑よろしければ、是非

近江八幡へ行って参りました(兼BIWAKOビエンナーレ2010イントロダクション)。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今度は、近江八幡へ行って参りました。

とは言っても今回は、初めて行く場所ではありません。何故なら、親戚がいるからです。というわけで、私が物心(正確には放浪癖)がついて一人でJRに乗って旅をするようになった頃のヘビー・ローテーションが、この街でした。

で、その目的なのですけれども、今年の9月18日から11月7日にかけてこの近江八幡市で、『BIWAKOビエンナーレ』という一大アート・イベントが行われます。ギャラリー銀座一丁目の真木オーナーに参加のお誘いがあって、私は先だってこちらの10周年イベントのオープニングで音楽を担当させて頂いた関係で、オーナー経由で私も、お話を頂くことになりました。私と近江八幡とはそんな関係だったものですから、偶然にしては出来すぎてるな〜、と感慨深い気がしました。オーナーもびっくりされていらっしゃいましたけれども。

皆さんが深夜バスでヘロヘロになりながら打ち合わせ当日にお出でになったにもかかわらず、私は親戚の家に泊めて頂いて、一日前に早々と現地入りしていました。

オーガナイザーであるNPO法人エナジーフィールドの中田常務直々にご案内頂きつつ、会場を下見して回りました。この街に点在する古い家屋を改造して街全体を美術館にしてみようという、壮大なプロジェクトです。由緒ある旧家がアーティストの皆様の助力によって、レトロかつモダンなギャラリーに変身していくというのは、非常にユニークですね。地方ならではの贅沢な企画です。その卓越したセンスと共に、このプロジェクトに賭けるスタッフの皆様の並々ならぬ熱意には、本当に脱帽する想いが致しました。

というわけで私は、10月2日の土曜日午後6時半辺りより、事務局の裏手に当たる喜多利邸(今は、『天籟宮』と名称が変更になったそうです。[こちら](#)です)中庭において、サウンド・パフォーマンスをさせて頂けることになりました。時は秋深まる頃。虫達がリンリンと鳴くであろう日本庭園で、アトモスフェリックなアンビエント・ミュージックをご提案させて頂けたら嬉しいですね。また私としては、ほぼ15年振りの関西地方でのライブです。因みに前回は、クラシックギター部の定演(笑)。そしてメンバーは、呼吸器外科医兼CGアーティストのDr.Yuki。ええそうですよ、我々は自他共に認める神戸大学クラシックギター部のテロリストでございます。15年以上相変わらずツルんでやってるわけでございますよ。

内容は今後じっくりと詰めて行きたいと思いますが、関西方面の皆様には予めのご案内という

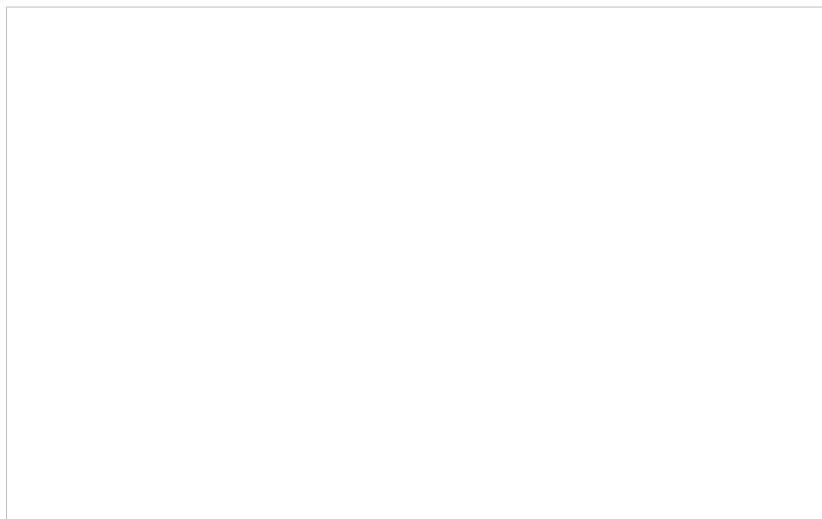
ことで。詳細が確定致しましたら、改めてDMにてご案内させて頂きたいと思いますので、その際は宜しくお願い申し上げます。

関西で皆様と再びお目に掛かれますことを、心待ちにしております。

最後になりましたが、NPO法人エナジーフィールドの中田洋子常務理事、スタッフの井上ご夫妻。先だっては大変にお世話になり、真に有難うございました。今後とも宜しくお願い申し上げます。BIWAKOビエンナーレのご成功と、貴NPOの益々のご発展を、心より祈念申し上げつつ！

[BIWAKOビエンナーレ2010](#)

[NPO法人エナジーフィールド](#)



↑よろしければ、是非

非常に興味深い事例ですねこれ。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

これと似たような事例として、私も一週間に素うどん一杯しか食べないと話すタクシー運転手に出会ったことがあります。しかも横浜市内で。以前ブログに少し書きましたが。

多分、消化吸収のシステムが変わっちゃうんでしょうね。少量の食料にもかかわらず、そこから最大限のエネルギーを引き出すような感じになっちゃうんじゃないでしょうか。そうとしか考えられない、と運ちゃんも言ってましたけれども。

彼のことをご存知の方がいらっしゃいましたら、是非お知らせ下さい。

↑よろしければ、是非

福島へ行って参りました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

福島県へ行って参りました。

とは言っても、観光ではありません。仕事です。さらに仕事と言っても、気功とは全く関係ありません。某町の地域活性プロジェクトに、作曲家として参加することになりそうなので、現地の役場関係の方々との打ち合わせのために、当地を訪ねました。

しかし、何故福島なんでしょうね～。ここら辺が人生の面白いところですね～。このプロジェクトがなければ、ここを訪れることはなかったでしょうから。しかも作曲家として。どんなコネクションなんでしょうね～。

取り敢えず今のところ、水面下で調整が続けられているところですが、なかなかやりがいのあるプロジェクトだと感じている今日この頃であります。

というわけで、詳細はまた後ほどということで、今回は写真だけ。猪苗代のカモは、とても可愛いです。立ってると、寄ってきます。そして喜多方ラーメンとそば。最高ですね～。是非一度ご探訪を。

・・・あ、ガンダムの像、撮影するの忘れた。



↑よろしければ、是非

"Installation Unit HUST Exhibition 「- In Vitro - u · tsu · se · mi」"通信

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

こちらの新聞で、今回の、"[Installation Unit HUST Exhibition 「- In Vitro - u · tsu · se · mi」](#)"が紹介されています。

[インсталレーションユニット「HUST」がYCCに黒風船とセミの抜け殻で作品／神奈川](#)

また、YouTubeにいくつか映像がアップされています。ご両人の許可を頂いて、当ブログでもご紹介させていただきます。音はあまり聴こえませんが(笑)。

聞くところによると全般的に、かなりの反響があったようです。本当に嬉しい限りですね(笑)。



↑よろしければ、是非

ご来場頂きまして、真に有難うございました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昨日は、ヨコハマ・クリエイティヴシティ・センター3Fギャラリー銀座一丁目開廊10周年記念エキシビション「[アート百葉](#)」でのオープニング・パフォーマンスにご来場頂きまして、真に有難うございました。

最近エキシビションの音楽と言っても音源制作がメインで、このような形でのライブ・パフォーマンスは久々でしたので、私自身も大いに楽しませて頂きました。

面白いな、と思ったのは終演後、何人かの作家さんと、かのKlaus Schulzeの話で盛り上がったことですね。私の楽曲をお聴きになって、そのテイストを強く感じられたそうです。音楽をやっている人で彼の名前を出す人にあまりお目にかかったことがないのは不思議なのですが、むしろ彼のような音楽が影響を与えているのは、このような絵画ですとか映像に携わる方の方なのかも知れませんね。ええ、おっしゃる通りです。今回使ったvstは、Mellotron、Arp Odyssey、Minimoog、取り敢えずあの辺ですから。まんまです。ついでにJuno-6。あんな本物だったら絶対に電車なんかで運搬不可能なアイテム群がパソコンで手軽に運べるというのは、正にITエイジの成せる業ですね(笑)。

というわけで、この度は真に有難うございました。この場をお借りして、関係者の方々に心よりお礼申し上げます。

そして1Fでは、画家臼木英之氏と彫刻家遠山伸吾氏によりますインスタレーション、"[Installation Unit HUST Exhibition 「- In Vitro - u · tsu · se · mi」](#)"、こちらは本日が初日です。会場中に張り巡らされた風船と、それに結び付けられたセミの抜け殻がゆらゆらと風に舞う、という一種独特の空間が現出しております。こちらは3Fとは打って変わって、そのような「揺らぎ」をデフォルメしたディープ・ノイズ・アンビエントとなっております。因みに両氏には好評を賜りました。有難うございます。こちらもし宜しくお願い申し上げます。

↑よろしければ、是非

ヨコハマ・クリエイティヴシティ・センターでのサウンド・パフォーマンスのご案内

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

謹啓 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、ヨコハマ・クリエイティヴシティ・センターにおいて開催されますギャラリー銀座一丁目開廊10周年を記念したエキシビション「[アート百葉](#)」(3/17～22)のオープニングにて、演奏をさせていただきますことになりました。

時間は、初日3月17日の午後1時より。当日は、コンテンポラリー・ダンス・チームのために制作した"Birth/Dream"、地元鳥取県の霊山三徳山開山1300年を記念したイベント「気満つる御山/悠久の祈り」のために制作致しました、"The Heart Sutra"、"Pilgrimage"の計3曲をアレンジし直したものを演奏する予定をしております。それにエキシビション参加アーティストによりますCG、さらにM.N氏によりますピアノを加えた、一種のコラボレーション企画となっております。

思いっ切り平日ですのでお出にくいこととは存じますが、是非ご来場下さい。その後パーティもあるようです、ってあるのかな(笑)。

なお、全く同じヨコハマ・クリエイティヴ・センターの1Fにて、以前から懇意にさせて頂いております画家臼木英之氏と彫刻家遠山伸吾によりますインスタレーション、"[Installation Unit HUST Exhibition 「- In Vitro - u・tsu・se・mi」](#)"も開催され、こちらも私が音楽を制作させて頂いております。こちらは期間は、3/18～22となっております。

要するに、会期中はYCCの1Fと3Fとも私の音楽が流れる、とこういうわけですね。有難いことです。

このような機会をお与え下さったギャラリー銀座一丁目真木みきこオーナー、臼木英之氏、遠山伸吾氏に、心から感謝いたします。

というわけで、当日お目にかかれますことを、楽しみにさせて頂いております。

中原勇一 拝

[ギャラリー銀座一丁目開廊10周年展覧会「アート百葉」](#)

[Installation Unit HUST Exhibition 「- In Vitro - u・tsu・se・mi」](#)

ヨコハマ・クリエイティヴシティ・センター

↑よろしければ、是非

ははは、ついに言われましたか。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

はい、確かに牛は多いです。その切り返して『裏日本』とは、なかなかナイス、石破先生。

でも人がいないからこそ、文字通りの原野だったり密林だったり、全く手付かずで残ってたりするんですよね。そういうところに行くのは、とても好きです。ええそうなんです、何しろ秘境ですから。

この発言を機に、この地域の分離独立を求める動きがより一層活発化することになり・・・って、そんなことはないか。

↑よろしければ、是非

出た、バンドン。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

はてさて、どこの学校だ？嫁さんによればこの制服は、小学生だそうです。

なかなか勇気があるじゃないか。

美しい写真だなあ・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

こういうのを見ると、本当にイメージが膨らみますね～。

無重力って、一体どんなんでしょうね。一度経験してみたいです。



↑よろしければ、是非

Pilgrimage

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

この曲は一回目の地元でのソロ・コンサート『気満つる御山／悠久の祈り』のエンディング用に作曲したものです。エレクトリックなブレイクビーツが鳥取で受けるかどうか不安だったのですが(一体どんなところなんだろうね～(笑))、結構喜んでいただけたので、安心しました。冒頭のシーケンスはそのままなんですけれども、最初は全然違う曲でした。ま、作曲なんて、得てしてそんなもんです(笑)。

その直後の三徳山三佛寺での奉納演奏でも演奏した曲です。参拝客に囲まれてモニターが全然聴こえない状態での演奏は、さすがにキツかったです(笑)。

Composed by Yuichi Nakahara (Equipments:Ableton Live, Minimogue, Synth1, ERS Polyiblit, Native Instruments Pro-53, Kjaerhus Audio Classic Delay)

CG Works by Dr. Yuki



↑よろしければ、是非

Loop/The Heart Sutra

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

もはや世界的にネットの必須アイテムとなった感のあるYouTube。

数多のアーティストも、こちらをプロモーションのツールとして使用しているケースが多いようです。

・・・てなわけで、「あんたもYouTube使ってプロモートしたら？」というお声を以前から多く頂戴しておりましたので、私もトライしてみました。

第一回目は、"Loop/The Heart Sutra"。いわゆる般若心経です。その本文を英訳したものを、Berkleyに住む友人であるCarmenに朗読してもらって、素材として使用しました。数年前の地元の三徳山という霊山の開山1500年記念イベントに合わせて、製作したものです。CGは、D r.Yuki。

今後もこんな感じで、映像とのコラボ作品をアップしていきたいと思いますので、宜しくお願いいたします。

Composed and Arranged by Yuichi Nakahara (Equipments:Guitar, Lexicon Jam Man Loop, Roland MC-505, Ableton Live)

Voice by Carmen

CG Works by Dr. Yuki



↑よろしければ、是非

新年会のご参加、真に有難うございました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

この度、『インドネシア・日本家族会新年会』にご参加頂きまして、真に有難うございました。

まあ予想された通りのドメスティックな会ではありましたが、予想を遥かに上回る多数のご参加を賜ったようで、大成功といってよいのではないかと思います。主催者としても、先ずは一安心といったところでしょうか。私も、久々のDJを楽しませて頂きました。PCもクラッシュしなかったし。Native Instruments万歳(笑)。

私的にはより面白かったのは、その後でしたね。僕は銀座のギャラリーへよく出向いてそこにいらっしゃる画家さんなどのアーティストと交流させて頂いているのですが、一度こういう方達を集めてフランクに作品について語り合う機会を提供出来ないものだろうか、とずっと考えていました。もちろんオープニング・パーティなどはよくあるんですけれども、それって単なる名刺交換会に終わってしまっているような節があるので、それを私は常々、非常に残念に思っていました。

そんな中、今回こんな感じで新年会が催されましたので、それをまんまと利用させて頂きました(笑)。二次会の方では、顔は知っているけれどもあまり話したことがない、みたいなアーティストの方達が一堂に会して、いろんなお話をさせて頂けたようで、私としても、とても満足しています。

今後もこのようなアーティスト交流会のようなものを定期的に主催させて頂けたらな、と考えています。イメージとしては、20世紀初頭のパリに見られたような『サロン』ですね。そこでは画家や音楽家や舞踏家や物理学者など(そう言えば今回、みんないらっしゃいましたね(笑))、幅広い人達が集まって、ジャンルを超えて活発な議論を展開していた。それが現代アートの基盤となっていたことは、否定出来ないと思います。あるいは60年代の日本の『実験工房』とか。そのような場を作りたいですね。

それがアート・シーン全体の活性化に少しでも貢献出来るのだとしたら、この上ない幸せだと思います。

というわけでアーティストの皆様、今後とも宜しくお願い致します(あれ、家族会はどうなったんだ?(笑))。

↑よろしければ、是非

テレビに出るらしいです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

我々夫婦が、この度、テレビに出るらしいです。

とは言っても、数々の悪行の結果ついに警察沙汰になる、といった内容ではありません。昨年の11月15日に目黒で開かれた「インドネシア・日本家族会」という催し物に我々夫婦も参加したのですが、そこにNHKのスタッフの方々が取材に来られていて、偶然にも我々は取材を受けたのです。

「採用されるかどうかは未定ですけれども、もし採用させていただいたら、改めてご連絡いたします」とのことだったのですが、どうやらそれが、本当に採用になってしまったようです。

その内容は、「国際結婚に対するあなたのお考えはいかがですか？」といったものだったように思います。当時は嫁が日本に来てまだ一週間目のホヤホヤだったので、私はその当時嫁がぶつかっていた問題について、いろいろとコメントしたように思います。新宿駅で泣きそうになっているとか(笑)。

この度、NHKの方より連絡が入りましたので、恥ずかしながらここに告知させていただきます。1月14日午後11時、NHK総合の、この番組らしいです。

[あなたが主役50ボイス 羽田空港ボイス + 国際結婚ボイス](#)

どんな内容になっているかは皆目わかりませんが、お時間がございましたら是非ご覧下さい。因みに、我々は見ることができませんけど。テレビ無いし。だーははは。私の後頭部が逆立っていたら、笑ってやって下さい。🤖

<PS>

同サイトでは、抜粋が見られるみたいです。抜粋じゃなくこれで全部だったら大笑いですが(笑)。また戦争その他で番組が変更になっていたら、平にご容赦。m(_ _)m

↑よろしければ、是非

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昨年2月のちょうど今頃、地元琴浦町のジョイフルにて(笑)DJ KAOSさんが私に見せてくれたノートに記されていた小さなメモからスタートした、イナバスター・プロジェクト。

同年5月鳥取県で行われた『世界砂像フェスティバル』でのパフォーマンスをスタートに著しい成長を遂げ、年末にはついに地元NHKの番組に出演を果たし、その直後に行われた倉吉パープルタウンでの公演も、成功裏に終わったようです。

実はスタッフの皆さんは、これまで演劇ですとかショーなどには、基本的に無縁の方達だったようです。そんな方達が一堂に会して、手作りでプロジェクトを進めていくというのは、困難もありますけれども、とても有意義な経験なのではないでしょうか。私としても、そういう方達が持っている様々な可能性を探っていくというのは、とてもやりがいのある仕事です。基本的に私は、アーティストというよりは、プロデューサー向きなのですね(笑)。

そんなわけで、今回この『白兎跳神イナバスター』の公式ホームページが出来上がったようです。地元ファンの方は要チェック！

[『白兎跳神イナバスター』公式ホームページ](#)

また同時に、テーマソングがYoutubeにアップされたみたいです。TIKARA君ナイスワーク。さすがです(笑)。多分この楽曲が、私が作った中では最も人口に膾炙している楽曲なのではないでしょうかね？歌うはもちろん、初音ミク。因みにこれ、テイク1です。今はアレンジ、若干変えています(笑)。

【初音ミク】白兎跳神イナバスターのテーマ

さて今年はどんな活躍を見せてくれるのか、関わった私としても、とても楽しみです。というわけで、皆さん今後ともよろしく(笑)。

↑よろしければ、是非

謹賀新年

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

謹んで、初春のお慶びを申し上げます。

去年は公私共に何かとお世話になりまして、真に有難うございました。

今年も皆様のご多幸とご健康を、心よりお祈り申し上げます。

・・・というわけで、これから明治神宮へ初詣に行って参ります。混んでたら止めます(笑)。🙏

インドネシア-日本家族会新年会2010のお知らせ

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今年も残すところ後数日となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、来年の1月17日に、赤坂に於きまして、インドネシア大使館が後援となっている『インドネシア-日本家族会』という団体によります新年会が、開催されます。私は嫁の関係上、こちらとは当然関わりを持たなくてはならなくなっただけですが(笑)、今回はそのお誘いです。

「家族会」などと、名称はかなりドメスティックですけれども(笑)、主催者としてはこれをきっかけに、会をインドネシアや日本に限定しないで、もっとインターナショナルなものにしたい、という希望があるようです。今回は一応一回目ですので、若干のドメスティック感は避けられそうもありませんが(笑)、そこはやはりエスニックの王様インドネシア、民族舞踊であるレゴンダンスありーの、民族衣装であるバティックのファッションショーありーの、日本からは何と8歳のお子様によります落語ありーの、と多彩なメニューになっているようです。

そういう私は、DJをやります。ツールはもちろん、Native Instruments Traktor。Y君有難う(笑)。インドネシアならではのエスニック感を重視しつつ、ラウンジ=チルアウト系の曲をかけまわろうかな、と考えております(笑)。

ご都合が宜しければ、是非是非ご参加下さい。お申し込みは、こちら。

[インドネシア-日本家族会\(日本語訳あり\)](#)

というわけで、今年は色々と有難うございました。良い年をお迎え下さいませ！



↑よろしければ、是非

そうかな。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

数年前のことですけれども、僕のところにやってきたコンテンポラリー・ダンサーが、うちに入るなり、「私、今の時代に、しかも東京都内で、こんな生活続けている人がいるとは、夢にも思いませんでした」と言っていました。

その基本的なスタイルは、結婚してからあまり変化はないですけれどもね。嫁には、「頼むから止めて。限度というものがあるでしょ？」とはよく言われますけれども。理事長、いっぺんうちに研修に来ます？(笑)。

↑よろしければ、是非

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昨日、東京都内の船堀にて開催された、『日本医療気功学会主催・2009年学術大会』に参加してきました。

この学会自体も、設立されたのはごく最近のようです。会長は気功関係の書物で有名な、かの帯津良一博士です。私はかねてより、日本にこの手の分野で、アカデミックな(パラノイアックでなく(笑))学会というものはないものだろうか、とずっと思っていたのですが、しがない気功家です。ありますこの私もこの度僭越ながら案内状を頂いたので、わくわくしながら参加してみました。

さて、その結果はと言えば・・・、うーん、といった感じでした(笑)。何と申しましょうか、フランス料理店でいきなり、文字通り中国料理、しかもそれぞれに深〜い思い入れのおありの自家製中国料理が出てきた時の違和感(というか衝撃)、とでも申しましょうか。要するに、統一感がない、という意味なんですけれども(笑)。これでは、「学会」という文字に一抹の期待を抱いて参加された方は、かなりがっかりされたのではないのでしょうか。

明らかに問題だな、と思ったのは、東洋医学サイドの方々の統合医療に関する意識の低さでしょうね。さすがにあのような場で、私のところに来た患者さんは、どんな病気でも治ってしまう(どうだ俺はすごいだろう←オフレコ)みたいな発言を、発表者・質問者を問わずするのはマズイのではないかと。たとえそれが誇大妄想なのだとしても(笑)。また、演舞は要らないでしょう、さすがに。そのようなラフな要素が、会場を学術大会というよりは文化祭にできてしまっていたのは、いただけなかったように思います。

唯一非常に興味を引かれたのは、福岡博史博士の「歯科と気の応用」、川嶋朗博士の「医療気功の現場」という発表でした。特に私は、川嶋氏のゲイジ場(ベクトルポテンシャル)の臨床応用実験に、大変興味を持ちましたが。約一分間のゲイジ場照射でクライアントの病状に著しい変化が見られた、というのは、大変面白い。私みたいに30分やってる気功家など、お払い箱ですね(笑)。両博士の発表に共通するキーワードと言えば、「エネルギー場」ですね。物質といったソリッドなものに対する視点だけではなく、何らかのエネルギー場の存在を仮定する視点がなければ、これらの現象は説明がつかないと。それが我々に馴染みの深い電磁場なのか、それともそれ以外の場なのか、それは今後の研究を待たざるを得ないわけですから。もう一つ参考になった

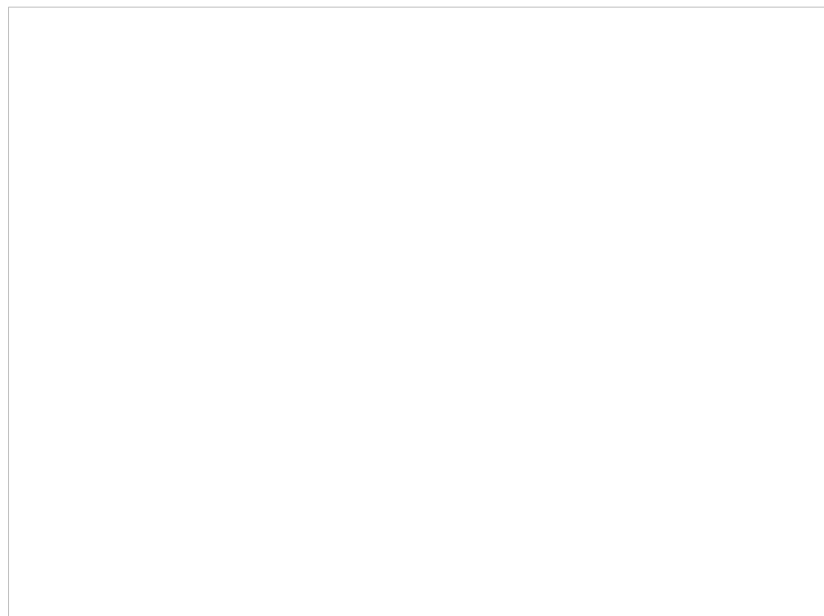
のは、町好雄博士による、「科学する気功」という発表でしたね。博士によれば站椿功は、血流量、血圧、心拍数という三つの点から見て、マラソンをしているのとほぼ同じ生理状態であるという実験結果が得られたと。なるほど。

というわけで今回の、西洋医学と東洋医学を統合医療という旗印の下に融合しようという大胆なる試みは、成功したのでしょうか？実はこのプログラムの最後には、大会宣言が予定されていたのですが、その部分は当日、「時期尚早」という帯津先生のコメントの下に、見事に削除されました(笑)。

多分主催者サイドにも、「マズった」感は強かったのではないのでしょうか。

今後この学会を存続させようと思えば、何らかの枠組みを設定する他なさそうですね。帯津先生もNFSH（英国スピリチュアルヒーラー連盟）を題材にして、そうおっしゃっていらっしゃいましたけれども。そうでなければ、今後このようなエビもザリガニも混じったようなごった煮状態が続けば、いくら蒼々たる面々が理事を勤められていらっしゃったとしても、単なる怪しいグループとしか見られないでしょうから(そうやって消えていった学会は、日本でも星の数ほどあると、ご自身もおっしゃっていらっしゃいましたね)。

私個人の見解としては、この学会を機に、先の西洋医学と東洋医学の融合の試みは、さらに数十年先送りされてしまったのではないかと考えていますけれども(かなり悲観的ですね(笑)。まあ、それだけがっかりさせられた、という意味なのですから)、参加された皆さんは、どのようにお考えでしょうか？





↑よろしければ、是非

この話、最近良く聞きますね。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昔読んだ本の中に、「人間の歴史とは、そのままウイルスとの格闘の歴史であると言える」みたいなくだりがありましたけれども、それと似たような話ですね。

この本の著者に言わせると、多種多様なウイルスに触れることで、人間はその機能(言うまでもなく、特に免疫機能ですね)を進化させてきたのだと。そのようなウイルスが全く存在しない環境では、そのような進化をする必要がないため、逆に環境への適応能力が低下してしまうと。

私は医者ではないためそれ以上の論評は避けますが、東洋医学の研究家としても、もっともな話ではないかと思います。「床に食べ物を落としたときには、迷うことなく拾って食べる」のは、今の世の中かなり勇気が要りそうですけれども。艱難辛苦汝を玉にす。

↑よろしければ、是非

時代の流れでしょうね～。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今日は宇宙人の話をすれば、即、『宇宙系カルト』と判断されるような世の中ですからね。国家レベルでこんな研究をしているセクションがあるとすれば、事業仕分けの対象となるのは当然の結末かも知れませんね。

まあ、時代の流れですね。もっとも私は宇宙系の話は、相変わらず好きなのですけれども。とは言っても宇宙人とかではなく、ダーク・マターとか量子論の方ですが。BGMは当然、kosmische musik(笑)。

↑よろしければ、是非

これも一種・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

風水的に解釈することも可能かも知れませんね。つまり、ディープな人の近くにいると、一緒になってディープになってしまいますよ、みたいな。

もっとも、ものすごく明るそうに見える人が、よくよく話してみるとそれは見かけだけで、実は飛んでもなくディープな人だった、ということがたまにありますので、そこら辺の見極めが重要になってくるのかも知れませんが・・・。

↑よろしければ、是非

最近思うのですが・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

毎週一度、青山へ出張施術のため表参道を通過する際に思うのですが、最近の表参道って何だか、異常に寂れているように思うのですけれど。

一步路地を入れれば空き店舗だらけだし、例の表参道ヒルズにしてもまるで美術館みたいですし。美術館のように美しい、という意味ではなく、閑散としている、という意味ですけれども。

そういう私も、ただ通過するだけだし。ハチ公バスで(笑)。かつてここでファッション・ショーのDJをやったりしていた時期とは、隔世の感がありますね。

一世を風靡したセレブの街も、デフレの影響からは逃れられなくなっているんでしょうかね～。

↑よろしければ、是非

大昔のソ連で・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

政府を挙げてのいわゆる超能力開発実験の一環として、「私は政府高官の〇〇〇だ」と強烈に自己暗示をかけた人物が、どの程度厳重な警備をかいくぐる事が出来るか、という実験が行われていたそうですけれども(言うまでもなくその目的は、その超能力を諜報活動に応用する、という極めて戦略的なものです)、それを髣髴とさせるような事件ですね。

これと似たような例としては、かのスピルバーグが全くの無名時代に、ハリウッドのスタッフが撮影所の入り口の所でセキュリティに手をチラッと上げて中へ入るのを真似て、中にまんまと忍び込み、挙句の果ては自分専用のデスクまで準備させていた、というエピソードを思い起こさせますね。

彼らは天才なのか、犯罪者なのか？いずれにせよ、一度お目にかかってみたいものですね。

↑よろしければ、是非

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

10月23日、快晴。てか、またもや苦しい。

先日と同じだ。再び私は、昨夜は南極大陸と赤道直下を分刻みで行ったり来たりすることになった。どうやら基本的に、この国の油脂を私の胃袋は受け付けないようだな。しかしかなりひどいことになるもんだな。これは私の胃袋が弱いためか、はたまた敏感になっているためか。まあそんなことを考えていても、どうなるものでもない。私は前回と同じ施術を、自分自身に施した。これでしばらく様子を見ることにしよう。

今日のご家族全員で、スラバヤから少し離れた街にあるご先祖のお墓に参る予定になっていた。しかし、車で約二時間。私はくらくらする頭で考えた。取り敢えず下痢は収まっているのでそれは何とか出来るとしても、この熱だけはすぐにはどうにもなりそうもない。途中どんな道なのか皆目検討が付かないが、少なくとも日本の高速道路のような舗装がなされているとは到底思えない。この状態で約二時間近く頭をシェイクされたら、さすがにヤバイかも知れない。しかし今回スラバヤに来た目的の一つは、このお墓参りなのであり、その意味でご両親をがっかりさせたくはない。はてさてどうしたものか。

そんな思いを察してくれたのか、嫁は我々だけ、このお墓参りをキャンセルしよう、と言った。私は非常に心苦しかったが、出先でひっくり返って入院騒動を起こして迷惑をかける方がより心苦しいかも知れない、と考え、最終的にその申し出を受け入れることにした。

というわけで、次の日にジャカルタへ移動する我々のご両親とは、ここでお別れ、ということになった。私は、このような形でお別れすることになって申し訳ない、と言うと、ご両親は、ノー・プロブレム、と笑って言ってくれた。我々のご両親を、ロビーまで見送った。彼らが行くのを見届けると、私は部屋へ帰り、そのまま再び倒れ込んだ。

次に目が覚めた時には、すでに午後になっていた。何とか熱は、小康状態に落ち着いたようだ。しかしスラバヤは暑い。それは昨日すでに経験済みだった。しかし今日は、何だかそれ以上にや

たらと暑いぞ。熱は下がった様子なのに。さすが南国だな、と思っていると、嫁がやってきて、この部屋、エアコンが壊れてるわよ、と言った。取り敢えずボーイさんに頼んで調整してもらったが、一向に直った気配はなかった。

それでも夕方頃になったら、体調はだいぶ落ち着いてきた。手元に烏龍茶のティーパックがあったので、夕食には嫁に『ほかほか弁当』からご飯を調達して来てもらって(素朴な疑問なのだが、この国の『ほかほか弁当』は、日本のそれと同じ系列企業なのであろうか)、それに烏龍茶をかけて梅干としそをまぶして食べることにした。ああ、これが一番僕の体には合ってるよな。何て安上がりな胃袋だろう。

夕食後に私達は、義妹とアリアン君とでもう一度、お祖母さんのおうちを訪ねることにした。タクシーに乗っている間中、アリアン君は私とふざけあっていた。言っていることは全然わからないのだが、こんな形のコミュニケーションもありかな、と思うと私は嬉しくなった。

お祖母さんは私のことを、当然完全に忘れていたので、私達は事の起こりを一から説明したのだが、それも数秒後には忘却の彼方へと消え去り、私達はテーブループのような歓談を続けていた。お祖母さんは、よくうちには学生時代の友人達が遊びに来てくれるんで、ちっとも退屈しないんだよ、と楽しそうに話していた。その横で嫁が引きつったような笑い方をしているのでその理由を尋ねたところ、お祖母さんの友人達はとっくの昔にみなお亡くなりになっているそうである。なるほど、それが記憶の混乱による昔話ならいいけれど、ごく最近の話だとすれば、リアル・シックス・センスって感じで、確かにある意味怖いよね。

その後私達はお祖母さんに別れを告げて、街のショッピングセンターで買い物を済ませた後、ホテルへと帰った。次の日は早朝の飛行機に乗らなければならないため、私達は早めに休むことにした。しかし、エアコンから出てくる温風は、そんな私を一睡もさせてくれなかった・・・。

↑よろしければ、是非

じゃがたら見聞録(8)～ついにスラバヤ到着、そして始まる二度目のフィーバー・・・
・(10月22日)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

10月22日、快晴。てか、**今日は涼しい**。取り敢えず車内だから。

ジャカルタを出てから、どれくらいたったのだろう。スラバヤへはまだ着かない。だいぶ列車は遅れているようだ。というのは昨夜、見知らぬ駅で突然列車が止まり、数時間そこで足止めを食ったからだ。何でもジャカルタからスラバヤまでは単線なので、何かトラブルがあるとその路線全体が運休となるらしい。そんな感じで足止めを食らった列車が、我々の列車の前に**数本**つかえているらしい。数本ですか・・・。その言葉を聞いた時、私はさらに覚悟を決めた。

昨夜はほとんど眠れなかった。それはシートのせいではなかった。うつらうつらしてくると、列車はどこかの駅に停車する。その瞬間、**カンカンカンカンカン**と何かを激しく叩く音と怒鳴り声がして、私は飛び起きる。何事が起こったのかと思えば、物売りである。列車が止まったので、ここぞとばかりに激しい売込みをかけるわけだ。売る方は必死かも知れないが、眠りかけている人間にはたまったものではない。まさかこれが一晩中、各駅に止まるたびに続くんじゃないだろうな、と思ったら、案の定だった。日本の夜行列車やバスのように、他のお客様のご迷惑とならないようにご配慮下さいませ、みたいな観念は、当然皆無である。うんざりしながら顔を窓へ向けると、今度は後ろからものすごい香りがしてきた。後ろのお客が**ドリアン**を買って食べているらしい。さすがは果物の王様、なんとエレガントな香り・・・。

そうこうしているうちに、もう朝になってしまった。と、嫁の携帯が鳴った。お袋からであった。どうやら無事に難波に着いたらしい。これから高速バスに乗り換えて、鳥取へ帰る、との連絡であった。**外国へ帰ったあなた方がもう着いて、同じ国にいる我々がまだ着いていないって、どういうことですか？** そんな私の心の叫びをものともせず、列車は田園の中をひた走る。時々列車が止まりそうになると、私の心臓も止まりそうになる。頼むからスムーズに走ってくれ。さすがの列車好きの私でも、少々この旅はこたえた。

こたえていないのは、どうやらアリアン君ただ一人だけのようであった。彼は列車が大好きなようで、走り始めてからずっと一人で大はしゃぎしている。最初は彼は、私に非常に警戒感を抱いていたようであったが、この列車の旅で、私にも慣れてきたようだ。次第に私にまわりつくようになった。今年3歳。可愛い盛りである。ただ私達の間には、超えがたい壁があった。**彼が何を言ってるのか、全然わからん**。最初は嫁にその都度通訳をしてもらっていたのだが、次第に面倒くさくなった。しまいには私は、どうせわかりゃしないんだから、と開き直って、あえてここは**鳥取弁で対応することにした**。

アリアン君「・・・・・・・・・・・・・・・・・・！！(道を指差して何か叫んでいる)」
私「おー、ようけ車が止まるとるがないや。渋滞しとってないか。」

このように国籍不明の会話を続ける我々を、嫁や義妹夫婦は面白がって見ていた。

そしてついに、列車はスラバヤへと到着した。

スラバヤは暑かった。並みの暑さではなかった。恐らく40度近くあったのではないだろうか。いきなり真夏、といった感触であった。しかし不快ではない。というのもスラバヤは、暑いことは暑いのだが、湿度が低いのでカラッとしているのだ。その辺りがジャカルタとは違う。街並みも非常に美しい。驚いたのは、道が整然としていることである。**車と車の間に空間があるではないか(笑)**。ここの街の人々は、きちんと交通規則を守るらしい。変な話だが、何だか別の国へ来たかのような印象であった。

そして我々は、ホテルへ着いた。ホテルとは言っても実はここは、軍関係の保養所らしい。パパさんが元インドネシア軍の将校なので、その関係でここに泊まることになったのであろう。ホテルにはすでに、パパさんとママさんが到着していた。

さて、お昼だ。嫁は、私はスラバヤの友人に会わないといけないのだけれども、あんたも来る？

と言うが、私は取り敢えず、食べるよりベッドの上で眠りたかったので、ご辞退することにした。じゃあ何か食べるものを買ってきてあげるから、と言って、嫁は出て行った。私はベッドに横になり、すぐに寝入ってしまった。

しばらく眠ってから時計を見ると、もう午後3時。嫁はまだ帰って来ない。私は小腹が空いたので、庭に出てお茶を飲みながら、昨夜列車に乗る前にダンキン・ドーナツで買った食パンを食べた。しかし、何だか**変な食感**だった。こりゃ日本の食パンと、少々勝手が違うな。私は二枚ほどで止めておいた。

そのうち嫁が、友人と共に帰ってきた。私達は縁側でいろいろと談笑した。彼女がお土産に、と言って、チーズ・ケーキをくれた。この店のチーズ・ケーキはとっても美味しいのよ、是非ご賞味あれ、と言って、彼女は帰って行った。その箱には二つチーズ・ケーキが入っていた。私はそのうちのブルーベリー・ジャムが乗っている方を食べることにした。しかし食べた瞬間、**イヤな感じ**がした。数日前の体の中の番犬がワンワンやっている感触に、かなり近かった。彼女には悪かったが、私はひとかけらだけ食べて、残念ながら残すことにした。

中庭をうろついていると、アリアン君が目ざとく見つけて飛びかかってきた。彼は私をしきりとロビーに連れて行こうとする。ロビーには巨大な水槽があって、その魚を私に見せたがっているのだ。ロビーの水槽を二人して眺めていると、彼はいかん、いかん、と言っている。何がいかんのだこいつは、と思っていたら、**ikanはインドネシア語で魚を意味する**らしい。なるほど、勉強になりました。その横にはピアノがあった。今度はそれを弾けと言う。仕方がないから『となりのトトロ』を弾くと、とても喜んでいた。**さすが宮崎アニメ。ワールド・ワイドだ。**

今夜はスラバヤでのパーティである。パーティ会場へ行く前に、嫁の母方のおばあさんに、ご挨拶に行くことにした。タクシーに乗ること十数分。市街地から少々離れたところに、おばあさんご一家の家があった。おばあさんは異国からやってきた私を、温かく迎えてくれた。私達は嫁を挟んで談笑した。ただ、おばあさんは日本で言うところの痴呆が若干見られるので、記憶がよく飛んでしまうらしかった。

「へえ、あんたがサリの旦那かい？ほう、日本からやって来たのかい？遠いところから大変だったねえ。そうかいそうかい、で、**あんた一体誰？**」

このような、昔『ドリフの大爆笑』で志村けんがやっていたギャグを地で行くような会話が私達の間に関わされたが、私は職業柄そういう状況はよくお目にかかるので、特に苦ではなかった。さらに私がそれに激しいボディ・ランゲージで対応するものだから、向こうのご家族には受けていたようだ。

そしてパーティ会場。約40人以上集まっていたであろうか。私にとってはパパさんご夫婦や義妹一家を除いて、誰が誰やらさっぱりわからなかった。嫁に尋ねると、その3分の1近くは**知らない**、と言っていた。とにかく彼らは何かにつけて、このようにパーティを開いては飲み食いする、というのが楽しみらしい。目の前にまた大量の料理が並んだ。しかし私は恐ろしかったので、体調が悪いので、とまったくいぶつ理由をつけて、取り敢えず米だけ食べていることにした。

パーティが終わって、私達は帰路へ着いた。その時までは何ともなかった。ホテルに帰ってロビーを歩いている時、**突然私を悪寒が襲った**。ああ、目くるめくあの懐かしい感触。でもパーティでは、何も食べていないのに、どうして・・・？その瞬間私の脳裏に浮かんだのは、あの**チーズ・ケーキ**。そっ、そんなあ、とケンシロウに殺される悪漢の心境ではあったが、時すでに遅く、瞬く間にその悪寒は全身に広がっていった・・・。

↑よろしければ、是非

じゃがたら見聞録(7)～両親は帰国、そして乗り込むトランス・インドネシア・エクスプレス・・・(10月21日)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

10月21日、快晴。てか、**やはり暑い。**

嫁はどうやら昨夜は落ち着いて眠ったらしい。私は彼女を眠らせておいて、取り敢えず部屋の外へ出た。**腹が減った**のだ。人間なんて、現金なものである。回復してしまえば元の木阿弥。まあこれが健康の証なのだから、と勝手に自分自身を納得させて、てんこ盛りの朝食を楽しんだ。

さて、気になるのはお袋である。一体どうなっているのだろうか。よく考えてみれば、親を放ったらかしでまずは朝食、という発想も、ある意味薄情なものではあるが。私は恐る恐る、隣室のドアを開けた。そこで見たものは・・・、せっせとパッキングを続けるお袋。

お袋が言うには、最後の点穴が効いたらしい。その後異常に楽になってそのまま眠り、朝になると完全に症状が消えていたそうだ。そりゃあ良かった。どうやら入院は避けられたようだな。そうではなくとも今日はバンドンからジャカルタまで、シャトルバスを利用しての移動である。私もシャトルバスを利用するのは初めてだったので、どうなるかわからない。その未知のシャトルバスに高熱でうんうんうなったまま乗り込むというのは、さすがにバクチに近い。しかし今の状況であれば、全く問題はなさそうだな。

10時過ぎに、ホテルをチェックアウト。これでバンドンとはおさらばなので、嫁の家にご挨拶してから経つことにした。と言いつつ本当の理由は、親父が、嫁の家の周りの風景を写真に撮りたい、と言い出したからなのだが。家に着くと、メイドさん以外の誰もいなかった。というのはご両親は、次の合流先であるスラバヤへ早々と向かってしまったためなのだが。嫁の家の今回のメイドさんは、日本人の家庭でも働いた経験があり、少しだけ日本語がわかる。日本料理の作り方もわかるそうである。なかなか気さくなおばちゃんであった。

嫁の家の隣は小学校で、その時はちょうど休憩時間らしく、たくさんのきつず達が校門の周りで遊んでいた。親父はその風景を、興味深そうに写真に撮っていた。

私達は嫁の家を後にして、シャトルバスの発着場に向かった。バンドンにはこのような民間のバス会社が多らしく、他の都市へ行くのには列車よりも、このようなバスの方が便利なのだそうです。うーん、でもこれって、**マイクロバス**だね。私は幼少時、祖母に連れられて小豆島の霊場を参拝する時に一行が使っていたマイクロバスを思い出した。あれってスプリングがちゃんとした機種じゃないと、振動がモロに伝わって不快なんですけど……。そんな私の希望は、通じそうには思えなかった。

私達がバスの発車を待合室で待っていると、突然派手なダミ声で誰かががなり立て始めたのが聞こえ、一瞬ビビった。どうやらお祈りの時間らしい。これまでもかすかに聞こえたことはあったが、ここまで派手ではなかった。どうやら真近くにモスクがあるんだな。私と親父は探検に向かった。すると案の定、少し離れたところにモスクがある。ダミ声はそのスピーカーから聞こえてくる。私は中を覗き込んで写真を撮ろうと思ったが、待てよ、こんなところで不用意に写真なんか撮って、身柄を拘束されたらイヤだな。そう思って私はカメラをしまったのだが、ふと見ると親父はお構いなしで、写真撮りまくりであった。うむ、単なる小心者の杞憂であったか。遠くから嫁が、心配そうにこちらを見ているのが見えた。

そして、発車時刻がやってきた。同乗の客がその肉親らしき人と、涙の別れをしている。彼は何を思って、肉親と別れ、この街を離れるのだろう。なかなか切ない光景であった。しかし窓側に座った私がそれ以上に気になったのは、**このマイクロバスのドア、走行中に突然開いたりしないだろうな**、ということであった。その手の事故が日本でもよく報道されているけれど、異国で車外に放り出されるのはイヤだ。私は念には念を入れて、ドアのロックがまともに機能するかどうかを確認していた。

バスはバンドンを離れ、一路ジャカルタに向けて、高速道路をひた走る。そのそばを、物売りが歩いていく。何というのどかな光景。しかし**貴様、ここは高速道路だぞ**。日本ではモロに道路交通法違反のはずだが、この国は関係ないらしい。道路工事をしている箇所も、何回か通りかかった。人夫さんがコテにセメントを盛って、道路に塗りたくっている。うーん、ハンドメイドの高速道路か。エコでよろしい。

周りは延々と、田園風景が続いている。列車と同じである。バンドンは盆地なので、他都市へ行くにはこのような田園を必ず通過しなければならないわけである。親父はこの風景も写真に撮りたかったようだが、このバスの振動ではちょっと難しいようだな。

この調子で約二時間半ぶっ飛ばすのかな、と思っていたら、一応休憩はあるらしい。途中で給油を兼ねて、パーキングエリアに到着した。インドネシアの『道の駅』ってところだな。なかなか洒落たカフェもある。車での移動であれば、ここでゆっくりしたいところではあったが、乗り合いバスなのでそうも言うてはいられない。約15分の休憩の後、私達は再び、バスへ乗り込んだ。

そうこうしているうちに段々と、家の数が増えてきた。車の数も増えてきた。明らかにジャカルタが近づいてきたのがわかる。もう間もなくだ。数回しか訪れていないとは言えどこかで見たような風景を何箇所か通過し、ついにバスは、スカルノ・ハッタ国際空港へ到着した。

私達はチェックイン・ゲートで、両親の乗る飛行機を探した。ところが、両親の乗るべき飛行機が表示されていない。その代わりに、本日は運休、と日本の旅行代理店から連絡のあった便が、しっかりと表示板に載っている。さて、どうしたものか。インドネシアの空港は日本と違って、チェックイン・カウンターの前に荷物検査がある。つまりチェックイン・カウンターに行って、この状況の説明を受けるわけにはいかない。我々は対策を検討したが、取り敢えず早めにチェックインしてしまえば、いずれの便にも間に合うはずだ、という結論に達し、ここから先は両親だけで、冒険をお楽しみいただくことにした。

我々は別れを告げ、ゲートの外で両親の行動を見守っていた。どうやら無事にチェックインできたようで、両親は手を振りながら、搭乗口の方へと向かった。出発は何とかなりそうだが、問題はクアラルンプール空港での乗り継ぎである。私は両親の後姿を見ながら心の底で、**両親がアムステルダムで発見されないことを祈った。**

さて、残された我々は、バンドンへ行く時にも使った鉄道を使って、義妹一家と共に、スラバヤへ向かうことになっていた。話によると今回の列車はとても美しい車両で、設備も最高、快適な旅が出来るそうである。スラバヤまで14時間というのは若干気になるが、そんなに良い設備であ

れば、長旅もそんなに苦でもあるまい。面白くなりそうだ。

私達は駅で軽食を買い込んで、彼らが来るのを待った。程なくして義妹夫婦と、長男のアリアン君がやってきた。時間はもう6時過ぎ。そんな時間にもかかわらず、相変わらず蒸し暑かった。私達はプラットホームに上がって、列車が到着するのを待った。一体どんな列車だろうな、と私はわくわくしながら待ち続けた。私は頭の中で、昔映画で見たヨーロッパ特急の雄姿を思い出していた。BGMはもちろん、Kraftwerkの名曲『Trans Europe Express』。当然だろ？そしてついに現れたその列車は、**そのようなほのかなロマンティズムを根底から打ち砕くには、十分過ぎた。**

席に付いてから、義妹が私にしきりと謝っている。パンフレットで見た車両は、全然こんな風じゃなかったんだ、と言っている。私は、いや～、全然問題ないっすよ、と答えた。そう答えるしかなかった。てかそういうのってさ、**虚偽広告なんじゃないの？**。「嘘・大げさ・まぎらわしい」の三拍子モロに揃ってるわけだから、JARO(日本広告審査機構)みたいな組織に、訴えたらいいんじゃないの？という、そんなものはない、それどころかこの鉄道自体が国営なので、そんなクレームはハナから問題外、ということだそう。それは残念だ。取り敢えずはエアコンは付いている。しかし**トイレは見ない方がいい、と言われた。**

14時間。私は覚悟を決めた。そして汽笛と共に、列車は出発した・・・。

↑よろしければ、是非

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

10月20日、快晴。てか、**暑いってば。**

何という爽快感。どうやら完全に治ったようだ。ああ、健康って有難いよね。見るもの聞くものが皆私の回復を祝福しているように思える。さあ心機一転、取り敢えず朝食だ。しかし油断は禁物。大事を取って今朝は、**厚切りのトースト二枚とフルーツてんこ盛り、それにお茶だけ**にしておいた。

嫁は自分の荷物を取りに、朝早く自宅へ一旦帰った。さて今日は丸一日、予定は立ててはいないのだけれど、何をするかな。私はそれを相談すべく、両親の部屋に入った。そこで見たものは・・・、**白目をむいてひっくり返ってるお袋。**

症状としては、昨日の私と全く同じであった。今朝方早くから始まった、激しい嘔吐と下痢、発熱の三点セット。お袋が言うには、どうやら昨夜、嫁の家で食べた八宝菜に似たインドネシア料理が原因らしい。しかも少量しか食べていないにもかかわらず。つまり、問題なのは**油**そのもののようだ。つまり私がやられたのも、**ドカ喰いが原因ではなかった**、というわけだ。私にかけられた嫌疑が、ようやくここで晴れた。

・・・などと悠長なことを言っている場合ではない。明日親父とお袋は、帰国することになっている。こんな状態で帰国なんかすれば、**問答無用で保健所送り**である。てかそもそも、この状態で飛行機なんか乗れるのか？しかも明日はバンドンからジャカルタ空港まで、シャトルバスを利用することになっていた。所要時間は、約二時間半。このままではシャトルバスの行き先は、空港ではなく病院にでもなりかねない。

こうなれば、また点穴しかない。私は、昨夜私にやったのと同じ施術を、お袋に対して行った。

数回施術を行うと、お袋はトイレへ駆け込んだ。トイレから戻ると、また寝込む。取り敢えずこのサイクルを、中に詰まっているものを全部排出するまで続けなければならない。そのうち嫁が帰ってきて、この光景を見ておろおろしていた。私は、大丈夫だから、と彼女に言い聞かせておいた。

というわけで午前中は、お袋の施術にかかり切りになってしまった。

昼近くになると、お袋の容態は安定してきた。明日は十分な時間がないので、出来ればもう一度昨日のバティック工房へ行って、バティックをお土産に買いたい、とお袋が言う。私は、大丈夫かな、とは思ったが、親父も行きたいと言うので、取り敢えず行くことにした。

工房へ着いた時にはちょうど昼時で、職人さん達は休憩の時間であった。急ぐこともなかったので、私達は彼らが休憩が終わるまで、外で待つことにした。親父はカメラを持って、どこかへ行ってしまった。私はデジカメで、周囲の写真を撮った。とても暑い日であった。職人さん達が帰ってくると、私はお土産用のバティックのデザインを、彼らと話し合った。製作には数時間かかるので、その間中私達がそこで待っている必要はない。嫁に後日取りに来てもらうことにして、私達は工房を後にした。ホテルへ帰ると、お袋はまたベッドへ倒れ込んだ。昼食はいらない、という。気持ちはわからんでもない。

お袋は放っておいて、私と嫁と親父とで、昼食はホテルの近くにある、『[鳥元](#)』という日本料理店で取ることにした。ここで食べた日本食に、私は救われた気がした。その時食べたのはざるそばとしそ巻きであったが、格別の美味しさであった。次回バンドンへ来た時は、ここはヘビロテだな。スタッフの皆さんも皆気さくで、とても感じの良いお店であった。バンドンへ行かれた際には、是非『鳥元』へ。

そうこうしているうちに、もう夕方になってしまった。嫁は、夕方からマッサージを呼んだので、申し訳ないけれども隣の部屋で待っていてくれないか、という。どっちにしろ私も、お袋の施術を続けなければならないので、そうすることにした。お袋の熱は、まだ下がらない。下痢も止まらない。かといってお袋はアナフィラキシーを持っているので、薬は一切使えない。使ったらどうなるか見当が付かず、そちらの方が怖い。いずれにせよ点穴しか、方法がないのである。しかし明日までに間に合うのだろうか。一抹の不安はあったが、不安に思っているよりは施術を行った方がよい。私は断続的に、施術を行った。

その間に私は親父と、また『鳥元』に行って、夕食を取った。考えてみれば親父と二人だけで夕食を取るなんてことは、今まであったかな？そういう例外的な「事件」が起こるというのも、旅の面白さの一つなのかも知れない。

午後8時。いい加減何だか、眠くなってきた。そう言えば昨日は熱のせいで、まともに眠れなかったものな。今晚は早めに眠るとするか。取り敢えずお袋に対する施術は一旦終了して、今夜一晩様子を見よう。もし明日も臥せっているようだったら、アナフィラキシーであろうが何であろうが、病院行きは避けられない。当然**関空での隔離**というオプション付きで。

私は両親の部屋を出た。そういえば嫁は、何やってんだろう？正味3時間もマッサージしてるのかな？どうやらマッサージ屋さんは顔見知りみたいだったので、話が弾んでいるのかも知れないな。私は部屋のドアを開けた。そこに見たものは・・・、**白目をむいてひっくり返っている嫁**。同じく食あたり。

結局今日は、朝から晩まで、点穴に明け暮れた一日であった・・・。

↑よろしければ、是非

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

10月19日、快晴。てか、**苦しい**。

高熱のせいで、前後不覚になっている。昨夜はかなり激しかったらしく、まるで南極大陸と赤道直下を分刻みで移動しているかのような心境であった(要するに、猛烈に寒くなったり暑くなったりしたということ)。胸のむかつきも全然収まらない。当然激しい下痢。私は普段下痢というものを全くしないので、この下痢は恐らく、十数年振りであった。思い出したが、その時もインドネシアだったな。あれはバリ島であったが。私を含め足立ゼミ生約三名が帰国後**空港内の保健所に連行された**のは、今となっては懐かしい思い出、・・・など感傷に浸っている場合ではなかった。

この日の午前中は、妻の働いているインターナショナル・スクールにご挨拶に行く予定になっていた。ところがどうにもこうにも、体がいうことを利かない。妻が、あんた休んでなさい、私一人で行ってくるから、というので、有難くお言葉に甘えることにした。

妻が出て行ってからも、私はベッドでうんうんうなっていた。その脳裏には、インドネシアに来る前に偶然読んだ模図かずお大先生の傑作、『漂流教室』のワン・シーンが去来していた。その中で、未来にタイムスリップした大和小学校の生徒達がペストにかかり、全滅しかかるという場面がある。こんな時こそ人間の想像力はたくましく羽ばたくもので、もしや僕も**ペストなんじゃないだろうな**、と私は不安になった。しかし、ペストやコレラ、赤痢の類の伝染病だったら、僕だけではなく、その場にいた人全員が、すでに発症しているはずである。しかし、そんな風には見えない。やはり単なる食あたりなのかも知れない、と思ったら、少しだけ気が楽になった。

何はともあれ食あたりだとしたら、中に詰まっているものを全部排出しなければならない。私は自分に点穴を施すことにした。まずは肝経を使ってショック症状を治め、脾経を使って内臓全体の機能を回復する。同時に小腸経・大腸経を使って腸を蠕動させて中にあるものを全部排出し、

さらに膀胱経を使って熱を下げる。肝経の章門を点穴すると、奇妙な痛みが走る。やはりショック症状だな、と思った。横になった姿勢で腕骨・合谷を点穴した瞬間、ぐるぐるぐるぐるともものすごい音を立てて内臓が蠕動し始めた。私はトイレへ駆け込んだ。ベッドに戻ってまた点穴をすると、またぐるぐるぐるぐる。トイレへ駆け込む。こんなことを午前中ずっとなやっていると、少しずつ体が楽になってきた。そのうち妻も帰ってきた。

午後は妻とお袋と義弟とで、市内にあるバティックの工房を訪ねることになっていた。妻と義弟は心配してくれていたが、お袋は「あんなにドカ喰いするからだ」と情け容赦のない批判を浴びせていた。はい、おっしゃる通りでございます。面目次第もございません。だが何とか動けそうだったので、そちらにだけは参加することにした。

バティックの工房はなかなかであった。あのような見事な染物はどうやって作るのだろう、と思っていたのだが、その工程を目の当たりにすることが出来たのはラッキーであった。しかし工房全体に漂うロウの香りが、私のくらくらした頭をさらにくらくらさせた。こういう時に限ってお袋はややこしい質問をするのだからたまらない。まああらかじめ予想された展開ではあったが。

この後同じく市内にあるアングルンという民族楽器の博物館に行くことになっていたのだが、それだけはさすがに遠慮しておいた。こんな時にカンカラカンカラ竹の音を聴かされたら、それだけでトランスに入って帰ってこれなさそうな気がしたからだ。取り敢えず本命であったバティックの工房も見ただし、途中で昼食を取って、ホテルへ帰ることにした。昼食を取った『寿司亭』のそばは美味しかった。私はホテルでしばらく休んだが、その時にはくらくら感を除いて、ほぼ回復していた。

夕食は妻のうちで取るようになっていた。しかし私には一抹の不安があった。グルメのパパさんのことだ。食卓には大量のインドネシア料理が並んでいるに違いない。しかしここで何か食べたら、恐らく元の木阿弥だろう。私は予防線を張ることにした。近所のスーパーで、そば、味噌汁を買い込んで、今晚は珍しい、日本食をご紹介します、と称して、どさくさにまぎれてそれだけ食べていよう。なかなか気を使うことである。

夕方彼女のうちへ行くと、案の定であった。もったいない話ではあるが、私的には、玄関先にす

でに漂っているインドネシア料理の匂いを嗅いだけでNGであった。体の中で番犬がワンワンやっている感じといったらわかりやすいであろうか。しかし皆さん私の状態は良くご存知だったので、今回は大人しくさせて頂いた。この時飲んだ味噌汁は、モヤシが入っただけのシンプルなものであったが、とても美味しく感じられた。せっかくインドネシアに来たのに、ああ情けない。

外へ出ると、もう真っ暗闇であった。この辺りは街灯がないので、よけいに暗く見える。その中をチンチンチンチンと鐘を鳴らしながら、物売りが通っていく。私はベランダにあるソファーに腰掛けて、その様子を見ていた。夜風がとても心地よく感じられた。ところでこの辺は物の怪がよく出るらしいけれど、どこに出るんだろう？今夜は出てくれないのかな？まあいいや、取り敢えずどうやら、峠は越したようだ。ホテルに帰ってシャワーを浴びて、私は寢床についた。今晚は平和に眠れそうだな。

しかし私はその時、隣の部屋で起きていた異変に、全く気づいていなかった・・・。

↑よろしければ、是非

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

10月18日、快晴。てか、**暑いんですけど。**

しかしこの暑さは、気温のせいだけではなさそう。どうも微熱がありそうな気配だ。疲れが出たのかな？わずかに二日か？まさか。胸もムカムカする。しかし胸のムカムカは原因は明らかである。昨夜の**ドカ喰いの報い**だ。運悪く今日は婚礼の日(すごい言い方だが)。お昼は親戚、友人、知人一堂に会してパーティであるが、どうやら少々控え目に行動した方が良さそうだな、胃袋のためにも。私はそう考えた。

朝7時。メイクさんがやってきた。新郎である私は特にメイクをする必要もないので、礼服のフィッティングだけで後はすることがない。しかし嫁はそうはいかない。いくら不本意でも(笑)。部屋を追い出された私は、中庭で着付けが終わるのを待った。その間も胸がムカムカしていたので、私はお茶を飲みまくっていた。

結局私達は、スング風の民族衣装を身にまとい、イスラム式の婚礼に臨むことになった。嫁は巨大な付けまつげ、かつら、コルセットを装着され、見るからに動きづらそうであった。5月の着物以上のむごい仕打ち。よたよたと歩く嫁の後姿を見て、私は**ジャブロー攻略に向かうアッガイ**を思い出した。

式場へ行く直前、私は嫁から、本日の婚礼の式で私が言うべきせりふが書かれたメモをもらった。そこには結納金のこと書かれていた。しかもその結納金は**100円**になっていた。イスラムでは婚礼の席で、新郎より新婦のご家族に結納金を渡すことになっている。その金額は嫁が決めたようで、金額そのものはいくらでも良いらしい。しかし100円ってのはどうよ？何だか**あんたを100均で買ったみたい**じゃない。じゃあいくらにすんのよ？すったもんだの挙句、じゃあ45円はどうだ？45円は日本では「始終ご縁」と言って、eternal relationshipを意味するんだ。

縁起が良い金額なんだぞ、と言うと、それでいいや、という話になった。しかし見方を変えれば、**100円を45円に値切った**とも考えられ、可哀想なことしちゃったかなと思ったのは、日本に帰国してからであった。

実は当初は、当地での婚礼は予定していなかった。というのは私は**修験道フリークの仏教原理主義者**だし、嫁は**バリバリの不可知論者**だからだ(身分証明書上は一応イスラムとなっているが、それは書類上のことに過ぎない。向こうの身分証明書(KTP)には、そんなものまで記載されるのである)。しかし向こうの役場での手続き上の兼ね合いもあって、イスラムでの結婚式がどうにも避けられなくなった。向こうは日本のような政教分離どころか、完全に一体となっているのでややこしいのである。しかし残念ながら、ここでこれ以上のイスラムについての具体的な論評は避けさせていただく。なぜって、家を出た時に狙撃されたら嫌だから(笑)。というわけで一応私はインドネシアでは、**敬虔なイスラム教徒**となっている。ご家族のため、慈悲の心です、はい。御仏はきっとお喜びであります。

取り敢えず婚礼は心配された自爆テロもなく(実はマジで心配していた(笑))、滞りなく終わった。ご家族を囲んでのフォト・セッションを終えて、披露宴会場である市内のレストランへと向かった。会場にはバンドも来ており、壇上にはキーボードがあった。誰かが、勇一はピアノが弾けるらしいぞ、と言い出し、当然の結末として、やれやれ、という話になった。しかし私はその時胸のむかつきが最高潮に達しており、そんな気分ではなかった。仕方がないのでお約束のGeorge Winstonを弾いたが、**あまり受けなかった**。それが終わると、歌え、とこう来た。私は、それなら、と往年のスネークマン・ショーに収録されていたインドネシア歌謡Dangdutの名曲「ブンガ・ダハリヤ(Bunga Dahlia)」をリクエストした。思えばSU'UDIAHさんが歌うこの曲が私とインドネシアの音楽との最初の出会であり、そのいかがわしくもエキゾティックなアレンジに、当時中学生だった私は強い衝撃を受けたのだった。さすがスネークマン・ショー、ナイス・チョイスです。でもその場にいる人はこの曲を、**誰も知らなかった**。唯一ピアノのおっさんだけは知っていたので、色気も何も無いが、野郎二人のデュエットでお茶を濁さざるを得なかった。

席に戻ったが、何も食べられる状況ではなかった。仕方なく私は、フルーツだけ食べていた。通訳のお姉さんが、「あら、今日はあなた断食なの？珍しいわね」と私に話しかけた。昨日の様子が見えただけに、奇っ怪に思えたのだろう。だがそのフルーツもまともに食べられない。この時、

明らかに体調に変調をきたしている、と悟った。その間にも私は、参加してくれた人達と握手をしなければならなかった。恐らく私の笑顔は引きつっていたであろう。

そして本日の全ての行事を追え、私達はホテルへ帰った。ホテルへ帰ると私は、どさりとベッドへ倒れ込んだ。その時にはすでに、猛烈に発熱していた・・・。

↑よろしければ、是非

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

10月17日。快晴。てか、**暑いぞ**。

本日はジャカルタからバンドンへ移動する日。ジャカルタからは列車で移動することになっていた。所要時間約2時間半。この列車は前回の移動の時にも利用しているので特に問題はない。あるとすれば車内での食料か。というわけで我々は、朝食のパンを若干多めに確保し、テイクアウトさせていただくことにした。

ホテルからジャカルタ駅まで、そんなに距離はなかった。今回は渋滞にも巻き込まれず、スムーズに移動できた。

列車が出発するまでの間、何気なく外の景色を見ていたら、妙な事に気がついた。**隣の列車、日本の地下鉄の車両じゃないですか**。うむ、素晴らしきリサイクル精神。使えるものはとことんまで使い倒さにゃいかん。

というわけで、列車は出発。しばらく列車は、スラム街を走る。わずかの期間ではあるが、この光景は非常に心が痛む。そこを越えると今度は、延々と山間部をひた走る。バンドンは日本で言えば、長野県のような場所である。従ってそこに至るまでには、この山間部を通過しなければならない。この風景はとても明媚である。時として通過する巨大な渓谷にかかる柵も何もない鉄橋は恐いが。

バンドンへ到着すると、我々はホテルへ直行した。今夜は親戚一同会して、夕食会があるらしい。朝失敬してきたパンを全部食べ尽くした私はかなり空腹ではあったが、今晚に備えて私は何も食べないことにした。

夕方、迎えに来てくれた運転手さんの導きで、一路会場のレストランへ。そこで我が両親と嫁の

両親との感動の対面である。パパさんは心なしか、以前より太っているように感じた。

二階へ行くと皆さんお揃いで、もう出来上がっている、といった感触であった。とは言っても向こうはイスラムだから、酒は飲まない。酒を飲まなくても家族で集まってお食事、というだけですでにナチュラル・ハイなのである。ある意味健康的と言えは健康的である。レストランもオープン・テラス形式になってその周りを池が取り囲んでいるといった、なかなか小洒落た感じの店であった。名前は忘れた(笑)。そこで向こうのご家族とご挨拶。私は義姉、義妹の家族は前回お会いしているので良く知っていたが、それ以外は全く判らなかった。インドネシア語もわからないので、**取り敢えず愛想笑い**をしまくっていた。前回来日時嫁の心境がよくわかる。

隣に座った人物が、気さくに私に話しかけてきた。彼は英語が話せるので、私は安心した。我々はインドネシアの文化や日本の文化などについて談笑した。彼がふと席を外した時、私は嫁に彼は一体何者なのか、と尋ねると、彼女は、**知らない**、と答えた。ナイス・リアクション。

ここの料理はとても美味しかった。特に米が美味しい。正直申し上げると私はこの時まで、こんなに美味しいインドネシアの米を食べたことがなかった。先ほどの人物によると、バンドンはインドネシアでも有名な穀倉地帯で、米は他の地域に比べて、格段に美味しいのだという。私は納得した。その他の料理も私の口に合いまくりで、私は一人延々と食べ続けていた。因みにこの時他のテーブルで、**「見てよ、あの勇一の食べっぷり。とても嬉しそうね。普段何食べてんのかしら？」**という話になっていたらしい。ふと気づくと私以外もう誰も食べていない。まだいける心境ではあったが、KYと思われても仕方がないので、取り敢えずフィニッシュにすることにした。私は大満足でホテルに帰った。翌日は婚礼の日である。朝早くから準備しなければならないので、我々は早々に休むことにした。

そしてベッドで休む私は、この時、この楽しい晚餐が、恐るべき日々への序曲であったことに、全く気付いていなかった・・・。

↑よろしければ、是非

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

10月16日。快晴。てか、**暑い**。

私はホテルのブッフェスタイルの朝食が大好きである。様々な料理がたくさん並んでいて、しかも基本的に食べ放題なのだからたまらないではないか。要するに、**意地汚いだけ**なのだが。取り敢えず今日は初日なので大事を取って、てんこ盛りのパンとフルーツで収めておいた。

午後からは義理の妹さんと合流して、ジャカルタ市内の観光。移動はタクシーを使ったのだが、いきなりの大渋滞。のろのろと走る車の間を縫って、バイクが押し寄せる。その合間を物売りが通る。この人達には交通法規を守ろうという高尚な意識は、最初から存在しないのであろう。

やって来たのは、ジャカルタでも古い街並みが残る一角である、ファタヒラ広場。名前は今調べた(笑)。何でも植民地時代のオランダの商館や庁舎などを改造して、博物館などにしているらしい。

気になったのはその周りにごろごろしている、球形の石。完全な球形で、自然のものではないのは明らかである。妻にそのことを尋ねると、それは昔の**砲弾**らしい。腕に自信のある猛者は、一度持ち上げてみていただきたい。歴史の重みを、肌で感じる事が出来る。

歴史博物館では、ジャワ文化の歴史に触れる事が出来る。ジャワには昔文字がなかったらしく、その頃の記録は、ある種の石碑以外、ほとんど残っていないそうだ。そのような貴重な歴史に、文字通り触れる事が出来る。観光客は**触りまくり、叩きまくり**であった。彼らには文化財保護などという高尚な意識もないのであろう。そうこうしているうちに修学旅行のきつず達が乱入してきて、博物館は喧騒のるつぽとなった。我々は早々に退散することにした。

次に訪れたのが、その隣にあるワヤン人形博物館。ワヤンとはインドネシアの人形劇である。私はこれを、中沢新一先生の『野うさぎの走り』の中で知って、一度見てみたいものだと思っていた。中に入ると、たくさんの人形が陳列してある。基本的に題材は、インドの『ラーマヤナ』のものが多かったようだ。私は、この人形はどうやって作るのだろう、と思っていたのだが、これはバッファローなどの皮をなめして作られるらしい。その皮になされた精巧な細工に、私は驚嘆した。しかし、ふと見ると妻が嫌そうな顔をしている。要するに、**怖い**らしい。確かに良く考えてみれば、薄暗い博物館の中で、この手の人形が大量に陳列されているというのは、ある意味不気味かも知れない。しかもよく聞くとその建物は昔の教会で、中庭には**大量の墓**があった。最高のロケーション。今思えばあの風景は、タベ見た映画『バイオハザード』に似ていたな。この人形たちが、勝手に動き出して突然襲い掛かってきたとしても、そんなに違和感がなかったかも知れない。

受付のおっさんも、おもしろいおっさんであった。何でも人形劇の上演のために、何度も来日しているらしい。日曜日には実際にワヤン・クリ(人形劇)をやるらしいので、こちらをもしお尋ねになるのであれば、日曜日をお勧めしたい。

ここで一息入れるために、その近くにあるカフェ・バタヴィアへ。これも古い商館か何かを改造して作られたものなのであろう。壁の一面に**ハリウッド・スターのプロマイド**が所狭しと貼り付けられていたセンスはよくわからないが、アイスクリームはとても美味しかった。雰囲気もグッド。次回はディナーで訪れてみたいところである。

次に行ったのが、100年以上の歴史を持つ老舗のコーヒー・ショップ。名前は忘れた(笑)。お袋が自分のブティックでこのコーヒーを出したところたいそう評判で、ジャカルタに行ったら是非買い込まねば、と意気込んでいた。しかし向こうのコーヒーは量が多い。**一杯頼むと日本の三杯分くらい出てくる**。先ほどのカフェ・バタヴィアでもコーヒーを飲んでしまったのでさすがに飲み切れず、テイクアウトすることにした。

本日のシメは、ホテルの近くにあるショッピングセンターのバティック(インドネシアの民族染布)専門店で、バティックの買い物。これもブティックを経営するお袋の、旅の目的の一つであった。ワンフロア丸々がバティック専門店で、じっくり見回すのには十分の規模であった。私は財布を買おうと考えて、品物をチェックし始めた。

すると、何やら様子が変わった。店員さん達がざわざわ騒ぎ始めた。皆一様に顔面蒼白になっている。一体何が起こったんだろう、と思っていると、どうやら地震が起こったらしい。しかし私も両親も、全く何も感じなかった。「地震が起こったらしいぞ」、「ふーん」。我々の間に交わされた会話はこれだけで、我々はまたバティックを物色し始めた。

その時誰かが、ぽんぽんと私の肩を叩いた。振り返ると、警備員のおっさんがそこに立っていた。彼は、「あんたの友達が下の階で待っているから、行ってあげな」、と言う。私は、何で妻達は下の階へ行ったのだろう、僕達はここで買い物をしているのに、と思ったが、取り敢えず行ってみることにした。すると妻が心配そうに、私を待っていた。何でも、地震のためにショッピングセンターを緊急閉鎖するので、お客には避難指示が出ているらしい。え？あんなわからないくらいの地震で店閉めちゃうの？と思ってはみたが、閉めるというのだからしょうがない。仕方なく私も下に下りようとしたのだが、その時ふと思い出した。

両親を忘れてきた。

完全に停止したエレベータを駆け上がると、そこには何も知らずバティックの物色を続ける両親と、その周りを取り囲む従業員の姿があった。両親は英語もインドネシア語もわからないから、従業員さんも手も足も出なかったのであろう。取り敢えず両親には買い物を中止させて、階下に連れて行くことにした。

ところが、外は大パニックであった。ショッピングセンターから追い出された人だけではなく、周囲のビルから避難してきた人の群れで、大通りは完全に混乱状況に陥っていた。よく自爆テロが起こったバグダッド市内をテレビが報道していたりするが、まさにあんな状況であった。私たちはその人ごみを掻き分けて、歩いてホテルまで帰ることにした。

数週間ほど前、私が友人と新宿センタービル53階で飲んでいた時に、ちょうど関東地方を地震が襲った時があった。その時は震度そのものは大したことはなかったのだが、階が階だけに、部屋全体がゆっさゆっさと揺れて、さすがにあの時は気持ちが悪かった。しかし今回は全く何も感じていないので、何だか狐につままれたような感じであった。

しかしホテルに帰ってテレビを見ると、そこには『**大混乱のジャカルタ市内**』というプロットで市内の状況が映し出されており、白熱するリポーターと、地震のためにパニック障害を引き起こして救急車で病院へ運ばれていく人の姿が、映し出されていた。

それを見て何だか、申し訳ないような気がした・・・。

↑よろしければ、是非

じゃがたら見聞録(1)～トイレのチップはおいくら？(10月15日)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

私は、**飛行機が嫌い**である。

であるからして私は、極力これを利用しないことにしている。時間がかかろうが何であろうが、地べたに行く方がマシである。従って私は郷里へ行く際にも、高速バスを利用する。14時間もかけて。

しかし海外に関しては、そうも言ってはいられない。図らずも今回、外国人を嫁に迎えることになったため、飛行機の利用は、どうにも避けられなくなった。しかも現地での結婚式。僕は飛行機嫌いだからあんただけで済ましな、というわけにはいかない。どうにもこうにもいかんともしがたい。

というわけで10月15日より26日まで私は、インドネシアを訪問することになった。

今回は父母も同行することになった。結婚式だというのに旦那側の両親が参加しないのはさすがにマズкаろう、というわけである。しかしこの点にも、私は不安があった。親父はずいぶん前に胃潰瘍をやってから、油物を受け付けなくなっている。しかしインドネシア料理は、油だらけ。

イメージとしては**朝から晩まで天婦羅と唐揚げと油そば**、みたいな世界である。そんな状況に親父の胃袋が耐えられるのか。お袋も似たようなものである。さすがに病気こそはしないが、合わない油物を食べて一撃、みたいなことは良くやっている。従って出発前、私は彼らに厳命しておいた。油物には手を付けないこと。フルーツも食べまくりは厳禁。食中毒でも起こされて僕が介抱させられるのは嫌だからな、みたいな。

そんな万感の想いを胸に、私達は関西国際空港より、マレーシア航空の飛行機に乗り込んだ。

取り敢えずクアラルンプール空港まで、約6時間。そこからジャカルタ行きの同社の飛行機に乗り換えて、約2時間。乗換えがスムーズに行けばだいたい8時間程度で、インドネシアには到着する。繰り返すが東京から鳥取までは、バスで14時間。鳥取より近いじゃん(笑)。機内はシーズンオフのせいか、割と空いていた。早速我々はそれぞれ空席を見つけて、そこに座り込んだ。家族で和気あいあいと談笑しながらの旅などというものは、我々には無縁である。要らん話をするよりはそれぞれ好き勝手なことをするというのが、我が家の家風である。私は読書の合間に、備え付けのゲームで**テトリス**をやっていた。学生時代によくやったよなあ。懐かしさのあまり手にし

たのだが、あまりにも白熱し過ぎて気持ちが悪くなった。

クアラルンプール空港は広い。とは言っても前回キャセイ・パシフィックでの乗り換えで利用した香港ほどではないけれど。予定ではここで一時間ほど待って、次のジャカルタ行きに乗り換える。次の飛行機でもテトリスでハイスコアを狙ってやる、という私の目論見は甘かった。次の飛行機は小型機だった。テトリスどころか、身動きも容易ではなかった。捕獲されているかのような状態で過ごすこと約2時間。我々はついに、ジャカルタへ到着した。

Visa on Arrivalの支払いと入国審査を経て、我々はゲートを出た。するとお袋がトイレへ行く、と言い出した。我々はトイレの外で待っていた。しかしいつまで経っても出てこない。どうも妙だぞ。まさかいきなりひっくり返っているんじゃないだろうな。しかし中を覗くわけにもいかない。セキュリティの連中がこちらをジロジロ見ている。待つこと数分。やっと出てきた。一体何をしていたのか、と尋ねると、**掃除のおばさんにチップを請求された**らしい。しかしお袋はその時、ルピアを持っていなかった。英語もわからない、インドネシア語もわからない、という状況ですったもんだをした挙句、何とか振り切って出て来たのだと言う。しかしこのまま立ち去って、後々日本人は**常識知らずのケチ**だ、みたいな話になってもいやなので、いくらかチップを渡してあげよう、ということになり、取り敢えず20,000ルピア(200円程度)渡して、そこを離れた。

因みにこの話を義弟にすると、「そりゃ**ボラれた**んだ。**ジャカルタは国際空港だから、チップなんて請求されない**よ。第一それにしても、20,000ルピアは上げ過ぎだ」と言われた。常識知らずのケチどころか、**酔狂な日本人**と思われただろうな。

外で待っていた妻と合流して、市内のイビス・カリマンタン・ホテルへ向けて、タクシーは高速をぶっ飛ばす。ふと見るとお袋が青くなっている。理由を聞いてみると、**料金メーターにおびえている**らしい。すでにメーターは50,000を軽く超えていた。私はお袋に、100ルピアが約1円程度なので、大体现地の料金からゼロを二つ削れば日本円に換算出来る、と説明した。さすればその時の料金で、500円程度。逆に結構安いよね。取り敢えずお袋は安心したようである。

イビス・ホテルはインドネシアでよく見かけるホテル・チェーンである。前は少し市内の中心より離れたイビス・スリピを利用したのだが、今回はロケーションが良いカリマンタンを利用することにした。ホテルについて軽食を取って、その日は早々と休むことにした。

こうして私の、恐るべきインドネシアの旅は始まった・・・。

↑よろしければ、是非

取り敢えず帰国致しました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

取り敢えず一昨日何とか無事に、帰国を果たすことが出来ました。

今回もなかなかエグい旅でした。ええ、ハネムーンなどという甘ったるいものではなかったです。インドネシアというとバリ島のイメージから「南国のリゾート」という印象を持たれますが、それはあくまで観光ツアーでのお話で、私の場合は嫁の関係上、その生活の内部にまでどうしても介入せざるを得ないわけで、そのためにやはりエグい経験もしなければならなくなる、というわけです。剥き出しの国際交流。

まあそれも、帰って来てしまえばそれはそれで良い思い出ですけれどもね。帰って来る早々次はどの航空会社を使おうかと格安航空券サイトをチェックしてしまうというのは、その証なのかなと。

今回の旅のことは、改めて『じゃがたら電子文』の中で折に触れてご紹介させて頂きたいと思いますので、請うご期待。

というわけで、皆様には多大なるご迷惑をお掛け致しましたが、今後とも宜しくお願い申し上げます。

白兎跳神イナバスター！プロジェクト

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

白兎跳神イナバスター

『白兎跳神イナバスター』とは、私が友人DJ KAOSさんとやっているユニット『Jungle Q2』の別プロジェクトです。

Jungle Q2も、結成から早14年。新日本海新聞社主催の『青い鳥コンサート』に毎年実行委員として参加するなど積極的な活動が続けているにもかかわらず、地元で話題になったことなど皆無。毎回リスナーを無視する、ないしは逆なでするようなステージを繰り広げる、私達が悪いのですけれども(笑)。

そんな去年の暮れ、彼と私は琴浦町にあるファミレスで食事をしている時に、ええ加減そろそろ人の喜びそうなことをやってみようか、という話になり、どうせなら特に、子供が喜びそうなやつがいいな、ということで生まれたのが、このプロジェクトです。

『白兎跳神イナバスター』とは、鳥取県の民話「因幡の白兎」をモチーフにした、いわゆるご当地ヒーローです。敵は世界の美味しいものの独占を狙う、ハングリアン帝国。そのハングリアン帝国が繰り出す怪人達を、イナバスターは迎え撃ちます。この辺のストーリー・メイキングは、DJ KAOSさんのお手の物です。デザインも彼。さすがKAOSさん、やっぱり生まれる場所間違えちゃいましたね(笑)。

ところが、そんな軽い気持ちで今年から始めたこのプロジェクト。あれよあれよという間にたくさんのサポーターの方達の支援を受けながら、かなり大きくなってきました。今まで完全無視されていたのが、嘘のようです。受けるってこういうことなんだ。成功体験って大事だよね、みたいな(笑)。

音楽はJungle Q2と同じく、DJ KAOSさんとの共作です。「アレンジは、水木一郎が歌いそうな80年代のヒーローものみたいにしてくれ」と言われたのですが、そんなん私知らんがな。仕方なく、『機動戦士ガンダム』、『ルパン3世』、『秘密戦隊ゴレンジャー』、『太陽にほえろ』(笑)のテーマを構造分析してそれぞれの共通点を抽出し、それをYAMAHA SOLに流し込んでAbleton Liveで仕上げました。ボーカルは水木先生どころか、初音ミク。ヒーローものを歌うミクは、なかなかキツチュです(笑)。

記念すべきデビューのステージは、今年五月に鳥取砂丘で行われた『世界砂像フェスティバル』。この時は私は参加出来なかったのですが、わざわざ松江から某高校放送部の取材まで受けたそうですね。そして先月末、倉吉市内で行われた『第8回倉吉天女音楽祭』が、セカンドステージでした。はい、音楽祭でヒーローショーです。それが我々なのです(笑)。

今回は私が、音響監督を務めさせて頂きました。リハを見た時ははっきり言って戦慄しましたが(笑)、本番はとても上手くいったようで、各方面より、かなりの高評価を頂きました。

今までのプロジェクトと今回のプロジェクトとの違いは、かかわっているメンバーの多さですね。戦隊ヒーローものって結構需要あるんだな、と少々驚きました(笑)。そんな彼らと作り上げるステージは、二人でやるものよりも全然面白い。人嫌いのイメージを持たれる私ですけれども、そんなことはないのです。人に寄ります(笑)。また、ステージが初めてという方が多いのも、魅力かも知れないですね。ステージをあまり知らない。だからこそ逆に、フレッシュな面白いものが出来る可能性がある。そんな彼らと共にこのプロジェクトの可能性を探るというのは、とてもやりがいのある、有意義な作業です。

出来ればこのプロジェクトが、私の故郷の地域興しの中心となっていけば、とても嬉しいですね。

というわけで、皆様の熱いご支援をお願い申し上げます(笑)。

[白兎跳神イナバスター通信](#)

[★ハングリアン帝国通信～覚えてなさいっ、イナバスター!!★](#)

↑よろしければ、是非

大変な状況です・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今回の地震で、各方面から「奥さんは大丈夫？」というお見舞いのお言葉をたくさん頂きました。お蔭様で大丈夫です。昨夜電話で話した時は、そう言っていました。彼女が住んでいるところはジャワ島になるので、そんなに被害はなかったようです。皆様にはこの場をお借りして、心よりお礼申し上げます。

しかし大変な状況ですね。インドネシアには、こんなんでも地震が来たら大丈夫なのかなあ、というような建物が多く見られます。地震大国である日本と比べて、防災意識というものは極めて希薄ですし。何ともいたたまれません。

ともかく、一刻も早い復旧を、心より願いたいものです(しかし結婚式が、えらい時にぶつかっちゃったものだ・・・)。

10月の業務に関しまして

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

謹啓 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、真に勝手にて恐縮ではございますが、今月は14日から27日まで、当クリニックの業務をお休みさせていただきます。

理由は、インドネシアでの結婚式、並びに新婚旅行であります。

それに伴いまして、今月の教室は、第一水曜日の7日と、第四水曜日の28日に変更させて頂きたく、ご連絡申し上げます。

私用にて真に恐縮至極ではございますが、関係者の皆様に置かれましては何卒ご理解ご協力のほど、心よりお願い申し上げます(イスラム教の結婚式って、一体どんなんだろうなあ・・・)。

台風一過・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

本家の台風は、目下伊豆諸島付近を通過中らしいですけれども・・・。

昨夜を境にして、日本の政治が、全く新たな局面に入ったことは、間違いないでしょうね。

さてこの結果が、吉と出るか凶と出るか。固唾を吞んで、見守ることと致しましょう。

↑よろしければ、是非

僕のスペインの友人は・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

この祭りが大っ嫌いだそうです。国の恥だとも言っていました。

理由は簡単、「もったいない」からだ。

言われてみれば、確かにそうですね。地元の人にまで賛否両論のある、非常にユニークな祭り。

因みに僕も、あまり参加してみたいとは思いませんが。「もったいない」ですからね～。単純に食べる方だけの方が、僕は好きです。

↑よろしければ、是非

エアギターに関しては私も・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

学ぶべきところがありそうです。

僕はギタリストでありながら、ギタリストには付き物のステージ・パフォーマンスが苦手なので
すね。大体King CrimsonのRobert Frippのように、椅子に座って、なおかつテープ・レコーダー相
手にギターを弾くようなキワモノに興味を持つような輩ですから。Led Zeppelinの音楽は好きなの
ですけれども、ステージのJimmy Pageを見てがっかりした記憶がある。

だからといってステージというものは、人様に見ていただいて楽しんでもいただかなければならな
いという至上命題があるわけで、そこら辺のジレンマにいつも苦しんでいます。でもやっぱり
無理。鳥取駅前の『青い鳥コンサート』というイベントには毎年出ているんですけれども、今回
のステージは後ろ向きで弾きました。人目にさらされるのがどうも苦手で。

そのような文字通り後ろ向きのギタリストの横でコスプレした男が踊りまくっているというのは
、それはそれでシュールだった、というお声も聞かれましたけれども。有難いこっす。今後は
この選手権の動画をYouTube辺りで見て、勉強することと致します。

↑よろしければ、是非

僕は逆に・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

エレクトロのDJやってる最中にアラブ音楽をかけたりすることもありますけれども、でも袋叩きにされたことはまだ無いですね。イラクとかイランの音楽は結構好きなのですけれども。アフガニスタンとか。危険なところばかりだなこりゃ(笑)。

運が良かっただけなのだろうか？

↑よろしければ、是非

うちの界隈をへりがバラバラと・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先週から飛び回っていたのは、この方が原因だったのですね。もう一人お塩氏もいますけれど。皆さんご近所だったのですね。今後ともよろしくです♪

政界再編と芸能界再編が、同時に進んだりして。彼らの自爆的自白によって起こる事態に戦々恐々としている芸能人って、多いでしょうね。

↑よろしければ、是非

実は私も・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

この意見には同感ですね。

私は一応東洋医学研究家なのですが、だからといってオーガニックに極端に傾倒しているわけではありません。普段主に食べるのは米と味噌汁ですが、その食材にしたってスーパーに普通に売られているものを普通に買っているだけです。まあ99イ○バよりも○協の方が品が全然良いということがわかったので(当たり前か)最近はおっぱら後者を利用していますけれども(笑)。水だってそうですね。ミネラルウォーターや浄水器を使っているわけでもないし。でも元気です。

もし利点を挙げるとすれば、確かに本文のように、環境保護という点は挙げられるかも知れないですね。例えばうちの実家では、生ゴミは全て畑に鋤き込みます。ですから農薬は使いません。この点で確かに我が家の場合も、オーガニックと環境保護は表裏一体となっている、と言えるかも知れない。

今の季節、畑で生み出される水々しい野菜の美味しさは格別です。田舎暮らしの醍醐味ですね(笑)。

↑よろしければ、是非

お勧めBOOKSあれこれ～『どがでもバンドやらいでか！』（丁田 政二郎著、ピュアフル文庫）



[どがでもバンドやらいでか！](#)

[この商品の他のレビューをみる»](#)

評価：★★★★☆

価格： ¥588

ショップ： [楽天ブックス](#)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

著者：丁田政二郎。1968年神奈川県生まれ。鳥取県倉吉市で育つ・・・。

私はこの下りを読んだ時、「あれ？この方はもしかしたら、あの『丁田さん』？」と思いました。そう、私は丁田さんのことを、存じ上げているのです。私としてもとても印象的な人物で、今頃どこで何をなさっておられるのだろう、と長い間思っていたのですが、このような形で彼のお名前と再開することになるなどとは、夢にも思っていませんでした。

丁田さんはこの小説で、小説家としてのデビューを果たされたようです。しかも処女作にしてジャイブ小説大賞優秀賞受賞とは・・・。

この小説は、我が母校鳥取県立倉吉東高、そしてその卒業生全員の思い出の中でも最も印象的であろう学園祭でのご自身の経験が、そのベースとなっています。彼自身がモデルになっている主人公宮田は、友人の裏切りに対するリベンジとして、自分自身のバンドを作ることを決意します。やるのは超絶技巧で有名な、日本のフュージョン界の雄、カシオペア！しかし悲しいことに、メンバーがいない・・・。彼は見るからにバンド活動とは縁の無さそうなメンバーを何とかかんとかかき集めて、紆余曲折の末、9月の学園祭のステージに臨みます。

そう言えば彼は当時、リベンジがどうのこうの、とおっしゃっていましたね。私はその意味が全くわからなかったのですけれども、そのリベンジが当時のステージの上だけではなく、20年以上経った今日このように小説という形でもなされようとは・・・。うーん、さすが丁田さん。

この小説はそのような80年代の真夏の青春の一瞬を写した、ちょっとレトロなポラロイド写真のようなトーンに貫かれています。

解説にもありましたけれども、あの当時は携帯もありませんでした。パソコンもありませんでした。ですからコミュニケーションは全て、対面形式で行われていました。でもそれは今のコミ

コミュニケーションに比べて、とてもリアルだったような気がします。どちらが良いというわけではない、ただ技術は進化するだけで、我々はそれに従う他はないのですけれども、時としてそのようなリアルなコミュニケーションの方が、実は面白いのではないかな、と感じる時があります。

この小説の重要なファクターである音楽もそうですね。今の私は音楽を、全てコンピュータで生み出します。しかしそれは、この小説に出てくるような音楽ではない。そこには躍動が欠けています。それは百も承知です。ですから私にとってコンピュータによって生み出された音楽は、むしろ絵画のようなものなのです。もしそこに躍動を加味しようとすれば、人の手を借りなくてはならない。今の私でもそうするでしょう。彼らはたった数週間でしたけれども、その試みに成功したわけです。象徴物、模擬店、演劇、合唱……。それが数日後には一瞬にしてキャンプファイヤーの炎の中に消え去ってしまうのだと判っていても、私達はそれに全力を注がずにはいられません。その時の思いが読み進むに従って思い出され、私は何度も苦笑いしました。そうそう、そんなこともあったな、みたいな。強烈な方言と共に(笑)。

みんなのあの時の思いは、忘却の彼方に消え去ってしまったのでしょうか？私にはそうは思えません。現にそれはこうやって、それを体験した人の手によって、見事に蘇ったのですから。そう、あの時の思いは、皆さんの机の引き出しの中で、もう一度光の当たるのを待っているのです。セピア色になった学園祭のパンフレットと共に。

というわけで、あの80年代の情熱を「リベンジ」したい皆様、是非ご一読を。特にこのブログを読んでくれている東高の皆さん、皆さんは必読ですよ(笑)。これからもみんなで、丁田さんのご活躍をお祈りしましょう！

因みに当時の丁田バンドについて、本書には触れられていなかった(あるいは、丁田さんご自身もお気づきでなかった)エピソードを、一つだけご紹介。実はドラマーは、キーボーディストに恋をしていたのでした(笑)。

↑よろしければ、是非



ついに亡くなりましたか・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

20世紀前衛の生き証人とも言えるべきカニングハムさんが、お亡くなりになられたようです。

私は彼の舞踏団の公演をまだ直接拝見したわけではないのですが、この舞踏団のためにジョン・ケージやデヴィッド・チュードアらが制作した楽曲は、私のオールタイム・フェイヴァリットとなっています。私が種々のダンス・プロジェクトに対して提供した楽曲を制作する過程においては、常に彼の舞踏団のことを念頭に置いていました。

ただ私自身は今、彼の死を物凄く悲愴に捕らえているわけではありません。何故か？彼らの作品においては全ての要素は、ただ流れては消えていきます。それらがふと触れ合ったとしても、それは単なる偶然です。どこに中心があるわけでもない、浮遊した時空間。それは振付家である彼自身も、例外ではありません。

彼は去りました。しかし彼の舞台は、続いているのです。昔から、今も、そして未来も。それを彼ら三人は天国で、微笑んで見つめ続けているのではないのでしょうか。

↑よろしければ、是非



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

一昨日、インドネシアのジャカルタにおいて、爆弾テロが発生致しました。

二期目をスタートさせたばかりのユドヨノ政権にとっては、手痛い打撃でしょうね。現にジャカルタの市場は、すぐさま下落致しました。彼は、徹底的な取締りと復興とを、宣言致しました。因みにロイター通信に勤める義理の弟が、当日そこでミーティングをすることになっていたそうです。当然キャンセル。

この『じゃがたら電子文』は、私とカミサンのやり取りを通じて、インドネシアと日本の交流を見つめ直そう、というピースフルな目的で始めたのですが、そんな中いきなり、しかも数年振りの爆弾テロとあって、私自身も当惑しております。しかしながらこのようなテロのことは、私達夫婦の間でも、何度も話題になりました。ええ。かったるい甘い話ばかりしているわけではないのです。てか甘い話って、今まであったか？

そこで今回のこの『じゃがたら電子文』では、実際にそこで生まれ育ったカミサンの話を元に、インドネシアのテロリズムの背景、そしてそれを踏まえた上で、もしあなたがインドネシアへ行くことになった時に、このようなテロから身を守るためにはどうすれば良いか、を考えてみたいと思います。ジャワだけではなく、バリも相変わらず危ないですからね。

もしかしたら、通り一辺倒の外務省渡航情報よりも、ジモティの生の意見が入っている分、役に立つかも知れない。そうなれば、嬉しく思います。

さて、今回の爆弾テロ。見たところ基本的に、これまで発生した爆弾テロと同じ背景があるものと思われます。その背景には、二つの要素が考えられると思います。

一つ目。彼らは、欧米人が大嫌い。

インドネシアの人口の中でイスラム教徒の占める割合は、76.5%。その数は1億7000万人を超え、世界最大のムスリムを抱える国となっています(Wikipediaより)。

その彼らは、おしなべて欧米人が嫌いです。その理由は言わずもがな、9.11以降の世界情勢をご

覧になれば、お判りかと思います。

特に嫌いなのは、言うまでもなくアメリカ人、イギリス人と、オーストラリア人。後者に関しては国同士が近いため、リゾート感覚でインドネシアを訪れるオーストラリア人が昔から多く、そんな彼らをインドネシアの人々は、苦々しく思っていたようですね。そこへ持ってきて同時多発テロと、その直後のアメリカのアフガニスタン侵攻と、イラク戦争です。世界中のイスラム教徒と同じく、彼らはこの国の人達を、特に嫌っています。

このことは、気付いている人は気付いているんでしょうけれども、マスコミとかではあまり言わないですね。恐らく、人種差別的な発言になってしまうからでしょうね。あるいは、日本お得意のアメリカ追従型の姿勢で、欧米人をそのように言うのは気が引けるとか。でも、事実そうなのです。欧米人は嫌われているのです(オバマ氏が大統領になってから少しは変わるかと思いましたが、今回のテロで、その希望は瓦解しましたね)。

しかしながらカミサンの話では、単に好き嫌いとか、宗教問題というだけでは、テロ行為にはつながらない、と言います。実はこの他に、もっと重要な問題が隠されているのです。それは一体何か？

それは、貧困問題です。この問題は、パレスチナと全く同じです。

自爆テロを実行する人達は、実は、別に敬虔なイスラム教徒というわけではないそうです。

彼らは本当に貧しい人達で、日夜食うや食わずの生活を、家族中で続けています。

そこに目を付けるのが、テロリストなのです。彼らは言葉巧みに彼らに近づき、援助を行います。援助される方は驚きながらも、その援助を有難く受け入れます。

そして関係が次第に親密になると、テロリストはこう持ちかけます。もし君がかくかくの場所で爆弾を爆発させてくれたら、君の家族に莫大なお金を寄付するけれども、乗らないか？

当然言われた方は、戸惑います。しかしながら彼(彼女)の家族は本当に貧しく、いつ全員が餓死するか判らない。この人の言う通りに自分が死ねば、少なくとも家族だけは助かるかも知れない。そうして最終的に彼(彼女)はその申し出を受諾して、爆弾を背負って現場へ向かうのだ、ということです。そのターゲットはインドネシアの場合、先ほども申しあげました通り、欧米人です。

要するに、自爆テロをする人達がテロリストなのではなく、その裏に彼らを言葉巧みに死地へ向かわせようとする、本当の意味でのテロリストがいる、というわけですね。実際東南アジアのテロリストは、インドネシアを「聖戦実行の地」と位置づけているようです。首謀者は別の国の人間なのに。迷惑この上ない話です。彼らは、乗せられただけなのです。その鍵が、貧困問題なのであり、宗教問題は二の次なのです。

ここで一つ疑問が生じるかも知れません。もしそれが本当なのだとすると、何故足がつかないのか？テロ事件直後に莫大なお金を得た人を洗って、そこから彼らに接触した人間を洗うことでそのテロリスト集団を一網打尽にすることが可能なのではないか？確かにその通りです。でも現実にはそうではない。これは一体、どう考えたら良いのでしょうか？

多分、まともに捜査していないのではないのでしょうか？

これは、冗談ではありません。と申しますのは、彼らがテロリスト集団だとしても、同じイスラム教徒です。またその彼らが莫大な財を持っているのだとしたら、その財は政府にも流れている可能性があります。その集団を潰せば、自分の立場どころか、文字通り命が危うくなる。ムシャラフ氏と同じですね。テロ根絶と言いつつそれをマジで実行すると、国の治安自体が危うくなる。これはイスラム国家が抱えた、恐るべきジレンマだと思います。

あるいは、警察自体にそもそも実行力がないとか。現地の人達は、警察を信用していません。てか、最も信用できないのは警察だ、と断言します。賄賂をもらってハンドメイドの運転免許証を発行するような連中ですからね。ガサ入れの際にお金をつかませて逃げるなんてことは、ざらだと思います。

基本的にインドネシアは、贈収賄で成り立っている国です。ええ。中国、ロシアの比ではありません。近年官僚が国際協議の場で、「贈収賄なしで給料だけでどうやって家族を養えちゅうねん」と発言して、その場にいる人全員がフリーズしたという話もありますし([毎日新聞『安定への模索：インドネシア・ユドヨノ再選／下 腐敗根絶へ改革正念場』](#))。

というわけで残念ながら、インドネシアにおいてテロを根絶することは、目下のところ、絶望的に不可能だと思います。

しかしながらバリ島にも行きたいし、カミサンにも会いたい(笑)。そんなチャレンジャーの我々が取り得る対策とは、どんなものがあるのでしょうか？

一番簡単な方法。外資系の高級ホテルは、止めときましょう。

今回もそうでしたね。狙われたのはそこでした。しかもJ・W・マリオットは、二回目です。そういうエレガントなホテルは、危険性もエレガントです。ジモティが使う普通のホテルとかの方が、安全かも知れませんね。いくら浴室の排水が悪くても、そこは我慢。テロよりマシです(ひどい目に会いましたけれど)。

あるいは、日本のものとか。インドネシアはそこそこ親日的ですからね。そこを狙うのはあまり意味がない。彼らの目的は、「ええかっこすんなよ、白人どもめ」ですから。イエローモンキーではない(笑)。もっとも同日付の毎日新聞では、[『インドネシア：日本のNPO支援の井戸からガスと泥水噴出～地元メディアが「無許可掘削による被害」などと報じる騒ぎに』](#)なんて記事もありますから、予断は許しませんけれども。

その欧米人がたくさん集まるところも、危ないです。クラブとか。2002年の時はディスコでしたけれども。ぶっちゃけ狙われているのは、欧米人なのです。人種差別的に聞こえますが、仕方ありません。事実数年前には、欧米人を攻撃するための方法に関する情報を掲載したインドネシア語のテキストがウェブ上に出回って、問題になりました([在ジャカルタ日本国総領事館「インドネシア：テロの脅威に関する注意喚起」](#))。そのくらい嫌われているのです。そういう場所には、極力近づかないようにしましょう。

取り敢えず、備えあれば憂い無し。多分注意するしか、防ぎようがないと思います。通背拳なんて役に立たないだろうし。って当たり前か。

もし本格的にテロを根絶しようと思えば、経済状態の改善しか手はないでしょうね。それが原因なのですから。でもそのためには、外資は不可欠になる。そうすると当然、欧米人が入ってきますから、テロの標的になる。このような構図は、容易に解消しそうもありませんね。

あるいは、きちんとした教育ですね。「偏らない」という意味で。つまり、「ジルバブ着けないと地獄に落ちる」などという言葉を手軽に信じ込んでしまう彼らのメンタル的な素朴さ＝無防備さにも問題があるわけです。もっと広い世界を知れば、自然とそんなことは信じようにも信じられなくなるものですが、そこまで情報化されてはいない。要するに、戦前の日本と同じ

状況なわけですね。それを変えるのは、きちんとした情報提供＝教育しかない。

しかし、インドネシアがよりイスラムに傾倒する姿勢を打ち出すとなると、それも難しくなるかも知れませんね。カミサンは昨日電話で、「テロリストなんて大っ嫌いだ」と言っていました。当然でしょうけれども。何ともややこしい国です。

↑よろしければ、是非

マジこれやばいっす。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

10月に婚礼のためインドネシアに行く予定になっているのに、いきなりですか。

先だってインドネシア大統領選挙でユドヨノ氏が大勝して、日本のアホでマヌケなマスコミはその光の部分しか紹介していませんでしたけれども、僕は現地でその影の部分を、まざまざと見せ付けられてきました。それは正しく、『イスラム化』のうねりです。唯一毎日新聞だけが、それを指摘していましたね。

[安定への模索：インドネシア・ユドヨノ再選](#)

例えば、カミサンの友人のヨガ指導者は、当局に出頭命令喰らったそうです。つまり、「お前はイスラム教義に反することをやっているのではないか」とこういうことらしいですね。そういった真綿で首を締めるかのようなイスラム化が、ユドヨノ氏が大統領になってから、徐々に進行しているらしいです。

また紙面にあります「地獄へ落ちる」ってのもミソですね。実際今までジルバブしていなかった人が、何故か最近するようになった、とカミサンが言っていましたけれども、この手のこと吹き込まれたのかも知れませんね。因みにカミサンは、絶対にしないです。筋金入りの不可知論者ですから(でもよくやってると思いますけれど)。

ちょっと婚礼は、控えた方がいいのかなあ。乾杯を合図に自爆されたらヤですしね。そういうのも考えなくてはならないとは、いやはや国際化も難しいものです。

↑よろしければ、是非

そんなんで済むのでしょうか・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

事態はもっと尋常ではないような気がしますけれど。

もしかしたら、サービスはともかく、特に財の面において、消費者の購買意欲そのものが減退しているのではないのでしょうか。それも、不況だからという一時的な理由ではなく、ぶっちゃけ、「モノはもう要らない」ってな感じで。

それにエコロジーが、拍車を掛ける。環境に悪影響を与えないライフスタイルを心がけましょう、みたいな。だとすればゴミになるようなものは最初から買うのを止めとこう、とか。車なんか最たるものですね。都市部に住む限り車なんて面倒、鉄道で十分だろ？、みたいな人が増えれば、そりゃ自動車産業にとっては大打撃でしょう。田舎だとなかなかそうはいかないのですけれども、それでも、買い換えるなんてウザイ、車なんて車検切れになるまで徹底的に使い倒せばいい、と考える人達が出てくる。

それは他文化と比較してみれば、良く判りますね。カミサンのいるインドネシアは「発展途上国」などと呼ばれたりもしますが、逆にそういう国の人達は、お金がたまるとソッコーで使います。車、PC、iPod、ケータイなどなど。がらがん買い替えまくりです。あるいは食。太っても喰う(笑)。そのような図は今の日本では、非常にノスタルジックに思えてしまいます。

『成長＝善』という、経済学の暗黙の前提自体が崩壊しかかっているような気がしますね。てか、もう完全に崩壊しているような気もしますが、デフレが恒常化すると、もう危機ではなくなる、みたいな。逆に人間の適応能力って、すごいですよね。

↑よろしければ、是非

すごいなあ、**40**年前かあ・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

懐かしいなあ、ということは、僕は何歳になったのだあ！(笑)。

あの年代は、このアポロ計画の余波を受けて、宇宙だとか異次元だとかが、かなりのムーブメントになっていたように思います。言うまでもなく僕も、その余波を受けた一人ですけれども。現実世界ではない異世界に対する興味が、地球上を席卷していたように思います。

時代変わって今ではそんなことを口走ると、すぐに文字通り「宇宙系」ですとか「逸脱系」などと呼ばれてしまいます。その反対に、無限に引き伸ばされた日常世界。取り敢えずコンビニ、みたいな。

まあ私は、そのような平穏な世界に無事に着陸出来そうもないので、死ぬまで宇宙空間漂ってます。Brian Enoの名盤"Apollo"を聴きながら(笑)。

<追記>

いつ見ても感動的な写真だなあ・・・。



↑よろしければ、是非



じゃがたら電子文(2)～家族が増えたぞ！だが何話してるか判らんぞ！

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

私は、一人っ子です。

精神分析学の研究を待つまでもなく、兄弟姉妹がいるかいないかは、人間のメンタリティに大きな影響を与えるようです。兄弟姉妹がおありですと、幼少時より、いきなり過酷な生存競争の中に叩き込まれます。テーブルの上に並んだトンカツを誰が先に口にするかは、彼らにとっては死活問題・・・。

しかし私は一人っ子ですので、幸か不幸かそのような生存競争とは、無縁の環境に育ちました。

さらに私の幼少時、私の村では(村です、村)、なぜか子供の数が激減していました。しかもその村は地理的に、メインストリーム(役場がある場所を「メインストリーム」と仮定した場合(笑))とはかなりかけ離れた場所に存在しています。畢竟登下校時は私一人ですので、誰の目も気にすることなく、好き勝手に、やりたい放題やっていました。

そのような日々が、私のメンタリティに消すことの出来ない多大なる影響を与えてしまったことは、まず間違いありません。万が一集団の中に置かれても、私はすぐに自分で特異なポジションを勝手に作り出して、そこに安住しようとしてしまいます。ですから私は基本的に、競争社会自体になじめません。落伍してしまうどころか、最初からそのゲームに参加しようとしないうえ、みないな。

唯一の例外は、大和銀行員時代だったのでしょうか。当然会社組織というものは、典型的かつ冷徹な競争社会であるわけで、周りの方々もそんなマイペース過ぎる私を啓蒙しようと、かなり心を砕かれていらっしゃいました。しかし、そのような温かい親切心も彼の心には全く届かず、入行数週間目にはすでに、「芦屋寮(あるいは箕面支店)には、キ〇ガイがいる」という噂が、他の支店にまで流れていたようです。

数年前、大阪のとある飲み屋で偶然出会ったあるお姉ちゃんと話している時に、当時高校生だった彼女が、奇しくもその芦屋寮の付近に住んでいた、ということがわかりました。彼女は言います。「あの時あの寮には、夜な夜なフルボリュームでインド音楽を聴きながらお香を焚きまわってギターを延々と練習する奇人変人が住んでいる、という噂を聞いたことがあったけど・・・」。誰のことなんだ、え、誰の？

そのメンタリティは、大人になった今でも、変わらないと思います。残念ながら。

というわけで私は、兄弟姉妹という、極めてありきたりの観念を、想像することが出来ません。あるいは、大家族ですね。うちの家庭は父、母、祖母と私の計四人で、家族という名の国家というよりも、EUのような共同体とでもいうべき緩やかな関係を保っている、というのが現状です。

ところがこの度、図らずもインドネシアから嫁さんをもたらすことになったので、状況は一変しました。

いきなり私は、義姉、義妹、義弟を持つことになりました。しかも義姉、義妹ともすでに結婚しているので、旦那だけではなく、お子さんもいます。私は同時に、甥っ子も姪っ子も、持つことになったわけです(姪っ子Atriaは、高校3年生のアニメ好き。一番下の甥っ子Aaryanは、4歳の煎餅好き。いずれも言うまでもなく、日本製。有難いことです)。

それだけではありません。基本的にインドネシアは、大家族です。聞くところによるとパパさんのご兄弟姉妹は、10人近くだとか。当然ママさんも同じです。従って、我が奥さんの従兄弟(従姉妹)達は、30名を軽く超えるとか。彼女もその全貌を把握しているわけではないと申しますので、いわんや私をや。

従って、何かのセレモニーで一族郎党が集まるとなると、大変な騒ぎになるそうです。かまどからは数日間火が絶えることはなく、飲めや歌えのどんちゃん騒ぎ。まあ日本でも、かつてはそんな感じだったのでしょうけれども。

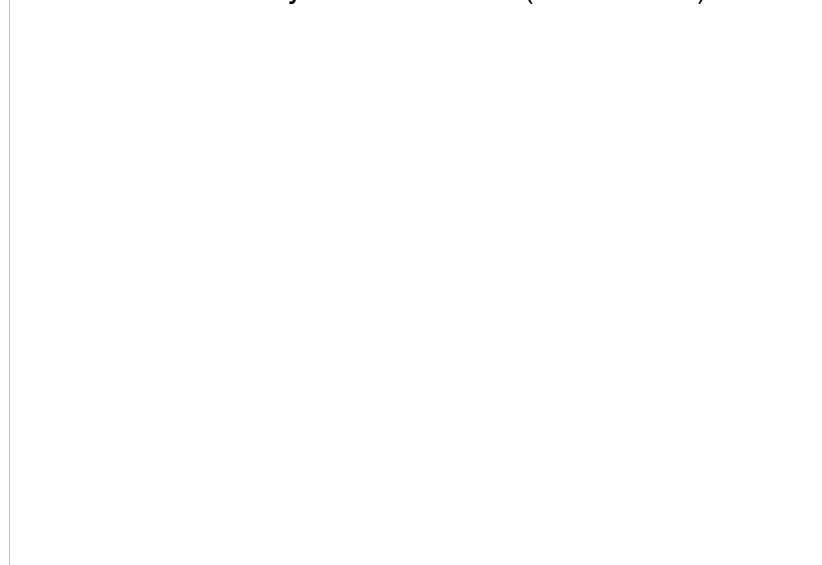
取り敢えず2月にインドネシアに行った際に、「主だっただご家族」には一応、お目にかかってきました。話していることは嫁さんの通訳がなければ、全然わからないのですが(小学校時代の教頭先生とかまで呼ぶらしいですね)、うちは種々の事情があって、シンプルにやるそうです。その方が有難いです、はい。僕小心者なので。

次回お目にかかるのは、10月です。その時はインドネシア側での婚礼パーティですね。本式の婚礼パーティでは、1000人単位で人が集まるそうですが(小学校時代の教頭先生とかまで呼ぶらしいですね)、うちは種々の事情があって、シンプルにやるそうです。その方が有難いです、はい。僕小心者なので。

まあ結婚というものは、それ以前とは違って、自分とは全く異なった環境で育ってきた人と共同生活をする、ということでもあるわけですから、それはそれで良い勉強になるな、などと悠長なことを考えています。それが外国の人であれば、よけいですね。

出来れば、うちの家族が単に家族の中だけではなく、日本とインドネシアとの更なる交流のきっかけとなりますことを、お願いしつつ。国家間で紛争が勃発しないように、気を付けます。

いつも明るいMurdiyonoさんご一家(のごく一部)



↑よろしければ、是非

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

私も以前から、このような自己啓発のやり方に疑問を持っていた人間の一人でした。

多分これは、そのような前向きな言葉だけではだめだ、ということではないでしょうか。そのような言葉を口にすると同時に、過去の成功経験、例えば運動会で一等になったですとか、何かで賞を取ったですとかいう経験を思い起こせば、自信の回復につながる可能性はあるのかも知れませんが、ただそのような言葉を呪文のように唱えているだけでは、大して効果はない、効果はないどころか、それを続ける中でふつふつと湧き出る疑問を更に抑圧することで、逆ににつきもさつきもいなくなる可能性がある、ということを指摘しているような気がします(それを延々と繰り返すセミナーに参加して、精神に変調をきたした、という話は、よく聞きますからね)。

まあ私は本文のように、「前向きな言葉を唱え続けることで自分の自信を高められるというメッセージを伝えるのをやめるべきだ」とまでは思わないのですけれども、要するに、重要なのは言葉そのものなのではなく、むしろその言葉にアンカリングされている別の概念(そのような過去の経験ですとか、憧れ)の方であり、その言葉をきっかけにしてそれを引っ張り出せるかどうか、が成功の鍵なのではないか、という気がしますね。

そのように徹頭徹尾論理的に考えようとする私のような人にも、効果がなさそうな気もしますけれども・・・。

↑よろしければ、是非

じゃがたら電子文(1)～イントロダクション

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

私は以前から国際交流に興味があって、JR中央線の電光掲示板でしばしば放映されていた『ダーリンは外国人』などは楽しんで見ていた方です。

あのマンガの面白さはやはり、ものの捉え方についての、異文化間の差異でしょうね。こんなものを、このように捉えていたのか、みたいな。一方にとっては奇怪に思えるようなことを、もう一方は至極真面目に行おうとするので、そこのギャップが面白い。何も知らない無邪気な子供のすることが、やたらと面白いのと同じ感触のような気がします。

しかし、まさか自身がそれと同じ状態になるなどとは、当時は思ってもみませんでした。

奥さんは、日本語はわかりません。私は、インドネシア語は当然わかりません。ですから、会話は基本的に英語です。しかし、向こうはバリバリの英語教師ですからそこら辺は全く問題はありませんが、私は英語なんぞ大学の教養以降勉強したことなどなく、TOEICなどとも無縁の生活を続けていたものですから、日常会話に際しては、文法を無視して取り敢えず意味の通りそうな単語を羅列する、という力技を続けているのですが、何とか意思の疎通は図れているようです。

しかも旦那は、人格破綻者。よくもまあそんなところに嫁入りしようなどという気になったものだ。酔狂な奴だ。

今はビザの申請手続きの関係で、本国に強制退去させています。僕が勝手に(←飛んでもない夫です)。その前一ヶ月ほど、入籍手続きのために来日させていたのですが、そのわずか一ヶ月の同居の日々は、甘い新婚生活どころか、ムキ出しの異文化交流といった趣で、なかなかエグイ日々でした。さらに悪いことには、私は元ター人っ子で、なおかつ一人暮らしが長いために、常軌を逸したマイペースさの当然の末路として、僕自身が極めて普通だと思っていることが、彼女にとっては極めて奇怪に映ったりすることも多々あって、その意味でもスリリングな日々が、展開いたしました(あ、それは日本の方でも同じか？)。

例えば、こんなことがありました。ある時私達が交差点に差し掛かると、彼女が突然、「なぜそちはそのようなことをするのだ？」と訊ねます。「そのようなとはどのような？」

彼女は僕が、交差点に立つ時は必ず人と離れて立つのはなぜだ？ということが訊きたかったようです。それは僕は、完全に無意識的にやっていたことでした。なるほど、こういうささいなことでも疑問に思うのは必定。

そして私の答え。「武士は背後を取られるのを好まぬのだ」。これで彼女は、変なこと覚えちゃいました。

こんなこともありました。同じく交差点で、すごいすごい、感動だ、と言っています。何が悲しくて感動しているのかと問えば、「横断歩道で車が停止する」からだ。日本人は何と礼儀正しい、と感動しています。いやそれは、礼儀正しいとかいう問題ではなく、法律ですから(逆にジャカルタとかでは、車は横断歩道でも平気で突っ込んできますので、観光に行かれる方は、十分にご注意下さい)。

このようなやり取りが我々の間では日常的に行われていたので、そういう意味では知的好奇心をくすぐられたりもしますけれど、まあお国のために、あまり奇っ怪な日本人観を持たせないように、最大限の努力をしよう、と考えています。一応。出来得る限り。全力で。

余談ですが、我々の会話ではないですけれども、こんなこともありましたね。嫁さんと東京へ行く途中、大阪に立ち寄って大坂城を観光したのですが、どうやらその日大坂城ホールで倅田來未のコンサートがあったらしく、ホール周辺には長蛇の列が出来ていました。その時耳にした、ちょうどそこを通りがかった外国人の会話。「(ポスターを指差して)この人、誰？」「何だ、知らないのか？今日本で最もクールなストリッパーさ」。ものの見方はいろいろあるものです。

そんなわけで新シリーズ、『じゃがたら電子文』と銘打って、これはショッキングだと思われるような日本vsインドネシア間の異文化交流(ないしはバトル)にまつわる人間模様を、折に触れてご紹介させていただきたく思います。目指せ、サブカル人類学！(友人は、「嫁さんから見たあんたのルポの方が、よっぽどショッキングでないか」、と言っていますけれど・・・)。



↑よろしければ、是非



結婚致しました。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

私事にて真に恐縮ではございますが、この度結婚致しました。

とは言っても、ご存知の方はすでにご存知のように、一ヶ月前のことではありますけれども。ビザの手続きその他でご報告が遅れましたけれども、とにかくそういう運びとあいなりました。

「ビザ」という言葉が示す通り、国際結婚であります。奥さんは海を越えて、遥々インドネシアからお出でになりました。何が悲しくてわざわざ日本まで来て、しかも半分世捨て人のような私の奥さんになりたいのか、当事者ではありながら皆目理解が出来かねるのですけれども、ここは一つ、奥さんの意思を尊重することに致しました。

まだ日本語が話せないので、その辺りが当面のネックでしょうか。もう一つのネックと言えば、彼女はテクノが大嫌いです。あと、オカルトもNGだそうです。げらげらげら。そげな戯言が許されーと思っちょーだか？

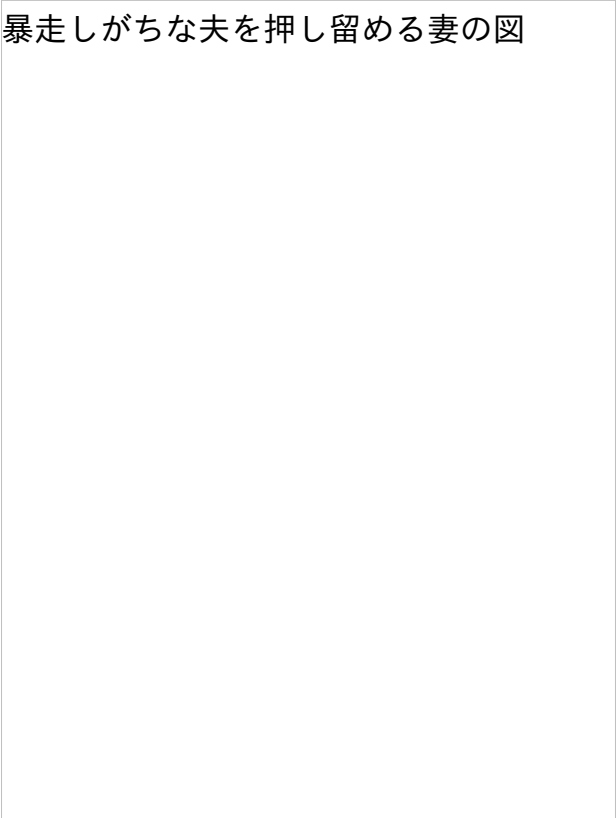
ついでに申し上げますと、まだ同居は致しておりません。ここら辺が国際結婚のややこしいところで、同居つまり嫁さんが日本に住むには、『配偶者ビザ』なるものが必要なのです。それなしに日本に住もうとすると、しょっ引かれます。それを手にして同居を始めるのは、恐らく11月以降になりそうですね。寒いぞ～。知らないぞ～。

というわけで、今後は夫婦共々、宜しく願い申し上げます。今後ともご指導・ご鞭撻のほどを・・・。

中原勇一 & Nidya Sari Murdiyono



暴走しがちな夫を押し留める妻の図



はっきり言って・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

若年層の免疫機能が全般的に低下している、ということの証でしょうね。

そう言えばうちのばあ様は、約20年近く風邪なるものを引いたことがございません。今年90歳。今日も変わらず畑へ行きます。最近は日本とインドネシアの二国間関係に、多大なる興味を抱いておられます。

この方の生態というものも、医学的に見たら非常に研究価値があるのかも・・・。

↑よろしければ、是非

☐

だからと言ってね～。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

日がな一日車の中で過ごす、というわけにはいかないのではないか、という素朴な疑問が・・・。

インフルエンザでもそうですけれども、問題はこの呼吸器系の疾患やアレルギーそのものなのではないかと思うのですけれども、そのような論調はあまり見られないですね(日本で高校生に集中して発生している、と指摘していた記事が、若干それに触れていたかな、って感じですね)。

人間はいずれこの地球上で、宇宙服を着たまま過ごすことにでもなるんでしょうかね～。さぞ不便な暮らしのような気がしますけれども。

↑よろしければ、是非

神戸でバイオハザードが・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

学生時代を過ごした、愛すべき神戸・・・。

来月初旬、神戸へ行こうと思っていたのですが、さすがに控えた方が良いでしょう。
因みに訪問先は、奇しくも呼吸器外科医だったりする。

ところで、これだけ騒ぎが大きくなってくると、病気そのものよりも、その経済的な打撃の方が
恐ろしくなってきましたね。ただでさえ恐慌真っ只中なのに、買い物どころではない・・・。

いずれにせよ、まだ単なる序の口ですからね～。どうなることやら。

一番確実な処世術は、誰もいない畑で作物作ることだったりして・・・。

↑よろしければ、是非



無事に入国されていると。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

そういうことですね。

昨日お出でになったクライアントさんがお話になっていたことですが、秋以降爆発的に流行した時に、例のタミフルというものは、「重要な人物」から優先的に配分されるということだそうですね。その筆頭が、何と「葬儀屋さん」とか。

この噂、真実なののでしょうか？何だか旧約聖書の、『ノアの箱舟』か『ソドムとゴモラ』みたいな話になってきましたね。怖い怖い。

因みに、東洋医学独自の防御法はあります。約十五年以上病院に行ったことも無ければ薬も飲んだことも無いので、恐らくこれは使えるはずですが。風邪も年に一度程度引きますけれども、すぐ治りますし。前回引いてから一年以上になります。

詳しくは、専門家にご相談下さい。

↑よろしければ、是非

☐

まあここら辺の事情は・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ヒンドゥー教とかでも一緒かも知れないですね。日本人なんかがインダス川で沐浴したら、一撃らしいですから。

ロマンはあるのでしょうかね～。敦煌なんかも古代ロマンをかき立てられる場所の一つですけれども、あの辺りは度重なる中国の核実験の影響で、かなりヤバイらしいですから。行くな相当の覚悟が必要とか。

すごく憧れていた場所なのに、実際に行ってみたらがっかりした、というような経験はありませんか？僕はよくありますけれども。残念ながら(笑)。

↑よろしければ、是非

美しいですね～。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

私の隠れた趣味は、天体写真収集です。

昔は「リアルな」写真集とか、雑誌『ニュートン』くらいしかネタが無かったのですが、今はネット全盛時代。検索すれば、膨大な量の写真家の方々が、膨大な量の素晴らしい写真を、独自に公開していらっやいます。

それを借用してデスクトップに貼り付けて眺めるのは、格別です。

究極の癒しですね。宇宙に思いを馳せると、自分の考えていることだとか、人間の歴史なんて、ちっぽけなものなんだよなあ、と、いつも思わされますね。



↑よろしければ、是非



これはなかなかファンキーな。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

強盗をした後というのはやはりまずかったのですが、このようなメンタリティの持ち主には、一度お目にかかってみたいですね。お友達になれそうな気がする。

↑よろしければ、是非

これは面白い説ですね。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

そうなる、かかるべきか、かからざるべきか。かかってみなけりゃわからない。

文字通り、一世一代の命を賭けた大博打ですね。あなたも是非(笑)。

↑よろしければ、是非

☐

何だかすごいですね。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

他の箇所では、こんな記事も。「[防護服まで販売好調＝新型インフル](#)」

でもやはり、決定的なカタストロフは避けられないようで。「[新型インフル、より強力な第2波に警戒を WHO](#)」

つらつら思うのですが、この状況が進んでいくと、中世末期からのヨーロッパでの『魔女狩り』にも似たような状況になっていくのではないのでしょうかねえ。ウイルスよりも、その手のデマゴグの方が、よっぽど怖いような気がしますけれども。

『歴史は繰り返す』。これが人間というものなのでしょう。哀れな生き物です。

まあいずれにせよ、人間自体増え過ぎましたからね。環境破壊しまくりだし。ウイルスを悪くは言えないですよ。

そういう意味では、母なる地球の、自浄作用あるいは自然淘汰の一環かも知れませんね。

↑よろしければ、是非

予断を許しませんが・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

事態は刻々と推移していますね。

そういえば最近、街頭でマスクをされている方を、多く見かけるようになりましたね。見えざる脅威ですから、当然のことなのかも知れませんが。

因みに、普通の(という言い方は変なのでしょうけれども)季節性のインフルエンザでも、日本では年間一万人前後の方が亡くなっておられるようです。 [こちら](#)に、そのレポートがあります。とても参考になります。

取り敢えず夏に向かう日本では、次第に騒ぎは収まっていくのではないかと、という見方があります。怖いのは、秋から冬にかけてでしょうね。空気も乾燥しますから、ウイルス増殖にはもってこいの環境となる。

いやはや、怖い怖い。

↑よろしければ、是非

☐

そう言えば思い出した。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

大学時代の卒業旅行でゼミの仲間と共にバリ島に行ったのですが、運悪く風邪を引いて高熱を出し、現地で寝込みました。その他に、食べ過ぎで食中りを起こしたものが、若干名。

それを馬鹿正直に入国時に申告した我々は、その場で連行・隔離され、精密検査をされました。友人の一人は、必要とは申せ、かなり**屈辱的なこと**をされたとか。

事態はそれで収まらず、入国管理局から連絡を受けたであろう神戸市保健所の検査員が、それから一週間程度、毎日うちにやって来ました。ほぼ外出禁止。買い物などはありません。抗弁しても、「仕事ですから」の一点張り。アウンサンスーチーさんの気持ちが、ほんの少し判った気がする。

晴れて保護観察期間が終わって大学へ行くと、見事に、「**あいつはヤバイ病気持って帰ったらしいぞ**」という名誉な噂が立っていました。

今となっては懐かしい思い出・・・、って、そんな問題じゃないか。取り敢えず手洗い・うがいの励行、と。

↑よろしければ、是非

☐

豚インフルエンザの症状および予防措置、だそうです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

世界的に大流行するんでしょうかね～。怖いですね～。

豚インフルエンザに関する記事を、もういくつか。

[豚インフルエンザ、パンデミックの可能性「非常に高い」 著名微生物学者](#)

[【図解】豚インフルエンザ感染マップ](#)

[米で豚インフル感染急増、1人の死因を調査 豚肉禁輸の動きも](#)

東洋医学研究家としては、この記事が非常に気になる。

[違うウイルス？栄養不足で？死者はメキシコだけ、深まる謎](#)

これらの記事を参考に、予防に努めることと致します。



↑よろしければ、是非



前回の記事のように・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

のんきに遺跡を語っている場合ではなくなってきたようですね。

首都圏でもマスクをしている方を多く見かけますが、これはその予防の一環なのか、あるいは花粉症なのか・・・。

おちおち電車も乗れなくなりそうで、怖いですね。

↑よろしければ、是非

☐

今度は豚ですか。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

インフルエンザウイルスも生き物ですから、次から次へと変異を遂げて、寄生する対象を増やしているようですね。恐ろしいことです。

でも僕なら、メキシコであれば行くのは市内よりもやはり、郊外ですけどもね。テオティワカン、行ってみたいな。チチェン・イツァとか。古代史フリークですから。ええ、語らせればうるさいですよ(笑)。

↑よろしければ、是非

Tさんとの対話(16)～気功家としての私のスタンス

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

僕の場合は、不特定多数の人に対して何かを訴えかけたりという欲望が、全くないのですね。悪く言えば、基本的に、どうでもいい、と考える節がありまして(笑)。

その割にはブログにはいろいろと書いているじゃないか、と思われそうですが、あれは完全に、マーケティングの一環ですよ。先のようなスタンスのままですと、他の人に知っていただける機会は、当然失われますから。それではお客様がお出でになりませんから、仕方なく、ですね(笑)。だとすれば、人様とのディスカッションをそのまま転載する方が楽ですし、判りやすいのではないかと。

僕の場合は、パースン・トゥ・パースンのコミュニケーションの方が、好みなのです。そちらの方が断然、面白いですしね。

施術や音楽活動も、その一環ですね。それをどうしようとはあまり考えていなくて、それを用いた他者とのコミュニケーションが、ただ単に、好きなのです。そうでなければ、一人で坐禅している方が良いでしょう。極端ですけど(笑)。

その意味では、ネット上でのコミュニケーションというものは、僕自身は基本的に、受け付けない部分があります。相手の表情や声のトーンなど、コミュニケーション上の重要な要素が、ごっそりと欠けていますからね(そちらの方が、コミュニケーションにおいては、ディスカールの中身よりもはるかに重要なのだ、というのは、ラカンにもエリクソンにも、共通する見方ですね)。もっとも、それをいいことに名無しのネット弁慶になる人もいるのでしょうけれども、そういうのは生理的に苦手なものでして(笑)。

更に言えば、そのようなコミュニケーション上のギャップにこそ、昨今のようなわけの判らない犯罪が発生する原因を探ることが出来るのではないかと、とも思います。僕にしてみれば、電車の中で携帯電話で、大声で明らかに下らないと思われる会話をする、運転中に前の車を煽ること、秋葉原で人を無差別に殺傷することとは、同じ精神構造によるものだとは思えないのですけれどもね。要するにその時、周りにいる他人は、単なる物体であるわけです。それに危害を加えて、何が悪いんだ、という反論は、我々にとっては異常でも、彼らにとっては正当なのかも知れない。そういうのは苦手なのです。

パースン・トゥ・パースンのコミュニケーションの問題といえば、僕の「引き出し」もそうかも知れませんね。

多分、僕の東洋思想や身体技法、世界の神秘思想に関する情報量は、本や体験、出会った人からの教えを含め、半端ではないと思います。でもそれは、誰にも話しません。別に独占しようと考えているわけではなく、訊かれないから答えない、という単純な理由でしてね。

ディスカッションの中でも、この人はこう考えているみたいだけれど、これをこうすればもっと効率的で確実なのに、と思わされることは頻繁にあるのですが、特にそれには触れません。僕はそう考えたとしても、その人にとっては余計なお世話かも知れないですからね。

ただ、精神科医のK氏や、最近お会いした物理学者のU氏のように、根掘り葉掘り訊かれれば、根掘り葉掘り答えます。彼らのリアクションが、面白いですからね。僕としても彼らとのディスカッションは、オカルト系の人からは絶対に得られない知見が得られますし。

そういう意味では、一応気功の師範ですが、まあ師範らしくはないですね。教えることには、全く興味がない。僕の興味があるのは、自分の技術や知識を向上させること「だけ」です(横浜教室で師範コースを取ったのは、それしか『遊龍功』の全ての型を学ぶ方法が、当時はなかったからです)。そういう意味では、どちらかと言えば僕は、研究者タイプの人間だと思います。そのような人間にしてみれば、人様を指導したり、啓発することには、全く興味が持てないので、そんな暇は無い(笑)。ですからブログも、書かなければ書かないに越したことはないのですが、今はマーケティングを考えると、どうしてもそういうわけにはいかないのです、仕方なくやっておりますが。もっともこのようなマーケティングも、正に研究の一環ですよ。ビジネスというものは、非常に興味深い(笑)。

今に、僕自身の活動に十分な基盤が出来たら、先ずやるのは、HPとブログの、全削除ですね。それはやりたい、と常々考えています。その日が来るまで、僕は頑張らなければいけない(笑)。

「悟り」の話が少し出ましたが、古今東西の聖者だとか仙人だとか、しまいにはその所在がわからなくなる、というのは、僕はその意味がなんとなく判るような気がします。

つまり、ものの見方が変わると、世界はエネルギー(それはプラナや気、法と言っても同じことですけど)の、単なるゆらぎにしか見えなくなるんですね。それに執着する必要が、一体どこにあるのかと。そうなれば彼は、人前に出ることに、大して興味はなくなりますね。出ても出なくて

も結果的に同じであれば、面倒じゃない方が良く、とこういう考えになるのではないのでしょうか。確かにそうなりますね。

エネルギーという言葉を使わないのだとしたら、夢です。夢と現実とは、全く同一です。我々は、夢の中に生きているわけです。

しかし、今度はそのようなエネルギーのゆらぎ、あるいは夢を、パターン化して見ることで、逆に、他人の運命を読んだり、未来を予知したり、あるいは人をコントロールしたりするわけです。そういう意味では「悟り」とは、哲学などではなく、むしろNLP的な、心理的テクノロジーであると、僕は思いますね。

というわけで、猛暑が続きますが、どうかご自愛下さい。

中原勇一

↑よろしければ、是非

前記事に関連して・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

こんな記事もありますね。

つまり旧来のメディアも、YouTubeなどの大衆参加型のネットメディアを無視しては、もはや自社戦略を語れなくなっている、ということですね。

いやはや、面白い時代です。



↑よろしければ、是非



さすがティルソン・トーマス。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

相変わらずトンガった試みをしてくれますね。

一昔前では、CDを製作するというのは、百万円単位の仕事でした。ところが今ではそれは、自宅のパソコンでチョイ。つまり、自分自身がレーベルのオーナーになれるわけですね。

同じようなことが、YouTubeの登場によって、放送という分野でも起こりそうですね。つまり、自分自身が放送局になれるというわけで。

レコード業界がそうです。新聞業界もそうです。インターネットの大衆化によって、独占・寡占が当たり前であった業界に、著しい変化が起こっています。これらに属する企業にとって、かつてのような収益を上げることは、極めて困難になっています。その変化はついに、放送にまで及びそうですね。

つまり、メディア(媒体)というものの自体が、かつてのような存在意義を、消失しつつある。TV見るよりmixiの方が楽しい。そのような方達は、どれくらいいるのでしょうか？

面白い時代になったものです。

↑よろしければ、是非

☐

人間模様だなあ・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

こちらではこのような記事が・・・。偶然にしては、出来すぎた感が。

一時期同じ仕事をしていた二人ですが、いやはや、人生とは異なるものです。

しかし、Georgeの記事なのですが、この写真のPaulの相変わらずのオーラは、すごいですね。66歳ですよ。半世紀以上もポップスの頂点に君臨し続けるというのは、正に偉業。

因みに、The Beatlesのメンバーで、一番仲が悪かったのは、彼とJohnではなく、Georgeだったとか。その意味でもこの写真は、ちょっとびっくり。Paulならではのコマーシャリズムの一環でしょうか？(笑)。



↑よろしければ、是非



何と懐かしいお名前・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

The Beatlesの"Let It Be"や、George Harrisonの"All Things Must Pass"などの名作をプロデュースしておきながら、音楽業界から突如引退、という話は聞いておりましたが、このようなことになるとは・・・。

もっとも、John Lennonの"Rock'n Roll"のレコーディング最中に、大暴れするミュージシャンをなだめるために威嚇射撃を行うなどという奇行でも有名な方でしたからね。でも実際に殺してしまうのは、さすがにまずかったですね。

因みに僕個人的には、あのいわゆるウォール・オブ・サウンドはあまり好きではないです。George Martinのミックスの方が、音が抜けてて好きですね。

写真を見ても、かなりイっちゃってる感が強いですけども・・・。

↑よろしければ、是非

殺到ってのがよく判らないですね。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

少なくとも僕の周りでは、「今後に備えて核シェルターを買ったよ」という会話は聞かれないのですが。

まあ流行に疎い僕ですから、世間では売れているのかも知れませんが。

素朴な疑問ですけれども、街を歩いている最中に打ち上げられたら、どうするんですかね。

↑よろしければ、是非

☐

洗濯している間に・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

世紀の珍事件は、終わりを告げたようですね。

うちの洗濯機がガーガーいっているその近所では、「ご不要に～なりました～家電製品～」という声が響いていました。今から考えると、このシチュエーションのコントラストが、異常なほどシュールですね。

まあ一応、実験は成功した、と見るべきでしょう。どうやら東アジア情勢は、以前とは全く違った局面に、突入したようですね。

アメリカも今後は、うかうかしてられないですね。背中にピストルを突きつけられたようなものですから。東アジア情勢など、所詮対岸の火事、適当でいいや、というわけにはいかない(図らずもそれが今回の騒動で一瞬、露呈しましたね)。

さて、今後はどうなりますやら。

↑よろしければ、是非

はてさてどうなるか

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

なかなか事態は、緊迫の度合いを高めてきたようですね。

別の記事では、米政府高官が、「北朝鮮が打ち上げるのは弾頭でなく、人工衛星の可能性が高い」と発言しているようです(<http://jp.reuters.com/article/worldNews/idJPJAPAN-37267620090401>)。こうなるともう、何が何だか判らないですね。

取り敢えず我々としては、事態の推移を見守る他はなさそうですが。ヤバくなったら永田町の地下鉄構内に逃げ込もうかな。てか、それでは遅過ぎるか(笑)。

↑よろしければ、是非

一瞬、何の写真かと・・・

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ビビりましたけれど、こうして入れ歯だけを集めてみると、なかなか壮観ですね。

道教関係の文献をいろいろと調べてみると、何でこんなケツタイなものが儀式に使われているんだろう、みたいなものが散見されたりしますが、最初はどういった単なる「流行り」で、後でそれに更なるケツタイな理由が付け加えられて、現在に伝わっている、ということは、案外あるかも知れないですね(因みに真言宗などでは、金剛界・胎蔵界の曼荼羅が、対になって紹介されたりしますが、あれは元々、成立した時代も場所も、全然別のものでした。それをくっつけたのは、空海のアイディアだそうです)。

数百年後には、「この入れ歯には、いかなる意味が隠されていたのか？しかも、なぜ紙製なのか？」などと、考古学者の間で大激論が戦わされていたりして。

↑よろしければ、是非



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

謹啓 K様

こちらこそ、どうも有難うございました。

僕は自発動は起こったことがないので(誘発させたことはしょっちゅうですけど(笑))よく判らないのですが、確かにパタパタと動き回ってしまうと、気の流れは判りにくくなる、ということは、あるかも知れませんね。

それは実用的な観点からも、言えるかも知れません。練習を積んでいくと、例えば肝経の太衝というツボに意識を置くと、目がムズムズしてくる、というような状態になります。それは、経絡が通ったから、そうなるわけですね(肝経は、足の親指からスタートして、目に抜けるからです)。しかしここで自発動が起こるとなると、そのような微妙な動きは、自覚がしにくい。そうになると、目が疲れたから太衝でケア、みたいなことは、実際上難しくなりますね。

ですからあまりパタパタとやらずに、じっくりと気の流れを感じる方が、経絡を使った全身トリートメント、という点からしても、ベターなのかも知れませんね。

僕としては先日印象に残ったのは、師匠の講演ではなく(こんなことを言うと怒られますかね(笑))、むしろその後の新宿の居酒屋での、Kさんとの対話の方ですね。

具体的に言えば、ブラック・マジックにかけられて命を落とした、インドネシアの友人の叔父の話です。亡くなる直前、体からおびただしい針が出てきた、というのは、確かに物理的に考え過ぎていたのかもしれませんが。それを臨死体験でのビジョンと結びつけられた視点は、さすがですね。

これを目撃したのは、彼女の妹です。そしてあの後思い出したのですが、その事件の前だったか後だったかに、全身に針を刺された状態の人形が、発見されているのですね。これは典型的な、ブラック・マジックの手法です(日本にも『藁人形』というものがありますね)。これと叔父の全

身から針が出てきた、というのは、その意味でも関係がある可能性がある。

このことは二つのことを、僕に教えてくれます。一つはインドネシアには、このような呪術が
厳然として生き続けていること(その恐ろしさに比べれば日本のスピリチュアル系など、本当に「
お遊戯」ですからね)、そしてもう一つは、それを可能にする意識の問題です。そう、まさにOSの
違いなのかも知れません！そこら辺今後、もう少し考えてみたいと思います。

ともかく彼女から、もっと情報を聞き出さねば。話すのを嫌がるものですからね。「怖い」と
か言って(笑)。

ところで、例の『Marimba in Gallery』のチケット、早速Aさんから送って頂きましたよ。楽し
みですね。それでは4月5日に、現地でお会い致しましょう！

↑よろしければ、是非

さてどうなるんでしょうね。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今のところ、これが一番ホットな話題かも知れないですね。

昨日も申しあげましたが、これがそもそも迎撃出来るのかどうかという問題もありますが、迎撃したら宣戦布告と見なす、というお隣さんの発言は、今後どのように展開していくのか。

なかなか予断を許さない状況が、続きそうですね。

↑よろしければ、是非

☐

人騒がせな国ですね。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

マスゲームをして遊んでおられるうちは、個人の趣味の問題ですので何とも申し上げられませんが、他人の家の屋根をまたいでの火遊びというのはちょっと・・・。

それを迎撃するだの、そもそも迎撃出来ないだの、いろいろと議論が紛糾しているようですが・・・。

実際はどうなのでしょうね。そこら辺がもう少ししたら、誰の目にも明らかになるのかも知れませんが。

まあ、無事を祈りましょう。

↑よろしければ、是非



早いものですね。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

果たしてこの開戦は、是だったのか非だったのか。

一部のアメリカ国民であれば、間違いなく是だった、と断言するのでしょうけれど、傍から見ている分には、良く判らないですね。前よりは改善が見られるとは言え、治安も相変わらず安定しないようですし。

私が心配するのは、この戦争を機に、イスラム教を取り巻く環境が、より先鋭化してしまった、ということですね。日本にいとあまりわかりませんが、インドネシアに行ってそれは、恐ろしいほどに感じました。アメリカの肩を持つ日本人め、ということで、ジャカルタの路地裏に連れて行かれて凄惨なリンチを受け・・・たりはしなかったですけども、そのような可能性は、どうしても否定は出来ない。

そういう風潮の中で日本の果たす役割とは、アメリカ全面追従ではないような気がするのですけれどもね。かと言って、完全無関心でもない。例えば前回の自衛隊派遣は、現地では物凄く、評価が高かったみたいですね。それは一体、何故だったのか？

そういうことを真剣になって考えるのが、真の国際貢献ではないかな、と僕は思います。

[自衛隊イラク派遣](#)

↑よろしければ、是非

☐

Tさんとの対話(15)～霊能と精神疾患(2)、外気発射の段階

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

まあ確かに、レアといえばレアなのかも知れませんね。逆にそれを、レアじゃない普通の出来事だと考えていた僕の方が、異常だったのかも知れませんけれど(笑)。

そうですか、『エースを狙え』の作者の方は、そっちの方向へ行ってしまうたんですね。残念なことです。因みに僕の友人の場合は、母親ですね。何でも母親がハマっていた民間宗教の教祖さんが、近年亡くなったと。その後釜に、何と自分の娘を据えようとしていたみたいですね。母親と一緒に宮崎の何たら神社への参拝だ伊勢の奥宮への滝行だとか言っていましたけれど。今から考えても、完全に母親のロボットでしたね。

先だって、ある心理療法に詳しい女の子と、その話になったのですが、彼女は、例えば、赤ちゃんがハイハイをしてお母さんから離れて行って、ふと振り返る、その時の母親の表情で、その子の一生が決まる、みたいな説を、読んだことがあるらしいですね。つまり、そこで嬉しそうな表情をする母親であれば、要するに我が子の自立を喜んでいるわけですから、そのような母親の子供であれば、精神病に至る可能性は少ない。

問題は、ここで悲しそうな表情をする母親がいる、ということですね。それは、我が子が自立することを快く思っていない、ということになります。子供はそれを、敏感に察知するわけです。そうすると、自分はお母さんから離れてはいけない、お母さんを悲しませてはいけない、と考える。これでその子は、自立が困難になります。当然そのような経験は、思い出すのが難しい領域へと、潜在化します。あるいは、抑圧されると言っても良いのかも知れませんけれど。そのような子供は、後々精神病を発症する可能性が高い、ということです。さもありなん、と思いましたね。

実はこれが、正にその友人に起こったことと似ていますね。完全にトランス状態になっていた時に現れてきたおじさんだったかおばさんだったかの「霊」が、母親に向かって、「この子をこんなにしたのは、お前のせいだ！」と怒鳴り散らしたらしいんですね。さすがの母親もこの時は怯えて、トランスから醒めた彼女を抱きしめて、「ごめんなー！」と叫んで泣いたとか(もちろん本人はその霊の言葉は、後になって聞いたらしいのですが)。ですからこの場合、おじさんあるいはおばさんの霊の存在を仮定する必要は、全くありませんね。それはまさに、本人の潜在意識の声が、別の人格の形を借りて、現れただけです。

しかしながら、喉元過ぎれば、というやつみたいでしたね。彼女は結婚にも失敗したのですが

、その相手も、親が勝手に決めたとか。その別れた理由も、首をかしげるようなものでした。まんまと彼女は再び、母親の元へと帰ってきたわけです(あるいは深読みすれば、そうなるように母親によって、最初から仕組まれていたのでしょうか)。

さらに不思議なことには、そういう話を延々とする割には、僕に対して、あんたは全く信用出来ない、みたいなことを、始終言っていたということですね。だったら何故、そんな信用出来ない人のところに、一日12時間近くその手の話で(12時間ですよ(笑))電話してくるんでしょうね。電話代の件で、母親にはかなり、怒られていたそうですけど(笑)。

僕は素直な人間なので、じゃあ信用出来ないんだったら、お互いに無理せずに、連絡取り合うのは止めよう、と言ったら、今度は泣いて怒るわけです。何故私の気持ちがわからないんだ、と。わからないからこそ、そうしようと言っているわけじゃないですか(笑)。

この点から考えても、彼女の中には、複数の人格が存在するわけですね。これでは霊障どころか、完全に解離性人格障害です。

実は、最後に会った日に、彼女はその前日僕が使った言葉を引き合いに出して、あなたは私を精神分裂病患者だと言った、と非難していましたね。でも僕は、話してる内容が支離滅裂だぞ、と言っただけなのです。それを彼女は、僕が自分を病人扱いしている、と取ったみたいですね。

それだけではありません。ある僕達に共通の知人がいるのですが、彼に彼女は、その前日の状況を、「話をしていたら、突然中原さんが烈火の如く怒り出して、私の話をまともに聞こうともせず、レストランから飛び出して行った」と話していたそうです。そうなさったのは、彼女の方なのですけれどもね(笑)。しかし逆に、それを聞いたその知人は、おかしいな、中原はそこまでカッコよくないのに、と思ったらしいです。さすがというか何というか(笑)。要するに、自己と他者の区別が、出来なくなっているわけですね。

それから数年経ちましたが、今はその人がどうなっているかは、全くわかりませんね。特に知りたくもないですし。録音機材も預けてあるのですが、回収に行く気にもなれません。第一、何をされるかわからないですからね(笑)。

そんなことがあったので、靈感を標榜する人に会ったら、尊敬どころか、警戒心を抱くようになってしまいましたね。でもその警戒心も、案外的外れではないのが、さらに悲しいことでして(笑)。

基本的にこの手の人達は、自意識過剰かつパラノイアックですから、友達がいないんですね。ですから似たようなメンタリティの人とだけしか、付き合えない。類は友を呼ぶ、というわけ

です。で、最初はものすごく、意気投合するんですね。私達は前世で、同じ聖者の元で修行していたのかも、みたいな。でも三ヶ月くらい経ったら、あいつは絶対に地獄に堕ちる、とお互いに非難し合うわけです(笑)。

ここら辺は、私はこの人と一緒になるために生まれてきたの、と言いつつ、さんざんおもちゃにされて数ヵ月後にはまんまと捨てられる女性と同じパターンですね(その手の方達も、数名知っていますが。当然僕はその余波を喰らって、ひどい目に合わされました(笑))。要するに、バランス感覚が乏しいんですね。余談ですが、自称アーティストの方の中にも、この手の方は多い。残念ながら(笑)。

もしかしたら彼女はもうすでに、『尊師』と呼ばれているかも知れない。兵庫近辺で、若手の気鋭の霊能者が現れた、という話が出たら、十分に気をつけて下さい(笑)。

霊能者叩きはこれくらいにして(これブログに書いたら、自宅に放火されますかね(笑))、気を発する段階の話ですが、今師匠の本が手元にないのでうろ覚えで申し訳ないのですが、気を発するには少なくとも、三段階あるそうです。

一つは手功、これは、手を使った気の放射です。まあこれは良くある、ありふれた段階ですね。

その上が目功、これは目です。つまり、気を目から放射するというわけですね。実際一指禅功では、目を鍛えるのをその主眼としています(言うまでもなく、内勁一指禅功ではなく、うちの流派の場合です)。

そして最後の段階、これは名前は忘れたのですが、全身から気を放射する、という段階ですね。恐らくこれは、全身を気化するという、さらに上の行とも関係があると思うのですがけれど、まあわかりやすく言えば、その人自体が『龍穴』になってしまうわけですね。

僕がその段階になったかどうかは僕の口からは言えないのですがけれど、もしかしたら、僕と練功していた福岡の精神科の女医さんが目の前で突然倒れたりしたのは、それなのかなと。この時僕は指一本触れていないし、彼女との距離は1メートル近くありましたからね。

実は数日前も、似たようなことがありましたね。赤坂のあるオフィスに行ったのですが、そのスタッフの女の子が不思議そうな顔をして、「中原さんのそばは気分がいい」と言い出しました。その時は、あーそう、で終わったのですが、その後の懇親会でも、彼女は僕のそばに来て

、同じことを言っています。そのうち真っ赤な顔をして、フラフラになっちゃいました。

あるいは電車に乗ると、僕の隣に座った人は、90%近くの確率で眠ってしまうとか。言うまでもなくこの時、僕は、気を出そう、などとは考えていません。勝手に出ているのです。多分こういうことではないかと思いますね。

ですから、意念でもって気を出す、というのは、そんなにハイレベルのことではないし、第一不必要なのです。あるいはその勝手に出て行く段階にまで、行を進めることが必要なわけですね。

そうすると、全身の冷えは完全に収まりますよ。取り敢えずTさんには、そこら辺まではマスターしていただくというのを目標に、セッションを進めましょうか(笑)。

それでは、お気をつけていらして下さい(笑)。

↑よろしければ、是非。

こういう噂が流れると。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

またスーパーから、緑茶とキノコが消えるんでしょうか。

「安価な食材によって乳がんを予防することができる可能性が出てくる」のは結構な話ですが、この写真のように、露天の地物を買って食べようという気には、どうしてもならないのですけど・・・。



↑よろしければ、是非。



このような人物は

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

是非お目にかかってみたいですね。

どこぞの国の、スピリチュアル系にハマって迷走飛行を延々と続けた挙句、自分の見ているものが霊なのか妄想なのかが判別不能になって、最終的に精神崩壊、みたいなひょうきんな人々よりは、よっぽど根性が入っていると思います。

東南アジアは、こういう精神文化が色濃く残っている場所が多いので、とても興味深いですね。

因みに私が先月訪ねたインドネシアにも、呪術はバリバリ残っています。マジシャン同士の、血で血を洗う(申し訳ないですけど、これ比喻ではないです)熾烈なバトルとか。お金のためだけではなく、呪いは一歩間違えると自分に返ってくる、というので、徹底的に本気でやるみたいですね。当然結末は、文字通りの凄惨な修羅場になるわけですが。あれに比べると日本のスピリチュアルなどは、本当にキュート。まさにロンリーなプチ病気の方向けの、子供のお遊戯ですね。

まあ死者が出ないだけ、マシかも知れませんがね。皆さんも東南アジアへ行かれる際は、十分に気をつけて下さい。

↑よろしければ、是非。

気のせいでしょうか

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

先だって友人と連れ立って久々に表参道に足を踏み入れたのですが、日曜日の夕刻にもかかわらず、心なしか以前と比べて、人通りが少ないような・・・。

ちょっと前なら、ミッドタウンや丸の内再開発の影響を受けた、一時的なもの、と考えられたのかも知れませんが、そのような状況は、とっくに過ぎているわけで。

もしかしてこれは、構造的なものなのかも？何だかその界限全体が、活気がないような気がするのは、僕だけなのでしょうか。

この不況の元で、東京という街の持つカラーが、少しずつ変わってきているのかも。まさに無意識的に・・・。

↑よろしければ、是非。



超人ですねこの方は

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

数年前からスキャンダルの嵐に見舞われ、長期間一体何をなさっているのか判らない状態が続いていましたが、復活コンサートの、しかも本公演ではなくチケット発売の段階で、そのケタ違いの実力を、見せ付けてくれましたね。

まさに、King of Pop。僕はアーティストとしての彼ではなく、実業家としての彼の方にいたく興味を持っていたのですが、それをまさに、再確認する思いです。

しかし、例の彼の外観そのものも、ウィキペディアの中では独立した項となっているというもの、またすごい・・・。

[マイケル・ジャクソンの外観](#)



↑よろしければ、是非。



再度延期だそうです

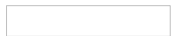
JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

興味を持ってちょっと調べてみると、このスペースシャトル、1984年から飛んでんですよ。

[ディスカバリー](#)

写真から見ても、だいぶガタが来てんじゃないかな、という感じがすけれども。この枯れ具合がいい、などと言えないのが、この手の乗り物のやっかいなところ。

ともかく、念には念を入れて、ミッションを成功させていただきたいものですね。



↑よろしければ、是非。



かかりますねー。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

はい、おっしゃる通りですよ。かかりますですよ。

私のような東京のど真ん中で、玄米と味噌汁しか食べない生活をしている人間にとっては、食費とかは全く問題はないのですけれど(「私、都内でこんな生活している人がいるなんて、想像もしていませんでした」と、あるダンサーに言われました)、厄介なのは、家賃ですね。収入の多くを持っていかれますから。

もっとも昨今の恐慌で、都内の土地の価格は、さらに下がりそうですけれどもね。知人の不動産屋さんに言わせると、まだまだ一年近くは、下がり続けるだろうと。そう言えばうちの近所にも、空店舗が目立つようになりましたね。都内では余計に、その傾向が顕著なのだとか。需給のアンバランスが拡大してきているようですね。個人的には、もっと下がりて欲しいけど(笑)。

もっとも、ちゃんと収入上げなよ、というお声が聞こえてきそうですけれども。はい、それもおっしゃる通りでございますよ。頑張りますですよ。

↑よろしければ、是非。

次回の選挙は・・・

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

なかなか面白くなりそうですね。

連日報道される記事を見ていると、予断を許さない状況が続いているようです。

自民党が息を吹き返すのか、民主党がこのまま政権奪取へ突き進むのか、それと共に昨今ですと、共産党の動きも見逃せないそうですね。下手なテレビドラマより、面白い。

いずれにせよ、このようなスキャンダルで政治の動きが左右されるのですから、平和ですよ、日本は。献金は取り敢えず基本、みたいな諸国より、よっぽどマシです。有難いことです。

というわけで皆さん、選挙に行きましょうね。



↑よろしければ、是非。



このお金 . . .

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

一体どこへ行くんでしょうね～。心底それは思います。

日本のODAも、一体どこへ消えたんでしょうね～。

いやはや、すごい国なのです。混迷する日本の政局など、可愛いものですよ。本当に。

↑よろしければ、是非。

トンでもない事件ですね

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

最近是不況の影響もあってか、高速バスが人気みたいですね。

運賃がJRや飛行機の半分以上というのは、正直嬉しい。私も郷里へ出張する時は、よく利用しています。その代わり、時間はかかりますけれど。インドネシアへ行くのよりも、かかります。さすが日本のチベット鳥取。

でも眠っている時に、神の声を聞いたという敬虔なる理由で隣の方に頭部を切断されるのは、嫌ですね。おまけに精神疾患のため責任能力がないとは、被害者もいたたまれないでしょう。

しかし、神の声が聞こえちゃう人達って、マジヤバイですね。今後は私も、十二分に注意することになります。文字通り、寝首かかれないように。

↑よろしければ、是非。 ☐

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

皆さんは、『ホテル・ルワンダ』という映画をご覧になったことが、おありでしょうか？

私がこの映画を見たのは、全くの偶然だったのですが、その内容は、私のアフリカに対する見方を、根本的に変えてしまうのに十分なものでした。

恐らく、陳腐なホラー映画より恐ろしいです。多分その恐ろしさは、ホラー映画のようにある種現実とは乖離した世界が描かれているのとは違って、それが実際にルワンダという国で起きた(あるいは現在も起きている)出来事をベースにしているということ、さらには一步間違えれば、それは、私達の周辺でも容易に起こりうる出来事かも知れない、といった無意識的な不安から来ているのではないか、と思います。

実はこのような問題の背景にあるのは、正に経済問題なのですね。国が貧しい、政府も経済もともに機能しない、当然教育は望むべくもありません。教育がまともでないから、政治状況も悪化する。そうなると教育も・・・。文字通り負のスパイラルですね。

そのような世界で育った人々は、容易にこのような迷信を信じてしまいます。そこで起こる集団パラノイア現象は、実に凄惨な形を取ります。

本文の記事をお読み頂くだけではなく、こちらの映画も機会があれば、是非一度、ご覧になられることを、お勧め致します。人間という生き物が、いかに恐ろしい動物であるか、そしてそれに対抗しうる唯一の手段が、知性及びその普及、即ち教育に他ならないということが、容易にお判り頂けるのではないかと・・・。

[ホテル・ルワンダ](#)



↑ よろしければ、是非。

気をつけなければいけないですね

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

一応私も利用しているのですけれど、こわいですね。

でも、「掲載された写真に記載された祖父やペットの名前にしても、ハッカーたちはそこから、オンライン上のアカウントにアクセスする際の「パスワードを忘れた場合」に聞かれる質問の答えのヒントを手に入れることができる」ってのはすごいですね。

そう言えばミルトン・エリクソンの臨床例に、クライアントがひた隠しにしている関係者の名前を、彼が突然言い当てたり、というのがありましたね。彼によると、その名前に関係する言語の発音の仕方(子音とか母音とか)が、微妙に変わるらしいです。それを読み取るエリクソンもすごいな、と思いますけれど。このハッカーもそのような人種の一つかも知れないですね。

因みにWikipediaによると、ハッカー(hacker)とは、「コンピュータや電気回路一般について常人より深い技術的知識を持ち、その知識を利用して技術的な課題に対して最小限の手間で最大の効果を生み出す人々のこと」だそうで、「情報の破壊や不当な複製、アクセス制御の突破など、不正な利用を行うハッカーもときに対する総称」であるクラッカー(cracker、kracker)とは、区別されるみたいです。

前者みたいなのはカッコいいかな、と思いますけどね。正に気功家の鏡(笑)。

↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

非常にユニークな技術ですね。

昔のSF映画『Back To The Future』で、未来から帰ってきたマッド・プロフェッサー・ドクが、「未来では、特殊な燃料なんか要らないんだ」と言ってエンジンにゴミを放り込む、という印象的なシーンがありますが、本当に未来では、そうなるのかも知れませんね(我ながら、変なシーンばかり印象に残ってしまうのだな、と思いますけれど)。

アイディア次第でこのような技術は、まだまだ進歩しそうですね。もとい、是非進歩してほしい分野だと思います。

↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

その後練功の方は、いかがでしょうか。

どうやら練功というものは、その方の今までの筋肉の使い方や生活態度などに応じて、かなり個人差があるようでして、こちらにお出でになって、いきなりヴィヴィッドな経験をなさる方もいらっしゃる、あまりよくわからない、とおっしゃる方もいらっしゃいます。

しかしまあこれは、どの分野でも同じかも知れませんがね。きちんとした指導を受けたからといって、誰でもがイチローになれるわけではない(笑)。その影には、絶え間ない努力が必要です。努力というか、根気ですね。

その際にもお話したことですが、私は一指禅功と出会って、体調はおろか世界に対する認識そのものが、根本的に変化してしまいました。『老子』や『莊子』、あるいは『ドン・ファン・シリーズ』などに描かれている世界は、単なる空想の世界ではないのだな、と。それほどこの技法との出会いは、衝撃的でした。また効果そのものに関してもそうですね。現に親父もお袋も、再発もせず、まだ生きている(笑)。

とは申せ技法そのものは、誰でも簡単に取り組めるものですので、どうか諦めずに、お試しただけたらと存じます。

慣れてくれば胃腸の調子も改善されますので、アイスなども気軽にお試しいただけると思います(笑)。

さて、Hさんとおっしゃる方の、興味深いお話をお聞かせいただきまして、真に有難うございました。

思うのですが、やはり私は、そういう方とは全然違う道を辿ってきたのかも知れませんね。

元々気功に興味を持ったのは、武術方面からでした。私にとっては、気を使って除霊するとかいったことよりも、気を発して相手の内臓をぐちゃぐちゃにする、といった類のこのことの方に、興味を抱いていました。そんなことが本当に出来るのかと。

もしかしたらそういう無意識的な思いが、私にチベットへ行くことを断念させていたのかも知れない、とも思います。チベット仏教というものは、どうしても“仏教”というくらいですから、『悟り』など、メンタルな方に力点を置かれがちですからね(もっとも、そうではないものもあるようですけれど。拙火功を応用して、物体に火をつける、とかもありますけれど、それはかなり、お目にかかる可能性が低い)。

前回お会いした時にお話したかどうかは忘れたのですが、気功にしても、師匠の門を叩くまでに、私は一度、他の技法に手を出しているのですね。

それは『肥田式強健術』という、日本で作られた技法です。

もしご興味がおありであれば、一度お調べになられるのも一興かも知れませんが、これを作った肥田春充という人物は、明治から昭和にかけて生きていた、実在の人物です。写真も残っています。子供の頃非常に病弱だったのですが、ある事件がきっかけでそのような自分を恥じ、肉体改造に取り組み始めます。その結果、自分の体を強健にすることに成功したのですが(そのメソッドは、旧日本軍の軍事教練にも、取り入れられています)、その過程で、異常な能力を獲得し始めます。伝わっているものだけでも、高速数理計算、読心、未来予知、果ては空中浮揚だとか海を割ったとかいう話まで、伝わっています。

しかし彼が言うのは、これは全然異常ではない、ということですね。正確に『正中心』(彼独特の“丹田”の概念です)の鍛錬を行えば、誰でも必ず獲得できる、当たり前な能力だ、と彼は常々主張し、その力学的かつ生物学的な説明まで試みています。

しかし、その努力を理解する人はその周囲には誰もおらず、彼は孤独な最期を遂げます(彼は、来るべき日本の未来を見て、絶望したのだと伝えられています)。

私は彼の、自分が獲得した能力を、あくまで科学的に説明しようと試み続けたその姿勢に、非常に共感したのですね。

その肥田式強健術が紹介されている文献を読んで独習してみたり、都内で実際に肥田式強健術を教えている教室に行ったりもしましたが、全く満足の出来る内容のものではありませんでした。途方にくれた私は、一旦回り道かも知れないけれど、中国の気功から入ったら、肥田式強健術の謎が解けるかも知れない、と考えました。そして気功を手がけるようになったのです。

そういう意味では、気功は私の場合、目的ではなく、単なる手段だったのです。

ですから私が気功を、メンタルな領域から完全に切り離して論じようとするのは、完全に肥田春充の影響ですね。

そのような過程を経てきたものですから、私は基本的に、霊能と呼ばれるものには、さほど興味はないのです。周囲の方が私に抱いているイメージとは、全く逆かも知れませんが、もし興味があったとしても、それは全て、ミルトン・エリクソンの“症例”で、完全に説明できる、と考えています。

最近ある集まりで、某大学の理工系の名誉教授や、助教授とお話する機会がありました。彼らは流体力学や複雑系、カオス理論の研究者なのですが、私にとっては彼らの話の方が、靈感系の人達の話すことよりも、ずっと勉強になります。

彼らは基本的に、オカルトめいた話を信じようとはしません。だからこそこちらも、本気になって議論しなければならない。私が、気は電磁波の一形態で、いわゆる仏教の『悟り』というものも、世界を数学的にパターン化して観察しようとする意志そのものである、という話をしたら、衝撃だったみたいです。当然その場は、すぐに練功会場になりました(笑)。名誉教授の方は、私の手から熱を感じる程度で終わりましたが、助教授の方は、気を一気に背中に通すくらいまで行かれましたね。こういうものはやはり存在するのかと、かなり興味深そうにされてましたね。

今後その方達との交流が、どのような展開になるのかはわかりませんが、私としてはとてもやりがいのある作業だと考えていますね。

というわけで、気功におけるTさんの今後の展開を、楽しみにさせていただいております。

それと、これはお願いなのですが、Tさんにお出したメールをいくつか、『ある精神科の先生との対話』と同じシリーズで、ブログの方へと転載させていただきませんか？

私はどうも、不特定多数の方に向けて書き物をする、というのが元来不得手で、いろいろなアイデアに関して自分の意見を述べるというのは、たいていメールのお返事の中なのです。

いうまでもなく、Tさんからいただいたメールは公開いたしませんし、こちらからのメールにある個人名は、著名人を除いて、全て伏せます。今後の読者の皆様への有益(かどうかは心許ないのですが)な情報提供となるかも知れませんので、何卒ご理解ご協力を賜れば幸いに存じます。

それでは暑い日々が続きますが、くれぐれもご自愛下さいませ。

有難うございました。敬具

↑よろしければ、是非。

何だかわかるような気がします・・・

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今回のインドネシア行きで、如実に感じたことの一つ。それは、よく日本人は世界一長生きする民族だと言われますが、それは逆ではないか、つまり、他の民族の方が、早死にしやすいだけなのではないか、ということです。

例えばインドネシアの料理は、文字通りかなり「濃い」です。朝から晩まで揚げ物です。僕は二日目で、早速体調がおかしくなりました。もっとも普段の僕は、一日玄米一合と味噌汁二杯だけという禅僧以上の生活をしているので、余計だったかも知れませんが(因みにホストの友人によると、僕は陰で「あいつはかなりの貧乏に違いない。あんなに痩せているのだから」と言われていたそうです。はい、おっしゃる通りでございますよ(笑))。

数年前に行ったハバロフスクもそうでしたね。冬になると凍りつくこの地においては、その時期大してすることもないので、豚の油(ナマです)をサカナにウォッカをがぶ飲みして過ごすそうです。場所はサウナ。へべれけに酔っ払って全裸で雪に突っ込むのが粋なのだとか。因みにご当地の平均寿命は、50歳。そりゃそうでしょう。

諸外国と日本の食べ物の最も大きな差異は、油脂の有無ですね。西洋化が進んだと言いつつ日本食において、基本的に油脂が占める割合は低い。味噌汁、漬物、佃煮、あるいは和菓子。いずれも油脂が含まれる率は、極めて低い。飲み会のシメのお茶漬け(因みにホストのお父さんは、この「お茶漬け」の意味が、全く理解出来ないそうです。お父さん、勇気を出して、是非お試しを)。そのような食生活が、日本人の寿命に多大に影響しているであろうことは、容易に想像がつきます。今回それを、痛いほど感じるようになりました。

薬膳だとかに凝ったり、効果不肖のサプリを採るよりは、日本食。その方が簡単で、確実です。

次回乗り込む時は、自己防衛のために大量の日本食を持ち込もうと考えている今日この頃・・・。

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

結構なことではないか、と個人的には思うのですが。

実際環境問題に対する取り組みに、一番積極的に見えて積極ではないのは、電力会社ですからね。産業と環境。この究極の選択とも言うべき二項対立をどう解消するか。あまり乗る気ではない電力会社に対して、国がある程度介入せざるを得ないのは、現時点ではある意味、避けられないのではないかと。

でも太陽光は、使いこなせば、とても便利ですけどね。もっともっと研究が進んでほしい分野だと思います。

↑よろしければ、是非。

何だか私のいない間に . . .

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

なかなかファンキーな事態が、政界で起こったようですね。

この方は以前からタカ派的なスタンスで有名でしたが、タカどころかトラになって大臣職を追われてしまっては、ミもフタもありませんね。

もっとも今の私は、このような珍事で大臣を引き摺り下ろす、というのは、ある意味健全なる民主主義ないしはシビリアン・コントロールの賜物かな、と好意的に見てしまいますけれども。いやはやインドネシアを目の当たりにすれば、このような姿は、まことに健康的に見えてしまいます。

「あ～日本は、いい国だな～」(from『スネークマン・ショー』)

↑よろしければ、是非。



何とか無事に、帰還致しました

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

私は基本的に、飛行機が嫌いです。大っ嫌いです。

その理由はと言えば、その不条理感ですね。飛行機に乗っているのは、不条理な気がしてならないのです。もっとも人様に言わせれば、不条理感で飛行機が好きだの嫌いだのと言っているあんたこそ、やはり変わっている、とでもなりそうですが。

そんなわけで私は飛行機の中では一瞬たりとも心休まらず、ずっと南無釈迦牟尼南無大師遍照金剛、果てはノウマクサンマンダバサラダンカンオンマニパドメフムとありったけの真言を唱えつつ過ごすことになるのですが、そんな私に諸仏諸神は慈悲を与えたもうたのか、何とか無事に、成田に到着することが出来ました。

しかしその成田空港では、その正に数時間前に、大変な事故が起こっていたようですね。確かに揺れてはいましたけれど、そんなに命の危険を感じてフリーズしなければならないほどではなかったのは、幸いでした。

まあ今後も出来れば、あまり乗りたくはないシロモノです。でもキャセイは快適でした。お勧めです(笑)。

お怪我をされた方々の一刻も早いご回復を、心よりお祈り申し上げます。

↑よろしければ、是非。

「テクノロジーは意識に迫れるか？」のコメントに関するお返事



[イノセンス アブソリュート・エディション \[Blu-ray\]](#)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

謹啓 Minr Kamti様

コメントが上手く表示出来ませんので、こちらにて。多分、長すぎたせいだと思います(笑)。

個展、大盛況だったみたいで、良かったですね。おめでとうございます。あの時は長々と居座ってしまって、申し訳ございませんでした(笑)。

さて、ご指摘のあった映画とは、お察しの通り『攻殻機動隊』のことです。ただしより正確に申し上げますと、押井守さんが監督された作品の方なのですけれどもね。

この一連の作品が、例の『マトリックス』のアイディアの源泉になったというエピソードから興味を持って観たのですが、僕にとっては『マトリックス』以上のインパクトがあったかも知れませんね。というのは以前の記事でも触れましたけれど、この映画は最終的に、人間vs機械というありきたりの二元論に回帰してしまっているからです。それは所詮、神vs悪魔という数千年にも渡るルーティン・ワークの延長に過ぎない。

しかし、押井監督の作品は、全く違う問題を提起しているように思います。

一つは、私とは何か、そしてその私が認識している世界とは何か、という問題ですね。その寄って立つ基盤は、そもそも物凄く不安定なものに過ぎないのではないかと、というトーンで貫かれている。それは謎めいた台詞もそうだし、第一物語自体もそうですね。メビウスの輪のように、表が裏になり、それがまた表になる、策略の上に策略があって、それがまた別の策略の一部になっている、みたいな。結局一回観ただけではさっぱりわけがわからないから、数回観る羽目になる。そうやってハマってしまう(笑)。

この認識に関する問題は、ユングの「集合無意識論」と似ているのかも知れない。ユングは個人を超えた領域にある「集合無意識」というものの存在を仮定しました。しかし、ここに困難が生じます。ではそこから派生する我々の意識とは、一体何なのか。草薙素子が葛藤を覚えていたのは、正に同じ問題なのではないでしょうか。自分の体は政府の所有物で、その記憶は外部接続された情報に過ぎない。ではそんなことを考えている私のゴーストとは一体何なのか。これは仏教の、中観派と呼ばれる思想に極めて似ていると思います。

さらに言えばこの問題は、現在生きている私達にとって、物凄く身近な問題かも知れませんね。もちろん無意識的にですが(笑)。私達はユニクロを着て、マクドナルドを食べて、J-POPを聴いている。そこには個性というものは、特に必要ありません。人と同じことをしていても、問題はない。むしろそうではない人達は、「逸脱系」と呼ばれる(笑)。私達は文字通り、集合無意識「を」生きているわけです。それがうまく機能しているうちは、誰も気に止めない。しかしながら、それで処理出来ない事態は、必ず生じる。例えば病気ですね。ある時不治の病にかかった。周りの人は気にかけてくれるけれど、だからといって彼らは身代わりになってくれるわけでもない。その時人は初めて、集合無意識から離れて、自分自身に向かい合うことになります。逆に、その地点から思考しろ、というのが、仏教の視点です。一応作中には、「孤独に歩め。悪をなさず、求めるところは少なく。林の中の象のように」という、自己修練を重んずる小乗仏教の経典である阿含経の一文が挿入されていますが、物語全体にはむしろ、大乘仏教的なニュアンスを感じる。

しかしだからといって過剰なまでの仏教臭さが、この映画に観られるわけでもない。監督ならば笑い出しそうですね(笑)。だとすれば、なぜ彼がこのような思想に至ったのか、という経緯は、私としては非常に興味がありますし、また社会現象的にも、このような作品にポピュラリティを与えているのは、そのような人々の無意識的な不安なのかも知れない、と思うと、それも大変興味深いですね。

そしてもう一つあります。これはむしろ道教等の神秘学的な発想ですね。最終的に草薙素子は「人形遣い」と融合することで、ネットの中に「拡散」していきます。そして二作目のバトラーの危機に際して、彼を襲うアンドロイドに「ハッキング」して現れる。もちろん姿は違うわけですが。

実はこのような行動は、古今東西の神秘学で「不老不死」を獲得したと言われる人物の、行動パターンそのものです。

このことは、もしかしたらある潜在的な意識レベルにおいては、そのように意識の「外部化」を

図ることが可能なのではないか、それを可能にした人々が、古来より「仙人」と呼ばれてきた人々なのではないか、ということを想像させますね。そのような人達は、肉体の限界を超えた領域に住んでいます。肉体は必要ないわけです。そして、我々の世界そのものにも、自由に介入することも出来ます。肉体に「ハッキング」を行うことで。それが本当の「不老不死」という状態なのではないか、ということを想像させます。

実際、死者を生き返らせて話をする、という類のことは、原理的に可能です。それはある種の催眠状態で、物が生じたり消えたりするのと同じ、ごく当たり前の心理現象に過ぎません。私は「不老不死」とはこのことなのかも、と考えていたのですが、しかしこのことと前者とは、明らかに違いますね。

例えば、幽体離脱と呼ばれる現象がありますね。しかしこの現象の問題は、それを自覚する側の人間の身体がまだ残っている、ということにあります。つまり、意識は肉体に隷属しているわけで、両者が独立しているかどうかはわからない。肉体が滅びた時、それを語るべき意識も、同時に消滅するわけですからね。それは情報と、パソコンの関係に似ているのかも知れない。パソコン自体が壊れると、その中に入っている情報そのものを観ることは出来ない。その意味で考えると、それは単なるイマジネーションに過ぎない、と言われても、幽体離脱を主張する人には、反論する方法がないわけです。

もし幽体離脱を主張するのであれば、それは、草薙素子のような存在である必要がある。つまり、意識あるいは情報が、一人歩きをする必要があるわけです。それは、コンピュータ・ウィルスのような存在かも知れない。何かの拍子にパソコンに入り込むことで、パソコンそのものを支配して、また去っていく、みたいな。アンチウィルスソフトで捕獲しても無駄。それは単なる、ヴァリエーションの一つに過ぎないのだから。そのような仙人の伝説は、古代中国に限らず、たくさんありますね。

そのような存在は、果たして可能なのでしょうか？

ただしこちら側としては、やはりそれらを単なるイマジネーションと、どのように区別するのか、といった問題が、相変わらず残されていますけれどもね。実際私はこうやってコンピュータのキーボードを叩いているわけですが、このキーボードが存在するのかしないのかは、別に量子力学などを持ち出さなくても、心理学的な意味でも確認することが出来ないわけですから。そのような存在が、外部に存在するのか、やはり内部に存在するのかは、確認のしようがない。

第一それ以前の問題として、馬鹿馬鹿しい、単なるマンガのフィクションじゃないか、何を本気になって考えているのだ、と言われてしまえば、それまでですけれどもね(笑)。

これらの問題に関しては、また稿を改めて論じたいと思っています。

ところで、臼木さんが2月14日から23日まで、金井画廊で、春の絵衣展をなさいます。またギャラリー銀座一丁目で21日午後3時より、電子楽器によるパフォーマンスがあるみたいです(こちらは例の富岡さんとのコラボみたいですけれども)。良かったらご一緒しませんか？(笑)

というわけで、ますますのご活躍を祈念申し上げます！

政治家は沈黙を、私語はパフォーマンスを低下させる

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

これはむしろゴルファーよりも、政治家が耳を傾けるべき事例ではないでしょうか。

私達は子供の頃学校で、「人の話を聞く時は静かにしなさい」と教わりました。当たり前のことです。しかし、それを一番実行していない人種は、政治家でしょう。それは国会中継を見れば、一目瞭然です。

パフォーマンス以前の話です。恥ずかしいとは、思わないのでしょうかね。

もっともその「恥ずかしい」という形でのフィードバックに根本的に無関心で、自分のしゃべりたいことを一方的に話すこと「だけ」にしか興味のない人達だけが、政治家になるのでしょうかけれども。あるいは、そういう親玉がいないと何も出来ないチルドレンとか。

少しは、まともに働いて下さい。

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

一般の方々の一つのご意見としてならわからなくもありませんが、環境相が言うのはマズイかも知れませんか。実際我々は、電気なしでは生きることが出来ない世界に住んでしまっているわけだし。

この問題に関しては、かの大槻教授が面白い説を自著で展開されていましたね。いわく、民間で省エネにやっきになってみたところで、その効果はタカが知れている、一番簡単で確実なのは電力会社が、送ってくる電圧をわずかに下げることだと。電圧を下げたところで、電気用品は正常に動く。しかしながらその効果は絶大だと。ではなぜそれをしないのか。それは電力会社が儲かなくなるからだと(『怪奇現象の正体ープラズマの謎』)。

早稲田大学名誉教授である彼が「科学的視点から」主張しているにもかかわらず、あまりこの種の議論が聞けないのは、一体何故なのでしょう。とても不思議なのですからね。どなたかこの議論の顛末をご存知の方、教えて下さい。

↑よろしければ、是非。

お知らせ

謹啓 いつもご利用いただきまして、真に有難うございます。

さて、今週末2月14日より20日まで、インドネシアにおけるヨガ・インストラクターの方々との合同勉強会ならびに交流会参加のため、東京の事務所を一時的に、お休みとさせていただきます(私の活動も、図らずもワールドワイドになってしまったものです・・・)。

また帰国後、22日より、地方へ出張がそれに続きますので、首都圏近郊の皆様には多大なるご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご理解ご協力をお願い申し上げます。

それでは寒い日々がまだ続きますが、くれぐれもご自愛下さいませ。

敬具

やわらぎ気功クリニック東京

中原勇一

大胆な力技ですね

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

さすが中国、やることが派手です。

ところでつい数日前の同じAFP通信には、「中国・四川大地震はダムが原因の可能性、科学者らが指摘」という記事が載っていました(<http://www.afpbb.com/article/disaster-accidents-crime/disaster/2568512/3758354>)。この手の地震は「ダム誘発地震」としてよく知られていて、実際に震源の至近距離に、巨大なダムが発生の数年前に出来たとか。言うまでもなく、この説の支持派と否定派が鋭く対立しているそうですが。

「雲の発生を化学的に促す降雨剤」ですか。結構なことです。あとあとの付近一帯は、どうなるんでしょうね。

※参照

<http://wiredvision.jp/news/200902/2009020922.html>



↑よろしければ、是非。



いい度胸してますね

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

なるほど、学校在学中から10万ドルとは、いい度胸してるじゃないですか。

でも、それくらいのギラギラさは、この家業ではむしろ、重要かも知れないですね。まあ、「値崩れを防ぐために自分たちの作品を買っている」ってのは、さすがに論外なんでしょうけれど。

私も今後は、見習わなければ。(ノ∀`)

↑よろしければ、是非。



お試しになりますか？

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

犬だけかと思ったら、ついに人間様のご登場ですか。

発想は理解出来なくもありませんが、知らぬ間に電脳ハックされて、突然持ち主を襲う、なんてことはないんですかね。

すみません、最近例の映画にハマっているもので・・・。(ノ∀`)

↑よろしければ、是非。

☐

テクノロジーは意識に迫れるか？

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昔、かのダライ・ラマと科学者が議論した内容を記した『徹底討議：心と生命～「心の諸科学」をめぐるダライ・ラマとの対話』という本がありました。

認知科学、分子生物学など、どの分野の研究者の発言もなかなか面白かったのですが、最も興味深かったのは、コンピュータ・プログラミングから見た意識論ですね。コンピュータにかかわればかかわるほど、記憶とは何か、学習とは何か、考えるとは何か、という、人間の意識現象そのものにまつわる命題に、踏み込まざるを得ない。ありきたりの心理学をはるかに凌駕したショッキングな思索が、そこには展開されていたように思います。因みに、私がコンピュータやインターネットに興味を持ったのは、この本がきっかけでした。どうせ私は、マハリシからビートルズに入るような人間ですからね(笑)。

いずれ私達の脳も電脳化されて、首の後ろのプラグから情報の入出力をするようになるのかな～。そうなると私達は、改めて自分自身に問いかけざるを得ないかも知れませんね。「私とは一体誰なのか」と。

もしかしたらそれは、様々な情報が多次元的に交差するある特定の広がりを持った領域に現れる、「現象」に過ぎないのかも知れませんね。まるで渦のような。ちょっと押井ってみました(笑)。

↑よろしければ、是非。

After us the deluge (私達の後には洪水)

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

日本で言うところの、「後は野となれ山となれ」ですか。あるいは「暖簾に腕押し」の果ての開き直りとか。

気持ちはわからなくもありませんが、絶滅を前提としたかのような行動は、非常にいたたまれないものがありますが・・・。

「転んでも只では起きぬ」。げに地球にとって最も厄介な生命体は、人間でありました・・・。

↑よろしければ、是非。

☐

ギョーザどころではないですね

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

以前少し触れたことですが、私の友人の某社中国駐在員の話によると、中国の市場に売られている野菜などは恐ろしいほどの農薬まみれで、生で食べたら即死するとか。

ですから彼らは、必ず火を通して調理するそうですが、ある意味それは、焼け石に水という奴かも知れないですね。そんな彼らに「君らこんなもん食べてたら、長生き出来へんのちゃうか？」と尋ねたら、「それは覚悟している」との返事だったとか。

価格が数倍近いにもかかわらず、現地で日本の食品が飛ぶように売れるというのは、こういう事情があるからみたいですね。

かの国のことですから、この数字は、「確認出来るものだけで」、という条件をつけなければいけないのかも知れませんね。そうではない事例を加味すると、一体どうなるのでしょうか。

ベトナム戦争の枯葉剤に近い惨劇が、地方の農村で起こっていたりして・・・。恐ろしい話です。

↑よろしければ、是非。

前記事の補足です。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

こっちの方が、より詳しいですね。

写真が何ともいたたまれない・・・。



↑よろしければ、是非。

微笑ましい光景ですね

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

私が外国へ行くと必ずチェックしてしまうのは、動物たちです。とは言っても、現地の動物園に行くのではありません。街中で何気なく見かける動物たち。彼らは、そこでしか見られない建物や物産以上に、その国の特性を現しているように、私には思われる時があるからです。

例えばバリ島に行った時に、私が先ず驚いたのは、犬の多さです。どこに行っても犬がいます。しかも、のそのそ歩いているんですね。クラクションが後ろでパーパー鳴っていても、特に気にする風ではありません。日本では犬はつながれていてとても窮屈そうですが、あそこではそんなことはないみたいですね。

一番驚いたのは、バンコクへ行った時です。コンビニで飲み物を買って外へ出ると、何やら暗闇でもぞもぞ動いている。一瞬ドキッとしましたが、よくよく見てみるとそこにいたのは、小僧ならぬ、小象でした……。普通に犬を散歩させるのと同じ感覚で、象を散歩させていたみたいです。日本ではまず見られない光景ですね。

そういう動物たちを眺めるのは、とても面白いものです。

ニューデリーではサル数千匹が暮らしているそうですが、こういうのも大陸系の大らかさの証なのでしょうか……。

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

私の卒業した大学は山手の方にあつたものですから、イノシシはよく見かけましたね。一度屋外で昼食を取っている時に、家族連れも見かけましたけれど。ひょこひょこ歩く彼らの姿が面白かったものですから、私もしばらくひょこひょこ尾行を続けてみたというのは、今となつては懐かしい思い出です。

まあそれが、「自然とのつながりを必要と感じている」からかどうかはわかりませんが、ユーモラスであることには、異論はありませんね(『狩猟組合のある男性は、人気の秘密について「鳥やその他の小動物を見るより、イノシシを見る方がはるかにおもしろいからではないか」と分析している』とありますけれど、これって全然分析になっていないのではないかと・・・)。

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

私も、ゲイツ氏の意見に賛同しますね。

以前にも触れたことですが、私は、今後は経済の枠組み自体が変化するのではないかと考えています。

わかりやすく言えば、異常が常態化することです。するとどうなるのでしょうか？そうすると逆に誰も、それを異常だとは感じなくなる。いわゆる「慣れ」ですね。

その時初めて、人間の認識に、根本的な変化が起こるのではないかと、私はそう思います。

その一端を担うのが、彼の指摘するようにテクノロジーであることは、ほぼ間違いないと思います。しかもそれは、単にマテリアルなものだけではないと思います。その一つのキーワードは、「リサイクル」なのではないでしょうか。リサイクルは、モノだけではできないですからね。加えて必要なのは、知恵です。

その来るべき時に備えて、知恵を磨くことと致しましょう。

↑よろしければ、是非。



偉大なる警察官または俳優誕生の瞬間とか

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ある青年が、物陰から様子を伺っています。

彼は、この世界的なハリウッドのスタジオに忍び込もうと考えていました。しかしともにアプローチしたのでは、門前払いを喰らうのは、眼に見えています。何とかして入り込む方法はないだろうか、彼はずっとそれを物陰から、伺っていたのです。

すると彼は、そこに入る人達の中に、身分証明証を提示せずに「手を上げるだけで」入館している人達がいることに気がつきました。試しに彼もやってみると、まんまと入館に成功。それ以来彼はその方法を使って、難なくスタジオに出入りが出来るようになりました。

しばらくすると周囲の人達は、彼が完全な部外者であることに全く気付かないまま、彼に専用のデスクも与えて、仕事をさせていました。

バレた時彼は、当然大目玉を喰らいました。しかしそのような危険を冒してまで映画の仕事がしたい、という彼の熱意を買って、そのまま仕事を続けさせることにしました。

その青年の名前は、スティーヴン・スピルバーグと言いました。

今回の件も、「深刻な保安上の問題」を抱えているとしても、僕としてはこの少年の行く末に、とても興味がありますね(笑)。

↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

これはフィンランドに限らず、日本の企業も言いたくてたまらない言葉でしょう。

思うのですが、今後は、経済の意味自体が根本的に転換するのではないか、という気がしますね。今までの経済学ではまさに、「消費は美德」でした。つまり、「健全な」消費者が商品消費する、といった「健康的な姿」を暗黙の前提として、理論全体が組み立てられていたわけです。

しかしエコロジーや地球温暖化の問題の出現が、その「健康的な姿」に冷や水を浴びせました。そのライフスタイルを継続すれば、私達の生存自体が危ない。そこへ持ってきて今回の、地球的規模の金融危機。

さらに言えば、もっと根本的な、それこそ無意識的な問題も、考えられるかも知れません。

実際私達のうちのほとんどは、裕福過ぎるほど裕福なのです(もちろん、例外はありますが)。私達の身の回りに、ないものはありません。どんなものだって、簡単に手に入ります。かつてのローマ皇帝以上に、便利で、裕福な世界に住んでいることは、ほぼ間違いないでしょう。だとすれば、それ以上モノを欲すること自体が、難しくなる。私達は満腹しています。そうすると、「もっともっと食べて下さいよ!」という企業の切望に答えること自体が、難しくなります。いくら企業が危機的な状況にあらうが、その従業員ではない限り、私達には特に、考える必要はない。要らないものは、要らない。

つまり、「経済発展＝モノの生産＝モノの消費＝善」という経済学の暗黙の前提自体が崩壊する時代に入ってきたのではないかと、私はそう思います。その古典派経済学的な構造を抜け出た発想が出来るかどうか、今後私達に課せられた課題のような気がします。

↑よろしければ、是非。

Tさんとの対話(13)～霊能と精神疾患、気功と音楽

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

猫にマタタビ、霊能者に薬、でしょうか(笑)。実際問題として、どうしてそうになってしまうのか、非常に僕も不思議ですね。

これは、霊能者関係だけではないですね。僕は武蔵野市にある音楽療法グループにオブザーバーとして参加しているのですが、そこで聞いた話ですと、音楽療法をやる人の中には、精神安定剤を常用している人が少なくないらしい。そんな人が「療法」を名乗っているのですから、おかしいものです。

僕が前ツルんでいた(付き合っていた、とは言えないのが奇怪といえば奇怪な関係なのですけど(笑))女性もそうでしたね。一度ひどい憑霊現象があったそうです。その様子を事細かに教えてくれるのですが、よく彼女と一緒にいたかつての大学時代であれば、「すごいなー」と反応していたであろう僕も、精神療法の現場を経験した後では、それは十分に「発狂」なわけですね。それを家族中で「神が降りた」とかやっているわけですから、まあ言わば、ご一家でイっちゃってらっしゃるわけです。そういうひょうきんな家族愛もあるわけで(笑)。

結局僕がHPやブログで、気功をメンタルな領域から切り離して論じようとしているのは、そのような人達と一緒にされたくないからなのですね。第一気功のトレーニングには、メンタルな要素はおおよそ必要ではないですし。もっとも、ちょっと考えただけで気が発せられるような上級者になれば(あるいは、そんな現象が本当に存在すれば)、話は別ですが。

でもいくらそう書いてみても、取る人は「こいつも同じ穴のムジナだ」と取るでしょうしね。それで僕も、友人を多く失いましたし(笑)。

もっと言えば、師匠もそうかも知れないですね。「あんたは『天目』が開いているが、それは危険なパターンだ」と初学者の頃言われました。『天目』が開いているからこそ、そういう魔境に入りやすい奴だ、と思われたんじゃないでしょうか(笑)。だからこそ僕は、その『天目』を使わずにすむように、トレーニングを工夫してきたわけですね(それでも、話す前から相手の症状が読めたり、あるいは過去や未来が見えたり、というのは、避けられないことなのですが。しかしそれは単純に、エリクソニアン的なパターン解析の産物です。逆に多くの人は、そのパターンの中でしか生きられないのですね)。

まあそういう意味では、僕は両方の世界の間中に属している、と言えなくもないですね。ある

いは中沢新一氏的な言い方をすれば、「境界膜そのもの」というか。だから僕は、薬は使ったことがないですよ。使う必要なんて、最初からありませんし。もっとも個人的な趣味として、LSDは面白そうかな、とは思うんですけど、試したことはないです。ビートルズ・フリークですからね。"Lucy in the Sky with Diamonds"とか"It's All Too Much"みたいな世界を、是非一度体験してみたい(笑)。

気功をするようになって僕の音楽活動に変化があったか、というご質問ですが、大いにあると思いますね。最も大きな変化は、楽器を弾かなくなったことです(笑)。というのはそれをやると、筋肉が緊張しますからね。あれが非常に不快なのです。ピアノもそうですね。ピアノを弾いていると、足が冷えて、経絡がだんだんおかしくなってくるのがわかります。ですから長時間引き続けるのは無理です。気持ちが悪いので(笑)。まあピアノやパーカッションは音楽療法の仕事で使うので仕方がないのですが、ギターは数年近く、まともに弾いたことはないですね。大学時代はギター部だったくせして。そういうのは完全に、太古の話です(笑)。

そのような次第で、最近作曲する時は、PCオンリーです。坐功の姿勢で出来ますからね(笑)。でもこれも、完全ではないです。やっているとはやり、全身が冷えてくる。これは恐らく、全身の血液が脳に集中するからだと思います。逆に考えれば音楽というものは、かなり脳に負担をかけるものだと思いますね(もちろんこれは、作る側の話ですけど)。ですから作曲した後に坐功をすると、身体の変化がはっきりとわかりますね。全身が喜んでいる(笑)。この変化は、僕の全身にサーモメーターか何かを取り付ければ、如実に観察できると思いますけれどね。

更に言えば、音楽活動そのものが面倒になってきている、というのは言えると思いますね。はっきり言ってこれは、執着以外の何者でもないわけですし。機材運びも面倒だし(笑)。だけどそれを止めてしまえば、今まで作ってきた曲がもったいないですからね。ですからこれは僕の『業』だと思って、半ば諦めつつ続けているわけです。言わば『もったいない精神』ですね(笑)。

最後にセッションの内容ですが、一応ご説明させていただくと、30分であれば施術のみ、60分ないしは90分であれば、施術に加えて一指禅功の内丹功のご指導、ということになります(60分と90分との違いは、単純に後者の方が、動功を含めたりと、時間的により詳しいご指導が可能、ということです)。お出でになった際にお伺いしてからセッションを始めようと思っていたのですが、あらかじめ念頭に置かれた方が、Tさんのスケジュール上いいですものね。説明不足で失礼いたしました。m(_ _)m

というわけで、他にも何かございましたらご遠慮なくおっしゃって下さい。それではまた！

↑よろしければ、是非。

☐

怖いのは鳥だけではない・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

こういう問題って、関心のない方って全く関心がないんですよね。

先だって音楽療法の事務所に行った時、そこにあるパソコンがおかしい、と相談を受けました。
時々画面に**変な表示**が出るそうです。「わけがわからないのですぐ消してしまうんですけど」と事務の方は言います。

早速調べてみると、**アンチウイルスソフトのアップデートの指示**ではないか・・・。

「これ、いつ買ったんですか？」と尋ねると、去年の夏頃とか。ということはその時から、**アップデートも何もされない状態で、インターネットにつながれていた**ということになります。見てみると、クライアントの住所録がデカデカとデスクトップに載っている。何と大胆な。[:びっくり]

早速アップデートしてスキャンしてみると、出るわ出るわ、ウイルスからマルウェアまで、13個発見されました。

知らぬが仏とはこのこと。

まあ、僕も人のことは言えないですけどね。パソコンを買ったばかりの頃、「これ何のソフトかわかんないから、削除しちゃおう」と思って削除しちゃったのが、**御大ノートン先生**。特に動作に問題はなさそうなのでそのまま使用していたところ、当時流行ったMSBlasterにいきなり感染。友人のパソコン大好き外科医に緊急手術された経験があります。問答無用で完全リカバリされて、マイドキュメントがきれいに吹っ飛んだのは痛かった。

HDD飛ばされたくらいならバックアップを取っていれば問題はありませんが、怖いのはパスワードとかを抜き取られることです。銀行の預金がいきなり残高ゼロになっていたなんて冗談ではありませんが、今日では十分に、考えられることです。便利さの裏には必ずリスクがある、ということですね。

お互い気をつけたいものですね。

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

確かにあの辺りは、日本と違って雨は降らないでしょうから、太陽エネルギーは十分活用できそうな気がしますね(しかし、太陽エネルギーで走る自動車って、すごいですね)。

それがそうではないのは、やはり、あの辺りの国の政府自体が、太陽エネルギーよりも、石油の消費を欲しているからでしょう。その方が差し当たり、キャッシュが得られますからね。因みにインドネシアの友人に言わせれば、インドネシアもそうらしいです。環境問題に積極的ではないのは、やはり自国で産出される石油を使って儲けたいという、政府の思惑があるからだとか。

太陽エネルギーの活用に関する問題は、それをいかに長期間保存するか、でしょうね。その問題が技術的に克服されれば、これほど有効なエネルギーはないように思うのですが。

実際うちの実家も太陽熱温水器を使っていますが、非常に便利です。湯を沸かす必要がないですからね(それどころか、体の温まり方が、全然違います！)。ただ当然雨の多い季節や冬場などはお休みとなってしまうのが、少々痛いところ。晴れた日の余ったエネルギーを保存しておければ、完璧なのですけど。

余談ですが、昔のアニメ『未来少年コナン』に出てきたように(僕はファンなのです(笑))、地球軌道にある衛星から太陽エネルギーを地上にエネルギーを送るやり方って無理なのかな、と思っていたのですが、一応研究はされているみたいですね。ただ現在では技術的に問題が多く、実用化には至っていないそうですが。

この分野の技術は、もっともっと進んでいてもらいたい、と切に思います。

↑よろしければ、是非。

禍福は糾える縄の如し・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

やはり今日一日は、どのサイトを見ても、オバマ新大統領のトピックスで持ち切りですね。

そのようなお祭り騒ぎの裏で、このようなトピックスは、非常に考えさせられるものがあります。さすが市場の見方は、冷静そのもの。

世界中が、彼のカリスマ性に期待している。しかしその期待が大きければ大きいほど、その反動は、当然大きくなります。それは彼自身も、十分に把握しているのだろーと思います(金融危機解消のための政策に対する推測が、逆に株価を下げてしまう要因となっている、という現象は、非常に興味深いですね)。

そういう意味でも、厳しい政策運営を強いられそうですね。何はともあれ、僕も期待する一人。是非頑張ってくださいと思います。

↑よろしければ、是非。

「食べても安全」だそうです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

なるほど、「現在の科学技術を考慮した結果、クローン技術を使って誕生した動物は、通常の動物と等しく食べても安全」なんですね。それは良かった。お偉方のお墨付きがついたということですから、何はともあれ、一安心ですね！

でも僕は、**絶対に**食べませんけれど。

遺伝子組み換え大豆であろうが、中国産冷凍ギョウザであろうが、取り敢えず今後市場に流通するとすれば、最低限その表記だけは、厳格にしていだきたいですね。いかに科学的にその安全性がうたわれたところで、最終的に判断するのは、消費者なのですから。どうせ被害が出たとしても、「あの時点では予測が出来なかった」で終わりですからね(自宅では肉も魚も食べない僕としては、注意するとしたら、外食する時でしょうか・・・)。

お互いに、気をつけたいものですね。

↑よろしければ、是非。

歴史的瞬間迫る、か？

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

インターネットのどの場所を見ても、彼の就任式の話で、持ちきりですね。

このトピックスでは、彼をリンカーンと比較していますけれども、このように彼を歴史上の著名な人物たちと比較する記事は、多く見られますね。あとは、「史上初の・・・」という謳い文句でしょうか。あれだけのカリスマ性ですから、さもありなん、という感じがすけれども。

かたや、二期の大統領を勤め上げ、果敢に戦争を主導したカリスマ「であったはずの」ブッシュ氏に関しては、ぱっとした記事は見られないですね。引退後は"自己の功績を称える"本の執筆に明け暮れるご予定とか。逆にそれも揶揄の対象になったりと、非常に好対照ですね。あとは彼と靴の話題ですか(彼と公衆トイレとを比較した好レポートもございますので、是非。『[さすがに靴は飛ばなかったブッシュ最後の記者会見](#)』)。

「アメリカ」という大国に付着したイメージを、大胆に転換することが出来るのか？今後のオバマ氏の行動には、目が話せそうもないですね。

↑よろしければ、是非。

14年も経ったんですね・・・。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

あの日私は、東灘区に住んでいました。

その瞬間のことは、今も私の脳裏に焼きついています。

あれから14年。数ヶ月前神戸に久々に行ったのですが、街の様子も全然変わっちゃいましたね。
今の神戸で震災の痕跡を見つけるのは、かなり難しい。

しかし年に一度、こうしてやってくる1月17日になると、私はどうしても自分自身に問いかけざるを得ません。「なぜ私は、生きていたのだろうか」と。



まさに奇跡ですね。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ハドソン川に不時着して、一人の犠牲者もなく全員救助。機長の沈着冷静な判断力と行動力に賞賛が集まっているようですが、まさにその通りですね。彼はパイロットとしての経験を40年以上も積んでいる大ベテランというだけではなく、航空会社操縦士協会での安全担当の委員長だとか。

今後しばらくは、彼の驚くべきエピソードで、もちきりになりそうですね。

しかし、利用者の一人としては、これを『奇跡』とするのではなく、常に起こりうる問題として(鳥を巻き込んだことによるこの手の重大事故は、1970年以降5回あるそうです)、万全の対策を採っていただきたいものだと思いますね。

もっとも、対策を採っていらっしゃるからこそ、私は機内で眠ることが出来るのかもしれませんがけれど・・・。

↑よろしければ、是非。

リンゴの皮は剥くべきか。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

昨日知人と青山で食事をしたのですが、その時彼は最近読んだ、青森でリンゴの完全無農薬栽培に成功した農家の方の本の話をしていました。

彼は言います。「いやー、こういう流れは是非大きくなってもらいたいものですね。リンゴなどは農薬が怖くって、皮を剥くのが当たり前ですからね」。

その時私は、ふと思いました。最近買ってきたリンゴ。私は丸かじりが好きなのでそうしていたのですが、口に入れると何だかヒリヒリする。おかしいな、と思っていたのですが、彼の話聞いて、これはもしや残留農薬ではないか、と気付きました。早速家に帰って、深めに皮を剥いて食べたところ、案の定、ヒリヒリ感は消えました(産地、銘柄はあえて伏せますが、かなり有名なものです)。

でもまあ、中国よりはましかも知れないですけどね。中国在住の私の友人の話ですと、市場で普通に売られている野菜は、冗談抜きで危険らしいですから。生で食べると即死するとか。恐ろしい話です。

日本でも、農家も恐ろしくて絶対食べない残留農薬バリバリの「危険」野菜はいくつか知っているのですが、これも伏せます。下手に公開して、命を狙われたくないですから(そんなことはないか?)。いずれにせよ、食べ物には、十分に気を付けたいものです・・・。

↑よろしければ、是非。

寝る子は育つ。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

確かに睡眠不足だと、免疫機能の低下を招くことで風邪を引きやすくなるというのは、言えると思います。

もちろん本文にも指摘してありますように、質も大いに関係していると思いますね。浅い眠りなのに、長時間うとうとしていたところで、その効果には疑問が残る、ということも、確かだと思います(ただし、長時間の横になった姿勢は、骨を休めることになりますので、間接的に免疫機能の保全につながる、という研究を、目にしたことはありますが)。

この寒い時期は、無理して起きているよりも、さっさと布団に入った方が、健康だけではなく家計の面からしても、ベターなのかも知れませんね。

↑よろしければ、是非。

うちにも飛んで来て下さい。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

うちの実家の畑の近くに、いきなり風車が立ったのは、ほんの数年前でした。

最初は一本だけだったのですが、あれよあれよという間にその数は増え、今では十本以上立っています(あれって、割と簡単に作られるんですね)。

“KOTOURA”とデカデカと書いてありますが、こいつがどのように役に立っているのか、それとも実は役に立っていないのか、地域住民はわかりません(私もその一人)。

こいつが出来たことによるその地域での一番大きな変化といえば、雷が落ちまくることですね。天候が不安定な時など、広々とした農地に突っ立っているこのような物体は、雷様の格好のエジキでしょう。真夜中でもかなりハデに落ちます。実際やかましいです。

UFOなら、是非駆けつけたいものです。自転車で。

↑よろしければ、是非。

人事ではないです。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

多分この話、人事ではないです。

今や日本のあちこちで見られる耕作放棄地。単に後継者不足などといった地域格差の問題では、片付けられないと思います。

土地関係のセクションに従事する公務員である私の友人が言っていたことですが、それらの農地が「解放」されるのを、虎視眈々と狙っている連中がいるみたいですね。そのような土地など、タダ同然ですからね。

そうなると、農業活性化どころの騒ぎじゃないですね。

こういう問題は水面下で進むだけに、よりやっかいなような気がします。

↑よろしければ、是非。

Tさんとの対話(12)～困った霊能者たち

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

おっしゃることには、全く同感ですね。

結局、自称霊能者にしろ音楽家にしろ、僕も苦手なのは、彼らの奇怪なまでの「自信」なんですね。

僕はそういう関係のブログとかにはあまり詳しくないのですが(目にするとしたら、ほとんどTさんのご紹介ですね(笑))、それでもいくつか読んでみると、この自信は一体全体どこから来ているのだろうと、不思議に思うことがありますね。

しかし、ブログの場合は、流し読みで終わることが出来ますけれど、マンツーマンではそうはいかない。今まで、随分とひどい目に会ってきました(笑)。

でも更に不思議なのは、そうやって自信満々に予言する割には、最後には例外なく、「こんなはずじゃなかった」と来るんですね。だったら最初から、謙虚に物事を見れば良いのに、といつも思うんですけれど。

予知に関しては、全くTさんのおっしゃる通りです。つまり、言葉ではない無意識的な情報を、彼らは同じく無意識的に読み取る能力に、長けているんですね。それが意識上に上る時に、特殊なビジョンだとかに変換されているだけの話で。

更に言えば、この無意識的な情報というのは、全く神秘的なものではなく、例えば服装だとか、化粧だとかもそうですね。あるいは呼吸の仕方とか。以前ご紹介したミルトン・エリクソンは、クライアントのそのような微細な情報を読み取って、臨床に生かしていたわけです。そういうものは、不思議でも何でもない、彼は常々主張していました。

でも世間には、そういうものをどうしても神秘的に語りたがるフリーク達がいるわけですね。

ですから僕は逆に、心理療法に長いこと携わってきた経験から、そういう方達の精神分析こそやってみたいと思いますね。あるいは社会学的に、そういう方達の一生の行動パターンを解析するとか。

もっとも、自分なりにやってますけれどね。興味本位の怖いもの見たさで。この辺は、霊能者

と呼ばれる人のところにわざわざ出向いてって、それを逆手に取ったいたずらをしまくっていたというエリクソンと、嗜好が似ているような気がしますけれど(笑)。

そういう意味では、やはり僕の場合、気功から入ったのはベターだったように思います。というのは気功の場合、フィジカルな程度が大きいですからね。「功夫」というくらいですから。

腕立て伏せと同じで、やればやるだけ効果は出ますので、更にそれを手掛かりに、練習を進めることが出来ますからね。逆に、イメージを多用するものだと、それがトレーニングによる結果なのか、単なる「勘違い」(笑)なのかが区別しにくい。

もちろんメンタルなファクターは無くもないのですが、あえてそこは分けた方が、混乱がないのかな、と思いますね。

ですから僕がご指導する場合にも、一指禅功には、そのようなメンタルな要素は全く介在されていませんので、Tさんには新たな気持ちで取り組んでいただけるのではないかと、思いますよ(笑)。

では一応、〇〇日の午後〇時ということで、予約を受けたまりますね。

もし遅延の場合でも、お電話頂ければ結構ですので、ご心配には及びませんよ。お気軽にお出で下さい。

因みにJRですと、東京乗換え、品川乗換えでも、どちらでもご利用いただけます。千駄ヶ谷の駅自体は、総武線になります。あ、よくお出でになるんですね。失礼しました(笑)。

それでは、お会いできますことを楽しみにしていますね。とは言っても、まだ一ヶ月近く先ですけれど(笑)。

ではでは！

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

素晴らしいアイデアですね。

農業はいいと思うのですけれどもね。クビにされる恐れはないし、休みたい時は休めるし。毎日太陽の光を浴びて、健康なことこの上なし。食糧危機だって怖くない。僕の家も兼業農家ですけど、野菜なんて買う必要ないですからね。全部自前でいけますから。

ただ問題点は、儲からない、ということですね。それは恐らく、制度的な問題でしょう。農業では儲からないように、日本では制度的に、そうなっている(特に、米ですね。これには、高度に政治的な問題が絡んでいます)。あと農家の方に、販売ノウハウを伝授してくれる人がいない。

それらの問題を是正できれば、これほどいい仕事はないような気がしますね。

僕も参加してみようかな(笑)。

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

彼女には、いつもお世話になっているのです。

私と一緒に旅行に行かれた方ならご存知かと思いますが、私の一家が共有するスーツケースは、サンリオがライセンスしているものらしく、デカデカと彼女の顔がど真ん中に、プリントしてあります。

これを買ってきたのは、親父です。何でも後ろ側だけ見て、「こいつは頑丈そうだ」と思って買って帰ったところ、お袋に「いい年したおっさんがキティちゃんのスーツケースか、ぎゃははは！」と大笑いされて、初めて気が付いたとか。

でも馬鹿にしたものではありません。遠くからでもかなり目立つので、空港での荷物の受け取りの時など、間違えることはまずありません。大変便利です。こうなると、お守りのようなものです。

旅のお供にキティちゃん。皆様も是非どうぞ。



↑よろしければ、是非。



08年の世界の株式市場、1600兆円失う、S&P

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ちょっと意外な記事でしたね。

「08年の米国の株式市場は先進国の中で3番目、世界で5番目に良いパフォーマンスを見せたことになる」そうですが、では先進国の中では最も下落率が小さかった日本は、実はその中では最高のパフォーマンスを見せた、ということになりそうですね。

今後の日本に必要なのは、アメリカン・ドリーム的な(これも間もなく、完全な死語になったりして)投機的経済運営ではなく、アジア的な堅実運営なのかも知れないですね。実際江戸時代は、260年余りに渡る長期の平和を実現していた、世界でも稀有な時代であったわけだし。

事態はそんなに悲観したものでもないのかも知れないですね。

↑よろしければ、是非。

十字架めがけて氷張る湖にダイブ、新年の息災祈り ブルガリア

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

日本では、この手のお祭りはよく聞きますけれど、外国でもあるんですね。しかもブルガリア。

もっともこちらは正教会(ブルガリア正教会)ですので、土着のフォークロアな風習と、キリスト教義が高度に融合したようなこのようなお祭りは、よく見られるのかも知れないですね。日本でいう修験道のようなものではないかと。

一度行ってみたい国の一つですね。もちろんブルガリア国立放送合唱団の"Le Mystère des Voix Bulgares"の生演奏を聴きに。ヨーグルトも忘れちゃいけない(笑)。

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

「アンモナイトの化石」ですか。さすがタイム誌。ナイスな形容です(笑)。

しかしファッションというものは、面白いですね。普通だとつままないし、奇抜だと変人扱いされる。そのバランス感覚が難しい。そこが面白い。

でも、後者に果敢に挑戦する人達が断然多いのは、何といってもやはり外国ですね。

先だって、あるデザイナーさん達と話をしたのですが、そういう服を好むあっちの人達は、左右の袖の長さが違おうが、ポケットの底がなかろうが(!)、全然気にならないみたいですね。それも個性の一つ(!!)と捕らえられてしまうからでしょうか。「ディスプレイの裏地をわざわざ見るのは、間違いなく日本人ですよ」と彼らは言っていました。それもよくわかるような気がする。

因みに僕はパリに行った時、デカデカと「禅」とプリントしてある永平寺から買ってきたTシャツを着て、扇子片手に市内を歩き回っていました。「Bonjour, Japonais!」と声をかけられたりして、結構楽しかったですね。

次回は作務衣だな。あ、それだと普通過ぎるか?(笑)。

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

失読症は、文字通り"症状"と考えられているようですが、私が昔読んだ本によると、歴史上の偉人達の中で、この症状を持っていた人は、実は多いみたいです(トマス・G・ウェスト著『天才たちは学校が嫌いだった』。現在絶版)。

私は音楽をするのですが、実は「失音楽症」という症状もあって、我が尊敬する偉大なる精神科医ミルトン・エリクソンがそうだったそうです。子供の頃学校で、音楽の時間になると、友人達が先生の合図に合わせてわーわーと大声を立て始めるのはまことに奇妙だと、ずっと思っていたそうです。

この症状を持った方たちは、それを誰にも相談出来ないものですから、非常に苦しまれるというのは、理解できるところです。しかしそれを、それ以外の知覚を使ってカバーしようとして、結果としてその知覚の能力が異常に亢進するようになる、というのは、潜在能力開発という点から考えても、非常に興味深い(字が読めないので、学校の国語の時間などは、友人が読む文章を「完全耳コピー」で切り抜けていた、といった驚くべき例が、先の本には紹介されていました)。

この本にすでに、トム・クルーズのエピソードも取り上げられていました。それを克服して大俳優になった、というのは、見事という他はありませんね。

↑よろしければ、是非。

ご利用料金改定のお知らせ

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

謹啓 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

皆様におかれましては、どのようなお正月休みをお過ごしになられましたでしょうか。

さて本日より、ご利用料金を、以下のように改定させていただきたいと思います。

○点穴療法による心と体のトラブルの調整

3,500円/30分

○気功法の指導(一指禅功、站椿功、遊龍功)

5,000円/60分

また、今回の料金改定と共に、ホームページを全面的にリニューアルしました([「やわらぎ気功クリニックへようこそ！～点穴療法と気功の世界」](#))。今回は、[「よくあるご質問」](#)として、皆様からいただく数々のご質問とその対処法について、Q&A形式でまとめてみました。似たような症状でお悩みの方のご参考になれば、とても嬉しく思います。

それでは、今後とも変わらぬご愛顧を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

やわらぎ気功クリニック東京(無為気功養生会千駄ヶ谷教室)

主宰：中原勇一

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ブッシュ政権が存在する間に「駆け込み乗車」をしようとする思惑なのかもしれませんが・・・、何ともいたたまれません。

数年前、あるドキュメンタリーを見ました。そこで取り上げられていたのは、この地区のブティック。店主はパレスチナ人の女性、そしてそこに来ていたお客さんは、イスラエル人の男性。

「和平交渉の頓挫で、今までみたいに買い物に来るのも難しくなった・・・。顔を隠して買い物に来るんだよ。パレスチナ側にしろイスラエル側にしろ、見つかったらただでは済まないからね」。そう言ってお二人は、悲しげに顔を合わせました。

このお二人のように暮らすというわけには、いかないのでしょうかね。暴力は暴力を呼ぶだけなのに・・・。

↑よろしければ、是非。

米鉄鋼業界も崩壊の危機、政府に1兆ドル規模の支援求める

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ついに、本丸から火の手が上がりましたか。まあ、当然の経過でしょうけれど。

思うに、19世紀から20世紀にかけての世界を牽引してきた第二次産業自体が、今年一気に瓦解するかも知れませんね。そうすると、それに基盤を置く第三次産業も、一蓮托生となる。言うまでもなく日本も、例外ではない。

それどころか、外需に頼ってきた日本の場合、一撃ではないかと。実際去年がそうでしたし。

なかなかシビアな年になりそうですね。

↑よろしければ、是非。



謹賀新年

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

謹んで、初春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、大変にお世話になりまして、真に有難うございました。

私にとっても、今年はオフィスの東京移転など、大きな動きがございました。首都へ再度進出することで、多くのかげがえのない方々との出会いがありました。それらは私にとって、非常に貴重な経験でした。

今年も、大きな出来事がありそうな予感・・・。

新しい年が皆様にとって、良い年でありますように！

今年もよろしく、お願い申し上げます。

平成21年1月1日

やわらぎ気功クリニック
中原勇一

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

国内の経済状態が、未曾有の大危機を迎えています。

数ヶ月前(そう、ほんの数ヶ月前でした！)マスコミは、『戦後最長の好景気』を謳っていました。しかし、私はずっと、それは真っ赤な嘘だと思っていました。昨日まであった店が、今日は閉店になっている。昨日まで煌びやかであったビルが、今日は売りに出されている。それは万年不景気のが故郷鳥取県の話ではなく、つい近所の千駄ヶ谷周辺の話です。「『戦後最長の・・・』なんて言われても、実感がないですね～」と、街角インタビューで多くの人が答えていましたが、それは正に真実だった、というわけです。

連日派遣労働者の方々の悲話が報道されるにつけ、「明日はわが身・・・」とお考えの方は、いかほどでしょう。

そこで、そのような緊急事態に、『気功』で何とか対処はできないのでしょうか？

このようなことを言うと、多くの方々は失笑されるか、あるいは激怒なさるかも知れません。「『気功』などというただでさえいかがわしいようなものに、この現実に対処する方法などあるものか！」。多くの方々は、そうおっしゃるかも知れません。しかし私の考えでは、それは逆です。むしろ、このような厳しい現実に対処する方法が提供できないような気功であれば、それは何の役にも立ちません。ダイエット気功などは、主婦の暇つぶし。やるだけ無駄です。厳しい現実に対して、何らかの対策を採ることができること。それは病気であろうが経済状態であろうが、同じです。それが本当の気功だと、私は思います。

それを踏まえて次の二点を、ここでは考えてみたいと思います。

まずは、他者との差別化を図ること。徹底的に。

つまり、他者と同じことをしてはいけない、ということです。それは今の時代、むしろ危険です。例えば、あなたが極めて「常識的な」発想をするサラリーマンだとして、会社の業績がどうも右肩下がり、ということでしたら、来年平穩に過ごすことは、難しいかも知れません。なぜなら、雇用調整を経営者が考える時、全く「同じ顔」をしている労働者を、経営者は区別できな

いからです。経営者にとってあなたは、単なる数字上の存在です。つまり、「資材と同じ」なのです(その意味では、「私たちモノじゃない」という日本共産党のスローガンは、言い得て妙です。純粋に経済学的に考えた時、事実は逆なのです。残念ながら)。そのような人は、真っ先に調整の対象になることは、避けられません。

しかし、そのような中であなたが、特異な存在だとします。人と同じことをするのはいやだ。上司に対してズケズケものを言う。変人だ、と周囲から必ず言われる。しかしお客さんには、有難いことに受けが良い。宴会では欠くべからざる重要人物(笑)。そのような方をリストラするのは、経営者にとっては勇気がいる。競馬と同じですね。こいつはどう考えても変人だが、この異様なオーラからして、実は『大穴』かも知れない。そのような方は経営者も、安易にリストラできません。そうではなくとも、少なくともリストラする際の最終候補の方に回されるでしょう。真っ先に切られるのは、むしろそのような変人ではない、「常識的な」「普通の」人達の方です。「可もなく不可もない」彼らの場合、経営者は、安心して切ることができます。

別にこのことは、人格的な個性の問題だけではありません。有資格であるということも、十分に差別化の要素ですね。それは今の仕事の内容に特に無関係であるようなものであっても、良いと思います。むしろ今後は、企業はますます多層的な発想を余儀なくされます。そのような時、全く無関係であった分野が、重要な意義を帯びてくる、ということは、十分に考えられます。その時その資格は、『金の成る木』に変ずる可能性は、十分にあります。学生時代に何を間違えたか、あなたは調理師の免許を取った。取り敢えずメーカーに就職してその資格は宝の持ち腐れ。しかしその会社が突然外食産業への進出を打ち出して、偶然調理師免許を持っていたあなたがその店長に抜擢された。このようなことは、単なる絵空事ではないのです(田中耕一博士の発見が、博士が「間違えて」混ぜ合わせたグリセロールとコバルトを、「どうせ捨てるのも何だし」という恐るべき理由でそのまま実験に使われたことによって生まれた、という事実を思い起こしましょう)。

「常識的であること」。今まではそれが美德でした。しかしそれはそのような、「常識的な」人々を生み出すための方便(政策！?)ではなかったでしょうか。画一的な教育。画一的な学校給食。そのような環境で純粋培養された企業戦士達は(まるで、『スター・ウォーズ』に出てくる、カミーノ星で量産されるクローン兵のようですね)、高度成長期からその延長でもあったバブル期では、極めて有効でした。それは企業が、没個性的な労働者を欲していたからです。現場でいきなり「芸術は爆発だ！」的な発想をされて(←今の人って、これ意味わかりますかね?)生産ラインをかき乱されたりしたら、企業としてはたまったものではないですからね(言うまでもなく私は、そのような人物こそお友達になりたいのですけれど(笑))。しかし今後はどうなるのでしょうか？旧来の企業にとっては、「標準的な」人々は、最も雇用しやすい人々でもありました。しかしそのことは、同時に、彼らは最もリストラしやすい人々でもあるということをも、意味しています。「資材」ですからね。今まではそれが見えなかった。しかしそれは現在、恐ろしい残酷さでも

って、表面化しつつあります。

先ずは、他者との差別化を図ることです。何が何でも、徹底的に。それが一番やりやすい対処法です。

もう一つは、ぶっちゃけた話、マスコミがガナリ立てているほど本当に今は経済危機なのかどうか、を考えてみることにしよう。

実際マスコミにとっては、不況である方が、実は「都合が良い」のです。リストラに会った派遣労働者の方々の厳しい日常を描く特番を企画したとします。そのターゲットになりそうな方々は、近くハローワークへ行けばゴマンといらっしゃいます。彼らに密着取材をして、その日常を描きます。取材コストは撮影にかかる費用「だけ」です。その映像を見ながらタレント達が、「このようなひどい状況に対して、政府は何もしないのか！」と気炎を上げます。ドラマのようにお金のかかる特殊なセットや脚本、編集などは、最初から要りません。何という安上がり。実はこのような番組で一番コストがかかっているのは、このようなわけのわからないタレント達に対するギャラなのです(事実彼らは、都内の一等地の豪邸に住んでいるような連中です)。そして特番を見た人達は、「そうか〜、本当に日本の不況はひどいんだな〜」と自分を納得させています。要するにマスコミにとって、派遣労働者の方々の厳しい現実、単なる商売上の「ネタ」に過ぎません。もっと言えば、派遣労働者の方々の現実が厳しければ厳しいほど、悲惨であれば悲惨であるほど、マスコミにとってはありがたい。なぜなら視聴率が上がる可能性がありますからね。彼らはそれを狙っているわけです。それ以外に狙うものなど、ありません。そして番組収録が終わった後、彼らは赤坂・六本木に繰り出して、大金をばら撒いて、乱痴気騒ぎをしている。出版でもそうでしょう。不況を題材にしたビジネス本は、今の時代売れます。出版業界自体が大不況にもかかわらず、そのような本は売れるのです。経営不振にあえぐ企業経営者は、藁にもすがらる思いで買いますからね。マスコミ関係者だとすれば、私だってそういう戦略を取ります。

これは、『搾取』以外の何者でもない。『洗脳』では生ぬるい。『搾取』です。彼らは二重にも三重にも「利用」され、『搾取』されているのです。

先だって、ある宮崎のお百姓さんの小さな記事を、某雑誌で読みました。その方はバブル華やかし頃、『エントロピーの法則』(ジェレミー・リフキン著、祥伝社)に感銘を受けて、いきなり脱サラ。宮崎の山村に住み込んで、今までやったこともない農業を手がけます。結果大当たりして、莫大なキャッシュを手になさっています。もちろん専業農家です。しかしその経営戦略の立て方は、極めて卓越しています(因みに彼は、農協を通さずにビジネスを進めています。なぜか？「

農協を通すと儲からないシステムになっていることに気づいた」からだそうです。彼は元々工業技術者であったようですが、このような着眼点は、彼のそのような経歴の賜物かも知れないですね)。週休4日。百姓は遊ばなければならない、と豪語していらっしゃいます。「こんなに楽に儲かる楽しいビジネスはない」と彼は笑顔で語っています。今の日本には、かたや、このような人もいるのです。

そのような方をマスコミが大々的に特集するかといえば、そのような例はあまり聞かないですね。宮崎の山間部へ取材に行くコストだけでも大変ですからね。第一そのような人物は、発見自体が困難なのかも知れないですね。何故かといえば、このようなご時勢に、「いや〜、儲かっちゃって儲かっちゃって、大変ですよ」などとは、大っぴらにはさすがに言えない。畢竟彼らは口をつぐんで、納屋の奥で黙々と膨大な量の札束を計算することになります。いるのかいないのかすらわからない。文字通り仙人ですね(笑)。

派遣労働者の方々の現実、極めて厳しい。それは残念ながら、厳然たる事実です。しかし、もし今のマスコミに「僅かでも」良識があって、今の時代の閉塞性を本気になって打破しようとするのであれば、どんどんと紹介するべきであるのは、派遣労働者の方々の悲話ではなく、むしろこのお百姓さんのような人物の方でしょう。なぜなら彼らの行動は、そのような状況を打破し得る卓越したアイディアに、満ち溢れているからです。ちょっとしたアイディア。しかしそれが、莫大なキャッシュを生んでいる。今の私達に必要なのは、そういった情報の方でしょう(お百姓さんになるのも、いいアイディアだと思うのですけれどね。うちの実家も兼業農業ですけど、「明日食べるものがない」などということは、絶対にありえないですからね。畑に行けば食べ物は、食べ切れないほどあります。親父が作ったネーブル、ドラム缶一缶分近く倉庫に転がってますけれど、これ誰が食べるんだろうか・・・)。しかし残念ながら、今のマスコミにそれは、望むべくもない。マスコミ自体が、火の車ですからね。だとすれば私達は、現状に関する情報を、もっともっとしっかりと取捨選択しなければなりません。

気功という観点から、この未曾有の危機に対する対処法を、二つほど探ってみました。まずは内功。自分自身のスキルアップを図ること。そして外功。この状況自体を疑ってみること。いずれにせよ、突破口を探し出す、という主体性は、不可欠です。事実そうでなければ、私達の脳は働かないのです。なぜ働かないのか？

そもそも、働かせる必要がなかったから、働かせなかったのですね。

先だって、久々に師匠に会っていろいろと議論したのですが、彼も同じようなことを言っていましたね。「社会が不安定な時ほど、ビジネスのチャンスがある。株式市場と同じだ」。私もそ

れは真実だと思います。むしろ今までの社会が、安定的過ぎたのですね。昨日の延長で今日があり、今日の延長で明日がある。誰もがそれを疑わなかった。しかし今後は、そのような楽観論は通用しなくなります。年明けあなたの会社の入り口に、「長年のご愛顧、真に有難うございました」という紙切れが張られていないとは、誰も断言できないのです。その時の人の反応は、たった二種類だけです。「ああもう駄目だ」と自暴自棄になるか、「ああせいせいした」と考えて別の道を進むか。どちらに未来の可能性があるかは、言を待たないでしょう。私達に求められているのは、『莊子』に出てくる、濁流に嬉々として身を躍らせるタオイストの知性なのです。

恐らく、来年があらゆる意味で勝負です。それを念頭においてこの年末は、お互い鋭気を養うことといたしましょう。それでは皆さん、良いお年を。

↑よろしければ、是非。

12月の定期出張のお知らせ

今月の定期地方出張は、12月25日より、来月1月1日までとなります。その間、東京での施術およびご指導は、お休みとさせていただきます。

それでは、宜しくお願い申し上げます。

やわらぎ気功クリニック東京

中原勇一

Tさんとの対話(11)～「波動」と「気」の差異

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

中国って、ブログの記事ですね。

実はあの精神科の先生に宛てたメールは、昨年8月に書いたものなのです。ですからあれは去年のことでして、今年には行っていません。誤解があったみたいで、申し訳ございませんでした。

だけど、今中国は、大変なことになっていますね。

昨年行ったのは湖南省だったんですけど、その道すがら、多くの建設途中のビルを見ることが出来ました。

皆さん、竹で組んだやぐらの上で、手でコンクリートを外壁に塗りたくって、その横では博打をしている・・・。

そのようなところを大地震が襲ったらどうなるか、というのは、映像を見なくても、十分に想像は出来ます。

一刻も早い復興を、心から願いたいところです。

ところで、「気」と「波動」との、僕なりの差異について、若干解説させていただきますね。

僕も両者は、意識的に区別して使っています。

僕の場合「気」とは、完全にその場で確認できます。その人だけではなく、その周りの人も同様ですね。僕がその場で指導して、それでも気の実感が全くわからない、という方は、僕の経験上、ほとんどおられなかったですね。そういう意味では僕の場合、「気」とは、完全に実感を伴ったフィジカルなものです。

しかし、「波動」というのは、僕はよくわからない。ただそれだけの違いといえればそれまでなのですが(笑)、実際ネットその他で「波動」という言葉を使っているものを見ると、かなりムード的なものが多いのではないかと、いう感じがしますね。実感がこもっていれば、このような書き

方にはならないのではないかと、いうものを、実際多く見ますし。

ちょっと例えが飛躍するかも知れないのですが、僕をご存知のように音楽もするのですが、例えば音楽家の中には、「音楽には人を動かす“パワー”がある」という人がやたらと多い。しかし、ではその“パワー”とは一体何のことなのか、については、彼らは全く説明しないわけです。そういう楽天的な発想は、僕はすごく苦手です。

多分ここら辺は、もしかしたらTさんが、靈感が強い人は苦手、とおっしゃるのと同じかも知れないですね。その灵感の出自や中身についてはあまり触れない。そんな時僕は、しなければいいのにどうしてもそういう素朴な疑問を口にしてしまったりするものですから、すぐに叩かれたりするわけです(笑)。

もっとも、「気」というのは、先ほども触れましたように、触角に拠るところが大きいものですから、そのような体験が少ない方には、「気」と「波動」がどう違うのか、は大きな問題になるのかも知れませんね。それを説明しようとする、余計混乱を招くだけでしょうし。

因みに先だって、赤坂の某ベンチャー企業のパーティに参加した際に、僕がいるものですからそこで当然、「気とは何か？」みたいな話になったのですが、それに対する僕の返事は、ただ一言「やってみりゃわかる」。

結局みんなでキャーキャー言いながら、気で遊んでいましたね(この時は、女の子が多かったのですが)。このように、伝わる時は一瞬で伝わるんです。これが「気」というものです。

ですから、Tさんも大丈夫ですよ(笑)。

しかし、その速読の練習のし過ぎで映画がまともに見られなくなった、とおっしゃるお知り合いの方も、すごいですね。そういうユニークな方は、大好きです(笑)。

まあそれも確かに、一種の、「感覚を研ぎ澄ます」ということになるでしょうね。

その方は映画を楽しむのが難しくなったのかも知れませんが(笑)、そのような新たな知覚でこの世界を見ると、どのような見え方をするのか、というのは、非常に興味がありますね。

もしかしたら、映画以上の楽しい世界に、実際に住むことになったのかも知れず(笑)。そういう方のお話を是非一度、直接伺ってみたいという気はしますね。

○月○日ですね。こちらは大丈夫ですよ。お出でになられることが本決まりになりましたら、またお教え頂ければ嬉しく思います。

先ほども少し触れましたが、気感は恐らく、その日に習得可能だと思いますよ。それをベースにいろんなことにチャレンジして頂ければ、宜しいのではないかという気がします。足先の冷えについても、注意すべき経穴と立ち方を習得していただくだけで、かなり違ってくるのではないかと、思います。楽しみにしていて下さい(笑)。

それでは、お会いできますことを、楽しみにいたしております！

↑よろしければ、是非。

Plastikman (Richie Hawtin)/Musik



Musik

Plastikman

JUGEMテーマ：[名曲と名盤](#)

この方も、テクノ・クリエイターとしては、かなりキャリアが長いですね。

彼は最初は、アシッド・ハウスの新鋭として、かの有名なテクノ系のレーベルであるワープ・レコードよりデビューを飾りました。それを証明するかのように、ファースト・アルバムでは、バリバリのアシッド・テイストを発揮されていましたが、アルバムをリリースする度にそのエッジのキツさは、次第に整理されてきたように思います。

このアルバムは、彼の"Plastikman"名義の4作目のフル・アルバムなのですが、そのような洗練されたアシッド・テイストは、むしろ完璧の域にまで達しています。メインで使っているのは、テクノ・クリエイターのマスト・アイテムでもありますRoland TB-303とTR-808なのですが、彼の音楽を聴くとまるでそれらは、彼のためだけに開発された特殊な楽器であるかのように思えてしまうというのは、何とも不思議です。

他のテクノ・クリエイター達がそれらを使う時は、例えばフィルターの開け閉めとかを頻繁に行って、楽曲が単調にならないように工夫をされますけれども(逆にそれだからこそ、何度も聴いていると飽きてしまうのですけれども)、不思議なことに彼は、そのようなことはまれです。結果として彼の音楽は、非常にミニマルなテイストに溢れた、テクノというよりもむしろアカデミックな、スティーヴ・ライヒ系の純然たるミニマル・ミュージックのように、聴こえてしまいます。非常に個性的なTB-303やTR-808の使い方ですね。楽器に命を吹き込むのはアーティストである、という単純な事実を、改めて意識させてくれます。

彼は、アンビエント系のアーティストであるピート・ナムルックともコラボレーションのアルバムを何枚か制作していますが、これらのアルバムでも、彼独特のアカデミックな(?)ミニマル・テイストは、遺憾なく発揮されています。こちらもお勧めです。

因みに、日本食が大好きなのだそうです。健康の秘訣は和食にあり、と公言してはばからないとか。ベルリンで日本酒のバーをオープンする予定もあるそうです。何ともユニークな人物です。

[Richie Hawtin](#)

↑よろしければ、是非。

☐

Tさんとの対話(10)～波動と電磁波、スピリチュアリズムと不安

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

なかなか面白いサイトですね。「人が発する気は毛細血管を血液が通る時の波動」という着眼点は、結構なのではないでしょうか。実際僕も、そう思っています(笑)。

ただし僕ならば、『波動』という言葉は使わないですね。というのは、『波動』というと、電磁気学からニューエイジまで含んでしまう恐れがあるので、非常に誤解を招きやすい言葉だと思うからです。

僕の経験から気というものを電磁気学的に解釈すると、こうなると思います。まず、血液はぶっちゃけ、荷電粒子の流れです。それが人間の体内という不純物を多く含むものの中を流れた時、それら不純物にぶつかって向きを変える、ということは多々生じると思います。この時、荷電粒子が向きを変えると、慣性の法則によって、電磁波が放出されますね。

僕は気というものは、これではないか、と考えています。

これには、もっと面白い現象があります。例えば、放射性物質を水の中にいれておくと、その周囲がぼうっと青白く光る現象が観測されます。これは『チェレンコフ効果』といって、先の電磁場の運動と関係があるのですけれど、僕は、よく言われる"オーラ"とは、このことではないか、と考えているのです。

さらに僕の場合は、この考察を単なる考察に留めたりはせず、実際に練功に応用しています。つまり、練功の際に各関節を緩めろというのは、畢竟、血液の流れを良くするためです。各関節を十分に緩めた状態で練功すると、すぐに指先は真っ赤になって、なおかつパンパンに膨れ上がってきます。この状態でなければ、施術は出来ないのです。

余談ですが、この意味で言うと、単に筋肉をストレッチするというのは、この目的から若干外れる可能性がありますね。というのは、重要なのは筋肉ではなく、むしろ血管の方だからです。ですから、筋肉は「伸ばす」のではなく、「緩める」ことが重要です。この差異がわかれば、練習はずっとやり易くなるかも知れません。

ですからTさんの場合も、とにかく全身を緩めることを念頭において、練習を続けてみて下さい。

速読の話も面白いですね(笑)。確かにそういうことはあると思います。よくよく調べてみると、そのような効果を狙った練習というものも、古今東西よく見られますね。

例えば、チベット密教でポピュラーな練習として、ろうそくの炎を見つめ続ける、というものがあります。これはパッと見、ろうそくの炎への精神集中のトレーニングかな、とも思うのですが、実はそうではないのではないかと、思いますね。

というのは、試してみればおわかりになりますが、その時ろうそくによって生じた薄明かりが、風その他の影響によって、ゆらゆらとたゆたいますね。これはそのたゆたう光を、眼球の桿体細胞で捕らえることによって、それを強化することを主眼としているのではないのでしょうか。

これを続けていると、それをしない人であれば見過ごしかねない、外界の微細な動きをキャッチする、ということが可能になるかも知れませんね(この発想のヒントは、W.ウェンガーの著作です)。ですから、その速読のプロとリトルリーグの男性タレントのエピソードは、十分に理解出来ますね。

要するに、微細なものを識別するトレーニングですね。これに習熟すれば、いわゆる「感覚が研ぎ澄まされる」という状態が達成されやすい、ということは、言えると思います。

なるほど、確かに最近のニューエイジは、通過儀礼的な側面を持ち合わせているかも知れませんがね。

ただ、僕の意見では、それはむしろ、極めて理想的、あるいは優等生的な人々なのではないのかな、という気がします。

というのは、僕はこのような仕事をしていますので、その関係上その手の方々と直接触れることが多いのですが、その方達のニューエイジの捕らえ方は、こう言っては言い過ぎかも知れませんが、まあ非常に疑問に感じるどころが多々あるわけですね。

要するに彼らは、それにただ単にすがりたいだけなのではないかと。

これは明らかに、戦後教育の弊害ですね。戦後、科学を国内に急速に導入したことで、『妖怪』達はその生きる場所を失いました。異界が消滅したわけですね。結果として生じたのは、無限

に延長された日常生活です。そこへ持ってきて、極端な民主主義教育ですね。今では先生も親も生徒も、法の下では全て、平等です。理屈としては確かにそうなのですが、このような全てのものが平等という社会は、逆に、メンタル的な意味での混乱を招く危険性があります。

例えば、昔の徒弟制を考えてみると、弟子が師匠に従うのは当然でした。そういう環境に身を置くことで、弟子は師匠の教えを、体で学んでいったわけですね。しかし今そんなことを言えば、前近代的な封建主義者だとでも言われてしまう(笑)。それでは民主的に、ということで、弟子が師匠の下で自由にするとすれば、彼は師匠から、一体何を学ぶのでしょうか。それ以前に、もしそうだとすれば、学ぶべき師匠など最初から要らない、ということになりますね。だからといって好き勝手にやることは、単なるわがままであり、文化でも教育でもないわけです。

様々な伝統分野では、後継者不足に悩んでいます。その問題の大本の一つは、ここにあるのではないかという気がします。

このメンタル的な混乱は、かなり大きな問題だと思いますね。教職員が教壇で、タバコを吸うのは健康に悪いからいけない、と子供に教えます。その当人が、職員室でタバコを吸うわけです。これを見た子供がいかに混乱するかは、想像に難くありません。その混乱を想像出来ないのは、その教職員だけです。

ですから僕は、今の学級崩壊といわれる現象は、戦後教育の過程を考えると、極めて自然な流れだと思いますね。なぜなら教室の中では、全て平等なのですから。そして、矛盾は世の中の常なのですから。子供と教職員、そして親との関係は、全てお友達感覚で、さらにその教職員や親が言行不一致なのだとすれば、「なぜわざわざ、あんたの言うことを聞かなきゃいけないの？」という子供たちの大人に対する疑問は、至極当然だと思いますね。

しかしそういう子供たちも、いつかは大人にならなくてはなりません。大人になれば、今まで以上の不特定多数の人間と接していかなければならない(それに失敗した人たちが、ニートや引きこもりとなります)。それはまさに、濁流です。それを何とか克服する方法を見つけなければ、命が危うい。

僕は、最近のスピリチュアル・ブームの背景にあるものは、この不安感だと考えています。すがりたいだけ、というのは、そういう意味ですね。

ヘヴィなことを言っていますけれど、これはある意味、実体験でもあるのです。先日も僕の友人が、占い師(その占い師はテレビにも出ている有名な人らしいのですが)に引っかかって、大変なことに巻き込まれかけました。僕に言わせれば、そんな状況になるまでなぜその占い師にハマるのか？ということになるのですが、それは要するに、彼女の心に隙があるからですね。つまり

、彼女自身の中に、価値基準が無いのが、根本的な問題なのです。

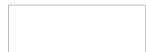
これは前回お話した、審神に通じることかも知れませんね。多分精神的なトレーニングの中で、一番難しいのは、今も昔も、この審神力かも知れないですね

というわけで、季節の変わり目で風邪が流行っていますので、どうかお気をつけて(笑)。それではまた！

↑よろしければ、是非。



Deep Forest/Pacifique



[Pacifique](#)

JUGEMテーマ：[～癒し～](#)

フランスのエスノ系エレクトロニック・グループ、"Deep Forest"の2000年のアルバムです。

実は僕はこのグループは、デビューの時(1992年)からチェックしていたのですが、最初はそんなに興味はありませんでした。というのは、言い方は悪いのかも知れませんが、単にアンビエント系のバック・トラックに、ピグミー族の歌をサンプリングして配置しているだけ、という印象を受けたのです。これだったらEnigmaの方がずっと魅力的だな、と当時の僕は思ったものでした(笑)。

それ以来長らくこのグループの音楽を聴くことはなかったのですが、先だってインドネシアからのホームステイさんを受け入れた時に、ドライブに連れて行ってくれた友人が車内でかけていたのが、Deep Forestのベスト版である"Essence of the Forest"(2003)。今度は、あれ、案外いいじゃない、と思ってしまったのでした(笑)。

その後アルバムを一通り聴いてみたのですが、かつては、シンプル過ぎるんじゃないかな、と思っていたアレンジやコンセプトが、逆に新鮮に思えてしまいました。まあ要するに、僕が移り気なだけなのかも知れませんが(笑)。

そんな中で僕の一番のお気に入り、この"Pacifique"というアルバムです。サウンドトラックらしいですね。一曲目冒頭のピアノのメロディは、とても美しい。このピアノの音が、このアルバム全体を引き締めている感じがします。それにエスニックなヴォーカルが乗ってくるという、彼らの王道パターンなのですけども、そのシンプルさが良いです。

いや～やはり、メロディは重要ですね。今更何を言う、って感じですが(笑)。

[Deep Forest](#)

↑よろしければ、是非。

☐

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

なるほど。『審神力』、この発想は重要ですね。特に昨今のように、ネットによって情報が溢れ返っている状態では、なおのことかも知れないですね。

因みにこの言葉、最近まで全然知りませんでした。教えてくれたのは、神道マニアの友人でした。そのきっかけは、ブログにも書いた、靈感系の女性とのトラブルだったのですが(笑)。

詳しいことは、お手隙の時にでもそちらをご参照頂くとして、僕としても非常に考えさせられるものがありましたね。

元々彼女とは、僕のプレ東京時代からの付き合いでした。その当時は気功などというものは知る由もなかったのですが、そんな僕に彼女が語ってくれる靈感の世界は、非常に魅惑的でしたね。

ところが東京に行って、偶然にも心理療法の現場に立ち会うことになり、遂には気功に手を出したことによって得た様々な経験が、僕のメンタリティを完全に変えてしまったようです。

そんなある日、また彼女と再会して妙なお付き合いを再開することとなったのですが、そのような僕の目に映る彼女の姿は、尋常ではありませんでした。

結局お付き合いはめちゃくちゃになってしまったので、それから後彼女がどこで何をしているのかはわからないのですが、つらつら考えてみるに、僕の周りには彼女だけではなく、そういう人が多かったな、という気がしますね。

そこに欠けていたのが、まさに『審神』という発想です。

数日前さる方と食事をしていた時にもそういう話になったのですが、もしかしたら今の方は、何かにすがりたい、という気持ちが強いのかも知れませんね。それが占いだとか風水だとかいったものへの興味へと、漠然とつながっているのかも知れない、と思います。

もちろん気功も、その一つですね。

ただ気功の専門家として指摘するならば、気功や仙道、大乘仏教の世界は、そのような一般的

なイメージとは全く逆です。つまりこれらの志向するのは、絶対的な自由なのです。何者にもとらわれない自由な心。それを獲得するために全ての行体系が組まれているといっても、過言ではないと思います。その絶対的な自由が獲得できた状態が、本当の幸福なのであり、それが大楽ということです。

ですからその観点で言えば、いくら相手が神であろうと、それが自分を束縛している主体であるとすれば、それは退けられなければならないわけです。

余談ですが、六道輪廻という言葉がありますね。仏教の描く迷いの世界、具体的には、地獄界、修羅界・・・といったものなのですが、あれの一番上に来るのは天界といって、神の世界です。ところがそれは、まだ迷いの世界なわけです。

しかし、菩薩という存在は、この輪廻そのものを超越することが求められます。

密教なんか、もっと極端ですね。密教では、その神々を使役する方法も、行体系にあります。主人は自分、神は従者なのです。もちろんそれは、「悟り」という究極の自由を勝ち取って、それでもって一切衆生を救うためです。そこには、神々に「頼る」とか「従う」といった発想は無いのですね。全く同じ方法論が、中国の仙道とかになると、現世利益に使われるわけですが。この辺の差異は、面白いですね(笑)。

そういう意味では、徹底的な懐疑論者の方が、こういう世界を追求するには向いているのかも知れませんね。ともかく、相手が何であれ、自分の目で確かめる、主導権を放棄しない、というスタンスが重要だと思いますね。僕の経験上も(笑)。

体が硬いということで、だいぶ格闘されてるみたいですね(笑)。

ただ、僕の体が柔らかいかというと、そこら辺はなかなか微妙ですね、前屈できないし(笑)。その逆も真で、例えば僕の知り合いのダンサーなんかは、体はものすごく柔らかいのに、肩凝りがひどい(笑)。

だから、筋肉そのものの硬さと、緊張が解除されている状態、というのは、微妙に違うのかも知れませんね。

手足の末端が冷えるのは、緊張しやすいせいではないか、とおっしゃっていましたが、多分そうだと思いますね(いわゆる、「気が上がる」という状態になりやすいわけですね)。

ですから、そのリラックス感が上手く習得出来れば、末端の冷えは解除できると思いますよ。

そうそう、ご紹介頂いたサイト、興味深く拝見致しました。

こういうサイトを拝見していつも思うのは、一度作者に会ってみたい、ということですね(笑)。そうすればその方の感じているものと、自分の感じているものとを、比較検討出来ますからね。

実際、僕が感じているものがクンダリニかどうかはわからないのですが、こいつをやると全身がものすごく熱くなるのは確かです。内分泌腺なんかと関係があるというのも、理解出来る場所です。

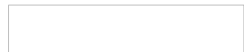
ただヨガの方達の場合、このような現象をどのように実生活で応用していらっしゃるのか、それを知りたいですね。僕は寒い時とかに良くやるのですが、その程度のものなのかなと。もしもっと面白そうな現象があるのならば、教えてくれ、みたいな(笑)。

取り敢えず、お出でになった際に、僕と同じやり方をお教えしますよ。極めて簡単です。そうすれば、お互い比較が出来ますからね。でも、そんな簡単な風にも書いてないし、どうなんでしょうね(笑)。

というわけで、それではまた！

↑よろしければ、是非。

Mark Isham/Vapor Drawings



Vapor Drawings

Mark Isham

JUGEMテーマ：[ジャズ](#)

ジャズ・トランペッターのマーク・アイシャムの、ファースト・ソロ・アルバムです。

彼は、トランペット奏者としてディヴィッド・シルヴィアンのアルバム等にも参加されていますけれど、最近では、トランペッターとしてよりも、映画音楽作曲家としてのキャリアの方が、有名かも知れませんね。

また彼は、マルチ演奏家でもあります。そのようなマルチ演奏家としての才能が、基本的に一人で制作されたこのファースト・アルバムにも、遺憾なく発揮されています。

リリースされたのは、アコースティック系のニュー・エイジ・ミュージックで有名な、ウィンドム・ヒル・レーベルからです。しかしこのアルバムは、そのようなウィンドム・ヒルのイメージが定着しつつあった時期にリリースされた、全編エレクトロニクスの作品ですので、その意味ではこのリリースは、ウィンドム・ヒルにしては、ちょっとしたチャレンジでもあったようです。

本人は、ウェザー・リポート等のエレクトロニクスを多用したジャズ・グループに大きな影響を受けたということで、このアルバムにもその影響は、如実に見て取れます。ちょっとひねったテーマと、それを包み込む独特のアンビエンス感に溢れたシンセの音は、彼の音楽の真骨頂ですね。

彼のウィンドム・ヒルからの作品には、もう一つ、BGVとしてもリリースされた"Tibet"という作品があるのですが、こちらも傑作です。この作品については、またの機会に触れてみたいと思います。

ジャケットもクールな感じで、いいですね。

[Mark Isham](#)

↑よろしければ、是非。

Tさんとの対話(8)～護身術としての禅

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

Tさんの方が千駄ヶ谷近辺のことを、良くご存知なのではないでしょうか(笑)。

国立競技場を津田塾側にずっと歩いていくと、そこに国立能楽堂があって、その前です。むしろ、迷う方が難しいかと(笑)。

そうですか、6月にお出での際は、ご連絡頂ければ嬉しいです。

予約は基本的にキチキチにはしていないので、大丈夫ですよ。日取りが近づいた時にご連絡頂ければ、大丈夫だと思います。

タオ指圧、良く知っていますよ。遠藤晁及さんですね。

うちに、『タオ、気のからだを癒す』という本があります。頂いたものですが、初學者の頃に読んで、参考になった経験があります。

しかし、指圧以外にそのような学校をしていらっしゃるとは、知らなかったですね。

因みに、今ネットを見ているのですが、行ってらっしゃるのは、京都タオサンガセンターですか？メニューもなかなか充実していますね。

これだけ基礎を積まれていらっしゃれば、きっと一指禅功も、大丈夫だと思いますよ(笑)。

思うのですが、指圧にしろレイキにしろ、基本は一緒だと思います。余分な筋肉系の緊張を取り去って、その周辺の血液や組織液の循環を良くすることで、自然治癒能力を発動させる、ということだと思います。

親父の腫瘍の場合が、正にそれでした。以前から猫背気味だったものですから、胸部リンパ節の辺りに緊張が集中しやすかったのではないのでしょうか。

それを矯正することで緊張が除去されて、組織液が上手く入れ替わったのかな、とも思いますね。

このように僕は、様々な現象の原理的な部分を抽出することに、興味があります。科学と一緒にですね。一つの原理原則で、様々な現象を説明する、というのが、科学の基本的なスタンスですからね。

その方が、枝葉末節にこだわらなくても良いので、勉強もしやすいですしね。

こう考えてみると、セクション化された医学と、科学というものは、出自が同じ割には、何だか矛盾しているように感じますね。不思議なことに。

一人でバルセロナに行かれたんですね。すごいですね。僕はブログにはいろいろ攻撃的なことを書く割には、そのようなことをする根性がないので、そのような方はすごく尊敬します(笑)。

手を向けると衝撃が飛ぶ、といっても、多分これは護身用には使えないと思いますよ。これは実は、例の西野皓三さんも言っていることですが、何だ、実生活で使えないんじゃない意味ないじゃん、と彼の本を読んだ時は思いましたけれど、これは事実だと思います。

つまり、相手がそれなりに気を受ける体質でなければ、どうやら衝撃を受けたりはしないみたいですね。

では、全く役に立たないのか、と言われれば、そうではないです。点穴は元々武術用語で、その由来は武術ですからね。気の影響は相手によりけりですが、どの経穴をどの程度の強さで攻撃すればどうなるか、という方は、物理的に普遍ですからね。相手の懐に飛び込んで経穴に向かって発勁して、内臓をグシャグシャに破壊する、というのは、さほど難しいことではありません。怖いこと言ってますけれど(笑)。

でも、例えば少林寺などでは、禅こそが最強の武術である、と良く言いますが、その意味は何となく判る気がしますね。

つまり、禅を修めていると、物事に動じなくなるのですね。そのような人は、攻撃するのは難しい。

これはどういうことかと言うと、彼らは共通の土台に乗らないので、そんな彼らに対して戦闘を仕掛けるのは、実は難しい。これは、甲野先生もおっしゃっていたことなのですから、戦闘というものは、自分と他人が、共通の土台に乗らなければ、そもそも成り立たないんですね。売られた喧嘩は、買われた時に初めて、正式な喧嘩になる。例えば、銃撃戦において一番怖いのは、発砲するのが素人の時だそうです。何故か？プロが発砲する時は、発砲した時の反動を考慮に入れた上で発砲しますから、弾道は安定しています。従って相手から見ると、着弾点は予測しやすい。逆に素人だと、発砲した時その反動でひっくり返りますから、結果として弾道が極めて不安定になります。どこに飛んでくるかわからない。何が起こるかわからない。そういうのが銃撃戦では、一番怖いと。うなずける話です(笑)。意図的であるなしにかかわらず、脅しに乗ってこない人が、一番怖い。その後何をしてくるか、予測が出来ないですからね。

逆に、わざわざ相手と同じ土俵に乗って、そうすることで相手より自分の方に何らかの点で劣った部分があると悟って、不安に駆られてしまうタイプの人がある。これが動じる、ということです。そこに隙が生まれる。攻撃しやすいのは、この手のタイプの人たちです。

犯罪者はそこを見抜いてしまうんですね。人間の心理として、隙のない人は、最初から襲わない。よほどのことでなければ、目つきの鋭い人を襲おうとはしないですよ。もう一つ襲うのが困難なのは、行動が不可解な人たち。まさに『臨済録』の登場人物みたいな行動をする人たち(笑)。こういう心理作戦も、古来より「気の力」と呼んでいたのではないかと、思います。

ですから、そういう意味での護身術としても、禅は使えると思いますね。

まあ、気の本質はどのようなものか、というのは、なかなか書物その他では伝えられないですね。それもそのはず、触覚に負う部分が多いものですからね。

でも、一度だけでも体験されると、お判りになると思いますよ。お出でになった際は、そのようなことも実地でやってみましょうか(笑)。

それではまた！

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

マドリッドのガードマンですか。なかなか凄そうですね(笑)。でもスペインと言えば、数年前テロがあったでしょ？その関係ではないんですか？

それ以前のお話だとしたら、やはり日常的に物騒な場所なんではないかな(笑)。

徹底した観察というのは、なかなか難しいですね。

もちろんおっしゃるように、僕が言うのは、普通に「表情・仕種でわかる」というのとは、ちょっと違うかも知れませんね。あるいは、確かに表情・仕種で読み取る部類に入ることは入るのですが、そのレベルが、尋常ではない。

もちろんここで僕は、ミルトン・エリクソンの臨床例を念頭に置いているのですけれどね。

ああいった記録を読むと、人間の知覚能力にはほとんど限界が無いのだ、ということを再確認させてくれますね。それを実在の精神科医がやってのけていたというのもまたふるっていますが。

僕もそうりたいものです(笑)。

遠隔治療やプラシーボ効果については、古今東西様々な議論がありますね。それをたまにチェックしてみるのも、なかなかオツなものです。

ただ、そのような議論のほとんどは、煎じ詰めて言えば、そのようなものが実在するのかどうか、というもののなのですが、実は僕自身は基本的に、このような議論にはあまり興味がないのです(笑)。

これは、議論を放り出しているわけではないんですね。というのは、このような議論をやっている主体は、西洋医学であれ東洋医学であれ、施術する側がほとんどだからです。それぞれの立

場の施術者が、それぞれの立場のみから議論を行っているに過ぎない。

僕はこの状況に対しては、非常に懐疑的なのですね。

つまりここで根本的に欠けているのは、施術を受けた、患者の側の視点です。

医学は科学である、という意見があります。それはある意味正しいのですが、ある意味正しくはないと思います。というのは、そこには、当たり前のことなのですが、主観性を持つ、人間が介在してくるからです。

つまり、医学の本来目的とすべきことは、患者の病気の治癒です。全ての医学的な議論は、この大原則に基づいていなければならない。当たり前の話ですね。ところがこの極めて当たり前の視点が、医学が進歩するにつれて、忘れ去られてきているような、奇妙な矛盾を感じますね。

この辺に気づいたのは、僕が元々どちらでもない領域から勉強をスタートさせたからなのかも知れません(因みに大学時代の専攻は、経済体制論でした。全然医学とは関係ないですね(笑))。

例えば、ブログで僕の父の胸部リンパ節の腫瘍が消えた、というトピックスを載せました。僕の父は絵を描くのですが、彼に絵の指導をしている人物が、実は大阪市内在住の医師らしいのです(因みに、僕はお会いしたことがありません)。その人物に父が、自分の症状のことを話したらしいのですが、その途端、烈火の如く怒り出したそうですね。「そんな馬鹿なことがあるか!」と。馬鹿なことと言ったって、僕が言うのであれば眉唾でしょうけれど、目の前に元気になった当の本人がいて、その人が言っているわけじゃないですか(笑)。

でも、そのような「正当の」医学から見れば「いかがわしい」としか言いようのない技法でも、命を救われたと主張する患者さんが現に存在するわけで、そのような人の存在を最初から議論の対象外として無視してかかるというのは、それこそ科学的どころか、逆に政治的でさえあるように思うのですけれどね。

まあこのような父の一件で分かったことは、人間の潜在的な能力は計り知れなくて、それを上手く発動させればかなりの問題がクリア出来るかも知れない、ということですね。

そういった意味で、遠隔治療(ただし僕が興味があるのは、神秘主義のそれではなく、エリクソンのようなものなのですけど)も、プラシーボ効果も、とても興味深いトピックスだと思いますね。

ところで、Tさんにご報告があります。

これは4月1日付けでブログおよびHP上で発表する予定なのですが、この度諸般の要請によりまして、事務所を東京都へと移転させることになりました。

JR千駄ヶ谷駅から徒歩4分。国立能楽堂の真正面です。

因みに、ここを仲介してくれたのは、南青山在住の不動産会社社長兼気功家で、Tさんにご紹介頂いたブログのお勧めボックスにあった『あるヨギの自叙伝』と『神との対話』が座右の書という、奇々な方です(笑)。

以前Tさんが、東京に行かれることがあれば、とおっしゃっておいででしたので、ご報告しておきます。

もし都内にお出でになられることがございましたら、お声をお掛け頂ければ、幸いに存じます。

それでは季節の変わり目につき、どうかご自愛下さいませ。

↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

なかなかそれは困った問題ですね。

ぶっちゃけた話、気を満たして万引きを起こさせないようにする、というのは、あり得ると思いますよ。神秘的な意味では全く無く。

例えば、ガードマンが常時見張っているような銀行とかで、店内の備品とかを盗もうとするのは、相当勇気が要りますよね。ましてやお金を盗ろうとすると、相当の準備が要る。いわゆる銀行強盗ってやつですが(笑)。

このように考えていくと、逆に、盗み易い場所というものも、十分に考えられる。店員さんが優しそうだとか、おっとりしているとか(笑)。

つまり、心理的な要素ですね。

実は、風水というものを詳細に検討していくと、このように心理的な効果を狙ったものが、少なからず存在します。

メールではちょっとご説明しにくいのですが、例えば、どこそこの方角に木を置くと良い風水になる、ということがよく言われたりしますが、これは僕の考えでは、その方角と木との相関関係というよりも、そこに木をセットすること自体に意味があるのではないかと、思います。

ですからTさんの場合も、考え得る対策としては、ものを盗みにくい場所とはどんなものだろうか、みたいなことについてちょっと考えてみる、ということも、良いトレーニングになるのではないかと、思います。もちろん、深く考える必要はないんですけどね。サブリミナル的に考える、という感じでしょうか(笑)。

例えば、お買い物をされている時に、もし自分が万引き犯だったとしたら、ここは盗み易いかどうか、と考えてみるとか。あまりいい趣味ではないように聞こえますけれど(笑)、でも思考実験として、やって損は無いのではないかと、思います。それを踏まえた上で、万引きをしにくい環境に、ご自分の職場を変えていく工夫をする、というのも、手だと思います。

このように、「気」の世界というものは、かなりキャパシティが広いものだと思いますね。僕

はHPなどでは、意図的に、心理的な効果を除外してトピックスを書いています。というのは、気＝心理的なもの、というのが一般の人の考え方ですからね。僕はそうではなく、気というものは、心理的な効果を除外しても、十分に説明し得る代物だ、との観点から今までずっと探求を続けてきました。実際、心理的な効果を除外した状態で、気のコントロールは出来るのですけれど、これに心理的な効果を加えるとなると、もう鬼に金棒になっちゃいますね(笑)。

この観点から言えば、そのような「気」のコントロールで重要になってくるのは、「観察」という態度です。しかも生半可なものではなく、徹底的な観察です。

これに慣れてくると、他人の現在・過去・未来、あるいは考えていることなどは、ほぼ完璧に読み取れるようになります。読心術というものは、意外と簡単なのですね(笑)。

でも実は、それだけではないのだ、ということに、最近気づいてきました。

「観察」などと言ってしまうと、何だか受身的な印象を受けますが、実はそうではないのではないか、と考えています。

例えば、仏教などで「常に覚醒していなさい」、「目覚めていなさい」とよく言われますね。これだけ聞くと何だかスタティックな、あるいはその逆に多分に神秘的な状態を想像してしまいがちですが、実はそうではないのではないか、と思います。それどころかこれは、私達が生きていく上で、極めてパワフルなツールとなり得ると思います。ここら辺に関しては、目下研究中、ないしは実験中なのですから。

また、お話のあった遠隔治療というものの存在は、僕も興味がありますね。

ただし、施術者が何万キロも離れたところからエネルギーを送って患者の病気を治す、みたいな言説の中で仮定される、"時空を超えた"不可思議なエネルギーの存在については、僕は懐疑的なのですけれど。

と申しますのは、そのような不可思議なものの存在を仮定しなくても、そのような遠隔治療というものの実用性は、明らかだからです。

この点に関しても、一度ブログで触れたミルトン・エリクソンの症例集が何かをお読みになっても、損は無いかも知れませんよ。結構傑作です。そのような遠隔治療的な症例もあったりして、傍から見れば完全に"超能力"なのに、本人はそれを徹底的に否定している。超能力研究者をおちょくった実験で相手を煙に巻いたりとか。人間的にも非常に共感します(笑)。

このような彼の症例集を読むと、人間の意識には、私達が想像している以上の物凄い可能性が秘められているのだ、という気がしますね。

最後に、機械で波動を整える、というものに関しては、中国ではそのような機械が売り出されているみたいですね。名前はズバリ、『気功器』(笑)。これは特定の電磁波を照射するといった感じの、良くありがちなパターンですね。

このように、波動を整えることで症状の改善を図る、という考え方は、例えばディーパック・チョプラ氏などが有名ですね。もっとも僕は、彼らのように、量子力学などの複雑な理論を援用しなくても、電磁気学や電気生理学などで十分に説明可能なのではないかという気がするんですけれどね。

この辺りの問題に関して、この手の研究者の人達と、一度じっくりと議論してみたいですね。

それではまた！

↑よろしければ、是非。



Tさんとの対話(5)～気功と武術

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

見た目は重要ですからね。特にパフォーマンスとかされる方の場合は、そうではないでしょうか(笑)。

でも逆に、実践というものは、地味なものですよ。

例えば、昔のカンフー映画などでは、立会いの前に構えたりしますね。だけどころこういうことは、実践ではあり得ないわけです。流派がバレバレ、つまり手の内バレバレでしょ？こんなに危険なことはないわけで(笑)。

ですから実践の場合では、正に、一撃必殺の技が用いられます。しかもわからないように。

僕が赤陽先生について通背拳を習っていた時に、彼がよく言っていたのは、単純に相手を倒すための技であれば、複雑な型を延々と練習するのではなく、簡単なものを完全にマスターする方が、よほど実用的だ、ということですね。例えば太極拳などでも、24式全部やらなくても、起勢だけでもやり方次第で、十分凶器になります(笑)。こういった話は、ほとんど外部には漏れないですからね。

一指禪功の場合もそうだと思いますね。武術としての一指禪功のイメージとしては、相対した瞬間に相手が倒れる、といった感じでしょうか。こんな話があります。劉先生がフィリピンのショッピングセンターで、偶然万引きの現場を見た。その犯人と目が合った瞬間、相手ははじき飛んだらしいですね。

こういうのが本当の気功なのかも知れないですね。

こういう話は、僕自身も以前は眉唾だと思っていたのですが、昨年僕の目の前で、精神科の先生がのた打ち回るのを見て、考え方を改めました(笑)。

そういう意味では、Tさんがおっしゃっていた相手の邪気を利用する、ということに関して言えば、こういう技術にはおっしゃるような要素も含まれると思いますよ。単純に考えれば、陽気で人が治るのだとすれば、その逆に、邪気で人を殺めることができるわけですからね。

ただこの仮説が正しいとして、では一指禪功ではそのような邪気をどう扱うかについては、僕

は全くわからないのですけれど。そこが秘伝なのかも知れないですね。

因みに、腕の良過ぎる気功家の夫は持たない方が良くも、とのご指摘は、当たらずとも遠からずかも知れませんね。僕も散々言われてきましたから。「熱いからあっちへ行け」とか。なかなか世知辛いものです(笑)。

そうそう、遠隔治療に関してのトピックスをご紹介頂けるとのことでしたが、残念ながらリンク先が削除されてしまっていました。もし良かったらまた教えて下さい(笑)。

それではまた！

↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

最近は断食が、ちょっとしたブームのようですね。僕のところにお出でになるクライアントさんの中にも、断食を経験したことがある、とおっしゃる方が、何人かいらっしゃいました。

元来喰い意地がはっている僕自身は、まだ試したことは無いのですが(笑)、東洋の身体技法を研究していると、仏道修行者のそれに限らず、断食というのはかなり頻繁に出てきますので、自分なりにそのメカニズムについて、研究したりもしました。

僕が見たところ、断食というものは、二つの切り口があるように思います。一つは毒素の排出。いわゆるデトックスですね。多分最近の断食ブームの影にあるものは、こちらの要素ではないだろうか、という気がします。それに関しては、僕が改めて申し上げるまでも無く、様々な情報が出ておりますので、詳しくはそちらをご参照いただければ、と存じます。

そしてもう一つの切り口というのは、潜在能力の開発ですね。

以下は、先だって古武術の研究家として有名な甲野善紀氏の公開講座に参加した時に、東洋の技法にはまだまだ知られざる可能性がたくさんある、という文脈の中で、彼が話していたエピソードです。

彼の知人らしいのですが、その方が原因不明の神経性の難病にかかれたそうです。西洋医学としては、対処の仕様が無い。このまま症状が進むと、全身の筋肉が縮小してしまうだけでなく、中枢神経が犯されて絶命する、余命数年、との診断が下されたそうです。

その方は藁をもすがる思いで、断食療法を試すことにしました。

断食療法には様々なやり方があるようですが、その方が試みたのは、野菜をミキサーその他で圧縮して、そのエキスを飲む、といったやり方だったようです。

そうするとすぐに、体重が増え出した。この体重が増えるというだけでも、主治医を驚愕させるに、十分であったそうです。

結果どうなったか？今では完全に回復されたそうです。しかも摂取するものは、先にも申し上げたエキスだけ。水分とカスを除去すれば栄養分は一つまみ分しかない状態にもかかわらず、そ

の方は普段と何も変わりなく、お暮らしたとか。

彼はここで、腸内のバクテリアの働きについて、補足していらっしゃいました。実際その方の腸の中のバクテリアを調べてみると、そのようなエキスを含まれるわずかな栄養素から、体内に必要な全栄養素を抽出・合成する働きを持つバクテリアの数が、通常の数十倍以上であったとか。そう、その方の腸内は、まさに「ウシ」並みになっていたのです。

このような話は、他にもありますね。パプア・ニューギニアの山林で暮らす部族の中には、タロイモしか食べない部族があるそうです。しかし彼らは、筋骨隆々。その肉体美は、日本人など足元にも及びません。言うまでもなく、彼らの腸内を調べてみると、タロイモの炭水化物を、筋肉の元になるアミノ酸などに変換してしまうバクテリアの数が、尋常ではないそうです。

こう書いているうちに、ある人物を思い出しました。

かれこれ8年くらい前のことなのですが、僕が師匠のところの研修に行って、そこから懇親会が行われる中華街へ移動する時に乗った、タクシーの中での話です。運転手のおっさんが、タクシーに乗った僕達が気功の練習をしている、という話を聞いて、非常に興味を持ったようです。ところが僕にとっては、おもむろに彼が語り始めた彼自身の奇怪な話の方が、より興味深かったのです。

彼は、一週間にうどん二杯程度しか食べない、と言っていました。一日ではありません。一週間にです。彼は、何がきっかけだったのかはわからないのですが、野菜や果物を、生で食べることを始めたそうです。しかも丸ごと。りんごの芯などは言うに及ばず、バナナなども皮ごと食べるのだ、と言います。そうこうしているうちに、お腹が全然減らなくなった。次第に食べる量が減ってきて、今では一週間に立ち食いそば屋でうどん二杯程度食べれば、それで十分だ、と物凄いことを言います。

ふと思いついて医者へ行って検査を受けてみると、驚いたことに、唾液がほとんど胃酸に近い組成になっていて、食べると同時に消化が始まるようになっている、と言われたとか。かといって歯が溶けるわけでもない。医者は、「完全に異常体質です」と太鼓判を押したとか。

でも、見た目は全く、普通のおっさんです。今横浜で引っ掛けた女子高生二人と、カラオケ屋に行って二時間ほど歌い込んで来た帰りだ、とわけのわからないことを言っています。品行にはかなりの問題がありそうですが、僕には、うちの師匠よりも、このおっさんの方が、よっぽど仙人のように思われました(今でも、あの時に名刺を貰わなかったのが、本当に悔やまれてなりません。皆さんの中で、横浜市内でこのおっさんの運転するタクシーに乗った方がおられましたら、是非ご連絡下さい)。

食養生研究家の幕内秀夫氏は、その著作の中で、「人間の体は、空腹に耐えるメカニズムを持っているが、逆に、満腹に耐えるメカニズムは持っていない」と指摘しています。確かに歴史上、今日ほど人間がたくさんの食べ物を口に入れるようになった時代はありません。それが逆に、私達の古来から持っている潜在的な能力を阻害している可能性は、もしかしたら、否定できないのかも知れません。

生物が危機的な状況になった時、自然と発動される自己防衛本能には、物凄い可能性が秘められているのではないか、ということを、これらのエピソードは、想像させてくれます。そういう意味では、断食は良いトレーニングになるのかも知れませんね。

そう言えば僕の場合も、一日に食べるのは、玄米一合と味噌汁二杯、それに漬物数切れだけです。永平寺より貧しいことは、まず間違いないと思います。その生活を、15年近く続けていますが、その間、お医者にかかったこともなければ、薬も飲んだことがありません(歯医者以外)。

それも一種の、緩慢なる断食なのかな～、とったりもして(笑)。

↑よろしければ、是非。



Tさんとの対話(3)～経絡と皮膚記憶、滝行の生理学

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

こちらこそ貴重な情報をご提供いただきまして、真に有難うございます(笑)。

ざっとご紹介頂いた記事を見てみたのですが、冗談抜きで、貴重な記事ですね。

傳田光洋さんですか。恥ずかしながら、存じ上げない方でした。しかしながら、僕の考えとも相通ずるところがあって、どうやら研究する価値、大のようです。

びっくりしたのは、『傳田ミツイー再び』にあった、「経絡の存在を脳の中で想定する」、といった下りです。実は僕も、そう考えているのです。

気功をするようになって、経絡に関する文献をもう一度探してみたりはしたのですが、そこにあるのは皮膚の熱伝導や電気抵抗に関するものばかりでした。しかしながら、それだけでは説明が付かないような現象も、自分の周りで起こり始めたんですね。

例えば、これをお話しするのはTさんが初めてなのですが、僕が自分自身にツボ療法をやる場合、指を用いる方法の他に、独自のやり方をする場合があります。

それは、経穴に「イメージで鍼を打つ」ということです。

これは慣れてくれば、簡単に出来ます。例えば冷え性の場合でしたら、足の指の先端(いわゆる井穴ですね)のそれぞれに、「イメージで」鍼を打ち込みます。すると確かに、古来より経絡と呼ばれるルートに沿って、熱のようなものが流れていきます。

これを発見したのは偶然だったのですが、寝る前に布団の中とかで出来ますから、とても便利なのです(笑)。

しかし、そう考えるとすれば、経絡というものの自体は、どう説明したらよいのでしょうか？現に僕はツボには、全く指を触れていないわけですからね。でも、ツボ療法と全く同じ感覚と、効果が、僕の体に生じる。

もしかしたら経絡というものは、皮膚ではなく、脳の中にあるのではないだろうか、そう考えるようになったのは、その時からです。

例えば、目の痛みを緩和する経穴は、『太衝』といって、足の甲にあります。でも、何故こんなところへの刺激が、目の痛みを緩和するのでしょうか？

それに対しては、先ほども申しましたように、その経穴が存在する『肝経』と呼ばれるルート上の熱伝導率などが研究されてきたわけですが、仮に、その太衝の周囲を司る脳神経系と、眼球を司る脳神経系が、ごくごく近いところに存在するとすれば、説明はし易いのではないのでしょうか？

こんなことを考えているのは僕だけなのだろうか、と思っていたのですが、やはり研究されていらっしゃる方はいらっしゃるんですね。とても嬉しい気持ちです(笑)。

ご指摘の通り、僕も、皮膚の感覚あるいは知覚というものは、十分に研究してみる価値がある、と思いますね。

気が主に作用するのは、恐らく、その領域だと思います。だからこそ、「不立文字」なのですね。触覚だけは、正に触れてみなければ、絶対に伝わりません。ネットがいくら発達しても、こればかりは恐らく無理でしょうね(笑)。パーソン・トゥ・パーソンでしか伝えられないという「秘伝」というもののからくりは、ここにあると思います。伝えたくても出来ないわけです(笑)。

でも、それが引き起こす現象は、結構馬鹿に出来ないものもある、と思います。

今ブログで、『ある精神科の先生との対話』というシリーズをやっていますが、実はその先生のお宅で、レッスンをした夜の事です。僕と先生は、別々の部屋で眠りました。すると先生が、次の日の朝、奇妙なことを言うのです。夜中僕が、自分の枕元に立っていた、と。それを見て文字通り、飛び上がったそうです(笑)。

そこで二人して、これはいわゆる幽体離脱なのだろうか、みたいな議論が始まったわけですが(笑)、彼はその時、「皮膚記憶」という面白い現象について、言及されていましたね。もしかしたら彼の皮膚の神経系あるいは感覚細胞が、施術をした僕の指の感覚を覚えていて、それが眠っている時に、何らかのきっかけで、意識上に突然浮かび上がってきたのではないかと。

僕もこの意見に、大いに賛同しますね。そうでなければ幽体離脱ということになってしまいますが、そんな風に、僕の知らないところで僕の魂が出たり入ったりされていては、たまらないですからね(笑)。

心理学関係の本で、よく意識と無意識とを氷山に例えて説明したりしていますけれど、こういった無意識の領域では、そのような皮膚感覚も、かなりの範囲を占めているのではないか、そういう気がしますね。

あと、2、3、面白いな、と思ったトピックスに触れさせていただきますね。

まずは、アイソレーション・タンク、別名サマディ・タンクですね。東京で2回やりましたよ(笑)。

都内で宮部さんという方がなさっているのが、その内の一つなのですが、なかなか面白かったですね。因みに彼は、J.C.リリーの直弟子です。

彼と気功に関する議論も、かなりしましたね。彼がおっしゃるには、僕の言うことは、田口ランディさんに似ているそうだとか(笑)。

もう一つは、おでこのチャクラ、アジナ・チャクラですね。

僕の知人で、ものすごく靈感が強い方がいらっしゃるのですが、その方はイライラすると、おでこを押さえます。音楽療法グループのリーダーさんなのですが、怒り出すと額に手をやるので、何やってんだろうなー、と思っていたのですが、そこを押さえなければ、「抜け殻になりそうになる」からだ、とか。

いつの頃からか、誰に教えてもらったのでもなく、やり始めたようですね。だから、手塚治虫の『三つ目がとおる』を見た時、あ、これだ、と思ったらしいです。額に絆創膏を張る意味は、よく理解出来ると(笑)。

因みに、そこがチャクラだとか上丹田だとか呼ばれる場所だ、という知恵を吹き込んだのは、僕なのですけど。だから辞めさせてくれないという(笑)。

もう一つ、滝行です。

僕は根性無しなので、その手の体育会系の行はやったことはないのですが(笑)、僕の友達をよくやっていました。女性なのですけどね。因みにその方は、僕のブログに時々ご登場頂く、もう一人の靈感系の女性です(笑)。

ある時親と親戚に連れられて(こういうのも果たしてどうなのかなーとか思いますけれど)、伊勢の奥宮にある、純然たる行者しか立ち入ることが出来ない滝に、打たれに行ったらしいですね。

ものすごく冷たい滝で(当時は5月だったと思います)、30秒ほどしか耐えられないらしいのですが、その後異常に、体が軽くなったらしいですね。

本当に異常なほどで、今までの人生は一体何だったのだろう、と思ったほどらしいです。

親や親戚はそこで、あんたの「憑きもんさん」が落ちたんや、とか言っていたらしいですけど、僕はそれを聞いた時、このメカニズムは何だろう、その化けの皮を剥いでやる、と思ったんですね。僕の性格上(笑)。

もしこの現象を科学的に説明しようとすれば、「リバウンド効果」というのが、その理由として、有力かも知れません(ダイエットのリバウンドじゃないですよ(笑))。

これはスポーツ選手が、打ち身などの外傷の治療に、良く使うようです。例えば、冷水に腕をつけると、血管が収縮しますね。その後冷水から、腕を放します。

するとどうなるか。血管が元のように拡張するのですが、この時血管は、冷水に腕をつけない状態よりも、はるかに拡張するようです。こうして患部に新鮮な血液を大量に送り込むことで、治癒を図るそうです。

僕は滝行の効果は(精神面での鍛錬という要素を除けば)、ここにあるのではないかと考えているのです。

まあ僕は、先ほど申しあげました通り文科系ですので、あまり試してみよう、とは思わないのですけれどもね。それよりは、師匠の言う「低温熟成」の方が、性に合っているかな、と(笑)。

以上、Tさんのブログで先ず興味を惹かれたトピックスについて、僕なりの感想を述べさせていただきました。トピックス自体もボリュームがありますので、後ほどじっくりと再読させていただきたい、と思います(笑)。

あと、練功に関しては、以前申しあげた補助手法をお使いになりながら、バイオ・フィードバックを念頭に置かれて進まれたらいいと思いますよ。お腹が温かくなってきた、とおっしゃるのは大成功です。そういう感覚もなしに気功教室に通っていらっしゃる方は、全国にゴマンといらっしゃるわけですから(笑)。

もう一つ、アレルギー関係の問題は、馬鹿に出来ない、と思いますよ。ブログにも書きましたけれど、うちの親父の場合もそうでしたからね。あれからハロゲンヒーターとこたつには、絶対に近づこうとしません。もしかしたら、この二つから出る化学物質か電磁波が、問題だったのか

も知れませんね。でも原因がわかれば、あとはそれを避ければ良いだけの話ですから。

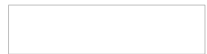
でも、ノミ取り首輪はやっかいですね。取り去るわけにもいかないし・・・。難しいところですね(笑)。

というわけで、更なる練功の効果を期待しております！

↑よろしければ、是非。



Keith Jarrett/Staircase



[ステアケース](#)

キース・ジャレット

JUGEMテーマ：[ジャズ](#)

キース・ジャレットと言えば、『ケルン・コンサート』などの長尺なソロ・インプロヴィゼーションでよく知られていますが、その意味ではこの作品は、ちょっと変わっていますね。

制作されたエピソードも、また風変わりです。ヴァカンス先のフランスの片田舎で散歩をしていると、突如として靈感が湧き上がったので、取り敢えず近くにあったスタジオに飛び込んで、一気呵成にレコーディングしたのだとか。エンジニアさんも、さぞびっくりしたのではないのでしょうか。

先の『ケルン・コンサート』などでは、聴衆が目の前にいるわけですから、彼ら相手のバトルのような弾きまくりのホットな即興演奏が、「これでもか！」とばかりに続くのですが、この作品の場合は、誰もいないスタジオの中での演奏ですので、ステージの上とは、ガラリと雰囲気違います。また一曲一曲も割と短めで、それらには、「砂時計」ですとか「日時計」といった、ドライなタイトルがつけられています。

そのせいもあってか、全体としては、非常に静謐な感触を受けます。純粹にピアノの音を楽しみつつ、その心の目はその向こう側にある広大な心象風景を見ている、といった感覚でしょうか。

ビル・エヴァンスの作品に、『自己との対話』という名作がありますが、そういう意味ではこれは、ジャレット版『自己との対話』といっても過言ではないと思います。ナルシスティックな彼には珍しく、「自己表現」とは思えないのがミソですね。非常にクールな作品です。

[Keith Jarrett](#)



↑よろしければ、是非。

Tさんとの対話(4)～一指禅功のダークサイド、チャクラの存在

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

道場破りはかなり行きましたよ。ブログにご紹介しているのはほんの一部分です。がっかりさせられたものなどは、さすがにブログには書けないですからね。お陰様で、良い勉強になりました(笑)。

ですから、僕のところにお出でになる方にも、積極的に道場破りを薦めているんですよ。こんなことをしているのは、日本全国で僕だけでしょうけれど(笑)。というのは、僕のお教えすることが有効かどうかは、僕が決めるべきことではないですからね。もちろん僕は正直にお教えしてはいるんですが、それがその方にとって役に立つかどうかは、ご自分でお確かめ願うより他ないわけです。ジャック・ラカンも言っていますね。「私は常に、真実を語ります。ただし、全てではありません。真実の全てを語ること、それは出来ない相談だからです」(『Television』1974)

またその事後報告を伺うことで、僕自身も勉強になりますからね(笑)。

一指禅功のダークサイド、気になりましたか？(笑)。

それではここで、Tさんだけに、そのダークサイドの一端を、ご紹介することと致しましょう。

例として『北斗神拳』を挙げていらっしゃいましたが、それは実は、当たらずとも遠からず、なのです。経絡秘孔にアプローチするのは、両者同じです。でもここからが違うんですね。北斗神拳の場合は、体の中からボン！となってしまうわけですが、一指禅功の場合は、もっとエレガントかも知れませんね。

つまり、一指禅功を用いて我々は経絡を流通させることで病気を治すのですが、この逆を素直に考えれば、その経絡の流れを止めることも、可能なわけですね。

つまり、相手と相対した時、経絡秘孔を攻撃するのは両者同じなのですが、一指禅功の場合は、そのやり方で、相手の経絡の流れを止めてしまうわけです。例えば、経絡に「肺経」というものがありますね。それを一指禅功のやり方で攻撃すると、肺経の機能が失われます。するとどうなるか。相手は呼吸が出来なくなり、そのまま死に至る、というわけです。心経の場合であれば、心臓ですね。しかも体には、何のダメージも見つけることが出来ない。見つけたとしても、それは科学的、医学的に立証不可能。文字通りの完全犯罪ですね(笑)。

武道に「活殺自在」という言葉がありますが、正しくその言葉通りです。そしてそのライトサイドとダークサイド両者について完全に通暁している人物でなければ、この法脈を継ぐことが出来ない、と、こういうことみたいですね。

もちろんこの流派は、「気」をメインに使うわけですから、その使い方もいろいろありますが、さすがにそれはブログやHPには書いていないです。そのような不思議な現象を、科学的なやり方で説明出来ないだろうか、と自分なりにいろいろ探求している、というのが現状かも知れないですね。

それに、そのからくりが本当にわかったら、自分でも使いこなせるということにもなるし、その方が説明に説得力も出るかも知れないですからね。

また、靈感系の方で、おでこ辺りに独特の感覚を覚える、とおっしゃる方は多いみたいですね。

僕のブログで、Tさんがまだお読みになられていない箇所に出てくる靈感系の女性も、そうでしたね。頭が痛くなるのは決まって、前頭葉付近だと。いわゆる、アジナ・チャクラと呼ばれる部分ですね。

思うに、彼女達の場合はイマジネーションが強過ぎることで、前頭葉に物凄い負荷が掛かって、そのために頭痛がするのかな、とも思います。僕が今までトラブってきたのは、彼女達のイマジネーションによるが多かったわけですが(笑)。

因みに僕も、そのようなチャクラというものがどうも存在するらしい、というように思い始めたのは、やはり体感からですね。

例えば坐功をしていると、おでこがハト時計みたいに、パカパカ開いたり閉じたりする感触がするんです。また、頭頂部にはサハスララと呼ばれるチャクラが存在すると言われますが、確かにそこにも、異常な感覚を感じます。感じるどころか、坐功をしているとそこにすごい衝撃が掛かってきて、しまいには、その辺りから膿みたいなものも出始めます。練習を始めた頃は、大変でした。結構痛いですからね。またそれが、内分泌器官と関係があるのではないか、という説にも頷けます。というのは、全身がものすごく熱くなってきますからね。それは純粋に、生理学的な反応だと思います。

そんな時師匠に、「あんたは第三の目が開いているが、それは極めて危険なパターンだから気をつけれ」とか言われたりもしましたが、気をつけるっていったって、どうやるんですか？みたいな(笑)。

それで奇怪なビジョンを見始めるということは、僕にはないのですが、でも人の未来や考えていることがかなりの程度予知できるようになる、ということはあるですね。まるで映画を見ているような感触なのですけどね。そういうことは確かにあります。

なかなかこういう世界は、面白いですよ。奥が深くて(笑)。

↑よろしければ、是非。

やわらぎ気功クリニック米沢セッション

謹啓 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度は、お忙しいところ、やわらぎ気功クリニック米沢セッションにご参加いただきまして、真に有難うございました。

セッション自体もさることながら、皆様との自然療法や薬学、人間の潜在的な能力に関する議論は、私にとっても非常に示唆的で、大いに勉強になりました。

またその夜の、囲炉裏を囲んだ米沢名物芋煮会での鍋やだだちゃ豆、フレッシュなリンゴの美味しさは、今でも忘れることが出来ません。少々食べ過ぎちゃいましたけれど(笑)。

お教えさせていただいた一指禅功は、私がこれまで学んだ中でも、最もシンプルで、かつパワフルな気功法です。その要諦は、申し上げました通り、丹田の場所と、リラックス感覚、この二つです。願わくは、皆様がこれを自家薬籠中の物としていただき、皆様の心身の強健と、潜在能力の更なる活性化に応用していただければ、これに勝る喜びはございません。

最後になりましたが、ご参加いただきました皆様、快く練功場所をご提供下さいました『どんど庵』のオーナー様、また今回のセッションをオーガナイズして下さいましたY様に、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

また近い内に、皆様と再会出来ますことを、心より楽しみにしております。

この度は、真に有難うございました。

合掌

やわらぎ気功クリニック東京 中原勇一 拝



JUGEMテーマ：[個展](#)

私と臼木氏との出会いは、偶然でした。

私はいつも、銀座にある『ギャラリー銀座一丁目』の真木オーナーにお世話になっているのですが、ある時、大阪在住の友人から、真木さんに、京都の芸術系の学生である、自分の知人を紹介していただけないだろうか、という依頼を受けました。

私は彼女と京橋で待ち合わせて、『ギャラリー銀座一丁目』へと向かったのですが、ちょうどその時、そこで開催されていたのが、臼木氏の個展でした。

作品から何となく漂うダークなテイスト。私は入り口に貼り付けてあるDMを見た時、いい感じの作品だな、この作風は、僕の好みだな、と思いました。

そのまま彼女とともにギャラリーへ行くと、そこにちょうど、臼木氏がおられました。

僕は彼女を、真木さんへご紹介すると、真木さんは逆に、臼木氏を僕たちに紹介して下さいました。その時ふと真木さんが、「この方、作曲家でもあるのよ」とおっしゃったのですが、その時、彼の目が微妙に光りました。「ほう、作曲家なんですか。どんな感じの作品を作られるんですか？」と彼は僕に尋ねました。その時僕が何気なく使った、"ドイツ系のシンセサイザー"という言葉が、彼のツボに、完璧にはまったようでした。

実は彼は、大のシンセサイザー・フリークで、一時期は、何と100台以上のシンセサイザーを所持していたとか。影響を受けた音楽家は、いうまでもなく、Tangerine Dream、Klaus Schulze、Kraftwerk、Cluster、Michael Hoenig、Ash Ra Tempel・・・。そう、言うまでもなく、"あの辺"だったのです。結局僕たちは、本題である彼女の存在は完全に忘れて、シンセの話で、異様なほどに盛り上がったのでした(笑)。

その時、「次の個展の際には、是非中原さんに音楽をやっていただきたいですね」とおっしゃっていたのですが、何せ多忙な彼のことでしたから、なかなかそういう機会には恵まれないかも、と思っていました。しかし、今月になって正式に依頼を受けまして、この度、彼の個展のための音楽を、制作させていただきました。

今までは、舞台のための音楽が制作の中心だったのですが、今回はギャラリーのための作品

です。かのBrian Enoも、ギャラリーのための作品を数多く制作しており、僕としても、一度そういうことをやってみたい、と常々思っていたので、まさに願ったり叶ったり、といった感じでした。彼から、「悠久・幽玄・神秘・原点回帰・時間・遠い記憶・ゆめ・水底・静謐・潜在意識etc、といったイメージで・・・」という話があったのですが、「あ、Popol Vuhですね。OKです」で打ち合わせは終わりました。さすがに趣味が共通していると、話は早い(笑)。

今回は僕としても、かなり実験的な試みをさせていただきました。いつも作曲に使っているソフトウェアは、Ableton Liveなのですが、これを使って、グラフィック・ノーテーション的な発想で偶然性を加味しつつ、完全にメカニカルに、かつ自動的に(!)制作してみました。この辺りは、John Cageの影響ですね。そうやって出てきた音に、Terry Riley/Fripp & Enoばりにテープ・ループ(もちろんVSTですが)をかませて、そのセッションにHarold Buddが乱入して、さらにその音をDavid Sylvianが処理した、みたいな感じに仕上げてみました。要するに、"あの辺"の、完全にアマルガム状態です。ダークサイド・オブ・アンビエント(笑)。

彼の作品は、「幻想的」という言葉で形容されるのかも知れませんが、言うまでもなく、それだけではないですね。そこには、"幻想"というものが必ずはらんでいる、単なるオプティミズムとは別種の、一種独特の"ダークネス"が存在していて、それが作品全体の緊張感を高めています。前者だけだったとしたら、僕は彼の作品に、ここまで惹かれなかったと思います。それはまさに、僕たちがともに愛する、ドイツ系エレクトロニック音楽にも当てはまります。ここに彼にいただいたDMがあって、そこには『ときのみたゆめ '80?』という作品がプリントしてあるのですが、その作品に描かれているようなダークな色彩のスペクトル変化は、とても好きです。

そのようなメタモルフォーゼするスペクトル変化を、音で表現できたとしたら、僕としてもとても嬉しく思います。

というわけで、臼木英之氏個展『臼木英之展 '08～ときのみたゆめ』、是非ご来場下さい。

<臼木英之展 '08～ときのみたゆめ>

2008年9月22日(月)～10月1日(水) 11:00～19:00 会期中無休

[金井画廊](#)(3F)/[ドウ画廊](#)(1F) 同時開催

(〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-8 仲通りビル3F

TEL/FAX 03-5250-0860)

臼木英之

銀座での個展を中心に、国内外で精力的に作品を発表。

個展回数は40を越え、油彩と漆を融合した独自の抽象画で知られる。

NHKドラマ「ハゲタカ」「新マチベン」では、美術協力スタッフとして参加、メインセットに多くの作品を提供した。

近年は壁画、ステージ美術、具象画、立体作品と、その表現の幅を拡大している。

(以上、ギャラリー銀座一丁目の作家プロフィール紹介欄より抜粋)



↑よろしければ、是非。



Tさんとの対話(2)～皮膚のトラブルに対する内気治療のやり方／食事について

Tさんへ

そう言って頂けると、嬉しいですね。私はあちこち行ったり来たりしていますので、地元のクライアントさんには、始終ご迷惑をお掛けしておりますからね。

そんな私でも、そのような評価を頂くことが出来ると、とても嬉しく思います。

これからも頑張ります（笑）。

なるほど、アレルギーですか。それはお困りですね。

トラブルとしては、かゆいだけですか？皮膚に異常は出ていませんか？

ところで、前回アップした丹田のトピックには、意図的にオープンにしていない応用編がございましたね。

HPでは、特定の場所に指を当てて、その部分の感覚を保持することで、丹田やチャクラの場所を確認する方法について、触れました。

それは実は、実際の患部にも使えます。

Tさんの場合ですと、皮膚のトラブルということになりますが、その場合でも応用出来ます。

気になる場所に手を当ててからその手を離し、しばらくその手が触れていた感触を、保持するのです。

これを一日何回か、しばらく続けてみて下さい。効果があるかも知れません。

この方法は、以前アトピーで悩んでおられる方に、お教えしたことがあります。

この時はメールでのご相談だけで、実際に施術したわけではなかったのですが、しばらくして、「あれだけひどかったアトピーが、ずいぶんと良くなりました！」とお礼のメールを頂きました。

HPでは、科学的に、「バイオ・フィードバック」という言葉を用いて、ご説明したわけですが

、これが正に、気功の分野で古来から言われる、特定の場所に「気を集める」というやり方の、最も簡単なものです。

この高等テクニックとしては、痛みやかゆみそのものに気持ちをおいて、それを出来るだけ保持するというやり方もあります。

これは、医学的にも、説明が可能かも知れません。痛いとかかゆいとかは、患部の脳に対する改善要求ですね。それに対して、それに応じたホルモンなり何なりを脳が生成して、患部に届けることで、症状を緩和させるわけです。これを意図的に行うわけですね。痛みやかゆみに集中することで、脳に更なる改善要求を行う、といった感じでしょうか。

慣れてくると、結構便利ですよ。私は外傷から何から、これで治してしまいます。口内炎なんか、一発です(笑)。

もっとも、ある程度慣れの問題があるので、すぐに効果があるかどうかははっきりとは申し上げられないのですが、お試しになられても損ではないかな？と思います。

また、食事を考え直されたとしたら、あれこれ難しいことは考えずに、食事をご飯と味噌汁といった日本食に、切り替えてみて下さい。たったこれだけでアトピーが治った、という例もあります。

参考までに、『粗食のすすめ』(幕内秀夫著、新潮文庫)という本を、お勧めしておきます。

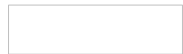
実際日本人には、日本食が一番合っているんでしょうね。これは気功をしていると、よりはっきりわかります。味噌汁を食べた後は、全身の気の通りが、ものすごく良くなります。もしかしたらこれは、味噌に含まれている、体に吸収されやすいビタミン群の影響かも知れませんね。スープではこうはならないんです(笑)。

というわけで、以上ご参考にして頂けると、嬉しく思います。

それでは、どうかご自愛下さいませ。

↑よろしければ、是非。

Popol Vuh/Affenstunde



[Affenstunde](#)

Popol Vuh

これまたドイツのカルト的なエレクトロニック・ロック・グループ。日本語では“ポポル・ヴー”と読むらしいです。古代マヤ文明の古文書の名前らしいですね。

リーダーのフローリアン・フリッケは(とは言え、ほとんどこの方のソロ・プロジェクトのようですが)、友人の映画監督ヴェルナー・ヘルツォークと図書館で見つけたこの古文書の名前がいたく気に入って、そのまま自分のプロジェクトの名前にしてしまったのだそうです。

さて、このグループには、いかにもドイツ系のグループらしく、あまり知られていない膨大な量の作品がありますが、ここで取り上げたのは、記念すべきファースト・アルバムで、何でも、ドイツの古い城で録音されたものらしいです。日本でのタイトルは、『原子帰母』。ピンク・フロイドの『原子心母』を思わせますが、両者の音楽スタイルは、全く違います。

このグループがエレクトロニクス機材を使っているのは、この作品を含め三枚程度しかないようですが、ぴろぴろぴろぴろという電子音のバックで、様々な太鼓がぽこぽこぽこぽこと鳴っているだけと言われればそりゃその通りの音なのですが、私はこのとろとろ感は大好きです。

この後彼らはエレクトロニクス機材を放棄して、アコースティック楽器を使用して教会音楽のような音楽をプレイするようになりました。まさに今日のヒーリング・ミュージックといった感触なので、ご興味のおありの方はそちらもお聴きいただいても結構かと思います(ex. 『Hosianna Mantra』他)。

因みにジャケットの裏には、当時の録音風景と思しき写真が載っているのですが、その中では、巨大なモグ・シンセサイザーの前で(いわゆるMoog?Cってヤツです。後に、先のKlaus Shulze氏の手に渡ったらしいですが)、数人の人物が太鼓を叩いているのが見て取れます。

そのまんまの音です。

森の中で聴いていたら、迷子になりそうな感じの音楽ですが、そのまま心の中の森を散策してみるというのも、オツなものかも知れませんね。

[Popol Vuh](#)

↑よろしければ、是非。

☐

Tさんとの対話(1)～静電気体質

謹啓 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度はお問い合わせ頂きまして、真に有難うございます。

早速ではございますが、お問い合わせの関西での講習の件ではございますが、最近はおっばら東京での活動の方が多く、なかなか関西にて施術や講習をする機会が持てずにいるところです。

とは申せ、関西方面からのお問い合わせもこのところ増えておりまして、何とかしなければ、と考えているところでございます。

かような事情ですので、すぐにでも関西にて講習会のようなものを行うという確率は、現段階ではかなり低い、と言わざるを得ないのが悲しいところですが、もしそのようなものを開催する運びとなりましたら、真っ先にご連絡させて頂く、という形で、ご容赦頂けませんか？

このようなお返事しか出来ないのは、真に歯がゆい思いなのではございますが、何卒ご理解お願い出来ますれば、と存じます。

また、ブログのリンクの件、お申し出賜りまして、真に有難うございます。早速こちらの方、リンクさせて頂きましたので、宜しくご確認頂ければ、と存じます。

まだ全部拝見してはいないのですが、その中の『静電気体質』というトピックスに、とても興味を持ちました。

何を隠そう、私も静電気体質です(笑)。それだけではなく、自分自身が手掛けている気功というものは、静電気とかなり関係がある、と考えております。

これは単なる比較としてではなく、私の実践上でもそうです。私が気功のトレーニングで大いに参考にしたのは、静電気を含め、人体内部で電気を発生させるにはどうしたらよいか、といった、電気生理学的な諸研究でした。電気ウナギがいるくらいだから、恐らく人間にもできるだろう、みたいな発想でしょうか。そんなアホなことを考えるのは、日本中で私くらいなものだろう、とは思いますが(笑)。

それが結果として、今の仕事に繋がっているわけで、いやはや人生というものは、不思議なものです。

というわけで、私のスタンスは、もしかしたら逸脱系スピリチュアリズムかも知れませんが、宜しくお付き合い頂ければ幸いです。

最後に、『(HPにはとても書けない) 腕の良い鍼灸・整体・カイロ・気功士の見分け方〜もう二度とひどい目にあわされないために・・・』も添付してお送りさせて頂きたいと思います。参考にして頂けると、嬉しく思います。ポイントはただ一つ。ヤバいな、と思ったら、さっさと逃げましょう(笑)。

その他ご質問などがございましたら、どうかご遠慮なさらずお申し出下さい。最初にも申し上げましたが、残念ながら講習の件に関しましてはすぐにはご期待に沿うことが出来ませんが、機会がありましたらご連絡させて頂きたい、と存じますので、何卒ご容赦下さい。

それでは、T様のご多幸とご健康を、心よりお祈り申し上げます。

有難うございました。



さて、私は東洋医学というものを生業といたしておりますが、残念なことにこの分野は、非常に微妙な立場におかれているような印象を受けます。

端的に申し上げれば、それは、「東洋医学は本当に効果があるのかなのか」という問題なのですが、その問題はすぐに、「東洋医学を信じるか信じないか」という問題に変換される傾向にあるように、私には思われます。

しかし、このような変換が妥当なものであるかどうかは、私としては大いに疑問とするところです。

というのは、では私自身が東洋医学を「信じて」いるからこそ今のような仕事をしているのか、と問われれば、私は、いいえ、と答えざるを得ないからです。

つまり、私が今のような仕事をしているのは、私が東洋医学を「信じて」いるからではないのです。つまり私にとって、東洋医学を「信じるか信じないか」という、言わば信念の問題と、私自身の考えや行動とは、およそ関係がない、と言えるかも知れません。

例えば、東洋医学を実践している人の中には、白米・白パン・白砂糖を、徹底的に排撃する人がいます。彼らは、完全無農薬の食材を、信奉しています。そうであることこそが、健康へ至る真の道であり、それこそが東洋医学の真髄である、と、彼らは信じているのです。

しかし私は、そんなことは考えたこともないし、今まで実行したこともありません。肉も食べますし、魚も食べます。外食もします。野菜も、普通に売られているものを、普通に買います。99イチバで(笑)。しかし、それで困ったことは、一度もないのです。心がけているのは、気のトレーニングだけなのですが、お蔭様で約15年近く、病院に行ったこともなければ、薬も飲んだこともありません。行くのは歯医者だけです(後述)。

ここで、東洋医学あるいは西洋医学というものを、そのように「信じるか信じないか」という、言わば信仰の問題にするのではなく、プラグマティック(実用主義的)な問題として捉えてみては、いかがでしょうか。

例えば、東洋医学などはいかがわしい、自分は西洋医学しか認めないぞ、という方がいらっしやいます。その方が不運なことに、何らかの重篤な病気にかかり、西洋医学による考えられる限りのベストな治療を受けたにもかかわらず、彼の病気が治らない、ということにでもなれば、論理的にも、彼にはもう打つ手は全く無い、ということになります。

しかし、もし仮に彼が、東洋医学に多少なりとも興味を持っていたとすれば、彼にはまだ、ダメもとでも、そちらを試すチャンスが残されています。

同様に、これと全く逆のパターンも考えられます。彼は西洋医学というものを、全く信用しないとします。その人が何らかの重篤な病気にかかった時、彼は温熱療法などの代替医療を試すでしょう。それが功を奏するかどうかは、神のみぞ知るところです。

私が言いたいのは、この時、一方を認めて一方を認めない、といった二者択一的なスタンスを取るよりは、その両方の可能性を認めておいた方が、数学的な意味で「逃げ道」が多くなるわけですから、便利ではないでしょうか、ということなのです。

プラグマティックに考えるとは、そういう意味です。

例えば、5年ほど前のことですが、私の母が带状疱疹という病気にかかりました。これはウイルス性の疾患で、神経系に沿って帯状に痛みを伴った発疹ができる病気で、母は激しい痛みのため、かなり苦しみました。

ここで当然、医師による治療を受けるべきなのですが、それは不可能でした。というのは母は、以前患った肝臓障害の影響で、アナフィラシキーと呼ばれる症状を慢性的に持っており、何らかの薬物を摂取すると、激しいショック症状を起こすのです。

こうなると、薬は使えない、当然注射は、不可能です。だからといって放っておいて、带状疱疹が自然治癒するわけはありません。それこそそんなことは、医学的にはありえません。地元の先生が見るに見かねて、特別の薬を調合してくれましたが、それを飲むとすぐに、アナフィラシキー症状が始まりましたので、やはり薬は無理でした。

私はすぐに大阪から呼び戻されたのですが、とにかく激しい痛みのため、夜も眠ることができない。まるでフォークで全身をかきむしられているような痛みなのだそうです。でも文字通り、どうすることもできない。明らかに母は、衰弱しています。

私達家族は悩んだ挙句、点穴療法と一指禅功を試すことにしました。

それは、私達がそれらを「信じていた」からなどではあり得ず、私達の状況から言えば、それしか方法が残されていなかったからです(余談ではありますが、母もまた父と同じく、東洋医学というものを、全く信用していませんでした。因みに、私が師匠について気功のトレーニングを始めた時、母は、私が新興宗教にでも入ったのではないかと、かなり心配したようです(笑))。

带状疱疹は、それが文字通り帯状に広がると、命の危険性があります。あるいは、そのウイルスが脊髄へ侵入すれば、中枢神経が犯されて、死に至ります。実際、ちょうど母が発症したのとはほぼ同じ頃に、私の友人の同級生が、夫と幼い子供を残して、わずか35歳の若さで、亡くなられています。

これは、完全な賭けでした。西洋医学で考えれば、負けは目に見えています。しかし私は、まあ自分の親のことだから、これで最悪の結末を迎えたとしても、それはそれで諦めがつく、そう考えて私は、施術に着手しました。

結局、薬物を一切使わずに、带状疱疹が完全に消滅したのは、約一ヵ月後でした。

それ以来母は、一指禅功のトレーニングを、一日も欠かしたことはないようです。不思議なことにそれ以前は、月に一回は必ず風邪で寝込んでいましたが、それ以降そのようなことが、全くなくなりました。つまり、体質そのものが根本的に変化してしまったようです。

つまりこの時、西洋医学は使いたくても使えない、「仕方が無いから」私は東洋医学を試したのです。

このように、「信じるか信じないか」という二者択一の問題にして、可能性を限定するよりも、その両方の存在を認めて、TPOに合わせて使い分ける方が、プラグマティックな意味で便利なのではないか、と私は考えます。

私は最近、歯医者にかかりました。もちろん、虫歯の治療のためです。

しかし、虫歯になったからといって、それを、唾液腺に気を集中させることで唾液の質を変化させ、それでもって治療しよう、などといったアホなことは、私は考えないわけです。唾液には、ごくわずかながらカルシウムが含まれていますので、それを患部に充填することで、虫歯を治療しようという発想は、ある意味わからなくもありません。しかし、そんな気の遠くなるようなことを試すくらいであれば、歯医者に行った方が、ある意味健康的でしょう。そこで親知らずも抜いたのですが、その時も、気を歯茎に集中させて無感覚な状態を発生させ、無痛抜歯を試みるよりは、さっさと麻酔をしてもらった方が、てっとり早いでしょう。ただし、家に帰って麻酔が切れて、患部がズキズキと痛み始めた時に、点穴を行ってその痛みを消すようなことは、簡単にできるわけです。

そのようにTPOに合わせて、主体的に両者を利用するというのは、悪くないアイディアだと思います。

また、東洋医学の施術を行う立場の者からしても、西洋医学は非常に助けとなります。相談に見えるクライアントさんの中で、すでに医師の診察を受けた、という方々は、その医師が作成した、緻密なデータを持ってこられます。私達はそれを参考にしながら、施術を行うことができますので、心臓疾患であればこの経穴、肝臓疾患であればこの経穴と、容易に「当たり」をつけることが可能です。結果として、施術そのものも精度が上がる場合が、少なくありません。逆に、そうではなくいわば「飛び込み」で来られる方の場合であれば、私達は一から判断をしなければなりませんので、どうしても精度の低下は、避けられません(もっともそれも、技量によるものでしょけれど)。

繰り返しになりますが、私は東洋医学を「信じて」それを行っているわけではありません。私が東洋医学に出会ったのは、完全に偶然でしたから。むしろ私が関心があるのは、その「可能性の追求」とでも言うべきものです。あるいはそれは、人体そのものの可能性の追求、と言い換えても、良いのかも知れません。それを「信じるか信じないか」という議論は、そのような議論そのものが好きな人々に、お任せしたいと思います。私が関心があるのは、それにどのような可能性があるのか、を考えることなのです。

従って、「このような症状には、このような東洋医学的アプローチは有効です！」とは、小心者である私には、口が裂けても言えません。それが有効かどうかは、やってみなければわかりません。でもそれは、ある意味西洋医学でも、同じことなのではないでしょうか。

東洋医学であれ、西洋医学であれ、いずれかを試みてみたら、病気が改善した。それで良いのではないのでしょうか。

私達が目指すべきは、当事者同士の権力闘争ではなく、クライアントさんご自身の幸福なのです。それをもう一度私達は、肝に銘じるべきなのかも知れません。

↑よろしければ、是非。

☐

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

8月の定期出張のお知らせ

8月25日月曜日から29日金曜日にかけて、鳥取への定期出張のため、東京での施術は、一旦お休みとさせていただきます。

関東周辺の方にはご迷惑をお掛け致しますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

やわらぎ気功クリニック東京
中原勇一



Tangerine Dream/Rubycon



[Rubycon](#)

Tangerine Dream

私が、鳥取県の倉吉東高校在学中に所属していた放送部の顧問は、知る人ぞ知る上田先生でした(因みに、現在高校教師の傍ら、"Elma"名義で、世界的なノイズ・アーティストになっておられるようです)。

当時YMOに狂っていた私は、先生と"シンセサイザー"という共通の話題で懇意になり、ある日、「シンセが好きならうちへおいでよ」との言葉に誘われて、先生のお宅にお邪魔しました。

当時、シンセサイザーなどというものはとても珍しかったので、それを実際に目の当たりにすることができて狂喜乱舞していた私に、「これはお勧めだよ」と紹介されたのが、このグループでした。

「シンセ=テクノ・ポップ」というとてもナイーヴな図式が確立していたウブな私が、家に帰って早速レコードに針を落とした瞬間、はっきり言って、吐き気がしました。

しかし、それがいつしか無上の快感へと変わり、私がよりディープな音楽世界へと歩み始めるきっかけとなってしまいました。

今は、耳ざわりのいいヒーリング・ミュージックみたいな音楽をやっておられる様子のこのグループですが(しかも、メンバーも変わって、リーダーのE.フローゼさんとその息子さんも参加しているという、二世帯バンドになっているようです)、このアルバムを含めて"Phaedra"、"Ricochet"という初期の三枚は、今でも名盤の誉れ高い傑作です。

現代音楽のような無調の導入部から、メロトロンによる壮大なコーラスへと続き、それが静まると、地鳴りのようなモーグによるシーケンス・パターンの反復が始まって、それに電子変調されたギターやオルガンが絡んでいく。非常にイマジネイティブで、ドラマティックな展開を持つ楽曲です(アルバムの制作に当たってしっかりした楽曲の構成を考えるようになったのは、このアルバム辺りかららしいですね)。

あるインタビューで読んだのですが、メンバーのC.フランケさんは、一度録音中に、電気ショックで死にかけたそうです。

因みに、その昔NHKに『明るい農村』というファンキーな番組があり、どアップになった野菜の表面にアブラムシの大群がウジャウジャしている場面で、この"Rubycon"が使われていた記憶があります。

ライトなアンビエントとは違った、ちょっとコアな心象風景を体験されたい方には、お勧めの作品だと思います。

[Tangerine Dream](#)



明治神宮

うちの近所に、明治神宮という神社があります。てか、知らない人は、まずおられないでしょうけれど。

昨日ヤボ用があってその境内を通ったのですが、ふと見ると、そこにはいい感じの小道が。

このような小道を見ると、どうしてもそこに足を踏み入れたくなるというのが、私の悲しいサガ。

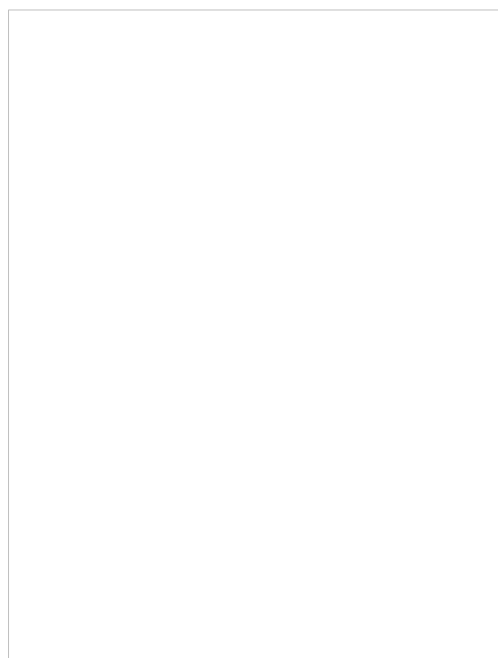
しかし、あにはからんや、そこにはとても美しい景色が、広がっていました。

『となりのトトロ』というアニメには、昔の日本のノスタルジックな風景が、とても印象的に描かれているのですが、まさにそんな感じでした。こんな風景を、東京のど真ん中で見るができるとは・・・。田舎者である私には、大いに驚きでした。

余談ですけど、皇居には、タヌキがたくさん住んでいるんですってね。その話も、かなり衝撃的でした。

今年の盆は、私は帰省しなかったのですが、ほのかに秋の訪れを告げるかのような森の息遣いに、私はとても、ほっとした気持ちにさせられました。

・・・だけど、やっぱ携帯はダメですね。今度はデジカメを持って、撮影してきます。涼しくなってから(笑)。



ロードバイクにはまっておられるようで、なかなか面白いですね。

僕も、自転車に乗るのは好きです。中学、高校はずっと自転車通学でしたし。最近は車ばかりで、ほとんど乗ったことがないのですけれどね。ヘキ地である鳥取の実家で自転車で行動するのは、今となっては少々骨が折れまして(笑)。

東京でも、自転車での行動は悪くはないのでしょうけれど、置く場所がないですからね。ヘタなところに置くと、カゴにゴミを入れられるので(笑)。ですから、東京での移動は、ほとんど地下鉄等です。

ただ、実家の近くの蒜山という山の周辺に、サイクリングコースがありまして、それは以前から気になっているのです。観光客が山中を自転車でツーリングしているのを見ると、いいな、と思います。次回帰った時にでも、挑戦してみようかな、と思っています(笑)。

東京暮らしですか。なかなか快適ですよ(笑)。

どうやら僕の中には、極端に相反する志向性が、同居しているようですね。一つには、徹底的に田舎であること、そしてもう一つは、徹底的に都会であること。

この一つの要因は、僕が音楽等の、文化的な活動もやっているからだろう、と思います。

東京を約5年近く離れていたのですが、その間非常に"寂しい"ものがありました。普通の人ホームシックのパターンとは、全く逆ですね(笑)。何しろ文化的なものが、ほとんど無い地域でしたから、それらに関してディスカッションしたりする人や場所など、皆無でした。

そこで、そのような場所を作るきっかけになるかな、と思って、CGやアンビエント・ミュージックを利用したイベントを、何回かやってみたのですが、反応は今一つ。それどころか、こういうイベントを郷里でやったのですよ、みたいな話を東京ですると、是非東京でもやってくれ、という反応になるので、こりゃ本末転倒ではないかと。

あのまま、継続は力なり、というわけで、様々なイベントを企画運営しても良かったのかも知れませんが、文字通り、砂丘に水を撒いているようなものでしたからね。意を決して、再上京してしまいました。

やはり文化というものは、人の中で育まれるものなのだな、ということが、よく判りましたね。文化とは、一種のコミュニケーションの形態だと思うのですが、それが成り立つためには、発信だけではだめで、受信者の存在も必要です。そして発信者、受信者とも、ある程度の情報を、共有している必要がある。そのような記号論的なジレンマを、身をもって感じるようになりましたね(笑)。

しかしこれは、実は、禅の修業でもそうですね。功を身に着けるだけでは駄目で、それを社会に還元しなければならない。『十牛図』という禅の修行プロセスを表したものがありますが、その最後に描かれるのは、街の風景です。つまり行者は、街へと帰っていかなければならないわけです。

これは、社会奉仕せよ、とのヒューマニズム的な発想ではありません。つまり、たった一人で深山に籠っている状態では、自分の功がどの程度なのか、判断が付きかねるのですね。最高の境地に達した、と考えるのは、もうその時点で魔境ですから(笑)。それを確かめるには、街へ戻って、"人"と交流する必要があります。この場合の"人"とは、ヴィトゲンシュタイン的な意味での"他者"です。「自分の言語を全く理解しないもの、例えば外国人」的な存在である彼らは、常に、自分の観念を超えたところにあります(そうでなければ、それは"他者"ではありません)。そのような他者との交わりの中で、常に禅定を保てるかどうか、あるいは一指禅功的な意味で言えば、常にベストな状態で功を他者に及ぼすことができるかどうか、それに、不断に挑戦し続ける必要があります。

僕の場合、その場所が、東京であった、ということですね。

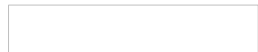
今まででしたら、自分がベストを尽くせる場所は、関西なのだろうか、鳥取なのだろうか、それともやはり東京なのだろうか、との迷いがあったのですが、この数年間の試みで、前二者はやはり、限界があったかなと(笑)。従ってリソースは、今のところ、安心して東京に全投入できる、とまあ、今はこんな心境でしょうか。

そういう意味でも、とても快適に過ごせていますよ(笑)。

それでは、皆様にもよろしくお伝え下さいませ。

有難うございました。

Pat Metheny Group/Letter From Home



[Letter from Home](#)

Pat Metheny Group

言わずと知れた、ジャズ/フュージョン界の大御所です。

しかしながら、私がこの方の音楽と出会ったのは、その分野からでは全くありませんでした。

以前ご紹介したSteve Reichさんの作品に、"Electric Counterpoint"という名作があるのですが、それを最初に演奏されているのが、この方でした(もっとも、この作品自体が、Metheny氏に捧げられたものなのですが)。

以前からお名前だけは知ってはいたものの、実際にこのReichさんの作品での素晴らしい演奏を聴いて興味を持った私が最初に手にした彼のリーダー作が、この"Letter From Home"だったのですが、それまで私が持っていたジャズに対する偏狭なイメージは、この作品によって、完全に打ち壊されてしまいました。

1曲目の"Have You Heard"(いきなりの変拍子です)から、ラストのアルバムタイトル曲まで、リスナーをぐいぐい引っ張っていく独特のグルーブとアンビエンス、インプロヴィゼーション。

そして美しいメロディ。彼の作品のメロディはどれも素晴らしいものばかりなのですが、どうやったらこんなメロディを大量に作り出すことが出来るんでしょうかね？

ラテン・フレイヴァーが随所に散りばめられたこの作品は、この時期のこのメンバーでの最高傑作だと思いますし、個人的にはこの作品以降の彼の大作志向は少々苦手だったりするので、あえてここでは、彼の最高傑作と言わせていただきたいと思います。

[Pat Metheny](#)



高良山とは、久留米市のほぼ中央に位置する山である。

2007年の夏、私は同市在住の精神科医K氏のお招きを受けて、氏のご自宅をお借りして、彼とその同僚の方々に、研修を行ったのだが、その合間に彼が連れて行ってくれたのが、この高良山であった。

高良大社は、この高良山の中腹にあった。赤い社殿がとてもユニークなもののように、私には思われた。派手と言えば派手なのだろうが、もしかしたらこれは、はるか古代の、大陸からの影響の名残かも知れない。

本殿で参拝を済ますと、彼が私に尋ねた。「中原さん、実はここから山中に30分くらい行った所に、奥の院があるんですよ。ここは私の散歩コースなので、私は時々行くのですけれど、何とも怪しげな場所です。良かったら一緒にしませんか？」

言うまでもなく、私の答えは、一つしかなかった。

本殿の裏側辺りから、細い山道が山中へと、延々と続いている。私達はその小道を、奥へ奥へと進んでいった。その間彼はずっと、ユダヤの失われた民族の末裔が、日本人のルーツなのではないか、という話をされていた。うーん、私よりもかなり、マニアックと見た。

そうこうしているうちに、私達は、奥の院へと到着した。

そこはどうやら、参拝所というよりは、むしろ行場だった。申し訳程度の小屋が設置されていて、その周りにはタオルがたくさんぶら下がっている。つまり、今でもここで、水垢離などの何らかの行をされる方が、いらっしゃるのだ。残念ながらその日は、私達は誰にも出会わなかったのだが。

その小屋の奥に、弾丸のような形をした石がある。これがご神体であるのは、明らかだった。

私はそこから、他の霊場と同じく、強い熱波のようなものが吹き付けてくるのを感じた。

その場にいたK氏は、最初は何も感じなかったらしく、げん顔をしている。そこで私は、彼に手ほどきを試みることにした。「ここに立ってみてください。もう少し肩の力を抜いて、リラックスして・・・。」

すると彼は、あっ、と叫んだ。どうやら彼にもわかったらしい。「面白いですね。ここには何回も来ていますが、今まではぜんぜんこんなことはありませんでした。なるほど、確かに『龍穴』といった感じですね。」と、半ば興奮気味に話している。これで無事に彼も、ジェダイの一員である(笑)。

というわけで、お近くにお住まいの方は、是非一度ご探訪を・・・。

[高良大社](#)

[日ユ同祖論](#)



「受けちゃう」とは一体どういうことなのか

今回は、いわゆる「受けちゃう」とは一体どういうことなのかについて、考察してみたいと思います(言うまでもなく、自分の放ったしょうもないギャグが、図らずも「受けちゃう」ということについての現象学を展開しようとしているわけではないので、悪しからずご了承下さい)。

私が手がけている気を使ったお仕事は、割と広いイメージが一般的にあるようで、そのために、ごくたまに、肩凝りや腰痛だけではなく、そのような「受けちゃった」方々が、相談に見えることがあります。

しかしよく考えてみると、この「受けちゃう」場合ほど、厄介なケースはないのかも知れませんね。

まず明らかに、風邪などの肉体的な疾患ではないので、薬は使えません。医者へ行くといったところで、まず内科、外科、歯科ではないでしょう。

唯一考えられるのが、いわゆる心療内科あるいは精神科ですが、好き好んでそのような症状でこのようなところに相談へ行こうなどという肝っ玉の太い人は、まずいないと思われます(そのような人であれば、最初から「受けちゃう」ようなことは、なかったりして)。よしんば勇気を奮い起こしてそのようなところの診察を受けたとしても、「不定愁訴」あるいは「自律神経失調症」などと診断されて、精神安定剤を処方されるのがオチだったりします。

結局、問題は何ら解決されないで、そういった方々が最後に訪れるのが、霊媒関係のお仕事をしている人々なのですが、ここから宗教のドロ沼に堕ち込むまでには、さほど時間はかからないものと思われます。

私はそのような憂き目に会った方々に、これまで何人も会ってきました。

そこで私は、今のようなお仕事を手がけるようになってから、私のクライアントさんがこのようなパターンに堕ち込むのを回避する有効な手段はないものだろうかと、実際に相談に来られた方々のケースを踏まえながら、精神分析学から心理療法、果ては神智学から陰陽道に至るまで、いろいろと自分なりに研究してみたのですが、その結果そこには、ある特定のパターンがある、ということに気づいたのです。

それを今回は、考えてみたいと思います。

まず、「受けちゃう」という場合には、次の二通りのパターンが見られます。それは端的に言えば、メンタル的に「受けちゃう」場合と、フィジカル的に「受けちゃう」場合です。

そして私の見たところ、一般に「受けちゃう」と言われる場合には、圧倒的に前者の場合が多い、というのが、私の見解です。しかもそれは、大抵の場合、女性です。それをまずは、考えてみましょう。

例えば接客業において、私達はその仕事に関するお客さんの話だけではなく、グチを聞かされる場合が少なくありません(そのようなグチを言うお客さんは、その他の場所においても、必ずグチる、さらに始末が悪いことには、そのグチった内容をすぐさま忘れる、というのが、さらにパターン化された行動だったりします)。お客さんは、自分がいかに不幸な状況にあるのかを、切々と訴えます。

ところが、その時ご丁寧にも、その不幸な状況を、事細かにイメージしてしまう方が、いらっしやるのです。しかもタチの悪いことに、それは大抵の場合、無意識下で行われます。お客さんは、自分の状況に対して同情してくれた人がいたものですから、意気揚々とさっぱりした気持ちで、引き上げていきます(そして、今しゃべったことをも、さっぱりと忘れます)。しかしこの時、残された方はたまりません。その膨れ上がったイマジネーションを解除することも出来ず、陰鬱な気持ちになります(これも全て、無意識的なものです)。次第にその陰鬱な感情は、体にも影響を及ぼしていきます。何だか体調がおかしい。体が言うことを聞かない。ひどい場合には、それを自宅までお持ち帰りしてしまって、延々と眠れぬ夜を過ごす、という場合もあります。

つまり、メンタル的に「受けちゃう」場合というのは、そのほとんどが、受け手のイマジネーションの問題に帰着する、ということです。

だとすれば、それに対しては、どのような対策が考えられるのでしょうか？

一つには、こう考えることです。「この人はこの人、私は私」。つまり、過度にお客さんに同情して、無用なイマジネーションを拡大する必要などは、最初からないのです。そのお客さんが悩みを抱えておられるのであれば、それを解決するのは、精神科医やカウンセラーのお仕事です。

このパターンに陥る人は、結構優しいタイプの方が多いようですが、誰でも彼でもこのような優しさを発揮するのは、神のような広大無辺な愛を持つ人でなければ、およそ不可能です。その

ような訴えに巻き込まれかけたら、まず、この人の世界と私の世界とは違うのだ、ということを、徹頭徹尾自覚しましょう(このテクニックを心理療法の分野では、「スプリッティング」Splittingと言います)。

もちろん完全に分割したままでは、コミュニケーションが成り立たなくなる恐れがありますので(単純に、顧客満足度は低下します)、そこから、どの地点まで折り合いが可能なのかを、次に考察する必要があります。多くの方は、この順序を、逆にしていらっしゃるわけです。

まず、明確にスプリッティングしましょう。そこから妥協点を探る方が、無理がないと思われます。

続きまして、フィジカルに「受けちゃう」場合。これには、さらに二通りのパターンが見られます。

一つ目は、精神療法の現場でもよく問題にされるのですが、これは「呼吸の同調」によって、引き起こされます。

精神的に何らかのトラブルを抱えている方は、呼吸の仕方が、やたらと浅く、早い、などの際立った特徴が見られます。そのような方とお話していると、無意識的に、こちらの呼吸のパターンが同調させられる場合が、少なくありません。結果として、心身ともに疲れ果てる、という結果が生じます。これは、そのような現場に携わってまだ日が浅い方に、よく見られます。

この対策としては、先ほどと似たようなやり方ではありますが、引きずり込まれないぞ、と気をしっかり持つ、ということが考えられると思います。あるいは意図的に、会話の途中で、深呼吸をすとかですね。このとき、逆も真なりで、相手も一緒になって深呼吸したりすることがあるのですが、そうすることで相手に落ち着きを与えたり、あるいはそれによってラポールが形成されやすくなるので、割とよく使われるテクニックです。

もう一つは、少々立証が困難なパターンです。

私は常々、気とは電磁波の一形態であり、その様々な現象は、環境電磁気学や電気生理学、静電気学などで説明可能だと主張しているのですが、その一つのパターンではないか、と私が考えているものです。

私自身が体験した例で、ご説明いたしましょう。

私が初学者だった頃のことですが、ある日私はいつもの通り、横浜の無為気功養生会の教室を訪ねました。そこで皆さんが一指禅功の練習をするわけですが、その日私の隣に坐ったのは、大きなお腹をした初老のご婦人でした。それは明らかに腹水であり、何か重篤な病気を抱えたご婦人であることは、明らかでした。すると、不思議なことが起こり始めました。しばらく坐功をしていると、そちらのご婦人の方から、冷たい風が吹いてくるのです。時は夏でしたので、私は最初、エアコンの風かな、と思いましたが、よく考えてみるとエアコンの送風口は、逆の方向を向いています。送風口からの風が、流体力学的に複雑な経路を辿って自分のところに吹き付けてくるのかな、私はそう考えました。

その後、練習が終わって帰りの電車の中で、私はひどい悪寒を感じました。何とか家までたどり着いた私はそのまま倒れ込み、約三日間風邪を引いて、寝込みました。

次の日曜日までには何とか回復し、私はいつものように教室へ出向きました。すると、場所こそ微妙に違い、またあのご婦人と隣り合わせになりました。それどころか、例の冷たい風も一緒です。まさかこの風は、このご婦人と関係があるのではなかろうか、そう私が気づいたのは、散々冷たい風を浴びた後でした。奇怪なことに私は、また風邪を引いて寝込んだのです。

何とか次の日曜日までには回復し、教室での練習。するとまたそのご婦人は、私の隣に坐りました。言うまでもなく、また風が吹き始めました。もう黙ってはいられません。坐功の練習中にもかかわらず、私は立ち上がり、站椿功の姿勢を取りました。この方が、全身により強い熱を発生させることが出来るからです。横浜教室の静功は少々長目なのですが、背に腹は変えられません。私はその姿勢を取り続けました。その様子を見ても、師匠は何も言いませんでした。

その夜は、全く何も起こりませんでした。

後日、そのご婦人がいない時に、私はこの一件のことを、思い切って師匠に尋ねてみました。その答えは、「気は常に、高いところから低いところへと流れる」ということでした。つまり私は、ごっそりと気を取られていた、というわけです。

これが、フィジカルに「受けちゃう」場合の一つのタイプだと思います。要するに、何らかの原因によるエネルギー場の混乱によって引き起こされる問題なのかも知れません。先ほど触れたイマジネーションなど全然関係ないと思われるのに、ある特定の場所へ行くと体調がおかしくなるというのは、この場合なのかも知れません。

その対策としては、私がやったように、何らかの手法によって身体内により強いエネルギーを発生させる、ということなのでしょうが、やっかいなのは、その原因がなかなか判断しづらい、

ということかも知れません(現に私も、このように、二度失敗しています)。

なかなか「気」とは、侮れない存在であるようです。

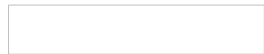
以上、一般的に「受けちゃう」場合を、二つのパターンから検討し、その対策を考えてきましたが、このような発想が、皆様が「受けちゃった」場合の対策となりますれば、私としてもとても嬉しく思います。



↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)



[New Age of Earth](#)

Ashra

こちら、ドイツの老舗のグループです。

結成された60年代当初は、トリオ編成で、ドラッグの影響の下、ヘヴィーなサイケデリック・ロックを演奏していたこのグループですが、メンバーのクラウス・シュルツ(先に、バウハウスの項でご紹介した、ジャーマン・エレクトロニック・ロックの重鎮です)がソロ活動のため脱退し、残るハルトムート・エンケがオーバードラッグで廃人となってしまったため、残されたマニュエル・ゴッチングは、ただ一人、テープ・レコーダーに向かって、バンドの名称を継承しつつ、自分自身の音楽の追求を始めたのでした。

一人になってから制作された"インヴェンションズ・フォー・エレクトリック・ギター"も傑作でしたが、本人曰く、その時に培った方法論を、ギターではなくキーボードで追求してみた、というのが、この作品です。

ドイツ人ミュージシャンの音楽とはとても思えないほど、非常にトロピカルな音楽です。もっとも彼は、サンタナの影響を公言しているので、ありえない話ではないのですけれど。

パターンのほとんど変化しない初期型リズム・ボックスのチープなリズムと、シンセ・ベース、その上をエコーで彩られたキーボードやギターがきらめく。非常にシンプルですが、全く無駄のない音作り。後の、ハウス／テクノの到来を予見しているかのような作品です。

このように、彼の作風も典型的なミニマルなのですが、聞くとところによると、それは、「当時、簡易シーケンサーはあっても、それには、作った音型をメモリーする機能がなかった。だから、仮にいいフレーズが出来ると、それを保存しておこうと思えば、テープに延々と録音する以外に方法がなかった」からだそうです。時代がかった話です。

でも、だからこそ、この独特のトリップ感が生まれたのでしょう(このアルバムが制作された直前のライブ音源を聴くと、このアルバムで使用されているシーケンス・パターンが、頻繁に出てきます。それから考えると、ライブ演奏の中で即興的に生まれたアイディアを、スタジオで再構築していく、というプロセスを経つつ、このアルバムは制作されたのではないか、と思わされます)。私は特に、"Ocean of Tenderness"のゆったり感が好きです。あと"Deep Distance"の軽やかな疾走感。ジャケットも素晴らしい。

因みに、私がギターを弾くと、「アシュラが好きなんだろう」と必ず言われます。持っているギターも、赤いSGですし。

要するに、ミーハーなんです。

[Ashra \(Ash Ra Tempel\)](#)



7月の定期出張のお知らせ

7月28日から8月1日にかけて、鳥取への定期出張のため、東京での施術は、一旦お休みとさせていただきます。

関東周辺の方にはご迷惑をお掛け致しますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

それでは、暑い日々が続きますが、皆様ご自愛のほどを・・・。

やわらぎ気功クリニック東京

中原勇一



『武道の心で日常を生きる』とは

[武道の心で日常を生きるー「身体脳」を鍛えて、肚を据える](#)

宇城 憲治

宇城憲治氏の『武道の心で日常を生きる』(サンマーク出版)を読みました。

彼のお名前を初めて拝聴したのは、友人が貸してくれた『板垣恵介の激闘達人列伝』(徳間書店、2001年)の中でした。

その中には、様々な武術の達人に関するエピソードが、非常に生々しく描かれていたのですが、その中で、最も印象に残ったのが、彼の章でした。

というのは、彼は、ご自分の技を、極めて工学的な発想で捕らえていらっしゃったからです。それもそのはず、ご本人は、宮崎大学工学部ご卒業の、技術畑の方です。

しかも、様々な会社の取締役を歴任なさるなど、武術家としてはかなり変わった経歴の持ち主です。

しかしながら、だからこそ、誰でも使いそうな「文武両道」という言葉を彼が使った時、そこには、小手先のギミック一辺倒の他の武術家たちからは全く感じる事が出来ない独特の深み、あるいは重みが、私には感じられました。

特に私の興味を引いたのは、「ゼロの力」という、彼自身の言葉を借りると、「相手との接触点(接触面)で衝突を起こさず相手进行处理する力」という、彼独自の概念です。

この本を読んだのは、私が気功を学ぶ以前でしたので、もしかしてこれが「気」の正体なのかな、と大変興味を引かれたのですが、当時の私は、ご本人を直接お尋ねして教えを請うというところまでには、至りませんでした(余談ではありますが、私は気功を学ぶにあたっては、数十件の教室に直接足を運んで、自ら調査いたしました。何かを始めるにあたってのそれぐらいの「疑い深さ」は、むしろ必要ではないかと思います)。

しかし、私が本格的に一指禅功の修行を始めてからも、彼のお名前は、常に私の中で、まるで彼自身の言う「ゼロの力」のように、独特の存在感を放っていました。

彼は、この本の中で、「型」の重要性を説いています。

これは、空手で稽古される「型」だけではなく、日常生活全般についての「型」もそうです。

彼は、「型」とは、その言葉から一般的にイメージされる保守的な意味合いとは全く逆に、むしろそれは、長い歴史によって検証されてきた古人の智慧の集大成なのであり、そういう意味では言わば、普遍性、再現性、客観性を備えた、科学そのものなのだ、と主張します。

逆に、彼は、伝統的な日本にあった「型」という考え方が、ほとんど失われてしまったことを、大変危惧しています。

それは、西洋的な「進歩」あるいは「自由」といつてしまえば聞こえはいいですが、逆に言えばそれは、帰るべきところ、よりどころを失っているということと、同義でしょう。「自由」と「無秩序」とは、実は紙一重なのです。

その結果、今の日本社会がどのような姿になっているかは、いまさら申すべきでもないことです。

まさに、「型」を失った日本人は、同時に自分の「重心」をも見失って、身も心もバラバラになった人形のような生活を送っているのです。

彼はさらに、武道に関して、こう述べています。

「武道は、人を殺す最強の方法であるにもかかわらず、人を愛する道を極めていきます。一見矛盾しているようですが、究極をいくから人を愛することがわかるのです。究極になって初めて、「生きる」とか、「人を大事にする」という精神が生まれてきます。」(『武道の心で日常を生きる』、P.207)

このような「身体脳」から生じる理解が欠けているからこそ、残忍な犯罪が異常なまでに増え続けているのだ、という彼の主張は、とても説得力があります。

これは、私のやっている一指禅功や、点穴でも、同様だと思います。

「点穴」とは元々、文字通り「経穴を点く」という、武術用語です。それを開発者である馬秀棠先生が、ハリの技法と組み合わせたのです。現在でも「点穴術」は、独自の武術として、体系化されています。

さらに、一指禅功は言わずもがなです。それは、もちろん医療にも用いますが、本来は、嵩山

少林寺のたった一人の僧侶にしか伝えることが許されなかったという、まさに武術そのもののなのです。現に今でも、その攻撃の技法の方は、正統後継者である劉先生は、伝えるに値する弟子がない、として、今のところ、誰にも教えていらっしやらないようです(余談ですが、話を聞く限りではその技法は、あの『北斗の拳』に出てくる「北斗神拳」に、とてもよく似ています。それどころか、もっとエレガントなようです)。

このように物事には、“ライトサイド”と、“ダークサイド”が、必ず存在します。

「剣禅一致」と言われるように、その二つがなければ、技は完成しない、という古来からの教えは、今になっては、痛いほど理解できます(因みに、この点では、『スター・ウォーズ』の方が、『ハリー・ポッター』などよりもずっと、魔術に関しては真実の姿を描いていると思います。後者は単に、不思議で楽しげな側面しか描いていないように思えるからです)。

従って、私自身もHPやブログでは、一応その“ライトサイド”を強調していますが、逆に考えれば、経絡と経穴のメカニズムを理解している、ということは、人体のあらゆる急所図を、全部頭に入れているようなものなのです。それは、ある意味危険極まりない存在でしょう。

しかしながら、「身体脳」から生まれるその認識がなければ、本当に人に優しくすることはできない、という宇城先生のお言葉は、非常に納得できます。いざとなれば、どのように立ち振る舞いをすればよいのかを理解しているかいらないかは、心身の安定にも寄与するところが大きいのではないかと、私の経験からも思います。

まあ私が優しいかどうかは、実際にお会いした皆様のご判断にお任せいたしますが。今後ともそのように、努力したいところです(笑)。

武道とは、生き方そのものです。

今の若い世代の方々にとっては、武道というのはまさに“3K”の最たるもので、ただただ暑苦しいだけなのかもしれませんが、そのような方々は最初から除外して、本当に危機感を持って、武道や武術を志す人にのみ、私が師より教えていただいた貴重な技法を、そっと伝えていこうと思っています。

その意味でも、自分のスタンスを再確認できた、貴重な一冊でした。

[宇城憲治](#)

↑よろしければ、是非。

☐

JUGEMテーマ：心、体、そして魂。



[スター・ウォーズ エピソード3/シスの復讐](#)

ヘイデン・クリステンセン

火山の星ムスタファアの溶岩流のほとりで両足を切り落とされ、絶叫しながら猛火に包まれるアナキンを見て、オビ-ワンは、「私はお前を愛していたのに...、私はお前の導き方を誤った!」といったたまれない表情で叫ぶことになります。

果たして、彼は、本当に誤ったのでしょうか？

私の見方では、その通りです。

それは一体何故でしょうか？

ここには、現代教育の問題点も、あらわになっているように思われます。

私が映画を見た限りでは、オビ-ワンはアナキンに、会話の中で、こうしろ、ああしろという「指示」しか与えていません。そしてそれが、オビ-ワン自身のものでなければ、これはジェダイ評議会の決定だ、とか...

それに対するアナキンの質問は、許していません。

これでは、アナキン自身が、オビ-ワンやジェダイ評議会に対して、不信感を持つのは、避けられないと思います。

否、アナキンのオビ-ワンに対する不信感は、実は、オビ-ワンやジェダイ評議会の、強大な力を内に秘めたアナキンに対する不信感の、裏返しだったのではないのでしょうか。

徐々にジェダイに対する不信感を募らせるアナキンに向けられたシスの誘惑に対して、アナキンは、それでも、ジェダイの正当性を主張しようと試みるのですが、結局は、その罠にはまるこ

ととなります。

何故ならば、彼自身が、ジェダイの正当性を、理解出来ていなかったからでしょう。

彼は、ジェダイの武芸などの「知識」に対してはエキスパートだったのですが、それを何のために使うのが、本当の意味で理解できていなかったのです。

昔から言われるように、あるいはコルサントにあるバーのマスター、デックスが、皮肉にも別件についてオビ-ワンに言ったように、「知識と智恵は違うのさ」ということになると思います。

先にも述べたように、これは、現代の教育現場でも、典型的に見られる問題です。

小学生になったら、九九を覚えなさい。中学生になったら、一次関数を覚えなさい。高校生になったら、微積分を覚えなさい。

子供達は、「なぜ？」と問うことを許されていません。更に言えば、問われる側も、答えることが出来ないのです。

子供達の大人たちに対する不信感、アナキンのオビ-ワンに対する不信感と、全く同じものではないでしょうか。

そしてそれは、同じく、教育者の側の子供たちに対する不信感の、単なる裏返しなのです。

私には、最近子供達がやたらと犯罪を犯すのは、ある意味当然の帰結だと考えています。

それを単純に、法律を厳しくすることで対処しようとしても、全く無意味です。

では、どうすればよいのか？

養老孟司先生は、このような現代教育の荒廃について質問された時、「子供達に容易に解答を与えないことです」と答えていらっしゃいましたが、同じようなことは、多くの方々によっても、指摘されていますね。

答えは間違っても良いから、その答えに至るプロセスを、自分自身の力で見出し、検証し、学ばせていくこと(因みに私の中学校の校訓は、『自分で発見し、考え、実行する』でしたが、これは至言だと思います。わが母校から学んだ唯一の事柄ですね(笑))。

それがなければ、物事に対する真の理解というものは、あり得ないと思います。

結局ダークサイドに堕ち、ダース・ベーダーとなったアナキンでしたが、わが子ルークが皇帝の邪悪なフォースによって死の瀬戸際まで追い込まれるのを見て、本当の意味でのダークサイドとライトサイドの差異に気づき、自ら致命傷を負いながらも皇帝を倒すことで、預言通り、フォースにバランスをもたらすことに成功したのです。

教育する側に立つものは、教育する内容、方向を良く踏まえた上で、教育される側の意志を尊重し、自ら学ばせること。間違っても良いのです。解答はそのときにこそ与えることです。そうでなければその解答は、単なる上っ面の「知識」で終わってしまいます。

「教育」とは、英語で"edication"と言いますが、その語源となっているラテン語の"ducere"は、もともと「引き出す」という意味を持っています。

「知識」と「知恵」の明確な差異を理解し、提示しなければならないということこそが、教育者の役割です。

そして、それが出来ないようであれば、どのような形であれ、教育者と呼ばれるべきではない、と私は思います。

あ、でもオビ-ワンはやっぱ好きですけどね(笑)。

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

The Art Of Noise/The Ambient Collection



[Ambient Collection](#)

The Art of Noise

80年代にかなりヒットした、エレクトロ・ポップ・グループ。

当時は、現在の音楽制作には欠かせないデジタル・レコーダーである"サンプラー"がぼちぼち出始めたような頃で、彼らはそれを用いて加工した様々なノイズを全編にちりばめた、変則ポップ・ミュージックをやっていました。

当時は、サンプリング可能な時間がせいぜい数秒、ということもあって、その素材は、空き缶を叩いた音だとか、車のエンジン音だとかのワン・ショットねたがほとんどでしたが、それだけでもかなりのインパクトであったようです(そのようなねたで一番有名なのは、「ジャン！」というオーケストラ・ヒットですが、最初にやったのは、おそらく彼らでしょう)。

変則ポップとはいえ、そのコンセプトは、かなり練られていたようです。

20世紀初頭にイタリアで起こった『未来派』と呼ばれる芸術運動に加わっていたルイージ・ルッソロという作曲家がいて、彼は自作の、楽器というよりノイズ発生器を用いた「騒音芸術」を標榜していたのですが、"The Art Of Noise"というグループ名は、そんな彼へのオマージュであったようで、実際ジャケットには、彼のポートレートが、使われていたりもします。

とは申せ、メンバーの一人アン・ダドリー女史は、ポール・マッカートニーなどのポップ・アーティストの弦楽アレンジやキーボードなども担当したりしていることもあって、サウンドそのものは、かなりポップです。

このアルバムは、そんな彼らの解散後かなり経ってから、突然リリースされたもので、メンバー自身が制作に、どの程度関わっていたかは定かではありません。ライナーを見る限りでは、当時のチル・アウト・ブームに便乗して製作された、企画ものかも知れません。

コンピレーション・アルバムとは言え、実際収録されているのは、彼らのヒット曲とは呼べない楽曲ばかりで、この辺のセレクションも、アンビエント性を出すための、意図的なものであったようです。

リミキサーは、元キリング・ジョークのユース。そして最後の曲では、ジ・オーブのアレッ

クス・パターソン先生が、DJとして参加されています。

「太陽も無い、星も無い、夜明けも無い・・・」という何故か日本語のモノローグが、確実にあなたを、チル・アウトさせてくれます。

[The Art Of Noise](#)



ある精神科の先生との対話(22)～自分の実力をどのように判定するべきか？

お変わりないご様子で、何よりです。

ご指摘の通り、僕は、先月東京へ、再進出致しました。

実を申し上げますと、東京を離れている約5年間、東京在住の方々より、もう一度上京しないか、というお話を頂いていたのですね。もちろんその方々のほとんどはクライアントさんなのですが。そのお申し出をずっと断り続けてきたのですが、今後の自分自身の展開を考えた時に、やはり東京は外せないかな、と考えることが多々あって、今回意を決して、再上京することに致しました。

その契機になったのは、ブログにも書いた、親父の胸部リンパ節腫瘍の症例でしたね。あの記事を書いたのは昨年末なのですが、結局あれから症状は、全部消えてしまいました。つい先月また抜き打ちで腫瘍マーカー検査を受けたらしいのですが、その数値が12月の再検査の時よりもさらに下がっていた、ということで、家族は一安心しているみたいですね。何よりも、夜中に激しい発作がなくなったというだけでも、有難いことだ、と母は言っていました。

この話を東京の知人にしたところ、いろんなところでお話しになったらしく、再上京しないか、と言われたのは、それが直接の契機でもあったのですけれどもね。

まあ僕自身の心情から申し上げても、東京の風土の方が肌に合っているような気がしますからね。やはり以前、7年間ずっと住んでいた、というのは、かなり大きいです。言ってみればその間に、自分のアイデンティティが形成された、みたいなところがありますからね。因みに、心理学的な意味で通常アイデンティティが形成される期間と言われる学生時代に過ごした関西は、全然ダメでした。3年でギブアップしました(笑)。

今は千駄ヶ谷というところに住んでいるのですが、これがまた過ごし易い所で、新宿御苑や明治神宮、国立競技場に囲まれている関係で、緑が多く、空気もとても綺麗です。おまけに新宿、渋谷、代々木、原宿などには徒歩で行けますし、山手線内なので、都内の大抵の所は、約30分以内に行けます。

因みにこの場所は、南青山在住の不動産会社社長兼仙人のS氏という方に探して頂いたのですが、奇妙な偶然が連続した挙句、契約も極めてスムーズに行きました。彼は、「いやいや、気功家が二人揃えば、こんなもんですよ」とおっしゃっていましたが(笑)。

そんなわけで、折角東京に舞い戻ったのだから、今後はかつて以上に、いろいろなことに挑戦

してみようかな、と考えているところです。

さて、練功の方も順調にお進みのようで、何よりです。

ところで、小周天、大周天と進まれてきたところで、特別な能力が開花したり、特別な体験をしたということが全く無い、とのご指摘ですが、こんなことを申し上げるとミもフタも無いのですが、では僕自身がどうなのか、と問われれば、僕もそうです、と申し上げる他無いですね(笑)。唯一の変化と言え、気功施術が出来るようになった、ということだけでしょうか。

逆に、例えばネットその他で、小周天や大周天がどーのこーのと言っている方々に、それが出来たら一体どうなったのか、というのを伺ってみたいのは、僕の方だったりしますね(笑)。

つまり気功に関しては、かなりムード的な部分が専攻してしまって、その実際の姿というのが、十分に(健康的に(笑))把握されていないのではないかと、いう気がします。それこそもしかしたら、そのようなことを言っている方々に、先生がお会いになったとしたら、こりゃ入院の手続きをした方がいいかな、とお考えになる場合とかがあったりして(笑)。

そこら辺の事情もあって、再度上京したのです。つまり僕自身は、師匠に教えて頂いた点穴療法その他のお陰で、いわゆる気功施術が出来るようになったわけですが、他の人がどのように気功施術をしているのかは、全く知らないわけです。比較検討の仕様が無い。それでは科学的な研究という点で、明らかに問題があります。かといって鳥取ではそのような、比較対照とすべき気功家にお目にかかったことが無い。

僕はどちらかと言え、自分で出来るようになったので、これでその技術はマスターしたぞ、と考えるタイプの人間ではないのです。むしろそれを洗練させることの方に、興味があるわけです。

それを考えると、一人での練功はどこでも出来ますが、「より」洗練させるということを考えれば、それは論理的にも、他者の存在が不可欠です。

東京は、その点でも、申し分無いわけですね。

この比較検討という作業は、科学的なスタンスを維持する上で、極めて重要なファクターだと思いますね。

前回お会いした時に、先生のお宅で起こったような現象が、正にそれだと思いますね。もしかしたら今の僕には、いわゆる気というものが、かなり高純度で凝集している可能性がある。でもそれは、自分では全く自覚出来ないわけです。逆に、最近進歩がないよな～、みたいに落ち込んでみたりして(笑)。

ところが実際に、先生やF先生が経験なさったような現象が起きましたよね。あんなことは僕自身も、想像もしていなかったわけです。

その時に初めて、自分の実力がある程度、推量できるわけですね。

僕が施術をするのは、正にこのためです。僕は、周囲のかなり実力のある方々には、積極的に施術をするように勧めています。というのはその方が、自分の実力が推量しやすいからです。

僕の考えではその方が、効果的かつ科学的に、練功が進められるような気がしますね。

ここで生じるのは、いわゆるフィードバックですね。逆にこれを教室の中で望むのは、とても難しいと思います。何故ならば教室では、基本的にコミュニケーションが、先生から生徒へという形で、一方通行になり易いですからね。これでは両者とも、フィードバックを得るのは難しいのではないかと、思います。

僕が個人指導を謳うのは、ここに大きな要因があります。

一指禅功では、施術が練功になる、とよく師匠が言いますが、それはこういうことだと思いますね。自分で気持ちよくなっているだけでは、自分自身の正確な変化を自覚するのは、極めて難しいわけです。でも何らかの形で他者を介入させた時、その変化が可視化される。それは例えば、親父の腫瘍マーカー値の推移、という形で、現れてくるわけです。

要するに、チェックのやり方ですね。これをきちんとしなければならない。これに失敗すると、良くて変化が自覚出来ない、悪くて頭の中で、呂洞賓を超えた大仙人になる。先生の出番ですね(笑)。

僕が科学的なスタンスを標榜しているのは、このように、別に、東洋医学を啓蒙しようと考えているからではないのですね。そうではなく、比較検討する作業を繰り返すことで、自分の練功に、フィードバックさせているだけです。つまり、極めて個人的な目的からです。

これは極めて容易かつ確実なスランプ脱出方法だと思いますので、お勧め致します(笑)。

さて最後に、再度の練功のお誘いに関しましてですが、僕は要請があればどこへでも参上致しますよ。そこら辺のスタンスは、以前と同じです(笑)。ですからもしお望みであればまた、お気軽にお申し出下さい。

因みに東京-博多間の方が、浦安-博多間よりは、時間はかからないみたいです。すごいところに住んでたな、と我ながら思いますけど(笑)。

先生ももし東京へお出での際は、是非お声をお掛け下さい。

というわけで、皆様にも宜しくお伝え下さいませ。それではまた！



"HMO"？うーん、脱帽



VOCALOID2 キャラクターボーカルシリーズ01 初音ミク HATSUNE MIKU

先だって、YMOがワールド・ツアー等でよく演奏していた矢野顕子の『在広東少年』をネットで検索していたときに、偶然同時に、"HMO"という謎の文字列を発見。

何だこれ？と思いつつさらに検索すると、それは"Hatsune Miku Orchestra"の略だそうです。

『初音ミク』さんとは、クリプトン・フューチャー・メディアの大ヒットソフトウェアで、コンピューターにいわゆる"萌え系"のボーカルをさせてしまうという、画期的なものです。見たところ、今やそれは、単なるソフトという枠を超えて、ほとんど一つの表現形態というか、音楽ジャンルにまでなっているかのような感があります。実は僕も、童謡プロジェクトで、彼女にはよくお世話になっているのですけれど(笑)。

そして、"HMO=Hatsune Miku Orchestra"とは、彼女に、何と往年の"YMO=Yellow Magic Orchestra"のカバーをさせてしまおうというもの。なにい〜？というわけで、出典元の『ニコニコ動画』を調べてみると、あるわあるわ、ほとんど全曲そろっているんじゃないでしょうか。当然、『在広東少年』もありました。

おまけに、"テクノデリック"という彼らのアルバムのタイトルをもじって、"ミクノデリック"なんてものもある・・・。

しかしこれは、単なる冗談ではないようです。それを聴いてみると、ほぼ完璧にコピーされたバックトラックに、ミクさんが「みっくみくに」歌い込んでいます。この完成度はすごいです。普通のオフィシャルのアーティストのカバーものより、全然面白い。しかも、たくさんの競合者たちが、次から次へと投稿して、へぼいものは徹底的に叩かれた挙句削除される、みたいな、それはそれで一つの競争社会になっているみたいですね。

彼らのど根性、そしてYMOとミクさんに対する愛には、心底敬服いたしますです・・・。

というわけで、YMOファンのあなた。是非一度どれかを耳にしてみてください。笑えるどころか、うなされます。

僕としては、『音楽@ミクさん』という『音楽』のカバーが、お好みですね。♪地図帳広げて～♪

[初音ミク](#)

[ニコニコ動画～HMO](#)



David Sylvian/Gone To Earth



[Gone to Earth](#)

David Sylvian

この方の経歴も、かなり変わっていますね。

80年代にイギリスでデビューした、今で言う「ヴィジュアル系」の元祖のようなバンド"JAPAN"で、ヴォーカルを担当(因みにバンドを結成したのは、「自殺するよりはマシだろう」という前向きなのか後ろ向きなのかよく判らない動機からであったようです。さらに、メンバー全員がそれまで楽器を触ったことがなかったので、そんな彼らが先ず最初にやったことは、担当楽器の分担であったとか)、そのグラム・ロックばりのサウンドとルックスからそこそこ売れましたが、しまいには「お前らは金にならない」とレコード会社に引導を渡され、仕方がないから、最後だと思って自分達で好きなことをやって制作したというのが、『鍼力の太鼓』という彼らの最高傑作。

彼は、そのように音楽的知識が全くなかったために、感性一発のサウンド作りをしています、その空間系のサウンドは、非常に独特なものがあります(Prophet-5のノイズの使い方など、絶品ですね)。

ドイツの鬼才ホルガー・チューカイ先生と組んで製作したファーストアルバムなどもさることながら、ここで取り上げたセカンドアルバムにも、その静謐な音作りの妙味は、遺憾なく発揮されています。

このアルバムは二枚組みで、一枚目はヴォーカル物、二枚目はインスト物と分けられているのですが、私としては、インスト物の方が好みます。

基本的に、全作品ループで構成されているのですが、当時はサンプラーはまだ高価で、なおかつサンプリング可能な時間が非常に短かったことから考えれば、テープ・ループなのかもしれません。

因みに、後に、"Sylvian & Fripp"で共演することになるKing CrimsonのRobert Frippさんも、ギターと、いわゆるフリッパートロニクスで参加なさっています(もう一つ因みに、私が最初の彼らの日本公演を見に行った時、私が観客席から「Bob(Robertの愛称)！」と声をかけると、振り向いたのは何故か、Sylvianさんでした。その時の音楽も、まさに知人曰く、「アンビエントここに極まる」といった感じでした)。

なぜ彼がこのようなトリップ感覚溢れる作品を作ったのかは判りませんが、あるインタビューの中で、自分の作品の中のインスト曲の重要性を語っていることからすれば、ヴォーカリストの割には、元々そういう傾向の強いアーティストなのかも知れません。

非常にキャパの広い方ですね。

[David Sylvian](#)



今や、名実ともに日本のチベットと目される、わが郷里鳥取県(因みに、信頼できる情報筋によりますと、近年の経済成長率が、47都道府県中唯一のマイナスだったとか。人口も最少。もはや他の追隨を許さぬ、孤高の存在です(笑))。

その中央に位置する大山は、古来より、山岳修験道の聖地でもあったのですが、その中心となっていたのが、ここでご紹介する、大神山神社です。

そこから少し山を下ったところに、大山寺という寺があります。実は元々大山寺と呼ばれていたのは、この大神山神社の方でした。昔の大山寺は、修験の徒がここで修行するようになった奈良・平安時代以降、神仏習合思想の元に、かなりの勢力を誇った寺であったようです。しかし、明治時代の神仏分離令によって、強制的にこの二つに分けられ、現在に至ります(今の大山寺は、元々大日如来を奉った、如来堂と呼ばれる建物でした)。

僕の実家は、ここからだいたい車で約1時間程度の距離なので、ここはかなりのヘヴィ・ローテーションの場所です。

旧赤碕町地区から香取開拓村を抜けて、ちょうど裏側から大山に入る、というのがお気に入りのコースで、そばには船上山という美しい山もあります(ここも昔、修験の山であったようです)。観光客がほとんど通らない道を、周りの雄大な自然を愛でながら通り抜けるのは、また格別です。

こうして、大山寺の門前町に車を止めて、あとは延々と、参道を歩きます。かなりの坂道です。

途中で、先ほどご説明した大山寺と、大神山神社へと分かれる場所がありますので、コアなあなたは、左へ行って下さい。もちろん初めての方であれば、右手にある現大山寺での参拝を済ませた後、本堂の奥から小道を経由して大神山神社へと至るルートをお取りになっても結構です。その分岐点から大神山神社へと至る参道は、自然石を敷き詰めた参道としては、日本最長だそうです。多少足元が悪いので注意が必要ですが、恐らくこの道そのものは、数百年間、ほとんど手は加えられていないのではないのでしょうか。その意味でも、大変貴重な参道だと言えます。

そして山門を抜けると、そこにあるのは、まるで城壁のような境内。このような作りを持つ神社は、非常に珍しいようです。その石段を登ると、そこに大神山神社があります。因みに社殿も、日本最大級の権現作りで、古来の神仏混交の様式を、今に伝えています。

晴れた日には、雲が神社のすぐ上を流れていくのを、見るができます。とても幻想的な光景です。

ポイントとしては、神社に入った賽銭箱の前ですね。真正面に、ご神体である鏡を見ることができますが、その辺りです。因みに、一度靈感のある友人と参拝した時にも、足元からズルズルと何かが体の中に入っていくのを、感じることができました。その後彼女は、「さすが気功家やなあ」と妙なことを言っていたましたが、その意味はいまだにわかりません。

宮司さんも、ユニークな方です。参拝した時、丸顔のおじいさんがそこに座っておられたら、あなたはラッキーです。そのおじいさんに話しかけられるあなたは、もっとラッキーです。きっと彼は、古事記からビッグバン、核物理学理論を援用しながら、この神社の縁起を、熱心に語ってくれるでしょう。

お世辞にも、観光客に恵まれているとは言い難い場所なのですが、だからこそ手付かずに残っている美しい自然が、この辺りには広がっています。この近くには、遠く島根半島を望むことのできる場所があります。その向こうにあるのは、出雲大社です。まさに「八雲立つ～」といった、古代への情熱をかき立てられる美しい風景を、そこからは目にすることができます。

僕がそこへ行くときは、必ず一人で行きます。

お帰りには、そこから伯耆町側に下ったところにある、大山乳業管轄の大山まきばみるくの里へ、是非。そこら辺に放牧してある牛さん達から絞ったばかりの新鮮な牛乳を贅沢に用いた名物のソフトクリームは、なかなか絶品です。友人に言わせれば、「バリバリの田舎味」ということで、好みは分かれそうですが。僕は好きなのですけれどね(笑)。

というわけで、お近くにお住まいの方は、是非一度ご探訪を・・・。

[大神山神社](#)

[大山まきばみるくの里](#)

『カンフー・ハッスル』に見る「奥義」の問題



カンフーハッスル コレクターズ・エディション

チャウ・シンチー

先だって、『カンフー・ハッスル』という映画を見ました。

この映画は、かの『少林サッカー』と同じ、チャウ・シンチー監督の作品です。

先回の映画に、私はいたく感激したのですが、今回の映画は、残念ながら前回ほど話題になっていなかったのも、ついつい見そびれてしまったのです。

やはりその予想通り、前回に比べてかなりマニアックな内容でしたので、いわゆる興行映画としてのクオリティはイマイチ、という感は否めませんでした。それでも、幼少時からのカンフー映画好きの私としては、ブルース・リーのパロディみたいな箇所もあったりして、結構楽しめる映画でした。というより、この映画は、チャウ・シンチー監督の、カンフー映画への、個人的なオマージュなのかもしれませんね(私は、なぜこの映画にいきなり小林克也が出ているんだろう？と訝ってしまいましたけれども)。

しかしながら、この作品は、そのように興行映画としては失敗作だったかもしれませんが、私個人的には、カンフー映画の歴史という観点から考えると、ある意味エポック・メイキング的な作品ではないのかな、という気がします。

と申しますのは、CGという、かつてのカンフー映画ブームでは存在しなかった最新の技術を用いることで、チャウ・シンチー監督は、カンフーの歴史の中で、今までほとんど触れられていなかった文字通り「目に見えない領域」に光を当てることに、ある程度成功している、と思われるからです(もちろんコミカルに、ですが)。

ここでは、『剣仙』や、『如来神掌』という謎の拳法が、CGを駆使して描かれています。逆に、およそこのような拳法は、CGを用いなければ、描くことはまず不可能だったでしょう。

では、これらは、果たして、単に想像上のものなののでしょうか？

それを、この映画に出てきた『如来神掌』を信じる少年のように、嘲笑されることを覚悟の上で、あえて語ってみたいと思います。

先の拳法と同じように謎めいた拳法に、『百歩神拳』と呼ばれるものがあります。

そのトレーニング法は、と申しますと、深い井戸のそばに立ち、腕に気を満たした状態で、その底にある水面に向かって拳を放つ、というものです。

当然最初、水には何も起こりません。ところが、これをたゆまず3年程度続けていると、次第に水面に、波が立ち始めるといいます。

さらにこの訓練を数年続けていると、その波はだんだん大きくなります。そして最終的に、それがバシャバシャと、実際に水に手を突っ込んでかき回しているかのように激しいものになると、技は完成です。

そうすると、人と相対した時、百歩離れたところから拳を放つと、相手は、触れられてもいないのに倒れる、といえます(『百歩神拳』の名前は、ここから来ています)。

また、私が普段やっている『一指禅功』にも、本当は、もう一つ種類があるといえます(私が子供の頃から知っている『一指禅功』は、実は、こちらの方だったのですが)。

トレーニングのやり方と、最終的な効果は、先の『百歩神拳』とほぼ同じなのですが、この場合は、ろうそくを用います。

ろうそくの炎に向かって、指先に気を満たした状態で、指を突き出します。その訓練を続けていると、次第に、指の動きに合わせて、炎が揺らめくようになるといえます。

それが出来るようになると、指と炎の間に障害物を置いた状態ででも、それが出来るように訓練していくのです(中国語が読めないので詳しくはわからないのですが、私が嵩山少林寺で読んだ奥義書には、それを、離れたところから釣鐘を鳴らす程度にまで、訓練を続けていくように書いてあったようです)。

「・・・中原さん、ついに荒唐無稽な、オカルトめいたことを口走るようになってしまったか・・・。」と思われるかも知れませんが、果たしてそれは、本当に荒唐無稽なのでしょうか？

それを、極めて現実的に、考えてみましょう。

例えば、先の『百歩神拳』なのですが、もしもそのような訓練を毎日鍛錬していけば、一体どうなるのでしょうか？

この時、イメージの助けを借りながら、全身の筋肉が調和した状態で拳を放つ、という訓練を、長期間続けることになります。

従って、そのような訓練を経た後、いざ実戦という時において、そのように全身が調和した状態で繰り出される拳の破壊力は、十分に想像できると思います。

実はこのことは、ご自宅でも、簡単に実験することができます。体重計をご用意下さい。それを、まずは片手で、カー杯押してみてください。

その時の力と、今度は、「丹田から発した気が、陽経を通して、掌から放たれた後、何千メートルもの地下まで突き抜けていく」、といったイメージを使って押した力と、比べてみてください。

非力な私の場合、前者は約15キログラム、後者は、その三倍の、約45キログラムでした。

これは、前者の場合では、腕の筋肉のみの力であったのに対し、後者では、より質量が大きくてパワーの大きい広背筋まで、動員されるためです(これが、いわゆる『寸勁』のメカニズムです)。

『一指禅功』でもそうだと思います。先のようなイメージを使ってトレーニングした指など、ほとんど凶器でしょう。それを使って皮膚を突き破り、内臓を破壊するなど、造作も無いことだと思います(因みに、嵩山少林寺の正門をくぐってすぐのところに、大きな木があるのですが、それには、指の大きさ程度の穴が、無数に開いています)。

そしてもう一つは、そのようにバイオ・メカニクスの的に解釈するのとは違って、少々立証が困難ですが、環境電磁気学的な解釈です。

現在の『一指禅功』の正統後継者は、劉永言先生です。

第二次世界大戦直後の動乱の中国で、先生が、そのまた先生であるケンゼン法師から法を受け継がれた時の状況は、次のようであったようです。

拳法が習いたかった先生は、ケンゼン法師にそのように告げたのですが、彼はこう答えたそうです。「先の戦争を見れば判るだろう？拳法など、銃の前では、何の役にも立たないのだ。そんなものを学んで、何になる？」

一瞬、返答に窮した先生に、続いて彼は、こう告げました。「もし私から学びたいのであれば、『一指禅功』を教えてやるが、どうだ？」

『一指禅功』などという聞いたこともない言葉を聞かされて躊躇している先生を、法師は、裏庭へ連れて行きました。そこの壁を、ヤモリが這っていました。それを見ると、ケンゼン法師はこう言いました。「よく見ていなさい。」

ずっと法師がヤモリを指差すと、ヤモリは、ぴたりと止まりました。

それだけではなく、法師が指でひっかくようなしぐさをすると、ぽろりとヤモリは、地面に落ちました。

ヤモリは仰向けになった状態で、ぴくりとも動きません。「死んでいるのですか？」と先生が尋ねると、「いや、死んではいない。」と法師は答えました。

そしてもう一度、法師がヤモリを指差すと、ヤモリはものすごい速さで、草むらへと消えていきました。

この時先生は、『一指禅功』というものの可能性を、強く感じた、とおっしゃっていました。

この現象は、私が常々主張しているように、電磁波の作用の結果だ、と考えることが出来るかもしれません。もしかしたら、ケンゼン法師の指から集中的に放出された電磁波が、ヤモリの神経系(それは、電氣的に制御されています)に、何らかの作用を及ぼしたのかもしれません。

このように、古来からある逸話の中で、生体から放たれた何らかの電磁波の作用の結果と考えると、ある程度納得がいきやすい事例は、少なくないと思います。もちろん映画のように、その力で壁を破壊するというのは、難しいと思いますが(以前師匠が、非常に興味深いことを言っていました。「50キログラムの人間を動かすのは簡単だが、50キログラムの肉の塊を動かすのは、極めて困難だ。」)。

もちろんこのことは、電磁波を測定する機器を持っていない現在の私では、計量的に立証することは困難ですので、これ以上の論評は避けたいと思いますが、指や掌から電磁波を放出することで、対象とする人間の神経系に何らかの影響を与えるというのは、あながち絵空事ではないような気がします。そうでなければ、実際私は、仕事が出来ませんし(笑)。

余談ではありますが、よく「気で人を飛ばす」といったパフォーマンスについて意見を求められることが多いのですが、私に言わせれば、そのようなパフォーマンスは、真偽がどうのこうのというよりも、むしろ、単なるパフォーマンス以上の意味の全く無い「無駄」だと思います。

むしろ、指から放つ「気」によって、相手の神経系に何らかの影響を与える方が、「実用性」を考えれば、よほど効果的だと思いますね(大きな声では言えないのですが・・・)。

『百歩神拳』であろうが、『一指禅功』であろうが、はたまたオーラ視のトレーニングであろうが、いずれにせよ、重要なのは、結果ではなく、そのプロセスだと思います。

「参加することに意義がある」という言葉がありますが、まずは、やってみないことには始まりません。

後は、それを遂行していく過程で得られる、(神経上の)情報量の差異の問題になります。

99%の人が「馬鹿馬鹿しい」と言ってこの時点で放棄するのですが、残り1%の物好きな変わり者の人にだけ、その不思議な力は、正体を見せてくれます。ちょうど『カンフー・ハッスル』で、純真な心を持った少年が、最終的に達人になったように。

ここら辺の事情は、潜在意識開発系の自己啓発書でも、全く同じですね。『成功本』は星の数ほどありますが、それを読んで成功する人が全くいないのは、そのような本自体に問題があるわけではありません。ただ単に、誰もやろうとしないだけなのです。

さらに申し上げれば、それが出来た人は、そのことを、積極的な形では、誰にも語らないでし

よう。その理由にはあえて触れませんが、それは、それを達成した人だけが、理解できることだと思います(この辺も、映画の通りですね)。

だからこそ、どうしても、『奥義』という言葉が、使われてしまうのかも知れませんね。

<付記>

ある意味、『カンフー・ハッスル』を参考にしながら、『如来神掌』のイメージ・トレーニングに励むというのも、昨今のように訳のわからない事件が多発する現代社会では、大いに役に立ったりして。

ただし、コントロールが利かなくなって、ダース・ベーダーにならないように、ご注意のほどを・・・。



↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

無事に長芋が届いたようで、安堵致しております。

ここ鳥取県中部は長芋が名産でしてね。県外の方にお送りすると、結構喜んで頂けます。

ご賞味頂けたみたいで、嬉しく存じます。

また、長期間に渡り、ミルトン・エリクソンの催眠療法のビデオをお貸し頂きまして、真に有難うございました。並びに、お返しするのが大変遅れまして、申し訳ございませんでした。

全巻を拝見した率直な感想を申し上げますと、エリクソンの催眠療法のアウトラインを大雑把に掴む意味では、大変参考になりました。

だととても残念に思った点がありまして、それは、参加者の顔が、全てモザイクになっていたのですね。

僕の考えるに、催眠療法の実践において最も重要な着眼点は、被験者の表情が、誘導によって、どのように変化していくか、だと思うのですが、その辺りが、全く把握出来ませんでした。

昨今のように、あまりプライバシー、プライバシーと言い過ぎるのは、学問の啓蒙や発展を妨げてしまう部分があるかも、と思わされました。

こうなったら自分の眼で確かめるしかなさそうなのですが、そこまでは今のところいいかな、というのが、今の心境です(笑)。

何はともあれ、有難うございました。

練功の方も、順調に進んでいらっしゃるようで、何よりです。そのままどんどんお進みになられたら宜しいかと思われます。

ところで、ご指摘のあった、気の充実が精神にどういう影響を与えるかについては、ご自身でははっきりした効果は確認出来ていない、という点に関しまして、僕の意見を申し上げたいと思います。

率直に申し上げて、僕の経験から申し上げますと、気そのものの充実が精神に影響を与える、ということは、通常の練功では、ほとんど無いと思います。

これは以前、命功と性功に関して申し上げた通りです。書物やインターネットでは、気功をすることで心身ともに健康になれる、誰もがハッピーになれる、といった類のことが、良く書かれていますが、このような表現は、容易に誤解を招く恐れがあると思います。だから気功が、神秘主義の範疇を脱却出来ないのだ、というのが、僕の意見です。

僕の考えでは、命功は命功、性功は性功であり、両者は全くの別物です。勿論、それらの両方を上手に修めた方が達人として歴史に名を残している、ということはあるかもしれませんが、それは正に両方を収めたからという理由ですし、あるいはその人物が単に天才であった、という理由以外の何者でもない、と思います。

従って素人が、その両方の要素を持たない気功をすることで、そのような心身共にハイレベルな状態になるところか、結果的に魔境に陥った例が、何と多いことか(笑)。

これは、スポーツと全く同じですね。あるスポーツでずば抜けた才能を持った人がいるとしても、そのことと、その人が人格者であるかどうかは、当然のことながら、全く別の話です。むしろ、そうではない人が多いのではないのでしょうか(笑)。

要するに、レベルの問題だと思います。通常の練功が精神に与える影響としては、物事に動じなくなった、などといった点が普通考えられるものであって、それ以上でも以下でもない。ですから、もしその気の充実が、例えば仏教で言う『悟り』などといったものにどのように影響を与えるか、という話になるとすれば、それらは全く別物であり、それを求めるのであれば、別のプロセスが必要だ、というのが、僕の考え方です。以前にも申し上げました通り、だからこそ仏陀は、ヨガを放棄したのです。

もっとも、目下の僕の興味は、このような心のメカニズム、端的に言えば、認識のメカニズムにあるのですが。気功は最近、食傷気味だったりして(笑)。

あの高良大社奥の院は面白かったですね。僕もあのような経験は久し振りだったので、とても面白かったです。

ところで奥の院と申せば、9月に高野山の奥の院へも行ってきました。これはY君のエスコートです。彼が、「あそこの奥の院に行くと、異常なものを感じるんですが、中原さん行ってみませ

んか？」と言うものですから、早速二人して行ってみたのですが、確かに、奥の院の本堂では、強い熱波を感じました。特に、空海の廟の真正面に立った時などは、凄かったですね。熱波で頭突きを喰らっているような感じでした。

やはり奥の院には、奥の院たる由来があるんでしょうね。

現役の呼吸器外科医がこんなこと言っているんですから、指導する方としては、彼が仕事場から排斥されないように願うばかりなのですが(笑)。

それでは寒くなって参りましたので、どうか皆様お体大切になさって下さいませ。



悦楽としての工業化～『バウハウス・デッサウ展』再訪

先だってこちらで、『バウハウス・デッサウ展』(東京藝術大学大学美術館にて開催中)をご紹介いたしました。

その後、ナニゲにバウハウス関連のページを見ていたら、ブロガーを対象にした特別鑑賞会が開催されるという記事を発見。何と、館内の作品の一部も、限定的に撮影可能だとか。

いずれにせよ会期終了までには、もう一度くらいは行っておこう、と考えていたところだったので、取り敢えずダメモトで応募してみたら、これが見事に当選。小学生の時から運動競技ではドンケツしか取ったことがない私としては、ちょっとした驚きでした(あ、全然関係ないか)。

というわけで、6月25日、閉館後の午後5時10分からスタートのこの特別鑑賞会に、行ってきました。

前回訪れた際は、まさかあれだけたくさん作品が展示されているとは全く想像していなかったため、最後の方は閉館の時間との兼ね合いもあって、かなり端折ってしまったのが心残りだったのですが、今回は余裕を持って、全作品をもう一度、ゆっくりと敷衍することが出来ました。

この特別鑑賞会は、数日後にブログに記事をアップすること、というのが参加の条件なのですが、私はここでは、あえて作品そのものに焦点を当てることはせず、バウハウス運動の理念そのものを、アンチ表現主義という切り口で、それが後にドイツ、あるいは世界の文化に、どのような影響を与えたのかを、私が専門とする音楽と絡めつつ、考えてみたいと思います。

バウハウスの人達は、工業と手工業の新たな協力の元、工房において高品質で実用本位な日用品がデザインされて、それが工業的な手段で大量生産されるべきだ、と考えました。これは、『芸術のための芸術』から、「誰にでも手に出来る『日常生活の芸術』」への転換と言えます。つまりここには、表現主義から機能主義へ、手工業から工業生産へ、という流れが見られるわけです(ここには、バウハウスのほんの少し前に誕生したデ・ステイルという、表現主義からの転換を図ろうとした芸術運動や、一切の無駄を冷徹なまでにそぎ落としたかのような作品を志向したロシア構成主義からの影響もあります)。

つまり、アンチ表現主義という切り口でバウハウスを捕らえた時、二つの要素が立ち現れてくると思います。一つは機能主義、そしてもう一つは、工業生産への高い関心、という二点です。

そしてこの二つの要素は、バウハウスが存在していたわずかな期間を超えて、いまだに世界的に大きな影響を与えています。

例えば、前者の機能主義に関しては、その影響は、ブライアン・イーノの"アンビエント"という音楽形態にも見られると思います。彼は、環境そのものとしての音楽に多大な関心を寄せています。もちろんそれは、エリック・サティからジョン・ケージに至る実験音楽の影響もあるのでしょうか、ここには間接的にでも、バウハウスの機能主義的な発想の影響を見ることも、不可能ではないのではないか、という気がします。

ところが、私自身がそれ以上に興味があるのは、後者の方です。つまり、これは私の仮説なのですが、ドイツ人のメンタリティには、もともと工業生産(文字通り、"インダストリアル"ですね)、より分かりやすく言えば、「機械」というものに対して、他の民族よりも強い関心が存在するのではないか、ということです。

これを、私が専門とするエレクトロニック・ミュージックで、考えてみたいと思います。

シンセサイザーという楽器は、今ではありふれた存在ですが、このプロトタイプを製作したのは、アメリカのロバート・モーグ博士です。その当時のシンセサイザーは、およそ楽器にふさわしくない、むしろ兵器のようなルックスでした。巨大なモジュラーにパッチングされた多種多様なケーブル、という奇怪なルックスに魅せられ、ビートルズやエマーソン・レイク&パーマー、ウェンディ・カーロスといった多くのミュージシャンが、その誕生初期から、多用していました。

ところが、私が見る限り彼らのシンセサイザーの使い方は、奇妙な音を出すキーボード、といった感じの使い方に終始していたように思います。それはメロトロンなどと同じく、オルガンの延長上にある、「楽器」に過ぎなかったのです。

このような状況を打破したのは、間違いなくタンジェリン・ドリームというグループだと思うのですが、これがまさに、ドイツのグループなのです。

彼らはそのモーグ・シンセサイザーのモジュールの中にある、ステップ・シーケンサーという、同じパターンで電圧を制御するモジュールに注目しました。そして彼らはそれを、実験的に、発音変調制御に使用したのです。この時発生した畳み掛けるような凶暴なパターンの反復。彼らはこれは、自分達が目指している未知の音楽にぴったりだ、と直感しました。これに更に、電子変調されたギターやオルガンの音を被せて、彼らは自分達の作品を作り上げていきます。

この時モーグという機械は、演奏されるべき楽器、つまり人間に隷属する存在としての楽器などではなく、むしろ、メンバーの一人として立ち現れたのです。

私には、このような志向性＝嗜好性は、バウハウスにも共通するものがあつたのではないか、と思われるのです。

彼らと関係の深いクラウス・シュルツに至っては、もっとそれが極端な形で現れています。最近私は彼の、"Dig It"という作品を、手に入れました。これには、ボーナスDVDが付属しているのですが、タイトルはまさしく、"Stahlsinfonie(Symphony Of Steel)"。この中で彼は、鉄工所の製鉄作業の映像をバックに、また本人は作業員の防護服に身を包んで、そのような工業製品の権化たる巨大なモーグ・シンセサイザーの前で、まるでそれと会話をするかのような演奏を続けます。私はこのライブ映像を見て、最初は非常に面食らいましたが、よくよく考えてみるとこれは、彼らにとっては自然な感情なのかも知れない、と考えを改めました。

つまり彼らは、もともと機械が好き、あるいは機械的な発想が好きな民族なのかも知れない、と私は思ったわけです。

ステップ・シーケンサーを操作する、というのは、いわゆる"打ち込み"とは、発想がまるで異なります。なぜならば打ち込みの場合には、打ち込む対象となるべき音型が、すでに存在しています。しかし、ステップ・シーケンサーにおいてどのような音型が出てくるかは、予測は困難です。むしろ正確に言えば、予測してしまつては面白くない、というべきでしょうか。

それだけではありません。ツマミをツマミを回す、という行為は、どこにでも見られる、それこそ「日常的」かつ「機能的」な操作に他なりません。ところが驚いたことに、それは「オンガクカナデル」(同じくドイツのグループであるクラフトワークの曲『電卓』の歌詞。因みにクラフトワークとは、これまたおあつらえ向きに、"発電所"という意味です)わけです。いずれにせよ、ここには「表現主義」が介入する余地など、最初からありません。

別のグループであるカンのホルガー・チューカイは、インタビューにこう答えています。「私の場合スタジオに入る前に、音楽についてのアイディアなど全くありません。アイディアがあれば、音楽は出来ないのです」。これはドイツのエレクトロニクス系の音楽家に共通するスタンスだと思われます。彼らは「デンタクカタテニ」(同上)機械と戯れつつ、「オンガク」を「カナデ」続けます。そうして自然発生的に生まれてきたもの、それが彼らにとっての、音楽なのです。

しかしながら、60年代、70年代においては、世界の音楽市場においては彼らの音楽は、単なるキワ物でした。実際にセールスを上げていたのは、アメリカやイギリスなどの、まさに表現主義的な音楽の方でした。しかし現在、ハウス・テクノといった新たなムーブメントを通過し、なおかつコンピューター全盛の今日に生きる若者達から、彼らの音楽が、「ルーツ」としてリスペクトされています(かのデトロイト・テクノの基礎を作り上げたデリック・メイは、「デトロイトはドイツの衛星都市だ」、という発言をしています)。

ドイツ人に見られるこのような機械への愛着。これは単なるオタクキーなフェティシズムに過ぎないのか？そうではない、と私は考えています。彼らは機械を、単なる道具以上の存在として捉えているのではないか、そんな気がするのです。そして、そんな機械達が奏でるキュートなノイズを音楽化＝芸術化していこうとする強い決意。それは表現主義の、対極に位置します。私はこれとバウハウスの理念とは、全く無縁ではないのではないかと考えているのです。

ところが、この人間vs機械という構図に、最近もう一つの要素が介入してきました。しかもそれは、全地球的規模で、しかも一刻を争う緊急事態として。言うまでもなくそれは、環境です。

いわゆる経済学は、ヒューマニズム＝エゴイズムを正当化する理論として、産業革命の誕生と同時に生まれ、存続し続けています。その中で私達は、これまでは、人間と機械という二者の間のインタラクションさえ考えていれば、事は済みました。その両者の間で環境は、長い間抑圧ないしは無視され続けてきたのです。

そのしっぺ返しが、じわじわと私達に、迫ってきています。

しかし私達は、今さら機械を放棄するなど、およそ不可能です。しかしこのままでは、カタストロフは目に見えている。私達が探るべき道は、どこにあるのか？

そのような恐るべき矛盾と直面しなければならない今日において、目に見える形で独自の成果を挙げつつある唯一の国と思われるのが、バウハウスその他の芸術運動の中で、人間と機械との独自の関係を模索し続けてきたドイツであるように、私には思えてなりません。彼らは機械と戯れることで自然発生的に培ってきた技術を、絶妙に環境問題へと転換させつつあるように思えます。そこにおいて、展覧会の模型にも見られるように、グロピウスが建築の中で目指した、人間・工業・環境の調和の理念を読み取ることは、さして難しくないのではないかと私には思えてならないのです(少なくとも、表現主義の最たるものであるハードロックのアメリカと、それに追従している日本では、こんなことは出来ないよな、みたいな(笑))。

もしかしたら彼らは、自然という存在を、私達日本人とは違って、有機物ではなく、無機物として捉えているのかも知れない。その無機物は、私達有機物とは異なったやり方で、世界を見ているのです。彼らの関心は、むしろそちらの方にある。彼らの芸術について思いを馳せる時、私はそのような印象を、強く持ちます。

表現を放棄することは、エゴを放棄することにつながります。私達はそれを実践できる勇気を持ち合わせているのか？それを本当に実行した時、そこには、今まで未知であった新たな可能性の領域が広がっているかも知れないというのに・・・。

それがバウハウスの諸作品から読み取れる、現代に向けたメッセージなのかも知れない、そう思いながら私は、会場を後にしました。こうしてバウハウスは、いつの時代でも、私達にラディカルな問題を突きつけて止まないのです。

何はともあれ、『バウハウス・デッサウ展』。是非一度、足をお運び下さい。

『[BAUHAUS experience, Dessau](#)展』

会場: 東京藝術大学 大学美術館・陳列館

スケジュール: 2008年04月26日 ～ 2008年07月21日

5月5日（月）、7月21日（月）は開館。5月7日（水）は閉館

住所: 〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

電話: 03-5685-7755



William Ackerman/Imaginary Roads



[Imaginary Roads](#)

William Ackerman

私とギターとの出会いは、多くの人がそうであるように、The Beatlesがきっかけでした。

それまでシンセサイザー一辺倒だった私は、ある時偶然耳にしたFMのビートルズ特集で流れてきた"Hey Jude"でJohn Lennonが弾くアコースティック・ギターの音色に非常にショックを受け、その日から自力で、ギターの練習を始めました。

時まさに、大学受験直前。そして、自在にビートルズの曲が演奏できるようになる頃には、二浪が決定していました(笑)。

平行して、先にご紹介したGeorge Winstonのアルバムを聴いていたのですが、ある時ふと、このアルバムのプロデューサーの欄にあるWilliam Ackermanという人物が、非常に気になりました。

よく調べてみると、彼も、ギター奏者だということが判明します。

G.Winstonのアルバムをプロデュースしている人物だから、その透明感は恐らく、彼のアルバムにも反映されているに違いない、そう思った私が最初に手にしたアルバムが、このアルバムでした。

当時ギター演奏といえば、コードをかき鳴らすくらいしか知らなかった私は、このアルバムに見られるような美しいアルペジオ演奏に、これまた強いショックを受けました。

とはいえ、そのようなリリカルさの底に流れるクールさは、G.Winstonと全く同質で、その点も共感を覚えました。因みに彼は、ドイツ系アメリカ人です。やはりドイツ系の人には、そういう感性を持っているのでしょうか？

彼の経歴も、非常に変わっています。彼は、元々大工さんです。趣味で弾いていたギターですが、そのオリジナル作品を耳にした友人達が、是非それをレコードにするように勧めるので、そうすることにしたそうです(因みに、G.Winstonさんとは友人同士で、よく一緒にホーム・パーティなどで演奏したりしていた間柄だそうです)。

ただ彼は、普通の凡百のアーティストがそうするように、それを大手のレコード会社に持って行って売込みする、みたいなチープな真似はせず、彼を支援する友人達から僅かなお金を借りて、"Windham Hill Records"を設立。そのアルバムを、健康食品店や病院などで、ささやかに売ってもらっていたそうです。

そこへ先の、G.Winstonの"Autumn"のスマッシュ・ヒット。趣味の延長だったレーベル運営が、本格的なビジネスへと転換致しました。

このように、彼のやってきたことは、いわゆるインディ・レーベルの経営戦略という観点からしても、非常に興味深いと思います。

因みにこのレーベルは、今ではアコースティック系ヒーリング・サウンドの代名詞みたいになってしまいましたが、元々はそのような意図は全くなく、アコースティックなサウンドを手掛けたのは、単純に「お金がなかったのでスタジオ・レコーディングに多くを割く訳にもいかなかったから」だそうです。

そんな彼は、レーベル運営者としてだけではなく、当然アーティストとして、自身の作品をたくさんリリースしています。

曲の作り方も、非常にユニークですね。音楽理論などは全くわからない、と言う彼の作曲は、ギターのチューニングから始まるそうです。つまり、彼のギターのチューニングは、普通のギターのそれではなく、完全にオリジナルなものになっています。そのチューニング探しが、彼にとっての作曲のスタートで、それが見つかると、自然に曲が出来上がっていく、と彼は言います。そのため彼のギターの響き方自体が、すでに独特のものになっているわけで、これに僕は、強い衝撃を受けたのです。

かのPat Methenyをして、「強烈なオリジナリティがある」と言わしめたのも、うなずけるところです。

そんな彼の作品の、どれを選んでも彼の美しいギターの響きは楽しめると思いますが、私としては、彼の作品との出会いの契機となっただけではなく、雄大なカリフォルニアの田園風景をカバーにしたジャケットもとても美しいこの作品を、挙げたいと思います。

[William Ackerman](#)

大阪の友人T君は、かなりめかし込んだいでたちで、東京の私の家にやって来ました。

その日は、私の友人の女性ピアニストのコンサートに行く予定だったのです。

いつもはジージャン姿の彼が、洒落たシャツを着て、カフスをつけて現れたのは、ちょっとした驚きでした。

だが可哀想に、私は、戸隠に行きたくなってしまったのです。

最初、彼は当然抵抗しましたが、私の性格をよく知っている彼は、諦めてついて来ました。

わざわざピアノ・コンサートを見るために大阪から飛行機でやってきた伊達男が、そのまんまの姿で、戸隠神社の参道の杉並木を歩く様子は、私の気まぐれのせいとは言え、非常にもののあはれを感じさせました。

奥社に着いて参拝を済ますと、私は早速、付近の物色を始めました。

両側に切り立った山、その間を流れる川と、『巒頭風水』的には、申し分ない地形でした。

ポイントは、拝殿の後ろにある大きな岩と、その下にある祭壇を結んだ直線が、拝殿前の広場と、交差する地点です。そこに立つと、足元から何か熱のようなものが吹き上げて来るのを、感じます。

しかしその光景を、それまで気功だとかそういった類のことを全く信じていなかった彼は、「またこいつ、わけのわからんこと始めやがった」という、半ば軽蔑の眼差しで見っていました。

そのまま気功家ならぬ奇行家扱いされるのはイヤだった私は、「そんなこというんやったら、お前もここに立ってみい」と、彼に提案しました。

彼は、「あほくさ」とでも言わんばかりであったが、実際にやってみると、彼も同じ感覚を覚えたようです。

「なんやこれ？」と彼は言います。「体中ムズムズしてきたぞ」。

最近疲れ気味だということで、"充電"のつもりで、私は彼をしばらくその場に立たせてみることに

しました。

体中がポカポカしてきた、と言って、彼はひどくご満悦な様子でした。

ところが、しばらくすると突然、「今度はさむなってきた。」と言い出しました。

急いでその場を離れさせたのですが、急に寒くなった原因は、彼にも私にもわかりませんでした。

彼を送った次の日、今度は私が一人で、試してみることにしました。

その場所に立つと、昨日のようにまた熱が上がってきます。

しばらくその感覚に浸っていると、突然、一陣の強風が背後から私に吹きつけ、私は思わずよろめきました。

それまで風は全く吹いていなかったし、そばには誰もいませんでした。

まさにそれは、「どけ！」と言わんばかりの突風だったのです。

その場に長居することは何となくマズいように思われ、私は大人しく退散することにしました。

というわけで、お近くにお住まいの方は、是非一度ご探訪を・・・。

(注)

長野県戸隠神社での独特の感覚は、左右を断崖に囲まれ、その間を流れている川のほとりという、まさに風水でいうところの「龍穴」の真上で起こった。

しかし、私はこれを神秘的なものだとは考えてはおらず、電磁気学でいう『波の干渉』と同じ現象なのではないか、と考えている。

しかも、これは私の単なるファンタジーでもないようだ。

もし、これらの現象が同一のものだとすれば、左右を壁(但しそれは、木製ではなく、コンクリート製でなければならない)に囲まれた、通常の部屋の中でも、起こりうるはずである。

私は、近所の文化センターの一室で同様の場所を見つけ、何も知らない友人に、その場に立たせてみた。

すると彼は、全身がロックされ、体の中を何かが這いずり回るような、異様な感覚を訴えた。

恐らく、このような場所で練功すれば、その効果を何倍にも高めることが、可能なはずである

。

そしてそれは、いずれも、電磁気学的な現象に他ならないと思われる。

[戸隠神社](#)





[Soil Festivities](#)

Vangelis

Vangelisと言えば、グラミー賞を取った『炎のランナー』のテーマ曲"Chariots of Fire"が有名ですね。あとは、日本人絡みだと、高倉健主演の『南極物語』ですか。

そういえば数年前、日本と韓国で開催されたサッカーのワールドカップのテーマソングも担当なされたとか。サッカーに疎い私は、そのことを、だいぶ後になって知ったのですが。

この方も、シンセサイザー奏者としてのキャリアは、ものすごく長いですね。

ギリシア出身の彼は、当初ポップグループ等で、ドラムスをされたりもしていたようですが、1970年代初頭の電子音楽ブームの影響があったかどうかはわかりませんが、突如、いわゆるプログレ系の、シンセサイザー奏者に転向されました。

この時期の作品には、『スパイラル』(ジャケットはモロに、マイク・オールドフィールドの、『チューブラー・ベルズ』のパクリだったりもします)、『反射率0.39』といったものがありますが、いずれもいまだに、名盤の誉れの高い傑作です。

彼は、それらのような壮大なシンセ・オーケストラ作品を制作するかと思えば、全編電子音だけのフリー・インプロヴィゼーションのような作品も発表したりと、なかなか一筋縄ではいかぬ人物です。

ここで取り上げるのは、まるでその中間にあるかのような、割とマイナーで、奇妙な作品です。

キャッチーで判り易いメロディがあるわけでもなし、かといって、難解な電子音響というわけでもない。非常に淡々としたミニマルな雰囲気です。曲は進んでいきます。でも音は、明らかにVangelis。

彼は基本的に、シーケンサーを流しながら、レコーダーに向かって延々と即興演奏を繰り返して、それを後で編集する、という形で、作曲を行うようです。

最近では、YouTubeという便利なサイトもあって、その中には彼が、スタジオで行っている録

音風景を撮影したものとかもあります。彼の曲には、編成だとかシンセの音だとか、割と似通った感触のものが多く見受けられ、これは一体どういうことなのだろう、とずっと疑問に思っていたのですが、その謎が、これらのフィルムを見て、明らかになりました。スタジオの真ん中にある椅子に座って、自分の周囲に配置してあるシンセを、手当たり次第に弾いていたのね、みたいな(笑)。

私は彼のエレクトリック・ピアノと、独特のストリングス・サウンド(YAMAHA CS-80って奴ですね)、そしてそれらを包み込むリバーブ処理が好きなのですが、他の作品でも十分楽しめるそれらの要素が、この作品では全体的なトーンが静か目のため、それら以上に楽しむことができます。

私としては、ジャケットも素晴らしいと思うのですが、虫がダメな人には、ダメかもしれませんね(笑)。

[Vangelis](#)



僕のお気に入りはやかんだ～「BAUHAUS experience, dessau」展

バウハウス・デッサウ展

僕は、音楽にしるそれ以外の分野のものにしる、20世紀初頭からのドイツの文化に、かなり影響を受けました。

僕が見るところ、そこには大雑把に二つの潮流があるように思います。一つは、ドイツ観念論の影響を色濃く受けたロマン派に代表される、ワグナー/シュトラウスの流れ(言うまでも無くこれは、後にファシズムへとつながっていくわけですが)。そしてもう一つは、そのような動きに反発して、人間の観念とは離れた地点でフォルムそのものに焦点を当てて、それを洗練させていこうとする、シェーンベルク/ウェーベルンの流れ(もちろん、そのような発想自体がすでに観念論的なものだとする批判はさておき)。

そして、僕が影響を受けたのは、もっぱら後者の方でした。

その両者が鋭く拮抗する時代に誕生し、皮肉なことに前者の代表であるナチスによって閉鎖を余儀なくされたものの、いまだに全世界に影響を与え続けている美術運動である"バウハウス"を紹介する、『バウハウス・デッサウ展』に行ってきました。

場所は、東京藝術大学美術館。久々に通る上野公園は、多くの修学旅行の学生達でごった返していました。その森を抜けると、大きな"BAUHAUS"の文字。僕はわくわくしながら、入場チケットを買いました。

名前からもわかるように、今回の展覧会は、主に学校がデッサウに置かれていた1925～1932年の間に作られた作品に焦点が当てられているのですが、実は、このデッサウが旧東ドイツにあった関係で、この期間のバウハウスの活動がどのようなものであったかは、これまであまり紹介されていなかったようです。その意味でも今回の展覧会は、世界的に見てもかなり貴重なものであるようです。

会場には、当時の教授だったパウル・クレーやワシリー・カンディンスキーらが、実際にどのような形で授業や活動を行っていたかを物語る、珍しい展示物がたくさんあります。特に、色彩に関する両者の考え方の相違を如実に顕わしている彼らの学生達の作品群は、なかなか興味深い

ものがあります。

もちろん絵画だけではなく、オブジェなどもユニークなものばかりでした。その対象が家具や調度品というのも、日常と芸術を高純度で融合させることを目指したバウハウスの面白さですね。大量生産を念頭に置いた、無駄を一切そぎ落としたかのようなシンプルなデザイン。これがバウハウスの特徴を、よけいに際立たせています。

やかんもありましたが、たかがやかん。されどやかん。バウハウスなのです。

バウハウスの諸作品を見ると、いつも僕は、同じドイツのグループである、クラフトワークの音楽を思い出してしまいます。もっともそれは、リッツキーを意識した彼らの"人間解体"というアルバムのジャケットの影響もあるのでしょうか。または、DAF(Deutsch-Amerikanische Freundschaft)の硬質なシーケンスとハンマー・ビートの組み合わせとか。

あるいは、YMOの"テクノデリック"というアルバムのデザインを思わせる作品もありました。これが元ネタだな、みたいな(笑)。まあ彼らは知能犯ですから、このアルバムの制作時に行っていた、今で言うところのインダストリアルなアプローチを、彼らの中では意図的にバウハウスと結び付けていたのかも知れませんが。

このようにバウハウスは、ジャンルを超えて、多くの芸術に影響を与え続けています。

バウハウスというのは、BAU=建築、HAUS=家という名前からもわかるように、その最終目的を建築に掲げていました。そして今回の展覧会では、その理念を具現化した様々な建築物に関する資料、あるいはそれらを、現代の最新技術で復元したものなども、たくさん展示されています。

彼らは、大量生産・大量消費という、来るべき時代の到来を、完璧に予見していました。それと、本来個性を重んじるはずの芸術とは、今後いかなる関係性を築くことが出来るのか。そのような科学技術の発達をもたらす不可避のパラドクスに、彼らは果敢に挑戦しました。時はまさに、第二次世界大戦前夜。そのような二重の緊張感の中で生み出された作品の数々は、今もなお圧倒的な存在感を放っているように思います。

というわけで、20世紀初頭の建築・デザイン・絵画のトレンドを、バウハウスという切り口から一度に鳥瞰できるこの展覧会。イチオシです。

<追記>

因みに、うちの施術室は、基本的に殺風景です。何もありません。知人などは、「あまりにも

寂しいから、花か何かを置いたら？」というのですが、どうもそういう気にはなれないのです。

ていうか、この殺風景さが好きなのですね。

この辺の嗜好も、実はバウハウスの影響だったのかも知れないな、と思わせられる展示などもあったりなんかして・・・。

『[BAUHAUS experience, Dessau](#) 展』

会場: 東京藝術大学 大学美術館・陳列館

スケジュール: 2008年04月26日 ～ 2008年07月21日

5月5日（月）、7月21日（月）は開館。5月7日（水）は閉館

住所: 〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

電話: 03-5685-7755



Cluster/First Encounter Tour 1996



[First Encounter Tour 1996](#)

Cluster

ドイツ人には、良い意味で、変わった人が多いですね。

このグループも、ご多分に漏れず、かなり変わったグループだと言っていると思います。

元々3人編成で、当初は、謎の発信機や、改造楽器を用いた即興的ノイズ音楽をやっていたりしましたが、後には、先にご紹介したBrian Enoさんとコラボレートしたりもしながら、今で言うアンビエントの先駆けとなるような、非常に牧歌的なシンセサイザー音楽をなさるようになりました。

幸運にも私は、上京したての頃の1996年、彼らの日本公演を見ることができました。

場所は、渋谷のOn Air West。普段はノリノリであろうこのステージの上で、全く微動だにせず、聴衆一切お構いなしで、ぴゅる〜んぴゅる〜んという電子音をただ奏でているだけ、という姿は、奇怪というよりもむしろ、非常に禅的、という印象を受けました。

その時は、Yellowでも演奏されたようです。共演者は、先のThe OrbのAlex Paterson氏。彼は当然、Clusterの大ファンだそうですが、そのことをインタビュアーに告げられた二人は、「誰だそれ？」と答えたとか。そしてインタビュー終了後、早速、渋谷のタワーに、The OrbのCDを買いに行ったとか。いかにもドイツ人らしいマイペースさです。

このアルバムは、そんな彼らの、同じ年の全米ツアーのライブ・アルバムです。

派手好きであろうアメリカにおいても、予想通り、相変わらず、ぴゅる〜んぴゅる〜んいっているだけですが、そのような電子音の浮遊感だけで勝負するというストイックさ、そして奇怪さは、完成の域にまで達しています。

この直後、解散宣言をなさったわけですが、なんと最近再結成されたみたいですね。それどころか、彼ら二人と同じドイツ人ギタリストMichael RotherさんとのユニットであるHarmoniaも、実に約30年振りに活動再開したみたいです。因みに、Hans-Joachim Roedeliusさんは、1934年生まれの74歳、Dieter Moebiusさんは、1944年生まれの64歳。すごいですね。

是非是非、いつまでもお元気で活躍していただきたいアーティストだと思います。

[Cluster](#)



秋葉原無差別殺傷事件

先週末、鳥取県庁に勤務する友人が、出張ということで、うちを訪ねてきました。

彼は、自分のパソコン用のメモリがほしいとのこと。どこに行けば手に入るだろうか、と尋ねるので、取り敢えず秋葉原へ行くのがベターだろう、ということになり、二人してそこへ行くことにしました。

ところが、彼のパソコンはかなり古い機種だったため、発見は困難を極めました。ドスパラやソフマップなど、10件近くは回ったでしょうか。もっともこれは、彼が値段に妥協をしなかったせいもあるのでしょうか。

その時、何度も往復することになったのが、あの交差点でした。そばではアキバ名物の可愛いメイドさんたちが、ニコニコしながらチラシを配っていました。

日曜日、ネットを覗くと、「秋葉原で通り魔事件発生」とあります。「え？」と一瞬思いました。場所は外神田4丁目。まさか、とは思いましたが、最初の動画ニュースで見たその場所は、はっきりとは良くわかりませんでした。しかし、次から次へとアップされる動画ニュースで、現場はあの交差点だ、とわかりました。

結局、犯人が逮捕されるまでに、7人の方々が亡くなられ、10人の方が重軽傷を負われました。

今日再び、その交差点を通ることになりました。東京地方は夕方頃から、雷雨になりました。土砂降りの中、現場には献花台が作られ、たくさんの方が、花や供物を手向けていらっしゃいました。

私はそこを通過する時、心の中で、手を合わせました。

犯人は、「誰でもよかった」と言っているそうです。「世の中がいやになった」とも。その言葉を聞いて私が感じていることは、多分皆さんと一緒にだと思います。

次回そこへ赴く時は、きちんと回向させていただきたいと思います。

亡くなられた方々のご冥福を、心よりお祈り申し上げます。



MCMXC A.D. "The Limited Edition"

Enigma

衝撃のグレゴリアン・ハウス。

一時期、ヒーリング・ミュージックとして、本家本元のグレゴリオ聖歌がはやりましたが、その火付け役になったのは、このアルバムであると言っても、過言ではないと思います。

ヨーロッパでも、リリース当時(1991年)「一足先のヨーロッパ統合」とか言われたりして、かなりヒットしたようです。

グレゴリオ聖歌と、アンビエント・ハウスの融合。

それだけ聞くと何だか企画ものっぽく、実際そのように批判する人もいたようですが、立役者となったM.クレトゥさんには、かなり明確なヴィジョンがあったようです。

彼は、インタビューの中で、「ヨーロッパ人の古くからの心象風景を形作っているグレゴリオ聖歌と、ヴァンゲリスやアート・オブ・ノイズらのエレクトロニクス・サウンド、それにダンス・ビートを融合させたらどうなるだろうか、というアイディアから、このプロジェクトは始まった」と述べています。

その言葉通り、壮大なシンセ・サウンドと、その中にたゆたうグレゴリオ聖歌は、絶妙のコンビネーションでもって、私たちを、過去でもなく、現在でもなく、もちろん未来でもない異世界へと、いざなっていてくれます(そういえば、『未知との遭遇』のフレーズも、引用されていましたね)。

私は、このアルバムを聴くと、U.エーコ原作の映画『薔薇の名前』をイメージしてしまいます・・・。

因みに、タイトルの意味は、いまだにわかりません。

そうやって、全てを謎(Enigma)に包みこませるという、たぐいまれなコンセプト・アルバム。

不幸になりたがる人たち

[不幸になりたがる人たち―自虐指向と破滅願望 \(文春新書\)](#)

春日 武彦

『不幸になりたがる人たち～自虐指向と破滅願望』(春日武彦著、文春新書、2000年)

このナイスなタイトルに、どきっとなさる方も、多いのではないのでしょうか。

この本を手にしたのは東京在住中、北区立図書館においてでした。当時の私は気功のトレーニングを始めたばかりで、気の性質というものは、電磁気学で解明出来るのではないかと考え、連日図書館で、物理関係の本を読み漁っていました。

その時、休憩がてら他の本棚を何となく眺めていた時に、ふと目に付いたのが、このタイトルでした。

このようなニヤリとさせられる題名をつける人物にどうしても共感してしまう私は、早速借りてみることにしました(因みに著者のこの他の作品には、『屋根裏に誰がいるんですよ～都市伝説の精神病理』、『何をやっても癒されない』、『健全な肉体に狂気は宿る～生きづらさの正体』など、とてもセンス溢れるタイトルを冠された諸作品があります。同時に、『幸福論』なんなのもありますから、かなりの確信犯だと考えられます)。

それを、武蔵野市の音楽療法のセッションへ向かう途中、中央線の中で読んだのですが、私は満員電車の中で、不謹慎ながら、笑いをこらえるのに、大変苦勞しました。

この中で展開されているのは、精神病理学的な症例に関するアカデミックな議論などではなく、もっと身近な事例、例えば、何を言っても「ああ、そうですか」と返事をする出前男や、電車の中で年賀状を整理するサラリーマンなど、一見普通のようにだけれどちょっと奇妙とおぼしき人々たちから、先ずは焦点が当てられます。

それがひいては、小熊のオリに身を躍らせた主婦の話だとか(「熊に喰われる」)、死去した家人の葬式をするのが面倒だったのでベッドにそのまま放置していたらミイラ化して警察沙汰になった話(「床下の女房、ミイラの父親」)、とかにつながっていきます。

彼はここでこれらのファンキーな話を、単なる珍妙な出来事としてカテゴライズして事足り、としているわけではありません。そうではなく、彼はこれらの出来事に見られる逸脱傾向は、

実は、私たちの無意識下にビルト・インされたものなのではないか、と考えるのです。さらにそれを、"精神科医"といういわば「お高い」視点から見下ろして、他人事のように天下りの論じているわけではなく、もしかしたら他でもない自分自身がそういう傾向を持っていて、何かの拍子にそれが顕在化してしまうのではないだろうか、と恐れおののきながら、文章を進めているのです。

そういう意味では彼自身が、自己に潜んでいるかもしれないそのような不可視の傾向性に対して神経症的な不安を抱えていらっしゃるようで、読者から見れば、「そんなに疑心暗鬼にならなくてもいいのに」と同情せざるを得ない文章があちらこちらに見受けられて、そのような著者の「人間臭さ」に、私としては、とても好感を覚えます(逆に、他の精神科医を標榜する人物、例えば有名などころでは小此木啓吾さんの著作の中には、本当にこの人は学者なのだろうか、と思わせるような箇所があったりして、どうも苦手ですね)。

興味をお持ちの方は、直接この本に当たられることを是非お勧めいたしますが、私はこの本を踏まえながら、以前からの『目標を設定する』という問題を、ここで、もう一度考えてみたいと思います。

彼はこのように、精神科医でありながら、自分の無意識下に埋め込まれているかもしれない自己破壊願望の可能性を指摘しつつ、その影におののくわけですが、奇しくも彼はここで、残念ながらそれが破壊的な方向へと向かっているという違いはあるにせよ、そのような無意識の持つ力の強大さを、見事に指摘している、と思います。

このことは、『目標を設定する』という点に関しても、問題となる可能性があります。

と申しますのは、この『目標を設定する』時に、意識で勝手に"捏造"したものを自分の目標と勘違いしてしまい、無残な結果に泣く人を、数多く見受けるからです。この時、無意識下で「それはいやだ」と考えているのだとすれば、その目標の達成は、当然困難です。

それだけではなく、そのような状況が長く続けば、さまざまな問題を起こす可能性があります。

それが内に向いた場合、当事者の体調の異常あるいは神経症的な症状などという形で、それは顕在化する可能性があります。しかしその程度であれば、その被害はまだ限定されたものであるので、ましなのかもしれません。

それが外部に向けられた場合は、非常に厄介だと思います。

例えば、昨年東京都渋谷区の武藤さん宅で、兄弟喧嘩の末娘さんが解体される、という事件が起きました。当初犯行の動機として、「『あなたには夢がない』と言われて、かっとなったから」と報道されていましたが、これを聞いた時私は、動機としてはまだ弱いな、もう少し決定的な言葉であったはずだ、と思っていました。そしてその後報道された言葉は、果たして、私の考えた言葉通りでした。

曰く、『あなたの歯科医になりたいという夢は、単なる人真似だ』

恐らく彼自身、それに気づいていたのです。そして、それを意識上に上らせてはいけない、という思いを胸に、殺伐とした予備校生活を続けていたはずです。それを真正面から突きつけられてしまったわけです。その他の詳しいやり取りは当事者だけが知りうる永遠の謎なのでしょうし、直接的な引き金になった言葉は他にあったのかも知れませんが、私はこれだけでも十分に、彼をして、殺意を抱かせ得る言葉だと思います。

例としては極端だったかもしれませんが、私の見る限り、『目標を設定する』のに失敗する人たちは、多かれ少なかれ、このような状況が見られます。つまり、本当は望んでもいないことを、無理やりに目標として設定しようとして、その結果、自滅するわけです。

余談ですが、私はニュー・エイジ系の著作に多く見られるように、この『無意識』なるものを、神秘的に語ろうとするつもりは、毛頭ありません。その必要性は、全くないからです。私の考えでは、無意識と意識との差異とは、ただ単に、神経生理学的な情報量の多少、と思われれます。

よく例に挙げられるのは、車の運転です。最初は意識の上で、車をスムーズに操作しようとして意識に過負荷がかかり、パニック状態になったりしますが、慣れてくれば、隣の人と話をしながらでも無意識的に、運転は出来るようになります。それは単純に、「慣れ」という、車の運転に関する神経的な情報が必要十分な状態が、到来したからでしょう。ですから、無意識の強さとは、情報の量がもたらす強さに他ならない、と私は考えます。

あるいは、ラカン派の精神分析家であるJ=D・ナシオ氏は、次のように述べています。

「私の意見では、無意識が存在するとしたら、精神分析の領域の内部においてのみそれが可能であり、もっと正確にいうと、無意識は分析治療の内部においてのみ存在できるのです」(『ラカン理論 5つのレッスン』J=D・ナシオ著、姉齒一彦他訳、三元社、1995年)。

いずれにせよ、無意識を意識によって知ろうとするのは、極めて困難、ということが言えるのかも知れませんが。

従って、真正面からそれに意識上で立ち向かおうとするのは、土台無理な話です(ただし、不可能ではないと思います。やるのであれば、間接的な方法を使うべきです。つまり、その命題に関する情報を漸次的に増やすことで、それを無意識化していく、というやり方が無難だと思われます。時間はかかりますが、それは「パブロフの犬」と同じ問題系に属するので、達成は十分に可能だと思います。あるいは、意識のチェックが行われない状態で直接情報をインプットしていくという、催眠療法的な手法も、有効かもしれません。ただしその場合は、施術者に"操作"される危険性を、常に考慮に入れなくてはなりません)。

何かの目標を達成するに当たって、先ずその目標そのものを設定するという作業は、当たり前の話ではありますが、必要不可欠です。ただ、この段階で、自分の設定しようとしている目標が、本当に自分自身が、文字通り"心の底から"望んでいる目標であるのかどうかを、一度検証してみる必要があるように、私には思われます。それが「単なる人真似」でありはしないか。それが欠けていたままでは、何をやっても効果なし、という結果になるのは、至極当然の話だと思います。またそこに、自己啓発書中毒になる人たちの、精神的な弱さがあるような気がします。

著者は、「わたしの書き綴った内容が上手く読者諸氏へ伝わるなら、おそらく本書はきわめて後味の悪い読後感をもたらすだろう」と、それこそ自虐的に述べていますが、以上のような視点からこの本を読めば、そのような著者の心配とは裏腹に、癒し系のニュー・エイジ本よりも、よっぽど示唆的かつ啓発的ではないか、と思いますね(笑)。

機会があれば、次回は、そのような目標が、そもそも設定できない、単純に「夢がない」、「やりたいことがない」という状態について、考察してみたいと思います。

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

Update in June on MySpace ... :)

昨日辺りから、関東周辺も、梅雨に入ったようですね。

「梅雨はうっとおしくて大嫌いだ」とおっしゃる方が大半だと思うのですが、別に天邪鬼ではないのですが、僕はそんなに嫌いではありません。むしろ好きな方かもしれません。

というのは、この時期の山や森の鮮やかな緑色が、大好きだからです。

この時期、山へドライブに行くと、よく霧が出ています。これがまた好きなんですね。濃い霧と、その中からぼんやりと浮かび上がる森の木々とが、ある種の幻想を、僕に思い起こさせます。まるで水墨画か水彩画のようなそのような風景は、僕はとても好きです。

そのような風景をイメージしながら作った曲は、結構あります。

というわけで、今月も曲をアップデートしてみました。この梅雨の時期の、お部屋の掃除のBGMにでもしていただければ、とても嬉しいです(笑)。

It seems that from yesterday the rainy season in Japan called "Tsuyu" has started.

Almost Japanese don't like it, but I wouldn't.

Because I really like the colorful scenery of mountains and forests in this season.

When I go to mountains in this season, there sometimes I can see deep mist. I really like it too. Such a kind of combination of mist and trees let me imagine uncertain illusions. I like such a scenery just like Indian-ink drawing or watercolor paintings.

There's a lot of tunes of mine that I compose with remembering such a scenery.

Today I updated all of my tunes on MySpace. If you listen to them with cleaning up your room, I'm really glad (smile).

<http://www.myspace.com/yuichinakahara00>

ご無沙汰申し上げております。

お元気ですか？と申し上げたいところですが、何やらお仕事の上では大変なご様子、お見舞い申し上げます(苦笑)。

なるほど、DID(解離性同一性障害。Dissociative Identity Disorder)というのは、非常に興味深い症例ですね。以前僕の靈感系の知人に関して、解離性人格障害かも知れない、とのご指摘を頂き、非常に考えさせられるものがありました。それとは比較になりそうもありませんね(笑)。

でも確かにご指摘の通り、古来より巫女や悪魔憑きと呼ばれてきた現象のかなりの部分は、この解離性人格障害と大いに関係があるのではないかと僕自身も考えているところです。今日では、靈感がどうのこうのという話をされると、この人もしかして人格障害があるのかな、と考えるようになってしまったのは、ある意味悲しいことなのかも知れませんが(笑)。

因みに、今回の中国行きで一緒させて頂いた南青山の不動産会社社長に、『神との対話』というシリーズの本をご紹介頂きました。まだ読んではいないのですが、聞くところによると、著者が、最初は神に自分の人生に対する不平や不満を書き連ねていたところ、途中から自動書記のような状態になり、知らず知らずのうちに本が出来上がっていた、ということらしいですね。

彼はかなりのめり込んでいらっしゃるようですが(本当のことを言えば、彼の方がよっぽど神秘的な生活を送っていらっしゃるのですけれど(笑))、実はこのような現象は、割とよくあるんですね。例えば、教育学者のウィン・ウェンガーなどは、このような自動書記という現象を、積極的に自分の体の中で誘発させ、それを如何に才能開発につなげていくか、という、受動的ではなく、能動的かつ実践的なテクニックを、自著で紹介していたりもします。

またこのようなテクニックを更に発展させて、複数のパーソナリティを自分の中に意図的に発生させて、彼らにアイデアをもらったりする、みたいなテクニックも、彼は紹介しています。自己啓発本の分野ではパイオニアであるナポレオン・ヒルなどは、このテクニックを多用していたようですね。

ところがこれと非常に似通ったものは、大昔から、古今東西の魔術の中にもある。道教では『十二神将の法』、陰陽道では『式神の法』とか言われるやつですね。

そんなわけで、精神医学と才能開発、魔術は、お互いに密接な関係にある、というのが、僕の考え方です。

因みに僕自身も、これらの技法は多用します。結構効果があるんですよ(笑)。

ですから、先生が担当なさっているクライアント諸氏も、僕としては非常に興味を掻き立てられますね。治療なさる先生は大変でしょうけれど(笑)。

中国行きですか。いやはや大変でした。

一番考えさせられたのは、一指禪功に関する伝承の問題ですね。どうやら、いまだに伝承者は決まっていならしい。さもありなん、という感じですが。

つまり、一指禪功に関しては、その全てを知っているのは、相変わらず、劉先生ただ一人、というわけなのですが、これが僕に、非常に疑問を抱かせるのですね。

例えて言えば、これは、極めて特殊なOSを巡る状況のようなものですね。「すごい」のはわかる。でもその使い方が一般的なものではない、極めて特殊なものであるとしたら、実用性という意味では、Windowsには到底勝てない。そんなものを追求してどうするのか。

でも、これが禅を学ぶ道なのかも知れませんね。僕達は、停滞ではなく、前進しなければならない。

まあ、良い勉強になりました。

そうそう、個人的な成果の一つとしては、劉先生に頸椎を調整して頂いたのですけれども、その後全身への気の通りが更にスムーズになったような気がしますね。赤陽先生はそれを脳下垂体からのホルモンの分泌と関連させて解説されていましたけれども。練功の時は若干あごを引く、というのは、納得のいくところです。

というわけで、今回は手短ながら、帰国のご挨拶とさせていただきます。道中具体的に何があったかは、機会があればお話させていただきます。本当に大変でしたから(笑)。

それではまだまだ残暑が厳しい日々、なおかつクライアント諸氏とのご格闘が続くとは思われますが(笑)、くれぐれもご自愛下さい。

皆様にも宜しくお伝え下さい。

それではまた！



Steve Reich/Music For 18 Musicians



Steve Reich: Music for 18 Musicians

Ken Ishii, Richard Cohen, Virgil Blackwell, Steve Reich, David Van Tieghem, David Van Tieghem, James Preiss, Jay Clayton, Jay Clayton, Larry Karush, Nurit Tilles, Steve Chambers, Steve Reich, Shem Guibbory, Elizabeth Arnold, Pamela Fraley, Rebecca Armstrong, Bob Becker, Glen Velez, Russ Hartenberger

言わずと知れた、ミニマル・ミュージックの大家です。

ミニマルと言えば、今やテクノの1ジャンルとして認識されていますが、元々は彼らのような現代音楽の作曲家達(もっとも、さらに厳密に言えば美術家たちが始めた運動ですが)が、文字通り最小限度の音型を使って試みていた作曲技法です。

先にブライアン・イーノのところで少々触れましたが、ライヒさんはその実験を、まずはテープを用いて始めました。

2本の同じ音を録音しているテープの再生を、同時にスタートさせます。そうすると、両者の回転速度が若干異なれば、だんだんズレを生じていきます。

カノンにも似たこの効果を、彼は「漸次的変化プロセス」と名付け、しばらくはそのような作品を、電子機器を用いて制作していたのですが、アフリカ音楽やガムラン音楽の影響の下に、後にはそれを、アコースティック作品に転用していくようになりました。

この作品は、そのような実験の集大成のような趣を備えています。

一曲約一時間。長いと言えば長いです。

しかし、その点からしても、これはまともに正面切って聴くべき作品ではないと思います。

ただ流しておくだけで、そこは、まるで演奏に使われているマリンバの優しい音色のように、柔らかな空間へと、変容していきます。

因みに、クラシックの演奏家からは、この曲は、ラヴェルの「ボレロ」と同じく、「演奏したくない曲」の筆頭に上げられています。この緊張が約1時間も続けば、それはそうでしょう。

しかし、そのような演奏家達の思いとは裏腹に、この曲は、圧倒的な美しさを放っていると思います。

バッハのカノンや、フーガが好きな方にもお勧めです。

因みに、先週から来日されていたみたいですね。全く知りませんでした。痛恨の極み・・・。

※複数のヴァージョンあるのですが、そのうち私が好きな方である、ECMレーベルからリリースされている盤のジャケットをあげておきました。

[Steve Reich](#)



AUTUMN: WINDHAM HILL 20TH ANNIVERSARY EDITION

George Winston

このアルバムに収録されている"Longing/Love"は、かなりヒットしたので、皆さんもどこかでお聴きになったことが、あると思います。

私が彼の作品に触れるようになったのも、当然この作品が、契機でした。

高校時代、友人が音楽室で、この曲を弾いているのを偶然耳にした私は、非常にショックを受け、「それ貸してくれ!」といって、その場で彼から、スコアを取り上げました(笑)。

その日から、シンセサイザー一辺倒だった私の音楽活動に、ピアノが加わりました。

私はピアノを習ったことが全くなかったのですが、この曲弾きたさに、毎日ピアノがある親戚のうちに通い、練習を続けました。まともに楽譜も読めなかったので、1回弾くのに1時間くらいかかっていました。それでも本人は満足だったのですが、逆に親戚は、さぞ迷惑だったことでしょう。

今となっては、懐かしい思い出です。

彼のピアノは、「リリカル過ぎてわざとらしい」と批判する方がいますが、私は全くそうは思いません。むしろ、異常なほどストイックな印象を受けます。

はっきり言って、他のピアニストほど、テクニックはないと思いますが、逆にそれが、そのようなストイックさを引き出しているような印象を受けます。まさに、一生懸命に弾いている感じ、とでもいいましょうか(笑)。

さらに彼は、ステージ上でも、The Orbのところでも少しご紹介したミニマル系の現代音楽作曲家、Steve Reichからの影響を、公言なさっています。ライヒさんは、人間性を排除した地点での美しさという、一見矛盾した音楽を追及されていらっしゃると思いますので、そんな彼からの影響も、ウィンストンさんのストイックな印象に、一役買っているのかも知れませんね。

お勧めはやはり冒頭の、一球入魂の名演、"Colors/Dance"です。

[George Winston](#)



ある精神科の先生との対話(19)補足～死について

本文の中で、私は、「プラグを外された状態」というものが、ゾクチェンのメディテーションの実践によって、おぼろげながら理解出来るようになった、と述べました。

しかしそれは、全てではありません。

実はあの御茶ノ水のミスター・ドーナツで、私の心で何かが起こった時、私は、この感覚は初めてではない、と、うすうす感じていました。

ではそれ以前に、私はどこで、そのような感覚を経験していたのでしょうか。

それは、1995年の、阪神・淡路大震災の時です。

私は当時銀行員だったのですが、あの時私はすでに、出社の準備をしていました。というのも、私が住んでいた東灘区にある芦屋寮から勤務先だった箕面支店桜井出張所までは、電車で約2時間近くかかっていたからです。

私はいつも通り午前5時半に起床し、洗面所に向かいました。

そして午前5時46分、閃光と共に、地震が起きました。

その時私の口から突いて出たのは、「神様！」という言葉でした。しかしその直後、別の考えが浮かびました。「いや、恐らく神は、"私を助けてはくれない"」。だとしたら自分で、何とかするより他はない。取り敢えず窓ガラスのそばから離れなければ、こいつが碎けて降りかかったら大怪我をする。ものすごい揺れの中で私はそう考え、這いながらそこを離れました。

私はこの時初めて、間近に迫った自分の死というものを、強烈に意識しました。

外へ出てみると、周囲の風景は、完全に変わっていました。あんなに頑丈そうに見えた阪神高速が、アメのようにへしゃげて、根元から倒壊していました。

私はその光景を、放心状態で眺めていました。

奇妙なことにこの感覚こそが、ミスター・ドーナツで感じたものと、そっくりだったのです。

本文の中で私は、現実/仮想の二元論について考察しました。

しかし、誰にとっても現実以外の何者でもないものが、この世にはただ一つだけ存在します。

それが、自分の死です。

死ぬ時、私たちはそれを、自分自身のものとして受け入れなくてはなりません。誰もその代わりをしてはくれません。

その時私たちは、走馬灯のようにして、自分の人生を振り返るといいます。それは当然でしょう。何故ならば、それしか出来ないのですから。

その瞬間に、自分の人生は充実したものだった、と、今のあなたは言うことができますか？

私たちが生きているうちは、もしプラグが外されたとしても、また別のプラグを差し込まれるだけの話です。それが人生というものです。しかし、そのプラグが永遠に外されてしまうときは、必ず来るのです。

その時あなたは、その事実を、従容として受け入れることができますか？

これを意識したとき、マトリックスを対等のものとして見る、という、もう一つの意識が生まれます。

ドン・ファンは、「死はアドバイザーなのだ」とカスタネダに語ります。それは常に、お前について回っているのだと。

しかしそれは、恐怖の対象ではなく、アドバイザーなのです。

密教でも同じで、人工的な死に近い状態を行者に体験させるという訓練があります。それは、仮死状態での変性意識状態をもてあそぶためにおこなわれるものではありません。そうではなく、死を身近なものにさせる、つまり、アドバイザーにするためのものなのです。

よく、ニア・デス体験をした人は人格が変わる、といいますね。これはその体験の中で、特定の存在に会ったからそうなるのではないと、私は思います。そうではなく、まさにニア・デス体験そのものによって、プラグが外されるのです。

それを経験してしまうと、その前と同じ人格であることは、およそ不可能です。

死を意識すること。自分の死を、アドバイザーとすること。

その瞬間、人は変わります。





[マトリックス 特別版](#)

キアヌ・リーブス

暑い日が続いておりますが、如何お過ごしでしょうか。毎日のNHKニュースで「福岡の最高気温は・・・」とよく引き合いに出されるのを聞くにつけ、さぞかし、と想像しております(笑)。くれぐれもご注意下さい。

さて、練功の方も順調なご様子ですね。最近は気の"流れ"があまり感じられなくなっている、というご指摘ですが、正に僕も同じですよ(笑)。考えてみると、気の"流れ"が自覚できていたのは、僕の場合はかなり初期でしたね。いわゆる小周天と呼ばれる、督脈から任脈へと流れるルートがかなりヴィヴィッドに感じられて喜んでいたものですが、全部繋がったかな、と思った途端、その行く先がわからなくなってしまいました。

おかしいな、と思って、気の流れに関する資料(いわゆる"子午流注"などを含めて)を調べてみると、その流れの順番や時間などが厳密に規定されているにもかかわらず、僕にはそのような自覚はないものですから、こりゃ練習のやり方が間違っているのかも知れないな、と思って、スランプになったりもしました(笑)。

この点でも、以前から申し上げているように、僕の場合非常に助けになっているのは、施術そのものですね。人と相對することで、逆に、自分の持っている力量が、推測できるわけです。そうではなく、自分だけで練習を進めていった場合、自分の気の力と単なる妄想とをどうやって区別するのか(笑)。そういう意味で、このようなフィードバックが容易に確認できる、という点で、僕の場合気功を選んだのは、ベターな選択だったような気がします。

また、そういう意味でも、先生のご自宅でのセッションは、とても示唆的でしたね。あんなのは横浜教室でも見たことないですから(笑)。そのような経験を積むことが、間接的に自分の力を推し量らせる要素となっているわけです。そのような機会を与えて下さった先生には、本当に感謝しております(笑)。

ですから先生の場合も、そのような気の具体的な流れがおわかりにならなくても、一向に差し支えないと思います。もっと言えば、それは、意念などを使わなくても自動的に練習が進むレベルに到達された、ということです。そのままだんどんお進みになって下さい。その内電

車の中で、隣の人がいきなりトランスに入ったりする、みたいなことが頻発してきますよ(笑)。

なるほど、F先生の状況、お察し致します。でも、予想通りでしたね。実際にお会いする前から、たぶんそういう方ではないかな、と想像していたので、やはりと言うべきか(笑)。

何故ならば彼女の問題は、正に、多くの気功家がぶつかる問題だと思われるからです。

たいていの気功関係の本には、「命功」と「性功」という言葉が出てきます。前者は体のトレーニング、後者は心のトレーニングのことで、両者は気功の練習の中では正に車の両輪であって、両方並行して収められなければならない、と書かれています。でも、こう書かれてみたところで、現実のイメージが湧かないので、単なる知識で終わってしまっている、というのが、大抵の気功に携わる人の現状だと思います。あるいは、良くてせいぜい、「文武両道」でしょうね。そんなことはわかりきったことだ、で済まされてしまうのではないかと(笑)。もう少し丁寧な、現実 に即したわかりやすい説明が欲しいところだと思います。

僕の考えでは、これに対する説明は、二つのレベルがある、と思われます。

まず初心者向け。気功のトレーニングを積み重ねれば、身体状況が改善されます。俗っぽく言えば、健康になれるわけですね。これは当然の結果です。何となれば、全身のリラックスを達成して諸組織の緊張を改善することで、その機能回復を図ることが可能だからです。しかし、その変化は、あくまで身体内部に限定されます。ですから、その次に必要になってくるのは、身体外部からやってくる不測の事態にどうやって対処するか、という問題です。例えば、気功をやることで健康になったのに、交通事故に遭ってしまった、というのでは困るわけです。そこで、そのような不測の事態に対処するための直観力のようなものを養う必要があります。これが「性功」の部類に入ると思います。

ですから、この点で申し上げれば、身体トレーニングと心のトレーニングとは、厳密に分けて論ぜられるべきです。よく気功をすれば、心身共に健康になる、と言われたりしますが、これは、容易に悪質な誤解を招く、極めて危険な言い方だと思います。たとえそれが営業目的ではあっても(笑)。僕の考えでは、この両者は峻別されるべきです。気功をしたところで、身体状況は改善されますが、心の状況までは改善されない、と仮定した方が、余計な混乱を招かないのでベターだ、と僕は思いますね。あるいは、百歩譲ってそれが可能であるとしても、その両者を共に達成できるか否かは、指導者の見識と力量に寄ると思います。一般的な指導者では、まず不可能です。以上が「命功」と「性功」に関する、初心者向けの説明ですね。

そしてもう一つが、正にF先生のような、元々気功施術が出来る方向け、言わばプロフェッショナルな方向けの説明です(笑)。率直に申し上げてF先生の場合は、治してあげよう、という意識が強過ぎるのだと思います。それは彼女の場合は、クライアントさんの症状を何とかしてあげたい、という彼女の優しさから来ているので、それは大変に結構なことだとは思いますが(そうではない連中が多過ぎますからね(笑))、あまりそのような気持ちが強過ぎると、施術する方の心身が持ちません。言い方は悪いですが、キリがないですからね。

この辺は前回お会いした時にも皆さんで若干議論したのですが、正にそういうことだ、と思いますね。

一般的に"邪氣を受ける"という場合は、一つはこのような状況を指すと思います。もう一つの場合は、これもお話したことではありますが、僕があるガン患者の奥さんの隣に坐るとその方から冷たい風が吹いてくるのが感じられて、その直後風邪を引いてしまったことが二回あった、というケースについてお話したと思いますが、この場合は、この二回の失敗の後(笑)、その方のそばで練功する時には站樁功に切り替えることでその状況を克服したように(つまり単純に、こちらの方がより強い気を発生させるということですね)、何とかテクニカル的に処理することが出来るのですが、前者のようなメンタルな要素が作用する場合ですと、その対処は若干難しくなるように思われます。

ここで重要になるのが、「性功」というわけです。一つ目の、単に直観力を鍛える、というものよりも、さらに重要な「性功」ですね。

要するに、自由に切り替えられるだけの柔軟な心を持っているかどうか。重要なのはこのことです。つまり、Fさんの場合で申し上げれば、特定のクライアントさんに固着しないことです。

とは言ってもこれは、難しい人には難しい。そのためのトレーニングとは何が考えられるか。

これは僕の経験ですが、僕の場合とても役に立ったのが、仏教の考え方、そして、それを徹頭徹尾理解させるために行われる、ゾクチェンの練習でした。

以前申し上げたことですが、僕は赤陽先生のところに入門する数年前、中沢新一先生を直接中央大学に訪ねたことがあります。そして彼に、ゾクチェンの修行をしたいのだが、その場合はやはりチベットへ行くべきか、と尋ねたところ、即座に止めておけ、と言われました。その当時の暴走しがちだった僕はその言葉を聞いて、がっかりしたようなほっとしたような複雑な心境でしたが(笑)、しかしその時に忍び込んだ先生のゾクチェンに関する講義を聞いた後、しばらくこれを自分なりに実行してみた後でもう一度この問題を考えてみても無駄ではあるまい、と考えて、自宅に帰った後約三ヶ月、実行してみました。

そしてある日僕は、御茶ノ水のミスター・ドーナツで、一人コーヒーを飲んでいました。店内は大学帰りの学生達でごった返しており、正に喧騒の中でした。その時、不思議なことに気づきました。僕はふと、誰もいない郷里大山の奥深い山道を歩いているような心境に襲われたのです。僕の心は、その山中のように、完全に静まり返っていました。この時僕は、このミスター・ドーナツの店内の喧騒と、大山の静寂とは、認識の対象という点で、実は全く同じものなのだ、と気がついたのです。その瞬間、僕の中で突然何かがガラガラと音を立てて崩れました。世界が突然シフトしたのです。

この後僕は、他人の未来が見えるようになりました。

ところが、事態はそれで丸くは収まりませんでした。つまり、当然のことではありますが見えるのは他人の幸福な出来事だけではなく、不幸な出来事もです。周囲の人の受験や就職の失敗、離婚、全て当たりました。最悪の場合、僕の予言通りに、二人の方が亡くなり、一人の方が半身不随になりました。

これは僕にとっては、ショック以外の何者でもありませんでした。この時、このように未来を読むだけでは駄目で、もし誰かがそのような不幸な道に陥ろうとしているのが見えるのだとすれば、それを止める方法を探さなくてはならない、僕はそう思ったのです。

これが僕が気功の勉強を始めた、本当の原因です。

実はこのことに関しては、直接赤陽先生とは話したことはないのですが、入門当初に、間接的に指摘されたことがあります。彼は言いました。「あんたは天目が開いている。今まで何をしてきたのかは聞かないが、それは極めて危険なパターンだ」と。

このように、先生が言うところの「天目が開いた」状態に、最初は戸惑いを覚えたわけです。恐らくF先生の場合は、この時の僕のような状況だと思いますね。つまり、元々天目が開いているので、その人の運命だったり、考えていること、あるいは症状が、手に取るようにわかる、しかしその次に、そのような状況を何とかしてあげよう、と一生懸命になるものですから、結果的にご自分がダメージを受けてしまう。赤陽先生が言っていた「極めて危険なパターン」とは、このことだと思います。

ところが、これはそのような経験を経てきた今だからこそ思うのですが、実はここにも、二つのレベルがあると思います。

つまり、普通の人のレベルから一段シフトして、他人の状況がよりよくわかるような状況にな

ったとしても、そこでとどまっては、返って危険なのです。それをさらに乗り越えなければならない。気功の練習中にどのような現象が現れるようになって、決してそれに執着してはならない、と言われるのは、こういう意味です。このプロセスは、実は無限なのです。何事にも執着しないこと。これを端的に示す言葉が、仏教にはあります。つまり、「空性」です。空とは、物事には実体はない、という意味です。これを単に哲学として捕らえるのではなく、気功に携わるものは、それを"実践"していかなければなりません。仏教でいう空性は、どこまで行っても空性なのです。そのようなレベルに至ったとしても、さらにそれさえも空性であるとして、乗り越える必要があります。この心の動きを臨界点まで進めた時、心に一切の執着はなくなります。恐らくこれが、仏教で言う「悟り」です。そして私たちは、この心境で、物事に当たらなければならないのです。

それは、単なる思弁ではなく、そうでなくては我々の場合、危険だからです。

このことを、先生にお勧め頂いた『マトリックス』で論じてみたいと思います(笑)。主人公ネオは、モーフィアスに導かれて、今まで自分が現実だと思っていた世界が、実はコンピュータによって生み出された仮想世界だと知ります。そして彼の導きによって見せられた本当の世界の中では、人間は機械によって発電所にプラグで繋がれた状態で"栽培"されるのであり、その時にコンピュータのプログラムによって生み出される夢の方を人間は、現実だと認識しているのです。逆に、プラグを外された人間が生きる"本当の世界"では、機械にとって本質的に"アノマリー"な存在であるそのような生身の人間と機械との、熾烈な戦いが繰り広げられています。そしてネオは、その戦いに終止符を打つ"救世主"として人間世界に受け入れられる……。モーフィアスは言います。「現実としか思えない夢を見たことがあるか？その夢が覚めなかったとしたら、君はその夢と現実とを区別できるか？」。これは正に、仏教の言葉そのままです。

ところが、実はここに困難があります。

百歩譲って、ネオが、"アンダーソン"であった世界が仮想世界であったとして、今度はその世界から離脱した人間が機械と戦う世界が"現実"であるという保障は、一体どこにあるのでしょうか？それでさえもが夢であったとしたら？例えば第一作で、サイファーがモーフィアスに対して反乱を起こしますね。その時彼は、「モーフィアスは俺を自由にしたというが、この船の中の生活のどこが自由なんだ？俺はマトリックスに繋がれる方がましだ！」と叫びます。この言葉は、それ以降の物語の展開とは裏腹に、極めてラディカルな問題を露呈させてしまっています。つまり、どれが現実で、どれが仮想である、というのは、我々は積極的な意味で定義づけることが不可能なのです。夢から覚めた現実が、実はもう一つの夢だったら？マトリックスから脱出したと思ったら、そこが別のマトリックスの中だったとしたら？これは哲学的な議論ではなく、現実の中東の状況を見れば、より明快ですね。イスラム教徒にとってはキリスト教世界は現実ではなく、打ち倒すべき仮想現実でしかありません。当然キリスト教徒にとっては、その逆です。この両者

が相対した時、戦火は避けられません。そしてお互いに、「俺は社会を守るために、人々を解放するために戦っているんだ！」となってしまう(余談ですが、実際この映画が中東で公開された時、エジプトのあるメディアは、この映画に出てくる"ザイオン"という人類最後の都市の名前を引き合いに出して、これはシオニズムを宣伝するための映画だ、としてクレームをつけたそうですが、これは言い得て妙たる指摘だと思います)。

僕ならこう解釈します。人々が普通の生活をしている「と思い込んでいる」仮想世界があって、それがマトリックスである、しかし、そこから離脱した世界もまた、実はマトリックスなのです。マトリックスは、「テレビの中にも、教会の中にも」至るところにあります。そしてそれは、二つどころではなく、無限に(あるいは、全ての現実意識を持つ生命体の数だけ)あるわけです。我々はその虜に過ぎない。これは正に、かつてフランスからスタートした、「構造主義」の認識ですね。しかしこの地点で残念ながら、映画の『マトリックス』は踵を返すわけです。ですからこの発想を、旧来の"現実／仮想"、あるいは"人間／機械"の二元論に帰着させてしまったウォシャウスキー兄弟が、ボードリヤールにアドバイスを求めても、断られるのはしょうがないのかな、と思ったりして(笑)。でもこのパターンはかなり見られますね。例えばドゥルーズ＝ガタリの言う"リゾーム"を、単なるヒューマニズムに帰着させてしまっている連中とか。

ですからこれは、現実世界に違和感を抱いて生きている人が、必ず陥る困難ですね。彼らはそうではない"本当の世界"を"仮想"して、それに近付こうとして、ヨガや気功や『オーラの泉』(笑)に手を出す。いわゆる神秘主義ですね。ところが実は、古今東西の本家本元たる神秘主義を詳細に検討してみると、良質のものであれば、必ずそれを乗り越えようとする教えが組み込まれているのに気付きます。この点に関しては、中沢先生が、『チベットのモーツァルト』(講談社学術文庫)の中で、神秘主義の最高峰と目される(笑)カルロス・カスタネダの『ドン・ファン・シリーズ』を題材に、極めて明快な解説をされています(前掲書「孤独な鳥の条件」)。禅で言えば、「仏に遭うては仏を殺し、祖に遭うては祖を殺し」、あらゆるマトリックス＝構造を拒否して、宙ぶらりんの状況に身を置く、あるいは、全てをマトリックスとして見る、そのような状況で培われるフラットな視点(ドン・ファンはこれを、ズバリ、「見ること」と言っています)を、常に失わない、ということが重要なのです。

これを理解するのが、仏教の至上命題です。そしてこの時、本当の意味での完全なリラックスが、達成できます(・・・と同時に、逆にこの状態が完全に理解できれば、人の運命を読み取るのは、極めて簡単に出来ます。何故なら、ほとんど全ての人は、マトリックスの住人であり、インストールされたプログラム通りにしか生きることが出来ないからです)。

そのような議論を踏まえた上での結論として、"邪気を払う"あるいは"邪気から身を守る"最も効果的な方法は何か、と問われれば、それは、「逸らす」ことです。これが最も効果的で、かつ簡単です。こちらのパワーを増強させることで相手を跳ね返す、という方法もありますが(先にも僕

のケースで触れましたね)、そのようなパワー対パワーの戦略は、より強いパワーに対しては、効果がありません。人間はパワーでは、機械に勝てない(笑)。別の戦略が必要です。

ここら辺は、太極拳の極意でもあります。太極拳には、「双重の病を避ける」という言い方があります。両者ががっぷりと組み合っても、それは体力勝負でしかなく、必ず強い方が勝ちます。しかし、それは武"術"ではないわけです。「逸らす」こと。それは相手の力だけではなく、自分の意識に対してもそうです。マトリックスからマトリックスへと、軽々と移動すること。

要するに、執着しないということです。

これに関しては、次のような中国の禅の逸話が、参考になるのではないのでしょうか。

ある街の路地に、かなり気性の荒い暴れ馬がいました。その馬は、近づく人を誰であろうが蹴ろうとするので、近所の人はとても困っていました。

その時、ある禅の大家だと目されている僧が通りかかりました。近所の人は、「あの坊さんは何でも、禅の大家だという話じゃないか。あの人がどうやってあの暴れ馬がいる路地を通るか、一つ物陰から見物してやろうぜ。」村人は物陰から、固唾を吞んで見守っていました。

果たしてその僧、路地に入ってその馬を見つけると・・・、黙って引き返して、他の路地を歩きました。

正に禅の大家。このようなスタンスで臨まれると、ベターかも知れませんね(笑)。

今回も、教材を頂戴致しまして、真に有難うございます。早速参考にさせていただきます(笑)。

今週末、中国へ行ってきます。赤陽先生にも会うので、ちょっと内勁一指禅功と、劉先生の一指禅功の相違についても、尋ねてみますね。そこら辺は学術的にも、興味のあるところですし。

また今回の武当山は、レア道教とレア太極拳のメッカということですので(笑)、怪しげなアイテムがあったら仕入れてこようかな、と思っています。

劉先生とお会いするのも、久々ですしね。前はかなりおとなし目だった僕ですが、今回は攻撃的に行こうかな、と思っています。禪の王道だったりして(笑)。

そんなわけで、F先生にも宜しくお伝え下さい。常に心身共に、リラックスが肝要ですよ、と(笑)。

それではまた！



JUGEMテーマ：心、体、そして魂。



OASIS

喜多郎

シンセサイザー黎明期から、第一線で、个性的かつワールドワイドな活動をされている氏です(因みに、やはり彼の名前は、あの"鬼太郎"と関係があったようですね。若い頃の長髪スタイルが『ゲゲゲの鬼太郎』にあまりにもそっくりだったので、仲間内からそう呼ばれていたそうです。そしてデビューするに当たって、その"きたろう"に、別の字を当てたとか)。

私は、この方のデビュー時からのファンで、当時習っていたエレクトーンに見切りをつけ、シンセサイザーに没頭するようになったのは、この方の音楽がきっかけでした。「僕はこんな音楽をやりたいのだ」とエレクトーンの先生に彼の音楽を聴かせたところ、「これはエレクトーンではなく、最近出てきたシンセサイザーという楽器でなければ無理だ」と言われ、「じゃあ、エレクトーンを辞めます」と言って、即日音楽教室を脱退したというのも、今では懐かしい思い出です。

彼の人気に火がついたのは、あのNHKの『シルクロード』の音楽を担当されてからです。あの茫漠たるタクラマカン砂漠の美しさと、彼の音楽との完璧なまでのマッチングに、強い衝撃を受けた方は多いのではないのでしょうか。その当時のシンセやシーケンサーは現在ほど多機能ではなかったので、今聴けばサウンド的には凄くシンプルなのですが、現在のようにデジタル全盛だと、そのシンプルさが逆にいいという。

妙な話ですが、僕の周りでシンセサイザーを使った音楽をやっている人の中では、彼の音楽はあまり好まれていません。それは恐らく、彼の音楽がどちらかといえば、ニュー・エイジ系だと捕らえられているからかも知れません。しかし初期の作品は、もっとドロドロしていて、もろジャーマン・ロックの影響下という感じです(因みに、彼に「シンセサイザーを使え」と勧めたのは、かのジャーマン・ロック界の重鎮、Klaus Schulzeです)。逆に、彼の音楽に影響を受けたという画家や映像作家の方には、よくお会いします。むしろそういった方面の方が、影響を受けておられる方が多いのだと思います。

そのジャーマン・ロックと彼の音楽の際立った違いと言えは、彼の音楽はアコースティック楽器を多用している、というところでしょうね。後は、メロディがはっきりしていて、なおかつ曲が比較的短い。この辺が、日本人のフィーリングにマッチしたのだと思います。

ここでご紹介するのは、彼の3枚目のアルバムです。前二作(『天界』、『大地』)での割と実験

的な作風から脱して、非常に完成されたサウンドに仕上がっています。何ととっても、長岡秀星氏のイラストが素晴らしい(この画像では判りにくいかもしれませんが...)。

収録されている『月の光』は、本当に名曲だと思います。

[喜多郎](#)



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

「中原さん、高野山行きませんか？いや、この前嫁と一緒に奥の院に行ったんですけど、あそこ何か、"変"なんです。嫁も、すぐわかった言うてました。中原さんやったら、もっとよくわかるんちゃうかな、と思って」。

そう切り出したのは、僕ではなく、現役の呼吸器外科医である、Y君の方でした。

最近僕は、彼に気功の個人レッスンを始めていたので、さもありなん、とは思ったのですが、何がどう"変"なのかは、さすがに想像は付きませんでした。職場でそんなことをほのめかしたら、間違いなく抹殺されるよね(笑)。

実は僕はその前にも、奥の院へは、行ったことがあったことはあったのでした。その時連れて行ったのは、スペインの女の子だったんですけど。「日本の文化をもっとよく知りたければ、高野山は絶対に外せないぞ」。そんなデートの誘い方をするのは、多分僕くらいのものでしょうけれど(笑)。しかしその時は、ちょうど紅葉の季節だったため山中が観光客でごった返していて、奥の院も、十分に堪能する余裕などは、全くありませんでした。

しかしY君がそう話しかけてきた時期は、ちょうどシーズンオフ。楽しむにはもってこいかな、と思って、行ってみることにしました。

南海なんば駅から特急に乗って、終点極楽橋(ファンキーな名前ですね)まで行き、そこからはケーブルカーです。電車の中では、「ええなあ〜、久々のシャバは、やっぱりええわい。せやないか」と、丸坊主のおっさんが、連れの金縁サングラスのおっさん達と、大声で談笑していました。さすがは大阪。皆さんワイルドで、個性的ですね(笑)。

この時は、年末の公演で使うCGネタの取材も兼ねていたのですが、堂々たる伽藍が立ち並ぶ高野山は、その題材にはもってこいの場所でした。

そして、延々と続くディープな墓場を抜けてやってきたのは、高野山奥の院。

ポイントは、ズバリ真正面です。そこに、弘法大師廟を頂く祭壇があるのですが、その前に黙って立ってみて下さい。二人して、「こりゃすごいね〜」と感動していました。気功をしていない方でも容易にわかるくらいですから、何かしらトレーニングされている方であれば、かなり強

烈な気を、そこでは感じる事が出来ると思います(お教えしている無極樁で、十分です)。まるで噴火口の中で、充電されているかのような感覚です(何だそりゃ?)。これをパワー・スポットと呼ばずして、何と呼ぶ?(笑)。

僕は日本だけではなく、黄山や武当山といった中国風水のメッカと目される場所にも行ったのですが、ここ高野山奥の院は、そんなものではありませんでした。

これはよく考えてみると、不思議といえば不思議でした。というのは、他の場所は、やはり地形自体が独特で、龍穴で受ける感覚というものは、自分から発せられた電磁波が周りの石などに反射されて、自分のいる場所で干渉を起こすことによって発生するのもかも知れない、という僕の常々の主張を裏付けるかのようなものが、ほとんどでした。

しかしここ奥の院は、そうではありませんでした。だとすれば考えられるのは、まさにその場所自体が、地下鉱物その他の影響によって、独特なものになっている、ということなのかも知れません。

これは一概に、根拠が無いとも言えないかも知れません。実際空海がこの地に真言密教の道場を開こうと考えたのは、この地に大量の水銀が産出するのを知っていたからだ、というのが、大方の説です。現にこの奥の院の近くには、丹生都比売神社という名前の神社がありますが、この名前の「丹」とは、気功マニアならお馴染みの、あの"丹"ですね。

実は、空海が滞在していた唐の都は、ちょうど、水銀や砒素を摂取して仙人になろうとする、いわゆる『外丹功』真っ盛りの時代で(歴代皇帝の約半数近くは、これによる薬物中毒で、亡くなっています)、これを空海が知らなかったはずはない。ですから、日本へ帰ってから丹を産出する場所を求め続けた結果、この高野山へ行き着いた、ということは、十分に考えられますね(因みに空海の死因も、水銀中毒だと言われています。だから大師廟にある彼の死体は、いまだに腐らないのだとか。怖いですね～)。

ただこれはあくまで常識的な解釈で、もしかしたら伝承通り、水銀そのものに何かあるのかも知れない。だから水銀を内包した地に立つ奥の院で、あのような奇怪な感覚が生じるのかな、と想像は勝手に膨らむのですが、だからといって家にある体温計をぶっ壊して、ちゅーちゅー吸ってみようという気には、どうしてもなれないのですけれど。まだ修行が足りないのでしょうか(笑)。あるいはそれ以外にも空海は、その空間に、何か独特の細工をしているのかも知れない。興味は尽きることはありません。

というわけで、お近くにお住まいの方は、是非一度ご探訪を・・・。

ただし靈感系の人であれば、途中の墓場でお土産をもらい過ぎないように、ご注意のほどを。

[高野山](#)

[丹生都比売神社](#)

[ヤクザ](#)



The Orb/The Orb's Adventures Beyond The Ultraworld (Deluxe Edition)



[Orb's Adventures Beyond the Ultraworld](#)

The Orb

当初は、先にご紹介したThe KLFのJimi Cautyも参加していましたが、メインのメンバーは、今も昔も、Alex Paterson。

往年の"Ambient House"と言えば、The KLFと、このThe Orbの名前が、必ず挙がります。

とてもハッピーで、Chill Outな音楽です。

特に一曲目、"Little Fluffy Clouds"では、Steve Reichの"Electric Counterpoint"がモロにサンプリングされて曲の中に巧妙に組み込まれており、私はそのアイディアの斬新さに衝撃を受けると同時に、初めてサンプラーという楽器の存在を知ったのでした。

因みに、当のライヒさんは、この件に関して記者に質問された時、「いいんじゃないの？」と言って大笑いされたそうです。やはり偉大な人物は違いますね。

現在も第一線で活躍中ですが、いろいろ調べてみるに、曲の作り方も、以前と全く変わらないようですね。言い方は悪いですが、様々なマテリアルを鳴らしながらインプロヴィゼーション的にそれをミックスしていっているだけ、という。

この辺のライブ感覚が、このグループの音楽の、最大の魅力なのかも知れないですね。

圧巻はやはり、Minnie Rippertonの"Lovin' You"をサンプリングした、"A Huge Ever Growing Pulsating Brain That Rules from the Centre of the Ultraworld" でしょう。正に自分がどこにいるのかわからなくなりそうな、Chill Outの名曲です。

因みに今このアルバムは、以前"Aubrey Mixes:The Ultraworld Excursions"というタイトルでリリースされていたリミックス作品を含めた3枚組になっているようですが、私はもちろん、この3枚組の方をお勧めします。先のJimi Cautyによる"A Huge Ever〜"のリミックスも収録されていますが、このテイクの方がより混沌とした感じで、僕は好きですね。Steve Hillageによる"Back Side Of The Moon"のリミックスも、逸品です。

[The ORB](#)

お酒が届いたみたいで、何よりです(笑)。

先だってお邪魔した際に大変お世話になりましたので、何かお礼を、と思っていたのですが、いろいろ考えた挙句、お酒にさせていただきました。近所に有名な地酒屋さんがありましてね。これなら先生にも喜んでいただけるのではないかと、思いまして。

ただ何分、僕自身があまりお酒をたしなむタイプではないものですから、そこは少々ズルをして、うちの店のお酒好きのスタッフにヘルプをお願いいたしました。彼女も、先生に喜んでいただけた、と報告したところ、とても喜んでいました(笑)。

そんなわけで、ささやかながらお礼に代えさせていただけると、嬉しく存じます。

ヨガ行の方も順調なご様子で、何よりであります(笑)。

実は前回いただいたメールの中で触れられていたクンダリニに関するレポートに、僕自身も久々に、大変心を動かされました。そこで、前回にも若干触れましたように、最近、気持ちを仙骨、あるいは長強付近に置くようにしてみたところ、自分の中で、かなり強い気のルートが、形成されてきたように思います。

実はこのルートは、元々僕の中にもなかったわけではないのですが、それが今まで以上に強く自覚できるようになったという感じですね。それに伴って、空中を浮遊しているような感覚が得られるので、面白いものですから、結構最近は病み付きになっています(笑)。

ただ、これがヨガでいうクンダリニかどうかは、少々疑問なのですね。と申しますのは、それは、ヨガ行者の言葉を額面通りに受け取れば、という条件付きですが。

例えば先生は、成瀬先生が書かれた本の中には、クンダリニが上昇するのは脊髄だ、と書かれている、とおっしゃいました。しかし、僕を感じる強いルートは、脊髄ではないんですね。もちろん脊髄付近にも熱の流れを感じますが、それは体感的に言えば、その大元の強いルートから派生した別の熱の帯が、脊髄、あるいは気功で言うところの督脈と任脈にも流れ込んでいる、といった感覚に近いですね。だとすれば、これはクンダリニではない、ということになります。

ところが、同じヨガでも、別の見解もあるようです。例えば、日本の宗教学者で、僕が最も影

響を受けた中沢新一先生は、『チベットのモーツァルト』(せりか書房、1983年)の中で、次のように記述されています。

「・・・このようにして観想される「中央管」の位置は、生理学的に見てそれがじっさいに走っていると思える脊椎線と大きいズレをもってしまうはずである。」

つまりここで、チベット密教の行で用いられる「管」は、脊髄とは微妙に異なる、ということが、すでに指摘されています。しかし彼は同時に、「ところがこのズレは、タントラ仏教のプラグマチズムにとってさして問題とはならない」として、密教の行で重要視されるのは、脊髄ではなくその「管」の方である、と続けるのですが、その後彼は、その「管」の特性を、宗教学者らしく「宇宙論的などとも言うべきより開かれたコンテクストのなかに位置づけようとする」のです。

しかしながら、気功家のハシクレとして、僕のよりプラグマティックな見解を述べさせていただくと(笑)、ここでは彼のように、一足飛びに宇宙論に接続する必要はなく、もっと体感ベースに素直に解釈しても良いのではないか、というのが、気功のトレーニングを積んできた者としての印象です。もっとも、チベット密教自体が、元々宇宙論であるといっても過言ではないため、ここで彼のような解釈が出てきても、全く不思議ではないと思いますが(実際、チベット密教においては、特定の行をした時の、例えば光が見えるとかいったような特定の生理学的な反応を、全て、仏教のコスモロジーの中に、溶かし込もうとします)。

また、この脊髄と「管」との差異は、あの高藤聡一郎氏も触れていますね。彼の場合は、前者(ここでは督脈ですが)を気が通ることを「小周天」、後者を気が通ることを「大周天」と呼び、通常大周天と呼ばれる行法を、特に「全身周天」と名づけて区別しています。

また、一指禅功でもそうなのですね。一指禅功では、この真ん中のルートを、「中脈」と呼んでいます。しかもこれは、いわゆる経絡ではありません。つまり、行に用いられるだけの、プラグマティックな存在なのです(もっとも僕も、この点に関して十分な説明を受けたわけではないのですが)。

実は僕は、このルートは、生理学的な特定のルートを指すのではなく、ボディ・ダイナミクスの体感上の存在なのではないか、と考えているのです。

これに関しては、僕のHPの中で、次のように書きました。

「その現象にしても、私は、上体が前後左右を含めた水平方向に倒れようとするときのモーメントが丁度つりあう点（いわゆる支点）を人体内部で垂直方向に積分していったものを管のように知覚しているだけなのではないか、と純粹に力学的に考えている。」

この印象は、今でもあまり変わってはいません。それどころか、逆に強化されている、といって良いのかも知れません。例えば、站樁功の場合ですけれども、体の重心線を真っ直ぐに両足の間に正確に下ろすと、すぐに強い衝撃が体を貫いて、なおかつ全身が温かくなってきます。それどころか、その重心線をイメージの中で更に真っ直ぐに下ろし、それを地球の物理学的な中心点(それは定義上、大きさを持ちません)に接続すると、更に強い衝撃と熱が、発生します。古人であれば、この時、地球からエネルギーをもらっている、とでも言うかも知れませんね(笑)。また、そのように体軸を重力線に完全に一致させた時、まさに体が消滅したような感覚を覚えます。それは、ボディ・ダイナミクス的に考えれば、重心を下へ下へと下ろすことで、より全身が安定し、その結果、全身の力が抜けやすくなるから起こる反応ではないか、と考えているのです。

これを逆に考えれば、実は僕達の身体イメージというものは、体の重心が前後左右に揺れることで生じる微細な筋肉の動きを、その中に埋め込まれている神経系がキャッチして、その情報が脳の中で積分されることで作られている、と考えることも可能なのかも知れませんね。

だとすれば、脳に送られているこのような身体の微細な動きに関する情報を、何らかの形でブロックすることが出来れば、何か、通常とは違った知覚が得られるかも知れない。

同じく中沢先生は、別著で、次のように述べられています。

「(インタビュアーの、「チベットでは、リアルに触れたという感覚があったわけですか。」という問いに対して)

ありました。感覚だけでなく、チベット密教はリアルをつくりだす教えでしょう。修行によって肉体を変えていくわけだから。大脳の頭頂部に、イメージ統合野というのがあるんです。身体イメージはここで作っているんです。ここを停止させて、身体イメージ像をいったん壊しちゃう訓練なんかをする。そうすると、幽体離脱ではないんだけど、寝ているときに自分の首

がズーっと伸びていくように僕はイメージしますが、たぶんそうじゃなくて、僕のなかの知覚のあるものが身体の外へ出ていくんです。南方熊楠もよくやっていますよ。旅館で寝ていると、身体はそのまま、階段を下りて、お勝手に行って、また戻ってきたとか(笑)。」(『リアルであること』幻冬舎文庫、1997年)

要するに、リラックスですよ。こう考えてみると、このような現象は、そう不思議なものではないのかな、という気がしますね。

もっとも僕の場合はフリークではないので、これをプラグマティックに、仕事に活かさなければならぬ(笑)。このような感覚を意図的に作り出すことで、自分の中から発生する熱をより強化させて、施術に応用することが出来る、ということに気付いたので、このようなトレーニングについていろいろと、研究を重ねているわけなんですけれども。

ここで、先生がご指摘なさった"エネルギーの放出"ということなのですが、赤陽先生によればこの点が、まさにヨガと気功の差異、ということですね。

このようなクンダリニ系の行は、チベットでは"ポワ"と申しますが(一時期妙なところから、流行語になりましたね(笑))、中沢先生がこの行についての詳細なレポートを展開されている『虹の階段』(中公文庫、1993年)の中でも、ラマ・ケツン・サンポの言葉として、この行を多くやってはいけない、特に若者はいけない、と述べています。また高藤聡一郎氏も、『秘伝！チベット密教奥義』(今から考えればすごいタイトルだなー(笑))の中で、同じようなことを述べていますね。要するに、寿命が縮む、と。

僕はこの行をきちんと体系立ててやったことはないのですが、詳しいことはわからないのですが、それらの問題については、何となくイメージは出来ます。

と申しますのは、ある時、それこそ高藤氏の別著の影響で(笑)、似たような行法を、自分なりに試したことがあるんですね。それは、頭頂部に、不動明王が鎮座している様子を思い浮かべる、といった簡単なものだったのですが、上野から日比谷線に乗って中目黒に着くまでの車内でそれを試してみたところ、下車する時に、頭がクラクラして前後不覚になった経験があります。

高藤氏も、似たような経験について、『秘法！超能力仙道入門』の中で、述べています。

「そこまではよかったが、あとが大変だった。ちょうどコンクリートの道路にでも倒れて、思いきり頭を打ったときのような感じになってしまったのだ。頭の中をワーンといった音が駆けめぐり、霧でもかかったようなボーッとした感じになってしまったのだ。耳から入る音はエコーしながら遠くに聞こえ、視界も、濃厚な空気の層をとおしてものを見ているようなぐあいになった。」

これと全く同じような状況でした。思えばあの時、気がごっそりと頭頂から抜けてしまったのかも知れませんね。ですからこのポワのような行法を一生懸命にやると、心身に変調をきたす可能性がある、というのは、十分に想像出来ます。

もちろんチベット密教において、このようなクラクラした状態が、いわゆる"悟り"とどのような関係にあるのか、それ以前に、これは正しい反応なのかどうかは、部外者である僕にはわからないので、それを達成するために一旦このような状況を通過しなければならないのだとしたら、その実行は、きちんとした師匠の指導の下ではないと危険だ、ということは、あると思います。

これに対して気功の方では、これは前回にも少し触れたことでもあります。気を外に放出するようなことはありません。小周天であろうが、(通常の意味での)大周天であろうが、基本的に、身体内部に循環させます。そうやって全身そのものを"純陽の気"に変えていくことが、気功の目的なのです。そうやって、いわゆる"不老長寿"を達成しようとするわけですね。極めてプラグマティックです(笑)。

その過程で、そのまま魂が抜けたような状況が発生したとしたら、それはそれでよろしいと。ですから、結果的に同じ状態になったとしても、それが起こるのが人為的なものか、自然発生的なものか、という違いみたいですね。言うまでもなく、後者の方が無理がない、ということらしいです。

実は横浜教室には、禅の六代目の祖である恵能大師のミイラの写真があります。いわゆる即身仏なのですが、僕はこの写真を見て、ぎょっとしました。というのは、本当に生きているようなのです。この方は紀元700年前後の人物ですから、死後1300年は経っています。ところがその姿は、まるで、単に坐禅しているようにしか見えない。逆に、日本で即身仏といえば、山形県の湯殿山のものが有名ですね。僕も一度拝見したことがあって、それらは、いかにもミイラ、といった感じなのですが、六祖のそれは全然違います。赤陽先生に言わせれば、これが本当の即身仏だ、ということなのですが、それは十分に納得できます。

まあ僕の亡骸が僕の死後どうなろうと、そういうことにはあまり興味はないのですが(笑)、その写真を見た時に、赤陽先生の言われる"純陽の気"が達成された時に、身体の細胞レベルでの構造に、何らかの変化が起こるのかも知れない、と思いましたね。

果たして、そのような状態に近づいた時、僕の心身にどのような変化が起こるのか、非常にわくわくしますね。それを外に引っ張り出したら"陽神"ということになるのかも知れませんが、そのようなことは本当に起こるのかどうか。なかなかこういう世界は、やはり奥が深いですね(笑)。

因みに、今月の中国養生の旅の目的地は、武当山です。道教の聖地ということなので、いろいろ怪しげなネタが転がっているんじゃないかと、今から楽しみです(笑)。

それではまた！



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

The KLF/Chill Out



[Chill Out](#)

The KLF

この方達は、ミュージシャンというよりも、テロリストですね。

公演に象を二頭連れ込もうとしているのが発覚して、会場からキャンセルされたのだ、プロモーション・ビデオ撮影用にコーン畑に侵入してミステリー・サークルを作っているところを農場主に発見され、発砲されて射殺されかけた挙句、10時のニュースで報道されたのだ、かの湾岸戦争の時に、政府のポスターに"THE GULF(湾岸)"とあったのを片っ端から"THE KLF"と上書きして、逮捕拘留されたのだ。

同じ人間として、私はこの方達を、心から尊敬致します。

このアルバムがリリースされたのは1990年なのですが、当時隆興していたエコロジーあるいはニューエイジ・ムーヴメントとの兼ね合いからか、「いきなり90年代を代表する作品が登場した!」と、プレスでは評判だったみたいです。

私も、往年のアンビエント・ハウスの最高峰だと、今だに考えています。

いろんな音が詰め込まれています。羊、ホーミー、電車、プレスリー、ヘヴィメタ、小鳥、ピンク・フロイド、ラジオ……。これらの音源達の戯れを、ノー天気なスチール・ギターとシンセが彩る。

この「何の脈絡の無さ」は、今の時代、とても重要なような気がします。

因みに当人たちに言わせれば、「今まで騒々しいダンスものばかりだったから、家でゆっくり聞けるものを作りたかった」というのが、製作動機だったようです。

その「騒々しいダンスもの」たる“What Time Is Love?”とか“Last Train To Trancentral”等のアシッド・ハウス作品もありますが、これらも、文句なしにかっこいいです。

[The KLF](#)

Aphex Twin/Selected Ambient Works Vol.2



[Selected Ambient Works, Vol. 2](#)

Aphex Twin

連れて行かれますねー。

この作品は知人に教えてもらったのですが、彼が僕に教えてくれたのは、「こんなの、誰でも作れるよな」という、言わば単なるイヤミ精神からでした。

ところが実際に聴いてみると、その美しさに、私は圧倒されました。

際立った特徴としては、音使いが極めてシンプル。この点は、ドイツのホルガー・チューカイ先生も、絶賛されていました。無駄が無いんですね。あとは、左右にふわーっと広がるリヴァーブの気持ち良さですか。これが作品に空間性を与えていることが、連れて行ってくれる大きなファクターとなっていると思います。

妙な話ですが、私がバッハの対位法に、より深い興味を抱くようになったのは、この作品が契機でした。それほどこの作品における対位法の使い方は、絶妙です。

ただ彼自身は、そのようなアカデミズムあるいは高尚さとは全く関係なく、ライブの情報等から総合的に判断するに、単なる嫌がらせ好きの知能犯のようですね。その点も、非常に共感を覚えます。

これを証明するかのように、彼は極めて美しい作品と、極めて凶暴な作品を、交互に発表し続けています。

でも最近は、「もう音楽に飽きた」のだそうです。

因みに、自家用車は戦車だとか。そういう生活も、オツなものです。

[Aphex Twin](#)

ある精神科の先生との対話(17)～プラグマティズムからみたヨーガ等の他の身体技法と気功との差異

クンダリニに関する仮説、なかなか興味深く伺いました(笑)。

なるほど、仙骨や腸骨には、幼若な骨髄細胞がプールされているんですね。そのような解剖学的な解説は、非常に参考になります。

一度僕も、仙骨というものに興味を持って、ネットで調べてみたことがあるのですが、出てきたサイトにいきなり、「仙骨にあるエネルギーの回転サイクルが宇宙と共鳴してどうのこうの」みたいなことが書いてあって、挫折した経験があります。運が悪かった(笑)。

確かにおっしゃるように、それを何らかの手段で取り出して、全身に巡らすことができれば、それは心身の活性化につながるのかも知れませんね。

言うまでもなく、そんなことは不可能だ、というのが、一般の医学者の見解でしょうが(笑)。

先生のメールに刺激されて、僕も久々に、クンダリニ・ヨーガ風のトレーニングを試してみました。とは言っても、誰かに習ったものではなく、そのような解剖学的な知識を援用して、ただ単に、仙骨の付近に気持ちを持っていただけなのですが。

そうすると、全身に感じられる熱感は相変わらずなのですが(でも若干強化されたような・・・)、今まで以上に、頭頂部付近に強い圧力を感じるようになりました。

ただ、あまりにも強い刺激のために、頭蓋骨がどうにかなってしまいそうだったので、それ以来は少し控えるようにしています(こう書いているだけでも、後頭部がむずむずしてきて、物理的に痛いんですけど(笑))。

もっともこう申し上げたところで、仙骨に気持ちを置くだけでそんなことが起こるはずもない、などと、またまた医学者には非難されそうですが(笑)。

だいたい、"仙骨"という名称自体が、何かありそうですよね(笑)。それに、仙骨の最下部である尾骨には、「長強」という名前のツボもあります。この名前も、非常に示唆的です(笑)。

いつだったか忘れたのですが、このようなヨーガの技法について、赤陽先生と話したことがありました。彼が言うには、ヨーガの場合ですと、下腹部から発生させた熱を真っ直ぐに上げて頭頂から抜くことで、"神との合一"を図る、というのが、その技法の目的だ、ということですね。さ

らにこの背景には、インド＝ヨーロッパ語族らしい、"始まり-終わり"という、一次元的というか、直線的な世界観が関係している、と。

ところが、中国の仙道や気功の場合ですと、その基本的な世界観は"循環"ですから、その熱を外に放つのではなく、自分の体の中で延々とループさせる、というテイストが濃い、ということです。小周天なんかがそうですね。具体的な行法で申しますと、例えば一指禅功の練功の場合では、あごを軽く引くわけです。そうすると側面から見れば、人間の体は、極めて大雑把な形ですけど、楕円形になりますね。その結果、気は円を描いて循環し始めます。そのルートは言うまでもなく、督脈と任脈ですね。ここでは、"陰陽を調和させる"、という中国哲学が、そのまま身体論そのものとして、描かれています(実際、一指禅功の内丹功の説明においては、あの太極図が用いられます)。

ですから、この東洋の二つの身体技法には、その思想的な世界観の違いが、色濃く影を落としている、ということになりそうです。つまり、ヨーガは、神や悟りなどの観念的なものを志向し、それに対して中国仙道や気功は、功夫などにも見られるように、まさに唯物論的というか、身体的なものを志向する、と言っていいのかも知れません(この辺の、昔から『怪力乱神を語らず』などと言って、あまり観念的なものを志向しなかった、という風潮が、後に中国がマルクス主義を受容することになった、歴史的背景である、という説も、実際にあります)。

このことは先生の、「何も無理やり覚醒法をしなくても自動で小周天を繰り返していれば、徐々に若返りそう」というお言葉にも、若干関係してくるのかも知れません。

というのは、正にこの点に、それこそ無意識的に疑問を抱いていたからこそ、僕はヨーガではなく気功の方へと、歩みを進めることとなったような気がするからです。

それは、プラグマティックな問題です。

要するに、ある種のヨーガの場合、そのような無理やりな覚醒法を実行するとして、その練習の主たる目的が、不明確なんですね(もちろんこれは言うまでもなく、僕にとって、という意味なのですが)。あるいは、プラグマティックな意味を感じ取ることが難しい、というか。もしかしたら、何人かのヨーガのインストラクターに、このような問いかけをすれば、「ストレスを解消して、より健康的な生活をするため」といった答えが返ってくるかも知れませんが、そのような答えに僕が満足するはずはありません(笑)。そうなってくると次の答えは、「潜在能力を開発するため」とでもなりそうですが、ではその潜在能力というものを開発して、どのようなメリットがあるのか、とさらに問いかけていくと、結局答えられなくなってしまう、そうすると最終的に、

先ほども申し上げたように、神とか悟り、という超越的な、まさに"常人では理解困難な"概念を引っ張り出してこざるを得ないのではないかと考えたのです。

つまり、今風の、かつ意地悪な言い方で申し上げると、「独りよがり」となる危険性が、極めて高いのではないかと、思ったのです。

実はこのことは、ヨーガに限らず、他の身体技法でも、指摘できることだと思います。

例えば、先だってお会いした時に、日本で作られた肥田式強健術のお話をしました。実を申し上げますと、僕がある時、まさしくプラグマティックな意味で身体技法を学ぶ必要性を感じた時に(それは知人の死が原因でした)、最初に門を叩いたのが、東京にある、この肥田式強健術の教室でした。ところがその練習の内容は、とても評価できるものではありませんでした(もちろん本人達は、満足しているのですが)。そこで僕は、こう考えました。肥田式強健術について知ろうと思えば、これを直接学ぶよりも、回り道かも知れないが、中国の気功法からアプローチした方が良いのではないかと。そうして30件近くの気功教室を当たった結果として、赤陽先生のところに行き着いたのです。

肥田式強健術を作った肥田春充氏は、昭和半ば頃まで存命だった、もちろん実在の人物です。その強健術は明治時代に大ブームを引き起こし、一部が軍事教練にも採用されたほどです。さらに彼に関しては、様々な信じ難いエピソードが伝わっています。ところが今日、彼の名前を知る人物は、ほとんどいません。その強健術の技法は、完全に消滅してしまっている、と言って、良いと思います(言うまでもなく、自分だけは会得している、と勘違いしている、一部のマニアは別ですが(笑))。

余談ですが、実は僕は、彼のお墓に参拝したことがあります。というのは、これは恐ろしいほどの偶然なのですが、彼のお墓のある八幡野というところは、時々お話している南青山の不動産会社社長兼仙人の(笑)S氏の別荘の、ごく近くだったのです。彼の自宅の跡地にも行ってみましたが、完全に荒地になっていました。お墓も草ぼうぼうで、完全に放ったらかし。それどころか地元の人々に伺ってみると、皆さん彼のことをあまり良く思っていないみたいですね。彼のお墓の前に立ちながら、僕は、非常に複雑な心境になりましたね(因みに二回目に行ってみると、綺麗に掃除がしてありました。僕がS氏に、「誰か掃除なさったみたいですね」というと、「あ、僕がしておきました」とのお返事でした(笑))。

この事実からもわかるように、このプラグマティックな問題というのは、コミュニケーションに関係する問題、と言い換えても良いかも知れません。それは先ほど申し上げましたように、"常人では理解困難"ということに、つながってきます。

つまり彼らは、そのような技法が現実社会で、どの程度役に立つのか、に関する情報提供が不足してはいないか、そういう意味で、よしんば超越的な領域とのコミュニケーションができたとしても、肝心の彼ら自身が住んでいる現在の世界とのコミュニケーションが、疎かになってはいないか。僕が引っかけたのは、この点でした(この点は、今まで散々批判してきた"靈感系"の人々にも、当てはまりますね)。

彼らが会得した身体技法は、自らの潜在能力を活性化させる、素晴らしいものであったかも知れません。しかし問題は、そのことは、そのトレーニングをしている人以外にはわからない、あるいは実感するのに時間がかかる、ということにあると思います。もちろん、それを習得してやろう、というインセンティブのある人に対しては、有効だと思います。そのような人は、それを会得するための努力を惜しまないでしょうからね。しかしそれは、限られたケースでしょう。結果としてその効果は、大方の人にとっては、不可視のままに留まらざるを得ません。

例えば、肩凝りに悩む人がいるとします。そのような人に対して、ヨーガや強健術は役に立つよ、と主張することは、簡単にできると思います。しかし、そう言われたからといって、ではそれを試してみよう、と思う人は、十人に一人いるかいなかでしょう。あるいはそれ以下かも知れない。そのような状況では、その技術が役に立つのかどうかを判定するのは、とても難しいと思います。ではどうすればよいのか？

その場で、痛みを止めればよいのです。

ですから僕は、このような分野に手を染めた当初から、無意識的に、そのような技法を目指してきました。つまり、何らかの形でその効果が目に見えるような技法でなければ、自分から見ても、他人から見ても、その効果を確証できないわけです。そして、そのような効果の確証できないようなものは、現実社会の中では説得力を持たない、そういう意味で、何の役にも立たないのです。

そのようなことを考えながら歩んできた結果、僕は点穴療法へと辿り着きました。そして正におあつらえ向きに、無為気功養生会では、その二つが、同時に学べたわけです。これは自分にとっては、とてもラッキーだったと思います。

点穴療法と平行して学んだ一指禅功の練習を続けることで、自分自身の心身の、大きな変化が自覚できます。それだけではなく、施術という形で、それを自分だけではなく、クライアントさんの身体変化を通じて、確認できます。これはまさしく、バイオ・フィードバックですね。

そういった意味で、僕が施術を行っているのは、クライアントさんのためでもあります、それと同時に、自分自身のためでもあるんです。

赤陽先生は、「一指禅功の場合、施術がそのまま練功になる」とおっしゃいますが、これは、そのような施術に伴うバイオ・フィードバック的な効果を考えると、極めて的確な指摘である、と思いますね。

しかし逆に、そうではないとしたら、自分自身の心身の本当の変化と、言い方は悪いですが、単なる"妄想"的な「独りよがり」とを、どのようにして区別することができるのだろうか、と疑問に思ってしまう。単にその技法を真似るだけで自己満足しているような人達が、この世の中には何と多いことでしょう。非常にもったいないことのような気がします。

でもこのようなことは、僕が片方で手掛けている、芸術と呼ばれる分野にも言えることなのかも知れませんね。それを芸術だと思っているのは、制作した当人だけ、という状況は、頻繁に起こり得るわけです。因みにここで僕が問題にしているのは、いわゆる前衛芸術などといった特定のカテゴリーのことではなく、制作者自身のメンタリティあるいはスタンスのことです。これを象徴するような出来事が、今正に奈良で起こっているようですね。僕はこの経緯を、非常に興味深く見守っているわけです(笑)。さらに言えば、僕自身が単なる自己表現としての音楽ではなく、環境音楽や音楽療法などといった実用音楽を手掛けているのは、無意識的に、このような志向性があるからなのだろうと思います。

僕は気功だとか芸術だとか言っていますが、その言葉から受ける観念的なイメージとは全く逆に、徹底的な現実主義者、あるいはプラグマティストなのです(笑)。

ここまでは、ヨーガと気功との、言わばバックグラウンドの差異に関して述べましたが、次に、具体的な技法に関して、先生の先ほどのご指摘を考えてみますと これは僕の考えなのですが、現在一般的に流布しているヨーガの技法は、基本的に初心者向けで、初心者の場合は、まず心を静める必要があるものですから、身体の内外部であれ、何かに意識を集中する、ということがうるさく言われるのかも知れません。

結果として、習得が非常に難しくなります。

しかしそれは程度問題で、先にも申し上げました通りこういった厳密なやり方は初心者向けですので、こういった練習にすんなりと入っていける方ですと(あるいは仙縁のあるというか(笑))、そのような極端なことをなさる必要は、ないように思います。これは以前、無上ヨーガ・タントラについて触れた際にもお話したことの繰り返しにもなるのですけれどもね。

そういう意味では、細かいことをあまりとやかく言わない技法の方が、練習がしやすい、ということは、あるかも知れません。

これも僕が、ヨーガをやらなかった一つの原因でもあります。とにかく、型が多過ぎるので、一体何が重要な要素なのかが、外からは理解し辛いんですね。

逆に気功の場合ですと、練習はひとりでに進んでいきますので、そんなにややこしい技法を用いる必要はありません。特に僕の経験では、一指禅功はそうでしたね。

これに関しては、師匠は本の中で、『低温熟成』という表現を用いて説明しています。僕もこれはいい表現だと思います。強火ではなく、弱火でじっくりと煮込むわけです。そして気功の中でも、まさしく火は意念です。弱い意念でじっくりと丹を練る。これがポイントだと、僕も思います。

もっとも、気功もヨーガもかなりオーバーラップしている部分がありますので、どちらがどうだ、と単純に比較することはナンセンスではあるのですが、僕自身の経験では、細かいことを言わないだけ、気功の方が習得しやすかったかな、という気がします。

もう一つ先生のメールの中で興味を引いたのは、「どうも馬歩椿を始めてから・・・」というご指摘です。

もう一派の一指禅功のインストラクターである僕が、あれこれ申し上げるのは不遜ではありますが(笑)、ざっと先生が取り組まれておられる方の内勁一指禅に関する文献を拝見致しますに、そのようなことは起こり得るかもしれない、と思いました。

と申しますのは、あのやり方は、確かに、人差し指に気を導きやすい、とは思いますが、問題は、この"導きやすい"ということそのものにあるような気がします。つまりご指摘の通り、初心者の方であれば、好むと好まざるとにかかわらず、気がそちらに集中しやすくなって、身体の他の部分へは行きづらくなるということがあるのかな、と思いました。

ですから内勁一指禅をされるに当たって、このような気の一極集中を避けるためには、ある程度、他の動功を併用した方が良いのかも知れませんね。

この点で申し上げますと、我々の一指禅功の場合は、站椿功では確かに人差し指を立てるのですが、師匠によればそれは、人差し指への気の集中を主眼にして行っているのではない、という

ことですね。この場合の主眼は、文字通り"眼"だそうです。つまり、眼から気を出すことを主眼にして、トレーニングするということですね(これを"目功"というそうです)。

しかしながら、これも通過点に過ぎず、最終的には、全身から気を放射する、言い換えれば、まさに"動く龍穴"によってなってしまう、特に手や眼を使わなくても、そばにいただけでその人の何らかの疾患が改善してしまう、という段階にまで、トレーニングを続ける、ということです。こうなれば、指先に気を集中して放射する、というのは、特に意識をしなくても容易に可能、ということになるようです。実際、一指禅功の第三節である動功は、これを主眼に組み立てられているようですね。

ですからご報告を伺って、これは僕の個人的な意見なのですが、全身に気が自由に行き来する段階になってから指先に導く方が、やはり体に負担を掛けないのかな、という感想を持ちましたね。もっともその辺は、内勁一指禅の場合、外気功(初級)以降のカリキュラムの中に組み込まれていたりするのも知れませんが(笑)。ですからお試しいただいた通り、全身の経絡の通りを調整なさる場合には、遊龍功は有効かも知れない、と思います。

『気功革命』という本は、初めて伺いました。早速チェックしてみます。確かに站椿功では、ご指摘のようなイメージでもって、背筋の力を抜く、というやり方もありますね。しかし、ヨーガで柔軟&仙骨刺激→遊龍功→站椿功か坐功、というメニューはすごいですね。僕以上にご熱心なご様子で、何よりであります(笑)。

それではまた！



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

パワー・スポット探訪(1)～大宮氷川神社

今回から、『パワー・スポット探訪』と銘打って、各地のパワー・スポットをご紹介しますと思います。

因みに、これらの場所については、僕がそこで、施術中に感じるのと同じ何らかのエネルギー状のものを感じた場合に限って、ご紹介していきます(これは恐らく、地磁気とかそういう類のものが、関係しているものと思われます)。

従って、単なるスピリチュアル系のムード的なパワー・スポットではなく、フィジカルな意味でのパワー・スポットであることを、先ずお断りしておきたいと思います。多分その場所に立てば、ムズムズする、体が軽くなる、極端な場合、肩凝りが消失するとかいった、フィジカルな反応が起こるはずですよ(ムード的なものがお好みの方は、他サイトをご覧ください(笑))。

そのようなエネルギー点の大体の場所については触れますが、細かいところまでは触れません。それは、皆様がその場所へ行かれた際に、ご自分でご確認頂けたら、と存じます。その方が、感覚も鍛えられますので、よろしいのではないかと。

・・・というわけで、第一回目は、埼玉県にある大宮氷川神社。

大宮氷川神社の由来については、『＜出雲＞という思想』（原武史著、講談社学術文庫）に詳しく記されています。

これを読んだ私は、東京にいる間に是非一度、訪れてみたいものだ、と思っていました。

縁あって、首都圏在住の女呪術師ぶたくささんとお会いする機会に恵まれ、何処で会おうか、という話になったとき、私は迷わず、ここを指定しました。

J R大宮駅から徒歩十分くらい。今でもかなり大きな神社なのですが、昔のそれは、現在の規模を遥かにしのぐ、さらに巨大なものであったようです。

本殿の前には、かなり年を経ているであろう大きな木が、数本立っています。

その付近に立つと、とても「いい感じ」です。

ぶたくさんは、気功はやったことがない、とのことでしたが、すぐにおわかりになったようです。

本殿中央付近もとても「いい感じ」で、その力が古来と比べて、いささかも衰えていないことがわかります。

また、本殿に向かって右側に、小さな池があるのですが、そこも本殿に負けないくらい「いい感じ」です。

面白かったのは、その横にある、ドルメンみたいな石です。騙されたと思って、その上に立ってみて下さい。結構ものすごく「いい感じ」です。神社にあるああいっただの石の建造物（のでしょうか？）って、大抵何かしらありますね。

というわけで、お近くにお住まいの方は、是非一度ご探訪を・・・。

[大宮氷川神社](#)



・・・というわけで、千駄ヶ谷近辺

今私が住んでいるところは、千駄ヶ谷です。

因みにこの場所は、南青山在住の不動産会社社長兼仙人、最近のパラマハンサ・ヨガナンダとオショ・ラジニーシがお気に入りの、S氏に探していただきました。心より深謝。

以前都内に住んでいた時は、この辺りは訪れたことがなく、全く馴染みがなかったのですが、住んでみると、とても落ち着いているところです。

最も驚いたのは、空気が綺麗なことです。間近を首都高が走っているので、さぞ空気が悪かろう、と思っていたのですが、そんなことは全くありませんでした。実際この千駄ヶ谷近辺は、国立競技場、新宿御苑、明治神宮外苑、明治神宮と、巨大な公園及び神社に囲まれているので、良く考えてみれば、それは当然なのかも知れません。それを考えると、以前住んでいた新大阪の「あの」場所は、かなり問題がありましたね。だいたい夏場になると、目の前にある駐車場からの莫大な量の排気ガスが、まともにうちの中に入ってきていましたから。熱せられた空気が乱気流となって押し寄せるといのは、ある意味砂漠性気候ではなかったかと。よくそんなところに住んでいたな、と今更ながら思います。

この公園群は、千駄ヶ谷の強みかも知れないですね。僕が再上京するというと、「東京は大地震が起こるぞ」と言う人もいましたけれど、幸いなことにこの公園群は全て、東京都の緊急避難場所です。大地震の際には、避難所のハシゴが出来たりして(笑)。

というわけで、近所の春の風景を、写真に撮ってみました。大きな公園群ですから、自然も豊かなんですね。都内でこれだけの自然が楽しめる場所は、他にはちょっとないかも知れませんね。もっとも、鳥取にはかなわないのでしょうけれど。ある意味当然か(汗)。

因みに、新宿、原宿、渋谷には、徒歩で十分行ける距離。ほぼ毎日歌舞伎町通いです。もっとも、雑貨屋ですけど(笑)。

事務所移転のお知らせ

謹啓 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、諸般の要請によりまして、4月1日付けで、当やわらぎ気功クリニックを、東京都内へと、移転させました。

場所は、以下の通りです。

[〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-20-7 Rメゾン202](#)

やわらぎ気功クリニック東京

Tel & Fax : 03-3470-0343

また、この移転に伴いまして、システムを全面的に、改定させて頂きました。

詳しくは、[『からだにやさしい東洋医学』](#)(こちらも全面的に改めました)の、[『終わりに・・・』](#)をご参照頂ければ、幸いです。

それでは、首都圏近郊にお住まいの皆様のご利用を、心からお待ち申し上げております。

今後とも、変わらぬお付き合いのほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

中原勇一 拝



なるほど、〇〇〇に辿り着かれましたか(笑)。

実は何を隠そう、赤陽先生の所で一緒に学んでおられたおじさんが、興味が嵩じて、そこにも手を出されたんですよね。

その方は千葉県流山市にお住まいで、横浜からの帰路が僕と一緒にしたので、とても良くして頂きました。今でもしょっちゅう、お電話を頂きます。

その道すがら、僕の"道場破り"の数々をお話していたら、感化なされたようで(笑)。実際彼はそれまで、赤陽先生以外の所には、行かれたことがなかったんですね。

その顛末を僕は、大変興味深く見守っていました。

その結果はどうなったか？前回お会いした時には、「もう行かない」とおっしゃっていましたね(笑)。

彼曰く、完全に商業主義で、大して得るものがなかった、やはり赤陽先生の方がいいですね、ということです。具体的には、型ばかりをやっていて、その中身についてはほとんど触れないと。しかもその型というのが武術気功なものですから(いきなり難解な型をやらせていたみたいですね)、初心者には極めてハードルが高かったそうですね。想像通り、という感じですが。

因みに、そこで知り合った若い女性の方に尋ねてみると、「何年もこちらに通っているけれど、気の感覚が全然分からない」とおっしゃっていたそうですね。可愛そうだなと同情してしまった、とおっしゃられていましたが(笑)。

でも逆に、そのおじさんのレベルは、横浜教室では、ケタ違いなんですね。

覚えておられるかどうかは分かりませんが、先回お会いした時にお話した、横浜教室で懇意にさせて頂いていて、なおかつ気功のレベルが非常に高いお二人のうちの一人が、この方です(もう一人の方が、南青山の不動産会社の社長さんです。その方は一時期、パラマハンサ・ヨガナンダのクリヤ・ヨーガにハマってらっしゃいましたね。あ、あとは真言密教の加持祈祷か。最近のお気に入り、オショ・ラジニーシだそうです(笑))。

ご指摘の通り、気功に関してはまさに玉石混交たる状況ですので、むしろ問われるのは、我々学ぶ方の見識なのかも知れませんね。

このような混乱した現状が産み出された原因は、ご指摘の通り、日本で気功をやれば、健康ブームに便乗して必ず儲かる、という風評が中国で立ったので、ビジネスチャンスを求めてそのような中国の方が、大挙して日本へやってきた、というのがまず一つ。

そしてもう一つは、以前お話したように、法輪功の問題があって、中国国内では気功を始め東洋伝統文化に対する風当たりが強くなったので、仕方なく国を離れざるを得なくなった本物の気功家達の一部が、日本へやってきた、という理由もあると思います。

でも後者のような方々の場合は、多分その素性を隠されるでしょうから(実るほど頭が下がる稲穂かな、というやつですね)、結局、日本で大々的な看板を上げているものの中には、前者に属するものも少なくない、ということになりそうですが。いろいろと聞いたこともない肩書きなんかを列挙なさったりして(笑)。

そのような内側の状況は、本やHPなどでは絶対にわからないですから、最終的には、自分の眼で確かめる他ないのかも知れませんね。

本山博先生にも手を出されましたか。実は、彼の所も一度、お尋ねしたことがあります(笑)。

実際彼のご自宅は、神社も兼ねているんですね。神社をやりながら密教ヨーガというのも、冷静に考えたら不思議ですけど(笑)。

彼の文献の中には、かなり神秘的な表現もあるにはありますが、様々な身体技法を比較検討なさっているという点で、参考になる点多々あると思います。

そのように、気功以外の地点から気功を見直すと、その本質が良く判るのではないか、というのが僕の意見です。

思うに、いろいろな分野に様々な流派があることはあるのですが、その本質は一つのような気がします。

何故なら、人間の体のことですからね。民族が異なっても、基本的な人体の構造は一緒ですし。違うのはものの考え方、というだけで。もっとも、これが一番やっかいだという気もしますけ

れど(笑)。

これは僕の憶測ですが、劉先生もそのような考え方に賛同して下さるような気がしますね。レベルがズバ抜けて高い人の場合には、国籍だとか何とかいう違いは、ほとんど問題にならないのだな、というのを、彼に会って初めて感じました。

本当に、人間というのは面白いものです。

さて最後に、ご質問の動功に関してですが、実を申し上げますと、僕はほとんどやっていません。

と申しますのは、坐功だけで、十分用は足せているように感じるからです。

赤陽先生は、「動功のない気功はない」と言って、静功と動功を両立させることの重要性を常に指摘されますが、僕自身はあまり動功をする必然性を、感じていないのです。

穿った言い方を許して頂けるとすれば、気功には、「静中に動有り、動中に静有り」という言葉もございます。この言葉通りかどうかは判らないのですが、静功中には僕の体の中を、熱の塊がものすごい勢いで駆け巡っているのを感じます。この感覚はあまり動功では得られませんので、面白いものだから静功ばかりやっている、というのが現状です。

とは申せ、僕も入門当初は、動功ばかりやっていた時期もありました(赤陽先生に通背拳を習っていたような頃ですね)。ですから、いろいろとお試しになって、ご自分に合わせたものを選びになるのがよろしいのではないかと、いう気がします。教条主義的な普通の指導者であれば、そんなことは申しませんでしょうが(笑)。

あと、様々な禁忌についても、そんなに神経質にお考えになる必要はないように思います。うちの一指禅功の場合は、ビールを飲むことと、ニンニクを食べることは厳禁なのですが、僕は、そんなに守っていませんし。この時期のビールの美味しいこと美味しいこと(笑)。

それではまた！



JUGEMテーマ：心、体、そして魂。

なるほど、一指禅功の歴史というものは、それはそれで追求してみると、面白いかも知れませんか。

先生のメールにありました一指禅功の解説を素直に解釈すると、達磨大師以降元々は嵩山少林寺で伝えられていた一指禅功が、時代を下るにつれて徐々に枝分かれしていき、その一つが、唐代に建立された福建省少林寺から闕阿水老師を経た現在の内勁一指禅功、ということになるのかも知れませんね。

以前にも少し触れましたが、実際僕が知っているだけでも、少なくとも四つの一指禅功があります。一つは劉先生のもの、一つは内勁一指禅功、一つは指圧の一流派、そしてもう一つは、『少林七十二芸』という武術体系の中の一指禅功です。

最後のものが、例のろうそくに向かって指を突き出すトレーニングをするものですね。 因みに、僕が嵩山少林寺を尋ねた際、寺の中にある小さな土産物店にあった書籍の中に、これに関するイラスト解説付きの文献がありました。

なかなかファンキーなイラストで、終わりの方には、釣鐘に向かって指を突き出しているものもありました。気で釣鐘を鳴らすつもりなんでしょうね。

あの時に買っておけばよかった、と、今でも痛烈に後悔しているのですが(笑)。

このようなある意味混乱した状況ですので、それぞれの一指禅功をやっている人々の中で何らかのディスカッションや交流があったら、いろいろな形で、一指禅功に限らず気功そのものに関する研究も進みそうな気がするのですが、そのような話はついぞ聞かないですね。

これは、お互いの対抗意識というか、セクショナリズムの現われなんでしょうか？そこら辺は、今度は心理学的に興味があったりして(笑)。

いずれにせよ僕も、人様にご指導させて頂いている関係上、今後それらの異同についてお尋ねを受けることも増えてくる可能性がありますので、今度赤陽先生に、突っ込んで尋ねてみようと思います。

T氏という方も、なかなかハンドルネームからしてファンキーですね。僕はそこまでカッコよくならないですけど(笑)。一度お会いしてみたいですね。こうなってくると、また僕のスパイ癖が、むずむずと掻き立てられます(笑)。

先生がおっしゃるようなディスプレイとの相互作用は、気が充実してくると、十分にあり得ると思いますね。

僕の知人は、その前を歩くだけで、自宅のテレビやラジオの電源が、勝手に入ったり切れたりするらしいです。首都圏にお住まいなのですが、たまに、鉄道の改札を通る時、困ることがあるそうですね。というのは、切符を握り締めたりしていると、どうやらその切符の磁気が影響を受けて、自動改札機が誤作動を起こすとか。それはそれで、なかなか大変らしいですけどね。

また先生から頂いたテキストにも、むやみに人差し指を人に向けるな、とありましたね。僕も、友達と話をしている時に、無意識に指を向けると、ものすごい衝撃が体を襲った、と言われて怒られたことがあります。二人とも女性でしたけど。女性はやはり敏感ですね(笑)。

それでは、またご報告をお待ちしております(笑)。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今年の冬は、皆さんいかがお過ごしだったでしょうか？

冬が来る前は、我が家の者は全員、タカをくくっていました。去年も大して降らなかったし、ましてや世界中で、地球温暖化の影響が声高に議論されている。今年も心配するほどのことはあるまい。

そのような楽観的な見通しが通用したのは、去年の暮れまででした。

年が明けると、いきなりの大雪。私は、高校の同窓会に参加するために汽車で(汽車です。ホントに汽車(笑))倉吉駅へ赴くだけでも、一苦労でした。

しかしそれも、単なる序の口でした。

結局2月に入ったら、雪降りまくり。家から一步も出ることが出来ない状態が、数日続きました。祖母は、昨年よりも積雪量が多い、と言っていました、確かにそうかも知れない。

でも、それも今週の頭までで、今では柔らかな日差しに溢れています。

そんなわけで、この数日の雪の状況を、記念に撮影してみました。

以前うちに遊びに来たスペインの女の子が、うちの周りの様子を見て、スコットランドの風景にそっくりだ、と言っていました、こうして改めて見ると、確かに似ているのかも知れませんね。

因みに、インドネシアの女の子にも送ってあげたら、大喜びでした。インドネシアではなおのことか。

今回は、もう一つの一指禅功と站椿功に関して、思うところを少しだけ、述べさせていただきます。

この流派に関して僕が持っている文献は、『内勁一指禅』(王瑞亭著、ベースボール・マガジン社、1995年)と、『初級気功術』(藍天著、同社、1991年)の二冊で、この中でも、馬歩站椿功を用いた入門功の解説が、行われていました。

因みに、ご指摘のあった天地一道氏という方は、それらの著作の中にも出てこない、初めて名前を伺う方ですね。

それから逆に考えると、この内勁一指禅は、日本に初めて紹介された時より、かなり枝分かれしているのではないか、という印象を持ちます。

もしよろしかったら、先の二著もお手にとって比較検討してみられるのも、一興かと存じます。

興味を持ったので、赤陽先生に昔頂いたプリントを探してみると、内勁一指禅に触れた文章が、出てきました。

それには、こうありました。

「中国で、『一指禅』の名で広く知られている気功には、源流の異なった三つの流派がある。その一つは、海灯法師(中国の高名な気功師厳新の師)の内勁一指禅であり、硬気功の一種でもある。

そして次に、南少林寺が発源地として、のちに上海を中心に広げられた南少林寺一指禅である(中国の少林寺は、大別して北少林寺と南少林寺という二大流派がある。北は河南省嵩山少林寺を代表として、これに対し南は福建省泉州の少林寺を代表しているといわれている)。

上の二つの訓練体系と技術風格とは異なり、劉先生が受け継いでいる一指禅は、北少林寺の一指禅である。

これは、達磨大師が嵩山少林寺で授けたものと伝えられている。」

でも、いろいろ文献を当たってみると、内勁一指禅は達磨大師によって北少林寺で創設された、とあるものもありますから、こうなるともう、何が何だかわかんないですね(笑)。

ここら辺のことは、今度の中国行きで赤陽先生に会いますので、ちょっと尋ねてみようかな、と思っています。いつもは質問しない僕にしては、珍しく(笑)。

馬歩站椿功は、悪くないですね。実際、先生のお宅でお教えした太極椿(あの時には、膝は軽く緩める程度、とご指導したことと思いますが)を、腰をさらに落とせば、馬歩站椿功になります。

あの時は初めてのご指導でしたので、まずはリラックスを念頭において頂くべく、そのことには(少しだけお見せした程度にして)深くは触れませんでした。先生の場合は『築基』は十分だと思われますので、それをお試しになってもよろしいか、と思います。

ただ、足腰にあまり負担をかけないようにご注意ください。以前お話したカンフー青年が腰を痛めたのは、これを厳寒の中延々とやらされたことによります(笑)。結構きつい、と思われるのであれば、気感をキープしたまま、足腰に負担をかけない程度に腰を上げられるのも、よろしいかと思います。

こうなると、太極椿になりますね。

この站椿功は、かなり幅広く用いられているようですね。今の中国で最強の拳法と言われる意拳も、これをメインに練習をするようです。また、この意拳の站椿功を、医療用に用いている機関も、中国には多いみたいですね。

もう一つ因みに、お話のあった文献の中で触れられていたという空手の猛者が長年意味も分からずにやっていた中腰の姿勢、というのは、"三戦(サンチン)"だと思われます。今では古流空手にしか残ってはいないようですが、実際にお試し頂くと、これもなかなかいい感じですよ(笑)。

というわけで、また面白い変化があったら教えて下さいね。僕も今日から、若干腰を落とし気味にして、練功してみます(笑)。

それではまた！



JUGEMテーマ：心、体、そして魂。

ある精神科の先生との対話(13)～謎の気功法『一指禅功』、その伝承と習得に関する問題

いやはや、先生の探究心には、心底感服致します(笑)。

早速ではございますが、一指禅功に関しましてお尋ねの件です。「一指禅功では、何故『一指』というのか？」についてですが、それに対する僕の答えはこうです。

「施術において、人差し指を使うから」。

・・・単純過ぎますでしょうか？(笑)。でも、これは出し渋っているわけではなく、現在の僕では、これがお答えできる最大限のことなのです。

これには、二つの原因が考えられると思います。

まず一つは、一指禅功の伝承に関する問題。

前回お会いしたときにも申し上げました通り、現在の一指禅功の唯一の正統後継者は、劉永言先生ただ一人です。彼は先代の、「ケンゼン法師」という方から、菩提達磨以降嵩山少林寺において、約1500年間、たった一人の正式な僧侶にしか伝承を許されなかった一指禅功の、全ての法脈を受け継がれました。1940年代のことと聞いております。

在家の修行者でこの技法が伝えられたのは、劉先生が初めてです。

その後劉先生は、1960年代、この技術を隠し続けるのは、今の時代にそぐわない、と判断されて、初めて一般に公開されました。つまり、在家信者に伝承されたのも、そして一般に公開されたのも、劉先生の代が初めて、ということになります。

そして、赤陽先生が劉先生とお会いになったのが、1990年代と聞いております。

赤陽先生はそれまで、無為気功養生会では、全く違う功法を教えておられたようですが、これ以降、一指禅功のみに切り替えられた、ということです(因みに、僕が赤陽先生の所に入門したのは、その後のことなので、それ以前において赤陽先生が、どのような功法を教えておられたのかは、全く知りません)。

ところが、以前お話ししましたように、一指禪功には、正に、「ライトサイド」と「ダークサイド」があり、後者の方に関しては、劉先生は、まだ誰にも教えていらっしやらない、ということです。

その理由は、「それに見合った人材がないから」、ということみたいです。

そして、その両者が揃わなければ、一指禪功は、完全な技術として、完成しない、ということです。

また、「ライトサイド」の方に関しても、全く公開されていない部分があるようですね。その一つが、「内丹」に関する理論です。例えば、男性と女性とでは、全く功法が違うそうですね。それに関しては、赤陽先生達は、当然、かなりの程度ご存知だということですが、それでも、赤陽先生は女性の功法は知らず、同じく劉先生の教えを受けていらっしやる赤陽先生のお姉さんである翠々先生は、男性の功法は知らない、ということみたいです。

ましてや、赤陽先生に習っている僕達をや、ということになります。

つまり、赤陽先生にしても、ご自身が一指禪功の正統後継者というわけではないので、どの程度まで自分の学んだことを生徒に教えてよいのか、よくわからない、というのが、無為気功養生会での、一指禪功を取り巻く状況のようですね。

そのような関係上、もし先生が僕に、先のようなご質問をなさったとしても、僕としてはそのようにお答えするより他は、現状としてはできないわけです。

もし僕が、そう答えたとしても、赤陽先生は、「それは違う。あんたは何もわかっていない」とおっしゃるかも知れませんね。でもそれは当然の結果だと思います。赤陽先生自身から教えていただいていないわけですから。

この点では、ご紹介頂いたもう一つの流派である、一指禪功に関する組織の方が、しっかりしている可能性がありますね。それは、ビジネスモデルを見ればわかります(笑)。これだけ積極的に展開しようと思うと(例えば、NPO法人化するとかいったことですね)、組織も理論も、かなりかっちりと固める必要があります。多分功法とかも、闕阿水老師が伝えられたものを、そのまま公開していらっしやる可能性がありますね。因みに僕は、こちらの一指禪功に関する著作である、『内勁一指禪』(王瑞亭著、ベースボール・マガジン社、1995年)という本も読んだことがありますので、具体的な功法など、その内容に関しては、だいたい想像がつきます。

しかしながら、逆に、我々の一指禪功に関しては、静功のごくごく一部だけが、辛うじて公開

されているだけに過ぎない、といっても過言ではない、と思います。

そんな状況ですので、これを更に一般に向けて広めていこう、などというのは、いささか無理があるのかも知れませんね。

更に言えば、劉先生や赤陽先生方ご自身が、そのような意図を全く持っていらっしゃらないのかも、と推測することも、可能かもしれません。

そういった意味では、『一指禅功』という名前は同じなのですが、こちらの方は、全く謎の功法なのです(余談ですが、前回赤陽先生に伺ったところでは、『一指禅功』と呼ばれるものには、この二つの他に、もう二つ存在するようですね。その一つは、指圧療法の一流派であり、もう一つは、嵩山少林寺に伝わる『少林七十二芸』と呼ばれる体系の一つです。これが、いわゆる、「気を集中させた状態で指をろうそくの炎に向けて突き出し、その火を消す」という練功のやり方を取るものです。因みに、その実効性のほどは、はなはだ疑問である、というのが、赤陽先生の見解のようですね。僕はそうは思わないのですけれど(笑))。

そして、もう一つの原因というのは、僕自身の問題です。

つまり、一指禅功自身がそのような状況だとして、僕自身がそれをさらに追求しよう、という意志を持っているのかどうか、ということです。

率直に申し上げると、僕は、一つの流派に耽溺する、というタイプの人間ではないのです。ですから、不遜に聞こえるかも知れませんが、実のところ、一指禅功の歴史がどうだとか、その隠された功法がどうだとかいったことには、あまり興味が持てないのですね。

実は、無為気功養生会で懇意にさせて頂いている何人かの方々には、「中原さん、思い切ってフィリピンへ渡って、劉先生に直接教えを請うたらいいんじゃないですか？」と、よく言われたりもします。

僕の実力がどの程度なのかは、僕自身はわからないので、そのような言葉を言って頂けるということは、本当に恐れ多いことだと思ってはいるのですが、どうしてもそういう気にはなれないのです。

その一つの原因は、僕は中国語が話せないので、劉先生がおっしゃることを、どの程度理解できるのか、に関しては、とても心許ない、ということにもありますが、もう一つの理由は、先に

も申しあげました通り、そのように、自分が、一つの流派のプロフェッショナルとなるべく努力する、といった類のことに、どうしても興味が持てない、ということにもあります。

それは何故かと言えば、以前にも申しあげましたが、僕はどちらかといえば、様々な分野の様々な技法について、様々な角度から研究する、というスタンスの方が、趣味に合っているような気がするからです。

そうは言っても、今の僕は、赤陽先生から教えて頂いた通りの一指禅功しかしていませんし、更に言えば、僕の今やっている功法は、一指禅功そのまま、ということは(先の理由からも)断言できないのですが、それでも、一指禅功というものの本質に関しては、当たらずとも遠からず、なのではないかな、という気はしています。

この辺りの説明は、全く矛盾しているようにお感じになるかも知れませんが、この違いは、最初から一つの功法しかしていない人と、たくさんの功法を知った上で、結果として一つの功法を選んだ人との違い、と言うと、おわかりになりやすいかも知れません。

つまり僕は、無為気功養生会に入門する前に、気功やヨガ、引いては日本の肥田式強健術に至るまで、一般的に目に触れることができるようなありとあらゆる功法について、すでにある程度、研究し尽くしていたのです。内勁一指禅も、もちろんその内の一つです。しかしながら、書物をいくら研究してみたところで、自分の理解が正しいのか正しくないのかが、どうしても判断することはできません。そこで意を決して、実際に師匠に付くことにした、というわけです。

そのために、当時は東京に住んでいましたので、その地の利を生かして、都内のありとあらゆる教室をリサーチしました。30件以上はチェックしたんじゃないか、と思います。

そして最終的に出会ったのが、赤陽先生でした。

しかしながら、初めてお会いしたその時、赤陽先生に、「あんたが他のところで何十年何百年修行していようが、ここに入ったら全くの初心者なので、以後そう思いなさい。あんたには向こう3ヶ月間、一切質問させない」といきなり言われたということは、お話したとおりです。素直に考えれば、完全に見抜かれていた、ということでしょうね(因みに、そのちょうど3ヵ月後、最初に口を切ったのは、先生の方でした。「あんたは全身の経絡が異常に安定しているが、一体家で何をやっている?」と訊かれたのです。その時練習のメインに据えていたのは、残念ながら一指禅功ではなく、肥田式強健術でした(笑))。

そしてその夜、教えてもらったばかりの坐功を復習している時に、眉間・胸板・腹部に、異常な熱を感じ始めました。全てはこの時に始まったのです。

しかし、そのような赤陽先生との出会いがあった後も、僕は、様々な教室のリサーチを続けました。幸運にもこの夜、一指禅功という功法には、ものすごい可能性が秘められている、ということを、文字通り体感することはできたのですが、これをさらに検証する必要があると感じたからです。体感ベースでの検証は自宅でもできますが、それを外からも検証する必要がありますからね。僕は疑り深いのです(笑)。そして僕は、相変わらず「道場破り」を続けていました。

それをやはり、無為気功養生会とは全く関係のないところで、見抜かれたこともあります。それは、日本でも有名なヨガのインストラクターである、成瀬雅春先生の教室に、忍び込んだ時のことです。

もちろん僕は、自分が気功の練習をしている、ということは、全く話していませんでした。

数時間あまりのセッションの最後、成瀬先生は参加者に、何かご質問はありますか、と尋ねられました。皆さん何も質問されません。僕も黙っていました。すると彼は、突然僕を指差して、こう言われたのです。「あなた、あるんじゃないですか？」僕は文字通り、ギクリとしました。

しかし、そうおっしゃって頂いている以上、質問しないわけにはいきません。僕は、「ええっと、実は、瞑想の最中に脳天に、突き上げられるような強い衝撃を受けるんですけど、これは何でしょうか？」と質問しました。

彼はその質問には直接答えず、すかさず、「あなた、こういうのは初心者ではないですね？他に何か、やってらっしゃるんじゃないですか？」と、逆に尋ねられました。

もう隠しているわけにはいきません。僕は、とあるところで気功の練習をしている、と答えると、彼は、「今の質問は、あなたの先生にしてください。ヨガの見地から、あなたが感じていたものは説明できますけれど、あれこれ教えを混ぜるのは、あなたのためにならないですからね」と答えられました。

僕は文字通り、脱帽してしまいました。さすが、日本のヨガの第一人者だ、と思いましたね。

成瀬先生の弁を待つまでもなく、東洋の身体技法の習得の過程においては、基本的に、あれこれ手を広げるというのはよくない、と伝統的に言われてきました。

しかしながら僕は、それを、ずっとやってきたわけです。

そのような経緯を経て、僕が一指禅功だけに絞るようになったのは、ある意味、これ以上他の

流派を研究しても、特に大差はないだろう、という思いが、徐々に強くなったから、と言っていると思います。

これはもしかしたら、恋愛みたいなものかも知れませんね。いろいろ遊んでみたけれど、どうも彼女といると落ち着くから、彼女に決めるか、みたいな感じでしょうか(笑)。

しかし、クライアントの皆さんが僕の実力を買って下さっているのだとしたら、それは、そのような今までの僕のプレイボーイ的なスタンス(あくまでも比喻ですよ(笑))に負うところが大きいのかも知れません。だからこそ、気功に関して、多角的な視点から考えたり、発言したりができるからなのかも知れません。

僕の考える気功の練習の重要なポイントとは、その具体的な功法の中身なのではなく、そのようなフラットな視点、とっていいかも知れません。

そして、穿った言い方を許して頂くとすれば、その辺は、劉先生も、僕の中にうすうす感じていらっしやったのではないかと、いう気もするのです。

6年ほど前、初めて劉先生にお会いした時のことです。その時の養生の旅の参加者は、わずか10人程度の、実にこじんまりとしたものでした。ですから割と、先生と接触する機会が多かったのですが、劉先生は一緒にいる間、僕に、気功に関する質問は、一切されませんでした。話しかけられるのはいつも、「どのような音楽をするのか?」とか、「どのような場所で演奏したりするのか?」みたいな、音楽に関することばかりでした。杭州のとあるカラオケ店で、突然、「わたしは今、音楽家の歌が聴きたいぞ!」とか言い出して、面食らった僕はわけもわからず、ビートルズの"Can't Buy Me Love"を歌ったりなんかしましたが(笑)。

もっとも僕自身も、恐れ多い方だ、という認識があったので、こちらからは全く先生の方には、話しかけたりはしませんでした。

そして、その時の目的地であった黄山から下山して、最後のお別れパーティを、とあるレストランでやりました。僕は、劉先生とは別のテーブルで食事をしていたのですが、突然、向こう側の劉先生と同じテーブルにいた赤陽先生が、僕を呼びました。僕は、一体何だろう、と思ってそばへ行くと、赤陽先生は、「劉先生が、是非あなたと乾杯したい、と言っている」と言います。僕は、あっけにとられました。そばでは劉先生が、にこにこしています。光栄にも僕は、先生と乾杯させて頂くことができました。

この瞬間の光景は、今も脳裏に焼き付いています。

そして帰国後、僕は、横浜教室には、ぱったりと行かなくなったのです(笑)。

先にも触れましたが、東洋の身体技法を学ぶに当たっては、あれこれ手を出さずに一つに絞りなさい、でないと危険だから、とよく言われます。

しかし僕は、これはあくまで原則論だと思います。

具体的に言えば、全くの初心者の場合には、この戒めは、有効だと思います。なぜならば初心者の場合は、あれこれ手を出してはみたけれど、結局何も身に付かなかった、という状況に、容易に陥ってしまう危険性があるからです。

しかしながら、インセンティブの強い人に、この言葉を杓子定規に当てはめようとするのは、ある意味、その人の可能性を封殺してしまうことにつながりはしないだろうか、というのが、僕の考えなのです。

例えて言えば、例のスター・ウォーズのアナキンがそうですね。師であるオビ=ワンや他のジェダイ達に、あれをするな、これをするな、これはジェダイの掟だ、と頭ごなしに言われ続けることで、かえって彼は、フラストレーションを抱えてしまったわけですね。結果として、惑星ムスタファの火炎の中で、ダークサイドへと堕ちたアナキンと刃を交えることになったオビ=ワンは、「私はお前の導き方を誤った！」と叫ぶことになります。

ここには、教育だとか指導に関する、普遍的な問題が、提起されているように思いますね。

ですから、もし先生が内勁一指禅に興味をお持ちで、ちょっと通信教育でも受けてみようかな、とおっしゃるのであれば、そうされてみるのは結構なことだ、と思います。僕もやってきたことですからね。もし先生が東京にお住まいでしたら、僕と同じように、玉石混交たる複数の教室に「道場破り」なさることをお勧めするところですが(笑)。

そうやっていろいろなものに挑戦なさって、使えるものと使えないものとを、ご自分で取捨選択なさるのも、十分に意義のあることではないか、と思います。

ただし、その中で注意すべきことは、もしある技法をお試しになることで何か問題が起こるようであれば、その技法から少し身を離す、といった工夫をなさる方が、ベターかも知れませんね。ちょうど武息の実験でご経験なさったように。

初心者の方があれこれ混ぜることの危険性は、十分な知識がないために、このさじ加減ができない、というところにも、あるような気がします。

もう一つのポイントは、リラックスです。意念をたくさん使う功法の問題は、正にそのために、心身のリラックスが妨げられる、というところにある、と思われます。

シンプルな練習が効果的、というのは、気功に限らず、どの分野でも言えることではないのかな、と思いますね。

最後に、このような事情を踏まえた上で、一つだけお断りしておきたいことがございます。

と申しますのは、他でもありません。僕がこのような経過を辿ってきている関係上、現在僕自身がやっている点穴療法なり、一指禅功が、果たして「正統な」ものであるかどうかは、はなはだ心許ない、ということ、を、白状せざるを得ないのです。

ですから、これらの「正統な」歴史、技法に関して、僕自身が先生に混乱を与えかねないような言い方をしているのだとすれば、その点は、平にご容赦下さい。

それは、単に概念的なことだけではなく、現実的にもそうなのですね。

その端的な例が、先だっの先生のお宅でのセッションの最中に、ご自身でご覧になった光景です。あのようなヴィヴィッドな現象を、横浜の教室その他で見た経験は、僕には一度もないのです。お教えしている僕自身がビビってしまったのは、正にそのためです(笑)。

横浜教室で僕が学んだ点穴療法や一指禅功が、他の人が学んだものと全く同じなのだとすれば、あのようなことができる人が複数いても、全くおかしくないはずです。全く同じ技法なのですからね。しかし不思議なことに、僕は見たことがありません。

ですから今後、僕が点穴療法なり一指禅功なりについて語るとすれば、それは残念ながら、僕自身の経験を通した点穴療法なり一指禅功、ということになりますので、その辺りをご理解賜りますれば、幸いに存じます。

もし「正統な」それらの技法についてお知りになりたい、ということでしたら、やはり現状においては、赤虹先生か、赤陽先生に直接就かれる他ない、と思いますので、どうかお気軽に、そちらにお問い合わせ頂ければ、と存じます。

しかしながら、その点をご理解頂いた上で、今後もお付き合い頂けるとすれば、とても嬉しく存じます。

そういった意味では、僕はやはり、演奏家ではなく、作曲家なのでしょうね。やはり、既成の曲をただ演奏するだけ、というよりも、オリジナルなものを作りたい、という欲望が、無意識的に強いのかも知れませんね。

そして、それを遂行するために必要なのは、やはり情報です。勉強をする目的は、それ以外にありません。だからあれこれつまみ喰いするわけです(笑)。

そんな状況ですから、僕の中には、道教・仙道・気功・陰陽道・修験道・チベット密教・風水、果てはラカンやエリクソン(笑)などが、完全にアマルガム状態になっています。そのような「正統な」というより、「特殊な」人間だ、という風にご理解頂ければ、むしろそちらの方が有難いかも知れませんね(笑)。

でも、劉先生が常々おっしゃる、「気功とは功夫＝工夫である」というのは、そういう意味ではないかと、僕は思っているのですけれどもね。

というわけで、内勁一指禅の中にも面白いネタがあったら、また教えて下さい(笑)。

それではまた！



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

Brian Eno/Ambient 1 - Music For Airports



[Ambient 1: Music for Airports](#)

Brian Eno

今回から、私がお勧めするアンビエント・ミュージックの数々を、折に触れて、ご紹介していきたい、と思います。

これらの音楽は、私も日常的に聴いていて、とてもリラックスさせてくれます。練功中のBGMとしても、もってこいです(笑)。

私のご紹介するこれらの音楽が、皆さんの日常に彩を添えることが出来れば、ご紹介した私としても、とても嬉しく思います。

では、まず第一弾はこちら。Brian Enoの"Ambient 1/Music For Airports"。

ロック界の異才ブライアン・イーノが、現代音楽作曲家であるジョン・ケージの影響の下提唱した、"アンビエント・ミュージック＝環境音楽"の、記念すべき第一弾。

"アンビエント"という言葉が最初に用い始めたのも、実はイーノではなく、ケージだったようです。

今やアンビエントといえば、テクノのジャンルとして認識されていますが、むしろこの作品の方が、言葉の正しい意味で「テクノ」的だと思います。

と申しますのは、いかに人間の手を介入させない機械的なプロセスで、美しい音楽を作り出すか、というコンセプトの元、制作された作品だからです。

この発想は、同じ現代音楽のスティーヴ・ライヒからの影響でもあるのですが、それを立証するかのように、この作品では、全面的に、テープ・ループが用いられています。

一時期人工的なテープ作品ばかり作っていたライヒは、ある時突然それを止めてしまうのですが、その時、イーノは、「これはラッキーだ。この手法はそのままだけ」と思ったそうです(笑)。そしてその発想を、ケージの"アンビエント"という新しいコンセプトと、融合させたの

です。この辺の着想は、素晴らしいと思います。

従って、ほぼ同じ手法であっても、両者の印象は、全く違います。

ポロンポロンというピアノの音が、テープ・ループによって、何度も何度も繰り返されるのですが、いつしかその音は、ふわりふわりと、周囲の環境へと、溶け込んでいきます。

この作品と出会ったのは十数年前ですが、何度聴いても全然飽きませんね。飽きるような聴き方を、リスナーに求めない作品だからでしょうね(笑)。

正に、"キング・オブ・アンビエント"とでもいうべき、とても美しい作品です。

[Brian Eno](#)



いやはや、面白いですね。先生の好奇心と探究心には、心底敬服致します(笑)。

もしかしたら先生は、考古学ファンですか？僕自身のルーツの一つも、実はそこにあります。

僕が最初ハマったのは、ムー大陸ですね。きっかけはアトランティス大陸を題材にした外国のテレビドラマだったのですが(笑)。小学生の頃ですね。周りの子供達が、ウルトラマンとか、仮面ライダーごっこに興じている中で、僕は一人図書館にこもって、古代遺跡のことをいろいろと調べていました。田舎の小さな小学校の図書館のくせして、なぜか『消えた大陸の謎』という、いかにもおあつらえ向きの本なんかがあったりなんかして(笑)。

しかも、毎週木曜日のホームルームの時間は、僕の研究発表の時間に当てられていました。その中では、古代史だけではなく、ノストラダムスの大予言とか、すでに空海の密教を取り扱っていました。とんでもないガキだったのですが、それを毎週させていた、当時の先生もすごいなと(笑)。

そこへもってきて宇宙戦艦ヤマト・ブームがやってきたりして、それにも影響を受けました。というわけで僕は、当時から、現実世界とは、全く無縁の生活を送っていたわけです(笑)。

日本人のルーツがヘブライ民族にある、というのは、その当時から聞いていましたね。学研の雑誌『ムー』なんかがよく特集を組んだりしていました(一時期かなり叩かれましたが、あの雑誌に影響を受けたという方は、結構多いのではないのでしょうかね)。僕はどちらかといえばそういった民族学的な研究よりも、古代遺跡そのものにハマっていたので、残念ながらそんなに深入りはしませんでしたけれど。

ですから先生のお口からそのようなお話を伺って、とても懐かしく感じましたね。今となってはその手の話をされる方を、周りで見つけることは、極めて難しいですからね。そこら辺は、先生のご経験からも、納得して頂けるものと、確信致しております(笑)。

長じてからは、音楽や気功に興味に向いたので、そのような古代史研究からは少し離れていたのですが、ある時書店で、『<出雲>という思想』(原武史著、講談社学術文庫、2001年)という本を見つけ、再びそのようなトピックスに、興味を抱くことになりました。

因みに、この本を見つけたのは、全くの偶然でした。しかも、惹かれたのは"近代日本の抹殺された神々"という副題の方でしたし。ほら、何となく、パンクな香りがするじゃないですか(笑)。

そして実際に読んでみた結果、僕が今住んでいる山陰地方に、以前とは違った印象を持つようになりましたね(余談ですが、うちの近くを「加勢蛇川」という川が流れていて、これは文字通り、"加勢した蛇"という意味なのですが、では何に加勢したかという、これが例の"ヤマタノオロチ"です。ということは、古代出雲文化の影響が、少なくともこの地域にまで及んでいたことが、推測されます)。

実際この辺りに住んでいる人間は、タトゥイーンよろしく、ギャンブルと酒にしか興味がないような方達が多いのですが(笑)、やはりそのような方達から一人離れて、大山の中に入ったりすると、そのような殺伐としたのとは全く異なった、何というか、精霊と共にいる、みたいな不思議な印象を、抱くことが出来るんですね。それに実は、大山の中には、観光客が全く来ない僕だけのとおき場所があって、そこからは、出雲に連なる山々がよく見えます。正に、"八雲立つ〜"といった風景を見ることが出来るんですね。そこへ行くと、本当に何とも言えない幸福感に包まれます。

実はこれは、不思議なことに、自分の音楽にも関係してくるんです。というのは作曲の過程で、これはいい感じに仕上がるかも、と思った時は、目の前に、その風景が広がるんですね。逆に、それが広がらないと、あまりいい感じに仕上がりにません。ですから、その僕の心に広がる風景を壊さないように、手を加えるのも最小限度にして、慎重に作業を進めていきます。これが僕の、作曲のプロセスなんです。

そういった感じで、僕は僕なりに、出雲や山陰地方との関わりを感じていたものですから、F先生の口から"出雲大社"の名前が出た時には、心底ぞっとしましたね。

今度お会いする時は、そこら辺の古代史に関するお話もできたらいいですね。

それに、先だつての高良大社奥の院の件もあったりして、どうも九州という場所は、高天原とか邪馬台国とかそういった古代史的な視点だけではなく、地質学的な(あるいは神道的な(笑))エネルギーという視点から見ても、非常にユニークな場所のような気がしますので、そこら辺も次回は、じっくり探してみたいですね。

さて練功に関してですが、何を隠そう僕の方も、全く変化してしまいました。どうも、感じる方も、放出する方も、以前とは格段に質、量共に強力になったような気がします。皆さんから受けちゃったみたいですね(笑)。

実を申し上げれば、僕は今まで、グループ練功というのが、苦手だったのです。横浜教室でも

、全然馴染めませんでした。そこでは、自分や周りの空間の質的变化が自覚しにくい、というのが、その大きな要因の一つだったのですが、もう一つは、必ずヘンな人が紛れ込むからでして(笑)。僕がご指導させて頂く時は、完全個人指導をうたっているのは、そのためなのですね。警戒しているのは、僕の方なのです(笑)。

ところが先生のおうちでは、そのような僕の警戒感を完全に払拭するに余りあるほどの現象が、多発しましたね。おまけに、どうやら僕達全員が、その影響を受けてしまっているようです。

今までの印象とは打って変わって、グループ練功の効果は、これほどまでにあるものなのか、と思いましたね。

ただそうだとすれば、やはり参加する人は、十分過ぎるほど吟味する必要があるな、というのも、同時に感じました。余計に集団練功に対しては、ナーバスになったりして(笑)。

やはりインセンティブの高い人が集まると、一人でやるよりは、格段に、効果のある練功ができるようですね。僕としても、とても良い勉強になりました。

その練功に関して補足させて頂きますと、先生方の場合は、特にいずこかの場所を意守する、というやり方は、もはや不要のように思われます。

一指禅功の意守する場所は、お教えした通りなのですが、それはあくまで基本形ですからね。レベルが高くなれば、特に意守丹田は必要ない、というのは、師匠も常々、言う通りです。

このことは以前、無常ヨーガ・タントラの練習法について議論している時に若干触れたことでもあるのですが、例えば、日本でも"止・観"という言い方があります。前者は、ヨーガでは"サマタ"(精神集中)、後者は、"ヴィパッサナ"(瞑想)に対応するのですが、実際、"サマタ"というのは、修行の導入部に当たるのです。初心者の修行者の場合は、心が動きがちですので、それを防止させるために、何かに意識を集中させるのですね。

でもそれが出来る人であれば、いきなり後者に入っても、全く問題無いのです。

先生のケースで申し上げますと、お会いした時に先生は、周天功の時、気が鼻先と人中で停滞する、とおっしゃっていましたが、それはそんなにお気になされることはないと思います。確かに小周天では、そのルートを重視する、というのは事実ですが、ではそれが上手いかなければ行自体が進まないのか、というと、そうでもないのです。先生は既に全身から、かなり強い気を

発しておられるように感じましたからね。多分その人中での停滞感は、ご指摘の通り、ご自身の歯のトラブルによるものと考えられますので、特にこだわられる必要はないように思います。

ですから一つのアイディアとしては、申し上げました通り、"周囲の空間そのものを感じる"というやり方も、効果的なように思います。ヨーダではありませんが、"Feel the Force around you"というわけです。最近の僕のヘヴィー・ローテーションはそれなのですが、結構いい感じですよ(笑)。

また、F先生に関してですが、彼女は先天的にかなりの気功のレベルに達しておられるようにお見受けいたしますので、彼女の場合重要なのは、体よりもむしろ、心のトレーニングだと思います。それに関しても先日触れた通りなのですが、要は、心の柔軟性ですね。心のバルブを、開けるべき時は開ける、占めるべき時は閉める、といった意識的なフレキシビリティが、重要になります。それに対しては、物事は常に変化して、実体というものは存在しない、ということに思いを馳せる、というトレーニングが有効だと思います。正に、「諸行無常」、「色即是空」ですね。

このように、こういった仏教の言葉というものは、単なる宗教上のものではなくて、身体技法と密接に関連しているのです。普通の人と違って彼女の場合は、高速道路を猛スピードで突っ走っているような状況ですので、僅かなハンドル・ミスが、大きな事故を誘発する恐れがありますからね。

いずれの場合にも、ポイントはリラックスです。身体共に、いかなる状況においても、リラックスの状態を保持する必要があります。でも大丈夫、お二人なら上手くお出来になりますよ。

それでは、May the Force be with us all (笑)。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

明けましておめでとうございます。

昨年は、4月14日の”Landscape of A Spring”、11月17日の”Wind, Stone, Rain～Imaginary Landscape No. 3”と、いずれも成功裡に開催することが出来ました。

これもひとえに、皆様方の温かいご声援の賜物と、心より感謝致しております。

本年も、東洋医学と音楽の分野で、今まで以上に精力的な活動を行おうと考えておりますので、今後とも、宜しくお願い申し上げます。

今年も皆様にとって、良い年でありますように...

平成二十年 元旦

中原勇一 拝



親父の腫瘍闘病記～犯人はどこにいるのだ？

親父は数年来、喘息持ちであった。

原因は明らかである。親父は絵を描くので、アトリエで長時間、溶剤を吸引することになる。それが長期間に渡れば、呼吸器系に何らかの異常が生じるのは、自明の理である。

だが強情な(鳥取の方言ではこれを、ジャーシキな、と表現する。語源不明)親父が、少しは加減をしろ、などという家族の忠告に耳を傾ける、などということは、あり得なかった。

発作が始まれば、最低でも一時間は、茶の間で転げ回ることになる。

以前の私はどうすることも出来なかったので、それを見守るしか方法が無かったのだが、点穴療法を習得してからは、自分なりに、何とか策を講じることが出来た。

しかし、発作が点穴療法で止まったとしても、親父はその効果を全く信用していなかった。「偶然だ」の一言。

私も良い気持ちはしないので、発作の時以外の余分な施術は、ご免こうむっていた。

しかしその程度は、だんだんひどくなるばかりであった。

6月、ついに状況がシャレにならない程度にまで進展してしまったので、逃げ回る親父をお袋とともに捕獲して、Y君の勤務する神戸赤十字病院に連行することにした。もっとも親父の方も、普段私とツルんで温厚そうな表情をしているY君であれば、無茶なことはすまい、と自分なりに踏んだのであろう。捕獲の際は、特に難は無かった。

だが、そのような甘い予測が、プロであるY君に、通じる訳も無かった。

結局、CTスキャン、血液検査等のフルコースの結果判明したのは、胸部リンパ節にある4センチ大の腫瘍。喘息は、これが気管を塞いでいるために起こるものと考えられる。別室に連れて行かれた私は、彼自身の口から、その報告を詳しく聞いた。

その結果を知らずに、お袋と食事しながら談笑する親父を見て、さすがの私も、目頭が熱くなった。

「あまり過激なことはしないで下さいよ」というY君の心配は、今度は私に、通じる訳も無か

った。

帰宅後、私は家族を一室に集めた。そして親父を見据えて、こう告げた。「あんたの胸の中に、腫瘍がある」。

さすがの親父も、青くなった。

そのまま私は、こう続けた。「悪性か良性かは判らないが、それは大した違いではない。このまま入院して放射線治療と抗がん剤治療を受けてボロボロになるのがいいか、息子の手にかかって死ぬのがいいか。二つに一つ、好きな方を選べ」。

どうやら親父は、後者を選んだようだ。

その日の夜から、私は親父に対して、点穴療法の施術を断続的に行うとともに、内功のやり方を指導した。最初は要領がわからず、四苦八苦していたようだ。それもそのはず、私は、今までのクライアントさん以上に、"エグい"やり方を指導した。気功などに全く興味の無い人間が、いきなり、「足元から立ち昇る煙を感じろ」と言われたところで、わかるはずもあるまい。しかし我々には、時間が無いのだ。

ところが、変化はすぐに現れた。

顕著な変化は、発作そのものであった。私は、発作が起こった際には、すぐには薬は飲まず、内功をするように指示した。すると不思議なことに、内功をすると発作が収まる。狐につままれたようだ、とは本人の弁だが、これだけでもかなり救いであったようだ(因みにこのことを、親父の絵を指導している大阪市内の某医師に話したところ、「そんなことは絶対にあり得ない！」と怒り始めたそう。怒ったところで、私が言うのならともかく、当の本人が言うのだからしょうがない)。

それでも単発的に、激しい発作は起こった。夜中3時頃でも叩き起こされる私はたまったものではないが。だがそれも、だんだんと回数が減ってきた。

次第に改善していく症状を目の当たりにしても、やはりお袋にとっては、このような奇っ怪なやり方が本当に効果があるのかどうか、心配であったのだろう。特に、現に物理的に存在している腫瘍は、一体どうなるのだ？

そのお袋の相談を受けた地元の主治医の先生が、ある日、逃げ回る親父を罠にかけて再度捕獲、強制的に血液検査を行った。

その結果、神戸赤十字病院で検査した際は6であった腫瘍マーカー値は、3に低下していた。以前の検査結果を見た先生は、そんな馬鹿な、と思ったそう(もっともY君によれば、腫瘍マーカー検査では、検査を行う機関ごとの誤差は避けられないそうではあるが。そうではあっても、まあ容態は安定しているようですね、というのが、この話を聞いた彼の意見)。

ところが12月に入った途端、また激しい発作が起こるようになった。まるで数ヶ月過去に戻ったかのような様子に、私は当惑してしまった。今までの施術は、全く効果が無かったのか？やはり東洋医学的な手法には、限界があるのだろうか？

だが冷静に観察してみると、不思議なことに発作は、午後5時と午後11時の二回発生し、その期間も程度も、全く同じであることがわかった。いくらバイオリズムなどというものがあるにせよ、そのような時計の針のように正確に発症する都合のいい症状など、あるものだろうか？

突破口は、意外なところから明らかになった。

私が自室で本を読んでいると、親父が帰ってくるのが物音で判った。ふと気付くと、その時咳はしていない。しばらくして私が茶の間へ入ると、今度は七転八倒している。

私は言った。「この部屋に入ると、発作が起こるんじゃないのか？」

本人もそれに、うすうす気付いていたようだ。

もしそうならば、発作は、ハウスダストなどの影響によるアレルギー反応なのかも知れない。では何がアレルゲンなのだ？ほこりか？建築素材か？お袋がつけている化粧水かも知れない、と考えて、お袋を遠ざけてみたが、そうでもないらしい。アレルゲン扱いされたお袋は、ただ単に迷惑なだけであった。

取り敢えずその部屋へ入るのを禁じたところ、その日以来、午後5時の発作は、ピタリと止まった。

だとすれば、もう一つの午後11時の発作は、その時間に入ることになる寝室に、関係がある可能性がある。その原因が判れば、発作は完全に止まるかも知れない。こうなると、ノリは完全に金田一耕助である。一体犯人は誰なのだ？

それは当の本人が気付いた。「ハロゲンヒーターだ」。親父は、冬の時期、ハロゲンヒーターをつけっ放しにして、寝ていたのだ。そりゃあんだ、空気がカラカラに乾燥して、咳くらい出ま

んがな。

かくして、寝室からハロゲンヒーターを撤去したところ、発作は完全に止まった。

もしあの時、私が親父を、Y君の病院ではなく、地元にある某総合病院に連れて行っていたら、どうなっただろう？

彼らは目ざとく腫瘍を見つけ、これが原因だ、と断定するだろう。そして、たとえ肉親であったとしても、「得体の知れない」「いかがわしい」気功家の言うことなど聞く耳持たず、親父を放射線と抗がん剤漬けにしていたはずである。もしそうであれば、今頃親父は、どうなっていたことだろう？

もしかしたら、このような経過でニッチもサッチもいかない状況に追い込まれてしまったクライアントさんは、案外多いのではないだろうか？そう考えると、ぞっとする。

彼らに、「あの発作の原因は、ハロゲンヒーターでした」と言ったところで、信じてくれる医者が、あの総合病院に、何人いるのであろうか？

仏陀はかつて、「これあるによりてこれあり。これ生ずればこれ生ず。」と語った。これこそが悟りへの道である、と。正にその言葉通り、これあるによりてこれあったのだ。そしてこれを除いたところ、これは止まった。

私は思った。「これが東洋医学というもののなのかも知れないな」。

そして今日も親父は、アトリエにこもって何かをしている。溶剤を吸引するのは、まあ良しとしよう。腫瘍の存在も、今となっては大きな問題ではない。どうやらこの年末年始は、七転八倒する様子を見なくても済みそうである。

いやはや今年は、良い勉強になりました。

<追記>

この騒動を暖かく見守って、かつ西洋医学の見地からの的確なアドバイスを与えてくれた神戸赤十字病院のY君に、心から深謝。お手間をお掛け致しました。

↑よろしければ、是非。

☐

JUGEMテーマ：心、体、そして魂。

M君との対話～必要なのは、素質か、努力か？

<M君>

お元気ですか?覚えておられないかも、ですが、以前お世話になりました、Mです。色々見ていたらこちらに行き当たり、大変懐かしく思い、メール致しました次第です。ただそれだけなのですが(汗)。一つ、忘れていらっしゃるかも?ですが、謝ります。ごめんなさい。当日は宗教に携わっていたせいか、お金や世俗に関することを毛嫌いしていましたが、今思うと、先生に大変失礼な事を言っていた覚えがあります。申し訳ないです。

<中原>

お久しぶりですね。よく覚えていますよ。お元気そうで何よりです。失礼な事とおっしゃってありますが、僕は全然覚えてないです(笑)。ですから、お気になさらないで下さい。僕の方は鳥取へと転居して、順調にやっています。ジプシー生活は相変わらずですが(笑)。そんなわけで、今後共宜しくお願い申し上げます。

<M君>

覚えておられないのは、僕的には幸いです(汗)。先生は地元に戻られたのですね。鳥取、懐かしいです。昔三ヵ月ぐらいですが、住んでいたことがあります。また機会があれば、色々なお話や指導も受けたい、と考えています。ブログも楽しみにしています。頑張ってください。ところで一つ、ご質問があります。前に友人から聞いた話なのですが、大阪城公園で知り合いが、とある武術家と知り合った時の話です。この人は中国拳法の人だったらしいのですが、友人がその人に、遠当て(凌空勁)って催眠術みたいなものでしょ?と言ったら、その人は、いや、本当にあるよ。との事で、やってみせようということになって、友人を数メートル先に立たせて、三体式のような構えから掌打を打つ動作をしたそうです。すると友人の腹に、その人の掌大の何かが、ちょうどその人のやった掌打を腹に直接喰らったらこのぐらいだろう、というくらいの衝撃でヒットしたそうです。その後説明として、電気工学の話がされたそうなのですが、友人はサッパリわからなかった、とのことでした。何がどうなって何に作用するとこうなるのでしょうか?もしよろしければ、ご返答いただけたら幸いです。

<中原>

僕も、それは催眠ではない、と思いますね。むしろ催眠を研究して思ったのですが、そんなことを催眠で行うことの方が難しいのではないかと。〇〇〇呼吸法は論外として(笑)。ですから僕も、電磁気学的な作用の結果だと思いますね。こういうのは侮れないです。何しろ、携帯電話で飛行機の計器が狂うくらいですからね。でもその武術家の方も、そこで気の神秘について語らないのがいいですね。非常に共感します(笑)。Mさんも思い切って、その方に弟子入りなさったらいかがですか?もしかしたら今まで以上の進歩が望めるかも知れないですよ(笑)。

<M君>

武術的に気が使える人は、皆、電気か磁気、電磁波の話をするようです。そういう技の研究として、先生の所とか、気の世界に入ったのです。習いたいのですが、残念ながらこの方の話は、友人がその人と音信不通になった後でした。身近にいる知人がその人の弟子なので、彼に頼んでみたんですが、NOと言われ、その上その先生自体も(何度か顔を合わせたことがあるんです)どうやらあまり僕の事は良く思っていないらしいので、難しいです。そういえば、先生のブログに出ている八極拳の方って、八極拳教えてないのでしょうか？

<中原>

ちょっと判らないですね。僕も必要以上のことは伺わない性質なので。住所も大阪市内ということしか、判らないです。それに、施術を受けられたのも、一度だけでしたしね。しかし、その先生も意地悪ですね。Mさん何かなされたんですか？よく思われていないというのは、邪推ではないのですか？(笑)。もし空勁に興味をお持ちでしたら、□□拳というのがあるみたいですけど、そういうのはいかがですか？一度来られた芦屋市民センターで、やってるみたいですよ。それにそこでは、武術家としても有名なS先生も講義されていましたよ。一度忍び込みましたが(笑)。

<M君>

八極拳の件、成る程、それは残念です。某先生の件は、僕は何もしていないと思うのですが…。邪推かもしれないですが、友人も激しく拒否ってますので、行く訳にもいかないですからね。因みに□□拳は一度、行った事あります。高いですし、空勁のレベルとしては僕の太極拳の先生の方が、多分上だと思います。S先生の所は、何度か考えたのですが、まだ考え中です。通うにも少し遠いので…。空勁ではないのですが、今週末に△△△さんという方の道場を見学させていただく予定です。本物ならば良いのですけれど…。

<中原>

□□拳についてのナマの御意見が聞けたのは、嬉しいです(笑)。まあ○○○でもそうですけれど、マスコミが取り上げているのと、実際とは、かなり乖離があるのかも知れませんね。因みに、□□拳に関しては、知人から聞いたのです。僕も良く知らないのですけれど、テレビでは凄かったそうで(笑)。S先生は、良い感じの方でしたよ。もっとも、実力を推し量るまでのお付き合いはなかったのは残念ですが。しかし僕なら、その太極拳の先生に付きますけどね。とてももったいないような気がするのですけれど。

<M君>

□□拳が決して程度が低い訳ではないです。一度だけですが、本当かはわかりませんが、特別という事で、と一んと押されたらダダダッと止まれなくなる、というのを体験させていただきましたが、確かに吹っ飛びました。ただ、あそこの先生方も言ってますが、足腰等を鍛える為にやるそうで、力入れて耐えたりしない、という約束ごとはあるみたいです。かかるにはかかります

。経験ないと、病み付きになるんでしょうが…。知り合い曰く、道場ジプシーの異名がある僕的には「ああ、面白いなあ」の範囲内だったというだけの話で…。S先生のビデオは昔、見た事があります。系統もしっかりしているようですが、実力は僕もよくわからなかったりします。因みに、太極拳はまた、同じ先生の所に戻って修行し直してたりします。あと、色々顔突っ込んでたりします。もしかすると、以前会った頃よりはレベル上がってるかも知れませんよ。だったら良いなあ...(遠い目)。そんな感じです。

<中原>

なかなか面白い言い回しをされますね。もっとも僕も、そんなジプシーの一人であることは、否認ませんが(笑)。最近はどうも破りみたいなことはしないんですが、相変わらずそのような様々な技法を、様々な分野の人達と比較検討するのには、興味がありますね。ただしチームを組む時は、ちゃんとした専門家を選ぶようにしています。外科医の方とか精神科医の方とか(前者には一度、芦屋市民センターでお会いになっていますよね)。そうしなければ、オカルト系の人が集まってきますんでね。そういう方達はちょっと苦手なので(笑)。ですからMさんも、きちんとした人を選ぶように十分に心がけられるのが、良いと思いますよ。元の太極拳の先生とか。その方が、地に足をつけた練功が出来るような気がしますね。

<M君>

数少ない僕の周りの知人は、あまり性格良くないので、侮蔑の意味が強いとは思いますが…。よく言われるのが、習った経歴(?)挙げたら大概の人はビックリするで、とか(笑)。まあ、その割には何も出来ないのが痛いのですが。オカルト系というと僕もそうですね。少し毛色は違いますが。きちんとした人...というのは、なかなか難しいです。武術系の方はハズレは少なかった...、と思いたいですが。とりあえず絶技には程遠い人間なんで、地道な所を歩いています。

<中原>

Mさんは大丈夫ですよ。僕の言うオカルト系は、もっとエグかったですからね。あなた気功とかする前に、病院行った方がいいんじゃない?みたいな(笑)。そういう方と一緒にされるのがイヤなので、僕はそういう人達を、巧妙(かどうかは判らないのですけれど)にかわしているわけなんです。色々雑多にあさるのは悪くはないと思うんですけどね。比較検討するのは結構なことだと思います。ただ問題があるとすれば、その知識が使いこなせない場合ですね。そうすると結局、フリークで終わってしまう。練習を続けながら、自分はどこへ行こうとしているのか、を常に自問自答するというスタンスが、ここでは重要になってくるかも知れないですね。

<M君>

オカルト系、僕の会った人達はそこまで酷くはないですが、人格に多少難がある方が多かったです。何故かそういう人達は僕の事を低くみますが…。何故でしょう?(苦笑)。武術、既にフリークと化しているかも?です。元々、あまり技術力が無いので…。今、実験的に剛的な武術(上地流と

いのですが)をやっています。ミックスしてダメになったら、後は(今もですが)趣味と割り切って、あまり他に手を出さないでやっていけたらなあ...、とか考えています。

<中原>

低く見るというのは、それが彼らの手なんですよ。ヘタに下手に出ると付け上がって攻撃を加え、相手がしゅんとなるのを見ることで自分のアイデンティティの保持を図るわけです。そんな手に乗っちゃ駄目ですよ。そういう場合には強気にいかなければ(笑)。自分自身の経験から思うのですが、色んな手法に手を出してしまうというのは、ある意味、練習に実感が沸かないからではないでしょうか。そういう場合であれば、あれこれ手を出すのは、確かに得策ではないかも知れませんね。ある程度じっくり腰を落ち着けて取り組んでみて、その結果自分の心身にどのような変化が現れたか、それを掴めば練習は進み易いし、あれこれ迷わなくても良くなるような気がしますね。

<M君>

確かにそうかも知れないですね。特に僕は弱そうに見えますからね。実際、あまり強くないですが(笑)。練習に実感が沸かない、というのは、確かにそうかも知れません。ただ、誤解があるといけないので(言い訳ですが)どこもある程度は続けています。太極拳は前後合わせて三年以上学んでいますし、今は辞めましたが、某古武術は一年以上続けましたし、太気拳は今で半年程続けています。基礎も(多分)一定の基準はクリアーしてたら良いなあ...。ですが、足腰は多分、並以上には強いはずですよ。ですから、一・二回行ったら辞めて...、という訳ではないのはご承知ください。ですが、まあ、確かに一年や二年では基礎しか学べないですから、先生のおっしゃる通りで、少数をじっくりやりこんだ上で他を当たった方が良いのは、正論です。

<中原>

大丈夫ですよ。僕はいわゆる三日坊主というものを指摘しているわけではありませんので(笑)。僕が言うのはそのことではなく、もっと質的なものですね。例えば僕の場合、初めて廖先生のところで坐功を教えてもらった時、明らかに通常とは異なった感覚を覚えたわけです。それ以来、あれは一体何だったのだろう、という素朴な疑問が、僕を突き動かしてきたわけですね。もしあのような経験が無かったら、それこそジプシーになっていたでしょうね。多くを学び過ぎると良くないというのは、そのような自分の感覚が疎かになり易いからだだと思いますね。そういう意味では逆に、長時間学ぶ必要も無いわけです。要は自分の感覚です。あるいは自分は何を目指しているのか。それをベースに進めたら全ては変わる、と思いますよ。

<M君>

太極拳の先生に会った当初は(今もですが)一生の研究課題?として太極拳は満足のいくものだったのですが、この太極拳があまりにも難しすぎて、一本で昔はやっていたのですが、一時期(三年程ですが)、武術を捨てようと何もしていない時期がありました(先生にお会いした頃です)。でも、

またやりたくなり、始めたのですが、一本でやると絶望してしまうので、半分息抜きで、半分は違う視点から見ると何か解決の糸口があるかも?と、他も学んでみてはいるのですが(ですから上地もですが、学んでいるものには共通点や補う部分があります…。たぶん)。あまり、学び過ぎても確かにある種の感覚は鈍るかもしれないですね。ただ、当初、武術に持っていた目的は消失していますので、今は浸透勁とか合気みたいな袖をちょっと引っ張ったら相手の体制崩せるぐらいの技術が身についたら御の字です。感が悪くて出来ませんが…。難しいから鉄砂掌でもやろうか?とか最近は考えてます。本末転倒ですが(笑)。

<中原>

その意味では、僕の場合、練習に関する目的をいまだに持ち続けているというのは、もしかしたら幸いかも知れないですね。目的といっても長期的なものではなく、こうなると自己目的なんですけどね。やることによって更なる疑問が沸いてくるので、それが更に僕を突き動かす、という感じです。でもあれこれやっても大して効果は変わらないように思えるので、最近では、やるのは必要最小限にしています。面倒臭いですし(笑)。でもその都度その都度、自分に必要なものが向こうからやってきますね。この辺の事情はもしかしたら、断食とかにも通じるのかも知れない。あれこれ食べるから、消化不良になるわけです。自分に必要なものを必要なだけ取り入れる、というのは、心身の健康にも良いのかな、という気がしますね。

<M君>

僕の場合の目的は、とても自他共に破壊的なので、個人的に、消失して良かった、と思っています。因みに僕も、大差ないし…、とか思いながら、つい手を出してしまいます。前記の理由もありますが、単に、馬鹿で依存症なんだ、と思います。いや、開き直りでなく。一つ、又は少数で、打ち込める方が絶対良いに決まっているのですが…。わかっちゃいるけどやめられない、ということになってると思います。何の言い訳もできないです。

<中原>

逆に、僕の場合がマズかったりして。単純に面倒臭がりなので、あれこれ手を出した挙句に最終的に一つに収斂していく、というのは、単なる不精で根性無しではないか、と疑心暗鬼になったりとか(笑)。その反対に、周囲には結構右翼っぽい修行オタクもいたりなんかして、そういうのに比べれば、僕なんか全然腰抜けですね(笑)。でもそういうのは、性格かもしれないですね。迷ってイライラするのが嫌なのです。あとスポコン路線とかも苦手だし。元々文科系ですから(笑)。それよりは一つに絞った方が効率的かも、といった感覚ですね。そういう風に気楽に取り組まれたら、依存症かも、なんて自己批判しなくても済むかもしれないですよ(笑)。

<M君>

いえ、たぶん依存症です。というのも、母も父も強くそのような性質がありましたから、たぶん、遺伝的に何かしらに依存する傾向があるのでは?と思うのです。それはそうと、右翼っぽい

修行オタクというのはどのような方なのですか?想像がつかないのですが…。天皇マンセーとか言ってる神道系の方とかですか?

<中原>

いえ、右翼というのはその右翼ではなく(笑)、この場合は、単なる狂信的ストイシズムを持った修行オタクのメタファーです。ある特定の方を念頭においているのですが、もっとも彼女の場合は、親にやらされているだけなので、狂信とは言えないかもしれないですけどね。一家総出で娘を神の使いにしようとするのは、ある意味悲劇的ですね。そういう酔狂なご一家も、世の中には存在するわけです。そうなると思えば、変な意味で神と一体になっちゃうわけですから、そういう人生もどうなのかな、とも思いますけどね。また、そういう隷属性を求める神というのも、僕としてはご遠慮申し上げたかったりして(笑)。

<M君>

ある特定の方を念頭に...とは誰なんですか?しかし、呪いの研究にでてきそうな話ですね。凄いなあ…。何教ですか?△△△とかですか?しかし、何故に娘をそうまでして神憑り?にしたいんでしょうね。僕にはわかりませんが…。色々な方々がいるのですね。でも、何故先生はそんな方を知ってるのですか?僕はそういう方とは(普通の方ともですが)知り合うことがないので、大変不思議です。

<中原>

実際、僕も不思議ですね。仕事場で座敷ワラシが見えて困る、とかね。座敷ワラシ系は二人いましたね。他には、旅館で生首が部屋を走り回って、一睡も出来なかった、とか、葬儀に行ったらテイクアウトしちゃって、お引き取り願うのにずいぶん苦労した、とか(笑)。会う人会う人そんな感じなんです。出会いがある度に、毎回、今度こそはマトモであってほしい、とも思うんですが、ダメみたいです。そういう意味では、出会い系なんか怖くて手が出せないですね。またビンゴだったらどうしよう、みたいな(笑)。でも本人達が主張するそういう現象を詳細に検討してみると、単なる妄想ではないのか、という場合も少なくないんですね。単純に、彼女達(ほとんど女性でした)のイマジネーションが強過ぎるんですね。かといって、そういうのを病理として単純に退けるのではなく、脳が生み出すイメージ・ストーリーミングの可能性、と僕は肯定的に捕らえることで、それが、脳生理学や認識論の研究とかにも繋がっているんですけどね。そういう意味では、彼女達には感謝しなければいけない(笑)。

<M君>

しかし不思議ですね。僕の友人も、危ない、というか、いろんな意味で危険な方とよく親密になるのですが、そういうのは特性?なのかもしれないですね。因みに、少し前になりますが、友人はユダヤの十三賢人だ、と主張する人と出会ってます。イマジネーションとかビジョンは、西洋魔術や日本の密教でも鍛えますね。でも何かで読んだのですが、自然に備わっているのはコン

トロールが効かず、低級だとか。ちょっと成る程、と思いました。

<中原>

彼女達の場合、イメージーションが自力で止められないわけです。脳が暴走する、といったイメージですかね。それと電磁気学を合わせて考えると、霊現象というのは、何らかの電磁場の影響を受けて、それが共感的に、受信者の脳の中で特定の存在(例えば人間とかですね)に画像変換されたものではないか、と考えています。例えば、ある人が、友人達と一緒にいる時に、皆で同時にその場で、何らかの霊的な存在を感じた、と話していたことがあるのですが、さっきの僕の仮説を踏まえて、彼女に、そこにいた全員が全く同じビジョンを見たのか、と聞くと、案の定、全員のビジョンはバラバラだったんです。おじさんだったり、おばさんだったり、子供だったり。それは、情報科学的に解釈できるのではないかと、とも思いますね。丁度、ネットからダウンロードされるのは0と1の電気信号の羅列だけれども、使用するソフトによって、それが画像や音楽に変換される、みたいな。ですから今の僕にとっては霊現象というのは、極めてありきたりな現象のように思えてしまいます(笑)。

<M君>

先生の話聞いて、昔ネットの書き込みで、易の勉強のし過ぎで、風が吹いても何かを見ても、自然と卦に置き換えてしまう、と言っている人がいるのを見た事を思い出しました。パソコンのプログラムは易にインスピレーションを受けて作られたとかと聞いた事がありますし、数学も元は神秘主義?ですし、現象が不思議に感じるだけで、何も不思議はないのかも?ですね。全ては必然という事でしょうか?夢はないですけどね。超リアリズム。悟りの世界ですね。

<中原>

悟りというものは、世間の人や坊さんが考えているほど、高尚なものではない、と僕は思いますね。「悟り=超越」というイメージがあると思いますが、では何を超越するのかと言えば、端的に言って、苦しみとか悲しみといった、ネガティブな自分の感情ですね。ところがそういうものは、考え方一つで、極めて簡単に除去できるわけです。そのためのツールとしては、世界は幻想である、と見る方法もありますが、他にもそのように、徹底的に数学的あるいは物理学的に世界を捕らえる、というやり方もありだと思います。スピノザとか、易と関係が深い量子力学がそうなんですけれど。全ては生成変化する粒子の戯れでしかないわけですね。もちろんそれは、完全に数学的に記述できるわけです。そう考えれば、一切の感情は起こらなくなります。その地点から逆にこの世界を見れば、その見え方は全然違ってしまわないのでしょうか。

<M君>

そういえば昔、妖怪が人を食って不老不死になってもある意味、悟りだ、というような話を見た覚えがあります。それとは逆に、旅の僧侶が同じ旅の僧侶と知り合い、一緒に旅をしていたら、ある川?が濁流で橋が流れて通れないのを、片方の僧侶が神通力?で飛んで渡ったのを見たもう

片方の僧侶が「やや!さては羅漢だったか!ならば懲らしめてやるんだったが...。」と。悟り悟りというよりも、そういう事をした上で正しく見据えて普通の生活が出来る方が余程、高尚なのかもしれないですね。

<中原>

悟りとは、端的に言えば処世術ですね。こういう考え方をすれば、もっと楽に生きることが出来ますよ、という。それは少なくとも、宗教というものとは、全く無縁だと思います。ところが逆に、それを宗教化したいフリークがいて、その方達にとっては悟りとは、徹頭徹尾神秘的なものでなければならないわけです。その秘密を知っているのは私達だけなんです、それを知りたいければ帰依しましょうね、お布施をしましょうね、というわけですね。そういう方達の言葉に惑わされるのは、もう止めにしなければいけない、と思いますね。そういう方達に比べれば、実際に俗世にまみれて仕事をしている方達の方が、よほど仏陀の言う本当の悟りというものに近い、と思いますね。

<M君>

先生の話聞いていて、ふと、今持ってる宗教系の本(といっても数冊しかありませんが)を、今流行りの「そんなの関係ねー!」とサラリと捨てて、武術に専念した方がよいかも?とか思いました(笑)。でも武術...、特に古武道、中国拳法も宗教チックな所がありますから...。私含めてオタク傾向のある者が興味持つような事は、落とし穴が多いですね。空手頑張ってガチの人になりましょうか(しみじみ)。

<中原>

というか、空手の世界には宇城憲治先生という素晴らしい方もいらっしゃるではないですか。最近最も気になる武術家ですね(笑)。彼のように、空手に専念しながらも多方面に関して造詣が深い、というのは、正しく文武両道で、ある意味武術家の理想ではないか、という気がします。それに、Mさんのお話を伺っている限りでは、今の太極拳の先生はそのようなタイプではないか、とお察し致します。ですからそのような恵まれた状況にありながら、あれこれ手をお出しになるというのは、ある意味もったいないかも知れませんよ(笑)。万が一手をお出しになるとしたら、それは、そのような分野とは全く関係ない分野の方が有意義かも知れないですね。宇城先生ではないですけど(笑)。

<M君>

空手の宇城憲治先生はレベルが高いですね。因みに、おっしゃる通りで僕の太極拳の先生も似たようなタイプですが、たぶんレベルはもっと上なのでは?と感じています。実際、習っているのもったいない事はないのですが、まず、どれだけ練習しても、そこまでの道筋が途切れている感じがして、途方にくれます。あれは感性?の問題なので、僕の性質から行くと、多分、あの技術は不得手なのだ、と思います。案外、先生の方がああいう技を身につける素養がある、と思い

ます。

<中原>

うちの師匠ではないですが、禅の奥義は、盗むこと、にあるようです。待っていては、教えて貰えません。盗むより他ないんです。ですから、取り敢えず伺える範囲のことは十分に伺って、その後は自分で工夫する、というのが重要かも知れませんね。更に、その際には、工夫しようとするれば何をどのような方向へ工夫するのか、といったプランが重要になってくると思うのですが、そのために様々な情報について一通りの知識を得ておくというのは、有利だと思いますね。僕の場合、師匠に入門する前にあらかじめ知識は身につけていましたので、割とすんなりと師匠の知識が習得出来たように思います。ですから僕の考えでは、高度な感性というものは、先天的ではなく、十分に習得可能なものだ、と思いますね。

<M君>

確かに、そうかも知れないです。太極拳の先生も、中国で太極拳の練習をしていた時、外国人というのもあるのか、殆ど何か教えてもらった事はない、とのことでした。老師の動きを頭に焼き付けて、後は老師の態度をみて合否?を判断して学んだそうです。僕の場合は写すのは比較的容易にできるのですが、その他が苦手な為に、苦労します。ですから、まあ中級ぐらいの技が出来れば良いかな?と最近は思っています。

<中原>

中くらいでも十分ではないかと(笑)。逆に、物凄いハイレベルの技が出来たとして、だからどうなのだろう、という気が最近はしますね。むしろ、目の前にあるものを使いこなすようにしていく方が、よほど無理がないのではないかと、思います。僕の場合もそうで、8月に中国に行って、久々に劉永言先生の一指禅功の施術を拝見したのですが、むしろ非常に疑問を感じたのですね。例えて言えば、あれは極めて特殊なOSのようなもので、使いこなせるのは今のところ、劉先生ただ一人だけです。これは、"秘伝"と言ってしまえばかっこいいでしょうけれど、当然それは、一般化不可能ですね。それならば僕は、そのような特殊なOSを選ぶよりは、"汎用性"という観点から、Windowsを選びます。誰にでも使いこなせますからね。むしろ今の僕は、そのようなありふれたツールを洗練させていく方に、興味がありますね。ですから秘伝というものは、非常にやっかいな代物だ、と今では思っています(笑)。

<M君>

確かにそうですね。というか、こういうと武術系の人には怒られたり拒絶されるのですが、武術の技なんぞ、今の世の中では無用の長物で、ホントは出来ようが出来まいが関係はないのですが、僕の場合は出来たら楽しいかな?と。完全にただの自己の満足を満たす?為だけなのですが(笑)。夢は大きい方が良いとも言いますし…。あと、秘伝ですが、あれも今では隠す必要もないですし、出来る人間がやらないと出来ない代物だったりします。ただ飯の種にする人間もいます

。出来ないのに。

<中原>

秘伝という言葉は魅力的ですからね。何となく選民思想的な、他人に対して優位に立っているかのような錯覚を与えてしまう。僕も一時期それに憧れたことは否定はしないのですが、今では逆に、その化けの皮を剥ぐ、ということの方に興味がありますね。その意味で僕は、かなり攻撃的だったりして(笑)。道場破りはその一環ですね。凄い、と言われる人の噂を聞くと、どうしてもその真偽をこの目で確かめたくなる。でもそうやって見てきた人に、これは、と思った方はいませんでしたね。悲しいことに。ですから本当の達人は、人目に触れないところにいる、というのは、古今東西変わらないかも知れないですね。そういう方がいらっしゃれば、教えを受けたいな、とは、今でも思います(笑)。

<M君>

確かに達人は少ないですし、出てこないですし、自分が達人の域に達してると思っていなかったり、自分が何かしてる事を隠していたり...と、かなり出会うのは難しいですね。僕もあまりお目にかかった事はないです。今まで見た中だと、達人に近い人は、今の太極拳の先生と、故佐川先生と、仙台の古武道の某先生ぐらいですね。もしご興味ございましたら、太極拳の先生のHPのアドレスをお教えします。といってもHPは、普通な事しか書いていないですが...

<中原>

達人はなかなかいないとは申せ、そのような人を探す努力をしなければ、会うこと自体が出来なくなりますからね。そういった努力は、必要だと思います。ただ以前から議論しておりますように、達人のそばにいるから自分も達人になれる、と考えるのは、完全に誤りですね。一番重要なのは、やはり、学ぶ側の主体性だと思います。禅問答などの有名なものを検討してみると、全てのやりとりが、学ぶ側のそういった主体性を探るためのものであったりしますね。師匠の単なるコピーで満足してしまうような人は、真っ先に、破門の対象になってしまいます。教えというのは、主体性のある人に伝授された時にのみ、その教えを更に洗練させられる可能性が開かれます。それ以外はありません。そういうことなのでしょうね。

<M君>

今は腕のたつ人は高齢な事も多く、亡くなられる事も多いですから、さらに出会うのは困難です。達人の弟子になっても個人の素養がなければダメですし、練習もしなければダメですし、先生との相性なども重要ですね。でも、やはり、凡人ならば異常な鍛練を積むか、元から天才で、人一倍鍛練する人でないとダメでしょうね。因みにこちらです(HPのアドレス)。僕が他に何をやってるとかは、秘密でお願いします。

<中原>

HP拝見致しました。大丈夫ですよ。僕がこちらに出向くことは、遠距離ゆえ、物理的に困難ですから(笑)。なかなか面白そうですね。ただ、Mさんは達人になるのは個人の素養がなければ駄目、とおっしゃいますが、それはどうかな、というのが僕の考えです。というのは、そうやってしまうと、全ては生まれつき決まってしまうていて、そこには人の意思は介在する余地は無い、ということになってしまいますよね。それは、一種の運命論になってしまうのではないかと、思います。むしろ僕は、もしそのような素質というものが存在するとすれば、そのメカニズムは何か、それはどのように他の人にも応用可能か、を考えていく方に興味がありますね。また百歩譲って、もし素質というものが存在するとすれば、僕の見てきた限りでは、素質の無い人というのは、単にコピーで済ませようとする人が多いような気がします。これは素質を判断する上で、かなり大きなファクターではないか、という気がしますね。

<M君>

素養・素質はある、と思います。たぶん、DNAの関係だと思います。医者の家系は医者が多いとかは、そうならざるをえない、というのもあるんでしょうが、医学がすんなり入りやすい頭を生れつき持っているのでは?と思います。何かで聞いた話ですが、英才教育したとしても、やはり、元からの国籍の言葉の方が、頭には入りやすいとか。それから、僕は何も否定はしていません。凡人でも異常な鍛錬を積み重ねればあるいは達人の域にいけるだろう、とは考えています。ただ、素質素養、簡単に言えば向き不向き、といいましょうか、がありますから、現時点では誰もが...とはいきません。職人の世界をイメージしてもらえばわかりやすいと思います。真面目に頑張れば、誰もが一流の職人にはなれます。が、人間国宝や神業と言われる技術は、一握りの人だけです。この辺は、先生の先生を見ておられるから理解いただけると思います。名人には誰もがなれる可能性はありますが、達人(達してしまっただけの人)には、おいそれとなれるものではない、と思います。

<中原>

僕はそうは思いませんね。仮にMさんのおっしゃる医者の例を引き合いに出すとすれば、ではその医者の子供が、何故妹をバラバラにしたり、母親を殺して家に火をつけたりするのでしょうか。ただし、Mさんのおっしゃるのとは全く逆に、凡人はいくら異常な鍛錬を積んだところで、達人には絶対になれません。つまり、素質というものは当然の話として、その中身が、Mさんと僕とでは、全く異なって捕らえられているようですね。つまり僕の場合は、ここではDNAなどという先天的かつ個々人の力ではどうしようもないものを引っ張り出して来はしない、ということです。それは、今の自分の不幸の原因は前世のカルマにある、とする前世療法みたいなものです。そんなことをいくら考えてみたところで、現実を変える力にはなりません(注：前世療法の効果を考えるとすれば、その可能性は、前世などという検証不可能の存在ではなく、その思考プロセスそのものにある、と思われる。それはいわゆるライコフ効果、あるいは人格の分離現象に近いものかも知れない)。

<M君>

バラバラにしたり、の件ですが、そりゃ人間だもの〜としか。入りやすいからといって、ストレス感じない訳でないですし、全体的に人間は弱くなってますからね。また、凡人は異常な鍛錬を積む事で常人の限界を越える事が出来ますから。李書文とかはそういう部類だったのでは?と。まあでも、このまま話続けても不毛ですから、ここで止めにします。よく考えたらこの話題は、意味がないですもんね。失礼しました。

<中原>

意味は無くはありませんよ。こういう展開になるのは、最初の時点で予測していましたよ。というのはMさんは、かつて、久々にメールを頂いてからも、全く同じ問題にとらわれていらっしゃるからです。Mさんはある壁の前にいらっしゃる。ところがその壁は、ご自分が作り出されたものです。それを理解されない限りは、堂々巡りが続く可能性があります。今までの議論は、訓練と一緒に。つまり、自分のやっていることが意味があるのかないのかを、自分で図りかねていらっしゃる、という印象を受けますね。達人になるのには素質がいる、いや、それは努力で克服出来る、いや素質だ…。文字通りのダブル・バインドですね。あれこれ手を出さずに一つに専念した方が良い、というのは、そのような迷いを消すためでもあるのです。僕の言う素質とは、他でもありません。それを遂行するに当たって努力をする覚悟が、本当にあるのかどうか、この一点だけです。それは先天的なものではなく、自分が今やっている練習に徹頭徹尾打ち込むことが出来るかどうか、にかかっています。それを理解されるのには今しばらく時間がかかると思いますが、まだお若いのだし、色々迷われるのは無駄ではない、と思いますよ。

<M君>

なんだか、よくいる預言者みたいですね。いや、僕は口も頭もまわりませんし、あまり衝突するのも好みませんから、まあ、平行線かな?と思うと退くんですが、あまり理解していただいていないようですね。確かに僕自身、高手ではないのですが、おそらく、先生が考えておられるほど下手ではないのですが…。正しく理解していただけないのに厭味のような事言われるのも腹立ちますから、まあ、これで最後ということで。

<中原>

それが、禅というものです。

<M君>

難しいものなのですね。今の僕にはぜんぜんわかりません(笑)。それでは、失礼します。

↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：心、体、そして魂。

なるほど、小周天はマスターなされたようですね。お疲れ様でした(笑)。

そういえば、僕の場合も、そんな感じでしたね。電車の中というのも、一緒です(笑)。

あれは、武蔵野市の音楽療法のセッションに参加するために、中央線に乗っていた時でした。いつもの実験の延長で、首の角度をいろいろと変えてみていた時に、何かモゾモゾする感じのものが、額に集まっているのが、感じられました。

その時軽く顎を引いたら、そいつがストン、と落ちて、お腹の辺りが温くなりました。あ、小周天だな、とその時思ったのを、覚えています。

そのままセッションへ行くと、ドラムのおじさんが、「中原君、今日はえらく顔色がいいね」と言っていました(笑)。

そんな感じで一旦通ってしまうと、特に珍しいものではなくなります。

その後いろいろ改良を重ねた結果、温養だとか何とかいうややこしいプロセスを廃して、簡単に、かつ安全に気を頭頂に上げる方法を自分なりに工夫して、実際に、クライアントさんにもお試しいております。

もちろんそれは、神秘主義的な訓練の一環ではなく、首周りの諸経絡(特に胆経)の通りを良くして、肩凝りやめまい、偏頭痛などの諸症状を緩和させるために、行っているのですけれどもね。

なるほど、武息などもお試しになられたのですね。高藤総一郎氏とは、また懐かしい(笑)。

何だかんだ言って、僕が気功だとか仙道だとかいうものを知ったのは、やはり彼の著作がきっかけでしたね。

僕が彼の著作に初めて触れたのは、高校時代で、彼の高圧的な書き方に若干反発を覚えつつも(笑)、座右の書のような感じで、引越しの度に持ち歩いていました。

でも、やはり書物だけではだめだ、実際の先生につく必要がある、とあっていろいろな先生を訪ね歩いた結果、最終的に、うちの師匠と出会ったわけですが。

それどころか、人様に施術したり、ご指導させて頂く身になった現在でも(習い始めた当初は、そんなことが出来るようになるとは、とても考えられなかったのですが)、彼の著作は時々読み返しますよ。実際今も、すぐそこにありますし(笑)。

というのは、現在の日本で、彼ほど、気功や仙道に関して多彩なアプローチをして、それを本に書いていた人物は、いないですからね。

ですから彼の著作は、僕にとって、指導書というよりは、百科全書的な意味合いがあるのです。

それらの内容は、気功や仙道に詳しくない方にすれば、ほとんど荒唐無稽なのでしょうが、実はあながちそうとも言い切れないことが、最近判ってきました。

もちろん、彼の著作の中で紹介されている彼独自の練功方法を、そのまま実行すれば、精神崩壊一直線となりかねませんが(笑)、それらを、その他の様々な分野の研究とつき合わせて検討してみると、単純に退けられないものがあります。そういう意味ではまさに、アイディアの宝庫ですね。

それを、そのような研究の成果を踏まえつつ自分なりに加工した上で、クライアントさんに提示しているのが、今の僕だったりするわけで(笑)。

そういった意味で言うと、以前から申し上げていますように、気功や仙道というものは、現在でも立派に、科学的な検証に耐え得る技術だと思いますね。今のところ誰もそれをしようとし、というだけのことで(笑)。実際僕も、本当に助けられていますし。

というわけで、今回のメールは手短かにさせて頂きたい、と思います。と申しますのは、もうすぐ実際に、お会いできるわけですから。

武息などの具体的なテクニック、内丹功/外丹功の歴史的な変遷と差異、あるいは高藤総一郎氏に関しては(笑)、その際、議論させて頂きたいと思います。

それではお言葉に甘えまして、6月29日金曜日午後6時に、久留米駅前に参ります。お連れの方にはご迷惑をお掛け致しまして、真に申し訳ございません。何卒宜しくおっしゃって下さい。

因みに、お酒に関しては、多少たしなみます。多少ですけど(笑)。

それでは、皆様には多大なるご迷惑をお掛け致しますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

お会いできます事を、楽しみに致しております！



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

Karlheinz Stockhausen追悼



[KONTAKTE](#)

Karlheinz Stockhausen, Christoph Caskel, David Tudor

2007年12月5日、Karlheinz Stockhausen氏が、お亡くなりになりました。

僕は今日初めて、そのことを知りました。

彼の作品との初めての出会いは、Wergo盤の、"Kontakte"でした。この中での電子音とピアノ、パーカッションとのバトルとも言うべき共演は、僕のエレクトロニック・ミュージックへのナイーブな考え方を、根本的に変えてしまいました。

その後、"Spiral"、"Hymnen"など、彼の作品の中で僕の期待を裏切ったものは、全くありませんでした。

2005年、品川アーツフィアという、奇しくも僕も公演をしたことのあるホールで、"Licht-Bilder"が、演奏されました。ご自身がかなり高齢でしたので、恐らく今回が最後の来日になるかも知れない、と僕自身も思っていたのですが、残念ながら行きませんでした。

今僕はそのことを、猛烈に後悔しています。

彼の元気な、かつ攻撃的な姿は、もう二度と目にすることはありませんが、彼の名前は歴史から消滅することは決してなく、そしてその作品は、今後も多くのアーティストに、影響を与え続けていくことだと思います。少なくとも、僕はそうです。

ありがとう、そしてさようなら。Stockhausen先生。

In December 5th, 2007, Mr. Stockhausen died.

Today I knew it for the first time.

The work that I heard for the first time in his works was "Kontakte". The "Battle" with electronic noise, piano and percussion had completely changed my naive attitude for electronic music.

After that, I've heard "Spiral", "Hymnen" etc... In them, there's no single work that disappointed me at

all.

In 2005, his "Licht-Bilder" was first premiered in Japan at Shinagawa Artsphere where I've performed my tunes. I knew he was so old and I was afraid if this might be the last chance for him to perform in Japan, but I couldn't go to there at that time.

Now I'm regretting it so much.

His fine and "aggressive" figure we cannot see forever, but his name will never be disappeared from the history, and his works will continue to influence on many artists from now on too. At least I will be.

Danke schoen und Tschüs, Herr Karlheinz Stockhausen.



信仰というものは、精神医学的に見ても、とても興味深い問題を孕んでいると思いますね。

信仰というのは、端的に言えば、"信じる"ということですね。これを英訳すれば、"believe"となります。ところが、これは日本を代表する宗教学者である中沢新一さんが自著の中で指摘されていたことなのですが(『ブッダの方舟』中沢新一・夢枕獏・宮崎信也共著、河出文庫、1994年)、キリスト教以外の世界中のどの宗教を調べてみても、その中には、この英語の"believe"に相当する言葉は無い、ということですね。もちろん言うまでもなく、世界中の人々が、独自の宗教を持ち、独自の神を持っています。でも、彼らがそれを"believe"しているのかと言え、そうではないそうです。

つまり、彼はここで、"believe"という観念は、極めて西洋的な観念だ、ということを、指摘しようとしているわけです。

日本でも元々そうですね。八百万の神と申しますが、多神教どころか、汎神論的な自然崇拝を極限まで推し進めて、かまどであろうがトイレであろうが(笑)、ありとあらゆるものにまでそれぞれのアイデンティティを持った固有の神の存在を認めるというのは、キリスト教的な発想にすれば、理解に苦しむものでしょう。あるいは修験道のように、日本古来の神と外来種である仏とを、強引に「神仏習合」あるいは「本地垂迹説」などという、正にとってつけたような理論でもって一気にまとめてしまおう、などという発想は、奇怪以外の何者でもない。このような風土の中での唯一の例外は、明治期から第二次世界大戦期にかけてのいわゆる国家神道ですが、これは、急速に導入された西洋文化を受容する過程の中で(より正確には、そのような国家戦略的な要請の元で)、その西洋の理論でもって最構築されたもの、と言ってもよいものですからね。元々日本の宗教には、そのような形でのピューリタニズムは、存在しなかったものであり、これは日本の歴史の中では、極めて異例のことであったと思います。

しかし、古今東西の歴史的な宗教家と呼ばれる人達自体は、むしろ、そのようなピューリタニズムとは無縁の人達ではなかったか、と思うのですね。

確かに、エホバやイエス、マホメットらは、「神を信じなさい」と言っています。でも彼らの言う神は、現在多くの人が把握しているような、我々が完全に盲目的に従わなければならないような対象としての強権的かつ排他的な存在、という意味で、神という言葉を使っているのではないのか、と思います。

もっと言えば、神とは単に、彼らにとっては"方便"ではなかったか、とも思うのですね。神の属性がどうのこうのではなくて、その神と対峙して自分はどう生きるべきか、彼らの関心は、そち

らの方にあっただのではないか、と思うのです。

少なくとも、彼らの残した言動を調べてみると、そのような印象を受けます。

しかしながら、どの宗教でもそうなのですけど、開祖が死んだ途端、それは変質します。フォロワーの関心は、その神の定義、更には、そうやって導き出された神を信じるか否か、という問題に収斂します。それを認めれば兄弟、認めなければ当然敵です。砂漠の世界では、それは極端な形で現れます。従って、イラクで行われているような行為が終わりがないように見えるのは、至極当然です。何となればそれは、これまでに何世紀にも渡って繰り広げられてきた宗教戦争の、単なるバリエーションに過ぎないからです(これはブッシュ大統領自身が、うっかり演説の中で指摘してしまって、猛反発を喰らいましたね)。つまりこの戦争は、ユダヤ教とキリスト教、イスラム教という、全く出自が同じ宗教の、兄弟喧嘩でしかないのです。

余談ですが、ここで、私達にも若干関係のある問題も、発生しました。

というのはこの時、これらの世界での身体技法のほとんど全てが、失われたのですね。キリスト教にせよイスラム教にせよ、スタートした時点では、身体技法は、とても重要な位置を占めていました。修行というものは、どの宗教でも存在したわけです。それによって、神の世界と直接チャネリングしようという技術があったのですね。ところがそれを疎ましく考える連中が出てきた。つまりここで、社会をまとめ上げるのに宗教の力を利用しようとする連中が出てきたわけです。人々には神に対する強力な欲望がある。それを使えば社会を一つにまとめ上げるのはたやすい、と権力者は気がついたのですね。この時、神と人々とを媒介するルートは、権力者によって独占される必要が出てきます。逆に、ある種の身体技法を使って神と直接対話しようとする人々の存在は、権力にとっては邪魔者以外の何者でもありません。

こうして権力の主導によって、そのような知識と技術を持った人々が、例えば魔女狩りのような実に凄惨な形で、闇に葬られてきました。

そのような邪魔者がいなくなった世界では、神は、権力者そのものと同一視されます。従って、権力者と権力者とが抗争する時は、必ず神の名が用いられます。これが砂漠で生まれた、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の歴史です。

しかし、このような先鋭的な光景は、仏教にはあまり見られないですね。仏教の基本的思想は「諸行無常」ですから、対立そのものが先鋭化することは、極めて稀です。執着しないからです。面倒になればさっさと逃げると(笑)。また、面白ければ何でも混ぜ合わせます。こだわりのないですからね。

実は、僕が仏教を評価するのは、正にこの点なのです。「色即是空」という言葉もありますが、その言葉通り、この世界には、実体というものが存在しない。全ては絶え間なく変化していきます。それは、信じる対象とて、例外ではありません。ですから、元々の仏教では、何かを信じる、というスタンスは、基本的に希薄なのです。それどころか、何も信じない、という方が、むしろ正確かも知れませんね。

懐疑論の中の懐疑論、無神論の中の無神論ですね。これが仏教です。

ただ、こうやって僕が仏教のことを論じようとする、必ずその言葉尻だけを捕まえて、世間一般の素朴な先入観のみで解釈しようとする人が、出てきます。

オウム真理教に関しては、いろいろ取りざたされましたね。今もでしょうけど。このような仕事をしてしていると、必ずあちらと僕との関連を尋ねられます(笑)。それに関しては今更どうこう申し上げたりはしませんが、ただ一つ言えるのは、あのグループがどうのこうのというよりも、彼らをスケープゴートにして社会的に抹殺することで社会の安定が図られるとする楽観的な発想には、僕は基本的に極めて懐疑的です。重要なのは、なぜあのようなグループが生まれ、最終的にあのような事件を起こすに至ったのか、そしていまだに存続し続けているのか、そこを探ることにあると思います。

つまりこれは社会そのものが、既に潜在的に、そのような存在自体を欲望している、ということの意味しているのではないのでしょうか。

なぜオウム真理教は悪くて、細木さんや江原さんは良いのでしょうか(笑)。僕はこのような、マスコミに盲目的に追従してしまう社会風潮自体が、根本的に問題だと思います。これこそが、立派な妄想であり、病理だと思います。

オウム真理教を排撃する人は、この時例外なく、無意識的に、ある種の宗教に入信しているのではないか、ということに、気づくべきだと思うのですけれどもね。

ヘヴィーな話題が続いたところで、話を変えてまして・・・。

前回のメールで、自分のスタンスは武術気功に近いかも知れない、と申し上げましたが、僕自身は武術気功そのものを習ったことは、残念ながらありません。というのは、納得のいくものに出会ったことがないのです。師匠のところに入門する前に、いろいろな教室を当たりましたが、それを正面切って教えているところはなかったです。言うまでもなく、スタイルとしての武術

そのものを教えているところはたくさんありましたけど、その内面というか、気を直接使ってどうのこうの、というようなところは、少なくとも僕が見た限り、なかったですね。だとすればこれまた、自分でやるしかないわけで(笑)。この辺の事情は、禅とあまり変わらないのかも知れませんね。

しかしながら、師匠は併行して武術も教えていましたので、どうせ武術を習うのであれば、やはり気功のことが良く判っている師匠のところが良いだろう、と思って、実際に指導を受けていました。通背拳というものですけれどもね。師匠に、武術も習いたい、と言ったら、「あんたは痩せているから通背拳が良いだろう」、と理由になっているんだかいけないんだか良く判らないことを言われましたが(笑)。習い始めて約一年後に、僕は大阪へ転居しなければならなくなったのでそれきりになっていますが、面白かったですね。今でも基本功は良く覚えていて、時々やったりしますよ。

僕は音楽もやったりするのですが、実は音楽を手がけ始めるようになったのは、かなり後になってからなのですね。大学時代からですか。それまでは柔道、剣道、空手、相撲(これだけは"やらされた"のですが(笑))など、やっていたのは武術系ばかりでしたね。一番面白かったのは空手です。そういう意味でも僕が、チベット密教などの瞑想中心のものではなく、武術とも大いに関係する気功を手がけるようになったのは、今考えてみれば、そのような事情も、無意識の内に影響を与えていたのかも知れません。瞑想って、何となくスタティックじゃないですか(笑)。ですから今でも、例えば静功の場合でも、感覚ベースのいわばフィジカルな練功を心がけようとするのは、そのせいかも知れませんね。単純に文科系では、こうはならなかったと思います(アート系の人のの中では、そういうのを表面的な部分でしか捕らえられなくて、最終的にニッチもサッチもいなくなっちゃった、みたいな人とか結構多いんですけれど(笑))。でもそうだからこそ、静中動有り、動中静有り、という言葉が、そこそこ理解できるような気がしています。

太極拳には、僕もとても興味があります。このヘキ地鳥取にはちゃんとした先生がいないので、実際に習ってはいませんが。DVDでも買って独習しようかな、という衝動にいまだに駆られます(笑)。

あのゆったりとした動きの太極拳が、実は空手よりも強い、ということは、それはあると思います。もちろん、トレーニングのやり方によるのでしょうけれど。

空手と言えば、宇城憲治さんという有名な空手家の方がいらっしゃいます。残念ながらお会いしたことはないのですが、彼の著作を見ると、彼は、通常の空手の練習における巻藁などを使った筋力トレーニングを、徹底的に批判なさっています。そうではなく、「型」を徹底的にしろと。なぜならば、そうでなくては"技"が"技"にならないからだ、とおっしゃいます。

彼はそういう意味でも、競技空手などとは全く無縁な、孤高の存在のようですが、一説によれば、彼には誰もかなわない、ということです。

彼が常々おっしゃっている「ゼロの力」というものは、太極拳における「気」の概念ともパラレルだと思います。もちろん先にも申し上げました通り、実際に彼の空手を実際に拝見したことがないのではっきりしたことは申し上げられないのですが、もし彼の空手と太極拳の共通するファクターで、最も可視的なものを一つだけ指摘するとすれば、それは、先ほど申し上げました通り、アンチ筋力トレーニング、ということになるのかも知れません。

こちら辺は、武術をお試しになったことがない方にはご説明するのがなかなか難しいのですが、例えば、「柔能く剛を制す」という言葉がそれですね。剛と剛、筋肉と筋肉が激突すると、当然のことながら、どちらか筋肉の強い方が勝ちます。しかしそれは、技とは呼ばないわけです。本当の技とは、筋力のない者でも、筋肉のあるものに勝てるようにするものでなくてはなりません。その技を練り上げるためには、むしろ筋肉トレーニングは、邪魔になりかねません。宇城さんが指摘なさるのは、このことだと思います(余談ですが、そういう意味では、この「柔能く剛を制す」という言葉で真っ先にイメージされる柔道が、その理念を表しているかと言え、はなはだ疑問だと思います。テレビでもおなじみの現在の柔道の選手は、ほとんどプロレスラーで、その試合は、正にパワーとパワーのぶつかり合いですが、その開祖と言われる嘉納治五郎という人物は、中肉中背の、とても小柄な方です。この点を見ても、現代の柔道が、その発祥時とは完全に異質なものになっている、というのは、明らかだと思います)。

太極拳で相手を倒す力とは、自分から発せられた力ではなく、むしろ、相手から発せられたものです(この辺は、合気柔術でも同じですが)。つまり、相手が強い力を出せば出すほど、その力を逆手に利用して相手を倒すわけです。

この辺に関しては僕もまだ体験したことがないのでつかないことは申し上げられないのですが、基本的な原理は、そういうことだと思います。

余談ですが、実はこの原理を、太極拳以外の分野で、極めて上手に使っている、と思われるトピックスに、最近出会いました。それは何を隠そう、以前議論したミルトン・エリクソンの臨床例です。彼は臨床の過程で、個々の患者が持つ要素を、何でも応用したようです。それは患者の趣味などは言うに及ばず、彼らの病的な信念、妄想、症状を「ユーティライゼーション」という原理の元、徹底的に利用して、効果を上げたようです。これは僕にいわせれば、正に「柔能く剛を制す」以外の何者でもありません。両者は直接的には何の関係もないようですが、本当にそうであったのか、と僕はいぶかしく思ってしまう。更には、彼のケース・スタディには、太極拳どころか、まるで道教呪術としか思われなようなものも、たくさんあります。そういう意味で僕は、単に心理療法という側面だけではなく、東洋思想(あるいは武術!)という側面からも、

彼の臨床例には、とても興味を抱いているわけです。

また、太極拳はあのゆっくりとした動きに特徴がありますが、実はああいうスタイルになったのは、高々100年前だということですね。実際、太極拳の原型となった拳法は、極めて激しい動きをするようです。

一説によれば、その当時のある太極拳の指導者が、清朝の王族に武術を教えることになったのですが、その王族達があまり物覚えが良くなかった(笑)。そこで仕方がないので、彼らにも覚え易いようにゆっくりとした動きをしてみると、あにはからんやその方が、効率的に気が練れることに気がついた。ゆっくりとした動きになったのは、それからなのだそうです。

また中国には、「意拳」というユニークな拳法があります。この拳法のトレーニングでは、站樁功のみを集中的にやる、ということに特徴があります。しかし、現在の中国拳法の中では、この拳法が最も強いそうですね。この拳法も、それまでの様々な拳法のエッセンスを抽出する、という形で、20世紀になって、まとめられたものです。このように、中国拳法と言え、開祖から伝えられた技術を、一字一句漏らさず連綿と伝承している、というイメージが強いですが、実際は中国拳法も、どんどん進化しているのですね。

ただ僕は、いまだに武術気功には興味があることはあるのですが、実際にそちらの方へと足を踏み入れるという段階には、今のところ至っていないですね。それは先ほど申しあげましたように、このへき地では良い先生がいない、という物理的な要因もありますが、もう一つの理由は、今まで師匠その他から教えて頂いた技術で、十分に用は足せている、と思うからです。

例えば、僕もHPでは「からだにやさしいツボ療法」などと柔らかい言葉を使っていますが、これはあくまでも営業上のことで、良く考えてみればこれは、その言葉とは裏腹に、人体急所図を全部頭の中に入れていたのと全く同じですからね。北斗神拳みたいなもので、特定のツボをある一定の強さで突くことで内臓を破壊する、くらいのことは、極めて簡単に出来るわけです。もちろん試したことは残念ながらありませんが(笑)。そういう意味では一指禪功にせよ馬氏点穴療法にせよ、僕の学んだ技術自体が、元々武術ですからね。現に"点穴"という言葉自体が、既に武術用語です。また、私の知る限りでは、一指禪功には、実際暗殺拳のような部分もあります。それは『北斗の拳』のように、内側からボン！みたいではなく、もっとエレガントです(笑)。整体やカイロとは、この点でも全く違うのです。そうでなければ、絶対にやっていないです(笑)。

ですから、僕にとっては、この点穴療法という技術は、二重の意味で楽しめるものなのです。やればやるほど、両方の技術が上がっていくわけですからね。いやはや、止められません(笑)。

練功に関してですが、そのように呼吸法をお試しになっても、先生の場合は大丈夫だと思います。

以前申し上げましたが、僕をご指導する時、あまり呼吸やイメージに関しては、云々言いません。というのは、初心者の方にはそれにとらわれてしまって、肝心のリラックスが出来なくなる、という方が多いのですね。そのような弊害を避けるために、僕は、呼吸やイメージをオプション化してご指導させて頂いている、というだけのことで、そのような問題が全くないのであれば、そのようにお試しになるのは、結構なことだと思います。

実際先だってY君に教える時に、オプションで、「逆腹式呼吸」を教えたのですが、彼はこの呼吸法をいたく気に入った様子でした。その後、実験的に施術をする時にこの呼吸法を併用すると、かなり強い気が指先から放射されるのが自覚できる、と言って喜んでいましたが、このように完全に使いこなせる人がそれを使うのであれば、全く問題はありません。でも通常は逆ですからね。逆腹式呼吸が気の強化に有効だと本に書いてあったのでそれを試している内に、だんだん精神に変調をきたしてきた、というシャレにならない話は、よく聞くことですからね(笑)。

要は、ご自分でしばらくお試しになられて、いい感じのものはそのままお続けになって、これはどうかな、と思われるものは少々控える、といったフレキシビリティが大切だと思います。そういう意味で、自分本位で、感覚をベースにして、練功を進められるのが、宜しいかと僕は考えます。

月末のセッション、僕もとても楽しみにさせて頂いております。

具体的なスケジュールに関してですが、29日金曜日はだいたい夕方を目安に、久留米の方に入らせて頂こうかと考えております。ただ、先生はその日はお仕事もおありのことですから、基本的に先生のご都合に合わせてこちらの方は動こうと考えておりますので、ご都合の宜しい場所や時間がございましたら、ご面倒でもお知らせ頂けると、幸いに存じます。路線図を見たところ、新幹線で博多まで行き、そこから在来線に乗り換えて久留米まで参る、というのが、無難なルートのようなですね。このようにプランニングしているだけでも、旅行マニアにはたまりません(笑)。

それでは、お返事をお待ち申し上げます。

それではまた！



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

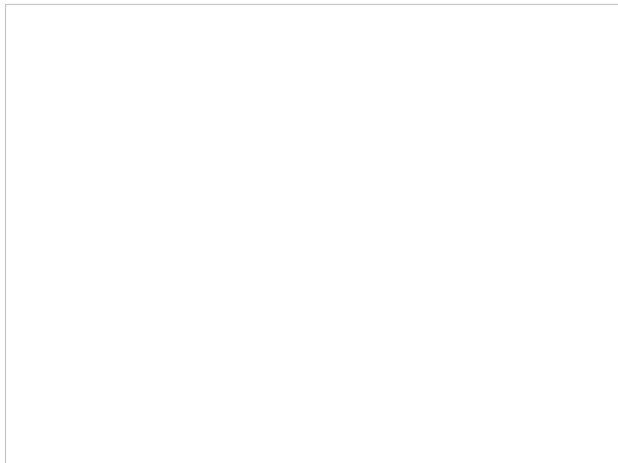
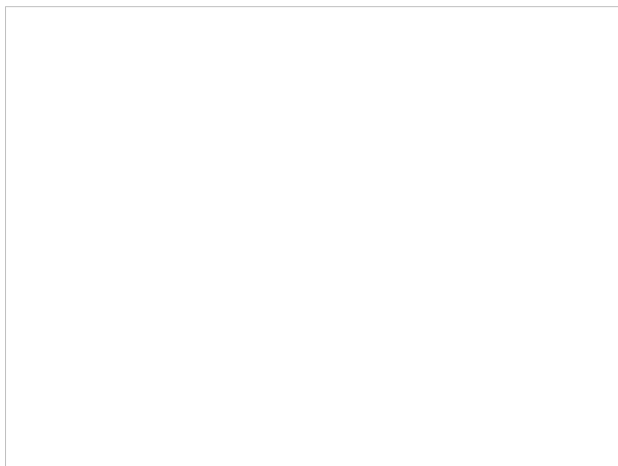
因みに・・・。

今回リハーサル中に撮影した写真に、相変わらずオーブが乱れ飛んでいました。2枚目のやつなんか、かなりデカいですね。まさに火の玉って感じで。

こればかりは、CGではありません(笑)。

この倉吉未来中心小ホールは、エハラーでも呼んで、お払いした方がいいんじゃないでしょうかね。その時は僕も呼んでね。高みの見物してるし(笑)。

ご利用の方々は、ご注意の程を・・・。



"Wind, Stone, Rain～Imaginary Landscape No. 3"無事終了

今回のイベント、"Wind, Stone, Rain～Imaginary Landscape No. 3"も、無事終了することが出来ました。

これもひとえに、皆様方の並々ならぬご愛顧の賜物と、主催者一同、心より御礼申し上げます。

今回特筆すべきは、Dr. Yukiによります、コンピュータ・グラフィックスのクオリティです。とても昨年初めてCGを手掛けたとは思えないほどの完成度で、かなり好評でした。本職が呼吸器外科医なので、この方の多才さは、とどまる所を知りませんね。お陰で僕の方も、頭の中で描いていた、ちょっと70年代のジャーマン・ロックっぽいレトロな感触を持ったエレクトロニカ、といった感じの、理想のステージを演出することが出来た、と思います。こういう映像にメロトロンでメロディを乗せる、というのを、一度やって見たかったんですよね。私は根っからの、Tangerine Dream、Klaus Schulze、そしてVangelisフリークなのです(笑)。

ただ、このようなステージを、果たしてこの鳥取県でこれ以上プロデュースすることに、どれだけの意義があるのだろうか、といった問題が、より浮き彫りになってきたような気がします。もっともこの問題は、さかのぼって9月頃からうすうすと感じていたことだったのですが。

どうやら、次のステップを模索する時期が来たようです。

というわけで、この鳥取県でのパフォーマンスは、これにてひとまず終了とさせて頂き、ステージ以外の新たな表現形態を追求していく所存でございますので、今後共宜しくお付き合い頂ければ、幸いに存じます。

それでは皆様、お疲れ様でした。

<追記>

去年の『気満つる御山／悠久の祈り』のDVDが、一年余りの編集作業の末、この度完成致しました。

本文にも書きました通り、ますます冴え渡るDr. Yukiの手によります目くるめくコンピュータ・グラフィックスと、私のミニマル・テイストのアンビエント・サウンドが融合した、ヒーリング向けの環境映像DVDとなっております。

ご希望の方は、メールにてお問い合わせ下さい(定価は3000円、送料サービスです)。

以上宣伝でした。

Wind, Stone, Rain～Imaginary Landscape No. 3

来る11月17日土曜日、倉吉未来中心小ホールにて、"Wind, Stone, Rain～Imaginary Landscape No. 3"と銘打ったイベントを開催致します。

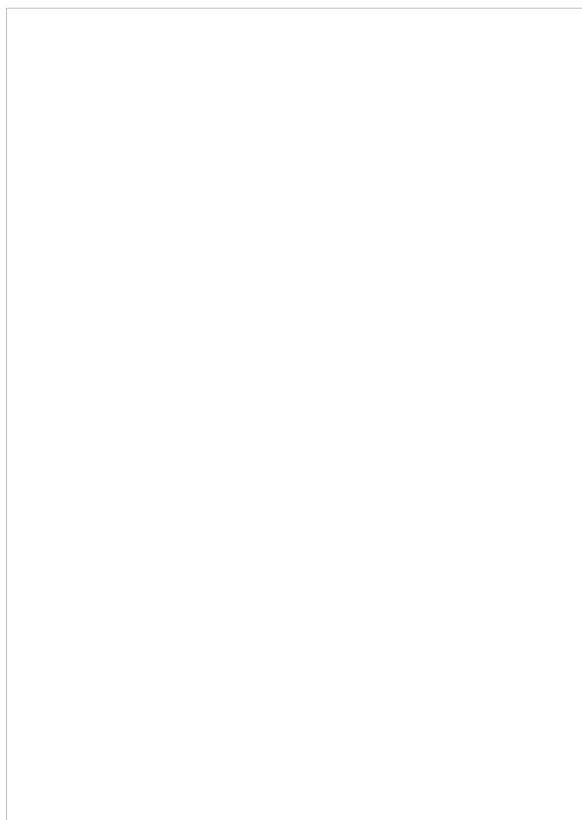
Dr.Yukiとのコラボレーションも、これで三回目。彼の外科手術の合間を縫ったCGワークもますます磨きが掛かって、頼もしい限りです。その目くるめくヴィジョンが手術中に彼の脳裏を席卷しないよう、心から祈りたいところですが。

僕も負けてはおられませんね。

因みにタイトルは、僕の心から尊敬する作曲家であるジョン・ケージ、武満徹、デヴィッド・シルヴィアンへのオマージュです。これにお気づきの方は、鳥取県では一人もいない、と確信致しております。

最近の僕は催眠という分野にとっても興味を持っているので、コンサート会場でいわゆる"トランス"という現象をいかに誘発させることが出来るか、という実験を、今回やってみたいと思います。まあ僕の曲をご存知の方に言わせれば、何をいまさら、ということにでもなりましょうが(笑)。

というわけで、午後6時30分開場、午後7時開演。入場料は1500円となっておりますので、皆様お誘い合わせの上ご来場賜れば、嬉しく存じます。



ある精神科の先生との対話(9)～日本仏教の現状、練功上のスランプ、催眠と気功、風水のメカニズム

現在の日本の仏教界に関しては、確かに、単なる営利団体にしか見えない、とおっしゃるのも、全くもって無理からぬことのように思われます。

この点、ヒンドゥ教の例えを用いていらっしゃいましたが、現在の"僧侶"と言われている人々が、僕が見る限り、単なるお墓の管理人以上の意味を持っていない、という状況は、ヒンドゥ教というより、古代のバラモン教に、非常に近いと思います(言うまでもなく、両者は呼称こそ違い、中身は同一なのですが)。

仏陀がバラモン教に否定的な地点から仏教を作ったのに、その末裔たる現在の僧侶が、かつての批判の対象だったバラモンと全く同じ状態に陥っているというのは、何とも皮肉なものだと思います。

更に、日本は島国なので、古代から続く仏教の流れをストレートに受け入れるというのが物理的にも難しかったので、その本家本元のインド仏教とはかなり異質な状態で日本仏教が作り上げられざるを得なかった、というのは、厳然たる事実だと思います。

もちろんそれを、他の世界宗教には見られない仏教の多様性、と肯定的に評価することも出来るのですが、その教えと本来不可分であった身体技法が、ごっそりと欠落した状態で、日本に定着してしまっている、というのは、非常に残念なことだと思います(更に厳密に申し上げれば、インドの仏教と中国の仏教もまた、異なります。と申しますのは、中国には元々、自分の国こそが最高だ、という中華思想がありますので、仏教がインドより渡来した時にも、中国人はそれを、自分の国に見合うような形に作り替えてしまっています。ですから、インド、中国、日本の仏教は、それぞれ完全に異質、と言って良いと思います)。

仏教には、様々な分類の仕方があります。有名なものでは"大乘仏教"と"小乗仏教"というものがありますが、もう一つの分類の仕方として、"顕教"と"密教"、というものがあります。前者は、「経典に書かれた教え」という意味で、後者は逆に「経典に書かれていない教え」という意味なのですが、後者の方には、身体技法が含まれています。

そして、両者が揃わなければ、教えとしては完成しないのですが、僕の見る限り、後者に関しては、空海の真言密教、最澄の天台密教以外、ほとんど日本には伝わっていません。あるいは、伝わったとしてもかなり断片的なもので、それは十分に体系化されていない状態で、修験道の中に含まれています。先ほど申し上げました通り、日本は大陸とは地続きではなかったので、そのまま受容する、というのが、物理的にも難しかったのです(逆にチベットでは、消滅寸前の後期

インド仏教のそのままのコピー、という形で、受容されたようです)。

特に日本の禅宗では、前回申し上げました通り、その形"だけ"が輸入されました。そして、内実が全く欠落したままの単なる精神論が、禅の本質だ、と誤って一般にも認識されているというのは、全くもって残念なことだと思います。

そういった意味で考えると、別にうちの師匠をヨイショしようというわけでは全くないのですが(笑)、禅の行者の身体内部で、一体何が起こるのか、を日本へ伝えたのは、恐らく日本の歴史上、うちの師匠が初めてだと思います。

例えば、「禅定力」という言葉を、中国の禅者も日本の禅者も用います。しかし、日本の場合その意味するところは、単なる中身のない精神力です。ところが、中国ではそれは、"勁"であれ"気"であれ、本当に外部に影響を与えるという意味での"力"なのであり、実際にそれを用いて、病気などで苦しむ人々を救うことを、企図するわけです。

それが欠落した時、禅は単なる「野狐禅」、「枯禅」となります。

これは、哲学的な思弁でも何でもなく、現に、菩提達磨から1500年間嵩山少林寺の中でたった一人の僧にしか伝えられなかった一指禅功の、現存する唯一の正統後継者である劉永言先生は、それを用いて現在も治療に当たられているわけです。

そしてこのようなことは、日本の僧侶には、絶対に不可能です。

もう少し日本の僧侶も、多方面においてもっと勉強をすべきだと思うのですが、現実社会とは全く無縁のところで成り立っている現在の単なる宗教団体(営利団体?)としての仏教界にそれを望むことは、ないものねだりというものかも知れません。

余談ですが、数年前の我が家の法事の時、やって来た坊さん(禅宗である曹洞宗の僧侶です)が、「勇一さんは時々中国に行かれるそうですが、中国で何をされるんですか？」と尋ねてきたので、「はあ、嵩山少林寺(ここは日本の禅宗でも総本山と考えられています)で菩提達磨以来門外不出とされてきた一指禅功という禅を学びに・・・」と答えたら、完全にフリーズしてましたね(笑)。それ以来、僕に仏教の話を、一切しなくなりました。

これが、日本の仏教界なのです(笑)。

ところで、進歩が足踏み状態になっている、とのご指摘ですが、どうか気になさらず、そのままお進め頂きたいと思います。

どの分野でもそうだと思うのですが、スランプの時期というものは、必ずあるものです。しかし、進歩が感じられないからといって、進歩自体が止まっているわけでは、決してないのです。

これは、ある意味「慣れ」によるのかも知れませんね。最初の時期は、とてもヴィヴィッドな反応が出るので、とても楽しく、面白いものです。でもそうこうしている内に、そのような現象に慣れてしまって、何となく物足りなくなるというのは、むしろ自然なことなのではないのでしょうか。

逆に、物凄い反応が相変わらず出まくり、みたいな状態は、むしろそちらの方が問題なのかも知れません。

例えば、気功に限らず、ヨガその他の精神世界系の本やホームページを見ると、「これこれの修行をしたら、このような驚くべき現象が次々と起こった！」と嬉しそうに書いてあったりしますが、よくよく読んでみると、何だ、単なる偏差じゃないか、ということがよくあります(笑)。

更に言えば、例えば小周天やクンダリニ・ヨガをしている時に、物凄い衝撃が尾骶骨を貫いた、みたいなのもよく見かけますが、それは逆に、その経絡なり気道が元々詰まりまくっていたから、結果としてそういう強烈な反応が起こった、ということの明らかな証拠なので、逆にそれは自慢できるようなものでも、何でもありません(笑)。

施術でもそうです。今ではあくびをしながら施術をしています、クライアントさんが完全に意識を失っているのにもかかわらず、手足をカエルのようにバタバタさせていたとしても、僕はもう慣れてしまって特に珍しいとも思わないのですけれど、これを全く何も知らない人が見たら、かなりビビるのかも知れませんね(笑)。

そのような「慣れ」の問題もあって、進歩というものは、自分だけでは、少々認識しづらいのかも知れません。

師匠が必要というのは、そういう意味合いもあるのかも知れませんね。師匠の場合は、その弟子が辿っている道程を、かつて自分自身が実際に辿ってきているわけですから、その進歩の具合が、よく判りますからね。

または、僕の場合は、施術ですね。様々なタイプの施術をすることで、自分自身の感覚の変

化や、クライアントさんの症状に対する気の影響の変化も、自覚しやすいですからね。「一指禪功の場合、施術がそのまま練功になる」と師匠はよく言いますが、その意味は今では、よく実感できます。

やはり他者と比較検討するというのは、科学的に物事を進めようと思えば、不可欠なプロセスなのかも知れません。そうでなければ、正に魔境ですからね。

ですから、具体的な進歩に対する対処法は、実際にお会いした時に実地でご指導させて頂くとして(笑)、まずはリラックスを念頭において、そのまま練功を進めて頂きたいと思います。

小周天に関してもお尋ねでしたが、恐らく自覚が難しいというだけで、小周天程度はもう通過なさっていると思いますよ。

それに、だからといって小周天が、本当に気功の根本的な練習なのかと言えば、そうとも限らないわけです。それを飛び越して先に進んでしまっているという場合もありますので、どうかご心配なく(笑)。

催眠と気功の関係については、とても興味深いトピックスですね。

例えば、以前少しだけ触れましたが、品川嘉也さんなどは、気功家の脳波を研究することで、気功の本質に迫ろうとしています。大抵の気功に関する研究は、この手のものが多いですね。僕の以前読んだ催眠に関する本にも、気功に関して、かなり積極的な記述がありました。

それはそれで気功を無視されるよりは良い傾向だとは思いますが、僕自身は彼らよりは、もっとラディカルな姿勢を取っています。つまり、以前から申し上げております通り、気功と精神的なものとは、ほとんど関係ない、というものです。僕はこの二つの要素を、意図的に、独立させているのです。

これは、気功施術の際、精神集中などの精神的なファクターを、一切用いていない、という僕自身の経験にもよりますが、そのもう一つの理由は、先の品川さんもそうなんですけれど、気功を心理的なものと比較することで、安直に、気功は心理学的なものだ、という誤解を与えてしまう危険性がある、と考えるからです。

これが転じて、「イワシの頭も信心から」という発想が出てくると、そこから「気功＝宗教」という構図に至るのは、そう難しいことはありません。

そして僕自身は、この構図に、今も昔も苦しめられているわけです(笑)。

よしんば催眠と気功を直接比較してみたとしても、催眠で"トランス"と言われている状態についていろいろと文献をあさってみた時、自分が練功中に感じているものがこの"トランス"と呼ばれるものに当たるのかどうかは、非常に疑問なのですね。何故なら、明らかにはっきりとした意識があるからです。もちろん、そのまま眠りこけてしまえば、それはトランスに入っていたのかも知れませんが(笑)、そうではなくても、十分に練功は可能なのです。

ですから、僕のスタンスは、気功の世界の中ではむしろ、硬気功などに代表される"武術気功"と呼ばれるものに近いのかも知れませんね。大体昔から、時空や天候を変容させる、みたいなことよりも、触れただけで相手の骨をバラバラにする、みたいなのに憧れていたような人間ですからね(笑)。

そういうわけで僕は、両者はなるべく独立させた形で研究を進めています。

例えば、意念は僕の場合、あくまでオプションとして使っています。つまり、それを使わなくても十分出来るけれど、それを使えば効果倍増、という感じですね。実際その方が、頭を使わない分、全然疲れない(笑)。ですから研究の進め方としても、先ずは完全に物理学的にドライに攻めて、それから心理学的な要素を加味した方が、論理的にも説明がつきやすいのではないかと僕は考えて、そのように進めています。

そういった意味で、僕が最近催眠に興味を持ち始めたというのは、次のステップ・アップの時期が来たのかな、と自分では捕らえているのです。そうやって二段構えで進めた方が、より誤解を与える余地が少ないのではないかと、という気がしますね。

ですから師匠のように、いきなり「練功が進むとDNAレベルの記憶がどうのこうの」と言われてしまうと非常に困ってしまうのは、むしろ弟子の僕の方だったりするわけで。僕はそこまでオプティミスティックになれないな、みたいな(笑)。

続きまして、龍穴のお話です。

僕は基本的に、気は電磁波だという考えを持っているのですが、それは、こう考えることで実際、かなり多くのことが説明できる余地が生まれるからです。龍穴もその一つです。

龍穴というのは、昨今の言葉で言えば"パワー・スポット"ですね。それを見つけ出そうとする『巒頭風水』には、昔からかなり詳細な理論があります。

それを大幅に端折って申し上げますと、龍穴は、「青龍」と「白虎」という山に左右を囲まれていて、その間を流れる川の辺にある、ということになります。京都などはその風水の理論によって、作られた都市です。

この全体の構図自体は"龍脈"と呼ばれ、この龍脈を探し当てるのは簡単だが、その中で龍穴を探し当てるのは、極めて難しい、と言われます。伝承によれば、龍脈を探し当てるのに3年、龍穴を探し当てるのには更に10年、と言われるようです。

僕が気功を学び始めた当初、この龍穴の話は聴いてはいましたが、文学的なもの以上の興味は持てませんでした。というのは単純に、それを実感したことがなかったからです。

しかしその契機は、中国の黄山で、突然やってきました。この辺のことは、ホームページに書いた通りです。

帰国後しばらくは、あの石の上で何が起こったのか、全く理解できなかったのですが、気は電磁波であるという仮説の下、物理学を研究している中で、とても興味深いトピックスに出会いました。

それは、"波の干渉"という物理現象です。

波には、位相が同じ波同士がぶつかった時、お互いにそれを増幅し合う、という"干渉"と呼ばれる現象が存在します。これは電磁波も、例外ではありません。僕はこれを知った時、もし気というものが電磁波であるとすれば、同じ現象が生じるはずであり、もしかしたら、黄山の岩の上で僕が感じたのは、両側を岩に挟まれたちょうど中間点に僕が偶然にも立ったことで、僕から放出されていた赤外線-マイクロ波領域の電磁波が岩に跳ね返されて、僕のいる場所で干渉を起こしたのではないかと考えたのです。

それを確かめるべく、僕は実験を開始しました。その一つが、ホームページにも書きました、戸隠神社での友人を使った生体実験です(笑)。

別の実験は、武蔵野市での音楽療法のセッション中、偶然体験しました。このセッションに参加している自閉症の子供達は、基本的に言語がうまく使えません。しかしだからこそ、その他の感覚が研ぎ澄まされているのですが、そんな彼らが、別に申し合わせているわけでもないのに、必ず座る場所があるのです。それは、左右の壁から均等な距離にある場所でした。もしや、と思

って僕もそこへ座ってみると、案の定、全身が熱くなってきます。更に、これをリーダーの人に告げて、試しにそこへ立たせてみると、同じように、湧き上がる熱のようなものを感じたようです。

更に、もう一回似たような実験を行ったことがあります。それは近所にある琴浦町のまなびタウンという公民館の和室なのですが、前回と同じように壁から均等に離れている場所へ立つと、同じように熱を感じます。そこでブラインド・テストではありませんが、今度は何も言わずに、試しに友人をそこに立たせてみたのです。そうすると彼は突然、物凄い力で全身がロックされ、痺れ上がってきた、と言い出しました。明らかに、尋常ならざる感覚を、そこで感じたわけです。

実は先だっても、Y君の家で実験してみました。彼のリビングルームの中心に、僕はこれらと同じ熱を感じました。そこで彼にもそこに手をやらせると、確かに何やら熱の塊のようなものがある、と言っていましたね。

古来より、龍穴で練功することで、その効果を何倍にも高めることが出来る、という伝承があり、昔から行者達は、そのような場所を訪ね歩いてきたわけですが、もし龍穴というものが、そのような波の干渉を起こしやすい場所なのだとなれば、練功の効果を高めることが出来るというのは、至極当然なのかも知れません。何となれば、自分から発せられた電磁波が、両側の壁から跳ね返ってくること、結果的に自分のいる場所で干渉を起こしているのだとなれば、物理学的にも、その波は強化されるはずからです。

更に練功によって、自らが発する電磁波そのものを強化すれば、帰ってくる干渉波は、より一層強化されるはずです。

ただこう考えてみた時、例えば、久留米や京都などの巨大な空間の中で、そのような干渉波のエネルギーを感じる事が出来るのか、と問われれば、それは極めて難しい、と答える他ないと思います。ですから、このような波の干渉を考えないとすれば、龍穴に関する最も自然な解釈とは、何らかの環境要因、例えば、地下の特殊な鉱物等の影響によって、異常電磁界が生じている場所、ということができるのかも知れません。

あまりにもドライな龍穴に対する解釈と思われるかも知れませんが、だからこそ、その仮説は実社会の中でも応用可能になってくると思います。何故ならば、そのような場所は、両方がコンクリートで囲まれた場所であれば、容易に発生すると考えられるからです(この仮説で考えると、木造家屋では、電磁波が木に吸収されて、これは不可能です)。そのような場所で得られる"パワー"は、単なる思い込みを超えた、現実感覚を伴うものであるはずです。

この辺のことも、実際にお邪魔させて頂いた時に、試してみたいですね(笑)。

また長くなっちゃいましたが、それではまた！

JUGEMテーマ：心、体、そして魂。

なるほどなるほど、久留米や福岡には、そういう土壌があったんですね。いやはや、驚きです。

この福岡のポテンシャルに気付いたのは、ごく最近のことでした。以前お話したように、孫さんや堀江さんが久留米の同じ高校の出身だということを知って興味を持ち、いろいろと調べてみると、ご指摘の通り彼ら以外にも、かなり多くの著名人を輩出している。そんな話を昔プロでドサ周りしていたドラマーのおっさんにしたら、元々福岡はそういう土地柄なんだ、という返事でした。

それ以来、とても気になっていたわけです。

先生がご指摘の通り、その辺りは、風水的にどうこうというより(笑)、複雑な歴史を背景にしてたくさんの人達が玉石混交状態になっている、というのが、一番大きな理由のようですね。

僕はそのような土地に、大変興味があります。東京に足繁く通っているのは、それが大きな理由でもあるのですが。東京を引き払ってから学生時代を過ごした関西に舞い戻って3年間住みましたけれど、そういった自分の嗜好を自覚するようになってからは、逆に関西には、どうにもなじめなかったです(笑)。

そういった意味で、新たに興味を持った福岡に、ひょんなことからお邪魔することになるなんて、何て幸運なんだろう、と思っているところです。

先生には、心より感謝申し上げる次第です(笑)。

ヴィパッサナー瞑想というのもなかなかユニークらしいですね。これに関しては、昔トラブルを起こした二人目の女性がネパールで学んだそうで、その話をよく聞かされていました(笑)。

ところで中国の気功法には、大きく分けて、仏教系、道教系、儒教系、武術系、などの流れがあります。一指禅功はこの内仏教系に入りますが(もっとも、河南省の嵩山少林寺で伝えられていたという性格上、武術系にも入ると思いますが)、それを伝えたのは、かの達磨大師です。

ところが以前にも申し上げました通り、彼はチベットでは、無上("最高"という意味ですね)ヨーガ・タントラ系の行者だった、と伝えられていて、この無上ヨーガ・タントラというのは、初

心者に教えられることはほとんどない、かなり専門化向きの高度なヨーガ・テクニックなのです。

ですから一指禅功も、達磨大師がもたらしたのだとすれば、このタントラの部類に入るはずだ、というのが、僕の考えです。

もっともこのように、達磨大師＝無上ヨーガ・タントラ＝一指禅功、という構図を考えているのは、恐らく日本では、僕だけです。しかし、あながち個人的な妄想でもないのではないか、とも思っているのです。

それは、僕自身の経験にも拠ります。

と申しますのは、実は僕は、廖先生のところに弟子入りする前に、ある先生のところを尋ねているんですね。それは、日本を代表する宗教学者である、中沢新一先生です(彼を知ったのも、何を隠そう、音楽がらみだったのですが。彼は、僕が学生時代心酔していたイエロー・マジック・オーケストラの細野晴臣氏と、親交が深いんですね)。

上京したての頃、一度、彼の中央大学の講義に無断で忍び込んだことがあります(笑)。その時、彼が学生に配ったゾクチェン密教の經典のコピーを(彼は、本邦初訳だとおっしゃっていました)、頂いちゃったんです。

それには、ロンチェンパというチベットの高僧の瞑想テクニックが記されていました。

彼は「これをだいたい一週間くらいぶっ続けでやれば、悟りというものがどういうものか理解できます」と物凄いことを言っていました。

そして僕はそれを、約3ヶ月続けたのです(笑)。

結果として、僕が「悟り」を得た、などとは口が裂けても申しませんが(笑)、この時の経験より、ロンチェンパの瞑想と、一指禅功には、とても似たような感触を感じるのです(出来れば、是非一度この点について、中沢先生とお話してみたいのですけれどね)。

また僕が、後に一指禅功と巡り会ったきっかけとなったのも、ロンチェンパのこの瞑想だった、と言ってもいいかも知れません。と申しますのは、このロンチェンパの瞑想を続けている内に、僕の周りで、奇妙な現象が起こり始めたのです。

具体的には、人の運命が見える、ということです。

最初は、誰それがテストに失敗する、といったライトな内容のものだったのですが、それがだんだんエスカレートしていくのに、そんなに時間はかかりませんでした。ついには僕の予言通りに、二人の方が亡くなり(その内一人は自殺で、それも的中しました)、一人の方が半身不随になられたのです(その原因も、的中しました)。

さすがの僕も、このままではマズイ、と思いました。そして、人の運命を読み取るだけではだめだ、もしその人が不幸な運命に陥りかけているのならば、その運命を逆転させる方法をこそ学ぶ必要がある、と考えたのです。

そのためには、ある種の身体技法が有効なのではないか、と考えた僕は、まずは日本の修験道を当たったのですが、どうにも満足のいく答えが得られません。ロンチェンパの瞑想以外の基礎的なヨーガも当たりましたが、ここも今一つでした。

それでは、と思って手を出したのが、気功法だったのですが、入門した廖先生のところがその無上ヨーガ・タントラの色彩を色濃く残している(と僕には思われる)一指禅功を指導している、というのは、入門するまでは全く知りませんでした。

こうしてこれらの要素は、僕の中で、奇妙なループを描いているわけです。

ですから僕自身の中では、ヨーガも禅も気功も、完全に一体になっています。師匠は混ぜるなというのですが、僕に関してはそれは、以上の経緯より、土台無理な話です。何故ならそれらを全て敷衍した上で、気功法に辿り着いているのですから(笑)。

それに、そうやって一巡してみても思うに、実用性という点から考えると、これらをバラバラに論じることは、単なる趣味的なジャンル分けという意味以外に、一体どのような意味があるのだろうか、と懐疑的になってしまいます。

そこら辺の、ヨーガや気功や禅などをひっくるめた、東洋思想全般のお話もできたらいいな、と考えています。勿論、文学的ではなく(そういうのは、マニアに任せておきましょう(笑))、実用的な観点からですけど。

ここで断りしておきたいのですが、僕が言う「禅」の中には、日本の禅は、全く含まれていません。

このことは実は、先生ご自身が前回のメールの中で述べておられた感想にも、大いに関わってきます。

先生は前回のメールで、「瞑想は退屈との戦いですが、気功は気感が変化していくので飽きない」、とおっしゃっています。普段あれをやれ、これをするなどほとんど言わない師匠ですが、そんな彼も、日本の禅だけは絶対にするな、と言います。

何故か？そこには、例えば"気海丹田"などの同じ言葉があったとしても、実際それをどのように用いるのか、といった内丹理論が完全に欠けているので、やっても全く効果は無いからです。

ポイントはここです。つまり、気感が欠如したままでは、ヨーガであれ気功であれ禅であれ、全く何の効果も無いのです。

退屈になるのであればまだいい方で、たまに精神分裂病になる方もいらっしゃいます("偏差"というやつですね)。現に日本の禅寺では、修業中に精神に異常をきたす人が、昔から後を絶ちません。

ここには、日本の禅宗を興したとされる道元が、中国に渡ってはみたものの師匠につくことが出来ず、仕方が無いので禅の形だけ日本に持ち込んで「独自の」禅宗を興した、という歴史的な事実が背景にあります。

禅は、精神を鍛えるものではありません。それは完全に誤った認識です。本来の禅は、文字通り、"功夫"の一部です。従って、むしろ世間のイメージとは全く逆に、身体を強健にすることこそが、その主眼なのです。

そして、『健全な精神は健全な身体に宿る』という言葉通り(これはヨーロッパの格言ですが)、精神はその後で、自動的に調整されます。これが本当の、禅のトレーニングのプロセスなのです。

ですから、僕の具体的な指導においては、この気感をベースにセッションを進めます。逆に、これを的確に掴むことさえ出来れば、後は自動的に進んでいきます。

コツさえ掴めば、やればやるほど気感は高まっていきますから、とても面白いし、第一、そのような身体のフィードバックを手掛かりに進めることが出来るので、練習がやり易いと思います。

最後に、お尋ねの意念の件です。もし意守丹田されると呼吸が苦しくなる、ということでしたら、意守されない方が良いでしょう。

以前少し触れましたが、実際この意念という問題は、非常に微妙なのです。ですから、僕がご指導する場合には、基本的に意守はお勧めしていません。と申しますのは、それをやり過ぎると、心身共に、リラックスが妨げられるからです。

ですから、当面は意守はなさらない方が良いでしょう。僕とお会いになるまで(笑)。やはりコツがあるんですね。

それに加えて、実是一指禅功の場合は、意守する場所自体も独特です。そして、これが正に秘伝なのです(笑)。

というわけで、僕が参るまでは、先ずは全身のリラックスを念頭に置かれて、"釜作り"にお励み頂ければ、と存じます。"釜"が出来れば後は簡単、意念でもって火をつけるだけです。そうです、もう先生是一指禅功への道を歩まれているのです(笑)。

それではまた！

<追記>

ところで、ご指摘のあった練功中の時空の変容についてですが、これに関しては、目下研究中です。でも、そんなに難しいことではないのではないか、という気がします。物凄いこと言っていますけど(笑)。

実際このことは、人間の"知覚"("感覚"ではなく！)に、何らかの影響を与えれば、容易にもたらされうるものなのではないか、と思います。そのような例は、催眠のケース・スタディの中に、かなりたくさん出てきますね。

これは、「時空の変容は、催眠によってもたらされるものだ」というミもフタもない(笑)結論以上に、実はラジカルな問題を、我々に突きつけているように思います。

つまり、我々が認識しているものの自体が、既にある種の催眠の結果なのではないか。そしてま

さにこのことが、フーコーが"エピステーメー"、ラカンが"想像界"、さらにはブッダが"無明"という言葉の中で、描き出そうとしていたことなのではないか、と僕には思われるのです。

もっとも、催眠という心理学的な手法を用いなくとも、空間中にある種の熱源を発生させることは、比較的簡単に出来ます。この辺のことも、実地でやりましょう(笑)。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

2007年中国の旅

なかなか大変な旅でした。

この場で多くを語ると政治問題化する恐れがありますので、涙を飲んで差し控えさせていただきますが、ただ一言。厳戒の核武装地帯で、人民解放軍に拘束されなくて良かった・・・。

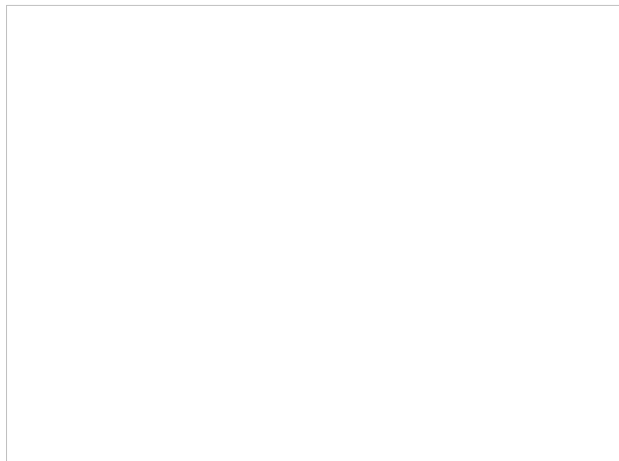
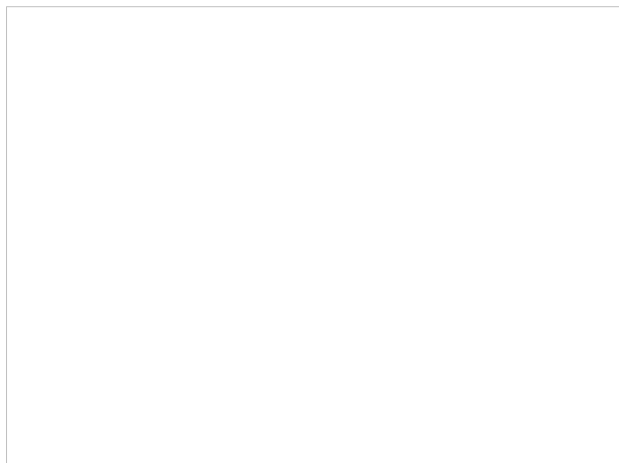
中国へ行かれる場合は、行き先、同行者共に、十分な下調べを致しましょう。

因みに、今回の中国旅行の成果を、易に訊いてみました。その結果。

天水訟(二爻)⇔天地否

「敗訴する。下のものが道に反して上と争うのだ。禍を招くのは当然である。争いから逃れ、自己のささやかな領分を守って慎んでいれば、禍にはならない。／小人は上の命を従順に受け入れて吉。君子は信念を曲げてまで妥協するわけにはゆかぬ。八方塞がりであってこそ、信念を貫いてゆくことになるのだ。」

・・・いや～、良い勉強になりました。



ある精神科の先生との対話(7)～気功とビジネス、中国の気功を巡る現状、意念の功罪、施術における全体性観念

そういうお申し出を頂けると、とても嬉しく存じます(笑)。

実は大っぴらには申し上げられないのですが、この地元でも、広告宣伝などの目立った営業活動をしていない理由の一つは、できるだけそうやってフットワークが軽い状態にしておきたかったからなのです。一応馬氏点穴療法や無為気功師範の免状は取得致しましたがけれど、やはり当面は、施術を中心とした営業活動よりも、これらの応用可能性の追求を含めて、もっともっと自分の研鑽に力を入れたいものですからね。人様を"癒す"などは、まだまだおこがましい、と考えているんです(笑)。

もう一つの理由は(それと似たようなものかも知れませんが)、本来のジプシー的な性格からですね。この点はどうやら先生と全く反対なようですが(笑)。子供の頃から、とにかく旅が好きでした。母親が元々県外者ということもあって、物心つく前から、あちこち連れ回されていましたね。夏休みなどは県外で過ごすのが当たり前、みたいな子供でした(笑)。

ですから逆に、定住が出来ないんです。それは場所を問いません。東京には7年、関西には延べ8年いましたが、そこに定住しよう、という発想は、最初からありませんでした。定住すると、その他の可能性が封殺されてしまうような、奇妙な強迫観念が頭をもたげてきてしまっ。ですからチケットにせよ何にせよ、"予約する"というものも嫌いなんです。これは極端でしょうけれど(笑)。

このように、そういった嗜好は、僕のスタンス全てに影響を与えてしまっているようです。

これは前から議論しているように、学問に関してもそうですね。一つの学説を固守するという姿勢は、どうも苦手なのです。そういう人とか(笑)。むしろ、そのようなジャンルの垣根を食い破って拡散していく、みたいなムーブメントの方に、とても親近感を覚えるわけです。現代思想で言えば、ポスト構造主義とか。

ですから、一箇所に営業上の"安住の地"を設定するよりは、"流浪の民"的なスタンスをキープしたまま、勉強や仕事ができたらいいな、というのが、僕の理想なのです。

毎月何らかの形で上京するのは、その一環ですね。「お金が大変じゃないですか？」とよく聞かれますが、それは全然問題になりません。自由に勉強や仕事が出来た環境には、変えられないですからね。それに新幹線に乗れるし。ガキっぽいですけど。新幹線のターミナルにいただけで血がうずく、みたいな(笑)。

東京滞在中は、国会図書館へ行ったりして勉強するのが基本に、様々な人にも会います。母親がビジネスをしている関係もあって、その多くは、ビジネス・パーソンです。東洋医学者ではないところがミソです(笑)。

先にも申しあげました通り、僕の考えでは、気功法の発想というものは、"癒し"に留まらず、ビジネスや、組織マネジメントなどの分野にも、立派に応用可能だと思うのですね。

それどころか歴史的には、そちらの方がメインだったりするわけです。例えば、偉大な気功家として伝わっている太公望呂尚や諸葛亮孔明は、強大な軍を率いた"軍師"としての側面の方が有名ですね。彼らのように、陰陽五行や易を使って、天・地・人の気をコントロールし、国を動かす、というのも、立派な気功の一分野なのです。風水はインテリアではないのです(笑)。その基本となる発想は、十分に現代のビジネスにも応用できる、と思います(余談ではありますが、実はそういった意味で、お住まいの"久留米"という場所には、一時期とても興味を持っていたことがあります。と申しますのは、孫正義氏や堀江貴文氏の出身が久留米でしたね。まあ、後者は残念ながらコケちゃいましたけど(笑)。彼らの他にも、久留米出身の著名な人物は、たくさんいらっしゃったと思います。少なくとも久留米だけで、鳥取県の数十倍ではないかと(笑)。そのような土壌には、どんな特性があるのだろうか、それこそ風水的な意味で何か重要なことが隠されているのではないかと、とても興味深いんですね(笑))。

だからと言って僕は、符呪を使って会社経営を占う、といった類のことをしているわけではないのですが(笑)、例えば、マクロ経済的な視点に立てば、顧客の動きなど、企業を取り巻く環境をどういった視点で捉えていくかは、現代のようなグローバル化の奔流の中では、死活問題ですからね。あるいはミクロのレベルでは、ビジネスは、最終的には人と人との関係に帰着します。商談の中でいかにして相手の"気"を読み、それを自分のビジネスに直結させていくのか。そういった話と、点穴療法などの手軽に出来るヘルスケアの話が同時に出来るものですから、諸氏には有難いことに、重宝されているようです(笑)。

ですから、オファーがあれば、僕はどこにでも参上致しますので、こちらとしても宜しく願い申し上げます。ラーメンと焼き鳥に関するかなり詳細なレポートに、大変心を打たれました。先生はかなりの美食家とお見受け致します。是非とも伺ってみたいですね(笑)。

そうですか、中国政府は施術の上限を3人までにするように指導していると。それは初めて聞きました(笑)。

その行政指導の内容の信憑性はさておき、確実に言えることは、中国政府と気功との関係は、非常に微妙だということです。と申しますのは、多分ご存知だと思われますが、"法輪功"という気功団体があって、これを政府は、反政府組織と捉えています。その影響で、その団体だけではなく、気功そのものに関して、政府はかなり抑圧的なのですね。

何を隠そう、僕達もそのとばっちりを一度受けたことがありまして(笑)。と申しますのは、西安の空港で、人民解放軍に囲まれちゃったんですね。原因は、ガイドさんが持っていた"無為気功養生会"の旗でした。その中の"気功"という文字を、彼らは見逃さなかったんです。

僕ら参加者は日本人なので、全く問題は無かったのですが、先生達はかなり長いこと尋問されていましたね。日本に住んでいるのならば、歴代天皇の名前を全部言え、みたいな、ほとんど言いがかりに近い内容のものだったようですが(笑)。結局何とか帰国することは出来たんですけど、さすがにこの時は、中国政府の"気功"に対する神経質さを、目の当たりにしましたね。

更に言えば、あの文化大革命の時、毛沢東主義の絶大な影響下で、気功は旧世界の無知蒙昧の産物である、と断ぜられて中国中で排撃されたのですが、この時劉先生も槍玉に挙げられたんですね。実際その時、彼の唯一の著作である一指禅功に関する著作が、完全に焼却処分されています。いずれもう一度書き直そうと思っている、と以前お会いした時にはおっしゃっていましたが、あれから数年経ちますがそのような気配は一向に見られないのが、残念なところです(笑)。

そういった意味でも、政府がそのような指導をしている、という噂は、極めて疑わしいかな、というのが僕の意見ですね。あるいは邪推して申し上げれば、結局中国国内がかような状況ですので、そこにいた気功家が大量して日本に移住しちゃったんですね。ですからそんな彼らが、自分達の正当性を主張するために、実は私は中国政府からこのような指導を受けるだけの(つまり「国家公認の」(!))人物なんです、とアピールする意味で、そんなことを言っている可能性はありますね。深読みかも知れませんが、でもそういうところは結構あるみたいですからね。

また、百歩譲って、仮にそれが事実だとしても、施術は一日3人までというのは、商売としてだけではなく(笑)、その内容としても問題だと思えますね。僕は逆に、3人では欲求不満にならないのかな、と心配してあげちゃいますけど(笑)。

ですから、以前も申し上げました通り正にこの点が、他の気功法と一指禅功との、根本的な差異なのかも知れませんね。

実はこの差異のポイントは、「宇宙の気を取り入れている」という言葉自体に隠されているように思います。これが危険なのですね。というのは赤陽先生によれば、宇宙の気を取り入れているつもりが、逆に出て行っちゃってる、みたいな冗談みたいなケースも、実際にはあるようです。

から。

前回少しだけ触れましたが、ここで問題となるのは、この"意念"の持ち方なのです。これに失敗すれば、このような消耗の問題が生じる、ということらしいですね。それは僕も実感できます。

ですから僕も、Y君に教える場合には、あまり意念にはこだわらないように言います。むしろ、意念は特に必要ないのです。これは言わば、オプションですね。あっても良いし、なくても良い、という感じです。僕はこの例は結構気に入っているのですが、気功施術で意念を用いるのは、東京に向かっている新幹線の中で、早く着きたいがために進行方向に向かって全力で走るようなものではないかと(笑)。そんなことをせずとも、必ず到着できるのです。

もっともこのような意念に対する見解は、一指禅功の練習の中に具体的な形で出てくるわけではなく、ある意味僕のオリジナルな見解です。でも、劉先生が常々おっしゃっている「気功は功夫だ」という言葉を素直に拡大解釈すれば(普通こういう言い方はしないのでしょうか？(笑))、このような見解が出てきてもさほどおかしくは無いのではないかと。

ですから、気功のトレーニングというものは、西洋のウェイト・トレーニングのような形で、極めて即物的な形で進めることが、十分に可能だと思います。ラーメンで言えば、"宇宙"だとか"超常現象"は、コショウや七味などと同じオプションに過ぎない、というのが、僕の意見ですね(笑)。

更に申し上げれば、僕の中では、このように意念の役割を限定させること自体が、"先天の気"に全く手を触れない、ということに繋がっていると思います。意念を用いれば脳に負担がかかります。これが身体の消耗を加速させるわけです。ですから意念を排して即物的な発想、あるいはアプローチをすることで、施術中の身体への負担を軽減させるわけです。

慣れたら、眠りながらでも出来ます。こんなことを言っているのは、僕だけでしょうけれど(笑)。

完治に関して言えば、そのように個別の症状ではなく、全体を見る、という視点が重要だと僕も思います。これは東洋医学の"全体性観念"にもリンクしてくることなのでしょうけれど。

ですから、足りない部分は補い、余った部分は捨てる、あるいは身体全体を見て、足りない部分は余った部分から補充する、というスタンスは、重要だと思います。

これを逆転すると、体中の経穴を全部覚えなければ、みたいなパラノイアの罠に陥ってしまう(笑)。重要なのは、個別の経穴ではなく、経絡全体のバランスだ、と僕は考えます。

また実際、馬氏点穴療法の指導を受ける際、個々の経穴ではなく経絡の方に焦点が当てられていたのは、学ぶ方としてもとても学びやすかったですね。実際赤虹先生によれば、それは歴史的な経緯でもあったようです。彼が言うには、中国のある遺跡で、中国最古と思われる経絡のルートが記された人形か何かが出土したらしいのですが、それには経穴は一切記載されていなかったそうです。だとすれば、それを素直に解釈すると、経穴は経絡の後に出てきた概念である可能性がある、ということになります。

いずれにせよ僕の経験上も、経絡から、全体のバランスを考えながらアプローチした方が有利、ということになるかも知れません。

なかなか練功の方も順調なご様子で、何よりです(笑)。

先ほど経穴と経絡のウエイトの差異について申し上げましたが、更にはその経絡の中にも、ウエイトの差異があります。

東洋医学によれば、人体には12本の経絡と、8本の奇脈というものがございます。その差異に関しては、前者は支流で、後者は本流、という例えを用いるようです。

つまり、テクニカル的に考えても、本流である奇脈を充実させれば、そこからあふれ出たものは経絡へと流れ出ていくので、結果として経絡の方も充実させることが出来る、ということになります。

このことを踏まえているのかどうかは判らないのですが、気功あるいは仙道の入門の行として"小周天"というものがあるのですが、これは督脈と任脈をベースに練功を進めます。これが進むと"大周天"という、全身の経絡に気が充実した状態がもたらされる、とある文献にはありました。

ところが、ではこの順序が全ての流派に共通かと言え、そうとも言い切れません。いきなり大周天から始めるところもあれば、インドのヨーガの影響下で発達したチベット・ヨーガなどでは、"中脈"という独自のルートでトレーニングを積んでいくところなどもあって、なかなか十把一絡げにはいかないようですね。

でも何度も申し上げているように、全てに共通する要素は、"リラックス"です。まずはそれを念

頭において進まれて下さい。逆にその感覚が判れば、そのような流派ごとの差異も、ご自分の身体を通じてクリアに把握できます。全てはオプションなんです。「あ、クンダリニってこのことなんだな」と判ったりするのは、結構面白いものです(笑)。先生が、帯脈や督脈に気が通るのが確認できた、とおっしゃられるのと、全く同じですね。

そのように体感ベースに進まれるのが、確実なトレーニングの進め方だと思います。

というわけで、こんな僕でよろしければ、久留米の方には、是非赴かせて頂きたいと思います。日程に関しましては、先生は診察でお忙しいので、先生のご予定を中心に考慮頂ければ、結構かと存じます。僕の"流浪の民"的な行動パターンは、クライアントの皆様には良くご理解頂いていますからね。とても有難いことです。

僭越ながらご自宅にお泊め頂くとなれば、おっしゃられるように文字通り徹夜で(笑)、ご指導させて頂きたいと思います。依然申し上げました通りこういう分野は、かなり触覚に拠る部分が多いので、それはフェイス・トゥ・フェイスでなければお教えするのはかなり難しいものですかね。その代わり、どうやら先生は気感も充分なご様子ですので、恐らくその基礎は、一夜でマスターして頂けるものと思います。僕の一夜のセッションで、他の気功教室30年分はいけるでしょう。すごいこと言ってますけど(笑)。Y君の場合もそうでしたね。彼は現在、膨大な量の外科手術の合間を縫って一人で実験を続けていて、毎日その経過報告をしてくれますよ。頼もしい限りです。基礎さえ習得して頂ければ、後は文字通り、時間の問題なのです。

先生も、その素質は充分です(笑)。

その他出張施術に関しましても、僕は前向きに取り組ませて頂こうと思います。繰り返しになって恐縮ですが、そのように行ったり来たり出来るというのは、最大の魅力ですからね。美味しいものも食べられるし(笑)。また、それが自在に出来るというのが、この一指禅功だったり、馬氏点穴療法の魅力なのかも知れません。器具も薬も一切使わず、僕の指一本で、そこにクライアントさんがいればすぐに施術が可能なわけで。整体や鍼灸とは、そういう意味でも全く異なっていますね。整体や鍼灸なら、絶対にやってはいませんでした(笑)。

ですから僭越な言い方を許して頂ければ、そうやって僕が場所・時間を問わず行動すること自体が、気功法の可能性を探っていることに繋がっているのかも知れません。そうであれば、とても嬉しく思います。

今月(注：2007年6月)とかでも、充分に対応させて頂きます。23日前後は無為気功養生会の関係

で上京するのでその前後数日程度は外して頂けると有難いのですが、それ以外でしたら平日でも大丈夫です。先生のご都合の宜しい時にお気軽にお声をお掛け頂けると、嬉しく思います。その代わり僕の方としても、先生が他の気功家諸氏に臨むべくもない多くのことをご提供できるものと、確信しております。

そうやってお互いに研鑽を積むことが出来たらよいですね(笑)。

それでは良いお返事を心待ちにさせていただきます(笑)。それではまた！

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

夏季休業のお知らせ

謹啓 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
いつも格別のご愛顧を賜りまして、真に有難うございます。

早速ではございますが、今月の17日より27日まで、中国武当山へ、研修旅行に参加します。
その間、業務を休止させていただきます。
営業再開は、帰国後、28日よりとさせていただきます。

皆様にはご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご理解賜りたく、お願い申し上げます。

やわらぎ気功クリニック 中原勇一



ブログ掲載の件、真に有難うございます。早速実行させて頂きたいと思います。

実はここだけの話なのですが、意外に思われるかも知れませんが、僕は筆不精なんですね(笑)。書かなきゃ、と思うとなかなか書けない。ですから毎回のブログも、結構大変な思いをして書いているんです。

面倒臭い、という意味じゃないんですね。触発されるものがないと、行動を起こせない、と申し上げた方が、真実に近いかも知れないですね。尋ねられたら答えますけど、尋ねられなければ答えない、という単純な理由です。あまり人様を扇動しようというタイプではないものですからね。そういうタイプでしたら、もう少しお金が入ってきているのでしょうかね(笑)。

ですから先生のご質問には、とても触発される場所があったので、こうして僕の中にあったデータベースが、日の目を見ることが出来たわけです。

そういった意味で、先生にはとても感謝しております(笑)。

前回申し上げたことにも関係してきますが、これが積極性のある方と無い方の差にも繋がってきてしまうんでしょうね。先生やY君の場合は、まさに専門家ですから、文字通り「ツボに入った」ご質問を頂けるのですが、それが僕自身の更なる学習に繋がるわけですね。まさにフィードバック、というわけです。

しかし積極性の無い方だと、それは、望みたくても望めないですからね。

そういった意味で僕は、ある意味"自閉的"なのかも知れません。他者にさほど関心が無いというか(笑)。他者云々よりもまずは、自分自身が成長したい、と考えるタイプなのですね。

点穴療法にしても、人様を「癒そう」などという大それた気持ちで始めたわけでは決してなく、気というものが人体にどのように影響を与えるのか、を研究するためには、横浜教室という文脈の中では、点穴療法を習得した方が便利であろう、と考えたからですからね。より強いパワーを求めている、という点では、アナキンっぽいのかも知れませんが(笑)。

ですから現在の僕も、生活の糧として施術を行うことよりも、勉強の方に、ウエイトを置いています。最近エリクソニアン催眠に興味を持ち始めたのも、その一環なのですからね。

でもその調子だとさすがに食べていけなくなりますので(笑)、そろそろ方向転換を図ろうかな、と考えているところです。それに気のメカニズムを調べるためには、古典を当たるよりも、実地の施術の方が有利かも知れない、ということが、だんだん分かってきましたのでね。

いやはや、難しいところです(笑)。

ところで、「気功女医さんネタの後日談」はなかなか興味深いですね(笑)。

実は、まさにご指摘の点について、前回触れようと思っていたところだったのです。しかし、先生との方との関係が僕にはわからないので、いきなりそのような議論をするのは失礼に当たるな、と判断したので、思い切りオブラートに包んでしまったのですけれど(笑)。

と申しますのは、正にご指摘の点が、その女医さんのように先天的に施術が出来る方と、僕のように訓練によって後天的に施術が出来るようになった人間との差異かも知れない、と思われるからなのです。

お聞きになったことがあるかも知れませんが、人間の気には、『先天の気』と『後天の気』の二種類があります。前者は、「腎」に蓄えられた元々の生命エネルギー、後者は、呼吸・食物によってもたらされる後天的なエネルギーです。ここまでは普通の気功関係の本にも書いてありそうな、言わば哲学めいたことのようにですが、ここには実は、気功の施術という実用的な側面に関して、とても重要なことが示唆されているのです。

と言いますのは、師匠の解説によると、気功施術で注意しなければならない点は、この両者は厳密に区別されなければならない、ということです。

具体的に申し上げますと、気功家の中には、両者を無分別のまま「外気」という形でクライアントに与えてしまう人が多く、それは、気功家自身にとって極めて危険である、ということなのです。

この時、何が起こるのでしょうか？両者を区別しない気功家は、施術中知らず知らずのうちに、根源的な生命エネルギーである『先天の気』までクライアントに与えてしまうことになるので、結果として、施術後に疲れ果ててしまう、ということになります。

ですから、このタイプの気功家であれば、一日の施術可能な人数は、高々数名で、しかも施術

の後、動けなくなってしまう、ということが、頻繁に起こるのだそうです。

このことに関しては僕も、よく似た話を聞いたことがあります。いわゆる、「気功家は長生きできない」、というやつですね。もっとも僕は入門当初は、施術をするつもりではなかったのので、そんなに気にはしていなかったのですけれど(笑)。

ところが師匠によれば、一指禅功だけは違う、ということです。

つまり一指禅功では、両者を厳密に区別するのです。従って『先天の気』は全く何の影響も受けません。施術で用いるのは『後天の気』だけです。

では、それはどうやって分かるのか？「お腹が空く」という極めて単純な事実です(笑)。

現に、劉先生や廖先生が何十人も一気に施術しても、二人が疲れている様子を僕は見たことがありません。僭越ながら、僕もそうです。今は勉強中の身ですので、一気に十人以上施術した経験というのは極めて稀なのですが、そういう状況でも、僕は全く影響を受けません。「お腹が空く」という一点を除いてですが。

因みに、劉先生は70半ばを超えておられますが、僕の数倍は食べます。見てて気持ちが悪くなるほど(笑)。

またこの点が、一指禅功の点穴療法と、馬氏点穴療法との差異でもあるのです。つまり後者は、そのような気の消耗を避けるため、極めて機械的なツボの操作に特化しているのですね。つまり、気そのものをさほど重視しないことで、結果的に、その消耗を防いでいるわけです。気功のトレーニングを積んでいない人でも馬氏点穴療法は習得できる、というのは、そういう意味です。

逆に、一指禅功の場合は、気功のトレーニングを積まない限りは、ほとんど不可能です。もしかしたら、形だけをそのままサンプリングしてやれなくもないのでしょうけれど、結果として、先のような気の消耗の問題が出てきますので、やればやるほど体は疲弊していくでしょう。

師匠がこう言ったことがあります。「釜に水を入れて火を付け、蓋をする。だんだん煮え立ってくると、蒸気が釜のふちから吹きこぼれてくる。外気発射では、それを使う」と。これはメタファーで、この一つ一つの要素が、全て、一指禅功の練功に繋がっているのですが、実際こうすれば、『先天の気』の消耗は、避けることができます(実はこの問題は、「意念」の持ち方の問題に帰着します)。

そんなわけで、僕の場合はそのような割とメカニカルかつ即物的なトレーニングを積んできた結果、施術が出来るようになった、という経緯があるのですが、逆に、先天的に施術が出来る人は、どういった経緯で施術が出来るようになり、実際にどのように行っていらっしゃるのか、また先のような『先天の気』の消耗という問題に関して、どのような対策を講じられているのか、あるいはいないのか、以上のような視点からも、とても興味があるというわけです。

また面白いお話があったら、教えて下さいね(笑)。

特定の経穴だけを調整するというのは、対症療法に終わるのではないか、というご指摘は、至極ごもっともです。実際僕も、そう考えています。

ですから僕の施術の場合には、全身の調整をメインに据えています。つまり、全部の経絡を通すことを、施術の主眼とするわけです。その上で、主訴に対応した経絡を、他の経絡よりもやや丁寧にする、といった感じですね。

この意味で必ずやるのは、神闕と命門です。

ここら辺のやり方は、一指禅功そのままですね。師匠は、やり方は教えないが、盗むのは構わない、と言っているのですが(笑)、僕の見る限り一指禅功では、必ずそうやっていますね。

この点に関しては、今度はクライアントさんの報告によれば、僕の指から出た気が、神闕から体内を通して、最終的に患部に達するのを感じるのだそうです。

ですから、理論と実践の両面で考えても、経絡全体のバランス調整の方が、個別の症状のみに固着した施術よりも重要ではないか、と僕は考えています。

特定の経穴を対象にするという場合は、飲み会の席とか車の中とか、初めての方に"お試し"でやる時ですね。すごいこと言ってますけど(笑)。

練功の進み具合も、なかなか素晴らしいですね。どうかその調子で進められて下さい(笑)。

よく「毎日どれくらい練習するんですか？」との問いに、僕が「さあ～、二、三時間くらいですかね～」と答えるとびっくりされますが、それは、ぶっ続けでそのくらいの時間やっている

、という意味なのではなく、ほんのちょっとした、例えば5分とか10分とかのものをトータルして、という意味です。ぶっつづけで二、三時間も坐禅をやるなんて、ぞっとしますね(笑)。

逆にこうなってしまうと、もう完全に顔を洗ったり歯を磨いたりするのと同じで、やらなかったら単純に気持ちが悪いです。全然練功しない日というものを想像するだけで気色悪い(笑)。

それは、そう信じている、というメンタル的な問題ではなく、明らかにやるのとやらないのとでは体調が異なりますからね。正に、先生が今感じておられることと、一緒です。

そうなる、と、独りで練功は進んでいきますので、どうか気楽な気持ちで取り組まれて下さい。

そして、全ての基本となるのは、リラックスです。このリラックスの感覚もどんどん変わっていきますので、結構面白いですよ(笑)。

ところで、久留米のラーメンは魅力的ですね。僕もラーメンは大好きです。九州と言えば本場ですものね(笑)。

さすがに旅費をご負担頂いたり、お家に泊めて頂くなどということは恐れ多いことですが(笑)、でももし先生さえよろしかったら、そちらへ出向かせて頂きますよ。僕は以前にも申し上げました通り、割と自由が利きますからね。

もしレッスンその他でお入用でしたら、どうかご遠慮なくお申し出下さい。いろいろとフェイス・トゥ・フェイスで、実体験を含めたディスカッションが出来たらいいですね。とても楽しみです(笑)。

それではまた！

JUGEMテーマ：心、体、そして魂。

先週末(注:5月19日)、久々に関西に出向き、Y君のお宅に泊めて頂いて、気功施術のノウハウを伝授して参りました。5歳と2歳になる二人のお子様の執拗な妨害を受けながらの講習は、なかなか手厳しかったですけどね(多分彼らは、僕が遊びに来たものだと思い込んでいたのでしょうけれど(笑))。

献体してくれたのは(笑)、奥さんです。彼女には旦那に請われて、一、二回施術をしたことがあったので、我々のケース・スタディには、もってこいでした。

彼自身は、自分の指先に気を導くことまでは、ある程度出来るようになったようですが、問題なのは、その先ですからね。

実際に、僕が施術に用いる主なツボと、経絡の流れを、奥さんの反応を確かめつつ、更に、彼の解剖学的な解説と比較しつつ、検証して行きました。

その後彼は、ブラインド・テストなどの西洋医学の解析手法を用いて、独自に研究を進めているようで、とても嬉しい限りです。

実は、彼が点穴療法に興味を持ったのは、僕に洗脳されたからではなく(笑)、実用的な側面からのようです。

というのは、肺の摘出などの外科手術の後、胸部の痛みに苦しむ方が多いのですね(まあ、当然のことではありましようけれど)。

彼が言うには、そういう時には単純に、神経ブロックの注射をすれば済む話なのではありますが、他のやり方はないのかな、と。どうしても薬物を用いれば、心身に対するそれなりのデメリットは、覚悟しなければならないですからね。

ですから、肺の疾患では、まだ外科的処置をされていない場合には、肺経を用い、摘出手術後の痛みの場合には胸郭が問題となるので、今度はそれに心包経を併用した方が良い、などといった東洋医学的な発想には、とても興味を示していました。

その後毎日、奥さんを実験台にして、施術の効果を随時、僕に報告してくれます。

ところが、どうやら彼の気は「キツ過ぎる」ようで、施術中に奥さんが、痛がる時があるようです。そういう時も、例えば、大腿部の胆経を施術している時に、肩がガンガンと痛くなってきた、みたいなケースがあるようで、もうこの時点で西洋医学では、両者の関連を説明できないですね(笑)。

まあそうやって先ずは、基本的な施術のやり方に慣れてもらうのが、先決ですね。

因みに、この技術の熟練という点に関して、もう一つ興味深いのは、奥さんがおっしゃるには、全く同じツボに指を置くのでも、僕がするのと彼がするのでは、感触が全然違うそうですね。位置の微妙な違いもさることながら、ヒットした時でも、その「立ち上がり方」が、僕に比べて彼の方が遅いと。

「ミリ単位の違いなんですかね〜。」と彼は冗談を言っていましたが、僕にとってもそのような指摘は非常に示唆的で、考えさせられるものがありました。

前回のメールで僕は、問題意識のない人にはあまり積極的に指導はしたくはない、と申し上げましたが、それを更に、再確認することになりましたね。

というのは、やはりそのような積極性のある人と、そうではない人とでは、着眼点が全然違うんですね。

また、研究したり指導させて頂く側の僕の方としても、なるべく虚心坦懐に、個々のケースを分析しようと試みてはいるのですが、科学的な解析手法に関しては、単純に知識が無いために、どうしてもその辺りで、限界があります。

そういった意味で、彼とコラボレートできることは、僕にとっても非常に有難い、と感じています。

彼は、「鳥取なんかに引きこもらない方がいいんじゃないですか？」と言ってくれていましたが、そうすると医学的に認められていない東洋医学の利点で(笑)、僕はサービスを提供する“自営業”という形になって、割と自由が利きますので、取り敢えずしばらくは、今のような、あっちへ行ったりこっちへ行ったり、というジプシーのようなスタンスを続けて、様子を見てみようかな、と思っています。

それに、ヨーダも言ってますものね。「時期を待とう」と(笑)。

ところで、その気功施術ができる女医さんも、面白そうですね(笑)。

実際こういった能力は、多かれ少なかれ、誰でもが持っているものだ、と僕は思います。

ただ僕の場合は、それが明らかに、練功の結果もたらされたものである、という点が、ちょっと他の方とは異なっているかも知れないですね。

この点が僕の、気功の世界を論理立てて説明しよう、とするスタンスに、つながっているのかも知れません。

ですから逆に、そのような方達が、そのような力が使えるようになった経緯というのものも、ある意味十分、研究の対象になり得るかも知れませんね。

その方とのディスカッションで何か、これは、と思えるような事例がございましたら、是非お教え頂きますれば、幸いに存じます(笑)。

『遊龍功』のDVDをお求めになられたそうですね。心よりご健闘をお祈り申し上げます(笑)。

ここで無為気功師範の僕が僭越ながらアドバイスさせて頂きますと、DVDの中には「静功」があったかと思いますが、これは基本中の基本となりますので、是非お試し頂けたら、と存じます。

また、動功として紹介されている遊龍功には、10の型がございますが、これは、重要なものから順に配列されております。

ですから、第一節が、遊龍功の中では一番重要な型、ということになりますので、十分お時間が取れないときなどは、この第一節だけでもなさると、よろしいかと思います。

勿論、細かい注意点や、更に、それを実行している時に身体の感覚がどう変化するか、あるいは、周囲の空間にもどのような変化が生じるか、などといった点は、DVDやメールでは、残念ながらご紹介できませんので(実は、僕の指導の場合には、単純な型の習得ではなく、こちらの“感覚”というファクターをメインに据えます。実際横浜教室では、師匠は、練功の邪魔になるから

、と、僕ほどの説明をしません)、それは実際に、お会いした時に、ということに致しましょう。

やはりこういうものは、お会いしてみないと、どうしても伝えられないのです。

と申しますのは、伝えたくても無理なのです。昔から「不立文字」と申しますが、それは別に神秘的な意味であったり、もったいつけているわけなのではなく、実際「気感」というものは、文字通り“触覚”に拠る部分が多いので、書いてある言葉を解しては、上手く伝えられないのですね。

その代わりに、先日のY君のように、フェイス・トゥ・フェイスであれば、ストレートに伝えられるのですけれどね。いやはや、難しいものです(笑)。

というわけで、もし関西にお出でになれる際は、是非お声をお掛け下さい。

彼も先生の話をして、非常に興味深そうに聞いておりました。実際に医療現場にいらっしゃる方々が、科学的な知見から気の世界に触れて頂くことは、この分野の研究に貢献すること大である、と確信致しております。

その日を楽しみにさせていただきます(笑)。

ところで先生、不躰な申し出で真に恐縮なではございますが、僕が先生に宛ててお送りしたメールのいくつかを、ブログに掲載させて頂いてよろしいでしょうか？

と申しますのは、先生のお問い合わせにお答えする形で書かせて頂いたこれらの文章が、最もよく僕の現在のスタンスを表現しているように思われ、これはその他の読者の方にも、いくらか参考にして頂けるのではないだろうか、と考えるからです。

言うまでもなく、先生が僕に宛てられたメールは、一切公開致しませんし、また本文中も先生のことは「先生」とし、先生の素性その他は、一切公開致しません。

こうやって新たに問題提起をすることで、また更なる問題意識を持った方のレスポンスを得ることができるかも知れません。

それは、我々にとっても大いにプラスとなるのではないだろうか、僕は考えているのです。

何卒ご理解、ご協力頂きますれば、幸いに存じます。

それではまた！

JUGEMテーマ：心、体、そして魂。

ある精神科の先生との対話(4)～精神医学と点穴療法、そして今の気功研究に見られる諸問題

いつもながら興味深い内容のメール、有難うございます(笑)。

トラウマを持った女性の構造分析は、なかなか考えさせられるものがありました。と申しますのは、僕が何となく感じていたモデルと、正にぴったり、という感じだったからです。

ということはこういうケースは、実際臨床でも、よく見られるということなのでしょうね。僕の場合はそれを文字通り、理論やケース・スタディからではなく、実地で感じてきたわけなんですけれども(笑)。だとすれば彼女達も、そのような症状を症状として、謙虚に把握することができていれば、まだ有効な対策を取ることができたんじゃないかな、という気がします。

一人の場合は、これから先も一人で暮らしていくのだとすれば、周囲への影響は最小限に食い止められるのですが(ひどい言い方ですね(笑))、もう一人の場合は、前にも申し上げました通り、得体の知れない「靈感」が伴っていて、しかもそこに、それを利用しようとするローカルな民間宗教団体が関与しているらしい。聞いた所によると、その先の霊能者が近年亡くなったそうで、その後釜に彼女を据えようとしているらしいんですね。今日は伊勢の奥宮に滝行に行ってきた、とか、宮崎県の何とかという大きな神社で宣託を受けてきた、と話しているのを聞いて、こんなので大丈夫なのかなあ、と思ったものです。

その他にも、奇妙だな、と思ったのは、僕に対してやたらと見下したというか、突き放したような態度を取る。僕は素直な人間なので(笑)、あ、嫌われてんだな、と思ったら、素直に手を引こうとします。当たり前ですね。でもそうすると烈火の如くに怒り出すので、僕としても全然わけがわかりませんでした。友人にこの話をすると、「そりゃお前、すねてるだけやんけ。女心が相変わらずわかってへんな」とか言われるわけなんですけれど、どうにもそれだけではないような不穏な気配を、漠然と感じていたんですね(笑)。

ご指摘の通り彼女の場合も、明らかに母親が原因ですね。母親との不和を常々口にしながらも、追従どころか、完全に母子一体となっている様子を見て、本人も周囲も変だと思わないのだろうか、ととても不思議でした。このアンビバレンスな関係が、他者にも波及しているのかも知れません。そこにはアイデンティティというものはなく、行動原理は単純に、他者に対する機械的な反応、という形に収斂していく。ちょうどその時、あの"Revenge Of The Sith"を見ましてね。もしかしたら、一緒にいる時に知らない間に、オーダー66を発動されて、僕は後ろから撃たれるんじゃないか、と思ったら、心底怖くなりました(笑)。

そんなわけで僕はオビ＝ワンよろしく、彼女から離れて辺境へと身を隠したわけですが(ここ鳥取は、ギャンブルと無法者と砂漠しかないという、正にタトゥイーンそのものです(笑))、逆に考えると、そういった彼女と一緒に過ごした日々の思い出は、僕にとってはノスタルジアどころではなく、精神病理学的に極めて学ぶべきところが多いケース・スタディそのものなので、その点では彼女に感謝すべきなのかも知れませんね。もっとも、彼女にとっては屈辱でしょうけれど(笑)。

資料をお送り頂きまして、真に有難うございます。なるほど、両者はなかなか興味深いですね。特にEFTというのは、経穴を応用するという点で、僕の分野にもかなりオーバーラップしてきますね。

ご指摘の通り、ゆくゆくはこういった経絡の概念を応用して、心の問題にも触れていきたいと考えています。精神面のケアを行う経絡としては『心経』というものがありますが、以前申し上げました通り、僕の考えでは、これは、心理的な緊張による諸症状は緩和できますが(不眠にはかなり効果的であるようです)、その根本原因となりますと、どうしてもそのような言わば「外科」的な処置だけでは、十分に対処ができないような気がするからです。

それともう一つ、施術の上で障害となるのは、いわゆるマイナスの自己暗示ですね。明らかに状況は改善しているのに、治らない、治らない、ばかりを口にする方がいらっしゃる。それが一種の「甘え」の弁であるうちはいいんでしょうけど、それが嵩じて、施術と併行してわけのわからない健康食品を大量に摂取して、逆に体調を崩した、というケースが最近あったのですね。だとすれば、ある程度施術中に、前向きに症状に取り組んでいきましょうね、みたいな暗示を加味した方がいいのかな、と考えたのが、催眠や暗示に興味を抱いた一つの要因です。言うまでもなく、もう一つの要因は、道教魔術ですけど(笑)。

ただ今の段階では、自分自身がまだまだ肉体的な疾患に対しても研鑽を積む必要があるので、なかなか心の領域にまで踏み込んでいけない、というのが現状かも知れませんね。

でも先にも申し上げました通り、ご指摘のあったEFTという技法は、自分の領域にもかなり近い位置にあると思われますので、研究してみる必要があるな、と思いました。

馬氏点穴療法の本を買われたんですね。おっしゃる通りです。気功の部分はほとんど記述され

ていないので、それを期待して買うと、あれ？ということになるかも知れませんね(笑)。

もっとも馬氏点穴療法自体が、実は、あまり気がどうのこうの、ということは申しません。というのは、誰でもできるように、という目的で構成された部分がかなりあるからです。気を用いるとなると、ちょっとやさっとではいけない部分がありますからね。

元々馬秀棠先生は鍼灸の先生でしたので、それらの技術を指に置き換えたらどうなるだろう、という思いつきが、そもそもの発端だったようですね。

ところが一指禅功の場合は、1500年間、それをずっとやっていたんですね。

この辺は、教室の中でもごっちゃになっています。よくよく聞いてみると、実は、赤虹先生が無為気功養生会の本部教室で馬氏点穴療法を教え始めたのは、15年くらい前らしいのですが、赤陽先生が一指禅功の劉永言先生についたのは、高々10年くらい前らしい。ですから、真面目に取り組んでいる人の中では、両者は混ざってしまう。先生は混ぜるなというんですが、無茶ですよ(笑)。

この辺の混乱した事情も、僕が馬氏点穴療法のやり方に準拠できなくなった原因でもあるんですけどね。

昨年の話なんですけれど、僕が大阪にいる時に担当したクライアントさんが、興味が嵩じて、直接横浜の赤虹先生の所で点穴療法のレッスンを受け始めたらしいんです。すると講義の中で、「これは中原さんがやっていた点穴療法ではない」と言い出したらしくて(笑)。そうしたら赤虹先生は、怒り出すどころか、笑って、「それはそうでしょう。あの人は何をやっても自分流に作り変えてしまう。多分日本中のどことも違うことをやってると思いますよ」と言っていたらしいですね。

そうやって僕を"放し飼い"にしてくれるだけ、先生は度量があるな、と改めて思いましたね(笑)。

弟子入りのお申し出、真に恐れ多く存じます。そう言って頂けると、とても光栄です(笑)。

実はここだけの話なのですが、僕は今のところ、積極的に教室などを開いて気功の指導をしたりしていません。何故か？問題意識がない人には、あまりお教えしたくないのです(笑)。

これは半分冗談、半分本当です。というのは、想像して頂ければおわかりかも知れませんが、普通気功やヨガの教室と言え、ほとんどカルチャー教室ですよね。僕の経験上そこに集まるのは、気功を極めてやろう、という主体性のある人は少なく、むしろ、占いや心霊現象などのちょっと不思議なものの好きの、ニュー・エイジ系の方が多い。

それで自分の健康の維持管理ができる、というのであれば、それはそれでその教室の目的は達成できているのでしょうけれど、それを科学的に検証して更に発展させよう、という意識は、全くもって皆無です。

僕はそういう傾向に、非常に懐疑的なのです。

残念ながら、横浜の教室でもそうですね。みんなで集まってわいわいやるのは、それはそれで楽しいのでしょうけれど、僕はそれだけでは満足できないのです。そういうところで自分の意見を言おうものなら、アナキン扱いされますし(笑)。ですから、先だっても地元の教育委員会に頼まれて、仕方なく教室を開きましたけど、動功の「基本の基本の基本」に"触れた"だけにしておきました。

更に、一指禅功という技法の特性を考えれば、問題はよりシビアになります。というのは前回も触れました通り、一指禅功では、ほとんど何もしないんですね。ところがこれを何も知らない人が見ると、あ、一指禅功ってこんなものか、簡単じゃないか、と誤解される危険性があります。

その中で何が起きているのかは、外からは全く判らないですからね。

そういう意味で一指禅功が、代々嵩山少林寺の、たった一人の高僧にのみ伝えられてきたのは、こういうことも理由なのかな、というのが、最近になって判ってきました。

かといって、僕一人で研究するのはやはり限界があるし、ある意味危険でもある。このような事情もあって僕は、真摯に取り組んでもらえる人にだけ、自分が実践の中で学んできたことをお教えしよう、と思っているのです。

そのような人は、今二人います。一人は前回お話しした呼吸器外科医の、Y君です。彼は僕の大学時代の後輩でした。大学を出てから僕は音楽療法から東洋医学へ、彼は西洋医学の道へと進みました。再会した時に僕は、彼が東洋医学を排撃するタイプの医者になってたらヤだな、と思ったのですが、全然そんなことはなく、ほっとしたものです(笑)。

尋ねてみると、彼の高校が高野山系の高校だったために、気や丹田といった東洋医学的概念

には、特に抵抗はない、ということでした(実際彼の高校では、『禅定』という、そのものズバリ、みたいな時間があったそうです。あれが最も苦痛だった、と言っていましたね(笑))。そんな彼に簡単なトレーニングを教えたところ、すぐさまマスターしました。

そして以前申し上げた通り、彼自身も、西洋医学の限界を感じる時が、実際の医療現場において、たまにあるようです。

しかし、現代の東洋医学を取り巻く現状は、現在主流である西洋のパラダイムにおける科学的な説得力という点で、明らかに欠陥がある、と彼は言います。

ですから、その両者の専門家がタイアップしたら、有効な研究が出来るのではないだろうか、というのが、今の僕の考えです。

もっとも、このような研究機関は、既に他にもあるのかも知れませんが、そこに参加している気功家の方々の中には、その実力に疑問を抱かざるを得ない方々も、少なからず見受けられます。そのことは、例のHPを見れば、ある程度推測できます。もしそうでなければ、もっと有益な研究が、出来ているはずですからね。

例えばこれは、気がある種の特殊な精神状態で発せられる、というよく耳にする言説にも関係してきます。つまり、気功に関するある実験をやろうとした時、その周りの状況をいくら完璧に設定したとしても、肝心の気功家の精神状態がベストでなければ、実験そのものが失敗する、ということになれば、そのような気功家の精神状態に左右されるような現象は、再現可能性を旨とする科学では、取り扱うことができない、という結論になります。扱いたくてもできないわけです。

しかし僕の経験から言えば、気は気功家の精神状態に、全く影響を受けません。

『気功の科学』(品川嘉也著、光文社、1990年)という本があって、その中では気功を脳波を使って解析しようという試みがなされていますが、私の経験上、気功と脳波は、全く関係がありません。実際僕の施術中、クライアントさんは大声で談笑されていますけれど、僕は全く影響を受けませんし。僕も笑いながらやっていますからね(笑)。

逆に言えば、そのような環境因子に影響されるような気功家は、その実力としてはいかなるものか、と推測せざるを得ないし、またそのような気功家を対象にして研究をしてみたところで、その成果ははなはだ疑問だ、とも推測せざるを得ないのです。

劉先生は、気功は功夫である、と常々言っています。それは特殊なものではなくとも、基本的

なトレーニングを積み、誰にでも扱いうるものだ、という意味を含んでいます。勿論、より高度なレベルに達すれば、精神面もかなりのウエイトを占めてくるのは当然ですが、施術に使う程度の気のコントロールは、精神とは無縁のところまでトレーニングを行っても、十分に達成できます。

もっともこの辺がライトサイドとダークサイドの分かれ目になるので、教える相手にも充分注意する必要があるのですが(笑)。

因みに今週末は彼のところに泊めて頂いて、点穴の個人講義をするつもりです。彼ならばこの技法の統計学的な解析も上手いでしょうから、安心です(笑)。

そのような状況の今、先生にそうお申し出頂けるとすれば、とても光栄なことだと思います。

出来れば、精神医学、外科医学、東洋医学の専門家が集まって、新しい研究機関みたいなのが樹立できたらいいな、と考えています。僕は科学的、統計学的な解析に関しては素人ですが、気を指に集中させて患部に放射する、みたいなテクニックは任せて下さい(笑)。

僕の目的とすることとは、狭いサークルで施術師として安住することではなく、この技術を科学的にもっと洗練させていきたい、ということなのです。

少々大きな話になるかも知れませんが、もしかしたらこれは、人類の進歩にも貢献できるのかも知れませんか。

赤陽先生がある時、こう言ったことがあります。「気功の技術を洗練させていくのは、もしかしたら本家本元の中国人では難しいかも知れない。というのは、私達中国人の中には、陰陽五行だとか易だとかいう伝統的な思考方法が強力にビルトインされていて、そこから脱却するというのは、実際困難なのですね。もしそれが出来る人間がいるとすれば、それは恐らく、東洋人でも西洋人でもそのいずれでもない、中間的な存在である日本人なのかも知れない」。それを聞いた時、僕は思いました。よし、その一翼を担ってやろう、とね(笑)。

その意味で先生も、一緒にディスカッションやトレーニングができれば、とても嬉しく思います。

というわけですので、もし先生が関西方面に学会その他でお出でになることがございましたら、一声お掛け頂けませんかでしょうか。できたらY君と三人で、今まで議論してきたような内容のお話ができたらいいな、と考えています。また、先ほど少しだけ触れたもう一人の人物とは、舞鶴在住の大学の講師さんでしてね。関西で講座を開く時には是非声を掛けてくれ、と頼まれている

んです。僕はそんな感じで、少数精鋭でいきたいんですね。

皆さんが一堂に会してディスカッションしたり、練功をしたら、さぞ面白いことになるのではないだろうか、と僕自身もわくわくしてきますね。

そのような感じで、この閉塞した現代社会の状況を、少しでもよい方向に変えられたらな、と思っているところです。

また長くなっちゃいましたが(笑)、それではまた！



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

では僭越ながら、僕も"先生"と呼ばせて頂きます(笑)。

先生もルーカス・ファンのご様子、とても嬉しく存じます。

実は、僕のパーソナリティに多大な影響を与えているのは、往年のSFと、カンフー映画なんです。我ながら極端だな、とは思いますが、このパーソナリティが形成された1970年代という時代状況を考えますと、仕方ないかなと。音楽でもそうですね。あの当時のものはいまだに日常的に聴きます。

そういう意味でも僕は、いわゆる「宇宙系」を、地で行ってるわけです。筋金入りです(笑)。

でも、スター・ウォーズはよく出来た映画だと思います。というのは、その世界観に結構東洋思想的なテイストが散りばめられていて、僕にとっては、二重に楽しめるんですね。

例えば彼は、ヨーダの台詞を作るに当たっては、禅の言い回しをかなり参考にしたようですし、更に言えば、ルーカスやハリソン・フォード自身が、チベット密教に造詣が深いようですからね。

そう言えば、僕が師匠の所に入門した時、師匠は僕に、それこそダーク・サイドの危険性を、かなり熱っぽく語っていました。最初は黙って聞いていたのですが、だんだん僕は気づいてきました。これはどうやら、僕に向けられているのではないか、と(笑)。

でも僕は、アナキンにはならないんです。というか、なれないんですね。何故か？僕は、彼ほどストイックじゃないものでして(笑)。

僕はどちらかと言えば、一つのことに徹頭徹尾のめり込むよりも、いろんな要素をいわば"つまみ喰い"するのが好きなタイプなのです。そうやっていろんなテイストをミックスすることで、今までになかった面白いものが生まれるのではないだろうか、と考えてしまうタイプなんですね。作曲家というより、DJタイプですね(笑)。

ですから、気や東洋医学の世界に入った時も、研究のやり方としては、ただそれだけをやるよりは、現代科学も援用しながらもっと多角的に行うべきではないだろうか、と思って、自分なりに実行してきました。

でも残念ながら、普通は逆の人が多いですね。この点は、正にご指摘の通りです。だからこの業界には、誰一人友達がいらないんです(笑)。

残念ながら師匠にも、若干そういうテイストを感じたりしますからね。以前言われた事があります。「中原さんが気を物理学で説明しようとしても、結局それは仮説の域を出ないのだから、そういう無駄なことは止めて、きちんと東洋医学にのっとった勉強をすべきだ」と。でも僕は、そうするほど素直ではないのです(これはプライベートな話になりますけど、廖先生は実は3人兄弟でしてね。僕が馬氏点穴療法を習ったのは、廖赤虹先生、一指禅功を習ったのは、廖赤陽先生と翠々先生で、先の弁をおっしゃったのは、翠々先生です。先生は普通の奥さんなので、いわゆる「科学する」という姿勢に、抵抗があるというか、不慣れなのかも知れません)。

もっと言えば、本職が言うのは変かも知れませんが、逆に過度に東洋医学に傾斜することの方が、現代社会ではむしろ危険なのではないのかな、と思うのです。

というのは、東洋医学の概念というのは、あまり現代社会では流通していないものが多いですね。そういう特殊な概念を、ほとんどそれを耳にしたことがない現代の患者さんに、真正面から提示するのは、ある種の抵抗を生じる可能性があるのではないか、と思ったのです。

「気」自体がそうですね。現代社会では「気＝宗教」と単純に結び付けられますから。この看板を挙げると先ずぶつかるのは、その壁です。それで僕は、多くの友人を失いました(笑)。

ですから、もし気を説明しようとすれば、先ずは、現代社会に一般的に流通している言葉でそれを行った方が良いのではないかと、思って、物理学に手を出したわけです。

そういう意味で、僕は元々文系だったわけですが、物理学の理論やその歴史の方が、僕に多くのことを教えてくれましたね。

具体的には、ニュートン的な世界観の根本的な転換を迫った相対性理論や量子力学の登場が、そうではなかったかと思うのです。ここでは、その当時ほぼ確立していた電磁気学を、先鋭的なまでに厳密に捉え、そこから思考することが、新たな世界観の誕生を促した、という歴史的経緯があります。例えば、量子仮説を提示することで量子論の扉を開いたとされるマックス・プランクは、彼自身が、自分の理論を全く受け入れることが出来ませんでした。彼は言っています。「絶望的な行為……。理論的説明を、なんとしても、どんな高価な代価を払ってでも、しなくてはならなかった。」(『量子の謎をとく』(フレッド・アラン・ウルフ著、講談社、1990年))。

逆に、あまりにも独創的な世界観をいきなり提出しても、淘汰されることが多い。例えば、ウ

ィルヘルム・ライヒとかがそうですね。

ですからそういう意味でも、まずは確立された物理学を援用して、気は恐らく電磁波だろう、という主張からスタートさせ、もしかしたらその主張を続ける過程で、それにそぐわないものが出てくるかも知れない、その時点で初めて、新たなエネルギーの存在を仮定しても良からう、というのが、僕の考えなんです。でも、普通は逆ですね。

気を標榜する人達には、確かに、物理学の言葉を用いる人もいます。デヴィッド・ボームの「明在系/暗在系」を引用したりといった形ですね。でもそれは、気が未知のエネルギーである、というア・プリオリな主張の、言わばダシとして、その用語を用いている、というだけのものなんです。そのような形での引用の仕方というのは、果たしていかがなものかと。

もっともこのような状況は、どこでも見られるものなのかも知れませんが。慶応義塾大学の小林節氏が言っていました。「今の憲法論議の問題点は、改憲派は改憲派だけで、護憲派は護憲派だけで集まって、予定調和的な議論ばかりしている点にある」。

そういう状況に関して、今の僕はあまりにも非力ですので、取り敢えずは自分の実力を蓄えねば、と思って、出来ることから手をつけている、というのが、現状ですね。

そうなんですか、『日本の気功家たち』にも、お問い合わせされたんですね。

あそこを紹介して下さったのはクライアントさんでしてね。「先生、少しは宣伝しないと駄目ですよ」と言われて、そこを紹介して下さったんですけど、あれも不思議なサイトですね。去年の7月に住所変更の連絡をしたのに、相変わらず大阪になっているし(笑)。

僕としては、まあ少しは宣伝になるからいいか、と思っている程度ですね。他のページもほとんど読んだことがないのです。そういうところと、僕も同一視されてしまうのはちょっと・・・とは思いますが、まあネット上では仕方ありません(笑)。

気に関しては、ソフトにアプローチした方がいいのではないかと気付いたのは、かなり最近ですね。

最初は、平柔法など、馬氏点穴療法のやり方にのっとなっていたのですが、以前申し上げまし

た通り、補寫の効果を検証しづらいというのもあって、途中から、指を当てるだけ、というスタイルに切り替えました。

実を申し上げれば、廖先生のところで扱っている点穴療法というのは、二種類あるんです。一つは馬氏点穴療法、そしてもう一つは、一指禪功点穴療法です。ただ後者に関しては、先生も積極的に教えようとはしていません。より正確に言えば、彼自身その正統後継者ではないので、どこまで教えてよいのか、図りかねているみたいですね。

ですからこれに関しては、「盗む」より他はありません。先生は僕を「ドロボー」と呼んでいますが(笑)。

そういった「盗み」の結果もあって、もしかしたら僕の場合は、傍から見れば馬氏点穴療法ですけど、中身はもしかしたら、一指禪功に近いのかも知れません。

また、ほとんど知られていない分、後者の方が面白そうですね。実際に、北斗神拳みたいな技もあるみたいで(笑)。でもさすがにそういうのは教えられないらしいし、ましてや教わる方としては、そういうのを大っぴらにブログやHPで語るわけにはいかないですからね。やはりこういうのは、奥が深いんですね。

そんな状況ですので、まだまだ修行中の僕としてははっきりとしたことは申し上げられないのですが、とにかく力を抜いてアプローチする、というのが、全ての基本になるようですので、先生もお試し頂けたら、と思います。

精神障害のお話、とても興味深く聞けました。やはり彼女は精神障害であったか(笑)。

実は、彼女はクライアントさんではなく、僕の大学時代の片思いの相手でした。あの頃の僕は、ナイーヴでした(笑)。

僕はこんな性格の人間ですので、ちょっと一風変わった女性に興味を持つものでしてね。彼女はそのものズバリ、という感じでした。彼女の方も、周囲にそのような自分のいわゆる「靈感」のことを真面目に突っ込んで聞こうとする人間などいなかったらしく、会えばいつもそんな話ばかりしていました。

ところがだんだん既知の仲になると、微妙にそのトーンが変化してきたんですね。どうもおかしい、と何となく感じ始めました。

その頃の僕は変なオカルト本の影響で、霊現象を頻繁に体験する人は、感受性が豊かだからであり、畢竟それは、「魂が崇高だからだ」からだ、と思い込んでいました(こう書いているだけで恥ずかしいのですけど(笑))。でも、魂が崇高な割には、やることや考えること、あるいはその言動が、疑問を抱かざるを得ない内容ばかりなんですね。あるいは、そういう要素がだんだんエスカレートしてきたというか。

そしてある時僕は意を決して、彼女に引導を渡しました。彼女はだいぶ混乱したようですが、僕としても身の危険を感じていたので、仕方ありませんでした。

しばらくは僕も、いわゆる「引きずった」状態が続いたのですが、この間に、大学の卒論の作成の時に参考にした現代哲学や記号論の本を読み返してみたところ、僕が何故そのような関係に陥っていたのか、彼女の心に何が起こっていたのか、何となく理解できてきました。

また、東京で7年間、自閉症の子供を対象にした音楽療法活動に従事したことが、表層的なニュー・エイジの文脈とは異なった視点から、さらに精神分野に対する興味を喚起することとなりました。

さらにそこ東京で、これまた似たような傾向の女性とまたしっちゃかめっちゃかの関係になり(笑)、さらにその後舞い戻った関西で、会いたくないと思っていた先の彼女とひょんなことから再会して、またまたしっちゃかめっちゃかになり、現在に至るというわけです。

今日では、靈感を標榜する女性に会うと、かつてとは逆に、脳のどこかで黄信号が点滅するようになってしまいました(笑)。

先生がご指摘の通り、彼女は解離性人格障害だと思われますが、実は、「靈感」を標榜する人々の中には、この種の症状に属する方が多いのではないかと、というのが、最近の僕の考えです。

フラッシュバックという言い得て的確な言葉は、先生のメールや、それこそエリクソンの本の中で知りましたが、霊現象というのは、このフラッシュバックという現象を含めて、自分のイメージネーションが、自分でコントロールできない状況なのではないかと、考えているのです。

そしてそれが、まさに家庭内でのトラウマの結果である、というのは、私自身も納得のいくところです。というのは、彼女達のケースでは例外なく、母親が極端なまでに強権的なのです。

僕が彼女達から聞いた限りでは、ほとんど彼女達の人格を認めないような環境で、彼女達は育ってきたようです。

従ってこの時点で、彼女達と他者とのコミュニケーションは、対等な"個と個"という要素は完全に消失し、表面的な装いとは裏腹に、主従関係を中心とした権力関係そのものとなります。

恋愛も然り。6ヶ月毎に違う男性を念頭において、「私はこの人と巡り合うために生まれてきたの」という彼女達を見て、僕は奇怪な印象を覚えたものです。つまり、この構造そのものは問われることなく、対象が自由に交換されるわけですね。この時、彼氏のパーソナリティは、ほとんど問題になりません。もちろん彼女達は、全く違う男性と付き合っている、と考えています。しかし傍から見れば、前と同じ傾向を持った男性を選んでいるようにしか見えないわけです。正に、フロイトの言う反復強迫ですね。さらにこの中では、主従が頻繁に入れ替わります。ご指摘の通り、"サド/マゾ"が入れ替わるのですね。

もっとも当時、僕は心理療法家ではなかったので、会話の中でオブラートに包むどころか、真正面からそれを指摘してしまったりして、結果として地雷を踏んじゃった、みたいなことはしょっちゅうありましたが(笑)。

僕もこういう仕事をしていると、どうしてもそういう心の分野に触れざるを得ません。以前申し上げました通り、点穴療法では、リラクゼーションは容易にもたらされ得ますが、最終的にはその緊張の原因を探って、それを取り除く努力をする必要がありますからね。

そんなわけで、以前は心の方から身体へと移行したのですが、今度は、身体から心の方へと移行する時期がやってきたのかも知れません。その取っ掛かりとしてエリクソンは最適かな、と思って、最近自分なりに勉強をしているところです。

お話されていたエリクソン・クラブという団体も、少し調べてみようかな。何でも首を突っ込んでしまう悪癖が、再発してしまいそうです(笑)。

それではまた！

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ある精神科の先生との対話(2)～外気功、遠隔治療、除霊について

謹啓 なかなか興味深い問題提起、真に有難うございました。

お察しの通り、私は一応人様に施術はしておりますが、その実、自分はマトリックスどころか、スター・ウォーズに出てくる辺境ダゴバに一人住むヨーダのような心境でしたので、とても嬉しく感じております(笑)。

先回のメールでも申し上げました通り、私は元々「気」を用いた施術が出来たわけでは、全くありませんでした。しかし、師匠の所に入門してから、自分の身体がどんどん変化していき、おかしい話ではございますが、むしろ戸惑ったのは、この私の方でした。

私はこの変化を、何とか自分自身に納得させたい、と思いました。ところが、当然手をつけるべき気功関係の書物を見ると、正にドグマティックかつファンタジックな内容ばかりで、とても満足できるものではありません。あれよあれよという間に私の興味は、電磁気学、静電気学、電気工学などの物理学の方へと、傾斜していきました。

もっとよく知りたい、という一心から、果ては量子力学までも手を染めましたが、今の心境としましては、先にも申し上げました通り、「気」は十分に電磁波ということで説明がつくもの、と思われます。

それではここで、そのような経緯を踏まえながら、先生のご質問に、私なりの回答をさせていただきますと思います。私の経歴がかくの如くでございますので、先生におかれましては私の回答があまりにも東洋医学的ではない、とお感じになるかも知れませんが、そこら辺はどうか、ご容赦頂きたく存じます(笑)。

先ず、外気功は、虚証部位に直接気を補うことが出来るかどうか、というご質問です。

こう申し上げてはミもフタもないのかも知れませんが、実は私は、施術において、患部の虚実を考えたことは、ほとんど無いのです。

言うまでも無くこの虚実という概念は、東洋医学ではかなりのウエイトを占めており、現に私が学んだ馬氏点穴療法においても、この概念を踏まえた施術方法が、厳密に規定されております。こうすれば補、こうすれば寫、と、その操作方法は細を極めます。ところが私は、必ずしもこの方法に、のっとってはいないのです。何故か？

単純に、「面倒」だからです(笑)。この言い方が不遜だとすれば、換言すれば、虚実の概念は、その科学的な検証が極めて難しいので、あまり深入りしていない、ということになるのかも知れません。

あるいは私の場合は、もし僭越な言い方を許して頂けるのであれば、よりプリミティブに、気功の施術というものをとらえているから、と言っていいかも知れません。

気功のトレーニングと施術をするようになって、一番著しい変化が生じたところはどこか、と問われれば、私は迷わず、指です、と答えます。私の具体的な施術のステップはこうです。先ず問診をして、クライアントさんの症状を尋ねます。そうすると当然、どこに経絡に問題がありそうか、という当りをつけることが出来ます。そしてその経絡に指を当てると、もしそこに問題があるとすれば、ひんやりと感じられます。この時のクライアントさんの反応を尋ねると、奇妙なことにそれは、はっきりと二分されます。つまり、私の指が異常に熱く感じるか、異常に冷たく感じるか、のどちらかです。あるいは、何かしらズシンとした鈍い痛みを感じる、とおっしゃる方もいらっしゃいます。いずれにせよ共通するのは、その部位の感覚が、他の部位とは明らかに異なっている、ということのようです。

こうして当りがつけば、しばらく指をそのままにします。そうすると、クライアントさんがおっしゃるには、何か熱か磁力線のようなものが、帯状になって、体を流れていくらしいのです。そのルートを尋ねるとそれは、正しく古来から言う、経絡そのものなのです。簡単に過ぎるようですが、これが偽らざる私の施術のやり方です。

ここには虚実という概念は、基本的に介入しておりません。

あるいはもしかしたら、このような施術そのものが、虚証に気を補うということになるのかも知れませんが、だとすれば今度は、実証を寫する、という概念はどう理解すべきなのでしょう。例えば肩凝りは、胆経その他肩周辺の経絡の実証、と考えられるのかも知れませんが、しかし、施術のやり方は全く同じで、数分間私は指を乗せるだけなのです(多くの場合それは、肩井、肩ぐうです)。

もしかしたらこれは、ご指摘の通り、気を整えるのは虚証だけではなく、実証に対しても行っているということになるのかも知れませんね。だとすれば私が施術の中で対象としているのは、

虚実という概念ではなく、もっと根本的に、気の混乱の調整、ということになるのかも知れません。

次は、遠隔治療の問題です。

私も、エネルギーは距離の二乗に反比例する、ということは、物理学から学びました。

そしてそれは、遠隔治療においても全く変わらない、というのが、私の意見です。

実際私も、離れた所から「気」を放射する、というのを、時々試します。興味本位ですけど。私は根っからのジェダイ・フリークなのです(笑)。でもそれは、明らかに距離が離れると、効果が薄まるようです。私の場合だと、約1メートル程度でしょうか。しかしその範囲内だと、皆さん何らかの熱、あるいは圧力のようなものは、お感じになるようです。

こういうことがありました。大阪に住んでいるときの事です、ある武術家の方が、インターネットを見て腰痛の施術を受けに来られました。あまりのガタイの良さに、最初私は、ジャッキー・チェンかと思いました(笑)。彼は、日本の武術はレベルが低い、と言って、単身中国に渡り、そこで武術の師匠に就いて、7年近くも、修行なさったそうです(修行されていたのは、八極拳だったということです)。実際、地元の武術大会で、チャンピオンにもなったということで、そのときの主催者は、彼が実は中国人ではなく日本人であったと知って、驚嘆したそうです。しかし、長年にも渡るハードなトレーニングの結果、ついに腰を痛めて、やむなく帰国せざるを得なかった、と言います。

その師匠は修行中、「お前は、気が何たるかを全然理解しておらん」とよく言っていたといいます。師匠は、"小周天"や"大周天"も教えてくれたそうですが、結局彼は、気がどのようなものかは、全く判らなかった、と言います。

修行を途中で断念して帰国せざるを得なかったのは、痛恨の極みです、と、さも悔しそうに語るその表情が、印象的でした。

そこで、腰痛の施術後、もっと簡単な医療気功法をお教えするべく、私は彼に立ってもらいました。そして背後に立つと、命門の辺りに指を向けました。勿論いつもやる興味本位の実験のためですが(笑)。すると彼は、ふらふらとし始めたかと思うと、これはどうしたらよいのでしょうか、と言い出しました。

私が逆に、どういうことか尋ねると、彼が言うには、背後から物凄い勢いで押されていて、全身のコントロールが利かなくなっている、とのことでした。この時私と彼との距離は、大体30センチ程度でした。

彼は、「師匠が言っていた気の間というものが、今日初めて判りました」と、嬉しそうに帰って行きました。

これと似たような経験は、他にもあります。ある知人の友人宅に招かれた時のことです。彼は私の紙コップに、ウーロン茶を注ごうとしました。すると、そのまま動かなくなったのです。どうしたのかと尋ねると、彼が言うには、私の方から圧力を感じて近づけない、とのことでした。この際も、大体30センチから1メートル程度、距離がありました。

これらはかなりヴィヴィッドな経験でしたが、ここまでではなくとも、似たようなことはよく起こります。

因みにここで、素朴な疑問として、では町を歩いている時に、私に近づいた人にはそのような経験が無いのか？ということがあります。これに関しては何とも申し上げられません。逐一尋ねるのもどうかと思いますし(笑)。ただ、先の二人はお互いに全く面識は無いのですが、実は共通点があります。それは、二人とも武術経験者なのです(二人目の人物は、合気道をやっていました)。これは憶測ですが、武術のトレーニングを積むと、そのようなものに反応する神経のネットワークが、活性化してくるのかも知れません。そうして見ると古来からある、「殺気を感じる」と言った言い回しも、あながちフィクションとも思えないな、と思われるのです。また多くの人は、私に近づくと汗が吹き出る、と言います。夏なんか皆さん、大変みたいですけど(笑)。しかしながら先にも申し上げました通り、これも高々1メートル以内での話です。

では遠隔治療は、まるっきりデタラメなのか？そうとも言い切れないかも知れません。ではそのメカニズムは何か？

私はこれは、暗示の作用以外の、何者でもない、と考えています。

最近催眠や暗示について研究しているのですが、この中のケース・スタディには、まさに遠隔治療と言ってもおかしくないような事例が、よく出てきます。私が最近最も興味があるのは、ミルトン・エリクソンが行っていた催眠療法です。彼のクライアントに対する暗示の仕方は、天才的なものがあったようです。その様子はまるで魔術のようであったともありましたが、これはあながち比喩ではない、と、私には思われるのです。

何を隠そう、私が催眠に対して興味を抱いたのは、実は、魔術からでした。これは、ある経験

がきっかけでした。

さる私の知人が、「憑依」されたのです。最も私は、世間で言うところの「心霊現象」というものに対して全く否定的で、彼女の場合も、彼女がそう言っているというだけで、その実十分、精神分裂病的な意味での「発狂」に近いものと思われます。

彼女が言うには、彼女に、大昔に死んだ男性と女性、そして動物の霊が、同時に「憑依」したそうです。それは、数分毎に各キャラクターが入れ替わり、男性の声で怒鳴り散らしたかと思うと、突然それが女性に代わり、それが終わると今度は、舌を出して床を嘗め回す、といった状況だったそうです(これは、いわゆる多重人格障害ではないでしょうか)。

どうにも手がつけれなくなった彼女は、家族によって、ある霊能者の元へと連れて行かれたそうです。そこでその霊能者は、こう告げたそうです。「三色のご飯を炊いてそれに七本の爪楊枝を刺し、〇〇〇の角へそれを置いて、振り向かずに家へ帰りなさい」。果たしてそれを実行した直後、全ての症状は消え去った、と言います。

この話を聞いて、「その霊能者は素晴らしい！」とならないところが私だったりするわけで(笑)、私はこう考えました。一体ここには、どのようなメカニズムが働いているのか？そのポイントはどこにあるのか？ご飯か？爪楊枝か？振り向かずに家に帰ることか？

様々な文献を当たった後の、今の私の考えはこうです。三色のご飯とか七本の爪楊枝とかは、実は決定的なファクターではなく、恐らく、家族が絶対の信頼を置いているその霊能者が、「これこれこういうことをすれば、結果として、霊は去る」と言ったその言葉こそが暗示となって、彼女に作用したのだと。

実際、エリクソンの臨床の記録を見ると、極めて似たようなケースがたくさんあることに、驚かされます。

そしてこれは、気功施術における遠隔治療と平行だと思います。つまり、何キロも離れたところから治療を行い、それがある程度成功するとすれば、それは、施術者とクライアントの間に、完全なラポールが形成された上での、暗示の効果だ、と私は考えているのです。

どうやらここでも、物理学の方に軍配が上がるようです。

しかし、その主張が物理学的に誤りであったとしても、実用という点から考えると、それが何らかの効果を持つのだとすれば、それはそれで結構なことではないだろうか、と私自身は考えています。ちょうど、催眠のメカニズムは十分に解明されていないにもかかわらず、その効果につ

いては数多くの研究が明らかにしているように。

因みに、最近の私はこのように、催眠の技法に非常に興味を持っています。というのはこのケース・スタディのように、古来から魔術と言われてきた現象と、非常に似通ったケースが存在するからです。

今の私にとっては、気の施術より興味がありますね(笑)。

さて最後に、その他に先生のメールの中で興味を引いたことについて、触れてみたいと思います。

それは、うつ病に対する効果です。

私自身、うつ病の患者に対して気功施術をすることの効果には、非常に懐疑的です。それが無いとは申しません。例えば、うつ病があまりにもひどくなって、肩凝りや不眠という症状が現れた場合は、それらに対しては効果があると思います。何となればそれらは単純に、神経や筋肉の緊張がもたらすものであるからです。しかし、それでうつ病自体が良くなるとは思いません。何故か？

うつ病の原因は、放置されたままであるからです。

もしうつ病に対して施術を試みるとすれば、平行して、精神分析などの精神医療的手法を講じる必要があります、それによって、そのうつ病の原因となっている問題を取り去ることが必要なのではないか、と思います。

例えば極端に飛躍して恐縮ですが、かの釈迦がヨガのトレーニングを放棄したのも、同じ理由からです。ヨガによって自律神経系をコントロールすることで、悲しみや苦しみを取り去ることは、十分に可能です。ところが、トレーニングを終えると、相変わらず悲しみや苦しみは、舞い戻ってきてしまいます。これでは、いくら激しいヨガのトレーニングを長期間積んだところで、根本的な解決にならない、そう考えた彼は、一切のトレーニングを放棄しました。心身は、ある意味では一体ですが、ある意味では一体ではない、ということだと思います。

点穴療法でも、神経系のコントロールは可能です。しかしそれは、対症療法に過ぎないと思います。私はクライアントさんには、そのように話しています。

もっとも私も修行中の身ですので、もしかしたら私のあずかり知らぬ別の方法があるのかも知れませんが、現在の私は、精神療法の現場に7年間従事した経験(もっとも音楽療法ですが)から、そう感じているのです。

というわけで、このような駄文が、何かしら先生の参考になれば、とても嬉しく思います。

因みに私は、一時期、精神医療にも大変興味を持っていました。具体的には精神分析、特に、パリ=フロイト派と呼ばれたJ.ラカンの思想には、とても影響を受けました。もっとも精神分析に入ったのも、ニュー・エイジ系の『癒し』に対する興味からではなく、記号論や構造主義、ポスト構造主義に対する興味からであり、さらに申せば、それらの現代思想に興味を持ったのは、仏教思想からだったわけですが。

このように私の道程は、正に螺旋のような構造を描いているのです。

これがダーク・サイドへと通じる道でないことを、こいねがうばかりです（笑）。

それではまた！

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

ある精神科の先生との対話(1)

謹啓 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度は、当HPをご高覧賜りまして、真に有難うございました。

また、大変興味深いメールを頂きまして、とても刺激になり、嬉しく思います。

HPにも記載しております通り、私は現在鳥取県にて、馬氏点穴療法の施術師をしているものでございます。

私がこの療法を知ることになったのは、全くの偶然でした。私が1996年に上京したのは、音楽関係の勉強をしたい、という思いからでした。それがひょんなことから廖赤虹、赤陽老師について気功を学び、最終的に、点穴療法施術師と無為気功師範の免許を取得して、現在に至ります。因みに大学では、経済学を専攻しておりました。それが最終的にこのような結果となるというのは、偶然とは奇妙なものです。

ところで、もしかしたら先生は、私のHPが、他の気功家の方々とは少々趣を異にする、とお感じになったかも知れません。

それというのも実を申せば、私は、他の大勢の方々とは違って、気というものを神秘的なものだとは、全く考えていないからです。

もっと言えば、気というものが本当に存在するのであれば、この目でそれを確かめてやろうじゃないか、というのが、私が初めて師匠の門を叩いた時の動機でした。

もっとも、気功というものに元々興味がなかったわけでもありませんが、私の興味のあったのは、その神秘的な側面よりも、実用的な側面でした。私は昔から中国拳法に興味があったのですが、中国拳法では気という概念が、重要な位置を占めるからです。ですから、気を使って病気を治す、という、割とニュー・エイジな側面には殆ど興味がなく(むしろ、そんなものはまやかした、と思っていたくらいです(笑))、逆に、勁あるいは気を使って相手の体にダメージを与える、というのはどういったメカニズムによるものなのか、といった疑問から(それが実用的かどうかは、判断が分かれる所ですが(笑))、師匠の元を尋ねたわけです。

ところが、HPにも触れましたように、入門したその日から体に著しい変化が生じるようになり

、古来から気功に関して言われていることは、あながち嘘ではない、と考えるようになったわけです。

因みに、かような経緯から賢明なる先生はもうお気づきかもしれませんが、私は練習を始めるまで、気功を応用した施術ができるようになるなどとは、全く想像だにしていませんでした。これが可能になったのは、明らかに練功の結果であり、元々そういう能力を持っていたわけではないのです。この点でも、気を神秘的に語る必要を、全く感じていないのです。気のコントロールは、かつての私がそうであったように、練習次第で、誰でも可能になります。そしてこれは、一指禅功の正統後継者である劉永言老師も、常に主張されるところでもあるのです。“功夫=improvement”とは、そういう意味である、と老師はおっしゃいます。

しかしながら、私はとても疑り深い性格なので、これを言わば、悪く言えば神秘的、良く言えば文学的に語るのには、とても抵抗がありました。また、実際に練習を進めるに従って起こる様々な現象と、気功法や仙道などの文献を照らし合わせてみると、重複する部分とそうではない部分が、だんだん判るようになってきました。こうなったらこのメカニズムは、自力で探るしかない、そう思った私は、西洋医学だけではなく物理学なども応用して、独自で研究してみることにしたのです。

そのある時期(2000年前後)の研究の途中経過が、現在公開しているHPの内容です。

あれから数年がたち、私自身も臨床を含めた実践を通じて、このHPの頃とは考え方にも大分変化が生じていますが、気の現象を科学的に解析したい、というスタンス自体は、今もって変化がありません。

私は気とは、基本的に、生体が発する主にマイクロ波-赤外線領域に属する電磁波だ、と考えています。そして、経絡やツボとは、生体を流れる電荷の流れ易いルート、ないしはその集まり易い場所なのではないか、と考えているのです。

そういう意味では、私の実践の分野で最も影響を受けたのは、意外なことに東洋医学ではなく(ましてやニュー・エイジ系は、全く関係ありません(笑))、電磁気学を含めた物理学であった、と言えるかも知れません。

ただ、こういう仕事をしていると、当然同じ分野の方々と触れ合うことになるわけですが、彼らの中には私のように、気に対して科学的な解析を加えることを、極端なまでに嫌う人たちがいます。結果として、そういう方々からは排斥されてしまうことになってしまうのが悲しいところですが(笑)、私としては、西洋医学だとか東洋医学だとかカテゴライズしてその中でテクニカル・タームをこねくり回してよしとするよりは、もっと積極的に、異分野と交流を図って自己の研

鑽をすべきなのではないか、と考えているのです。

そういった意味で、先生のように、現役で精神科医をされている方からメールを頂きましたことを、この上なく嬉しく感じている次第です。

因みに、こんな私が現在最も議論の相手としている友人は、現在神戸市内の某総合病院にて呼吸器外科医をしている人物です(彼は私の大学時代の後輩でした)。彼自身、私が大学卒業後姿をくらまして、約10年に再び再開した時には、まさか東洋医学の施術師になっているなどとは思っても見なかったようです(笑)。

大学時代は全く畑違いの分野にいた私としては、現在実際に医療現場に立つ彼の意見は、とても考えさせられるものがあります。

彼が指摘するには、様々な気功関係のHPを見て思うのは、統計学的な解析の努力が根本的に欠けており、これでは非科学的と指摘されても仕方が無い、ということですが、全くその通りだと思います。

また彼自身も、実際に医療現場に立つと、彼が習得してきた医学だけでは、クライアント様の希望に十分答えることができないので、非常にジレンマを感じる、ということです。

私としては、そうやって欠けている部分を相互に補い合うことで何か行動を起こせるのではないだろうか、と考えているのですが、彼自身もこの考えに賛同してくれているようで、私としては、嬉しい限りです。

そんな彼も昨年から、気功のトレーニングを始めました。大学病院のある神戸駅の改札で站椿功をする彼を見た時は、さすがの私もビビりましたが(笑)、そうやって小さなことからでもスタートしていければ、と考えているのです。

というわけで、先生も、私のHPや東洋医学、気功法に関しまして、ご意見やご質問、また誤り等がございましたら、どうかご遠慮なくご指摘頂ければ、幸いに存じます。こうやって屈託無く意見交換をすることこそが、現代社会において科学や医学を啓蒙することに繋がり、そして言うまでも無く、クライアント様の益に適うことになるのではないかと考えているのです。

因みに、気が空中を伝達するという点に関しましては、先ほど指摘致しましたように、恐らく気が、マイクロ波-赤外線領域の電磁波と考えることで、ある程度説明が出来るのではないかと考えています。私自身、ストーブ等のある種の熱源から放射されている熱と、私の手から放射されている気と思われるものの差異を、あまり区別してはいないからです(実際、クライアント様

に対しては、私の施術を受けていない時は、患部または経絡やツボに“ホッカイロ”を当てるように指導しておりますが、それでも十分に、用は足せているようです)。

また、ヴィパッサナーに関しては、私は実際に試したわけではないので即答は出来かねるのですが、話や文献から判断致しますに、私が学んだ一指禅功と、極めて近い要素を持っているのではないか、と思われます。何となれば一指禅功は、達磨大師が嵩山少林寺に伝えた禅の技法なのですが、チベットでは彼は、無上ヨーガ・タントラの行者だった、と伝えられています。そしてこの無上ヨーガ・タントラは、生起次第などの細かいイメージ・テクニックを一切使わず、いきなり定に入らせるという点で、極めて専門家向きの、難しい行と考えられています。そして私の学んだ一指禅功も、そのテイストを色濃く持っているのです。

実際私も練功中は、全く何もしません。ただ一つのことを除いて。それは、「完全に力を抜く」ということです。

勿論私は、一指禅功の正統後継者ではないので、これ以上のことは存じ上げないのですが、それでもこれは、十分に実用に耐え得る優れた技法だと、考えているのです。

活動し過ぎる脳を、少しだけオフにする、たったそれだけで、体は元々持っている能力を回復し、治癒に至るのではないかと。勿論それだけではありません。本来不可能だと思われること(それはただ単に、統計学的に不可能だと考えられているに過ぎません)さえも、可能にするのではないかと。私はそう考えているのです。

そして、そのヴェールを一枚一枚剥いでいくことが、私にとって大きな喜びになっているのです。

最後になりましたが、先生の益々のご活躍を心よりお祈りしております。また意見交換をさせて頂ければ、とても嬉しく存じます。

有難うございました。

中原勇一 拝



JUGEMテーマ：心、体、そして魂。

今回も満員御礼にて無事終了

去る4月14日に挙行致しました春のチルアウト・アンビエント企画"Landscape of A Spring"、今回も満員御礼にて無事終了させて頂くことができました。チケットも、前売りの段階でソールド・アウト。かなりびっくりです。

これも皆様のお力添えの賜物と、心から感謝申し上げる次第でございます。

今回は、フォーマルなホールではなかったので、会場の調整に時間と労力を割かれることはなかったため、割とリラックスした雰囲気、粛々と準備を進めることができました。お昼を食べに行くと称してそのまま2時間近くも、春の日のドライブとしゃれ込んだりなんかして(笑)。天候の方も、その前日までは大荒れになるという予想だったのですが、有難いことに見事に外れてくれました。天帝にも深謝(笑)。

今回は、倉吉市内在住の陶芸家、中森伯雅先生の展示場をお借りしてライブをするという企画でしたので、そこにある素材は最大限に利用するつもりでした。その意図は功を奏したようです。お客様によれば、暗闇の中、CGが焼物に投影されることでそこに微妙な陰影が生じ、そのために、焼物が焼物に見えない瞬間が多々あったりなんかして、さらにそこに、蠟燭が生み出す光のたゆたいが重なり合って、非常に幻想的な空間が創出されていた、ということでした。

私は暗くて見えなかったのですが、Dr.Jazzの方は客席の様子もずっと観察されていたようで、「一人落ちた、あ、また一人落ちた」と悦に入っていたそうです(笑)。因みに開場後の会場の様子を、しきりとパチパチ撮影しているので、何の意図があるのか尋ねてみたところ、「いや、今回は取材も兼ねているので」という返事でした。本当にこの方は、本職は何屋さんなんでしょうか。

後でお客様の反応を総合してみると、「時間が短かったのではないか」という声がかかなりあったようです。でも、トータルで50分以上あったんですけどねー。もしかしたら空間感覚だけではなく、時間感覚も崩壊したステージだったりして(笑)。

そんなわけで、オーディエンスの方々に『異界』を感じて頂く、という目論見は、無事に成功したようです。これからも、今回のステージのように、時間と空間をフルに使った効果を模索することで、皆様方に『異界』を感じて頂けるようなステージを演出していきたいと考えておりますので、今後とも、宜しくお願い申し上げます。

<追記>

あるお客様が、「今度は8月頃に、幽霊の出そうなステージをやってくれ」とおっしゃっていました。いいんですね？本当にいいんですね？(笑)

取り敢えず、先週Dr.Jazzと共に、映像のネタを仕込むために、二人して大山へと行って参りました(因みに彼は、勤務先の病院の年度末の歓送迎会で、そのCG作品を高く評価されて、『院内アカデミー賞』を受賞されたそうです。おめでとうございます)。

その途中、『赤松の池』という所に立ち寄ったのですが、数日後彼が調べたところによれば、あそこって、山陰でも有名な心霊スポットなんですね(<http://kagekidan.at.infoseek.co.jp/sabtottos.htm>)。そんなことも知らずに、「この松の枝の微妙な揺れ具合がたまらんよなー」と言いつつ撮影に興じていた我々。

「何か変なもん写ってたら面白いですよー」という彼の期待は、残念ながら今回は実現しなかったようですが、山の奥地へ入るにつれて「手が熱くなってきた」と嬉々としていた彼。その手は真っ赤でした。朱砂掌に至ったということは、どうやら彼も無事、フォースをコントロールできる素地は身についたようです。

そんなわけで、この度のライブは、メスメリズムのセミナーのようなテイストになったりして。最近の私は、催眠の技法にとっても興味があるものでして、人間の知覚に影響を与えうる聴覚ないしは視覚上の刺激とは(この分野では、知覚と感覚は、厳密に区分されます)、どのようなものが可能であるのか、を実地で検証してみたいと思います。文字通りのヒプノ。我々の悪ふざけは留まるところを知りません。その時初めて、この池の精霊は、正体を現すのでしょうか？

結果はまた、ご報告致します。

<付記>

上記のサイトでは船上山が紹介されていますねー。いや、あそこはたった一人で行くのがいいんですよ。何回行ったことか。頂上にあるボロボロの神社とそこに至るまでの朽ち果てた参道なんて、最高です。道端にあるお地蔵さんも、とってもキュート(笑)。



DM

暖かいんだか寒いんだかよくわからない日々が続いておりますが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

お蔭様で、前回の10月28日、29日の倉吉未来中心および三徳山三佛寺境内でのコンサートは、好評裏に成功させることが出来ました。ご来場頂きました皆様、またCDをお求め頂きました皆様、どうも有り難うございました。

その後も「次のコンサートは？」という有難いお問い合わせをたくさん頂いているわけですが、そこで、来る4月14日土曜日に、同じく倉吉市内にて、ミニ・コンサートを行うことを、この度計画させて頂きました。

場所は、同市内在住の陶芸家、中森伯雅様の展示場です。ここの展示場は、昔の日本家屋をそのまま展示場として改造されたとても珍しいもので、昔ながらの囲炉裏を囲んで、様々な陶芸作品が展示されております。

そこに、蠟燭を仕込んだ様々な行灯や提灯、オブジェなどをセッティングして、それらに音楽と映像を絡ませる、といった感じのステージを構想しております。インドネシアに"ワヤン・クリッ"といった影絵芝居がございますが、あれのデジタル版、みたいな感じでしょうか(笑)。

今回も、CGはDr. Jazz。いつもお世話になります。家族旅行を兼ねてお出でになるということで、恐縮です。

というわけで、光と音によるヒプノティックなコンサートをお楽しみ頂けると、嬉しく思います。

尚、今回は会場の関係上、入場は先着50名様のみとさせて頂きたく存じますので、予めご了承下さい。

また、今年の本公演は、11月17日土曜日、昨年と同じく倉吉未来中心小ホールにて開催する予定です。

詳細は追ってご紹介させて頂きたく・・・。

<ランドスケープ・オブ・ア・スプリング>

4月14日土曜日、開場：午後6時30分、開演：午後7時

場所：上神焼窯元中森伯雅邸展示場(倉吉市不入岡395)

入場料：1500円

やりたいことがわからない

今回は、前回予告しておりましたように、「やりたいことがない」、「夢がない」とは、一体どういうことなのか、を論じてみたいと思います。

全体主義国家はさておき、今日の日本のような民主主義国家において、国民のほとんどがかつてのローマ皇帝のような自由な暮らしを謳歌することができるというのに、若い人に「あなたの夢は？」と問いかけると、先のような答えが帰ってくる場合が多い、というのは、非常に奇怪なことのよう、私には思われます。

では、私たちは子供の頃から、そのように夢のない生活を送ってきたのでしょうか？

幼稚園や公園で遊んでいる子供たちを見たり、また自分の幼児期を考えてみると、私にはそうは思えません。

本当に彼らには、「やりたいことがわからない」のでしょうか？

なぜ彼らは、夢をなくしてしまったのでしょうか？

夢をなくした原因とは、単純に、周囲によって「諦めさせられた」ということにあるのではないのでしょうか。

例えば、ある子供が「ウルトラマンになりたい」という夢を持ったとします。

大人が考えればこの夢は、まさに荒唐無稽でしょう。この時、大人はどうするのでしょうか？当然、「そのような馬鹿げたことをいうものではない」と、その子を叱ることになります。

しかし、ここで注意しなくてはならないのは、この夢が"馬鹿げている"という見解は、ある程度社会経験をつんだ大人の論理によってもたらされたものであり、その子供自身によってもたらされたものではない、ということなのです。

大人から見て、子供は無力です。それは当然でしょう。子供なのですから。だからといってその無力な子供に、大人の論理をア・プリオリに提示することは、ある意味危険なことではないか、と思います。

何故ならば、子供はこの時、自分の無力感と共に、"正当な"論理判断は、外部からア・プリオリに与えられなければならないのだ、といった観念を、植え付けられることになるからです。

これは充分に、自己否定、あるいは自信喪失の契機となり得ます。

そのような状況が長く続けば、子供は夢を持たなくなる、正確には、持てなくなるのは、ある程度必然、と思われます。

実はこのことは、私一人の見解なのではなく、現に、見識ある教育学者の間では、問題となることです。ゲシュタルト心理学を提唱したM. ヴェルトハイマー(1880-1943)は、次のように指摘しています。「平行四辺形の面積が、何故、"底辺×高さ"なのかを理解している子供は、それを機械的に暗記している子供よりも、公式をよく覚えているし、他の幾何学形の面積の出し方も自分で考え出してしまう」。

このことは、現代でも十分に、指摘し得ることだと思います。

つまりここで子供たちは、「自分で考える」というプロセスを、外的な権力によって、断念させられることになるわけです。なぜなら、そんなことをしても無駄だ、と"教育"されるからです。

それがあまりにも過度になると、メンタル的なトラブルを誘発する可能性があることは、充分に考えられることだと思います。

例えば、私はそのような例を、5つほど、目にしました。いずれの場合も、女性です(因みにそのうち二人と、ご想像通り、トラブったわけですが(笑))。

彼女たちは、当然お互いに全く面識はないのですが、奇妙なことに、彼女たち全員には、ある共通するパターンがありました。

一つ、母親が専業主婦、二つ、芸術方面の活動が得意、そして三つ、彼氏を頻繁に"アップデート"する(笑)。

一つ目に関しては、別に、母親が専業主婦であることそのものが、問題なわけではありません。問題は、その母親が暇に飽かして、彼女たちの幼少時から、非常に高圧的な態度で彼女たちに接してきた、ということにあります(少なくとも彼女たち自身が、私にそう訴えていました)。

母親たちの口癖は、次のようであったようです。「私はあんたのことが誰よりもよくわかって
いる」「あんたに何がわかるの?」「誰もあんたの〇〇〇なんか(彼女たちが作った芸術作品)、見
向きもしないわよ」云々・・・。

極端な場合では、そのうちの一人の母親は、いわゆる"靈感"を標榜する人物でした。彼女はその
娘に対して、「神様がそう言っている」といった言い方をしながら、接してきたようです(そして
私の見る限りその娘さんが、最も問題がありました)。

そのような環境で育ってきた彼女たちに、では、傍から見て明らかなトラブルが見受けられ
るか、といえ、そういうわけではありません。見たところ、全く普通です。

しかし、精神療法の現場に長く携わってきた私が見る限り、彼女たちには、いわゆる"アスペ
ルガー症候群"と同じ兆候が、見て取れました。

では、このような事態は、二つ目の芸術活動が得意ということ、そして彼氏を頻繁に"アップデ
ート"することと、どのような関係があるのでしょうか?

これは、あくまでも私の推測ですが、そのように抑圧的な家庭にいる子供は、空想的な世界に
、そのカタルシスを見出す傾向があるのかもしれませんが。彼女たちの場合はそれが、芸術方面の
活動だったようです。

しかしそれは、あくまでも幻想の世界の話です。実際、自分たちのそのような芸術活動に対す
る認識も、私が見たところ、甘いとしか評価しようのないものでした。

そして、このような幻想の世界に遊ぶ傾向のある人は、対人関係も幻想的となりがちなのかも
しれません。ですから恋愛関係も極めて幻想的ですので、覚めればその瞬間終わり、という傾向
が見られるようです(「私はこの人に巡り会うために生まれてきたの」と、6ヶ月ごとに違う男性を
念頭において嬉々として話す彼女たちを見て、私は、奇怪な印象を持ったものです)。

このようなケースは極めて極端なのかも知れませんが、ここまで異常ではなくとも、「もっと"
まともな"ことを考えなさい」というソフトな言葉で、自分たちの夢を断念させられた子供は、少
なくはないのではないか、と思います。

もしそうだとすればそれは、子供たちに対しては、非常に不幸なことのよう、私には思われ
ます。

「夢のない」人たちは、こうやって、生まれてきたのかもしれませんが。

だとすれば、もし「自分にはやりたいことが見つからない」と悩んでいる人がいるとすれば、その問題に対する一番簡単な対処方法とは、何が考えられるでしょうか？

それは、スピリチュアル系の霊媒師に霊視してもらう、といったことではなく(それは単に、母親との関係を、霊媒師とのそれに、すり替えてしまうだけのことに過ぎません)、自分が子供の時一番やりたかったこととは一体何だったのだろうか、と思い出してみるのが、一番簡単なことだと思います。それは、必ず見つかるはずです。

そしてその次に調べなければならないのは、それは一体、誰の手によって断念させられたか、ということです。これが重要なのです。

先に私は、ウルトラマンの例を挙げました。これが実現する可能性の極めて低いことを自覚させるのは、大人ではありません。その子供自身でなければならないのです。

その時、意欲のある子供であれば、ではウルトラマンになれないとすれば、それに変わるものはなんだろうか、と考えるはずです。

これは、空理空論ではありません。実際、才能開発研究で著名な田中孝顕氏が、この研究に進むきっかけとなったのは、『鉄腕アトムになりたい』という子供の頃の夢が、契機であったようです。また、かのシュリーマンがそうでしょう。当時ホメロスの叙事詩に書かれていたことは、単なる空想の世界の出来事だと考えられていました。この痕跡を探し出すなど、まさしくキチガイ沙汰でしょう。しかし彼は最終的に、それを実現したのです。

また、かく言う私自身がそうです。私は子供の頃、超能力者になりたい、と思っていました。具体的には、釈迦や空海、役行者や蜂子皇子らです。彼らのような超能力者になるにはどうすればよいか。彼らについての多くの伝説の中に描かれるように、手を触れるだけで病気を治すような技術は、本当に存在するのか、存在するとすればそれは、どうやったら手に入れられるのか、と本気で考えていたのです(スプーン曲げなんてチープ過ぎるぜ(笑))。

これは、ウルトラマンや鉄腕アトム並みに、荒唐無稽であったかもしれませんが。しかし結果として今、私は実際に、そのような仕事をしているわけです(無論、自分の実力を彼らと比較するわけではありませんが)。

あるいは音楽でもそうです。私の「作曲家になりたい」という夢を、高校の進路指導の教職

員は、「いい加減だ」と評しました。"普通の"生徒であればその時点でしゅんとして、"まともな"進路について考え始めたのかもしれませんが。しかし私はそうはしませんでした。その言葉を聞いて、即座に私はこう思いました。「この人物が、音楽に関して、一体何がわかるというのであろうか？」

そして私は、今でも、音楽活動が続けているのです。

私たちはもう一度、自分の夢について考えてみる必要があるように思います。それは、誰かの手によって断念させられたはずです。そうでなければ、それにとって代わるものを、私たちは考え出しているはずだからであり(それは、「諦める」のではなく、ただ単に「興味を失う」ということに過ぎません)、そうであれば、「やりたいことがわからない」という状態に陥ることは、ないと思われるからです。

そのプロセスをもう一度踏んでみることは、私たちの自信回復には、大いに役立つのではないかと、思います。

そしてもう一つ、お子様をお持ちの方々は、自分のお子様に対して、そのような態度を取ってはいないかどうかを、十分に検証する必要があるように思います。子供にとって親の言葉とは、まさしく催眠時での暗示と、全く同様の効果を持っているからです。

「子供の教育をする」という美名の下に、逆に子供の可能性を封殺してはいないか、今一度考え直す必要は、ありはしないでしょうか。

実はこのことは、単に教育の問題に限らないのです。なぜならば私たちは、例外なく、そのような催眠にかけられた状態で生きているからです。

これがまさしく仏教で問題とされる「輪廻」そのものであり、それからの解放は、「解脱」と全く同じ意味を持つのですが、話がさらに大きくなりそうなので、今回はこの辺にて・・・。

↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：心、体、そして魂。

「目的を明確にする」とはどういうことなのか～『あなたもいままでの**10**倍速く本が読める』

謹んで、初春のお慶びを申し上げます。

とはいいながら、海外の友人達には、「本来の日本の正月とは、太陰暦である旧暦で行われるべきだ。正月が終わってから"寒"と呼ばれる一年で最も寒い時期が来るというのは、極めて不自然である。この辺からしてアイデンティティを喪失した現代日本人の…」等といった右だか左だか判らない発言を繰り返している今日この頃ではございますが、取り敢えず現在の一般的な習慣にのっとなって、本年も宜しく願い申し上げます。

皆様におかれましては、このお正月は、どのようにお過ごしになられましたでしょうか。

私はと申せば、年末にAmazonを通じて買い込んだ書物を、いろいろと物色しておりました(しかしAmazonってのは、ホント便利ですね)。

その中で、最も印象に残ったのは、『あなたもいままでの10倍速く本が読める』(ポール・R・シーリィ著、神田昌典監訳、フォレスト出版、2001年)でした。

この中では、いわゆる「フォトリディング」という新しい速読テクニックが紹介されています。これは、眼を特殊な状態にして、それをキープしたまま1分間に1ページのスピードで、文章を直接脳に「写し取っていく」というものです。

実は、このテクニック自体は、そんなに極端かつ目新しいものではありません。これとほぼ同じテクニックは、私が専門とする気功法や、桐山靖雄氏の求聞持法瞑想、さらにはカルロス・カスタネダの『ドン・ファン・シリーズ』で紹介されたヤキ・インディアンの呪術体系にも見られます。いずれも眼球の円錐体ではなく、桿状体を用いて、物を見ることを学んでいくことを狙うものです。

因みに、この手のトレーニングで、チベット密教の中には、かなりユニークなものがあります。古来から「風の瞑想／風の行者」と呼ばれるものが、ほぼこれに当たると思います。中沢新一先生が『チベットのモーツァルト』(せりか書房、1983年)で詳しく触れておられますが、これは視界のやや上部にチベット密教の神仏を観想し、その状態を維持したままで、あの岩だらけのチベ

ットの荒野を、猛スピードで駆け抜けていく、というものです。この時、個々の石に気を取られては、そんなことは不可能です。「風の行者」はこの時、眼の周辺部で物を識別し、その情報を処理しながら、同時に行動する、ということを、このように体育会的なトレーニングの中で、学んでいくわけです(もちろんこれは、膨大な体系であるチベット密教の、ほんの導入部に過ぎないわけですが...)

このような特殊な身体技法は、ある程度のトレーニングが必要なので、それに失敗した可哀相な方々が、この「フォトリディング」の有効性についても疑問を投げかける結果となるわけですが、それは身体技法という特性上致し方ないとして、しかしながら、この本のもう一つのメインテーマであり、これだけは誰もが実行できるはずなのに、実行している人の数は絶望的に少ない、というキーワードについて、触れてみたいと思います。これは、昨年末私自身がこのブログの中で触れたことでもあるからです。

それはズバリ、「目的を明確にする」。

彼は、本を読む目的を明確にしないまま漫然と本を読み始めることほど、非効率的なことはない、と指摘します。

その非効率性に関しては、この本で十分に議論されていますので、詳しくはそちらをご参照いただくこととして、この「目的を明確にする」というのは、昨年末触れましたように、極めて重要なことだと思います。

なぜ私はこの本を読むのか？この本から私は何を得たいのか？それが明確に把握できていれば、あとはその本をパラパラとめくりながら、それに関するトピックスを「フォトリディング」、「ディッピング」などのテクニックを使って"拾い読み"(もちろんこれは、良い意味です)していけば、十分にその目的は達成される、この本のメインテーマは、ということだと思います。

そうしてみるとこれは、いわゆる「速読法」ではなく、むしろ、「情報処理法」ですね。そう理解する方が、この本を単なる「速読法」の枠を超えて、才能開発や教育法などといった分野にまで、その可能性を拡大していくことが可能になってくるのではないか、という気がします。

この本を読んで私自身も、この「目的を明確にする」という問題に関することで、今まで漠然とは感じていながらもそれを十分に説明できなかったことに対して、きちんと形を与えることができました。

例えば、このように「目的を明確にする」、「目標を設定する」などと普通に言ってしまうと、その後に来るものとしては、「その目的を実現するために、"努力する"」という体育会的な言葉

をイメージしてしまう人が、大半だと思います。ここでこの"努力"というサド／マゾ的な概念が出てきてしまうため、大半の人はもうダメ、とこう来るのかもしれませんが、しかしこれは、完全に誤りです。

つまり、目的を設定するのは、「無駄を省くため」です。

著者は言います。目標を設定しないと、漫然と読書を始めるか、あるいはその全く逆に、その本の中身一字一句を全て読んで全て理解しなければならない、という強迫観念が、頭をもたげてきます。いずれの場合にも、読んだ後に、その中身を全く覚えていない、という悲惨な結果に終わる可能性があります。何となれば、前者は至極当然としても、後者の状態では、毎秒高々数十ビットの情報しか処理できないとされる意識にかかる負荷が高すぎるのであり、結果として、肝心な情報が脳に入っていない、ということになってしまいます。

逆に、私はこういうことを知りたいからこそ、この本を読むのだ、という目的が前もってあれば、速く読もうが遅く読もうが、その目的に合致するトピックスは必ず無意識のうちに目に付きますので、先のような悲惨な結果には、決してならないわけです。さらには、個々の字句に捕われず大局的な視点から、その本の中身を把握することができるので、むしろその方が読書そのものの目的に合致している、というわけです(著者は言います。「(フォトリディングで重要なのは)本の内容を理解することが目的ではないということです。目的はあくまでも、あなた自身のゴールを達成することです」)。

私自身のことを考えても、そうであったように思います。学生時代の私と現在の私とを比較してみた時、どちらの方がたくさん本を読んでいるか、またどちらの方が理解度が高いと自分と思うか、を考えてみると、現在の方が質・量共に、上だと思います。私は学生時代はいわゆる文系でしたが、現在の私が読む本は、ほとんど物理関係か、医学関係、あるいはビジネス・教育関係の本です。小説なんて、ここ10年以上読んだことがありません(学生時代多くの友人が読んでいたので村上春樹も読みましたが、中身は完全に忘れました)。それは自分の仕事に関係があるかないか、に大いに依存していると思います(だから人間味がなくなっちゃうわけだったりして(笑))。しかもハードカバーの本でしたら、一日で一冊は読めます。それは、「知りたい！」というインセンティブが強いからでしょう。このようなことは、学生時代には、全くあり得ませんでした。

ですから、前もって目的を明確にしておくことは、"努力"を促すため、というのは、ちょっと違うのではないかと、思います。むしろ、「無駄をなくすため」、もっと言えば、「楽をして効率良く物事を処理するため」だと思います。

そしてこの方法論は、実生活にもそのまま応用できるでしょう。私の向かうべき方向はどちらか？それを明確に念頭に置いた時、自ずから世界は二分されます。物であろうが、人間であろ

うが、そのような外見は全て消え失せ、新たにそこに現れるのは、単純に、「無駄なもの」と、「無駄でないもの」です。

あるいはアンチ文系っぽく(笑)、全てが数値化される、と言ってもいいかも知れない。目標という座標軸が設定されることで、ある事象の持つ運動性は、その座標軸に対して、「プラス」か「マイナス」かに分かれます。その二つしかあり得ないのです。

そうなればあとは、その「無駄なもの」、あるいは「マイナス」を、排除するだけの話です。

仕方ありません。私達の命は、無限ではないのです。もし無限であれば、そのような二分法は無意味であり、そのような「無限」から物事を考えるのが、仏教の「慈悲」であり、キリスト教の「愛」なのですが、そのことに関しては、混乱を避けるため、ここでは触れません。しかし注意すべきは、これらを混同されている方がいる、ということです。それは、本に対する愛から(あるいはもったいないという気持ちから)全て一字一句漏らさず、読んで、記憶して、理解しようとする態度と似ている、と思います。それは残念ながら、あなたが全てを記憶していただけるだけの脳を持っていない限り、不可能です。その時は、こう考えると良いと思います。「そんなことをしている時間が、果たして私にはあるのか？」

もし私達が、他人に対する愛の気持ちから他人に奉仕することで、逆に、「お人好し」と呼ばれつつ他人から搾取される人生に別れを告げたい、と思うのであれば、そう考えることは、とても有効だと思います。

彼は言います。「その本を読まないと判断することも、重要な選択だ」。私達の実生活でも、全く同じだと思います。

するとどうなるでしょう？私達はその目的に合致した行動をし、その目的に合致したものを選択し、その目的に合致した人と付き合うことになります。そうすると、そうしないときと比べて、その目的が実現する可能性は、高くなります。極めて当たり前の話です。これは神秘主義でも何でもなく、確率論的な事実だと思います。

質問を一つ行えば、一つ以上の答えは、必ず得られます。しかし、質問をしなければ、一つとして答えは、得られないのです。

さて、年頭に当たり、皆様方はどのような目標をお立てになったでありませんか。

そして、その後が重要です。

その目標を達成するべく、努力はしないで下さい。挫折することは保障します(笑)。そうではなく、その目標を忘れないこと。それだけでいいのです。手帳に書いた目標は、時折見直すようにしましょう。それは自分を奮い立たせるためではありません。そうではなく、方向をチェックするためです。東京に向かうつもりが福岡へ向かっていないかとか。方向さえ誤っていなければ、時間はかかるかもしれませんが、それは必ず実現します。それに加えてわざわざ、新幹線の車内を東京に向かって全速力で走る必要などは、全くないのです。のんびり構えましょう。

これはむしろ、科学的かつ自然なことなのだ、ということを再確認できた、良書でした。

それでは、今年もどうかお元気で。

<付記>

ここで、次なる問題として考えられるのは、この「目的を明確にする」という極めて簡単とも思われることが、現代の人はなぜ出来ないのか、ということだと思います。

なぜ現代の人には、夢がない人が多いのでしょうか？(今日日はこんなことを言えば、バラバラにされてしまうのかもしれませんが...).

このことはまたの機会に、触れたいと思います。

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：心、体、そして魂。

先の記事に関するコメントに関するコメント

そのように、何事も鵜呑みにしないというのはある程度科学的に考察する際には重要な態度ではないか、という気がしますね。ここら辺は、浪人時代に鍛えられました。「〇〇大学合格！」ってやつが軒並みコケると、否が応でもそうなります。これもまた、経験に裏打ちされているわけです(笑)。

その例でも明らかですが、取り敢えず有名校だからみたいな完全に外在的な理由と、自分が本当に望むものとを履き違えると、必ず失敗します。

音楽活動でもそうでしたね。昔からテレビに出るみたいなのには、全然興味がありませんでした。出るならYMOみたいに嫌そうに出るのがカッコいいなとか(笑)。だけどもある時、坂本龍一がコンテンポラリー・ダンスのために作った曲を聴いてショックを受けて、いつかこのような舞踏作品を作りたいと思っていました。それは多分高校生の頃ですね。結果として僕は東京でそれをやってきました。DJをするのもクラブみたいなこじんまりしたところではなくファッション・ショーだよなとか。それも全部実現しました。これが自己啓発書にあるように「テレビで有名になる！」みたいな命題の立て方をしていたとしたら、またコケていたでしょうね(笑)。

つまり無意識の方が、全然力が強いわけです。ですから"論理的に考える"意識ではなく、"何となくそう思う、そう感じる"無意識の方が、一体何を望んでいるのかに気付くことの方が、先決だと思います。

そのためにはやはり、一人で十分時間をかけて考察することが、大事だと思います。短い時間だとしても、意識が好む、外在的な、取り敢えず目に付きやすいデータの方に、目が向きがちですからね。

更に付け加えれば、今回のイベントで重要な役割を担った要素がもう一つあるのですが、それは、『60分間・企業ダントツ化プロジェクト』という本です。この本に指摘されている通りに顧客分析を徹底的に行い、結果としてそれが功を奏しました。実は作曲にも使ったんですよ(笑)。

この本にしたって初めて読んだのは約3年前。「石の上にも三年」とはよく言ったものです。気功にも「築基三年」という言葉があって、それは文字通り、基礎を築くには3年かかる、という意味です。やはり入ってきたデータが自分の中で熟成されるのには(無意識化するのには)、ある程度の時間が必要です。

よく例えに出されますが、車の運転がそうですね。最初はブレーキとかクラッチとかに気を取られてパニック状態ですが、しばらくするとそんなものは忘れ、風景や会話を楽しみながら運転

できる。一旦それに成功すると、あとは自動的に事が進みます。今何をすればよいのかは、それこそ湧き上がってきます。

次なる問題は、最低でも三年間、そのことに取り組み続けられるかどうかですね。

ですから、「私は最低でも三年以上、これに取り組んでいます」、というものがあれば、それをベースに発想することはとても助けになると思います。私の場合はやはり、音楽と気功です。それをどう拡大させるかを考えた時、ビジネスの研究は不可欠になる。気を科学的に論じるためには、電磁気学の勉強も必要、そうやって拡大してきましたからね。

更に重要なのは、「楽しんで」ということです。これが一番重要かもしれない。楽しく出来なければ、それは続かないわけです。これぞ「自然に沸き上がる」の最たるものですよ(笑)。

仏教でも、苦楽の中の"楽"と、"大楽"とは違う、と申します。この差は持続力です。快楽や悦楽の"楽"は一過性ですが、"大楽"はずっと続くものです。古代ギリシャでエピキュロスが述べたのも、このことです。

楽しいことをやりましょう。それはあなたに、大きな力を与えてくれます。

というわけでこちらこそ、大変お世話になり、有難うございました。来年もどうぞ宜しくお願い(^o^)/

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

今年も残すところあと2日・・・。

皆様におかれましては、今年はいくどんな年だったでしょうか？

私自身に関して申せば、概ねグッド。なかなか充実した年であったと言えます。

同時に、今年も多くのことを学ぶことができました。

その中で、最も印象に残ったことを、ここでご紹介したいと思います。

そしてそのことは、実は、気功法の訓練にも、大きく関わって来たことだったのです。

それは、『イメージの力』ということです。

ここで、ある私の知人の例を、ご紹介したいと思います(あまり良い例ではないので、その方には申し訳ないのですが・・・)。

傍から見て、お世辞にも幸福とは思えない人生を送っていらっしゃる方がいます。その方と話している時に、その方はこうおっしゃいました。「今の日常がこのようなので、あまり将来のことは考えられないし、考えたくない」と。私はこの言葉を聞いた時、非常に不思議に思いました。

それは逆ではないだろうか、と思ったのです。

つまり、現状があまり好ましくないから未来が考えられないのではなく、逆に、未来についてのビジョンを描かないからこそ、現状が好転しない、あるいは好転させようというインセンティブが生まれないにではないか、と思ったのです。

その時は、自分のビジネスに関して一般的な視点から、その方の意見を聞こうと思って話しかけたところ、結果としてそのような内容の話が出てきてしまったわけなのですが、私はそれ以上話を続ける気にどうしてもなれず、早々とそこを去ってしまいました。

次は、卑近ながら、私自身の例です。

私は今年の初め頃、それまで関わっていた音楽グループと、手を切ることになりました。それ以上の進展はありえない、と踏んだからです。

その時メンバーの一人は、こう言いました。「そんなに言うんだったら、一人でやればええやん。多分あんた、一生誰とも組まれへんで。」

彼女にしてみれば、もしかしたら私を突き放して混乱させるつもりでそう言ったのかも知れませんが、その言葉は私にとっては、全く逆の意味を持って響きました。「そうだ、彼女の言う通りだ。あーだこーだ言わず、自分一人でやろう。」

別に神秘的な意味ではないのですが、その日帰りの電車に乗る私の頭には、様々なアイディアが交錯していました。家に飛んで帰った私はそれらのアイディアを、いわゆる『マインド・マップ』で、白い紙に書き出しました。

結果的にそれらは、半年の間に、全て現実のものとなりました。

例えばこの中には、既に、三徳山三佛寺での奉納演奏のことが書かれていました。しかしながらそれは当時の状況から言えば、およそ実現不可能なことでした。何故なら、私と寺とのコネクションが、まるで無かったからです。今年は開山千三百年に当たり、様々なイベントが数ヶ月先まで目じり押しで、コネが無い状態でそこへ切り込みをかけ、それを実現させる可能性は、ほぼゼロでした。

しかし実際に動き出してみると、寺の所在地である三朝町のとある議会議員さんが、偶然にも母の知人で、さらに三朝町長さんが、これまた偶然にも父の知人だったりということが判明し、その一ヵ月後には実際に、奉納演奏が決まっていました。

余談ですが、私自身がこの事実を当初は受け入れられず、失礼な話ではありますが、お願いしますと言われても、多分社交辞令でそのようにおっしゃっているのだろう、くらいにしか思っていませんでした。ところが8月に別件でお寺を訪ねた際、担当の方に「当日に使うのはこれなんですけど、大丈夫でしょうか？」とPAシステムを見せられた時、あ、こりゃ本当だ、と思い、その時初めてビビったものです(もう一つ余談ですが、その実現した演奏自体に私が満足しているかどうかは、全く別問題なのですけど(笑))。

昔から様々な自己啓発書などで、『イメージの力』が、様々な角度から指摘されていますが、私は、これらの実体験を通じて、意識的にも、無意識的にも、その重要性を再認識することができた、と言えるかもしれません。

これは、いわゆる“想像＝創造”の点から述べたことですが、『イメージの力』は、それだけではないと思います。

例えば、先のグループの例。私が彼らに対して当惑していたのは、認めざるを得ません。では何故当惑していたのか？それは、私の中に無意識的に、“有能な音楽家”のイメージがあって、それと彼らを比較してみた時に、彼ら自身の才能に疑問を持たざるを得なかったから、と告白せざるを得ないのです。

私はそれは、私自身が彼らの足りない部分を補うことで、十分にカバーできるはずだ、と、当初は楽観的に考えていました。しかしだんだんと、私はこう考えるようになってきました。

「そこまでして、彼らと行動を共にする必要性が、本当にあるのか？」

自分は実力がある、などとは、口が裂けても申し上げるつもりはありません。しかし一般的に考えてみて、自分が成長したいと考えた時、楽器が弾けない、作曲も出来ない、といったような人達と音楽活動を続けることは、自分自身の成長につながるのだろうか？

ここで、次のようなご質問が出てくるかもしれません。「じゃああなたは、なぜそのような人達と組んだのか？」。このご質問に対しては、フランスの作曲家であるE.サティの次の言葉を、引用したいと思います。「偉大なる芸術家は、みな素人だ」。更には、私の敬愛するB.イーノ氏は、ほとんど楽器が弾けません。このハンディキャップを彼は、テープレコーダーなどのテクノロジーを用いることで、克服したのです。武満徹さんだって、作曲は完全に独学です。アイディアと意欲さえあれば、素人の方がむしろ、玄人より面白い発想をする、というのが、彼ら自身が示してきたことなのであり、私は今でもそれは、真実だと思います。

しかしそれは、「アイディアと意欲さえあれば」という条件付きです。アイディアも意欲もなければ、どうしようもありません。愚かな私は、このことが見抜けなかったのです。

これは、相対的な問題です。

これは、以前お話したように、私の地元鳥取県の教職員が50分かけて解説しても私には全く理解できなかったのと同じ問題が、京都の河合塾の講師が5分でさらりに行った解説で完璧に理解できた、という例と、全く同じです。だとすれば、限られた時間内で大学受験を突破しなければならないという目標に限って考えれば、地元の教職員の授業を受けるのがいいのか、予備校の講師

の授業を受けるのがいいのかは、言うまでも無いことだと思います。

余談ですが、先日杉並区立和田中学校で、予備校の講師による課外授業がスタートしました。これに対しては賛否両論あるようですが、その中の否定的な意見としては、「学校とは受験のテクニックを教えるためだけにあるのではない」といったものがあります。

そう批判なさるのであれば、では何を教えてくれるというのか、明らかにして頂きたいものです。私の経験から言えば、あれほどネガティブだった「勉強」に対するイメージを、それを遂行することでより広大な世界にアクセスすることが出来るのだ、といったポジティブなものに根本的に変えてくれたのは、紛れもなく予備校の授業だったのです。私は、地元の公立校で受けた授業と、予備校で受けた授業と、どちらを評価するか、と問われれば、間違いなく後者である、と断言します(言うまでも無くそれは、当時の河合塾京都校での話ではありますが)。

そうであれば、そのような人達と行動するより、経験豊かな人達と行動する方が良い、自分自身の成長を考えれば、素人よりは、玄人と交流した方が良い。そう思って私は彼らと決別し、今回の『気満つる御山／悠久の祈り』プロジェクトでは、百戦錬磨の猛者であるDr. Yukiと組みました。その結果は、大成功に終わったわけです。

あるいは、そのような人が当面周りにいなければ、イメージの中でもそのような人といることの方が、現実世界でそうではない人達と一緒にいるより、よっぽどましなのではないか、と思います(この点で、自己啓発書にあるように、イメージの中に古今東西の賢者や成功者を集わせて、自分が直面している問題に関して議論させる、などといった一見神秘的なトレーニングは、あながち絵空事ではない、と思います)。

私が気功の師匠を選んだ時でも、そうだと思います。私は都内で、それこそ30件以上道場の門を叩きました。しかし、どれにも満足できなかった。それは実際私の中に、かくあるべき、という師匠の青写真があったからでしょう。そして私は最終的に、廖先生の所に弟子入りし、先生は更に、劉先生を紹介して下さいました。そしてその劉先生は、私のイメージしていた師匠の像に、最も近い人物であったのです。

もし私にそのような青写真がなく、気功って面白そうだからやってみるか、といった安直な気持ちで入門していたのであれば、私は実力の無い師匠の元で、貴重な授業料を無駄にしていたことでしょう。そしてこれが、気功のトレーニングに限らず、一般の人々によくあるパターンなのではないのでしょうか。

要するに、ビジョンが無いこと自体が問題なのです。これが問題なのです。

するとどうなるか。日常生活は、単なる死ぬまでの暇つぶし、となります。暇だから、余暇を求めます。それがパチンコであろうが、霊的な修行であろうが、同じです。もしかしたら後者の方がタチが悪いかもしれない。そのような安易な気持ちで修行してみたところで、どうせロクなことにはならないのですから、最初から止めた方が良いでしょう。

以前「イメージは羅針盤である」というお話をしました。このことはいくら強調しても、し過ぎることは無いと思います。羅針盤も無いのに文字通り人生の荒波を乗り切るのは、およそ不可能です。

羅針盤を手に入れた時、まさしく世界は変わります。電車や船、飛行機等は、交通機関という点では、どれも同じです。しかしここに、「東京駅から新宿駅まで行くのに、最短時間で行くにはどうすればよいか？」という命題を放り込んだ時、それらの持つ意味合いは、大きく変化します。その目的を達成せんがために、ワシントン行きの航空機を予約するかなのような行動をとる人が、何と多いことでしょう。

先ず、イメージを持つことです。

ただし、ここで注意すべきことがあります。

このように『イメージの力』を力説すると、ではインチキ臭い自己啓発書のマニュアル通りに瞑想なんかしてその中で自分が成功している姿をイメージするのかな、と誤解する方が必ず出てきますが、そのようなやり方は、私はお勧めしません。それは一種の自己催眠どころか、自己洗脳です。

なぜならば、今まで申し上げてきたことから懸念する読者の方であればお分かりのように、私自身がそのようなことは一切行っていないからです。成功している人物のイメージは、その人の伝記あるいは著作に触れれば、容易に湧き上がってくるものです。そして、ここがポイントだと思います。

つまり、私達が重視すべきイメージとは、自然に沸いて出てくるもの、でなくてはならないのです。

例えば、この分野で先駆的な著作を数々発表なさっている神田昌典氏は、自身の書の中で、「

やりたいことを紙に書いて毎日それを眺めながらニタニタする」と述べておられます。重要なのは、この「ニタニタする」です。それは、自然に湧き上がってくる生理学的かつ自然な反応です。逆に、捏造した願望に対してさらにそのようなリアクションを捏造的に行っていれば、遅かれ早かれ、精神に異常をきたすことは、確実です。

重要なのは、湧き上がるイメージです。それを上手く把握するためには、余分な外在的な諸観念を、排除する必要があります。

それにはやはり、リラックスは欠かせません。

このことは、先の私の例が、好例となるかも知れません。先のメンバーと一緒にいた時には、まるでアイディアが浮かばないのです。イメージも何もあったものではありません。それでは、ということで私が彼らと決別した帰りの電車のまさにその中で、突然アイディアが溢れるように浮かんできたのです。そしてそれらは、先にも申し上げましたように、全て実現しました。そういうことなのかもしれません。

そして後は、言うまでもないことですが、実際の行動。ほんの少しで構いません。大きな目標を掲げた時ほど、自分自身で尻込みしてしまいがちですが、今の自分で出来そうなことから、先ずは実行してみることです。

私の知人で、神田昌典氏のおっしゃることを鵜呑みにしてノートに「年収一千万！」と大きく書いて、パチンコをしている、不思議な人がいます。もちろん彼は、その年収を、パチンコを通じて達成しようとしているわけではありません。そうした愚は、避けなくてはならないのです(因みに、自己啓発書を単なる"癒し系"にしている人達の中にこの種の行動は、多く見られるパターンではないでしょうか)。

この一年間で私に起こった出来事を、年の瀬となった今、つらつら考えてみると、正に、何かに導かれるようにして全てのことが成った、という感じがしますが、もし万が一そうだととしても、社会科学を学んだものとして、そのように神秘的に語るのは、止めたいと思います。科学に必要なのは、『再現可能性』ですので、誰にでもそれが再現できるように、それをある程度メソッド化する必要があります。もちろん、難解なものではだめです。簡単に、誰にでも再現できるメソッドが、必要です。

それら全てに共通する因子を一つだけ挙げよ、と問われれば、私はこの『イメージの力』を挙げたいと思います。そしてその土台を構成するもう一つの因子と言え、『リラックスして、考

察する』。

もうすぐ元日。皆様におかれましては、是非温かいお風呂にでも入りながらリラックスして、新たな年にやりたいことに思いをお馳せに成られますことを、心より希望いたします。お勧めです。

さてさて、来年は何をしようかな？ 本年もお世話になりました。

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

	どうよう
--	------

いや～、忙しかった。久々の更新です。

先だっの10月28日のミクスト・メディア・パフォーマンス『気満つる御山／悠久の祈り』、
ならびに翌29日の鳥取県重要文化財三徳山三仏寺での奉納演奏は、盛況の内に終えることができました。

これもひとえに、皆様方の温かいご声援の賜物と、心から感謝致しております。

お客さんは、下は小学生から上は80歳以上のシニアの方々まで、延べ300。よく考えてみれば
これって、ものすごい年齢層だな。

その時、全曲オリジナル曲で固めるのは、初めて私の音楽に触れる方々、特に普段エレクト
ロニック・サウンドを耳になさることはまれと思われるシニアの方々にはちょっときついな、
と思ったので、ラインアップの中に、お馴染みの『ふるさと』と『里の秋』という二曲の童謡を
入れたのですが(余談ではありますが、主眼のオリジナル曲にしても、あれだけ受けるとは、正直
申し上げて全く思っていませんでした。"テクノ"という言葉さえご存じない方々に、私の曲のよう
な基本的に10分以上あるミニマル・テクノが受けるなどとは、作曲した当人でさえ、どうして想
像することができたでしょう・・・)、公演の後で、「あのような童謡ばかりを集めたCDがほしい
」という感想をたくさんいただき、これはある程度の販売数が見込める、と判断した私は、早速
制作に取り掛かりました。

「リスナーの要望に合わせてCDの受注生産するようなインディなんて、多分中原さんくらい
でしょうね。」とは、競演したDr. Yukiの弁。

ところが、童謡というものは、基本的にメロディがせいぜい4小節程度しかないので、そのま
まのアレンジだと高々1分程度にしかならない。ミニマルな手法を使うわけにもいかない(それはそれ
でやってみたら面白かったりして)。そのような状況である程度の長さを持ったCDをいかにして作
るか。

結局、オーソドックスなクラシックの対位法あるいは楽式論等を使って、真正面から、正統派
の編曲法を試みつつ、この私のことなので、コンピュータのバグなどを使って随所にJ.ケージ的な
偶然性を取り込みながら(笑)アレンジ作業を行い、最終的に先週金曜日、無事リリースすることが
できました。

やはり、やりなれない手法を使うと骨が折れましたが、良い勉強になりました。

というわけで、現在ナカハラ洋装店の店頭のみで販売しているのですが、2週間で100枚以上の
売り上げとは、なかなか悪くない数字ではないかな、と、ちょっとだけ嬉しかったりします。

また、公演直後にリリースした『気満つる御山／悠久の祈り』は、現在、都内の某リラクゼーション・サロン等で使用して頂いております。ありがとうございます。

そこら辺を含めて、来年は東京でも、以前在住していた時とは全く異なった形で、積極的に業務展開していこうと考えています。なかなか面白くなってきた。

詳細は追って、ご報告致します。



『わけのわからん音楽』

「こんな『わけのわからん音楽』聴いてんのは、お前だけやぞ。」

私がシンセサイザーなどを用いた音楽を聴くようになったきっかけは、1979年から80年にかけて、NHKで放送されたドキュメンタリー番組『シルクロード』の中で使われていた、当時デビューしたばかりだった、喜多郎氏の音楽に触れたことでした。

彼のやわらかなシンセサイザーの音色と、画面上に広がるタクラマカン砂漠の茫漠たる風景は、当時少年だった私の心に、強烈な印象を残しました。

ちょうどその頃、私の周りの比較的進歩的だった友人達の間で、ポップだけれど、歌謡曲とは全く異なった雰囲気を持つ、奇妙かつカッコいい音楽が流行っていました。その音楽に多用されていたのは、奇しくも同じ、シンセサイザーという楽器。その主は、イエロー・マジック・オーケストラ。通称、YMOでした。

最初は、その心地よいシンセサイザーの音色と、ダンサブルなリズムに惹かれていただけだったのですが、彼らは実際かなりの知能犯でしたので、その音楽の中には、次第に、アバンギャルドなテイストがちりばめられるようになりました。ちょっと風変わりだな、という感じはしましたが、彼らに魅了されていた私は、ますます虜になってしまいました。

そして、高校入学。

部活動で放送部を選んだ私が、そこで出会ったのは、上田英生先生という方でした。なんと彼もシンセサイザーのファンで、実際自宅には、かなりの量のシンセがある、とおっしゃるではありませんか。

その時まで実物のシンセサイザーを見たことがなかった私を、先生は、ご自宅に招いて下さいました。そこで初めて見たシンセサイザーの山！その時の私の喜びようといったら、ありませんでした。

そんな私に、「これはお勧めだよ」と言って、彼は、いくつかレコードを貸してくれました。その中にあったのは、クラウド・シュルツ、タンジェリン・ドリーム、クラフトワーク、クラスター、コンラッド・シュニッツラーなどといった、いわゆるジャーマン・プログレッシブの数々。

その当時まで、喜多郎の空間的な音世界や、YMOのテクノ・ポップしか触れたことはなかったのですが、彼ら自身が影響を受けたアーティストとしてよく彼らの名前を挙げていたものですから、私は、ごく気楽な気持ちで、針を落としました。

その直後、奇しくもフル・ボリュームになっていたオーディオから展開された、まさにクラスターのセカンド・アルバムのジャケットのような、目くるめく奇怪な音世界・・・。

その時私は、初めてシンセサイザー音楽に触れた時とは比べ物にならないくらいのショックを受けたのですが、私のDNAがそれらを受容するのに、そんなに時間はかかりませんでした。しかも、一旦受容されてしまうと、その変化は非可逆的でした。私は歌謡曲が、聴けなくなってしまったのです(因みに、先の上田先生は、今や、日本のノイズ界を代表するアーティストとなっていっちゃいます)。

そして、大学入学。

当時教養課程では、『音楽概論』という講義が一番単位を取り易い、という噂が、まことしやかに流れていました。しかし、単位を取り易からうが取りにくからうが、私には何の関係もあるわけがなく、私は迷わず、この講義を履修することにしました。案の定、第一日目の教室には、溢れんばかりの学生。

入ってくるなりその光景を目の当たりにした講師の先生は、ふと何か考えるしぐさをすると、おもむろにこうおっしゃいました。「やはりこの講義は、単位を取り易いという不届きな噂が流れていたようですので、今年は"人減らし"のために、『ミニマル・ミュージック』をやります。」

そこでいきなりかかったのが、スティーブ・ライヒの『イツ・ゴナ・レイン』、続いて、同『カム・アウト』。参考として、トータル・セリエリズムを解説するために、オリビエ・メシアン『音価と強度のモード』。この時点で、先生の見論見どおり、見事に学生は半数近くにまで激減しました。そして皆さんのご想像通り、一人狂喜乱舞していたのは、この私。

この後随時紹介されたのは、ジョン・ケージ、フィリップ・グラス、テリー・ライリー、カールハインツ・シュトックハウゼン、キース・ジャレット、パット・メセニー、ブライアン・イーノ、ジョルジュ・リゲティ、アルバン・ベルク・・・。彼らは今でも、私のオールタイム・フェイバリットです。

因みに、この時の期末試験直前に出回っていたのは、この私のノートです。しかし当然ながら、誰にも理解できなかったらしいです。それもそのはず、講義を聴きながら、それを五線譜に書

き写し、またそれに関する関連事項を、所狭しと書きなぐっていましたから。テストでは放棄者続出。私は当然、『優』でした。

しかし、当時の私の周りにいた知人達には、そのような私が好んで聴く音楽は、極めて奇怪に映ったようです。そのような私に浴びせられていたのが、冒頭の言葉です。

この言葉を聴くと、私はとても不思議に思いました。というのは、これらの音楽は、先の講義でも頻繁に取り上げられていた作曲家の作品でもあり、当然彼らは、作曲家として、歴史に名を残すような大物達です。それを聴くのは、本当に私だけなののでしょうか？もしそうなら、何故彼らのCDが市場に出回っているのでしょうか？

そして10年前、私は上京しました。

そこで私は、コンテンポラリー・ダンスを通じて、アンダー・グラウンドのアーティスト達と、交流することになりました。しかし私は、先の『わけのわからん音楽』という言葉が一種のトラウマになっていたので、臆病になり、最初はなかなか自分が出せないでいました(そうは思っていない人も、絶対にいるでしょうけど(笑))。そんなある日展開されたのが、次のような会話でした。

「中原さんは、どんな音楽を聴くんですか？」

「そうですね〜、ア、アシュラ・テンペルとか・・・。」

「あー、アシュラですかー。そうじゃないかと思いましたよ。『ニュー・エイジ・オブ・アース』なんて最高ですねー。中原さん、影響受けまくりですよ(笑)。他にはどんなの聴くんですか？」。

所変われば、品変わる、とは、まさにこのこと。この時私は、あー、こんな僕でも受け入れられたんだ、と思いました。

そうすると今度は、逆に、今までの人間関係が、一気に色褪せてしまったのです。

今回のコンサートでも、そうでした。

もっとも今の私は、先のようなナイーブな人間ではもはやありませんので(笑)、より攻撃的になってみました。具体的には、かつての私の周りの知人達が、『わけのわからん音楽』と定義していたマテリアルを、随所にサンプリングして使用したのです。その結果、『わけのわからん音楽

』という感想は、今のところ聞いたことがありません。それどころか、「今まで経験したことのない、刺激的なステージだった」と大好評でした。

皆さんは、何故昔の修験者が、山に入ったのか、お考えになったことがおありでしょうか。

その一つの理由には、私達気功家がやるように、気脈を見つけてそこで修行することで、その効果を高める、といった、現実的な側面があります。山には、地形や、その地下に埋まっている物質の影響によって、異常電磁界が生じている場所があります。そこに立つと、通常とは違った感覚が得られますので、それを自分のトレーニングに、利用するというわけです。

そしてもう一つの理由は、『異界に触れる』という経験だと思います。

一旦山に入れば、何が起きるかわかりません。がけから足を滑らして転落するかもしれないし、雪崩に巻き込まれるかもしれない。クマに襲われるかもしれない(最近のクマは、住宅地に現れるようですが)。食べ物がなければ、探さなくてはならない。そんな時、間違って毒キノコを食べて、命を落とすかもしれない。

そのような極限状態から、普段の日常を見直せば、そうしなかった時とは全く異なったパースペクティブが得られます。自然と、普段の日常生活に対して、有難い、という感謝の念が得られます。同時に、謙虚さも生まれます。

このことは、逆に考えてみれば、判りやすいかもしれません。どこまで行っても、自分の知っている『既知』の世界。変化も何もない。そこで生じるのは、驕りです。自分は何でも知っていて、一番偉いのだ、という慢心。そしてそれが頓挫すると、今度は自己否定です。自分なんか生きていたってしょうがない。この振り子状態が、いわゆる躁鬱です。それが緩やかであれば、薬で対処できますが、これが激しくなる時、人は犯罪か、自殺を選びます。

最近自殺のトピックスを、よく耳にします。「自殺までしなくっても・・・」と思うとします。問題はこの「・・・」の中身です。つまり、自殺という究極の選択に変わる代替策を提示することが出来れば、その人は自殺しなくてすむはずです。しかし多くの場合、これに失敗するというわけです。

「こんな『わけのわからん音楽』聴いてんのは、お前だけやぞ」。この言葉は、発する本人にとっては、単なる戯言でしょう。しかし、受け手はそうは取らないのです。最近のケースと、全く同じです。もし私がものすごくナイーブだったら、命を断ったかも知れません。しかし、

そうはしなかった。何故か？私は、『異界』がある、ということを知っていたからです。このような音楽が受け入れられている場所は、必ずある。第一、私自身の情報は、そこから得ているのではないか。それはさして遠い所にあるわけではなく、すぐそばにある。そう思い続けていました。

そしてその葛藤は、東京移転という、極めて単純なことによって、解決したのです。

この『異界』をめぐる諸問題は、このような身近なことに限りはしません。例えば、先だってアメリカの共和党が、選挙で惨敗しました。それ以前のブッシュ大統領の発言、行動に欠けていたのは、まさしくこの『異界』の観念だったと思います。自分と共和党は、絶対に正しい、正しくないわけがない。それはほとんど信仰に近いものだった。それに真正面からノーを突きつけたのが、彼にとっての『異界』であった、アメリカ国民であったわけです。しかしそれは、私は、むしろ彼にとっては「救い」ではなかったか、と思うのです。選挙直後の演説で、敗北を認めた時の彼の顔は、とてもさっぱりしていたように感じたのは、私だけでしょうか？

このように、『異界』をめぐる問題は、政治的な分野にまで拡大することができます。それもそのはず、いずれの分野も、その主体は、人間の『意識』だからです。

『わけのわからん』ものを完全に排斥した、『わけのわかる』もののみが流通する世界。それはある意味、コンビニ弁当とファミレスの世界ではないでしょうか。そのような世界は、楽しいのでしょうかね？それだけではありません。そこに生まれる完全な『既知』の世界というのは、お隣さんのように、"人民"(それは容易に、権力によって、権力そのものと意図的に混同されます)が認めたものしか流通させてはならない、という、ある意味ファシズムと同じようなものではないでしょうか。

第一、『わけのわかる』世界を成り立たせる主要素である"理性"の最先端ともいうべき科学の世界でも、20世紀初頭の量子力学によって、そのような『異界』的な運動性を認めなければ、物理法則自体が成り立たない、ということが証明されています。皮肉なことに、それを「いかがわしい」として排撃しようとしたのが、それまでの常識であったニュートン世界の時空の概念を自身の相対性理論によって根底から崩壊させた、かのアインシュタインなわけですが、その論争以降の様々な研究によっても、量子力学の正当性は、確実視されています。

科学の最先端がそのようであるのに、一般庶民の認識は100年以上昔のまま、というのは、むしろその方が、奇怪なことのよう to 思います。彼らが手にする携帯電話やパソコンは、量子力学の産物であるにもかかわらず。

私たちは、もう一度『異界』に目を向けなければならない、と思います。それは、占いや

パワー・スポットなどといった、それこそ『わけのわからん』スピリチュアル系ヒーリングや、それらの装いをまとった宗教にハマったりすることではありません(それはそれで効果はないとは言いませんが、間違ったやり方では全く効果がないのは、自明の理です)。もっと簡単に出来ます。帰り道を変えるとか、部屋の配置を換えるとか。私がやったように引越しをしてみるとか。それは無理、とおっしゃるのであれば、単純に旅とか(言うまでもなく、温泉グルメではダメです)。

ポイントは、『異界』を"探す"ことではありません(パワー・スポットなどは、それを目当てに人が集まってくるので、『異界』になぞなれるわけありません)。そうではなく、『異界』を"作り出す"のです。それに成功した時、世界は完全に変わります。それまでのものが、一気に色褪せてしまいます。OSが変わるようなものです。

そうすると、もう元には戻れません。

それが怖いから一步踏み出せない、というご意見もあるでしょう。しかし、それをするのとならないのとでは、得られるものの量と質は、桁違いだと思います。

余談ですが私は、OSと友人は、常にアップデートしなければならない、というのが持論です。その理由は、全く同じです。前進したいのであれば、古いものは、捨て去る勇気が必要です。

教育でも、このことは極めて重要だと思います。私の文脈で言えば、音楽。子供には様々な音楽に触れる機会を与えてほしいものです。童謡から現代音楽まで。その中で、好き嫌いは当然生じるでしょう。だからといって、嫌いなものを好きにさせようとしてさらに強制する必要などは、全くありません。このような音楽があるのだ、という経験を与えるだけでいいのです。そうすればその子が長じて、何かの機会にその分野で活躍する人と出会った時、十分実りのあるディスカッションができるかもしれません。それはお互いにとって、間違いなくプラスになるはずです。専門家を目指すのでなければ、それで十分です。

しかし、そのような簡単なことさえ実行されず、またその重要性さえ認識できていない親や教職員が多すぎる、というのが、現代の教育界の根本的な欠陥なのではないか、と思います。

子供に『異界』を提示できるかどうか。それは自殺を防ぐといった対症療法的な問題に限りません。「君が見ているのとは全然違った、もっと広大な世界があるんだよ」、その言葉を大人から得ることができるか否かは、子供の将来と可能性を、大きく左右してしまうかも知れません。これこそが、表面的な制度が変わろうが変わるまいが、普遍的で、かつすぐに、誰にでも実行できる『教育』だと思います。

とは申せ、それは、このような世界観を持つことができない親や教職員では、およそ不可能

です。

要するに、イマジネーションを豊かにすること。大人も子供も。

それを私の場合、芸術活動を通じても遂行できればな、と考えています。

そんなわけで、今日も私は、『わけのわからん音楽』を聴き続けます。『異界』に触れ、そうすることで、自分自身の知覚の可能性を広げるためにも。

そして、そのようなきっかけを与えてくれる素晴らしい作品を世に生み出してくれた偉大なる作曲家達に、心から、感謝したいと思います。

最後に、周囲から『変人』呼ばわりされているあなた。自信を持って下さい。あなたには、その他大勢の人たちではできないことが、できるのですから。そして歴史を作ってきたのは、例外なく、そのような『変人』たちであったのですから(笑)。

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

怒涛の二日連続ライブ無事終了

怒涛の二日連続ライブが、何とか無事終了致しました。

一日目の倉吉未来中心小ホールでのパフォーマンス『気満つる御山／悠久の祈り』では、私の楽曲の音とスピーカー・システムとが全くマッチングせず、開演直前までその音処理でてんてこ舞いしましたが、CGを担当してくれた呼吸器外科医Dr. Yukiの「こうなったら、マスター・アウトにプラグインでイコライザーをかませて、1200Hzを1dB落としましょう」という、あんたいたい本業は何屋さんなの？と思わせる的確なアドバイスにより、何とか対処することが出来ました。

そんな状況でしたので、シンセでリードを取ったらまた倍音が増幅されてスピーカーがキンキンジャリジャリいい出すのではなかろうか、と思うと気が気ではなく、まともに演奏できたものではなかったので、パフォーマンスそのものとしては私は全然満足がいていないのですが、お客さんにはそのようなトラブった状況は伝わらなかったようで、全体としては有難いことに、とてもご好評を賜ることが出来ました(ミニマルな曲ばかりで、なおかついわゆる現代音楽の素材をかなり多用したので、これは不慣れな方にはきついか？と思ったのは杞憂だったようで、それどころか結構お年を召した方々にまで受けたのには、ちょっとびっくり)。

照明を落としていたため舞台からは客席の様子はよく判らなかったのですが、キャパ300に対して250以上の席は埋まっていた、という話でしたから、興行的にもマズマズの出来だったのではないのでしょうか。

終演後はスタッフ全員でパーッと打ち上げ！といきたかったのですが、次の日は三徳山『火渡り神事』での奉納演奏を控えていたため涙を飲み、翌朝は睡眠不足で意識朦朧とした状態で三徳山三仏寺へ。午前9時前で、周辺はすでに、大渋滞となっていました。

ここでも再度PAに泣かされる羽目になりましたが、どのみち野外での演奏なので、贅沢は言えません。モニターもまともに聴こえないような過酷な状態でしたが、Dr. Yukiのリアルタイムのイコライジング処理により、無事終了。

いやー、なかなか大変でした。でもまあ、面白かったな。

ところがそれで終わり、というわけではなく、終演後に、「あのコンサートのCDが欲しい」というお問い合わせが殺到しているため、現在それらを再編集したCD制作にいそしんでおります。有難いことであります。またCD以外に、今回のDr. YukiによるCGと組み合わせたDVD作品を、同時並行で製作中。これは年内に仕上がると思います。

そんなこんなで、コンサートが終わっても多忙の日々。嬉しいことですけど。

その他にも、今回のプロジェクトを推進する中で、意外なところから意外なところへと、話が飛び火しつつあります。面白くなってきた。

というわけで、ご来場頂きました皆様に、心から御礼申し上げます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

取り敢えず、曲は出来ました。

来られるお客さんの層と、仏教(特に修験道)を題材にしたCGがバックに流れることなどを考えると、最初は、かの喜多郎氏が70年代のNHK特集『シルクロード』でやっていたような感じにしようかな、と思っていたのですが、最近見た『風の谷のナウシカ』に影響されちゃったりもして、気がついたら全然違う感じになってしまった(余談ですが、腐海のところで流れる曲なんて、あれってモロTerry Rileyですよ。久石さんあっぱれ)。

現在までの所、チケットは250近く出ている模様です。ハコのキャパが300のためこれ以上だとハコそのものの入場制限に引っかかるので、そろそろヤバいんですけど。

先日打ち合わせをしてきました。やるのは倉吉未来中心の小ホールの方なんですけど、そのスタッフさんと(もちろん初対面です)、MALTAさん関係で『倉吉天女音楽祭』などの大ホールでのイベントには何回か出たことがありますよ、みたいな話をすると、そうみたいです、なんておっしゃるので、「僕のことご存知なんですか？」と尋ねたら、「ええ、シンセと気功をされる方でしょ？」という返事でした。

いや、世間は狭い。迂闊なこと出来ない。

極め付けは、次の日の三徳山三仏寺宝物殿前での奉納演奏。この『火渡り神事』という行事はかなりの歴史のあるものなので、毎年マスコミも取材に来ます。

最初は、多分お年寄りが多いだろう、と思って、ライトな童謡なんかを用意していたのですが、せっかく蔵王権現の前で演奏するのだから一、なんてふと思ったら、やたらと壮大な曲が出来てしまったので、そちらに差し替え。

VangelisやMike Oldfield、Tangerine Dreamなどの昔のシンセ音楽が好きな人が聴いたら、大笑いするか激怒するか、どっちかだろうな。イントロはまんまTubular Bells(爆笑)。そんなものを奉納演奏でやろうなんて輩は、今日の日本では多分、私くらいでしょうけど。

ま、いいか。楽しんできます。

☐

気満つる御山/悠久の祈り～三徳山開山千三百年に寄せて

・・・というコンサートを、10月28日土曜日午後6時30分より、鳥取県倉吉未来中心小ホールにて開催致します(ポスター参照)。

元々、単独でのコンサートの予定だったのですが、今年は県中央部にある古来からの修験道の聖地『三徳山』が開山1300年を迎え、各種の行事が行われていることから、そちらとタイアップさせて頂くことになりました。

コンピュータ・グラフィックスで参加してくれるのは、某大付属病院呼吸器外科のブラック・ジャック、Dr. Yuki。

前半は、アンビエントっぽい組曲を中心にしたオリジナル曲の演奏、後半は、童謡などの既成曲を中心に、今回のテーマが“修験道”ですので、『何故人は山に入るのか～仏教に残された可能性を探る』と題したちょっとしたレクチュアを付け加えさせて頂きたいと思います。暴走しないように気をつけたいところですが(笑)。

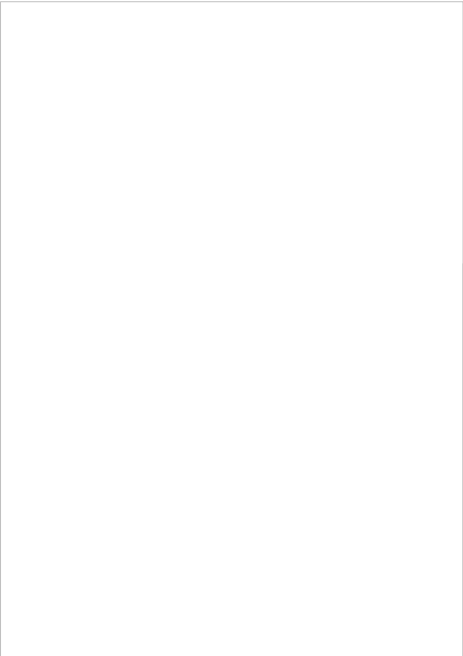
入場料は、一律1000円です。多くの方々のご来場をお待ち申し上げます。

因みに次の日(10月29日)には、その三徳山三仏寺において奉納演奏もさせて頂くことになっておりますので、ご興味のある方はそちらへも是非。必殺の「火渡り神事」の直前です。こちらは参拝無料。

但し、例年かなりの数の参拝の方が来られますので、現地には早めにお出でになることをお勧め致します。

先だってその会場の下見に行ってきたのですが、参考のために撮影した写真の何枚かに、何故かまたオーブ君たちが写っていました。みんな元気よくはしゃぎまわっています。

当日は彼らも演奏に参加してくれるのでしょうか？文字通り緊張感溢れるステージになったりして(笑)。



オーブちゃん	ゆかいな仲間たち
--------	----------

気功を始めて、早6年。

その中で、多くの方々に教えを乞い、また自分なりに実践してきたのですが、ここで改めて、気功あるいはヨガなどの身体技法の修練の中で、あなたの考える最も重要だと思われるファクターを一つだけ上げろ、と尋ねられれば、迷わず答えるだろう、と思われる要素が、確かに一つだけあります。

それは、『調身』(姿勢の調整)でしょうか？『調息』(呼吸の調整)でしょうか？『調心』(心の調整)でしょうか？残念ながら、そうではありません。

それでは、常々申し上げていることではありますが、『リラックス』でしょうか？実は、それでもないのです。

それらの効果は、副次的なものに過ぎず、それらの土台ともいうべき、もっと重要なことが、あるのです。

それは一体、何でしょうか？

私の友人に、神戸大学付属病院に勤務する外科医がいます。

彼とは大学時代からの付き合いで、当時はギターの話ばかりだったのですが、昨今では、医学の話もするようになりました。

もっとも彼は、私が銀行をドロップ・アウトして東京に7年間潜伏している間、東洋医学や気功の世界に足を突っ込んでいるなどとは、全く想像だにしなかったことでしょうか。

彼と、現在の東洋医学を取り巻く状況について、よくディスカッションするのですが、彼がその問題点として指摘するのは、東洋医学を標榜する人々には、「数値化して計測する」という意識が、根本的に欠けている、ということです。

例えば、私が末席にて紹介されている某サイトを見ればよく判ることですが、その中では、「未知のエネルギー」を使って難病を治した、というトーンのページが、よく見られます。例えば、末期ガンが、数回の気功治療で全快したとかしないとか、ですね。

ガン専門医の彼に言わせれば、そのような言説には、全く意味がない、ということです。

もしそのような言説に説得力を持たせようと思うのであれば、それらに、例えば、病巣の大きさの具体的な変化状況などの、数値化されたファクターが付随していなければならない、そうでなければ、そのような「症例」は、全く「症例」にはなっていない、と彼は言います。

至極、もっともな話だと思います。

私が開業する以前の話ですが、私は東京で、ある自称気功家と、ある整体の勉強会で会ったことがあります。

打ち上げのために行った居酒屋で、彼は、いわゆる「遠隔治療」で、東京にしながら、大阪に住む末期ガンの患者さんを4人ほど、全快させたと主張していました。周りの人達は、「すごい！さすが〇〇さんだ！」と絶賛していました。

その時私は、そんな話はそっちのけで、その周りにいるお客さんの目を気にしていました。「この方達と僕は、同類だと思われるんだらうなー」と、その場にいることをものすごく後悔した記憶があります。

因みにその時、私は彼に、「お前は魂のレベルが低い」と罵られました。

基本的に、気功を標榜する方の99.5%は、この手の方達なので、魂のレベルの低い私は、あまり近づかないように、心がけています。

ここにあるのは、数値化とは無縁の、極めて心理的なファクターです。

ですからそれは、心理状況によって簡単に左右される可能性があるわけですから、それをもって他者にアピールしようとするのは、現代社会においては、かなり無理があると思います。

そういう意味では私は、むしろ、そんな彼の毛嫌いして止まない「科学信奉者」だと思います。私は常々、気とは、生体が発する電磁波の一種、ないしは静電気などを含めた電磁気学的な現象の一形態だ、と考えています。

もし私の手元に、空気中の電子や光子の動きを計測する装置があれば、それをデータ化することができるのかも知れませんが、貧乏な私は、そんなものは持ち合わせていないので(因みに、かの外科医によれば、MRI一台で、ジェット戦闘機一台分らしいです)、そのような私の主張も、

今は、単なる憶測の領域に留まらざるを得ないのが、残念極まりないのですが・・・。

話は若干それでしたが、そんなわけで、気功の施術の状況を、科学的な器具などを用いて計測し、それを数値化していなければ、いくら末期がんが治った、と主張(しかも施術する方が!)してみたところで、それを有効なものとするのは、土台無理がある、ということになるわけです。

それでは、技術的な制約から、施術の状況をそのような形で数値化するのは困難であるから、東洋医学の有効性は立証不可能なのか？

そうとも限らない、と彼は言います。

彼によれば、数値化にもいろいろあって、例えば、特定部位に感じる痛みの施術前の状況を10としたときに、その数値が施術後にどう変化するか、例えば、快ならばプラスいくら、不快ならばマイナスいくら、といった判定方法は、十分に科学的かつ有効なもの、と考えられるそうです。

しかし、自分のことを冷静に振り返ってみると、これこそ私が、今まで無意識的に実行してきたことではないか、と思うのです。

私は、今の師匠のところに入門するまでに、数十件の気功教室を当たりました。

結果として、それらに入門することがなかったのは、畢竟、「効果がない」、と私が判断したからに、他なりません。その判断の根拠とは、一体何か？

ずばり、レッスンに参加する前と後とで、自分の体に、何らの変化が見られなかったからです。

先の例で言えば、練習前の状況を10とすれば、練習後も、10(さすがにマイナスというのは少なかったですが)。結果として、効果なし、というわけです。

そのような状況下で、唯一変化が見られたのが、一指禅功でした。

練習開始10分後、坐功をする私の背骨を、熱の塊が走り抜けました。さらに、家に帰ってから復習していると、ぼんやりと体の前面が熱くなってきました。それは正に、古来から言うところ

ろの、上・中・下丹田の辺りだったのです。

結果として私は、「この功法は有効である」と判断し、現在に至るわけです。

冒頭の質問に戻りましょう。「気功あるいはヨガなどの身体技法の修練の中で、私の考える最も重要なファクター」とは、一体何でしょうか？

私は、それは、この「比較」という概念だと思います。

より具体的に申し上げれば、「修練(あるいは施術)の前後で、自分の体にどのような変化が見られたのか？」それを的確につかむことができるかどうか、最も重要な鍵だと思います。

それができると、どうなるでしょうか？

例えば、手に「気」を集中する練習法がありますが、そのやり方は流派によって千差万別で、それら全てを、逐一、闇雲に追求しているのでは、時間がいくらあっても、足りはしません。

重要なのは、「やり方Aとやり方Bとでは、自分の手の感じ方は、どう違うか？」これをつかむことです。

もし、やり方Bの方が、手が熱くなる感じがより強い、ということでしたら、そのやり方は、あなたにとって適しているのであり、やり方Bでの練習をすべきです。

これは弁証法的でもあります。それを続ける中で、新たなやり方Cと出会い、そっちの方が、Bよりもより強く感じる、ということでしたら、Cの方が、あなたにとってより有効、ということになります。

実は、このことは、あなたが知らず知らずのうちに危険な道へと向かってしまうことを、未然に防ぐ助けにもなってくれます。

例えばあなたが、AよりもBの方が自分にとって有効なような気がするが、Aは「日本で有名な誰それ」に教わったのだから、先の自分の判断は実は誤りで、私はAの方を選ばなければならないのだ、と考えたとします。

その行く先は、間違いなく、「宗教」でしょう。

また話はそれますが、このことは、かつてのあの事件を引き合いに出すまでもなく、我々みんなが考えるべき問題だと思います。

ここでの問題は、最終的な判断を、「自己」ではなく、何らかの観念を含めた「他者」にゆだねている、ということにあります。

教祖が断罪されたのに、教団はいまだに残っている、あの連中は異常だ、という議論が、よくマス・メディアによって語られたりしますが、なくなるわけではないのです。問題なのは「最終的な判断を他者にゆだねている」という精神構造そのものなのであり、これは、現代人の骨の髄まで、染み込んでいるからです。教団がなくなったところで、その他のものが取って代わるだけの話です。

その精神構造は、その外にいて「自分だけは健康である」と思い込んでいる方達と、全く変わらないと思います。そして、その片棒を担いでいるのが、言うまでもなく、マス・メディアです。

またそれは、一見「科学」という風体をしている場合もあります(もちろん、ここで述べるのは、いわゆる"ニセ科学"や、"疑似科学"のことではありません)。

東洋医学を根こそぎにしようとするお偉方は、古今東西多く見受けられますが、彼らの中には、「東洋医学は科学的に見て無効である。何故なら、東洋医学は科学的に見て無効だからである」といった、要約してみると非常にパラドキシカルになってしまう議論を、平気でされている方があります(私の知人にもいますけど)。

イジメられることに長けている私は、いちいちそれらに反論しようとは全く思わないのですが、不可解なのは、この言説そのものです。

これこそ、科学的というより、完全に、信仰的なもののように思えてなりません。

このような言説とはさっさとオサラバするとして、科学の恩恵を受けて生活する現代人たる私達は、あくまで「科学的に」物事を進めていかななくてはなりません。

その根本理念は、「数値化」ないしは「比較」です。

修練のときは、常に自分のやっていることによる心身の変化を比較・検討し、ある目的に対して、その効果はプラスなのかマイナスなのか、と、常に自問自答するように心がけて下さい。

もしそれがプラスなのであれば、それを伸ばす、マイナスなのであれば、止める。

呼吸とか姿勢とかは、そういった意味で、枝葉的なものです。

言葉を変えると、それが効果があるのかないのか、を判断する唯一の材料は、この自分自身の中での「比較」ということです。

そして、最終的に判断する主体は、もちろん、あなた自身です。

逆に、数値化した結果を見せられたから、これは信用できる、と考えるのでは、元の木阿弥です。

それをさらに自分自身の中で数値化して、再検証する必要があります。

要するに、徹底的に懐疑論者であること。

さらに付け加えれば、その変化とは、極めて微細なものですので、その微細な変化を感知することができるだけの、鋭敏なセンスが必要となります。

それが出来ない方は、気功であれ、ヨガであれ、そのような活動には向いていませんので、何か他の事をなさることを、強くお勧めいたします。自己催眠の果てに宗教的になって、ニッチもサッチもいなくなる前に。

これが真に会得できたとき、バイオ・フィードバック的に、自動的に、行は進んでいきます。あとは、ウエイト・トレーニングと全く同じです。腕立て伏せをするときに、腕の筋肉が太くなるように暗示をかける人は、あまりいないでしょう。ただ実行すれば、腕の筋肉は付いていきます。暗示などは、必要ありません。ただ、やるだけです。

これこそが、私がつかんだ、極意です。

蛇足的に申し上げれば、懸命なる皆様にはもうお判りのように、このスタンスは、この世知辛い実際の日常生活においても、重要なのではないのか、と思われれます。

自分はどこへ向かおうとしているのか、その目標に対して、今の自分はどこにいて、その後どこへ移動したのか、その方向は、その目標に対してプラスかマイナスか。

それを常に自問自答しながら、進むこと。

これが、「"前"進」という意味だと思われます。



↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

向かい合わせに配置された7人がけの座席のある、JR西日本の列車の中。

私の隣で、3、4歳くらいの女の子が、小さな手にチョコレートを握り締めて、その向こうに座っている母親に、一生懸命に愛嬌を振りまいていました。可愛らしいもんです。

その当の母親は、無表情に、ケータイでメールを打っています。

私が、向かいの座席に座っている男性が、この女の子の父親だと判るのには、それから数分かかりました。その彼は、膝の上に書類を広げて、何かをしています。彼のやっていることが、この母子と何ら関係のないことであろうことは、一目瞭然です。

彼らは、『甲子園口』で、降りて行きました。

彼らがレジャーのためにそこへ行ったのか、それともそこに住んでいるのかは、当然私は、知る由もありませんが・・・。

その後、私の脳裏には、この子が辿っていくであろう人生の場面場面が、イメージの奔流となって広がり、陰鬱な気持ちになりました。

よくマスコミで、犯罪を犯した青少年のご近所の話として、「まさか、あんなおとなしいお子さんが、こんなことをするなんてね～」みたいなコメントがあったり、教頭先生が記者会見で、「とても優秀な生徒で、周囲に不満を持っているようには、全く見受けられませんでしたけどね～」みたいなことをおっしゃってたりしますが(この方完璧にチック症状だな、と思わせる教育委員長が、インタビューにお答えになっているのを拝見したことがあります)、私に言わせれば、むしろ逆です。

そのように一見おとなしく見える子供の内に潜む微妙なシグナルが見抜けないほど、大人が無感覚になっているだけです。

そのプロセスの一端を垣間見たかのような、当世風のよくある家族の風景・・・。

↑よろしければ、是非。

☐

JUGEMテーマ：心、体、そして魂。

気功に適した時間

よく、「気功の練習をするときに、適した時間はいつですか？」というご質問を受けます。

私が師匠から教えて頂いたことによれば、昔から言われるのは、大体午後11時から午前1時が最適だ、ということです。

これは、『子午流注』という東洋医学独特の概念に、関係があるようです。

その時間に気功をすれば、その効果を何倍にも高めることができる、といわれているそうです。

では私自身が、毎日その時間にきちんと練習しているのか、と問われれば、劣等生である私は、「いいえ。」と答えるしかありません。その時間は基本的に、パソコンいじって曲作っているか、友人と長電話しているか、ヘキ地である当地鳥取では、健康的に寝ています。あ、それも気功だったりして(笑)。

というわけで、先の『子午流注』に関しては、未だ十分にその効果を実感できていない、というのが正直なところですが、そんな私が、必ずといっていいほど気功をする時が、一日の中に、あるにはあります。

それはズバリ、「食後」。

元々『一指禅功』には、「空腹時には練功をしてはいけない」という決まりがあります。

これは、『一指禅功』の「内丹功」に対する独特の見解に、その理由があります。

『一指禅功』では、丹田を、一つの釜に例えます。意識は火です。意識によって釜に火をつけると、中に入っているものは煮え立ち、そこから立ち上った気は、まるで水蒸気のように釜からあふれ出し、全身を駆け巡ります。

・・・とまあ、ここまでは、どこにでもありがちな、一般的な「内丹功」あるいは小周天・大周天と、同じような説明ですね。

ところが、一指禅功の説明のユニークなところは、次の点にあります。

即ち、「だからこそ、丹田の中には、何かが入っていなければならないのだ」。

つまり、釜の中に何も入っていない状態で、呼吸法なり意識の集中なりを行って、丹田に「火を入れる」と、最終的には、釜が壊れてしまう、というわけです。この壊れた状態を、「偏差」といいます。実際、文字通りコワれちゃう人もいるわけで(笑)。

ですから、それを防止するのは、極めて簡単なことで、それは、「練功の前には何かを食べなさい」、ということになります。

このことは、施術をすると、もっとよく判ります。

若干話は逸れるようですが、昔から「気功家は長生きできない」とよくいわれますが、本当にそうなのでしょうか？

あまり大っぴらには語られないことですが、実は、人体の「気」には、「先天の気」と「後天の気」の二種類あります。前者は「腎」の中に格納されている、元々の生命エネルギーです。それに対して後者は、呼吸や食物から抽出される、文字通り後天的な生命エネルギーです。

ところが、気功家の中には、「気を入れる」とか何とかいいながら、自分の持っている前者のなけなしのエネルギーを、相手に与えてしまう人が多いのです。

何故かといえば、彼らは、両者を区別できないからです。

これは、生まれつきそのような能力を持っている人に、多く見受けられるそうです。

元々その人が持っている生命エネルギーを与えてしまうわけですから、やればやるほど自分の健康状態が損なわれていきます。従って、一日当たり施術できる人数も自ずから限られてきますし、そうだとでも長く続けることは、自分の生命を危うくしてしまう、というわけです。

ところが、数ある中国気功の流派の中で、『一指禅功』だけは、違うそうですね。「先天の気」には、一切手を触れない。施術で使うのは、「後天の気」だけです。

その結果どうなるか？単純に、「お腹が空く」だけです。

それどころか、その「後天の気」を「先天の気」に補充することもできます。まるで、普通預金を定期預金にするようなものですね。不測の事態によって後者を多少取り崩したところで、また余裕ができたときに補充すればよい。非常に論理的にも、明快なテクニックです。

実際、私にお会いになった方ならお判りのように、私はかなり食べます。施術の後は、なおさらです。止まらないんです。でも全然太りません。

そんな私でも、一指禅功正統後継者たる劉先生には、全然かないません。今年70歳半ばになりますが、私の3倍はお食べになります。

そのような事実から考えますと、気を強化するのに適した時間とは、やはり食後、といえるのかも知れません。

これは生理学的にも、理にかなっていると思いますね。食後すぐに動き始めたりなんかすると、消化が不十分なまま行動することになるわけですから、内臓諸器官に余分な負担がかかるであろうことは、十分に想像できます。

それが最終的に、心身の不調につながることも、想像に難くないものと思われれます。

ですから、「忙しくて、一日の間に、十分に練功の時間が取れない」とおっしゃる方には、ただ食後3～5分程度目を閉じることだけでも、実行されることをお勧め致します。

それだけで恐らく、無理に長時間練習することの数倍以上の効果があるのではないか、と思います。私の経験上。

この他に実は、気功などの東洋の身体技法を応用した、数時間分の睡眠をわずか数分に圧縮する極めて簡単な方法があって、私はとても重宝しているのですが、それは次回の講釈で・・・。

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

幸先の良いスタート

ようやく、事務所移転のドタバタが、一段落つきそうな気配です。

ブログの方も、約一ヶ月未更新の状態が続きましたため、「中原さん、事務所移転どころか、白日昇天してしまったのではないだろうか・・・」と思われた方もいらっしゃるかもしれませんが、どっこい当方まだまだ俗物ゆえ、現世に留まっております。

まあ、一部の方々からご覧になれば、大して変わりはありませんでしょうけど・・・。

大阪には、足掛け三年住んだことになりましたが、その間に、私のライフスタイルには、当然のことながらいろいろと、劇的な変化が起こりました。

その中の一つが、この引越の際に、一気に大問題になろうとは、私は全く想像しておりませんでした・・・。

その劇的な変化とは、作曲の手法です。

東京にいた時、私の作曲の主なエクイップメントとは、ハードウェアのシンセサイザーやサンプラー、そしてレコーダーでした(因みに、AKAI S3000XLとRoland MC-505を、YAMAHA SY-77のシーケンサー部で走らせていただけです)。

しかしこれは、当時の私の周囲の人々にとっては、とても意外に思われたようです。

と申しますのは、もうその当時、Cubaseなどの高性能のソフトウェアが市場に出回っていたので、舞台等で私の音楽をお聴きになった方々は、当然私も、コンピューター・ベースの制作活動をされているもの、と想像されていたようです。

従って、そういう方々に対する「僕、パソコン持ってませんよ。」という私の言葉は、十分に衝撃的であったみたいですね。当時は、ケータイもメールも無縁でしたし。

単純に当時は、MacとWindowsの違いはおろか、そもそも“コンピューター”というものがどういうシロモノなのか、全く判っていなかったんですね。

あるいは、私のいつものアマノジャクと申しましょうか。みんながやっているようにコンピューターを使った作曲なんて、してやるものか、と(笑)。

そのようにコンピューター・ベースの創作活動に消極的だった私を根本的に変えてしまったのは、神大付属病院勤務の謎の外科医、“Dr.Jazz Player”との再会でした。

イヤがる私に施してくれた彼の暖かいご指導の元(笑)、いざコンピュータを使ってみると、これが意外と便利。

それに、例えばラップトップだと、簡単に持ち運び出来るので、どこでも創作活動が出来る。ライブやレコーディングをする度に、巨大なセットを組む必要も、なくなった。

更に私にとって衝撃だったのは、「パソコンのシンセの方が、音が良い」という事実！

結果的に、ハードウェアの機材は、ほとんど使うことがなくなっていました。

しかしながら、そうは言っても彼らは、当然物理的に存在し続けるわけで、今回の引越で一番てこずったのは、そのようなハードウェアの、梱包及び運搬でした・・・。

しかし、鳥取に帰れば、もうこっちのもの♪

私は、自宅の二階を、事実上占領していますので、そのようなハードウェアを全部用いて、各部屋に1セットずつ、スタジオをセットしてしました。このような環境も、なかなかオツなものかなと。

こういうスタイルはある意味、理想だったかもしれませんが。六本木とかのクールなスタジオに出入りするよりは、畑のど真ん中に小屋があって、その扉を開けると、山のようにシンセが積まれている、みたいなのを「カッコいい」と思う性格なので(姫神さんとは、そうみたいですね)。

ここら辺の嗜好も、やっぱりドイツ系だったりして(笑)。

私の部屋の窓からは、霊峰大山と、広大な日本海が一望できるのですが、そのような雄大な自然に囲まれつつ、今後とも、創作活動に励む所存です。

先ずは、10月28日(土)の、Dr.Jazz Playerとのコラボレーション・ライブですね。あ、その前に来週あるな(笑)。

あ、もちろん施術もやりますよ、当然。

余談ですが数日前、ここから車で数時間離れたところにある日野町という街から、あるお方が、私の親父の絵を見せていただきたい、と言って、お出でになりました。なんでも、去年の『県政便り』に載っていた親父の絵に、感銘を受けた、と。

その方がお出でになられたとき、私はあいにく出張していましたので、残念ながらお会いすることが出来なかったのですが、その話を聞いたとき、あんなところからわざわざ親父の絵を見に来るというのは、かなり風変わりな人物だな、という印象を受けました。

更に不思議なことには、応対したお袋と、ひとしきり親父の絵の話をしたあと、おもむろに、こう言われたそうです。

「ところで・・・、お宅の息子さんは、もしかして、靈感の強い方ではありませんか？」

それを聞いたとき、お袋は、ぞっとしたそうです。

いやー、幸先の良いスタートだ。というわけで、今後とも良しなに・・・。

現在、サーバー上のトラブルのためか、『からだにやさしい東洋医学』のトップページが、閲覧不能になっております。只今復旧に全力を挙げておりますので、ご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご容赦お願い申し上げます。



こんなことがありました。

先月、郷里で、CD-Rを買うために、ある100円ショップに入りました。

CD-Rは難なく探し出すことができたのですが、在庫点数は10点。それくらいは要るなあ、と判断した私は、取り敢えず、全部買いました。当然在庫は、0点になりました。

一ヶ月経って、同じようにCD-Rを買うために、私はその店に入りました。すると在庫は、私が前回その店を立ち去った時と同じ、0点でした。

私は、そばにいた店員のお姉さんに、尋ねてみました。すると、「店頭になれば、在庫はありません。」との返事。

だとすれば、恐らく約一ヶ月間は在庫なしの状態であったわけで、私の郷里は、そのように、CD-Rに対する需要が皆無であるようなアナログな地域であるのか、という本質的な疑問はさておき・・・。

また、こんなこともありました。

友人と共に、新大阪のあるラーメン店に入りました。

私はその時、プレーンのご飯が欲しかったのですが、メニューを見ると、ご飯ものは、チャーハンしかありません。でも、メニューにはなくとも、ご飯くらいは別メニューで出してくれるだろう、と思って注文すると、「メニューにないものは、ありません。」との返事。

では、目の前にある巨大な炊飯器には、一体何が入っているのだろうか、という素朴な疑問はさておき・・・。

このトピックスを取り上げたのは、彼らの対応の仕方にムツとした、というチープな理由からではなく、その極めてデジタルな思考に対する関心からです。

つまり、彼らにしてみれば、「あるものは、ある」、「ないものは、ない」で、話は完結です。

恐らく彼らの中では、それ以外の発想、例えば、お客さんが、こういうクレームをつけてくる可能性があるので、それを避けるためには、こういう風に対処しよう、とか、そういう主体的な意識は、希薄なのではないか、と思われます。

そのような店であれば、店員さんが従うべきマニュアルのようなものがあると思いますし、その中には、そのような場合の対処方法も、記載してあるかも知れません。しかし彼らは、それを文字通りマニュアルとして、単純に丸暗記しているだけなのではないか、と思われます(コンビニの店員さんの、「いらっしゃいませこんにちは」といった、極めてメカニクな挨拶など、その典型ですね)。

もっとも彼らは、その店の経営者ではないので、そのような主体性を、持とうと思っても持てないのは、ある意味当然、といわれる向きもあるかと思うのですが、果たして、本当にそうでしょうか？

このことは、いわゆる「イメージーションの乏しさ」というよりも、もっと本質的な問題を抱えているように思います。

これは明らかに、「過剰なまでの」民主的な教育がもたらした結果ではないのでしょうか。

その中では、常に従うべき教科書があり、教職員がいて、「適切な教育」を施してくれます。

しかし、それが有効なのは、「適切な教育」という、いわば"オーダー"が作用している間だけのことです。

一昔前から頻繁に言われていた、「幼稚園化した大学」というのは、従って、ある意味当然のことでしょう。なぜならその"オーダー"は、大学に入った瞬間、存在しなくなる、ないしは、希薄化するからです。大学に入った途端、何をやったらよいのかわからなくなった、という学生が多いのも、うなずける話だと思います。

そのような人達は、新たな"オーダー"を求めます。その成功した例が、一流企業への就職であり、その失敗した例が、宗教団体への入信でしょう(もっとも後者の場合、その中にいる人にとっては、それは充分「成功」なのでしょうが)。

しかし、"オーダー"の発信者を、自分ではなく他者に求めている、という点では、両者は似たよ

うなものだ、と思われます。

しかし、そのように就職という形で新たなる"コマンダー"の獲得に成功した後、この世知辛い不況期の中で、そのような「指示待ち族」は、新たに出会った"コマンダー"には、かつての"コマンダー"のような優しさはない、という厳しい事実と、直面することになります。

実際問題として、積極的に業務展開していこうとするアクティブな姿勢を取る企業としては、そのような「指示待ち族」は、必要ないのです。

あるいは、そのような姿勢を取りたくても取れないような、経営状況が厳しい企業にとっては、特にそうでしょう。単純に、指示をしたくても、指示をしている余裕など、ないですからね。

そのような彼らを、「リストラ」という現実が襲います。

よく新聞の人生相談に、「会社をリストラされて・・・」という言葉で始まる文章を見ることがありますが、よく読んでみると、ああ、この人ならリストラされるだろうな、と思わせる記述が、少なからずあります。

「リストラ」、「解雇」といった言葉を表面的に聞くと、何だか会社の方からの一方的な非情な措置のように受け取られがちですが、実際はそうではない、と思います。

冷静に考えてみて、自社にとって有能な人材である、と思われる人物を、会社が一方的にリストラする、ということが、あり得るのでしょうか？

実際にリストラされるのは、その逆であるはずです。

雇用者にしてみれば、みな同じような顔をして、みな同じように指示を待っている労働者を、雇用するか、解雇するかは、単純に、雇用した労働力の生産性という、純粹に経済学的な問題となります。

問題は、この、「みな同じ」というこの点にあります。ですから雇用者の側も、「誰をリストラしても同じ」となってしまうわけです。

これが、戦後の民主主義教育の、帰結の一つです。

このことを更に、別の観点から、検証してみましょう。

デフレ・スパイラルの最先端という点では他の追随を許さない、わが郷里鳥取県に関して言えば(笑)、例えば、私の両親は、二人とも事業主です。そして、彼らの友人達の中にも、かなりの数の事業主がいます。会社経営者とか、店舗経営者とか・・・。

ところが、私の小学校から高校を通じての同窓生の中で、個人事業主は、私の知る限り、たった一人しかいません。あとはほとんどが、公務員です。

これでは、日本経済から活力が失われるのは、物理的にも、当然の帰結だと思われます。

その対策として、例えば、『一円企業制度(最低資本金規制特例)』などがありますが、資本金が云々というよりも、そもそも均質的な教育によって個性を消去された結果、そのような起業家的発想を持つこと自体が不可能になってしまった人にとっては、このような制度の存在意義すら、全く理解できないでしょう(あるいは、公務員の方々にすれば、相変わらず、単なる処理すべき「手続き」に過ぎないでしょう)。

このような状況は、先だってミサイルを打ち上げて全世界の注目の的となったお隣さん以上に、極めて「社会主義的」であるように思います。

文字通り、国民全てが、画一的な教育の中で、プロレタリアート化しつつあるわけですからね。

更にその向こうには、何故か、同じ社会主義を標榜しておきながら、日本以上に貧富の差が極端になりつつある国もあつたりします。

旧ソ連のさる政治家が、日本にやってきた時、「素晴らしい！正に理想的な社会主義国家だ」と絶賛したという話がありますが・・・。いやはや歴史とは、皮肉なものです。

でもこのような流れが、誰かの手によって、完全に意図的になされてきたことだとすれば、それこそ"エピソード3"と一緒にですから、もっと怖いんですけどね。

今更、「個性を持とう」、「自分を持とう」などとは、到底言える状況ではないとは思いますが、せめて、自分が今持っている価値観のルーツは一体どこなのか、を考えてみるというのは、無駄な作業ではないのかもしれませんがね。

幸運にも、その意思が残っていれば、の話ですが・・・。

↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

お知らせ

謹啓 いつもご愛顧頂きまして、真に有難うございます。

さて、緊急のお知らせにて真に恐縮ではございますが、この度、諸般の事情によりまして、今月7月31日をもちまして、大阪での業務を一旦停止させて頂き、鳥取での業務へと一本化させて頂くことに致しました。

このような決定をするに至り、関西方面のお客様におかれましては多大なるご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご理解の程、宜しくお願い申し上げます。

並びに、今までのご愛顧、真に有難うございました。

とは申せ、このまま関西での活動を一切停止したわけではなく、只今、某大学病院に勤務致しております外科医の友人と共に、西洋医学と東洋医学を代替医学という観点から折衷させた新たな研究プロジェクトの立ち上げを計画しております。その関係上、関西方面には頻繁に出向くことになると思いますので、その際にでも、ご希望がございましたら、施術並びにご指導の方、対応させて頂きたく思いますので、お問い合わせ頂ければ、幸いに存じます。

鳥取へと移転すると申しまして、隠棲するわけでもなく、関西方面に限らず、私が学んだ地である関東方面を含め、恐らく今まで以上に、アクティブに行動するものと思われましますので、今後とも、HPやブログを含めまして、変わらぬご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

有難うございました。

敬具

2006年7月5日

中原 勇一 拝



感情をリセットするツールとしての音楽

音楽は、感情をリセットする最適なツールです。

あなたは、楽しい時に、どんな音楽を聴きますか？

それをチェックしておけば、例えば、気持ちが沈んでいる時に、大してそれを聴きたくも無いにもかかわらず意図的に聴くことで、意識を、その沈んだ気持ちの原因となっているものから逸らせることが、可能になります。

ここでは、逸らすだけで、十分に事足ります。ポイントは、低ビットである意識への負荷を一時的にでも解消し、高ビットである無意識の介入する余地を促すことにあるからです。

言わば、ポジティブな意味での「現実逃避」ですね。意図的に一旦逃避することで、今までいたのとは違った地点から、物事を見つめ直す、というわけです。

しかる後、もう一度その問題に立ち返ってみると、意外な解決法を発見することができるかも知れません。

これは、音楽でなくても、書物その他でも、十分に可能だと思います(パワー・ストーンや護符などというものの基本的な発想は、ここにあると思います)。いずれの場合においても、特に聴いたり、読んだりしなくても、身近においておくだけでも、同様の効果があると思います。

パブロフの犬と同じだったりして(笑)。

自己啓発書によくありがちな、「願望を紙に書いて、常時それを持ち歩き、眺めること」というのも、同様に、自分を強制的にリセットする最適なツールである、と考えられます。

それにより、その願望の実現に向けた努力は、それをしない時よりも大きくなるはずであり、結果として、それが実現する可能性も、それだけ高まるというわけです。

願望実現のプロセスは、「暗示」というあいまいな概念を用いるよりも、このように統計学的な発想で、充分説明できると思います。

要は、過去に執着してクヨクヨしているよりは、そんな感情は一気にリセットしてしまって、前向きに進んでいこう、ということですね。お酒よりは健康的ではないかと(笑)。

↑よろしければ、是非。

☐

JUGEMテーマ：心、体、そして魂。

お詫びとお願い<m(_ _)m>

いつもご愛顧賜りまして、真に有難うございます。

さて、このようなことを申し上げるのは、真に不遜の極みに存じますが、本日6月28日、パソコンがクラッシュ致しまして、昨日6月27日以降に頂いたお問い合わせのメールが全て消去されてしまい、お返事が出来ない状況になっております。

真に申し訳ございませんが、昨日6月27日以降に当クリニックにお問い合わせ頂いた皆様におかれましては、お手数ではございますが、もう一度メールを、再送頂けませんでしょうか。

ご不便をお掛けして真に恐縮至極に存じますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

すみませんでした。

tenketsu_therapy@yahoo.co.jp



最近、「脳の機能改善」というテーマで、いろいろと調べているのですが、その中で、「速聴」、「速読」という面白い分野に、行き当たりました。

それらの基本的な発想は、脳には、低速で情報処理する「言語野」と、高速で情報処理する「イメージ野」があって、脳全体の働きを活性化させ、高速の情報処理を実現させるためには、低速の「言語野」ではなく、高速の「イメージ野」を使う方が、圧倒的に有利なのであり、そのためには、聴覚にしろ視覚にしろ、低速である「言語野」の処理速度を出し抜くくらいに、高速で、かつ大量の情報を、「イメージ野」に直接叩き込んだ方が、効率的だ、ということになると思います。

その具体的なやり方として、例えば「速聴」というものでしたら、高速で再生されるCDなどを使うようですが、何だか大掛かりだし、更には、例えば知りたい情報に関しては、一旦高速で音声処理したものをCDなどの媒体に記録して、それを聴かなければならないのかな、などという素朴な疑問もあって(やろうと思えば、私が今持っている音響機材やソフトウェアを用いれば、簡単に実現できますが)、より簡単に試すことができそうな「速読」にトライしてみることにしました。

因みに、この分野では、ポール・R・シーリィ氏や栗田昌裕氏、七田眞氏などの著作に一通り目を通しましたが(国会図書館で、何冊か、文字通り「速読」させていただきました。タダで)、こうやってしまえば関係者の方々は激怒なさるのでしょうか、おっしゃっていることやテクニックは、皆さんほとんど同じですね。特に、後者の方々に関しては、約30年ほど前に、阿含宗の桐山靖雄氏が自著の中で提唱されていたコンセプトと、非常に似通っている、という印象を受けました。

かと言って、たくさんある速読講座を受講してみるほどでもないし、それに、別に速読検定を受けたいわけでもなく、ただ単に、自分の情報処理回路の改善につながれば良いかな、という気楽な気持ちで、先の基本的な発想をベースにして、自分でトライしてみることにしたのですが、確かに有効なような気がします。

彼らの著作の中には、「10倍の速さで本が読める」という触れ込みの本がいくつかありますが、その発想を逆転させて、では実際に10倍(もちろん概算ですけど)近くのスピードで、一気に本を読んでみたらどうなるだろう、と思っていくつか実行してみたのですが、確かに理解度は、精読したときと、ほとんど変わらないように思います。

それどころか、例えば、一旦「フォトリディング」してからだと、本全体のトーンがあらか

じめ頭に入った状態で読み進めることになりますから、変わらないどころか、より深まる感じがします。

逆に、今までの本の読み方は、例えば、東京に行かんがために、地図も持たずに、ただ東に向かう、という感覚だったかも・・・。

そう言えば、私が高校生だった頃、教科書や参考書に一本もアンダーラインを引かないのに、テストでは高得点を取る不思議な友人がいました。強迫的にアンダーラインを引く割には、全然成績が上がらない私が、彼にその勉強方法を聞いたところ、「ただ読むのだ」というこれまた不思議な返事。怪訝に思いながらも、そのような私にしては「奇怪的」方法を試してみたところ、格段に成績が上がったので、我ながらびっくりした経験があります。

つまり、逐語的に勉強を進めていたから、全体を見失っていたのであり、そのような愚を避けるためには、「木ではなく、森を見よ」、ということですね。

ですから、直観力も強化することが出来る、という主張も彼らの著作に見受けられましたが、あながち飛躍ではない、と思います。昨日友人と話しをしていてふと気づいたのですが、会話の流れがあらかじめ「見え」たりするので、今まで以上に効率的に、ディスカッションが進められたような気がします。

その他にも、いろいろと「速読」の効果については述べられていましたが、それらに関しては、実際に彼らの著作に当たっていただくとして、何と言っても単純に、読書にかかる時間が、同じ理解度なのに、10分の1近くに圧縮できるというのは、大いに時間の節約になるので、これは嬉しい。

という訳で、「速読」はお勧めだと思います。本代が馬鹿にならなくなりそうですが。

<付記>

先に挙げた方々の著作の中では、人間の網膜の中心部に集中して、主に強い光線下で物の形や色などを識別する「錐状体」ではなく、網膜の周辺部に存在して、主に弱い光線下で物の明暗を識別する「桿状体」を利用することの重要性が主張されていて、その処理能力を高めていく訓練なども紹介されていますが、これらの訓練は、いわゆる「オーラ視」の訓練としても、利用できると思います(ドン・ファンの言うところの「暗闇を見つめる」訓練の目的とは、実は、このことなのかもしれません)。

最近ずっと試しているのですが、これもなかなか興味深い練習です。私の場合、臨床で応用できれば、とても便利ですからね。

これに関しては、個人的には面白い状況になっているのですが、然るべき結果を得ることが出来たら、期を改めて、ご報告させていただきたい、と考えています。

↑よろしければ、是非。

JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

潜入レポート！！ライブハウスに見た格差社会の実態

今回は、昨今の音楽事情について、悪口雑言をば・・・。

先だって、さる知人より、ライブのお誘いを受けました。

私は東京で、音楽を生業としていたにも関わらず、そのアンダーグラウンドな雰囲気はどうも苦手なため、あまりライブハウスというところに出入りしたことはないのですが、その方には以前、うちのユニットで数曲ボーカルを担当して戴いたこともある関係上、一応行ってみることにしました(余談ではありますが、私は、そんなに興味のないことでも、取りあえず一度は、積極的にやってみよう、とするタイプの人間です。というのは、そうすることで、そうしない時には得ることが出来ない知見を、得ることが出来ますからね。もっとも、かなりヒマな時に限るようにしていますが・・・)。そういう意味では、同窓会なんて、とても楽しいですね。懐かしさからではなく、むしろ、医学的な興味からだったりするのですが。何かしら、心身面でお困りの方は多いですからね。お酒呑みながらのカウンセリングで、申し訳ないですけど(笑))。

果たして、その結果はと言えば・・・。

思うに、ライブハウスという場所は、ある意味、かなり時代にそぐわなくなっているような気がします。

その理由の一つには、経営者による顧客ターゲットの設定の、根本的な誤解があります。つまり、ライブを見に来てくれるお客さんのことを、ほとんど何も考えていないように、見受けられるのです。

今日日、文字通り薄暗く、アングラ感の漂うハコで、何の疑問も持たずに、明らかにレンジでチンしただけであろうようなフライドポテトに800円も支払ったり、コンビニで買えば100円ですむようなコーラに500円も支払ったりするような物好きなお客さんを発見するのは、極めて困難なように思います。

そのような経営をすれば、普通の飲食店ならば、およそ一週間と持たないでしょう。

では、それらは、一体どうやって利潤を上げているのか、と言えば、はっきり言って、音楽家

に対する「ショバ代」でしょう。例えば、私の行った所では、8時間借りて、15万円、となっていました。

そして音楽家達は、当然そんなお金を一括で払うだけの金銭的な余裕は無いので、結局、「対バン」という形で、「ショバ代」を折半する、という訳です。

要するに、ライブハウスのターゲットとするお客さんとは、「ライブを見に来た人」ではなく、「ライブをする音楽家達」の方になってしまっている、というわけです。

そんな状況で、「お客さんが増えない」と言って嘆くというのは、非常に奇妙だと思います。

そして、次は、その音楽家達の問題です。

仮に、先の場所で、4バンド出るとしたら、1バンド辺り約4万円の割当です。これがいわゆるチケットノルマになる訳ですが、先にも申し上げたような場所で、どれも似たり寄ったりの音楽を好き好んで聴きたい、と考えるような物好きなお客さんは、かなり限られると思われます。

従って、畢竟、集まるのは、やる方も聴く方も「内輪」だけ、ということになります。

そのような状況に対して、音楽家達が申し訳なく思い、せめて音楽性を向上させることでその精神的負債をカバーしよう、とするのであれば、まだ救いはありますが、そういった場所でプレイする音楽家に限って、そのような状況に何ら疑問を感じることなく、何度見ても何年経っても恐らく代わり映えすることはないであろうステージを繰り返してしまうのですから、これも問題です。

この原因としては、本人達のイマジネーションの多少に加えて、「大阪」という場所の特殊性も、考えられると思います。

一つ目のバンドのボーカルさんが、MCの中で、「いつかは憧れの地東京に行って、活動したい」と言っていました。東京を捕まえて"憧れ"というのは、いかがなものでしょう。別に、ロスやロンドンでもなく、ましてやバグダッドのように、道路脇に仕掛けられた爆弾がナニゲに爆発するような危険な場所なわけでもありません。単に、同じ日本人が住んでいる都市の一つです。新大阪から、「のぞみ」で約2時間半です。それが何故、彼らには出来ないのでしょうか。

「色々バイト等の制約があって・・・」と彼らは反論するかもしれませんが、東京にだって当然仕事はありますし、むしろ逆に、地方よりは断然あるでしょう。首都なのですから。

特に、芸能関係の仕事について言えば、東京と大阪の違いは、質・量共に、火を見るより明らかであり、大阪に特化しては、そこで何年間ライブ活動をしようと、芽の出ることは、極めて困難だと思われます(実際関西出身のアーティストはたくさんいますが、火のつくのは、やはり東京なのです)。

もし、どうしても引越出来ない、というのであれば、週末、ライブを東京でやるだとか、手は色々あるはずです。繰り返しますが、新大阪から「のぞみ」で、約2時間半です。

ですからそういうのは、単なる「逃げ口上」、と取られてしまう恐れがあります。

更に言えば、それが判っている有能な音楽家は、現に、大阪出身であっても、東京で活動してしまうのですから、結局、大阪で活動しているのは、それが出来ずに不完全燃焼を余儀なくされている人々、ということになってしまいます。

それらがお互い、くっついては離れていく細胞のような活動をする訳ですから、文字通りビッグになるまでには、恐ろしく時間がかかってしまうかも知れません。

もっとも、私の友人に言わせれば、「場所によっては、東京も、似たようなものよ」ということですが、いずれにしても、今日のように、再生機器が過剰なまでに発達した結果、いつでもどこでも、音楽が溢れかえっている、というような状況では、そのようなものが全く無かった時代の産物であるライブハウスでの活動が、本当に有効なものなのかどうか、といった問題を含め、音楽家は、根本的に、戦略を立て直す必要があるのではないか、と思います。

いっそのこと、無駄なお金のかかるライブ活動は、一切しない、というのも、有効な戦略の一つかも知れません。

そのような過酷な状況であっても、やはりライブに命を懸ける、というのであれば、その場合は相当にアイデアを絞らない限り、単なる「自己陶醉」なのではないのか、と受け取られる恐れも、否定できないと思います。

もちろん音楽家であれば、ある程度、そのような自己陶酔的な要素の介入は避けられませんが、それがあまりに過剰だと、お客さんは楽しめないのではないか、という気がします。

そういう意味では、いわゆるトリビュート・バンドの方が、お客さんのニーズに直接答えることが出来ているという点で、よほど実用性があるのではないか、と思いますね(問題があるとす

れば、JASRACとの仁義なき戦いでしょうか(笑))。

なんだかんだ言いつつ、大音量のサウンドによって引き起こされた頭痛という副産物はあったにせよ、現代日本の二極分化は、こんなところにも表れているんだな、という知見を得ることが出来たという点では、有意義なライブだったのかも知れません。

人の振り見て我が振り直すこととします(笑)。



↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

頭が悪い子供

「頭が悪い」子供を作る作業は、極めて簡単です。

幼少時から、「お前は頭が悪い」などとけなし続ければ、物心つく前には、立派にその通りになります。

逆に、頭の良い子供を作りたければ、褒めれば良いことです。

これは、「甘やかし」とは似て非なるものです。

それらはどのように区別されるのでしょうか？

「甘やかし＝多干渉」の裏には、必ず、目に見えない形での「無関心＝ネグレクト」が存在します。それは、子供の個性を封殺し、「操作」することに他ならないのです。

それが、唯一の指標です。

では、残念ながら、頭が悪く育ってしまった子供を、頭の良い子供に切り替えるのは、可能なのでしょうか？

それは、簡単なことだと思います。

そのような悪意に満ちた催眠から覚めさせ、自信を持たせてあげれば良いのです。

しかし通常は、このプロセスに、失敗してしまいます。

そのように育ってしまった子供が、さらに子供を作れば、彼／彼女は、生まれてきた子供に、親からなされてきたのと同様のこのプロセスを、そのまま行うことになります。

これが、「輪廻」の、基本構造なのです。

現在のような訳の判らない犯罪の多発は、日本社会全体の、精神的自殺であるように、私には思われます。

そこに救いはあるのでしょうか？

もし救いがあるとすれば、むしろ逆説的なことではありますが、そのような流れに乗って、一度墮ちるところまで墮ちるのも一法、というように私には思われます。

教育制度や、ましてや刑法の改革など、何の意味もない、と私には思われます。単にこの流れに、拍車をかけるだけに終わるような気がします。

何故なら、重要なのは、そのような他者からの強制ではなく(それこそが、「操作」に他ならないのです)、自発的な「気づき」であるからです。

陰が極まった時、初めてそれは、陽へと転じます。

犠牲者は、いつの時代でも、子供であり、加害者は、大人です。

そして、才能を作るのも、また、大人なのです。

そのことを私達は、今一度、肝に銘ずる必要がありはしないでしょうか。

↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

プライドは、持つべきか、持たざるべきか？

「あいつはプライドが高い」という表現は、とかく悪い意味で用いられますが、実際のそれは、ケース・バイ・ケースだと思います。

他者からとやかく言われて、簡単に潰される程度のプライドであれば、最初から持たない方が、ベターでしょう。

その場合、そのプライドを裏付けてくれる確固たる実績(しかもそれは、他者からも容易に認められ得る、一目瞭然のものでなくてはならない)があるかどうか、試金石となると思います。

もしそれがあるのであれば、他者からの批判に、容易に屈することはないでしょう。それは、後ろ盾となり得るのですから。

つまり、改めて「主張」しなければ第三者にはわからないだけではなく、逆に、二、三の脆弱点を突かれて、崩壊する程度の、根拠のないプライドであれば、持たない方がかえって身のためだ、ということです(更に言えば、そのような後ろ盾があるのであれば、改めて「主張」する必要など、皆無でしょう)。

ところが、逆に、それをあえて「主張」しなければならない場合もあります。

例えば、他者の自分に対する依存心を絶つ、あるいは感情転移を防ぐ、はっきり言って、「足元を見られないようにする」、などの場合ですね。

ただしその場合は、もちろん、確固たる実績に裏付けられている、というのが、絶対条件です(より正確に言えば、そのような確固たる実績を持っている人だからこそ、その恩恵にあずかろうとする依存心を持った他者は、集まってくるのですけれど)。

それを基盤に、更なるステップ・アップを図ろうとする場合には、そのような依存心を持った他者と袂を分かつためにも、むしろ、プライドは必要となってきます。

プライドというものは、諸刃の剣です。

つまり、狭い世界しか知らない自分を防衛するため、あるいは、単なる現状維持のためのプライドであれば、それを持ち続けることは、かえって現実から乖離していくことになり、最終的に身の破滅を招くだけなのですが、逆に、より広い世界、より望ましい未来へ向けて、現状を改善していこうとする強い決意の元であれば、それはむしろ、大きな力となります。

プライドとは、要するに、自己意識です。

「自己チュー」と「自分がある」とは、実際は紙一重なのですが、それを分け隔てているのは、唯一、実績の有無なのです。

そして畢竟、実績とは、データ量＝情報量に、他ならないのです(※)。

<※>

これは、アイデンティティ、ないしは、「自分探し」をめぐる議論にも、転用できるものと思われる。

基本的には幻想に他ならないアイデンティティではあるが、他者との係わり合いが避けられない実社会で、ある一定の成果を挙げていこうと思えば、その強弱は、重要なファクターとなる。

従って、確固たるアイデンティティを得ようと思えば、他者が自分に対してどうあってほしいと願っているのか(もちろんそれは、「強制」ではなく！)を考えることは、大いに助けになると思われる(自分で自分について語ることは、自己言及性のパラドックスを引き合いに出すまでもなく、統計学的にも困難だからだ)。

これは、経営戦略の場合でも、全く同様である。現代のように、似たような商材で溢れかえっている情報化社会で、確実に利潤を上げようと思えば、経営者の視点ではなく、顧客の視点で、自社の商品を捕らえ直し、そこから発想することこそが、最も簡単な方法である。

ラカンに言わせれば、アイデンティティとは、他者という「鏡」を媒介にしてしか見ることができない「鏡像」でしかない。

だとすれば、複数の鏡を見た時、似たような鏡像が映っているのが目に入るのだとすれば、それを、便宜上の自己と仮定することは、十分可能である。

それはある程度、裏付けのある自己である、と考えることができるものと思われる。

ただし、そこに、自分を特定の鏡像に縛り付けておこうとする他者の意図が介入している場合は、警戒する必要がある。

その場合、そのような自己像を要求されなければならない狭いサークルから脱却しようとするのであれば、鏡を変える、場合によっては、鏡を打ち壊す勇気が、必要になってくる。

もっともそれは、幸運にも、その隠された意図に気づくことができれば、の話だが・・・。

↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

幽霊をやっつけるにはどうすればよいのか

古来からの中国の『気』に関する言説で、私が極めてユニークだと思う点は、その「即物性」にあります。

中国には、「怪力乱神を語らず」という言葉がありますが、この言葉に見られるように、中国の伝統文化には、気功や道教などを生み出してきたにもかかわらず、超越的なものの存在を、あまり認めたがらない、という風潮があります(マルクス主義などの唯物論が、比較的容易に受け入れられたのは、それが原因の一つであるという説もあります)。

例えば、「幽霊」という、皆さんが大好きなポピュラーな存在を考えてみましょう。

その手の話は、ご他聞に漏れず、中国の一般社会でもよく聞かれる話のようですが、気功という分野からそれを見ると、少々異なった風合いを呈してきます。

気功では、この世界にある全てのものは、「気」から出来ている、と考えます(言わば、汎気論ですかね)。

さらにその「気」には、「陽」と「陰」、つまり、現代風に言えば、「プラス」と「マイナス」しかない、と考えます。

ここで、私たちが住む現実の世界は、皆さんのご想像通り、「陽」に属するというわけですが、では「陰」に属するものは何かといえ、その代表格が、「幽霊」と呼ばれる連中です。

これは単に、哲学的な思弁ではなく、極めてプラグマティックな意味合いもあるようです。

例えば、私はHPで、山形県湯殿山の参籠所で「幽霊」らしきものと遭遇したことを書きましたが、後にこのことを、師匠に少し話したことがあります。その時、連中に向かって怒鳴りつけたという私のとった行動を、師匠は、非常に理にかなっている、と評価してくれました。

つまり、連中は「陰」の存在なのだから、その「陰」に対しては、「陽」をぶつけてやれば、陰陽は調和して、連中は消え去る、という発想らしいです。その「陽」とは、具体的には、怒鳴りつける、笑い飛ばす、などだそうです(因みにこれらには、「放つ」という、いかにも「陽」らしい要素が、含まれていますね)。

よく靈感があるという方々に、この私の例のように旅先などで「幽霊」と遭遇した時の状況を伺ってみると、皆さんコワがって逃げの姿勢に入り(こんなことは、「幽霊」が見えたとおっしゃる割には、非常に不思議に思うのですけど)、「あっちへ行け！」とだけしか言っていません。

コワがるというのは、それ自体が「陰」の反応ですから、それでは、よけいにそのような「陰」的状況を、強化することになってしまいます。これはダメです。怒鳴りつけるか、笑い飛ばして下さい。あるいは、歌を歌うのも良いそうです(因みに、最近の私の場合は、80年代のギャグマンガのバカバカしいワンシーンを思い出すというのが、ヘヴィーローテーションですが)。

換言すれば、意識のチャンネルを、切り替えるということですかね。

さらに、症例集にも書いた除霊じみたケース・スタディに関しても、師匠に伺ってみたのですが、それに対する彼の答えはこうでした。「あんたのその陽の気をまともにぶつけられたら、そりゃ向こうはひとたまりもあるまい。」

このように、「幽霊」みたいな存在を、単なるエネルギーの塊だ、と考えるこの唯物論的な発想は、私にとっては、とても助けになります。

何故ならば、単なる幽霊話であれば、「コワイね～」で済まされますが、これが、神社仏閣等で感じる単なる「陽」の気を、「神だ」と思い込んで、宗教じみたサークルを作ろうとする方達は、古今東西、後を絶たないからです。

更に、この「気」を、単なる唯物論的なエネルギーと考えるというまさにこのことが、私をしてそれをコントロールすることを容易にさせた、大きな原因であったのです。何故ならそれは、電磁場と関係があるはずですから、何らかの方法で人体内部で人為的に電位をコントロールすることができれば、最終的には、その外部の電磁場をも、コントロールできるかもしれないからです。

これが、「幽霊」だとか「神」だとかいう文学的なレベルにとどまっていたら、そんなことはまず不可能でしょうからね。

科学的になるということは、単にそれを説明するというだけではなく、このように、それをコントロールしやすくさせるという側面を、私にとっては持っています。

何故ならば、「再現可能性」こそが、科学の根本理念であるからです。

まあ、「幽霊」なんて、「陰」の気の産物どころか、イマジネーションの産物でしかないのですけどね。この世界と全く同じで。



↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

6月の定期出張に関しまして

6月の鳥取への定期出張は、通常通り、1～10日までを予定致しております。
何卒宜しくお願い申し上げます。



神の声が聞こえる人々

「これは、必ずこうなる」という人は、しかるのち必ず、こう言わなくてはなりません。「こんなはずではなかった」

これは情報量、そして、その解析量の多少の問題に帰着します。

世間には、「神の声」が聞こえる、という方々がいらっしゃいます。

私は、前世からのカルマのせいだかなんだか知りませんが、これまで、そのような方々に、たくさんお会いしてきました。

自分自身で気功やゾクチェンなどのトレーニングを始める前は、ただ単に、「すごいなー」思っていただけなのですが、今のような仕事に携わるようになった今の私自身の目から見て、彼らに共通する要素を、一つだけ挙げろ、と問われれば、私は躊躇することなく、こう答えるでしょう。

ズバリ、「視野が広くない」。

もう一つ挙げろ、と問われれば、「なぜか幸せそうには見えない」。

彼らはこうグチります。「裏切られた」、「誤算だった」、ひどい時には、「自殺しよう、と思った時がある」、等々・・・。

このような言葉は、私には、非常に奇怪なことのように入えます。と申しますのは、彼らが「神の声」によって物事の本質を正確に掴んで、来るべき未来を予知し、それに沿った行動を取り得るのだとすれば、そうはならないはずで(それ以上に奇怪なのは、なぜこの私に、そのようなことをグチるのか、だったりするのですが)。

なのに、どうしてこうなってしまうのでしょうか。

一つには、そのような「神の声」を、あまりにも過大評価している、ということがあると思います。

神道には、『さにわ(審神)』というものがあるそうです。

これは、「神の声」を、それが本当に正しいものであるかどうかを検証することなのだそうですが、神秘主義の王道と考えられる神道でも、そのようなチェック機能があるのに、彼らはそれを、全く実行していないように見受けられます。

当たるかどうかもわからない状態で、それに賭けてしまうことは、一種のバクチのように、私には思われます。

もしかしたら、それは、的中するかもしれませんが(だからこそ彼らは、より一層、「神の声」を信じていくのでしょうか)。しかし、私に言わせれば、それは、極めてまれなケースです。

例えば、人の運命を読み取るなどは、「神の声」などという出所不明のものを引っ張り出してこなくても、トレーニングすれば簡単にできます。それは神秘的なものではなく、単に、統計学的な視点なのです(五行もそうです)。従って、そのような予言が的中してしまう人達というのは、逆に、基本的に統計学的な行動しか、取れない人達なのです。

そのような人達の行動を予知することは、そのような統計学的な視点を持っていれば、赤子の手をひねるより簡単です。

従って、そのように「神の声」が聞こえる方々が、その声に従って第三者の運命を予知して、それが的中するとしても、別にそれは驚くべきことでも何でもありません。何故ならば、そういう意味で両者は、はっきり言って、出所が一緒だからです。

日本の常識が、一步海外に出ると、全く通用しない、というのと同じですね。

「視野が広くない」と思わせる原因は、恐らく、ここにあると思います。要するに、彼らの住んでいる世界自体が、広くない、ということです。

もう一つ彼らを不幸に見せてしまうのは、このような「神の声」が聞けるということによる、一種の選民思想です。「私は神の声を聞くことができる、特別な存在なのだ」という風に思い込んでしまうわけです。

そうになってしまえば、普通、友人はいなくなりますね。

従ってこのような方々は、同じような傾向を持つ方々と、群れ集うことになります。

こうして、宗教団体が出来上がるのです。

ところで、ここで、私が常々申し上げている「内なる声」と、そのような「神の声」を、どうやって区別するのか、という素朴な疑問が生まれるかもしれません。

この点は非常に微妙だと思うのですが、私は基本的に、両者は同じものだと考えています。

いずれにせよ、問題なのは、その先です。

一つには、先の神道でいうところの、『さにわ(審神)』という発想は、助けになるかもしれませんが。つまり、いくら「内なる声」、「神の声」であったとしても、それを文字通り天下りの的に認めるのではなく、一旦それを、検証しなくてはならないのです。

検証するというクールダウンを施すことによって、それをいやでも、単なる一つのデータの位置に引きずりおろすこと。それを他のデータと比較分析することで、最終的にその「正しさ」が確認できたのだとしたら、その時初めて、「神の声は正しかった」となるわけです(例えば私は、易を、そのように利用しています)。

そのような「声」＝直感は、聞こえないよりは聞こえた方が、やはり便利でしょう。

しかし、それは、あくまでもデータの一つなのであり、鵜呑みにするのは、極めて危険だと思います。

ものすごく高性能の受信機を持っていると、もしかしたら、ペンタゴンの暗号を傍受できるのかもしれませんが。しかしそのことと、その暗号の意味が正しく理解でき、それに基づいて有効な戦略が立てられるかどうかは、全く別の問題なのです。

「知性」とは、そういうものだと思います。

更に申し上げれば、そのような直感をして、一旦検証というプロセスを経させることは、逆に

、「声」をよりはっきりと聞かせ、より深い直観力を手にする手段の一つのような気がします。

何故ならばそれは、「固定的なものの見方」を拒否することを、徹底することになるのですから、それは、より多くの情報に自分自身をアクセスさせることになり、結果として、より有効な戦略を見出す可能性が、広がるように思うからです。

まあ、視野が広くない、とか、幸せそうには見えない、とか言ってみたところで、それは私から見たらそう見えるというだけの話で、その他の方々、あるいはその中にいるの方々にとっては、それは「幸福」に満ち溢れた「約束の地」であるのかも知れませんが。要は、好みの問題でしょうか。

私は、広い世界の方が、ずっと好みですね。

・・・以上は、そのような方々にイジメられ続けてきた私の、偽らざる感想です(笑)。

<付記>

以下は、この問題に関する、神秘学的な解釈です。

先だって、友人と議論していた時に、彼が言っていたことなのですが、「神の声」が聞こえるという方々がなさる予言で多いのは、なぜか、不幸に関することが多いものです。例えば、病気になるぞ、とか、事故に遭うぞ、といった類のものがポピュラーなのですが。

もし仮に、神秘主義でよく言われるような「波動」というものが存在するのだとしたら、これはマイナスの波動です。

しかも彼らは、それらの予言は「言いつ放し」です。「あなたは、いついつ、どこどこで事故に遭うかもしれないけど、気をつけてね」と言うだけで、ではどのように気をつけるのか、というようなフォローは、一切ありません。言われた方は、いい気持ちはしないでしょう(皆さんは、このような経験はありませんか?)。

そしてその波動は、必ず自分へと帰ってくる、というわけです。

うーむ。「因果応報」って奴ですかね。

あるいは、皆さんは、「六道輪廻」という仏教の言葉を、ご存知でしょうか？

この中の最上界、「天道(天上界)」は、神が住む領域だと言われていますが、そのような神が住む領域が、なぜ「六道輪廻」に組み込まれているのでしょうか？

大辞泉には、六道とは、「衆生がその業によっておもむく六種の世界。生死を繰り返す迷いの世界」とあるように、実はそれは、まだ迷いの領域なのです。

そして、それをもたらしているのは、まさに、「業＝固定的なものの見方」です。

それが当たる場合もあるでしょう。しかしそれは、迷いの領域である「六道輪廻」からは、一歩も脱却してはいないのです(そしてそれを超え出た存在が、「菩薩」です。何故か？彼は、それらが「空」(＝固定的存在ではない)であることを、理解しているからなのです)。

その意味でも、「神の声」は、やはり、検証することが必要です。

もっとも、スピノザに言わせれば、「絶対無限の存在である神が、人間に語りかけること自体、あり得ない」ということにでもなりそうですが・・・。

↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

「元神と対話する」、あるいは「潜在的な知覚力を利用する」と申し上げても、少々イメージが沸きにくい、とおっしゃる方がいらっしゃるかもしれませんので、いくつかケース・スタディを、ここでご紹介したいと思います。

ただし、かなり卑近な内容ですので、その辺は少々ご容赦をば・・・。

まずは、私の例です。

東京に住んでいたある夜、昔の友人から、突然電話をもらいました。

彼女は、実は、私の学生時代の片想いの相手だったのですが(私も一応、恋はするのです(笑))、ふとしたトラブルが元で、私は連絡を取らなくなってしまいました。

そのような状況が、それまで数年続いていました。

ですから、その人から突然電話をもらったことは、私にとっては、大きな驚きでした。

単純バカである私のその時の喜び様は、私を知る方であれば、充分にご想像いただけるもの、と思います。

ところが、この時、奇妙なことが起こり始めました。

話を続けているうちに、異常なほどの寒気を感じ、全身が小刻みに震え始めたのです(もちろん、嬉しさのあまり身の震える思いだった、というような、ナイーヴな話ではありません)。

その時は冬だったので、当然エアコンはつけていました。それなのに、それまでは何ともなかったにもかかわらず、私は急に、寒気を感じ始めたのです。

電話を始めてわずか数分の間に、震えが来なければならないほど一気に外気が低下したとは、考えられません。

おかしいな、とは思いましたが、当時の私は初学者だったので(ゾクチェンのトレーニングはしていましたが、気功はまだ試していませんでした)、それが彼女に何か関係があるかも、という風

には、思いませんでした。まさか、電話回線を通して何かが伝わってきたとは、常識的な発想をすれば普通考えられないですし、ましてや、かつての片想いの相手に、そのようなことなど思えるはずありません！

そして数年後、ひょんなことから再会することになった私達は、あるプロジェクトを、共同でスタートすることになりました。

スタッフにも恵まれ、お互いに技術と経験を積んでいるので、このプロジェクトはスムーズに進行していきだろう、と私は当初、楽観的に考えていました。

しかし私には、同時に、あの夜の電話のことが、何となくひっかかっていました。

それだけではありませんでした。

私は、何か重大な決定を下すときには、易に伺いを立てた上で、有効なアイディアを得ることが多いのですが(因みに、外れたことは、ほとんどありません)、そのプロジェクトに関して易に伺いを立ててみると、ロクな卦が出ないのです。曰く、「希望は泥にまみれる」、「外見ばかりで、中身が伴わない」、「最終的に、お前は必ず一人になる。だがそれは、悲しむべきことではなく、お前自身のためなのだ」等々・・・(注：震為雷(二爻)⇔地雷復)。

その言葉に素直に耳を傾けなかったのは、多分、昔の古ぼけた恋愛感情が残っていたからでしょう。

また仮に、そのように易が告げているとしても、一応自分自身で納得の行くまでトライした上で、最終的に判断する、というのが私のやり方なので、あえてそのようにしてみることにしました。

果たしてその結果は・・・、やはり、その通りになりました(※)(ここで、お前がそのように自分に「暗示」をかけたからそうなったのではないか、という批判も、可能だと思います。しかし私は、それを回避すべく、出来得る限りの最大の努力を払ったのであり、それをそのような暗示のためだ、という具合には、特に解釈する必要性を感じていません)。

また、こんな話もあります。次は、私の友人の例です。

彼は、ある女性が好きでした。

ところが、彼女とデートという日になると、いつも奇妙なことが起こるのでした。

彼が、待ち合わせの場所に早めに行って、彼女が来るのを待っていると、何故か、必ずトイレに行きたくなるのです。

どうにもこうにも我慢が出来なくなるので、トイレに行ってから待ち合わせの場所へ戻ると、今度は遅刻です。

当然その間に、既に彼女は待ち合わせの場所に到着しており、結果的に、「時間にルーズだ」と非難されるという訳です。

彼は私に、奇妙な話だと言うのですが、私は、しばらく黙って聞いてから、こう告げました。「・・・お前さん、彼女、やめた方がええんちゃうか？」

私の声に耳を貸すことなく、飽くなき挑戦を十年以上も続けた挙句、ついに数ヶ月前、彼の片想いは、実ることなく、終わりを告げました・・・。

これらは、いささか極端な例としても、皆さんもこのような経験は、多かれ少なかれ、お持ちなのではないでしょうか。

例えば、あの人と会うと、何故か体調が悪くなるとか、逆に、あの人と会うと、元気になるとか。また、場所でもそうです。あそこへ行けば、体が軽くなるように思う、等々・・・。

よく、論理や言語を司っている左脳(顕在意識)は、高々毎秒40ビットの情報しか処理できないのに比べて、イメージや音楽、感情等の情報を司る右脳(潜在意識)は、それをはるかに凌駕する毎秒1,000万ビット以上の高速の情報処理を行っているといえます。これに、脳幹等が処理している身体感覚を加えると、両者の差異は、比較できないほどになるかと思われます。

この関係は、気功で言えば、識神／元神に対応すると言って、ほぼ間違いないと思います。

だとすれば、意識上に上らない大量の情報が、認識されることなく意識下で処理されており、むしろそちらの方が、量としてはケタ違いに多い、ということになります。

パソコンとの対比で言えば、意識と無意識とでは、解像度が極端に違うのであり、無意識で処

理している情報は、通常、ビット数の低い意識では、うかがい知ることが出来ない、というわけです(これを量子力学的に言えば、ミクロである素粒子の動きは、波動方程式によって完全に記述出来るが、その全てを、マクロである人間の意識で捕らえることは、原理的に不可能、ということになりそうです。あ、また脱線が・・・)。

では、そのような無意識下の情報を、意識化することは出来るのか？

言葉の定義からいえば不可能ということになりそうですが(無意識を意識化するというのは、完璧に言語矛盾ですからね)、気功等のテクニックを使えば、それはかなりの程度、可能かも知れません。

と申しますのは、気功等のトレーニングを続けていると、身体の情報に、的確に意識上に上りやすくなりますので(例えば、病気の諸症状が、かなり早い段階で知覚できるというのが、そうですね)、身体が捕らえた情報も、そうなる可能性があります。

多分それは、「何となく」とか「フィーリング」という形で、現れてくるかもしれません。

そして、私の例でもそうであったように、通常それを邪魔するのが、意識なのだ、ということになりそうです。恋愛感情なんか、その際たるものだったりして(笑)。

ですから、ある乗り物に乗りかけたら、訳もなく足がすくんだのでやり過ごしたところ、その乗り物が後で事故を起こした、というようなよくある話も、特に神秘めかして語らなくても、意識上に上らない微細な情報(例えば、車輪やエンジンの音が、異常であったとか)を身体がキャッチしていて、そちらの方が幸運にも優先された結果だ、という具合に、科学的に(科学的ではないかもしれませんが)説明することが、可能なのかもしれません。

だとすれば、やはりこれは、トレーニング次第で、どんどん進歩させていくことが、可能なのかも知れません。

そしてそのキーワードは、やはり、「考えないで(それは意識です!)」、「リラックスして」、「感じる」ということになりそうです。

そうなれば、上手くいけば、単純計算で、今までの25万倍以上深みのある世界に触れることが出来るかも！

(※)

実は、このプロジェクトから私は手を引くべきか否かも、易に伺いを立ててみました。その結果。

「汝のなすべきことは一体何かをもう一度考え直して、そこから発想せよ。ただし、我を張らず、周囲の状況を見ながら柔軟に対応すべし。汝の友人達の助けを得て、問題は必ず克服される」(風火家人(二爻)⇔風天小畜)

これもまた、その通りになりました。友人達に多謝。

いや、易はすごいです。かのユングが途中で、「コワくなった」と言って、研究を放棄したのもうなずける。

↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

功夫とは何か？～受験は要領、そして格差社会を生き抜く知恵

コンセプトもなくがむしゃらに行われる「努力」は、ある程度は効果はあるかも知れませんが、遅かれ早かれ頭打ちとなってしまいます。

ここで働いているのは、経済学でいうところの、一定の土地からの収穫量は、資本・労働の投入量の増大に応じてある点までは増加するが、その点を越えると次第に減少するという『収穫逓減の法則』と、全く同じメカニズムであると考えられます。

ポイントは、投入量ではなく、生産効率性なのです。

私は、このことを、浪人時代に、イヤというほど実感しました。

私は、図らずも二回大学受験に失敗し、二浪目は郷里を離れ、京都市内にある予備校『河合塾京都校』に通う羽目になりました。

人並みに勉強したのに(とだけ思っただけですが)、何故私は入試に失敗したのか……。その本当の理由を知ることも出来ず、意気消沈しながら、その予備校の門をくぐった記憶があります。

しかし、その直後、私は衝撃的な事実を目にすることになります。

それは数学のベクトルに関する講義だったのですが、壇上に立った講師は、開口一発、「皆さんが今まで高校で学ばれた解法は、全て忘れて下さい。効率が悪いですからね」といきなり言い放った上、私の地元の高校教職員が約一時間かけて解説したにもかかわらず私にはさっぱり理解が出来なかった問題を、わずか10分で解説してしまったのです。しかも、そちらの方が、はるかに理解しやすい！

私はこの時、鳥取という地方の教育レベルと、都市部の教育レベルとの根本的な格差を、まざまざと見せ付けられた気がしました。

私の地元の公立学校では(どこでもそうなのでしょうけれど)、「努力」が当然奨励されていましたが、その「努力」の中身については、教職員達は誰も何も言いません。というより、閉鎖的な環境で安穏と生きていれば、それで特に生活するには困らない彼らにとっては、それについて深く考えることは、基本的にはないのかも知れません。

しかしそれこそが、実社会では、大きな問題だったわけです。

「努力」するのではなく、むしろ、「楽」をすること(無論、怠ける、という意味ではありません)。最小のコストで、最大の効果を得ること。

この時、自分自身の中で、コペルニクスの転換が起こったと申し上げても、過言ではないと思います。

そして幸いにも、この時初めて、「勉強というものは、工夫次第で様々なことが学べる、面白いものだ」と感じることができ、その時までの漠然としたイメージから考えれば灰色以外の何者でもないと思われた予備校生活が、一転して、今日にまで私に影響を与え続ける、極めて有意義なものへと化したのでした。

このようなことこそが、「功夫」の、本当の意味だと思います。

同じ問題を解決するのにかける時間は、1時間なのか、10分なのか。

その場ではわずかな違いのように思えたとしても、それが積もり積もった時、どれだけの格差が生まれているのでしょうか。

前者のような状態で、何百時間、何千時間努力することに、自己満足以外に、果たして、どれだけの価値があるのでしょうか。

「功夫＝工夫」とは、今までのルーティン的な情報処理方法を根本的に改善し、可能性の領域を拡大する姿勢のことなのです。

逆に、初学者は別として、何らかの型に固着してそれを遵守しようとする姿勢は、いくらそう呼ばれようと、「功夫」ではないのです。

「楽をすること」は、悪徳ではなく、むしろ美德なのです。

余談ではありますが、先だってさる人物が逮捕された時、マスコミは一転、手のひらを返したように彼を非難し、「やはり人間は、楽をして儲けることを考えるのではなく、地道に、汗水流

して、一生懸命に努力して働かなくては本物ではない」みたいな言葉を、『有識者の声』、『町の声』みたいな感じで載せたりしていましたが、彼のやったことや人格云々よりも、むしろ、こういう言説の方が、私には危険なように思えます。

それは、労働者はただ搾取されるためにだけ存在価値があるとする、旧来の資本主義というシステムを、より正当化し、そのような羊の群れ、あるいはクローン兵の如き労働者の更なる大量生産を図るための、資本家による情報操作の一環なのではないか、と私には思えてなりません。

今日に始まったことではないにせよ、この矛盾は、今後ますます拡大していくような気がします。

という訳で皆さん、大いに「楽」しちゃいましょう。「楽」することにこそ、「努力」するべきです。この資本主義を生き抜いていくためにも。

↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

坐功の持つ二つの効果～当社比較

よくある素朴な疑問として、「『坐功』と『坐禅』は、どう違うのか」というものがあります。

その答えとしては、端から見れば、両者は、全く変わりません。

ただし、その内部で起こっていることには、相違がある可能性があります。

私は、日本の臨済宗、曹洞宗などの仏閣で行われている、いわゆる『坐禅』に関しては、ほとんど経験がないので、何とも申し上げられないのですが(小学生の時、近所の寺の坐禅講習会に一週間通った経験はありますが)、少なくとも『坐功』(特に、一指禅功のそれ)に関しては、ある特殊な身体状況を設定してから実行しないと、ほとんど効果はないので(もちろん、ある程度の熟練者は、特にそのようなことを気にする必要はありませんが)、そのような事実を踏まえた上で、あえてここでは、両者を区別して、『坐功』に関してのみ、議論したいと思います。

従って、「なるほど、『坐禅』には、このような効果があるのか」と誤解いただくことのないよう、若干ご注意をいただければ、と思います。

まず、一つには、全身の神経系、筋肉系の緊張の解放による、生理学的な機能の回復、改善ないしは強化、が挙げられると思います。

もちろん、これは、動功によっても、ある程度達成されうと思いますが、坐功の場合は、文字通り坐った状態で、じっとしたまま行いますので、より簡単にリラックス状態に入ることが可能である、と思います。

そしてもう一つは、脳の中のファイリング・システムの整理です。

この点で、いわゆる「雑念」は、パソコンでいうところの「ディスク・デフラグ」や、「ディスク・クリーンアップ」と同様の効果があると思います。これにより、脳内に記録されている様々な情報を一旦整理することで、それらへ再アクセスするスピードを高速化することができるのではないか、と思います。

これを、「知性」と呼び変えても、特に問題は無いものと思われます。

さらには、これを臨界点まで推し進めていけば、それをしなかった人の数倍のスピードで、なおかつその人が考えつかないやり方で、情報を処理したり、発想することが、可能になるものと考えられます(いわゆる、「靈感」、「直感」の由来とは、ここにあるのではないのでしょうか。従ってそれは、少しも神秘的なものではない、と思われます)。

以上は、私が約5年間、坐功のトレーニングを続けてきたことに対する、率直な感想です。

もちろん、私はここで、私が「知性」的であるというつもりは毛頭なく、ただ単にこれは、坐功のトレーニングを始める前後の私の状況を「当社比較」してみただけに過ぎません。

しかしながら私は、他人の心身の健康状態や、過去・未来を読み取ったり、ましてや、気による経絡調整を行うなどは、トレーニング以前は全く出来なかったのですから、同じことが、これから練習をスタートさせてみようとお考えの方にも、充分期待できると思います。

師は、「特異機能」(日本語でいう「超能力」)という言葉、決して用いません。そうではなく、これはあくまで「功夫」であると言います。

ここには、「トレーニング次第で、誰でも必ず獲得できる」という含みがあります。

この辺の事情は、一指禅功が、純然たる仏家気功であることにも関係があるかも知れません。私達は、神にはなれないのですが、仏にはなれるのです(もちろん、オダブツするという意味では、全くありません)。

仏教とは、それを達成するための、技術の体系なのです。

そうでなければ、私自身も、試しにトレーニングしてみようかな、などとは思わなかったでしょうしね。

でもまあ、一番言えるのは、「シンプル・イズ・ベスト」。これに尽きるでしょうね。

↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

天狗様	問題の妙覚宝殿

師匠のお話によれば・・・。

一指禅功の修業のポイントとは、「盗むこと」にあるそうです。

これを現代風に、かつ私の副業である作曲という観点から申せば、「サンプリング」ということになるのでしょうか。

私にとっては、ここら辺は、お手の物だったりします。

という訳で、今回の神奈川県南足柄市にあります大雄山最乗寺での合宿研修も、嬉々としながら、違法サンプリングに明け暮れさせていただきました。

いやはや一指禅功、自他共に認めるサンプリング・ジャンキーである私に、ぴったりの教えです・・・。

一番大きな収穫は、やはり、一指禅功の施術のやり方でした。

今回は、前回本部教室で、施術を拝見しながらふと気がついた異様な感覚を、もう一度間近で見学させていただくことで、追体験させていただくことができました(私のようなムサ苦しい男に見つめられながら施術を受けられた皆様には、さぞご迷惑だったことと推察いたしますが・・・)。

その異様な感覚とは・・・。

最近の私は、クライアントさんの健康状態が、なぜかは判らないのですがその方から出る熱波という形で、しかもこれまたなぜか私の「おでこ」で判ったりするのですが、師匠が一指禅功の施術をされている最中、私は、その熱波を、施術をされている師匠からではなく、クライアントさんの方から感じたのでした。

これは私にとって、非常に奇妙に思えました。何故ならば、私の中の気功施術に対する一般的なイメージとして、師匠がクライアントさんに「気を入れる」、というものがあったからでした。

もし私が感じている熱波が、いわゆる「気」なのだとしたら、熱波はむしろ、発する側の師匠の方から感じられるはずです。しかし、実際は、師匠からは、何も感じないのです。

膀胱経を一気に点穴されると、その瞬間に、クライアントさんは、熱波を発し始めます(ないしは、そのように感じます)。その間、わずか数十秒。

続いて、体の前面を点穴されると、ほぼその熱波の強さは、倍近くに増強されたように感じます(もちろんこれは、比較的健康的な方の場合です。逆に、例えば、足には特に変化が感じられないという場合は、後でクライアントさんに直接伺ってみると、そこが患部であったようです)。

いずれにせよ、師匠からは施術の間中、何も感じず、「気を入れる」というよりは、まさに詰まっていた経絡を通すというか、まるで、地下に温泉の水脈があって、そこを師匠が掘ったらお湯が一気に噴出してきた、といったように、感じられました。

この点について、後で師匠に伺ってみると、ポイントは、「副腎への刺激」ということでした。

確かに、HPでもご紹介した西原克成博士の研究にもあるように、副腎から放出されるホルモンの標的器官は、全身の細胞のミトコンドリアですから、結果的に、その活性の程度は、全身の細胞のエネルギー代謝に、直接的に影響を与えることになります。

従って、副腎に対する適切な刺激の結果、全身の細胞の活性化が促されたことで、結果的にその細胞からマイクロ波-赤外線領域の電磁波が放出されて、それを私の「おでこ」が感知したということになるのでしょうか。

一指禅功の場合の副腎への刺激は、やはり、かなり積極的であったようですね。なるほど・・・、いただき。

施術の場合は、このようにヴィヴィッドな経験を得ることが出来たのですが、その他にも、微妙な形での「気づき」もたくさんありました。

例えば、宿泊施設に入るところにあった、観音様の像。

お坊さんはその前を通り過ぎる時、一礼されるていたのは、寺の作法として当然であるとしても、その前に立つと、何やらふわふわと、これまた熱波のようなものを感じることができます。

最初は錯覚かなと思ったのですが、夜中午前2時頃の誰かが寝静まった時、風が吹き抜ける中寒々とした廊下のその場所に立ってみると、その熱波は、よけい良くわかりました。端から見れば、怪しさ抜群ですが。

また、2日目。本堂での勤行の最中は、全く何も感じなかったのですが(というより、単に眠かった・・・)、その次に案内していただいた御真殿(妙覚宝殿)での勤行の最中、先の観音像よりもはるかに強い熱波を、祭壇付近より感じました。

最初は、師匠から流れてきているのかな、と思ったのですが、その時師匠は下を向いていて、そちらの方向と私のおでこが向いている方向は、かなりズレがありました。明らかに祭壇でした。

そのうち、お坊さんのグルーヴィな読経が佳境に入ってくると、その熱波というか熱の塊はあちこちへ飛び回り始め、私の頭頂部にも何度も大きな衝撃がかかりました。このような経験は、初めてでした。

多分後ろにいた人は、私が突然きょろきょろしだしたので、さぞいぶかしかったことでしょうが・・・。

いろいろと調べてみると、合宿のあった大雄山最乗寺は、今は曹洞宗の寺という風に紹介されているようですが、元々は山岳修験道の聖地であったようですね。ですから、そのような何らかの地質学的なエネルギーが集中するポイント上に、建物が建てられているというのは、充分考えられることではあります(因みに、山門を含めたいくつかの建物や風景は、いつものことながら以前夢に見た風景と全く同じでした。ですから、初めて訪れたという感じはしませんでした)。

関東周辺にお住まいの方は、是非一度お尋ねになられることをお勧めいたします。

まあ、いろいろ考えさせられる合宿研修ではございましたが、自分自身もどんどん変化しているんだな、というのを再確認することが出来たのが、もしかしたら、一番の収穫だったのかもしれない。

「理性の本性は、ものを偶然的なものとしてではなく、必然的なものとして観想することである」(スピノザ『エティカ』第二部：精神の本性と起源について／定理四四)

「精神は、あらゆるものを必然的なものとして認識するかぎり、感情にたいしてより大きな能力をもっている。あるいは感情から影響を受けることがより少ない」(同書 第五部：知性の能力あるいは人間の自由について／定理六)

願わくは、これが諸佛諸神の意に叶いますことをお願いしつつ・・・。

↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：[心、体、そして魂。](#)

感情を消し去る一つの方法～時空についてのおしゃべりあれこれ

「ビッグバン理論」というものがあります。

宇宙が膨張している、というのは、今では、宇宙論をよく知らない方でも、お聞きになったことがあると思います。

では、最初の宇宙とは、一体どんなものだったのか？

宇宙そのものを発生期にまで遡って圧縮していくと、宇宙全体は、理論的に、ある一点から発生したことになります。これが、いわゆる「特異点」です。

そこでは、空気を圧縮すると熱が発生するように、質量、エネルギー共に無限大になってしまうので、一切の物理法則が成り立たなくなり、宇宙の発生そのものが、理論的に導けなくなってしまう。

この「特異点」を回避しようと、物理学者達は、数十年来、激論を戦わせています。

そこに現れたのが、かのホーキング博士です。

彼は、宇宙の発生が、実数ではなく、虚数の時間で始まったと考えれば、「特異点」は回避できる、という提案を行ないました。

虚数時間を導入すれば、宇宙の始まりは「点」ではなく、鍋の底のようなある広がりを持った「面」のようなものになり、そう考えれば、その発生の瞬間は、通常の物理法則で記述できる可能性が、生まれるのだそうです。

この理論は、まだ一般化されているわけではありませんが、混乱する現代宇宙論の中では、かなり説得力のある理論なのだそうです。

でも、これに似た話は、日常よく経験することのように思います。

「あの時こうしておけばよかった」と考えることは、よくあることです。

「今」から逆に考えると、「あの時」とは、まさに「特異点」に他なりません。

でも、それは「今」だから言えるのであって、その時の選択肢は、実際ある広がりを持ったも

のです。

家を出て右へ行くか左へ行くかは、ほんの些細なことです。しかし、その瞬間、決定的な事は起こってしまったのです。

現代物理学の発想をこのような比喩に用いるのはいささか極端なようですが、実は、佛教のマンドラは、基本的に、こういう発想をしているのです。

つまり、時空そのものを、「特異点」の集合体と考えるわけです。

だとすれば、あらゆる「点」が、次の時空へとつながる芽を宿しているわけですから、どの点もないがしろに出来ないし、全く同じ意味で、どの点でも、どーでもよくなるわけです。

この発想を臨界点まで持っていくことが出来たら、一切の感情は、消滅してしまいます。

このように、現代の物理学者、特に量子論以降の物理学者のいうことは、とても東洋的です（最も、量子論を作った人たちが、東洋思想からヒントを得ていたというのは、公然の事実みたいですけど）。

でも、その類似性を指摘して事足れりとするのではなく、実際に応用しなければ、何の意味も無い。

もし人生に行き詰っているのならば、こういう発想は、とても役に立つような気がします。

現代物理学的な発想を、その枠内に閉じ込めておくのは、とてももったいないように思います。

少なくとも、お坊さんの言うことよりは、文字通り理論的で、はるかに説得力があると思うのですが、いかがでしょうか？

↑よろしければ、是非。



JUGEMテーマ：心、体、そして魂。

5月のスケジュールに関しまして

5月のスケジュールは、以下の通りです。

5月3日：東京都仙川にて依頼を受けて特別講習。

4～5日：小田原大雄山最乗寺にて2006年無為気功養生会研修。

6～16日：鳥取への定例出張。

何分変則的にてご迷惑お掛けするかも知れませんが、何卒ご理解ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

